

金沢市

畝田西遺跡群 V

(本文報告編)

2006

石川県教育委員会

(財)石川県埋蔵文化財センター

うねだにし
畝田西遺跡群 V

(本文報告編)

2006

石川県教育委員会

(財)石川県埋蔵文化財センター



「津司」墨書土器



「天平二年」墨書土器



N2区建物群



布掘筏地行建物 SB 360



布掘筏地行建物 SB 368

例 言

- 1 本書は畝田西遺跡群の発掘調査報告書V（6分冊のうち第5分冊）である。
- 2 本書で報告する遺跡は畝田・寺中遺跡、畝田遺跡及び畝田大徳川遺跡（以下、畝田・寺中遺跡他2遺跡）である。各遺跡は範囲が重なるため、一体的に「畝田西遺跡群」として報告する。
- 3 本書（第5分冊）では既刊の第2分冊報告分（『畝田西遺跡群Ⅱ』所収のA5～A7、L1～L8、Z1～Z2調査区）を除いた、奈良・平安時代（～10世紀）、中世（10世紀以降）の遺構・遺物について報告するが、報告対象が非常に多く、総ページ数が膨大になったため、本文編と写真図版編の2冊に分割することとなった。
- 4 遺跡の所在地は石川県金沢市畝田西3丁目地内である。
- 5 調査原因は金沢西部第二土地区画整理事業であり、同事業を所管する石川県土木部都市計画課（金沢西部開発事務所）が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 6 発掘調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 7 調査に係る費用は石川県土木部都市計画課（金沢西部開発事務所）が負担した。
- 8 現地調査は平成11（1999）年度～平成15（2003）年度に実施した。面積・期間・担当は下表のとおりである。

年度	平成11（1999）	平成12（2000）	平成13（2001）	平成14（2002）	平成15（2003）
期間	平成11年4月15日～平成12年1月16日	平成12年4月26日～平成13年1月11日	平成13年4月11日～12月20日	平成14年4月19日～2月20日	平成15年7月7日～9月3日
面積	12,800㎡	9,650㎡	11,000㎡	11,150㎡	1,120㎡
担当課	調査部調査第2課	調査部調査第4課	調査部調査第4課	調査部調査第4課	調査部調査第4課
担当者	中森茂明（調査専門員） 白田義彦（主事） 和田龍介（主事） 西田昌弘（主事）	浜崎悟司（調査専門員） 中西洋司（主事） 河村美紀（主事） 和田龍介（主事） 宮川彩子（嘱託）	岩崎英雄（調査専門員） 岡本恭一（調査専門員） 浜崎悟司（調査専門員） 白田義彦（主任主事） 立原秀明（主事） 菅野美香子（嘱託）	伊藤雅文（課長） 岡本恭一（調査専門員） 浜崎悟司（調査専門員） 金山哲也（主事） 立原秀明（主事） 荒木麻理子（主事） 兼田康彦（主事）	浜崎悟司（調査専門員） 渡邊大輔（主事）

- 9 出土品整理は平成12（2000）年度～平成15（2003）年度に実施し、企画部整理課と調査部調査第4課が担当した。
- 10 出土した木製品の樹種同定・年代測定については（株）パレオ・ラボに委託して行った。
- 11 出土した石器・石製品の石材鑑定については（株）パレオ・ラボに委託して行った。
- 12 発掘調査報告書の刊行は第1・2分冊を平成16（2004）年度に実施し、第3・4・5・6分冊は平成17（2005）年度に実施した。担当課は調査部調査第4課である。
- 13 本書の執筆分担は下記のとおりである。編集は荒木麻理子（調査部調査第3課）が行った。
第1章・第2章：和田龍介（調査部調査第4課主任主事）
第3章：荒木
- 14 発掘調査には下記の個人、機関の協力・教示を得た。
石川県土木部都市計画課、金沢西部開発事務所、金沢市教育委員会、金沢市埋蔵文化財センター大藤雅男、鎌田元一、鬼頭清明、小西昌志、北野博司、小林昌二、酒寄雅史、佐藤信、鈴木靖民、出越茂和、平川南、福田弘光、三上嘉孝、森公章、山中敏史、吉岡康暢（五十音順、敬称略）
- 15 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 16 本書についての凡例は以下の通りである。

- (1) 方位は座標北であり、座標は建設省告示の平面直角座標第Ⅶ系（日本測地系）に準拠している。
- (2) 水平基準は海拔高であり、T.P（東京湾平均海面標高）による。
- (3) グリッドは平面直角座標（日本測地系）に準拠した10m方眼を金沢西部第二土地区画整理事業の事業地全体に設定している。グリッド名は南北方向にアルファベット大文字、東西方向に算用数字を与えて北から南へA～（Z以降はAA、AB…）、西から東へ1～の番号を振り、両者を組み合わせて「A1」のように方眼交点を表記した。畝田・寺中遺跡他2遺跡ではF～AP、13～43までが相当し、平面直角座標との関係はZ21：X = +66.000、Y = -49.900となる。グリッドの名称については、方眼の北西交点をあてるものとした。
- (4) 遺構は略号で表記している。主なものはSB（掘立柱建物跡）・SH（竪穴建物跡）・SE（井戸跡）・SD（溝・大溝）・SK（土坑）・SX（落ち込み／不明遺構）・P（穴）等である。
- (5) 遺構番号は、平成11年度調査では調査区が細分割されていてもA～K区の各単位で昇順の通し番号を振っているが、平成12年度以降の調査区では細分割された調査区ごとに振っている。ただし、Q1区とQ2区、S3区とS4区では通し番号である。また、二年次に分けて調査しているA5区とL4区ではそれぞれ年度ごとに振っている。
- (6) SB（掘立柱建物跡）・SH（竪穴建物跡）については報告に際して、全体での通し番号を付している。掘立柱建物跡の遺構番号については時代区分と対応させており、詳細は下表のとおりである。SB301～（300番台）を古代、SB401～（400番台）を中世とした。

SB101～（100番台）：弥生時代～古墳時代前期	SB201～（200番台）：古墳時代中後期
SB301～（300番台）：古代	SB401～（400番台）：中世

- (7) 遺構挿図の縮尺はSB・SH：1/100、その他：1/40を基本とし、大きさや重要度に応じて調整した。
- (8) 遺物はW（木製品）・S（石製品）・E（土製品）・M（金属製品）・U（滑石製白玉）・J（石製玉）・D（土製玉）・F（墨書土器）等の略号を付けて区分している。通有の土器類については番号表記のみで示している。
- (9) 遺物番号は全体で通し番号となっており、欠番を生じるが基本的に重複しない。詳細は下表のとおりである。

所収分冊名	区分 略号	土器	墨書土器	木製品	石製品	土製品	金属製品	石製玉	土製玉	ガラス玉	滑石製品	白玉	剥片	玉未成品
			F	W	S	E	M	J	D	G	K	U	H	T
2	南・東部	1～	1～	1～	1～	1～	1～	1～	1～	1～	1～	1～		
3	縄文	401～			11～									
3	弥生	501～		76～	31～	21～		21～	15～				1～	1～
3	古墳前	1001～			101～	41～	5	31～						
4	古墳中後	1501～		79～	116～	61～	6～	41～	21～		8～	201～		
5	古代	4001～	9～	501～	131～	101～	11		34					
5	中世	5001～		701～	141～	151～	13～							

- (10) 遺物挿図の縮尺は主体を占める土器類と木製品が1/4を基本とし、大きさや重要度に応じて調整した。
- (11) 遺構番号・遺物番号は挿図と写真で対応する。
- (12) 注・文献は執筆分担に応じて章・節ごとに付した。
- (13) 本書で言う古代の土器編年は田嶋明人氏の提示した北陸古代土器編年軸（北陸古代土器研究会・石川考古学研究会『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』1988年）に基づく。暦年代観は、以降の研究の進展により研究者間に生じたと若干のずれを含めて（北陸古代土器研究会『シンポジウム 古代の須恵器貯蔵具Ⅱ―貯蔵具の制作技術を復元する―』2000年 例言）概ね以下のように定める。

I 期（I 1・I 2）：7 世紀初頭～中頃

II 期（II 1～II 3）：7 世紀後半～8 世紀初頭

III 期：8 世紀第 2 四半期頃

IV 期（IV 1・IV 2 古・IV 2 新）：8 世紀中頃～9 世紀初頭

V 期（V 1・V 2）：9 世紀前半～9 世紀第 3 四半期頃

- (14) 墨書土器・木簡等の出土文字資料については、平川南（独立行政法人人間文化研究機構）の指導・助言の下、和田が釈文作成・文字判読を行った。『石川県埋蔵文化財情報』や『木簡研究』などにおいて過去に公開していた木簡番号・釈文とは異なる点があるが、本書を以て正報告とする。
- (15) 本報告で用いた金沢市木曳野遺跡群の遺構図については、金沢市埋蔵文化財センターより供与を受けた。

目 次

第5分冊－1 本文編

第1章 畝田西遺跡群の概観	1
第1節 遺跡の沿革	1
第2節 報告の方針	1
第2章 [古代編] 奈良・平安時代の調査結果	4
第1節 調査結果の概要	4
第2節 掘立柱建物跡	4
第3節 河跡・溝跡	63
第4節 井 戸	93
第5節 その他の遺構・遺物	94
第6節 小 結	274
第3章 [中世編] 平安時代後期～中世の調査結果	280
第1節 調査結果の概要	280
第2節 掘立柱建物跡	280
第3節 溝 跡	315
第4節 井 戸	375
第5節 その他の遺構・遺物	451
第6節 小 結	491

挿図目次

[古代編]

第1図 畝田・寺中遺跡他2遺跡調査区割図 (S=1/2,000).....	3	第38図 古代遺構図37 (1/100)	47
第2図 古代遺構図1 (1/500)	10	第39図 古代遺構図38 (1/100)	48
第3図 古代遺構図2 (1/250)	11	第40図 古代遺構図39 (1/100)	49
第4図 古代遺構図3 (1/250)	12	第41図 古代遺構図40 (1/100)	50
第5図 古代遺構図4 (1/250)	13	第42図 古代遺構図41 (1/100)	51
第6図 古代遺構図5 (1/250)	14	第43図 古代遺構図42 (1/40)	52
第7図 古代遺構図6 (1/100)	16	第44図 古代遺構図43 (1/40)	53
第8図 古代遺構図7 (1/100)	17	第45図 古代遺構図44 (1/100)	54
第9図 古代遺構図8 (1/50)	18	第46図 古代遺構図45 (1/100)	55
第10図 古代遺構図9 (1/50)	19	第47図 古代遺構図46 (1/40)	56
第11図 古代遺構図10 (1/40)	20	第48図 古代遺構図47 (1/40)	57
第12図 古代遺構図11 (1/40)	21	第49図 古代遺構図48 (1/40)	58
第13図 古代遺構図12 (1/100)	22	第50図 古代遺構図49 (1/100)	59
第14図 古代遺構図13 (1/100)	23	第51図 古代遺構図50 (1/100)	60
第15図 古代遺構図14 (1/100)	24	第52図 古代遺構図51 (1/100)	61
第16図 古代遺構図15 (1/40)	25	第53図 古代遺構図52 (1/100)	62
第17図 古代遺構図16 (1/40)	26	第54図 古代遺構図53 (1/500)	72
第18図 古代遺構図17 (1/100)	27	第55図 古代遺構図54 (1/500)	73
第19図 古代遺構図18 (1/40)	28	第56図 古代遺構図55 (1/500)	74
第20図 古代遺構図19 (1/40)	29	第57図 古代遺構図56 (1/500)	74
第21図 古代遺構図20 (1/100)	30	第58図 古代遺構図57 (1/40)	75
第22図 古代遺構図21 (1/40)	31	第59図 古代遺構図58 (1/200)	76
第23図 古代遺構図22 (1/40)	32	第60図 古代遺構図59 (1/40)	77
第24図 古代遺構図23 (1/100)	33	第61図 古代遺構図60 (1/100)	78
第25図 古代遺構図24 (1/40)	34	第62図 古代遺構図61 (1/100)	79
第26図 古代遺構図25 (1/40)	35	第63図 古代遺構図62 (1/100)	80
第27図 古代遺構図26 (1/40)	36	第64図 古代遺構図63 (1/500)	81
第28図 古代遺構図27 (1/100)	37	第65図 古代遺構図64 (1/300・1/100)	82
第29図 古代遺構図28 (1/40)	38	第66図 古代遺構図65 (1/100)	83
第30図 古代遺構図29 (1/40)	39	第67図 古代遺構図66 (1/100)	84
第31図 古代遺構図30 (1/100)	40	第68図 古代遺構図67 (1/600)	85
第32図 古代遺構図31 (1/40)	41	第69図 古代遺構図68 (1/40)	86
第33図 古代遺構図32 (1/100)	42	第70図 古代遺構図69 (1/100)	87
第34図 古代遺構図33 (1/40)	43	第71図 古代遺構図70 (1/40)	88
第35図 古代遺構図34 (1/100)	44	第72図 古代遺構図71 (1/40)	89
第36図 古代遺構図35 (1/100)	45	第73図 古代遺構図72 (1/100)	90
第37図 古代遺構図36 (1/100)	46	第74図 古代遺構図73 (1/40)	91
		第75図 古代遺構図74 (1/100)	92

第76図	古代遺構図75 (1/40)	95	第117図	古代遺物実測図32 (1/4)	136
第77図	古代遺構図76 (1/40)	96	第118図	古代遺物実測図33 (1/2)	147
第78図	古代遺構図77 (1/40)	97	第119図	古代遺物実測図34 (1/2)	148
第79図	古代遺構図78 (1/40)	98	第120図	古代遺物実測図35 (1/2)	149
第80図	古代遺構図79 (1/40)	99	第121図	古代遺物実測図36 (1/2)	150
第81図	古代遺構図80 (1/40)	100	第122図	古代遺物実測図37 (1/2)	151
第82図	古代遺構図81 (1/40)	101	第123図	古代遺物実測図38 (1/2)	152
第83図	古代遺構図82 (1/40)	102	第124図	古代遺物実測図39 (1/2)	153
第84図	古代遺構図83 (1/40)	103	第125図	古代遺物実測図40 (1/2)	154
第85図	古代遺構図84 (1/40)	104	第126図	古代遺物実測図41 (1/2)	155
第86図	古代遺物実測図1 (1/4)	105	第127図	古代遺物実測図42 (1/2)	156
第87図	古代遺物実測図2 (1/4)	106	第128図	古代遺物実測図43 (1/2)	157
第88図	古代遺物実測図3 (1/8)	107	第129図	古代遺物実測図44 (1/2)	158
第89図	古代遺物実測図4 (1/4)	108	第130図	古代遺物実測図45 (1/2)	159
第90図	古代遺物実測図5 (1/4)	109	第131図	古代遺物実測図46 (1/2)	160
第91図	古代遺物実測図6 (1/4)	110	第132図	古代遺物実測図47 (1/2)	161
第92図	古代遺物実測図7 (1/4)	111	第133図	古代遺物実測図48 (1/2)	162
第93図	古代遺物実測図8 (1/4)	112	第134図	古代遺物実測図49 (1/2)	163
第94図	古代遺物実測図9 (1/4)	113	第135図	古代遺物実測図50 (1/2)	164
第95図	古代遺物実測図10 (1/4)	114	第136図	古代遺物実測図51 (1/2)	165
第96図	古代遺物実測図11 (1/4)	115	第137図	古代遺物実測図52 (1/2)	166
第97図	古代遺物実測図12 (1/4)	116	第138図	古代遺物実測図53 (1/2)	167
第98図	古代遺物実測図13 (1/4)	117	第139図	古代遺物実測図54 (1/2)	168
第99図	古代遺物実測図14 (1/4)	118	第140図	古代遺物実測図55 (1/2)	169
第100図	古代遺物実測図15 (1/4)	119	第141図	古代遺物実測図56 (1/2)	170
第101図	古代遺物実測図16 (1/4)	120	第142図	古代遺物実測図57 (1/2)	171
第102図	古代遺物実測図17 (1/4)	121	第143図	古代遺物実測図58 (1/2)	172
第103図	古代遺物実測図18 (1/4)	122	第144図	古代遺物実測図59 (1/2)	173
第104図	古代遺物実測図19 (1/4)	123	第145図	古代遺物実測図60 (1/2)	174
第105図	古代遺物実測図20 (1/2)	124	第146図	古代遺物実測図61 (1/2)	175
第106図	古代遺物実測図21 (1/4)	125	第147図	古代遺物実測図62 (1/2)	176
第107図	古代遺物実測図22 (1/4)	126	第148図	古代遺物実測図63 (1/2)	177
第108図	古代遺物実測図23 (1/4)	127	第149図	古代遺物実測図64 (1/2)	178
第109図	古代遺物実測図24 (1/4)	128	第150図	古代遺物実測図65 (1/2)	179
第110図	古代遺物実測図25 (1/4)	129	第151図	古代遺物実測図66 (1/2)	180
第111図	古代遺物実測図26 (1/4)	130	第152図	古代遺物実測図67 (1/2)	181
第112図	古代遺物実測図27 (1/4)	131	第153図	古代遺物実測図68 (1/2)	182
第113図	古代遺物実測図28 (1/4)	132	第154図	古代遺物実測図69 (1/2)	183
第114図	古代遺物実測図29 (1/4)	133	第155図	古代遺物実測図70 (1/2)	184
第115図	古代遺物実測図30 (1/4)	134	第156図	古代遺物実測図71 (1/2)	185
第116図	古代遺物実測図31 (1/4)	135	第157図	古代遺物実測図72 (1/2)	186

第158図	古代遺物実測図73 (1/2)	187	第199図	古代遺物実測図114 (1/4)	234
第159図	古代遺物実測図74 (1/2)	188	第200図	古代遺物実測図115 (1/4)	235
第160図	古代遺物実測図75 (1/2)	189	第201図	古代遺物実測図116 (1/8)	236
第161図	古代遺物実測図76 (1/2)	190	第202図	古代遺物実測図117 (1/4・1/5)	237
第162図	古代遺物実測図77 (1/2)	191	第203図	古代遺物実測図118 (1/8・1/1)	238
第163図	古代遺物実測図78 (1/2)	192	第204図	古代遺物実測図119 (1/5)	239
第164図	古代遺物実測図79 (1/2)	193	第205図	古代遺物実測図120 (1/4・1/6)	240
第165図	古代遺物実測図80 (1/2)	194	第206図	古代遺物実測図121 (1/4・1/6)	241
第166図	古代遺物実測図81 (1/2)	195	第207図	古代遺物実測図122 (1/6)	242
第167図	古代遺物実測図82 (1/2)	196	第208図	古代遺物実測図123 (1/4)	243
第168図	古代遺物実測図83 (1/2)	197	第209図	古代遺物実測図124 (1/4・1/8)	244
第169図	古代遺物実測図84 (1/2)	198	第210図	古代遺物実測図125 (1/4)	245
第170図	古代遺物実測図85 (1/2)	199	第211図	古代遺物実測図126 (1/4・1/8)	246
第171図	古代遺物実測図86 (1/2)	200	第212図	古代遺物実測図127 (1/8)	247
第172図	古代遺物実測図87 (1/2)	201	第213図	古代遺物実測図128 (1/8)	248
第173図	古代遺物実測図88 (1/2)	202	第214図	古代遺物実測図129 (1/8)	249
第174図	古代遺物実測図89 (1/2)	203	第215図	古代遺物実測図130 (1/8)	250
第175図	古代遺物実測図90 (1/2)	204	第216図	古代遺物実測図131 (1/8)	251
第176図	古代遺物実測図91 (1/2)	211	第217図	古代遺物実測図132 (1/8)	252
第177図	古代遺物実測図92 (1/2)	212	第218図	古代遺物実測図133 (1/8)	253
第178図	古代遺物実測図93 (1/2)	213	第219図	古代遺物実測図134 (1/4・1/8)	254
第179図	古代遺物実測図94 (1/2)	214	第220図	古代遺物実測図135 (1/4)	255
第180図	古代遺物実測図95 (1/2)	215	第221図	古代遺物実測図136 (1/4)	256
第181図	古代遺物実測図96 (1/4)	216	第222図	古代遺物実測図137 (1/6)	257
第182図	古代遺物実測図97 (1/4)	217	第223図	古代遺物実測図138 (1/12)	258
第183図	古代遺物実測図98 (1/4)	218	第224図	古代遺物実測図139 (1/8)	259
第184図	古代遺物実測図99 (1/4・1/6)	219	第225図	古代遺物実測図140 (1/4・1/6)	260
第185図	古代遺物実測図100 (1/4)	220	第226図	古代遺物実測図141 (1/8)	261
第186図	古代遺物実測図101 (1/4)	221	第227図	古代遺物実測図142 (1/8)	262
第187図	古代遺物実測図102 (1/4)	222	第228図	古代遺物実測図143 (1/12)	263
第188図	古代遺物実測図103 (1/4)	223	第229図	古代遺物実測図144 (1/6)	264
第189図	古代遺物実測図104 (1/4)	224	第230図	古代遺物実測図145 (1/12)	265
第190図	古代遺物実測図105 (1/4)	225	第231図	古代遺物実測図146 (1/4・1/6)	266
第191図	古代遺物実測図106 (1/4)	226	第232図	古代遺物実測図147 (1/8)	267
第192図	古代遺物実測図107 (1/2・1/4)	227	第233図	古代遺物実測図148 (1/8)	268
第193図	古代遺物実測図108 (1/4)	228	第234図	古代遺物実測図149 (1/4)	269
第194図	古代遺物実測図109 (1/4)	229	第235図	古代遺物実測図150 (1/4)	270
第195図	古代遺物実測図110 (1/5)	230	第236図	古代の畝田西遺跡群概観図 (1/1000)	275
第196図	古代遺物実測図111 (1/4)	231			
第197図	古代遺物実測図112 (1/4)	232			
第198図	古代遺物実測図113 (1/4)	233			

[中世編]

第1図	中世遺構図1 (1/40・1/100) ……	287	第39図	中世遺構図38 (1/200) ……	336
第2図	中世遺構図2 (1/100) ……	288	第40図	中世遺構図39 (1/40・1/100) ……	337
第3図	中世遺構図3 (1/100) ……	289	第41図	中世遺構図40 (1/200) ……	338
第4図	中世遺構図4 (1/40・1/100) ……	290	第42図	中世遺構図41 (1/40) ……	339
第5図	中世遺構図5 (1/100) ……	291	第43図	中世遺構図42 (1/200) ……	340
第6図	中世遺構図6 (1/100) ……	292	第44図	中世遺構図43 (1/40) ……	341
第7図	中世遺構図7 (1/100) ……	293	第45図	中世遺構図44 (1/40) ……	342
第8図	中世遺構図8 (1/100) ……	294	第46図	中世遺構図45 (1/40・1/100) ……	343
第9図	中世遺構図9 (1/100) ……	295	第47図	中世遺構図46 (1/300) ……	344
第10図	中世遺構図10 (1/100) ……	296	第48図	中世遺構図47 (1/40) ……	345
第11図	中世遺構図11 (1/100) ……	297	第49図	中世遺構図48 (1/300) ……	346
第12図	中世遺構図12 (1/40・1/100) ……	298	第50図	中世遺構図49 (1/40) ……	347
第13図	中世遺構図13 (1/100) ……	299	第51図	中世遺構図50 (1/40・1/100) ……	348
第14図	中世遺構図14 (1/100) ……	300	第52図	中世遺構図51 (1/40・1/300) ……	349
第15図	中世遺構図15 (1/100) ……	301	第53図	中世遺構図52 (1/40・1/300) ……	350
第16図	中世遺構図16 (1/100) ……	302	第54図	中世遺構図53 (1/40・1/300) ……	351
第17図	中世遺構図17 (1/100) ……	303	第55図	中世遺構図54 (1/20・1/40・1/200) ……	352
第18図	中世遺構図18 (1/100) ……	304	第56図	中世遺構図55 (1/40・1/400) ……	353
第19図	中世遺構図19 (1/100) ……	305	第57図	中世遺構図56 (1/40) ……	354
第20図	中世遺構図20 (1/100) ……	306	第58図	中世遺構図57 (1/40・1/100・1/200) ……	355
第21図	中世遺構図21 (1/100) ……	307	第59図	中世遺構図58 (1/40・1/200) ……	356
第22図	中世遺構図22 (1/100) ……	308	第60図	中世遺構図59 (1/40・1/200) ……	357
第23図	中世遺構図23 (1/100) ……	309	第61図	中世遺物図2 (1/2・1/4) ……	358
第24図	中世遺構図24 (1/100) ……	310	第62図	中世遺物図3 (1/4) ……	359
第25図	中世遺構図25 (1/100) ……	311	第63図	中世遺物図4 (1/2・1/4) ……	360
第26図	中世遺構図26 (1/100) ……	312	第64図	中世遺物図5 (1/2) ……	361
第27図	中世遺構図27 (1/100) ……	313	第65図	中世遺物図6 (1/4) ……	362
第28図	中世遺物図1 (1/2・1/4) ……	314	第66図	中世遺物図7 (1/2・1/4) ……	363
第29図	中世遺構図28 (1/40・1/100) ……	326	第67図	中世遺物図8 (1/2・1/4) ……	364
第30図	中世遺構図29 (1/40・1/100) ……	327	第68図	中世遺物図9 (1/4) ……	365
第31図	中世遺構図30 (1/40・1/100) ……	328	第69図	中世遺物図10 (1/6) ……	366
第32図	中世遺構図31 (1/40・1/100) ……	329	第70図	中世遺物図11 (1/4) ……	367
第33図	中世遺構図32 (1/40・1/100) ……	330	第71図	中世遺物図12 (1/2・1/4) ……	368
第34図	中世遺構図33 (1/40・1/100) ……	331	第72図	中世遺物図13 (1/2・1/4) ……	369
第35図	中世遺構図34 (1/40・1/100) ……	332	第73図	中世遺物図14 (1/2・1/4) ……	370
第36図	中世遺構図35 (1/40・1/100) ……	333	第74図	中世遺構図60 (1/40) ……	387
第37図	中世遺構図36 (1/40・1/100) ……	334	第75図	中世遺構図61 (1/40) ……	388
第38図	中世遺構図37 (1/200) ……	335	第76図	中世遺構図62 (1/40) ……	389

第77図	中世遺構図63 (1/40)	390	第118図	中世遺物図25 (1/4)	431
第78図	中世遺構図64 (1/40)	391	第119図	中世遺物図26 (1/2・1/4)	432
第79図	中世遺構図65 (1/20・1/40)	392	第120図	中世遺物図27 (1/2・1/4)	433
第80図	中世遺構図66 (1/40)	393	第121図	中世遺物図28 (1/2・1/4)	434
第81図	中世遺構図67 (1/40)	394	第122図	中世遺物図29 (1/2・1/4)	435
第82図	中世遺構図68 (1/40)	395	第123図	中世遺物図30 (1/6)	436
第83図	中世遺構図69 (1/40)	396	第124図	中世遺物図31 (1/4)	437
第84図	中世遺構図70 (1/40)	397	第125図	中世遺物図32 (1/6)	438
第85図	中世遺構図71 (1/40)	398	第126図	中世遺物図33 (1/6)	439
第86図	中世遺構図72 (1/40)	399	第127図	中世遺物図34 (1/6)	440
第87図	中世遺構図73 (1/40)	400	第128図	中世遺物図35 (1/4)	441
第88図	中世遺構図74 (1/40)	401	第129図	中世遺物図36 (1/4)	442
第89図	中世遺構図75 (1/40)	402	第130図	中世遺物図37 (1/4)	443
第90図	中世遺構図76 (1/40)	403	第131図	中世遺物図38 (1/4・1/6)	444
第91図	中世遺構図77 (1/40)	404	第132図	中世遺物図39 (1/4・1/6)	445
第92図	中世遺構図78 (1/40)	405	第133図	中世遺物図40 (1/4)	446
第93図	中世遺構図79 (1/40)	406	第134図	中世遺構図94 (1/40)	459
第94図	中世遺構図80 (1/40)	407	第135図	中世遺構図95 (1/40)	460
第95図	中世遺構図81 (1/40)	408	第136図	中世遺構図96 (1/40)	461
第96図	中世遺構図82 (1/40)	409	第137図	中世遺構図97 (1/40)	462
第97図	中世遺構図83 (1/40)	410	第138図	中世遺構図98 (1/40)	463
第98図	中世遺構図84 (1/40)	411	第139図	中世遺構図99 (1/40)	464
第99図	中世遺構図85 (1/40)	412	第140図	中世遺構図100 (1/40)	465
第100図	中世遺構図86 (1/40)	413	第141図	中世遺構図101 (1/40)	466
第101図	中世遺構図87 (1/40)	414	第142図	中世遺構図102 (1/40)	467
第102図	中世遺構図88 (1/40)	415	第143図	中世遺構図103 (1/40)	468
第103図	中世遺構図89 (1/40)	416	第144図	中世遺構図104 (1/40)	469
第104図	中世遺構図90 (1/40)	417	第145図	中世遺構図105 (1/40)	470
第105図	中世遺構図91 (1/40)	418	第146図	中世遺構図106 (1/40)	471
第106図	中世遺構図92 (1/40)	419	第147図	中世遺構図107 (1/40)	472
第107図	中世遺構図93 (1/40)	420	第148図	中世遺構図108 (1/40)	473
第108図	中世遺物図15 (1/4)	421	第149図	中世遺構図109 (1/40)	474
第109図	中世遺物図16 (1/4・1/8)	422	第150図	中世遺構図110 (1/40)	475
第110図	中世遺物図17 (1/4・1/8)	423	第151図	中世遺構図111 (1/40)	476
第111図	中世遺物図18 (1/8)	424	第152図	中世遺構図112 (1/40)	477
第112図	中世遺物図19 (1/8)	425	第153図	中世遺構図113 (1/40)	478
第113図	中世遺物図20 (1/8)	426	第154図	中世遺構図114 (1/40)	479
第114図	中世遺物図21 (1/8)	427	第155図	中世遺構図115 (1/40)	480
第115図	中世遺物図22 (1/4・1/16)	428	第156図	中世遺物図41 (1/2・1/4)	481
第116図	中世遺物図23 (1/4)	429	第157図	中世遺物図42 (1/2・1/4)	482
第117図	中世遺物図24 (1/4)	430	第158図	中世遺物図43 (1/2・1/4)	483

第159図	中世遺物図44 (1/2・1/4)	484
第160図	中世遺物図45 (1/2・1/4)	485
第161図	中世遺物図46 (1/2・1/4)	486
第162図	中世遺物図47 (1/2・1/4)	487
第163図	中世遺物図48 (1/2・1/4)	488
第164図	中世の畝田西遺跡群概念図 (1/2000)	493

表 目 次

[古代編]

第1表	古代建物計測表	15	第6表	木製品一覧	271
第2表	土器一覧	137	第7表	木簡一覧	273
第3表	土製品一覧	146	第8表	墨書字句と個体数	279
第4表	石製品・金属製品一覧	146	第9表	調査区毎の墨書土器個体数	279
第5表	墨書土器一覧	205			

[中世編]

第1表	掘立柱建物一覧	286	第11表	石製品一覧2	449
第2表	土器一覧1	314	第12表	金属製品一覧2	449
第3表	土製品一覧1	314	第13表	木製品一覧2	449
第4表	土器一覧2	371	第14表	穴計測表	458
第5表	土製品一覧2	374	第15表	土器一覧4	488
第6表	石製品一覧1	374	第16表	土製品一覧4	490
第7表	金属製品一覧1	374	第17表	石製品一覧3	490
第8表	木製品一覧1	374	第18表	金属製品一覧3	490
第9表	土器一覧3	447	第19表	木製品一覧3	490
第10表	土製品一覧3	449	第20表	溝の連続関係	492

写真図版目次

[古代編]

図版 1	古代遺構 1	図版31	古代遺物 3
図版 2	古代遺構 2	図版32	古代遺物 4
図版 3	古代遺構 3	図版33	古代遺物 5
図版 4	古代遺構 4	図版34	古代遺物 6
図版 5	古代遺構 5	図版35	古代遺物 7
図版 6	古代遺構 6	図版36	古代遺物 8
図版 7	古代遺構 7	図版37	古代遺物 9
図版 8	古代遺構 8	図版38	古代遺物10
図版 9	古代遺構 9	図版39	古代遺物11
図版10	古代遺構10	図版40	古代遺物12
図版11	古代遺構11	図版41	古代遺物13
図版12	古代遺構12	図版42	古代遺物14
図版13	古代遺構13	図版43	古代遺物15
図版14	古代遺構14	図版44	古代遺物16
図版15	古代遺構15	図版45	古代遺物17
図版16	古代遺構16	図版46	古代遺物18
図版17	古代遺構17	図版47	古代遺物19
図版18	古代遺構18	図版48	古代遺物20
図版19	古代遺構19	図版49	古代遺物21
図版20	古代遺構20	図版50	古代遺物22
図版21	古代遺構21	図版51	古代遺物23
図版22	古代遺構22	図版52	古代遺物24
図版23	古代遺構23	図版53	古代遺物25
図版24	古代遺構24	図版54	古代遺物26
図版25	古代遺構25	図版55	古代遺物27
図版26	古代遺構26	図版56	古代遺物28
図版27	古代遺構27	図版57	古代遺物29
図版28	古代遺構28	図版58	古代遺物30
図版29	古代遺物 1	図版59	古代遺物31
図版30	古代遺物 2		

[中世編]

図版60	中世遺構 1	図版99	中世遺構40
図版61	中世遺構 2	図版100	中世遺構41
図版62	中世遺構 3	図版101	中世遺構42
図版63	中世遺構 4	図版102	中世遺構43
図版64	中世遺構 5	図版103	中世遺構44
図版65	中世遺構 6	図版104	中世遺構45
図版66	中世遺構 7	図版105	中世遺物 1
図版67	中世遺構 8	図版106	中世遺物 2
図版68	中世遺構 9	図版107	中世遺物 3
図版69	中世遺構10	図版108	中世遺物 4
図版70	中世遺構11	図版109	中世遺物 5
図版71	中世遺構12	図版110	中世遺物 6
図版72	中世遺構13	図版111	中世遺物 7
図版73	中世遺構14	図版112	中世遺物 8
図版74	中世遺構15	図版113	中世遺物 9
図版75	中世遺構16	図版114	中世遺物10
図版76	中世遺構17	図版115	中世遺物11
図版77	中世遺構18	図版116	中世遺物12
図版78	中世遺構19	図版117	中世遺物13
図版79	中世遺構20	図版118	中世遺物14
図版80	中世遺構21	図版119	中世遺物15
図版81	中世遺構22	図版120	中世遺物16
図版82	中世遺構23	図版121	中世遺物17
図版83	中世遺構24	図版122	中世遺物18
図版84	中世遺構25	図版123	中世遺物19
図版85	中世遺構26	図版124	中世遺物20
図版86	中世遺構27	図版125	中世遺物21
図版87	中世遺構28	図版126	中世遺物22
図版88	中世遺構29	図版127	中世遺物23
図版89	中世遺構30	図版128	中世遺物24
図版90	中世遺構31	図版129	中世遺物25
図版91	中世遺構32	図版130	中世遺物26
図版92	中世遺構33	図版131	中世遺物27
図版93	中世遺構34	図版132	中世遺物28
図版94	中世遺構35	図版133	中世遺物29
図版95	中世遺構36	図版134	中世遺物30
図版96	中世遺構37	図版135	中世遺物31
図版97	中世遺構38	図版136	中世遺物32
図版98	中世遺構39	図版137	中世遺物33

第1章 畝田西遺跡群の概観

第1節 遺跡の沿革

本書で報告する遺跡は畝田・寺中遺跡、畝田遺跡、畝田大徳川遺跡である。各遺跡の発見は、『大徳郷土史』によれば昭和42（1967）年に遡るようであり、金沢市畝田町の「大徳川遺跡」と記載されている。発見者は荒木繁行・福田弘光の両氏である。なお、同書で「畝田遺跡」と記載されているものは位置と内容から見て、現在の畝田ナベタ遺跡に相当するものである。その後、昭和44（1969）年には大徳川の下流側西方の地点で弥生時代の遺構・遺物が確認され、この地点が「畝田弥生遺跡」として報告されている。また、遺構・遺物の分布が寺中町地内へ連続する地点があり、昭和49（1974）年の石川県および金沢市の遺跡地図に記載された時点で「畝田・寺中遺跡」と命名されたようである。以上をもって畝田・寺中遺跡、畝田遺跡、畝田・大徳川遺跡の遺跡名が揃い、大まかな位置関係が確定することになる。

本格的な発掘調査は大規模開発事業に伴って行われるようになった。昭和57（1982）年の民間分譲地造成に伴う畝田・寺中遺跡の発掘調査を皮切りとして、昭和60（1985）～平成元（1989）年の県営住宅建設に伴う畝田遺跡、平成11（1999）～平成15（2003）年の金沢西部第二土地区画整理事業に伴う畝田・寺中遺跡他2遺跡（本書報告）、平成15・平成16（2004）年の民間区画整理事業に伴う畝田・寺中遺跡の発掘調査がその主なものであるが、この他にも中小規模の開発事業に伴い発掘調査が数多く行われている。昭和57年の調査では古墳時代前期の竪穴建物跡を検出し（方形周溝墓として報告）、昭和60～平成元年の調査では河川跡から玉丈形木製品や弧文板、卜骨が出土している。

第2節 報告の方針

本書で報告する発掘調査地点は畝田・寺中遺跡、畝田遺跡、畝田大徳川遺跡（以下、畝田・寺中遺跡他2遺跡）の範囲が重なることが著しく、各遺跡を区分することが不可能であるため、本書では一体的に「畝田西遺跡群」として報告する。既刊・既発表の資料では「畝田・寺中遺跡他2遺跡」ないし「畝田・寺中遺跡」と記述されているが、本報告名を以て替えることにしたい。当然ながら、地域の歴史や遺跡動態を考慮した名称ではないことをまずお断りしておきたい。本書は全6分冊であり、第1分冊は空中写真測量図と空中写真、第2分冊は調査区南部・東部域、第3分冊は縄文時代～古墳時代前期、第4分冊は古墳時代中後期、第5分冊は古代・中世、第6分冊は自然科学的分析・総括で構成する。第1・2分冊は平成16（2004）年度に刊行されており、第3～6分冊は平成17（2005）年度に刊行されることとなった。

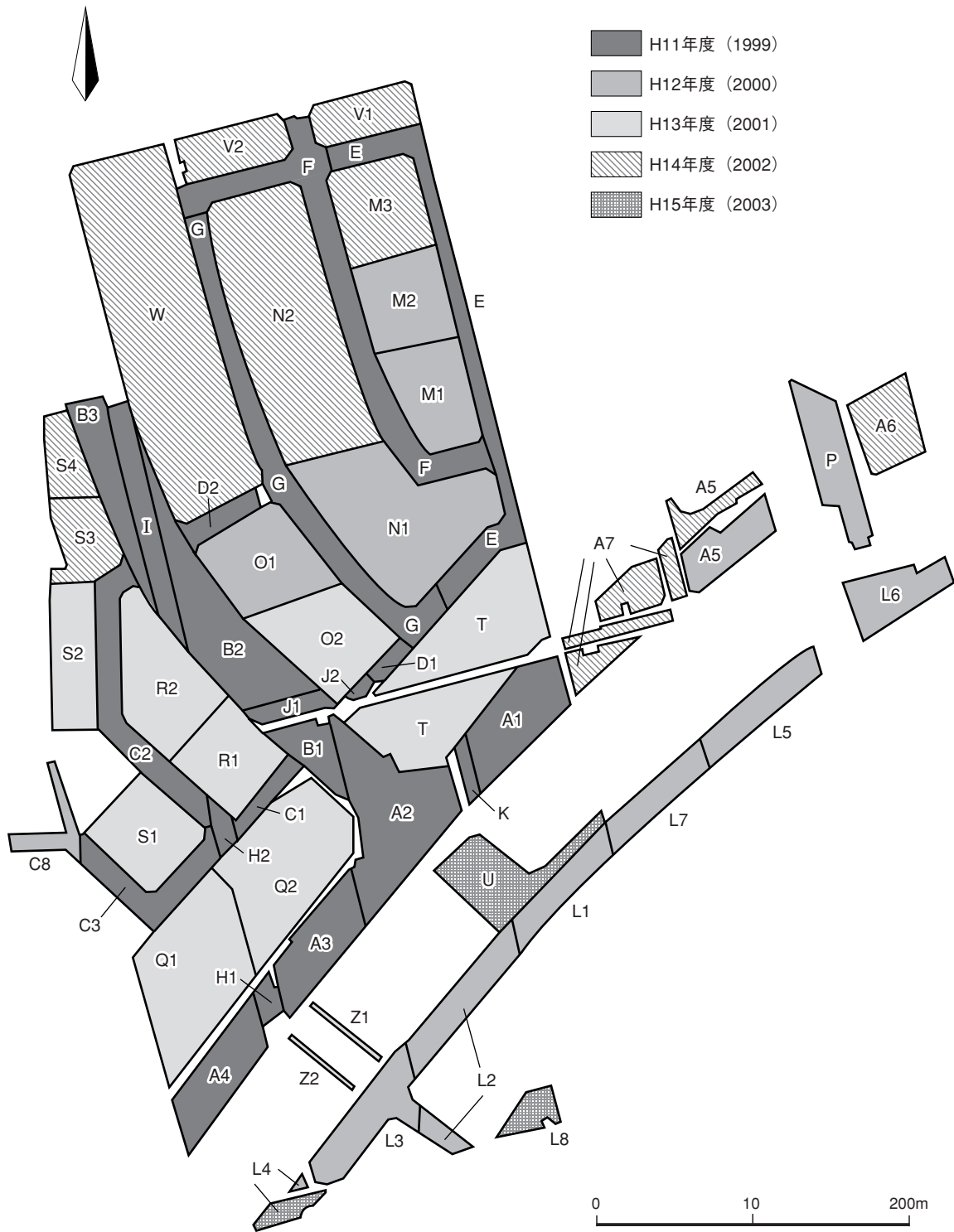
本書の構成は、基本的に時代別の分冊としており、年度・調査区別の分冊としなかったことに特徴がある。理由については、確認された縄文時代から中近世までの幅広い時代、特に弥生時代・古墳時代・古代・中世の各時代で大量に存在する複合遺跡の遺構・遺物を切り離し、各時代の遺跡像を明確にしたかったことがある。また、調査区の錯綜や調査区間にまたがる遺構が多く存在することがあり、年度や調査区の制約を受けずに面的・一体的に報告される必要があったことにもよる。なお、時代別に報告することの弊害も考慮し、空中写真測量図・空中写真を第1分冊に、調査区の制約が多い南部・東部域の報告を第2分冊に、全体の総括と補遺、自然科学的分析を第6分冊としている。

以上のような報告の方針により、各調査区の遺構・遺物を時代毎に区分して資料を整理する作業、また、調査区間で遺構のつながりを検討する作業が整理作業の中に生じてくることとなった。この作業には浜崎悟司（当時は当センター調査専門員、平成17年度に県文化財課へ異動）が従事し、平成16年度にはほぼ完了した。同時に、主要な建物の復元も行い、第5分冊では一部修正をおこないつつ報告している。また調査地を南北に貫流する旧河道（SD08・河跡）は弥生時代～古代の遺物を土器・木製品ともに多量に出土している。層序も明確に弥生・古墳・古代と区切れるものでなく、浜崎の振り分けに従い各編集担当間で遺構図・断面図等の微調整を行った。第3～5分冊は各担当者が浜崎の区分に基本的に準拠して執筆した。よって、本書の第2～5分冊の骨子は基本的に浜崎が作成したものといっていよう。

本分冊（第5分冊）では古代・中世の遺構・遺物を掲載している（第2分冊で報告済みの調査区を除く）。当該時期の建物遺構や土器の挿図は浜崎が在職中に作成したものを調整して使用している。また、報告対象の遺構・遺物が非常に多く、総ページ数が膨大になったため、本分冊は本文編と写真図版編の2冊に分割することとなった。また、時代区分については、古代と中世では10世紀と11世紀の間に大まかに引かれているが、時代というよりも遺構・遺物の空白期で区分したといったほうが適切であろう。但し遺構平面・断面図については、各時代の遺構が錯綜する地点では切り離すことが困難であったため、複写や再製図が間に合わなかったものについてはひとつの時代に限定して掲載せざるを得なかったものもある。

なお、平成15年度に調査したU地区については標高値が周囲の調査区よりはっきりと高くなっており、測量時に何らかのミスで生じたものと予想されるが原因は不明である。報告では数値を機械的に70cmマイナスすることで補正を測ることにしたが、正確なものではないことをお断りしておく。

※第1章については、第3分冊第1章安英樹（調査部調査第4課調査専門員）の文章を基本に、和田が補記・一部改変を行った



第1図 畝田・寺中遺跡他2遺跡調査区割図(S=1/2,000)

第2章 奈良・平安時代の調査結果

第1節 調査結果の概要

畝田・寺中遺跡他2遺跡で検出された古代の遺構は、掘立柱建物跡73棟をはじめとして、旧河道、井戸、土坑など多岐にわたる。掘立柱建物跡は、遺跡を南北に蛇行しながら流れる旧河道（本文中では河跡・SD08など）の両岸に配置されるが、特にA2・T区とその対岸のQ2・A3区、N1・2区、W区などで顕著な密集がうかがえる。時期は田嶋編年で言うところのⅢ期～Ⅳ1期（8世紀初頭～中頃）にはほぼ収まるようで、Ⅴ期（9世紀中頃）の建物・遺構も散見される。建物の数に比して井戸の検出例がやや少ない印象が持たれる。

遺物は、その大半が旧河道および大溝（SD31・SD62など）からの出土である。河道の所々に墨書土器の集中傾向が見られる他、大溝では「津」などの特徴的な墨書土器や木簡10点以上が出土している。金沢臨海部では例の少ないⅢ期の良好な資料が得られた他、遺跡の性格を如実に示すような墨書土器、郡符木簡2点をはじめとする木簡群など、単なる一古代集落ではなく、一帯に展開する古代の官衙関連遺跡としての姿を示していると言えよう。

第2節 掘立柱建物跡

本遺跡で検出された建物跡は計73棟になる。その全てが掘立柱建物跡で、竪穴系の建物は未検出であった。詳細なデータは別表に譲り、ここでは特徴的な建物をピックアップして報告することとした。なお、文中では建物の長辺方向を「桁」その長さを「桁行」とし、短辺方向を「梁」その長さを「梁行」と呼ぶ。また建物規模は桁行×梁行で示し、例えば5×2間であれば「桁行5間、梁行2間」を意味する。建物構造は便宜的に、建物の外回りだけに柱穴が配されているものを「側柱建物」、屋内にも基盤目状に柱穴が配されている物を「総柱建物」として2大別し、本文中で詳細な構造について述べることにしたい。

SB303・304 U区AE～AF28～29に位置する。調査区の制約で断絶しているように見えるが、基本的にA2区の旧河道東岸に展開する建物群の中で理解できる。SB304-P03からは杯蓋4469、無台杯4470が出土する。無台杯は口縁端部がわずかに外反するタイプで、いずれもⅣ1期に比定できる。

SB305 A4区AK～AL20～21と、周囲からはやや離れた場所に位置する5×3間側柱建物。北・南梁間3間の構造をとり、梁行も600cmと同規模の建物に比べて長くなっている。一般的に梁間数については2間が「律令型」、3間が「在来型」と称され、在来型は旧豪族層を郡司に任用したためか郡庁舎などで梁行3間とする例が見られるという。そうであるとすれば、本建物は官衙形式建物の古相を示すものと言えよう。遺物は須恵器の小片が出土するが、おおむねⅢ～Ⅳ期に収まるものである。

SB306 Q2区AE～AF21に位置する。5×2間規模で、桁行10.65m、梁行5.05mの大型側柱建物である。柱穴は本来方形であったと思われ、一辺約0.7mほどを測る。平均桁間約9尺・平均梁間約8.5尺と、規模は本遺跡の建物中トップクラスである。遺物は須恵器小片が柱穴より出土するが、詳細な時期を特定するには至っていない。

SB307 Q2区AD21～22に位置する。2×2間の総柱建物で、後述のSB317と重複する。屋内柱穴が

側柱穴とほぼ同規模で、根入れ等顕著な差が見られないことから東柱式の総柱建物と推測される。SB317-P339がSB307-P334を切り込んでいることから、SB307→SB317の先後関係が考えられる。

SB309 C3区AE19~20に位置する。2×(3)間規模の側柱建物で、南梁は調査区外に伸びているが、南側のQ1・2区で相当する柱穴を確認できないため、調査区境の未調査域で完結するものと考えられる。残存桁間から類推すると桁行4間になろうか。

SB312 S1区AD19に位置する。南梁の一部が調査区外に出ているが、南側のC3区で対応する柱穴が確認できず、未調査域内で完結し2×2間総柱建物の形態をとるものと思われる。建物規模の割に桁間・梁間が260・235cmと長く、同規模の2×2間の建物と比べても異質である。

SB313 S1区AD19に位置する。南梁は調査区外に伸びており、間の柱穴を欠いて不確定だがC3区P141・173が南梁に対応する可能性がある。この場合の推定規模は2×3間となろう。平均桁間が3m弱と、SB312同様規模の割に長い。

SB316 A3区AG~AH22~23に位置する。2×4間側柱建物で、西桁・南梁の一部が中世の遺構によって失われている。残存する柱穴は1辺が約1m規模の大型のもので、方形~方円形を呈する。A3区は特に中世の遺構が過密な調査区で、SB316の中程~の南側には3基の中世井戸が密集している。柱穴が井戸によって失われた可能性はかなり高く、SB316は柱穴規模から考えると5間以上の桁行を有していた可能性を指摘しておきたい。

SB317・318・319 Q2区AD~AE21~23に位置する。前述のSB306とほぼ同規模・同形態の側柱建物である。306が方(円)形状の大型柱穴であるのに対し、317・318・319は円形の小型柱穴であり後出的な要素を認めることができる。SB307より後出であり、軸方位なども考慮すると、SB306・307と317・318・319のグループに分けられる。318と319の先後関係は不明だが、軸方位がほぼ同一であることから建て替えの可能性はある。SB317-P318からは長胴甕4355が出土する。

SB320 Q2区AD23に位置する。西桁・南梁の一部を確認したのみで、本来は川跡を切り込んで建てられていたものと考えられる。最大長が約0.9mの大型方円形柱穴を持つが、本遺跡でこのような大型の柱穴を持つ建物は5間以上の大型建物か総柱の倉庫に限られる。川跡の東岸(A2区)では川岸にそろって建つ3棟の総柱建物(SB321~323)があり、あるいは本建物もそれらに関連する総柱建物であったかもしれない。P356からは有台杯4351が出土する。胴下半部が張りながらそのまま立ち上がる身の深いタイプで、IV1期に比定できよう。

SB321~323 A2区AC~AE25~26に位置する。SD08(川跡)に沿って建てられた倉庫群と理解できる。SB321は3棟中で最も規模が大きく(4.8×3.95m)322・323が南北方向に長辺を持つのに対し、321は東西に長辺を持ちやや扁平な建物形状である。側柱穴に対し屋内柱穴P132はやや小型であり、床東の可能性もある。SB323は柱穴規模が0.9~1.0mと最も大きく、屋内柱穴P231は側柱穴に比して明らかに小型である。建物間の距離は321・322間で約4m、322・323間で約3mである。322のみやや川岸から離れる。

SB324 A2区AD26に位置する。本建物を含め、A2区のこの一帯のみ小型の東西棟が集中して建てられている。324は5×2間だが桁行長が5.9mと小型で、柱間寸法も平均で1.18mと極端に狭かつ実寸法も不揃いである。この傾向は隣接するSB325も同様で、柱穴規模も0.4~0.5mほどと小型である。遺物が須恵器小片のみのため詳細な時期を特定できないが、中間寸法の縮小・柱穴の小型化など後出的な要素を持っている。総柱建物SB322と重複しているが、先後関係は不明である。

SB326 A2区AC26~27に位置する。A2区にある東西棟建物中では最も大きく、7.70×4.90mを測る。この建物も柱穴間実寸法が不揃いで、とくに西梁付近では極端に狭くなっている。また東梁では

ほぼ等間隔だが、西梁では間柱が南に寄りすぎており、西梁は間柱2本の3間構造であった可能性もある。P315・319では柱根が検出されたが、柱根径は0.1～0.15mと意外と細い。

SB331 A2区AB26-27に位置する。桁行6.3m・梁行4.45mと本遺跡では標準的な規模の建物であるが、3×3間構造をとる。本来2間構造のところを3間にしているため、平均梁間寸法も1.48mと短くなり、この数字は東西棟の3間梁間構造を持つSB327に近いものとなっている。P311から杯蓋4031が出土する。断面三角の口唇端が垂下する偏平タイプの蓋で鈕は欠損する。Ⅲ～Ⅳ1期に比定できよう。

SB333 A2区AB～AC25～26に位置する。北側でわずかに重複するSB334と同規模で、5間9.5m×2間5.8mを測る。柱穴規模が小さく・不明瞭なSB334に対して本建物は略円形の0.7～0.9m規模のしっかりした柱穴を持つ。P311から杯蓋4030、P52から墨書土器F93が出土する。4030は断面嘴状のシャープな口唇端が垂下する偏平タイプの蓋で鈕は欠損する。Ⅳ1～Ⅳ2期に比定できよう。F93は底部に「荒田家」の墨書を有する無台杯で、体部はほぼ直線的に立ち上がり偏平な器形である。Ⅳ1期に比定できよう。

SB334 A2区AA～AB25に位置する。4間9.3m×3(2?)間5.7mと比較的大型であるが、南梁がしっかりした柱穴であるのに対し、北梁・東西桁の柱穴はこの規模の建物としては小さく桁間寸法にも不揃いが目立つ。また梁行も南北ともやや不明瞭で、推定建物線に載る柱穴位置から見て3間規模で復元した。柱穴P96出土の有台杯4032は胴部下半に強い張りをもちやや外反する口縁を有する偏平タイプである。Ⅲ期に比定できよう。

SB335 A2・T区AA～AB25～26に位置する。3×2間構造であるが、桁行5.5m・梁行5.2mのほぼ方形を呈する。北梁の推定線上にあるP70はSB336の西桁を構成する柱穴であり、北・南梁ともに間柱を検出できていない。あるいは北側に規模が延びるかもしれないが不確定である。

SB336・337 A2区AA～AB26～27に位置する3×2間建物。桁行7.0m×梁行4.6m(336)・4.8m(337)と建物規模が類似しており、建て替えの可能性もある。切り合いを持つ柱穴にSB336-P68とSB337-P62があり、断面図示はないが調査時の所見でP62→68の関係が記録されており、それに従うとSB337→336となる。

SB338 T区AA～AB26～27に位置する。南梁が調査区外に伸びており、西桁延長部に相当するA2区で対応する柱穴としてSK28に切られる柱穴残存部(図中▲の位置する柱穴)が可能性があるものの確定できないため不明としておきたい。確認した柱穴だけでも6間分(12.5m)あり、A2・T区に集中する建物群中では最大規模である。SB339と重複するが、SB338-P96とSB339-P95で柱穴が切り合っており、SB338→339となる。

SB339 T区AA26～27に位置する。後述する方形溝SD31・34を挟んで西側に位置するSB334とほぼ同規模の建物で、桁行4間9.0×梁行2間5.1mを測る。

SB340 T区Z25～26に位置する。3×3間の総柱構造で、北列の大半は調査区外に伸びる。屋内柱穴は側柱穴に比べ若干小規模で、配列も不揃である。特に屋内柱穴列の北列では交差する推定軸線から完全に外れており、側柱建物の可能性もある。

SB344 R2区X～Y18に位置する。4間9.2m×3間4.6mの側柱建物で、2間目に間仕切柱穴と思しき柱穴P25が存在する。南梁は不揃いな3間構造で、北梁は均等な2間構造と変則的である。P33からは無台杯4418が出土する。胴部下半に一見稜のような張りを有し、口縁部はやや外反する。Ⅲ期に比定できよう。

SB348 E・T区U～V28に位置する。2×1間の側柱構造だが、南北梁の間柱が未検出である。本時期の建物としてはやや異例で、あるいは中心部分に密集する小柱穴を用いて総柱構造をとるのかもしれない。

れない。

SB351・352 T区W～X29～30に位置する。わずかに位置をずらしながら重複しており、建て替えの可能性が高い。352はそれ自体では一棟の建物として復元し得ないことから、既存の351の柱穴を利用しつつ建て替えを行ったものと考えられる。SB351-P15からは有台杯4465が出土する。口径11.6cmの小型で、胴部下半に張りを持ち、直線的に伸びる口縁部を有する。IV 1期に比定できよう。

SB354 W区M～N16～17に位置する。長辺1m強の(長)方形大型柱穴を持つ建物で、西桁・南北梁ともに調査区外に伸びる。W区の西側は金沢市埋蔵文化財センターによって2003年度に木曳野遺跡群として調査が行われており、図面を接合することで後述の355・356ともに規模を推定することができた。ただし図面上の復元であり、正確な建物復元は正報告を待ちたい。図面上では桁行はこれ以上延びず、梁行も2間規模で考えることができ5間8.20m×2間5.70mに復元された。4つの柱穴で柱根が確認されており、柱径は0.22～0.29mと大型である。

SB355 W区M～N16～17に位置する。西桁が金沢市調査区で確認できないことから、調査区境の未調査域に存在するものと思われる。W区側(東桁)での柱穴の連続状況なども併せて考えれば、推定規模は4間6.4m×2間4.4mとなろう。SB354と重複するが、先後関係は不明である。

SB356 W区M16～17に位置する。金沢市調査区に推定建物線に載る柱穴はあるものの不確定である。この柱穴を生かせば東西棟となり、推定規模は5?間10m×2間3.29mとなろう。

SB357 W区M～N17～18に位置する大型建物。規模は8間17.7m×北梁3間・南梁2間6.7mで、本遺跡の側柱建物としては最大規模である。柱穴規模・柱間寸法にばらつきがあり、方形の柱穴で0.6～0.75mを測る。柱穴の中にはP205のように2つの柱痕跡を持つものや南梁のように重複する柱穴を持つものがあり、建て替えが行われていることを窺わせる。遺物はP46から杯蓋4495・無台杯4496・4497・墨書土器F306、P77から杯蓋4494、P131から無台杯4502が出土する。杯蓋4494・4495は口唇断面形状が丸～楕円状に変化し、4494で内反しながら垂下、4495は一端外転した後垂下する。いずれもIV 2～V期の特徴を持っている。無台杯4496・4497・4502は口径が11.5～12cmと小型で、4496は口縁部が直線的に、4497・4502は胴部下半に緩やかな張りをもちつつ内湾気味に延びる。4496がV期、4497・4502はIV 1～2期に比定できよう。墨書土器F306は底部に行書気味に「宅」字を墨書する。底部径に比して墨書は大振りである。口縁部はほぼ一直線に延びており、やや偏平な印象である。V期に比定できよう。

SB358 W区M～N17～18に位置する。SB357と重複し、SB357-P108を切り込んでSB358-P105が作られていることからSB357→358と判断される。P136からは杯蓋4501が出土する。口唇形状は断面方形を呈し、VI期に比定されよう。

SB359 W区K～L17に位置する。規模は溝が錯綜する場所のため未検出な柱穴が多く不確定だが、SK07を北梁柱穴とすると桁行4間規模となる。梁行については不明確で、2間規模とするには南梁柱穴のP29はあまりに小さすぎ、柱間寸法も3mを越えてしまうため3間規模も考慮する必要がある。西側に廂列を持ち、本遺跡では珍しい庇付建物である。

SB360 G・N 2区Q～R21～22に位置する3間6.7m×3間5.7mの総柱建物。西・東桁には布掘溝に長大な板材を敷き詰め、その上に柱材を乗せて沈下を防ぐ特殊な構造が施されている。このような構造の建物は布掘筏地行建物と呼ばれており、古代における類例は山形県太夫小屋1遺跡SB984・985・1074が知られるのみである。太夫小屋1遺跡における布掘筏地行建物の定義を借りると「建物の桁行・梁行を布掘し、布掘底面に長尺の板材を敷き詰めた後、柱を据える工法の建物」を指しており、布掘に大型の礎板を据える布掘建物とは異なった工法として評価している。布掘筏地行を完掘し得た

のは西桁のみであるが、西桁は時期不詳の溝SD09掘削時に確認されたため詳細なデータが得られなかった。SD09底面にわずかに残った箇所（特に2枚の長尺板の連結部分）で掘り込みが確認されたため、布掘後の敷設と判断している。東桁では明確に布掘溝SD117が確認され、長尺板W617が敷設されている（大半が調査区外に伸びるため、検出分を切断して回収）。西桁には2枚の長尺板W630（北側、253×29.2×7cm）・632（南側、509×33×8.4cm）がわずかに間隔を空けて敷設され、敷設長は桁行長6.7mより長い。W632には柱の圧痕跡が残っていた。材質は両者ともスギである。なお、東桁長尺板W617については樹種同定時に併せてC14年代測定を行っている。詳細は6分冊を参照されたいが、下限年代でAD610が得られており転用材の可能性も否定できない。両桁行を布掘後地行で行っているのに対し、他の柱穴は一般的な柱穴+礎板構造をとっている。7柱穴中5柱穴で礎板が確認されていることから、よほど沈下対策に気を遣う建物であったことがうかがえる。

SB361 G・N2区Q21～22に位置する。調査時で3×2間の総柱建物としたが、あるいは西桁が川跡に切り込んでいたため未検出であった可能性もある。SB361のすぐ北側かつ同様の総柱建物であるにもかかわらず、本建物には礎板などの沈下対策は全くとられていなかった。

SB362 G・N2区P21に位置する。建物中央に調査区境と溝があるため梁および屋内柱穴の多くが未検出であるが、確認できた柱穴位置から総柱建物と判断した。南梁P167で礎板が確認されている。

SB363 N2区P22に位置する。3×2間の総柱建物だが、屋内柱穴が側柱穴に比して極端に小さく、総柱と言うよりは床束を持つ側柱建物なのかもしれない。建物規模の割には柱穴は大型で、（長）方形柱穴の最大長は0.95～1.05mを測る。

SB364・365 N2区O21に位置する総柱建物。軸を替えたのみでほぼ同位置に建てられており、建て替えであろう。梁行長は西桁が調査区外に位置するため不明であるが、桁行長は364・365ともに4.5m、残存の梁柱間寸法で2.0m・1.95mを測り、柱穴規模もほとんど変わらないことから全く同規模と言って差し支えないだろう。先後関係については切り合いを持たないため判然としない。

SB366 N2区L～M20～21に位置する総柱建物。屋内柱穴の北1間目に布掘礎板据え付け柱穴P79を持つ。P79の礎板は長さ1.51m・幅0.14m・厚0.02mで、調査時の所見では遺存状況が悪く、図面上で2枚に分かれているが本来は1枚であったであろうとしている。他には北2間目P80に礎板があるのみで、側柱穴は柱抜き取りの痕跡がないにもかかわらず確認されていない。柱穴の中には柱痕跡の重複を持つものもあり、建て替えが行われた可能性がある。

SB368 F・V2区I～J20に位置し、この建物もSB360と同じく布掘後地行構造（南梁）を持つ。布掘は幅0.65m・深0.32mで、北側を後世の溝に切られるが長さは約7.1mと梁行長6.3mを越える。その南側には柱抜き取り痕P30・31が確認された。図化したのは東側の長尺板W631で、長3.54m×幅0.2m×厚0.03mを測る。2枚の板は幅半分ほどで重ねられており、そのせいか西側の長尺板は歪んでいる。柱穴規模は1mを越える大型のもので、P24・25・SK11で礎板が、P11で最大径が0.38mの柱根W627が確認された。

SB369 N2区Q～R23～24に位置する、6間12.6m×1間4.5mの大型側柱建物。両桁に雨落溝と思われる溝を伴っている。柱穴はほぼ方形で、0.7～0.8mを測る。北・南梁ともに該当する妻柱が存在せず、削平によって失われた可能性が高い。あるいは、妻柱のみ礎石立ちであった可能性もある。柱筋・柱間寸法は非常に整っている。西桁の雨落溝SD115は幅0.7～0.9m、深0.1mを測る。東桁の雨落溝SD112は幅0.6～0.7m、深0.1mを測り、北梁の柱穴P187をカバーせずに立ち上がる。桁行-溝心々は、西桁-SD115で3m弱、東桁-SD112で2～2.5mである。よって軒の出は2～2.5mと推測される。柱穴・溝ともに遺物が出土せず、詳細な時期は不明である。

SB372 N2区L～M21～22に位置する。4×3間の側柱構造で、梁間3間の特殊な建物である。柱穴は方形～略方形を呈し、規模は0.6～0.7mを測る。概して梁間3間の建物は柱穴規模が大きく、配置もしっかりしていることが多い。古代溝SD15と重複するが、切り合っているP32の断面を見るとSD15に切られているようでSB372→SD15の関係であろう。

SB374 V1区G25に位置し、本遺跡で最も東に位置する建物である。柱穴は0.4～0.7mの略円形を呈し、柱筋の通りが悪い。

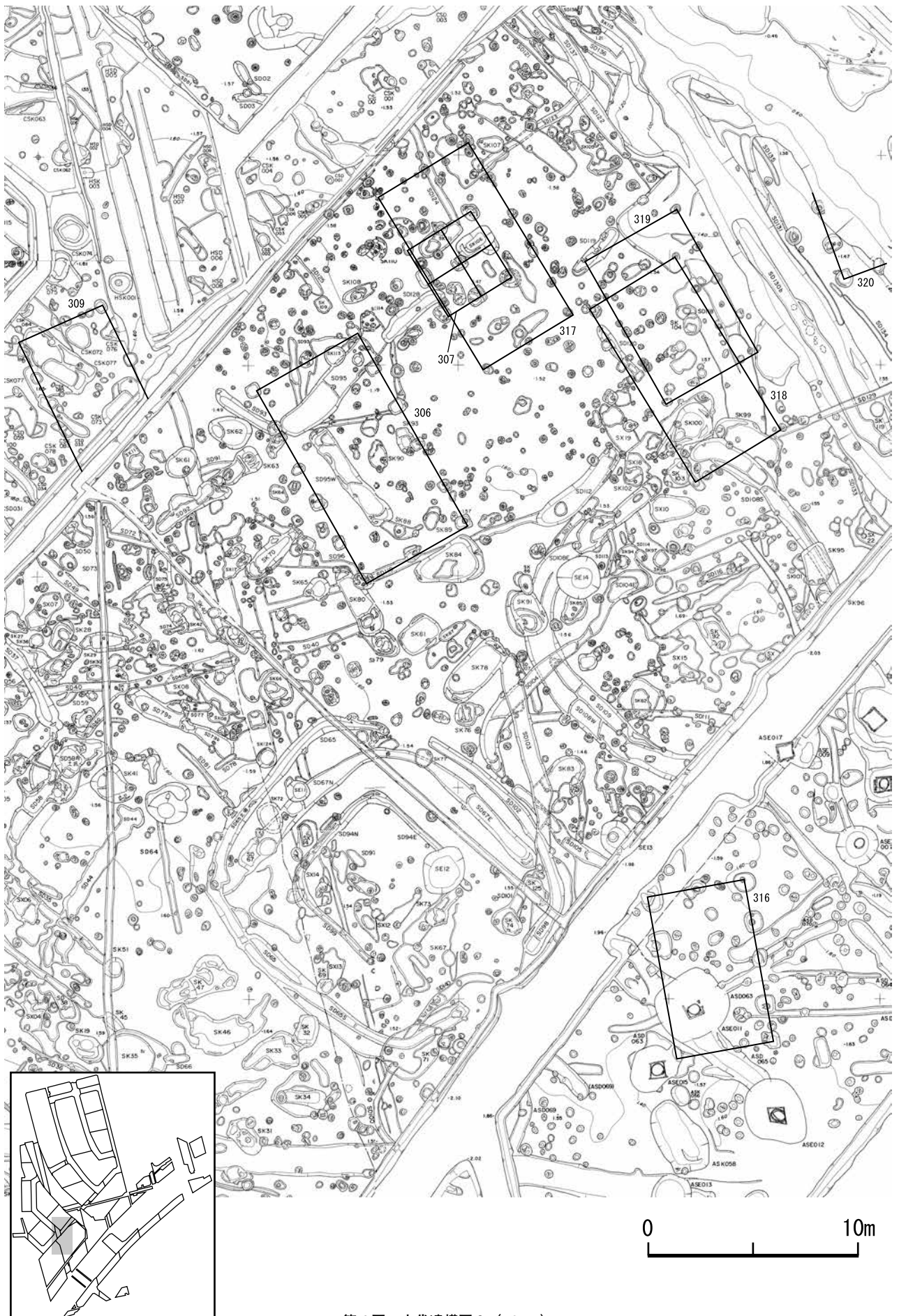
SA01 W区に位置する板杭列で、一部は河跡にまで入っている。延長約16mを検出した。棒状杭と板が組み合わせられており、板塀の可能性がある。W区建物群に付属する板杭列であろうか。



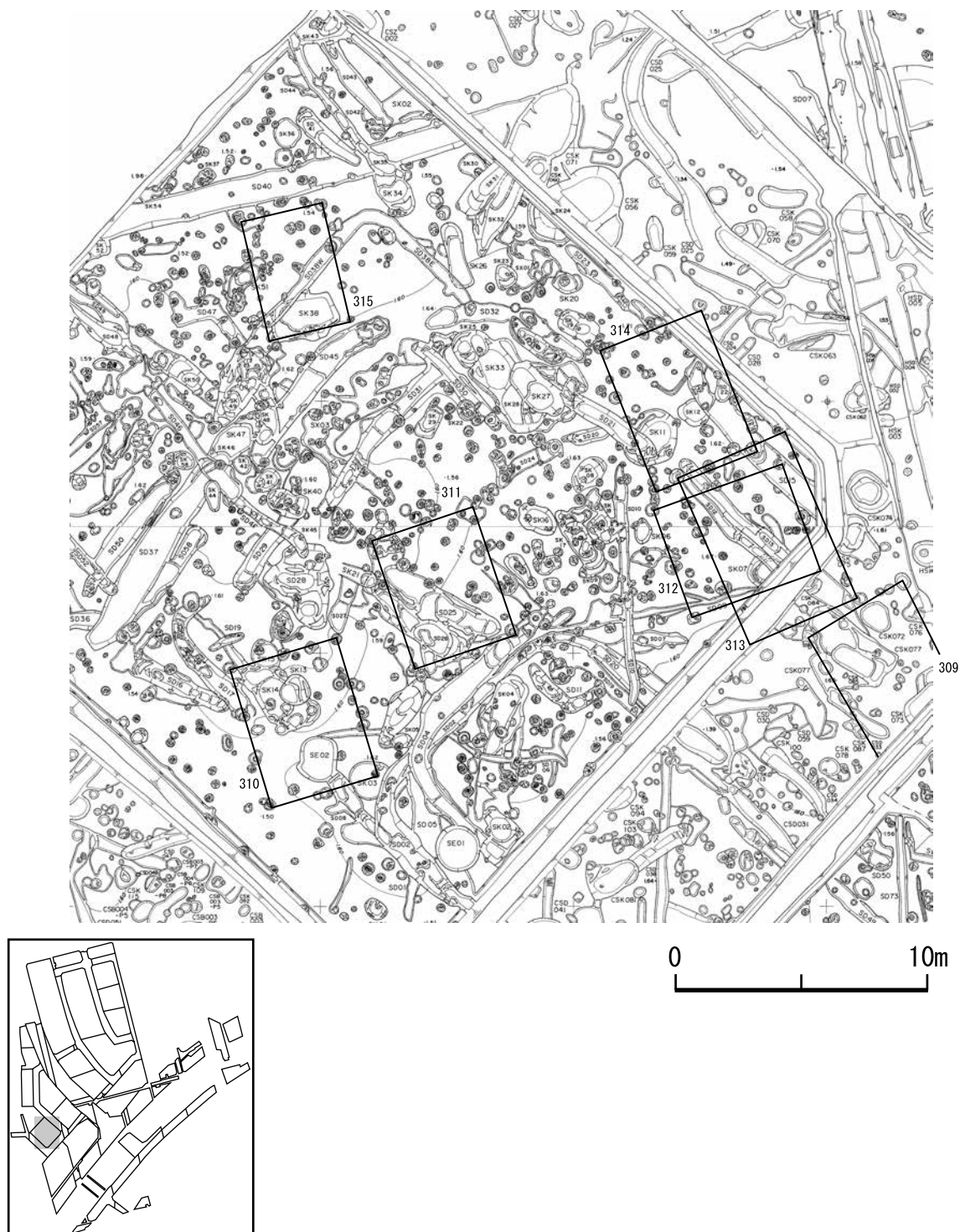
第2図 古代遺構図1 (1/500)



第3図 古代遺構図2 (1/250)



第4図 古代遺構図3 (1/250)



第5図 古代遺構図4 (1/250)



第6図 古代遺構図5 (1/250)

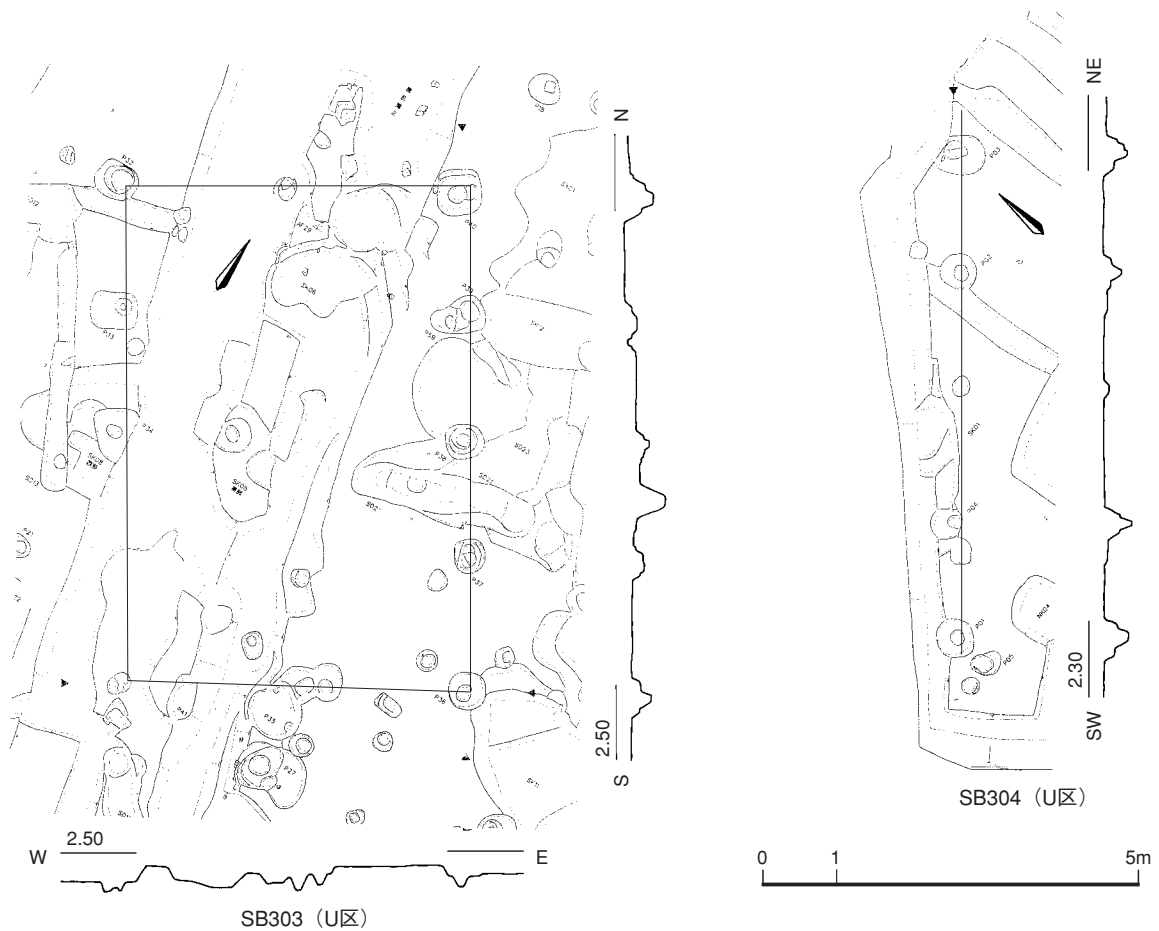
第1表 古代建物計測表

No.	形態	地区	グリッド	軸方位	桁行		平均桁間	梁行		平均梁間	規模(m ²)	特記事項
					間数	桁長		間数	梁長			
301	側	L1		32W	5+	768		3	604		46.4	第2分冊報告
302	側	L8		19W	3	548		1+	206		11.3	第2分冊報告
303	側	U	AE~AF28~29	32W	4	665	166.3	2	455	227.5	30.3	
304	側	U	AE28	39W	4	640	160.0	+				
305	側	A4	AJ~AK20~21	18W	4	950	237.5	3	600	200.0	57.0	
306	側	Q2	AE21~22	23W	5	1065	213.0	2	505	252.5	53.8	
307	総	Q2	AD21~22	28W	2	370	185.0	2	350	175.0	13.0	
308	側	C3	AE15~16	12W	3	616	205.3	2	389	194.5		
309	側	C3	AD~AE19~20	30W	3	460	153.3	2	430	215.0		
310	側	S1	AE17~18	16W	3	555	185.0	2	430	215.0	23.9	
311	側	S1	AD~AE18	17W	3	545	181.7	2	440	220.0	24.0	
312	側	S1	AD~AE19	19W	3	520	173.3	2	470	235.0	24.4	
313	側	S1	AD~AE19	23W	2	585	292.5	2	435	217.5		
314	側	S1	AC~AD19	22W	3	615	205.0	2	440	220.0	27.1	
315	側	S1	AC17~18	13W	3	470	156.7	2	320	160.0	15.0	
316	側	A3	AG~AH22~23	11W	4	760	190.0	2	480	240.0	36.5	
317	側	Q2	AD~AE21~22	32W	5	970	194.0	2	490	245.0	47.5	
318	側	Q2	AD~AE22~23	31W	5	985	197.0	1	505	505.0	49.7	
319	側	Q2	AD~AE22~23	30W	4	780	195.0	1	500	500.0	39.0	
320	側	Q2	AD23	20W	2	355	177.5	1	180	180.0		
321	総	A2	AD~AE26	24W	2	480	240.0	2	395	197.5	19.0	
322	総	A2	AC~AD26	33W	2	420	210.0	2	390	195.0	16.4	
323	総	A2	AC25~26	33W	2	410	205.0	2	360	180.0	14.8	
324	側	A2	AD26	33W	5	590	118.0	1	380	380.0	22.4	東西棟
325	側	A2	AC~AD26~27	33W	5	570	114.0	2	400	200.0	22.8	東西棟
326	側	A2	AC26~27	31W	5	770	154.0	3	490	163.3	37.7	東西棟
327	側	A2	AC25~26	27W	5	720	144.0	3	450	150.0	32.4	東西棟
328	側	A2	AB25~26	20W	3	550	183.3	2	380	190.0	20.9	東西棟
329	側	A2	AC27	38W	3	460	153.3	2	350	175.0		
330	側	A2	AC27	31W	4	840	210.0	2	550	275.0	46.2	
331	側	A2	AB26~27	34W	3	630	210.0	3	445	148.3	28.0	
332	側	A2	AB~AC25~26	32W	3	710	236.7	2	490	245.0	34.8	
333	側	A2	AB~AC25~26	29W	5	950	190.0	2	580	290.0	55.1	
334	側	A2	AA~AB25	23W	4	930	232.5	3	570	190.0	53.0	
335	側	T南	AA~AB25~26	27W	3	550	183.3	2	520	260.0	28.6	
336	側	T南	AA~AB26	32W	3	700	233.3	2	460	230.0	32.2	西側に平行溝
337	側	T南	AA~AB26~27	34W	3	700	233.3	2	480	240.0	33.6	
338	側	T南	AA~AB26~27	33W	6	1250	208.3	1	510	510.0	63.8	
339	側	T南	AA26~27	32W	4	900	225.0	2	510	255.0	45.9	
340	総	T南	Z25~26	27W	3	520	173.3	3	500	166.7	26.0	
341	側	T南	Z28	34W	4	870	217.5	2	530	265.0	46.1	
342	側	S2	X~Y15	20W	3	580	193.3	1	150	150.0		
343	側	R2	X~Y18	32W	3	540	180.0	3	440	146.7	23.8	
344	側	R2	X~Y18	38W	4	920	230.0	3	460	153.3	42.3	間仕切り有
345	総	O1	U20~21	27W	2	360	180.0	2	330	165.0	11.9	
346	側	B2	S~T18	24W	3	540	180.0	1	180	180.0		
347	?	B3	R15~16	17W	2	350	175.0	1	330	330.0		
348	側	E	U~V28	12W	2	600	300.0	1	460	460.0	27.6	
349	側	T北	W29	15W	1+			2	460	230.0	0.0	
350	側	T北	W29~30	20W	3	570	190.0	2	470	235.0		
351	側	T北	W~X29~30	20W	3	690	230.0	2	515	257.5		
352	側	T北	W~X29~30	17W	3			1	481	481.0		

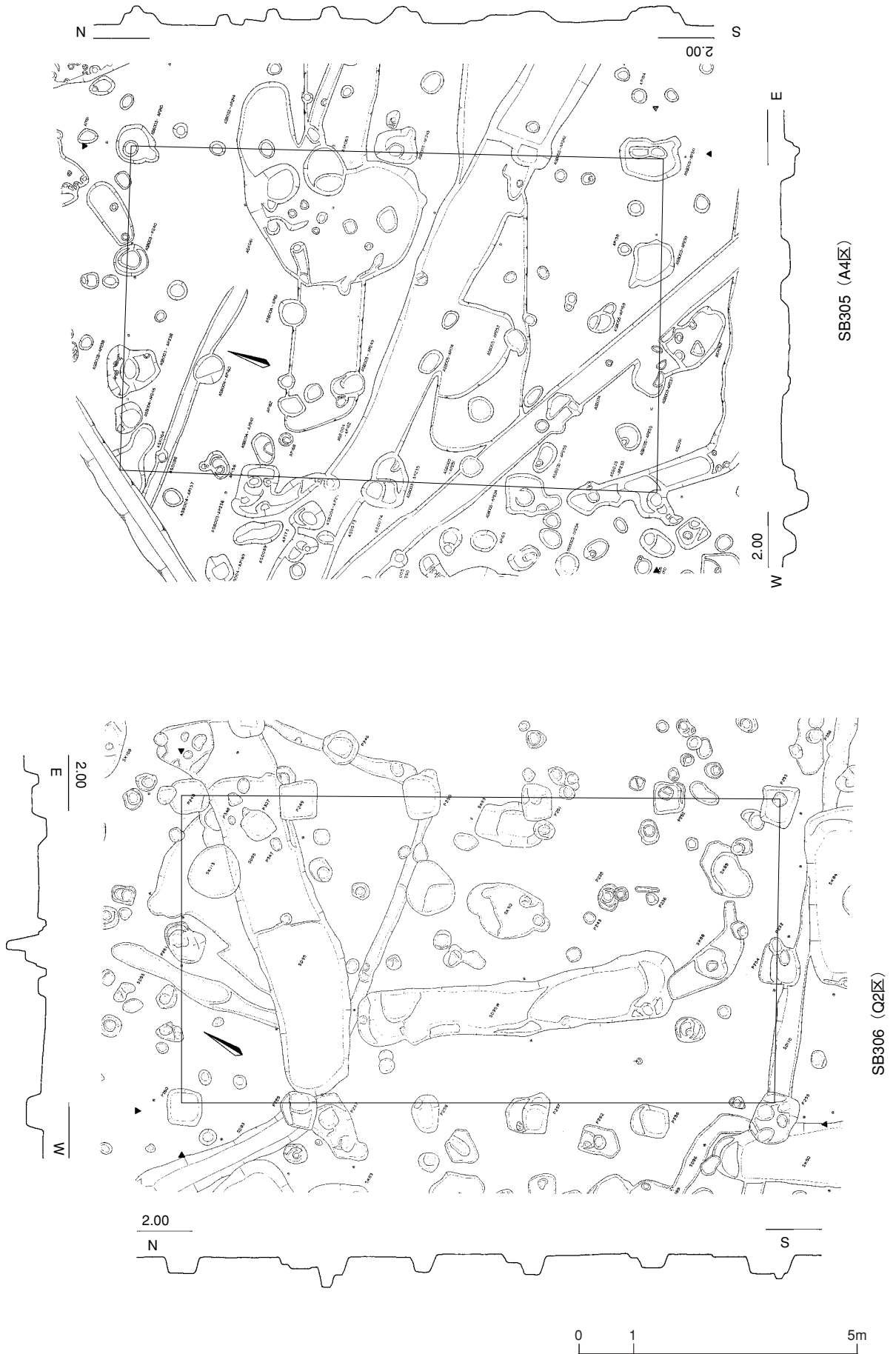
第2節 掘立柱建物跡

No.	形態	地区	グリッド	軸方位	桁行		平均桁間	梁行		平均梁間	規模(mi)	特記事項
					間数	桁長		間数	梁長			
353	総	S4	Q~R15	32W	2	360	180.0	2	350	175.0	12.6	
354	側	W	M~N16~17	23W	5	820	164.0	1	235	235.0		
355	側	W	M~N16~17	21W	4	640	160.0	1	220	220.0		
356	側	W	M16~17	23W	2	400	200.0	1	329	329.0		
357	側	W	M~N17~18	22W	8	1770	221.3	3	670	223.3	118.6	最大の建物
358	側	W	M~N17~18	18W	4	804	201.0	3	580	193.3	46.6	
359	側	W	K~L17	23W	4	890	222.5	2	620	310.0		西庇
360	総	N2	Q~R21~22	11W	3	670	223.3	3	570	190.0	38.2	布掘浅地行
361	総	N2	Q21~22	8W	3	610	203.3	2	325	162.5		
362	総	N2	P21	12W	3	520	173.3	3	430	143.3	22.4	
363	総	N2	P22	8W	3	470	156.7	3	405	135.0	19.0	
364	総	N2	O21	8W	2	450	225.0	1	200	200.0		
365	総	N2	O21	18W	2	450	225.0	1	195	195.0		
366	総	N2	L~M20~21	11W	3	550	183.3	3	510	170.0	28.1	一部布掘
367	総	N2	K20	11W	3	450	150.0	3	420	140.0	18.9	
368	総	F	I~J20	16W	3	630	210.0	3	590	196.7	37.2	布掘浅地行
369	側	N2	Q~R25	12W	6	1260	210.0	1	450	450.0	56.7	東西桁に雨落溝
370	側	N1	Q~R23~24	11W	3	620	206.7	3	510	170.0	31.6	
371	側	N2	O23	1W	3	670	223.3	2	490	245.0	32.8	
372	側	N2	L~M21~22	17W	4	780	195.0	3	570	190.0	44.5	
373	側	N2	L~M23	9W	3	660	220.0	2	434	217.0	28.6	
374	側	V1	G25	17W	4	650	162.5	2	430	215.0	28.0	
375	側	A2	AB28	39W	2	220	110.0	1	390	390.0		

※斜体字の数値は、桁・梁が未確定なことを示す。

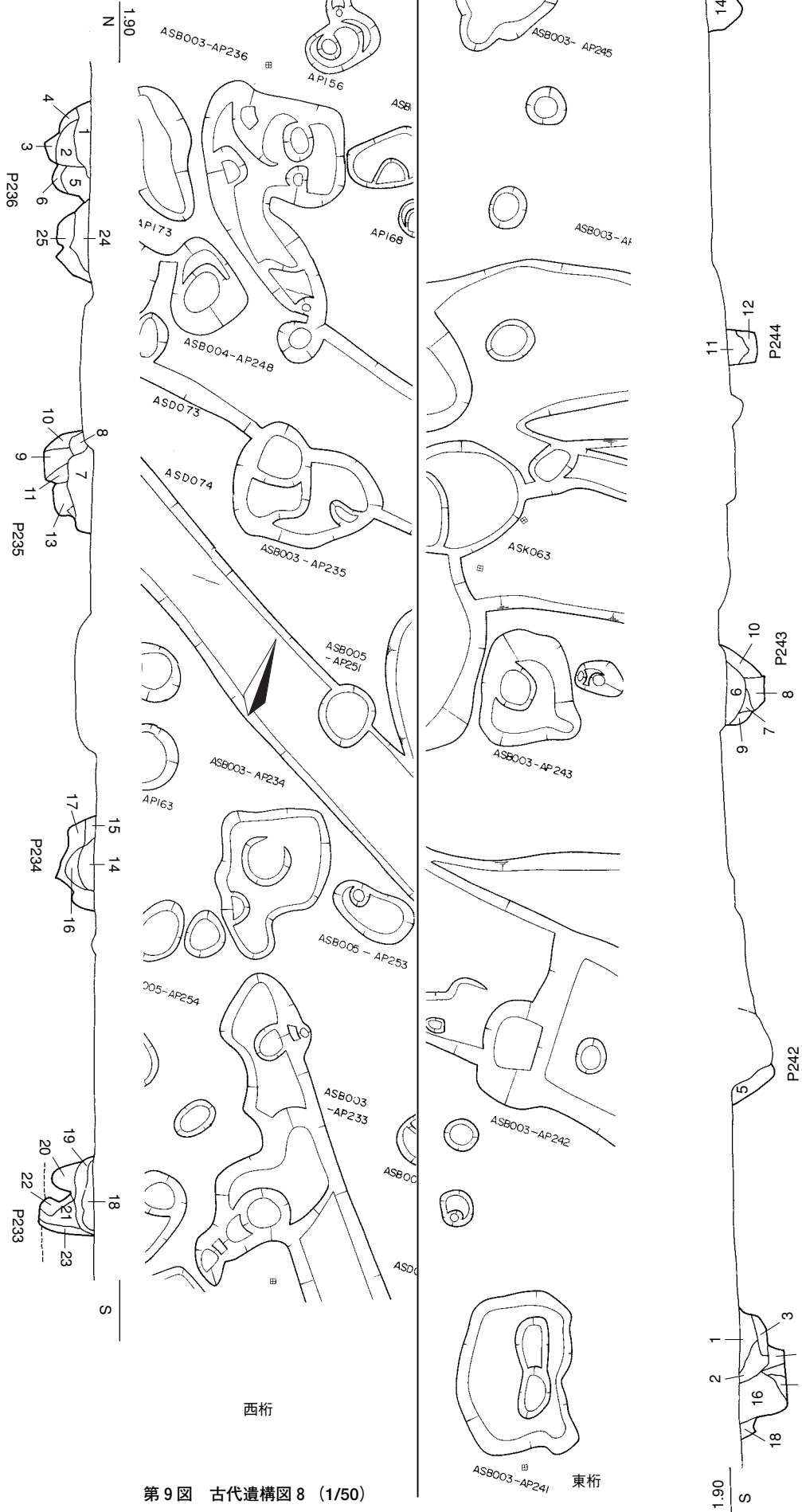


第7図 古代遺構図6 (1/100)



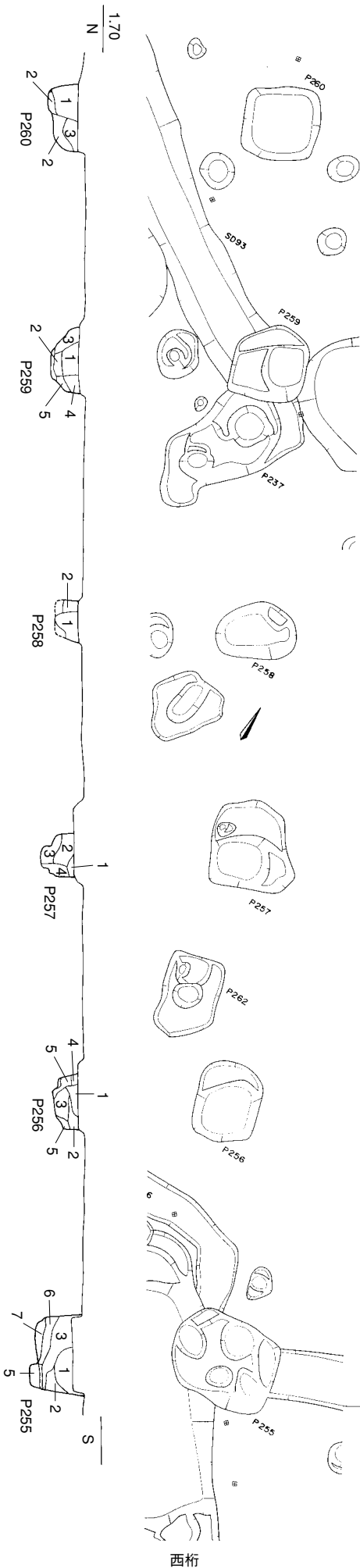
第8図 古代遺構図7 (1/100)

第2節 掘立柱建物跡

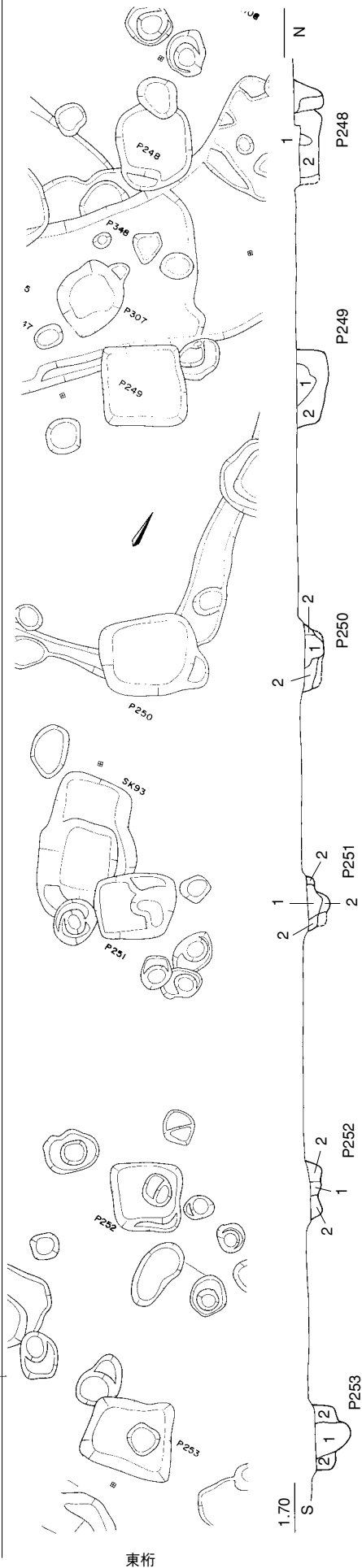


第9図 古代遺構図8 (1/50)

- SB305 西桁 (A4区 P233~236)
- 1 暗灰褐色粘質土
 - 2 暗灰色粘土 炭化物粒微含む
 - 3 暗灰色粘土 粘性強い
 - 4 地山質土 暗灰色粘土ブロック少含む
 - 5 地山質土 暗灰色粘土大ブロック多含む
 - 6 暗灰色粘土 地山大ブロック少含む
 - 7 暗灰褐色粘質土
 - 8 地山質土 暗灰褐色粘質土大ブロック多含む
 - 9 暗灰色粘土 粘性強い
 - 10 暗灰色粘土 地山大ブロック多含む
 - 11 暗灰色粘土 地山大ブロック多含む (10層と同じか?)
 - 12 黒褐色粘土
 - 13 暗灰褐色粘質土 炭化物微含む
 - 14 暗灰褐色粘質土
 - 15 暗灰褐色粘質土地山大ブロック多含む
 - 16 暗灰色粘土
 - 17 暗灰色粘土 地山大ブロック少含む
 - 18 暗灰褐色粘質土
 - 19 暗灰色粘土
 - 20 暗灰色粘土 地山(黄灰色粘質土)大ブロック多含む
 - 21 暗灰色粘土 地山(黄灰色粘質土)中ブロック少含む
 - 22 暗灰色粘土 地山(灰色砂)大ブロックを少含む
 - 23 暗灰色粘土 地山(灰色砂)大ブロックを少含む
 - 24 暗灰褐色粘質土
 - 25 暗灰色粘土 地山大ブロック多含む
- SB305東桁 (A4区 P241~245)
- 1 暗灰褐色粘質土地山大ブロック多含む
 - 2 暗灰褐色粘質土地山大ブロック少含む
 - 3 暗灰褐色粘質土地山大ブロック少含む
 - 4 地山質土 暗灰褐色粘質土ブロックを少含む
 - 5 地山質土 暗灰褐色粘質土ブロック微含む
 - 6 暗灰褐色粘質土
 - 7 地山質土 暗灰褐色粘質土ブロック微含む
 - 8 暗灰色粘土
 - 9 地山質土 暗灰褐色粘質土ブロック少含む
 - 10 地山質土 暗灰褐色粘質土ブロック少含む
 - 11 暗灰褐色粘質土
 - 12 暗灰色粘土
 - 13 暗灰褐色粘質土色調明るい
 - 14 暗灰褐色粘質土色調明るい
 - 15 暗灰褐色粘質土地山小ブロック微含む
 - 16 暗灰褐色粘質土
 - 17 暗灰褐色粘質土地山ブロック少含む
 - 18 地山質土 暗灰褐色粘質土小ブロック少含む



西桁



東桁

SB306西桁 (Q2区 P255~P260)

P255

- 1 灰褐色粘質土 地山土含む
- 2 褐灰色粘質土 地山土含む
- 3 暗灰褐色粘質土 地山ブロック多含む、炭化物少含む
- 4 褐灰色砂質土
- 5 暗灰褐色粘質土 地山土均一に含む
- 6 暗灰褐色粘質土 地山小ブロック少含む、炭化物少含む
- 7 暗褐灰色粘質土 地山ブロック多含む、炭化物少含む

P256

- 1 暗灰褐色粘質土 地山土含む
- 2 暗灰褐色粘質土
- 3 暗褐灰色粘質土
- 4 淡褐灰色粘質土 地山土非常に多い
- 5 暗褐灰色粘質土 地山土含む

P257

- 1 灰褐色粘質土 粘性強い
- 2 オリブ灰色砂質土 褐粘質土混じる
- 3 暗褐灰色粘土
- 4 暗褐灰色粘質土 地山土多含む

P258

- 1 暗褐灰色粘土 地山ブロック多含む
- 2 灰褐色粘土 地山ブロック多含む

P259

- 1 灰褐色粘質土 粘性強い、地山ブロック含む
- 2 暗褐灰色粘土 地山土ごく少量含む
- 3 褐灰色粘質土 粘性強い、炭化物・地山土ごく少量含む
- 4 灰褐色粘質土 粘質強い
- 5 濁褐灰色粘土 地山土含む
- 6 地山に2層シミ状に含む

P260

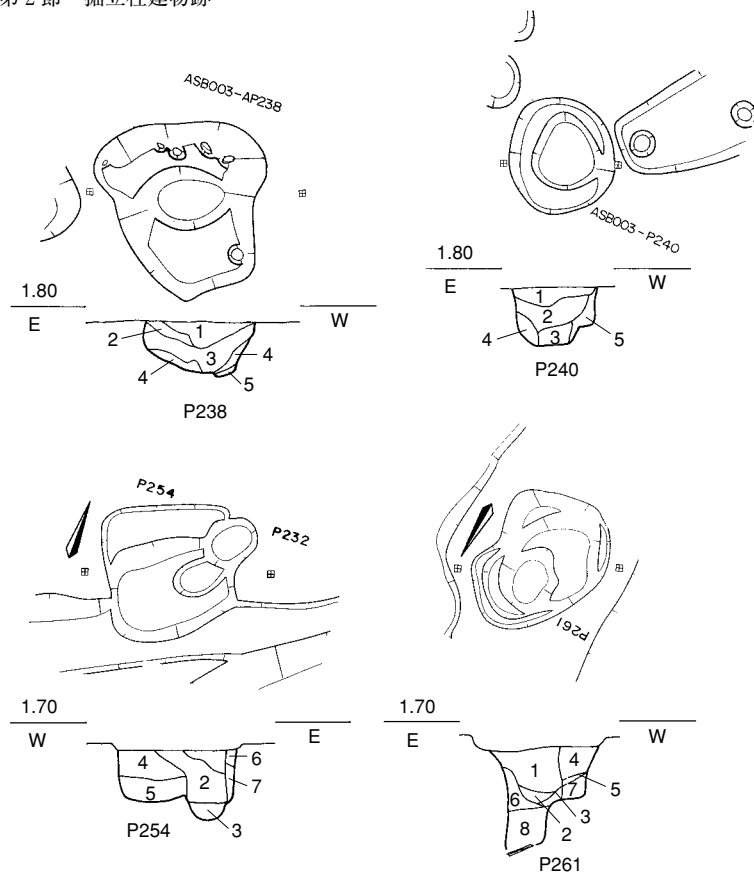
- 1 濁淡灰褐色粘質土 地山小ブロック(灰黄粘)多く含む
- 2 濁暗灰色粘土 地山小ブロック(青灰砂)多く含む
- 3 淡灰褐粘質土 粘性強い
- 4 青灰色砂質土 暗灰粘小ブロック少量含む

SB306東桁 (Q2区 P248~P253)

- 1 灰褐色粘質土 地山粒少量含む、炭化物含む
- 2 灰褐色粘質土 地山ブロック多量に含む

第10図 古代遺構図9 (1/50)

第2節 掘立柱建物跡



SB305 (A 4区 P238・240)

P238

- 1 暗灰褐色粘質土鉄分を多く含み赤褐色を全体におびる
- 2 暗灰褐色粘質土地山大ブロックを多量含む
- 3 暗灰色粘土 炭化物(10mm大)を少量含む
- 4 地山質土 暗灰色粘土大ブロックを多量含む
- 5 暗灰色粘土 地山中ブロックを少量含む

P240

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 暗灰色粘土 暗灰褐色粘質土大ブロック少量含む
- 3 暗灰色粘土
- 4 暗灰色粘土 地山大ブロック少量含む
- 5 暗灰色粘土 炭化物(3mm大)を少量含む

SB306 (Q 2区 P254・261)

P254

- 1 灰褐色粘質土 地山ブロック多く含む
- 2 灰褐色粘質土 地山土少量含む
- 3 暗灰色粘土
- 4 濁灰褐色粘質土 地山ブロック多く含む、炭化物少量含む
- 5 暗灰褐色粘質土
- 6 灰褐色粘質土
- 7 暗灰褐色粘質土 地山土含む

P261

- 1 暗灰褐色粘質土 地山土・炭化物とも少量含む
- 2 暗灰褐色粘質土 地山粒全体に含む
- 3 暗灰褐色粘質土
- 4 暗灰褐色粘質土
- 5 濃暗褐色粘質土
- 6 暗灰色粘質土 地山ブロック(灰黄粘)非常に多い
- 7 暗灰色粘質土 6より地山ブロック(灰黄粘)多い
- 8 暗灰色粘質土 地山ブロック(青灰粘)多く含む
- 6・7・8 別ピットの可能性あり

SB307東桁 (Q 2区 P326~328)

P326

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 濁灰色粘質土
- 3 濁暗灰褐色粘質土 地山土全体に混じる
- 4 暗灰褐色砂質土
- 5 暗オリーブ灰色砂質土 砂粗い、3層混じる
- 6 暗灰褐色粘質土
- 7 暗灰褐色粘質土 地山ブロック多く含む
- 8 暗オリーブ灰色砂質土 7層混じる、砂粗い

P327

- 1 濁暗灰褐色粘質土 地山小ブロック含む、濁灰粘全体にシミ状に含む
- 2 暗オリーブ灰色砂質土 粒粗い
- 3 濁暗灰褐色粘質土 1層より濃い
- 4 暗オリーブ灰色砂質土 3層混じる

P328

- 1 灰褐色粘質土
- 2 濁灰色粘質土 暗灰茶粘小ブロックを多く含む、地山砂少し含む
- 3 暗灰褐色粘質土
- 4 灰色粘土 地山砂少し含む
- 5 暗灰色粘質土 地山土含む
- 6 暗灰色粘質土
- 7 暗灰褐色粘質土
- 8 暗灰色粘土 地山土含む

SB307中央 (Q 2区 P329~P331)

P329

- 1 暗灰褐色粘質土 地山ブロック含む、炭化物含む
- 2 暗灰茶色粘質土 かなり暗い
- 3 暗灰茶色粘質土 地山土(暗灰オリーブ砂)多く含む
- 4 暗灰茶色粘質土 2層より暗い
- 5 暗灰茶色粘質土 地山土(オリーブ黄砂)多く含む
- 6 暗オリーブ灰砂質土 かなり暗く砂粗い

P330

- 1 灰褐色粘質土 暗灰茶粘ブロック含む、炭化物ごく少量含む
- 2 暗灰茶色粘質土 地山ブロック全体に含む
- 3 暗灰褐色粘質土
- 4 灰色砂質土 細砂

P331

- 1 濁暗灰褐色粘質土 地山小ブロック、暗灰褐粘小ブロックとも均一に含む、炭化物少量含む
- 2 濁暗灰褐色粘質土 炭化物少量含む
- 3 淡オリーブ褐色砂質土
- 4 濁暗灰褐色粘質土 細砂
- 5 暗灰褐色粘質土 地山ブロック含む
- 6 淡暗灰褐色粘質土
- 7 灰褐色粘質土 地山土多く含む
- 8 濁オリーブ灰色砂質土

SB307西桁 (Q 2区 P332~P334)

P332

- 1 褐色粘質土 地山ブロック(灰黄粘)多く含む
- 2 濁暗オリーブ灰砂

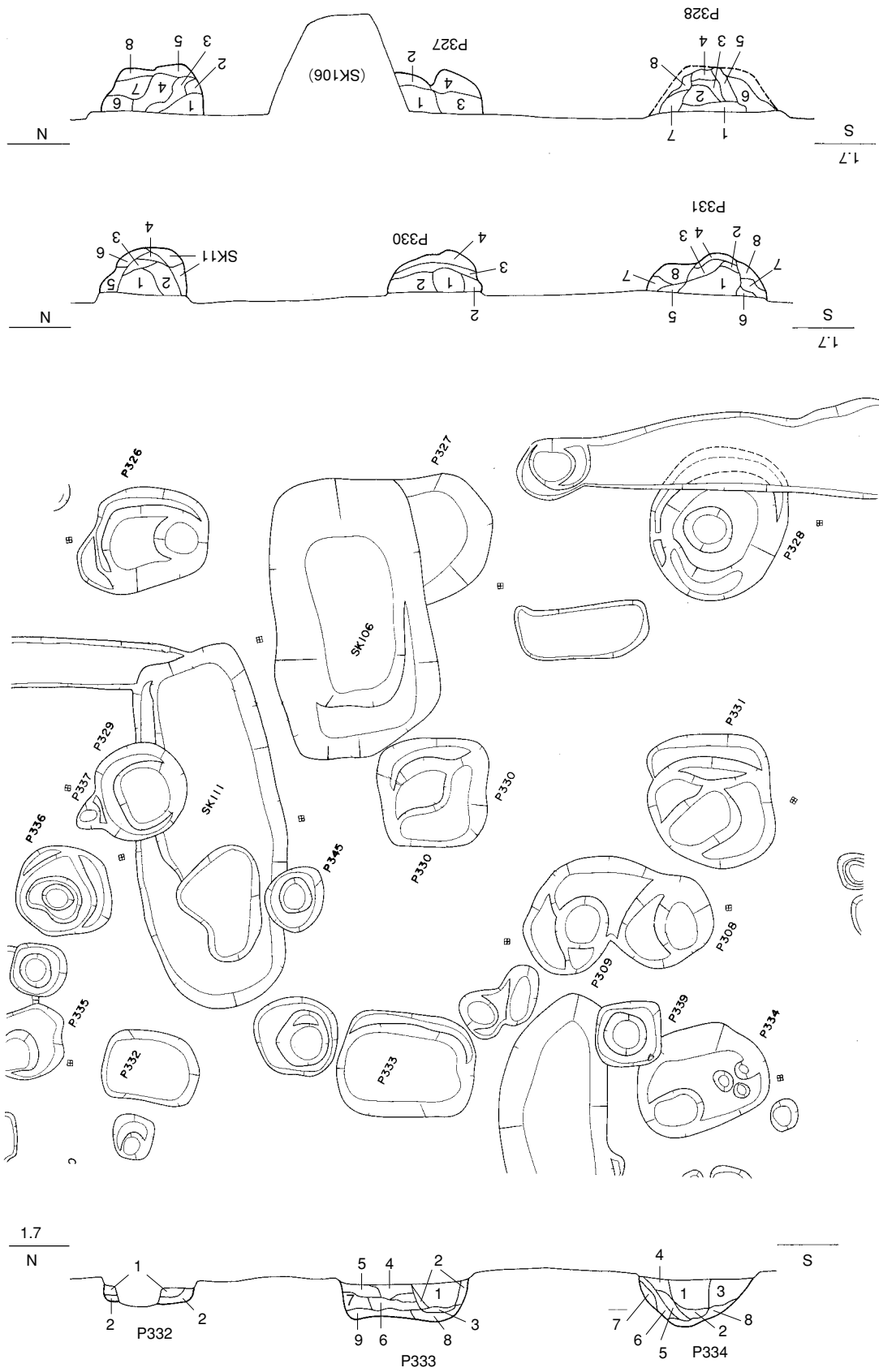
P333

- 1 淡灰褐色粘質土 炭化粒含む
- 2 暗オリーブ灰色砂質土 砂粗い
- 3 暗灰褐色砂質土 砂粗い
- 4 灰色粘質土 粘性強い、地山ブロック含む
- 5 淡暗灰褐色粘質土 地山土(オリーブ灰砂)非常に多く含む
- 6 暗灰褐色粘質土 炭化粒含む
- 7 濁暗灰褐色粘質土 地山土(オリーブ灰砂)含む
- 8 濁暗オリーブ灰色砂質土 砂粗い
- 9 濁暗オリーブ灰色砂質土 砂粗い

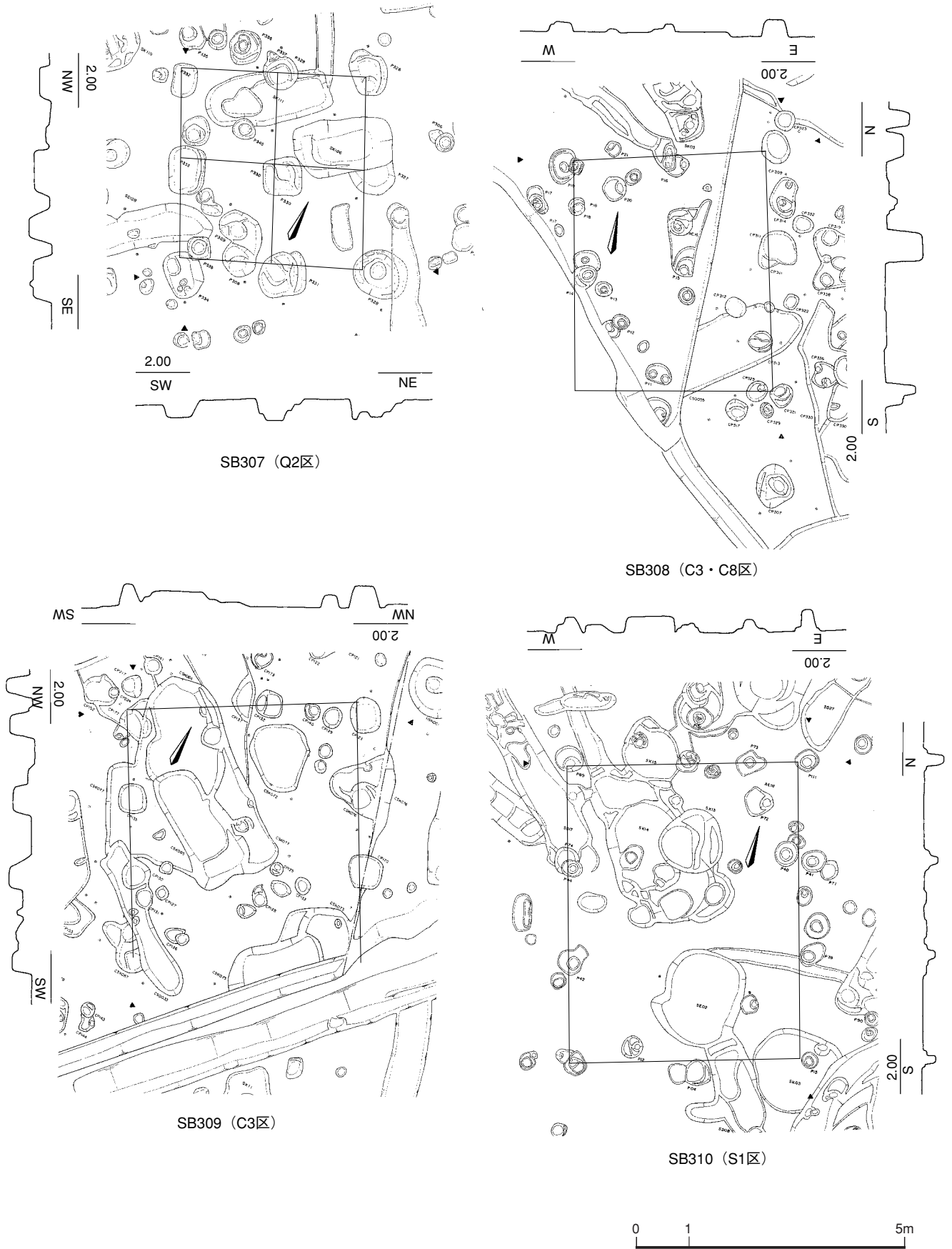
P334

- 1 濁暗灰褐色粘質土 暗灰褐粘小ブロック、地山ブロック(灰黄粘)含む
- 2 濁暗オリーブ灰色砂質土 1層混じる
- 3 濁暗灰褐色粘質土 暗灰褐粘ブロック、地山ブロック(灰黄粘)多く含む
- 4 淡暗灰褐色粘質土 地山土含む
- 5 暗灰色粘質土 褐色がかる、かなり暗い
- 6 灰色粘質土 地山砂多く含む
- 7 灰褐色粘質土
- 8 暗灰褐色粘質土

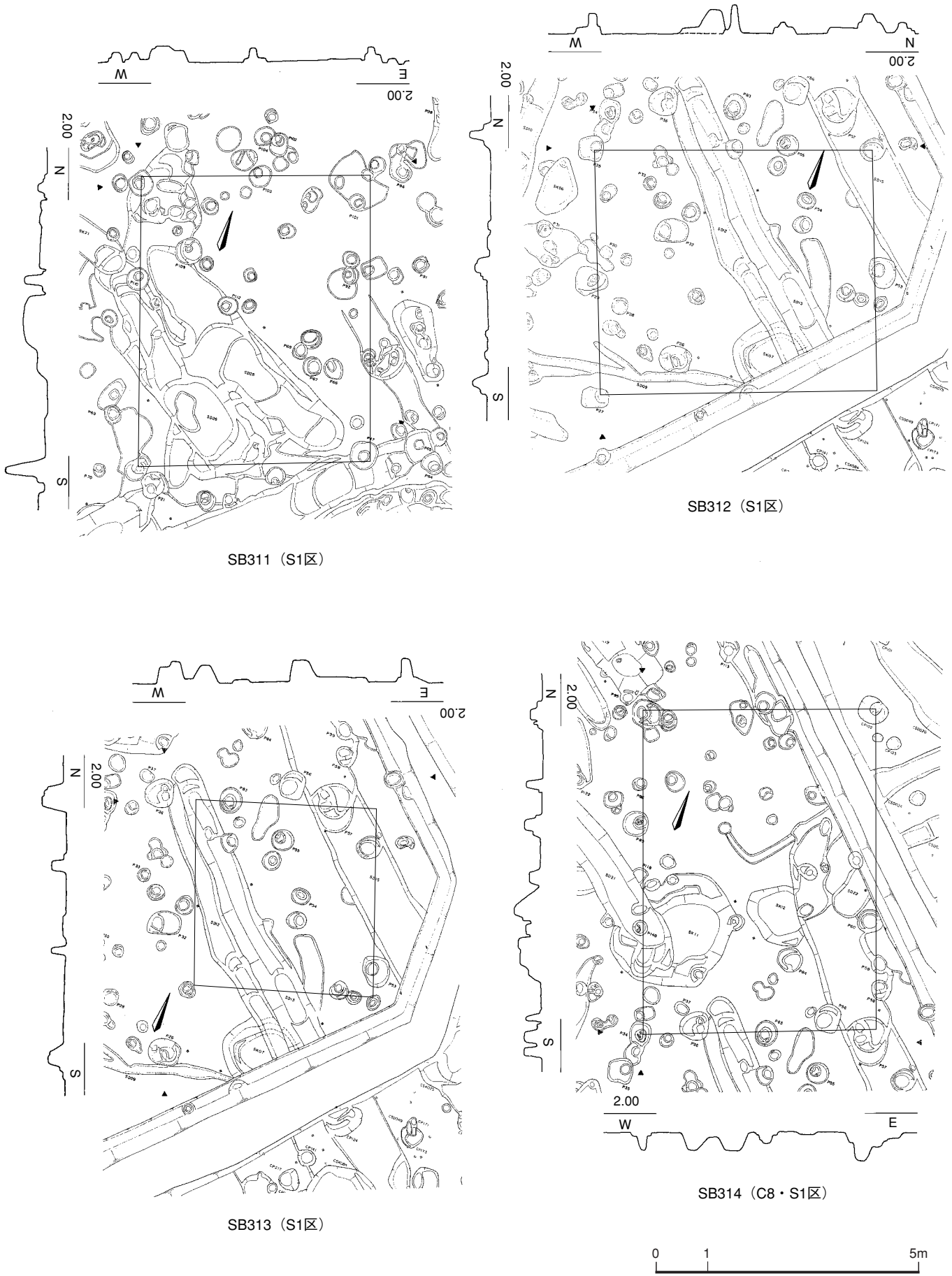
第11図 古代遺構図10 (1/40)



第12図 古代遺構図11 (1/40)

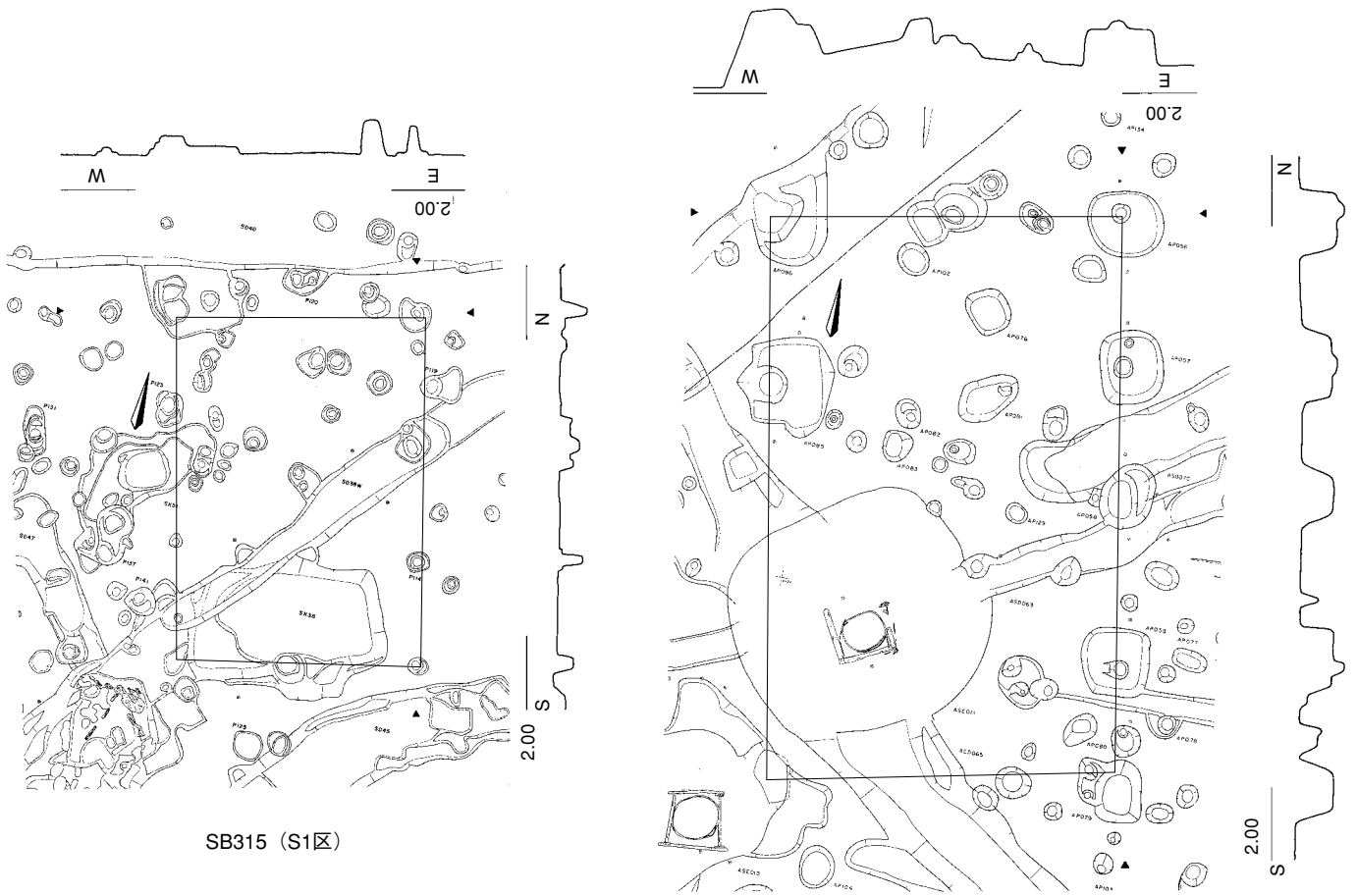


第13図 古代遺構図12 (1/100)



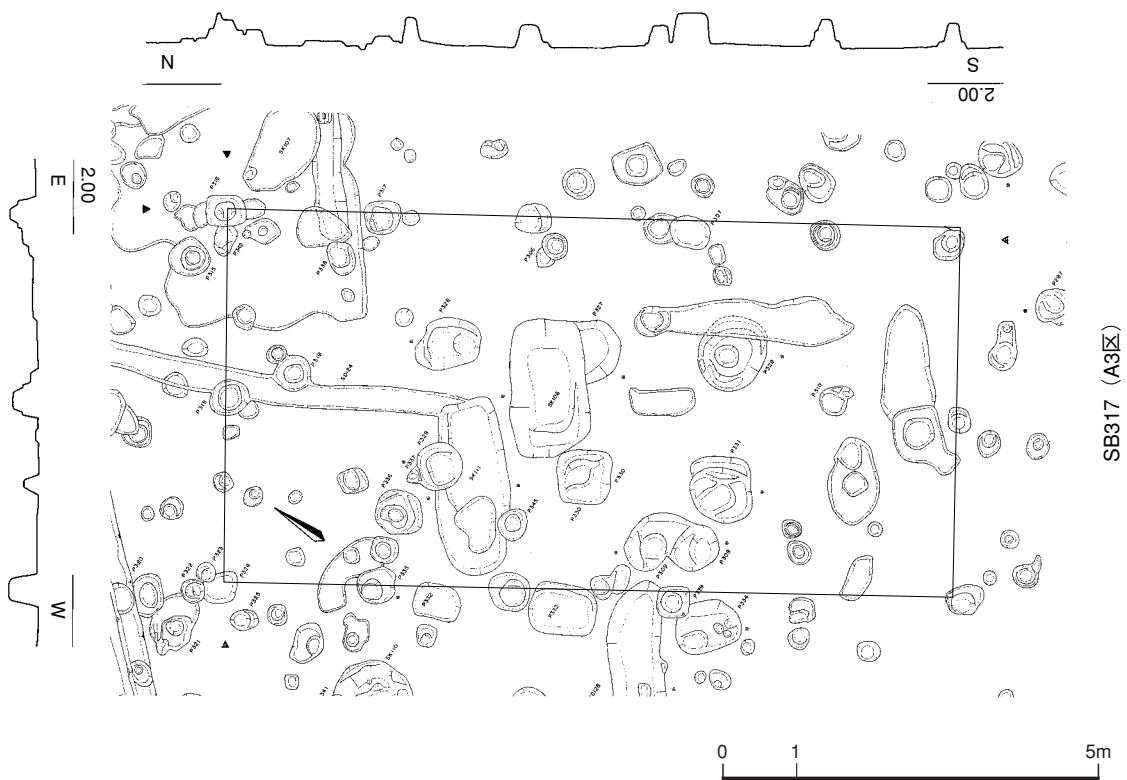
第14図 古代遺構図13 (1/100)

第2節 掘立柱建物跡



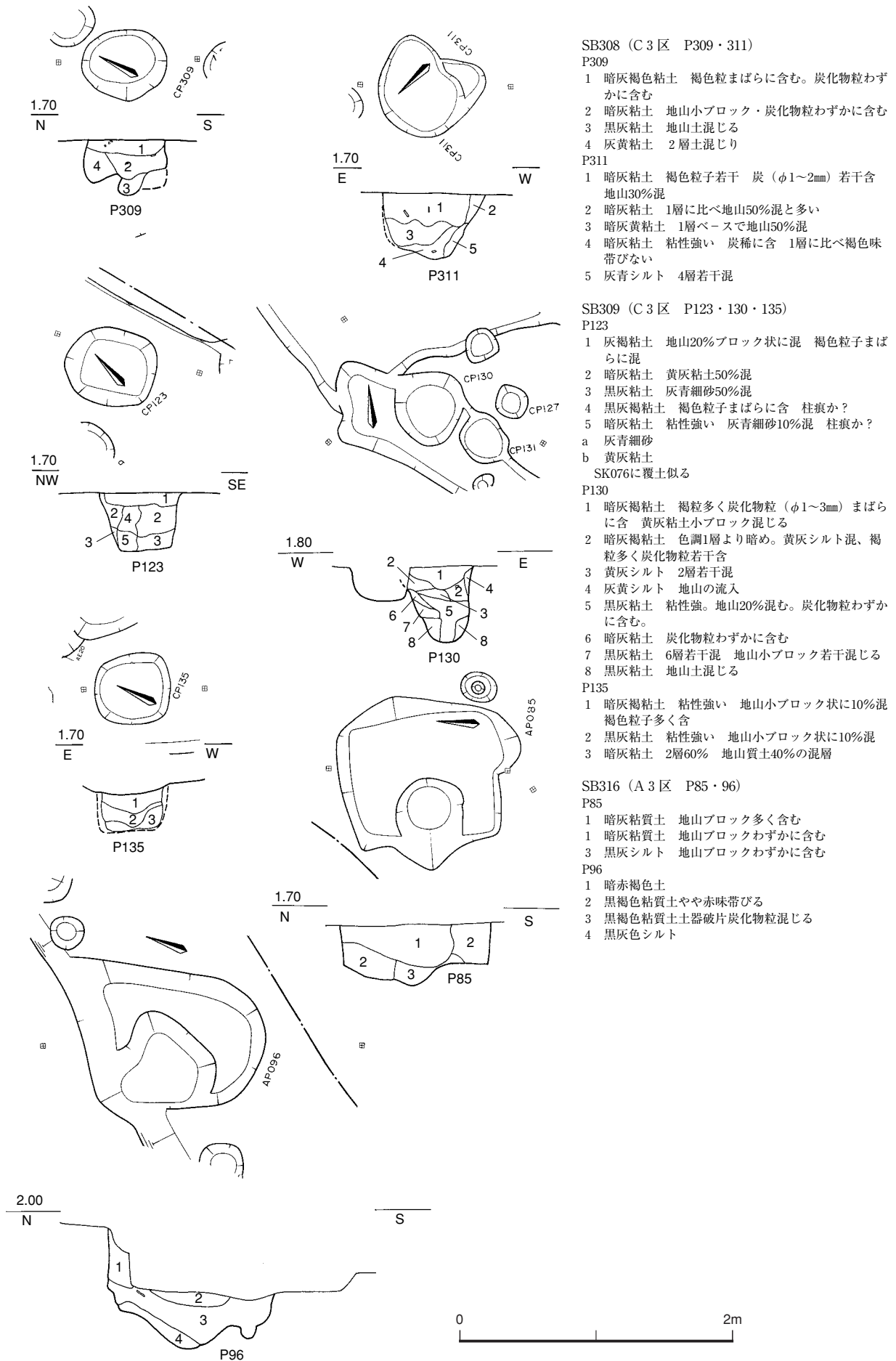
SB315 (S1区)

SB316 (A3区)

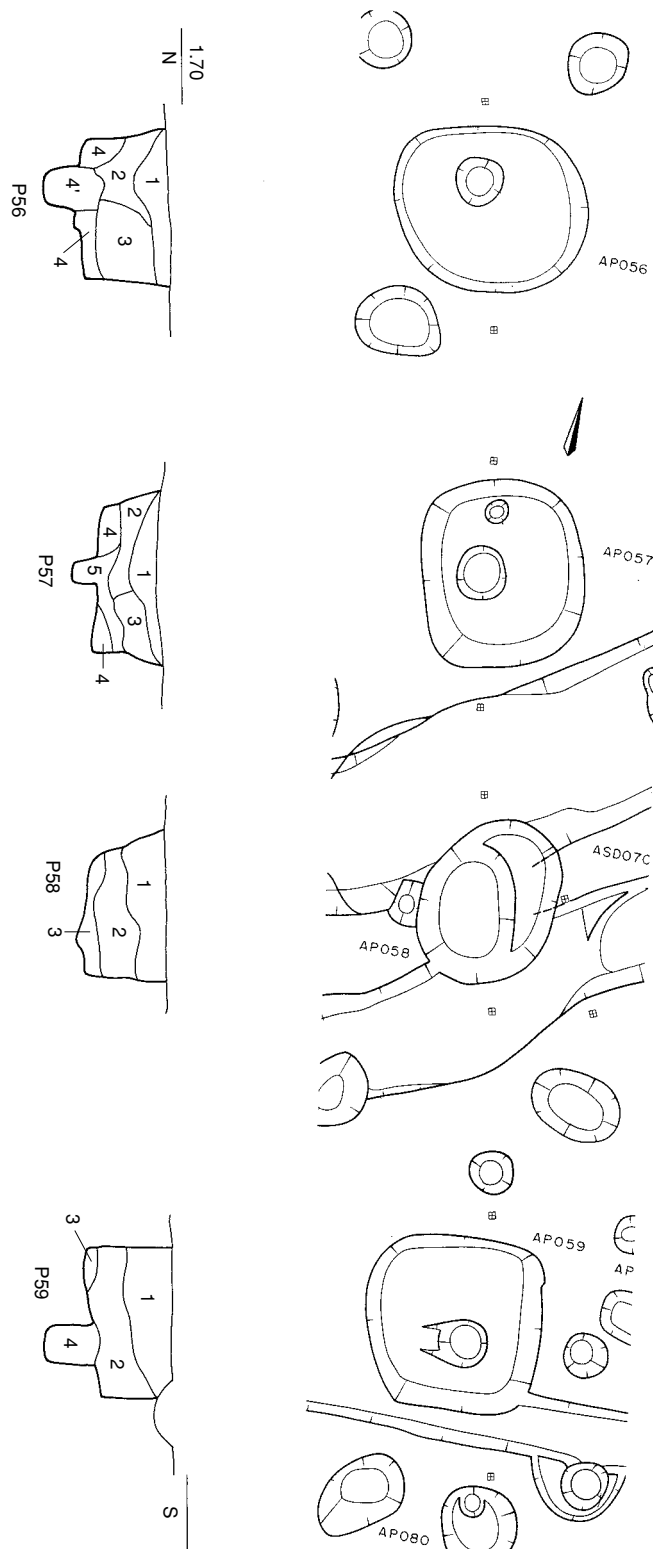


SB317 (A3区)

第15図 古代遺構図14 (1/100)



第16図 古代遺構図15 (1/40)



SB316東桁 (A3区 P56~59)

P056

- 1 暗(灰)赤褐色土 黒色粒含む
- 2 暗(灰)赤褐色土 粘性あり1層より灰色み強い
- 3 暗(灰)赤褐色土 2層より灰黒がかる。土器細片含む
- 4 黒灰色シルト
- 4' 粘性強

P057

- 1 P56-1層に同
- 2 P56-2層に同
- 3 P56-3層に同?
- 4 黄灰色地山ブロックを含む 5層土
- 5 P56-4層に同

P058

- 1 P56-1層に同
- 2 P56-2層に同
- 3 青灰色地山中に黒灰色シルト混じり

P059

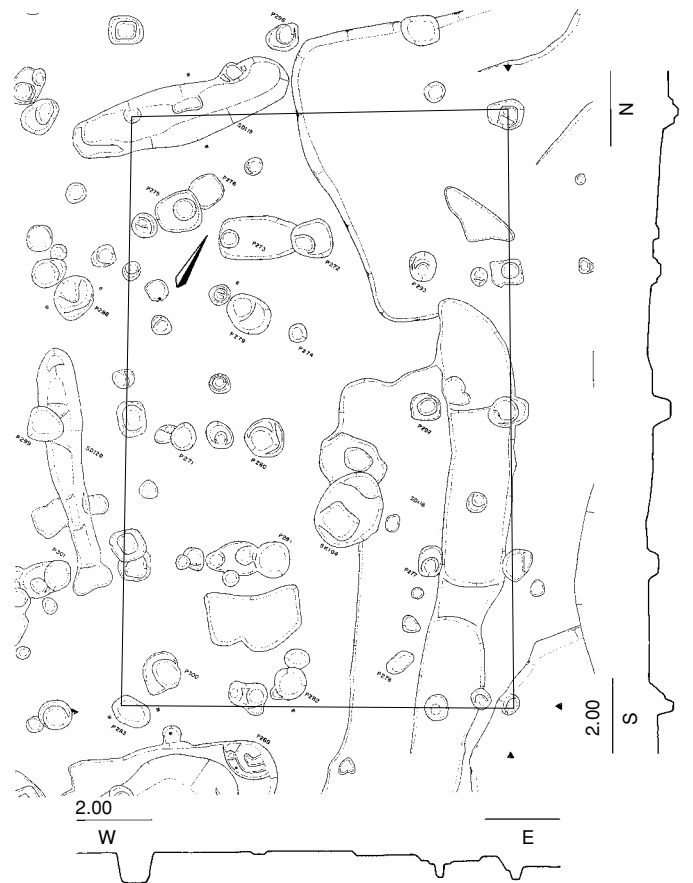
- 1 P56-1層に同
- 2 P56-2層に同
- 3 黄灰色地山中に黒灰シルト混じり
- 4 P56-4層に同

SB16 東桁行

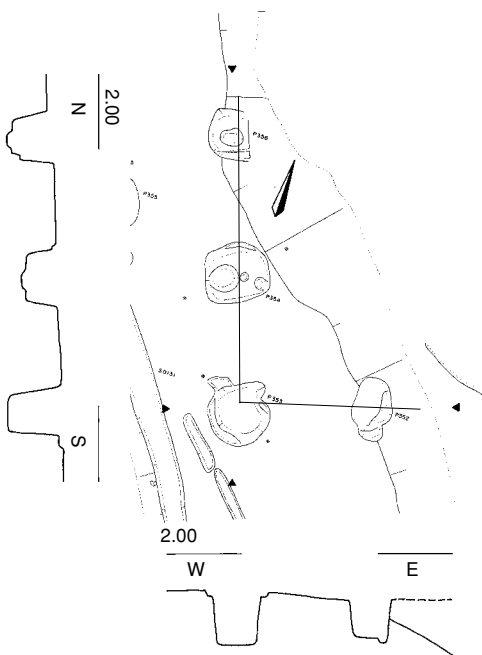
第17図 古代遺構図16 (1/40)



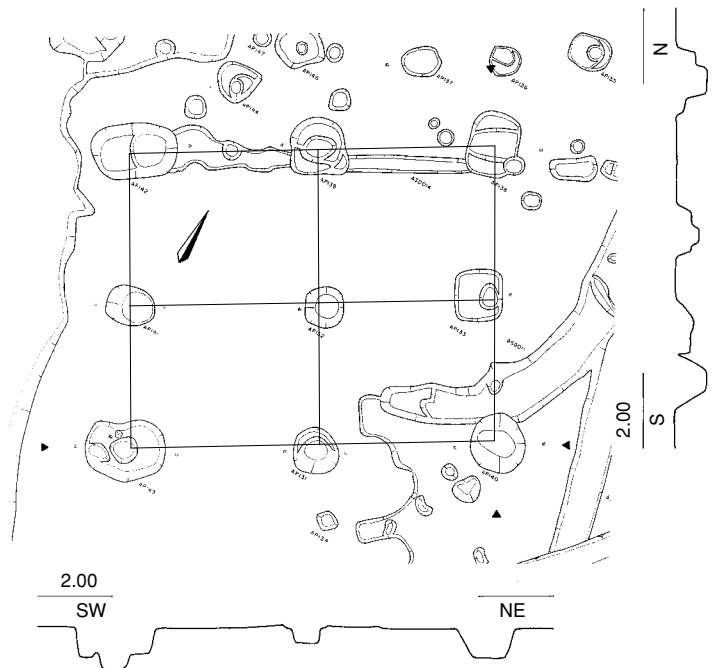
SB318 (Q2区)



SB319 (Q2区)



SB320 (Q2区)

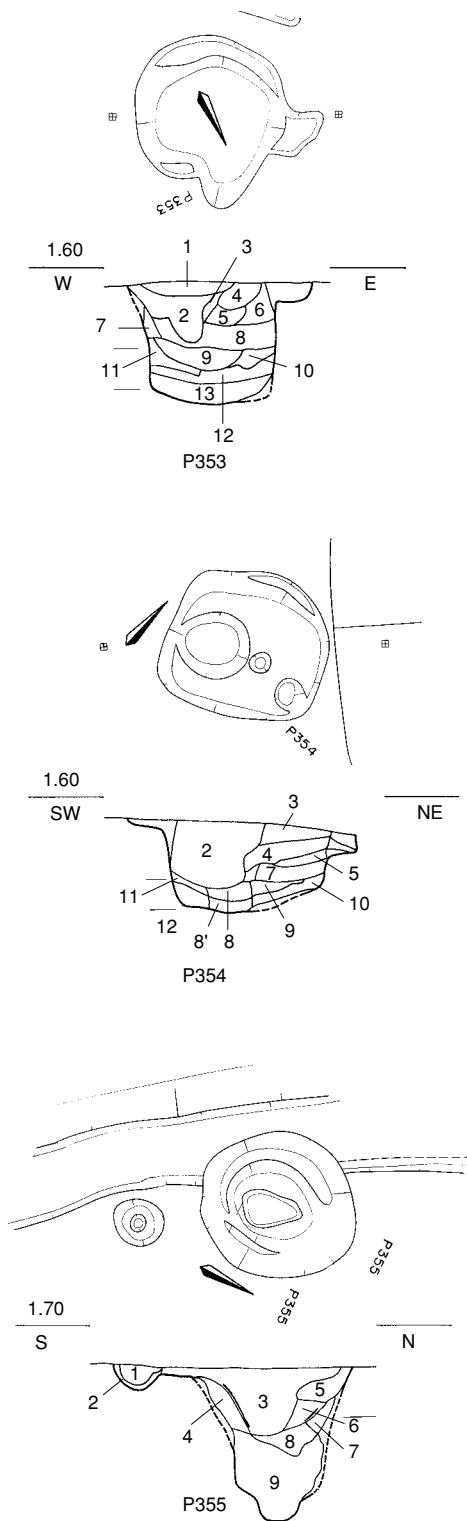


SB321 (Q2区)



第18図 古代遺構図17 (1/100)

第2節 掘立柱建物跡



SB320 (P353~355)

P353

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土 1層より灰色弱い
- 3 暗灰褐色粘質土 黄色土ブロック混じる
- 4 黄色地山ブロック塊
- 5 濁暗褐色粘質土 黄色土ブロック少量混じる
- 6 濁暗灰褐色粘質土 灰色強く淡い色調、黄色土帯状に混じる
- 7 濁黄色土 暗褐色土少し混じる
- 8 暗灰褐色粘質土 2層より灰色弱い、黄色土ブロックまばらに混じる
- 9 暗灰褐色粘質土 8層より黄色土ブロック多く混じる
- 10 濁黄色土 暗褐色土ブロック塊混じる
- 11 濁黄色砂質土 少し灰色の強い青灰色土と半々くらいか、暗褐色粘質土も微量混じる。全体的に粘いが砂気がある
- 12 濁暗灰褐色土 黄色土と灰色の強い青灰色土が混じる、砂気ある
- 13 濁暗灰色砂質土 少し粘る

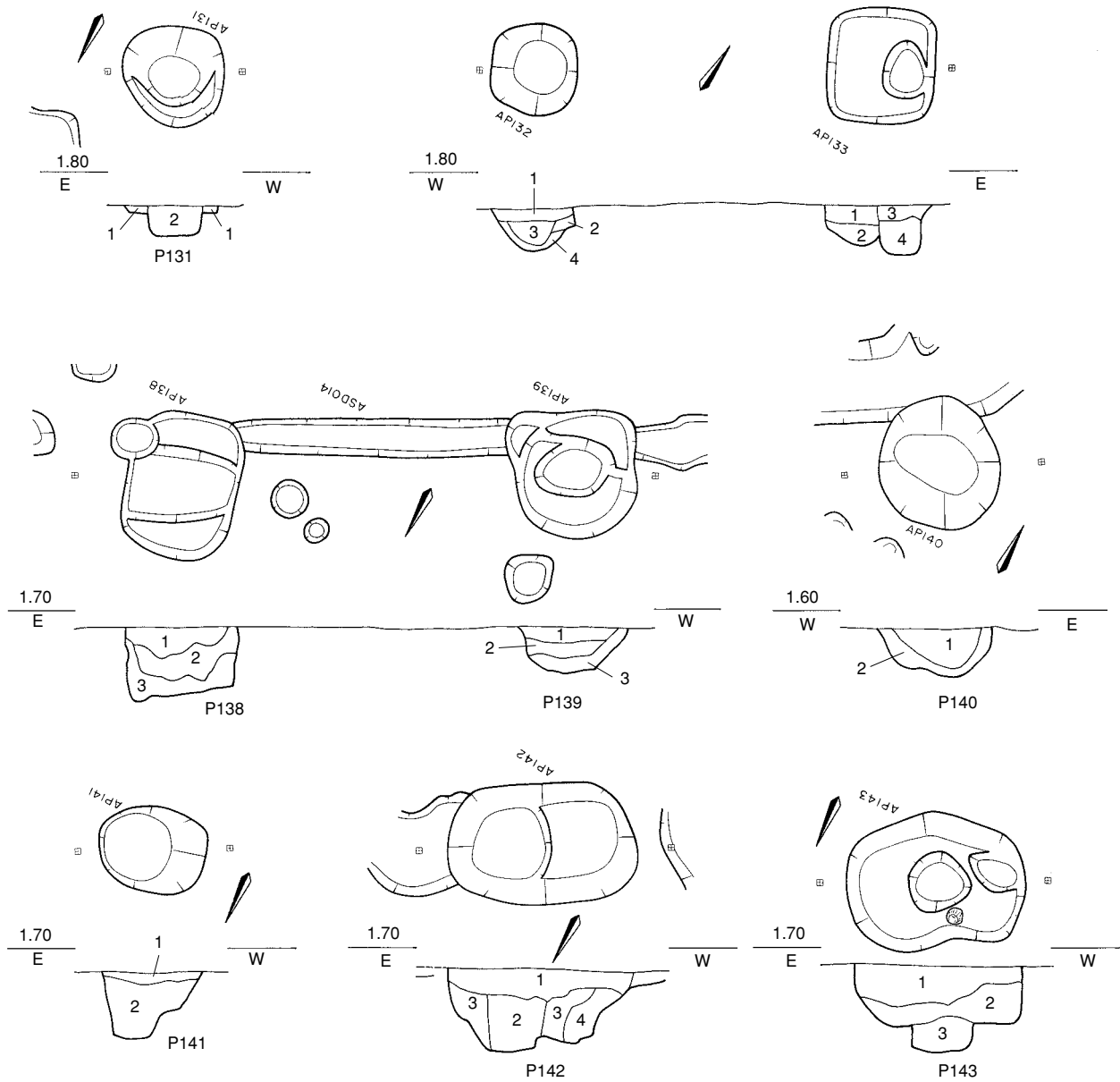
P354

- 1 濁褐色土 地山の汚れみtain
- 2 暗褐灰色粘質土 炭化物粒少量含む
- 3 暗褐灰色粘質土 2層より灰色弱い
- 4 暗褐灰色粘質土 黄色土ブロック少し混じる
- 5 濁暗褐灰色粘質土 黄色土ブロック多量混じる
- 6 濁暗褐色粘質土 5層より小さい黄色土ブロックが多く混じる
- 7 暗褐灰色粘質土
- 8 暗灰色粘質土 地山ブロック微量混じる
- 8' 暗灰色粘質土
- 9 灰色粘質土
- 10 濁黄色土 灰色砂多く混じる
- 11 濁灰色粘質土 黄色土ブロック・暗褐色土ブロック少し混じる、砂気ある
- 12 濁黄灰色土 暗褐色土・灰色砂混じる、全体的に砂気ある

P355

- 1 褐灰色土 炭化物粒含む
- 2 濁褐灰色土 黄色土粒子まばらに含む
- 3 暗灰褐色粘質土 4層との境で帯状に炭が堆積
- 4 暗灰褐色粘質土 炭化物粒含む
- 5 暗灰褐色粘質土 4層より明るい、炭化物粒含む
- 6 暗灰褐色粘質土 7層との境で帯状に炭が堆積
- 7 暗灰褐色土 砂気ある、色調的には6層と大差ない
- 8 暗灰褐色粘質土 9層との境で炭層が帯状に堆積、炭塊もあり
- 9 暗灰褐色粘質土 色調的には8層と大差ない、部分的に炭塊を含む

第19図 古代遺構図18 (1/40)



SB321 (P131~133・138~143)

P131

- 1 灰褐色粘質土
- 2 灰色粘質土

P132

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭化物粒少し入る
- 2 暗灰褐色粘質土
- 3 暗灰褐色粘質土 2より明るい
- 4 灰色粘質土

P133

- 1 灰褐色粘質土 土器炭化物粒入る
- 2 暗灰褐色粘質土
- 3 灰褐色粘質土 1より明るく土器・炭化物粒少ない
- 4 灰色粘質土

P138・P139

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭混じる
- 2 暗灰粘質土 炭地山ブロック混じる
- 3 暗灰粘質土 2より暗く炭土器混じる

P140

- 1 暗灰褐色粘質土 土器・炭化物粒少量入る
- 2 暗灰粘土 柔らかい

P141

- 1 灰褐色粘質土
- 2 灰褐色粘質土 1より暗く地山土がブロック状に入る

P142

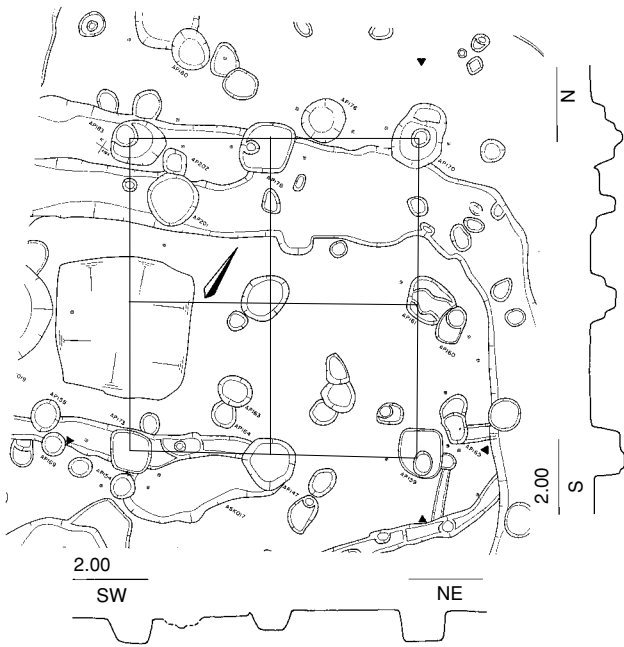
- 1 明灰褐色粘質土 土器・炭少量入る
- 2 暗灰褐色粘質土 地山ブロック入る
- 3 暗灰褐色粘質土 地山ブロック多く入る
- 4 暗灰褐色粘質土

P143

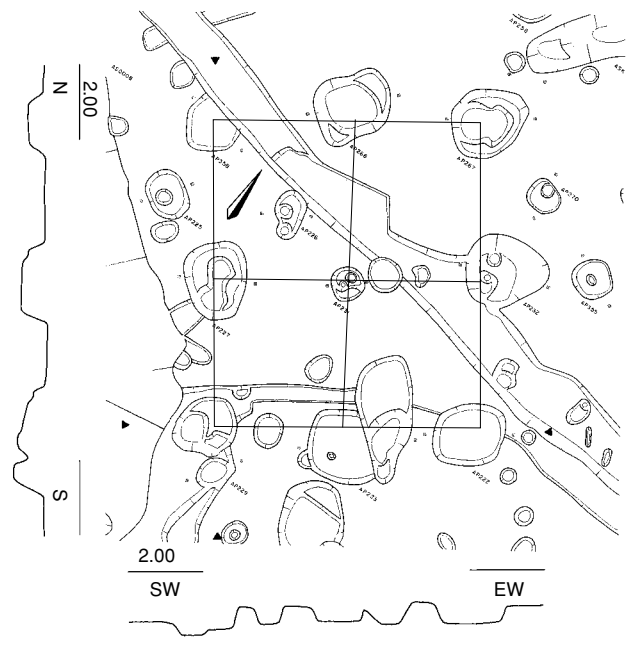
- 1 明灰褐色粘質土 土器・炭少量入る
- 2 灰褐色粘質土 地山ブロック入る
- 3 暗灰褐色粘質土 地山ブロック入る

第20図 古代遺構図19 (1/40)

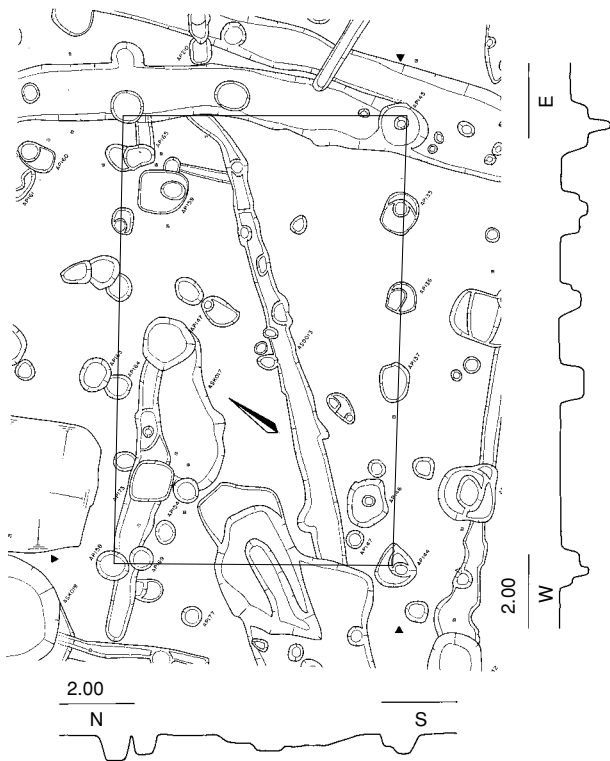
第2節 掘立柱建物跡



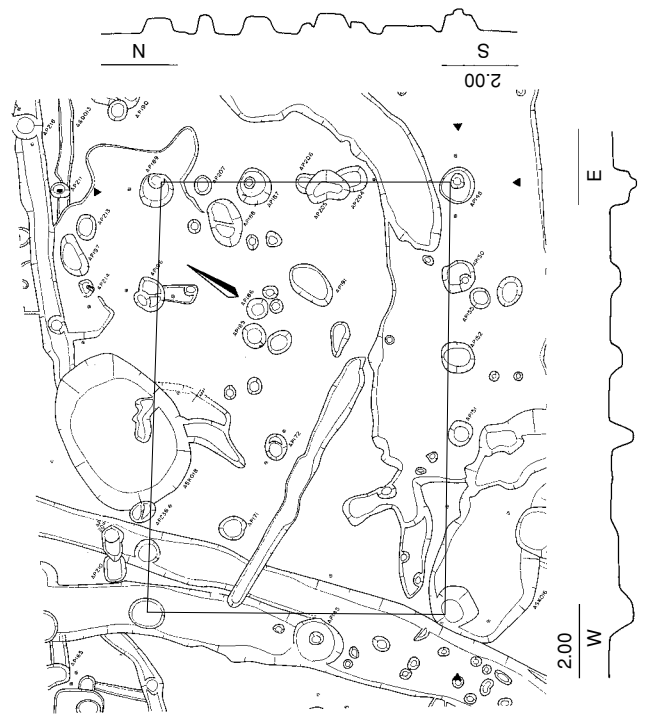
SB322 (A2区)



SB323 (A2区)



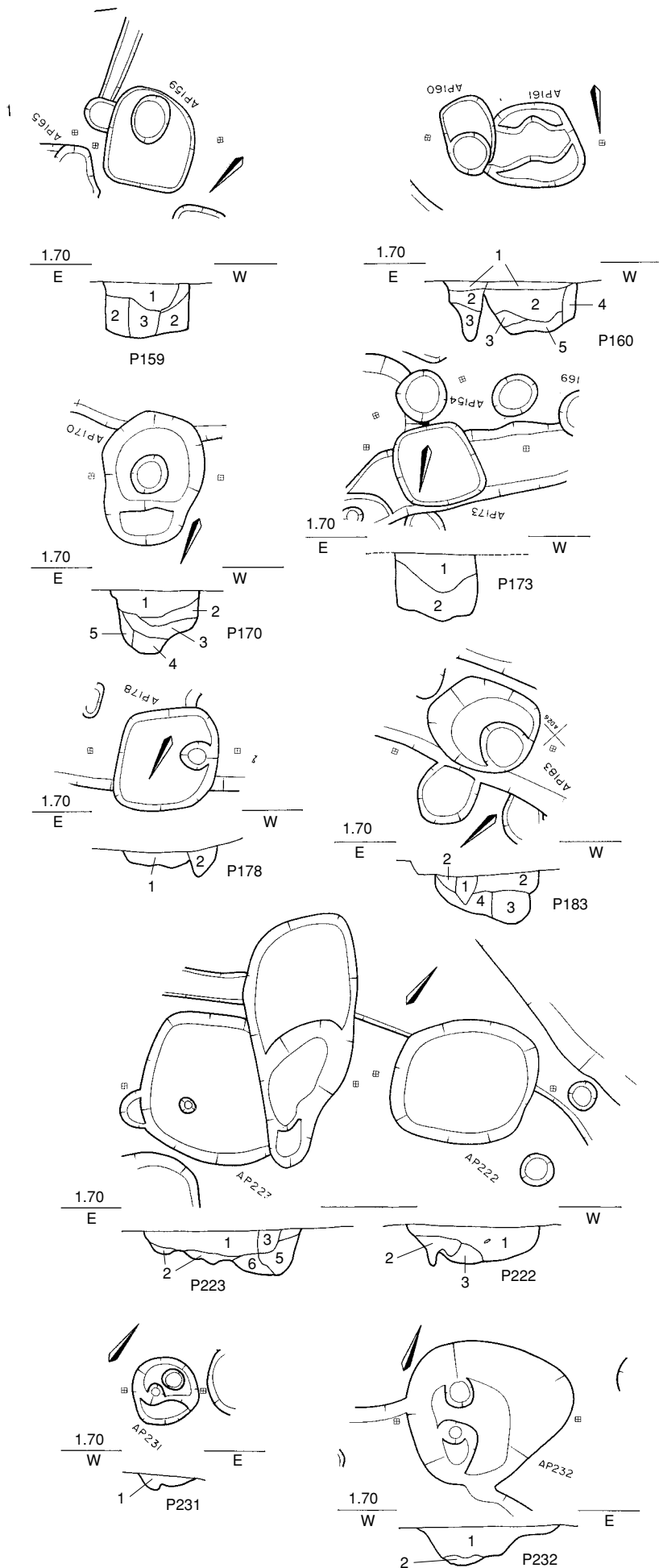
SB324 (A2区)



SB325 (A2区)



第21図 古代遺構図20 (1/100)



SB322 (P159~161・170・173・178・183)

P159

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭少量入る
- 2 暗灰色粘質土 土器・炭少量入る
- 3 暗灰色粘質土 2より明るく 土器・炭少量入る

P160・161

- 1 暗灰粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土 土器・炭化物粒入る
- 3 暗灰褐色粘質土 土器・炭化物粒少ない
- 4 オリーブ灰色砂質土
- 5 暗灰粘質土

P170

- 1 暗灰褐色粘質土 土器・炭化物粒少量入る
- 2 暗灰褐色粘質土 土器・炭化物粒やや多い
- 3 暗灰褐色粘質土 土器・炭化物粒が多く入る
- 4 暗灰粘質土 柱根
- 5 オリーブ灰色砂質土

P173

- 1 暗灰色粘質土 地山土がまだら状に入り 土器片・炭混じる
- 2 暗灰色粘質土 1より暗く 土器片・炭混じる

P178

- 1 暗灰粘質土
- 2 オリーブ灰褐色粘質土 柱跡

P183

- 1 灰粘土 はざ杭跡か?
- 2 暗灰褐色粘質土 炭化物粒・土器入る
- 3 暗灰粘質土 柱根跡 柔かい
- 4 暗灰褐色粘質土 2より暗い

SB323 (P222・223・231・232)

P222

- 1 暗灰褐色粘質土 土器・炭含む
- 2 暗灰褐色粘質土に地山土混じる
- 3 暗灰褐色粘質土に地山土混じる 2より地山土多い

P223

- 1 暗灰褐色粘質土 土器・炭含む
- 2 暗灰褐色粘質土に地山土混じる
- 3 暗灰褐色粘質土 1より暗い
- 4 暗灰褐色粘質土 地山土混じる
- 5 暗灰褐色粘質土 4よりやや暗い
- 6 地山土に暗灰褐色粘質土が少量混じる

P231

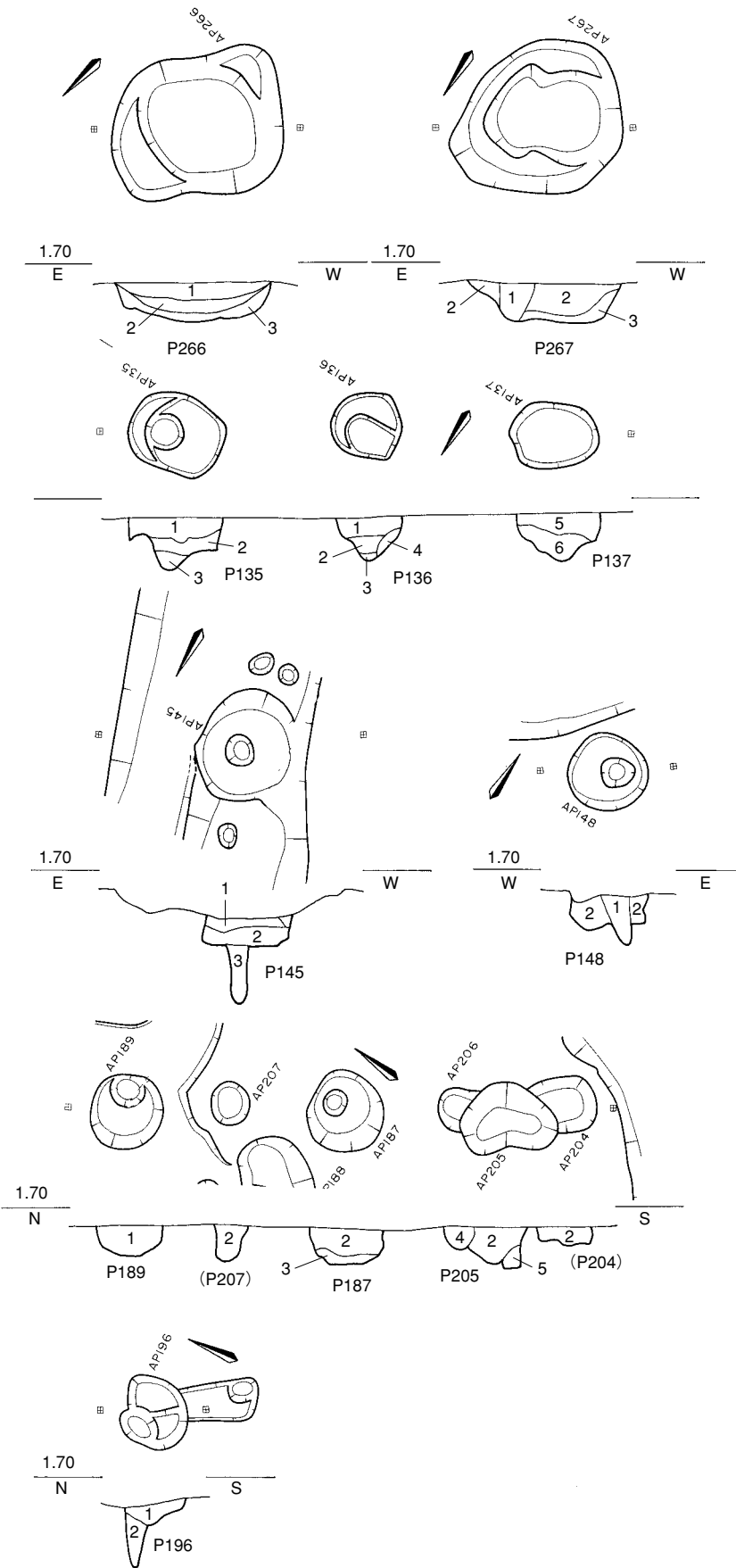
- 1 灰褐色粘質土 土器・炭混じる

P232

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭含む
- 2 灰褐色粘質土と地山土の混合土

第22図 古代遺構図21 (1/40)

第2節 掘立柱建物跡



SB323 (P266・267)

P266

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭化物粒含む
- 2 オリーブ褐色土 地山土に近似
- 3 暗灰粘質土

P267

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭化物粒含む
- 2 灰褐色粘質土 土器・炭化物粒少なく 1より暗い
- 3 暗灰粘質土

SB324 (P135～137・145)

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭少量入る
- 2 暗灰粘質土 土器・炭少量入る
- 3 暗灰粘質土 2より明るい
- 4 2と地山ブロックの混合層
- 5 1と地山ブロックの混合層
- 6 2と地山ブロックの混合層

SB325 (P189・187・205・196)

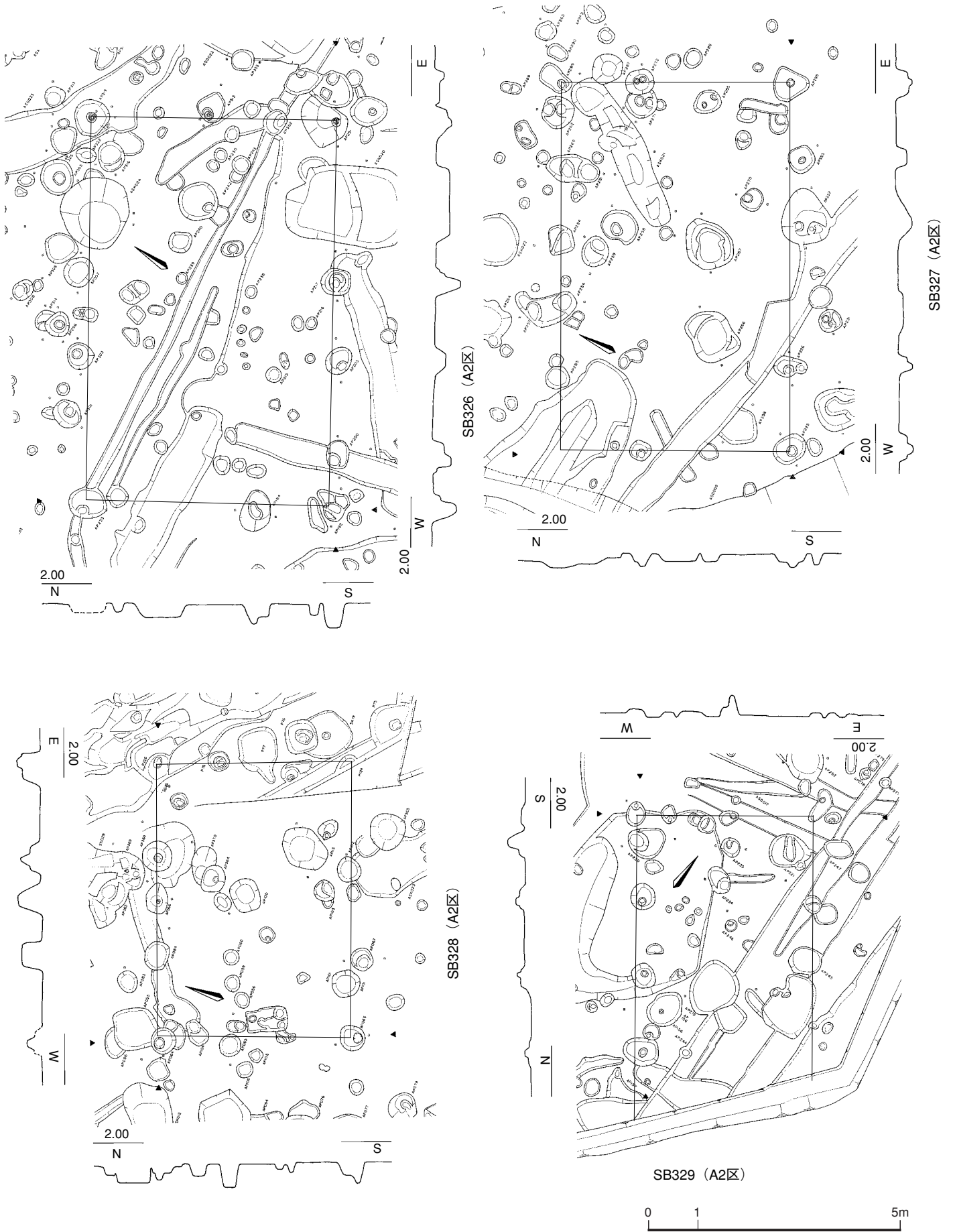
P189・187・205

- 1 灰褐色粘質土 まだら状に地山土が入る
- 2 灰褐色粘質土
- 3 暗灰粘質土
- 4 灰色砂質土
- 5 地山土に少量2層が混じる

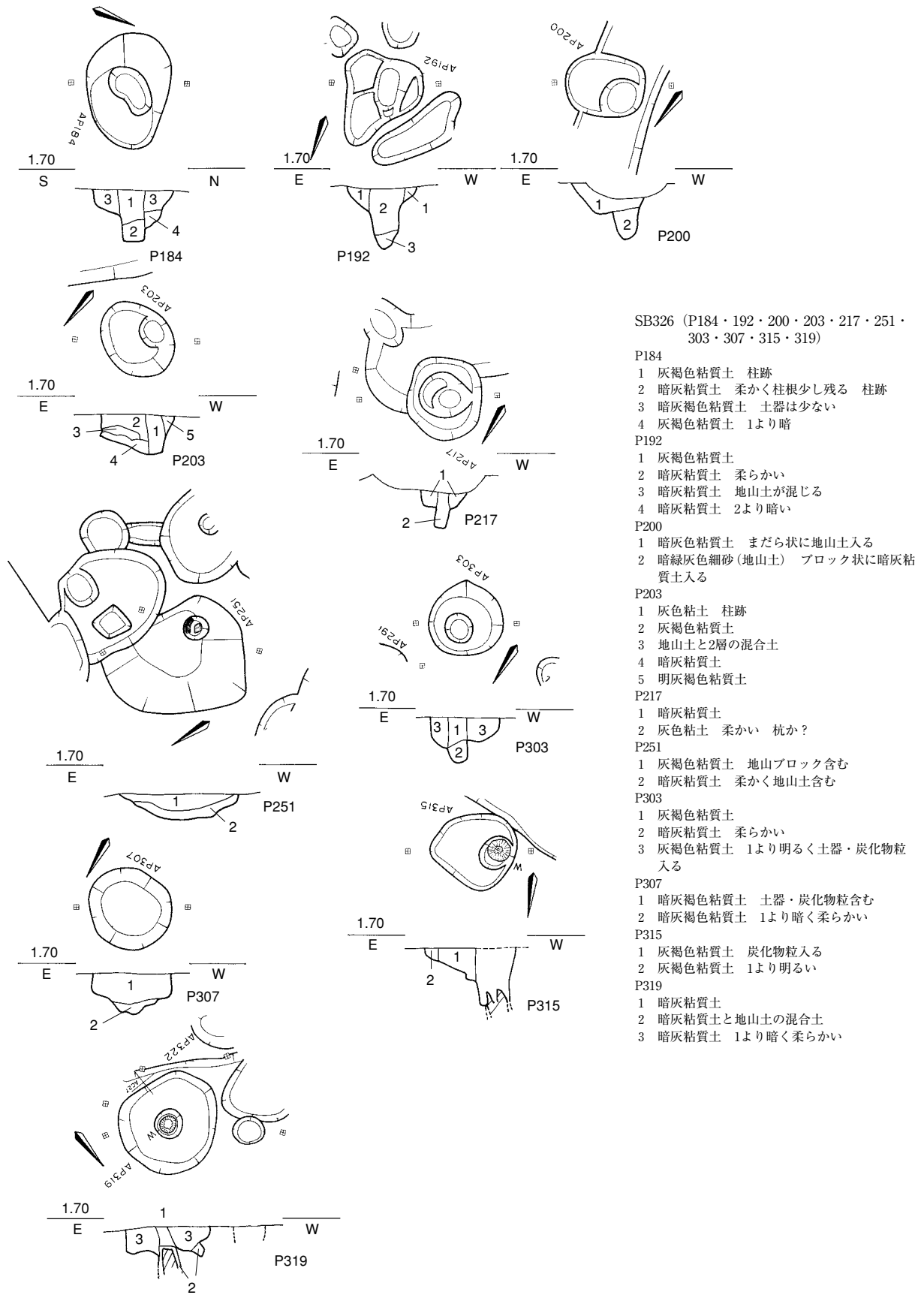
P196

- 1 暗灰色粘質土 土器・炭化物粒少量入る
- 2 暗灰粘質土 柔かく 土器・炭化物粒なし?

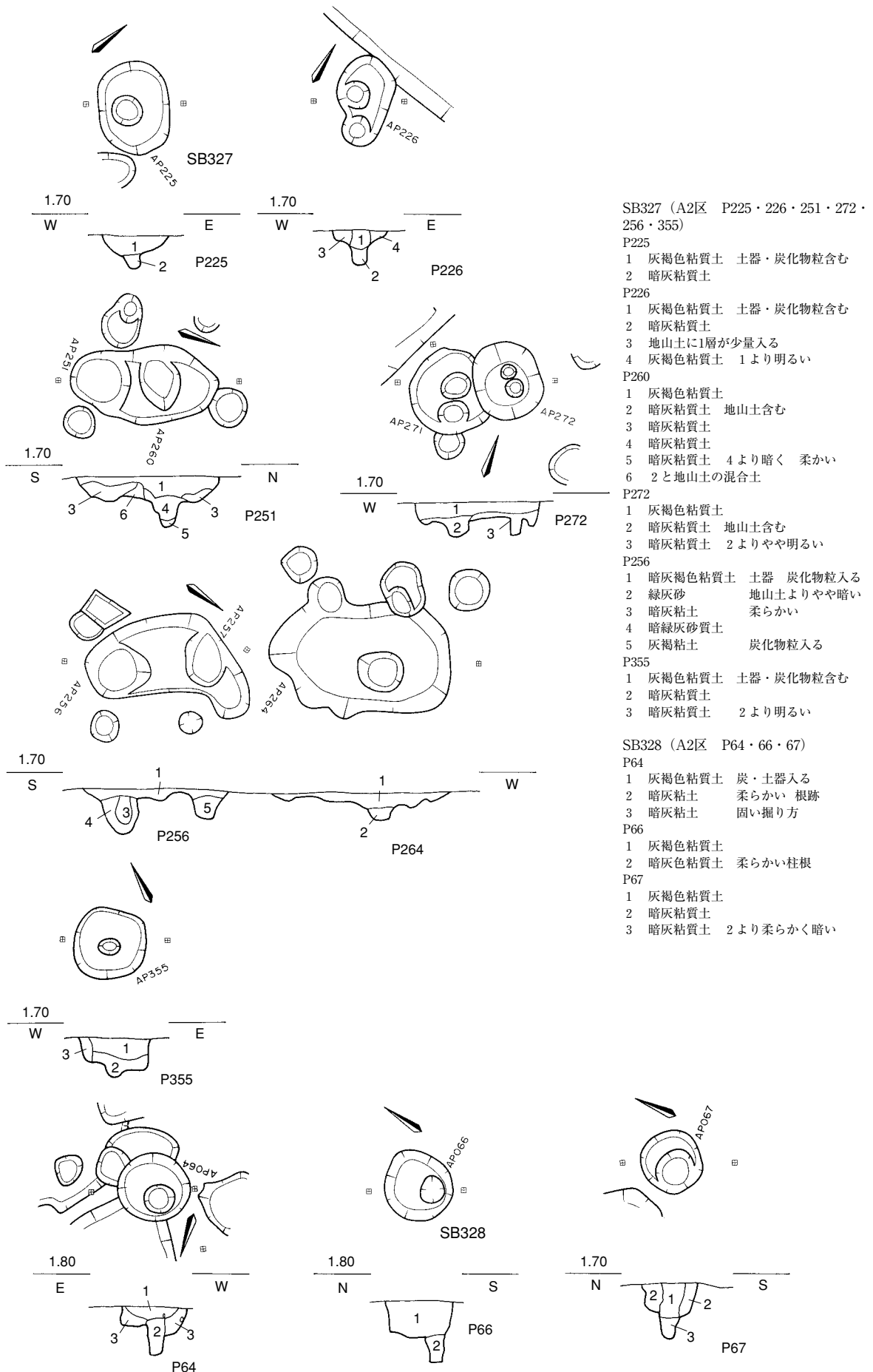
第23図 古代遺構図22 (1/40)



第24図 古代遺構図23 (1/100)

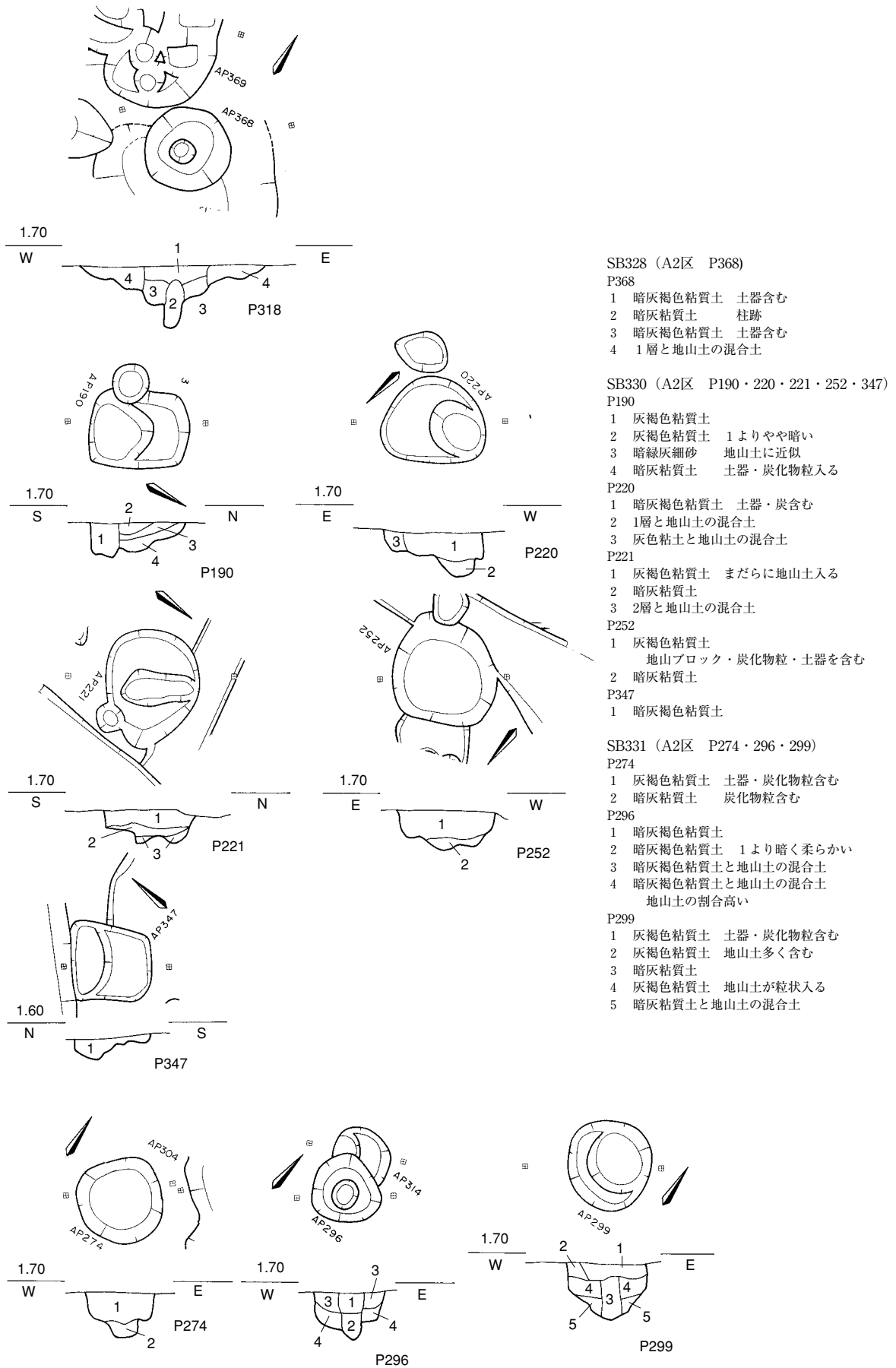


第25図 古代遺構図24 (1/40)

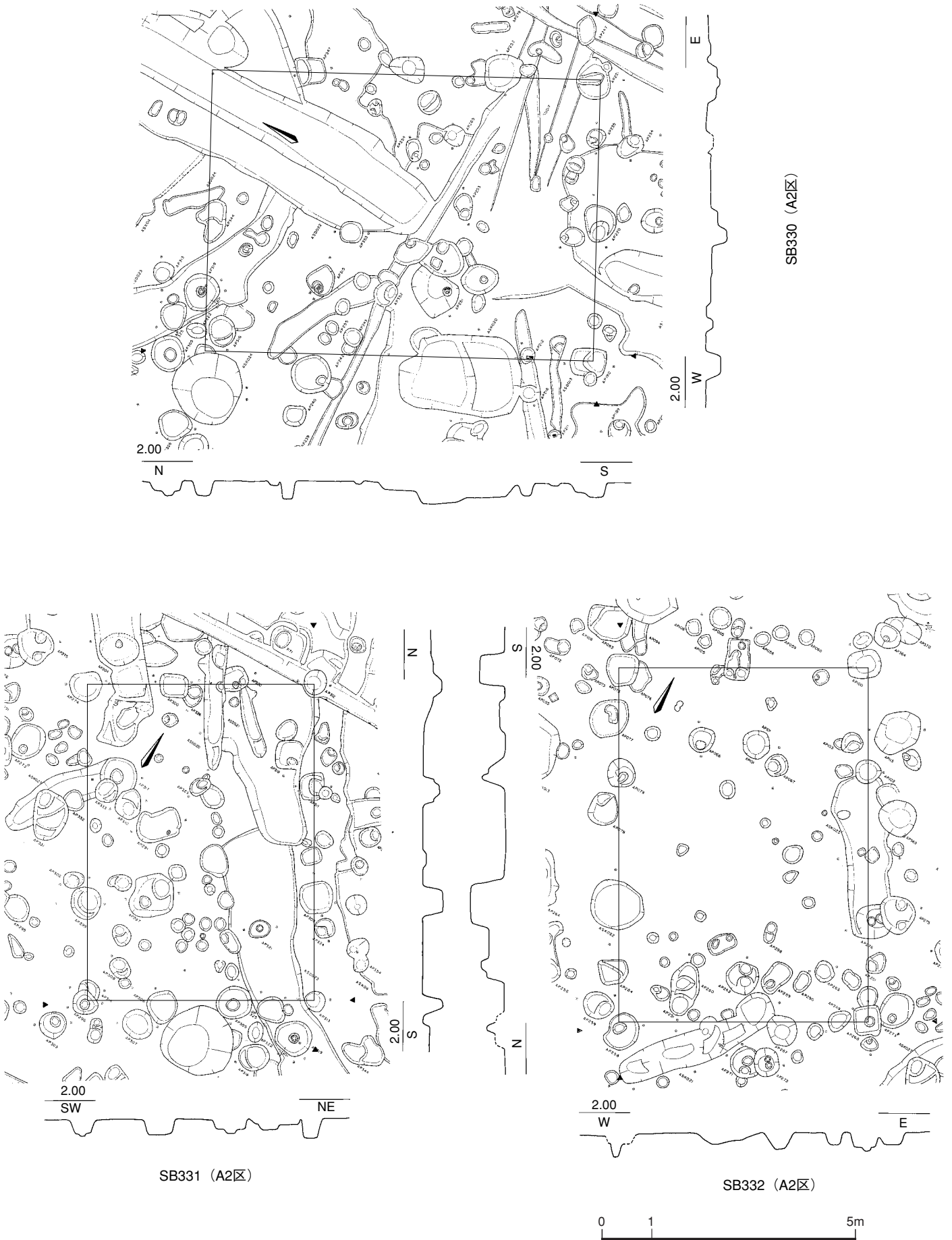


第26図 古代遺構図25 (1/40)

第2節 掘立柱建物跡

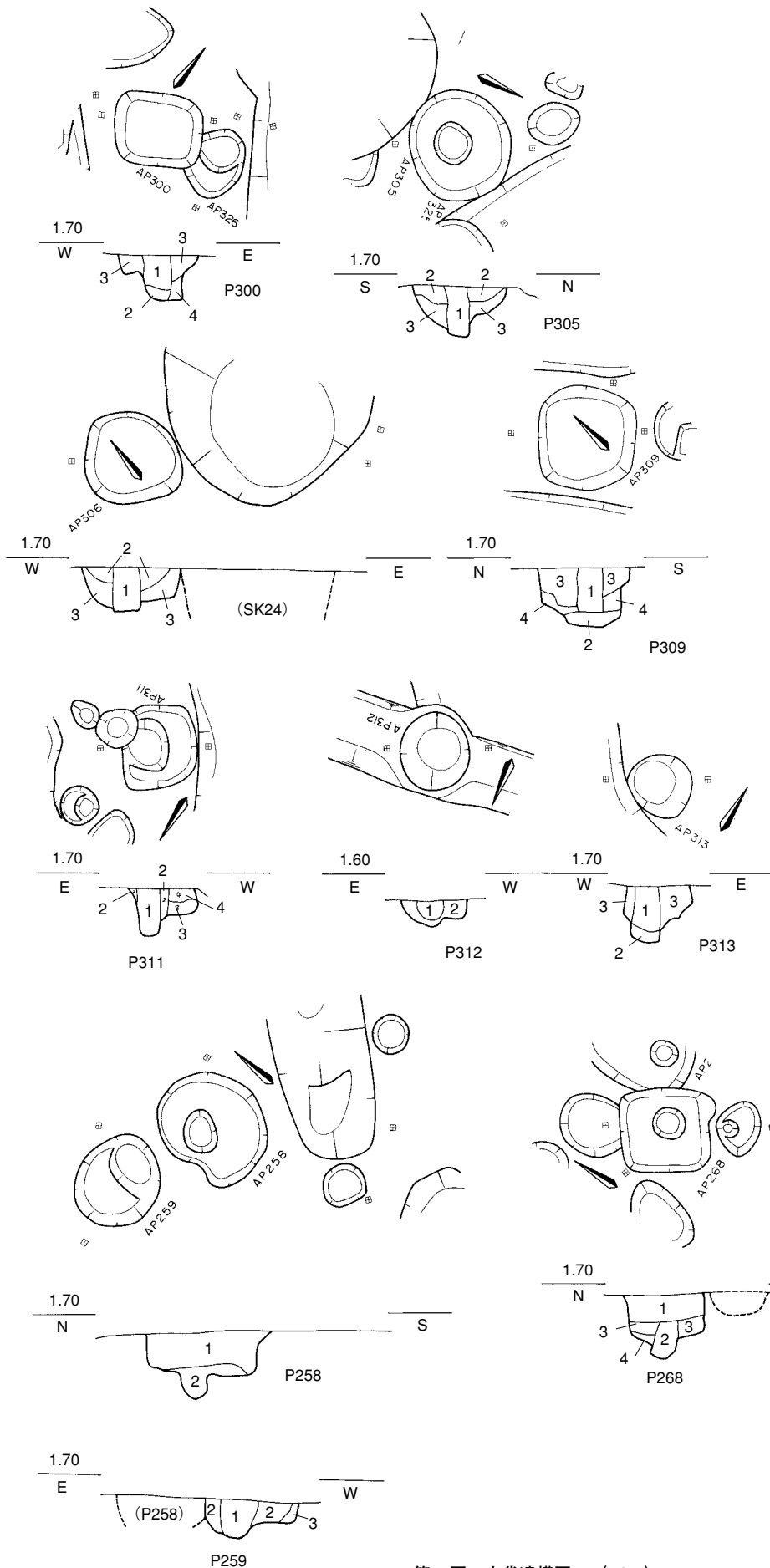


第27図 古代遺構図26 (1/40)



第28図 古代遺構図27 (1/100)

第2節 掘立柱建物跡



SB331 (A2区 P300・305・306・309・311~313)

P300

- 1 灰褐色粘質土
- 2 暗灰粘質土 柔らかく土器を含む
- 3 灰褐色粘質土と地山土との混合土
- 4 2と地山土の混合土

P305

- 1 暗灰褐色粘質土 土器少量含む
- 2 暗灰褐色粘質土
1より固く地山土少量含む
- 3 暗灰褐色粘質土 地山土が2より多い

P306

- 1 暗灰色粘質土 土器・炭化物粒含む
- 2 暗灰色粘質土
土器・炭化物粒含み 1より明るい
- 3 2と地山土の混合土

P309

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 暗灰粘質土と地山土の混合土
- 3 暗灰褐色粘質土 1よりやや明るい
- 4 3と地山土の混合土
地山土の割合高い

P311

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭化物粒含む
- 2 灰褐色粘質土 1より明るい
- 3 1と地山土の混合土
- 4 灰褐色粘質土 2より明るい

P312

- 1 暗灰粘質土
- 2 暗灰粘質土と地山土の混合土

P313

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 暗灰粘質土 柔らかい柱跡

SB332 (A2区 P258・268, SB333-P259)

P258

- 1 灰褐色粘質土 炭化物粒・土器混じる
- 2 暗灰粘質土 柔らかい

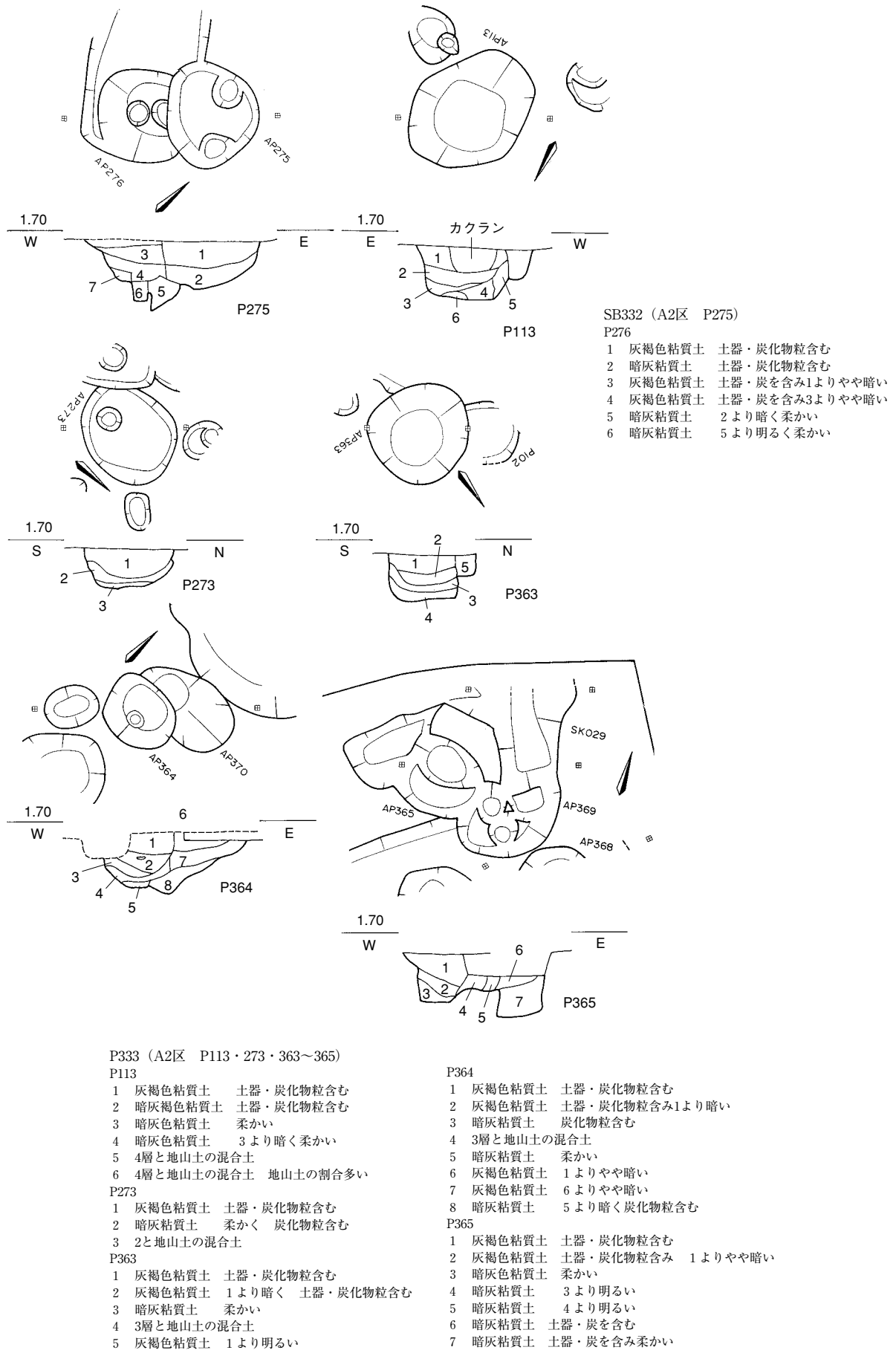
P268

- 1 灰褐色粘質土 土器・炭化物粒含む
- 2 暗灰褐色粘質土
土器・炭化物粒含み柔らかい
- 3 暗灰褐色粘質土 2より固く暗い
- 4 暗緑灰砂 地山土に近い

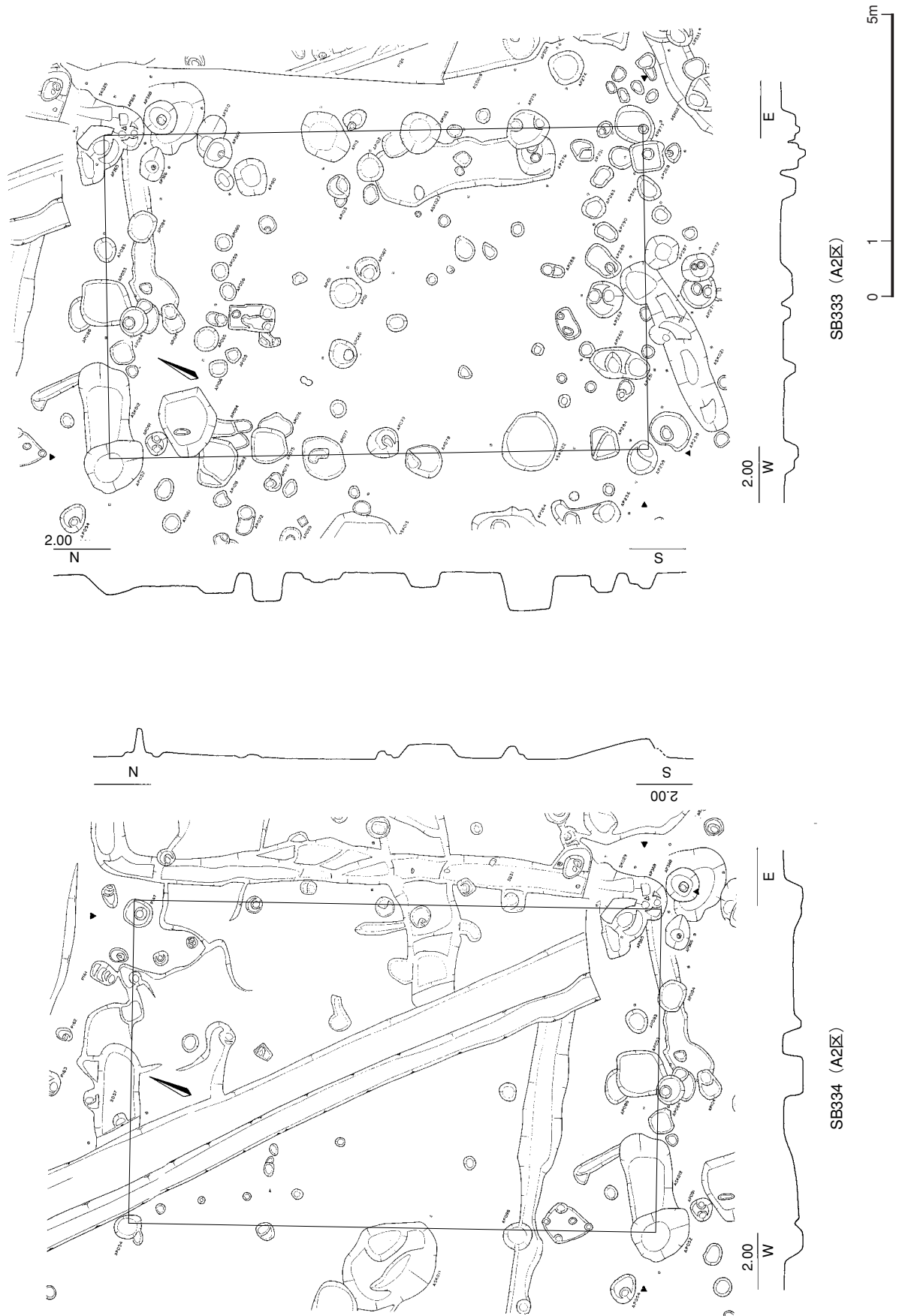
P259 (SB333)

- 1 灰褐色粘質土 炭・土器混じる
- 2 灰褐色粘質土
炭・土器混じる 1より暗い
- 3 暗緑灰砂 地山土よりやや暗い

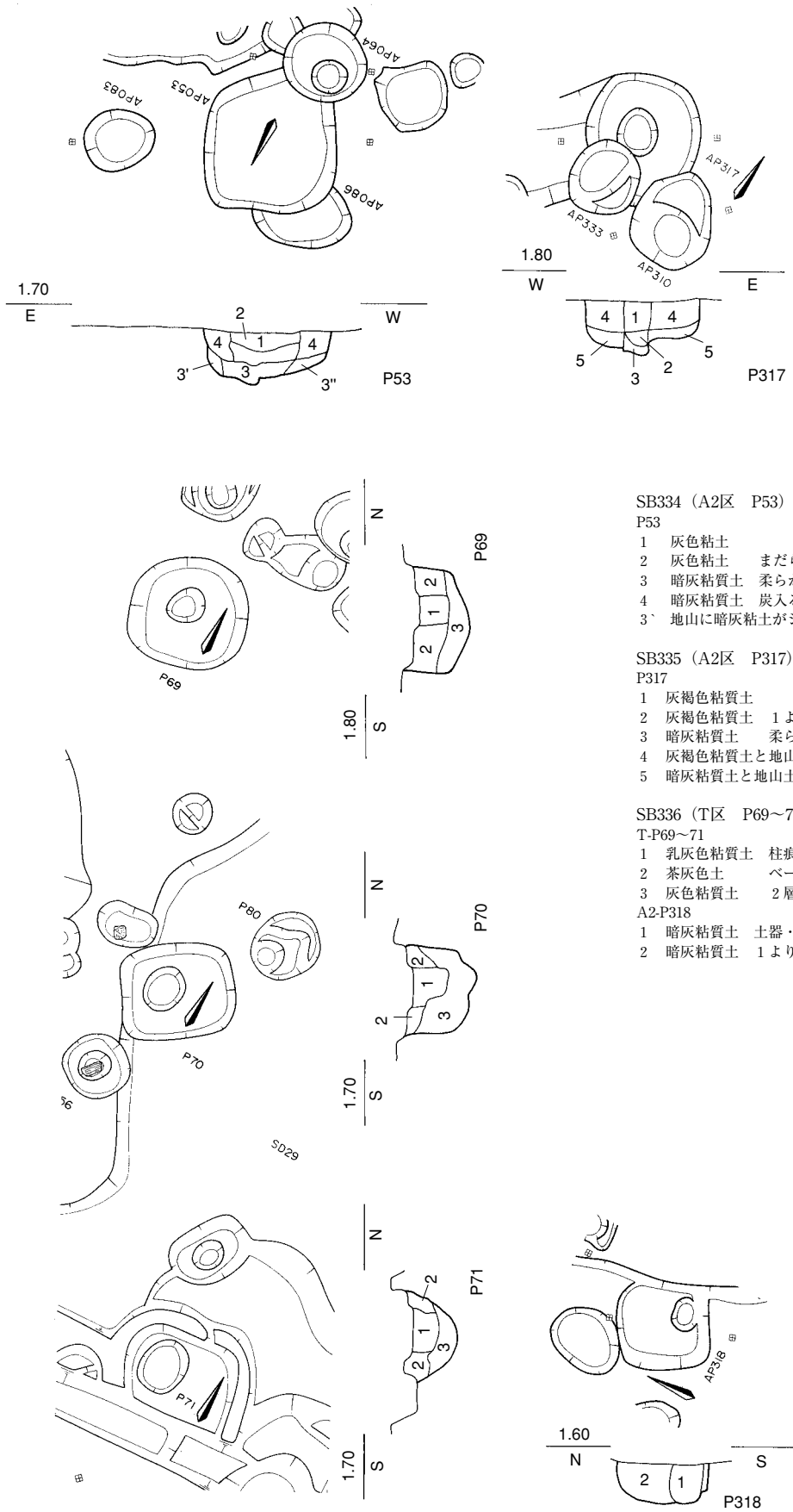
第29図 古代遺構図28 (1/40)



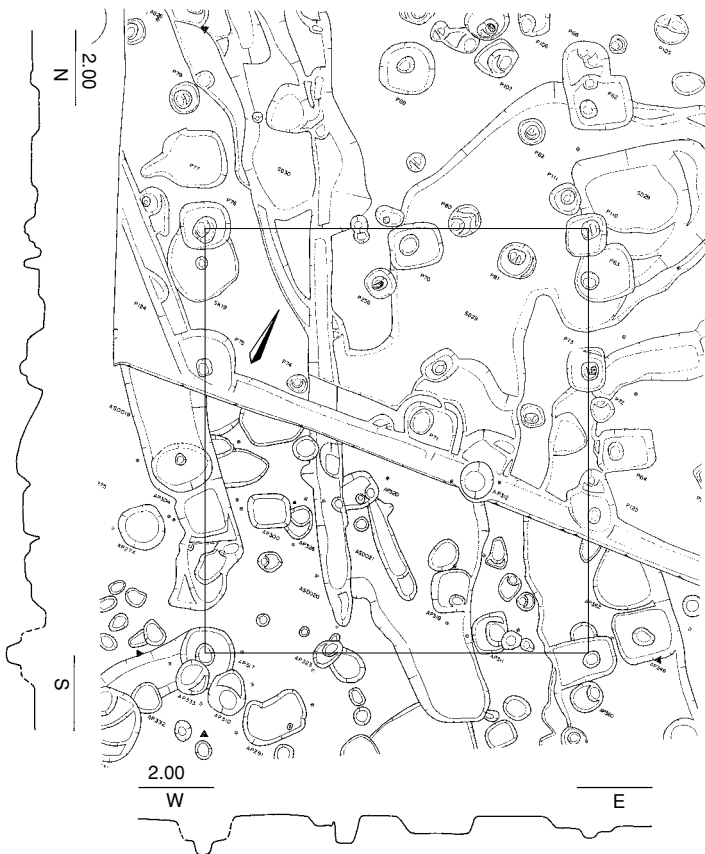
第30図 古代遺構図29 (1/40)



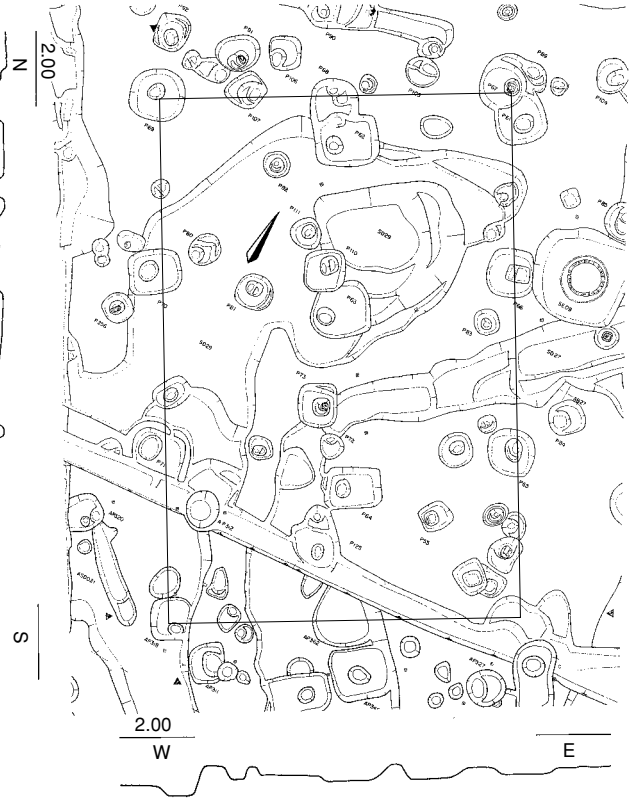
第31図 古代遺構図30 (1/100)



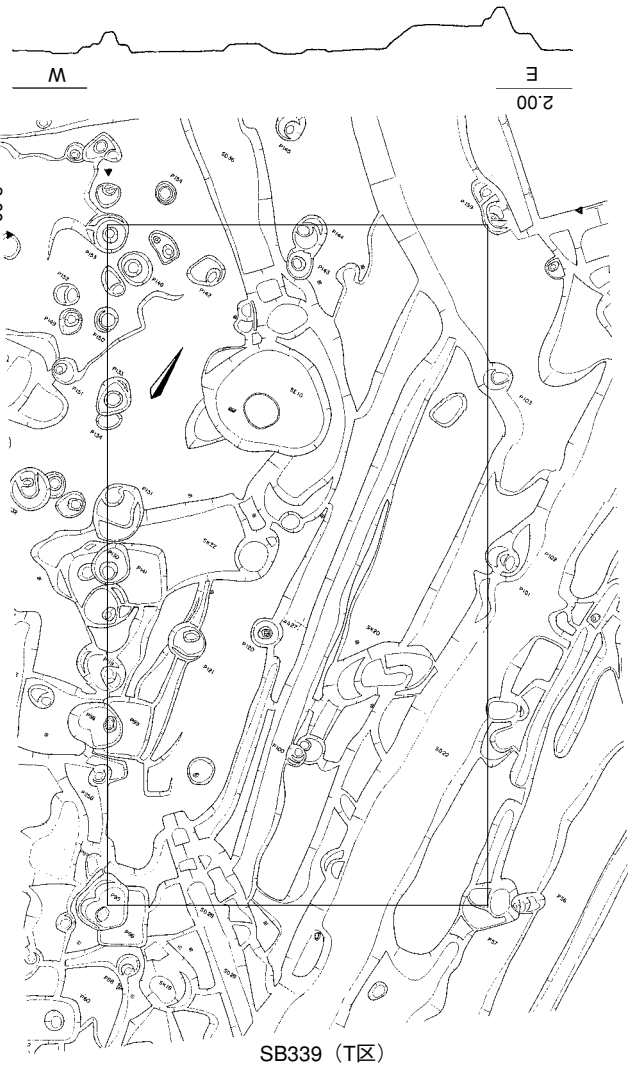
第32図 古代遺構図31 (1/40)



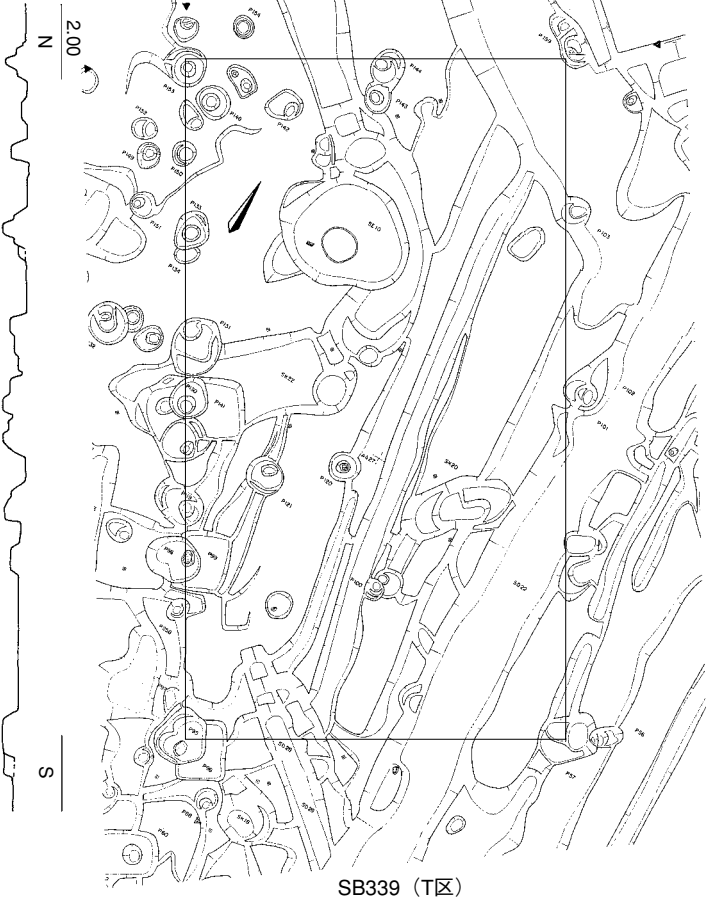
SB335 (A2区・T区)



SB336 (A2区・T区)

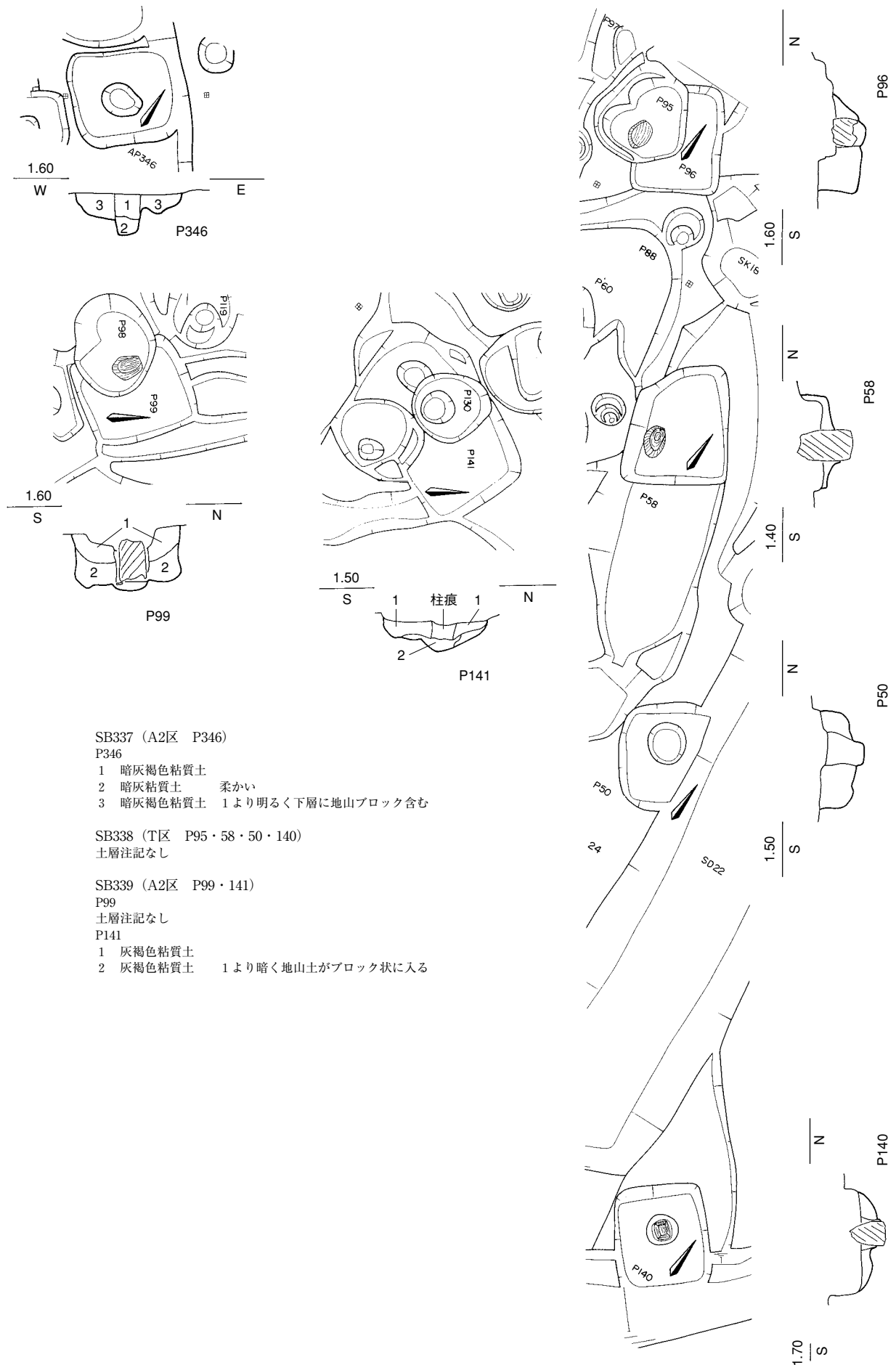


SB337 (A2区・T区)



SB339 (T区)

第33図 古代遺構図32 (1/100)

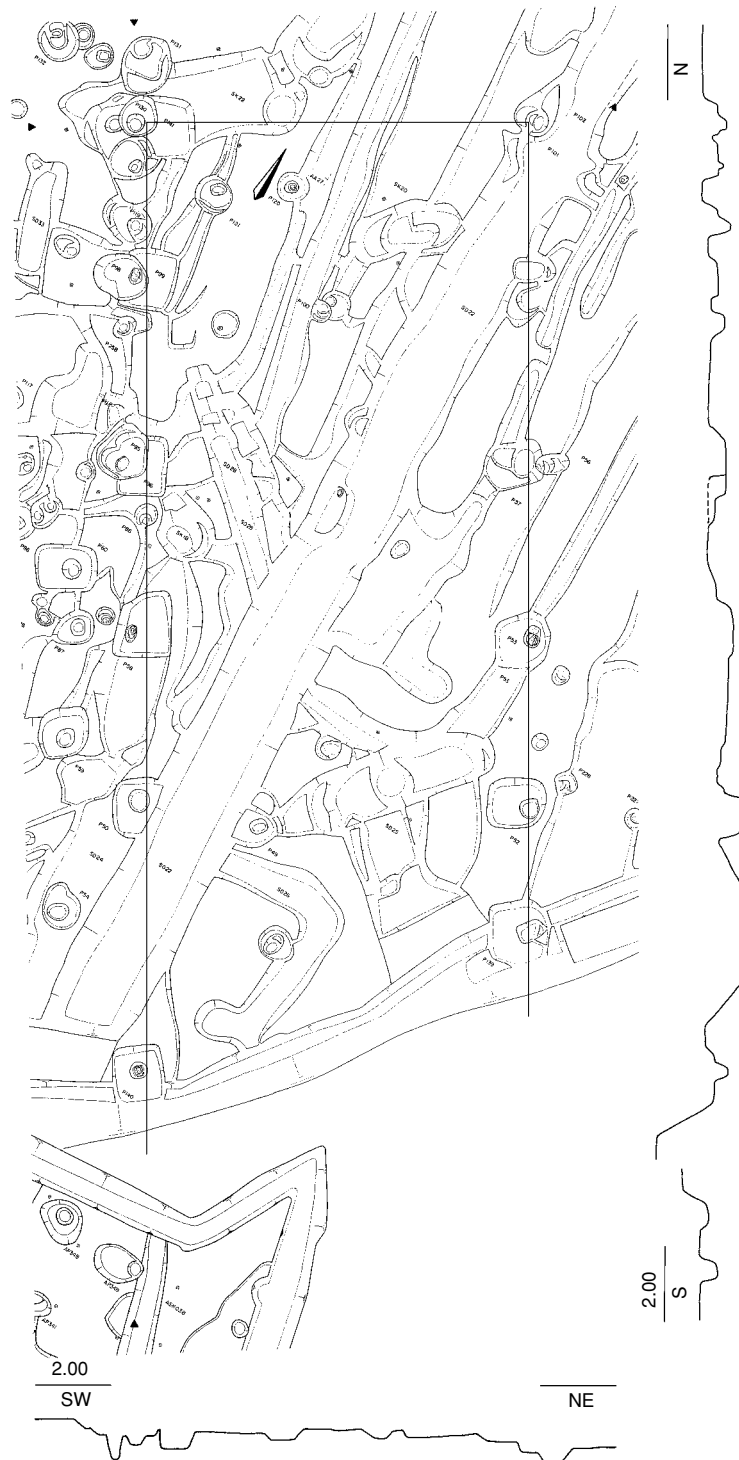


SB337 (A2区 P346)
 P346
 1 暗灰褐色粘質土
 2 暗灰粘質土 柔かい
 3 暗灰褐色粘質土 1より明るく下層に地山ブロック含む

SB338 (T区 P95・58・50・140)
 土層注記なし

SB339 (A2区 P99・141)
 P99
 土層注記なし
 P141
 1 灰褐色粘質土
 2 灰褐色粘質土 1より暗く地山土がブロック状に入る

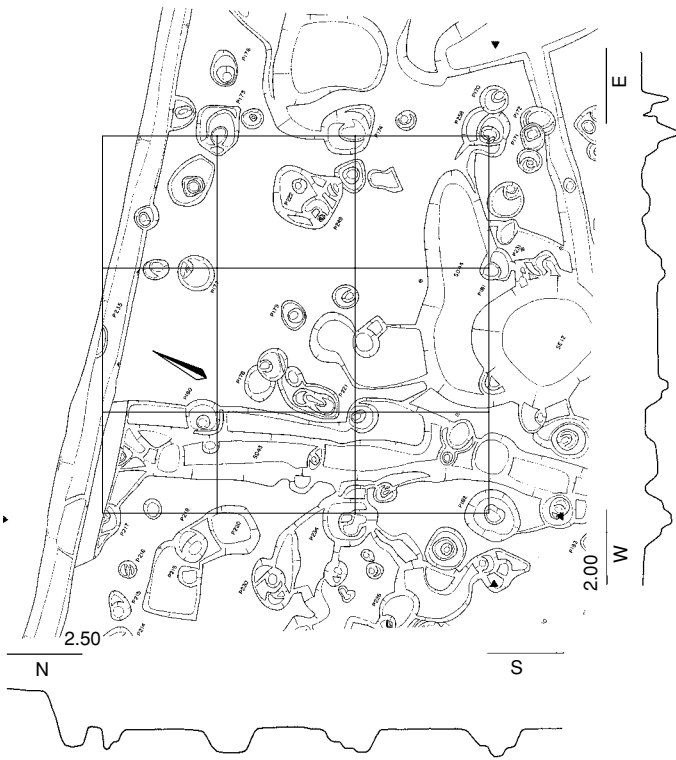
第34図 古代遺構図33 (1/40)



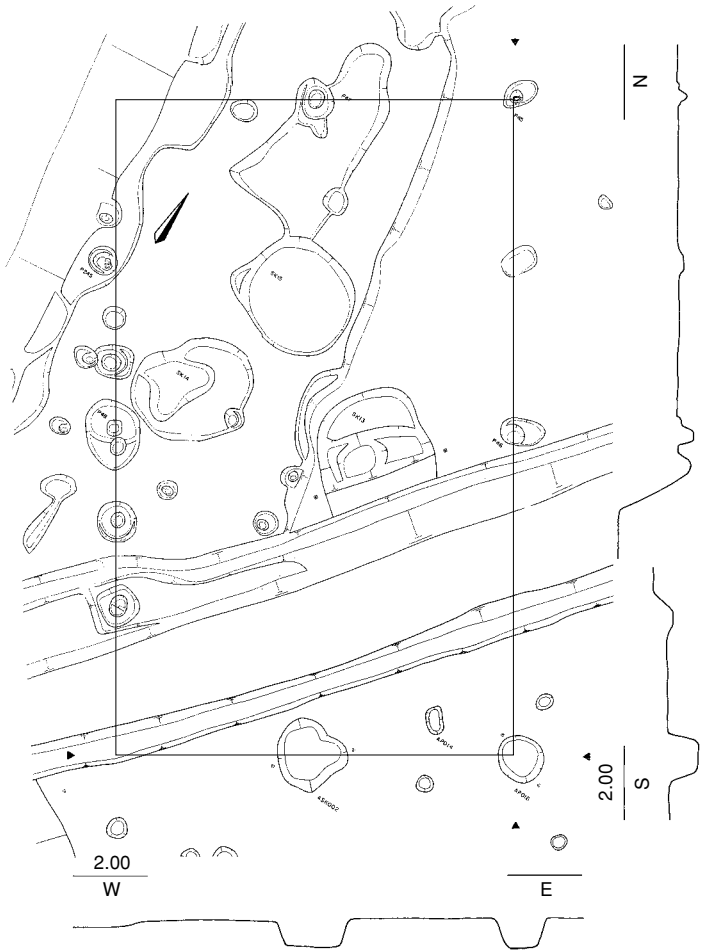
SB338 (T区)



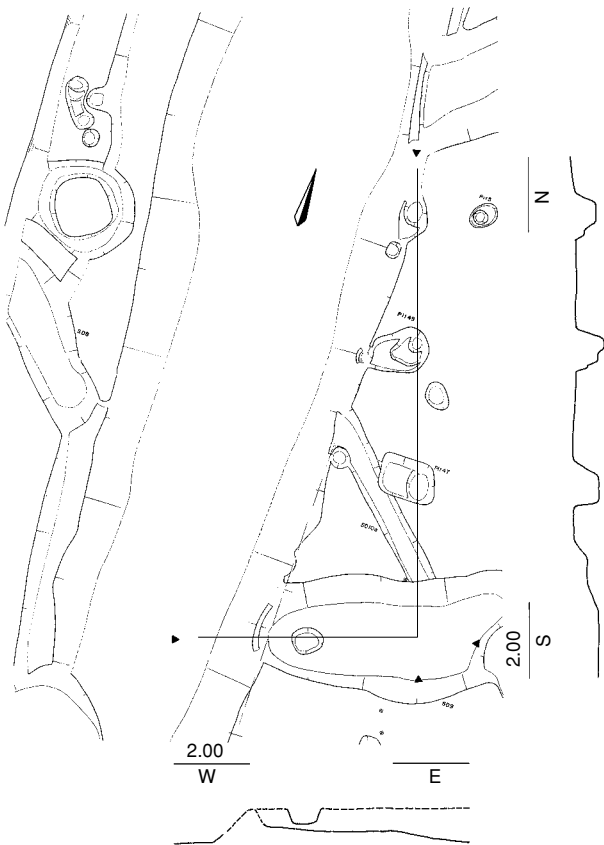
第35図 古代遺構図34 (1/100)



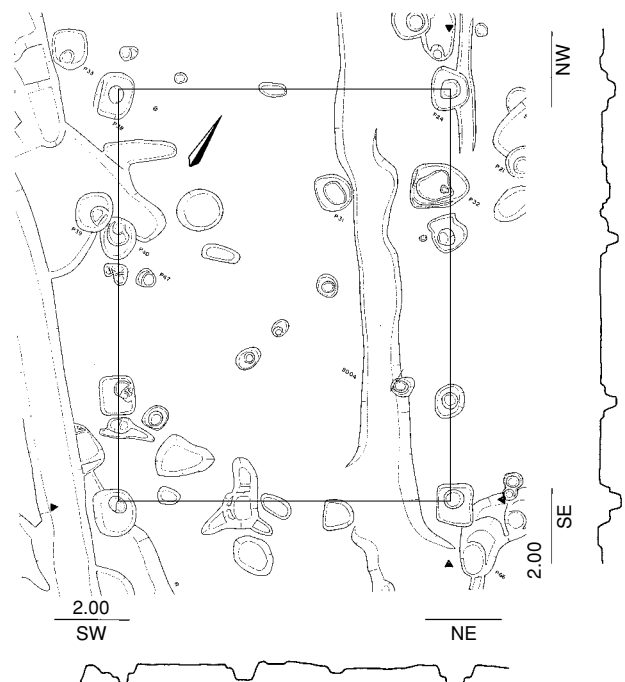
SB340 (T区)



SB341 (A2・T区)



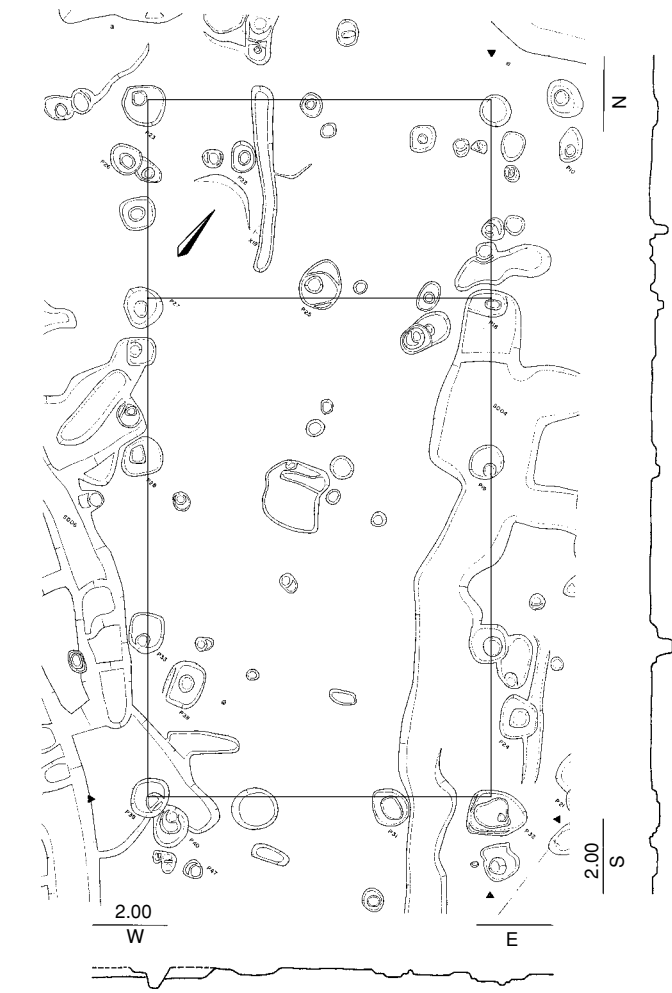
SB342 (S2区)



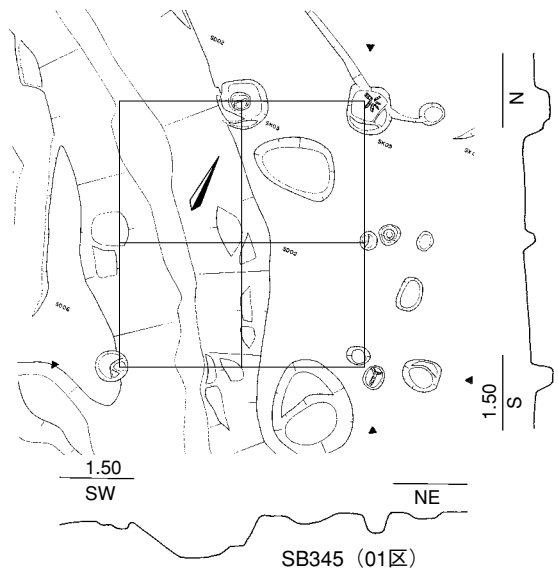
SB343 (R2区)



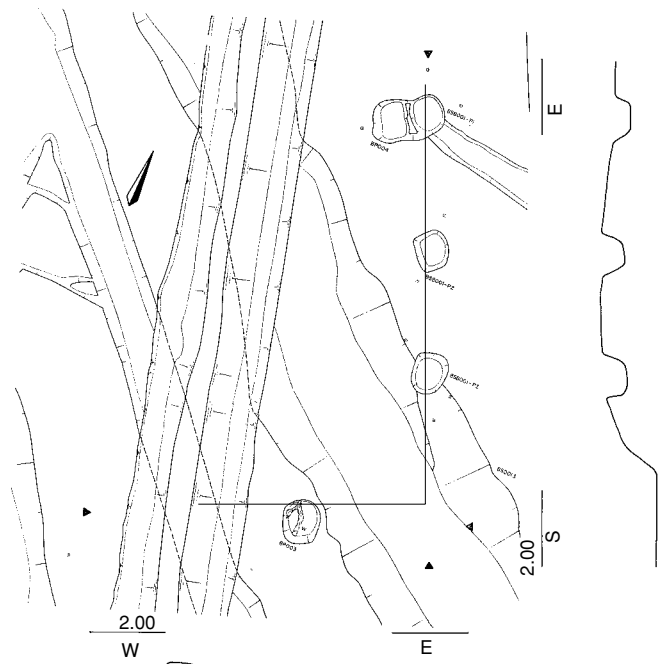
第36図 古代遺構図35 (1/100)



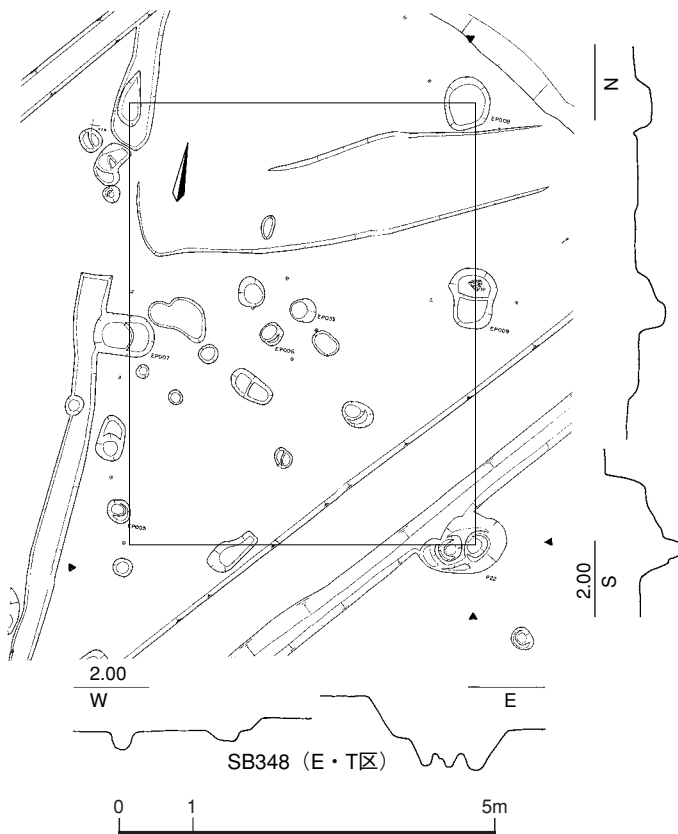
SB344 (R2区)



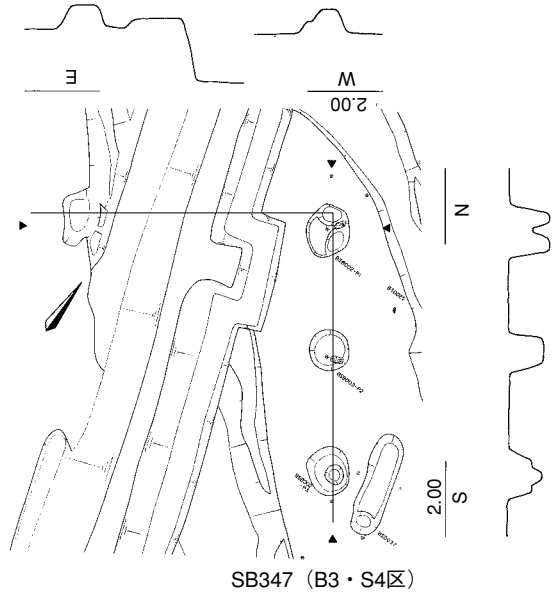
SB345 (01区)



SB346 (B2区)

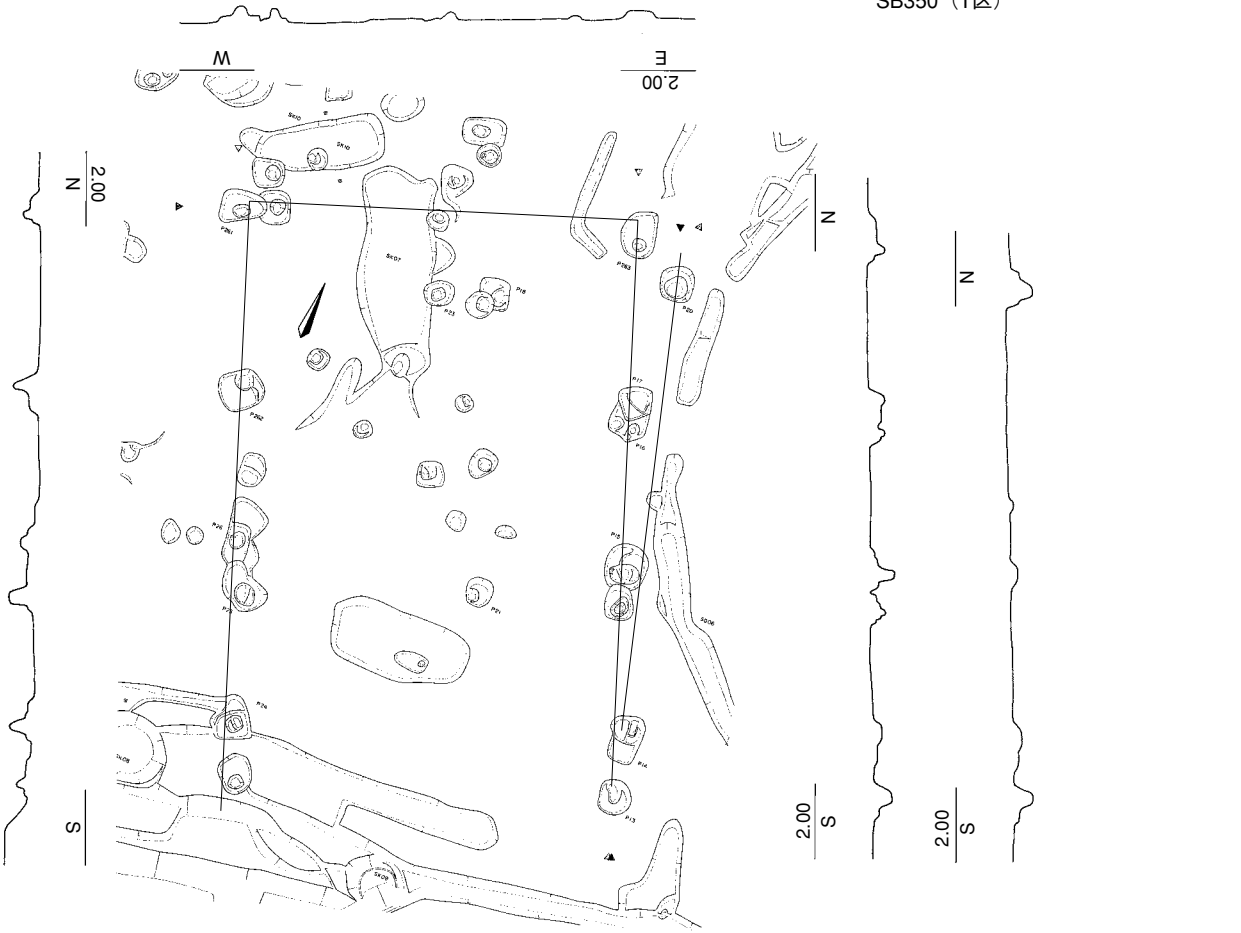
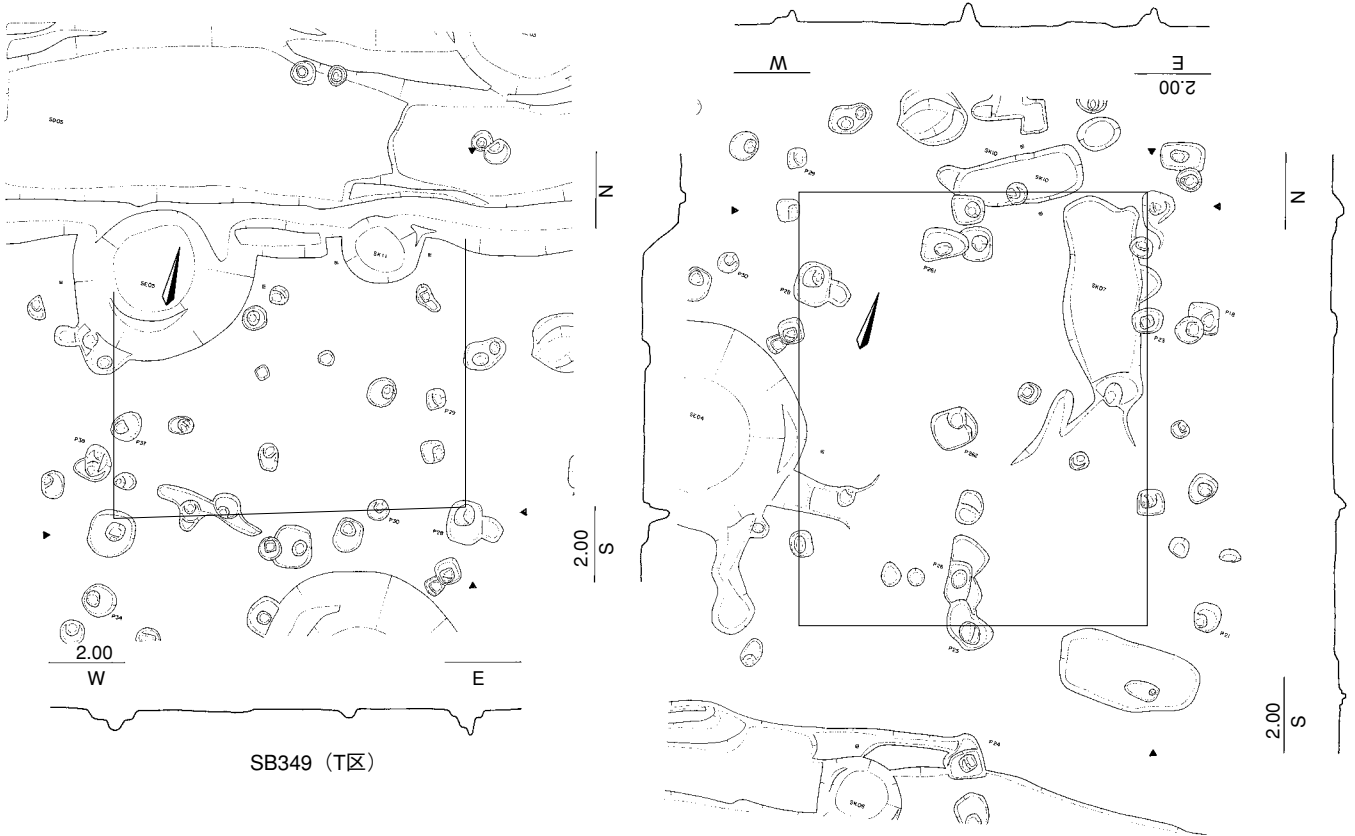


SB348 (E・T区)



SB347 (B3・S4区)

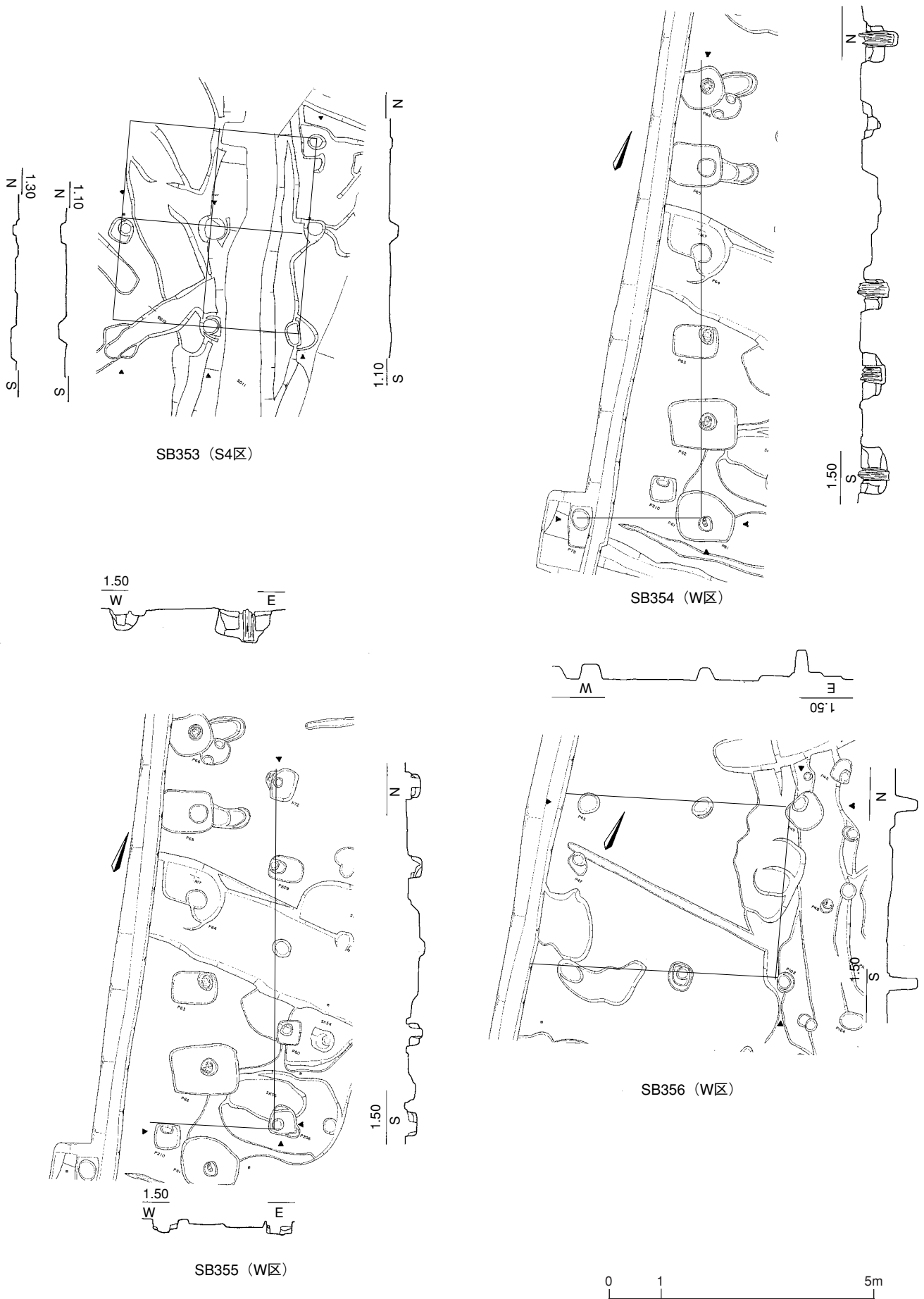
第37図 古代遺構図36 (1/100)



SB351・352 (T区)



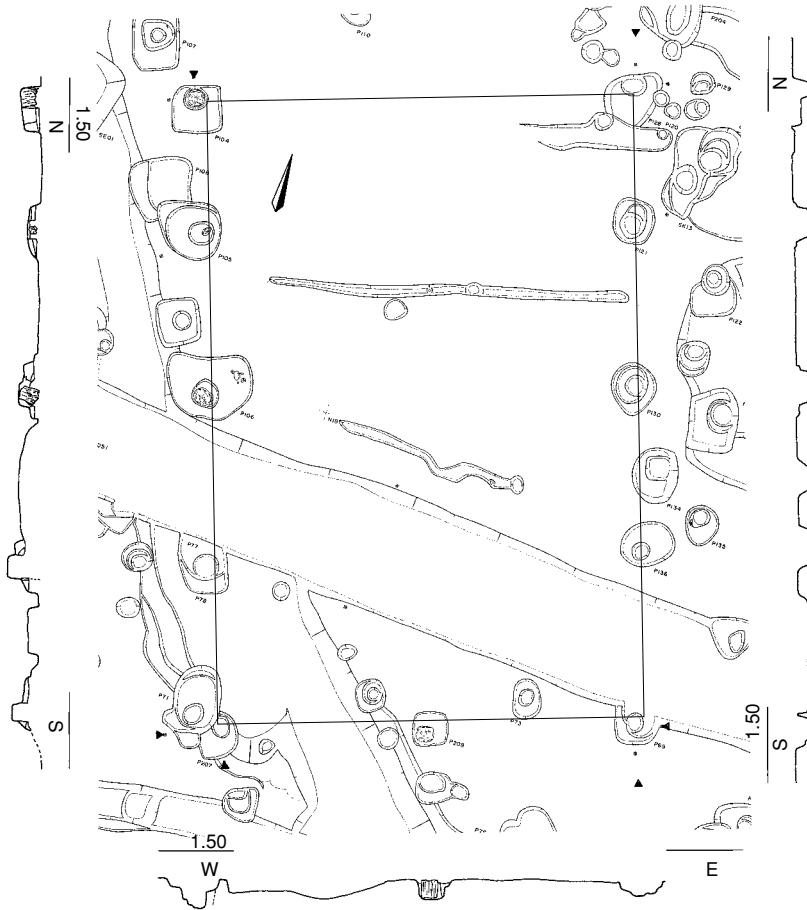
第38図 古代遺構図37 (1/100)



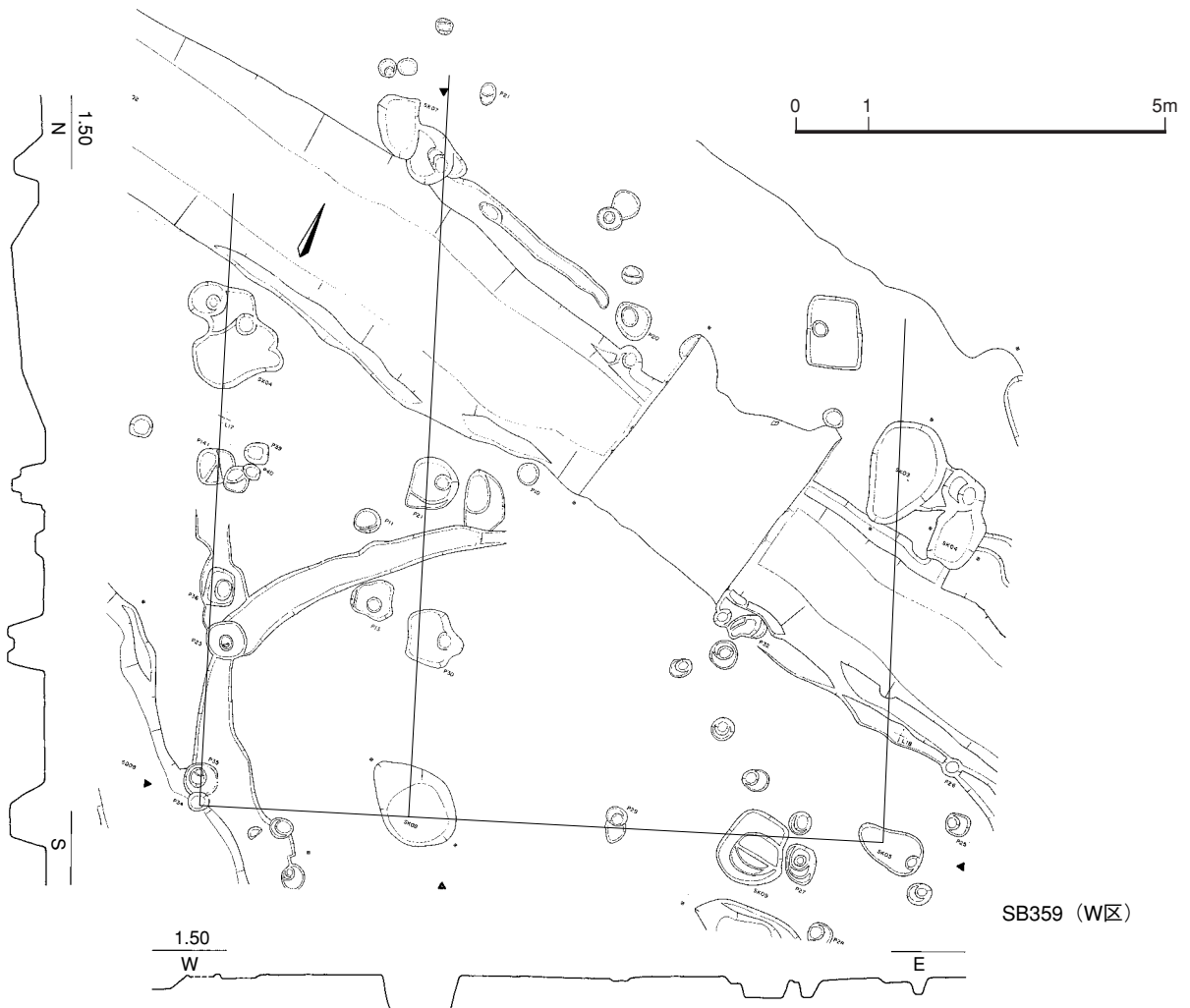
第39図 古代遺構図38 (1/100)



第40図 古代遺構図39 (1/100)

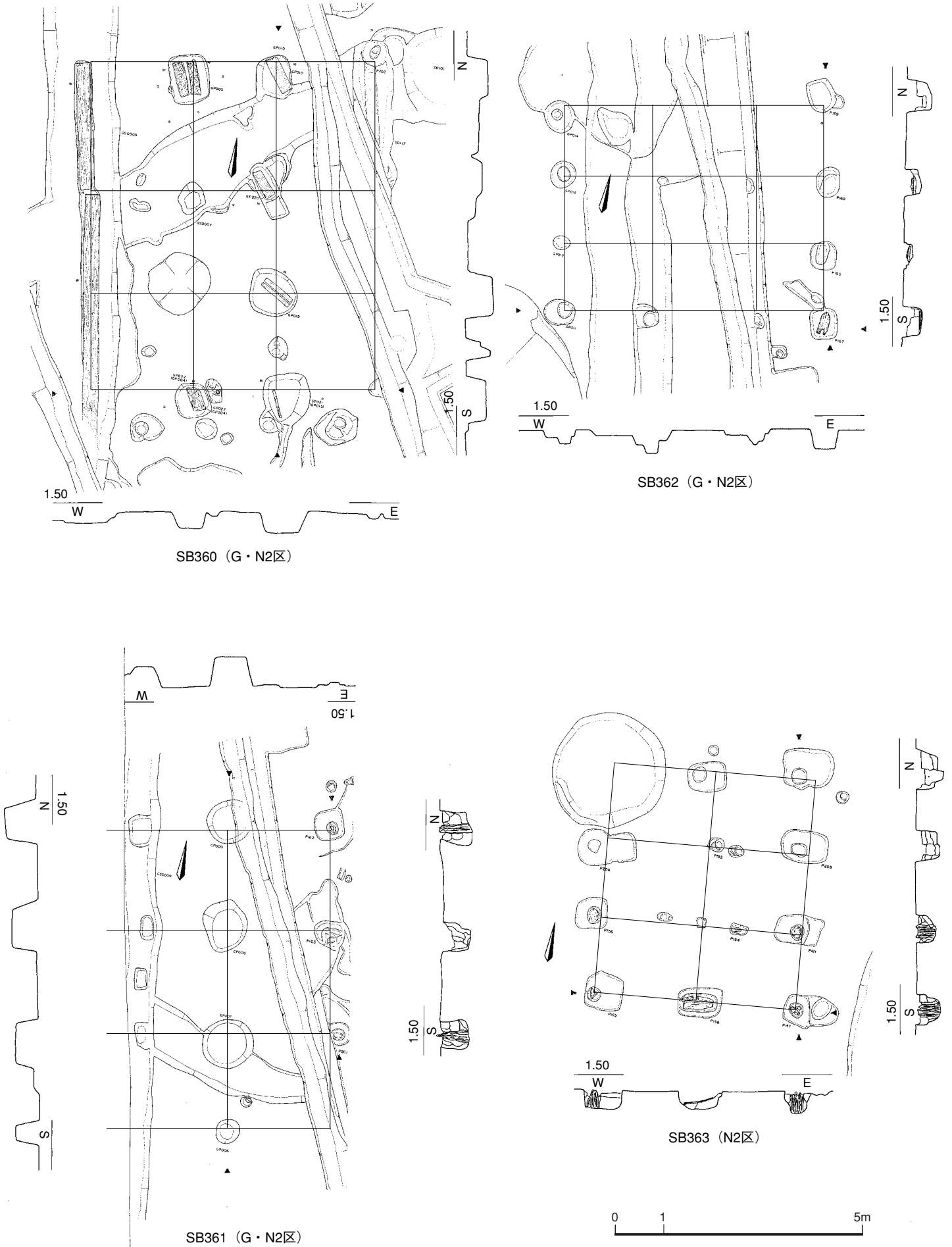


SB358 (W区)

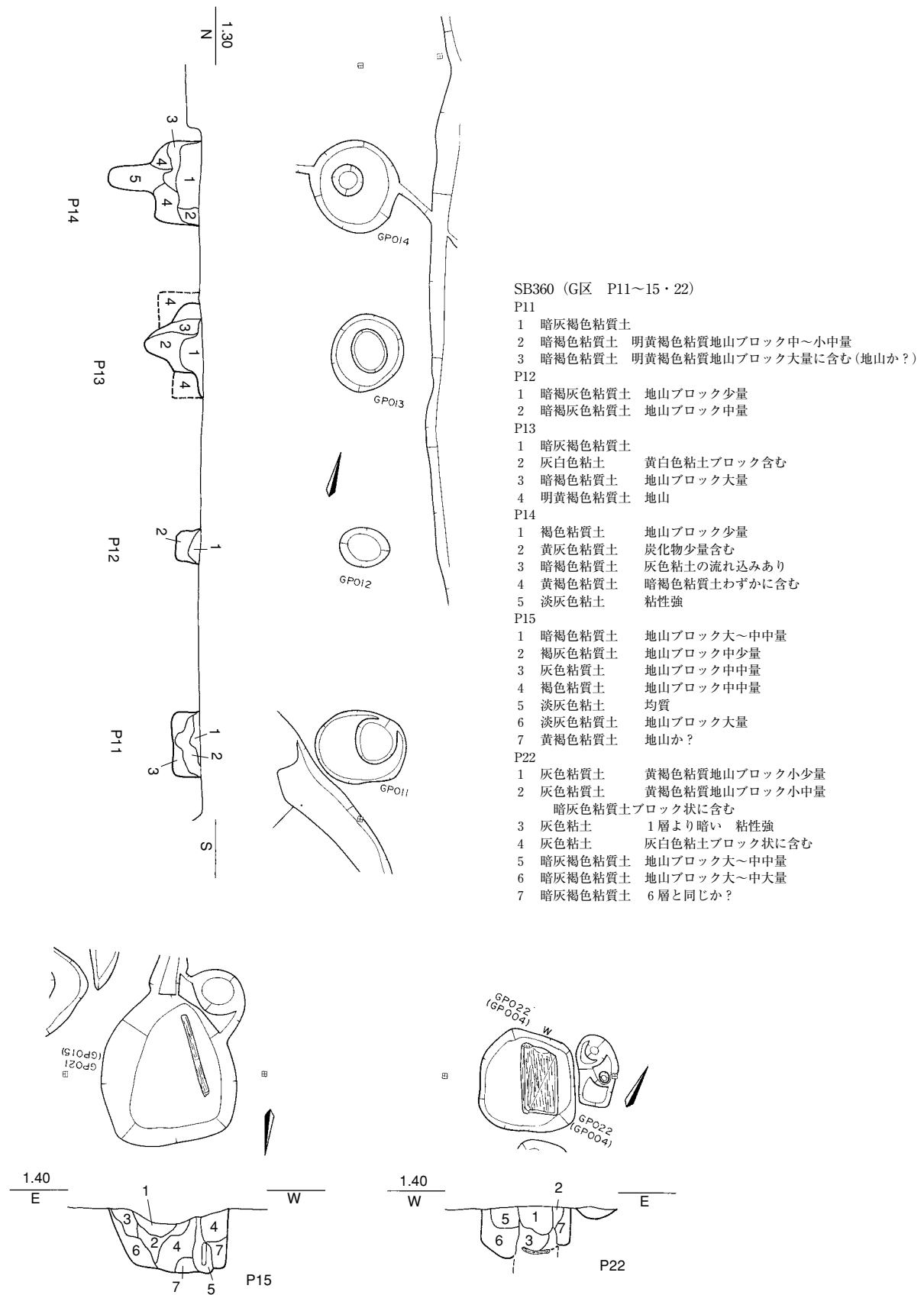


SB359 (W区)

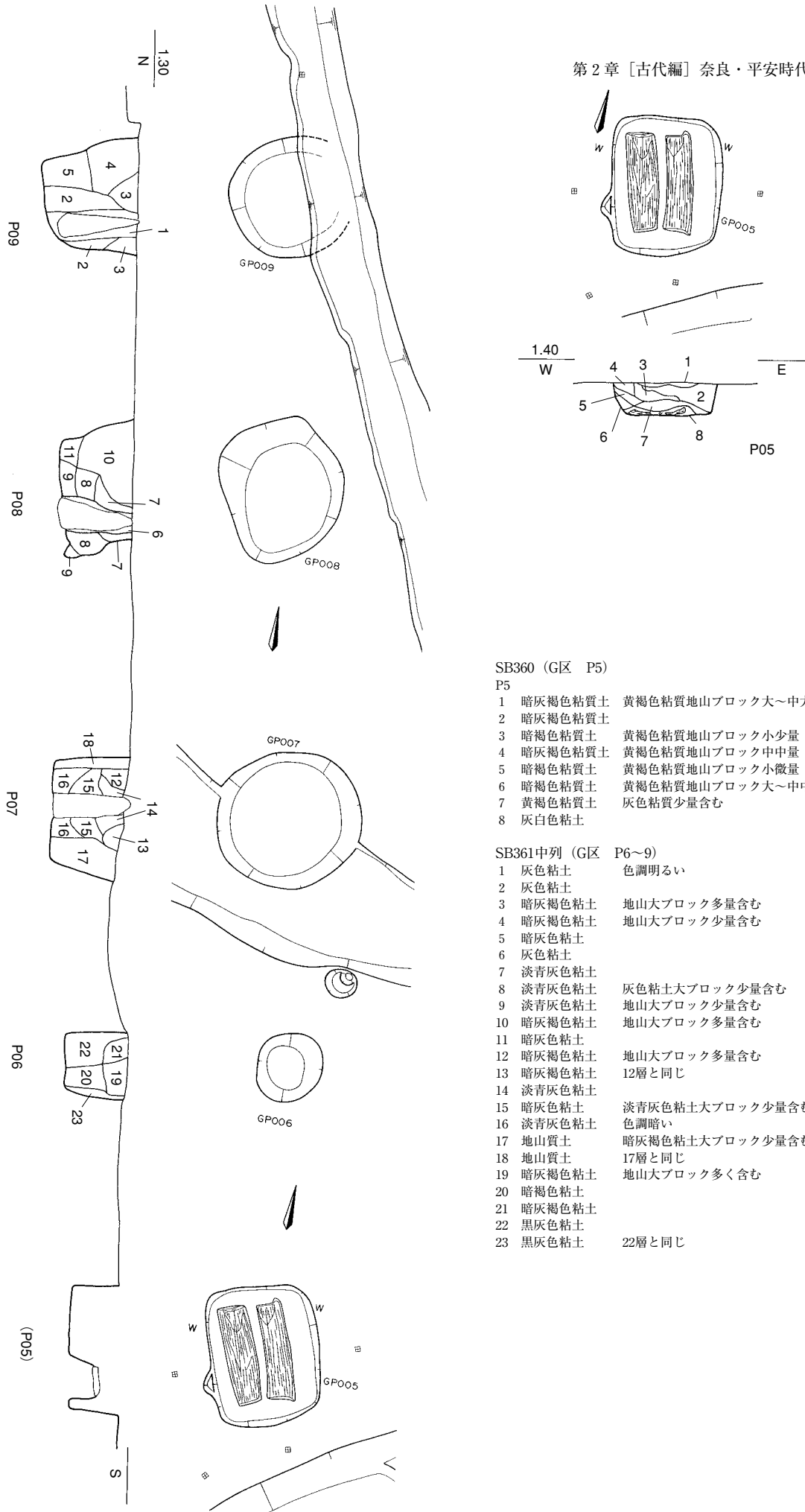
第41図 古代遺構図40 (1/100)



第42図 古代遺構図41 (1/100)



第43図 古代遺構図42 (1/40)



SB360 (G区 P5)

P5

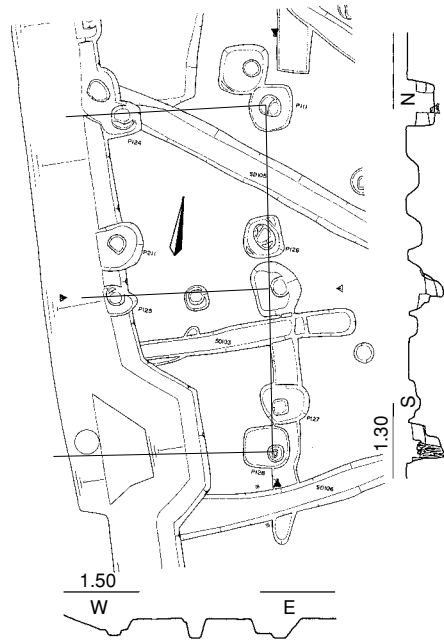
- | | | |
|---|---------|------------------|
| 1 | 暗灰褐色粘質土 | 黄褐色粘質地山ブロック大~中大量 |
| 2 | 暗灰褐色粘質土 | |
| 3 | 暗褐色粘質土 | 黄褐色粘質地山ブロック小少量 |
| 4 | 暗灰褐色粘質土 | 黄褐色粘質地山ブロック中中量 |
| 5 | 暗褐色粘質土 | 黄褐色粘質地山ブロック小微量 |
| 6 | 暗褐色粘質土 | 黄褐色粘質地山ブロック大~中中量 |
| 7 | 黄褐色粘質土 | 灰色粘質少量含む |
| 8 | 灰白色粘土 | |

SB361中列 (G区 P6~9)

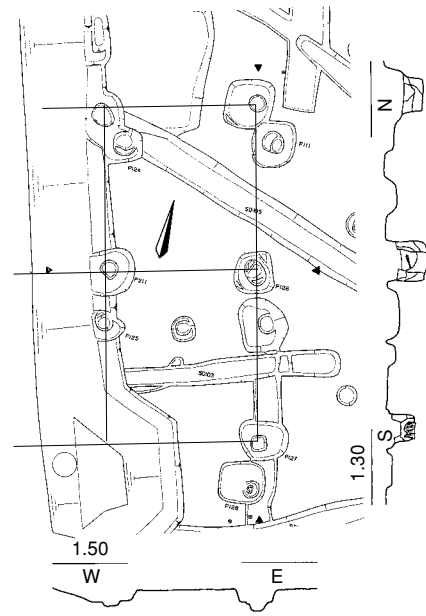
- | | | |
|----|--------|-----------------|
| 1 | 灰色粘土 | 色調明るい |
| 2 | 灰色粘土 | |
| 3 | 暗灰褐色粘土 | 地山大ブロック多量含む |
| 4 | 暗灰褐色粘土 | 地山大ブロック少量含む |
| 5 | 暗灰色粘土 | |
| 6 | 灰色粘土 | |
| 7 | 淡青灰色粘土 | |
| 8 | 淡青灰色粘土 | 灰色粘土大ブロック少量含む |
| 9 | 淡青灰色粘土 | 地山大ブロック少量含む |
| 10 | 暗灰褐色粘土 | 地山大ブロック多量含む |
| 11 | 暗灰色粘土 | |
| 12 | 暗灰褐色粘土 | 地山大ブロック多量含む |
| 13 | 暗灰褐色粘土 | 12層と同じ |
| 14 | 淡青灰色粘土 | |
| 15 | 暗灰色粘土 | 淡青灰色粘土大ブロック少量含む |
| 16 | 淡青灰色粘土 | 色調暗い |
| 17 | 地山質土 | 暗灰褐色粘土大ブロック少量含む |
| 18 | 地山質土 | 17層と同じ |
| 19 | 暗灰褐色粘土 | 地山大ブロック多く含む |
| 20 | 暗褐色粘土 | |
| 21 | 暗灰褐色粘土 | |
| 22 | 黒灰色粘土 | |
| 23 | 黒灰色粘土 | 22層と同じ |

第44図 古代遺構図43 (1/40)

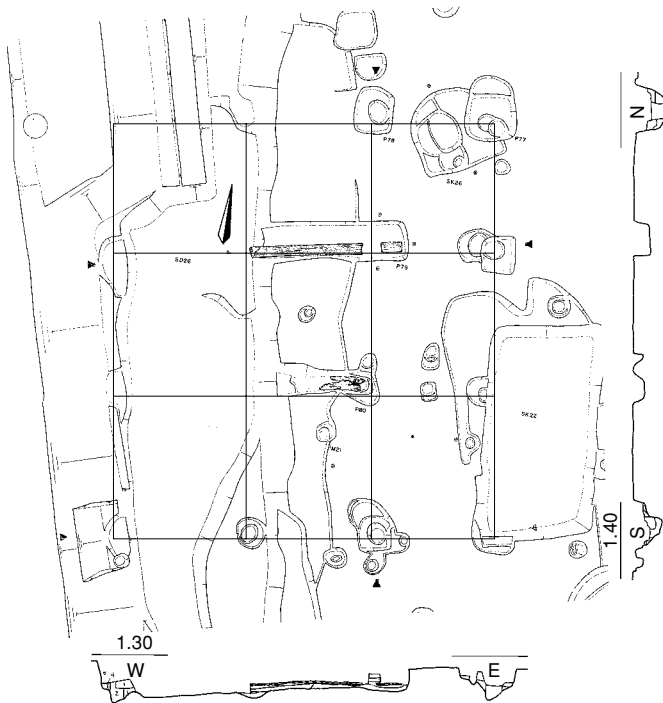
第2節 掘立柱建物跡



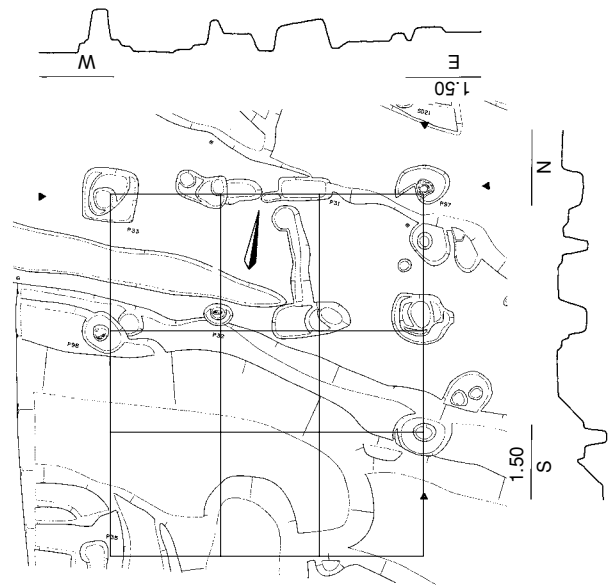
SB364 (N2区)



SB365 (N2区)



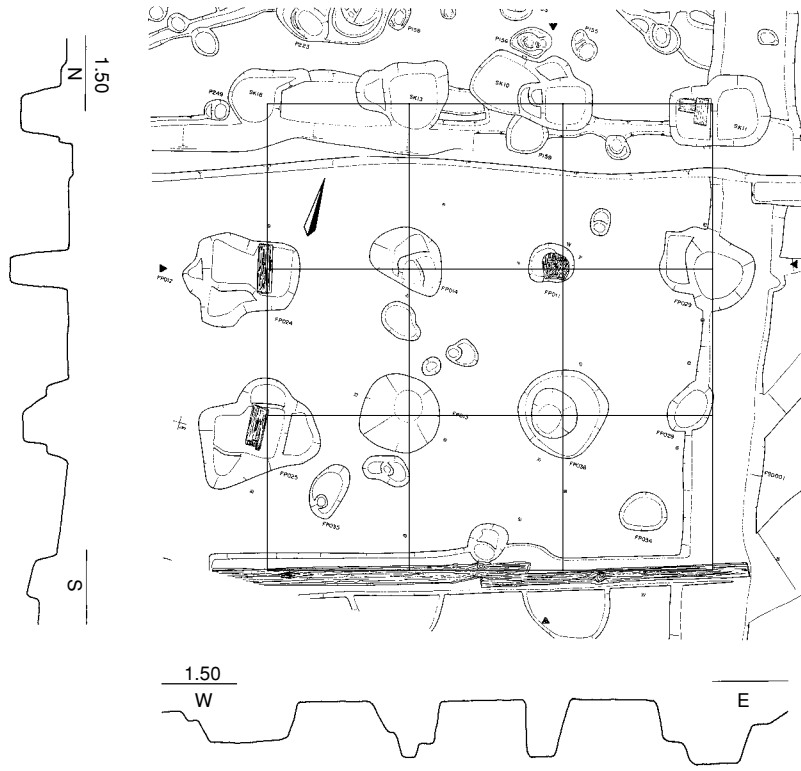
SB366 (N2区)



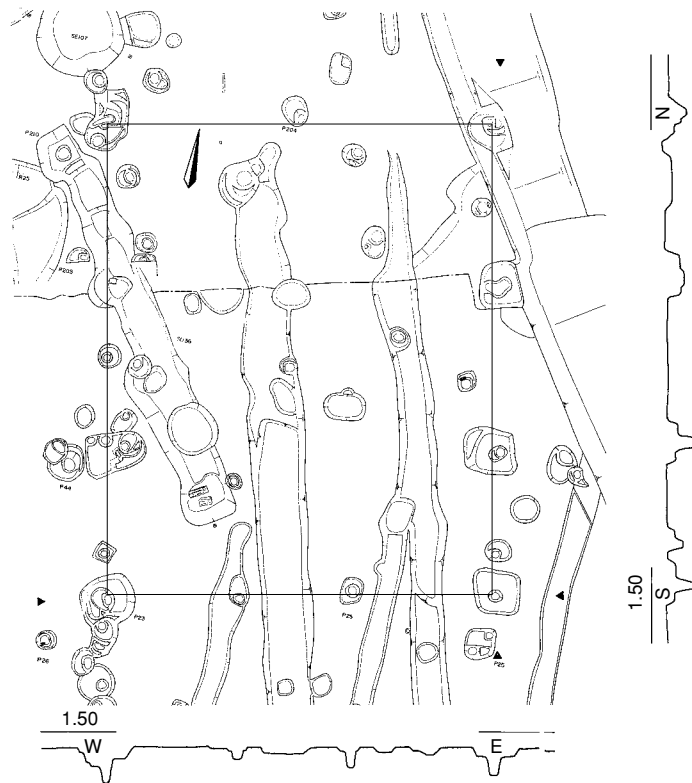
SB367 (N2区)



第45図 古代遺構図44 (1/100)



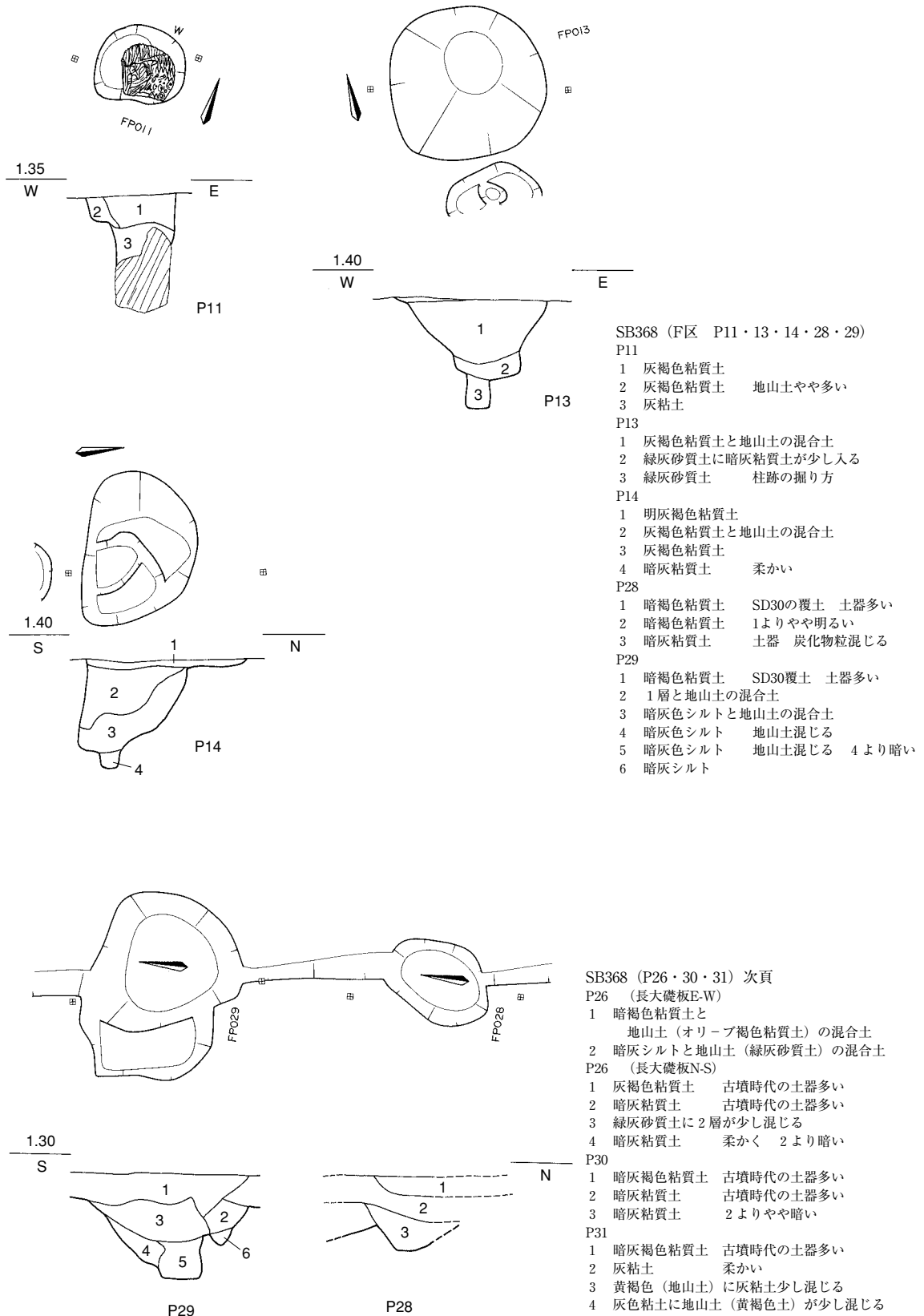
SB368 (F・V2区)



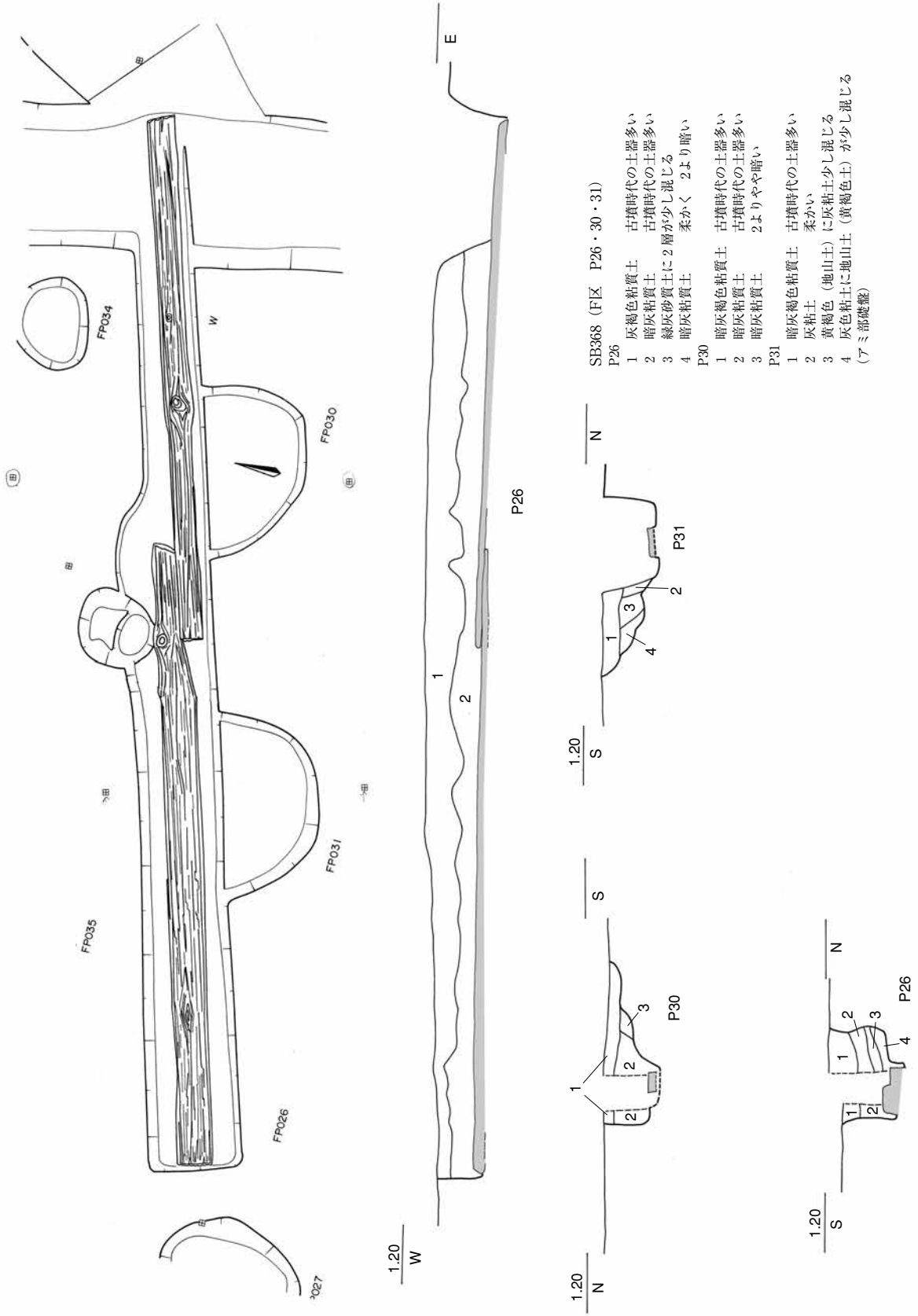
SB370 (N1・N2区)



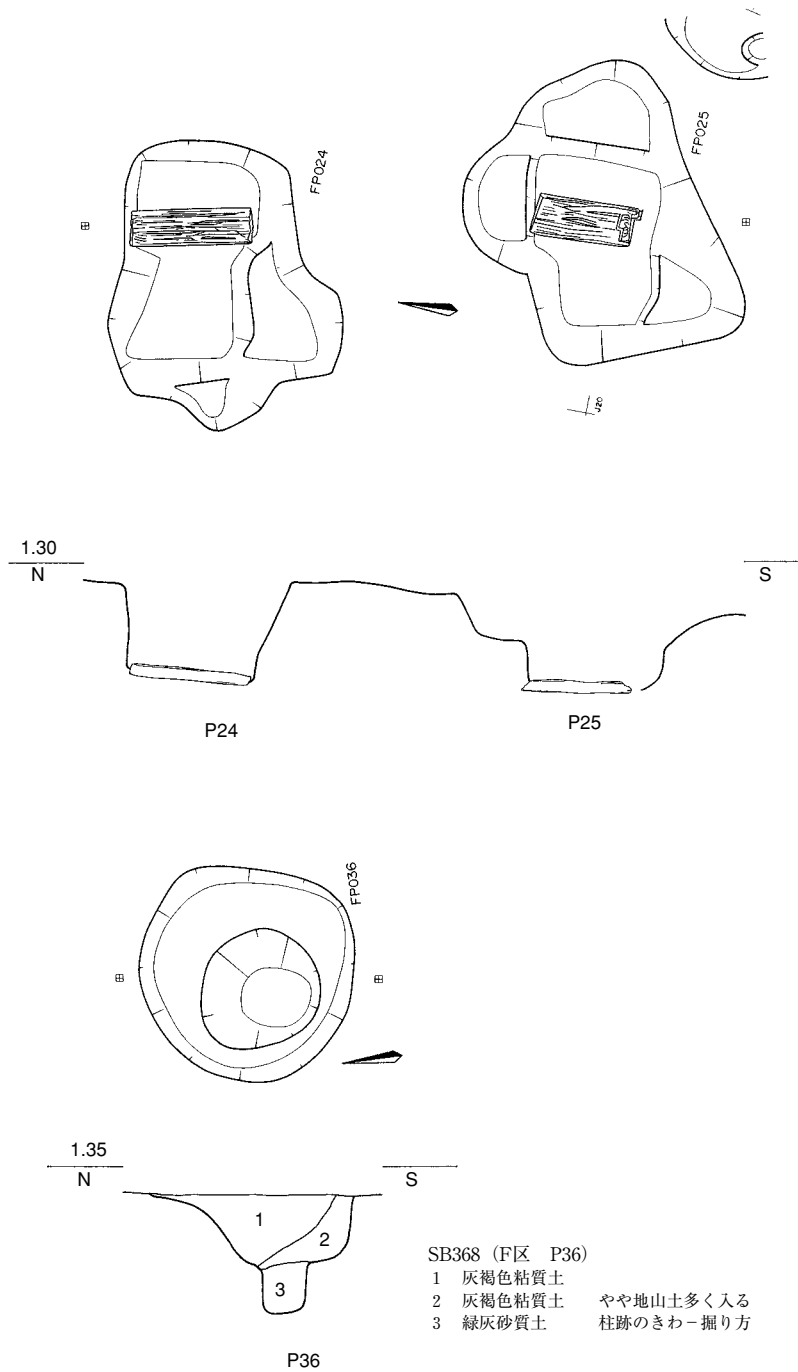
第46図 古代遺構図45 (1/100)



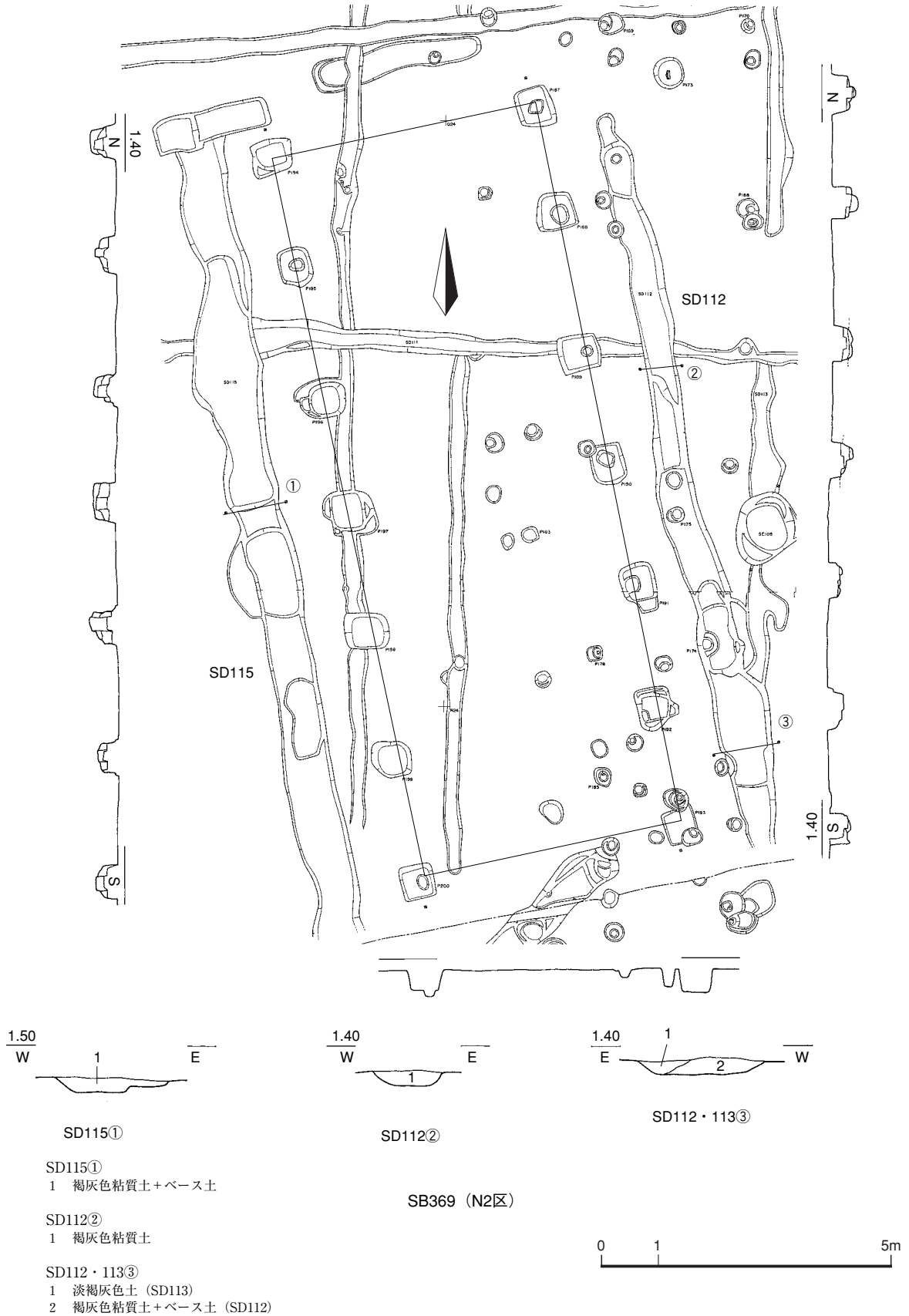
第47図 古代遺構図46 (1/40)



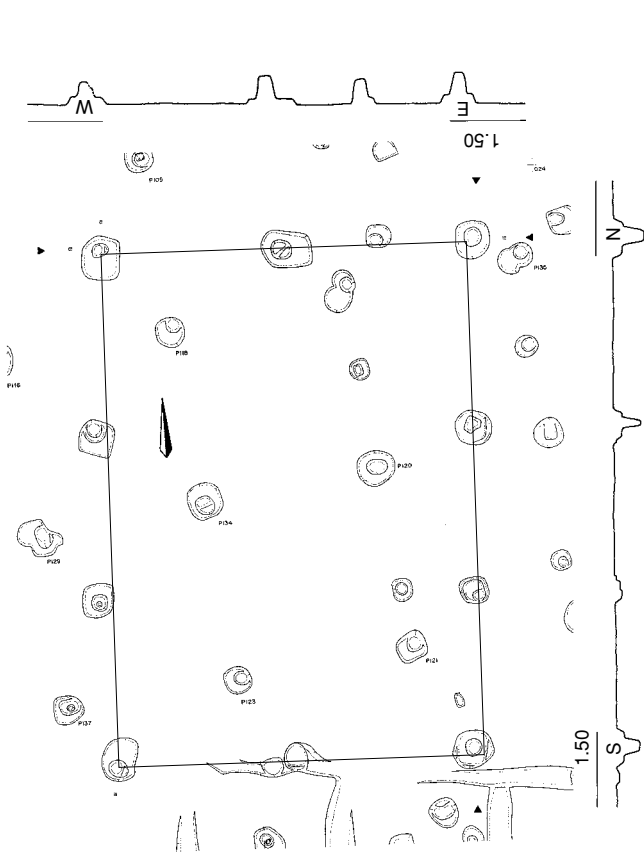
第48図 古代遺構図47 (1/40)



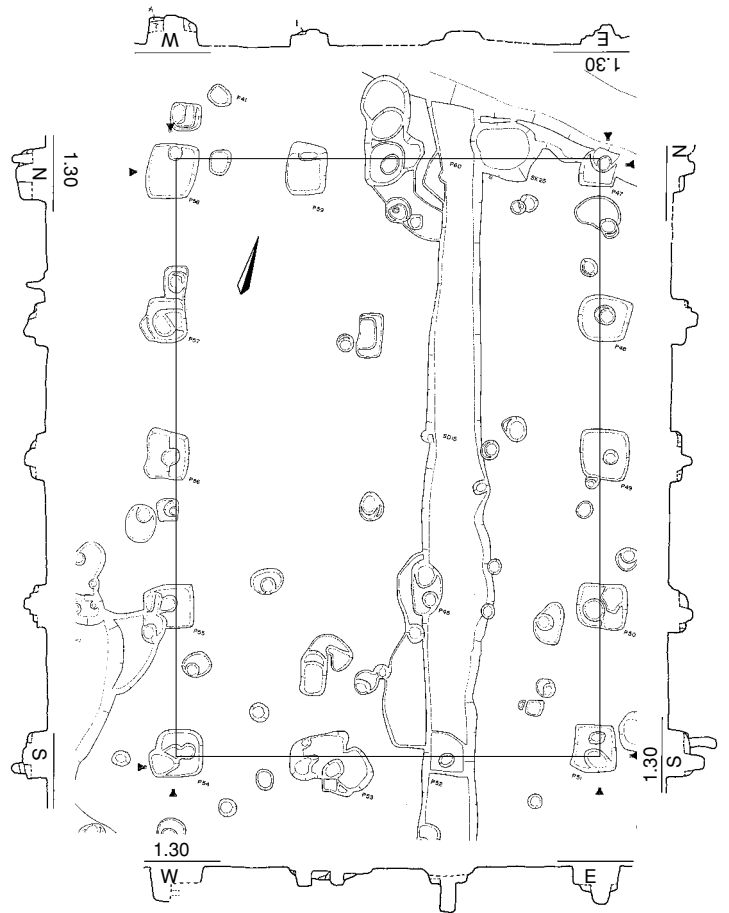
第49図 古代遺構図48 (1/40)



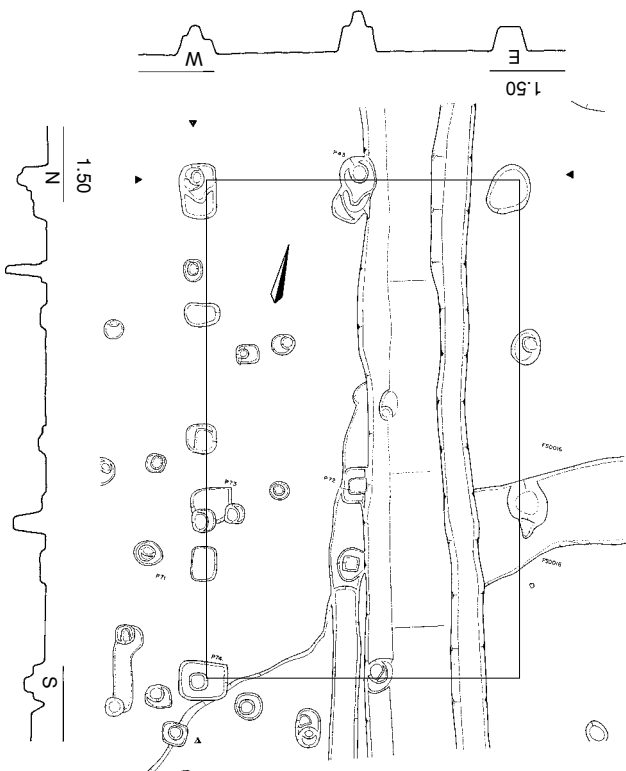
第50図 古代遺構図49 (1/100)



SB371 (N2区)



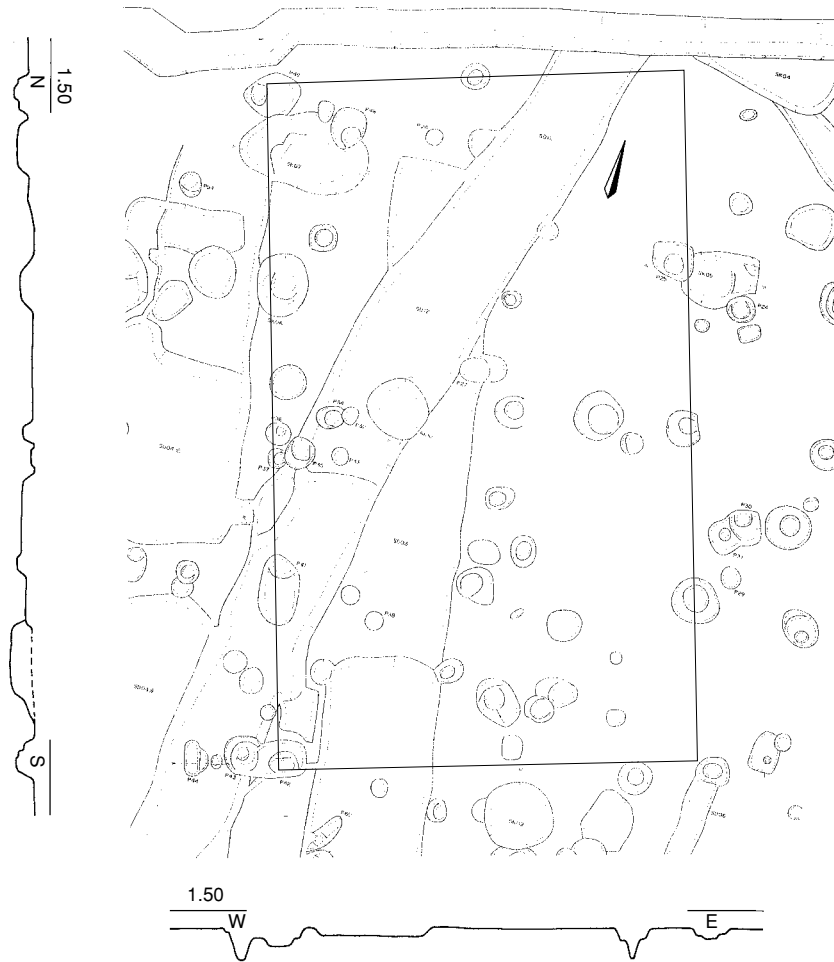
SB372 (N2区)



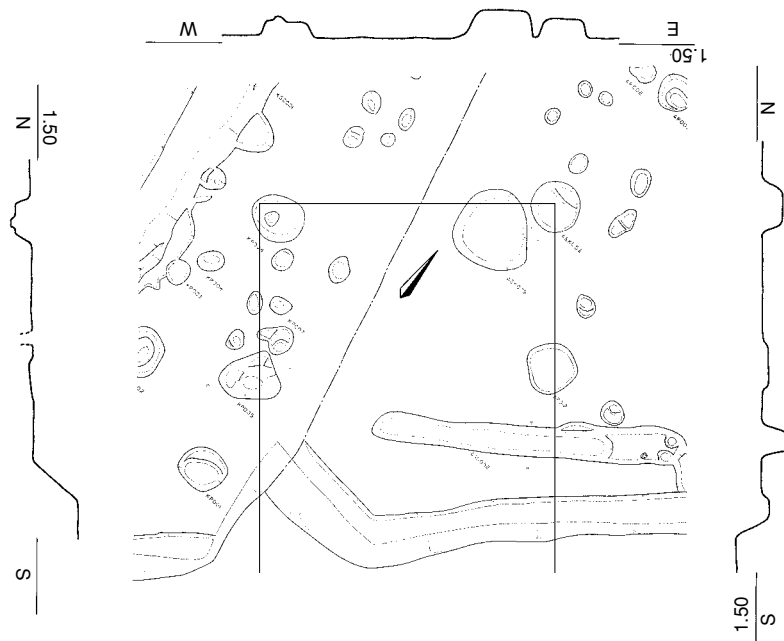
SB373 (F・N2区)



第51図 古代遺構図50 (1/100)



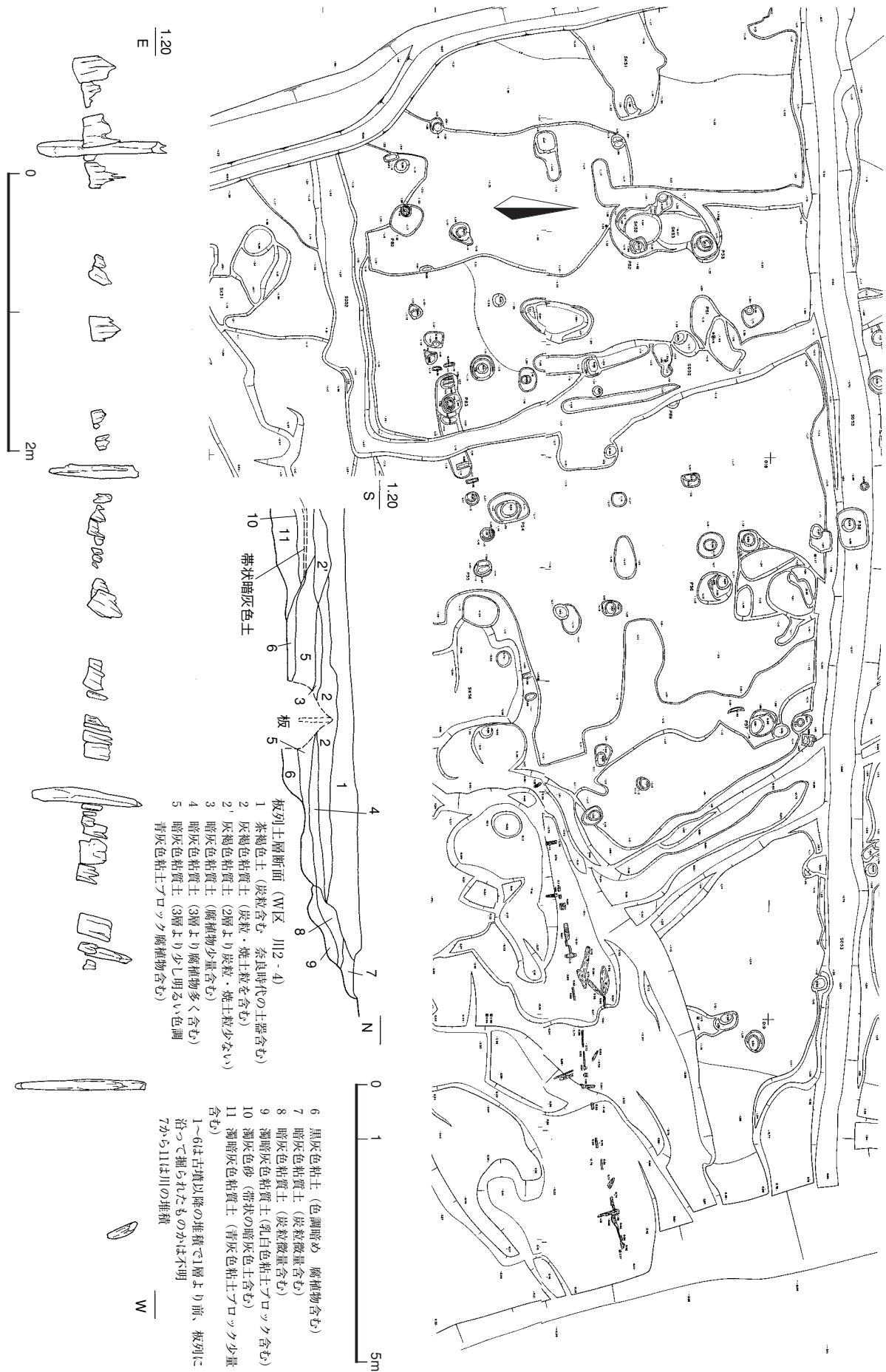
SB374 (V1区)



SB375 (A2・K区)



第52図 古代遺構図51 (1/100)



第53図 古代遺構図52 (1/100)

第3節 河跡・溝跡

河跡 (SD08・SD16他) 遺跡を南北に蛇行しながら流れる古代の旧河道。遺物は弥生時代後期～古墳時代後期・古代と若干の空白期を挟みながらほぼ断続して流れている。10世紀以降の遺物が確認されないことや、W区で中世建物がその上に立てられていることから、畝田・寺中遺跡の古代の終焉と共に埋没したのであろう。旧河道の大枠については、断面図と共に古墳時代編で整理がなされており参照されたい。

流路の把握は古墳時代期の複雑な変遷もあって、完掘後の図面整理や遺物整理の中から類推せざるを得なかった。特にB・O区付近は古墳時代の溝が集中して旧河道に流れ込んでいることもあり、遺物の出土状況を勘案して流路復元を行っている。断面図として図示しているのはW区調査区南壁のもので、旧河道と並ぶ古代流路であるSD31・62との切り合い関係を示している。5～6層茶灰色系粘質土が最終埋没土で、河跡およびSD31・62全域を埋めている。遺物として明確に分けがたいが、IV 1～2期の土器が多く出土する層である。一方でSD31・62は河跡の9・10層を切っていることを考えると、河跡から分岐させる形でSD31・62が構築され、一時期併存して機能するものの河に先行して埋没していることが窺える。河跡の9・10層灰色系粘質土はⅢ期の遺物を比較的多く出土する。このことは後述するように、SD31・62がほぼIV 1・2期の遺物しか含まず、かつ同時期の遺物を出す井戸に切られていることと矛盾しない。またA 2・Q 2区のように、大半がⅢ期の遺物でIV期をほとんど含まない箇所も存在することを考えると、遅くともV期（9世紀代）には河跡が埋没したと考えられる。

本遺跡の土器・木製品の大半がこの旧河道よりの出土である。各調査区で呼称が異なることもあり、以下に整理して示す。

A 2・A 2 拡張区：SD08 河幅約17m、深さ0.9～1mほどだが、本来の河幅ではなく、浅いテラス状の溜まりとして構築されている可能性がある。AD～AF25には流路に沿って護岸状の杭・板列を確認した。遺物は土器4035～4120、墨書土器F13・15～48・50～92・94～130、木製品542・573・582・621、石製品S131～133・136・138、土製品E103～106・108・109が該当する。4035～4037は須恵器甕で、4035・36は大型品。破片も含め、遺物数に比して壺・甕類などの貯蔵具が少ないのが特徴的である。4038・4039は壺類で、それぞれ広口・狭口壺である。4040～4042はいわゆる薬壺と言われる短頸球胴壺の蓋とされるものである。4048は括れ鉢で、仏器との関連性が指摘されている。金沢市上荒屋遺跡では、出土状況が瓦塔や燈杯などと同じ傾向にあるという。本例は把手付きである。4050～4057は杯蓋。4054がIV 1期の特徴を示すが、他は概ねⅢ期に比定できよう。4058は稜椀蓋とされる、環状鈕を持つ蓋である。平坦な天井部と深みの体部、横方向に延びる口唇部、大振りな環状鈕など特徴的な形状を持つ。口径が20cmを越える大型品である。4059～4069は有台杯で、4059～61が胴下半に張りを持たずに立ち上がるタイプで、4062～4069が胴下半に張りを有するタイプである。4059・4061がⅢ期、他がⅢ～IV 1期に比定できよう。4070は有台盤としたが、はっきりと内湾傾向を示す体部から盤と呼ぶにはやや躊躇する。4071～4098は無台杯である。基本的に1法量と理解でき、底部外面はヘラキリ後ナデないし未調整という点で共通する。丸底風を呈し、外傾した体部が直線的に立ち上がる偏平なタイプと、身が深く胴下半が張って丸みを持つタイプに分けられる。後者には口径が14cmを超す大型品が目立つ。Ⅲ～IV 1期の範疇でとらえられよう。4102～4113は赤彩土師器である。いずれも内・外面ミガキ赤彩を施す精緻な土器である。4102は偏平体部を持ちどちらかという皿形状に近い。器内面には放射+蕨手状の暗文を全面に施す。いわゆる畿内系土師器と呼ばれる赤彩暗文土師器によ

く似るが、胎土中に海綿骨針が含まれていることから在地の模倣品であろう。4103～4109は椀タイプで、口径16～17cm台と19cm台の2法量である。4106が須恵器無台杯に近い、やや内湾しながら直線的に延びる口縁部を持つ他は、口唇部まで内湾する器形状を呈する。4112は特異な柱状の台部を持つ。4119・4120は製塩土器で、4120は棒状脚である。

墨書土器は、有台杯・無台杯・蓋にほぼ限られ、無台杯への墨書が多い。この調査区は図示したように墨書土器集中ブロックが含まれており、墨書土器の数は最大である。中でも「語」字を墨書するものが圧倒的に多い。

「語」「語-語」「語成人」を含む「語」字グループは、実測点数300点中の実に76点、約1/4と突出している。他の調査区・遺構で「語」字を出すのは2点に留まり、はっきりとこのブロック特有の墨書と見なすことができる。器形的には無墨書の土器に準じ、Ⅲ期を中心にしながらⅣ1期のものが含まれる状況である。F61は大型の稜椀で、口径21.2cm、器高9.2cmを測る。胴部やや下半よりに2段の弱い稜を作出し、口唇は大きく外転する。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。傾向的には、「語」字が小さいものには概して古いものが多く、小文字→大文字の傾向が見て取れよう。

語グループには、下記のパターンが含まれる。

a類「語」単字タイプ：「語」という字のみを外底に記す。「語」一字のみ記すものと、複数字記すものがあり、複数字記すものは字間に「一」（棒線）がないことでb類と区別される。一字のみ記すものがほとんどであるが、破片資料の場合b類と区別しがたい。明確にb類と判断されるものを除き全てa類に収めた。F38は違筆の語字が記される。F44はやや特殊で、語字を円周上に書き連ねる。習書か意図を持ったものかは判然としない。

b類「語-語」タイプ：縦書きの語2字で、字間を「一」（棒線）でつなぐタイプ。語字と一は完全に独立した筆画で記されており、語字は異筆が大半を占めるが、同筆と思われるもの（F74のものも存在する。語字は大振りに書くのが通有である。

c類「語成人」タイプ：3点のみであるが、明らかに前2類とは区別される。字は大振りに書くのが特徴である。

F84～92・94・95は「荒田家」と墨書するもの。字画は比較的小振りに書くものと大振りに書くものがある。無台杯は椀状のF84を除き、胴部下半にわずかな張りをもちながら直線的に口縁部が延びる器形である。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。F86のみ有台杯で、断面方形の外転する太い高台がつく。Ⅲ期に比定されよう。

F97は外底部に「天平二年」と墨書されるもの。他にW区SD62F264にも同墨書があるが、特に「年」字の書き癖から同筆の可能性が高い。胴下半にほとんど張りを持たず、外傾の強い口縁部が直線的に立ち上がる。Ⅲ期に比定されよう。F98は「津司」と墨書されるもの。別筆で「山カ」墨書がある。同下半にやや張りをもちながら内湾気味に口縁が立ち上がる。Ⅲ期に比定されよう。F100～102は「人」字を輪郭線のみで記す特異な墨書で、以下袋文字墨書と呼ぶことにしたい。「語」に次いで点数が多く、しかも河跡だけでなく溝や土坑からも出土することから、これも本遺跡を代表する墨書といえる。このような袋文字墨書は知見では類例を見いだしがたく、袋文字「大」が金沢市藤江B遺跡で出土しているのみである。袋文字は基本的に一文字の外郭のみをなぞるのではなく、それぞれの筆画を・筆順通りに書き記している。F100は無台杯で、同下半に張りを持たず直線的に口縁が延びる。Ⅲ期に比定されよう。F101・102は有台杯で、F101は三面三角の高台がほぼ直下してつく。深身タイプで、Ⅳ1期に比定される。F102は断面方形の高台が強く外転して付くタイプで、口径15cmを越える大型品である。Ⅲ期に比定されよう。F109～111は「平」を墨書する。「平」字も比較的点数が多く、河跡・

古代溝SD62などに分布する。F110は盤で、口縁が直線的に延びるタイプである。Ⅳ1期に比定されよう。F113は不明墨書。断面方形の強く外転する高台が付く深身の有台杯で、Ⅲ期に比定される。F114～116は「枚人」墨書。同字はB2区・R1区でも出土する。いずれも外底部の12時方向際に書かれる特徴を持っている。Ⅲ～Ⅳ1期に比定される。F122は本遺跡では珍しい土師器に墨書される。墨書は不明だが、「本カ田」であろうか。内外面に赤彩の施される赤彩土師器碗で、底部は糸切り痕をそのまま残す。丸底風の底部から内湾しながら口縁部が延びる。Ⅲ期に比定されようか。F124は外側面正位に「上」に墨書されるもので、口径11cm台の小型品。Ⅳ1～2期と河跡遺物にしては新しめである。F127は「馬家」で、同字と思われるものにE区SD12-F243がある。同下半にほとんど張りを持たない扁平な器形で、Ⅲ期に比定されよう。

土製品では鞆羽口E103～106、土錘E108、支脚E109が出土する。鞆羽口E104・105は先端付近をよく残しており、全体に被熱硬化が著しい。製鉄に伴う遺構は確認できなかったが、付近で小鍛冶に伴う鉄融解を行っていたのであろう。

木製品W542は把手付四脚盤でほぼ完形品。断面逆台形の脚が不揃いに外底面に付く。外底面はほぼ平坦に仕上げている。樹種はスギ。W573は両端を山形に仕上げる札状木製品。用途は不明だが、あるいは斎申のような木製形代になるのかもしれない。樹種はヒノキ。W582は刀形としたが、半面が欠損しており形状によっては剣形の可能性もある。樹種はネズコ。W621は河跡の岸辺に構築された板杭列（護岸施設？）の部材の一つで下端を三角状に尖らす矢板形状をとる。河底面に打ち込まれた状態で出土した。樹種未鑑定だがスギの可能性が高い。

B1～3区・C1・2区・1区：SD16 河幅は推定で約15～17m、深さは約1mである。その大半が古墳時代の流路であり、古代の流路はB2区南端付近、R1区で東に屈曲した流路が横断する部分を古代の流路として推定した。この推定流路の北側ではほとんど古代の土器が出土しないことと、わずかに検出された立ち上がり、南側で得られている河幅等を参考に推定してある。土器4170～4193・4199～4220・4260・4261・4447、墨書土器F142～151・153～182、木製品W502・511・513・515～517・520・521・523・531・533・541・544・545・547・554・585・595・638、石製品S137、金属製品M12がこの地区の出土である。4170～4173は杯蓋で、4170・72・73は三面三角形の口唇が垂下する。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4174～4182は有台杯。4174～4176は強く外転する高台と扁平な体部を持ち、Ⅲ期に比定されよう。4177・4188は口径が13～15cmの大型タイプ、4179～4182は口径10～12cmの小型タイプである。Ⅳ1期に比定されよう。4183～4187は有台杯。4183が口径14cm弱、他は11～12cm代を測る。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4189は把手付き括れ鉢。4199～はC区SD16出土である。4201は広口瓶だが、口縁付近に意図的な打ち欠き痕跡が認められた。破損を転用するために打ち欠き揃えた可能性もある。E109・110は鞆羽口片。被熱硬化している。4205～4208は有台杯。4205が口径16cmの大型品で、残りは口径12cm代である。Ⅳ1期に比定できよう。4209～4215は無台杯で、いずれも口径12cm代である。4212・4213が胴下半に張りを持たず外傾しながら直線的に延びる体部を持つ。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4214・4215は底部及び体部にヘラ書きを持つ。墨書土器F142～151は袋文字墨書で、142～148は「人」単字である。F149は「人」「大」を複数字を墨書し、書き癖から異筆の可能性が高い。150・151は「大」字を墨書する。袋文字墨書はこの「人」「大」の2字に限られるが、遺跡に広く分布する。「枚人」で、A区に同墨書がある。これも外底部上辺に墨書する共通性を持っている。F166～171は「平」墨書で、大振りに墨書するのが特徴である。F173・177は「年」の単字墨書。「天平二年」墨書の省略形であろうか。F176は「西」と読んだが、棒状の払いなど別字の可能性もある。F177は「語」字の暫画であろう。F181は外底に「富」体部横位に「十」が墨書される。木

製品W502は木簡断片で、意図的なキリオリ痕跡が縦横位に認められた。廃棄行為に伴うものであろう。字画が半分に割られているため釈読困難だが、一字目は「帛」か「綿」、二字目は「家」のように見える。裏面にも墨書があるが判読不能である。W520・521・523は木錘。521は中央に括れのある鼓形、523は方形の貫通孔を空けてそれぞれ糸端を縛るタイプである。アンギン台に伴う製品であらう。樹種はそれぞれツバキ属・ツバキ属・ヒノキ。W531は織機の横板。二枚を連結させて使うようで、上面に差し込みのため凸部が成形されている。両端には矢羽根状の線刻文様が施される。文様などから、あるいは古墳時代製品の可能性がある。W541・544・545・547・554は木製容器である。W541は腐食等損傷が著しいが、大型の皿か槽と考えられる。樹種はブナ属。W544・545は皿で、樹種は両者ともケヤキ。W547は盤で樹種はケヤキ。W554は曲物底板で、曲物側に固定するための木栓が2箇所残っていた。樹種はスギ。W585は鋸歯状の刻み目が施される板状木製品で、W586のようなササラ状木製品の断片か木製蛇形の可能性もある。樹種はネズコ。

D2区：SD07 跡とSD31・62の合流部分にあたり、一部遺物が混入している可能性がある。土器4221～4223が出土する。4223は厚底鉢と呼ばれツキウスの用途を持つとされる。底部は極端に肥厚し、裏面から浅い刺突が無数に施される。また底部中央には焼成前からの円孔が施され、粉碎した粉末が下にあてがった容器に落ちることを期待したものであろうか。あるいは底部の刺突と併せ、粉碎時の固定を目的としたものか。器内面・外底ともに摩耗痕跡が無く、未使用に近い状態である。

O1区：(SD03)・SD07・08・13 調査時はSD07・08・13が分離可能と考え掘り下げたが、一つの河道であったものを誤認していた可能性がある。図面・遺物の関係上旧番号を生かしたまま報告する。またSD03は河跡検出面を切る形で検出された溝で、調査時はSD31の続きと考えていた。しかし全体から考えると、SD03の続きが他調査区で確認できず、またSD31の南側流路であるSD62から河跡A2区と同字の墨書が出土したこともあり、報告ではSD03は単独の溝として考えておきたい。土器4300～4304、4325、墨書土器F259、木製品W518・546・548・552・555・559・565・580・583・584・589・590・637、土製品E118が出土する。4300・4301は長胴甕。器表面・内面全体にハケメ調整を密に施すが、4300は地のヘラケズリ痕跡を消しきれない箇所もある。4302は有台杯で、外転する高台から張り出した胴部、口唇部はやや外反する。IV1期に比定されよう。4303・4304は無台杯で、4303は口唇部が肥厚しながらわずかに外反する。IV1期に比定されよう。墨書土器F259は無台杯外底中央付近に判読不明の墨書を持つ。あるいは文字ではなく、筆馴らしのような習書的な性格の可能性もある。器形はやや偏平な椀形状を呈し、Ⅲ～Ⅳ1期に比定される。木製品W546・548は皿で、内面には無数の線状擦痕が走る。樹種はケヤキ。W552は曲物底で、側の曲物と底板が残った状態で出土した。底板は5ヶ所の木栓で固定される。樹種はネズコ。W555・559は曲物底板で5ヶ所の木栓留痕跡が残り、555には内1ヶ所に木栓残欠が遺存する。樹種はスギ。W565は蓋、あるいは甌底板の可能性のある木製円盤。中央には円形の穿孔が施される。樹種はネズコ。W580は剣ないし刀形の把部分。把頭・把間・把縁が一木で造り分けられており、刃部は欠損する。把間約8cmの小型品であり、実用と言うよりは木製形代の範疇でとらえた方が良からう。樹種はコナラ節。W583・584は舟形で、583は半損。船底はやや鋭角に仕上げられている。樹種はヒノキ科。584は完形品で、断面形状長方形だが、船底は緩やかに弧を描く。

O2区：川跡 調査幅10m+だが、B2区側での立ち上がりが確認できないため河幅については保留しておきたい。深度は0.7～0.8m、第3～8号木簡が川岸付近で集中して出土していることを考えると、単なる屈曲部でなく溜まり状のテラスになる可能性がある。土器4316～4324・4326～4342、土製品E119～122、木製品W502・505～508・510・512・524・526・528・532・538・558・561・574～576・

593・594・598・603～606・611～614・618・619が出土する。墨書土器は確認されなかった。4317は稜椀、口径20cmを越える大型品で、胴部中半やや下寄りに1段の稜を作出する。高台は断面方形で強く外転する。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4319～4324は有台杯。体部高の低い偏平タイプが大半を占め、概ねⅣ1期に比定されよう。4325～4343は無台杯。体部下半が張らず、やや外反しながら直線的に口縁部が延びるタイプ(4327・4331)と、胴部下半が張って丸みを持つタイプ(4326・4328～4330・4332～4334)に分けられる。前者がⅢ期、後者がⅢ～Ⅳ1期に比定されよう。4338～4341は長胴甕、4342は土師器括れ鉢である。木製品W502・505～508・510は木簡。W502は第3号木簡で、「郡□(符か)」の書き出しから始まる郡符木簡。差出人は裏面の「主政・主帳」、宛所は表面の「大野郷長」である。差出人の「主政・主帳」は言うまでもなく郡司三等官・四等官を指し、加賀郡司から本遺跡の所在する加賀郡大野郷郷長に発せられた召喚状であろう。内容は下半部を欠損し不明だが、裏面に「出火急」とあることから、大野郷長もしくは指定の人物を、加賀郡司ないし指定の場所へ召喚させるように命じたものであろうか。W505は第4号木簡。右半部・下半部を欠損し、右半部は意図的にキリオリして廃棄した可能性が高い。内容は二字目に「召」とあることから召喚木簡の類で、本来は一段に3～4名の歴名が存在していたのであろう。左側の「山邊志祁良」は後述する第1号木簡歴名に同姓者が見える。W506は第5号木簡。キリオリ廃棄されたと推測される木簡断片で、表裏面に墨書が確認できる。どちらが表裏かは俄に断じがたいが、「十一月七日」の日付を持つ面を暫定的に裏面とした。W507は第6号木簡。表裏面に墨書のある付札状木簡で、下端を尖らせる。裏面の「御物」墨書は表面と異筆である。W508は第8号木簡。下端を尖らせる付札状木簡で、「右大辨史田家」の語句が注目される。W510は第7号木簡、転用材への習書木簡で、「人」「大」を複数字墨書する。「人」の一字目と二字目には句点が打たれる。樹種はW510を除きスギ、W510はヒノキ。W524・526は糸巻部品で、524が杵木、526が横木になる。樹種は両者ともスギ。W528は木製紡錘車。上面は平坦ではなく、周縁を残して凹みを有する。樹種はスギ。W538は一木の横櫛で、樹種はイスノキ。イスノキは堅緻な材で、広くクシ材として用いられている。W574～576は木製形代。574・575は斎串状の薄板で、575は笹葉状を呈する。W576は馬形で、鞍等の表現のないことから裸馬を模したものであろう。頭部には切り込みで口を、刃物の刺突で目を表現する。樹種はW574・576がスギ、575はヒノキである。W604～606は、棒状木製品の一端・両端に抉りがあるもの。W604・605は一端にフック状の小さな抉りを作り出し、中央部にも断面逆台形の抉りを作り出す。形状的には布巻具に近い。W606は両端に抉りを作り出すが、長さが約16cmと短い。W618は机の脚部と考えられる。618-1が脚部本体で、618-2が貫材であろう。樹種はスギ。

Q2区：川跡 A2区SD08の対岸に相当し、河幅約12～13m、深度約1.2mである。土器4356～4377、墨書土器F263～268、土製品E130～132、木製品W570が出土する。4360～4365は有台杯で、概ねⅢ～Ⅳ1期に比定される。4366は底部に糸切痕跡を残す有台椀で、これのみ時期がⅥ期以降と下がる。4367～4371は無台杯、4372・4373は盤である。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4376・4377は赤彩土師器椀で内外面を赤彩する。墨書土器F263は外底に「語」字が墨書されるもので、A2区SD08出土の「語」字墨書と一括性の高いものであろう。F264の「天平二年」字も同様にSD08から同字が出土する。SD08出土のF97とは文字の書き癖・配置バランスなどがよく似ており、同一人物による墨書の可能性を指摘しておきたい。木製品W570は巻子のインデックスとして用いられた題箋軸であろう。本例には無いが、平城宮などで出土する題箋軸には頭部に巻子の内容を示す墨書がなされているものもある。

R1区：河道 B2区・D区の対岸で、A2・Q2区から北上する河道がO2区側へ蛇行する屈曲部にあたる。河幅約14m、深度0.7～0.8mである。土器4378～4416、墨書土器F261・269～277、木製品

W556・587・615が出土する。4380～4386は杯蓋で、かえりの部分が断面三角形で垂下するタイプ（4380・4382・4383・4386）と、肥厚させて垂下しないタイプ（4381・4385）に大別される。口径は15cm代が大半を占める。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4387～4395は有台杯。断面方形の太い高台が強く外転するタイプ（4388～4391）と、外転しないタイプ（4387・4392～4394）に大別できる。器形は4395を除き偏平タイプで、Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4395は異形の有台杯で、ほぼ直立する口縁部と、体部と一体化したような高台を持ち、筒形を呈する。4396～4405は無台杯。胴部下半に張りを持たない口縁部直行タイプ（4396・4397・4400・4403・4404）と、胴部下半に張りを持つタイプ（4398・4399・4401・4402・4405）に分けられる。前者が古相を持ち、Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4406・4407は土師器拵鉢で、胴部下半をヘラケズリ、上半をヘラケズリ後ハケメ調整を施す。4408～4410は赤彩土師器椀で、4439は深身で口唇部が内湾する。墨書土器F261は外底高台内に「人」袋文字を墨書する。Ⅳ1期に比定されよう。F269は「遊多有女」「人」袋文字を複数墨書する盤で、筆勢から同一人物の筆による可能性もある。F270は「奈ツ加志」「大」字を複数墨書する。「奈ツ加志」は、あるいは万葉仮名による「なつかし」の表記であろうか。F271は「枚人」、F272は「倉持」で、A2区SD08に同字がある。F273は破片で「年」しか判読できないが、「年」の書き癖から「天平二年」と墨書されている可能性がある。F275～277は転用硯。いずれも有台杯の高台内面を利用しており、墨面は摩耗が著しい。F277は筆を扱いた跡らしき墨痕が体部にも残る。木製品W587は机天板と考えられ、裏面には脚部を受ける凹部と方形孔が作出される。

W区：川・川肩 O1区付近から川筋をやや北西方向に振りながら、蛇行せずに北上する。土器4546～4581、墨書土器F292～305・308・309、土製品F134～142、金属製品M11が出土する。4555は環状鈕を持つ稜椀蓋。全体的にシャープな作りで、口唇部は断面嘴状に垂下する。4556は球胴短頸壺蓋。深みの体部を持ち、口唇部は断面嘴状に内傾しながら垂下する。4601～4604は有台杯。4601・4602は深みの椀形状を持ち、断面方形の高台はまっすぐに垂下する。Ⅳ2～Ⅴ期に比定されよう。4562は太い高台が外転するタイプ。Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4564～4572は無台杯。4564は口径が14cmを越え、胴部下半は張らずにやや外反しながら体部が立ち上がる。Ⅲ期に比定されよう。4573～4575は盤。4575は盤に高台の付いた有台盤で、短い体部が垂直に立ち上がる。4578は短脚タイプの内面黒色高杯。杯部の器形はⅢ期の無台杯タイプである。4579は鉄鉢器形をとる赤彩土師器鉢。墨書土器F293～297は「津」字を天井・外底に墨書する。他に「津」字を出す遺構は、W区南端で河跡と合流する古代流路のSD31・62だけで、あるいは合流後の混じりかもしれない。Ⅳ1期に比定されよう。F298・299は「平」墨書土器。「平」字も特定の遺構に留まらず広く分布する墨書である。F304・305は「人」袋文字墨書。F308・309は線刻土器で、便宜上墨書で取り扱う。F309は「井」を内面に線刻する。金属製品M11は銅椀口縁部片。蛍光X線分析では佐波理椀に近似する組成結果が得られた。分析の詳細は第Ⅵ分冊を参照されたい。

SD31 (B3・I区) —SD62 (W区) W～B3区を蛇行しながら流れる古代流路。河幅2.2～3.2m、深度0.8mを測る。調査～整理中はO1区SD03と繋がって南西方向に流れる流路を予想していたが、SD03の南西側に連続する流路が存在しないことから、W区南端で河跡から分岐するものと考えた。しかし河跡・SD31・62の切り合い断面図からもわかるように、河跡とSD31・62の埋没にはタイムラグが存在することから、河跡埋没後の流路とする可能性は否定できない。本報告では両者から出土する土器にそれほど時期差が認められないことから、併存するものと判断した。土器4137～4161・4257～4259・4505～4544、墨書土器F183～197・200～207・211～224・226～234・280～291、土製品E132、

木製品W501・503・509・514・519・522・525・527・529・530・534～536・539・540・543・549～551・553・557・560・562・563・564・567～569・577～579・581・586・588・591・592・596・599・600～602・607～610が出土する。4140～4146・4506～4511は有台杯。断面方形の高台が弱く外転して接地するタイプのもので大半を占め、深身の形状をとる。4507は特徴的な断面三角形の高台を持つ。4144に古相が認められるが、概ねⅣ1期に比定されよう。4147～4154・4512～4537は無台杯。4135・4154は口径が15cm近辺の大型で、胴下半に張りを持たずに立ち上がる。Ⅲ期に比定されよう。4152は底部・体部とも器厚が薄く、体部は傾斜が強い。Ⅴ期に比定されよう。他はⅣ1期に比定される。4155は鉄鉢。深身の体部を持ち、口縁部は上半で強く内湾する。4156は稜椀。体部上半で明瞭な段を有する。4158・4159は赤彩土師器。4158は口径が15cmを越え、偏平な体部とやや外反しながら立ち上がる体部というⅢ期の無台杯を模倣したような器形を有し、器内面には放射状の暗文を施す。4257は括れ鉢。胴部上半付近に最大径を持つやや腰高の器形で、長い口縁部は鋭く屈曲して外転する。4538は三足盤。口径が40cmを越える大型品で、口縁部は強く屈曲して外反する。底部には脚の剥落痕が認められる。類似品にはB3区SE01上面出土の大盤4166があり、こちらには脚が付かないようである。いずれも分厚い底部・体部を有する。墨書土器F183～195は「津」を墨書する。「津」は古代の港湾施設である津そのものを指す墨書と考えられ、A2区河跡（SD08）出土の「津司」墨書土器と併せ、本遺跡に津湊が存在していた傍証となろう。いずれも最終筆に「、」を付す正字で、杯蓋・有台杯・無台杯と墨書される器も様々である。「津」墨書を出土する遺構はB3・I区SD31とW区川跡に限られ、遺跡北東付近に津湊の中心施設が存在することを窺わせる。いずれもⅣ1期に比定されよう。F200～207・282～285は「山田」を墨書する。「山田」もこの溝固有の墨書で、小さく書かれるものが大半を占める。Ⅳ1期に比定されよう。F212・289は「宮家」を墨書する。「みやけ」と読ませるのであろうか。あるいは近隣に存在する大野湊神社の前身である「佐理翼宮」と関連するのであろうか。F213は「奈ツ加志」「大」を墨書し、R1区河道F270と同内容である。F215～217・219・287・288は女性名を表す「刀女」を有する墨書で、215は「庄刀女」216は「原刀女」217は「本刀女」219・287・288は「奈刀女」である。F220は則天文字「人」を墨書するもので、則天文字墨書はこれが唯一である。F221・280・281は外底部いっばいに「男山」を墨書する。「男山」もこの溝固有の墨書である。木製品W501・503・509は木簡。W501は出挙稲の収納に用いられた帳簿様木簡で、冒頭に「天平勝宝四年」（752年）の記載を持つ。この年紀から、SD31の埋没上限年代を8世紀第3四半期と考えることができよう。裏面には馬の下半身が描かれ、絵馬ないし習書された板を転用して帳簿として用いたものであろう。W503は「符」の書き出しから始まる郡符木簡で、現存長29.4cm、下半を欠損する。差出人は「田領横江臣」某、宛所は「田行笠□等」で、田領は郡司支配下の郡雑人、「田行」は初出で意味不詳だが、やはり郡雑人であろうか。郡符木簡は現在9遺跡13例が知られているが、内完形品は3点である。その3点がいずれも2尺（60cm弱）を指向しており、後述する第11号木簡（W503）が27.8cmを測ることを考えると、屋代遺跡例のように嚴重にキリオリ廃棄するパターンと、本遺跡例のようにちょうど半分まで折って廃棄するパターンがあることを窺わせる。W509は第10号木簡で、下端を尖らす付札の形状をとる。断片で文意不詳。樹種はいずれもスギ。W514は作業台として用いられる木型で、中央部分が凹み敲打による傷が多数ある。樹種はスギ。W519はアンギン台、撚糸を下げるための鋸歯状刻み目と、台に固定するための方形孔が作出される。樹種はスギ。W530は糸巻のちょうど半分部分で、上端に杵木、下端に軸木を連結する穿孔が確認できる。樹種はスギ。W535は弓の弓筈部分で樹種はイヌガヤ。W539・540は槽で、539は両端に把手を持つ大型品である。樹種はスギ・モクレン属。W560～564は曲物底板で、564は中央部に菱形になるように4つの穿孔を施す。樹種はいずれもスギ。

W568は中央部に穿孔を持つ円盤状の木製品で、紡錘車の可能性がある。樹種はスギ。W569は筆箱に似た形状の箱形容器で、中に水を入れて傾斜を測る水準器であろうか。樹種はスギ。W577・578は人形で、578には刃物により目・鼻・口の表現が施される。いずれも腕が表現されないタイプで、樹種はスギ。W581は刀形で、刃・把が一木で造り出される。刃部が薄く作出されることから刀形とした。樹種はスギ。W599～601は板の両端に方円頭を作出する紡織具。599は全長不明だが、600・601は胴の部分約30cmと1尺を指向した作りになっている。樹種はいずれもスギ。

SD05 (A1区) 調査区南端-SE03を南西-北東方向に流れる溝で、SE03以北の流路は確認されなかった。南端では浅い不整形な溜まり状の落ち込みに変化する。溝幅0.4～0.5m、深度0.15mを測る。遺物は須恵器甕4004が出土する。

SD58・60 (A3区) いずれもA3区外では延びを確認できない溝。58は極めて浅く、最大でも深度0.15mしか遺存しない。60は南東方向に向かうにつれ浅くなる。58で無台杯4123、60で杯蓋4121を出土する。いずれもIV1期に比定されよう。

SD26 (B3区)-11 (S4区)-22 (I区)-15 (B2区)-08 (D2区) 跡から分岐し、SD31の南を蛇行して流れる溝。溝幅1.5～2.2m、深度約0.5mを測る。遺物はS4区SD11から杯4439が出土する。

SD04 (D2区)-04 (O1区)-60 (W区) SD31-62に合流する溝。河跡以南では流路を確認できなかった。溝幅0.6～0.7m、深度0.25mを測る。長胴甕4489が出土する。

SD23 (C2区)-40 (S1区)-08 (R1区) ほぼ東西に流れる溝。河幅1.5m、深度0.5mを測る。東端はR1区内で立ち上がっている。遺物は須恵器小片が出土する。

SD12 (N2区)-13 (F区)-08・18 (M3区) 溝幅1.3m、深度0.5mを測る。V1区・E区では溝の錯綜により延びを確認できなかった。土器4265・4281～4288、墨書土器F255・256を出土する。4265は長胴甕で、胴部上半にカキメ、下部に格子状タタキを施す。4283～4285は無台杯で、Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。4287・4288は赤彩土師器杯で、両者とも内面立ち上がりに放射状・内底面に連弧状の暗文を施す。墨書土器F255・256は判読不能の墨書を記し、Ⅲ期に比定されよう。

SD29 (N1区)-15-102b (N2区) ほぼ南北方向に流れる溝で、溝幅1.5m、深度0.2mを測る。北端ではN2区SD12に合流し、以北では検出できなかった。東隣する掘立柱建物SB369とほぼ同じ方向軸を持ち、建物群の区画溝となる可能性がある。有台杯4278、墨書土器F254を出土する。有台杯4278は深身の体部を有し、IV1期に比定されよう。墨書土器F254は「人」袋文字を墨書し、IV1期に比定されよう。

SD28 (N1区)-102b-23 (N2区) N1区SD29他にほぼ平行して走る溝。溝幅0.5m、深度0.2mを測る。

SD18-102a (N1区) 溝幅0.4～0.5m、深度0.2mを測り、覆土ともに類似する。F区で河跡に重複して確認できなかったが、直交して方形区画溝になる可能性を指摘しておきたい。遺物は出土しなかった。

SD27 (N1区)-109 (N2区) SD102aにほぼ平行して走る溝。溝幅0.5m、深度0.2mを測る。SD102a-27間は約20mである。土師器括れ鉢4279を出土する。

SD18-102a (N1区) 溝幅0.4～0.5m、深度0.2mを測り、覆土ともに類似する。F区で河跡に重複して確認できなかったが、直交して方形区画溝になる可能性を指摘しておきたい。遺物は出土しなかった。

SD27 (N1区)-109 (N2区) SD102aにほぼ平行して走る溝。溝幅0.5m、深度0.2mを測る。SD102a-27間は約20mである。土師器括れ鉢4279を出土する。

SD13-14 (N1区)-No無し (M1区) N1区SD102a・SD27にほぼ平行に走る溝。SD27-13間は約21mであり、これらの溝は条里溝として把握できるのかもしれない。土師器椀4277が出土する。

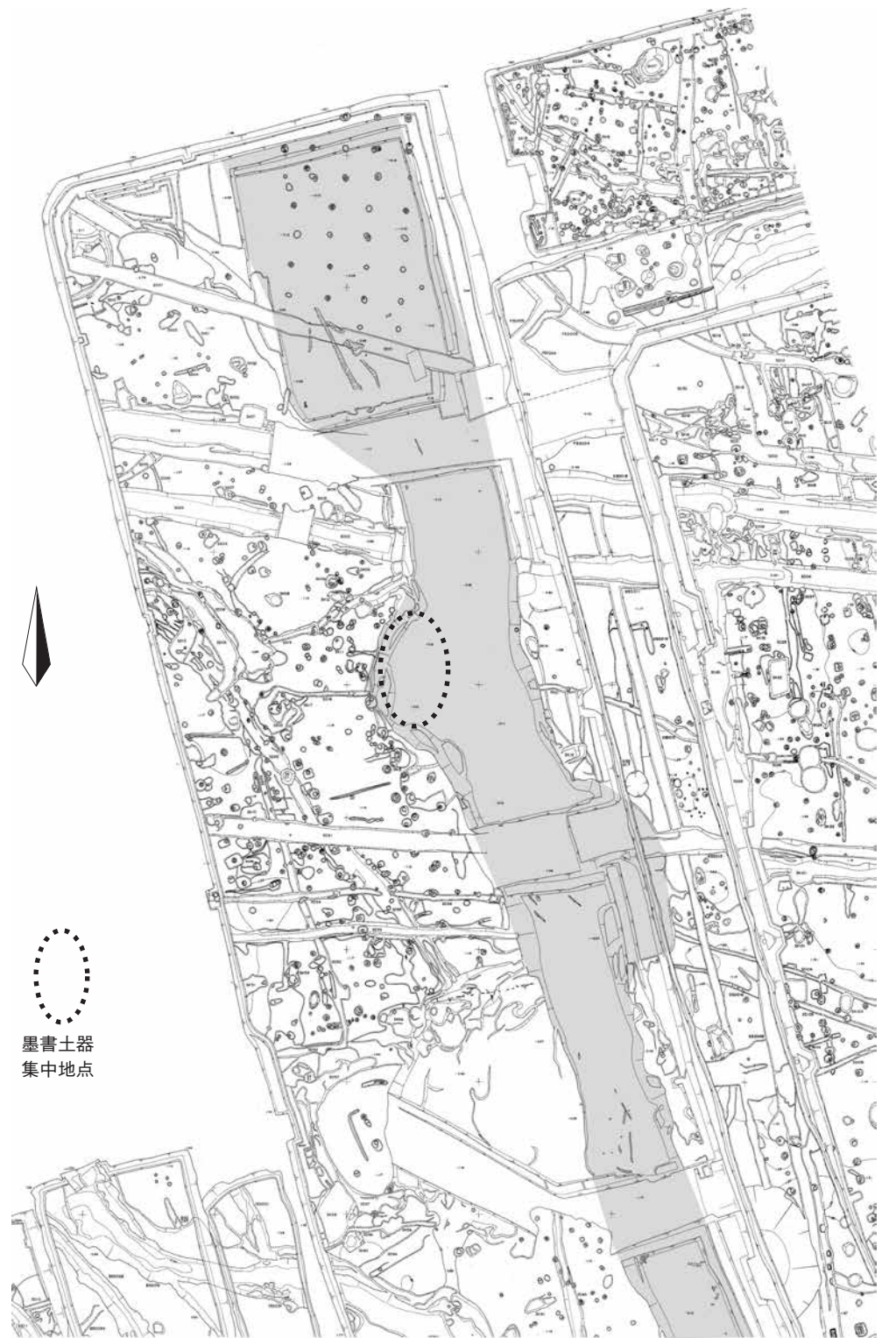
SD03 (O1区) O1区河跡上面で検出された溝で、溝幅3.3m、深度0.6mを測る。当初はSD31 (B3

区) -62 (W区) の延長と想定していたが、本報告では単独の溝として報告する。南北双方に延長が確認できず、河跡の別支流の可能性もある。土器4293~4299、墨書土器F257~260を出土する。4293~4297は無台杯で、胴部下半に張りを持たずに口縁部が立ち上がるタイプが大半を占める。Ⅲ期に比定されよう。墨書土器F257は「刀女」墨書で、本来は上に名を示す文字が存在していたであろう。F258・259は判読不能。Ⅲ~Ⅳ1期に比定されよう。

SD79 (Q1区) 溝幅1.0m、深度0.4mを測る。両方向に延長がなく、一見土坑状を呈する。有台杯4343を出土し、Ⅳ1期に比定されよう。

SD31-34 (T区) 方形状に巡る溝で、31は溝幅0.6m・深度0.4m、34は溝幅0.8m・深度0.3mを測る。方形は南北辺約8m、東西辺約7mを測り、北東隅を中世の井戸によって損壊されている。全周が巡らず、南東隅が開く。本遺構に伴う内部施設は確認されなかったが、古代の掘立柱建物が全てこの方形溝を避けて建てられていることから、何らかの儀式空間、ないしは礎石建物のような特殊な施設が存在していたことを想定させられる。土器4449~4458が出土する。横瓶4449・高杯4450・土師器括れ鉢4453のような他の遺構では見られない器種が出土していることから、本溝の特殊性がうかがえよう。無台杯4451は胴部下半に張りを持たずに口縁部が立ち上がるタイプで、Ⅲ期に比定されよう。

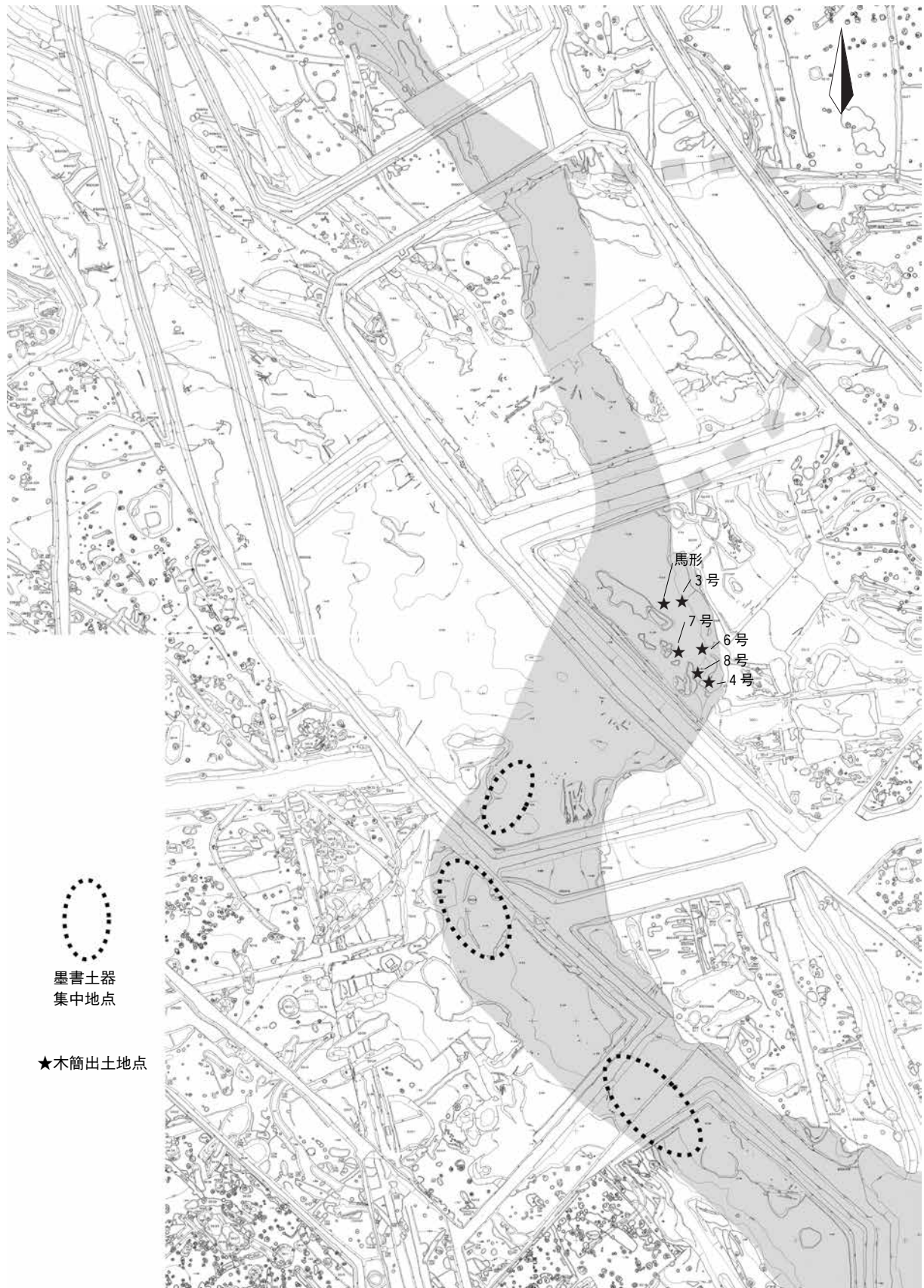
SD52 (W区) 南東隅で鍵状に曲がる溝で、溝幅0.5m、深度0.1mを測る。W区西側、金沢市調査区に展開する建物の区画溝であろうか。土器4483~4488が出土する。杯蓋4484は稜椀蓋の可能性があり、口径も20cm強と大型である。4486~4488は無台杯で、Ⅳ1期に比定されよう。



河跡-1 (W区)

0 20m

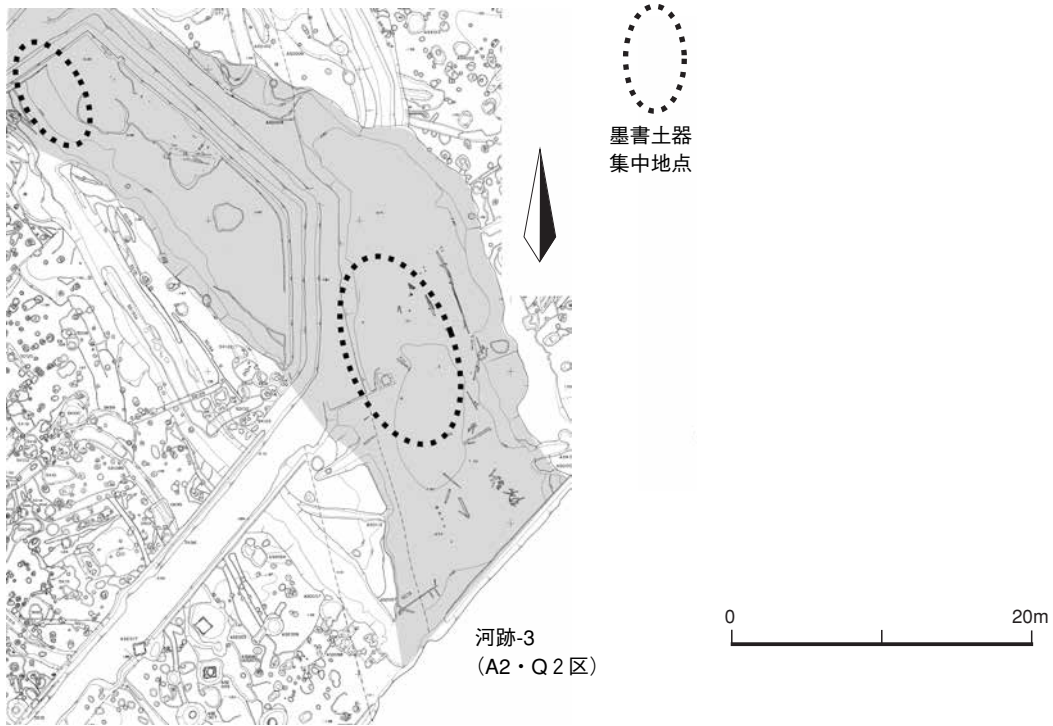
第54図 古代遺構図53 (1/500)



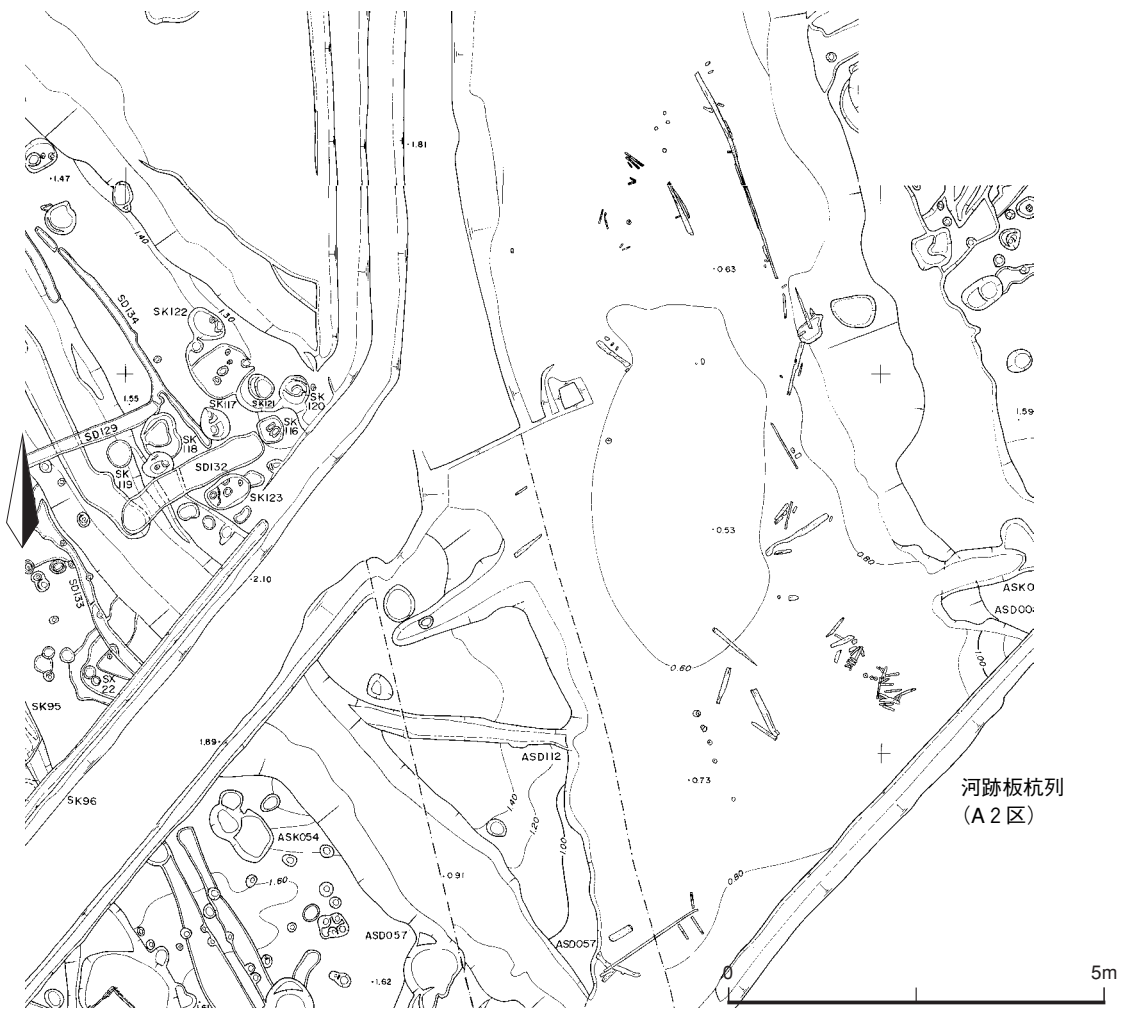
河跡-2 (O1・2区、B2区、D区、R1区、Q2区、A2区)

0 20m

第55図 古代遺構図54 (1/500)

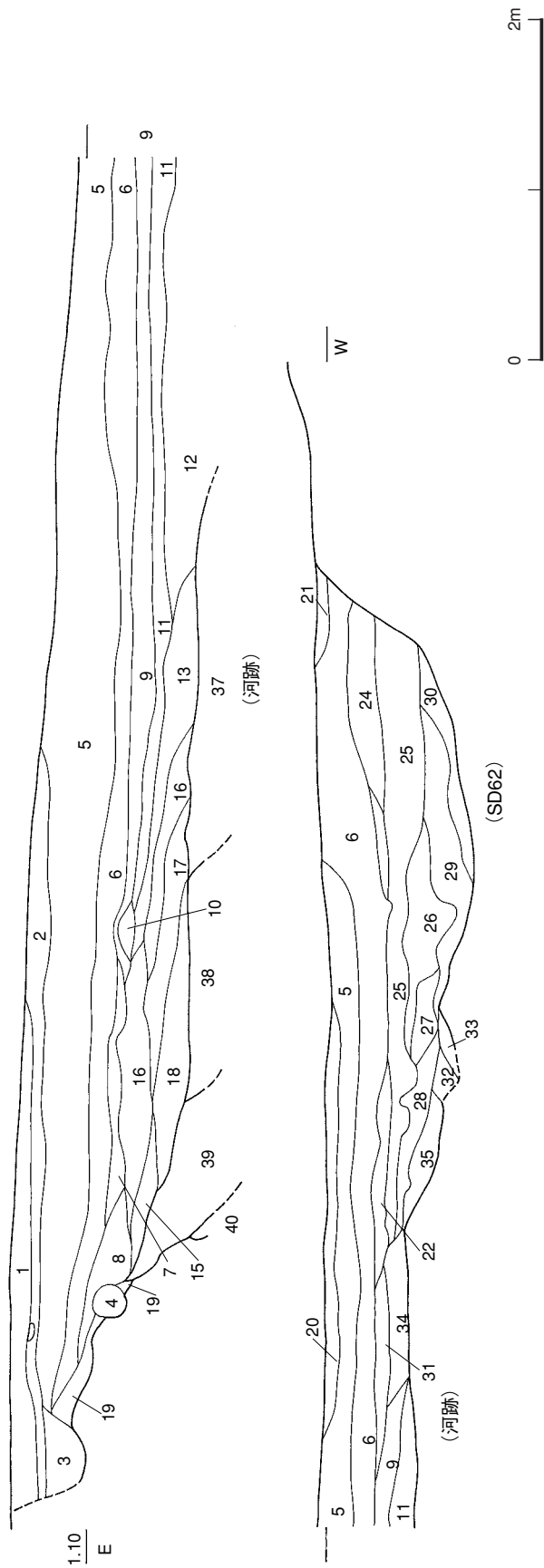


第56図 古代遺構図55 (1/500)

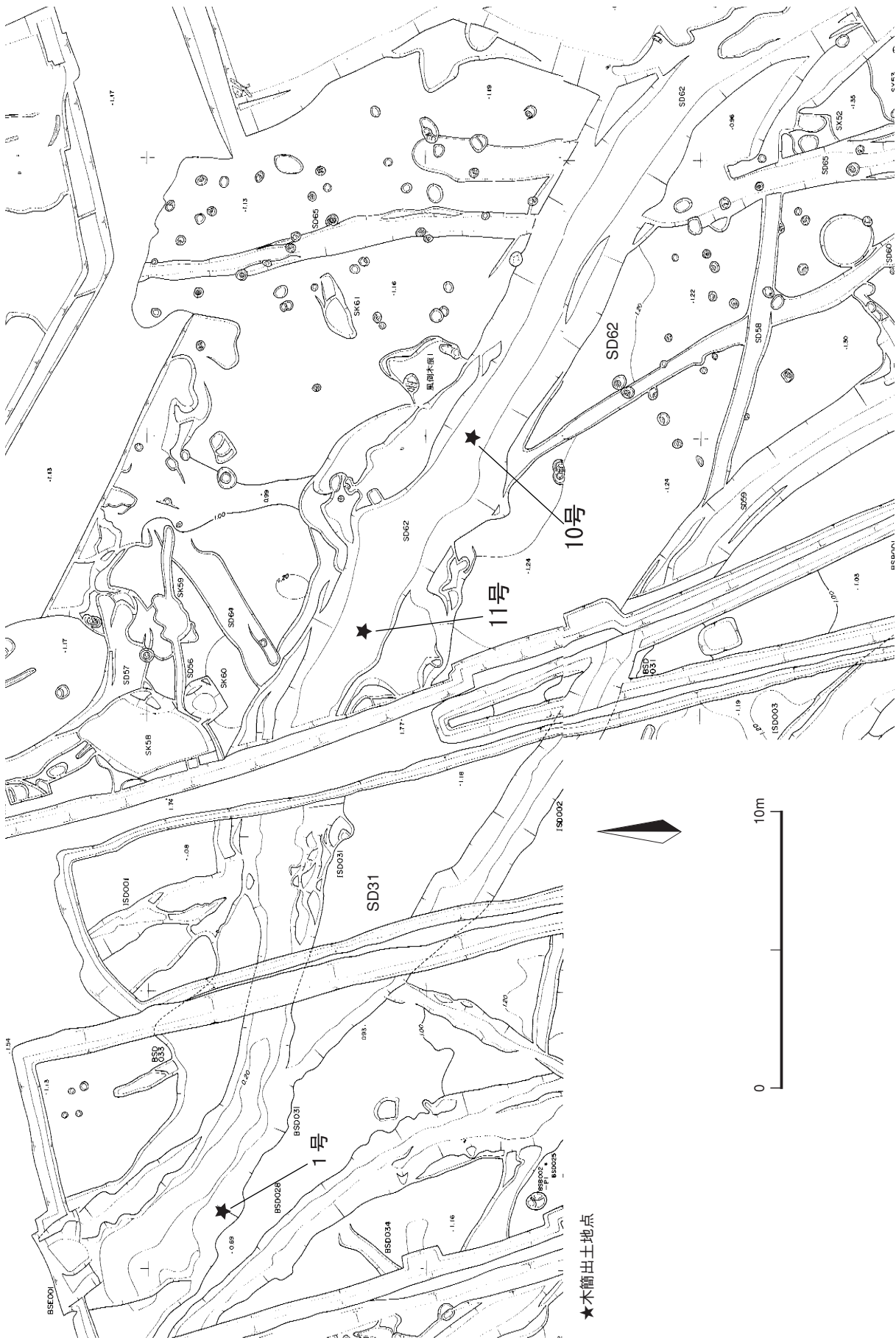


第57図 古代遺構図56 (1/500)

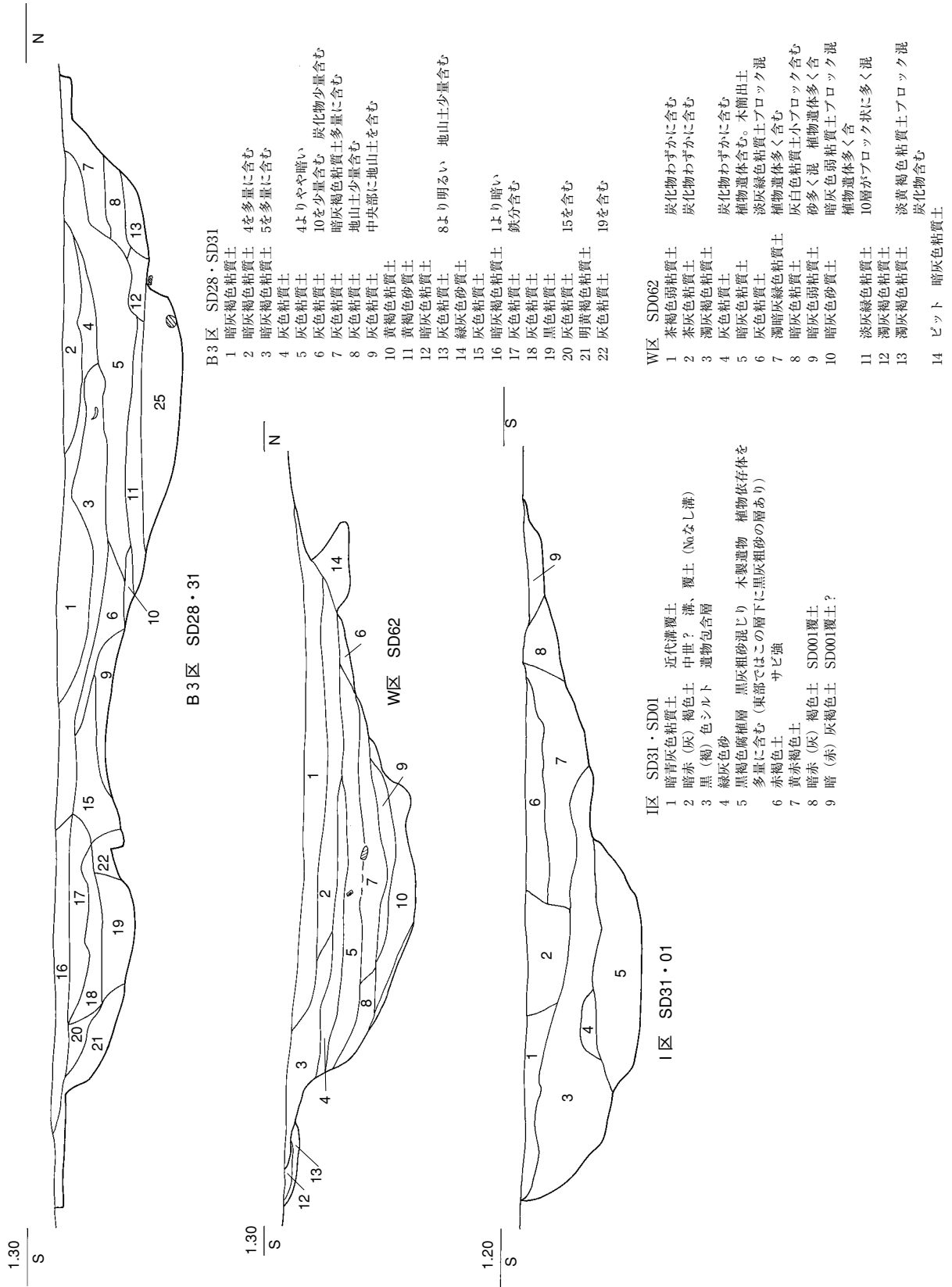
- | | | | | | | | | | |
|--------|---------------------|---------|---------------|---------------|----|-------------|---------------|---------------|------------|
| W区川跡 | 調査区南壁 | 16 川埋土 | 濁灰色砂質土 (粘性あり) | 淡灰色砂が層状に多く入る | 植物 | 30 SD62 | 暗灰色粘質土 | 暗灰色砂と層状に混ざり合う | 植物遺体わずかに混 |
| 1 耕作土? | 濁灰色シルト | 17 川埋土 | 淡灰色砂 | 濁灰色粘質土 (粘性あり) | 植物 | 31 川跡 | 淡灰色粘質土 | 炭化物わずかに入る | |
| 2 耕作土? | 淡灰色シルト | 18 川埋土 | 濁灰色粘質土 (砂混) | 炭化物わずかに混 | | 32 川跡 | 濁灰色粘質土 | 濁灰色粘質土プロック多く混 | |
| 3 遺構 | 淡茶褐色弱粘質土 | 19 川埋土 | 濁灰色粘質土 (砂混) | 炭化物わずかに混 | | 33 川跡 | 淡青灰色粘質土 | 灰色砂が層状に混 | 植物遺体、炭化物含む |
| 4 ビット | 濁灰色粘質土 | 20 攪乱? | 濁暗灰色シルト | 炭化物、植物遺体含む | | 34 川跡 | 濁灰色粘質土 | 濁灰色粘質土プロック多く混 | 植物遺体 |
| 5 川埋土 | 濁淡茶褐色粘質土 | 21 攪乱? | 濁暗灰色シルト | 炭化物わずかに混 | | 35 SD62 | 暗灰色砂 | 濁灰色粘質土プロック多く混 | 植物遺体 |
| 6 川埋土 | 淡茶褐色粘質土 | 22 SD62 | 濁灰色粘質土 | 炭化物わずかに混 | | 36 川跡 | 暗灰色砂 (粗砂) | 濁灰色粘質土プロック混 | 植物遺体含む |
| 7 川埋土 | 濁灰色粘質土 | 23 SD62 | 濁茶褐色粘質土 | 炭化物わずかに混 | | 37 灰色砂 (粗砂) | 濁灰色粘質土プロック多く混 | 植物遺体多く混 | |
| 8 川埋土 | 濁灰色粘質土 | 24 SD62 | 淡灰色粘質土 | 炭化物、植物遺体含む | | 38 灰色砂 (粗砂) | 濁灰色粘質土が層状に混 | 植物遺体多く混 | 炭 |
| 9 川埋土 | 濁灰色粘質土 | 25 SD62 | 暗灰色粘質土 | 暗灰色粘質土プロック混 | | 39 濁灰色粘質土 | 炭化物 (小粒) 多く混 | 濁灰色粘質土プロック混 | |
| 10 川埋土 | 濁灰色粘質土 | 26 SD62 | 濁灰色粘質土 | 暗灰色粘質土プロック混 | | 40 淡灰色粘質土 | 濁灰色粘質土プロック混 | 植物遺体混 | |
| 11 川埋土 | 濁灰色粘質土 | 27 SD62 | 暗灰色粘質土 | 植物遺体多く含む | | | | | |
| 12 川埋土 | 濁灰色粘質土 | 28 SD62 | 暗灰色粘質土 | 植物遺体非常に多く含む | | | | | |
| 13 川埋土 | 暗灰色砂 | 29 SD62 | 暗灰色粘質土 (粗砂) | 暗灰色粘質土プロック混 | | | | | |
| 14 川埋土 | 灰色粘質土 (I1層, I2層より明) | | | | | | | | |
| 15 川埋土 | 灰色粘質土 | | | | | | | | |



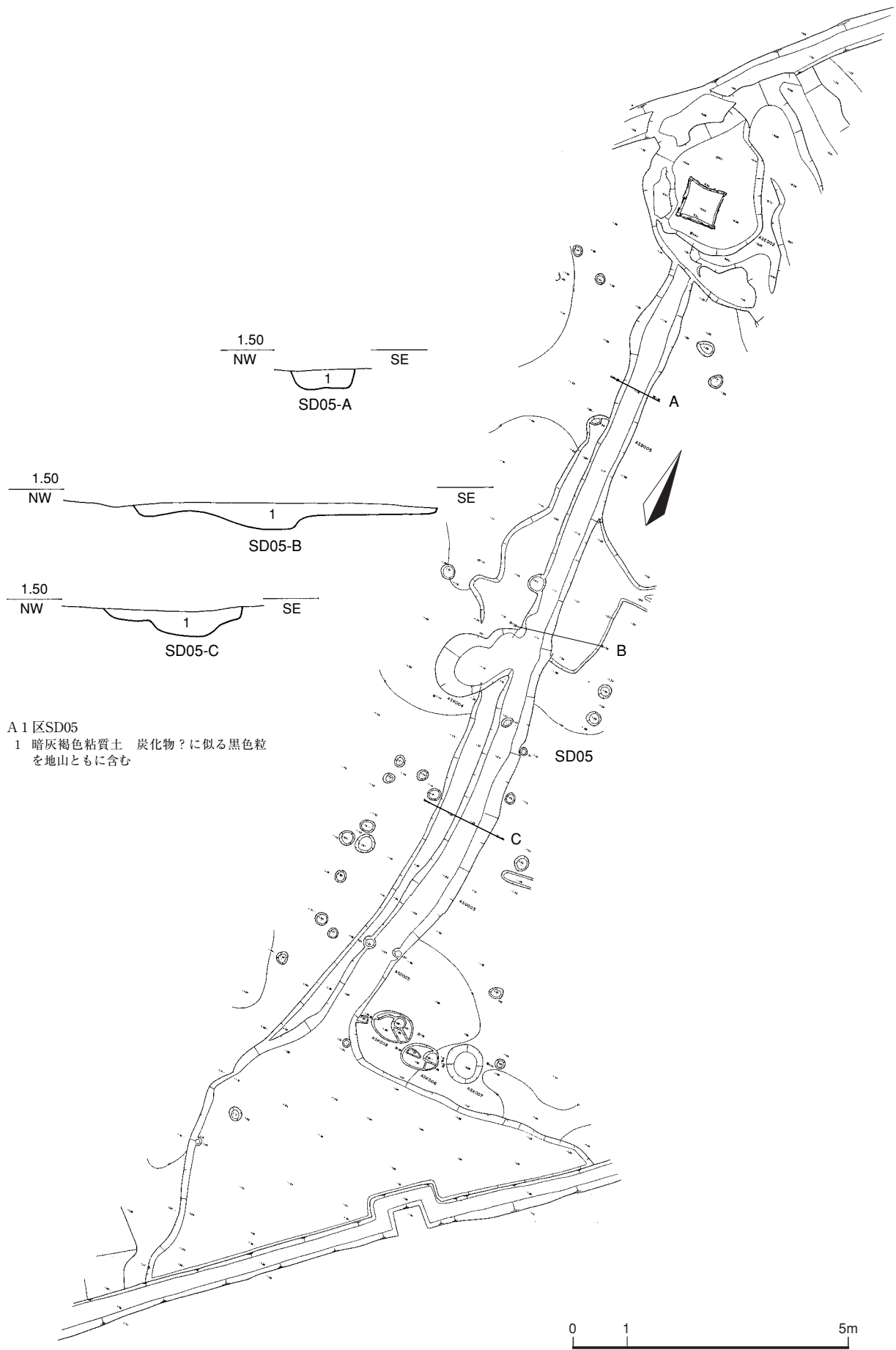
第58図 古代遺構図57 (1/40)



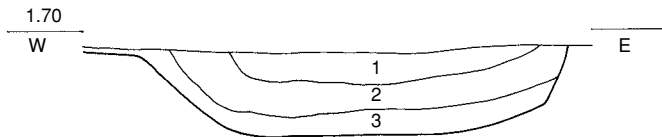
第59図 古代遺構図58 (1/200)



第60図 古代遺構図59 (1/40)

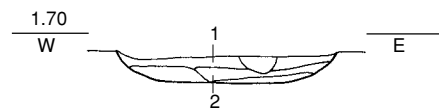


第61図 古代遺構図60 (1/100)



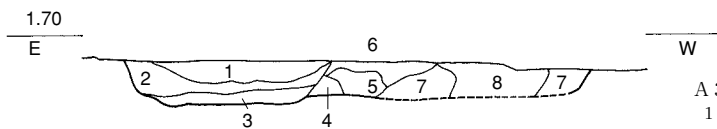
A 3 区SD060-A

- 1 暗灰 (赤) 褐色粘質土
- 2 暗灰 (赤) 褐色粘質土 2層は1層に比べ灰強い 060B、058と同質の土
- 3 黒灰色粘砂



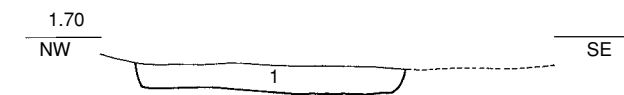
A 3 区SD60-C

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 安灰褐色粘質土 2層は1層に比べ灰味強い。SD58に似る土



A 3 区SD60-B

- 1 暗 (灰) 赤褐色土
- 2 暗 (灰) 赤褐色土
- 3 暗 (赤) 褐色粘質土
- 4 暗黄褐色土 ベース土に暗褐色土がブロック状に混入する
- 5 暗黄褐色土 ベース土に暗褐色土がブロック状に混入する
- 6 暗 (灰) 赤褐色土
- 7 暗褐色粘質土 暗褐色灰砂ブロック (粒か?) 混入する
- 8 暗褐色灰砂



A 3 区SD58

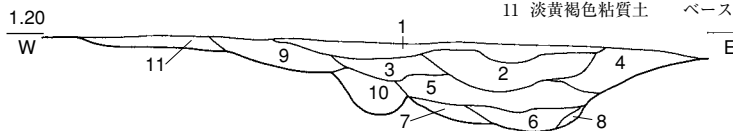
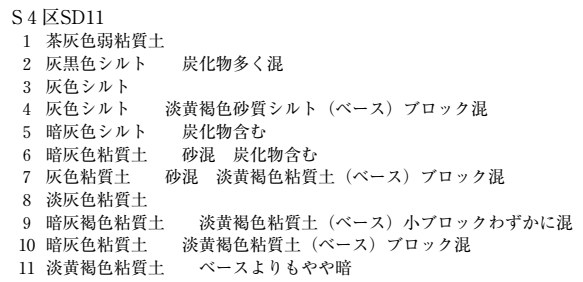
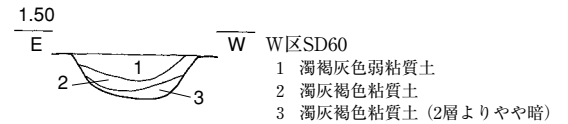
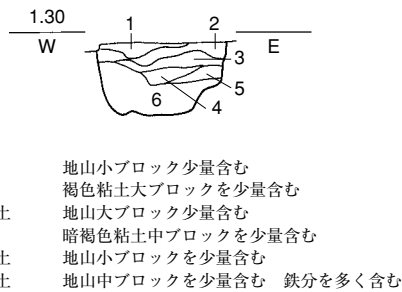
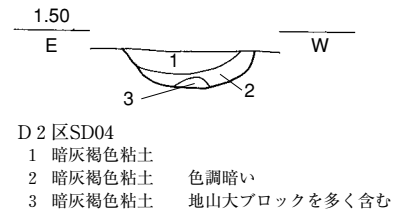
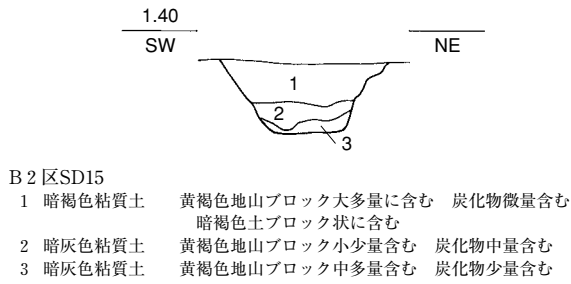
- 1 暗灰褐色粘質土 暗赤色粒子が多量に混じる。地山ブロック混じる



第62図 古代遺構図61 (1/100)



第63図 古代遺構図62 (1/100)



第64図 古代遺構図63 (1/500)

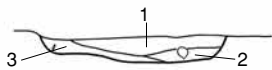
第3節 河跡・溝跡



0 10 20m



1.80
S N



C 2 区SD23

- 1 褐灰色粘質土
- 2 褐灰色粘質土 1層よりやや暗い
- 3 暗褐灰色粘質土

C 2 区 SD23

0 1 5m

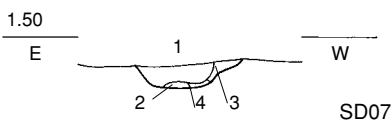
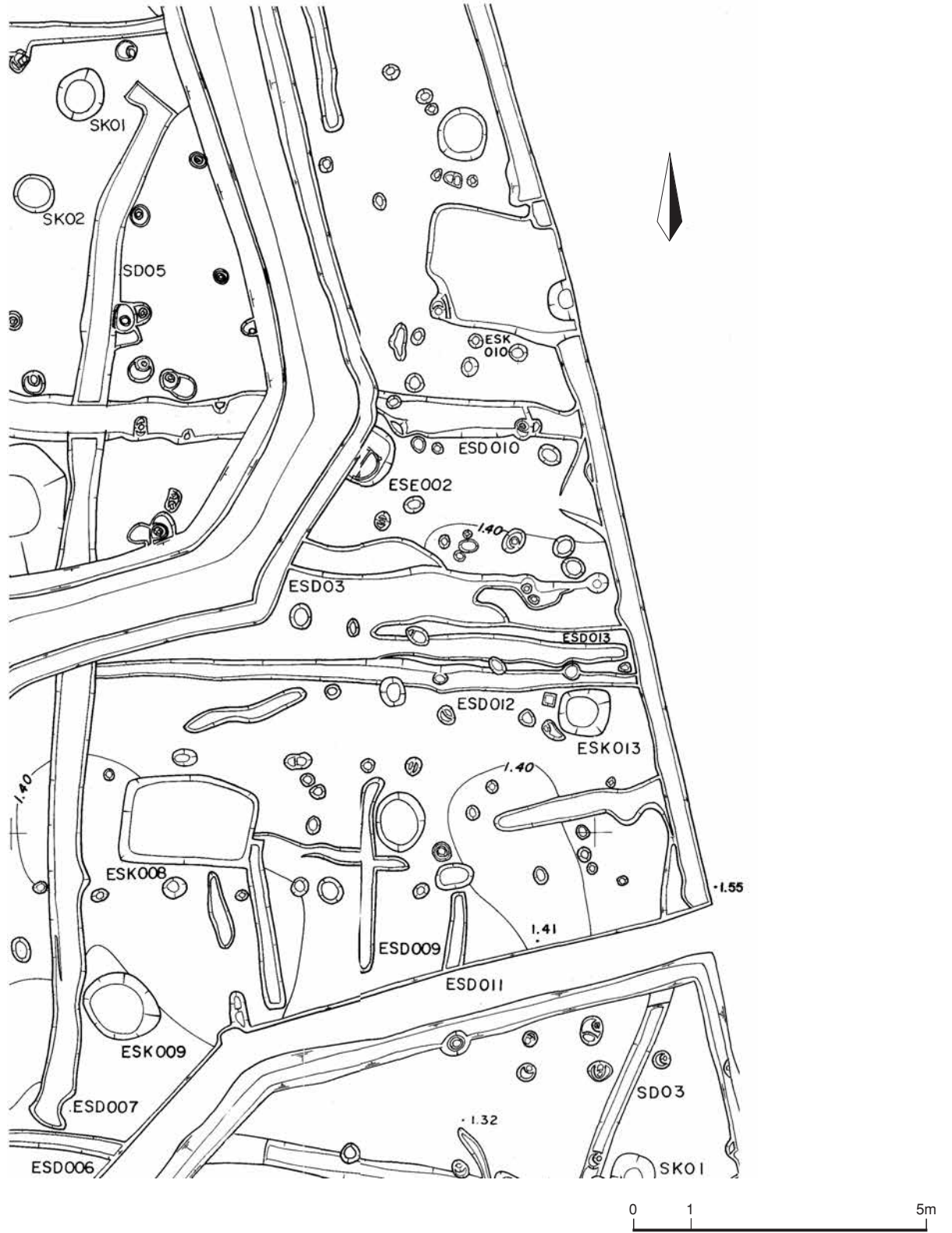
1.50
N S



R 1 区SD08

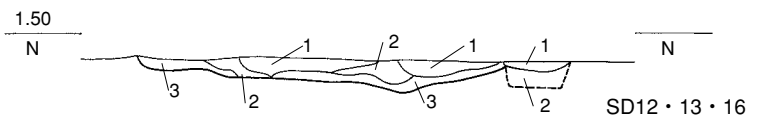
- 1 茶褐色砂粘質土
- 2 灰褐色粘質土
- 3 灰色砂 暗灰色粘質土混

第65図 古代遺構図64 (1/300・1/100)



E区SD07

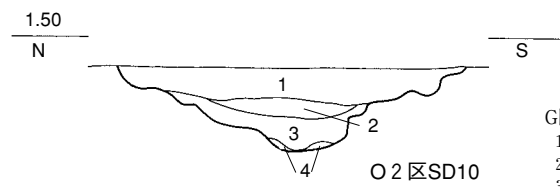
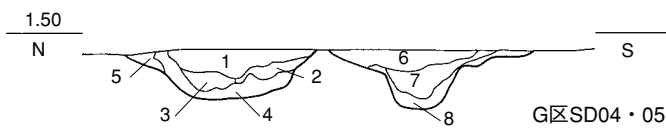
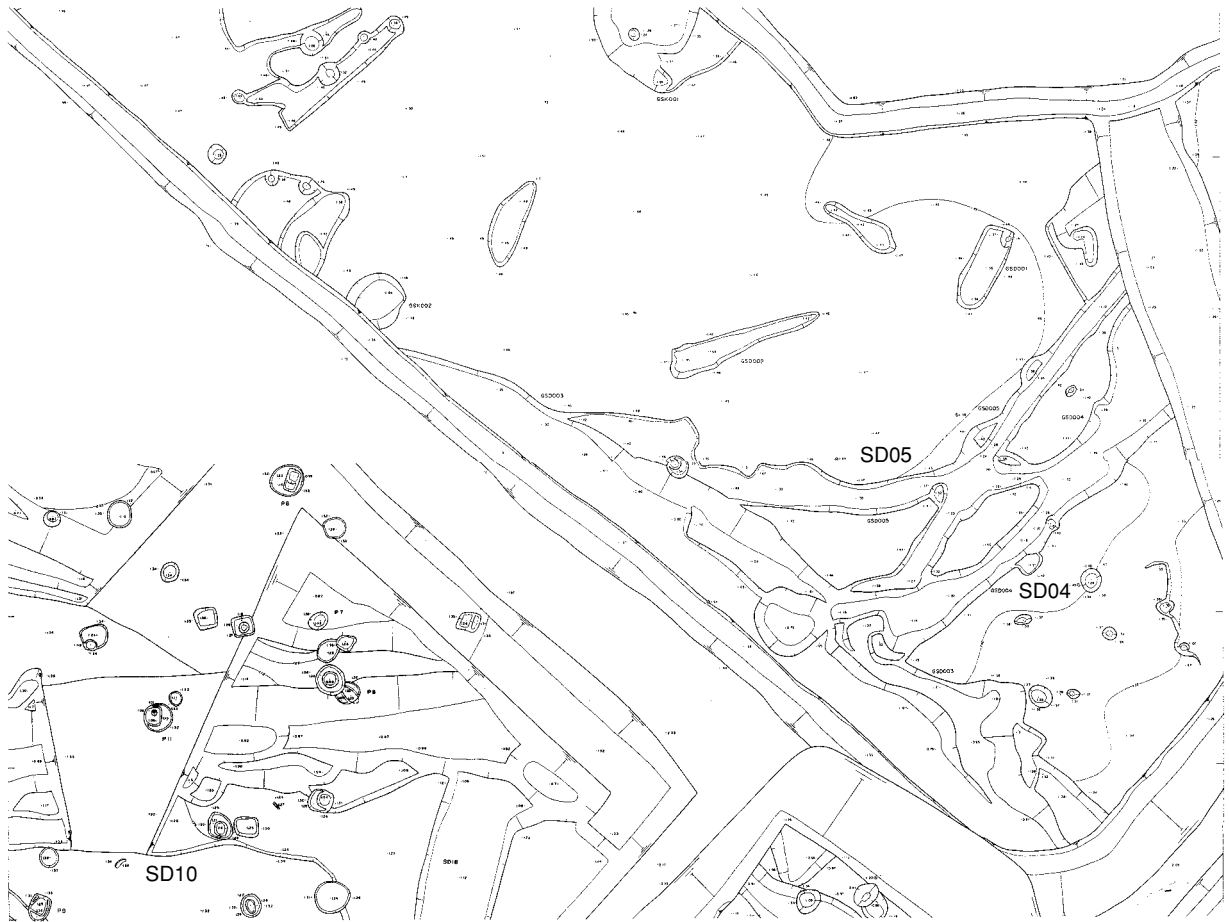
- 1 褐灰色粘質土
- 2 黄褐色粘質土
- 3 黄褐色粘質土 灰色粘質土含む
- 4 明黄褐色粘質土



E区SD13・16・12

- 1 暗灰色粘質土
- 2 黄褐色粘質土 暗灰粘質土含む
- 3 黄褐色粘質土

第66図 古代遺構図65 (1/100)



G区SD04・05

- 1 暗灰褐色粘質土 褐色粘質土少量含む 黄灰色粘地山ブロック小微量含む
- 2 暗灰褐色粘質土 黄灰色粘地山ブロック小少量含む
- 3 暗褐色粘質土 炭化物小少量 黄灰色粘地山ブロック小下層に少量 遺物含む
- 4 黄灰色粘土（地山か？） 灰色粘質土少量含む
- 5 灰色粘質土 地山ブロック中中量
- 6 暗灰褐色粘質土 褐色粘質土少量含む 1層と同じと思われる 炭化物微量
- 7 暗灰褐色粘質土 1、6層より暗い 炭化物微量
- 8 4層と同じ

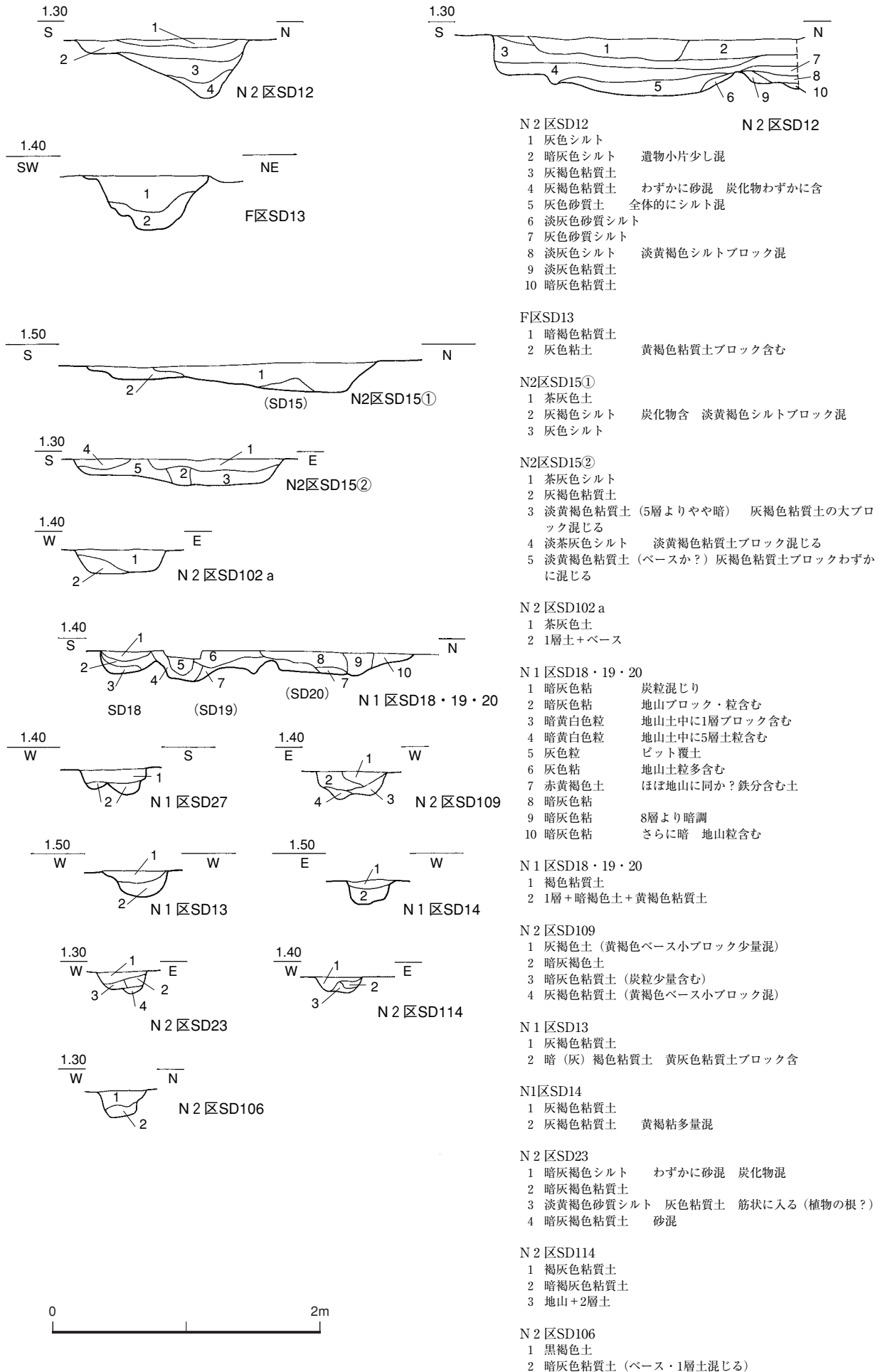
O2区SD10

- 1 灰茶色土
- 2 灰色粘質土
- 3 灰色粘質土 炭混・ベース混
- 4 黄灰色砂

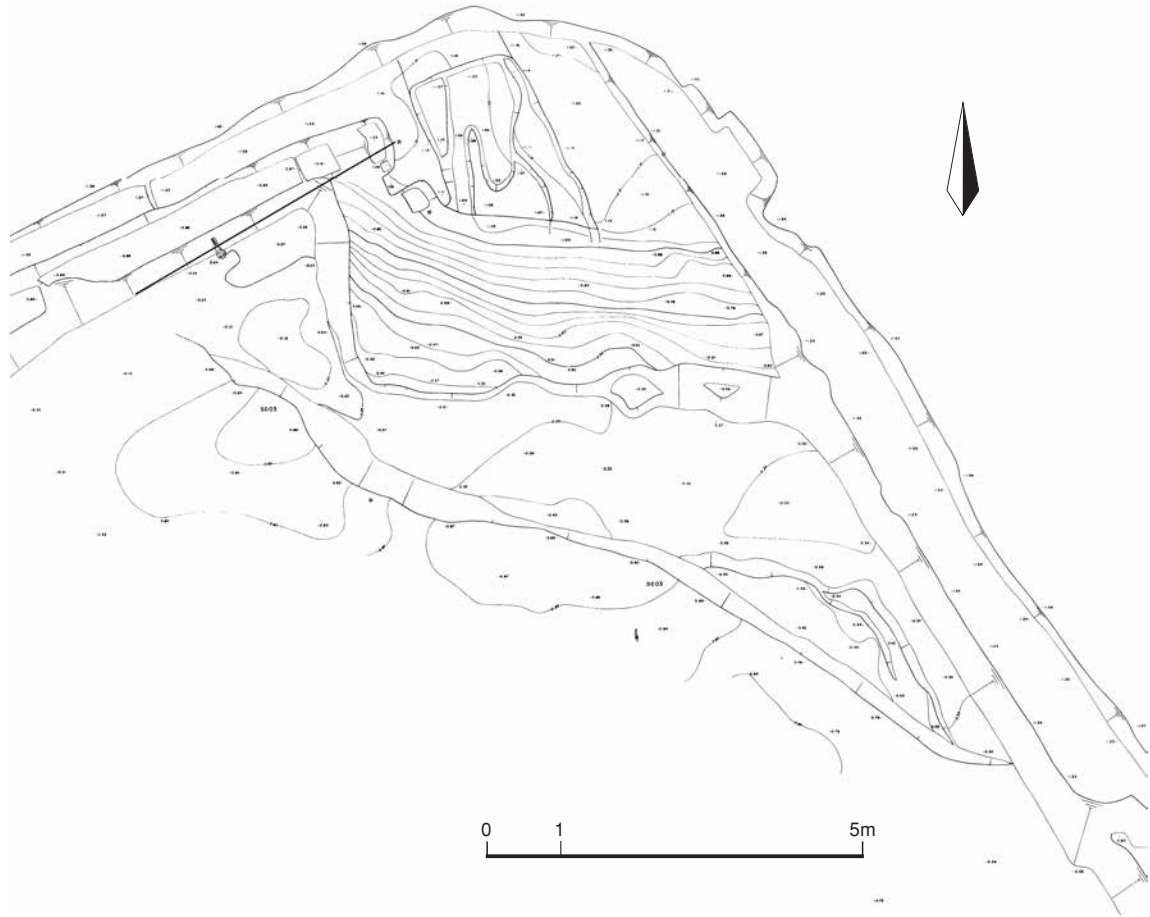
第67図 古代遺構図66 (1/100)



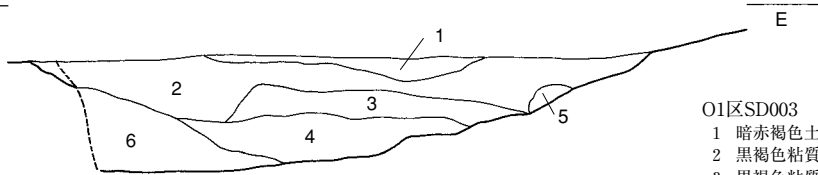
第68図 古代遺構図67 (1/600)



第69図 古代遺構図68 (1/40)

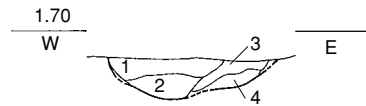
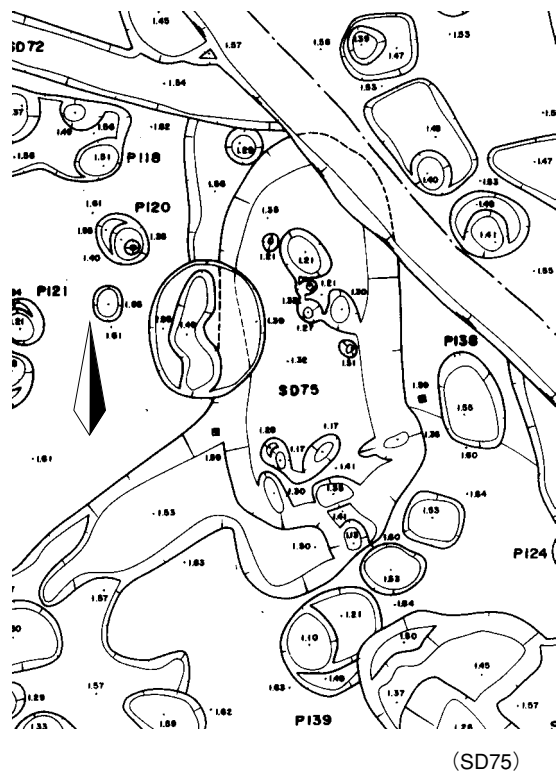


1.10



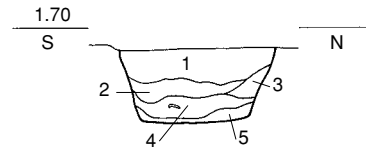
- O1区SD003
- 1 暗赤褐色土
 - 2 黒褐色粘質土
 - 3 黒褐色粘質土 (暗褐色?) 植物腐植物多く含む
 - 4 黒灰色粗砂 古墳時代遺物多く含む
 - 5 地山+3層混じり土
 - 6 暗褐色粘砂 SD007埋土 植物腐植層

第70図 古代遺構図69 (1/100)



Q1区SD75

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土 地山ブロック多く含む
- 3 茶褐色粘質土 地山粒均一含む
- 4 灰褐色粘質土 地山土含む



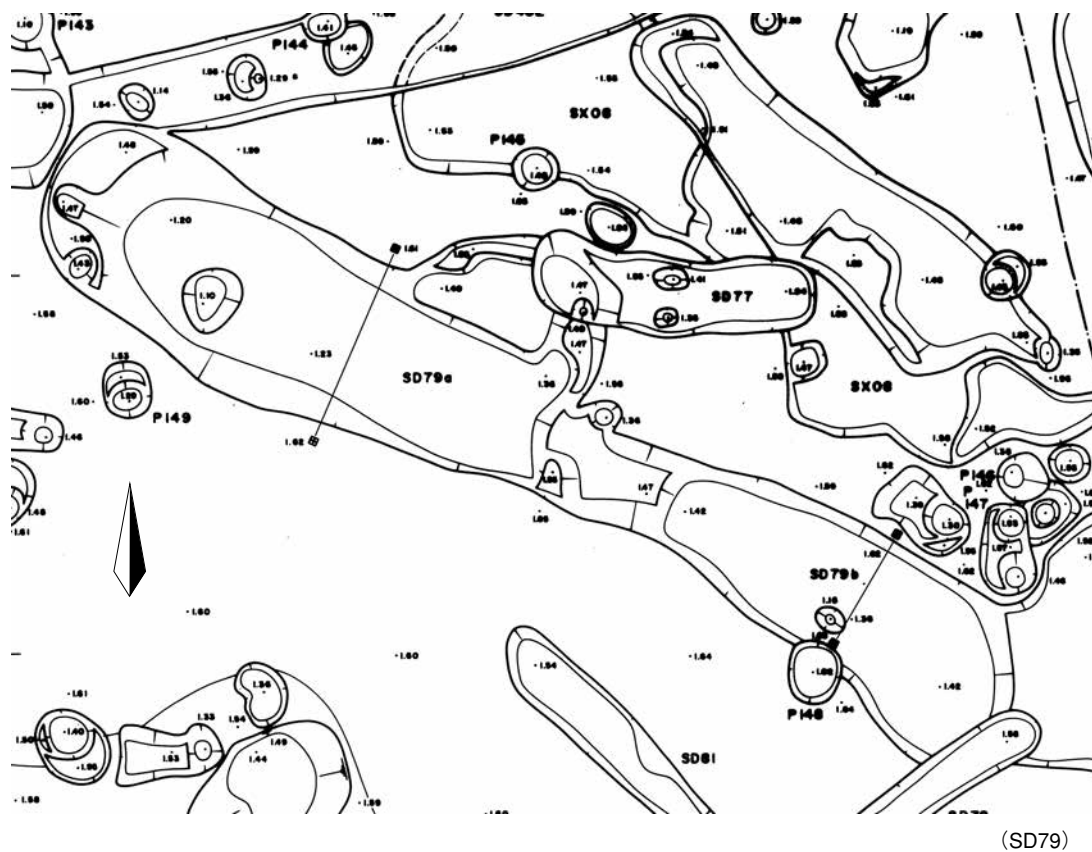
Q1区SD75a

- 1 暗茶褐色粘質土 炭化物少量含む、土器少量含む
- 2 暗灰褐色粘質土
- 3 暗灰褐色粘質土 地山粒少量含む
- 4 暗灰色粘質土 地山粒少量含む
- 5 青灰色砂質土 4層シミ状に含む
- a 灰黄粘

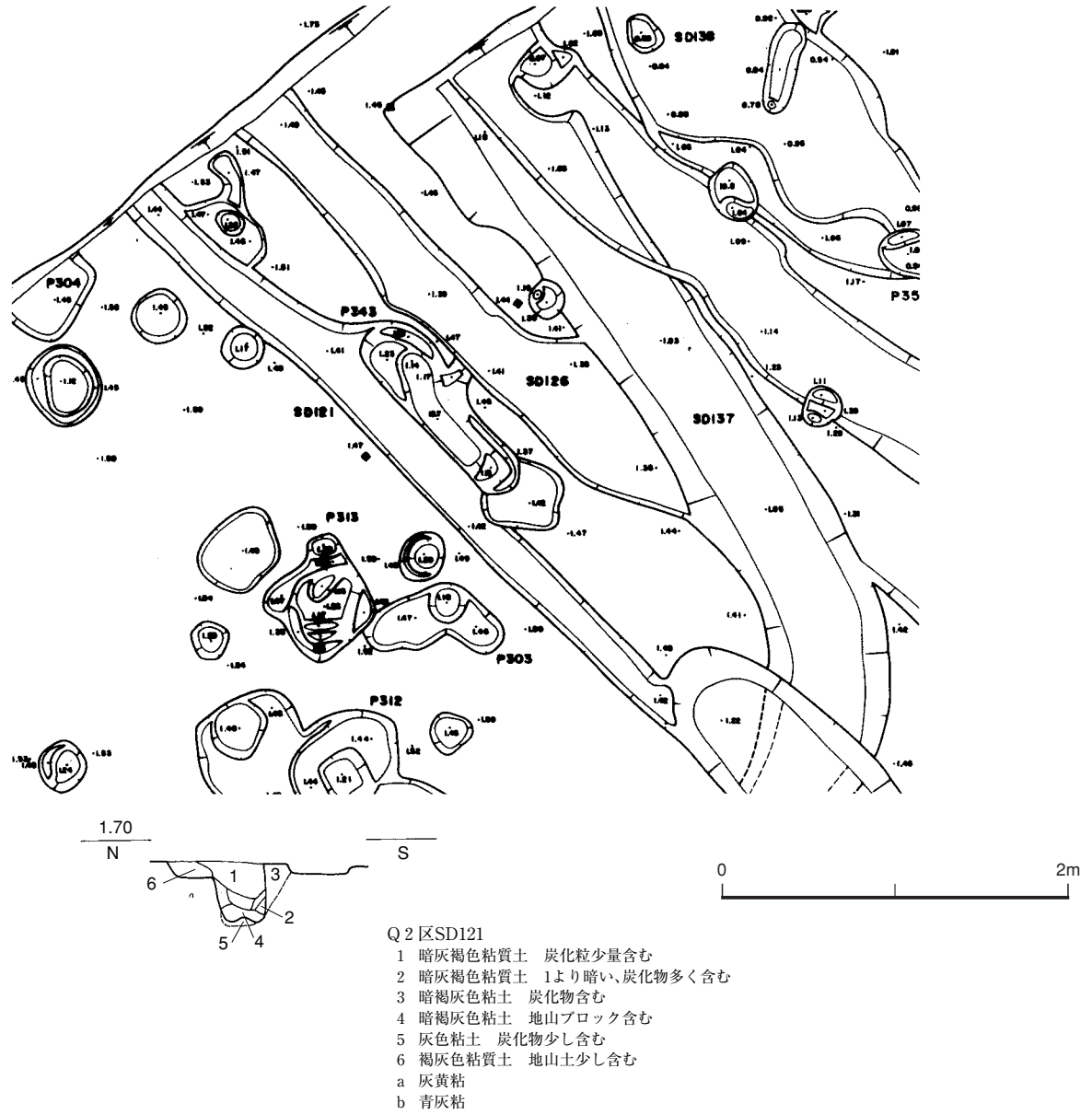


Q1区SD75b

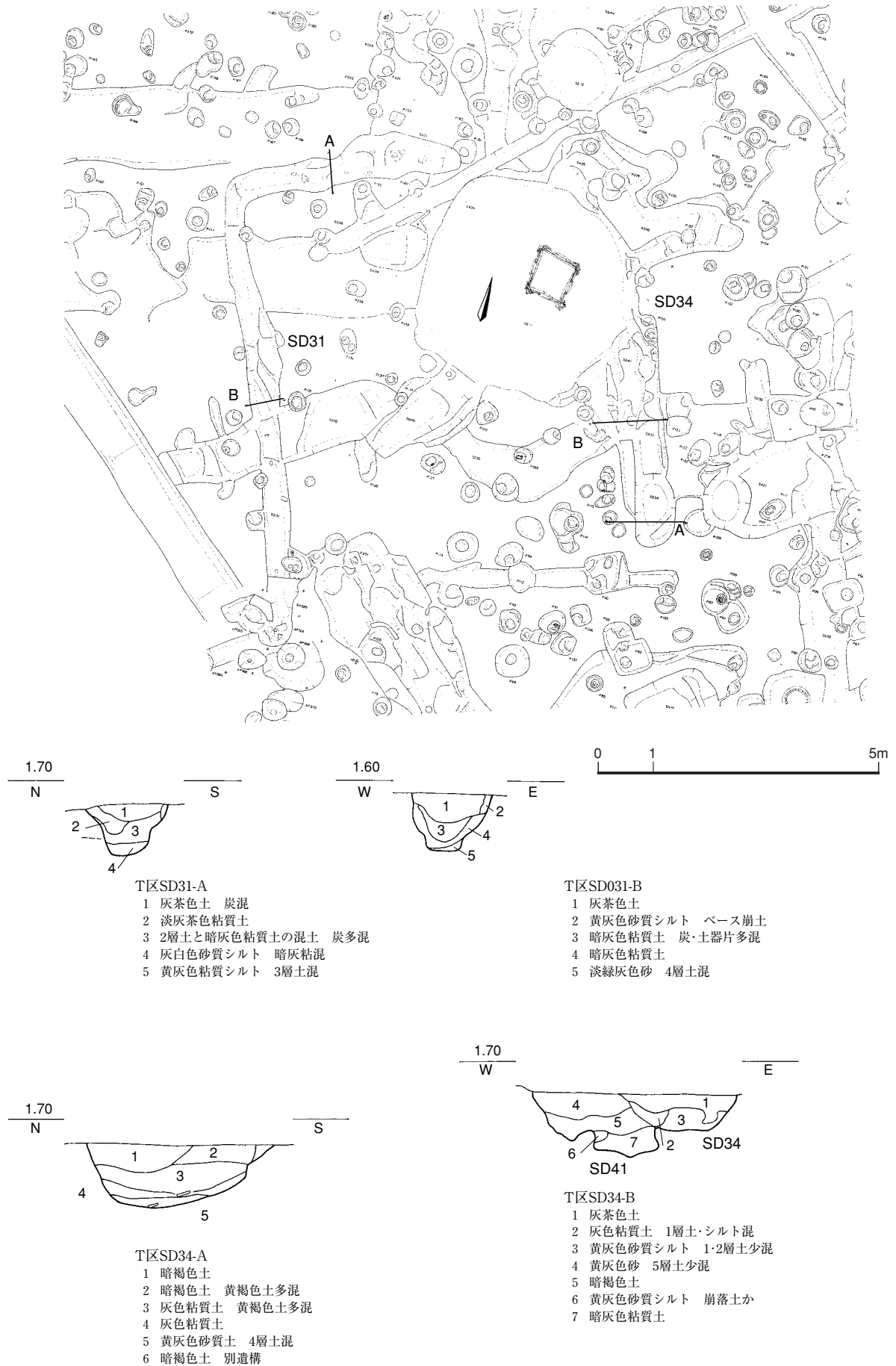
- 1 暗褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土 地山粒混入
- 3 1層と同一
- 4 灰褐色粘質土 地山土均一に混入
- 5 地山に灰褐粘シミ状に混入
- 6 灰褐色粘質土 4層より濃い、地山土少量混入 別ビット



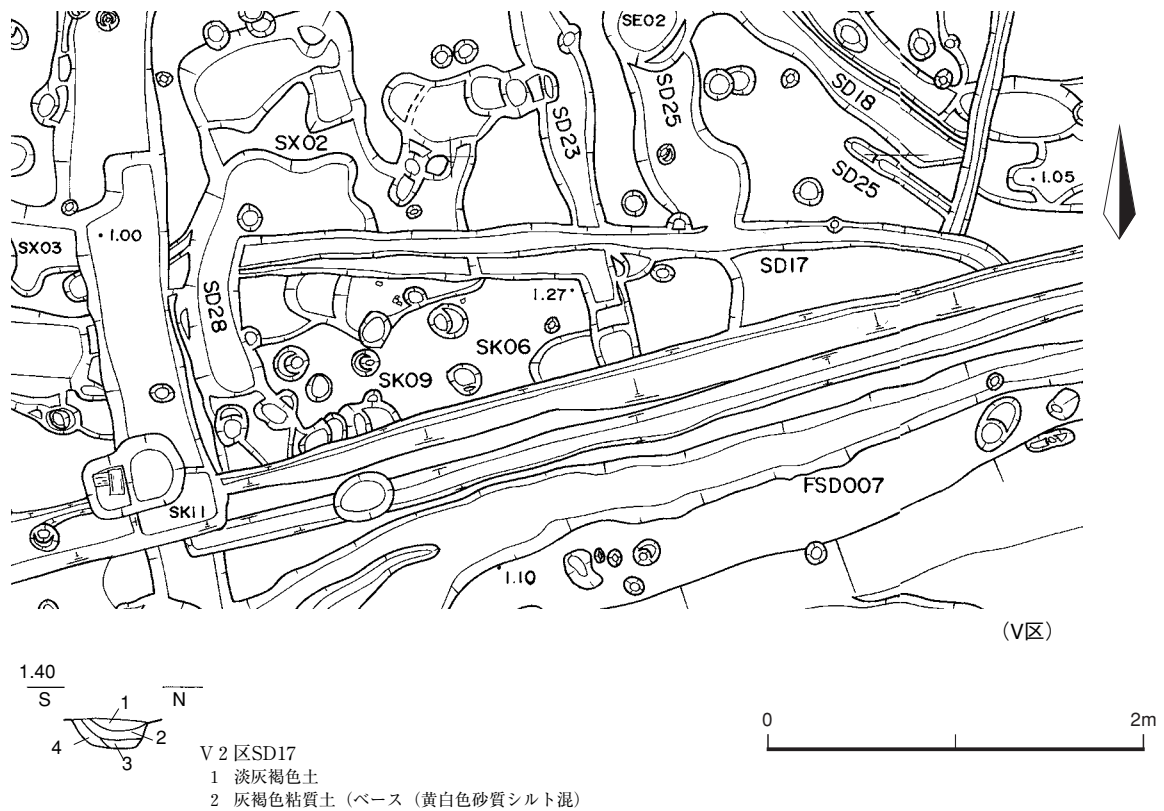
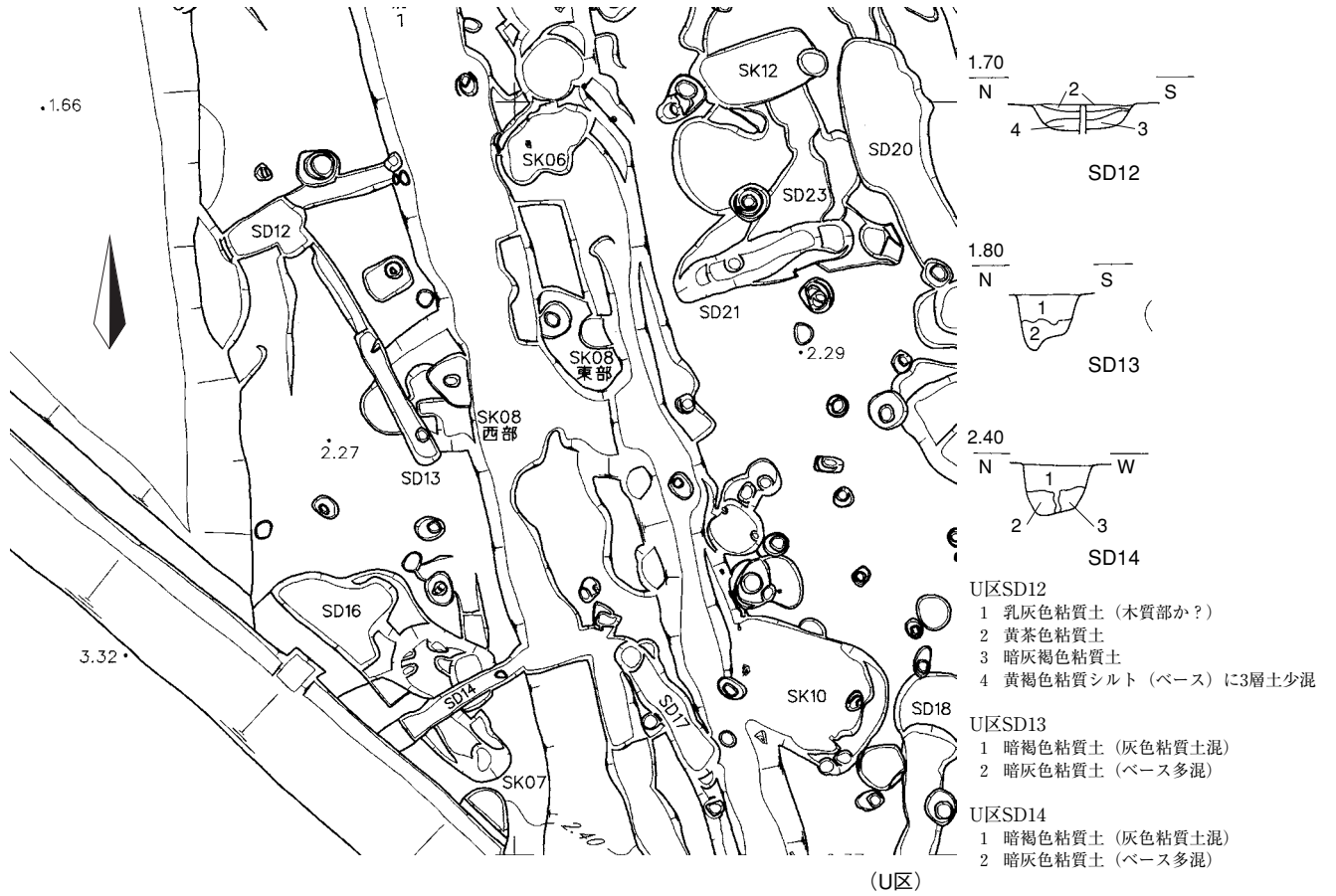
第71図 古代遺構図70 (1/40)



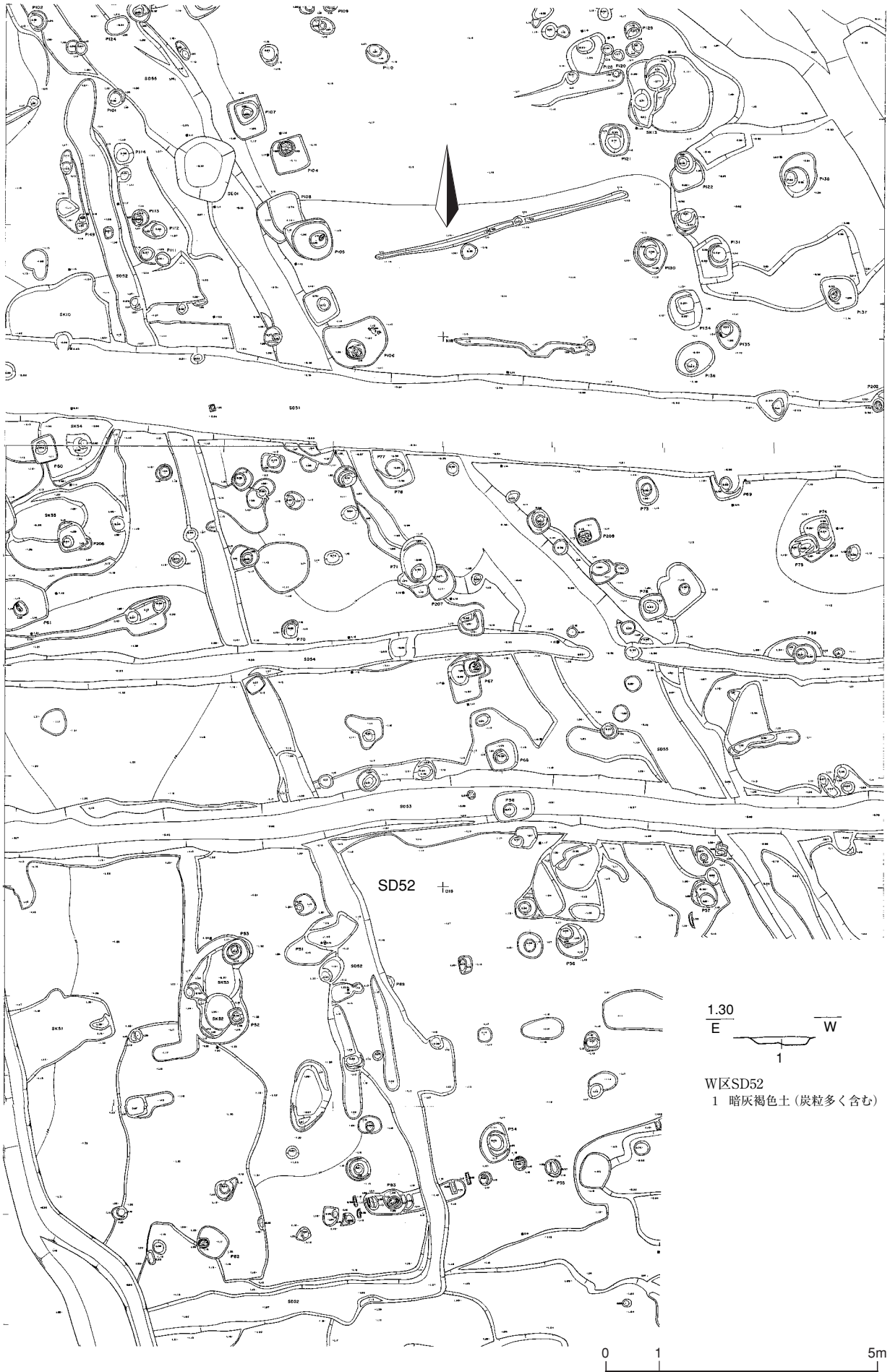
第72図 古代遺構図71 (1/40)



第73図 古代遺構図72 (1/100)



第74図 古代遺構図73 (1/40)



第75図 古代遺構図74 (1/100)

第4節 井戸

井戸は計7基が検出された。建物数に比してやや少ない印象が拭えない。

A1区SE03 Y30に位置する、最大径1.5m、深度約1mの小型井戸である。井戸枠などは検出されず、層位もほぼ水平堆積であることから、抜き取られた後に埋め戻されたものと考えられる。土器4009～4013、墨書土器F131・132が出土する。4009・4010は有台杯で、断面方形の高台がほぼ直下する。IV2期に比定されよう。墨書土器は判読不能で、F131は傾斜のきつい口縁部が直線的に延びる。V期に比定されよう。

A3区SE03 AF23～24に位置する。縦板組隅柱横棧留の構造を持つが、上面をSD60に切られており隅柱と50cm弱の縦板、横棧が一段残るのみであった。井戸枠の一边は0.8～0.9m、掘方は2.5～3.2m、深度約1.2mであり、掘方の規模からすると井戸枠上段は人為的に抜き取られた可能性も否定できない。遺物は須恵器小片が出土するのみで、詳細な時期を特定できなかった。

B3区SE01 P15に位置する。古代の基幹流路SD31を切り込んで作られているが、後述するように遺物にほとんど時期差を認められないことから、SD31埋没直後に作られたものであろう。井戸枠の構造は横板組で、横板の組み合わせは、横板の四隅を相欠き組にして積み上げる相欠き仕口型である。井戸枠の上段・下段部分が検出され、井戸枠南面外側には、乱雑に差し込まれた縦板を挟んで上段部分が2段分遺存していた。井戸枠の一边は上段約1.3m、下段0.65～0.7m、深度は1～1.2mである。掘方は一边約3mほどの方形と想定される。土器4162～4166、墨書土器F141、井戸枠構造材W639～652を出土する。4166は断面三角形の高台が直下するタイプで、IV1期に比定される。4166は検出面で出土した大盤で、器形・分量ともW区SD62出土の三足盤4538に類似する。墨書土器F141は有台杯の体部を丁寧に欠き落とし、底部を転用した転用硯で、内外面ともに摩耗が著しく墨痕が確認できる。内面には「平」の残画がうっすらと確認でき、転用硯使用後に墨書され、廃棄されたものであろうか。木製品W639～648は横板で樹種はスギ、W649～652は上段の縦板を留める目的で打たれた隅柱である。樹種はスギ。

E区SE04 H～I 25～26に位置する。井戸枠の構造は隅柱に彫られた溝に横板を落とし込みながら積み上げる横板組隅柱留である。隅柱を固定する土居桁は確認できず、隅柱は各々が独立して立てられている。井戸枠の規模は、内法で1.6m、深度約1.2m、多少歪むがほぼ方形を呈する。掘方規模は3.1～3.4mで、本来方形掘方であった可能性がある。断面図では図示し得なかったが、井戸底には拳小の自然礫が敷き詰められており、浄水のためと考えられる。土器4225～4255、墨書土器F236～242・244～251、木製品W566・571・572、井戸枠構造材W653～662が出土する。4226は鉄鉢で、口縁部は内湾し、平坦な口唇部を持つ。有台杯・無台杯4233～4248はIV2～V期に比定されよう。4254・4255は内面黒色研磨土師器で、偏平な器形を持つ。墨書土器F236～238は「平」字を墨書し、F237は内面黒色・外面赤彩土師器碗である。F239は「人」袋文字墨書で、「人」墨書としては最も新しい時期のIV2期に比定される。F239・241・242は人名墨書で、それぞれ「×女」「大稻磨」「秋女」を記す。木製品W571・572は齋串で、いずれも枠内からの出土である。樹種はスギ。W653～658は井戸横板で、両端に隅柱凹溝に差し込むためにホゾが作り出される。樹種はスギ。W659～662は隅柱で、一見建物柱と見まがうほどの太い柱を用いている。下端部に、柱根によく見られる抉りが施されることから、掘立柱建物柱を転用している可能性がある。それぞれ2カ所、横板を差し込むための凹溝が刻まれる。樹種はスギ。

R1区SE01 AA19に位置する。井戸枠などは検出されないが、2段構造を持つことから上段は抜

き取りのために拡張された可能性がある。上段規模1.9m・下段規模1.5m、深度約0.7mで、堆積は自然埋没の呈をなす。遺物は小片のみの出土で、時期を特定できない。

R1区SE02 AA20に位置する。縦板組横棧留だが、南面のみが横板組という変わった構造をとる。掘方規模1.6～1.9m、井戸枠規模0.5～0.6m、深度約0.9mである。土器4415・4416、井戸枠構造材W664～669を出土する。4415・4416は無台杯で、Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。

T区SE08 Y29に位置し、井戸枠などは検出されなかった。堆積状況から自然堆積と推定される。土器4460～4462、墨書土器F278が出土し、Ⅳ1期に比定されよう。

V1区SK13 H24に位置する。井戸枠の構造は縦板組隅柱横棧留であるが、北面を除き一辺あたり1～2枚の大型縦板で井戸枠を構成している。掘方規模約1.5m・井戸枠規模は0.7m四方の方形、深度は約0.9mである。横棧は4辺がそれぞれ独立して隅柱に咬み込む構造で、南北棧は隅柱に穿たれた方形孔に棧端部を差し込む通ホゾ構造、東西棧は横棧短辺部にコ字状加工を施して隅柱に咬み込ませる欠込構造をとる。土器4475・4476、井戸枠構造材W670～690を出土する。

第5節 その他の遺構・遺物

特徴的な土坑を取り上げて報告する。

A2区SK19 AD25-26、掘立柱建物SB322と河跡SD08の間に位置する。規模約1.6m、深度0.5mの円形状の土坑で、上層には炭化物粒が入る。土器4025～4027を出土し、Ⅲ～Ⅳ1期に比定されよう。

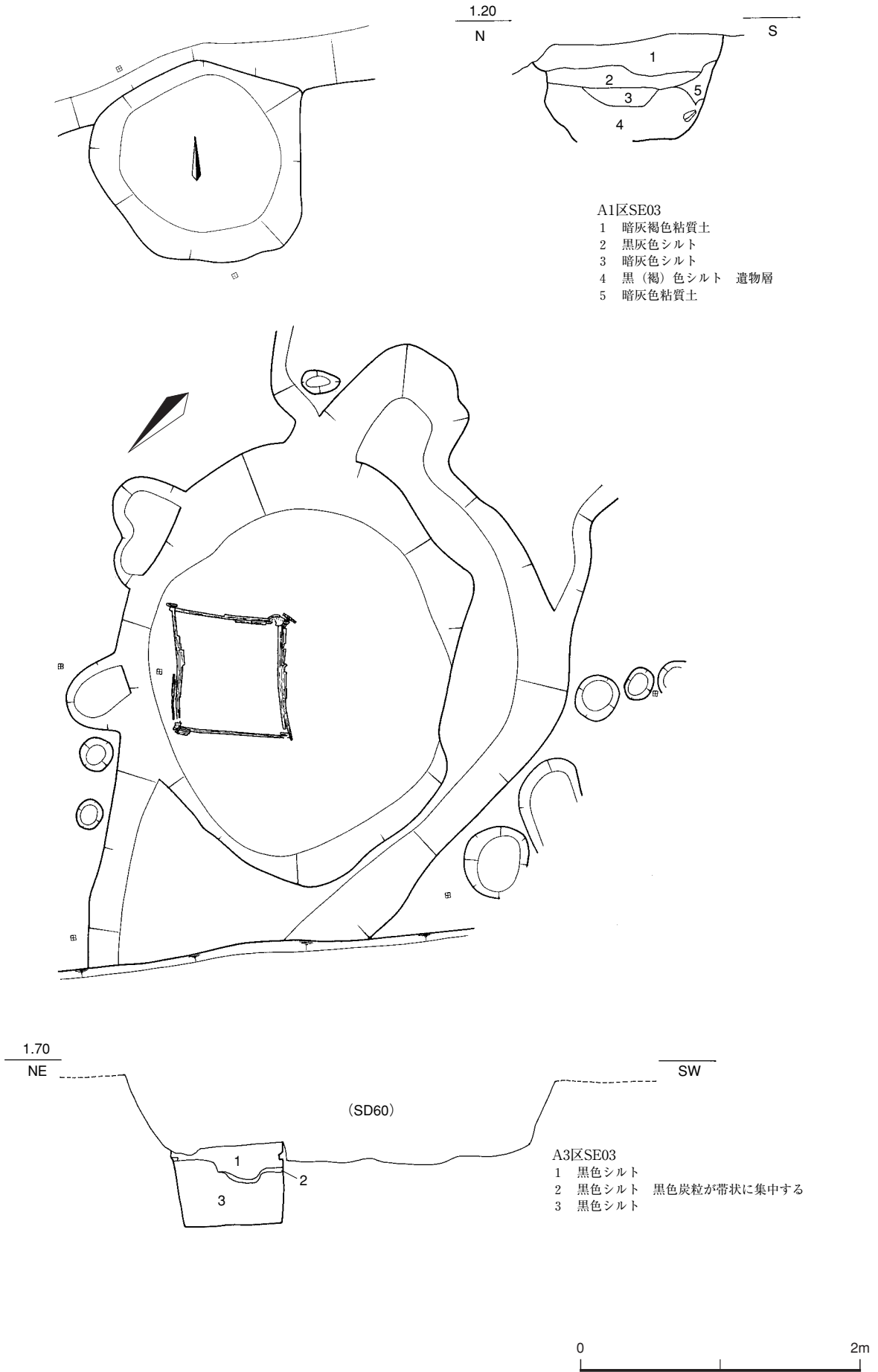
A3区SK25 AF24に位置する。底面より土器4124・4125、墨書土器F9・11がまとまって出土した。「語」墨書が河跡以外から出土した数少ない遺構で、また隣接するP20からも土器4126～4128がまとまって出土している。いずれもⅢ期に比定されよう。

N2区SK23 M22に位置する。長辺1.9m・短辺1.1mの長楕円形の土坑で、西側に向かって緩やかに深くなる形状をとる。遺物は出土しなかった。

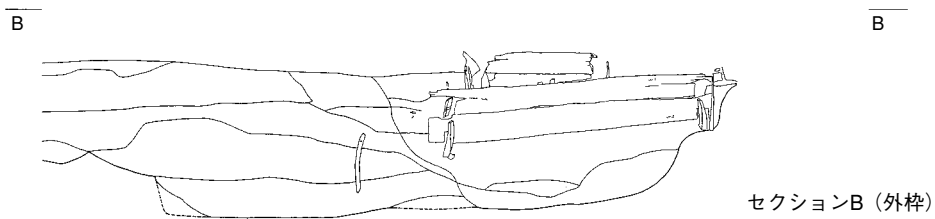
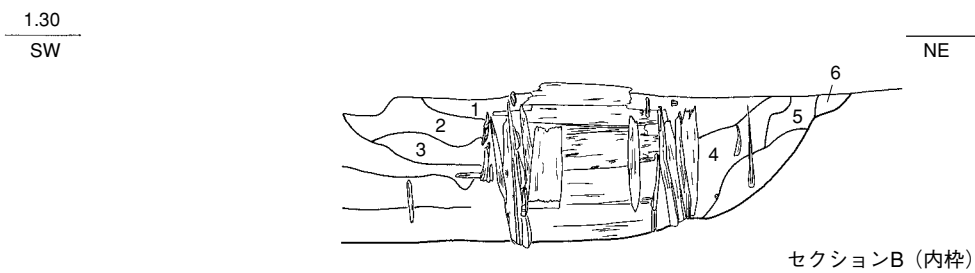
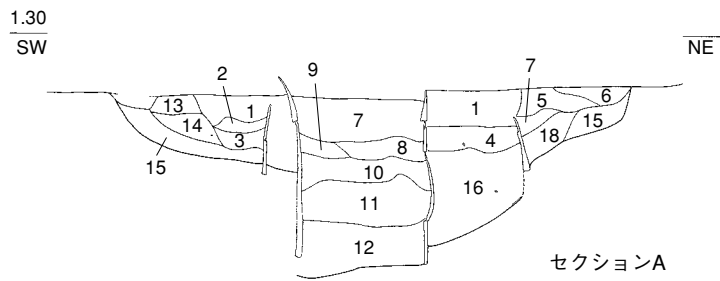
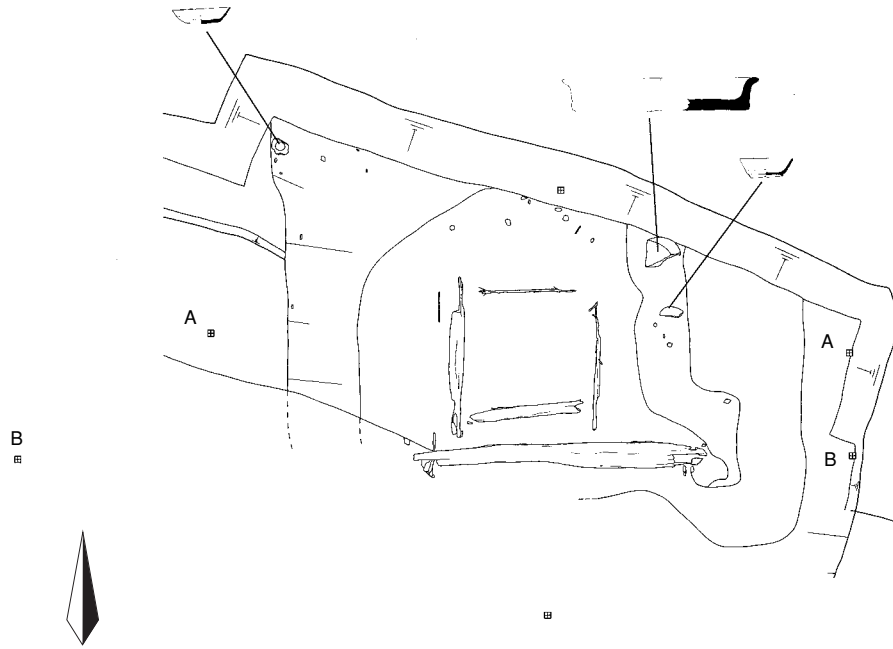
S2区SK02 Y16に位置する円形状の土坑。堆積状況から埋め戻された井戸のようにも見えるが、井戸にしては浅いため土坑とした。土器4431・4432を出土する。

W区SK06 K17に位置する長辺2.5m・短辺0.8mの長楕円形の土坑で、上層には炭化物粒が入る。盤4490が出土する。

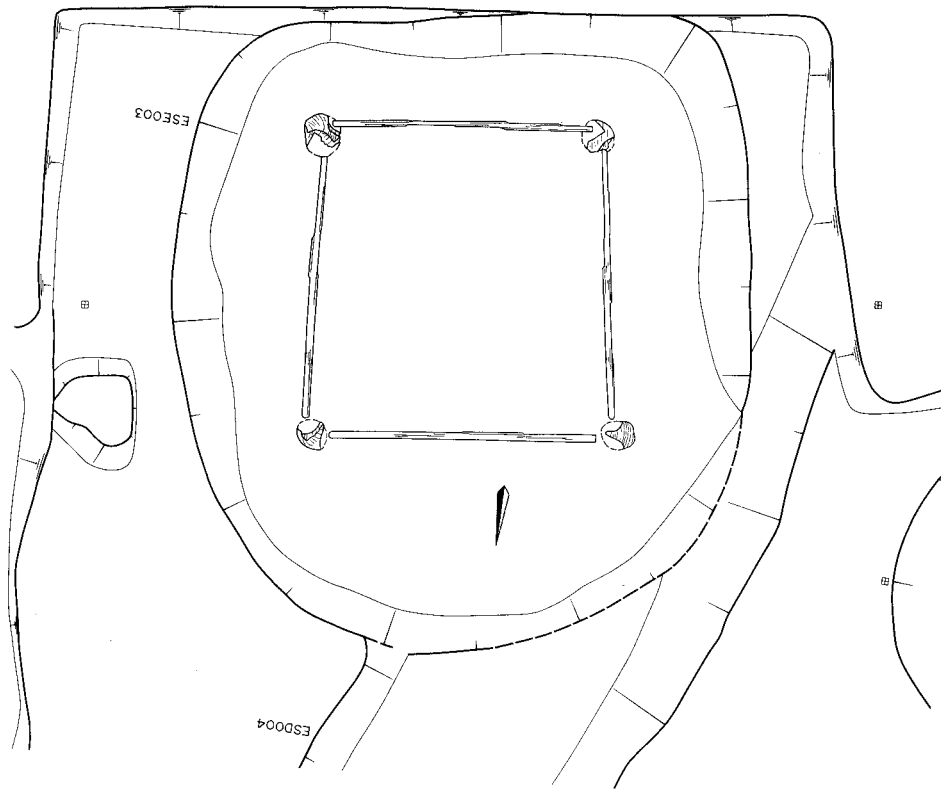
W区SK56 O18に位置する不整形な土坑で、長辺2.5m・短辺2.2mを測る。土層は極めて浅い落ち込み状の堆積を示す。有台杯4492を出土し、Ⅳ1期に比定されよう。



第76図 古代遺構図75 (1/40)



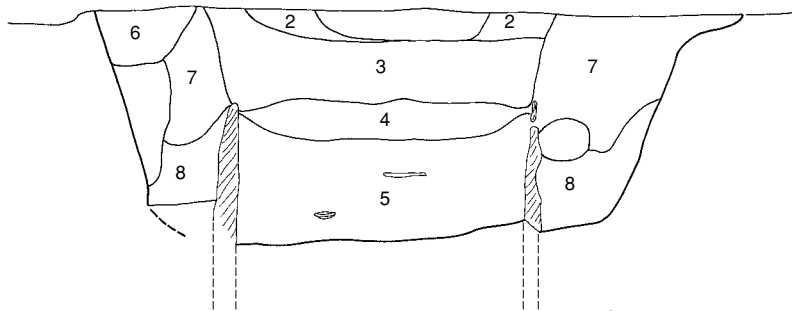
第77図 古代遺構図76 (1/40)



1.50

E

W



0

2m

B3区 SE01
セクションA・B

- 1 褐色土
- 2 褐灰粘質土層
- 3 暗灰粘土
- 4 灰青シルト 砂粒多く含
- 5 灰青砂 シルト質土混
- 7 灰粘土 炭(φ3~5mm)若干混 灰白粘小ブロック状に含
1層に比べ褐粒の混じり極少量
- 8 暗灰粘土
- 9 灰粘土 7層より若干暗め
- 10 黒灰粘土
- 11 暗灰緑粘土 炭(φ3mm前後)稀に含
- 12 黒灰緑粘土 高台付須恵器杯 底より出土
- 13 灰褐粘土 褐色粒子の混じり多く 一部粘性なし
- 14 灰褐粘土 13層よりも褐色粒子混じり少 炭(φ3mm前後)稀に含
- 15 暗灰粘土 粘性強い 炭(φ3~5mm)若干含
- 16 暗灰粘土 粘性強い 炭(φ3mm前後)稀に含
- 17 暗灰粘土 炭(φ3mm前後)稀に含 砂粒若干混 4層に類似
- 18 暗灰粘土 色調17層より明るい 地山10%混
7から12は粘性いずれも強い
内掘りかた 1・2・3・4・16
外掘りかた 13・14・15・5・6・17・18

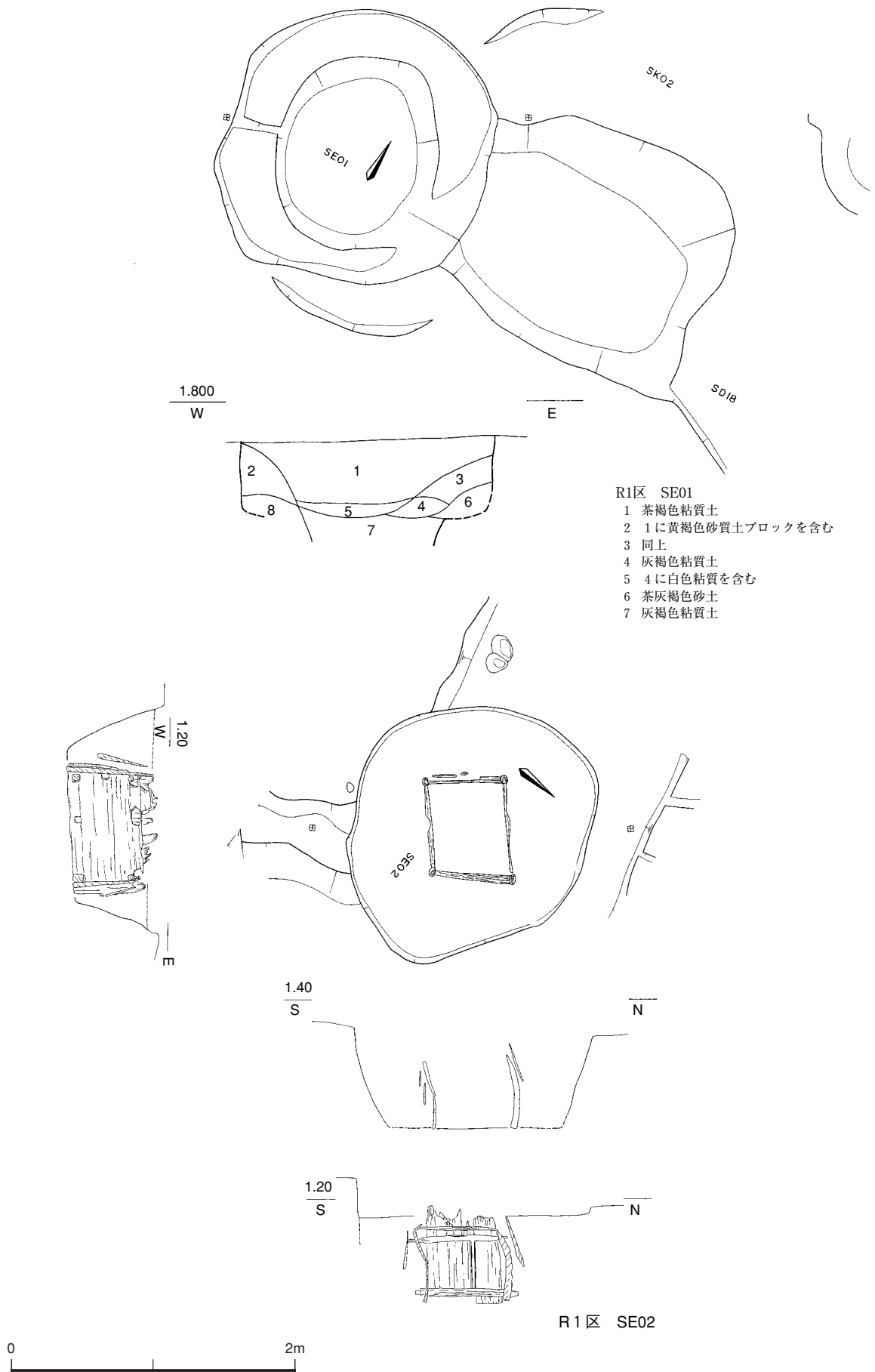
セクションB (内枠)

- 1 灰粘土 褐色粒子若干含 灰白粘土10%混
- 2 灰黄粘土 褐色粒子若干含 炭粒稀に含 灰白粘土30~40%混
- 3 暗灰粘土 褐色粒子若干含 炭(φ1~3mm)若干含 シルト質土若干混
- 4 暗灰粘土 褐色粒子若干含 炭(φ1~3mm)若干含
層より色調明るめだが土質類似
- 5 灰褐粘土
- 6 暗灰褐粘土 褐色粒子まばらに含 炭粒若干含 地山10%混

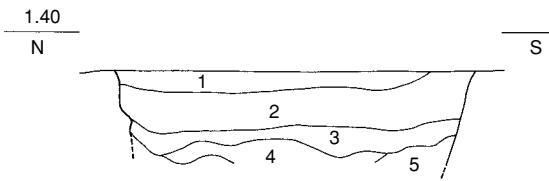
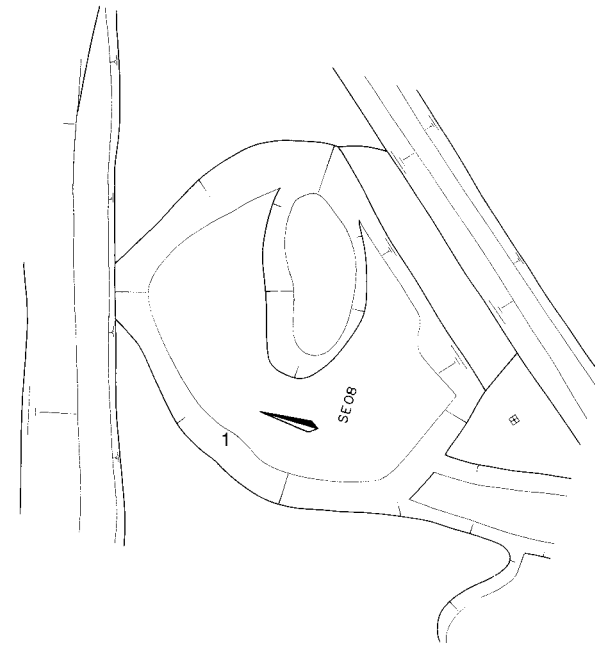
E区 SE04

- 1 暗(灰)赤褐色土 SD04の覆土
- 2 暗赤褐色土 SD04の覆土
- 3 黒褐色粘質土
- 4 暗褐色土 ややオリブがかかる
- 5 黒色シルト 遺物層
- 6 暗赤褐色土
- 7 暗黄褐色土 黒(褐)色土中に多量の地山ブロックを含む
- 8 黒色シルト 5層よりさらにシルト化進む
- 9 暗灰粘砂 拳小の礫混じる。わずかに須恵器を含む

第78図 古代遺構図77 (1/40)

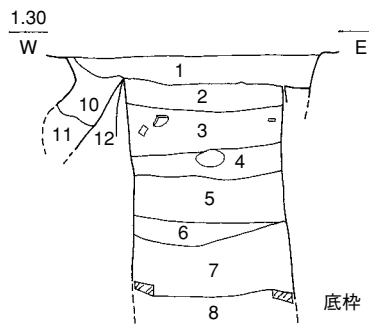
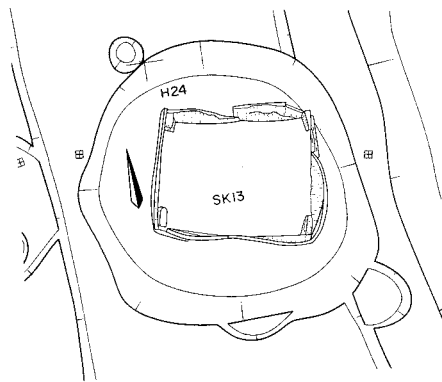


第79図 古代遺構図78 (1/40)



T区 SE08

- 1 灰茶色土
- 2 暗灰茶色土
- 3 淡灰色粘質土
- 4 灰色粘質土
- 5 黄灰色粘質シルト 掘方・裏込土か



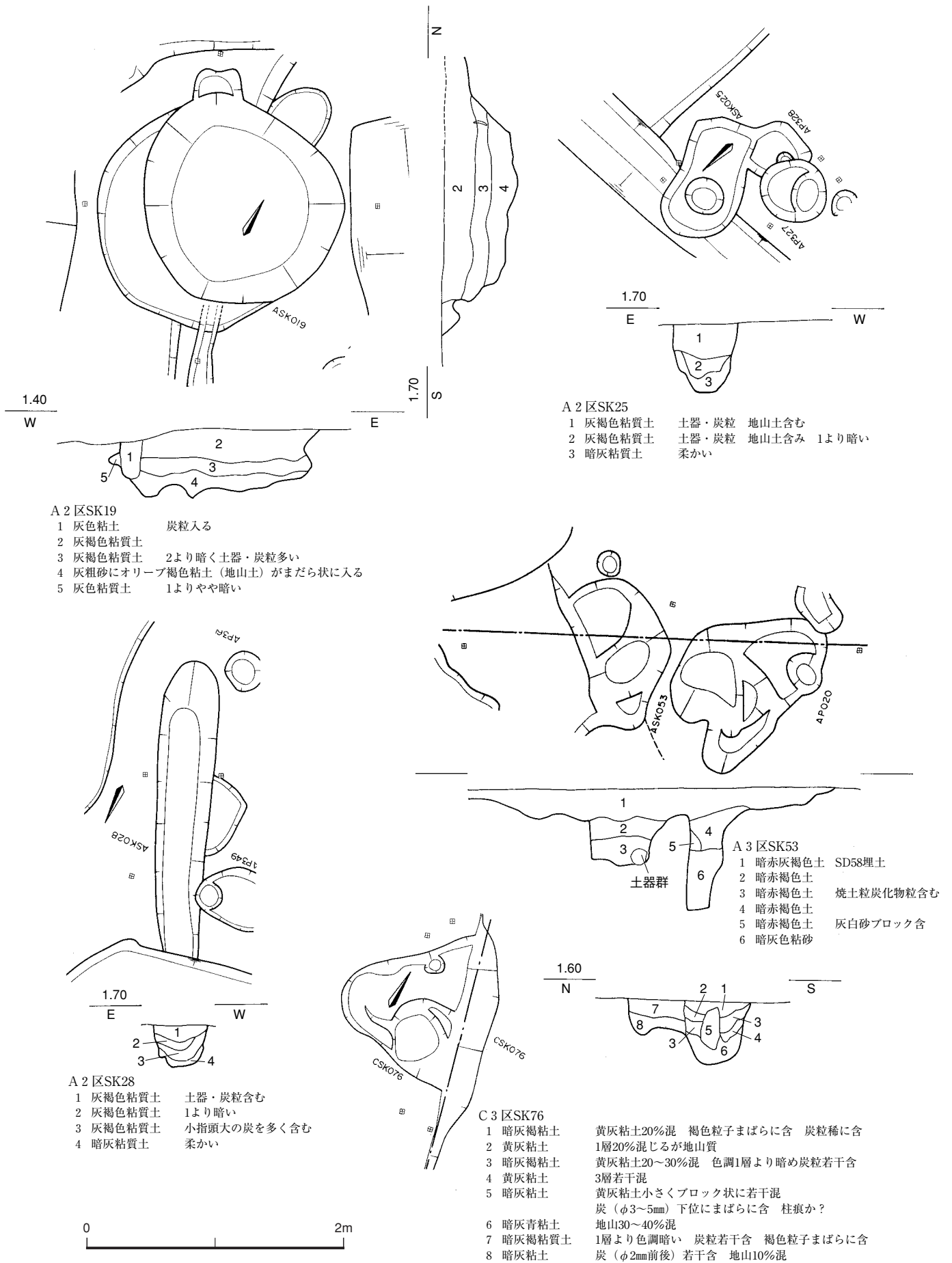
V1区 SK13

- 1 濁褐色土 炭化物含む
- 2 灰色粘質土
- 3 濁灰色粘質土 炭化物、遺物小片含む
- 4 濁灰色粘質土 (砂混)
- 5 暗灰色粘質土 灰色粘質土薬理状に入る 植物遺体多く含む
- 6 灰色粘質土 植物遺体含む
- 7 暗灰色シルト 植物遺体含む
- 8 暗灰色シルト 灰色シルト小ブロック混 炭化物混
- 9 暗褐色弱粘質土 砂混
- 10 暗褐色弱粘質土 砂混
- 11 暗茶褐色弱粘質土 砂混 黄褐色粘質土大ブロック多量に混
- 12 黒褐色弱粘質土 黄褐色粘質土小ブロックわずかに混じる

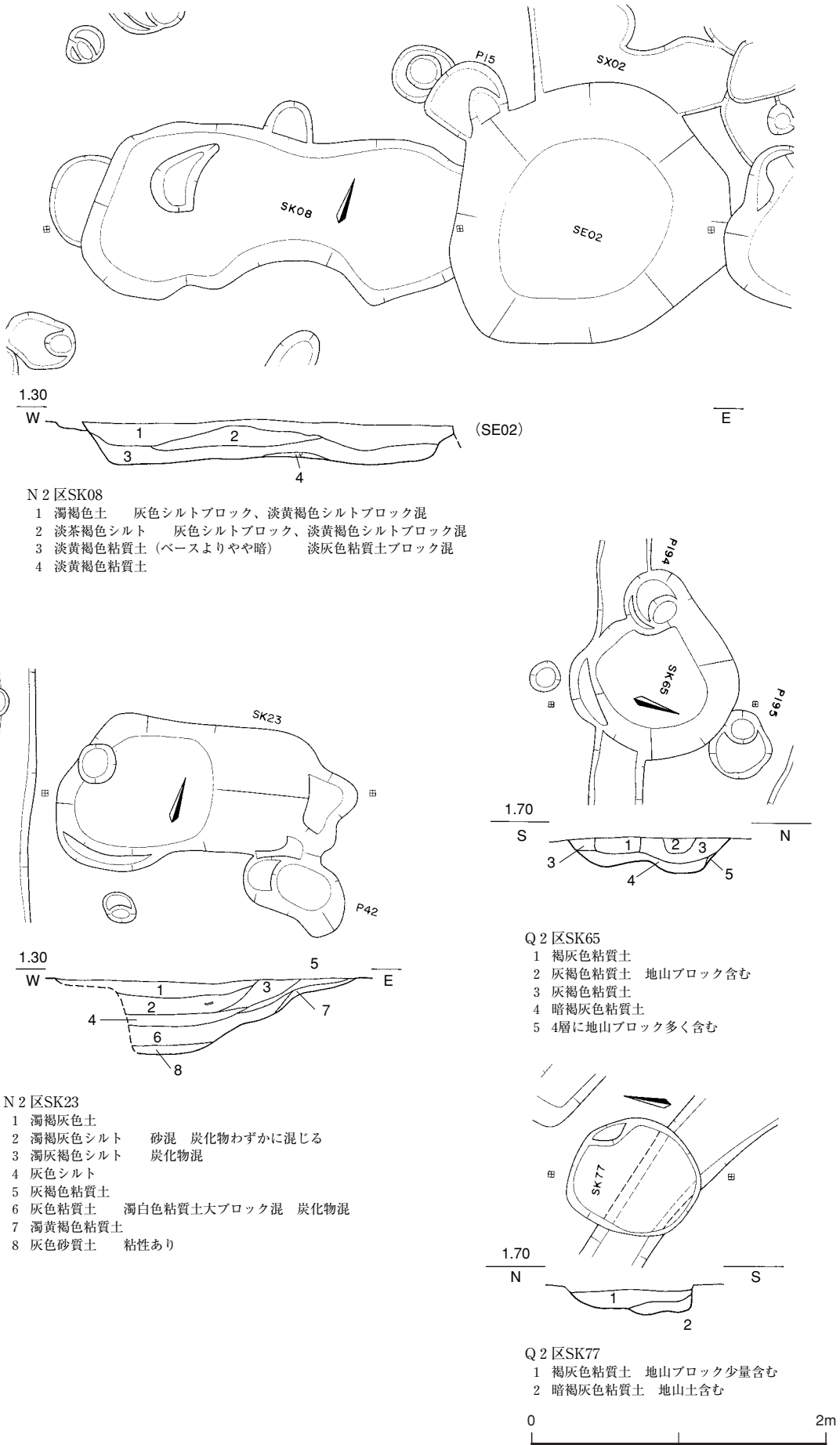


第80図 古代遺構図79 (1/40)

第5節 その他の遺構・遺物

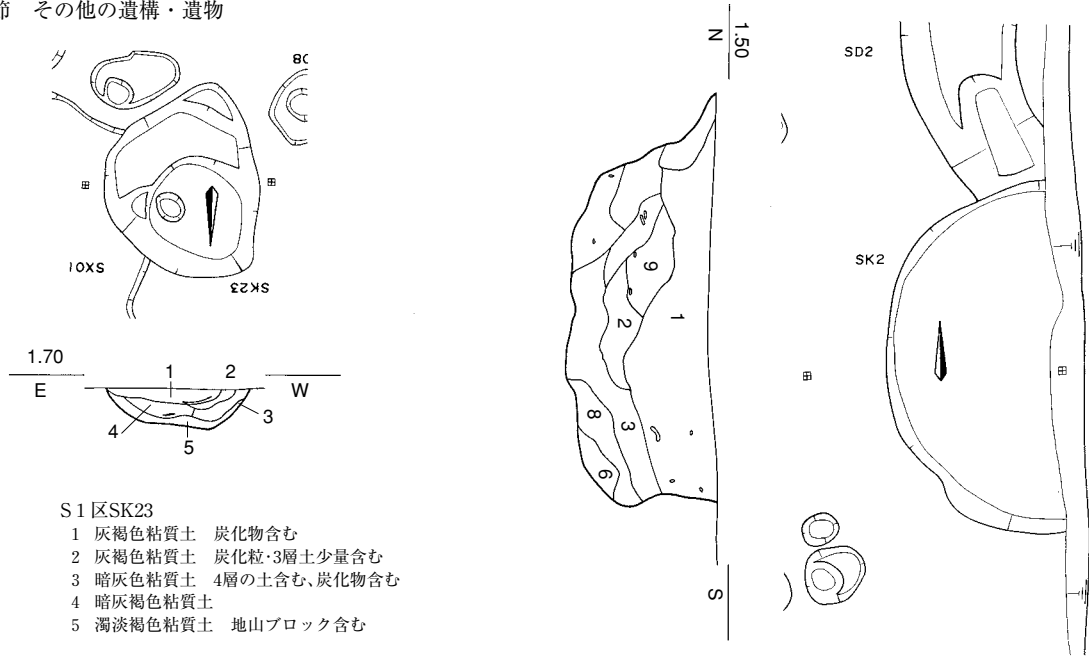


第81図 古代遺構図80 (1/40)



第82図 古代遺構図81 (1/40)

第5節 その他の遺構・遺物

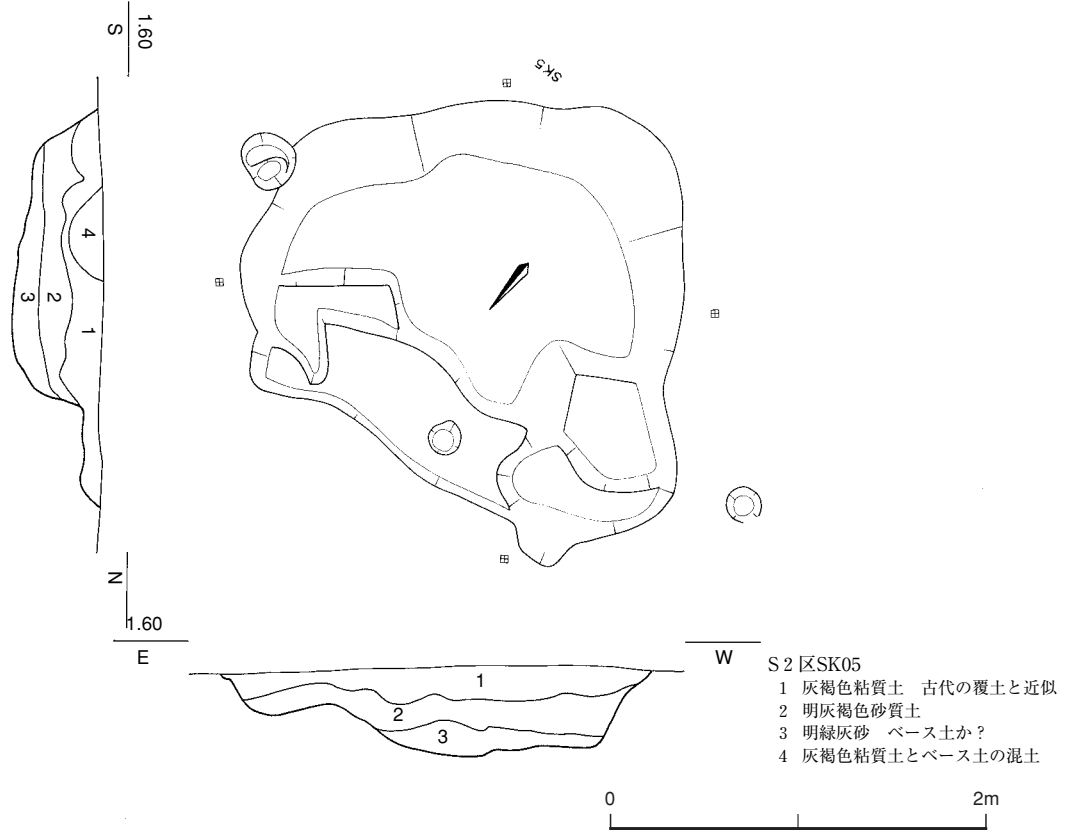
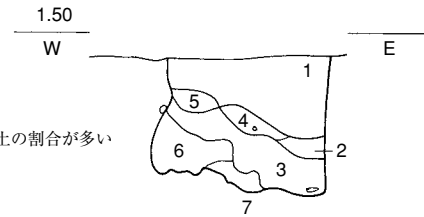


S1 区SK23

- 1 灰褐色粘質土 炭化物含む
- 2 灰褐色粘質土 炭化粒・3層土少量含む
- 3 暗灰色粘質土 4層の土含む、炭化物含む
- 4 暗灰褐色粘質土
- 5 濁淡褐色粘質土 地山ブロック含む

S2 区SK02

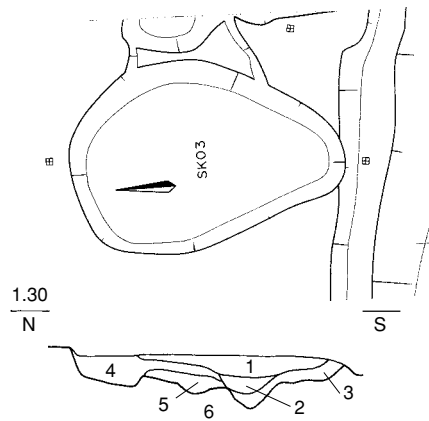
- 1 灰褐色粘質土
- 2 明褐色砂質土
- 3 暗灰色粘質土
- 4 灰色粘質土
- 5 暗灰褐色粘質土
- 6 暗灰粘質とベース土の混土
- 7 暗灰粘質とベース土の混土 ベース土の割合が多い
- 8 暗灰色粘質土 3より暗い
- 9 灰褐色粘質土 1より暗い



S2 区SK05

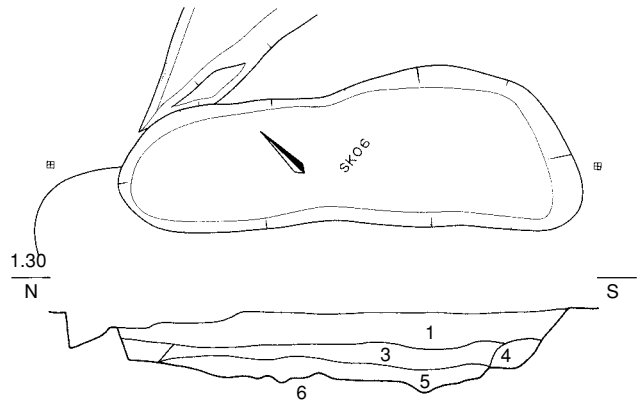
- 1 灰褐色粘質土 古代の覆土と近似
- 2 明灰褐色砂質土
- 3 明緑灰砂 ベース土か？
- 4 灰褐色粘質土とベース土の混土

第83図 古代遺構図82 (1/40)



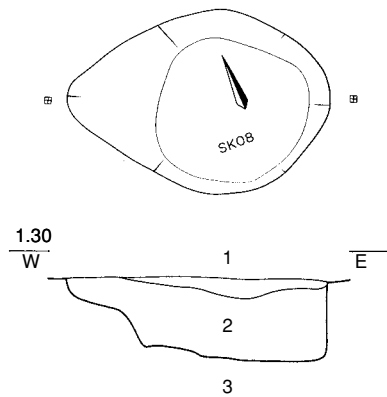
W区SK03

- 1 暗褐色土 (炭粒少量含む)
- 2 黄白色シルト (暗褐色土少量をシミ状に含む)
- 3 暗褐色土 (黄白色シルトブロックを多く含む)
- 4 黄白色シルト (暗褐色土を少量シミ状に含む)
- 5 暗褐色土 (黄白色シルトブロックを極少量含む)
- 6 黄白色シルト (ベース)



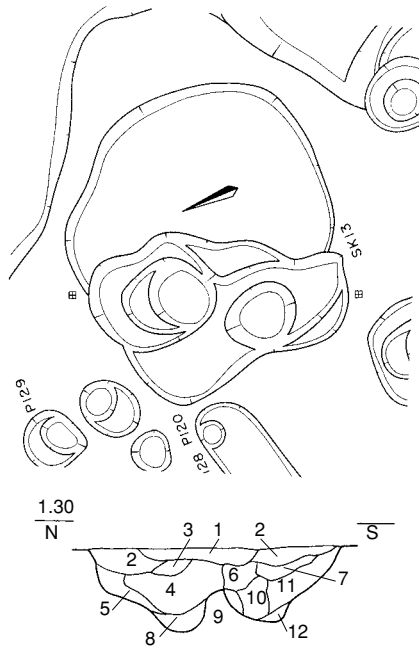
W区SK06

- 1 灰褐色土 (炭粒含 鉄分沈着)
- 2 暗褐色土 (黄褐色土小ブロック少量混 炭粒少量含)
- 3 暗灰褐色土 (炭粒少量含)
- 4 黄褐色土 (灰褐色土ブロック混)
- 5 暗灰色粘質土 (炭粒少量含)
- 6 黄白色シルト (ベース)



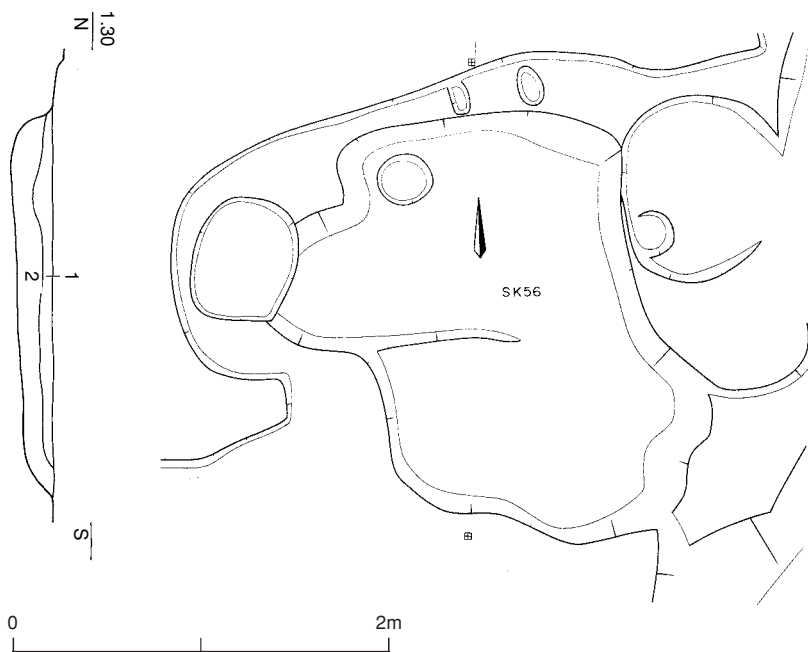
W区SK08

- 1 灰褐色土 (黄褐色土ベースブロック混)
- 2 黄褐色土 (シミ状に1層の土が混入)
- 3 黄褐色土 (ベース)



W区SK13

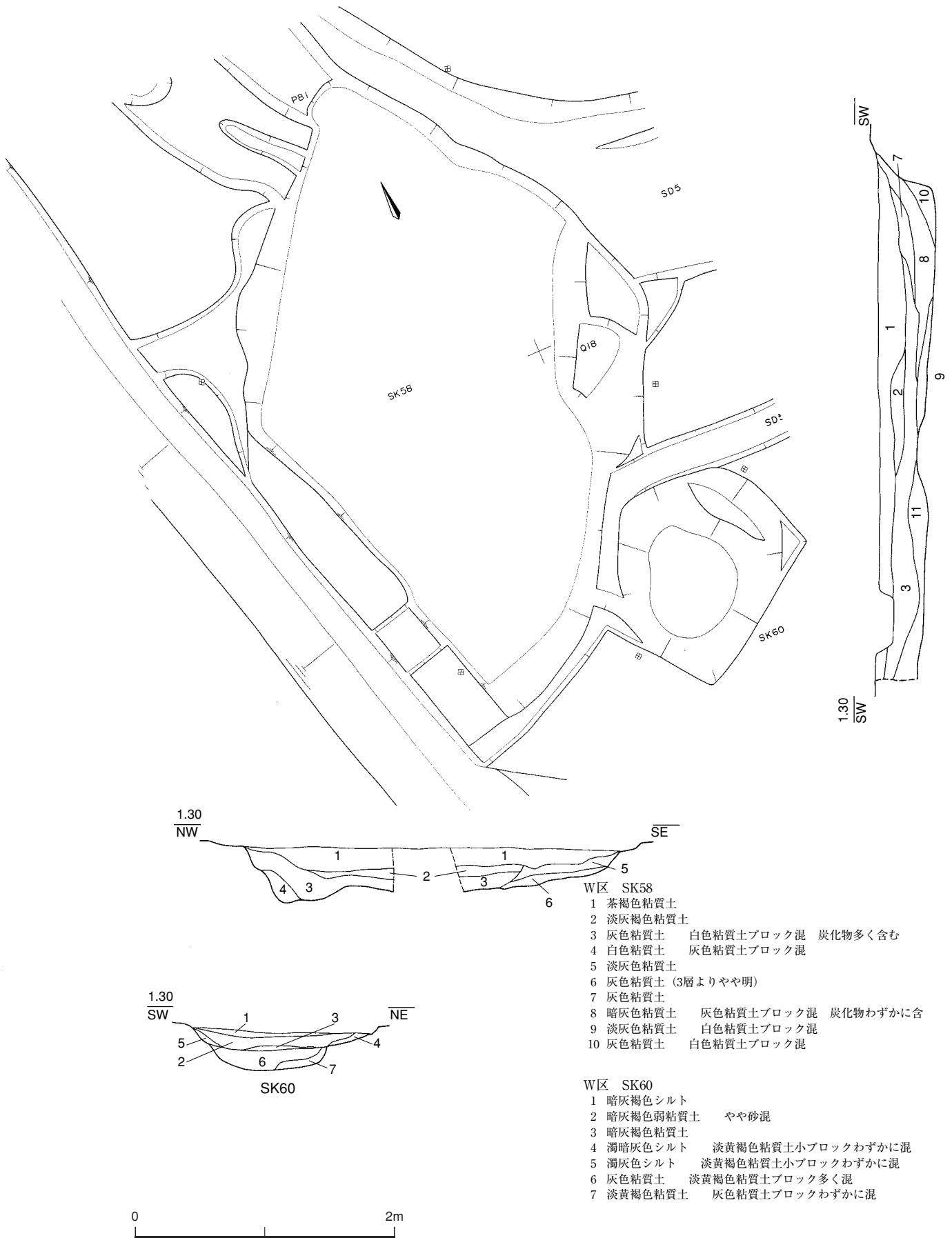
- 1 褐灰色土+黄灰色土
- 2 灰茶色土
- 3 明灰茶色弱粘質土
- 4 灰茶色粘質土 (炭粒混)
- 5 茶灰色粘質土
- 6 濁茶灰色粘質土
- 7 濁灰色粘質土
- 8 灰色シルト
- 9 濁黄褐色粘質土
- 10 灰褐色粘質土
- 11 褐灰色粘質土
- 12 8層と同じ



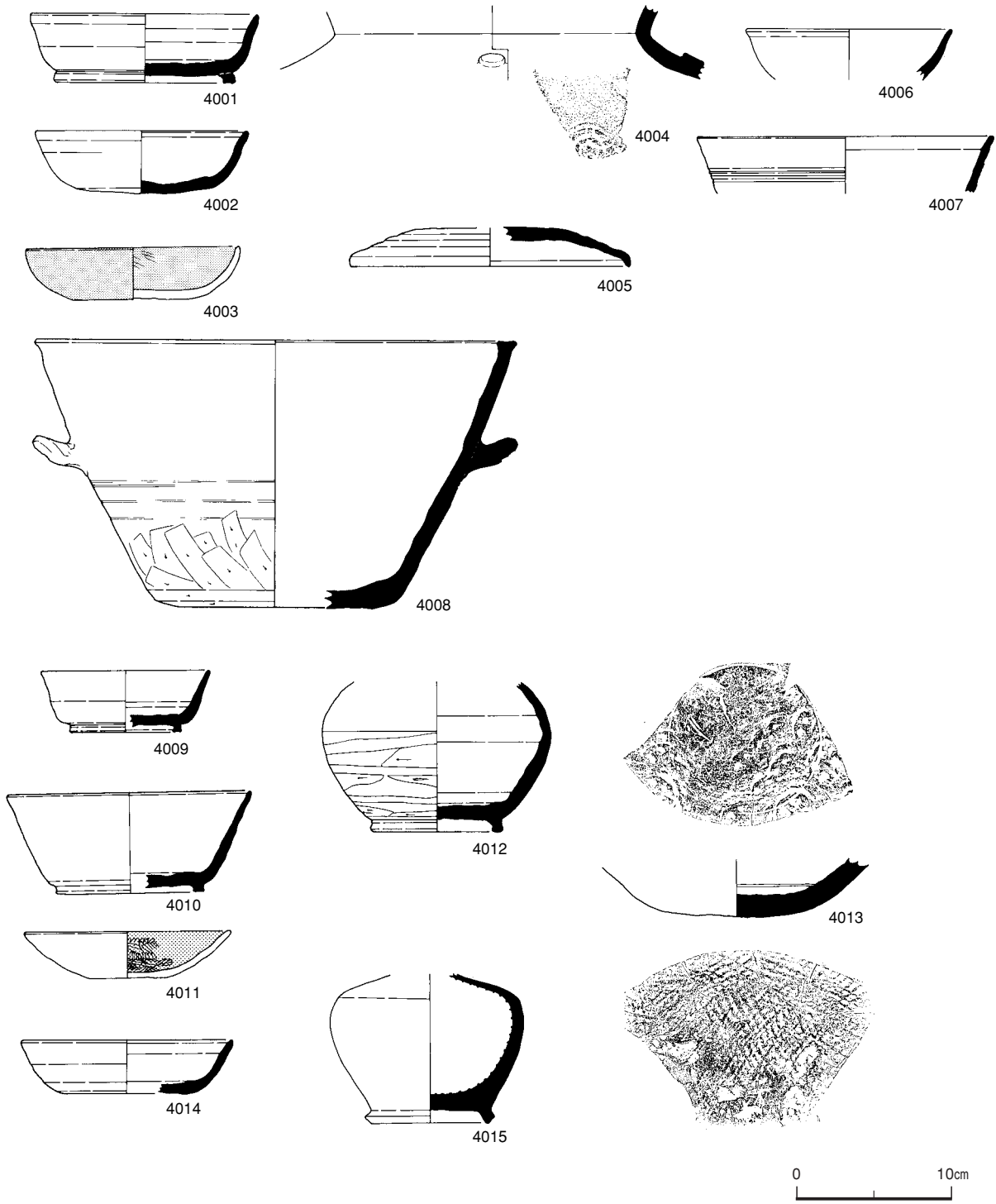
W区SK56

- 1 茶灰色粘質土 淡黄褐色粘質土ブロック混
- 2 暗灰色粘質土 淡黄褐色粘質土ブロック多く混

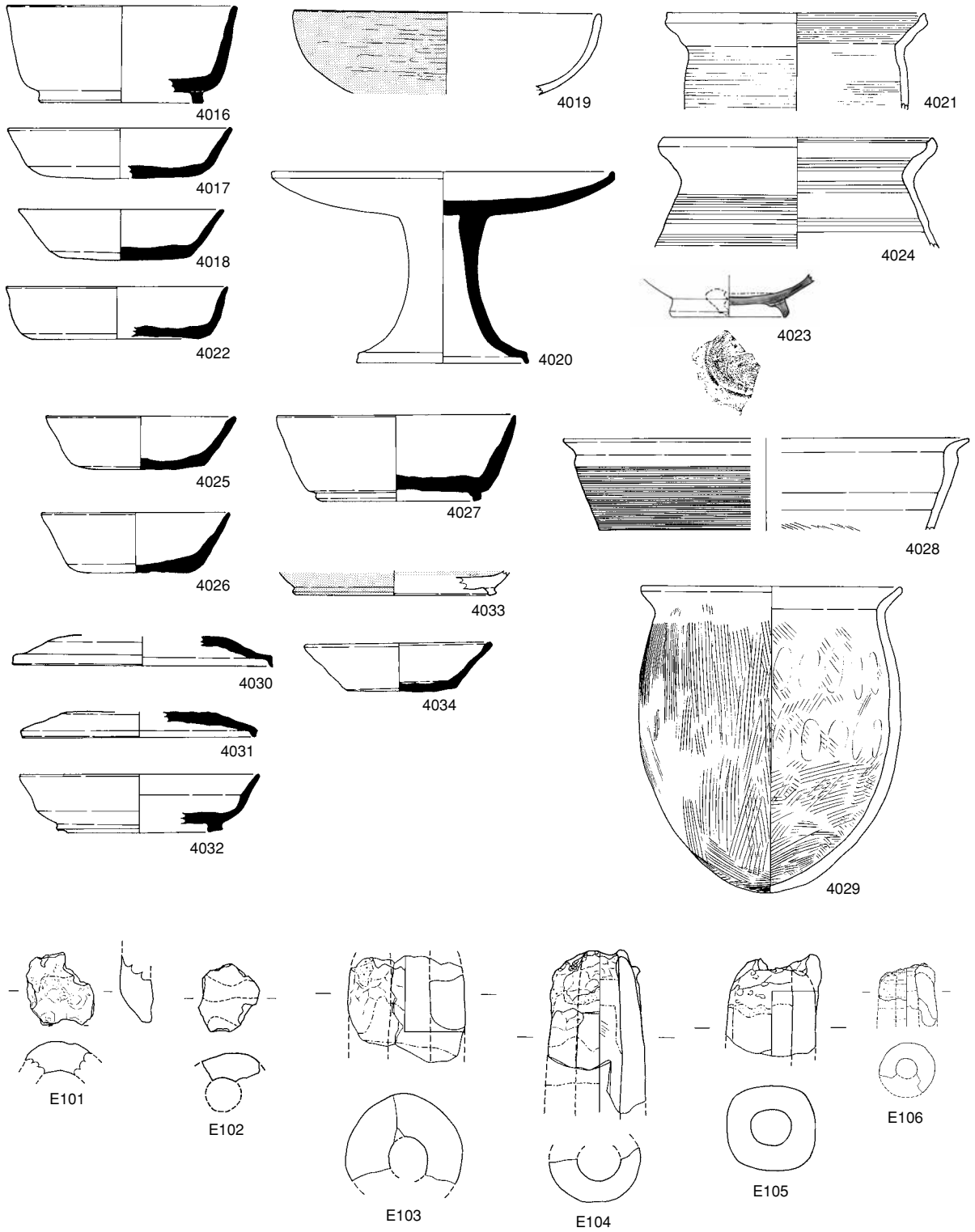
第84図 古代遺構図83 (1/40)



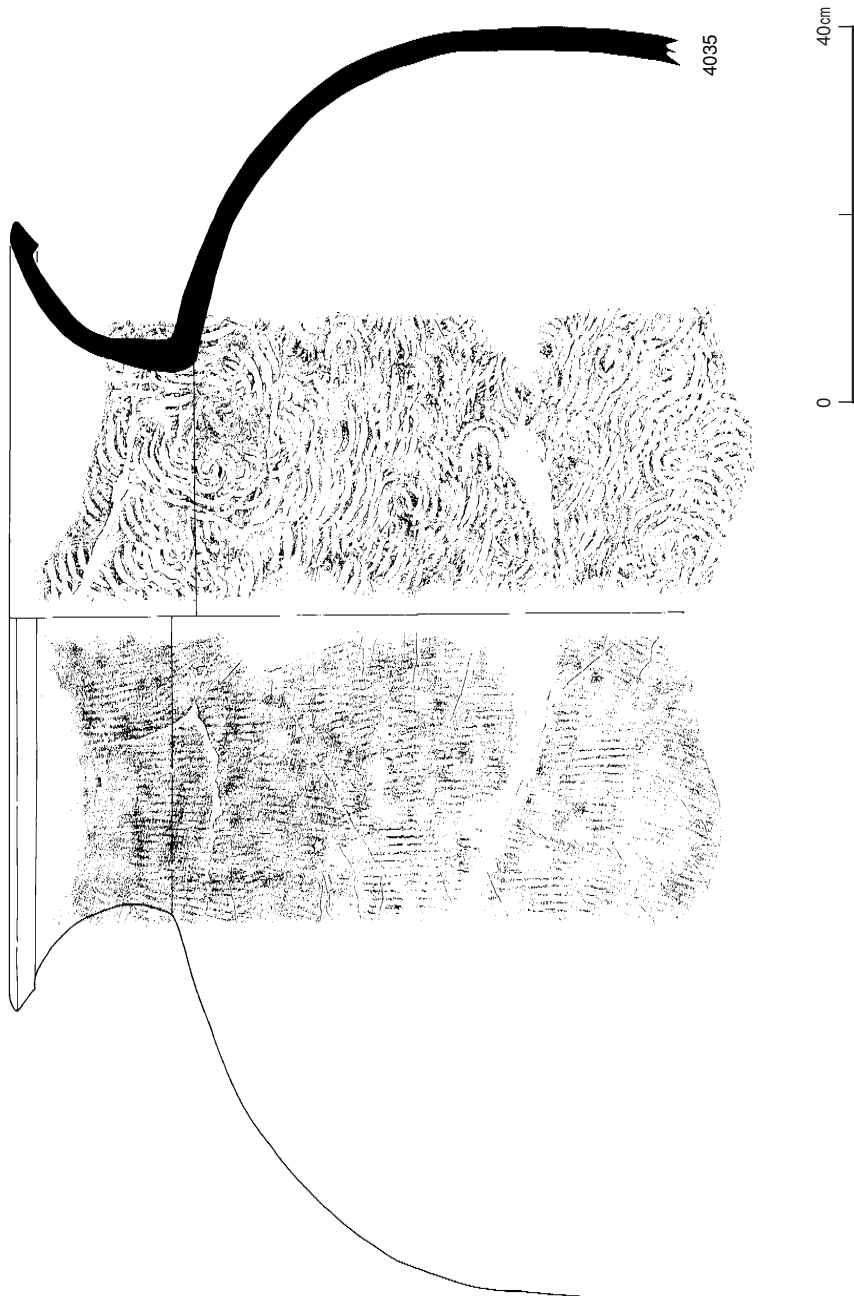
第85図 古代遺構図84 (1/40)



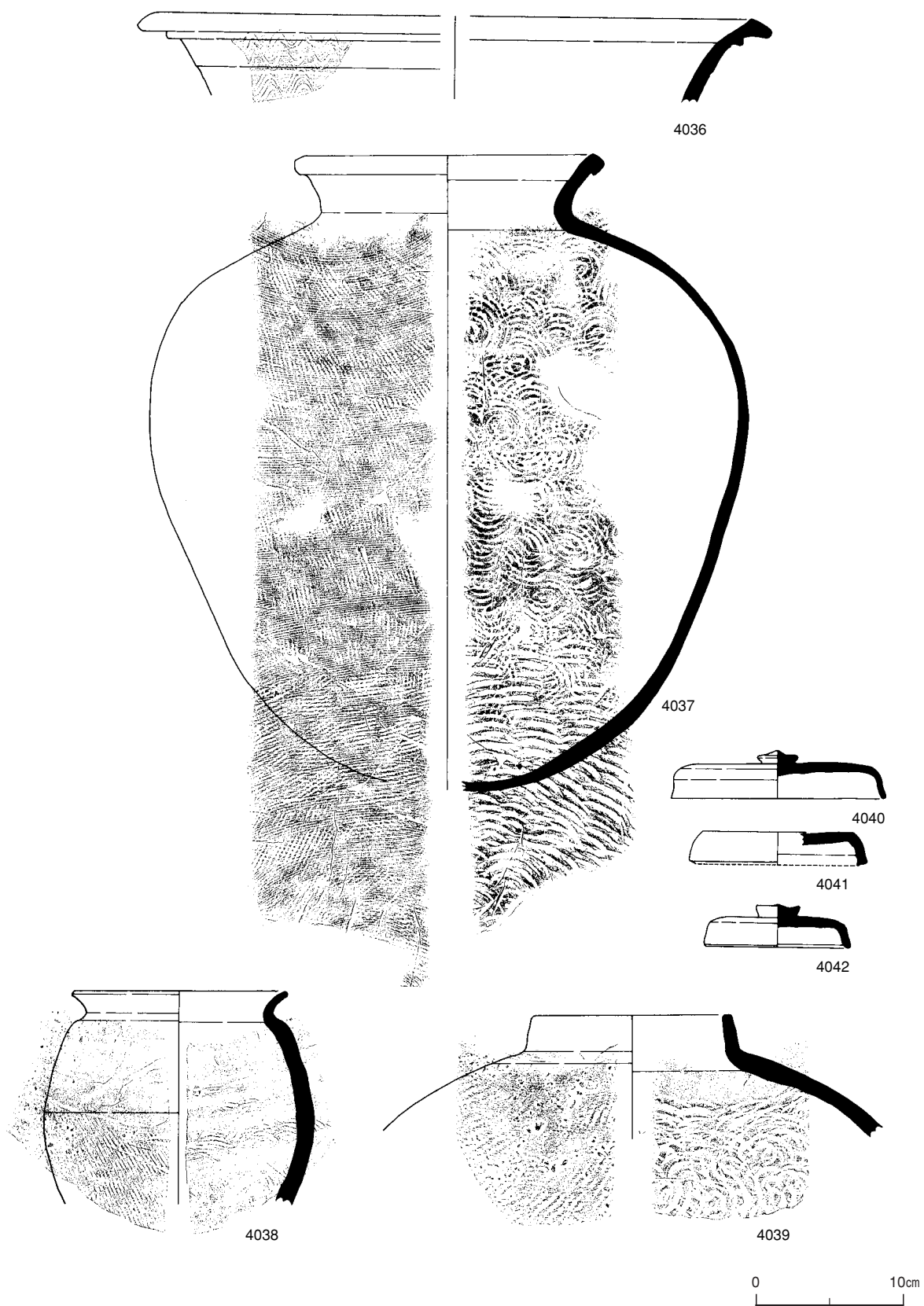
第86図 古代遺物実測図1 (1/4)



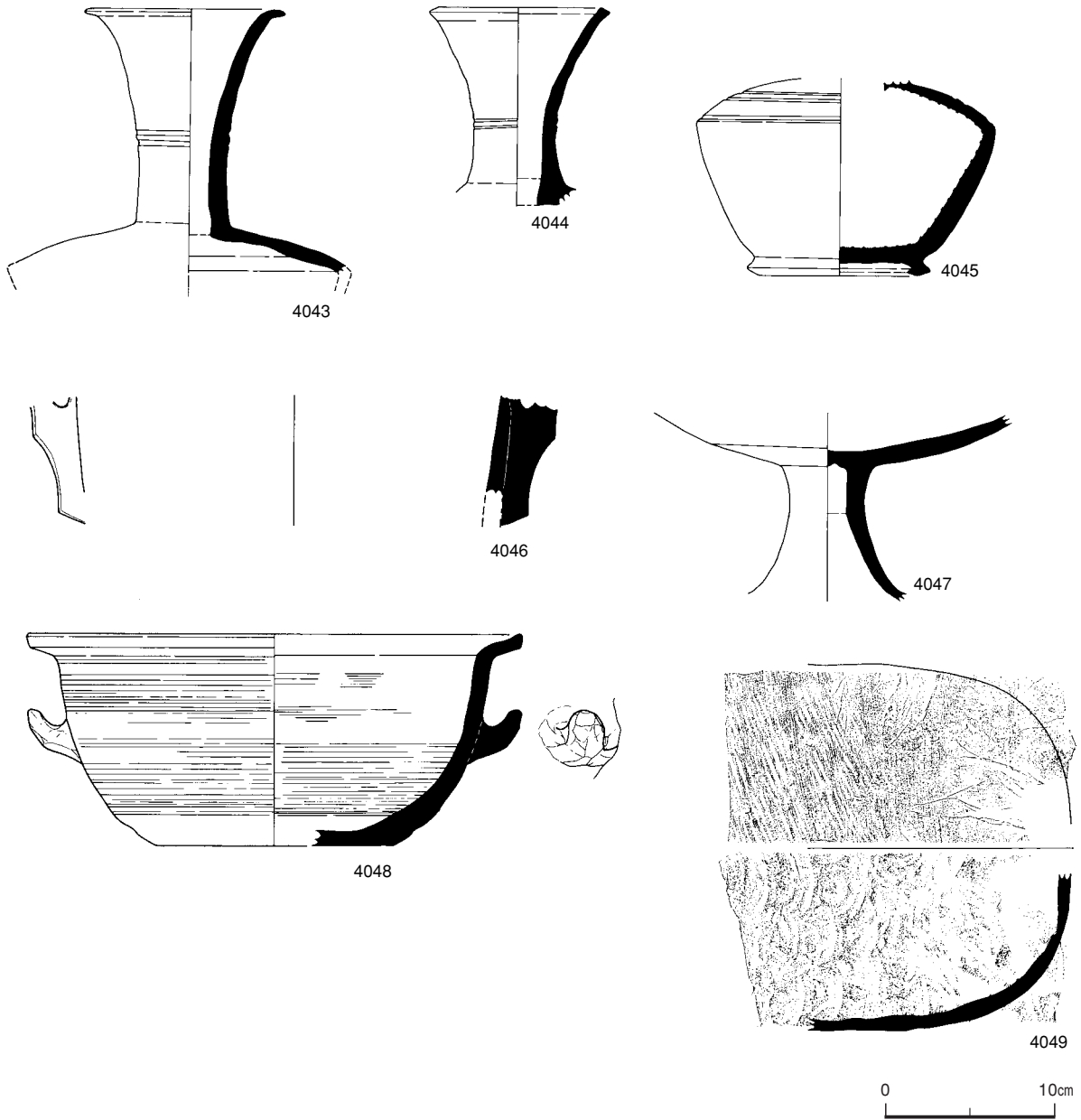
第87図 古代遺物実測図2 (1/4)



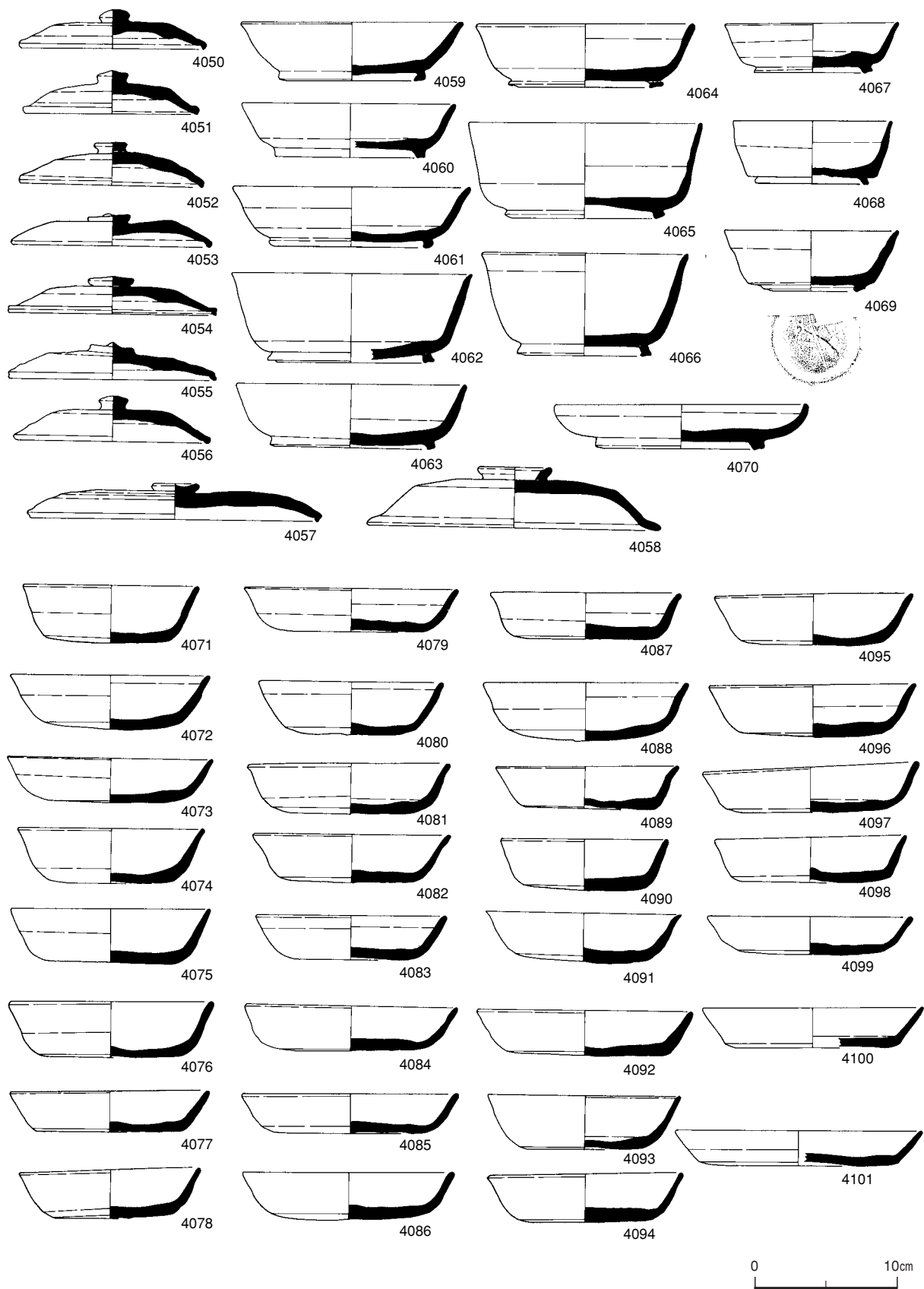
第88図 古代遺物実測図3 (1/8)



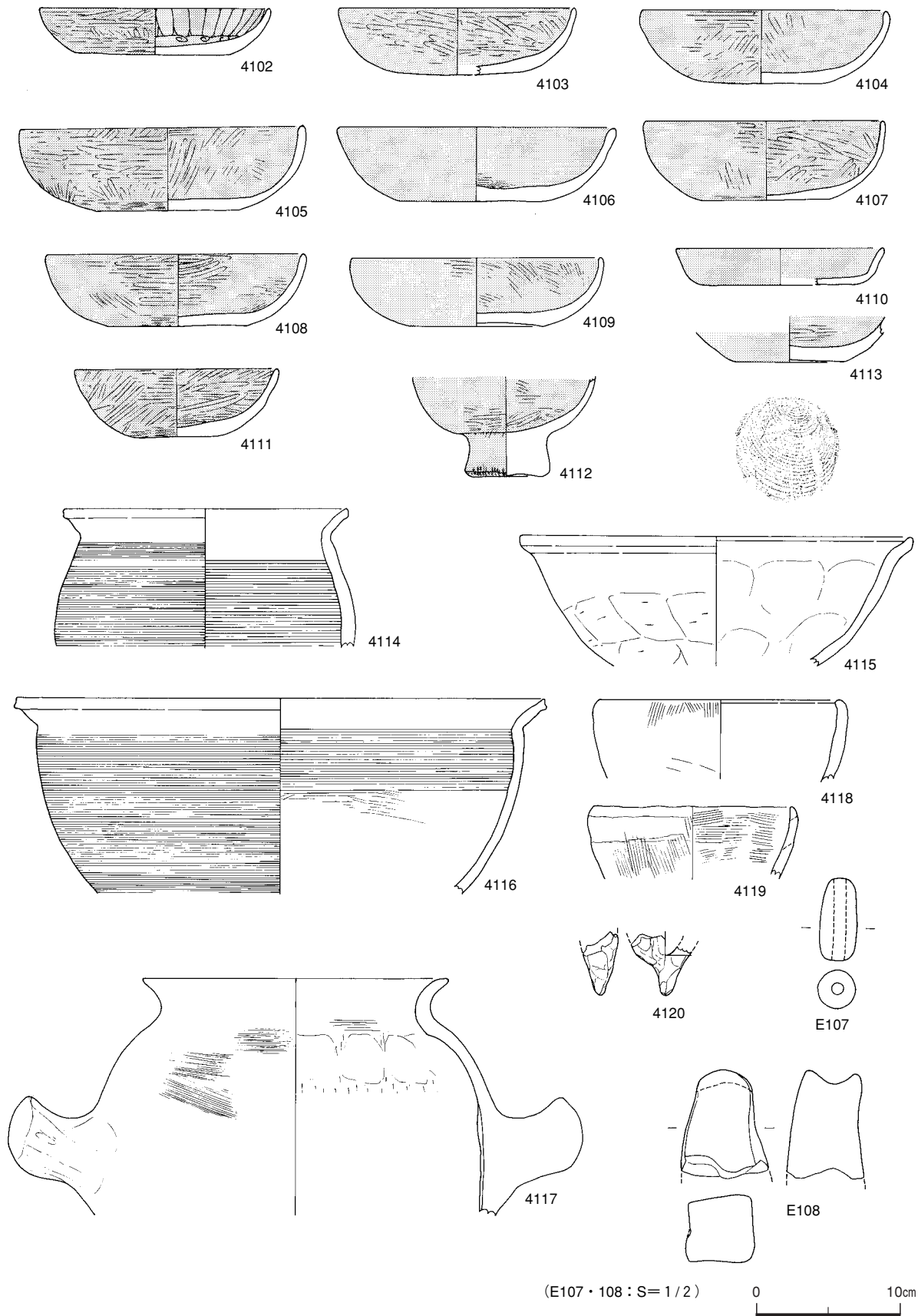
第89図 古代遺物実測図4 (1/4)



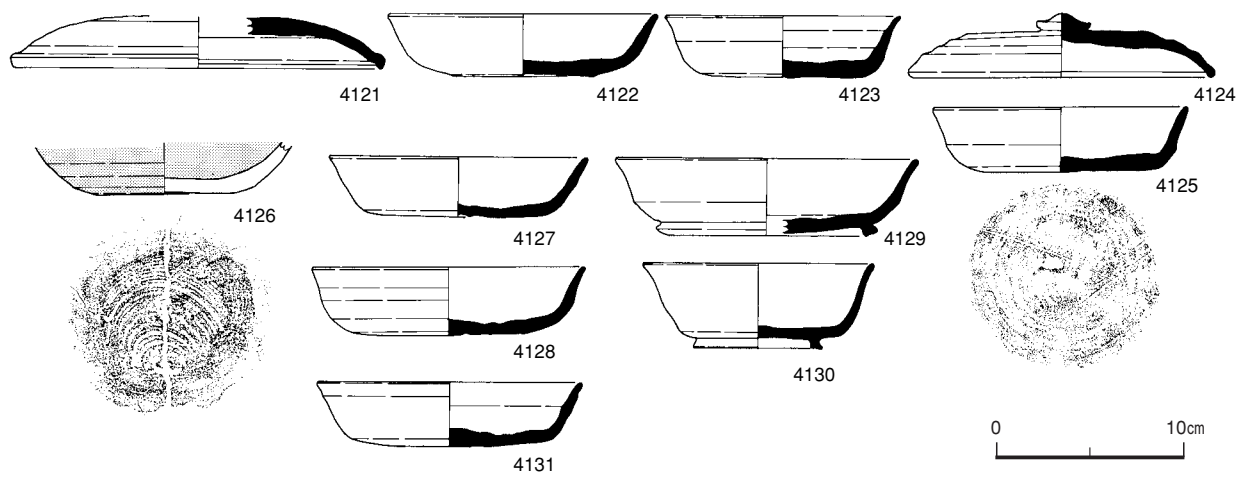
第90図 古代遺物実測図5 (1/4)



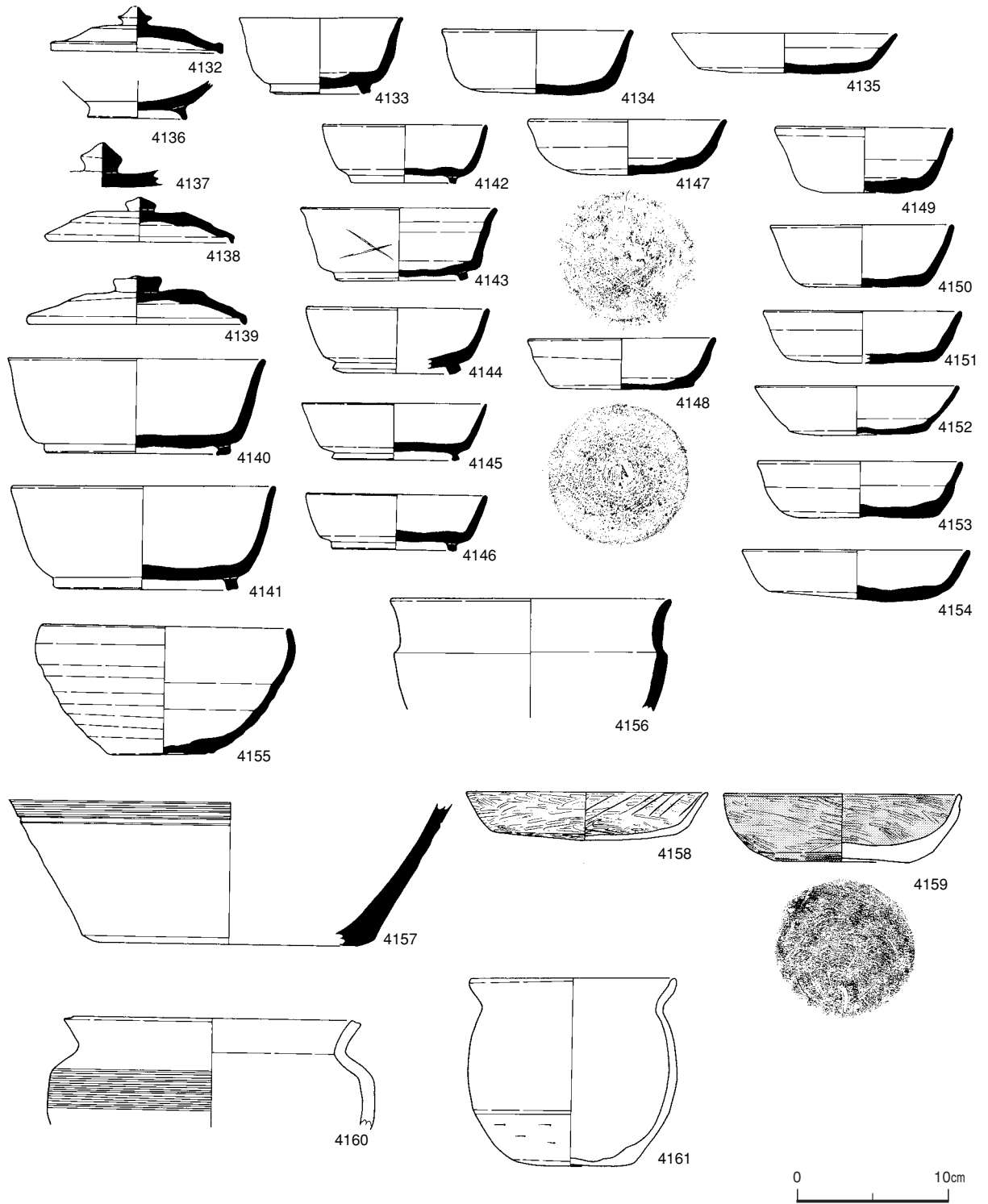
第91図 古代遺物実測図6 (1/4)



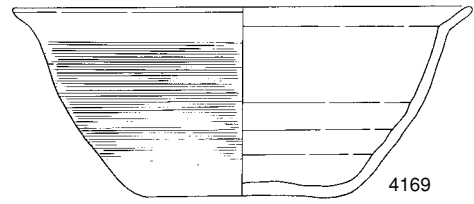
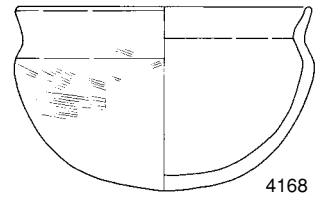
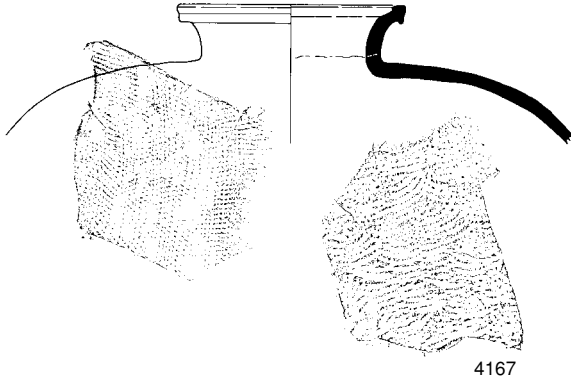
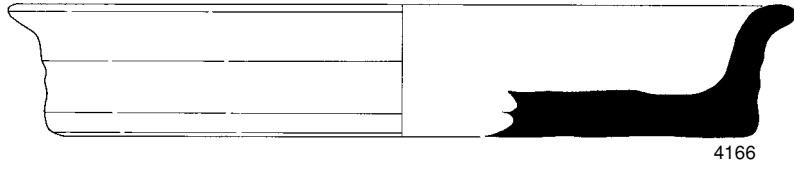
第92図 古代遺物実測図7 (1/4)



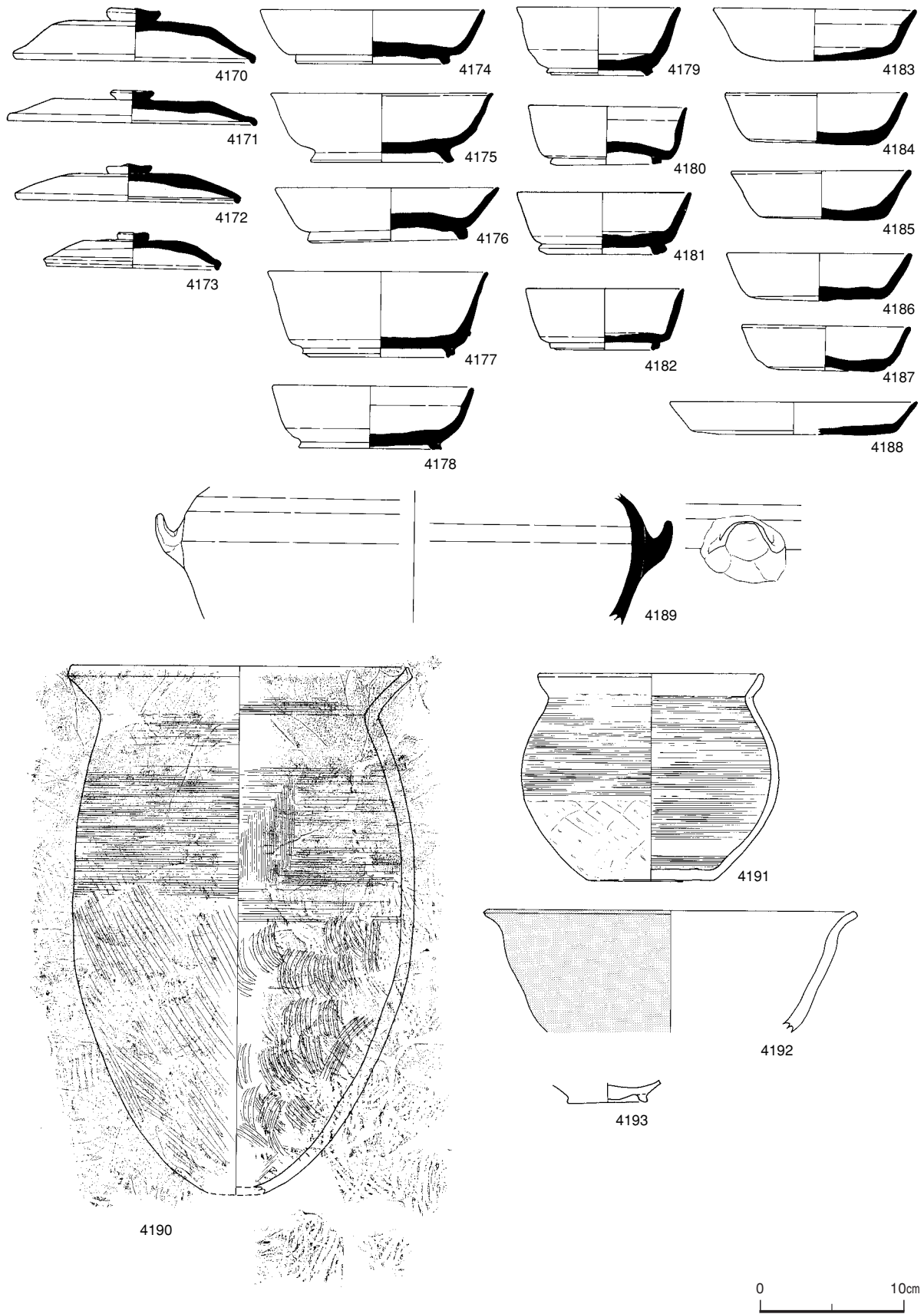
第93図 古代遺物実測図8 (1/4)



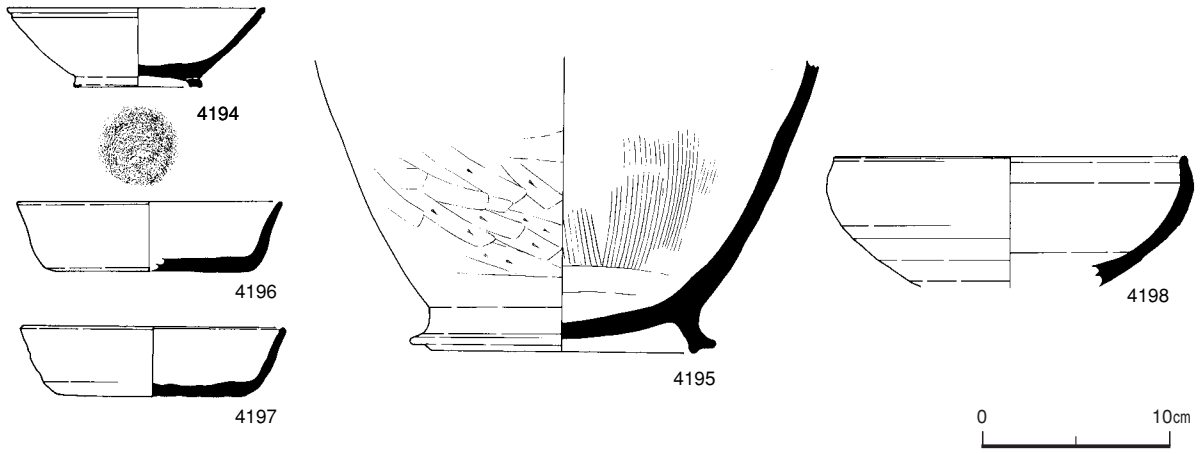
第94図 古代遺物実測図9 (1/4)



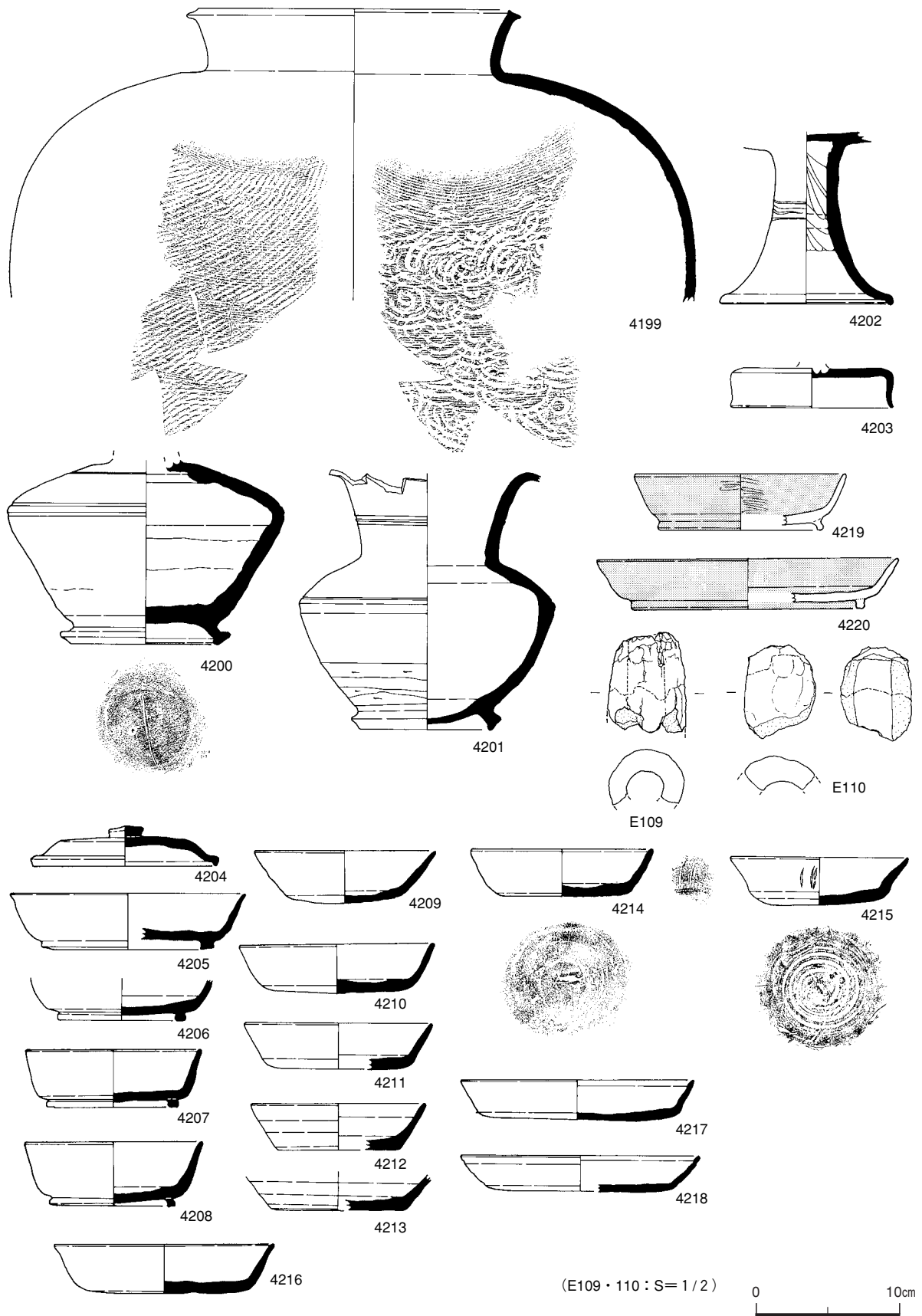
第95図 古代遺物実測図10 (1/4)



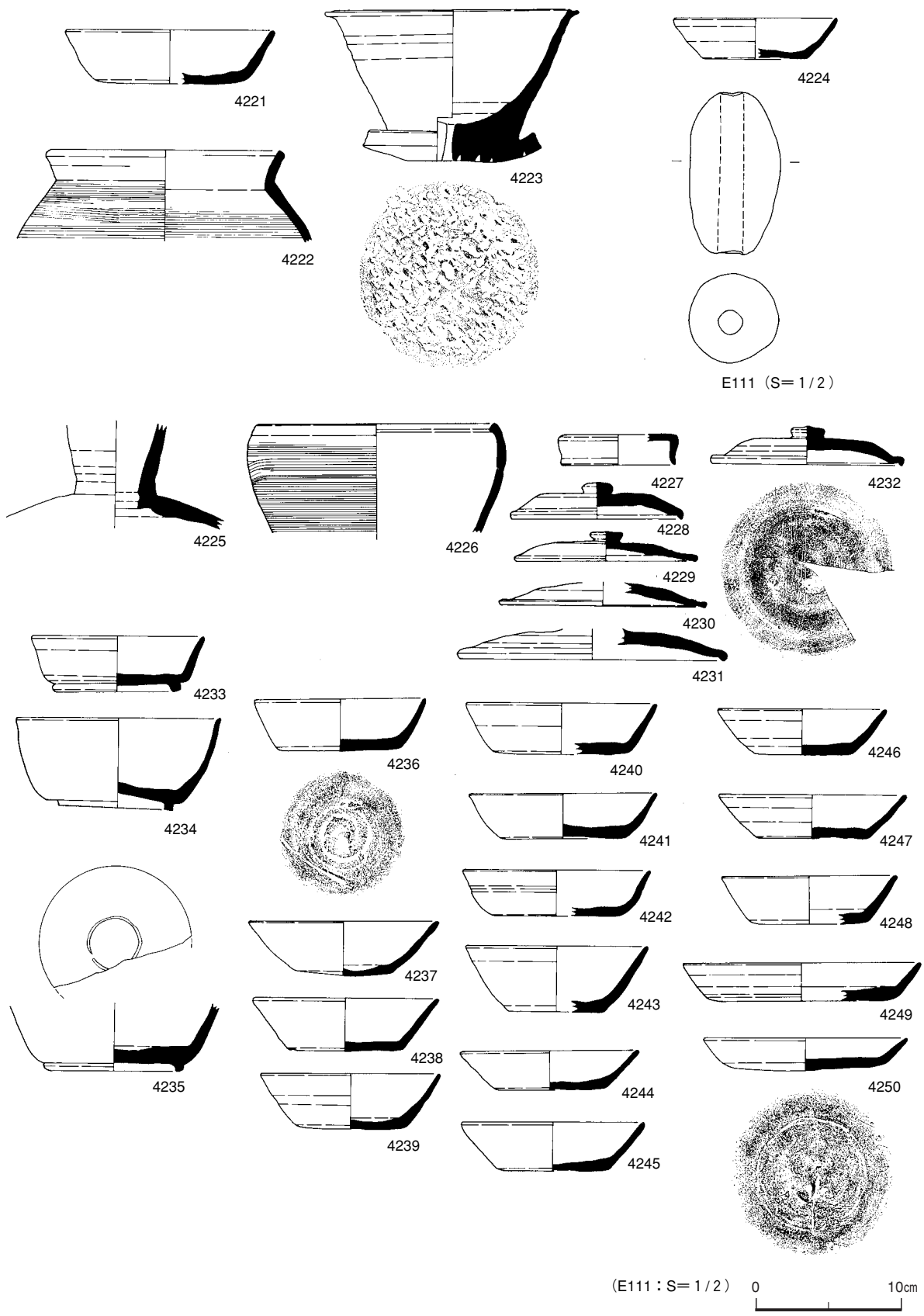
第96図 古代遺物実測図11 (1/4)



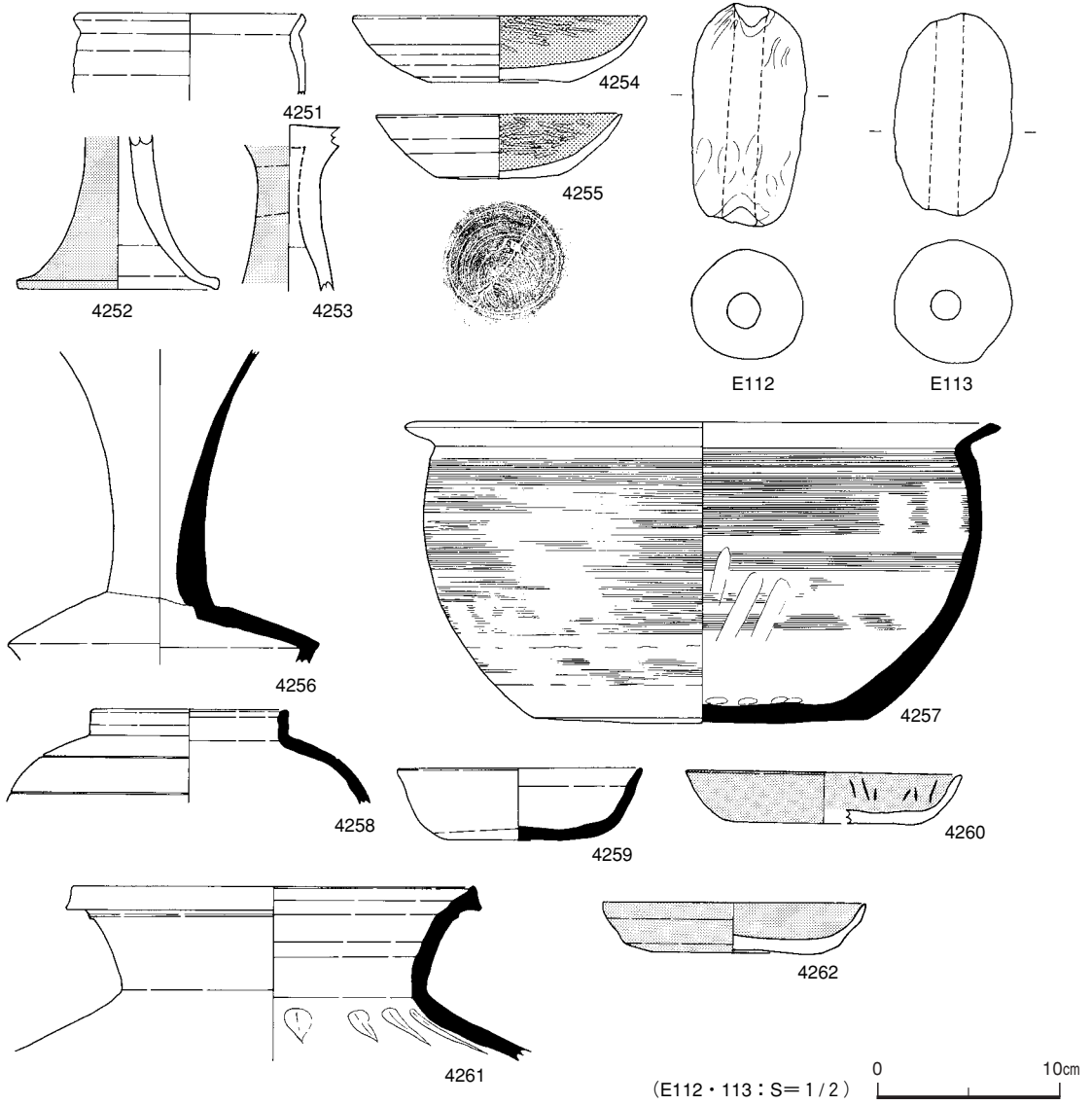
第97図 古代遺物実測図12 (1/4)



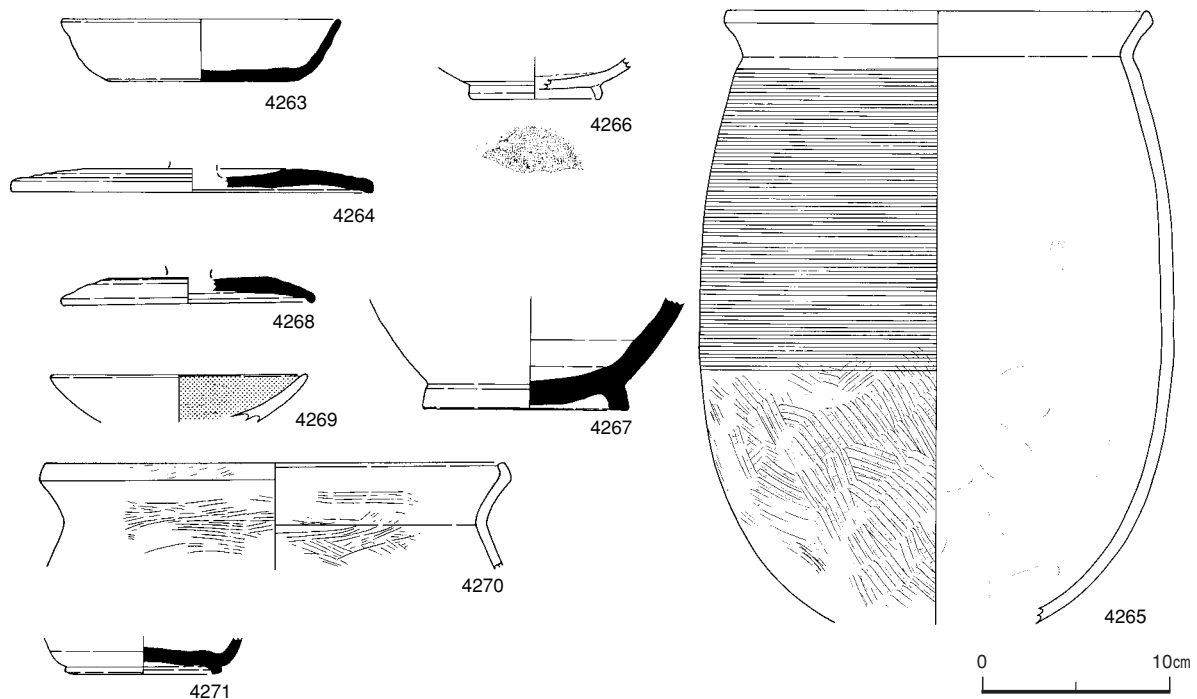
第98図 古代遺物実測図13 (1/4)



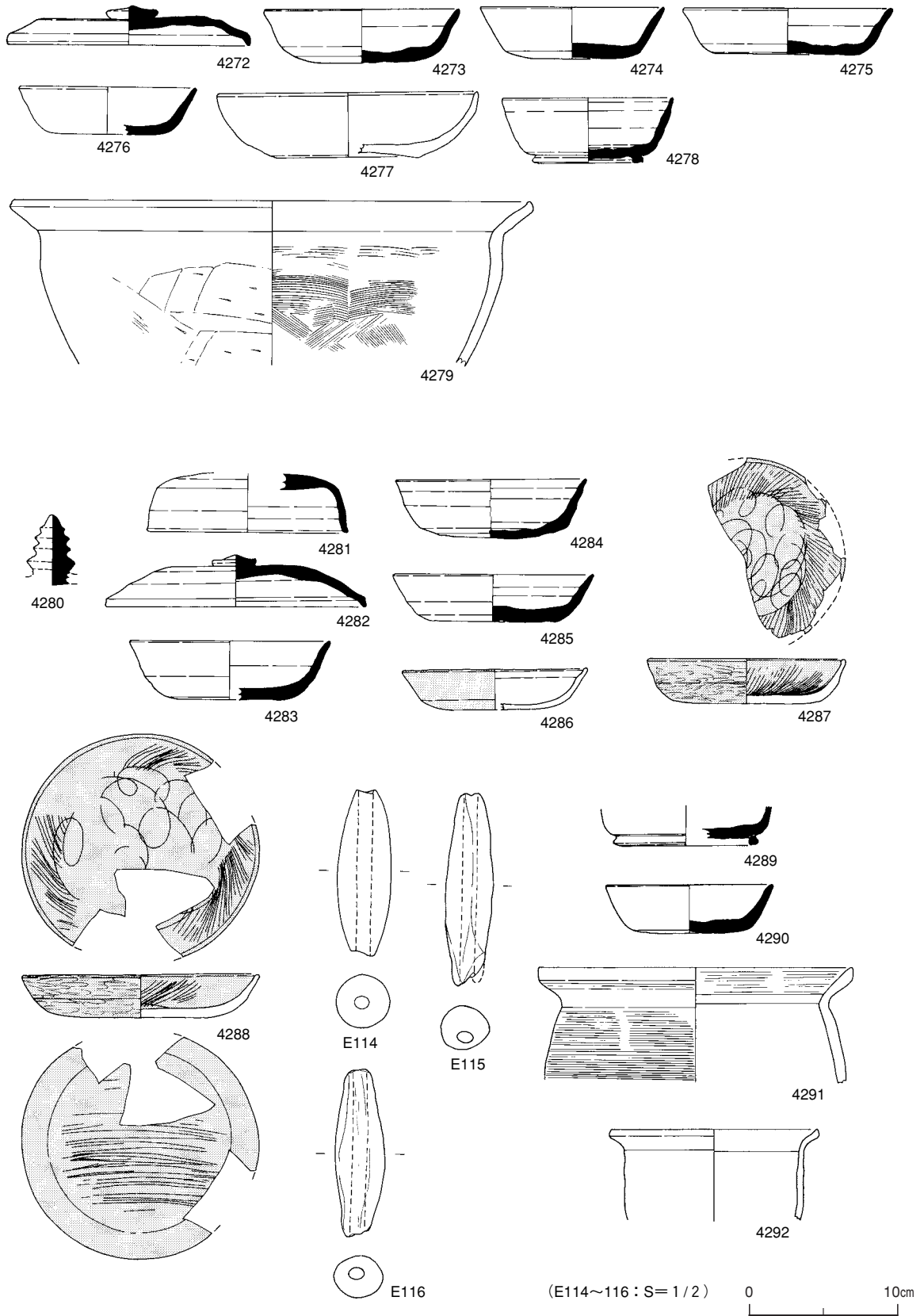
第99図 古代遺物実測図14 (1/4)



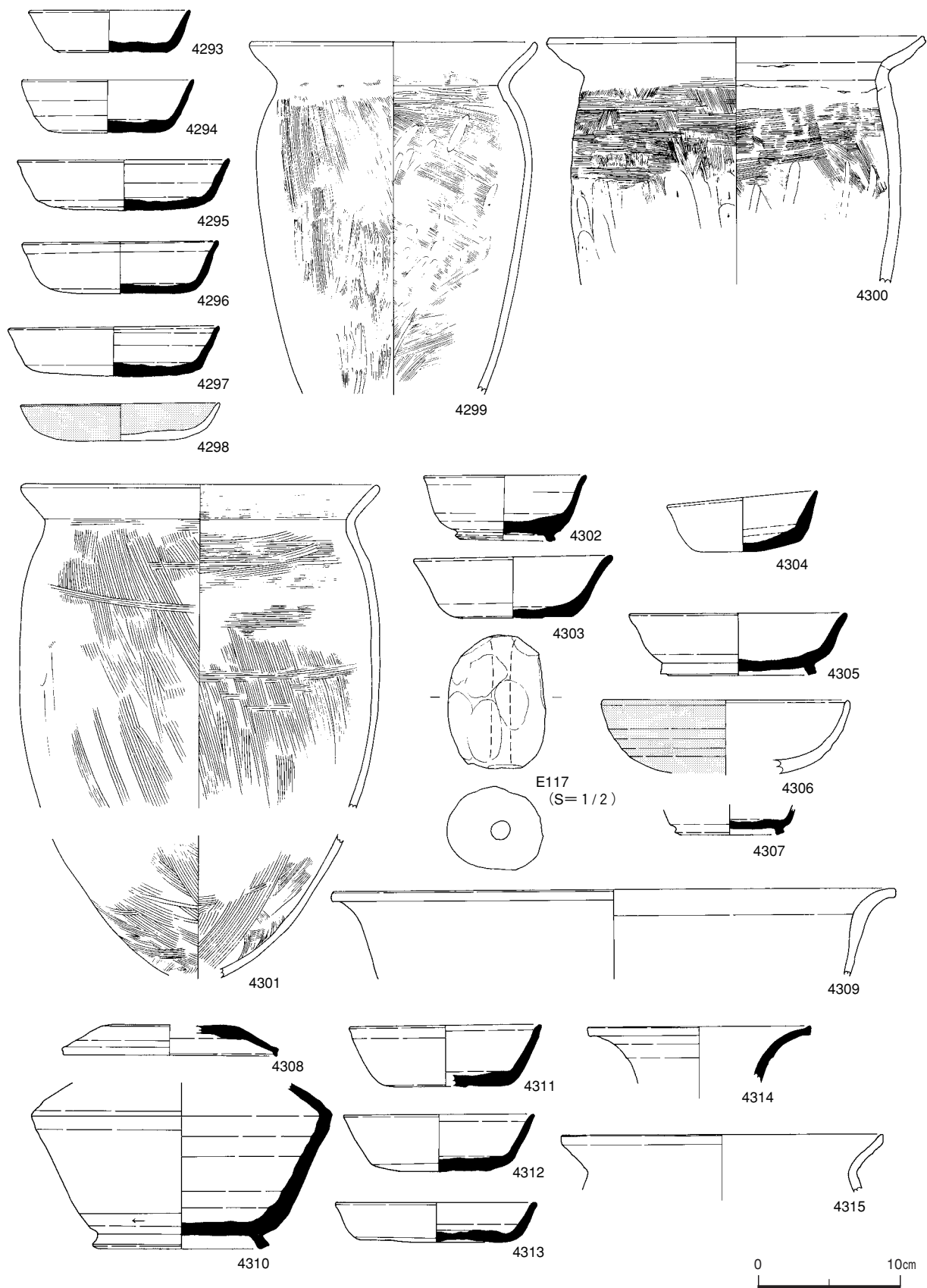
第100図 古代遺物実測図15 (1/4)



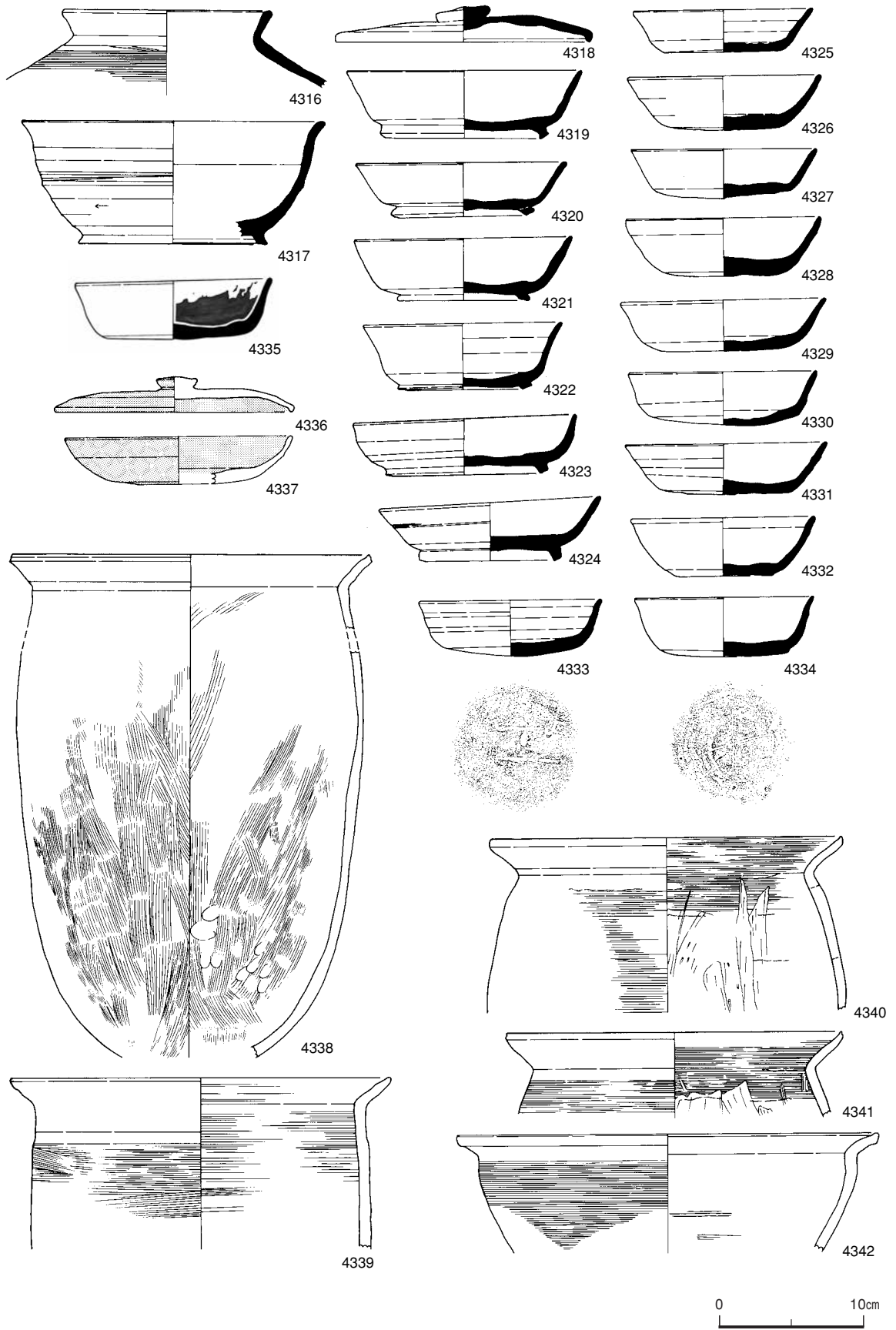
第101図 古代遺物実測図16 (1/4)



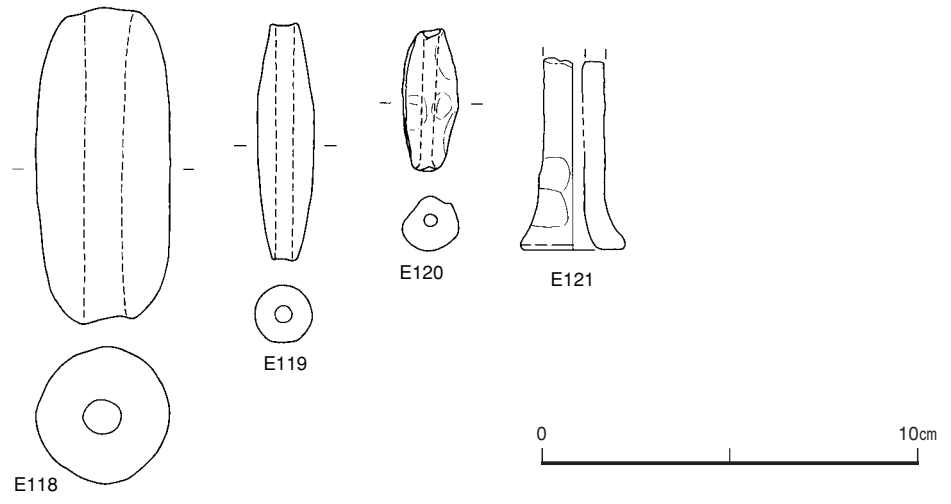
第102図 古代遺物実測図17 (1/4)



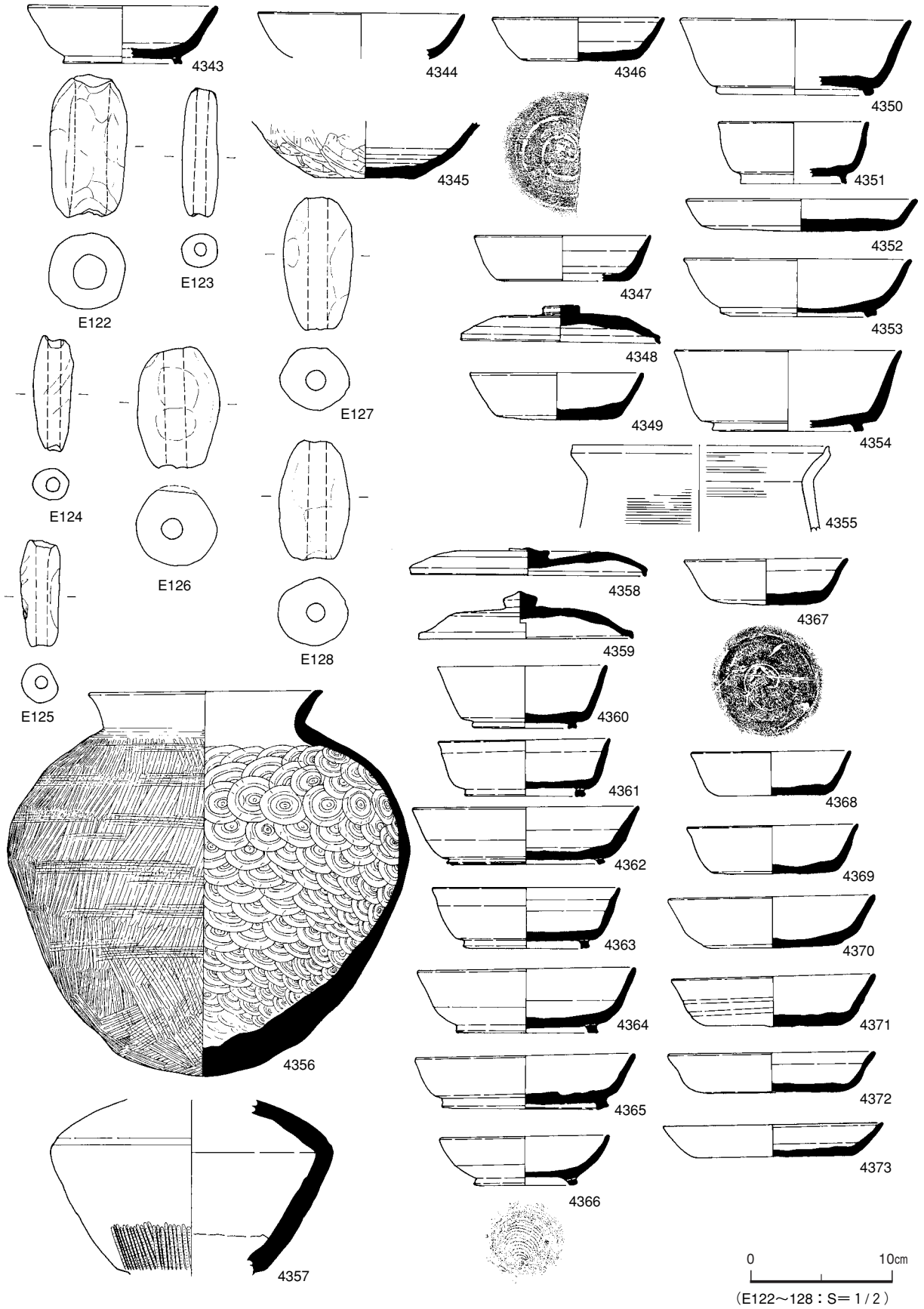
第103図 古代遺物実測図18 (1/4)



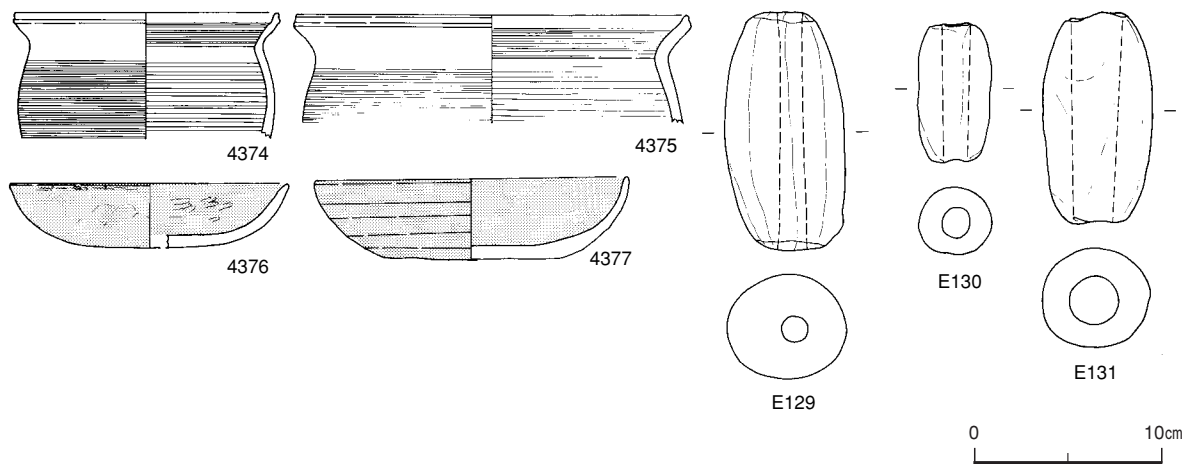
第104図 古代遺物実測図19 (1/4)



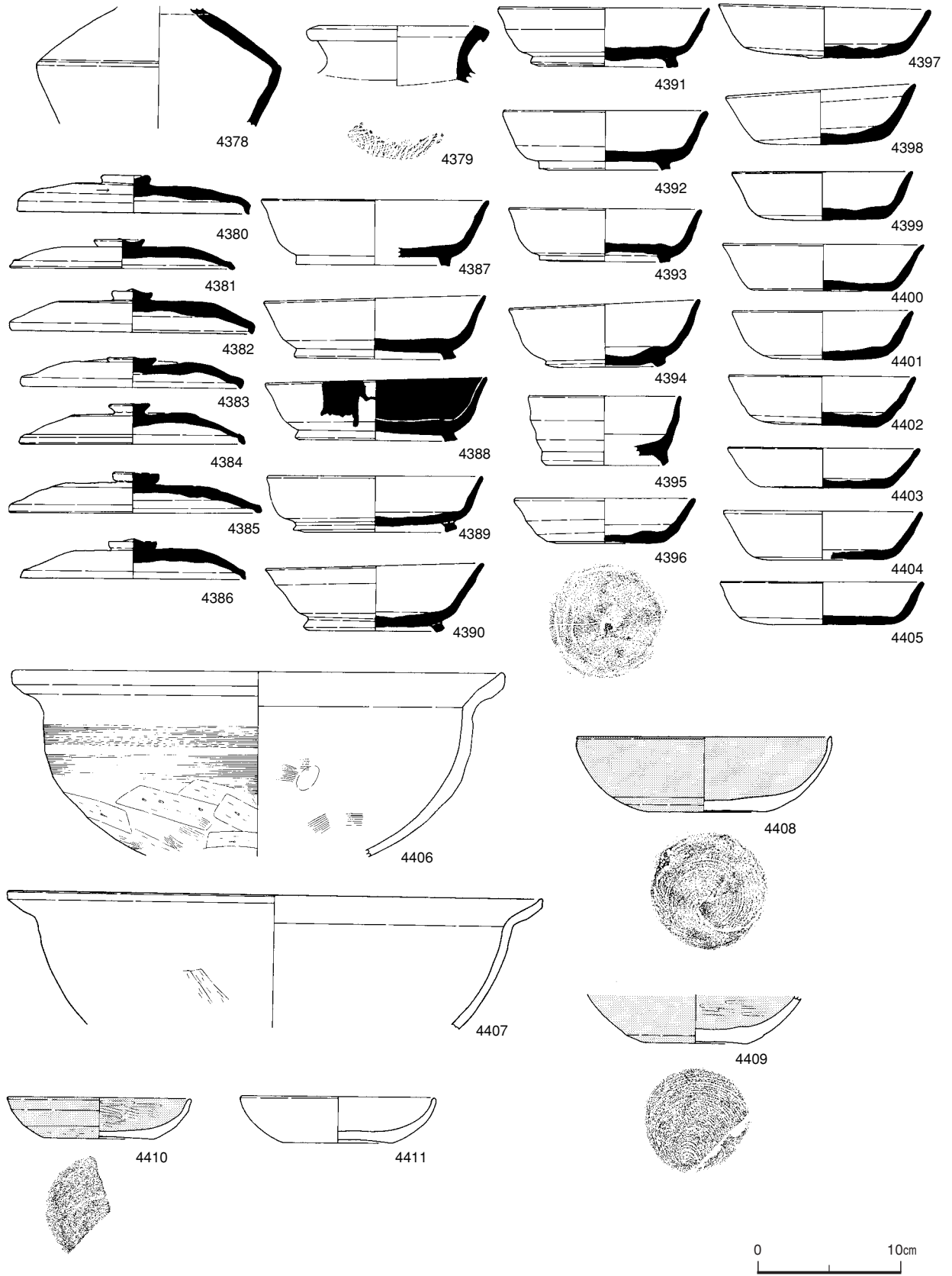
第105図 古代遺物実測図20 (1/2)



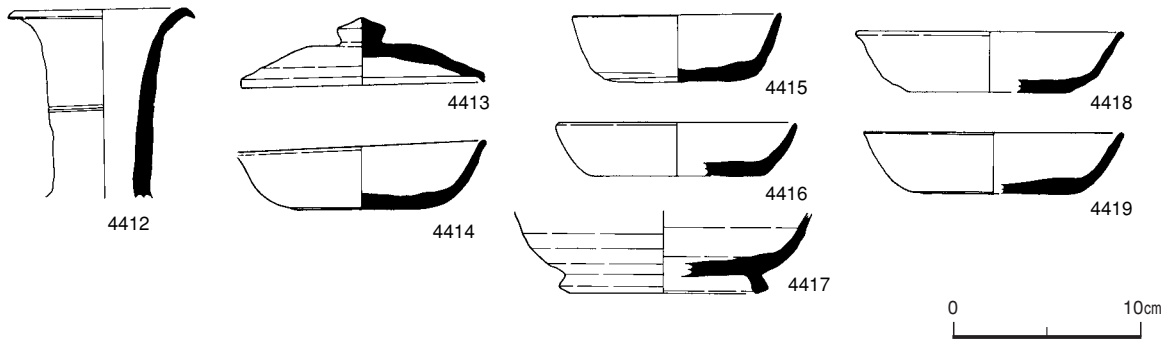
第106図 古代遺物実測図21 (1/4)



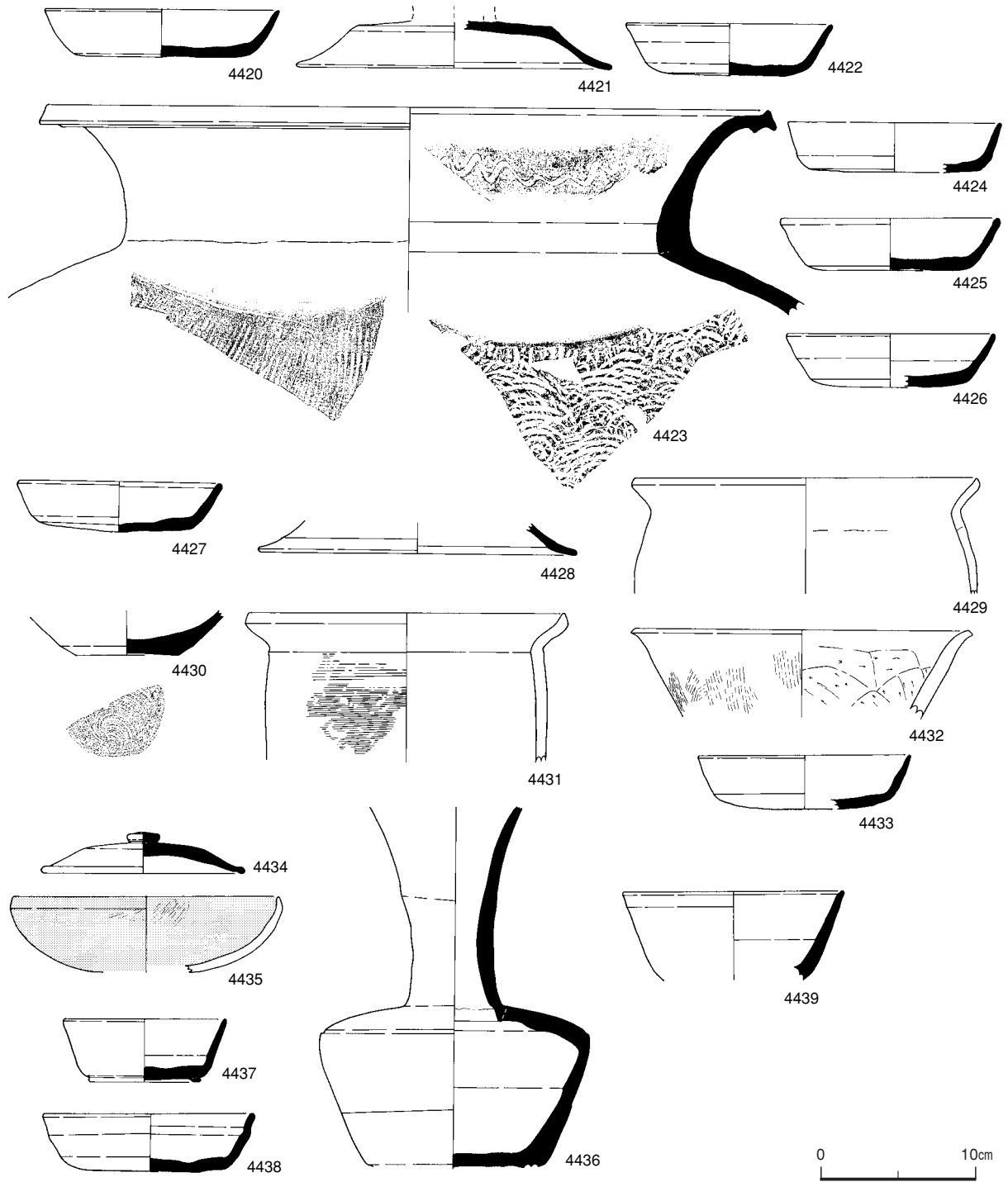
第107図 古代遺物実測図22 (1/4) (E129~131 : S= 1/2)



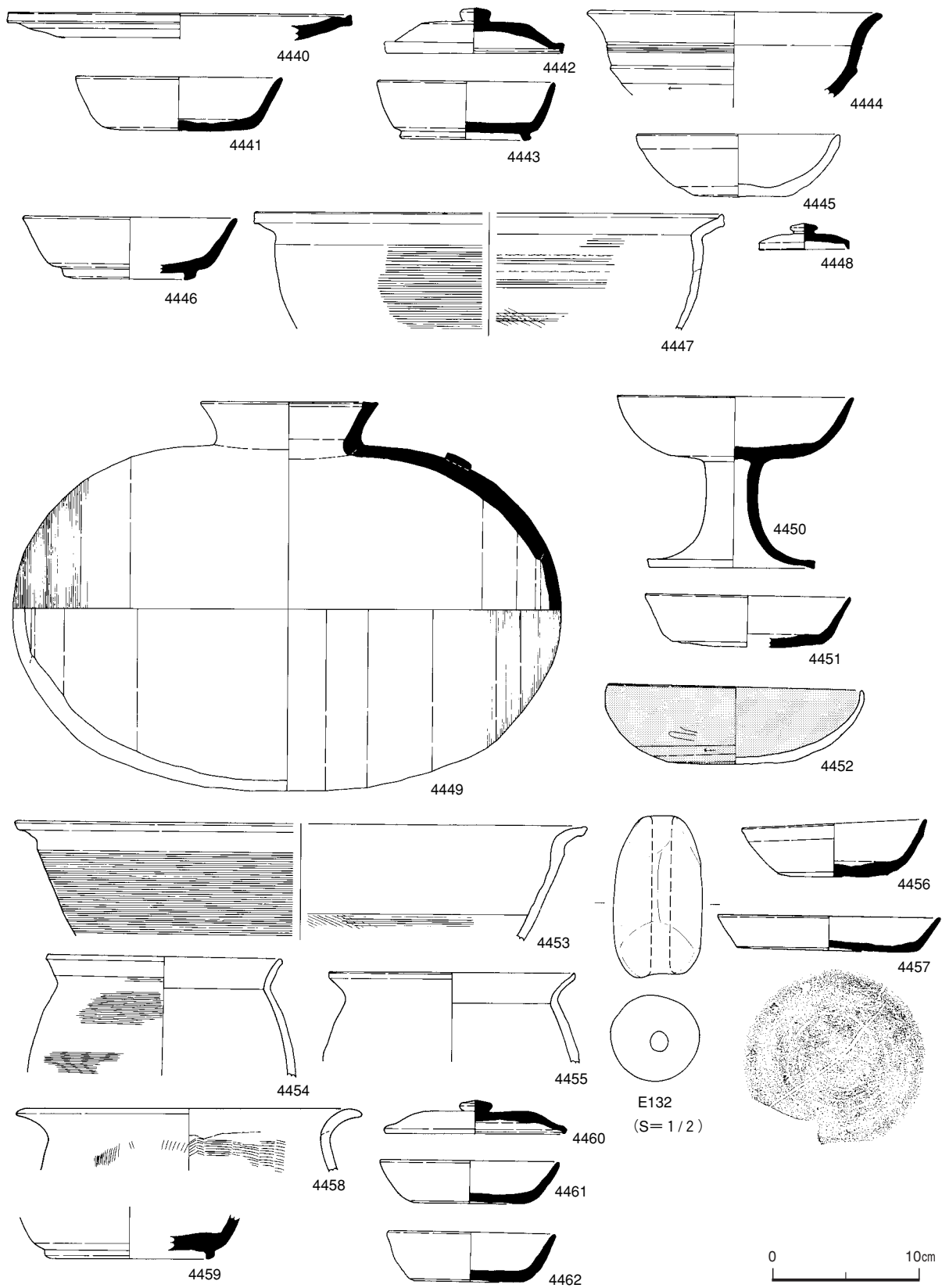
第108図 古代遺物実測図23 (1/4)



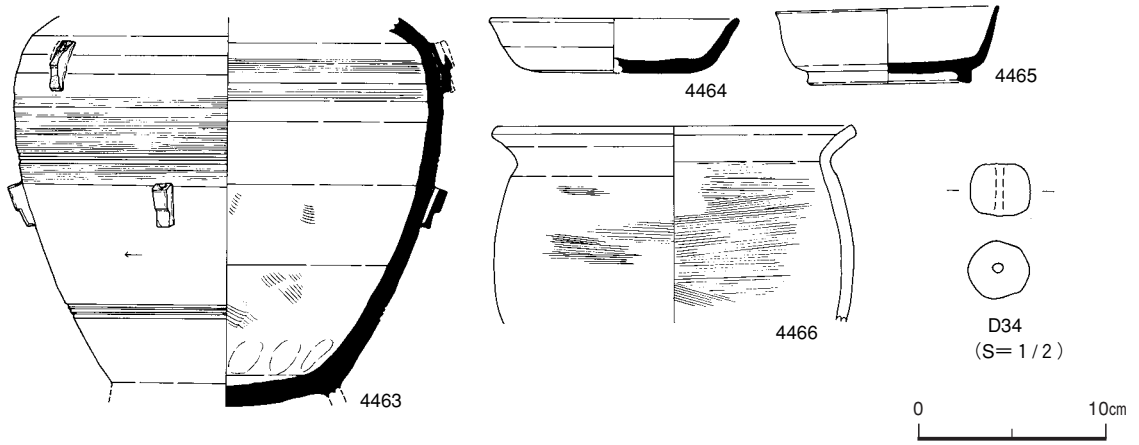
第109図 古代遺物実測図24 (1/4)



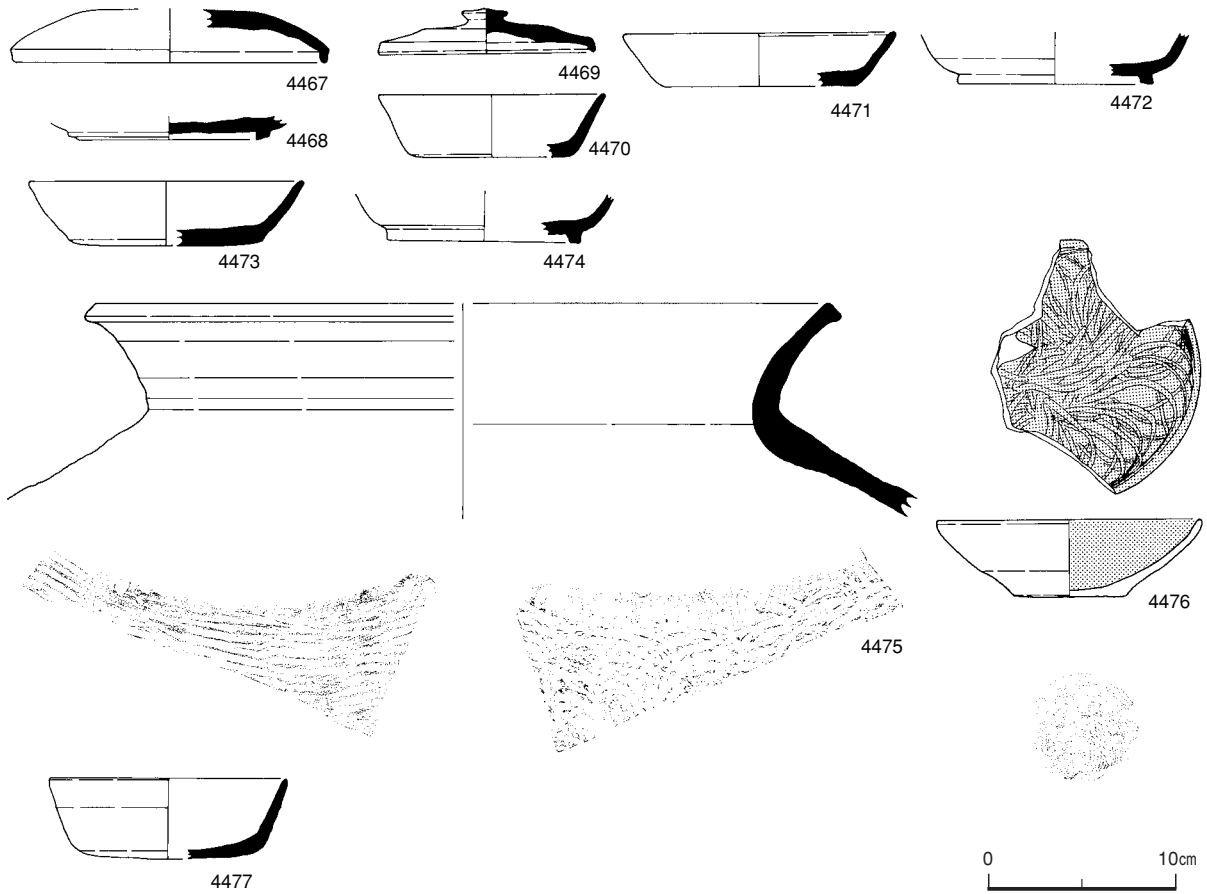
第110図 古代遺物実測図25 (1/4)



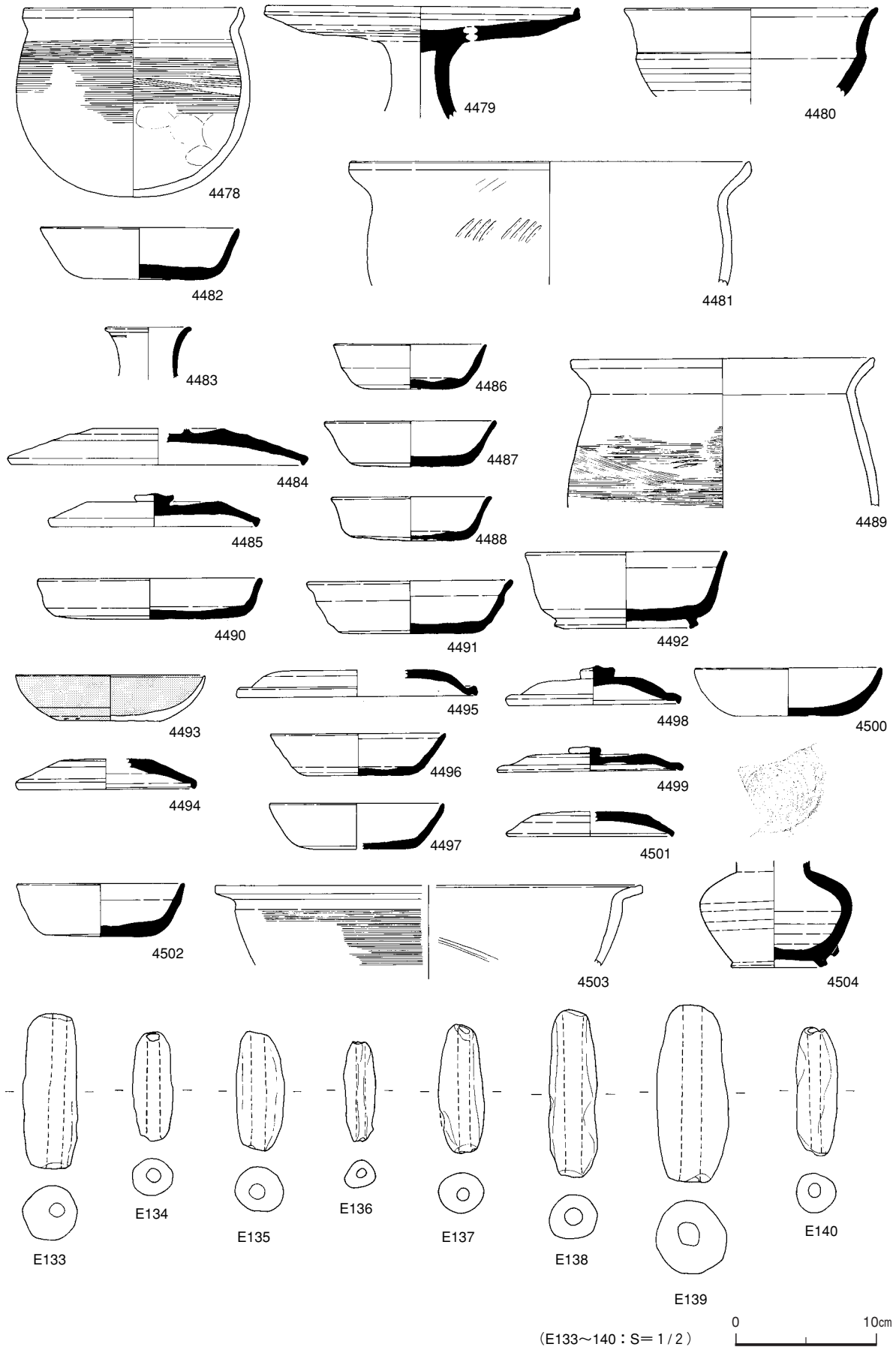
第111图 古代遺物実測図26 (1/4)



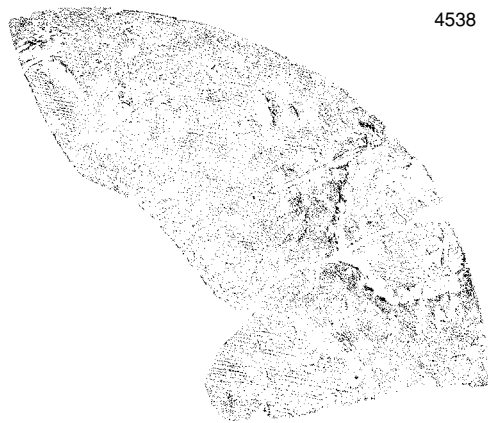
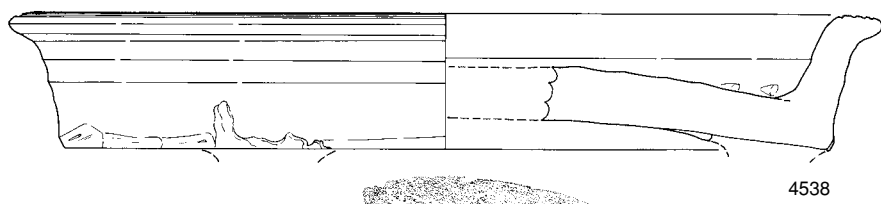
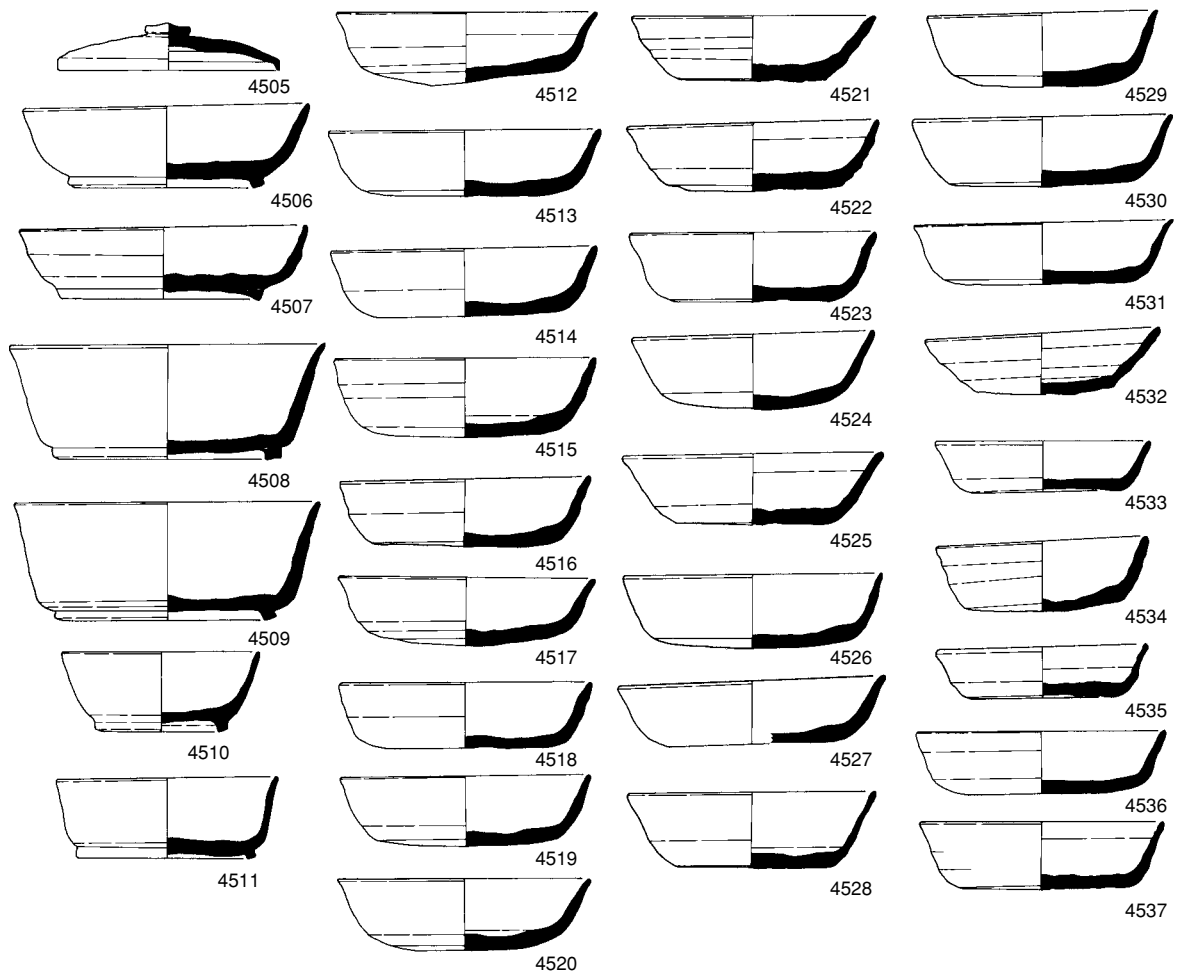
第112図 古代遺物実測図27 (1/4)



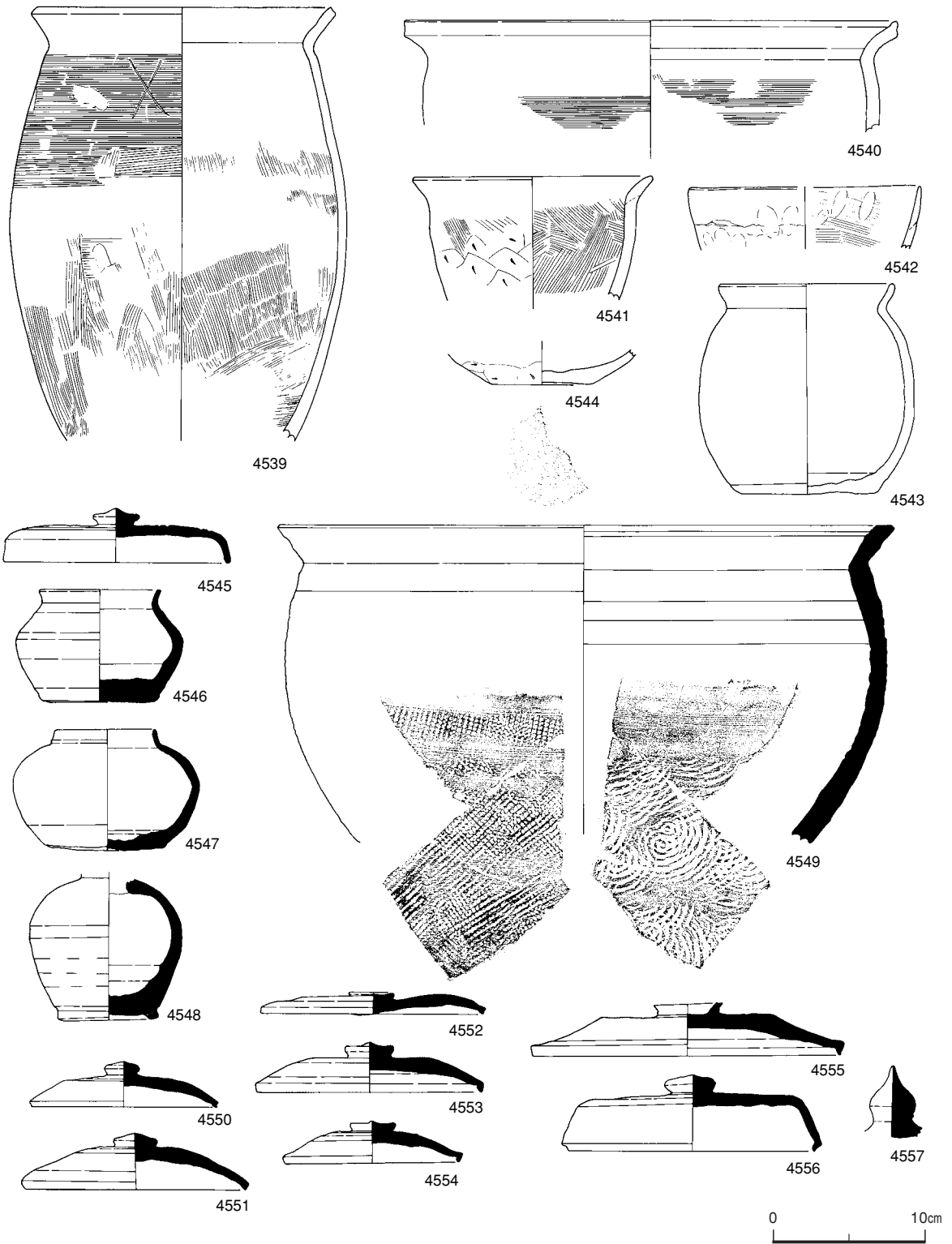
第113図 古代遺物実測図28 (1/4)



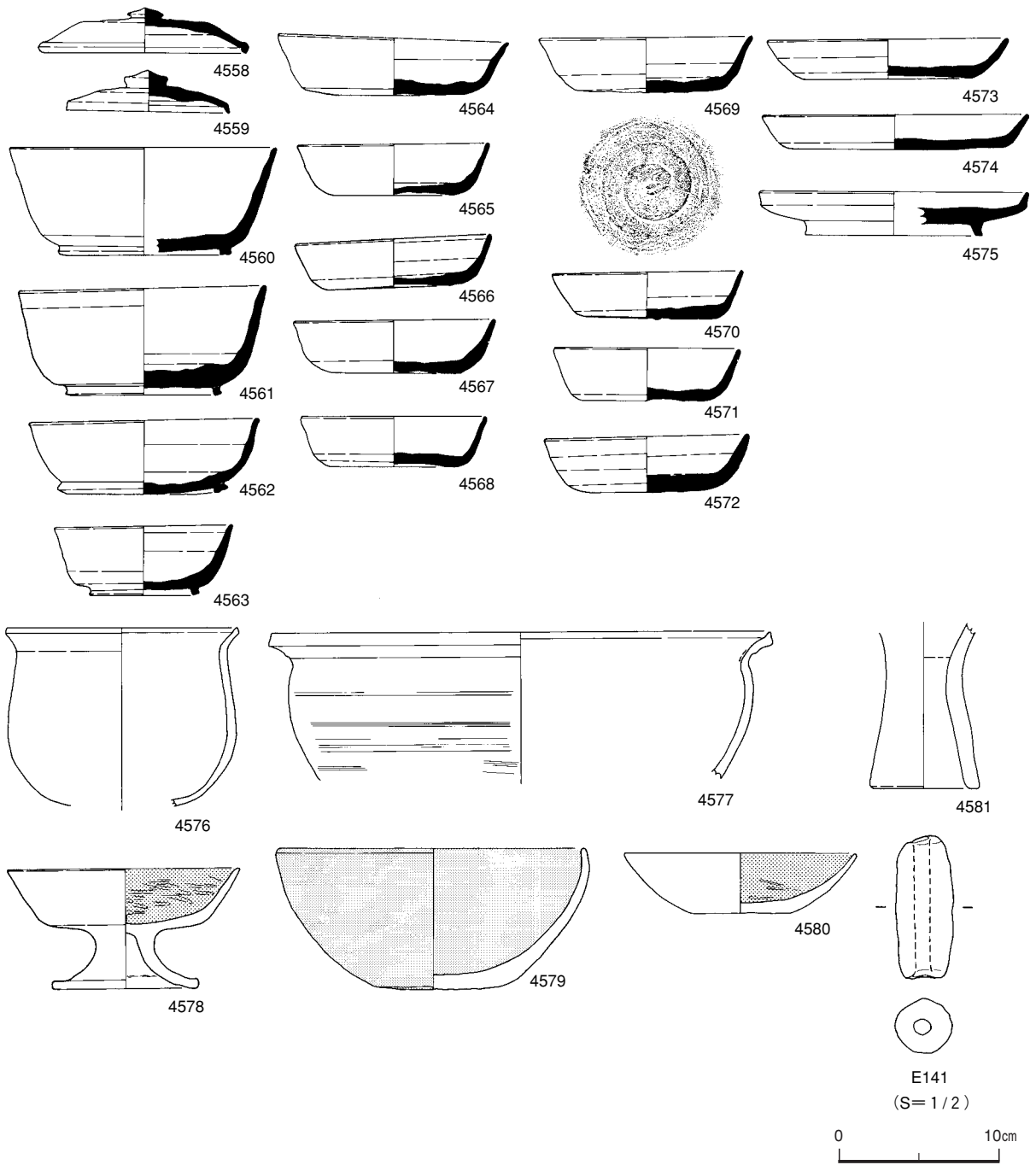
第114図 古代遺物実測図29 (1/4)



第115図 古代遺物実測図30 (1/4)



第116図 古代遺物実測図31 (1/4)



第117図 古代遺物実測図32 (1/4)

第2表 土器一覽

報告番号	種別	器種	年	地区	遺構	グリッド	遺構2	法量(mm)			調整(内/外)	色調(内/外)	胎土	焼成	実測番号
								口径	器高	底径					
4001	須恵器	有台杯	99	A1	SD04		Aプロック	143	44	116	ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白～灰	粗砂微、海綿骨針	良	02s2D21
4002	須恵器	無台杯	99	A1	SD04		Cプロック	134	40	89	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白～灰	細砂微、海綿骨針	良	02s2D20
4003	赤彩	椀	99	A1	SD04		土器プロック12	135	33	72	ミガキ/ミガキ、ナデ、摩耗	灰白/灰白～鈍黄橙	きめ細かい。海綿骨針、焼土塊	良	02s2C58
4004	須恵器	甕	99	A1	SD05			(40)			ロクロナデ、青海波タタキ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂少、細砂、黒色粒	良	02s2D23
4005	須恵器	杯蓋	99	A1	SD51	AB29	a	179	(25)		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	青灰/灰	礫、粗砂多、気泡	良	02s2D18
4006	須恵器	杯	99	A1	SD51	AB29	ab	128			ロクロナデ/ロクロナデ		白粒砂(2～1mm以下)多	良	02PD3
4007	須恵器	鉢?	99	A1	SD51	AA29	a	187	(37)		ロクロナデ/ロクロナデ、沈線	黄灰/褐灰	礫少、粗砂多、堅緻	良	02s2D19
4008	須恵器	槽形鉢	99	A1	SD51			304	171	154	ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ、回転ヘラケズリ、底部摩耗	灰白/灰白	礫少、粗砂、砂	良	02s2D14
4009	須恵器	有台杯	99	A1	SE03			106	40	72	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後台付け後ナデ	灰/灰	粗砂、細砂多	良	02s2D29
4010	須恵器	有台杯	99	A1	SE03			154	64	94	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、台付け、ロクロナデ	灰/灰	粗砂多、やや堅緻	良	02s2D27
4011	内黒	椀	99	A1	SE03			131	30	50	内黒ミガキ/ヨコナデ、糸切?	黒/鈍黄橙	粗砂、細砂多、焼土塊、雲母、海綿骨針	良	02s2C72
4012	須恵器	球胴壺	99	A1	SE03			(96)		85	ロクロナデ/ロクロナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ切後台付け後ナデ	灰/灰	粗砂、細砂	良	02s2D31
4013	須恵器	甕	99	A1	SE03			(38)		110	青海波タタキ/タタキ(平行)	灰/灰	礫少、粗砂多	良	02s2D26
4014	須恵器	無台杯	99	A1	SK09			134	35	78	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂	良	02s2D32
4015	須恵器	壺	99	A1	P051			(95)		74	ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ後ロクロナデ	灰/灰～暗灰	粗砂多、黒色粒	良	01tD87
4016	須恵器	有台杯	99	A2	SD06			147	64	104	ロクロナデ、回転ヘラケズリ?	灰白/灰	緻密、細砂少	良	01tD124
4017	須恵器	無台杯	99	A2	SD06			(143)	33	120	ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	礫、粗砂微、細砂多	良	01tD126
4018	須恵器	無台杯	99	A2	SD06			132	34	93	ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	礫、粗砂微、細砂少	不良	01tD125
4019	赤彩	椀	99	A2	SD06			(198)	(54)		ヨコナデ/ヘラケズリ	鈍黄橙/鈍黄橙	細砂少	良	01tC220
4020	須恵器	高杯	99	A2	SD06(08)			222	(124)	110	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	2.5mm～5.0mmの礫少	不良	01tD185
4021	土師器	甕	99	A2	SD06			168	(63)		口カキメ、胴磨耗/口ヨコナデ、胴カキメ	浅黄橙/浅黄橙	粗砂、礫、石英、長石	良	01tD186
4022	須恵器	無台杯	99	A2	SD111			144	34	124	ロクロナデ/ヘラ切、ロクロナデ	灰白/灰白	礫。粗砂	良	02s2D4
4023	灰釉	有台椀	99	A2	SD22			(27)		79	施釉、ロクロナデ/回転糸切り、ロクロナデ、施釉	灰白/オリーフ灰、灰白	砂	良	02s2D5
4024	土師器	甕	99	A2	SD?			175	(72)		ロクロナデ、カキメ/ロクロナデ、カキメ	鈍黄橙/鈍黄橙	粗砂、礫多	良	02s2C4
4025	須恵器	無台杯	99	A2	SK19			122	35	84	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂、砂少	良	02s2D36
4026	須恵器	無台杯	99	A2	SK19			122	39	67	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫微、粗砂少	良	02s2D37
4027	須恵器	有台杯	99	A2	SK19			156	57	108	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	青灰/灰	礫、粗砂少	良	02s2D35
4028	土師器	括れ鉢	99	A2	SK29			(264)	(60)		ハケメ、ロクロナデ/カキメ、ロクロナデ	淡黄/灰黄、灰白	海綿骨針、粗砂。礫少	良	02s2C113
4029	土師器	甕	99	A2	SK29			(169)	(200)		ナデ、ハケ→ナデ、ハケ/ヨコナデ、ハケ	浅黄橙/淡橙	粗砂、細砂、焼土塊多	良	02s2C102
4030	須恵器	杯蓋	99	A2	SB333-P273	SB333		151	(17)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	礫少、砂	良	02s2D15
4031	須恵器	杯蓋	99	A2	SB331-P311	SB331		169	(19)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/オリーフ灰、灰白	礫少。粗砂少	良	02s2D49
4032	須恵器	有台杯	99	A2	SB334-P96	SB334		156	38	108	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	砂多	良	02s2D46
4033	赤彩	有台杯	99	A2	P125			(16)		133	赤彩、ミガキ外：赤彩、ミガキ	橙/橙、灰白	砂	良	02s2C134
4034	須恵器	無台杯	99	A2	P364			121	32	73	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰	礫、砂、粗砂少	良	02s2D50
4035	須恵器	甕	99	A2	SD08	アゼ北	400	(355)			ロクロナデ、胴青海波/ロクロナデ、胴タタキ	灰/灰	粗砂、礫		01tD119
4036	須恵器	甕	99	A2	SD08	アゼ南	(397)	(56)			ロクロナデ	灰白/暗オリーフ灰	砂っぽい、粗砂、細砂	良	01tD101
4037	須恵器	甕	99	A2	SD08	アゼ南	192	(424)			ロクロナデ、タタキ(青海波)/ロクロナデ、タタキ後カキメ	暗灰/暗灰	緻密、粗砂、焼土塊	良	01tD109
4038	須恵器	広口壺	99	A2	SD08	アゼ北	140	(144)			ロクロナデ、タタキ、ナデ/ロクロナデ、タタキ、ナデ	灰/白灰	緻密、粗砂	良	01tD111
4039	須恵器	狭口壺	99	A2	SD08	アゼ北	130	(83)			ロクロナデ、タタキ/ロクロナデ、タタキ	白灰/白灰	緻密、粗砂	良	01tD112
4040	須恵器	壺蓋	99	A2	SD08	アゼ南	143	32			ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	降灰、粗砂	良	01tD149
4041	須恵器	壺蓋	99	A2	SD08			108	22		ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	礫、粗砂	良	01tD172
4042	須恵器	壺蓋	99	A2	SD08	アゼ南No.40	96	28			ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ	灰/灰	粗砂、外面降灰	良	01tD171
4043	須恵器	長頸瓶	99	A2	SD08	アゼ北	116	(153)			ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂、黒色粒	良	01tD116
4044	須恵器	長頸瓶	99	A2	SD08	トレ1	95	116			ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	緻密、粗砂、石英、長石、黒色粒	堅緻	01tD118
4045	須恵器	長頸瓶	99	A2	SD08	アゼ	(114)	107			外：ロクロナデ、ケズリ後ロクロナデ	外：灰	密、粗砂多	良	01tD115
4046	須恵器	長頸瓶	99	A2	SD08	アゼ北	(76)				ロクロナデ、工具でナデつけ、ヨコナデ	灰白/灰	砂っぽい、礫、粗砂少、細砂多	良	01tD120
4047	須恵器	高杯	99	A2	SD08	トレンナ	(100)				ロクロナデ/回転ケズリ、ロクロナデ	灰白/灰白	砂っぽい、砂多	不良	01tD68
4048	須恵器	括れ鉢	99	A2	SD08	アゼ北	287	124	138		ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ	灰/灰	粗砂、細砂	良	01tD110
4049	須恵器	横瓶	99	A2	SD08	アゼ北	212				あて具痕/タタキ、カキメ	灰/暗灰	緻密、粗砂、石英、長石	堅緻	01tD113
4050	須恵器	杯蓋	99	A2	SD08	アゼ北	127	27			ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	礫、粗砂、降灰	良	01tD150
4051	須恵器	杯蓋	99	A2	SD08	アゼ北	118	30			ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ	灰白/灰白	礫、粗砂	良	01tD151
4052	須恵器	杯蓋	99	A2	SD08	アゼ北	126	30			ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	緻密、粗砂、礫少	良	01tD159
4053	須恵器	杯蓋	99	A2	SD08	1トレ	135	23			ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラケズリ	褐灰/褐灰	やや荒い、粗砂、細砂、白細砂	良	01tD158
4054	須恵器	杯蓋	99	A2	SD08	アゼ北	142	27			ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラケズリ	灰/灰	緻密、粗砂	良	01tD160
4055	須恵器	杯蓋	99	A2	SD08	アゼ南No.13	143	26			ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ	灰/灰	礫、粗砂	良	01tD170
4056	須恵器	杯蓋	99	A2	SD08	アゼ	132	32			ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ	灰白/灰白	礫、粗砂	良	01tD169
4057	須恵器	杯蓋	99	A2	SD08	アゼ北	198	25			ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ	灰/灰白	礫、粗砂、降灰	良	01tD152
4058	須恵器	椀蓋	99	A2	SD08	アゼ北	200	42			ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラケズリ	灰/灰	やや荒い、粗砂少、細砂多	良	01tD157
4059	須恵器	有台杯	99	A2	SD08			152	41	89	ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	砂っぽい、粗砂、細砂多	良	01tD123
4060	須恵器	有台杯	99	A2	SD08	アゼ北	146	38	104		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰	粗砂	良	01tD173
4061	須恵器	有台杯	99	A2	SD08	アゼ南	162	42	113		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	褐灰/灰、黒	やや荒い、粗砂多、白細砂多	良	01tD156
4062	須恵器	有台杯	99	A2	SD08	アゼ北	165	62	115		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/明青灰	礫、粗砂	良	01tD174

報告 番号	種別	器種	年	地区	遺構	グ リ ッ ド	遺構2	法 量 (mm)			調 整 (内/外)	色調 (内/外)	胎 土	焼 成	実測 番号
								口径	器高	底径					
4063	須恵器	有台杯	99	A2	SD08		アゼ南 No.39	157	46	106	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰白/灰白	多少砂っぽい、粗砂、細砂	良	01tD164
4064	須恵器	有台杯	99	A2	SD08		アゼ南 No.47	148	45	107	ロクロナデ/ロクロナデ	褐灰/灰	やや荒い、粗砂、細砂多	良	01tD153
4065	須恵器	有台杯	99	A2	SD08		アゼ南 No.25	(159)	67	98	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰白/灰	砂っぽい、粗砂、細砂多	良	01tD161
4066	須恵器	有台杯	99	A2	SD08	AC24		140	71	(80)	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰白/灰	少砂っぽい、礫、粗砂、細砂少	良	01tD162
4067	須恵器	有台杯	99	A2	SD08		アゼ	119	35	82	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	青灰/青灰	砂っぽい、礫少、粗砂、細砂多	良	01tD135
4068	須恵器	有台杯	99	A2	SD08		アゼ北	110	44	77	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂、降灰	良	01tD168
4069	須恵器	有台杯	99	A2	SD08		アゼ	118	43	59	ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラ切	灰/灰	やや荒い、粗砂、白細砂	良	01tD155
4070	須恵器	有台盤	99	A2	SD08		1トレ	172	32	103	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰/灰	砂っぽい、礫、粗砂、細砂微	良	01tD163
4071	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南	120	40	87	ロクロナデ、ヘラ切	青灰/明オリブ灰	緻密、細砂少	良	01tD130
4072	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南	136	38	85	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰白/青灰	砂っぽい、粗砂、細砂多	良	01tD131
4073	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南	140	31	96	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	明オリブ灰/オリブ灰	砂っぽい、礫、粗砂、細砂	良	01tD132
4074	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ	(126)	39	186	ロクロナデ、ナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	多少砂っぽい、礫微、粗砂、細砂	良	01tD134
4075	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ	136	39	93	ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	多少砂っぽい、細砂	良	01tD136
4076	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	139	40	100	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	鈍黄橙/鈍黄橙	やや荒い、粗砂、細砂少	不良	01tD137
4077	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ	136	29	103	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	やや荒い、粗砂、白細砂	良	01tD138
4078	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	124	35	84	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	やや荒い、白細砂、礫少	良	01tD139
4079	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南	146	30	92	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰/明緑灰	砂っぽい、細砂多	良	01tD140
4080	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	128	37	91	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	鈍黄橙/鈍黄橙	緻密、粗砂、礫共	良	01tD141
4081	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ	138	36	105	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	鈍黄橙/鈍黄橙	荒い、粗砂、細砂	良	01tD142
4082	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	135	34	99	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	やや粗い、粗砂、礫共	良	01tD143
4083	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	130	31	78	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	青灰/青灰	砂っぽい、礫微、粗砂、細砂多	良	01tD144
4084	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	146	32	90	ロクロナデ、ヘラ切後ナデ、板目圧痕	灰/緑灰	多少砂っぽい、礫、粗砂微、細砂多	良	01tD145
4085	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		トレンチ	147	23	104	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	緻密、粗砂、白細砂多	良	01tD175
4086	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	144	34	110	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	褐灰/褐灰	粗い、海綿骨片、粗砂	良	01tD176
4087	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	130	32	101	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	白灰/白灰	やや荒い、粗砂、細砂共多	良	01tD177
4088	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	140	41	107	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	明褐灰/明褐灰	やや荒い、粗砂少、細砂	良	01tD178
4089	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	124	31	95	ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	多少砂っぽい、細砂多	不良	01tD191
4090	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	114	35	85	ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	砂っぽい、礫微、粗砂、細砂多、海綿骨針	不良	01tD192
4091	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	134	35	95	ロクロナデ、ヘラ切、ナデ	灰/青灰	砂っぽい、細砂針	良	01tD193
4092	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	147	32	113	ロクロナデ、ヘラ切、底部板目圧痕	灰/灰	砂っぽい、粗砂微、細砂多	良	01tD194
4093	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南	131	38	83	ロクロナデ、ヘラ切、底部に十字のキズ	灰白/鈍黄橙	多少砂っぽい、礫、粗砂微、細砂多	不良	01tD195
4094	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南 No.4	132	35	98	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	やや荒い、粗砂、礫少	良	01tD146
4095	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南 No.36	135	37	98	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	白灰/白灰	やや荒い、粗砂、細砂	良	01tD147
4096	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ下 No.53	140	37	96	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	やや荒い、粗砂多、白細砂多	良	01tD148
4097	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ北	147	37	111	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	緻密、粗砂、細砂共	良	01tD154
4098	須恵器	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南 No.1	131	34	111	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	白灰/白灰	やや荒い、粗砂、細砂	不良	01tD180
4099	須恵器	盤	99	A2	SD08		アゼ南	140	27	100	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	1.0mm程度の砂多	良	01tD197
4100	須恵器	盤	99	A2	SD08			151	28	120	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	やや荒い、粗砂、細砂	良	01tD179
4101	須恵器	盤	99	A2	SD08		アゼ北	(170)	(25)	(148)	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰/灰	砂っぽい、粗砂、細砂	良	01tD133
4102	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ北	156	32	105	暗文/ミガキ	橙/橙、黒褐	海綿骨片	良	01tC93
4103	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ北	160	46	97	ミガキ/ミガキ	鈍黄橙/鈍黄橙	海綿骨片、細砂	良	01tC88
4104	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ北	165	51	89	ミガキ/ミガキ	橙/橙	海綿骨片、焼土塊、粗砂少	良	01tC91
4105	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ北	192	58	98	ミガキ/ミガキ、ヘラ切	橙/橙	細砂、粗砂	良	01tC94
4106	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ北	187	51	102	ミガキ/ミガキ	橙/黄橙	細砂	良	01tC90
4107	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ北	162	55	87	ミガキ/ミガキ	橙/橙	細砂	良	01tC89
4108	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ南 No.21	176	50	99	ミガキ/ミガキ	黄橙/橙	粗砂	良	01tC100
4109	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ南 No.3	170	42	90	ミガキ/ミガキ、糸切り	橙/橙	粗砂少、細砂多	良	01tC99
4110	赤彩	無台杯	99	A2	SD08		アゼ南	141	(26)	117	ナデ/ナデ	鈍橙/鈍橙	粗砂、海綿骨片、焼土塊	良	01tC79
4111	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ南	138	48	58	ミガキ/ミガキ	橙/橙、鈍黄	粗砂	良	01tC92
4112	赤彩	有台椀	99	A2	SD08		アゼ北	(69)	50		ミガキ/ミガキ、ナデ、ハケ	黄橙/鈍黄橙	粗砂、海綿骨片	良	01tC80
4113	赤彩	椀	99	A2	SD08		アゼ南	(32)	76		ミガキ/ミガキ、糸切り	橙/橙、黒	礫少	良	01tC101
4114	土師器	甕	99	A2	SD08		アゼ北	192	(95)		ヨコナデ、カキメ/ヨコナデ、カキメ	淡黄/灰白	礫、粗砂	良	01tD199
4115	土師器	鉢	99	A2	SD08		トレンチ	168	(89)		ローヨコナデ、胴-ナデ/ローヨコナデ、胴-ケズリ、ケズリ後ナデ	鈍橙/鈍褐	1mm前後の粗砂	良	01tC151
4116	土師器	括れ鉢	99	A2	SD08		アゼ北	362	(134)		カキメ、ハケメ/カキメ、ハケメ	灰白/鈍黄橙、黒	粗砂	良	01tD200
4117	土師器	甕	99	A2	SD08		溝	208	(161)		ロー磨耗、胴-ナデ、ケズリ/ロー磨耗、胴-ハケ調整	淡黄~灰白/灰黄	1mm以下の粗砂多	良	01tC45
4118	土師器	製塩土器	99	A2	SD08		アゼ北	163	(54)		ナデ/ナデ	鈍黄橙/黒褐	粗砂多	良	01tC458
4119	土師器	製塩土器	99	A2	SD08		アゼ北	(136)	(50)		ハケ/ハケ	黄橙/黄橙	粗砂多	良	01tC457
4120	土師器	製塩土器	99	A2	SD08			(43)			ナデ/ナデ	灰白/灰白	海綿骨片	良	01tC459
4121	須恵器	杯蓋	99	A3	SD60			193	(27)		ロクロナデ/ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰/灰	粗砂、礫	良	02s2D54
4122	須恵器	無台杯	99	A3	SD59			141	33	78	ロクロナデ/ロクロナデ、底部ヘラ切	灰/灰	粗砂、礫	良	02s2D53

報告 番号	種別	器種	年	地区	遺構	グリ ッド	遺構2	法 量 (mm)			調 整 (内/外)	色調 (内/外)	胎 土	焼 成	実測 番号
								口径	器高	底径					
4123	須恵器	無台杯	99	A3	SD58	AF24	C	123	34	87	ロクロナデ/ロクロナデ、底部ヘラ切	灰/灰	粗砂、礫	良	02s2D56
4124	須恵器	杯蓋	99	A3	SK53			158	35		ロクロナデ/ロクロナデ、回転ケズリ	灰白/灰白	粗砂	良	02s2D60
4125	須恵器	無台杯	99	A3	SK53			133	35	104	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂、礫微	良	02s2D61
4126	赤彩	無台杯	99	A3	P020					77	ヨコナデ/ケズリ、回転糸切り	橙/橙	粗砂	良	02s2C156
4127	須恵器	無台杯	99	A3	P020			137	32	102	ロクロナデ/ヘラ切ナデ	褐/褐	細礫～中礫多	不良	02pD11
4128	須恵器	無台杯	99	A3	P020			144	36	122	ロクロナデ/ロクロナデ、底部ヘラ切後ナデ	淡灰/淡灰	白礫多、白砂多	良	02pD10
4129	須恵器	有台杯	99	A3	P039			159	41	116	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂	良	02s2D62
4130	須恵器	有台杯	99	A3	P045			120	45	68	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D63
4131	須恵器	無台杯	99	A4	SD78			138	34	105	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D76
4132	須恵器	杯蓋	99	B2			柱1溝	111	30		ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラケズリ	灰/オリーブ灰	緻密、粗砂、細砂、	良	01tD52
4133	須恵器	有台杯	99	B2			柱1溝	105	50	65	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂、海綿骨針	良	01tD165
4134	須恵器	無台杯	99	B2			柱1溝	122	43	91	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	荒い、粗砂、礫共	良	01tD61
4135	須恵器	盤	99	B1	SD53			(147)	(27)	(114)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	少の粗砂、多めの細砂	良	02s2D71
4136	須恵器	有台椀	99	B1	SD60				(25)	(65)	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白/灰白	落雁状の質感。砂	良	02s2D70
4137	須恵器	杯蓋	99	B3	SD31				29		ロクロナデ/ナデケズリ	灰/灰	粗砂多	良	02s2D98
4138	須恵器	杯蓋	99	B3	SD31	R16	トレンチ	122	30		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/灰	粗砂、礫微	良	02s2D78
4139	須恵器	杯蓋	99	B3	SD31			143	32		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/灰	粗砂、礫微	良	02s2D83
4140	須恵器	有台杯	99	B3	SD31	R16	トレンチ	167	63	121	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂少	良	02s2D91
4141	須恵器	有台杯	99	B3	SD31			171	68	120	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂多	良	02s2D90
4142	須恵器	有台杯	99	B3	SD31			106	40	69	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂多、礫少	良	02s2D82
4143	須恵器	有台杯	99	B3	SD31	Q18		126	48	87	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D88
4144	須恵器	有台杯	99	B3	SD31			120	43	84	ロクロナデ/体部-ロクロナデ、 高台ナデ、高台内ナデ	灰褐/灰褐	白礫少、白砂多	良	02pD26
4145	須恵器	有台杯	99	B3	SD31		アゼ西北 コーナー	121	38	84	ロクロナデ/体部-ロクロナデ、 高台ナデ、高台内-ヘラ切	淡灰/灰	白礫少、白砂多	良	02pD25
4146	須恵器	有台杯	99	B3	SD31			118	37	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D85
4147	須恵器	無台杯	99	B3	SD31			129	36	85	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰黄/灰	粗砂	良	02s2D80
4148	須恵器	無台杯	99	B3	SD31	R16	トレンチ	121	35	95	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D79
4149	須恵器	無台杯	99	B3	SD31		アゼWN コーナー	115	43	74	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D77
4150	須恵器	無台杯	99	B3	SD31	Q15		118	41	81	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、ナデ	灰/灰	粗砂少、礫微	良	02s2D89
4151	須恵器	無台杯	99	B3	SD31	Q18		130	35	102	ロクロナデ/ロクロナデ、底部ヘラ切後ナデ	淡灰/淡灰	白細砂、白砂	良	02pD29
4152	須恵器	無台杯	99	B3	SD31			132	32	89	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D86
4153	須恵器	無台杯	99	B3	SD31			133	37	105	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂、石英	良	02s2D81
4154	須恵器	無台杯	99	B3	SD31	Q18		147	35	112	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、ナデ	オリーブ黒/黄灰	粗砂多	良	02s2D84
4155	須恵器	鉄鉢	99	B3	SD31			160	85	69	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂、礫微	良	02s2D87
4156	須恵器	稜椀	99	B3	SD31	Q16		183	(64)		ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ	灰/灰	粗砂少	良	02s2D100
4157	須恵器	鉢?	99	B3	SD31	Q18		(94)	170		ロクロナデ/ロクロナデ、回転ヘラケ ズリ、沈線1本、カキメ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂	良	02s2C183
4158	赤彩	無台杯	99	B3	SD31		アゼ西北 コーナー	(157)	(34)	(118)	ミガキ→暗文/ミガキ	明赤褐/明赤褐	粗砂、細砂少、 堅緻	良	02s2C182
4159	赤彩	椀	99	B3	SD31		アゼ	153	45	89	ミガキ/ミガキ	赤/赤	砂、	並	02s2C185
4160	土師器	鉢	99	B3	SD31			194	(71)		ヨコナデ/ヨコナデ、カキメ	淡黄/淡黄	粗砂、礫多	良	02s2C184
4161	土師器	甕	99	B3	SD31	Q18		134	124	80	ヨコナデ/ヨコナデ、ケズリ、ヘラ切	鈍黄橙/灰黄橙	粗砂多	良	02s2C186
4162	須恵器	有台杯	99	B3	SE01			111	41	71	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D97
4163	須恵器	有台杯	99	B3	SE01		椀内	(110)	42	72	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	02s2D95
4164	須恵器	杯	99	B3	SE01		付近	124	34	74	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	粗砂、礫	良	02s2D96
4165	須恵器	無台杯	99	B3	SE01		掘り方	124	39	88	ロクロナデ/口縁-体部-ロクロナデ、 底部ヘラ切	淡灰/淡灰	白礫(3~4mm大礫)白砂多	良	02pD20
4166	須恵器	大盤	99	B3	SE01			416	70	370	ロクロナデ/ロクロナデ、底面摩耗	灰白/灰白	粗砂	不良	02s2C190
4167	須恵器	横瓶	99	B3	溝	V17		118	73		ロクロナデ、青海波タタキ/ ロクロナデ、平行タタキ後カキメ	灰/灰	粗砂少	良	02s2D101
4168	土師器	鉢	99	B3	溝	V17		154	98		ヨコナデ、ナデ/ヨコナデ、ハケメ	鈍黄橙/褐灰	粗砂	良	02s2C192
4169	土師器	拵れ鉢	99	B3				240	100	110	ヨコナデ、ロクロケズリ/カキメ、ヨコナデ	鈍黄橙/鈍黄橙	粗砂、海綿骨針	良	02s2C193
4170	須恵器	杯蓋	99	B2	SD16	1-1	南北アゼ	162	36		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ、ナデ	褐灰/灰	やや荒い、粗砂多、礫少	良	01tD53
4171	須恵器	杯蓋	99	B2	SD16	1-1	南北アゼ	170	22		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂	良	01tD127
4172	須恵器	杯蓋	99	B3	SD16	7-1		150	26		回転ヘラケズリ、ロクロナデ	灰白/ 明オリーブ灰	砂っぽい、礫微、 粗砂、細砂多	良	01tD4
4173	須恵器	杯蓋	99	B2	SD16	1-1-c	柱	116	25		ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラ切	灰/灰	やや荒い、粗砂、細砂共多	良	01tD51
4174	須恵器	有台杯	99	B2	SD16	1-1-a	柱	152	37	104	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/緑灰	礫、粗砂	良	01tD128
4175	須恵器	有台杯	99	B2	SD16	1-1-a	柱	151	48	97	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	01tD58
4176	須恵器	有台杯	99	B2	SD16	1-1	南北アゼ	151	38	109	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰	礫、粗砂	良	01tD59
4177	須恵器	有台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	150	59	104	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂	良	01tD54
4178	須恵器	有台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	135	43	98	ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂	良	01tD57
4179	須恵器	有台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	110	47	72	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂	良	01tD55
4180	須恵器	有台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	107.5	41	76	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂	良	01tD56
4181	須恵器	有台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	117	43	88	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/鈍黄橙、黒	礫、粗砂	良	01tD167
4182	須恵器	有台杯	99	B2	SD16		柱1区 イコケン	107	42	75	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	01tD166
4183	須恵器	無台杯	99	B2	SD16	1-1-a		137	36		ロクロナデ/ロクロナデ	灰黄/灰黄、灰	礫、粗砂	良	01tD129
4184	須恵器	無台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	122	36	89	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	やや荒い、礫、 粗砂少、細砂多	良	01tD60
4185	須恵器	無台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	121	34	86	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	白灰/白灰	緻密、粗砂少	良	01tD63
4186	須恵器	無台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	124	33	95	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	褐灰/褐灰	緻密	良	01tD62
4187	須恵器	無台杯	99	B2	SD16	1-1-c	柱	112	31	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰		良	01tD64
4188	須恵器	盤	99	B1	SD16		0.2	(160)	(23)	(142)	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/灰	砂ほとんど含まず、堅緻	良	02s2D72
4189	須恵器	拵れ鉢?	99	B2	SD16	1-1	南北アゼ	(91)			ナデ/ナデ	灰/灰	緻密、細砂多	良	01tD97
4190	土師器	長胴甕	99	B2	SD16	1-1-a		231	(364)		カキメ、タタキ、ハケメ/ヨコナデ、カキメ、タタキ	浅黄橙/浅黄橙	粗砂、礫多	良	01tC50
4191	土師器	甕	99	B2	SD16	1-2-c		(153)	143	88	ヨコナデ、カキメ/ヨコナデ、カキメ、ヘラケズリ	灰白/灰白	細砂、粗砂多	良	01tD198
4192	土師器	鉢	99	B2	SD16	1-1	南北アゼ	253	(83)		ナデ/ナデ	鈍黄橙/鈍黄橙	1.0mm程度の砂少	良	01tC529
4193	土師器	有台椀	99	B3	SD16	T-17	イコケン		52		磨耗の為調整不明	橙/橙	少粗い細砂多	良	01tC472

報告 番号	種別	器種	年	地区	遺構	グリ ッド	遺構2	法 量 (mm)			調 整 (内/外)	色調 (内/外)	胎 土	焼 成	実測 番号
								口径	器高	底径					
4194	須恵器	有台椀	99	C1	SD01		a区	(134)	(42)	(68)	ロクロナデ/ロクロナデ、回転系切りナデ、ハケメ、ロクロナデ/ハケ後ナデ、ケズリ、ロクロナデ	灰白/灰	細砂多	良	02s2D74
4195	須恵器	広口壺	99	C1	SD03					(152)	160	灰白～灰/暗緑灰	礫	良	02s2D121
4196	須恵器	無台杯	99	C2	SD23	AB18		140	37	112	ロクロナデ/口縁・体部ロクロナデ、底部ヘラ切ナデ	淡灰/淡灰	白礫1～3mm多、白砂	不良	02pD46
4197	須恵器	無台杯	99	C3	P150	AE19		137	37	116	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰、灰白	礫、粗砂多、気泡、石ハゼ、やや堅緻	良	02s2D131
4198	須恵器	鉄鉢	00	C8	SD09			183	(69)		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白/灰白～灰	粗砂少、細砂少、海綿骨針	良	02s1D108
4199	須恵器	甕	99	C1	SD16		b・c ベルト	(214)	(201)		ヨコナデ、ナデ、当具痕 /ヨコナデ、平行タカキ→カキメ	灰/灰	少の礫、多の細砂	良	02s2D119
4200	須恵器	長頸瓶	99	C1	SD16		a区		(127)	117	ロクロナデ、指ナデ/ロクロナデ、指ナデ、ヘラ切、台付け後ロクロナデ	灰白/灰	礫、粗砂多、石ハゼ、気泡	良	02s2D117
4201	須恵器	広口壺	99	C1	SD16		b区		(177)	103	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ、ナデ	灰/灰	粗砂少、海綿骨針微混入	良	02s2D125
4202	須恵器	高杯	99	C1	SD16		b区26		(119)	120	ロクロナデ、ロクロナデ後ナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	礫、粗砂多、海綿骨針。気泡	良	02s2D113
4203	須恵器	壺蓋	99	C1	SD16		⑮	112	27		ロクロナデ/口縁・体部ロクロナデ、ケズリ	灰/灰	白礫少、白砂多	良	02pD38
4204	須恵器	杯蓋	99	C1	SD16		a区35	126	28		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後つまみ付け後ナデ	灰白/明青灰	礫、粗砂多、石ハゼ、気泡	良	02s2D115
4205	須恵器	有台杯	99	C1	SD16		b区	162	39	118	ロクロナデ/ロクロナデ、高台ナデ、高台内ヘラ切ナデ	淡灰/淡灰	粗砂多。白砂、黒砂	良	02pD42
4206	須恵器	有台杯	99	C1	SD16		側溝			88	ロクロナデ/ロクロナデ、高台ナデ、高台内ヘラ切後ナデ	淡灰/灰	白砂多、白大礫少	良	02pD35
4207	須恵器	有台杯	99	C1	SD16		b・c ベルト	120	40	91	ロクロナデ/ロクロナデ→ヘラ切→台付け→ロクロナデ	灰/灰	粗砂多、やや堅緻	良	02s2D123
4208	須恵器	有台杯	99	C1	SD16		a・b ベルト	110	41	78	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切→台付け→ロクロナデ	灰/灰	礫、粗砂多、石ハゼ、やや緻密	良	02s2D114
4209	須恵器	無台杯	99	C1	SD16		a区36	124	36	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	明青灰/明青灰	礫、粗砂多、気泡多、焼土塊か?	不良	02s2D118
4210	須恵器	無台杯	99	C1	SD16		b区46	133	34	104	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	青灰/青灰	礫、粗砂多、気泡、石ハゼ	良	02s2D116
4211	須恵器	無台杯	99	C1	SD16		b区 ⑮	130	32	106	ロクロナデ/口縁・体部ロクロナデ、底部ヘラ切	淡灰/淡灰、灰	白砂(0.5mm以下)多	良	02pD33
4212	須恵器	無台杯	99	C1	SD16		b区	118	32	84	ロクロナデ/ロクロナデ、外底ヘラ切	灰～暗灰/ 灰～暗灰	密、1mm前後の粗砂、石英、長石	良	01tD89
4213	須恵器	無台杯	99	C1	SD16		b区		(26)	92	ロクロナデ/ロクロナデ、外底ヘラ切	灰白/灰白	密、2～3mmの粗砂、石英、長石	良	01tD88
4214	須恵器	無台杯	99	C1	SD16		a区	124	33	89	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂多、気泡	並	02s2D111
4215	須恵器	無台杯	99	C1	SD16		b区 ⑩	123	34	88	ロクロナデ/口縁・体部ロクロナデ、底部ヘラ切	淡灰/淡灰	灰礫、小礫多。白砂	良	02pD44
4216	須恵器	無台杯	99	C2	SD16		6区	150	35	114	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂多	並	02s2D120
4217	須恵器	盤	99	C1	SD16		b区	160	29	138	ロクロナデ、不定方向のナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白(オリーブ系)/ 灰白(オリーブ系)	礫、粗砂多、気泡	良	02s2D112
4218	須恵器	盤	99	C1	SD16		b区	163	25	131	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂、気泡	良	02s2D124
4219	赤彩	有台杯	99	C1	SD16		b区	(144)	(39)	(115)	ミガキ/ミガキ、ヘラ切、ロクロナデ	鈍黄橙/鈍黄橙	砂ほとんど含まず精良	良	02s2C289
4220	赤彩	有台盤	99	C1	SD16		b区	206	35	162	内外面：摩擦のため不明	浅黄橙/浅黄橙	礫、粗砂、焼土塊	良	02s2C297
4221	須恵器	無台杯	99	D2	SD07			140	37	102	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	0.4mm程度の砂	良	02s2D136
4222	須恵器	鉢	99	D2				155	(63)		ロクロナデ、カキメ/ロクロナデ、カキメ	灰白/灰白	礫微、細砂少、海綿骨針	良	02s2C377
4223	須恵器	厚底鉢	99	D2	SD07			159	105	122	ロクロナデ/ロクロナデ、底部はヘラケズリ、刺突	灰/灰	2mm程度の礫	良	02s2D137
4224	須恵器	無台杯	99	E	SK03			112	28	72	回転ロクロナデ/ロクロナデ、底部ヘラ切ナデ	灰/灰 断面:紫灰	白礫0.5～4mm多。白砂	良	02pD48
4225	須恵器	長頸瓶	99	E	SE04		枠内				ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	白砂、白礫	良	02pD55
4226	須恵器	鉄鉢	99	E	SE04		枠内	80			ロクロナデ/口縁・ロクロナデ、体部カキメ	灰黄/灰黄	小石(1mm以下)極少、海綿骨針	良	02pD60
4227	須恵器	壺蓋	99	E	SE04		枠内	78	21		ロクロナデ/口縁・体部ロクロナデ、天部ヘラ切ナデ	灰白/灰白	白礫、白砂	不良	02pD95
4228	須恵器	杯蓋	99	E	SE04		枠内	116	25		ロクロナデ/口縁・ロクロナデ、天部ケズリ後ナデ	灰/灰	細粒砂(0.3mm以下)	良	02pD57
4229	須恵器	杯蓋	99	E	SE04		枠内	126	21		ロクロナデ/口縁・ナデ、体部ヘラケズリ、つまみナデ	灰/灰	白礫1～2mm。白砂	良	02pD93
4230	須恵器	杯蓋	99	E	SE04		枠内	140			ロクロナデ/口縁・ロクロナデ 天上部ヘラ切後ナデ	灰/灰	白礫(4～2mm)極少、白砂(1～0.5mm)多	良	02pD58
4231	須恵器	杯蓋	99	E	SE04		枠内	184			ロクロナデ/ロクロナデ	褐灰/灰	白礫、白砂	良	02pD87
4232	須恵器	杯蓋	99	E	SE04		枠内	130	26		ロクロナデ/口縁・ロクロナデ、天部ヘラ切	灰/灰	白礫少、白砂	良	02pD59
4233	須恵器	有台杯	99	E	SE04		枠内	118	38	87	ロクロナデ/ロクロナデ、高台ナデ、高台内ヘラ切後ナデ	灰/灰	白礫少、白砂多	良	02pD70
4234	須恵器	有台杯	99	E	SE04		枠外	140	63	78	ロクロナデ/ロクロナデ、高台ナデ、高台内ヘラ切ナデ	褐灰/灰	白礫多、白砂	良	02pD77
4235	須恵器	有台杯	99	E	SE04		枠内			95	ロクロナデ/ロクロナデ、高台ナデ、高台内ヘラ切ナデ	暗灰/暗灰	中礫。白砂	良	02pD81
4236	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	117	35	87	ロクロナデ/ロクロナデ、底部ヘラ切	灰/灰	白大礫少、白礫多、白砂多	良	02pD66
4237	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	130	38	66	ロクロナデ/ロクロナデ、底部ヘラ切	淡灰/淡灰	白礫1～7mm、白砂	良	02pD96
4238	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	126	36	80	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	黒～茶褐/黒	粗砂～細礫、白砂	良	02pD90
4239	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内3	123	38	76	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	赤褐/赤褐	白砂多、白礫少	良	02pD65
4240	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	130	35	92	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	淡灰/淡灰、 重ね焼痕灰	白礫少、白砂少、 海綿	良	02pD63
4241	須恵器	無台杯	99	E	SE04	H25	枠内	128	31	84	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	白礫0.5～3mm、白砂	良	02pD91
4242	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	128	32	90	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	褐灰/灰	中粒砂～粗砂、白砂すこし	良	02pD89
4243	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	124	45	64	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	淡灰/淡灰	白礫少、白砂多	良	02pD64
4244	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	122	27	76	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	白礫1～3mm、白砂	良	02pD94
4245	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	124	33	76	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	黒褐/黒	粗砂～中礫。白砂	良	02pD88
4246	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	115	31	66	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	褐/褐	白礫多、白砂多	良	02pD69
4247	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	128	30	78	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	褐/褐	白礫少、白砂多	良	02pD61
4248	須恵器	無台杯	99	E	SE04		枠内	120	33	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	白礫少、白砂多	良	02pD68
4249	須恵器	盤	99	E	SE04		枠内	162	25	130	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	白礫、白砂	良	02pD56
4250	須恵器	盤	99	E	SE04		枠内	139	22	112	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	白礫多、白砂多	良	02pD67
4251	土師器	甕	99	E	SE04		枠内	126			ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/鈍橙		良	02pD72
4252	赤彩	高杯	99	E	SE04					110	ロクロナデ/ロクロナデ	淡橙/橙	白礫2mm、白砂	良	02pD71

報告 番号	種別	器種	年	地区	遺構	グリ ッド	遺構2	法 量 (mm)			調 整 (内/外)	色調 (内/外)	胎 土	焼 成	実測 番号
								口径	器高	底径					
4253	赤彩	高杯	99	E	SE04		枠内				鈍黄橙/赤褐	粗砂	良	02pD54	
4254	内黒	椀	99	E	SE04		枠内	160	36	76	ミガキ/ロクロナデ、下半ケズリ、底部ヘラ切、ケズリ	黒、淡褐	粗砂、海綿	良	02pD76
4255	内黒	椀	99	E	SE04		枠内	134	35	66	ミガキ/ロクロナデ、下半ケズリ、底部糸切、緑ケズリ	黒、淡褐	粗砂、白砂	良	02pD75
4256	須恵器	長頸瓶	99	G			トレンチ			(170)	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂	良	02s2D138
4257	須恵器	括れ鉢	99	I	SD31			(310)	(163)	180	ヨコナデ、カキメ、ナデ/ヨコナデ、カキメ、ナデ	灰/灰	粗砂少	良	02s2D92
4258	須恵器	狭口壺	99	I	SD31			104	(51)		ロクロナデ/ロクロナデ、沈線2本	灰白/灰白	粗砂多	良	02s2D93
4259	須恵器	無台杯	99	I	SD31			131	40	101	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ヘラナデ	灰/灰	粗砂	良	02s2D94
4260	赤彩	無台杯	99	I	SD16			(148)	(28)	(96)	ロクロナデ/ロクロナデ、糸切り?	浅黄橙/浅黄橙	礫、粗砂多、焼土塊	良	02s2C217
4261	須恵器	甕	99	J1	SD16		トレンチ		(216)	(94)	ロクロナデ、ナデ、青海波タタキ/ ロクロナデ、平行タタキ	灰/灰	粗砂、細砂多	良	02s2D75
4262	赤彩	無台杯	99	K	P005			142	28	93	摩耗のため不明	浅黄橙、橙/浅 黄橙、赤橙	粗砂	良	02s2C139
4263	須恵器	無台杯	00	M2	SD07			145	33	102	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白、灰	砂多。粗砂少	良	02s1D117
4264	須恵器	杯蓋	02	M3	SD05		杭周辺	163	25	131	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロナズリ	灰/灰	粗砂	良	03b1D7
4265	土師器	長胴壺	02	M3	SD08			134	124	80	ヨコナデ、押圧/ヨコナデ、格子状タタキ、カキメ	淡黄、淡黄	粗砂多		03b1D100
4266	灰釉	有台碗	02	M3	SD15			153	45	89	外：ロクロナズリ、ロクロナデ		粗砂	良	03b1D88
4267	須恵器	瓶	02	M3	SD22			133	34	104	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂	良	03b1D9
4268	須恵器	杯蓋	02	M3	SD26	I24.25		240	100	110	ロクロナデ/ロクロナデ	青灰/青灰	粗砂	良	03b1D11
4269	内黒	皿	02	M3	SE02		堀方	194	(71)		ミガキ、内黒/ヨコナデ	黒、浅黄	粗砂、赤色粒	良	03b1D54
4270	土師器	甕	02	M3	SE05			144	34	124	ハケ後ナデ、ハケメ/ハケ後ナデ、ハケメ	灰黄褐/灰黄褐	礫、粗砂共やや多	良	03b1D12
4271	須恵器	有台杯	02	M3	P27P13			124	36	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	粗砂微、礫	良	03b1D3
4272	須恵器	杯蓋	00	N1	SD07	T25		162	27		ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ	灰白/灰	粗砂多	良	02s1D12
4273	須恵器	無台杯	00	N1	SD07	T25		128	36	93	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、ナデ	灰白/灰白	海綿骨針、石英、粗砂	良	02s1D25
4274	須恵器	無台杯	00	N1	SD07			121	35	90	ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ	灰白/灰白	粗砂、礫微	甘い	02s1D109
4275	須恵器	無台杯	00	N1	SD08			136	32	102	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰白	粗砂多	良	02s1D124
4276	須恵器	無台杯	00	N1	SD10	V27		116	32	83	ロクロナデ/ナデ、ロクロナデ	灰/灰	0.8mm程度の砂少	良	02s1D23
4277	土師器	椀	00	N1	SD13			172	44	96	ナデ/ナデ、ヘラ切	淡橙/浅黄橙	礫、細砂、焼土塊	良	02s1D119
4278	須恵器	有台杯	00	N1	SD29	S23		112	44	74	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、台付け後ナデ	灰白/灰	礫、粗砂多、気泡	やや良	02s1D111
4279	土師器	鍋	00	N1	SD27		北部	(342)	(109)		ナデ、ハケ/ヨコナデ	淡黄、浅黄橙	粗砂、焼土塊、銀粒	良	02s1D88
4280	須恵器	蓋紐	02	N2	SD01			123	34	87	ナデ?/ロクロナデ	灰白/灰	粗砂少	良	03b1D117
4281	須恵器	壺蓋	02	N2	SD12			(96)	85		ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、ロクロナズリ	灰/灰	粗砂、礫少	良	03b1D127
4282	須恵器	杯蓋	02	N2	SD12		SD12部も 込みにも	138	34	105	ロクロナデ/ロクロナデ	明オリープ灰/ 灰	粗砂多	良	03b1D122
4283	須恵器	無台杯	02	N2	SD12			(27)	79		ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、ナデ	灰/灰	粗砂、礫少	良	03b1D123
4284	須恵器	無台杯	02	N2	SD12			134	40	89	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂、礫少	良	03b1D126
4285	須恵器	無台杯	02	N2	SD12			(40)			ロクロナデ/ロクロナデ	明緑灰/明緑灰 ~明赤灰	粗砂	良	03b1D125
4286	赤彩	皿	02	N2	SD12			304	171	154	ヨコナデ/ヨコナデ、ナデ、赤彩	浅黄橙/鈍橙	粗砂少、赤色粒多	良	03b1D121
4287	赤彩	無台杯	02	N2	SD12			140	37	102	ヨコナデ、ナデ/ヨコナデ、ミガキ	橙/橙	赤色粒	良	03b1D122
4288	赤彩	無台杯	02	N2	SD12			(170)			ヨコナデ/ヨコナデ、ミガキ	橙/橙	粗砂、赤色粒	良	03b1D123
4289	須恵器	有台杯	02	N2	P36		SD08-09部も 込みにも	154	64	94	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂、細砂	良	03b1D140
4290	須恵器	無台杯	02	N2	P38			133	35	104	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂	並	03b1D141
4291	土師器	甕	02	N2	P42			122	35	84	カキメ、ロクロナデ/カキメ、ロクロナデ	橙/橙	礫多、粗砂		03b1D145
4292	土師器	小型甕	02	N2	P42			122	39	67	ヨコナデ、ナデ/ヨコナデ、ナデ	浅黄橙/灰白	粗砂、礫多		03b1D146
4293	須恵器	無台杯	00	O1	SD03		東肩	111	30	80	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫微、粗砂、細砂	良	02s1D14
4294	須恵器	無台杯	00	O1	SD03		東肩	119	38	81	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫微、粗砂、細砂	良	02s1D15
4295	須恵器	無台杯	00	O1	SD03			147	36	108	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	青灰(灰に近い)/ 灰(青灰)	礫少、粗砂多、気泡、 石ハゼ少 堅緻	良	02s1D65
4296	須恵器	無台杯	00	O1	SD03			136	37	102	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	明青灰/青灰	礫少、粗砂多	良	02s1D13
4297	須恵器	無台杯	00	O1	SD03			145	36	109	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰(ややオリ ープ)	粗砂多、気泡	良	02s1D11
4298	赤彩	無台皿	00	O1	SD03	V22	b	138	26	72	ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ	明赤褐/明赤褐	砂、海綿骨片、赤色粒	並	02s1D10
4299	土師器	長胴甕	00	O1	SD03		(196)	(245)			ヨコナデ、ハケ→ナデ/ヨコナデ、ハケ、タタキ	鈍橙/鈍赤橙	粗砂、細砂多	良	02s1C33
4300	土師器	長胴甕	00	O1	SD07	V23	ab	258	(173)		ハケメ、ヨコナデ/ハケメ、ヨコナデ、ケズリ	灰黄/灰黄	礫、粗砂多、雲母	良	02s1C4
4301	土師器	長胴甕	00	O1	SD07	V23	ab	245	(343)		ヨコナデ、ハケメ/ヨコナデ、ハケメ	灰黄褐~鈍黄橙/黒黒	粗砂、海綿骨針	良	02s1C49
4302	須恵器	有台杯	00	O1	SD07	V23	C	111~ 115	45	70	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	4mm大礫少、粗砂	良?	02s1D66
4303	須恵器	無台杯	00	O1	SD07	V23	bSD03 付近	136	44	84	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂、海綿骨針、 礫微	並	02s1D37
4304	須恵器	無台杯	00	O1	SD13			104	43	74	ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ	鈍黄/灰黄	1.2mm程度の砂微	並	02s1D9
4305	須恵器	有台杯	01	O2	SD01	X25	W	149	43	98	ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラ切	灰白/灰	粗砂多	良	03b2D321
4306	赤彩	鉢	01	O2	SD05	Y24	(170)	(51)			摩耗のため不明	浅黄橙/浅黄橙	粗砂、赤色粒	良	03b2D266
4307	須恵器	有台杯	01	O2	SD10	X25		(20)	69		ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂	良	03b2D272
4308	須恵器	杯蓋	01	O2	SD10	X25		(21)			ロクロナデ/ロクロナデ、回転ヘラケズリ	灰/灰	粗砂、礫ごく微	良	03b2D273
4309	土師器	鍋	01	O2	SD10	X25		389	(61)		摩耗のため不明	鈍黄橙/鈍黄橙	粗砂多、海綿骨針	良	03b2D274
4310	須恵器	長頸瓶	01	O2	SD12	X25		(115.5)	112		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、ナデ	灰/灰	礫やや多、粗砂多	良	03b2D261
4311	須恵器	無台杯	01	O2	SD12	X25		141	42.5	88	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫少、粗砂やや多	並	03b2D282
4312	須恵器	無台杯	01	O2	SD17			131	40	63	ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	灰/灰	粗砂	並	03b2D275
4313	須恵器	盤	01	O2	SD17			137	28	104	ロクロナデ、ロクロナデ後ナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂	良	03b2D276
4314	須恵器	壺	01	O2	SK04			(154)	(39)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/暗黄灰	粗砂、細砂多	良	03b2D286
4315	土師器	甕	01	O2	SK04			(222)	(39.5)		摩耗のため不明	浅黄橙/浅黄橙	3~2mm大の礫少、粗砂少	良	03b2D287
4316	須恵器	甕	01	O2	川跡		10	(140)	(52.5)		ロクロナデ/ロクロナデ、カキメ	明緑灰/オリープ灰	2~5mm大の礫微、細砂多	良	03b2D319
4317	須恵器	稜碗	01	O2	川跡		8 9 10	(203)	85	(129)	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロナズリ	灰白/灰	粗砂、海綿骨針	良	03b2D302
4318	須恵器	杯蓋	01	O2	川跡		7	172	25		ロクロナデ、回転ケズリ/ロクロナデ	灰/灰	礫微、粗砂、細砂	良	03b2D297
4319	須恵器	有台杯	01	O2	川跡		10	160	47	106	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	明褐灰/明青灰	粗砂微、細砂多	良	03b2D317
4320	須恵器	有台杯	01	O2	川跡		4	141	38	87	ロクロナデ/ロクロナデ	オリープ灰/ オリープ灰	粗砂、4.5mm礫1個	良	03b2D290
4321	須恵器	有台杯	01	O2	川跡		7	147	44	91	ロクロナデ/ロクロナデ、回転ケズリ、ヨコナデ	灰/灰	礫、粗砂少、細砂多	良	03b2D298
4322	須恵器	有台杯	01	O2	川跡		9	134	45.5	92	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂多、礫	良	03b2D305

報告番号	種別	器種	年	地区	造構	グッド	遺構2	法量(mm)			調整(内/外)	色調(内/外)	胎土	焼成	実測番号	
								口径	器高	底径						
4323	須恵器	有台杯	01	O2	川跡		9	151	42	111	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	褐灰/褐灰	礫少、粗砂	良	03b2D303	
4324	須恵器	有台杯	01	O2	川跡		9	150	44	97	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	褐灰/オリブ黒	礫少、粗砂	良	03b2D304	
4325	須恵器	無台杯	00	O1	SD08	V21	C	120	31	84	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	暗黄灰/暗黄灰	粗砂多、礫微	良	02s1D41	
4326	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		4	(130)	(37.5)	(25)	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂	良	03b2D288	
4327	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		6	128	34	92	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫少	良	03b2D296	
4328	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		10	133	40	86	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰黄/オリブ灰	粗砂少、細砂多	良	03b2D318	
4329	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		9	138	35	84	ロクロナデ/ロクロナデ	灰黄褐/灰黄褐	粗砂、礫	並	03b2D306	
4330	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		9	128	36	102	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂少、礫少	良	03b2D308	
4331	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		469	(136)	38	32	ロクロナデ/ロクロナデ	オリブ灰/オリブ灰	粗砂	良	03b2D289	
4332	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		3	124	40.5	67	ロクロナデ/ロクロナデ→ヘラ切	オリブ黒/オリブ黒	礫、粗砂少、細砂	良	03b2D300	
4333	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		9	124	38.5	94	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂、礫	良	03b2D309	
4334	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		7	120	41	87	ロクロナデ/ロクロナデ、回転ケズリ	灰/灰	礫、粗砂微、細砂	良	03b2D299	
4335	須恵器	無台杯	01	O2	川跡		9	132	43	101	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	黄灰/黄灰	粗砂	良	03b2D307	
4336	土師器	杯蓋	01	O2	川跡		49	(162)	(25)		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	明赤褐/明赤褐	細砂	良	03b2D293	
4337	土師器	無台杯	01	O2	川跡		5	6	154	33	94	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、ナデ	鈍黄橙/鈍黄橙	極細粒砂	良	03b2D294
4338	土師器	長胴甕	01	O2	川跡		9	(243)			ロクロナデ、ハケメ/ロクロナデ、ハケメ	鈍黄褐/黒褐	礫、粗砂、雲母少	並	03b2D313	
4339	土師器	甕	01	O2	川跡		9	(258)	(118)		ロクロナデ、ナデ後カキメ、カキメ/ロクロナデ、カキメ	灰黄/灰白	礫、粗砂、雲母、長石	並	03b2D312	
4340	土師器	甕	01	O2	川跡		9	(238)	(120)		カキメ、ケズリ、ナデ後カキメ/カキメ、ナデ後カキメ	褐灰/灰黄褐	礫、粗砂、雲母、石英、長石	良	03b2D310	
4341	土師器	甕	01	O2	川跡		9	(227)	(58)		ロクロナデ、カキメ、ケズリ/ロクロナデ、カキメ	鈍黄橙/鈍橙	礫、粗砂多、雲母、石英、長石	並	03b2D311	
4342	土師器	括れ鉢	01	O2	川跡		10	(288)	(81)		ロクロナデ、ハケメ/ロクロナデ、カキメ	淡黄/浅黄	礫微、粗砂、細砂少	良	03b2D314	
4343	須恵器	有台杯	01	Q1	SD79		検出面	132	40.5		ロクロナデ、ナデ/ケズリ、不明	灰白/明オリブ灰	粗砂多、粗砂少	良	03m1D355	
4344	須恵器	杯	01	Q2	SD110	AE22		(144)	(31.5)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰	粗砂多	良	03m1D446	
4345	須恵器	鉢？	01	Q2	SD112	AE22		(40)	(69)		ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、ケズリ、静止糸切り	灰白/灰白	礫微	良	03m1D445	
4346	須恵器	無台杯	01	Q2	SD118	AE23		(119)	30.5	(81)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂、細砂	良	03m1D448	
4347	須恵器	無台杯	01	Q2	SD136・137	AC22		122	32	93	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	礫少	良	03m1D457	
4348	須恵器	杯蓋	01	Q2	SK77	AF21		(138.5)	26		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	明青灰/明青灰	粗砂多、白い礫	良	03m1D467	
4349	須恵器	無台杯	01	Q2	P294	AC22		120	33	83	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫少	不良	03m1D503	
4350	須恵器	有台杯	01	Q2	P294	AC22		160	53	100	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	03m1D504	
4351	須恵器	有台杯	01	Q2	SB320・P356	AD23	SB320	104	43	74	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫少、粗砂	良	03m1D502	
4352	須恵器	盤	01	Q2	P295	AB22		160	23	120	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂	良	03m1D507	
4353	須恵器	有台碗	01	Q2	SK100	AE22		158	41	96	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白		良	03m1D492	
4354	須恵器	有台杯	01	Q2	SX21	AB22		157	57	106	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	白礫微	良	03m1D496	
4355	土師器	長胴甕	01	Q2	SB317・P318	AC21	SB317	180	(60)		ヨコナデ、カキメ/カキメ	褐灰/灰白	礫、粗砂少	良	03m1D501	
4356	須恵器	甕	01	Q2	川跡	AC23	NW	160	270	(60)	ロクロナデ、青海波タタキ/ロクロナデ、平行タタキ	暗灰/暗灰	礫と粗砂多	良	03m1A67	
4357	須恵器	長頸瓶	01	Q2	川跡	AC23	SW他	(121)			ロクロナデ/ロクロナデ、平行タタキ	灰白/灰	白礫微	良	03m1C552	
4358	須恵器	杯蓋	01	Q2	川跡	AC22	NW	164	19		ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ	灰/灰	礫少	良	03m1D698	
4359	須恵器	杯蓋	01	Q2	川跡	AC21	NW	34.5	149.5		ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂多	良	03m1D688	
4360	須恵器	有台杯	01	Q2	川跡	AC23	NW	117	44	71	ロクロナデ/ロクロナデ	青灰/青灰	粗砂多	良	03m1D704	
4361	須恵器	有台杯	01	Q2	川跡		N	118.5	41	82.5	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	粗砂少	良	03m1D690	
4362	須恵器	有台杯	01	Q2	川跡		北端トレンチ	(156)	40	(111)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰	粗砂多	良	03m1D692	
4363	須恵器	有台杯	01	Q2	川跡	AC21	NW	(130)	44	(88)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰白	礫、粗砂多	良	03m1D740	
4364	須恵器	有台碗	01	Q2	川跡	AC23	NW	(149)	46.5	97	ロクロナデ、ナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ、高台付後ナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂、細砂	良	03m1D694	
4365	須恵器	有台杯	01	Q2	川跡	AC23	NE	146	39.5	100	ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラ切	灰/灰	100mm	良	03m1D705	
4366	須恵器	有台碗	01	Q2	川跡		N	117	35.5	73	ロクロナデ/ロクロナデ、回転ケズリ、回転糸切り	灰白/灰白	粗砂微	良	03m1D691	
4367	須恵器	無台杯	01	Q2	川跡	AC23	NW	(113)	32	78.5	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂、細砂	良	03m1D695	
4368	須恵器	無台杯	01	Q2	川跡	AC23	NW	110	31	75	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	細砂、粗砂多	良	03m1D701	
4369	須恵器	無台杯	01	Q2	川跡	AC21	NW	118.5	34.5	87.5	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂やや多	良	03m1D689	
4370	須恵器	無台杯	01	Q2	川跡	AC23	NE	142	36	96	ナデ/ナデ、ヘラ切	浅黄橙/浅黄橙	礫、粗砂	不良	03m1D706	
4371	須恵器	無台杯	01	Q2	川跡		北端トレンチ	140.5	37	99	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂やや多	良	03m1D693	
4372	須恵器	無台杯	01	Q2	川跡		北端トレンチ上	(143)	28.5	(100)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、ハケでナデ	灰/灰～オリブ灰	粗砂多	良	03m1D741	
4373	須恵器	盤	01	Q2	川跡	AC23	NW	(152)	23	(112)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂、細砂	良	03m1D696	
4374	土師器	甕	01	Q2	川跡	AB23	SW	138	(66.5)		ヨコナデ、カキメ/ヨコナデ、カキメ	鈍黄橙、黒褐/黒褐	細砂多、海綿骨針、雲母	良	03m1C549	
4375	土師器	甕	01	Q2	川跡	AC23	NW	206	(57)		ヨコナデ、カキメ/ヨコナデ、カキメ	鈍黄橙/鈍黄橙	細砂多、焼土塊、海綿骨針	良	03m1D743	
4376	赤彩	碗	01	Q2	川跡	AD23	NE	146	34	36	ヨコナデ後ヘラミガキ、ヘラミガキ/ヨコナデ後ヘラミガキ、ケズリ	鈍黄橙/橙	粗砂、海綿骨針少	良	03m1D721	
4377	赤彩	無台杯	01	Q2	川跡	AC22	NW	164	44.5	92	摩擦の為不明/ケズリ、ナデ	浅黄橙/浅黄橙	細砂多、海綿骨針	不良	03m1D702	
4378	須恵器	壺	01	R1	河道		16	21	(82)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/オリブ灰	粗砂、2.5mm礫微	良	03b2D199	
4379	須恵器	横瓶	01	R1	河道		7	(108)	(45)		ロクロナデ、タタキ/ロクロナデ、タタキ	灰/灰	粗砂	良	03b2D189	
4380	須恵器	杯蓋	01	R1	河道			159	26		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/灰	約2～7mmの礫、粗砂	良	03b2D225	
4381	須恵器	杯蓋	01	R1	河道		7	(154)	21		ロクロナデ、ロクロナデ後ナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ後ナデ	灰/灰	粗砂、礫	良	03b2D190	
4382	須恵器	杯蓋	01	R1	河道		22(SE03上面)	167	30		ロクロナデ、ロクロケズリ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/灰	礫、粗砂	良	03b2D229	
4383	須恵器	杯蓋	01	R1	河道		21	151	20.5		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/緑灰	礫少、粗砂多	良	03b2D208	
4384	須恵器	杯蓋	01	R1	河道		18	(153)	(28.5)		ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ、ナデ	灰白/灰	粗砂	良	03b2D200	
4385	須恵器	杯蓋	01	R1	河道		17	(172)	(29)		ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ	灰白/灰	粗砂	良	03b2D211	
4386	須恵器	杯蓋	01	R1	河道		13	(155)	27.5		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ後ナデ	青灰/灰白	礫少、細砂多	良	03b2D196	
4387	須恵器	有台杯	01	R1	河道		17	21	155.5	45	106	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	オリブ灰/オリブ灰	細砂多	良	03b2D209

報告番号	種別	器種	年	地区	遺構	グリッド	遺構2	法量(mm)			調整(内/外)	色調(内/外)	胎土	焼成	実測番号	
								口径	器高	底径						
4388	須恵器	有台杯	01	R1	河道		6	153	45	112	クロコナデ/クロコナデ、ヘラケズリ、ヘラ切、ナデ	黒褐/黒褐〜褐灰	細粒砂	良	03b2D182	
4389	須恵器	有台杯	01	R1	河道		17	(147)	(40)	98	クロコナデ/クロコナデ、ナデ	灰/灰	粗砂	良	03b2D205	
4390	須恵器	有台杯	01	R1	河道		18	148.5	49	90	クロコナデ/クロコナデ、ナデ	灰白/灰	粗砂	良	03b2D207	
4391	須恵器	有台杯	01	R1	河道		22	(144)	(41)	88	クロコナデ/クロコナデ、ナデ	青灰/青灰	粗砂、礫微	良	03b2D214	
4392	須恵器	有台杯	01	R1	河道		21	135	41	91	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	黄灰/灰	礫多、細砂多	良	03b2D210	
4393	須恵器	有台杯	01	R1	河道		8	(132)	37	(90)	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	明オリブ灰/明緑灰	礫微、粗砂多	良	03b2D192	
4394	須恵器	有台杯	01	R1	河道		7	12	131	43.5	83	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	鈍黄橙/褐灰	礫少、粗砂多	並	03b2D195
4395	須恵器	有台杯	01	R1	河道		21	(104)	(48)	(82)	クロコナデ/クロコナデ	オリブ灰/オリブ灰	礫少、細砂多	良	03b2D211	
4396	須恵器	無台杯	01	R1	河道		7	(122)	32	82	クロコナデ/クロコナデ	灰/灰	粗砂、礫少	良	03b2D191	
4397	須恵器	無台杯	01	R1	河道		17	143	48	45	クロコナデ/クロコナデ	赤灰/オリブ灰	粗砂	良	03b2D204	
4398	須恵器	無台杯	01	R1	河道		3	130	42	95	クロコナデ/クロコナデ	灰白/灰白	粗砂	良	03b2D187	
4399	須恵器	無台杯	01	R1	河道		22(SE03上面)	123	34	91	クロコナデ/クロコナデ、ヘラケズリ	灰褐/灰褐	礫、粗砂	良	03b2D230	
4400	須恵器	無台杯	01	R1	河道		21	139	32	102	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	褐灰/黄灰	細粒砂	良	03b2D180	
4401	須恵器	無台杯	01	R1	河道		21	124	34	86	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	礫微、粗砂微	良	03b2D213	
4402	須恵器	無台杯	01	R1	河道		13	128	34	82	クロコナデ/ヘラ切後ナデ、クロコナデ	明青灰/明緑灰	礫少、粗砂、細砂多	良	03b2D197	
4403	須恵器	無台杯	01	R1	河道		17	18	131	28	74	クロコナデ/クロコナデ	灰/灰	粗砂、4mm礫1個	良	03b2D202
4404	須恵器	無台杯	01	R1	河道		17	(135)	(35)	(77)	クロコナデ/クロコナデ	黄灰/灰	粗砂、3mm礫1個	良	03b2D203	
4405	須恵器	無台杯	01	R1	河道		16	21	139	29.5	113	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	黄灰/オリブ灰	良	03b2D212	
4406	土師器	括鉢	01	R1	河道		3	(338)	(127)		クロコナデ、ナデ/クロコナデ、カキメ、ケズリ	鈍黄橙/鈍褐	1〜2mm大の礫多、3〜5mm大の礫		03b2D136	
4407	土師器	括鉢	01	R1	河道		21	(367)	(92)		ヨコナデ、ナデ/ヨコナデ、ケズリ	灰白/灰白	約2〜7mmの礫、粗砂	並	03b2D223	
4408	赤彩	椀	01	R1	河道		21	(175)	52	80	クロコナデ/クロコナデ、回転糸切	灰白/灰白	粗砂	並	03b2D222	
4409	赤彩	?	01	R1	河道		13		(34)	70	ミガキ/摩滅不明、回転糸切り	浅黄橙/浅黄橙	1mm以下の粗砂	良	03b2D171	
4410	赤彩	無台杯	01	R1	河道		12	(126)	28	(77)	ミガキ/クロコナデ、クロケズリ、回転糸切り	鈍橙/鈍橙	粗砂、赤色粒	良	03b2D176	
4411	土師器	無台杯	01	R1	河道		3		(32)	75	摩耗のため不明	淡橙/淡橙	粗砂少、赤色粒	良	03b2D138	
4412	須恵器	壺	01	R1	河道			(88)	(100)		クロコナデ/クロコナデ	灰白/灰	粗砂、5.5mm礫2個	良	03b2D215	
4413	須恵器	杯蓋	01	R1	河道			128	47		クロコナデ/クロコナデ、クロケズリ	灰白/灰	礫、粗砂	良	03b2D224	
4414	須恵器	無台杯	01	R1	河道			131	37	76	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切	灰黄褐/灰白	礫、粗砂	並	03b2D226	
4415	須恵器	無台杯	01	R1	SE02	上面掘方	(109)	(36)	82		クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂	並	03b2D228	
4416	須恵器	無台杯	01	R1	SE02	上面	(126)	(38)	(94)		クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切	青灰/青灰	粗砂	良	03b2D227	
4417	須恵器	有台杯	01	R2	SD05	Z19		(43)	98		クロコナデ/クロコナデ、ナデ	灰白/灰白	粗砂	良	03b2D106	
4418	須恵器	無台杯	01	R2	P033	SB344	(139)	32	(86)		クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切	青灰/青灰	礫、粗砂多	良	03b2D125	
4419	須恵器	無台杯	01	R2	P066		(135)	33	(91)		クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切	灰/青灰	礫、粗砂	良	03b2D126	
4420	須恵器	無台杯	01	S1	SD09		(148)	30	(102)		クロコナデ/クロコナデ、底部ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂、細砂、海綿骨針	良	03m1D524	
4421	須恵器	椀蓋	01	S1	SK22		(198)	(30)			クロコナデ、ナデ/クロコナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂少	良	03m1D596	
4422	須恵器	無台杯	01	S1	SK27-28	上面	130	33.5	83		クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切	灰白/灰	礫微	並	03m1D602	
4423	須恵器	甕	01	S1	SK44		イコケ	(457)	(135)		クロコナデ、当具痕/クロコナデ、波状紋、平行タタキ	青灰/明青灰	粗砂多、礫多	良	03m1D614	
4424	須恵器	無台杯	01	S1	P043			(133.5)	(31.5)	(108.5)	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	明青灰/明青灰	粗砂多、礫	良	03m1D653	
4425	須恵器	無台杯	01	S1	P060			(138.5)	(33)	(105)	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	明青灰/明青灰	粗砂多、礫少	並	03m1D645	
4426	須恵器	無台杯	01	S1	P117			(131.5)	(34.5)	(101.5)	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	明青灰/明青灰	粗砂多、礫少	不良	03m1D651	
4427	須恵器	無台杯	01	S1	P105 P097			(127.5)	(32)	(98.5)	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	明青灰/明青灰	粗砂多	並〜不良	03m1D647	
4428	須恵器	椀蓋	01	S1	P105			(200.5)	(20)		クロコナデ/クロコナデ、回転ヘラケズリ	明青灰/明青灰	粗砂多、礫極少	良	03m1D648	
4429	土師器	甕	01	S1	P117			(217)	(178.5)		摩耗のため不明	淡橙/橙	粗砂多、礫、焼土塊	良	03m1D652	
4430	須恵器	鉢?	01	S2	SD01		Y15区アゼ北		(25)	66	クロコナデ/ケズリ 糸切り	灰/灰	礫少	良	03m1D656	
4431	土師器	長胴甕	01	S2	SK02			302	(95)		不明/ナデ、カキメ	鈍黄橙/鈍黄橙	礫、粗砂多、赤色粒	良	03m1D674	
4432	土師器	鉢?	01	S2	SK02			212	(56)		ナデ、ケズリ/ナデ、ハケメ	鈍黄橙/鈍黄橙	粗砂、赤色粒多	良	03m1D675	
4433	須恵器	無台杯	01	S2	P49	SB342		(133)	(34.5)	(116)	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切	明青灰/青灰	粗砂多	並	03m1D682	
4434	須恵器	杯蓋	02	S3	SD02			134	35	78	クロコナデ/クロコナデ、ヘラケズリ	灰/灰	粗砂微	良	03b1D110	
4435	赤彩	椀	02	S3	SD02			106	40	72	ミガキ/ミガキ	浅黄橙/浅黄橙	細砂少、海綿骨針微	良	03b1D109	
4436	須恵器	長頸瓶	02	S3	SD07		南側	158	35		クロコナデ→ナデ/クロコナデ→回転ヘラケズリ→ヨコナデ	灰/灰白	礫、粗砂微、細砂	良	03b1D111	
4437	須恵器	無台杯	02	S3	SD08		南	179	(25)		クロコナデ/クロコナデ→クロコナデ→クロコナデ	灰白/灰白	礫微、粗砂、細砂少	良	03b1D112	
4438	須恵器	有台杯	02	S3	SD08		南	121	32	73	クロコナデ/クロコナデ、クロコナデヘラケズリ	灰/灰	粗砂少、細砂	良	03b1D113	
4439	須恵器	杯	02	S4	SD11			120	45	68	クロコナデ/クロコナデ	灰白/灰	粗砂少、細砂	良	03b1D115	
4440	須恵器	高杯	01	T	SD01	X30	W	229	(17)		クロコナデ/クロコナデ、クロコナデ	灰/灰	粗砂	良	03b2D226	
4441	須恵器	無台杯	01	T	SD01	X26	E	138	36	100	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	粗砂	良	03b2D225	
4442	須恵器	杯蓋	01	T	SD05	VW29	E	118.5	30		クロコナデ/クロコナデ	灰白/灰白	礫、粗砂少	良	03b2D227	
4443	須恵器	有台杯	01	T	SD05	VW29	E	(118)	39.5	(89)	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	明オリブ灰/明青灰	礫微	良	03b2D228	
4444	須恵器	椀蓋	01	T	SD05	VW29	E	(200)	(56.5)		クロコナデ/クロコナデ、クロコナデ	明オリブ灰/緑灰	粗砂、細砂多	良	03b2D229	
4445	土師器	椀	01	T	SD05	V29		136	42.5	69	クロコナデ/回転糸切り後ナデ	灰白/灰白	粗砂多	良	03b2D41	
4446	須恵器	有台杯	01	T	SD15			(142)	41.5	(88)	クロコナデ/クロコナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/暗灰	粗砂多	良	03b2D44	
4447	土師器	埴	01	T	SD16	AA26	検出面	(316)	(78)		クロコナデ、カキメ、ハケメ/クロコナデ、カキメ	浅黄橙/浅黄橙	礫、粗砂多	良	03b2D45	
4448	須恵器	壺蓋	01	T	SD20	Z27	S	60	18		クロコナデ/クロコナデ	灰白/灰	細砂、3mm礫1個	良	03b2D744	
4449	須恵器	横瓶	01	T	SD31	N	ミゾE	118	263		クロコナデ、タタキ後カキメ、同心円タタキ/クロコナデ、平行タタキ後カキメ、カキメ	灰/灰	礫・粗砂多	良	03m1A3	
4450	須恵器	高杯	01	T	SD31		N溝E	158	116	110	クロコナデ/クロコナデ	灰白/灰白	粗砂、礫少	並	03b2D71	
4451	須恵器	無台杯	01	T	SD31		W溝S	138	35	(44)	クロコナデ/クロコナデ	灰白/灰	粗砂	良	03b2D72	
4452	赤彩	椀	01	T	SD31		N溝W	171	55	31	ミガキ/ミガキ、クロケズリ	灰白/鈍黄橙	細砂微	良	03b2D73	
4453	土師器	鍋	01	T	SD31		W溝S西溝層	(383)	(78)		クロコナデ、ハケメ後カキメ/クロコナデ、カキメ	灰白/灰白	粗砂	良	03b2D78	
4454	土師器	甕	01	T	SD31		W溝S	(157)	(80)		クロコナデ、カキメ/クロコナデ	鈍褐/鈍赤橙	粗砂、礫微	良	03b2D77	
4455	土師器	甕	01	T	SD31		W溝S	(165)	(61)		クロコナデ/クロコナデ、ナデ後ハケメ	灰白/灰黄褐	粗砂、礫微	良	03b2D76	
4456	須恵器	無台杯	01	T	SD31・SD34		W溝S・N外	123	40.5	66	クロコナデ/クロコナデ	青灰/灰	粗砂、3mm礫微	良	03b2D70	

報告番号	種別	器種	年	地区	遺構	グリッド	遺構2	法量(mm)			調整(内/外)	色調(内/外)	胎土	焼成	実測番号
								口径	器高	底径					
4457	須恵器	盤	01	T	SD34		S	148	25	124	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰	礫、粗砂	良	03b2D81
4458	土師器	甕	01	T	SD34 SD31		SN溝 W	(233)	(42)		ナデ、ハケメ/ナデ、ハケメ	灰白/鈍黄橙	礫多、雲母、粗砂	並	03b2D79
4459	須恵器	有台杯	01	T	SE07			(295)	(113)		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/オリーブ灰	細砂少	良	03b2D14
4460	須恵器	杯蓋	01	T	SE08			120	22		ロクロナデ/ロクロナデ	緑灰/青灰	細砂少	良	03b2D15
4461	須恵器	無台杯	01	T	SE08			(120)	28.5	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	粗砂ごく微	不良	03b2D17
4462	須恵器	無台杯	01	T	SE08			112	33	72	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/明緑灰	粗砂微	並	03b2D16
4463	須恵器	瓶	01	T	SE11 P247		井側内 NW	(203)			ロクロナデ、カキメ、ナデ/ロクロナデ、カキメ、ロクロケズリ、ロクロナデ	褐灰/灰褐	砂少	良	03b2C7
4464	須恵器	無台杯	01	T	SK07			128	29	74	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロヘラ切	灰/灰	礫微、粗砂、細砂少	良	03b2D1
4465	須恵器	有台杯	01	T	SB351 -P015		SB351	116	40.5	87	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂	良	03b2D92
4466	土師器	甕	01	T	P080			(188)	(104)		ロクロナデ、カキメ/ロクロナデ、カキメ	鈍橙、浅黄橙/ 鈍橙	粗砂多、赤色粒	良	03b2D94
4467	須恵器	杯蓋	03	U	SD15			164	(28)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	白礫少、白粗砂	良	03kD18
4468	須恵器	有台杯	03	U	SD15			(12)	92		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂多	良	03kD19
4469	須恵器	杯蓋	03	U	SB304 -P03		SB304	114	34		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ	灰/灰	白粗砂、細砂多、白礫少、灰色の填出物多	良	03kD7
4470	須恵器	無台杯	03	U	SB304 -P03		SB304	118	33	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰、灰白/灰、灰白	白粗砂、細砂多、白礫少	良	03kD6
4471	須恵器	無台杯	03	U	P15			142	28	101	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰、灰白	白粗砂、細砂多、灰色の填出物多	良	03kD9
4472	須恵器	有台杯	03	U	P16				28	103	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰	白粗砂、細砂少、白礫少、灰色の填出物少	良	03kD8
4473	須恵器	無台杯	03	U	P35			144	34	102	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	4mm大の礫少、白粗砂	不良	03kD5
4474	須恵器	有台杯	03	U	P40			(26)	102		ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	白粗砂多	良	03kD4
4475	須恵器	甕	02	V1	SK13		側内	416	70	370	ロクロナデ、タタキ、タタキ後ナデ/ロクロナデ、平行タタキ	灰/灰、灰白	礫、粗砂、気泡多	良	03b1D23
4476	内黒	無台杯	02	V1	SK13		側内南平	(94)	170		ロクロナデ後ミガキ/ロクロナデ、ナデ	黒/灰白	細砂、粗砂微、海綿骨針	良	03b1D73
4477	須恵器	無台杯	02	V2	P162		SK13にも	156	57	108	ナデ/ヘラ切、ナデ		細砂、礫	良	03b1D174
4478	土師器	甕	02	W	SD01	J17		169	(19)		ロクロナデ、カキメ、指頭圧痕/カキメ	淡黄/淡黄	粗砂多	良	03b1D182
4479	須恵器	高杯	02	W	SD02			187	(37)		ロクロナデ/ロクロナデ、カキメ、ロクロケズリ	灰白/灰白	白色砂、	甘い	03b1D180
4480	須恵器	稜碗	02	W	SD02			131	30	50	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ後ロクロナデ	灰白/明青灰	粗砂、細砂微	良	03b1D178
4481	土師器	鍋	02	W	SD02			151	(17)		ロクロナデ/ロクロナデ、タタキメ	灰白/灰白	礫少、粗砂多	良	03b1D181
4482	須恵器	無台杯	02	W	SD04	K16		(169)	(200)		ロクロナデ/ヘラ切後ナデ、ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂、細砂微	並	03b1D179
4483	須恵器	壺	02	W	SD52	N17-3		(27)	77		ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂	良	03b1D186
4484	須恵器	稜碗蓋	02	W	SD52	N17		121	32	88	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂、礫	良	03b1D183
4485	須恵器	杯蓋	02	W	SD52	N17		(264)	(60)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂	良	03b1D184
4486	須恵器	無台杯	02	W	SD52	N17		175	(72)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂、礫	良	03b1D185
4487	須恵器	無台杯	02	W	SD52			(38)	110		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂	良	03b1D188
4488	須恵器	無台杯	02	W	SD52	O17		(16)	133		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/明オリーブ灰	粗砂、礫	良	03b1D187
4489	土師器	長胴甕	02	W	SD60	S19		137	37	116	ヨコナデ/ヨコナデ、ハケ、タタキ、カキメ	灰黄/鈍黄橙	礫多、粗砂	良	03b1C212
4490	須恵器	盤	02	W	SK06	K17		(177)	103		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰	粗砂多	良	03b1C186
4491	須恵器	無台杯	02	W	SK51			(152)	160		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫少、粗砂多	甘い	03b1C187
4492	須恵器	有台杯	02	W	SK56			(127)	117		ロクロナデ/ロクロナデ、ナデ、ヘラ切	灰白/灰	礫・粗砂多	良	03b1C188
4493	赤彩	碗	02	W	P17			118	41	81	摩耗のため不明		礫微	良	03b1D200
4494	須恵器	杯蓋	02	W	SB257 -P77		SB357	(110)	42	72	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白/灰白	礫微、細砂多	並	03b1D194
4495	須恵器	杯蓋	02	W	SB357 -P46		SB357	(25)	(65)		ロクロナデ/ロクロナデ	青灰/明青灰	粗砂微、細砂少	良	03b1D190
4496	須恵器	無台杯	02	W	SB357 -P46		SB357	124	34	74	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	オリーブ灰/ 明青灰	礫、細砂少	良	03b1D191
4497	須恵器	無台杯	02	W	SB357 -P46		SB357	111	41	71	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	明オリーブ灰/灰	礫、細砂多	良	03b1D192
4498	須恵器	杯蓋	02	W	SB358 -P69		SB358	(169)	(23)	(142)	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/緑灰	礫少、粗砂少	良	03b1D193
4499	須恵器	杯蓋	02	W	P89			(134)	(42)	(68)	ロクロナデ/ロクロナデ	明青灰/明青灰	粗砂微、細砂微	良	03b1D195
4500	須恵器	碗	02	W	P124	M17-4		118	73		ロクロナデ/ロクロナデ、回転系切り、ロクロケズリ	灰白/緑灰	細砂少	良	03b1D196
4501	須恵器	杯蓋	02	W	SB358 -P136	M18-4	SB358	106	40	69	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/オリーブ灰	礫微、細砂少	良	03b1D198
4502	須恵器	無台杯	02	W	SB357 -P131	M17-3	SB357	133	37	105	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	粗砂微、細砂少	並	03b1D197
4503	土師器	拵れ鉢	02	W	P138	M18-2		147	35	112	ハケメ/ヨコナデ、カキメ	鈍橙/鈍黄橙	細砂多、粗砂少	良	03b1D199
4504	須恵器	壺	02	W	N17			160	85	69	ロクロナデ/ロクロナデ→ヨコナデ→ヘラ切	灰白/灰白	礫微、細砂多	良	03b1D203
4505	須恵器	杯蓋	02	W	SD62	Q18		124	33	89	ロクロナデ/ロクロナデ	暗青灰/オリーブ灰	粗砂少、細砂多	良	03b1D217
4506	須恵器	有台杯	02	W	SD62	S20		150	44	104	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	粗砂微、細砂少	良	03b1D224
4507	須恵器	有台杯	02	W	SD62		南アゼ	149	40	104	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰黄/青灰	粗砂	良	03b1D235
4508	須恵器	有台杯	02	W	SD62	Q18		167	63	121	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂	良	03b1D212
4509	須恵器	有台杯	02	W	SD62	R19		(160)	63	(116)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	明青灰/青灰	礫少、粗砂少	良	03b1D228
4510	須恵器	有台杯	02	W	SD62	Q18		(310)	(163)	180	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰/灰	礫微、細砂多	良	03b1D216
4511	須恵器	有台杯	02	W	SD62	Q18		110	41	78	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	青灰/青灰	礫少、粗砂多	良	03b1D218
4512	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		136	37.5	100	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	鈍黄/黄灰	礫多、粗砂多	並	03b1D226
4513	須恵器	無台杯	02	W	SD62	S20	川18にもあり	142	35	110	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	暗灰黄/灰	粗砂少	良	03b1D225
4514	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		160	29	138	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	鈍黄橙/淡黄	粗砂微	不良	03b1D221
4515	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		(119)	120		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	礫少、細砂少	不良	03b1D219
4516	須恵器	無台杯	02	W	SD62		西側アゼ	130	38	100	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	礫、粗砂	良	03b1D230
4517	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		104	(51)		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	礫少、粗砂少	並	03b1D215

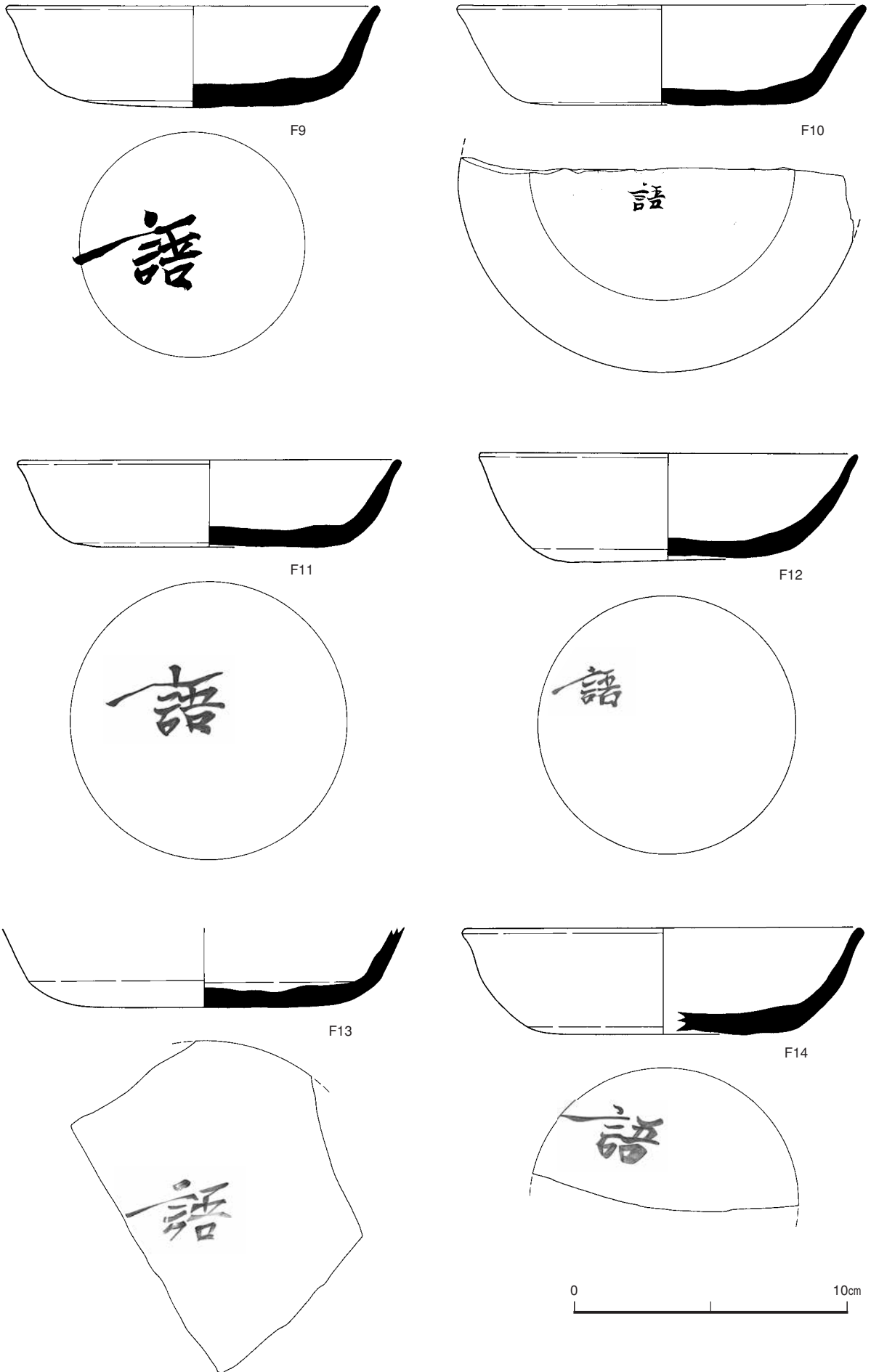
報告番号	種別	器種	年	地区	遺構	グリッド	遺構2	法量(mm)			調整(内/外)	色調(内/外)	胎土	焼成	実測番号
								口径	器高	底径					
4518	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		133	35	106	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	礫微、細砂微	不良	03b1D223
4519	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		131	37	95	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	黄灰/灰白	礫・粗砂微、粗砂少	並	03b1D227
4520	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		159	41	116	ロクロナデ/ヘラ切後ナデ、ロクロナデ	浅黄/灰オリーブ	礫多、粗砂少		03b1D222
4521	須恵器	無台杯	02	W	SD62		南壁断面より南	127	36	80	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切、ナデ	黄灰/黄灰	礫、粗砂	良	03b1D239
4522	須恵器	無台杯	02	W	SD62		南壁断面より南	131	40	93	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂	良	03b1D238
4523	須恵器	無台杯	02	W	SD62		南アゼ	129	38	91	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂	良	03b1D234
4524	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		132	32	89	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切		礫、粗砂	良	03b1D209
4525	須恵器	無台杯	02	W	SD62		川1-8	136	39	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	暗灰黄/灰黄	礫、粗砂	良	03b1D237
4526	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		129	36	85	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	焼土塊、礫、粗砂	並	03b1D208
4527	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		121	35	95	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	褐灰/灰黄	礫、粗砂	並	03b1D207
4528	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		118	37	82	ロクロナデ、ヨコ方向のナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂	良	03b1D210
4529	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		183	(64)		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂	並	03b1D205
4530	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18			29		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	鈍黄橙/鈍黄橙	礫、粗砂	良	03b1D206
4531	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		115	43	74	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂	並	03b1D211
4532	須恵器	無台杯	02	W	SD62		南端	123	36	75	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫少、粗砂	不良	03b1D236
4533	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		(112)	(27)	(81)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	緑灰/緑灰	粗砂多	良	03b1D229
4534	須恵器	無台杯	02	W	SD62	R19		110	40	85	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂	良	03b1D232
4535	須恵器	無台杯	02	W	SD62	R19		110	28	76	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂	良	03b1D233
4536	須恵器	無台杯	02	W	SD62	Q18		126	28		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫、粗砂少	不良	03b1D220
4537	須恵器	無台杯	02	W	SD62	R19		128	38	94	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰/灰	礫、粗砂	良	03b1D231
4538	須恵器	三足盤	02	W	SD62	Q18		463	201	410	ロクロナデ/ロクロナデ、ケズリ、ハケメ	灰黄/灰黄	粗砂、土器片くだいて混和材使用	並	03b1C207
4539	土師器	長胴甕	02	W	SD62	R19		159	105	122	ロクロナデ、ハケメ/ロクロナデ、カキメ、ハケメ	オリーブ黒/黒、淡黄	粗砂多		03b1C206
4540	土師器	甕	02	W	SD62	S20		171	68	120	ロクロナデ、カキメ/ロクロナデ、カキメ	浅黄橙/浅黄橙	礫、細砂多	良	03b1D213
4541	土師器	甕	02	W	SD62	R19					ヨコナデ、ハケメ/ヨコナデ、ケズリ後ナデ、ハケメ	鈍黄橙/浅黄	礫少、粗砂、細砂少	良	03b1C209
4542	土師器	製塩土器	02	W	SD62	Q18		126	48	87	ハケメ/ナデ、指押え	灰黄/灰	粗砂多	良	03b1D204
4543	土師器	甕	02	W	SD62	Q18		150	35	114	ロクロナデ/摩耗により不明、一部ロクロナデの跡あり	浅黄橙/褐灰	粗砂多	良	03b1C208
4544	土師器	甕	02	W	SD62	R19		131	40	101	ロクロナデ/静止糸切り、ケズリ	鈍橙/鈍橙	礫、粗砂微、細砂多	良	03b1D214
4545	須恵器	壺蓋	02	W	川肩	M18-2	3区	(147.5)	(36)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰白	粗砂	良	03b1D281
4546	須恵器	小型広口壺	02	W	川肩	M18-2	3区西岸	(77)	(74)	(51)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	粗砂	良	03b1D280
4547	須恵器	球胴壺	02	W	川肩	M18-2	3区	(64)	(79)	78	ロクロナデ/ロクロナデ	明青灰/青灰	粗砂、礫微	良	03b1D284
4548	須恵器	小型長頸瓶	02	W	川	L18-3	3左岸中	(96)	(55)	55	外：ロクロナデ		粗砂	良	03b1D254
4549	須恵器	括れ鉢	02	W		M18-2	3区	155	(63)		ロクロナデ、タタキ、カキメ/ロクロナデ、タタキ、カキメ	灰白/灰	粗砂	良	03b1A17
4550	須恵器	杯蓋	02	W	川肩	M18-2	3区	(120)	(30)		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/灰白	粗砂	良	03b1D285
4551	須恵器	杯蓋	02	W	川肩	L18-14	3区	(143)	(49)		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白/灰白	粗砂	並	03b1D279
4552	須恵器	杯蓋	02	W	川肩	O19-4	2区西岸	145	15		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/灰	粗砂、礫少、気泡	良	03b1D242
4553	須恵器	杯蓋	02	W	川肩	M17-23		145	(32)		ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラケズリ後ナデ	灰/灰	粗砂、砂多	良	03b1D290
4554	須恵器	杯蓋	02	W	川肩	M18-2	3区	(114)	(27.5)		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白/灰白	礫少、粗砂	良	03b1D286
4555	須恵器	椀碗蓋?	02	W	川肩	M18-2	3区	(199)	(35)		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白/灰	粗砂、礫微	良	03b1D278
4556	須恵器	壺蓋?	02	W	川肩	M18-2	3区	(160)	(50)		ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白/灰白	粗砂	良	03b1D283
4557	須恵器	蓋鈕	02	W	川肩	M18-2			(47)		外：ロクロナデ	灰白/灰	粗砂	良	03b1D287
4558	須恵器	杯蓋	02	W	川	M18-4	3左岸	(126)	(28)		ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/オリーブ灰	礫微、粗砂少	良	03b1D263
4559	須恵器	杯蓋	02	W	川	M18-4	3左岸中	101	25.5		ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂少、細砂多	良	03b1D256
4560	須恵器	有台杯	02	W	川肩	M18-2	3区	(164)	(67)	(103)	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/青灰	粗砂	良	03b1D288
4561	須恵器	有台杯	02	W	川	M18-4	3左岸	(153)	(68)	(97)	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/明青灰	粗砂、礫少	良	03b1D252
4562	須恵器	有台碗	02	W	川肩	M18-2	西岸	(142)	(48)	(93)	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	礫微	良	03b1D289
4563	須恵器	有台碗	02	W	川	M18-4	3左岸	109	43	68	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰	礫、粗砂少	良	03b1D260
4564	須恵器	無台杯	02	W	川肩	M18-2	3区	(143)	(48)	80	ロクロナデ/ロクロナデ	灰白/灰白	粗砂、礫微	良	03b1D282
4565	須恵器	無台杯	02	W	川	L18-3	3左岸中	(119.5)	(33)	74	ロクロナデ/ロクロナデ	青灰/青灰	粗砂、礫少	良	03b1D253
4566	須恵器	無台杯	02	W	川		2-3	119	34	83	ロクロナデ/ヘラ切、ロクロナデ	灰白/灰白	礫、粗砂	良	03b1D246
4567	須恵器	無台杯	02	W	川	M18-4	3左岸	124	33	82	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	オリーブ灰/緑灰	粗砂・礫少	良	03b1D237
4568	須恵器	無台杯	02	W	川	M18-4	3左岸	(114)	(31)	(79)	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	青灰/オリーブ灰	礫少、粗砂少	良	03b1D262
4569	須恵器	無台杯	02	W	川	I15-2	4W	130	34	93	ロクロナデ/ロクロナデ	灰/灰	粗砂、礫	良	03b1D241
4570	須恵器	無台杯	02	W	川		2-3	116	32	83	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切	灰白/灰白	礫少、粗砂	良	03b1D245
4571	須恵器	無台杯	02	W	川	M18-4	3左岸	114	32.5	92	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	礫少、粗砂少	良	03b1D261
4572	須恵器	無台杯	02	W	川	K19	3右岸北	124	35	72	ロクロナデ/ロクロナデ	淡黄/灰黄	粗砂、海綿骨針	良	03b1D230
4573	須恵器	盤	02	W	川	M18-4	3左岸	(148)	24.5	103	ロクロナデ/ロクロナデ、ヘラ切後ナデ	灰白/灰白	礫微、粗砂少	良	03b1D265
4574	須恵器	盤	02	W	川	M18-4	3左岸	(164)	21.5	(146)	ロクロナデ/ヘラ切、ロクロナデ	灰/灰白	粗砂少	良	03b1D264
4575	須恵器	有台盤	02	W	川	I16-4	4W	(166)	27	(110)	ロクロナデ/ロクロナデ、ロクロケズリ	灰/灰	粗砂、礫少	良	03b1D240
4576	土師器	甕	02	W	川	M18-2	3左岸	(142)	(110)		ナデ/ナデ	浅黄橙/灰黄	粗砂少	並	03b1D259
4577	土師器	括れ鉢	02	W	川	M18-4	3左岸中	(308)	(91)		摩耗により不明/ナデ	鈍橙/浅黄橙	礫少、粗砂多	良	03b1D258
4578	内黒	台付碗	02	W	川	M18-4	3左岸	120	40	91	ミガキ/ナデ	黒/鈍黄橙	粗砂	良	03b1C252
4579	赤彩	鉢	02	W	川	M18-4	3左岸	(194.5)	88	49		淡黄/淡黄	粗砂	良	03b1D251
4580	内黒	碗	02	W	川	M18-4	3左岸	(142)	(37)	(60)	ミガキ/ナデ	褐灰/浅黄橙	粗砂微、細砂少	良	03b1D267
4581	土師器	脚	02	W	川	I16-3	4W		102	65	摩耗のため不明	鈍橙/鈍橙	粗砂多、礫多、赤色粒	良	03b1D243

第3表 土製品一覧

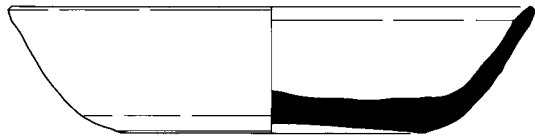
報告番号	器種	年	地区	遺構	最大長(mm)	最大厚(mm)	調整	色調	胎土	焼成	実測番号
E101	轆羽口	99	A2	SD06 (08)	24	22		灰白/浅橙	砂っぽい		01tC263
E102	轆羽口	99	A2	P159	22	20		灰白/浅橙			02s2C133
E103	轆羽口	99	A2	SD08	32	38	ナデ/ナデ	灰白/浅橙	粗砂、礫、海綿骨片	良	01tC34
E104	轆羽口	99	A2	SD08	54	30	ナデ/ナデ	灰白/浅橙		良	01tC36
E105	轆羽口	99	A2	SD08	32	28	ナデ/ナデ	灰白/浅橙	細砂多、粗砂	良	01tC37
E106	轆羽口	99	A2	SD08	20	20	ナデ/ナデ	灰白/浅橙	海綿骨片	良	01tC35
E107	土錘	99	A2	SD08	28	12	摩耗	浅黄橙	粗砂	良	01tC59
E108	支脚	99	A2	SD08	36	26	摩耗	浅黄橙~橙	焼土塊多	良	01tC451
E109	轆羽口	99	C1	SD16	32	24	ナデ/ナデ	灰白/浅黄橙	砂粒微	良	02s2C298
E110	轆羽口	99	C1	SD16	32	22	ナデ/ナデ	鈍黄橙/淡橙	粗砂少	良	02s2C299
E111	土錘	99	E	SK03	54	30	全体摩耗		粗砂、白砂	良	02pD47
E112	土錘	99	E	SE04	60	30			細礫、白礫、白砂	良	02pD74
E113	土錘	99	E	SE04	56	31		灰褐	赤色粒・石粒・白礫多	良	02pD53
E114	土錘	02	N2	SD102-b	54	18					03b1D134
E115	土錘	02	N2	SD12	64	16	ナデ				03b1D120
E116	土錘	02	N2	SD102-b	56	16					03b1D133
E117	土錘	00	O1	SD07	46	32	ナデ	鈍黄橙	粗砂多	良	02s1石金5
E118	土錘	01	O2	川跡	84	34					03b2土32
E119	土錘	01	O2	川跡	62	16					03b2土45
E120	土錘	01	O2	検出面	38	14	ナデオサエ				03b2土46
E121	支脚	01	O2		52	28	摩耗	淡赤橙/鈍橙	粗砂微、細砂多	良	03b2D320
E122	土錘	01	Q1	P018	50	26	外：ナデ	鈍黄橙	細砂多、雲母、赤色粒	良	03m1D416
E123	土錘	01	Q1	SD79	44	12		橙			03m1D356
E124	土錘	01	Q2	P294	40	12		灰白	粗砂やや多	良	03m1D506
E125	土錘	01	Q2	P294	38	12		灰		良	03m1D505
E126	土錘	01	Q2	SX21	42	28		浅黄橙	粗砂	良	03m1D499
E127	土錘	01	Q2	SX21	48	24		灰白		良	03m1D498
E128	土錘	01	Q2	SX21	42	24		浅黄橙	粗砂、焼土塊微	良	03m1D497
E129	土錘	01	Q2	川跡	62	32	外：ナデ	鈍黄橙	礫をやや多	良	03m1D700
E130	土錘	01	Q2	川跡	38	19	外：摩耗	鈍橙	粗砂少	良	03m1D714
E131	土錘	01	Q2	川跡	56	28	外：摩耗	橙	粗砂多	良	03m1D713
E132	土錘	01	T	SD31	55	29	摩耗	灰白/灰白	粗砂多	良	03b2石36
E133	土錘	02	W	SD02	54	18					03b1D177
E134	土錘	02	W	SD52	38	14	ナデオサエカ				03b1D189
E135	土錘	02	W	P24	40	17					03b1D201
E136	土錘	02	W		36	12					03b1D297
E137	土錘	02	W		46	16					03b1D294
E138	土錘	02	W		58	16					03b1D296
E139	土錘	02	W	P125	62	24					03b1D202
E140	土錘	02	W		44	14					03b1D295
E141	土錘	02	W	川	44	18	ナデオサエ				03b1D255
D34	土玉	01	T	P175	14	15	ナデ				03b2土48

第4表 石製品・金属製品一覧

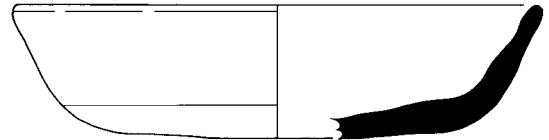
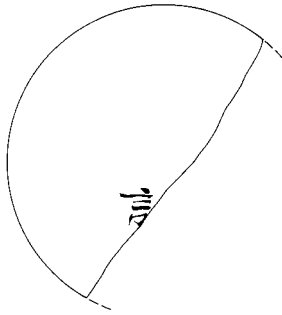
報告番号	種類	出土年	地区	遺構	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石・材質	実測番号
S131	砥石	99	A2	SD08	(76.0)	(51.0)	(47.0)	(126)	凝灰岩	02s2石金23
S132	砥石	99	A2	SD08	(139.0)	(95.0)	(22.0)	(457)	安山岩	02s2石金33
S133	砥石	99	A2	SD08	37	35	14.5	17.7	緑色凝灰岩	02p石165
S134	砥石	01	T	SD31	129	75	57	878	砂岩	03b2石28
S135	砥石	01	T	P076	81	31	24.5	52	凝灰岩	03b2土14
S136	不明	99	A2	SD08	(119.0)	(110.0)	(36.0)	(471)	片岩	02s2石金21
S137	不明	99	B3	SD31	51	50	7.5	27.5	砂岩	02p石167
S138	不明	99	A2	P189	(37.0)	(14.0)	(11.0)	(9)	蛇紋岩	02s2石金25
M11	銅鏡	02	W	川	154	8.5		5.65	青銅	03b1石金12
M12	鉄滓	99	B2	SD16	82	70	35	243.7	鉄	02p161



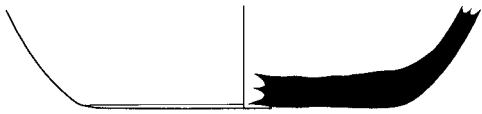
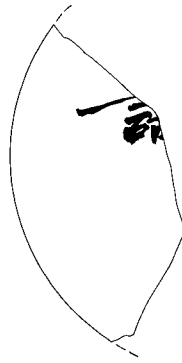
第118図 古代遺物実測図33 (1/2)



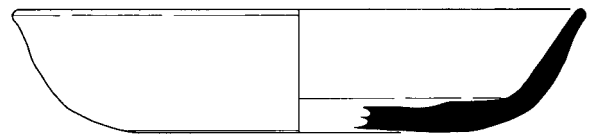
F15



F16



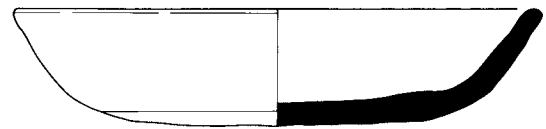
F17



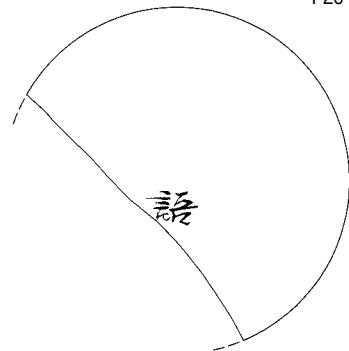
F18



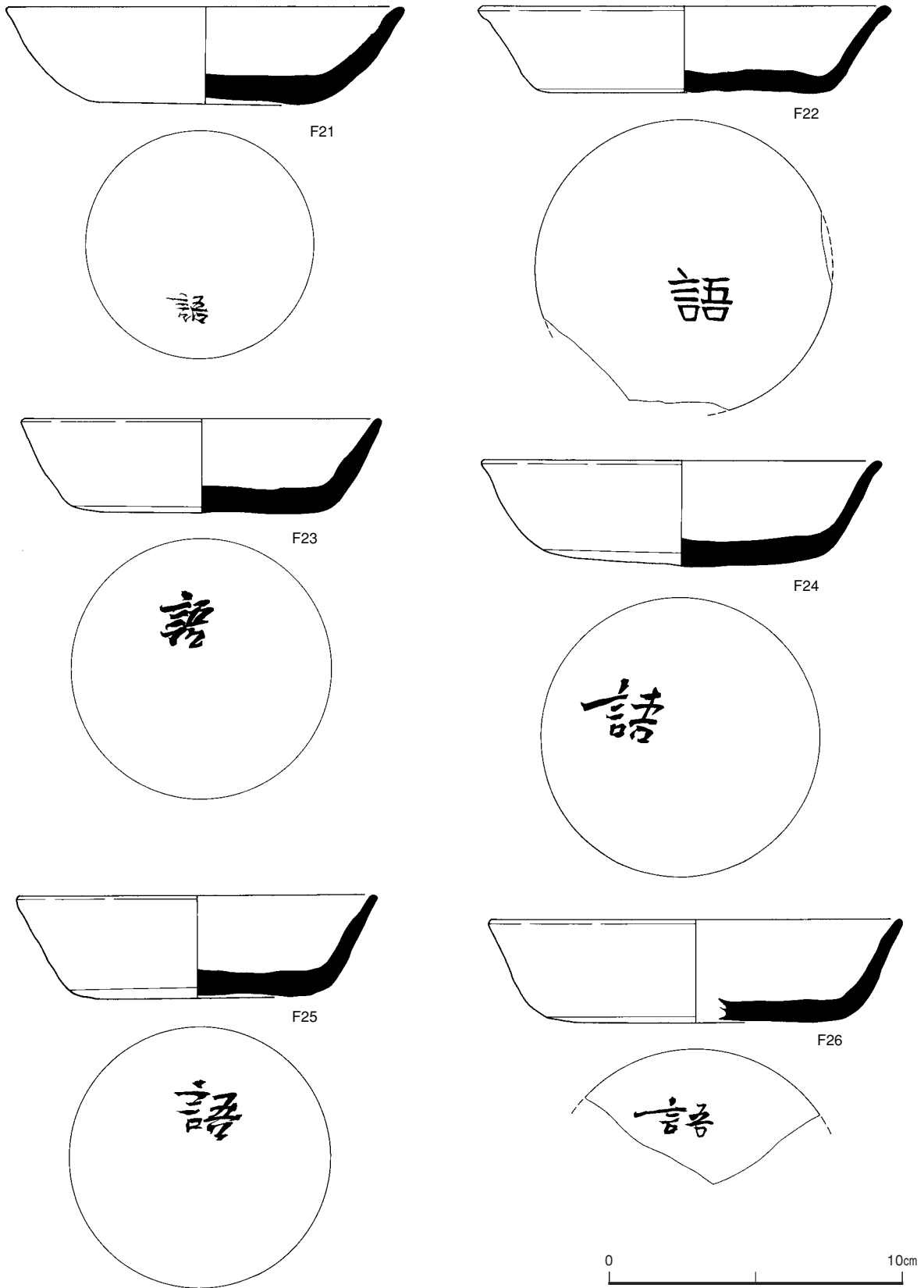
F19



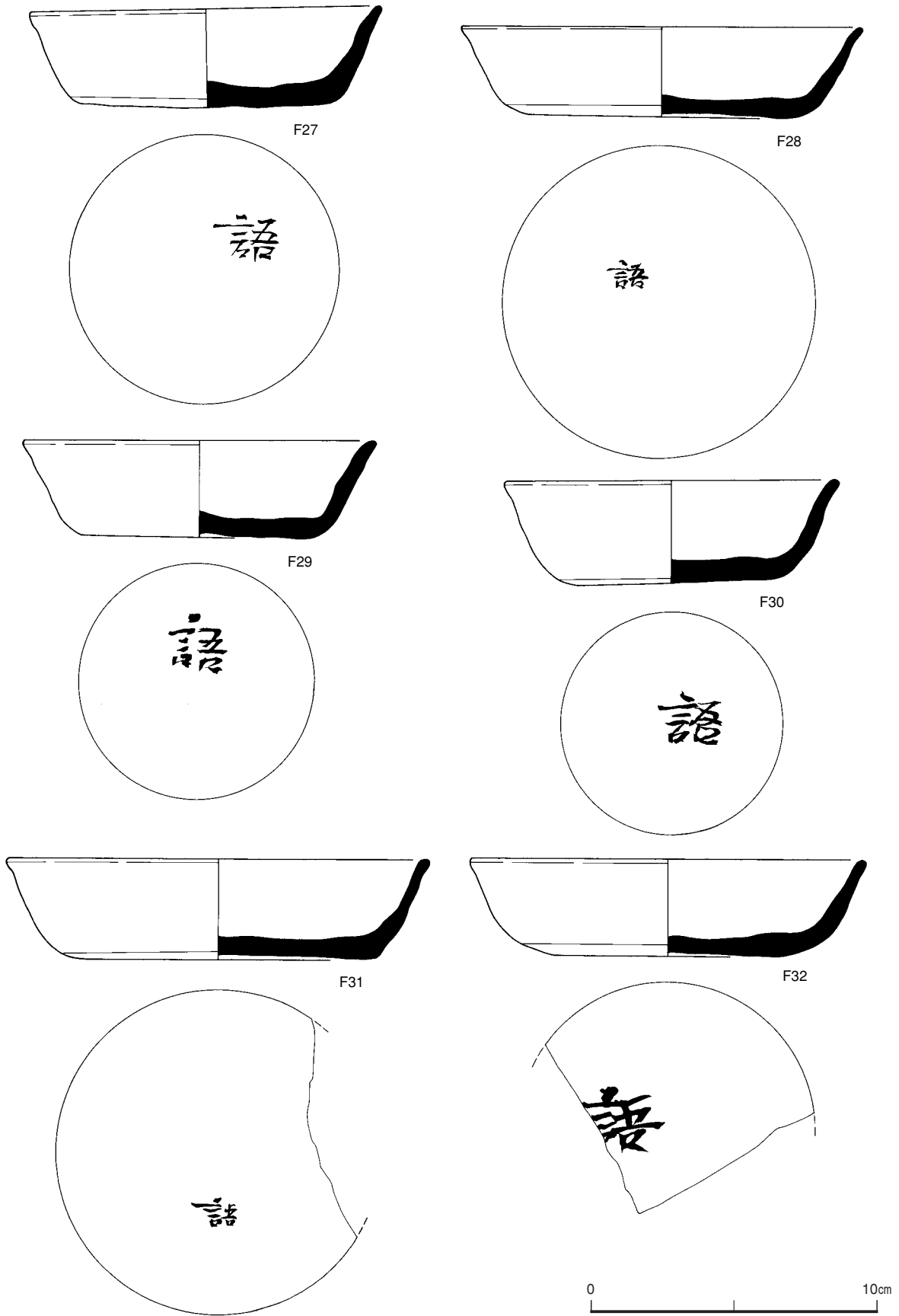
F20



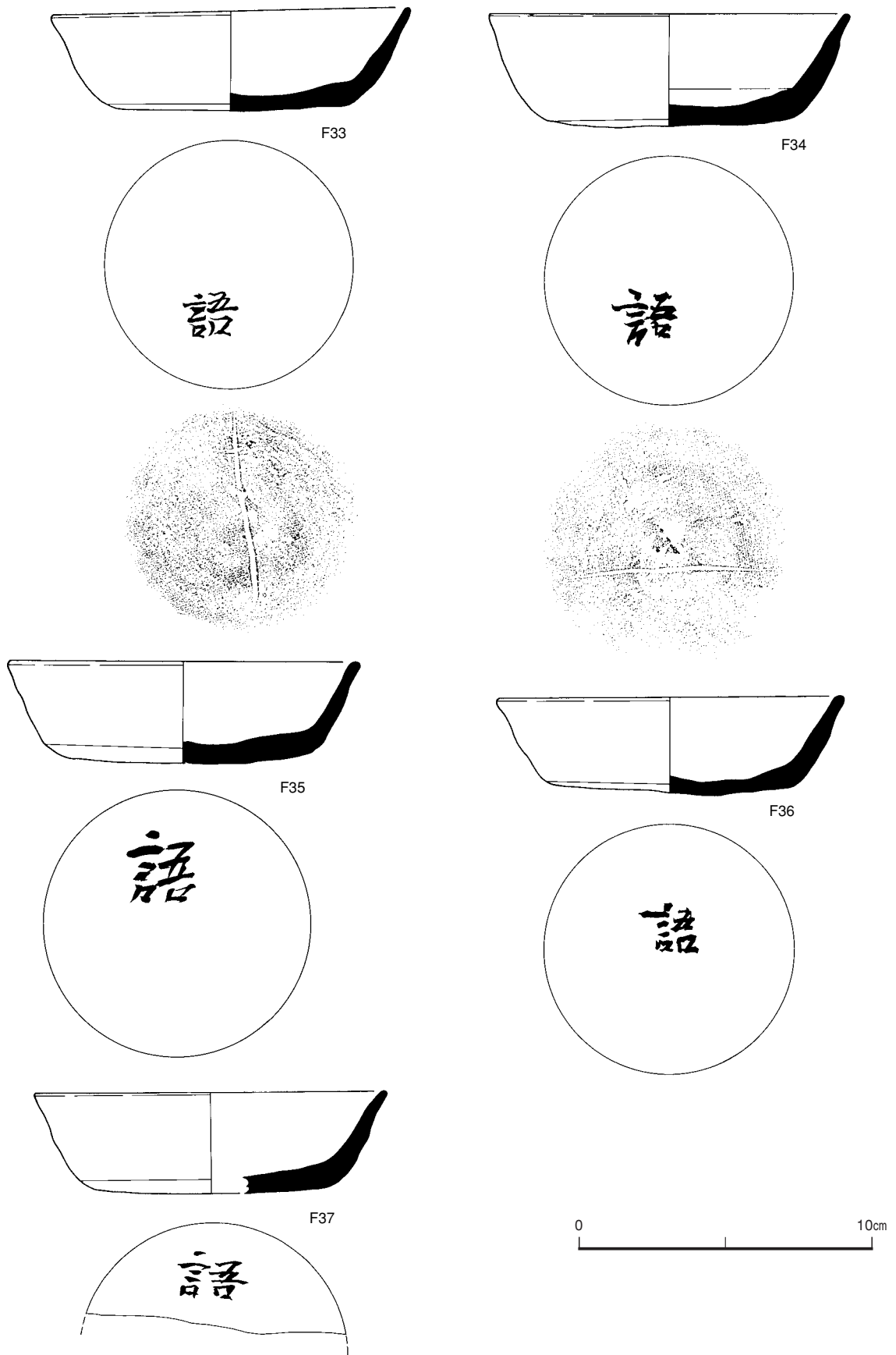
第119図 古代遺物実測図34 (1/2)



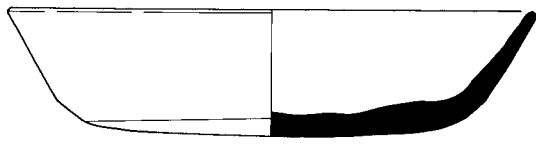
第120図 古代遺物実測図35 (1/2)



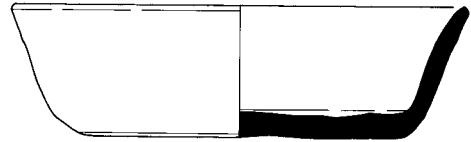
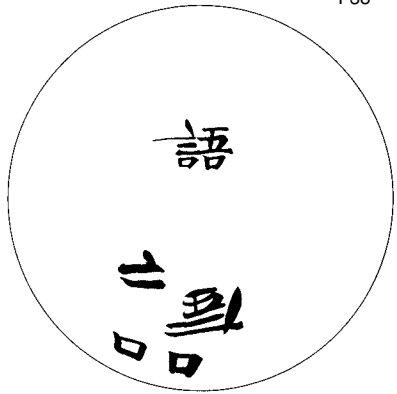
第121図 古代遺物実測図36 (1/2)



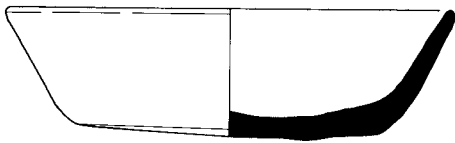
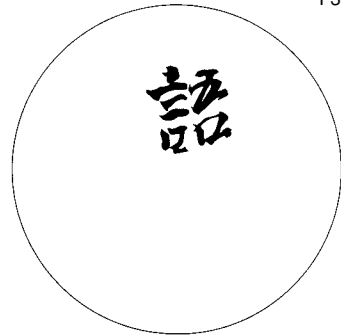
第122図 古代遺物実測図37 (1/2)



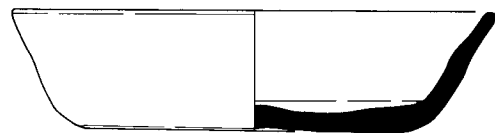
F38



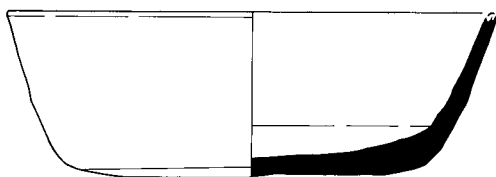
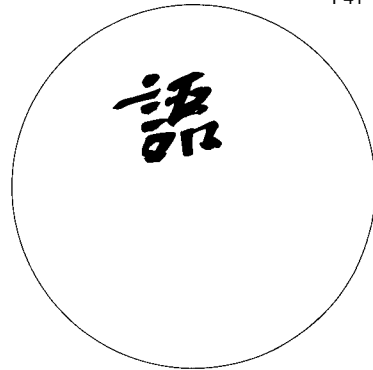
F39



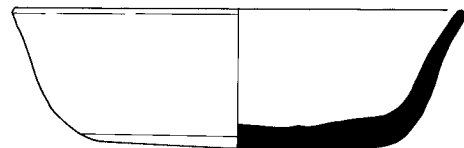
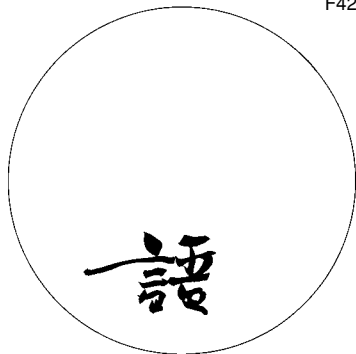
F40



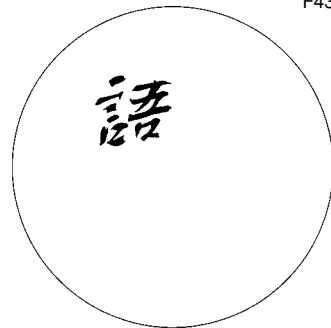
F41



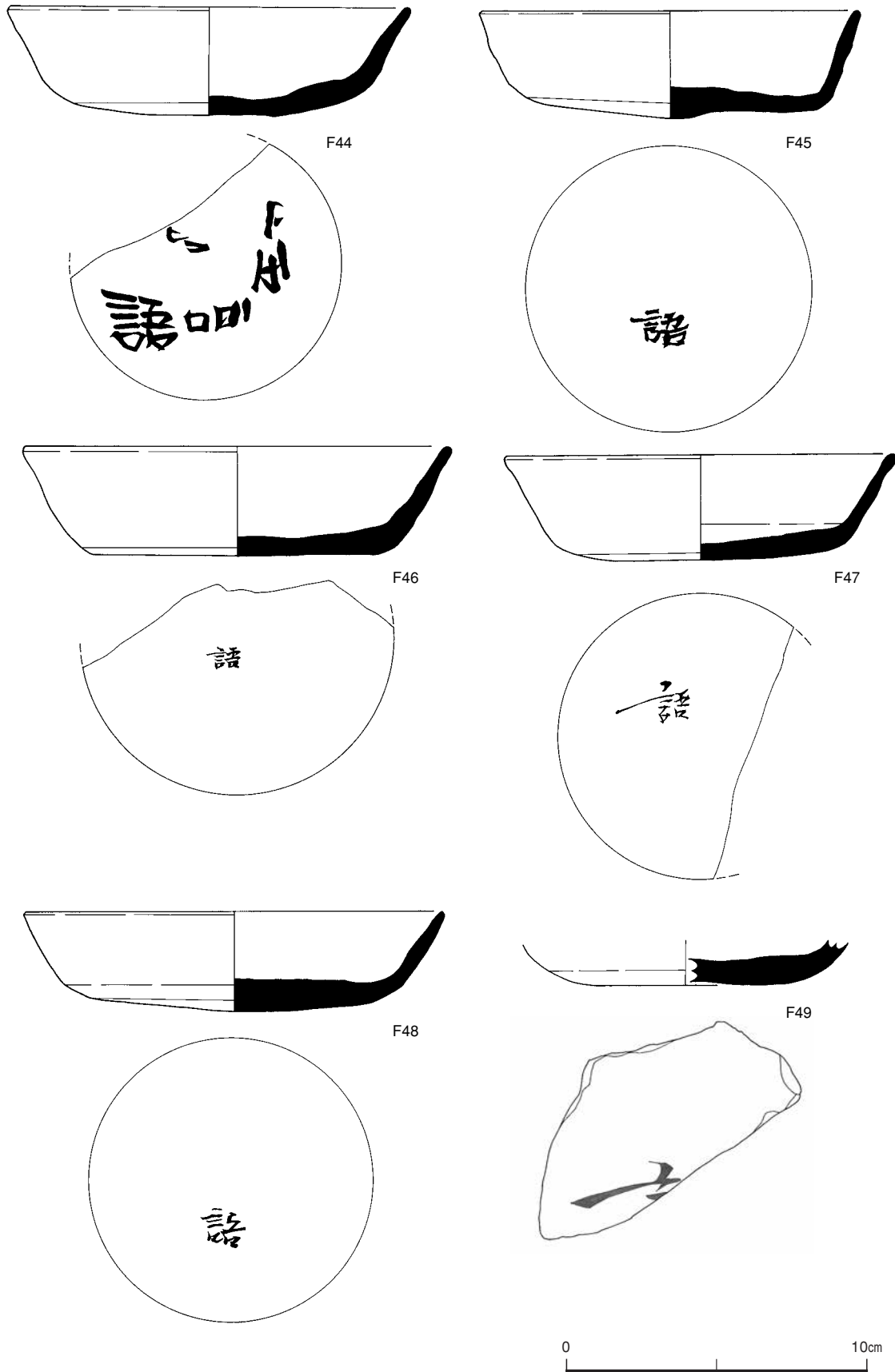
F42



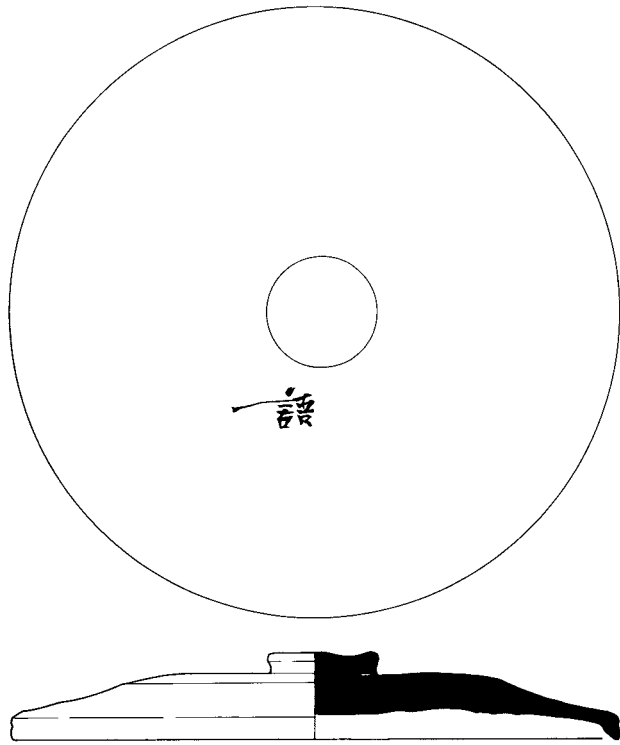
F43



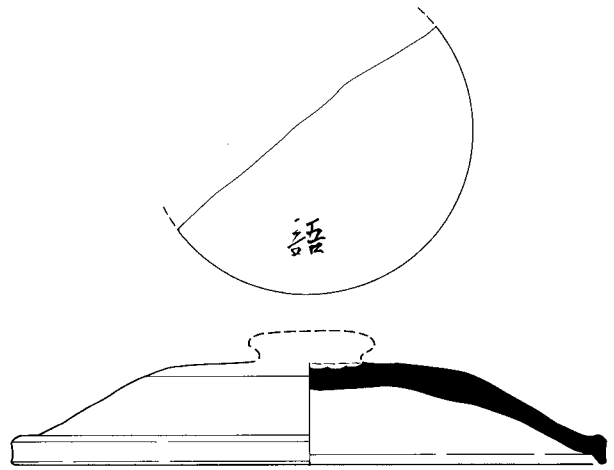
第123図 古代遺物実測図38 (1/2)



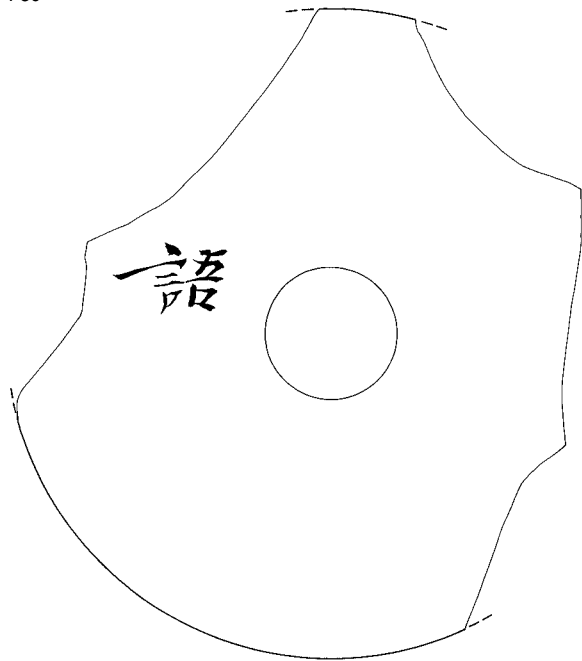
第124図 古代遺物実測図39 (1/2)



F50



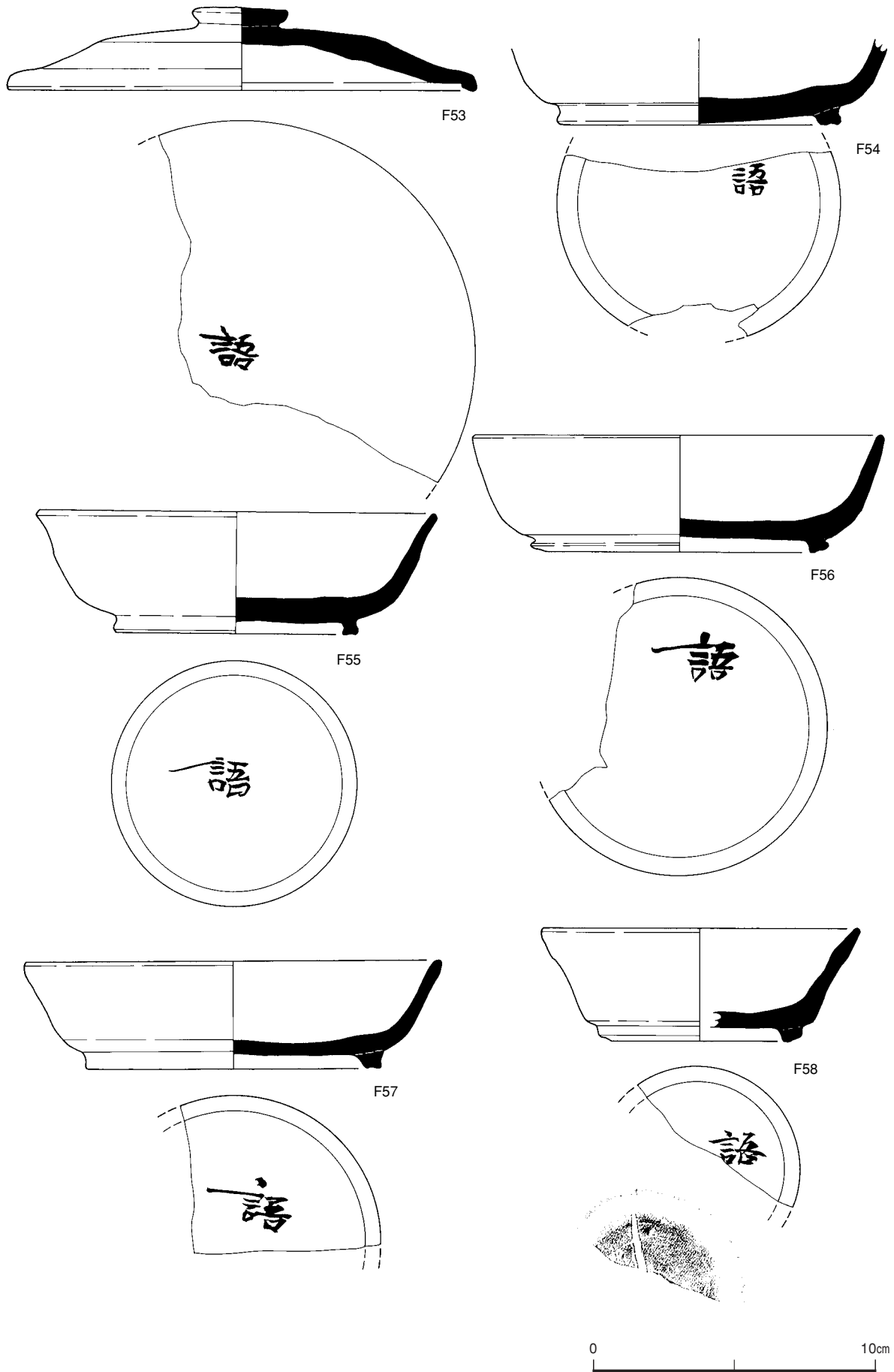
F51



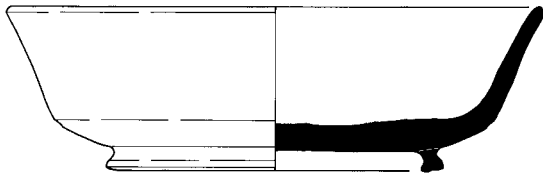
F52



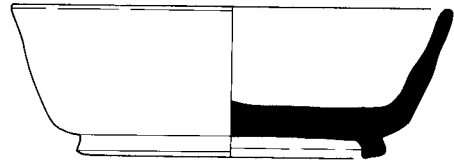
第125図 古代遺物実測図40 (1/2)



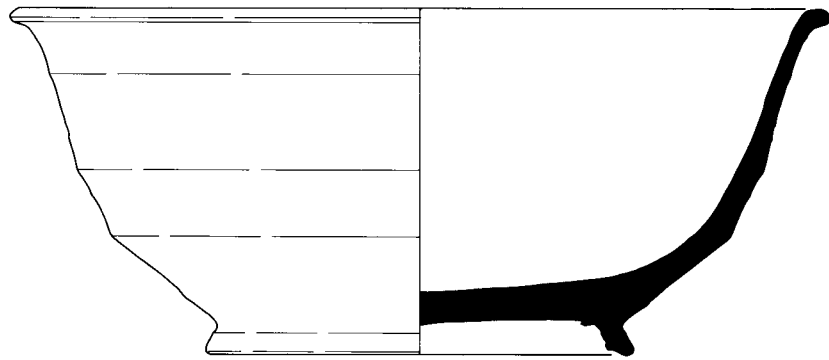
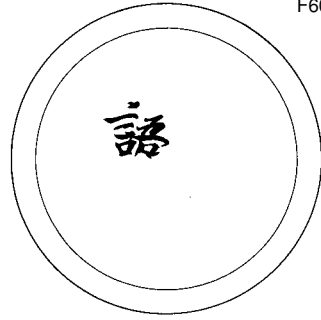
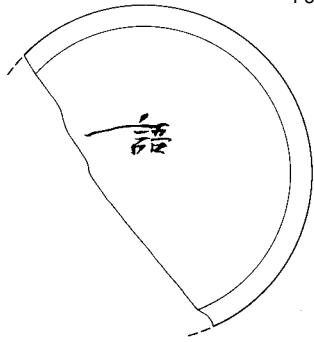
第126図 古代遺物実測図41 (1/2)



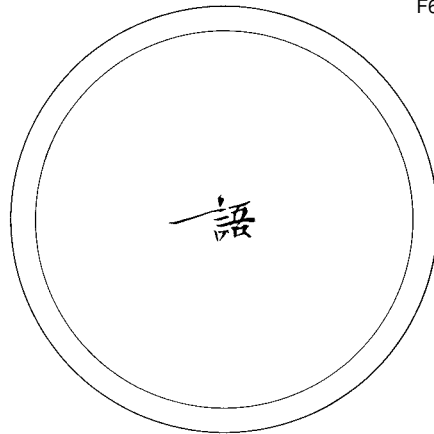
F59



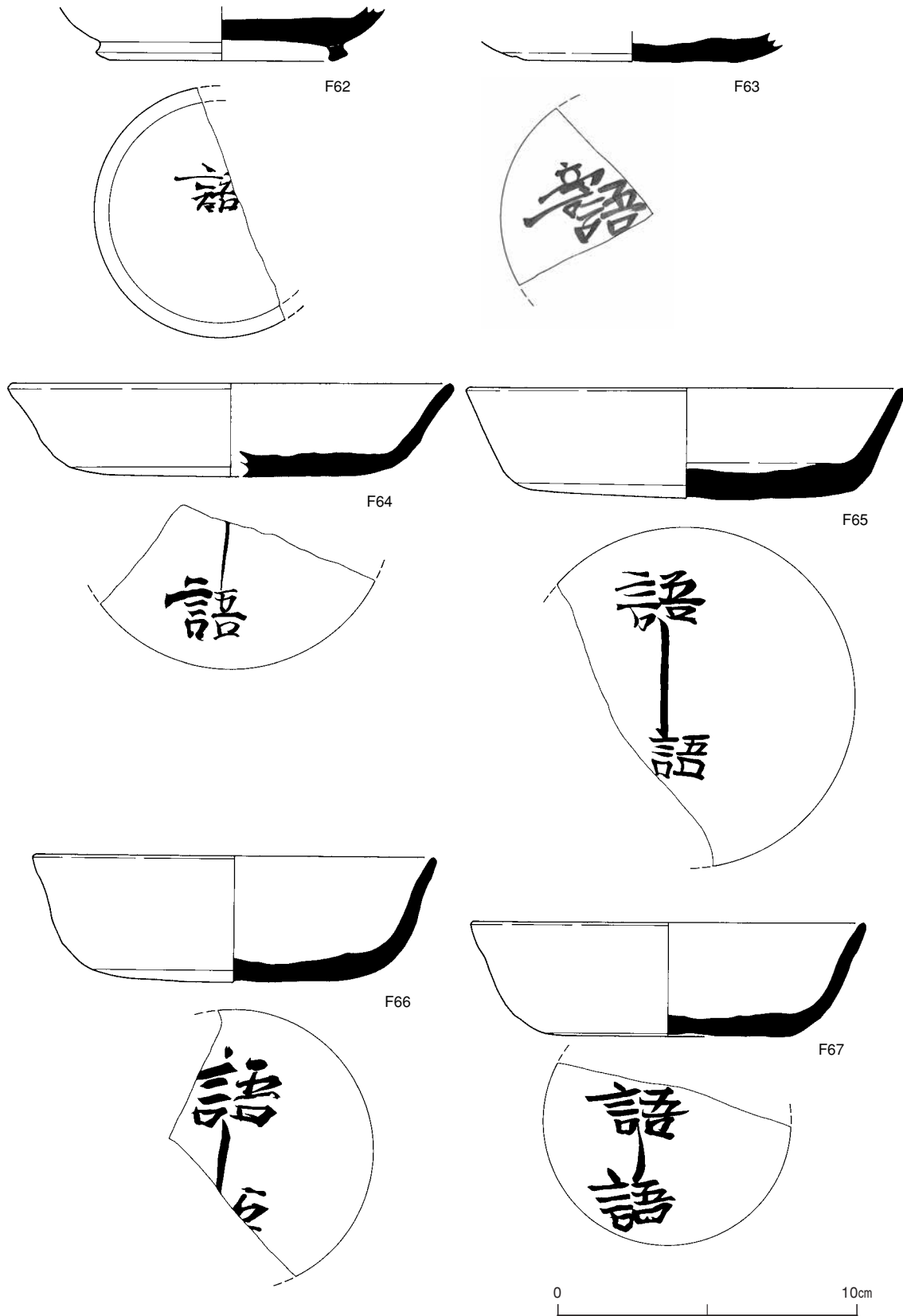
F60



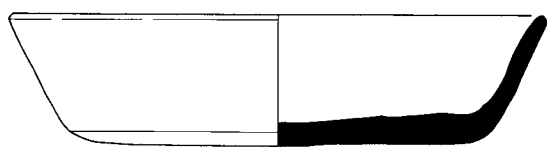
F61



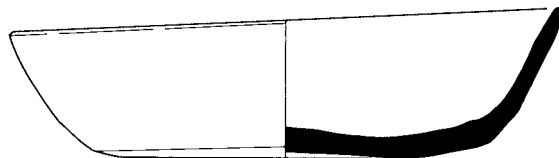
第127図 古代遺物実測図42 (1/2)



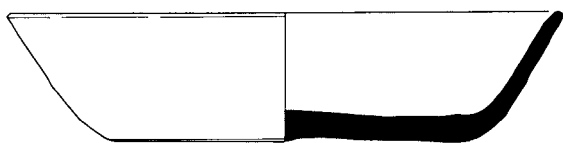
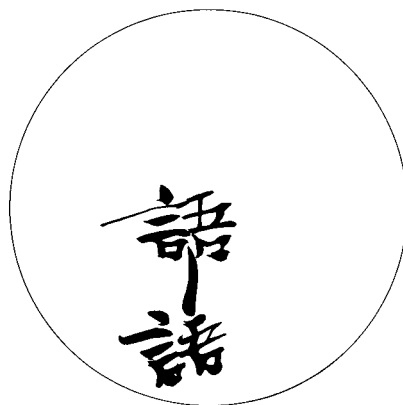
第128図 古代遺物実測図43 (1/2)



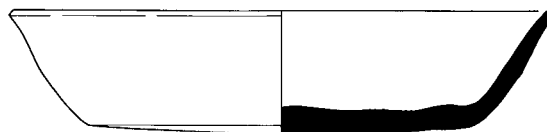
F68



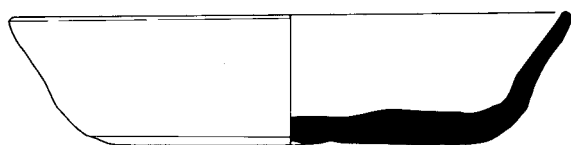
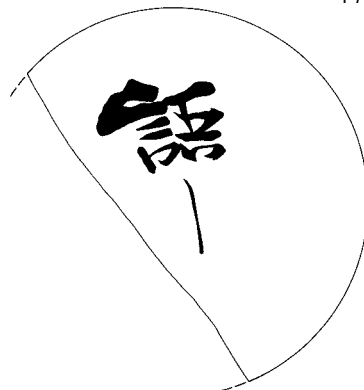
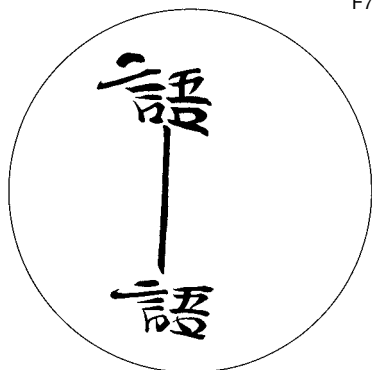
F69



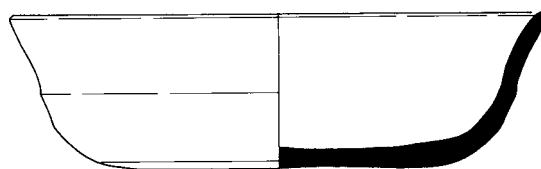
F70



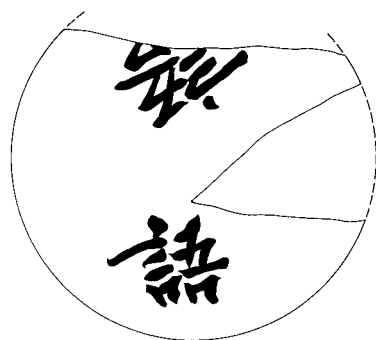
F71



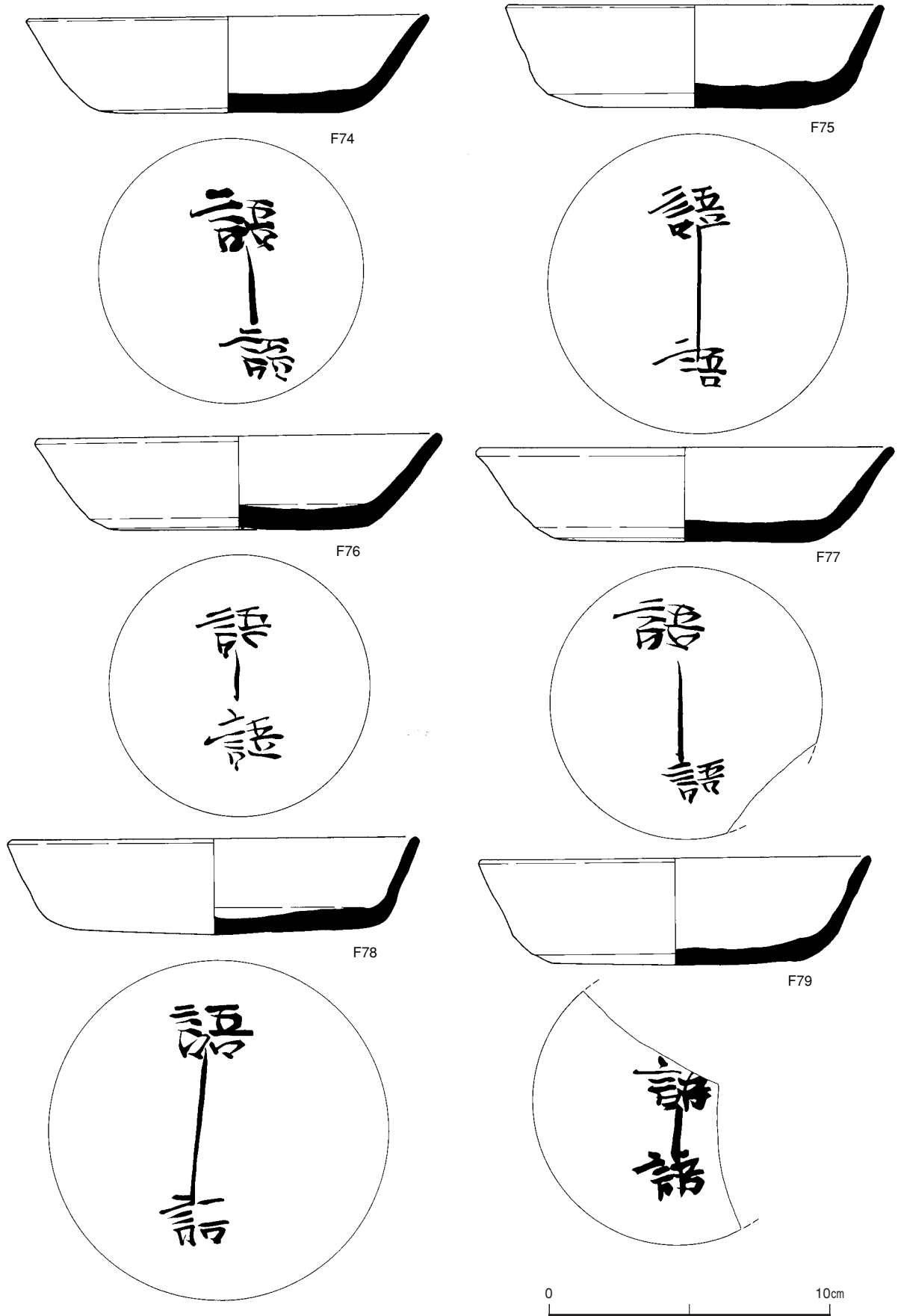
F72



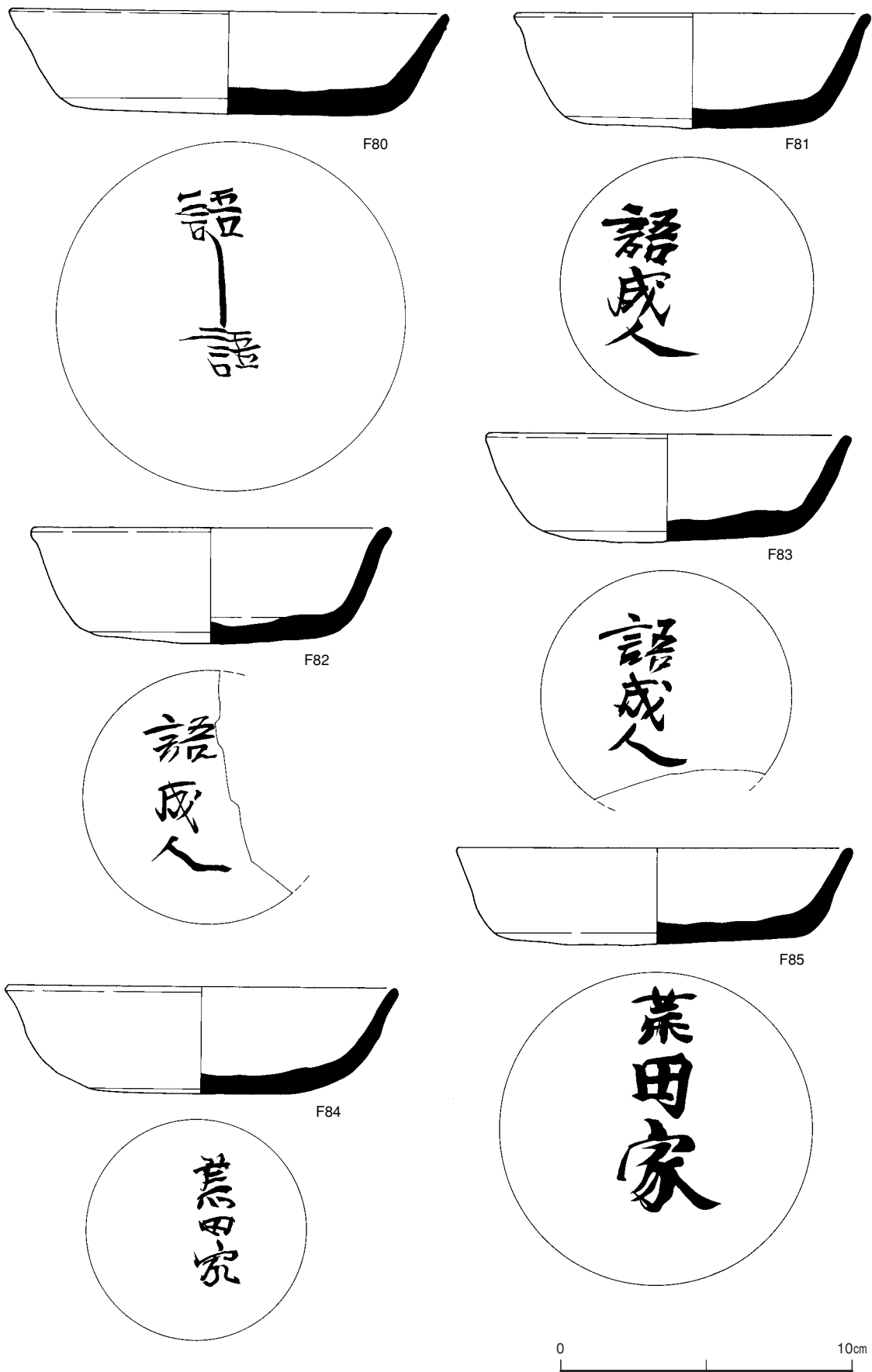
F73



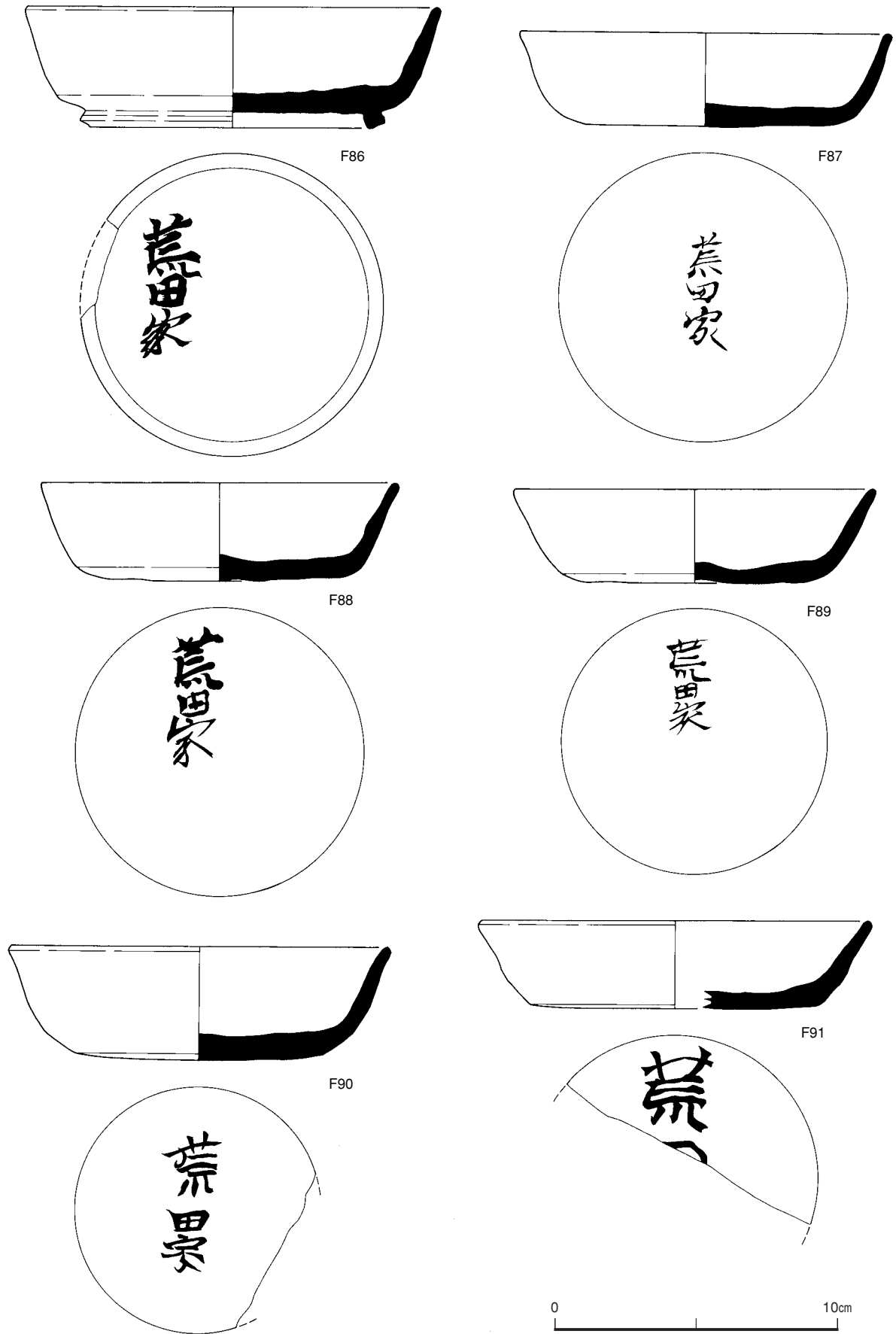
第129図 古代遺物実測図44 (1/2)



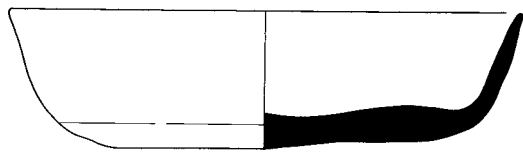
第130図 古代遺物実測図45 (1/2)



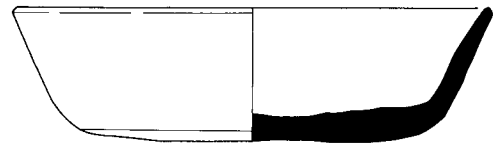
第131図 古代遺物実測図46 (1/2)



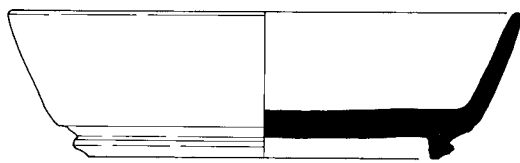
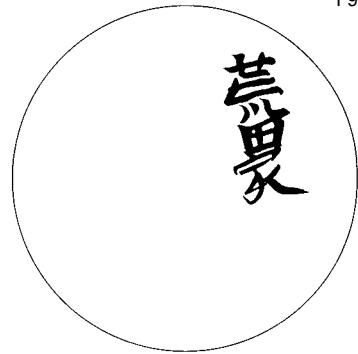
第132図 古代遺物実測図47 (1/2)



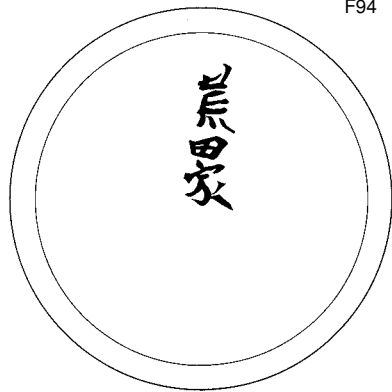
F92



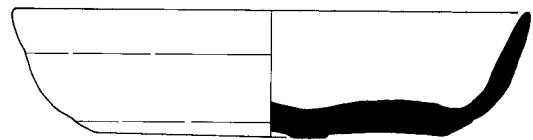
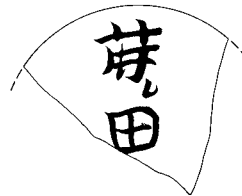
F93



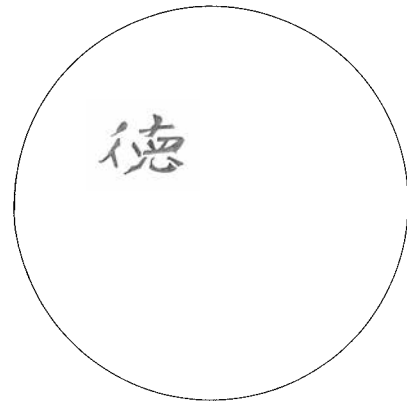
F94



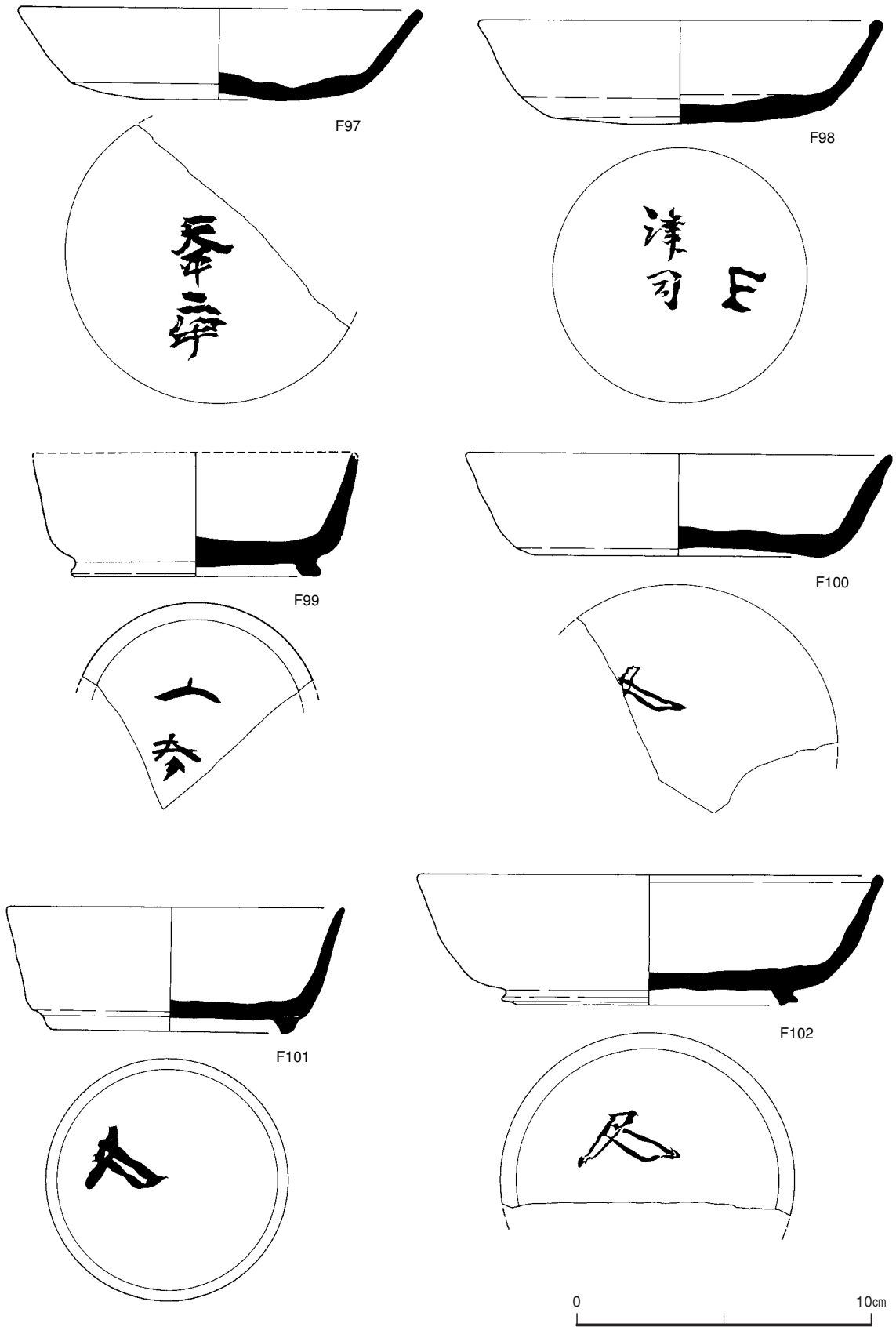
F95



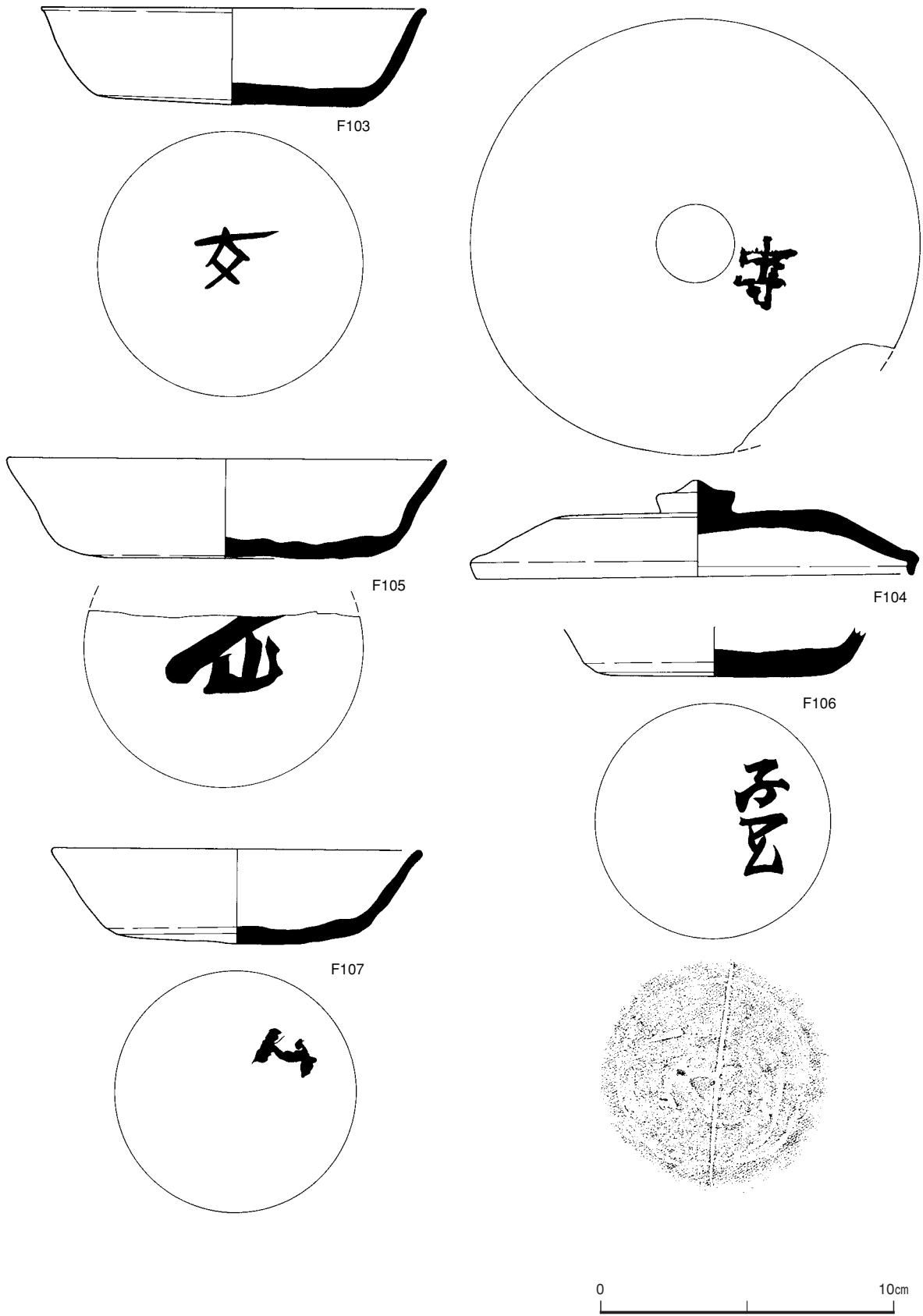
F96



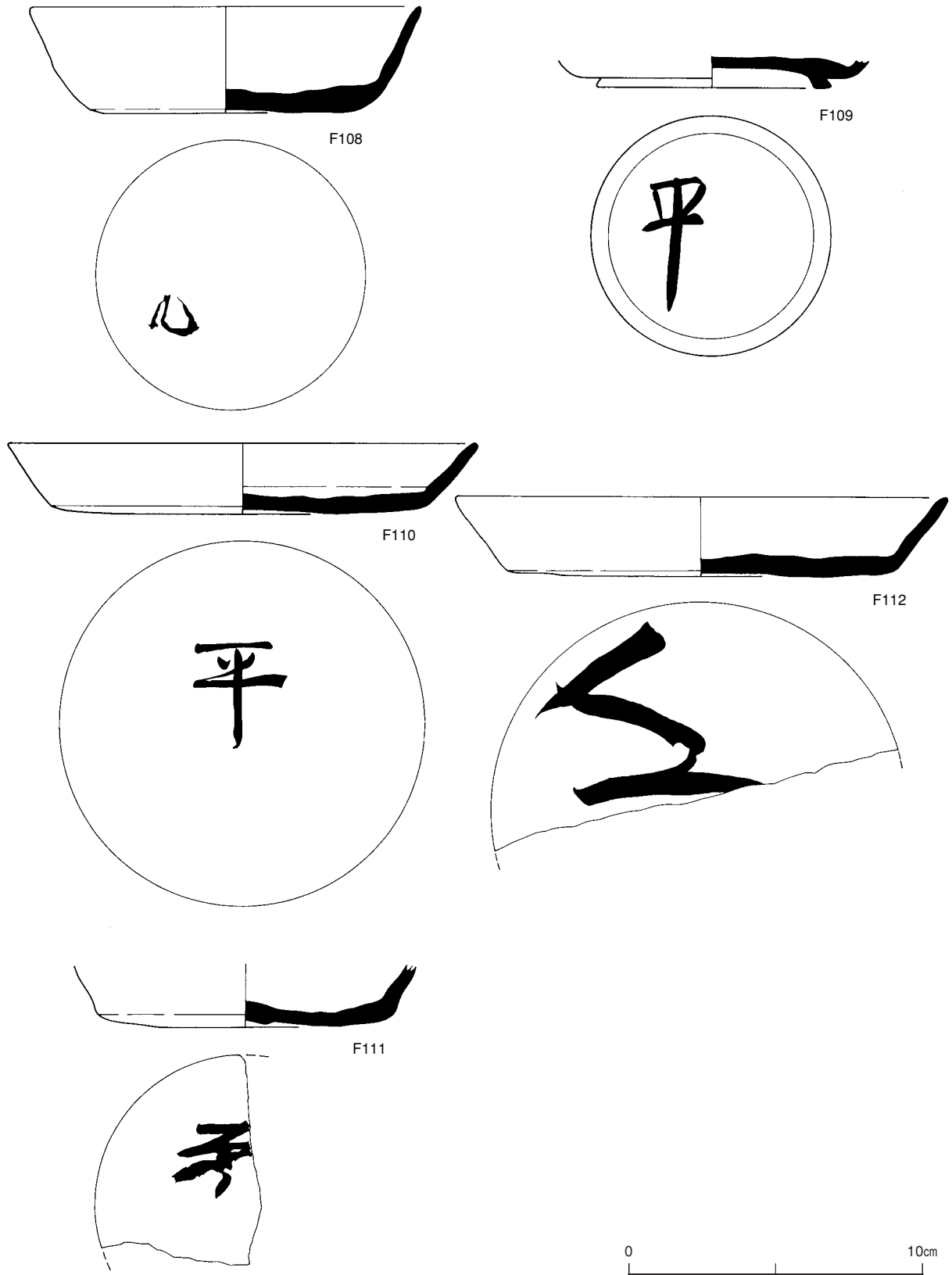
第133図 古代遺物実測図48 (1/2)



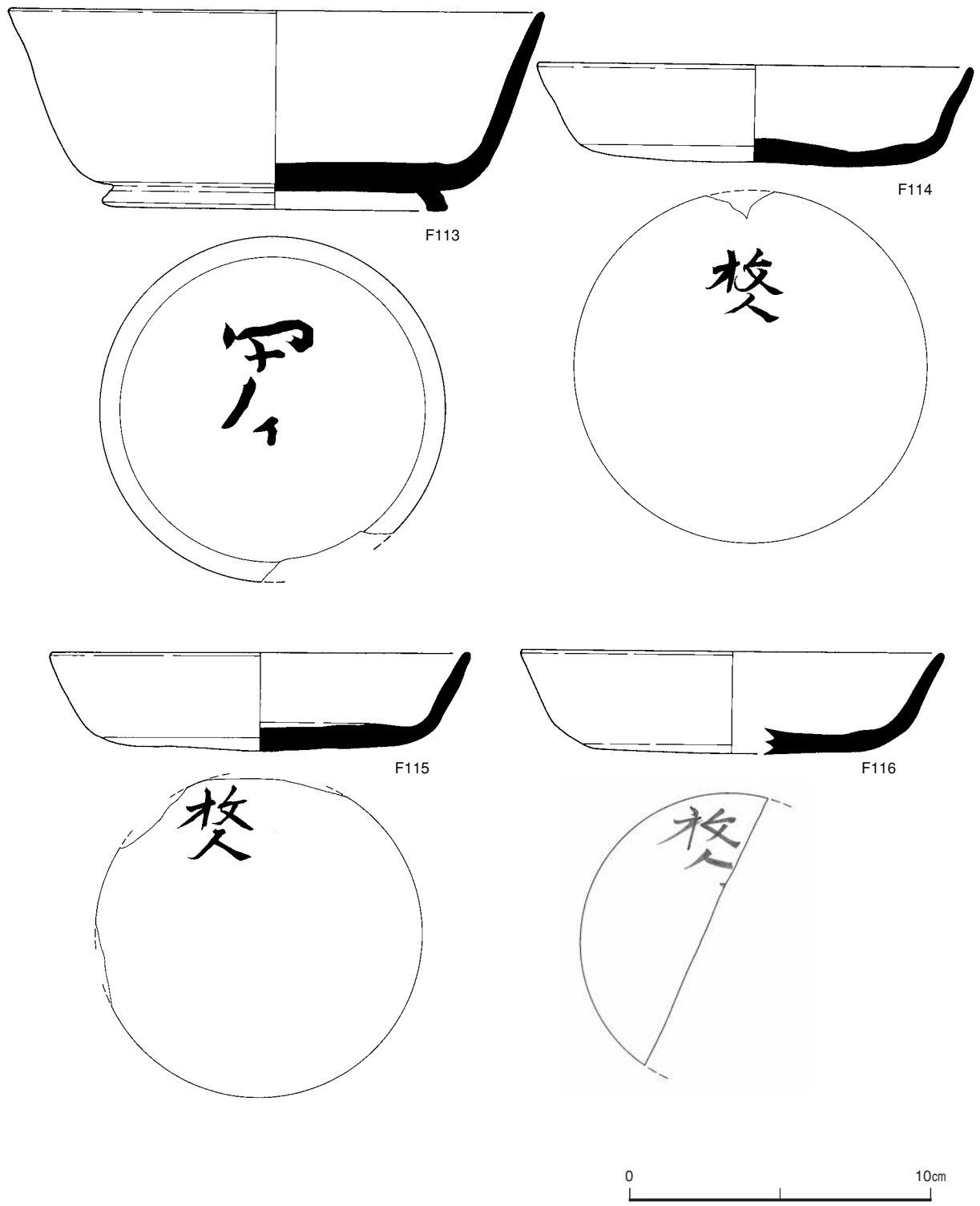
第134図 古代遺物実測図49 (1/2)



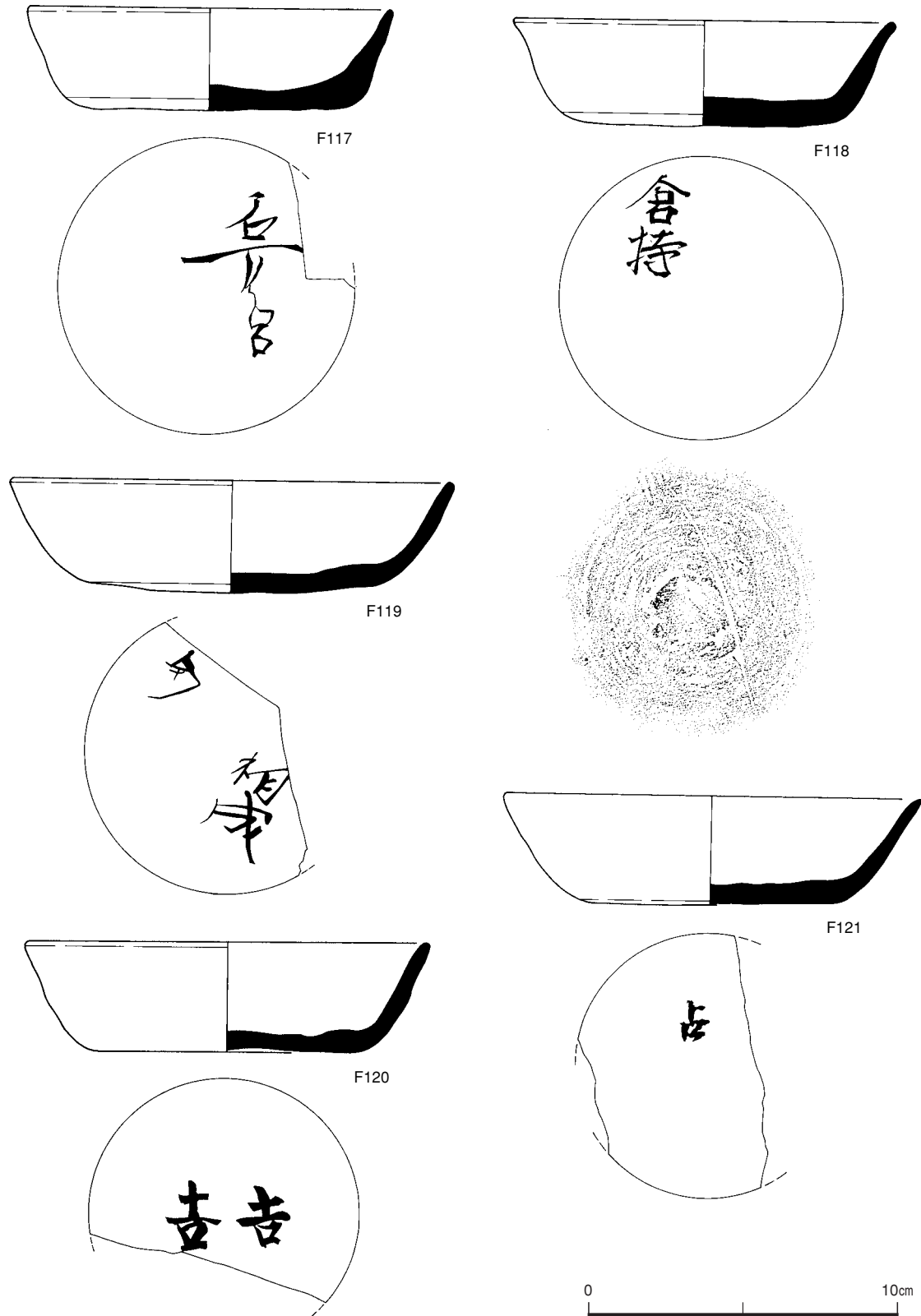
第135図 古代遺物実測図50 (1/2)



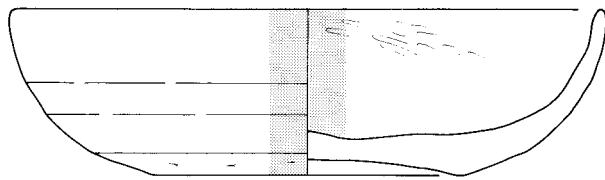
第136図 古代遺物実測図51 (1/2)



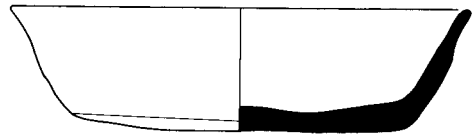
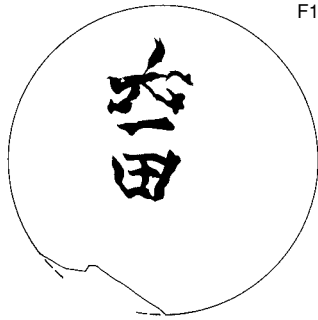
第137図 古代遺物実測図52 (1/2)



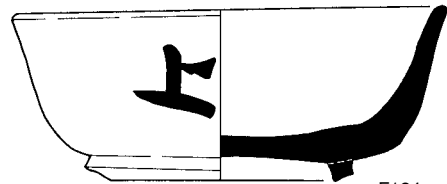
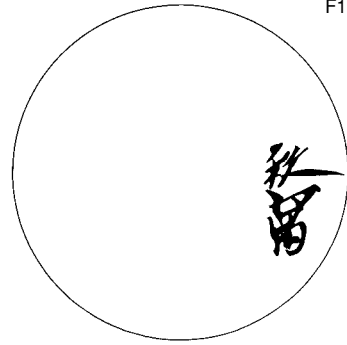
第138図 古代遺物実測図53 (1/2)



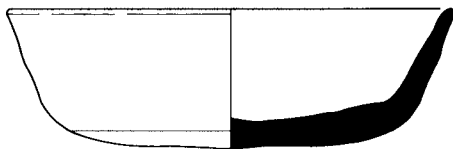
F122



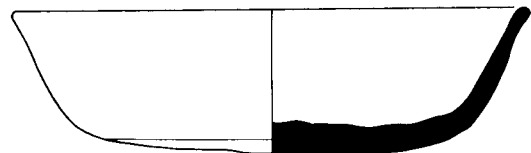
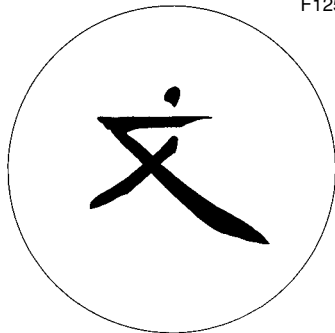
F123



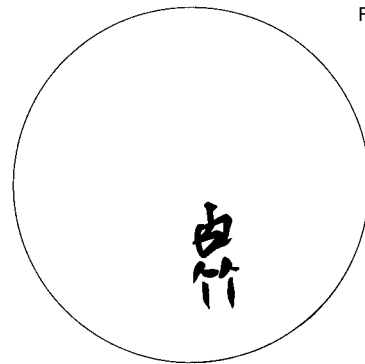
F124



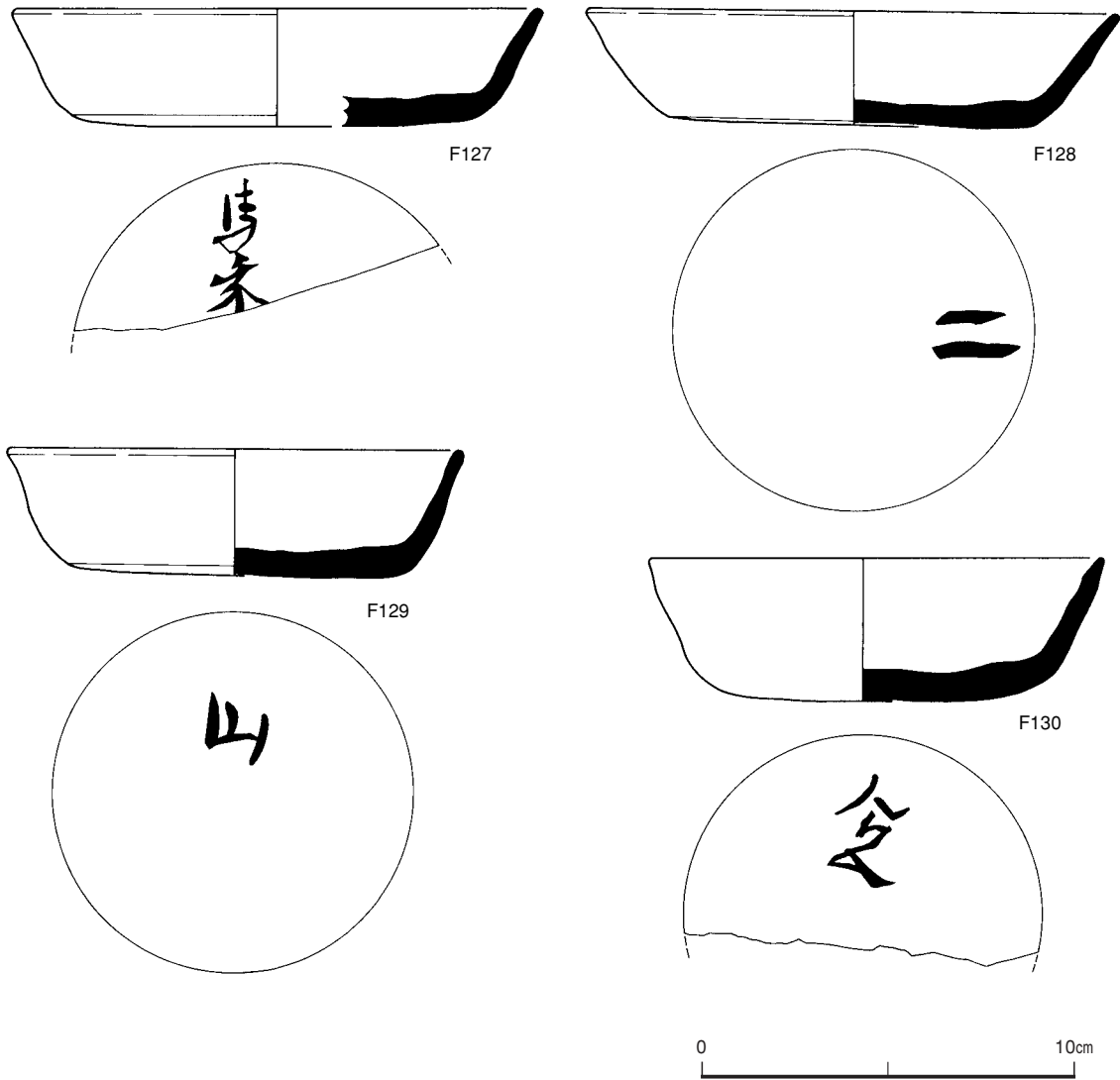
F125



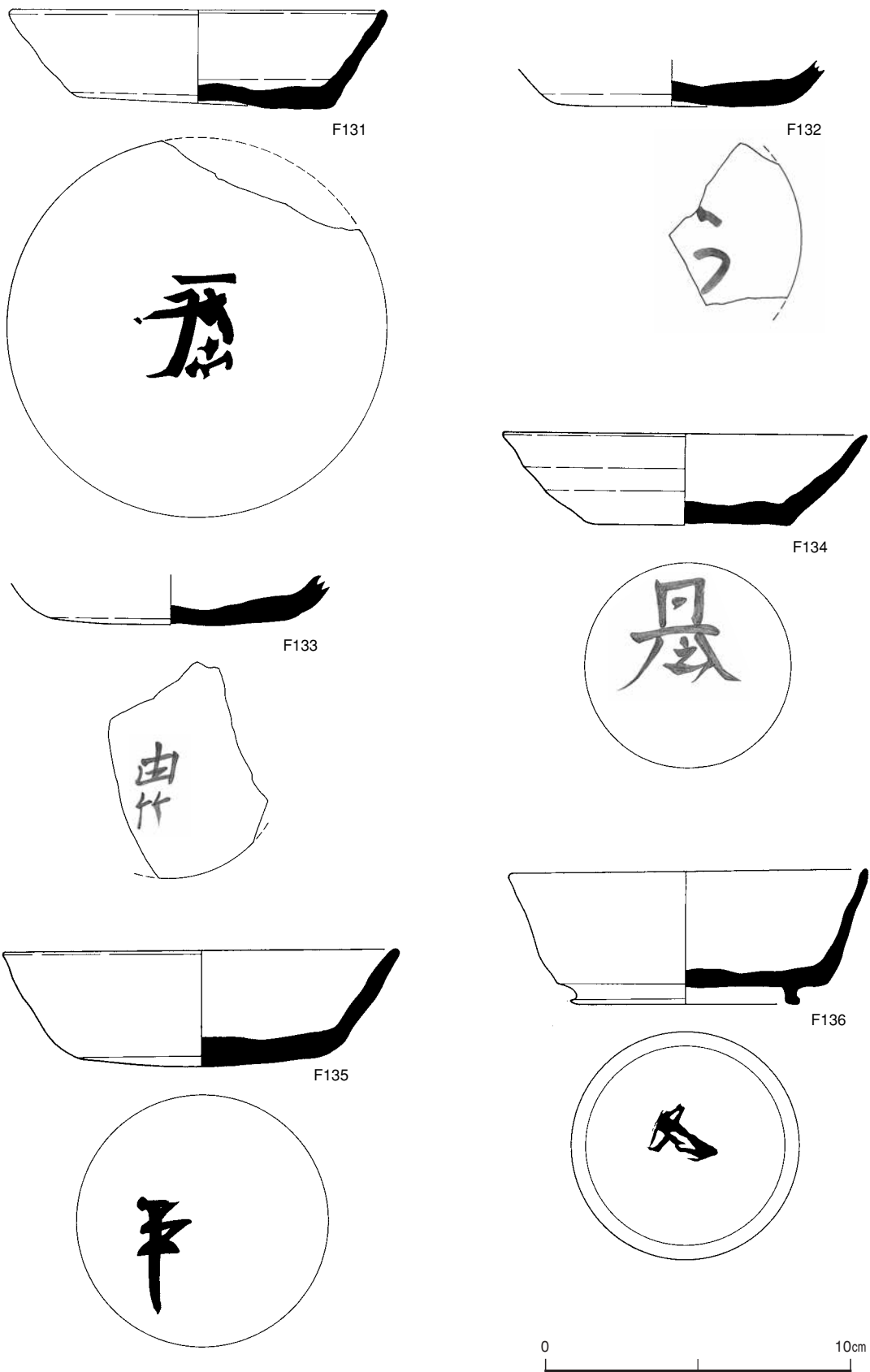
F126



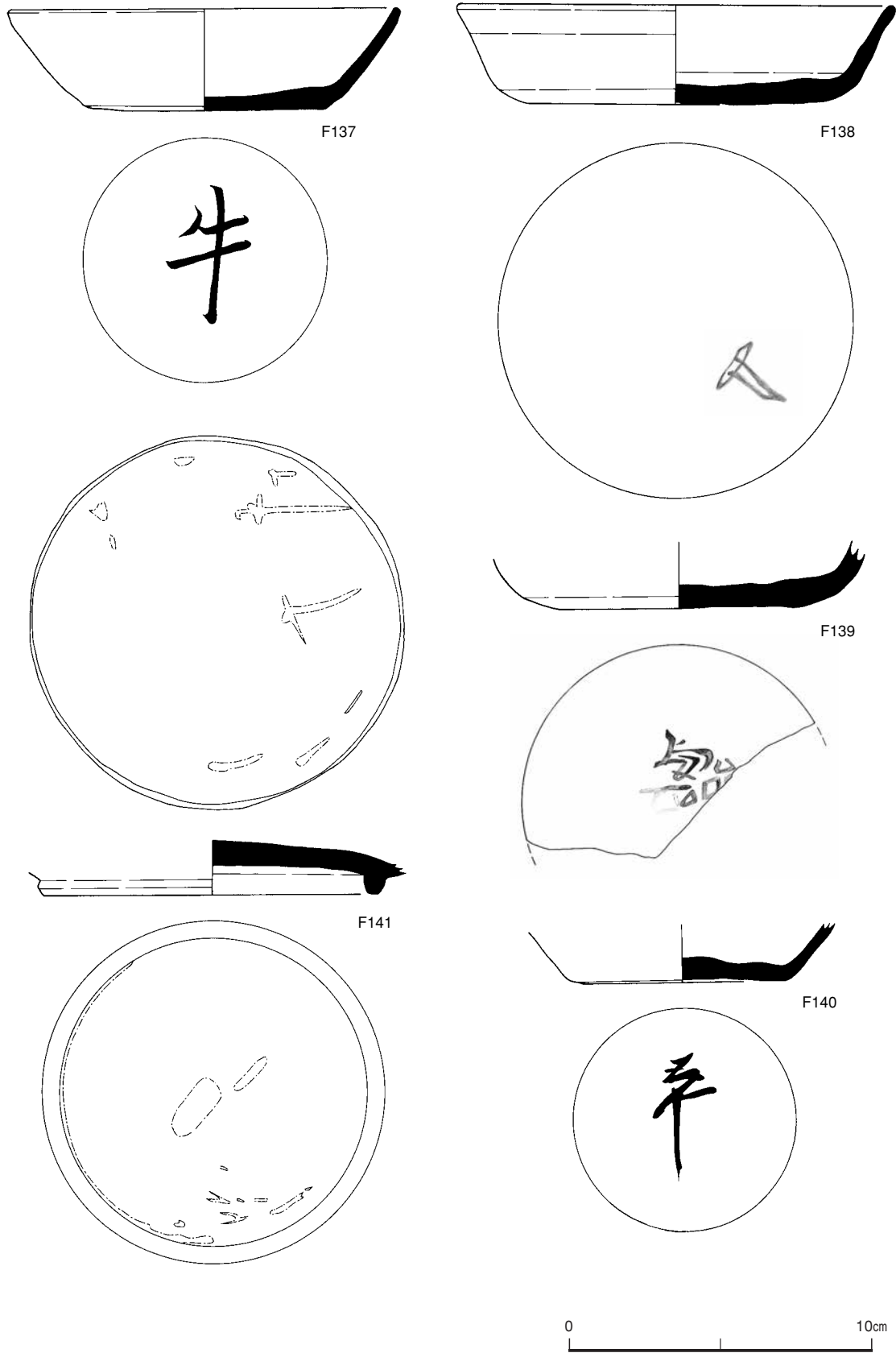
第139図 古代遺物実測図54 (1/2)



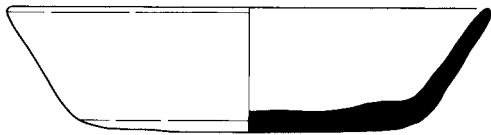
第140図 古代遺物実測図55 (1/2)



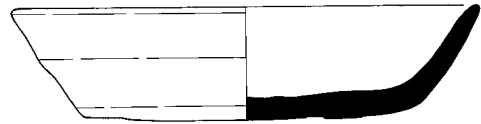
第141图 古代遺物実測図56 (1/2)



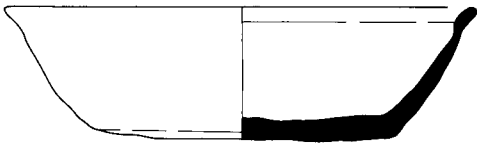
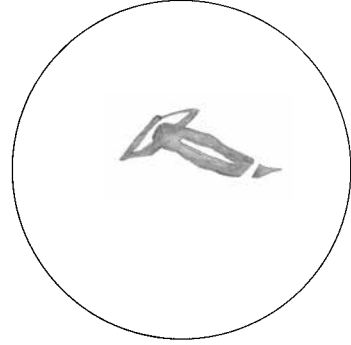
第142図 古代遺物実測図57 (1/2)



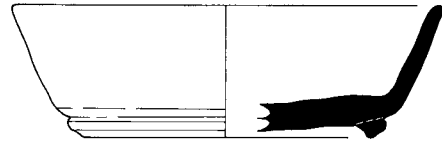
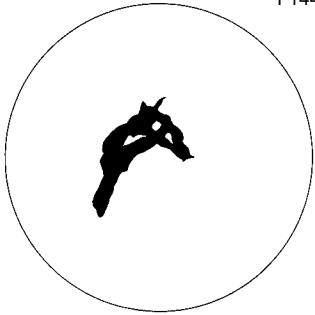
F142



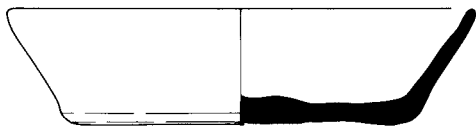
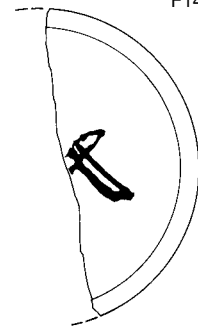
F143



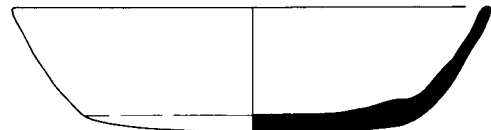
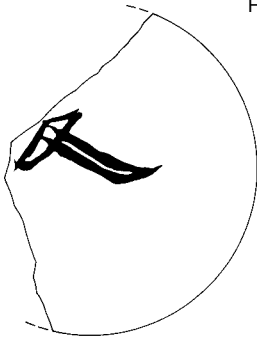
F144



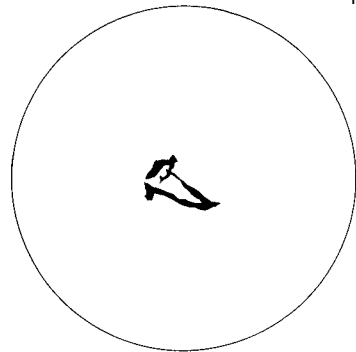
F145



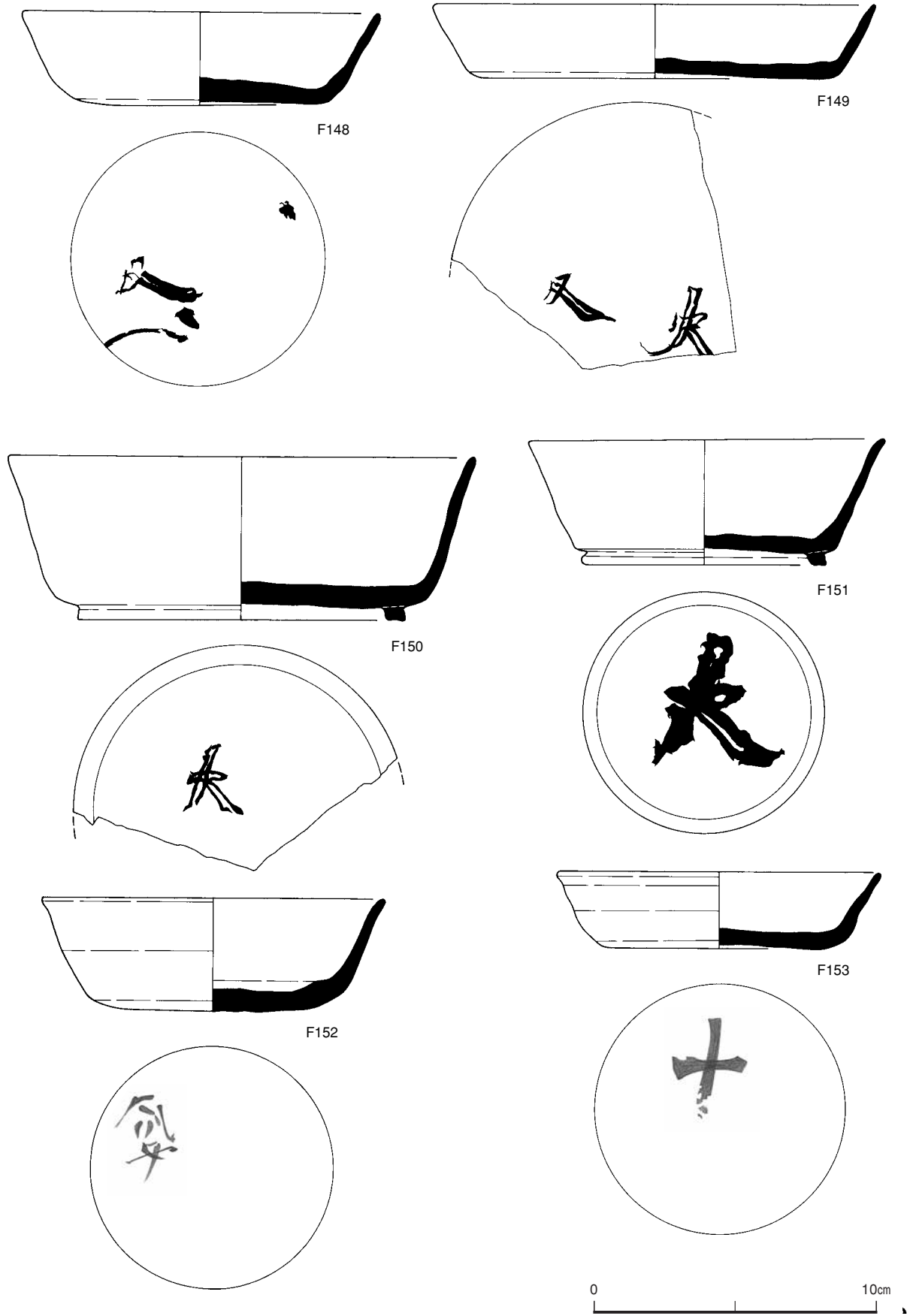
F146



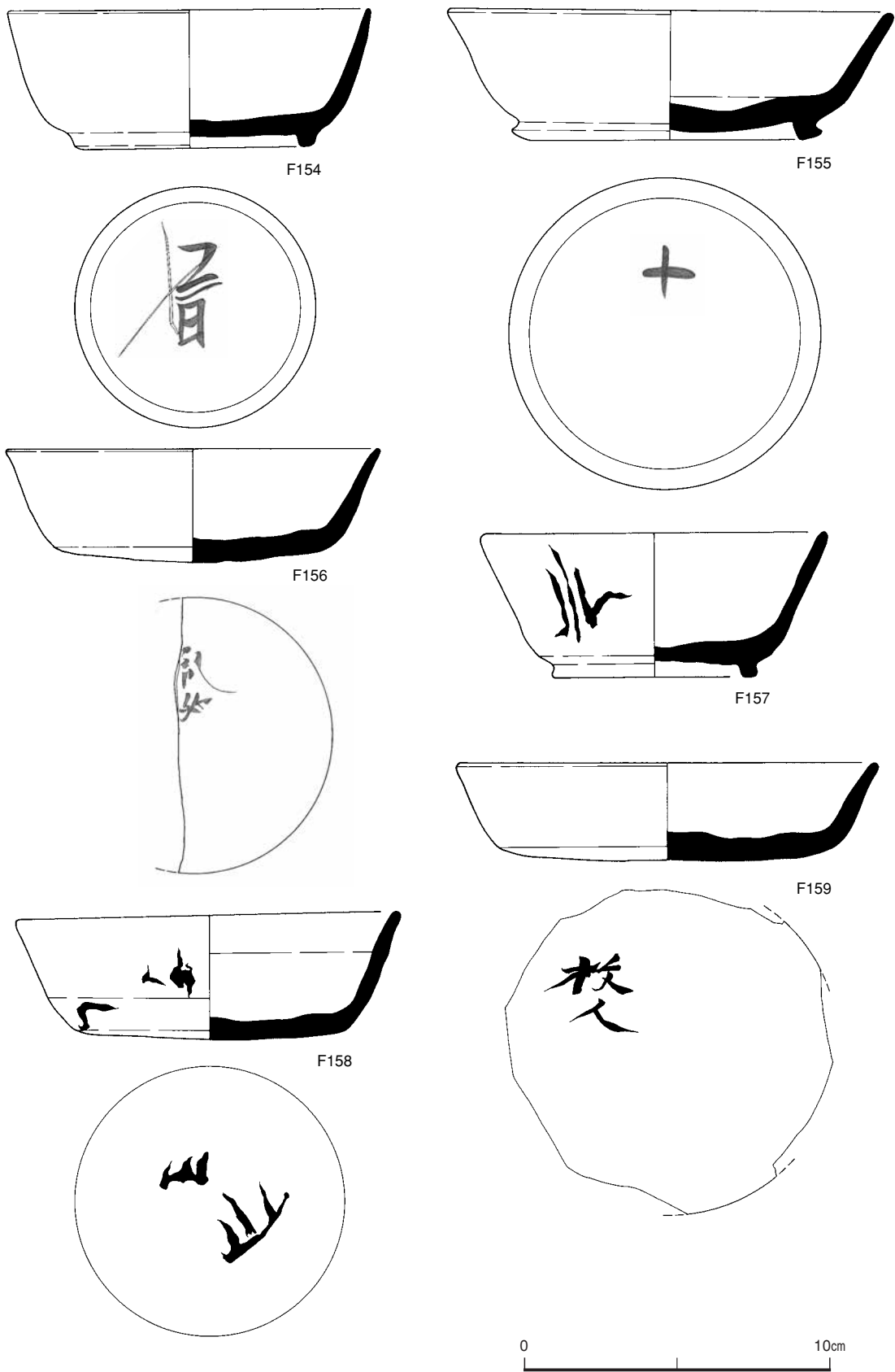
F147



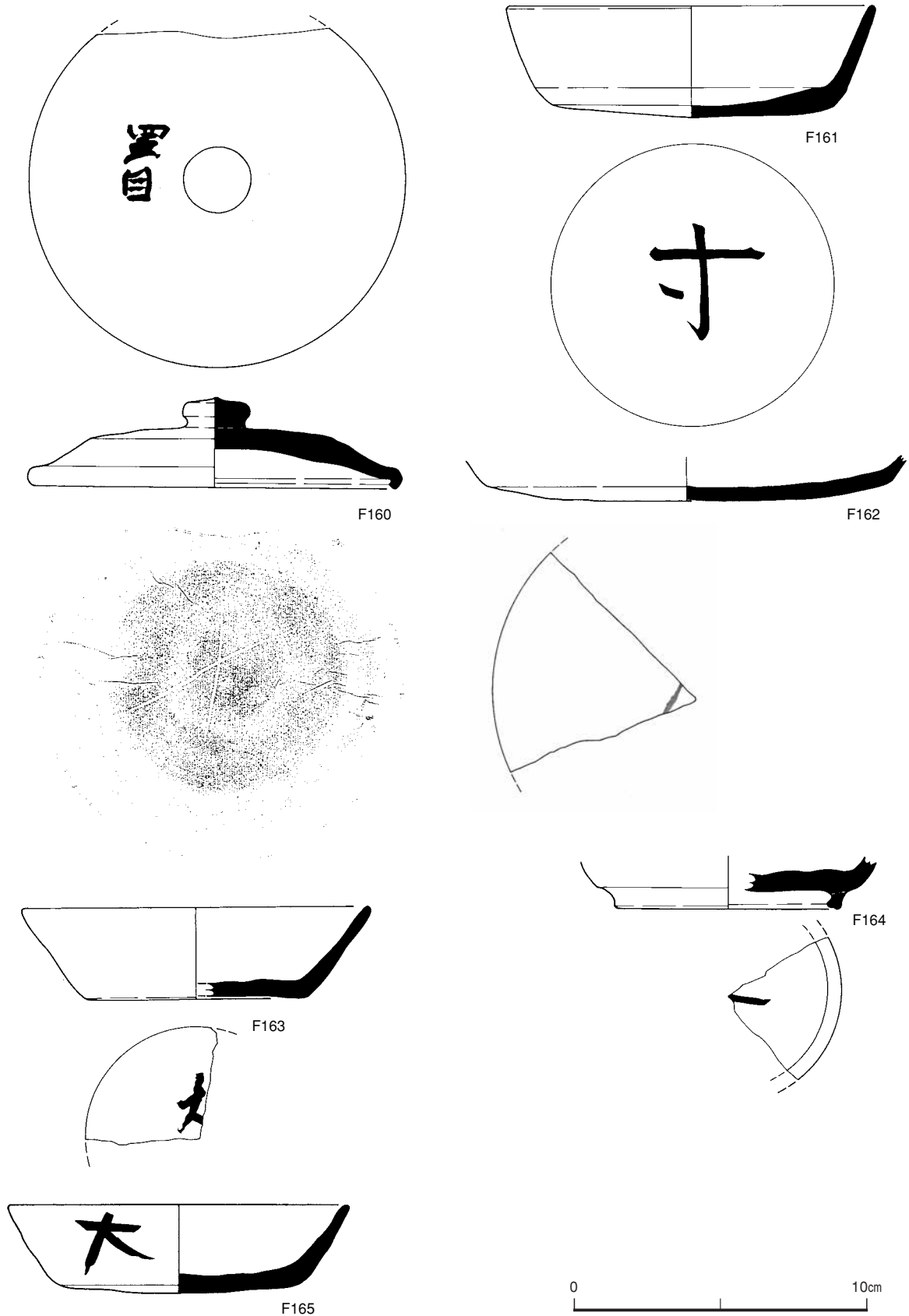
第143図 古代遺物実測図58 (1/2)



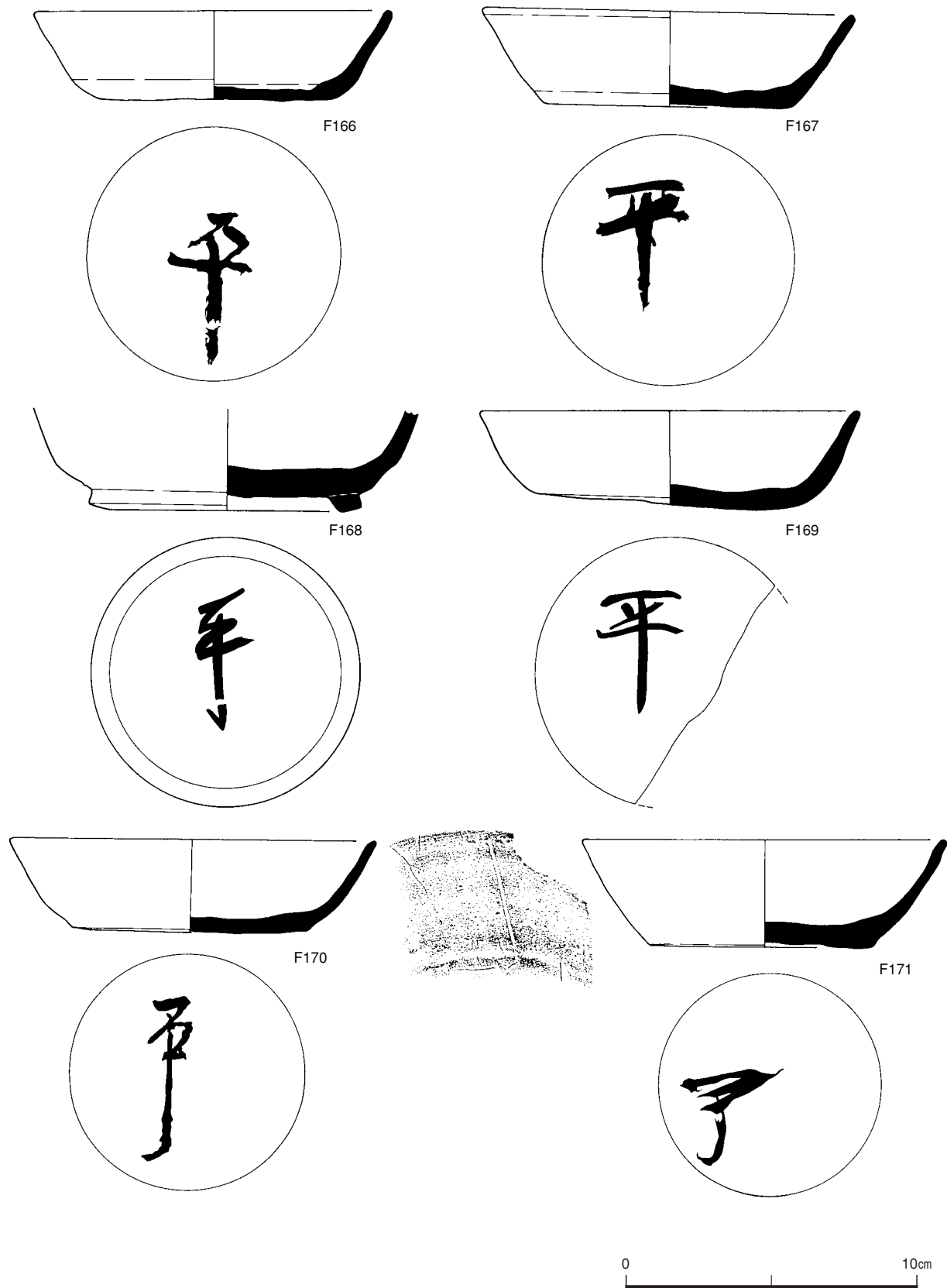
第144図 古代遺物実測図59 (1/2)



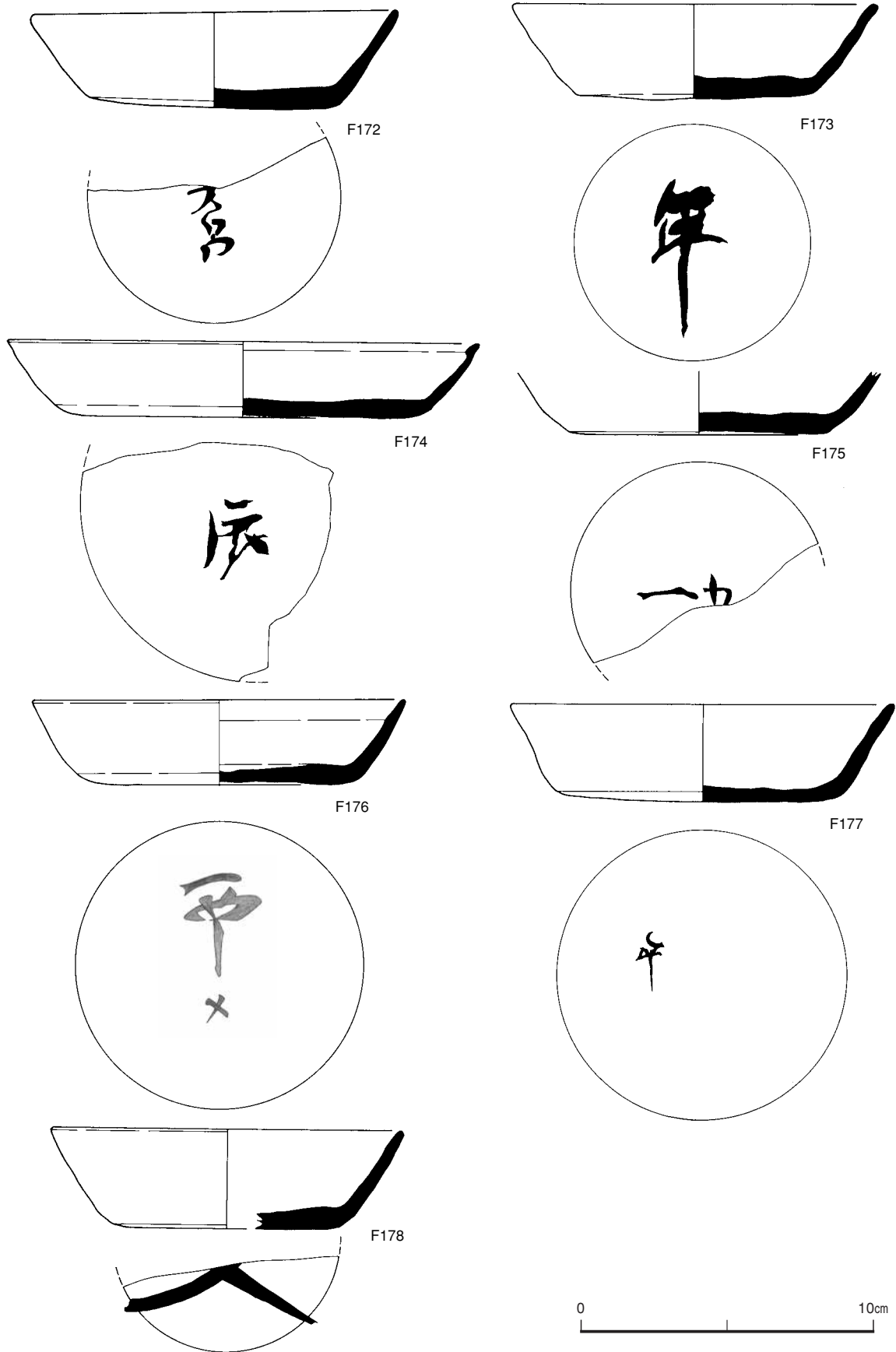
第145図 古代遺物実測図60 (1/2)



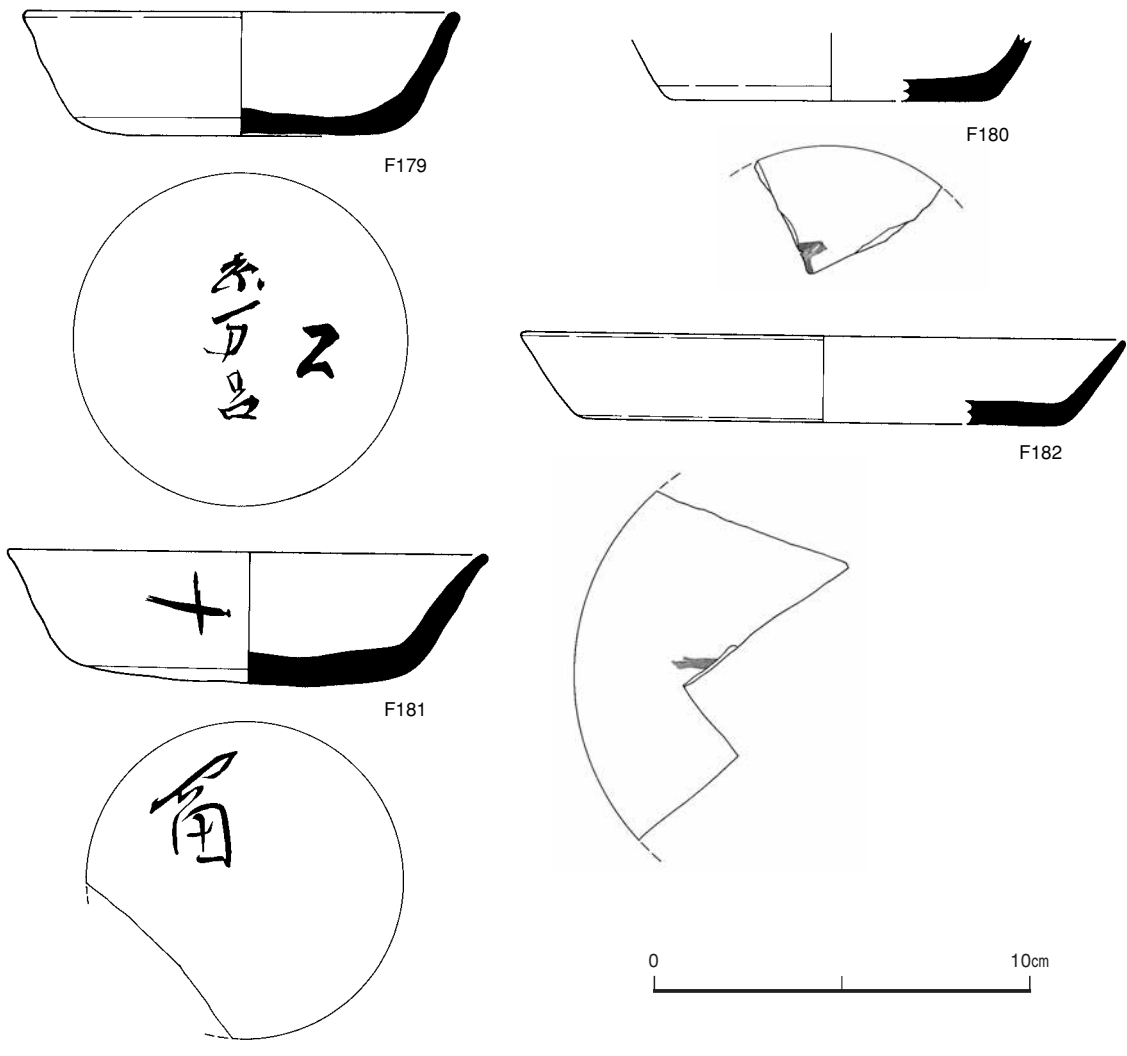
第146図 古代遺物実測図61 (1/2)



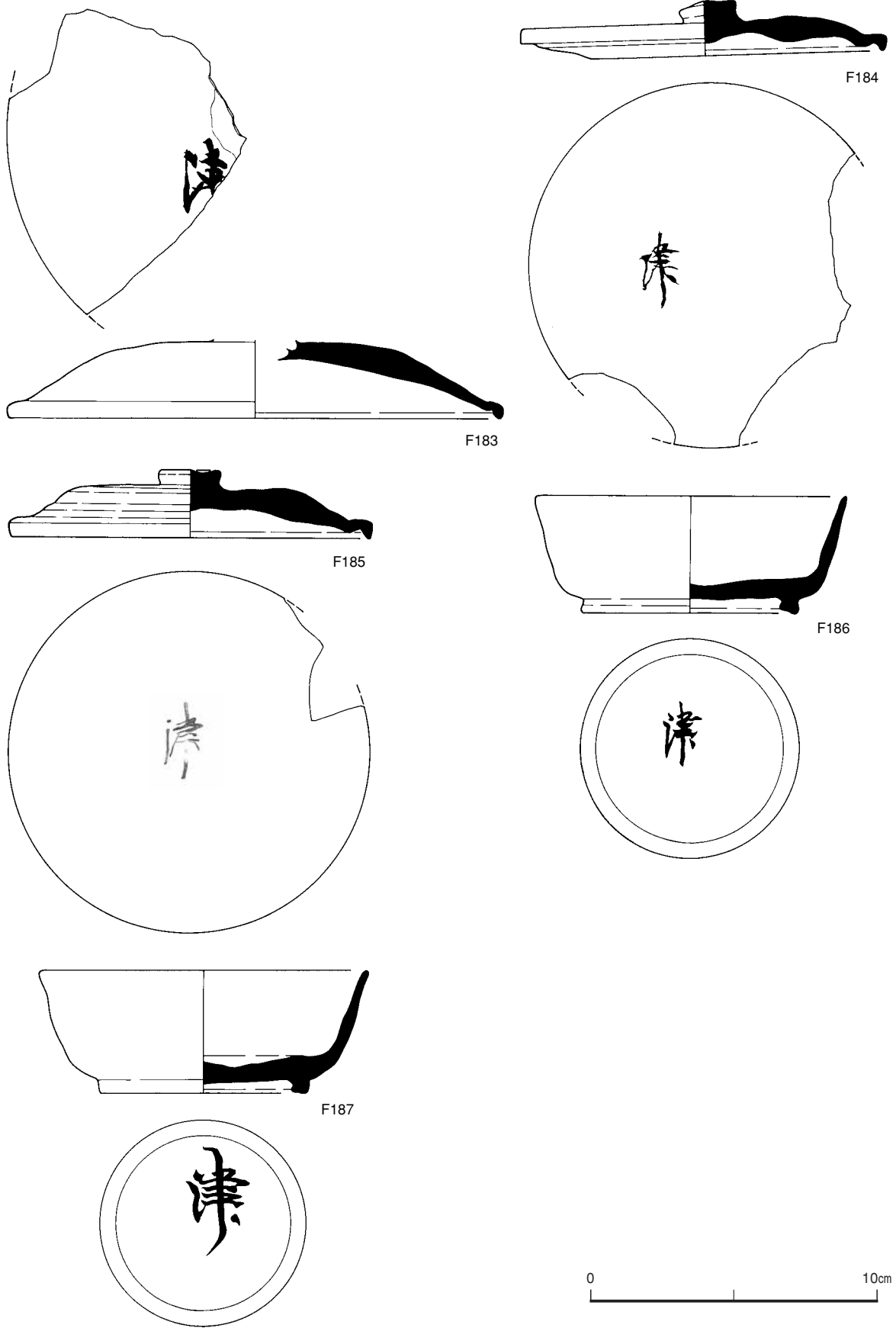
第147图 古代遺物実測図62 (1/2)



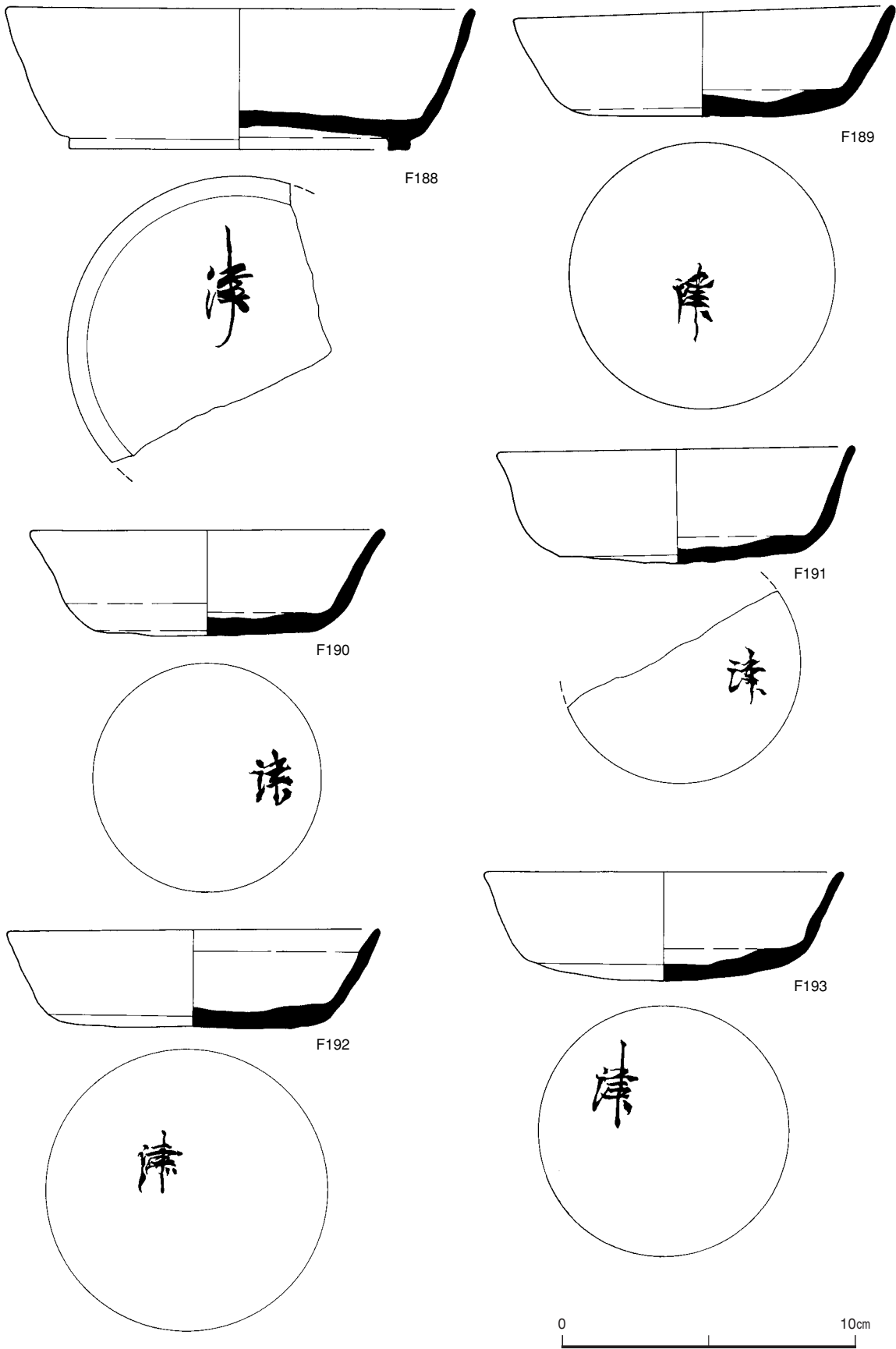
第148図 古代遺物実測図63 (1/2)



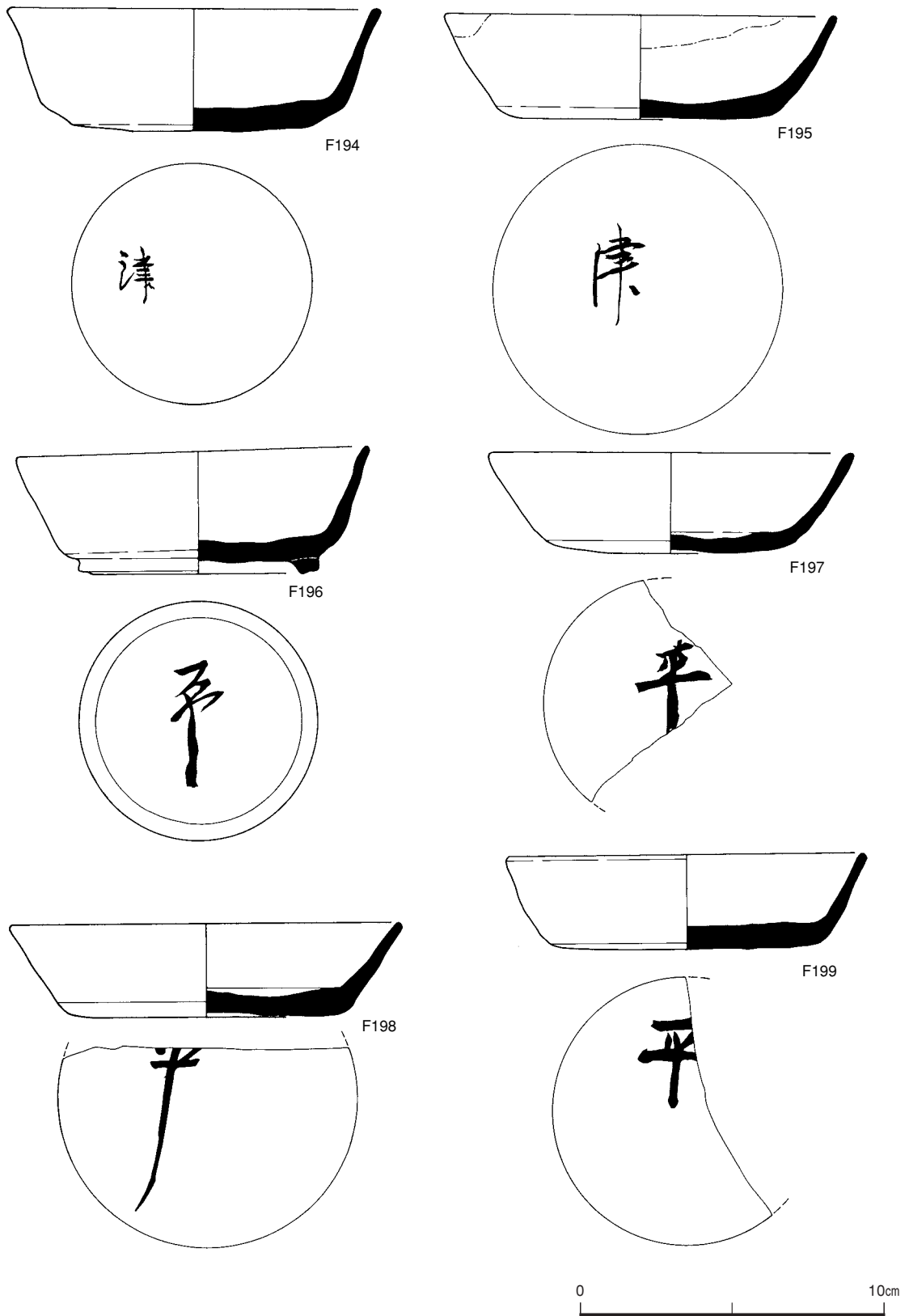
第149図 古代遺物実測図64 (1/2)



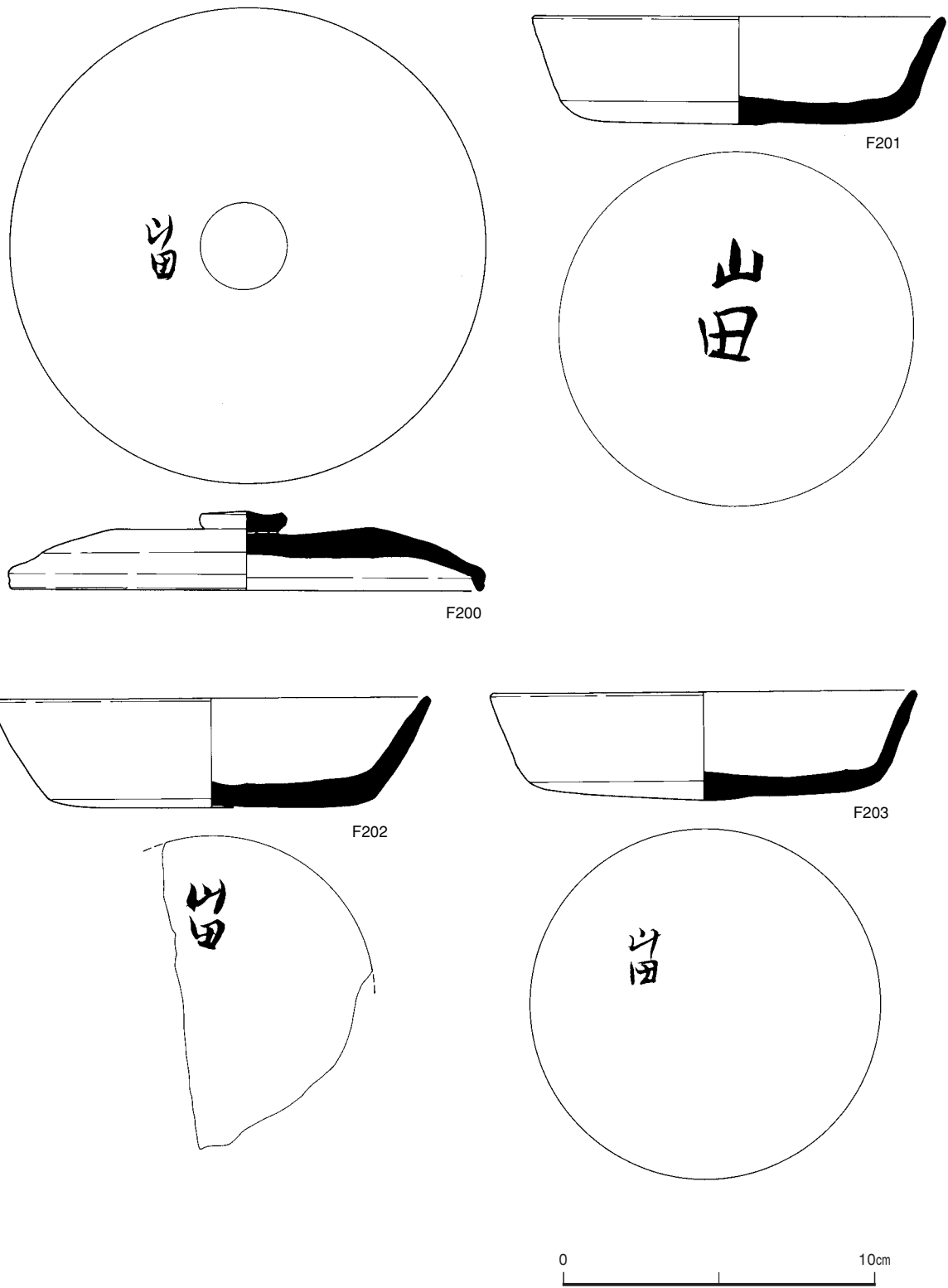
第150図 古代遺物実測図65 (1/2)



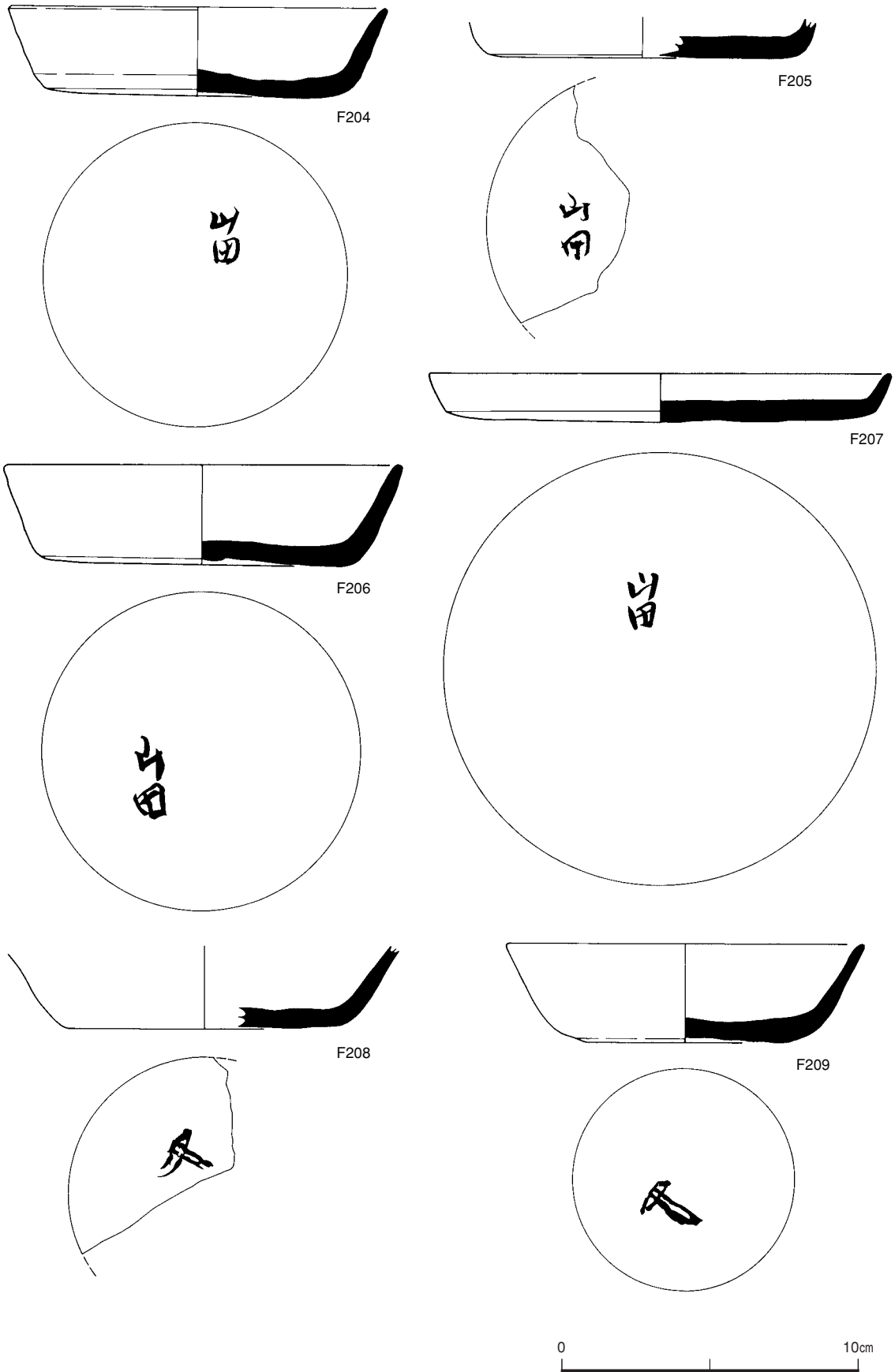
第151図 古代遺物実測図66 (1/2)



第152図 古代遺物実測図67 (1/2)



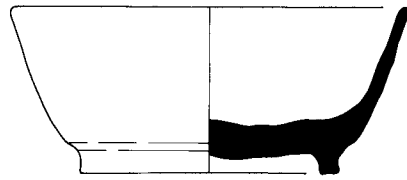
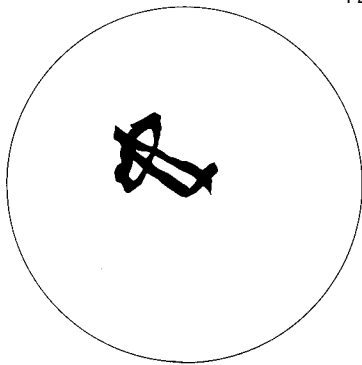
第153図 古代遺物実測図68 (1/2)



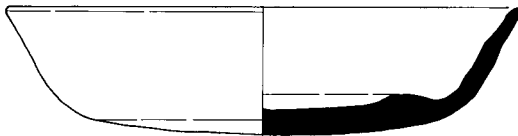
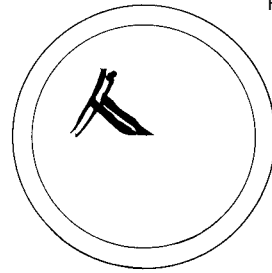
第154図 古代遺物実測図69 (1/2)



F210



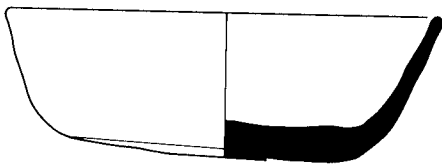
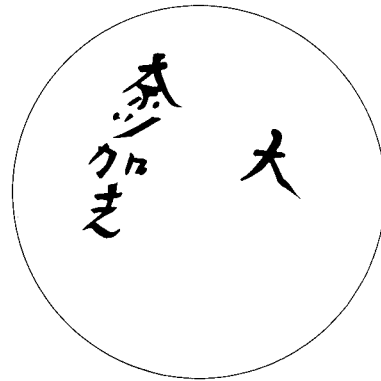
F211



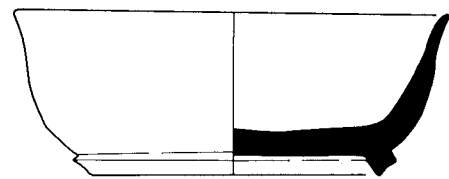
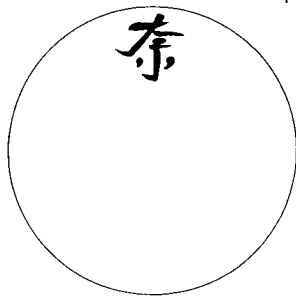
F212



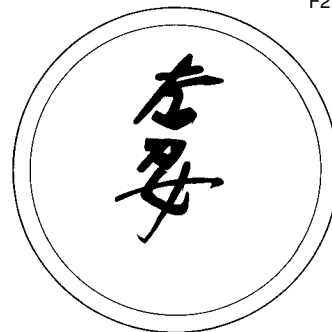
F213



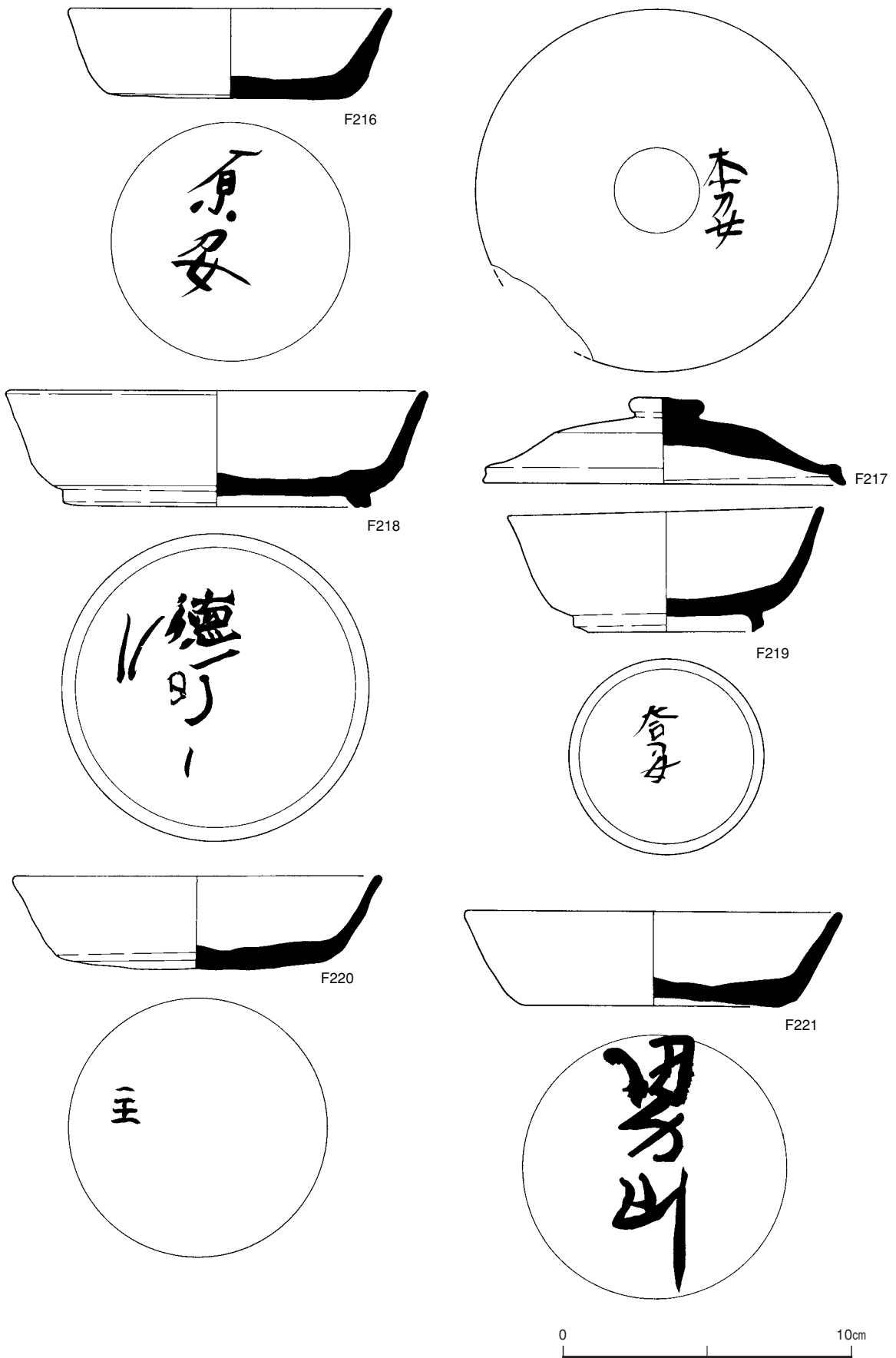
F214



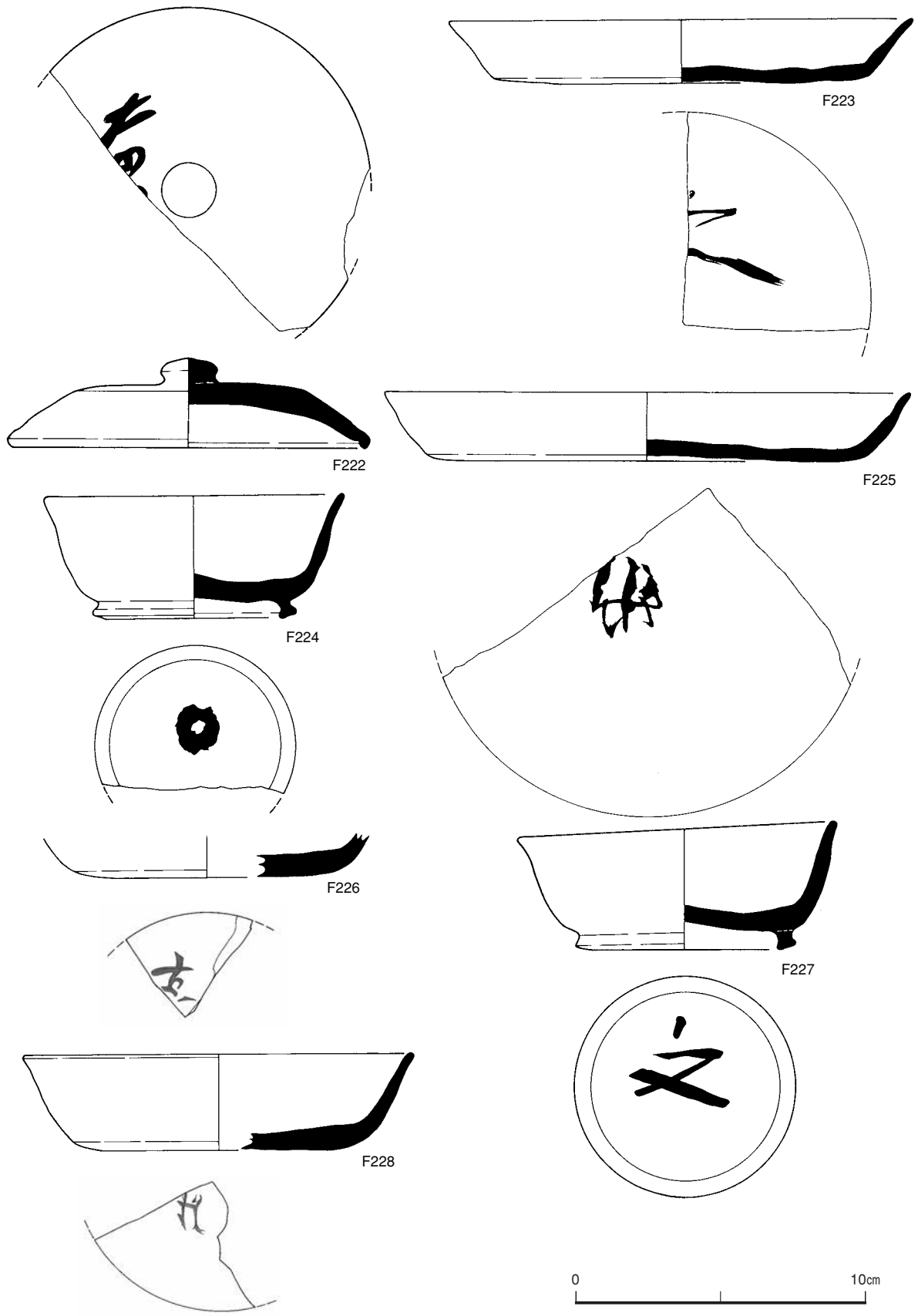
F215



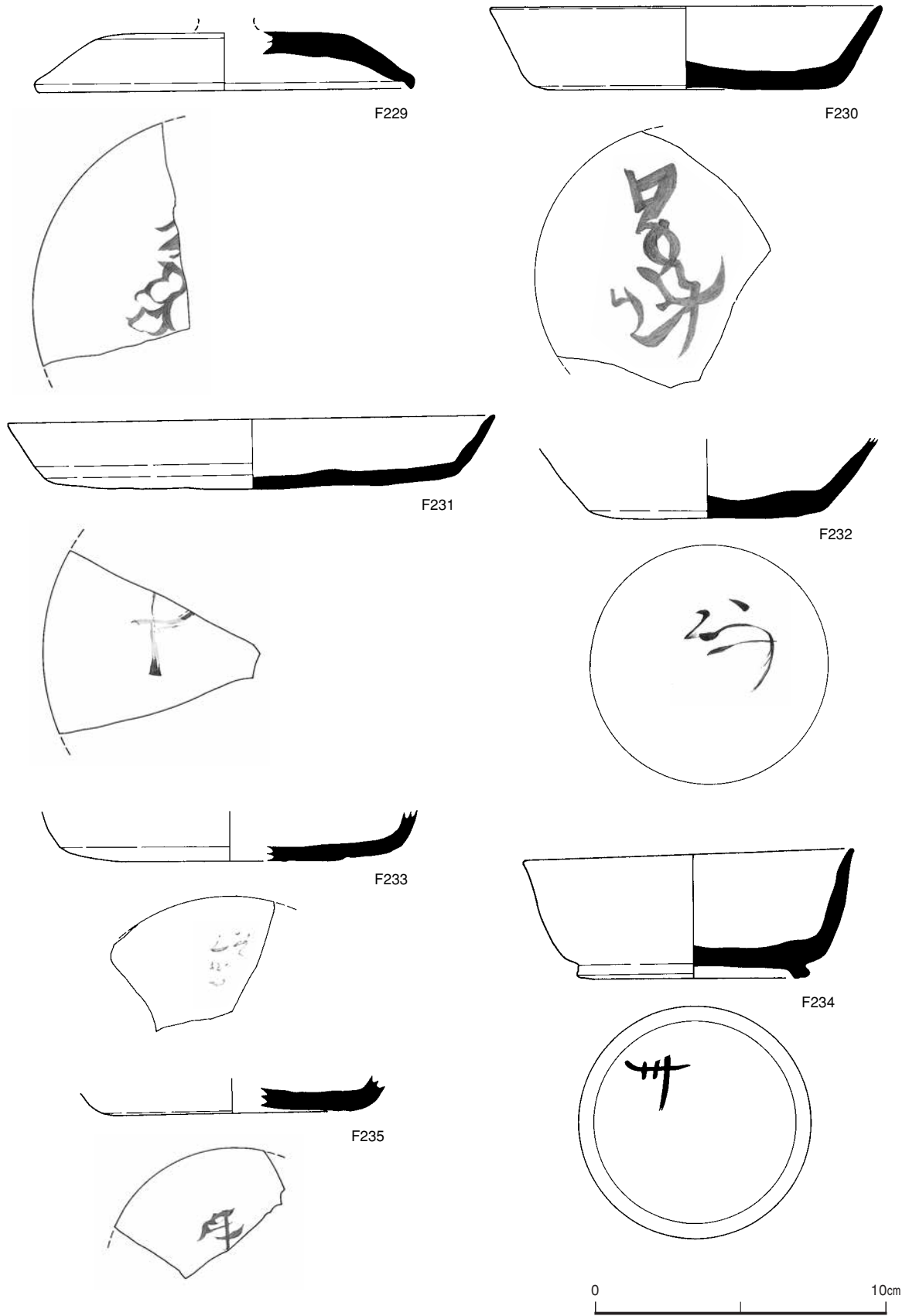
第155図 古代遺物実測図70 (1/2)



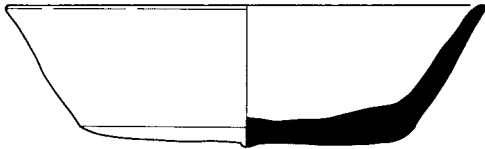
第156図 古代遺物実測図71 (1/2)



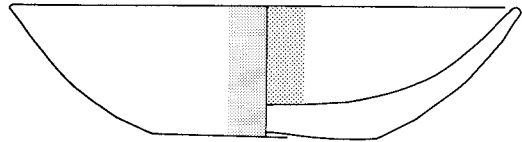
第157図 古代遺物実測図72 (1/2)



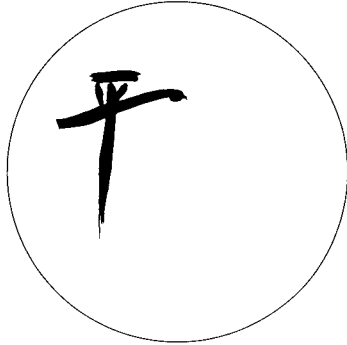
第158図 古代遺物実測図73 (1/2)



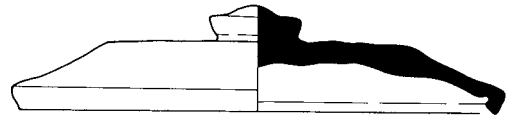
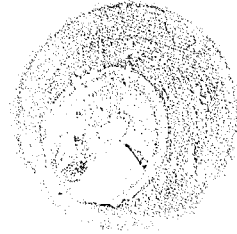
F236



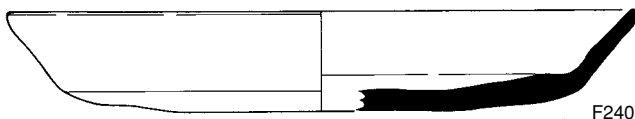
F237



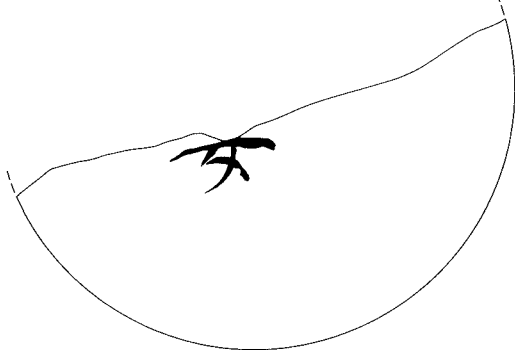
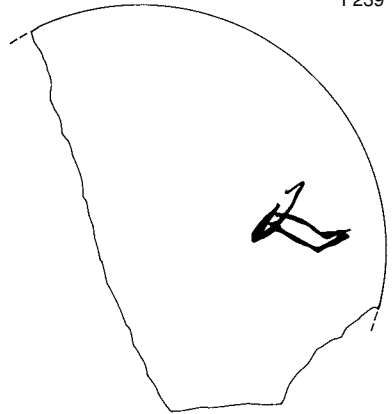
F238



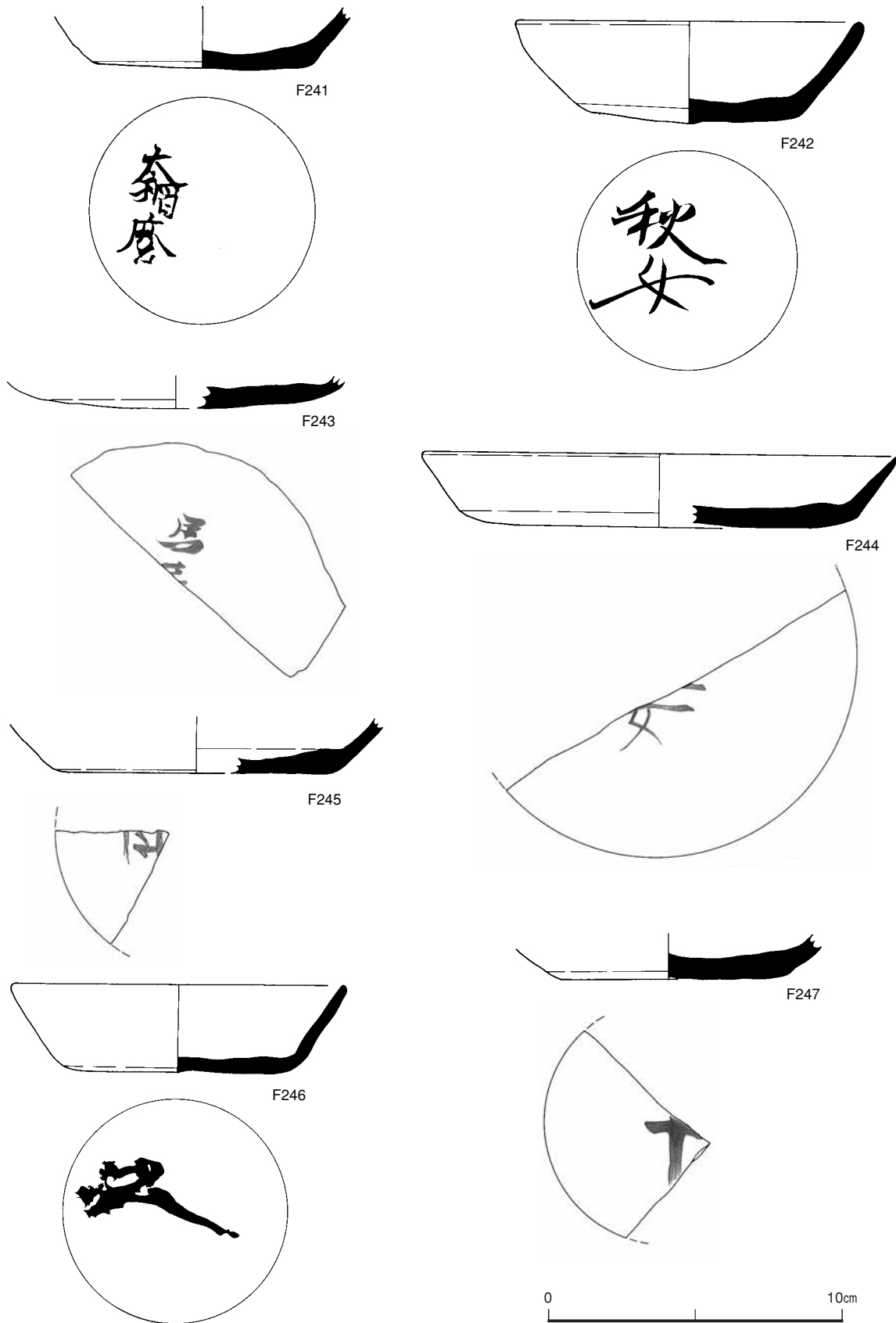
F239



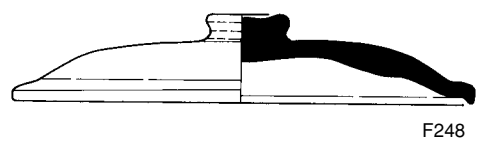
F240



第159図 古代遺物実測図74 (1/2)



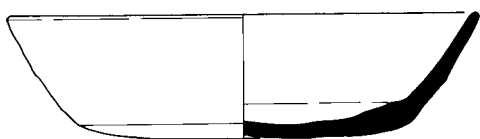
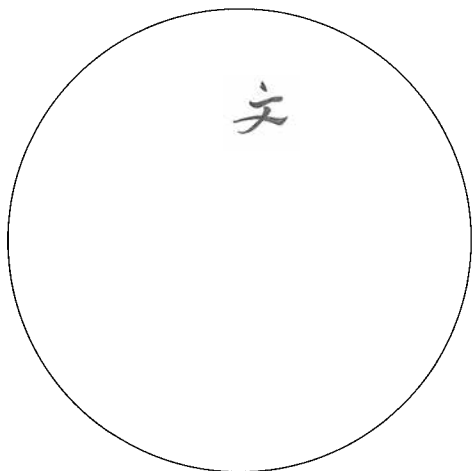
第160図 古代遺物実測図75 (1/2)



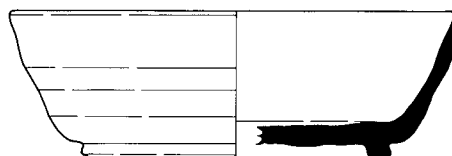
F248



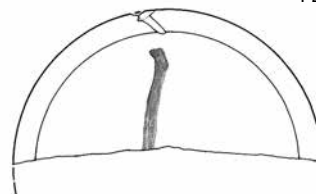
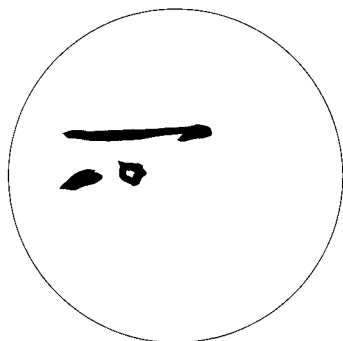
F249



F250



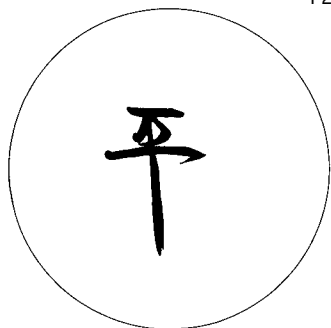
F251



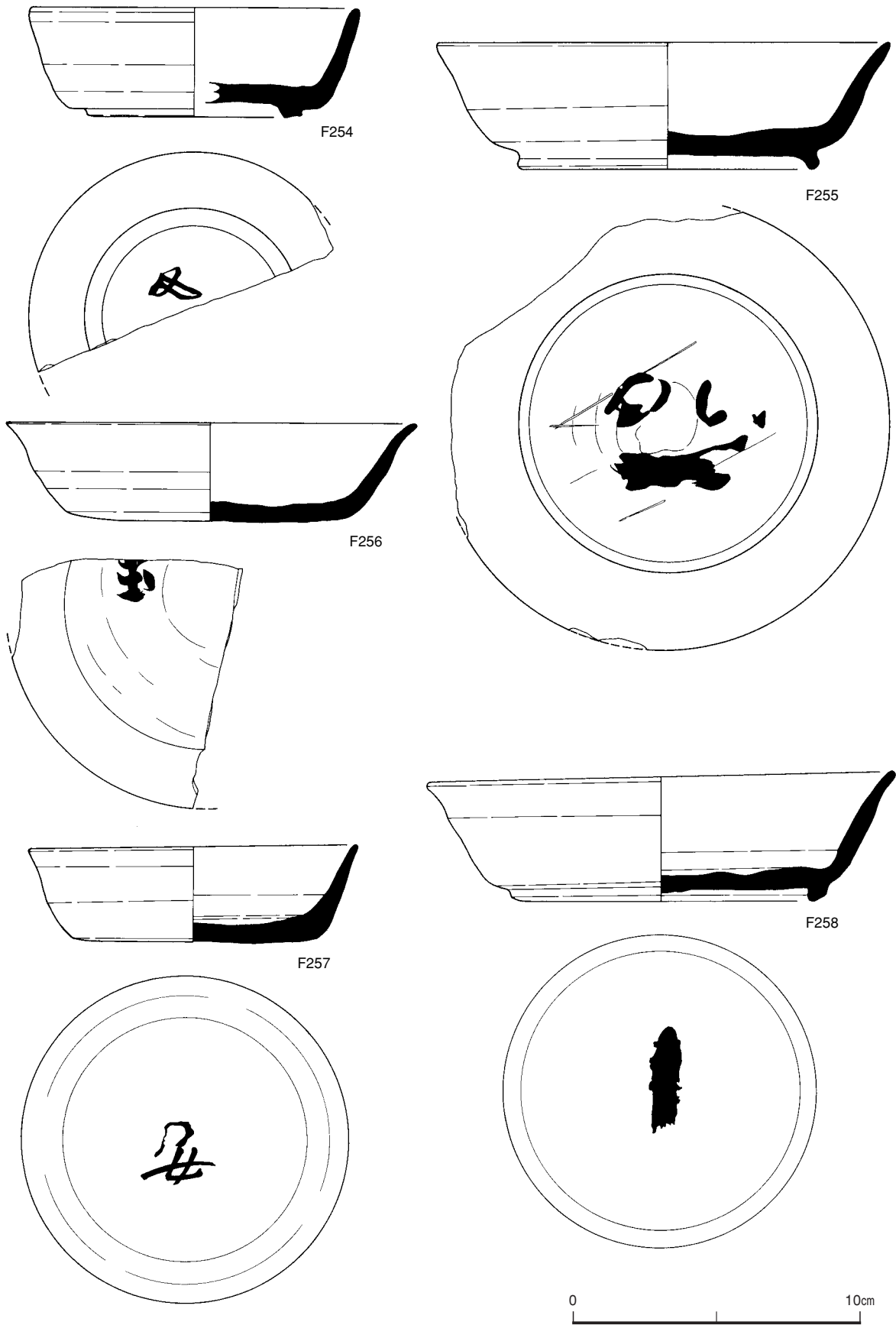
F252



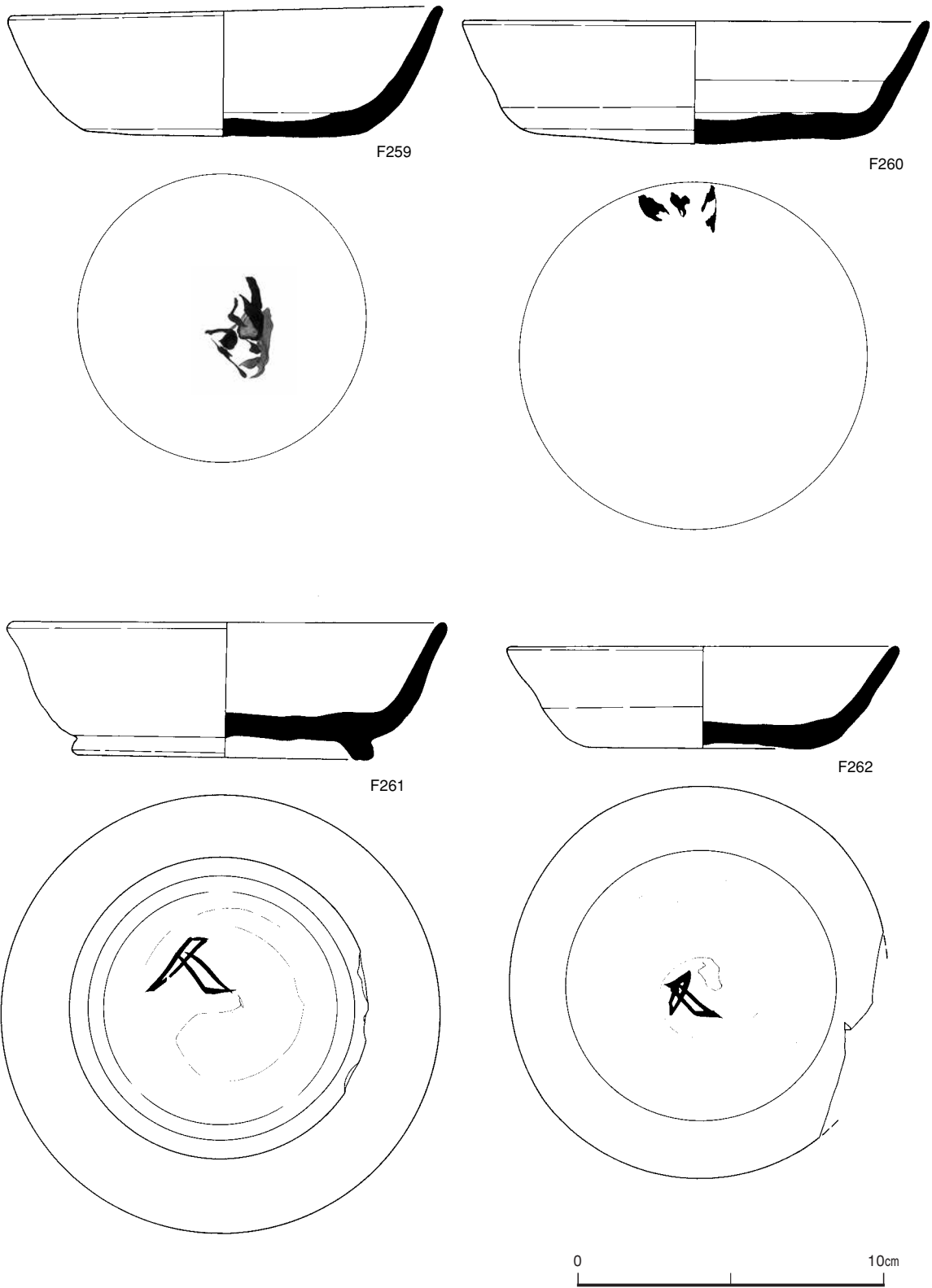
F253



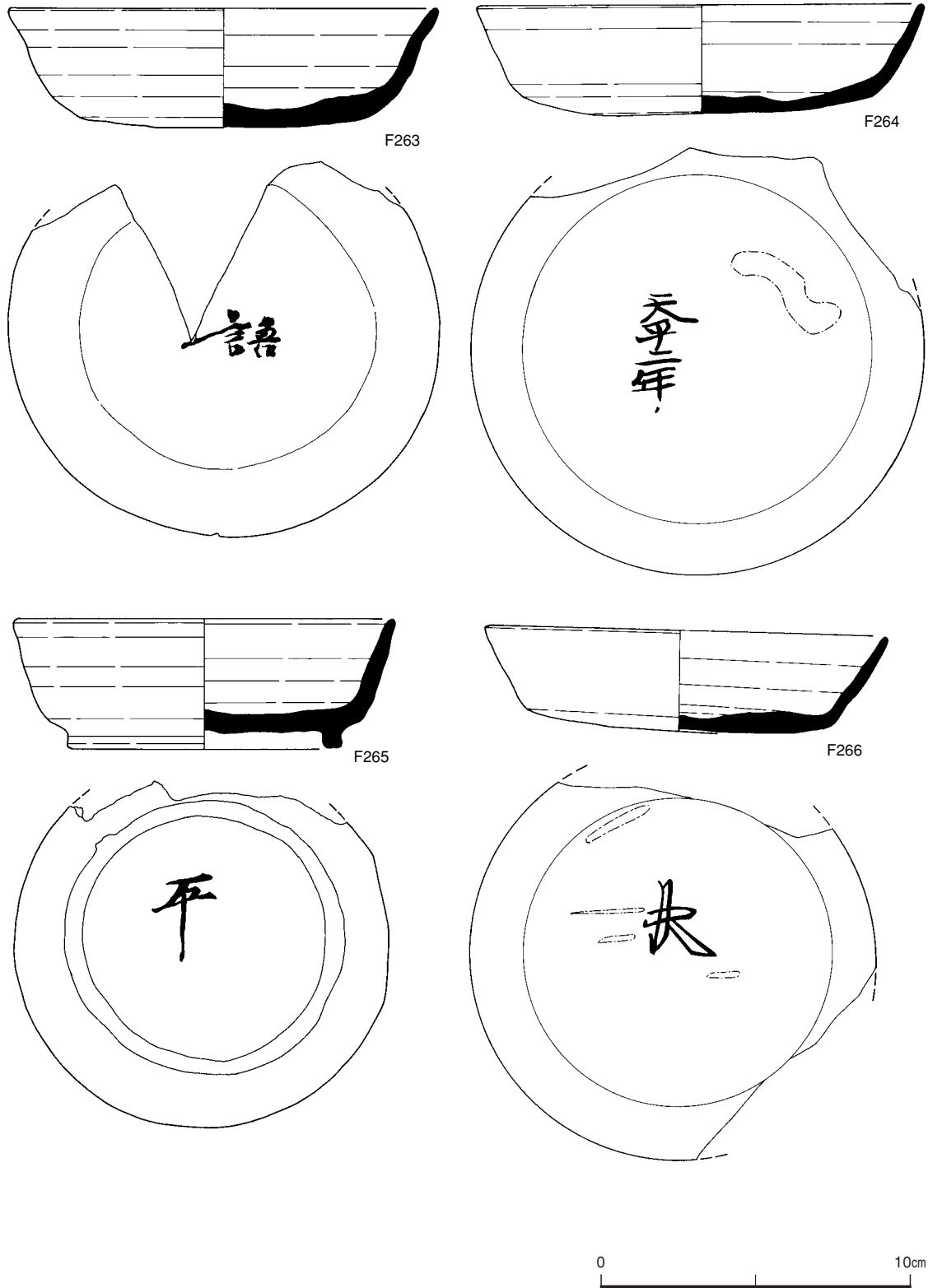
第161図 古代遺物実測図76 (1/2)



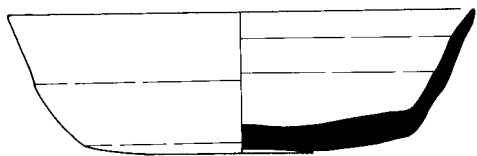
第162図 古代遺物実測図77 (1/2)



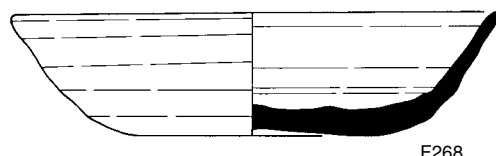
第163図 古代遺物実測図78 (1/2)



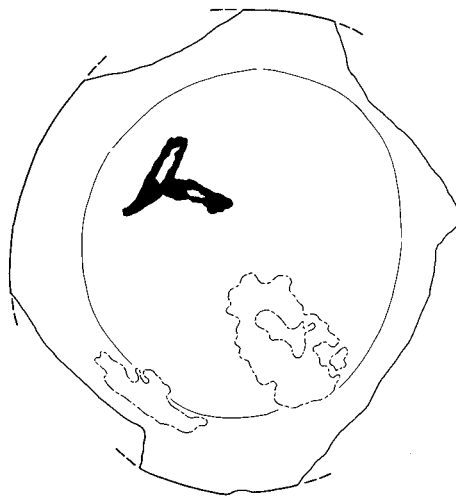
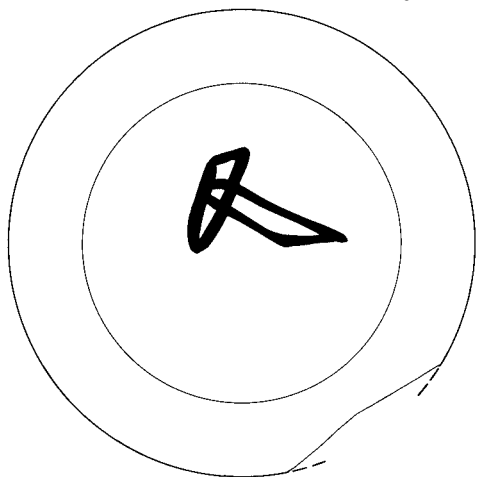
第164図 古代遺物実測図79 (1/2)



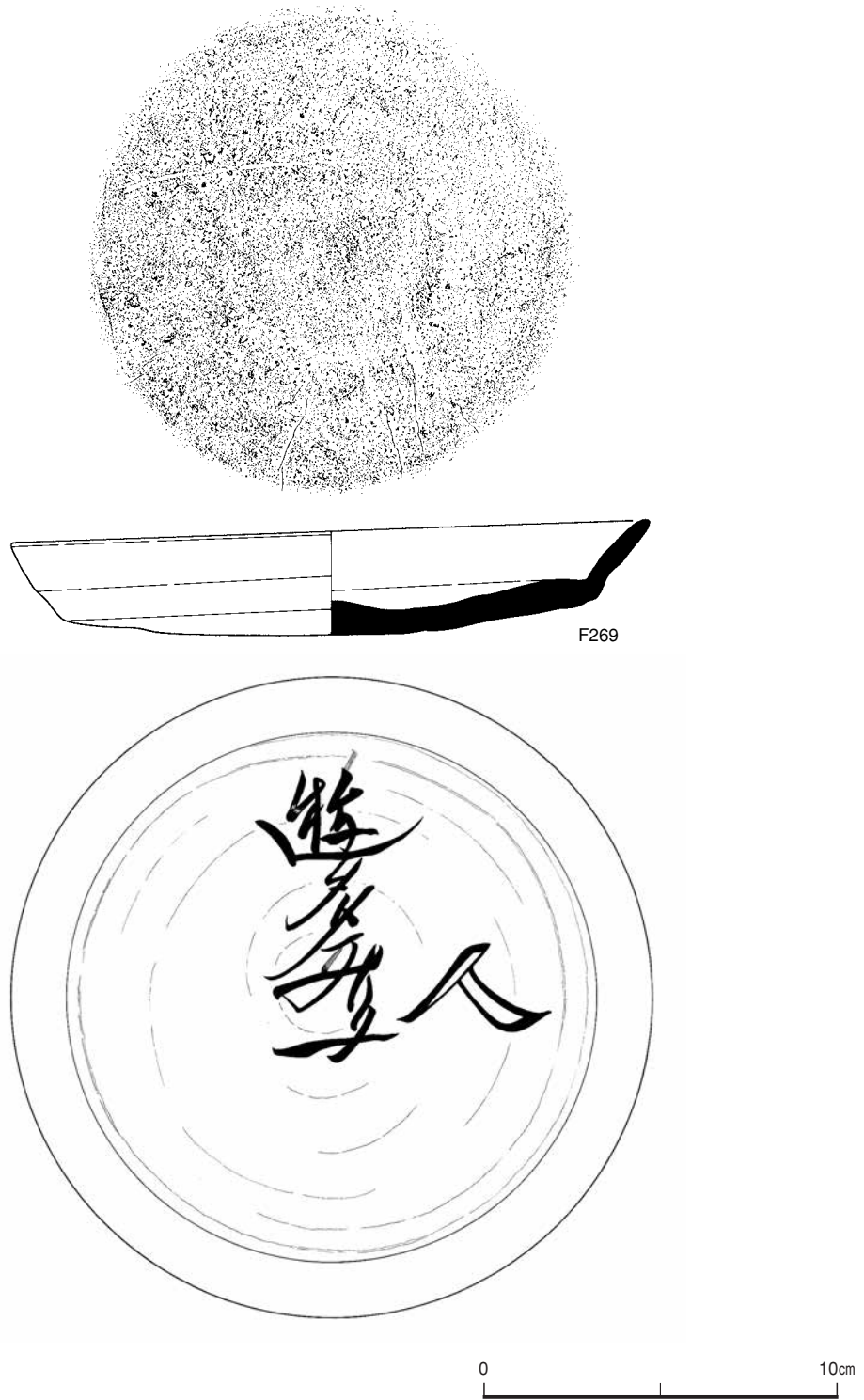
F267



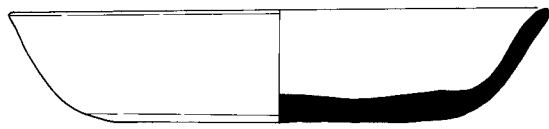
F268



第165図 古代遺物実測図80 (1/2)



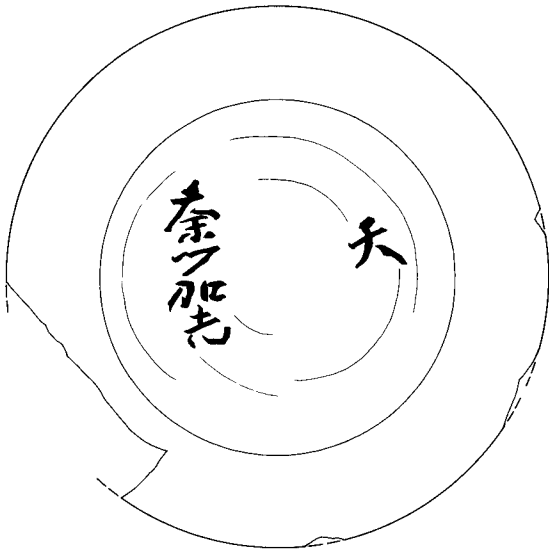
第166図 古代遺物実測図81 (1/2)



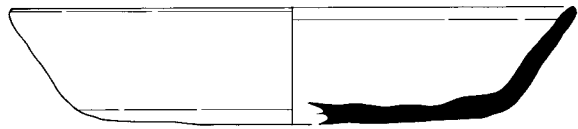
F270



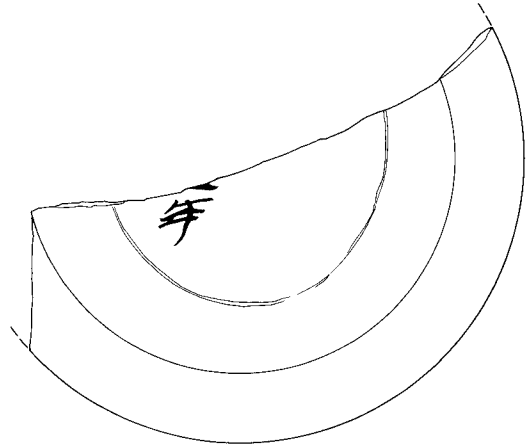
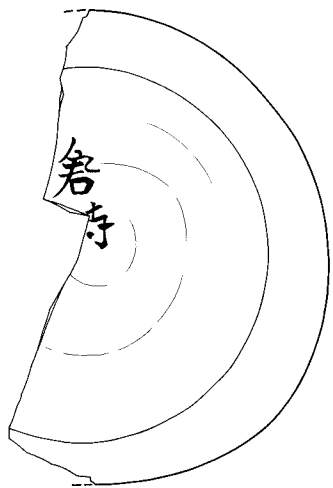
F271



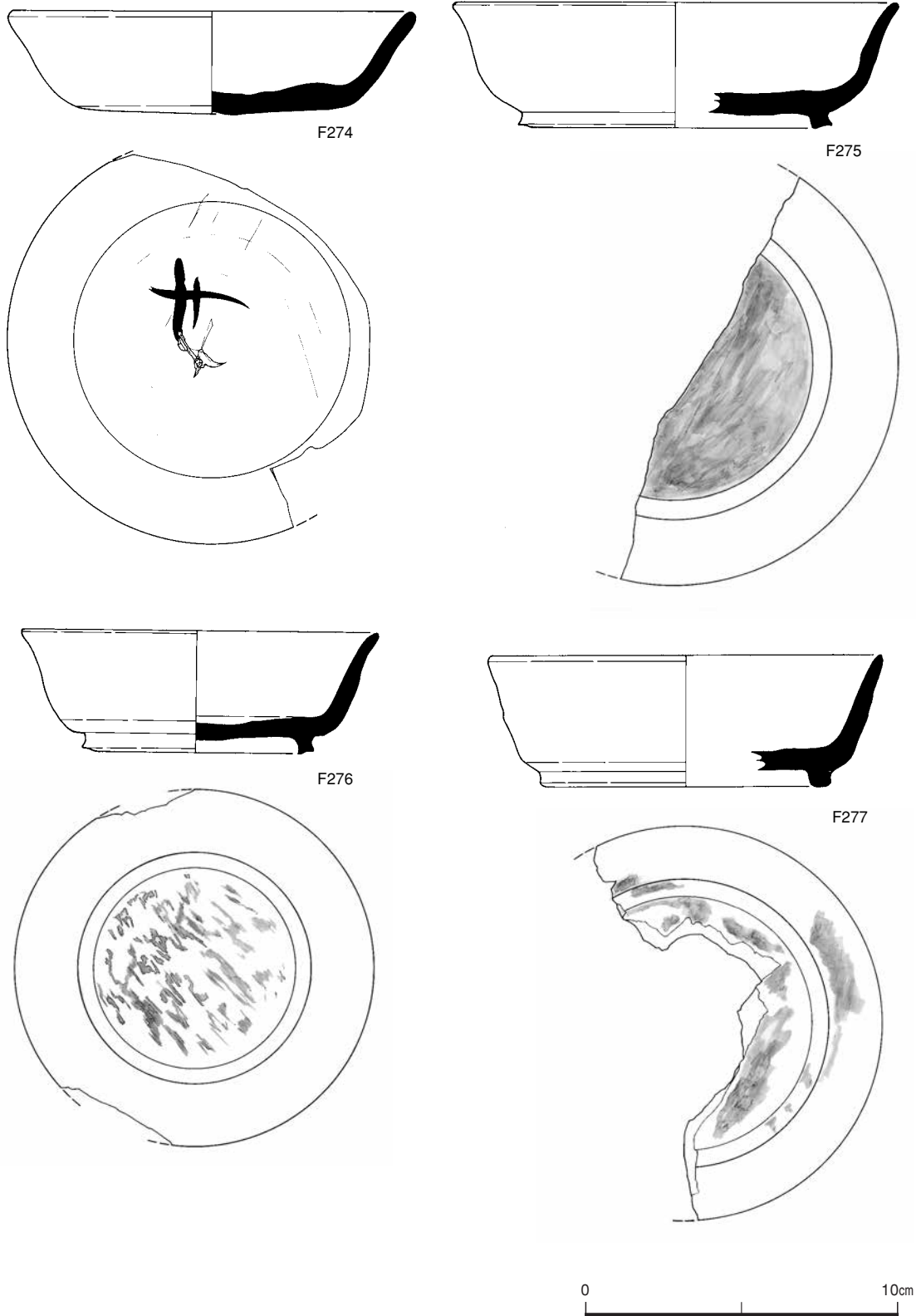
F272



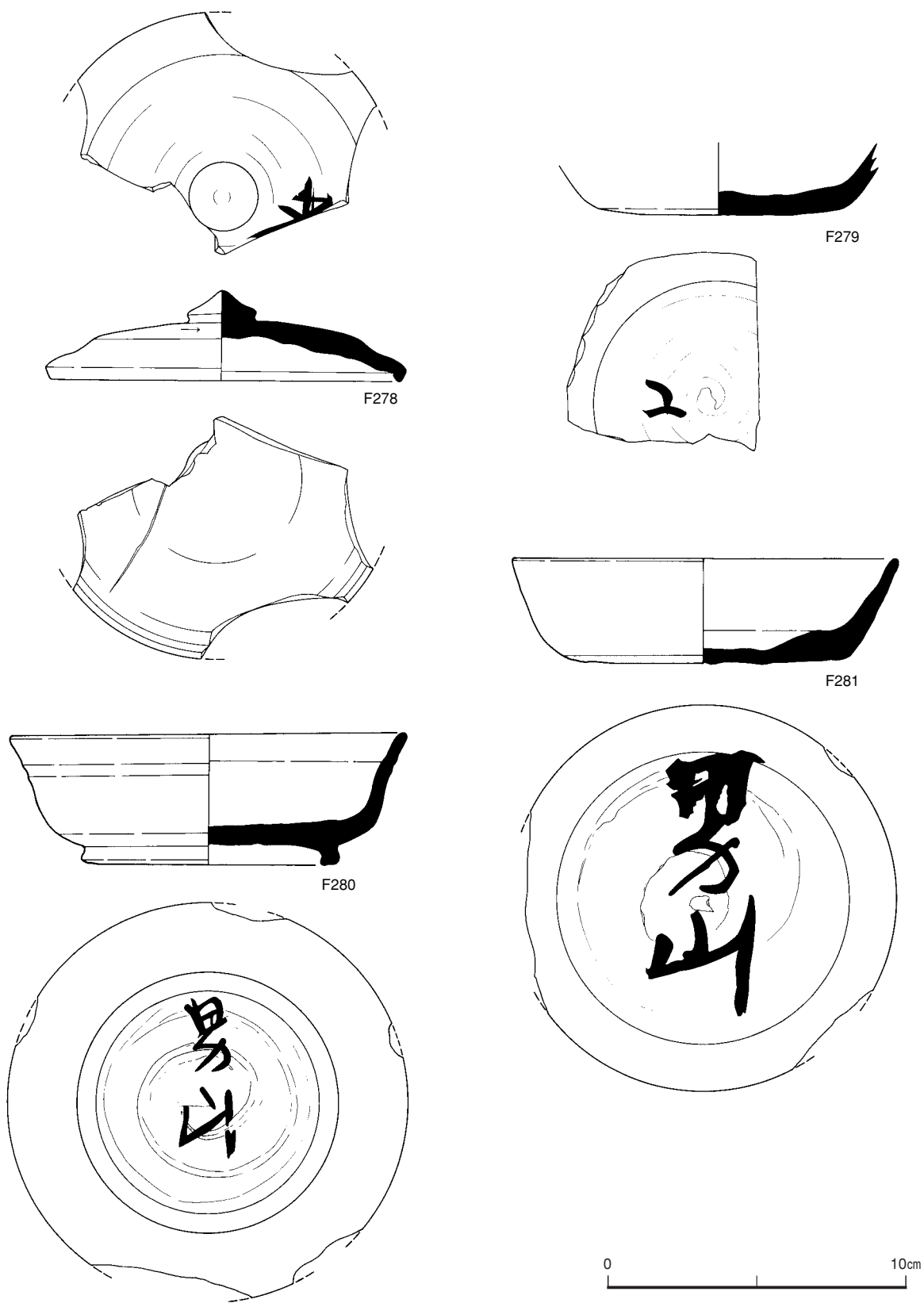
F273



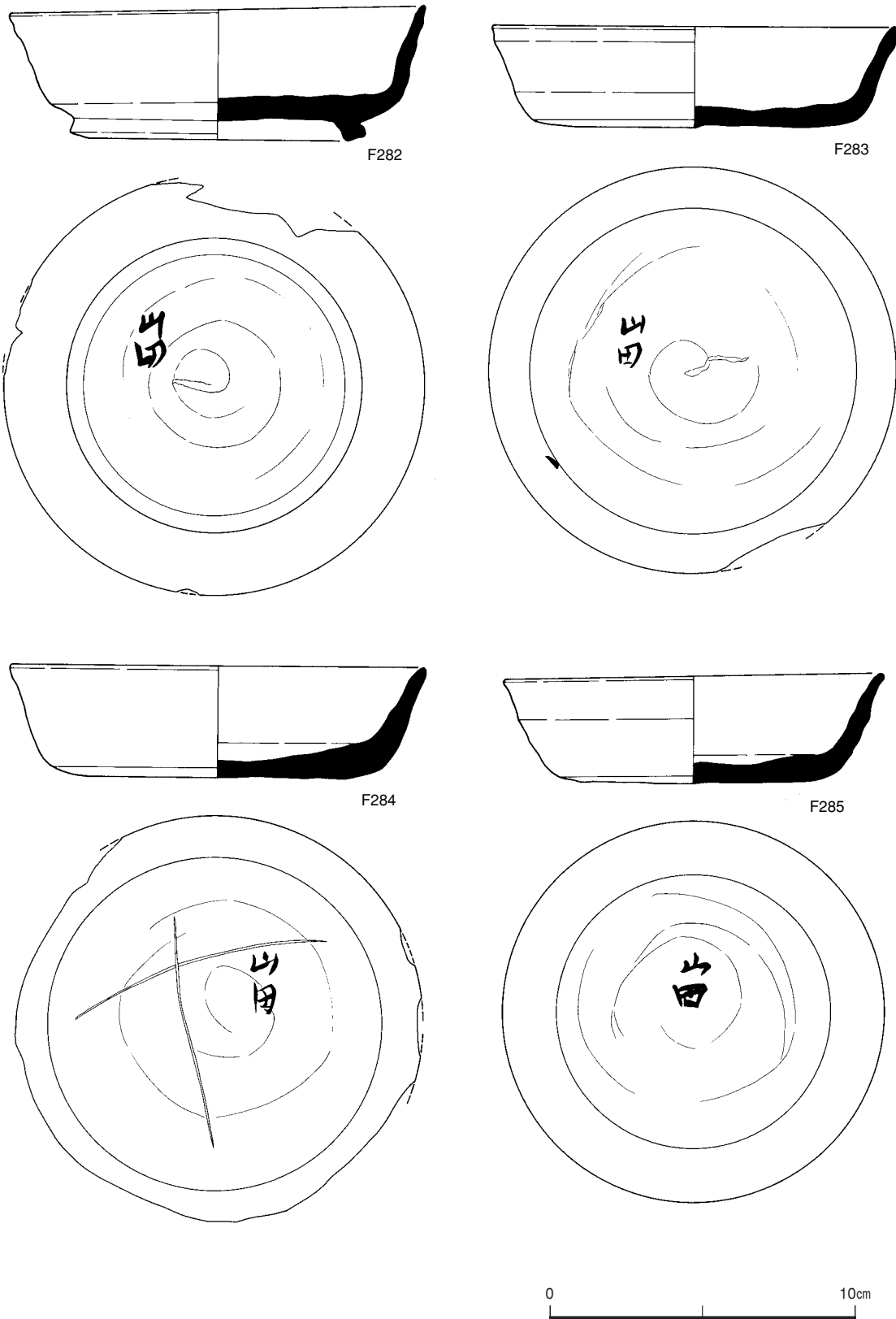
第167図 古代遺物実測図82 (1/2)



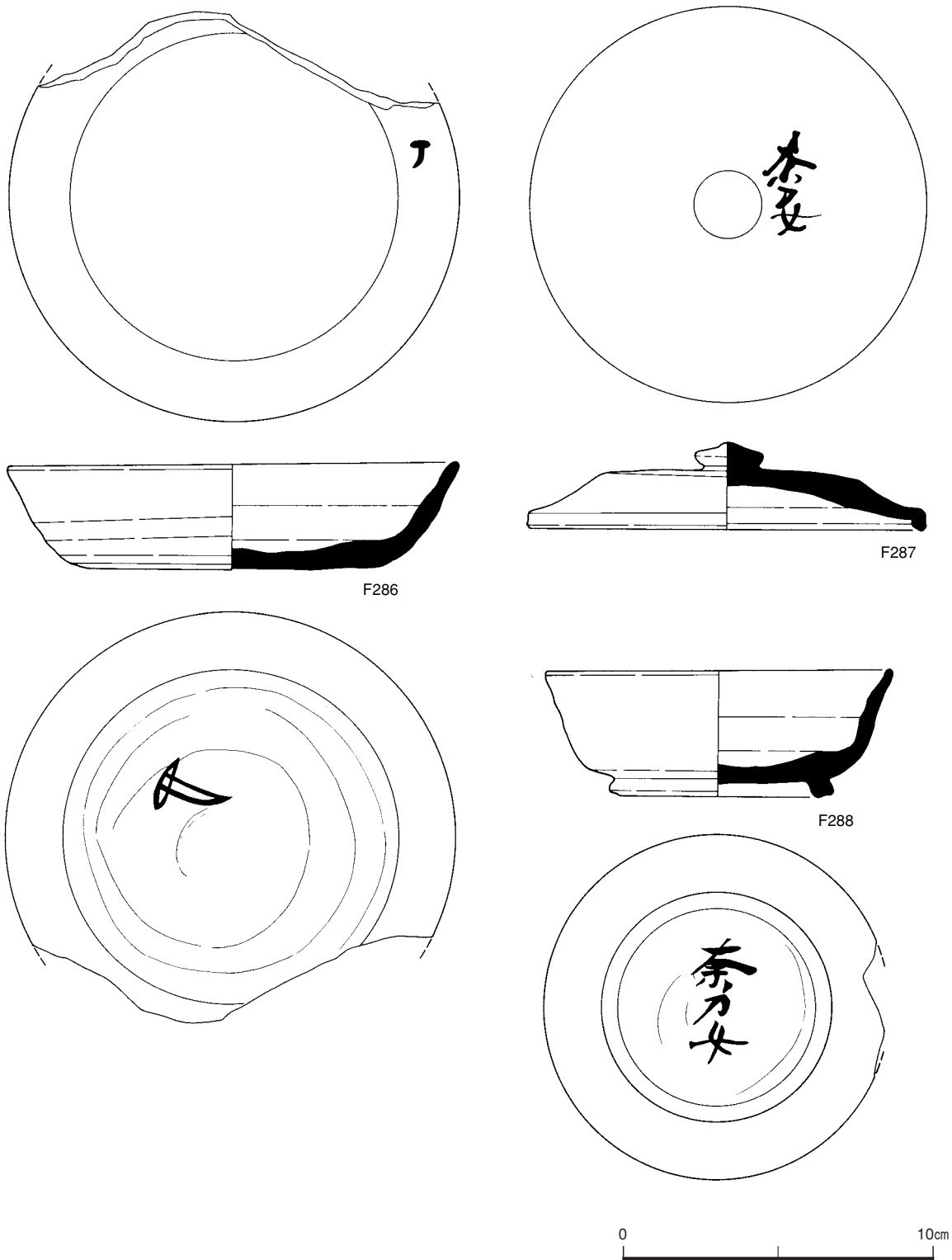
第168図 古代遺物実測図83 (1/2)



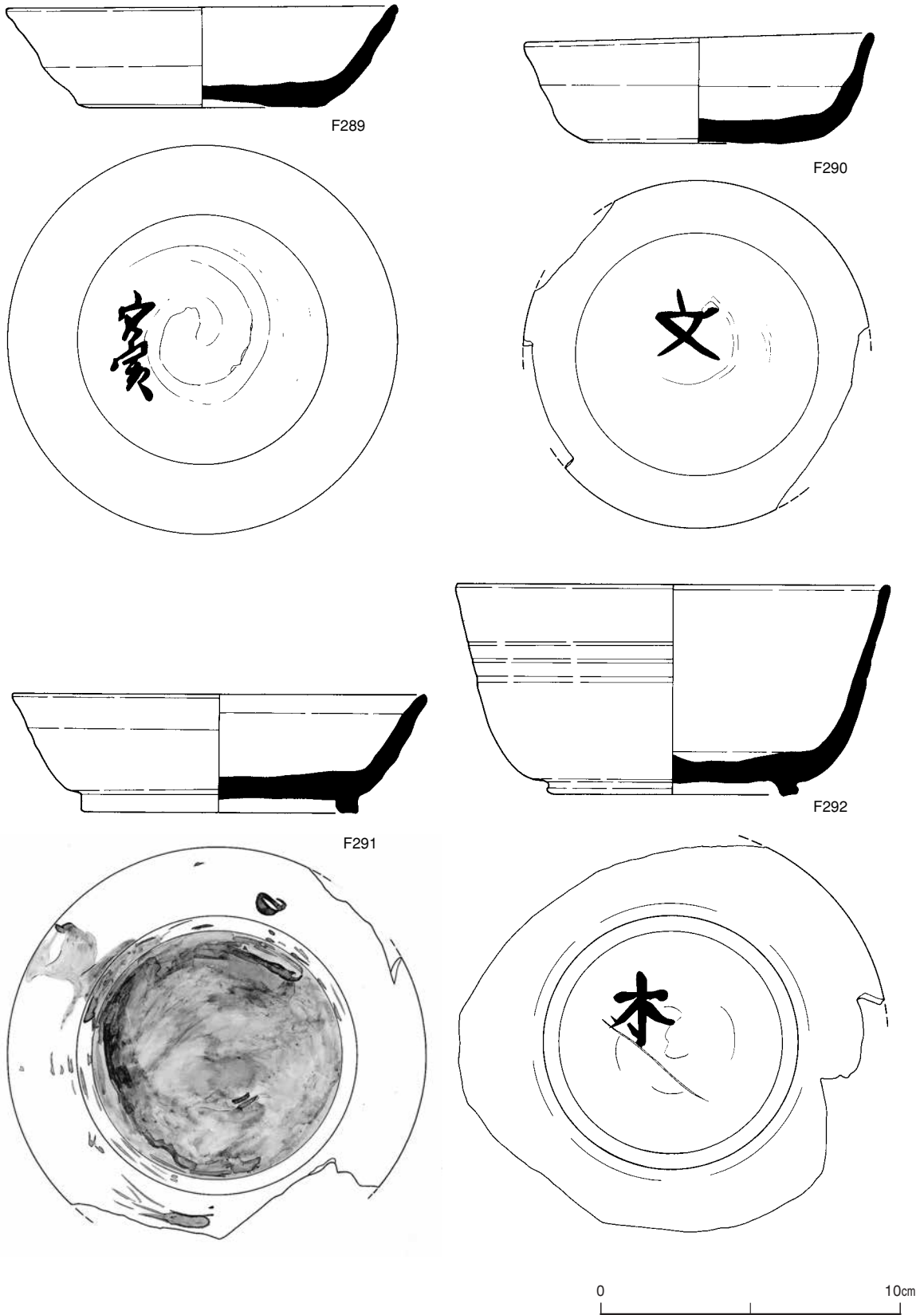
第169図 古代遺物実測図84 (1/2)



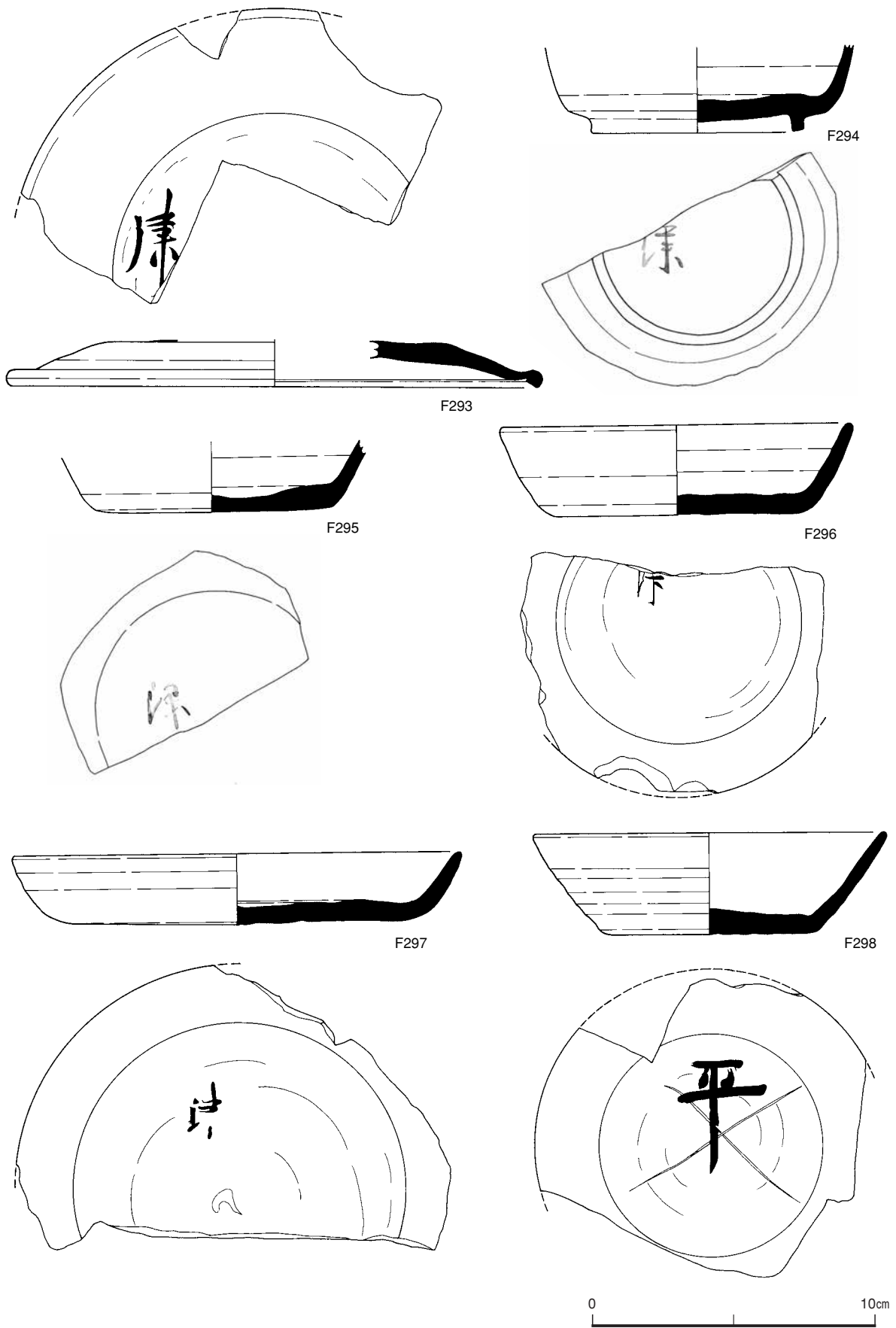
第170図 古代遺物実測図85 (1/2)



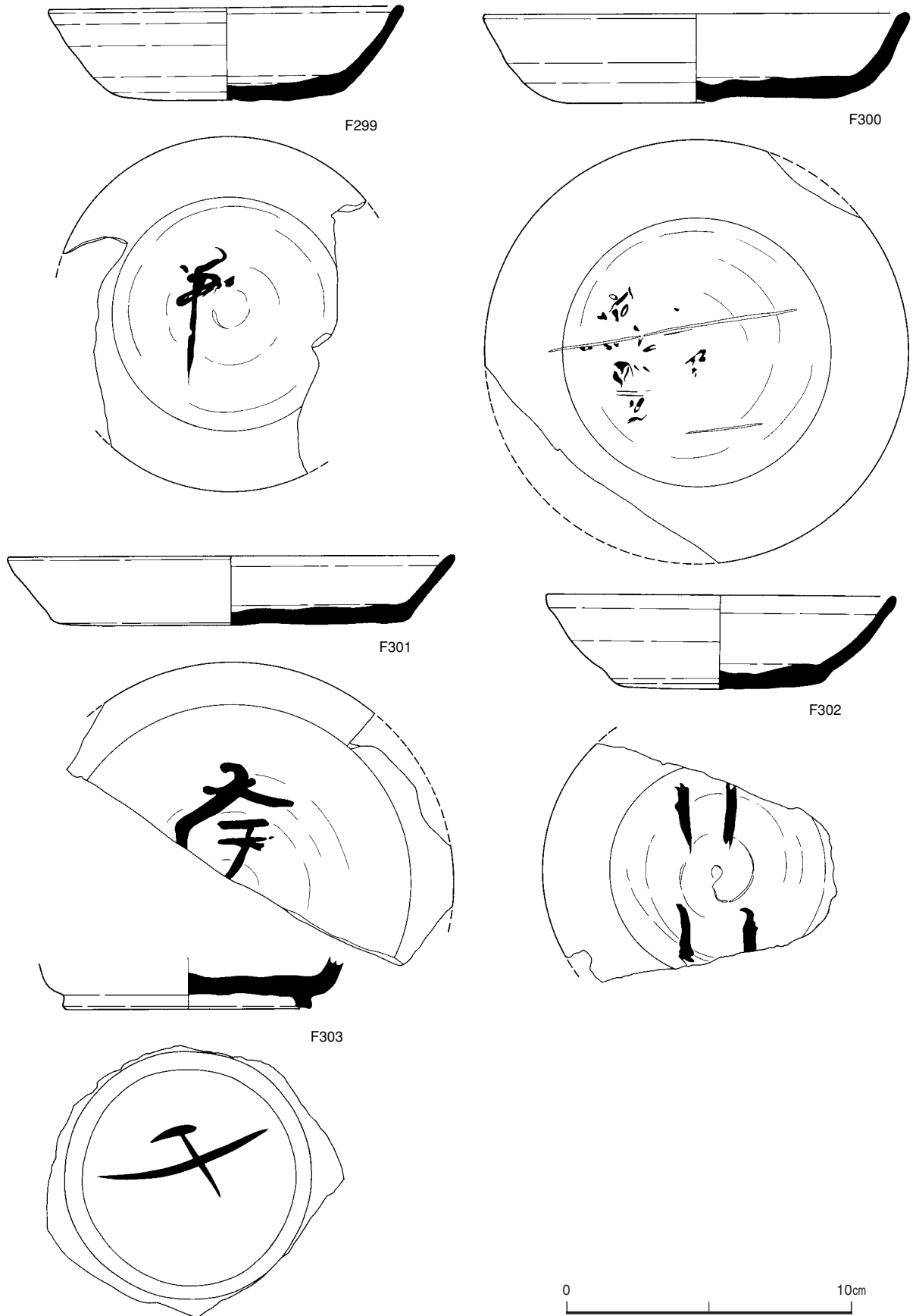
第171図 古代遺物実測図86 (1/2)



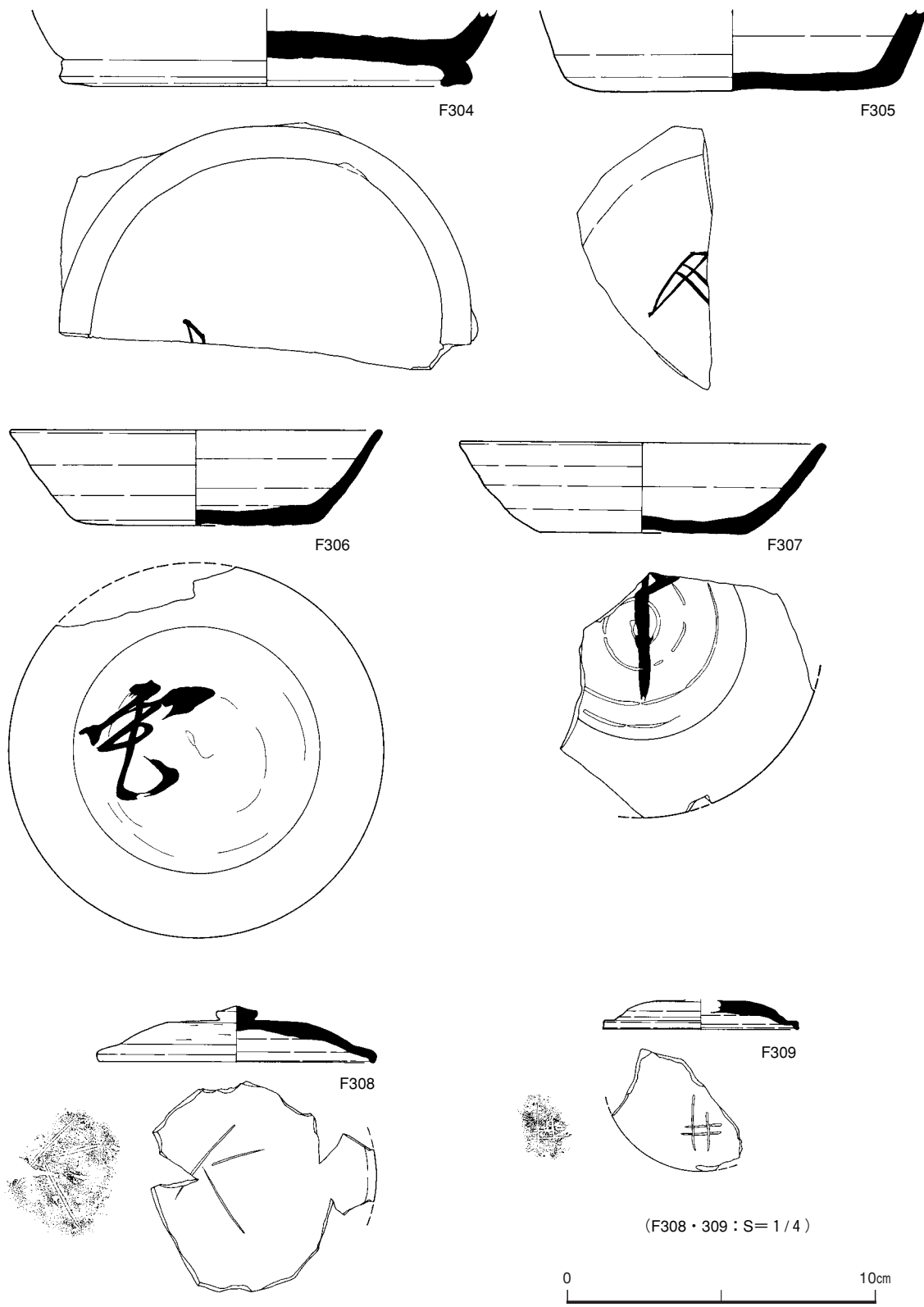
第172図 古代遺物実測図87 (1/2)



第173図 古代遺物実測図88 (1/2)



第174図 古代遺物実測図89 (1/2)



第175図 古代遺物実測図90 (1/2)

第5表 墨書土器一覽

報告番号	器種	出處	地区	遺構	墨書	墨書部位	墨書高	字体	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	外調整	内外調整	底面	色調	胎土	焼成	備考	実測番号
F9	無台坏	99	A3	SK53	語	外底	正楷	134	37	82	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂、粗砂多	不良			01t30
F10	無台坏	01	T	SD20	語	外底	正楷	147	36.5	96	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	細砂多	良			03b21
F11	無台坏	99	A3	SK53	語	外底	正楷	140	32	101	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	礫、小礫多、白砂少	良			02p12
F12	無台坏	99	K	P005	語	外底	正楷	138	40	93	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	白灰/白灰	白礫多、白砂	不良			02p98
F13	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷			127	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	黄褐/黄褐	石礫多、白砂多	不良			02p8
F14	無台坏	99	A1	SD51	語	外底	正楷	146	39	99	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	白灰/白灰	白大礫、白砂	不良			02p4
F15	無台坏	99	A2	SD08	語カ	外底	正楷	(137)	33	(83)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良			01t198
F16	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	136	(35)	96	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/白灰	緻密、粗砂	良			01t173
F17	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷		(27)	(86)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂、粗砂少	不良			01t172
F18	無台坏	99	A2	SD08	語カ	外底	正楷	(149)	33	(91)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	良			01t200
F19	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷		(11)	79	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、細砂、礫少	良			01t39
F20	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	137	31	92	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	粗砂	良			01t37
F21	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	133	34	76	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰	粗砂多	良			01t36
F22	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	(136)	30	(101)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、細砂、粗砂少	良			01t164
F23	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	120	32	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良			01t75
F24	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	134	36	94	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、粗砂、礫	良			01t47
F25	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	120	35	89	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/白灰	緻密	良			01t70
F26	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	(138)	35	(102)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良			01t77
F27	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	120	35	92	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	粗砂、礫	良			01t71
F28	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	138	32	160	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	緻密、粗砂少、礫少	良			01t72
F29	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	121	34	81	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/白灰	緻密、粗砂、礫	良			01t66
F30	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	115	37	77	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	緻密、粗砂、礫	良			01t69
F31	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	144	35	111	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	褐灰/灰	粗砂	良			01t42
F32	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	136	34	103	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/白灰	粗砂、礫	良			01t43
F33	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	120	35	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、礫少	良			01t68
F34	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	121	39	84	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、礫少	良			01t65
F35	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	117	35	91	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	黄灰/白灰	緻密、礫、粗砂	良			01t61
F36	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	115	34	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/灰白	粗砂、礫	良			01t63
F37	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	118	35	70	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	粗い	良			01t45
F38	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	138	34	102	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良	複数「語」あり、習書?		01t87
F39	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	119	35	87	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	粗砂、礫少	不良			01t31
F40	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	117	35	81	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良			01t33
F41	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	127	32	87	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰~灰白/灰~灰白	緻密、礫	良			01t29
F42	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷		44	92	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良			01t34
F43	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	119	37	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂、粗砂多	やや不良			01t32
F44	無台坏	99	A2	SD08	語語語	外底	正楷	132	36	90	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良			01t81
F45	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	124	36	97	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良			01t26
F46	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	140	36	104	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	褐灰/褐灰	細砂多	良			01t41
F47	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	128	45	80	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、粗砂、礫	堅緻			01t25
F48	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	(138)	33	94	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良			01t28
F49	無台坏	99	A3		語カ	外底	正楷				ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰褐/灰褐	白礫、白砂	不良			02p15
F50	蓋	99	A2	SD08	語	蓋外	正楷	160	23		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、粗砂、礫少	良			01t78
F51	蓋	99	A2	SD08	語	蓋外	正楷	155	(27)		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、礫	良			01t38
F52	蓋	99	A2	SD08	語	蓋外	正楷	170	32		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	黒/褐灰	粗砂	良			01t46
F53	蓋	99	A2	SD08	語	蓋内	正楷	163	30		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/淡黄	粗砂、細砂多	良			01t40
F54	有台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷		(31)		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	良			01t199
F55	無台坏	99	A2	SD08	語カ	外面	正楷	(139)	43		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、細砂、粗砂少	良			01t73
F56	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	143	42		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、粗砂、礫少	良			01t74
F57	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	147	38	104	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/灰	緻密、粗砂	良			01t44
F58	有台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	110	40	62	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/白灰	粗砂	良			01t62
F59	有台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	(140)	44		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、細砂、粗砂少	良			01t27
F60	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷	115	40	82	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、細砂	良			01t64
F61	稜?	99	A2	SD08	語	外底	正楷	(212)	92		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや良			01t76
F62	無台坏	99	A2	SD08	語	外底	正楷		(18)	94	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	白細砂、粗砂、礫	良			01t67
F63	無台坏	99	A2	SD08	語・語	外底	正楷			88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	黒礫、白砂			重書	02p9
F64	無台坏	99	A2	SD08	語カ語	外底	正楷	(146)	31	(108)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、細砂多	良			01t35

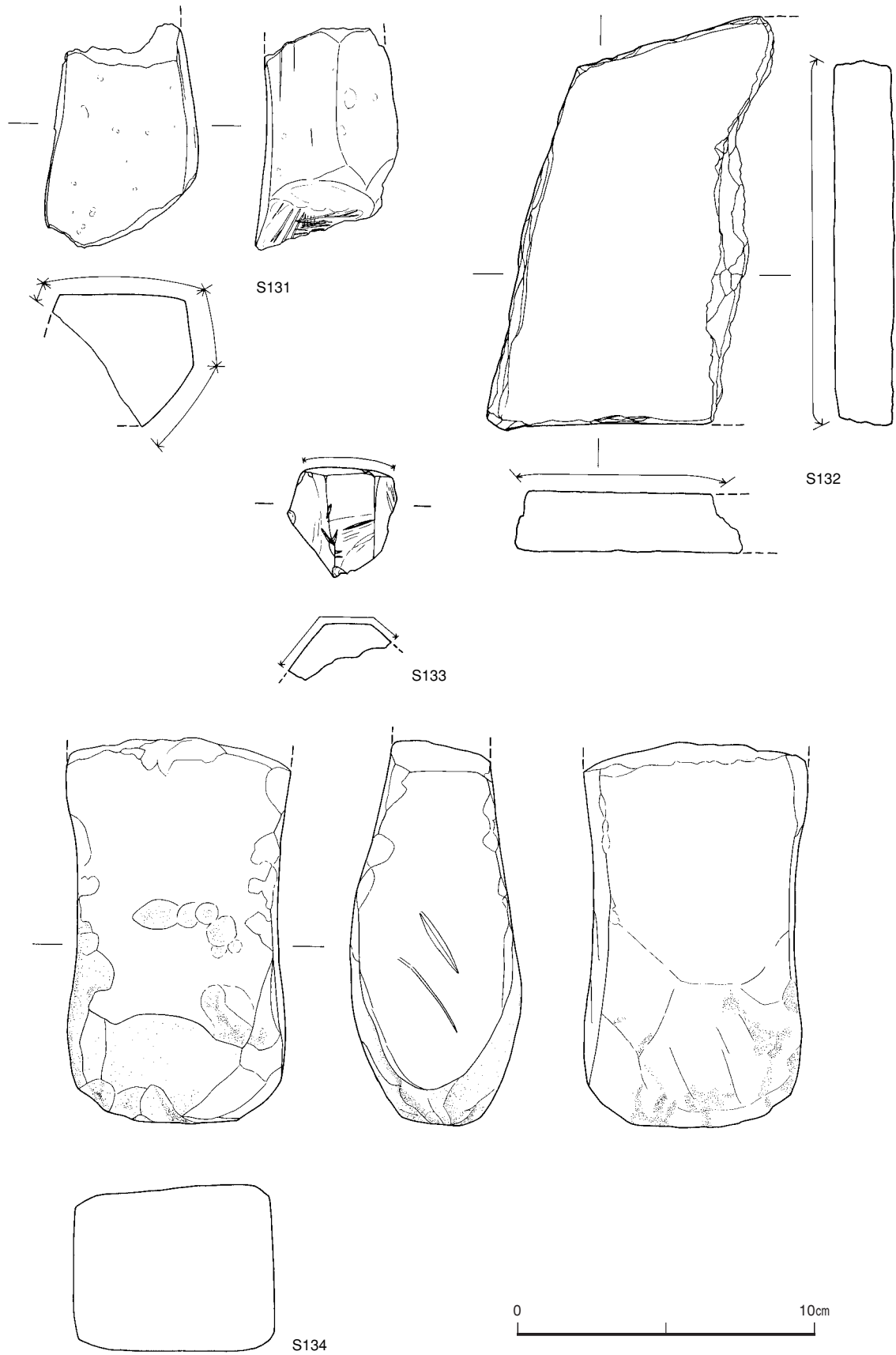
報告番号	器種	出率	地区	遺構	墨書	墨書部位	墨書高	字体	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	外調整	内外調整	底面	色調	胎土	焼成	備考	実測番号
F65	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	144	37	113		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂多	良		01t80
F66	無台坏	99	A2	SD08	語-語カ	外底	正楷	132	42	(94)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	緻密、細砂少	良		01t83
F67	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	(130)	38	(82)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良		01t82
F68	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	140	35	101		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良		01t84
F69	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	144	40	105		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良		01t16
F70	無台坏	99	A2 拡北	SD08	語-語	外底	正楷	145	35	96		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良		01t17
F71	無台坏	99	A2	SD08	語-	外底	正楷	(142)	33	(102)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良		01t18
F72	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	146	35	107		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良		01t19
F73	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	(140)	41	(96)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	緻密、細砂少	やや良		01t20
F74	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	141	35	94		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂多	良		01t21
F75	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	132	37	106		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂、粗砂少	良		01t22
F76	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	141	34	92		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂多	良		01t24
F77	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	146	34	96		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂多	良		01t23
F78	無台坏	99	A2 拡北	SD08	語-語	外底	正楷	142	34	120		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂多	良		01t86
F79	無台坏	99	A2 拡北	SD08	語-語	外底	正楷	(138)	38	(102)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	不良		01t85
F80	無台坏	99	A2	SD08	語-語	外底	正楷	148	35	119		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂少	良		01t79
F81	無台坏	99	A2	SD08	語成人	外底	正楷	119	40	85		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	白灰/白灰	緻密、礫、粗砂	良		01t98
F82	無台坏	99	A2	SD08	語成人	外底	正楷	120	40	85		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	緻密、粗砂	良		01t100
F83	無台坏	99	A2	SD08	語成人	外底	正楷	62	37	85		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄褐灰/灰	緻密、礫、粗砂	良		01t99
F84	無台坏	99	A2	SD08	荒田家	外底	正楷	132	37	75		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良		01t95
F85	無台坏	99	A2	SD08	荒田家	外底	正楷	133	33	107		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰黄/灰白	礫、粗砂	良		01t176
F86	有台坏	99	A2 拡北	SD08	荒田家	外底	正楷	(144)	43			ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	やや不良		01t97
F87	無台坏	99	A2 拡北	SD08	荒田家	外底	正楷	129	33	102		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫、粗砂	良		01t96
F88	無台坏	99	A2 拡北	SD08	荒田家	外底	正楷	124	35	101		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫、粗砂	良		01t94
F89	無台坏	99	A2	SD08	荒田家	外底	正楷	126	33	93		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫、粗砂	良		01t89
F90	無台坏	99	A2	SD08	荒田家	外底	正楷	(132)	40	(87)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	粗砂、礫少	不良		01t92
F91	無台坏	99	A2 拡北	SD08	荒(田家カ)	外底	正楷	(136)	31	(101)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	粗砂少	不良		01t90
F92	無台坏	99	A2	SD08	荒田家	外底	正楷	135	37	110		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫、粗砂	良		01t91
F93	無台坏	99	A2	P052	荒田家	外底	正楷	125	36	91		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	不良		01t88
F94	有台坏	99	A2	SD08	荒田家	外底	正楷	134	39			ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	堅緻、粗砂、礫多	やや良		01t93
F95	無台坏	99	A2	SD08	荒田(家カ)	外底	正楷		(18)	(72)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂、粗砂少	不良		01t156
F96	無台坏	99	A2 拡北	SD08	徳	外底	正楷	138	34	104		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白砂、白大礫少	良		02p7
F97	無台坏	99	A2	SD08	天平二年	外底	正楷	134	31	100		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t15
F98	無台坏	99	A2	SD08	津司・山カ	外底	正・横楷	134	35	84		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t14
F99	有台坏	99	A2	SD08	□泰カ	外底	正楷		42	(80)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂多	良		01t195
F100	無台坏	99	A2	SD08	人	外底	正楷	142	35	98		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	暗灰黄/暗灰黄	砂粒少	良	袋文字	01t174
F101	有台坏	99	A2	SD08	人	外底	正楷	112	43	83		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良	袋文字	01t138
F102	有台坏	99	A2 拡北	SD08	人	外底	正楷	154	44	100		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良	袋文字	01t149
F103	無台坏	99	A2	SD08	女	外底	正楷	128	33	91		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	礫、粗砂微、細砂多	良		01t194
F104	蓋	99	A2	SD08	中村	蓋外	正楷	147	33			ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	砂粒少	なまやけ	合文字	01t155
F105	無台坏	99	A2	SD08	□	外底	正楷	148	34	95		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒多	良		01t166
F106	無台坏	99	A2	SD08	子□	外底	正行		(17)	80		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂、粗砂少	良		01t159
F107	無台坏	99	A2	SD08	□	外底		124	33	82		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒多	良		01t153
F108	無台坏	99	A2	SD08	几	外底	正楷	130	36	90		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	砂粒少	良		01t139
F109	無台坏	99	A2	SD08	平	外底	正楷		(10)	75		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		礫微、粗砂、細砂多	良		01t126
F110	皿	99	A2	SD08	平	外底	正楷	157	24	126		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/オリーブ灰	礫、粗砂微、細砂多	良		01t130
F111	無台坏	99	A2	SD08	平カ	外底	正行		(21)	100		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t119
F112	皿	99	A2	SD08	□	外底	正楷	165	27	130		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t136
F113	有台坏	99	A2	SD08	□□	外底	正楷	175	66			ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂、粗砂、礫多	良		01t115
F114	無台坏	99	A2	SD08	枚人	外底	正楷	142	34	119		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰		良		01t102

報告番号	器種	出年	地区	遺構	墨書	墨書部位	墨書高	字体	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	外調整	内外調整	底面	色調	胎土	焼成	備考	実測番号
F115	無台坏	99	A2	SD08	枚人	外底	正	楷	137	33	107	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、細砂	良		01t101
F116	無台坏	99	A2	SD08	枚人	外底	正	楷	140	34	98	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰褐/灰褐	礫、白砂	良		02p5
F117	無台坏	99	A2	SD08	石万呂	外底	正	楷	116	33	95	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰、灰赤/灰、灰赤	粗砂、細砂	不良		01t107
F118	無台坏	99	A2	SD08	倉持	外底	正	楷	121	35	91	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	礫少、粗砂	良		01t108
F119	無台坏	99	A2	SD08	相成・□	外底	正	楷	(140)	37	(92)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	青灰/灰白	礫、粗砂少、細砂多	良		01t150
F120	無台坏	99	A2	SD08	吉吉	外底	正	楷	(127)	35	(86)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	オリーブ灰/オリーブ灰	礫、粗砂少、細砂多	良		01t153
F121	無台坏	99	A2	SD08	占	外底	正	楷	133	35	85	ロクロナデ	ロクロナデ		灰/灰	砂粒多	良		01t168
F122	赤彩?	99	A2	SD08	本カ田	外底	正	楷	156	44	82	ミガキ	ミガキ		淡黄/淡黄	砂粒少	良		01t169
F123	無台坏	99	A2	SD08	秋富	外底	正	楷	(120)	(36)	(86)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	礫微、粗砂、細砂多	不良		01t156
F124	有台坏	99	A2	SD08	上	外側	正	楷	112	46	59	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	青灰/青灰	礫、粗砂少、細砂多	良		01t149
F125	無台坏	99	A2	SD08	文カ	外底	正	楷	(116)	37	(86)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰白/灰白	粗砂、細砂多	良		01t157
F126	無台坏	99	A2 掘北	SD08	白竹カ	外底	正	楷	134	39	90	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰白/灰白	礫少、粗砂、細砂多	良		01t159
F127	無台坏	99	A2	SD08	馬家	外底	正	楷	(139)	32	(109)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	礫微、粗砂、細砂多	良		01t158
F128	無台坏	99	A2	SD08	二カ	外底	正	楷	141	31	97	ロクロナデ	ロクロナデ	板目状瓦痕	灰白/明青灰	礫微、粗砂、細砂多	良		01t160
F129	無台坏	99	A2	SD08	山	外底	正	楷	120	34	92	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰白/灰白	少し礫微、粗砂少、細砂多	良		01t154
F130	無台坏	99	A2	SD08	人□	外底	正		(119)	38	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	礫、粗砂少、細砂多	良		01t155
F131	無台坏	99	A1	SE03	平	外底	正		121	32	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰	礫有、粗砂、気泡	並		02s228
F132	無台坏	99	A1	SE03	□	外底					86	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	黒灰/灰	白礫3mm、白砂	良		02p1
F133	無台坏	99	A3	SD57	由竹	外底	正	楷			76	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白礫、白砂	良		02p6
F134	無台坏	99	A1	SD03	日奉	外底	正	異体	119	3	66	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	灰礫、小礫多	良	合文字	02p2
F135	無台坏	99	A2	SK19	平	外底	正	行	(127)	38	(81)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	礫微、粗砂少、細砂多	やや不良		01t131
F136	有台坏	99	A2	SK19	人	外底	正	楷	116	44	75	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	砂粒少	良	袋文字	01t148
F137	無台坏	99	A3	不明	牛	外底	正	楷	(127)	34	80	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	鈍褐/鈍褐	細砂、粗砂多	不良		01t161
F138	無台坏	99	A3	SK53	人	外底	正	楷	144	33	117	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白大礫多	良	袋文字	02p13
F139	無台坏	99	A3	SE04	□	外底	正				102	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	褐/淡灰	白礫多、白砂多	不良		02p14
F140	無台坏	99	B2	P015	平	外底	正	行		42	(19)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t137
F141	有台坏	99	B3	SE01	平カ	内底					110			ハラ切り	灰：灰	粗砂多		転用硯	8
F142	無台坏	99	C1	SD16	人カ	外底	正	楷	128	33	90	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	茶褐/茶褐	白礫、白砂少	不良	袋文字	02p43
F143	無台坏	99	C1	SD16	人	外底	正	楷	124	40	90	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	白砂、白礫大	良	袋文字	02p36
F144	無台坏	99	C1	SD16	人	外底	正	楷	122	36	81	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	密	良	袋文字	01t140
F145	有台坏	99	C1	SD16	人カ	外底	正	楷	112	35	78	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	砂粒多	良	袋文字	01t146
F146	無台坏	99	C1	SD16	人	外底	正	楷	122	31	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	砂粒少	なまやけ	袋文字	01t180
F147	無台坏	99	C1	SD16	人	外底	正	楷	126	33	80	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	砂粒少	なまやけ	袋文字	01t134
F148	無台坏	99	C1	SD16	人	外底	正	楷	124	33	90	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	砂粒少	良	袋文字	01t144
F149	皿	99	C1	SD16	人・大	外底	正	楷	154	26	130	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	砂粒少	良	袋文字	01t135
F150	有台坏	99	C1	SD16	大	外底	正	楷	163	53	106	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰		良	袋文字	01t152
F151	有台坏	99	C1	SD16	大	外底	正	楷	125	45	86	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	砂粒多	良	袋文字	01t145
F152	無台坏	99	B2		□女	外底	正	楷	121	40	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	灰礫、小礫多、白砂少	良		02p19
F153	無台坏	99	B2	SD16	十	外底	正	楷	114	37	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰、茶褐	白砂、白大礫	良		02p31
F154	有台坏	99	B2	SD16	□	外底	正		118	46	78	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	白礫、白砂、海綿?	良		02p16
F155	有台坏	99	B2	SD16	十	外底	正	楷	145	43	101	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	白灰/白灰	白礫多、白砂	不良		02p17
F156	無台坏	99	B2	SD16	□女	外底	正		122	37	90	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	白灰/白灰	白礫多、白砂	不良		02p18
F157	有台坏	99	B2	SD16	□	外側			110	47	66	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t163
F158	無台坏	99	B2	SD16	□	外底			124	42	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	鈍黄橙/鈍黄橙	砂粒少	良		01t167
F159	無台坏	99	B2	SD16	枚人	外底	正	楷	135	32	110	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、粗砂、白細砂多	良		01t109
F160	蓋	99	B2	SD16	置目	器表	正	楷	123	30		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/白灰	緻密、粗砂、礫少	良		01t104
F161	有台坏	99	B2	SD16	寸カ	外底	正	楷	123	38	96	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	細砂、粗砂少	不良		01t117
F162	無台盤	99	C1	SD16	□	外底					132	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白礫多、白砂	良		02p39
F163	無台坏	99	C1	SD16	□	外底	正		116	32	76	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	浅黄/灰白	砂粒少	なまやけ		01t196
F164	有台坏	99	C1	SD16	□	外底	正			(18)	74	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、粗砂、礫	良		01t197
F165	無台坏	99	C1	SD16	大	外側	正	楷	(114)	30	(80)	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰白	粗砂微、細砂多、海綿骨針	並		01t152
F166	無台坏	99	C1	SD16	平	外底	正	楷	121	31	83	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰白	砂粒少	良		01t121
F167	有台坏	99	C1	SD16	平	外底	正	楷	125	34	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	密、砂粒少	良		01t120

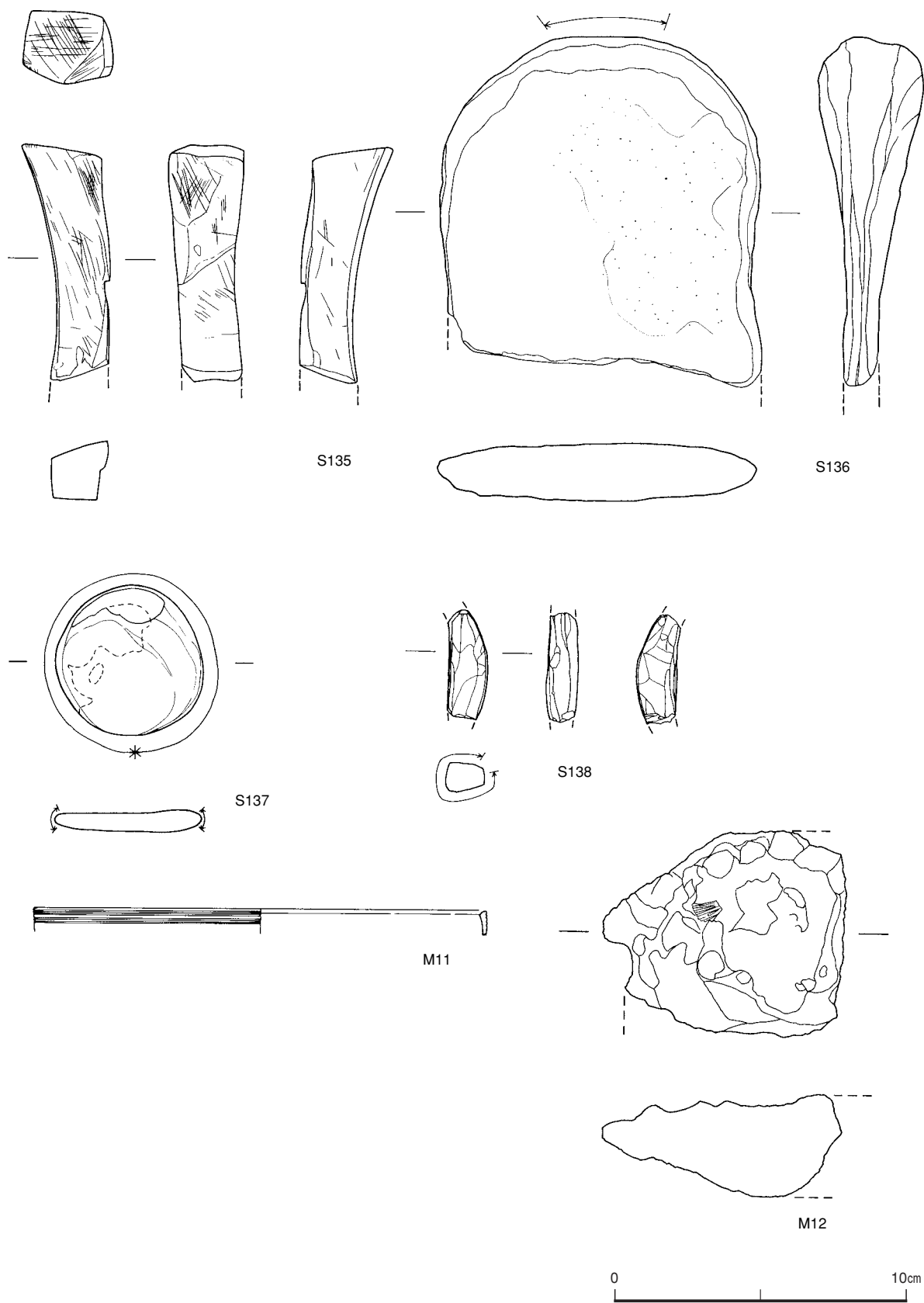
報告番号	器種	出年	地区	遺構	墨書	墨書部位	墨高	字体	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	外調整	内外調整	底面	色調	胎土	焼成	備考	実測番号
F168	有台坏	99	C1	SD16	平	外底	正	行	(35)	79		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰	礫、粗砂微、細砂多	良		01t28
F169	無台坏	99	C1	SD16	平	外底	正	楷	128	34	93	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	浅黄/灰白	礫、粗砂微、細砂多	やや不良		01t132
F170	無台坏	99	C1	SD16	平	外底	正	行	123	32	100	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	砂粒少	良		01t122
F171	無台坏	99	C1	SD16	□	外底	正		123	38	77	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	浅黄/灰黄	礫少	良		01t193
F172	無台坏	99	C1	SD16	×万呂	外底	正	楷	(123)	34	84	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	淡黄/灰白	礫、粗砂微、細砂多	不良		01t192
F173	無台坏	99	C1	SD16	年	外底	正	楷	123	32	80	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫少	良		01t178
F174	皿	99	C1	SD16	依カ	外底	正		160	26	110	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	密	良		01t154
F175	無台坏	99	C1	SD16	語カ	外底	正		(22)	(87)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	緻密、細砂少	良		01t158
F176	無台坏	99	C1	SD16	西カ	外底	正	楷	127	29	98	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	白灰/白灰	白礫、大礫、白砂	不良		02p45
F177	無台坏	99	C1	SD16	平	外底	正	行	129	33	97	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	砂粒多	なまやけ		01t124
F178	無台坏	99	C1	SD16	□	外底	正		(118)	34	(78)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	不良		01t165
F179	無台坏	99	B2	SD16	原万呂	外底	正	行	112	33	89	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	緻密、粗砂、礫少	良		01t110
F180	無台坏	99	C1	SD16	□	外底					92	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰、赤褐/灰	白砂多、海綿	良		02p34
F181	無台坏	99	B2	SD16	冨、十	外底・外側	正	横	125	35	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	細砂多	良		01t177
F182	無台盤	99	C1	SD16	□	外底			160	23	130	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白礫多、白砂	良		02p40
F183	坏蓋	99	B3	SD31	津	蓋外	正	楷	172	(27)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	粗	良		01t9
F184	坏蓋	99	B3	SD31	津	蓋内	正	楷	124	19		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t8
F185	坏蓋	99	B3	SD31	津	蓋内	正	楷	125	24		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	白礫、白砂多	良		02p28
F186	有台坏	99	B3	SD31	津	外底	正	楷	107	41	73	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰	砂粒少	良		01t3
F187	有台坏	99	B3	SD31	津	外底	正	楷	112	43	72	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	密	良		01t7
F188	有台坏	99	B3	P015	津	外底	正	楷	157	48	115	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	細砂多	良		01t2
F189	無台坏	99	B3	SD31	津	外底	正	楷	127	38	93	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂多	なまやけ		01t1
F190	無台坏	99	B3	SD31	津	外底	正	楷	119	36	77	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t6
F191	無台坏	99	B3	SD31	津	外底	正	楷	120	39	81	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t5
F192	無台坏	99	B3	SD31	津	外底	正	楷	125	35	87	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	砂粒多	なまやけ		01t12
F193	無台坏	99	B3	SD31	津	外底	正	楷	121	37	82	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒多	良		01t10
F194	無台坏	99	B3	SD31	津	外底	正	楷	120	40	78	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	砂粒少	良		01t4
F195	無台坏	99	I	SD31	津	外底	正	楷	127	34	93	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	砂っぽい、海綿骨片	良		01t11
F196	有台坏	99	B3	SD31	平	外底	正	行	114	42	78	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t118
F197	無台坏	99	B3	SD31	平	外底	正	楷	118	33	82	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t123
F198	無台坏	99	B3	SD31	平カ	外底	正	楷	(126)	31	(98)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白/灰白	礫微、粗砂、細砂少	やや不良		01t125
F199	無台坏	99	B3	SD31	山	外底	正	楷	116	31	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	緻密、細砂少	良		01t162
F200	蓋	99	B3	SD31	平	外底	正	楷	149	25		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂、粗砂少	良		01t116
F201	無台坏	99	B3	SD31	山田	外底	正	楷	130	35	113	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰黄/灰黄	細砂少	良		01t114
F202	無台坏	99	B3	SD31	山田	外底	正	楷	(138)	35	(104)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	不良		01t112
F203	無台坏	99	B3	SD31	山田	外底	正	楷	(134)	35	112	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	不良		01t111
F204	無台坏	99	B3	SD31	山田	外底	正	楷	(125)	30	102	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	良		01t175
F205	無台坏	99	B3	SD31	山田	外底	正	楷	(14)	(104)		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂少	不良		01t113
F206	無台坏	99	I	SD31	山田	外底	正	楷	(131)	34	106	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫、粗砂微、細砂多	並		01t184
F207	盤	99	I	SD31	山田	外底	正	楷	(153)	16	(144)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	粗砂・細砂多	良		01t185
F208	無台坏	99	B3	SD31	人	外底	正	楷	(30)	92		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	砂っぽい	なまやけ	袋文字	01t147
F209	無台坏	99	B3	SD31	人	外底	正	楷	120	33	76	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良	袋文字	01t141
F210	無台坏	99	B3	SD31	人	外底	正	楷	123	30	95	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒多	良	袋文字	01t142
F211	有台坏	99	B3	SD31	人	外底	正	楷	104	44	68	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t143
F212	無台坏	99	B3	SD31	官家カ	外底	正	楷	136	34	92	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	黒灰/黒灰	白礫	良		02p21
F213	無台坏	99	B3	SD31	奈ツ加志・大	外底	正	楷	(18)	100		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	細砂多	良		01t48
F214	無台坏	99	B3	SD31	奈	外底	正	楷	(113)	40	76	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	礫微、粗砂、細砂多	並		01t190
F215	有台坏	99	B3	SD31	奈刀女	外底	正	楷	(114)	(44)	75	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	礫少、粗砂、細砂多	良		01t189
F216	無台坏	99	I	SD31	原刀女	外底	正	楷	110	32	83	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	礫、粗砂少、細砂多	良		01t187
F217	蓋	99	I	SD31	本刀女	蓋外	正	楷	123	32		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	礫少、粗砂、細砂多	良		01t188
F218	有台坏	99	B3	SD31	徳万カ呂カ	外底	正	楷	(143)	40		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	緻密、細砂、礫少	良		01t160
F219	有台坏	99	I	SD31	□刀女	外底	正	楷	106	43	57	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	礫微、粗砂、細砂多	良		01t186
F220	無台坏	99	B3	SD31	人	外底	正	異体	125	34	90	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫少	良	明天文字カ	01t151
F221	無台坏	99	B3	SD31	男山	外底	正	楷	128	33	89	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫微	やや不良		01t51
F222	蓋	99	B3	SD31	庄カ	蓋外	正		(120)	31		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰	礫微、粗砂少、細砂多	良		01t181
F223	盤	99	B3	SD31	□	外底	正		149	22	129	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t179
F224	有台坏	99	B3	SD31	○	外底	正		102	43	70	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	砂粒少	良		01t150

報告番号	器種	出年	地区	遺構	墨書	墨書部位	墨書高	字体	口径(mm)	器高(mm)	底径(mm)	外調整	内外調整	底面	色調	胎土	焼成	備考	実測番号
F225	皿	99	B3		□□	外底			180	24	152	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	砂っぽい	良		01t170
F226	無台坏	99	B3	SD31	□	外底					92	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白礫多、白砂	良		02p24
F227	有台坏	99	B3	SD31	文カ	外底	正	楷	107	44	64	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰	粗砂、細砂少	良		01t191
F228	無台坏	99	B3	SD31	□	外底			134	33	100	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白砂	良		02p23
F229	坏蓋	99	B3	SD31	□□	蓋内			130	20		ロクロナデ	ロクロナデ		淡灰/淡灰	白礫少	良		02p27
F230	無台坏	99	B3	SD31	□□	外底					104	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	暗褐/黒	細礫、白砂	不良		02p22
F231	無台盤	99	B3	SD31	□	外底			166	24	142	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	白砂多、黒砂	良		02p30
F232	無台坏	99	B3	SD31	□	外底			(27)		80	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰		良		01t13
F233	無台坏	99	I	SD31	□	外底					116	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	白灰/白灰	白砂多	不良		02p99
F234	有台坏	99	I	SD31	三十	外底	正	異体	111	44	69	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰白	礫微、粗砂、細砂多	やや不良		01t182
F235	無台坏	99	B3		□	外底						ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	白礫、白砂	良		02p32
F236	無台坏	99	E	SE04	平	外底	正	楷	(125)	38	89	ロクロナデ	ロクロナデ	板目状圧痕	灰白/灰白	礫微、粗砂、細砂少	やや不良		01t127
F237	内黒外赤碗	99	E	SE04	平カ	外底	正	楷	133	35	83	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	黒/鈍黄橙	礫、粗砂、細砂微	良		01t129
F238	無台坏	99	E	SE04	平	外底	正	行			68	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	白礫多、白砂	良		02p86
F239	蓋	99	E	SE04	人	外底	正	楷	126	28		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	砂粒多	良	袋文字	01t133
F240	無台坏	99	E	SE04	×女	外底	正	楷	165	27	136	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、粗砂、礫少	良		01t103
F241	無台坏	99	E	SE04	太福麿	外底	正	楷	(22)	75		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	緻密、粗砂、礫	良		01t106
F242	無台坏	99	E	SE04	秋女	外底	正	楷	115	35	73	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	緻密、粗砂、礫	良		01t105
F243	無台坏	99	E	SD12	馬家カ	外底	正	行			92	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白砂多	良		02p97
F244	無台盤	99	E	SE04	×女	外底	正		161	25	135	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	白礫多、白砂	良		02p83
F245	無台坏	99	E	SE04	□	外底					96	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰/淡灰	白礫、白砂多	良		02p82
F246	無台坏	99	E	SE04	□	外底			110	30	76				灰褐/灰	砂粒少	良		01t171
F247	無台坏	99	E	SE04	□	外底					83	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	淡灰褐/淡灰褐	白礫、白砂	不良		02p84
F248	坏蓋	99	E	SE04	文	蓋内	正	楷	122	24	22	ロクロナデ	ロクロナデ		灰、灰褐/灰褐、灰	白大礫少、白砂多	良		02p62
F249	坏蓋	99	E	SE04	(転用碗)	蓋内			140	28		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	白礫、白砂	良		02p79
F250	無台坏	99	E	SE04	□	外底			123	33	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	暗灰黄/暗灰黄	緻密、細砂、粗砂少	良		01t157
F251	有台坏	99	E	SE04	□	外底			120	39	82	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	白礫、白砂	良		02p80
F252	無台坏	99	G	SD18	平	外底	正	楷	(15)	84		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	明緑灰/明緑灰	礫微、粗砂少、細砂多	良		01t183
F253	有台坏	02	M3		□	外底			154	98		ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰白/灰白	粗砂少、細砂少	良		03b114
F254	有台坏	02	N2	SD15	人	外底	正	楷	112	38	62	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	大礫、粗砂	良	袋文字	03b119
F255	有台坏	02	N2	SD12	□	外底						ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰黄褐/褐灰	粗砂、海綿骨針	良		03b1106
F256	無台坏	02	N2	SD12	□	外底			141	34	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	暗灰黄/灰白	粗砂	良		03b118
F257	無台坏	00	O1	SD03	□女	外底	正	楷	112	33	84	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰白/灰白~灰	礫少、粗砂少	良		02s12
F258	有台坏	00	O1	SD03	□	外底			(160)	(45)	109	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、細砂多	良		02s11
F259	無台坏	00	O1	SD07	□	外底			(139)	(43)	94	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白/灰白	礫少、粗砂、細砂多	良		02s13
F260	無台坏	00	O1	SD03	□	外底			(150)	(40)	113	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、細砂多	良		02s14
F261	有台坏	01	R1	表土除去	人	外底	正	楷	141	45	98	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	細砂少、礫微	良	袋文字	03b25
F262	無台坏	01	O2	SD12	人	外底	正	楷	126	34.5	68	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、海綿骨針微	良	袋文字	03b211
F263	無台坏	02	Q2	川	語	外底	正	楷	137	39	93	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰白：灰白	礫・海綿骨片	良		05y2
F264	無台坏	02	Q2	川	天平二年	外底	正	楷	143	35	102	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰：灰	粗砂・細砂			05y5
F265	有台坏	02	Q2	川	平	外底	正	楷	121	42	88	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰：灰	粗砂、礫	良		05y3
F266	無台坏	02	Q2	川	大	外底	正	楷	128	33	98	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白：灰白	粗砂小		袋文字	05y4
F267	無台坏	02	Q2	川	人	外底	正	楷	123	37	86	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰白：灰白	粗砂多		袋文字	05y6
F268	無台坏	02	Q2	川	人	外底	正	楷	127	33	92	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰：灰	粗砂、礫	良	袋文字	05y1
F269	無台盤	01	R1	河道	遊多有女・人	外底	正	行・楷	179	32	149	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	粗砂、礫	良	袋文字	03b29
F270	無台坏	01	R1	河道	奈ツ加志・犬	外底	正	楷	142	31	94	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	暗灰黄/暗灰黄	砂粒	良		03b27
F271	無台坏	01	R1	河道	枚人	外底	正	楷	148	30	116	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	暗灰黄/暗灰褐~灰	細砂、礫	良		03b28
F272	無台坏	01	R1	河道	倉持	外底	正	楷	124	41.5	93	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	白砂	良		03b210
F273	無台坏	01	R1	河道	×年	外底	正	楷	148	31	114	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	細砂	良		03b26
F274	無台坏	01	R1	表土除去	廿	外底	正	異体	127	33	86	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り後ナデ	灰/灰	礫微	良		03b24
F275	有台坏	01	R1	河道	(転用碗)	外底			141	40	100	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、砂礫	良		03b2181
F276	有台坏	01	R1	表土除去	(転用碗)	外底			113	39	73	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切り	灰/灰	粗砂、礫	良		03b2178

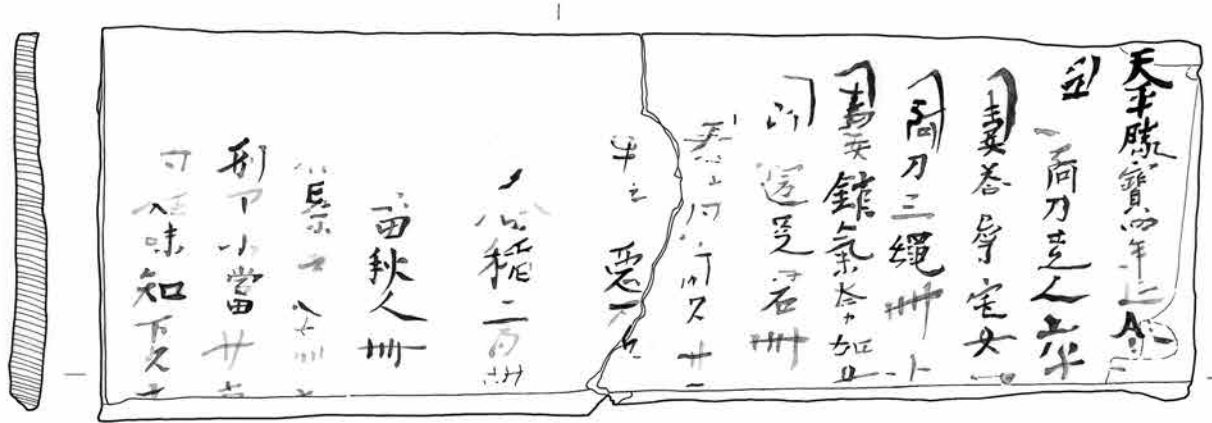
報告 番号	器種	出 産	地区	遺構	墨書	墨書 部位	髹 漆	字 体	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	外調整	内外調整	底面	色調	胎土	焼成	備考	実測 番号	
F277	有台坏	01	R1	河道 (転用祝)	外底			124	42	90		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		砂粒少	良		03b2179	
F278	蓋	01	T	SE08	□	蓋外			30	120		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	細砂少、礫微	良		03b23	
F279	無台坏	01	T	SD05	□	外底			(245)	81		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	細砂少	良		03b22	
F280	有台坏	02	W	SD62	男山	外底	正	楷	130	44	85	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白/灰白	礫・粗砂多	良		03b17	
F281	無台坏	02	W	SD62	男山	外底	正	楷	126	35	96	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫・粗砂多	良		03b18	
F282	有台坏	02	W	SD62	山田	外底	正	楷	133	44.3	96	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫微、粗砂多	良		03b16	
F283	無台坏	02	W	SD62	山田	外底	正	楷	130	33	105	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	礫・粗砂少	良		03b15	
F284	無台坏	02	W	SD62	山田	外底	正	楷	133	46	108	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	粗砂多	やや甘い		03b13	
F285	無台坏	02	W	SD62	山田	外底	正	楷	121	46	90	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰白	礫少、粗砂多	良		03b14	
F286	無台坏	02	W	SD62	人	外底	正	楷	142.5	35	102	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰/灰白	礫・粗砂多	やや甘い	袋文字	03b110	
F287	蓋	02	W	SD62	奈刀女	蓋外	正	楷	126	28		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	礫・粗砂多	良		03b11	
F288	有台坏	02	W	SD62	奈刀女	外底	正	楷	109	41	63	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白、灰	礫・粗砂多	良		03b12	
F289	無台坏	02	W	SD62	宮家	外底	正	楷	127	34	81	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	黄灰/黄灰	礫・粗砂多	良		03b19	
F290	無台坏	02	W	SD62	文	外底	正	楷	(157)	(34)	(118)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		礫・粗砂多	良		03b1101	
F291	有台坏	02	W	SD62	(転用祝)	外底			142	28	93	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	礫・粗砂多	良		03b1102	
F292	有台坏	02	W	川	木	外底	正	楷	143	70	81	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	粗砂、礫	良		03b111	
F293	蓋	02	W	川	津	蓋外	正	楷		16		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	粗砂	良		03b114	
F294	有台坏	02	W	川	津	外底	正	楷			74	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰：灰	礫			05ka176	
F295	有台坏	02	W	川	津	外底	正	楷			84	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白：灰白	礫			05ka175	
F296	無台坏	02	W	川	津	外底	正	楷	135	33	72	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白/灰白	粗砂、礫	甘		03b1108	
F297	無台盤	02	W	川	津	外底	正	楷	157	25	117	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	外：淡黄	粗砂	やや甘い		03b115	
F298	無台坏	02	W	川	平	外底	正	楷	122	36	66	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	粗砂、細砂	良		03b112	
F299	無台坏	02	W	川	平	外底	正	楷	122	32	80	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白/灰白	粗砂、礫	良		03b113	
F300	無台坏	02	W	川	肩	[]	外底					ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	粗砂	良		03b1105	
F301	無台坏	02	W	川	肩	奉カ	外底	正	楷	206	35	162	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	粗砂、礫微	良		03b1103
F302	無台坏	02	W	川	[]	外底			(144)	(39)	(115)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	粗砂	良		03b1104	
F303	有台坏	02	W	川	□	外底			(18)	85		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	粗砂	良		03m123	
F304	有台坏	02	W	川3区	人カ	外底			(245)	115.5		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	粗砂	良	袋文字	03m122	
F305	無台杯	02	W	川	人	外底	正	楷			109	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白：灰黄	礫		袋文字	05ka177	
F306	無台坏	02	W	SB357 P46	宅	外底	正	行	119	31	72	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	灰/灰	粗砂	良		03b116	
F307	無台坏	02	W	SX51	平カ	外底	正		(148)	(28)	(96)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰白/灰白	粗砂	良		03b1107	
F308	坏蓋	02	W	川	肩	□	蓋内			36		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰	礫多	良	線刻	03b117	
F309	坏蓋	02	W	川	肩	井	蓋内		125	18		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰/灰白	粗砂、礫微	良	線刻	03b120	



第176図 古代遺物実測図91 (1/2)



第177图 古代遺物実測図92 (1/2)



W501



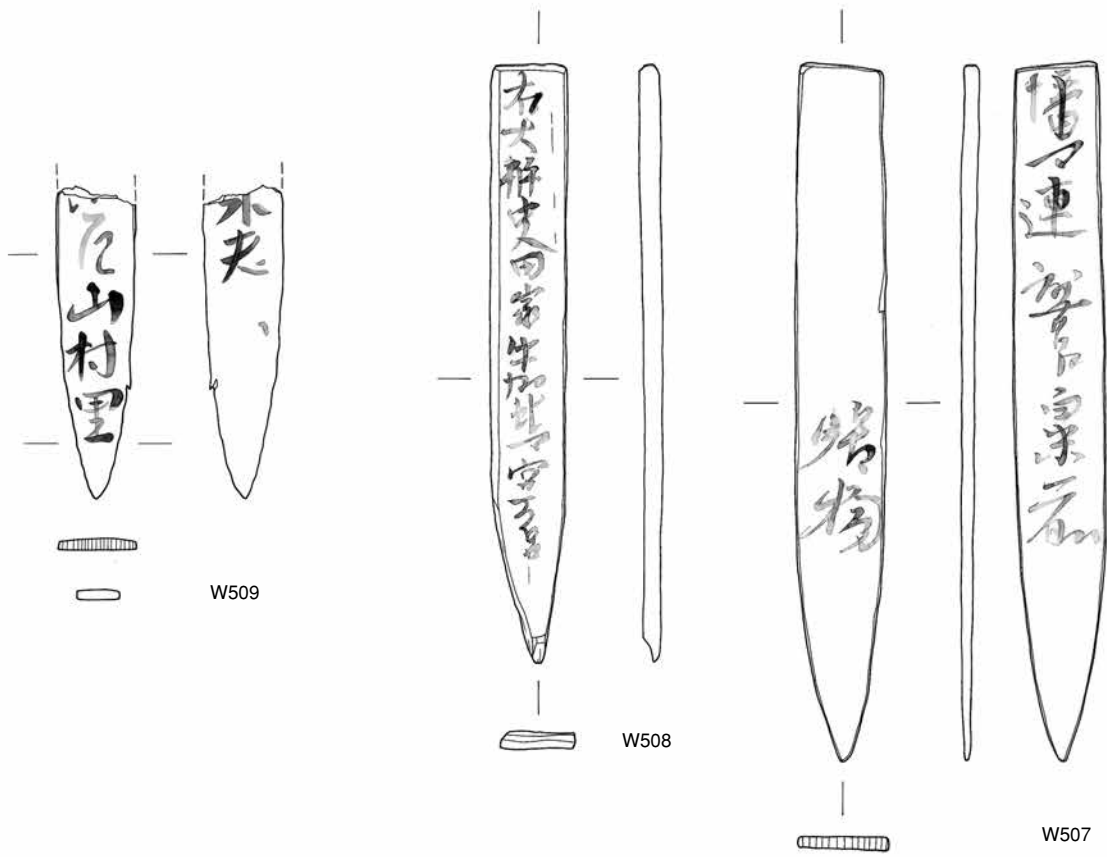
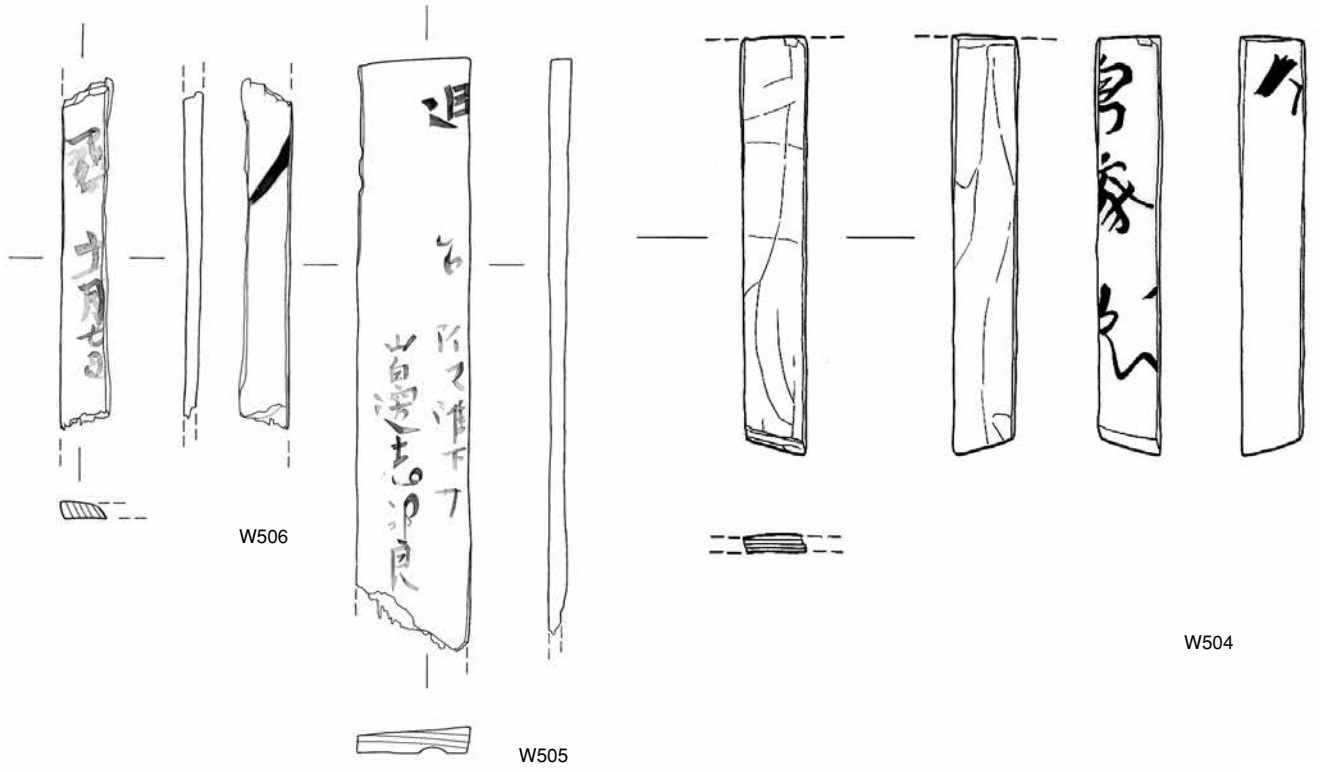
W503



W502

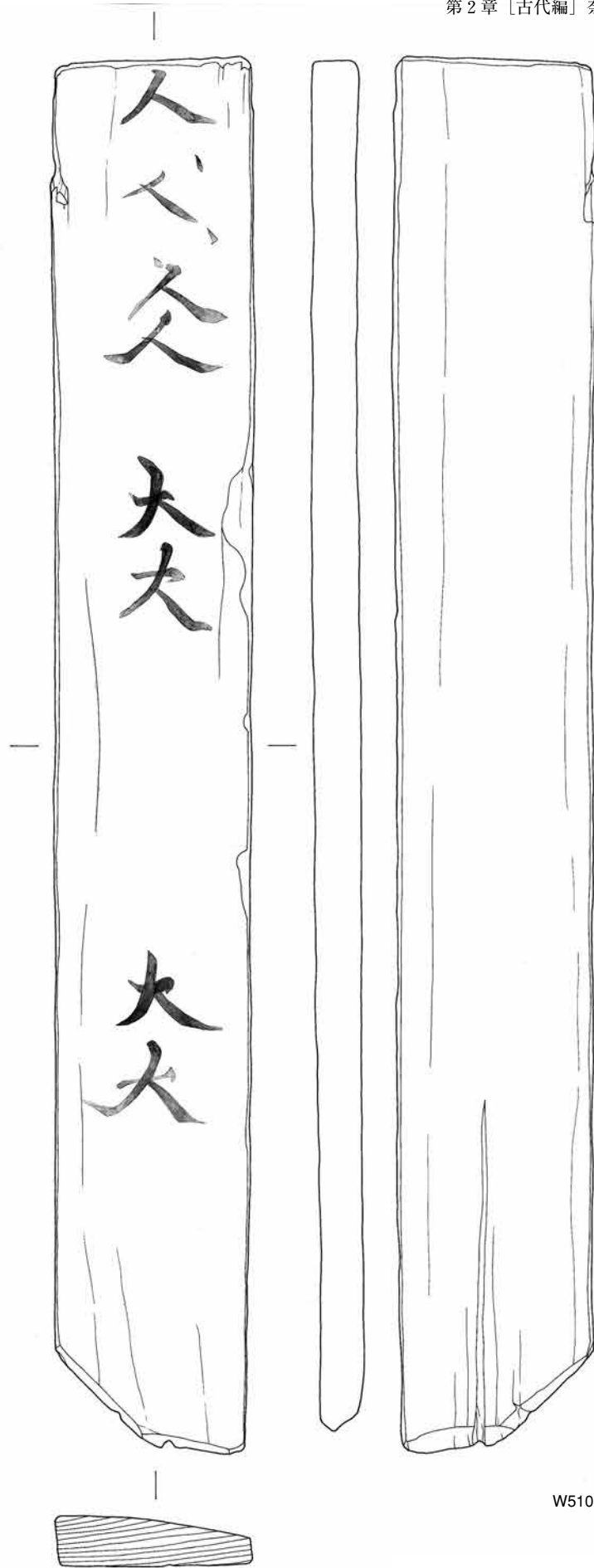
0 10cm

第178図 古代遺物実測図93 (1/2)



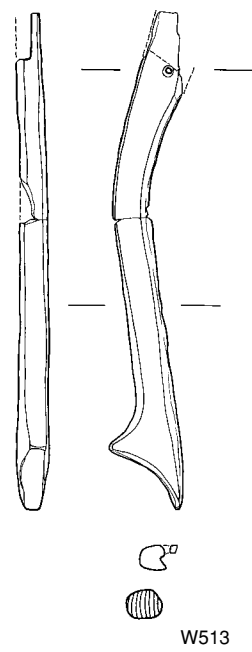
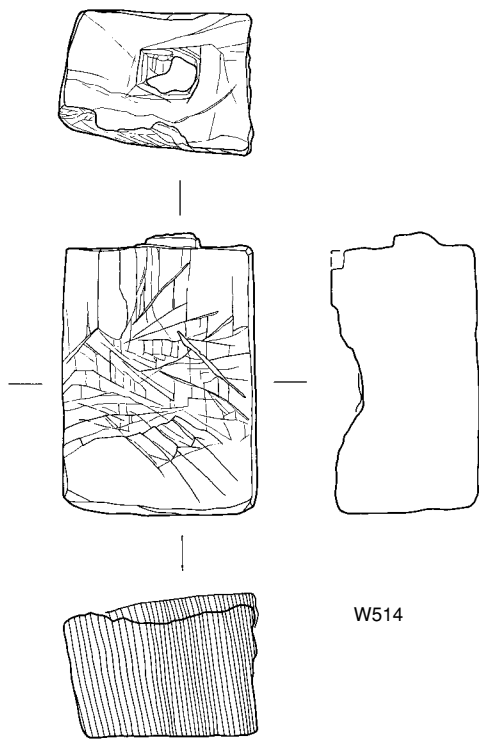
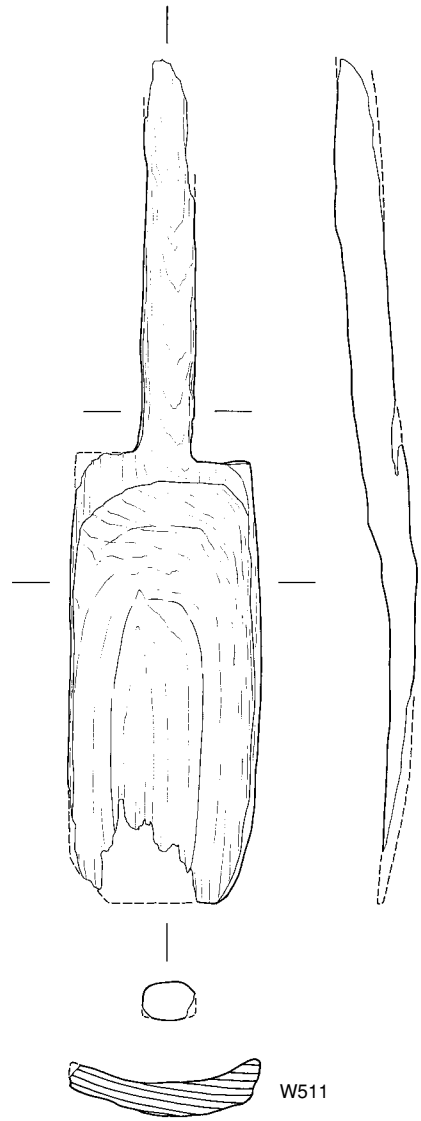
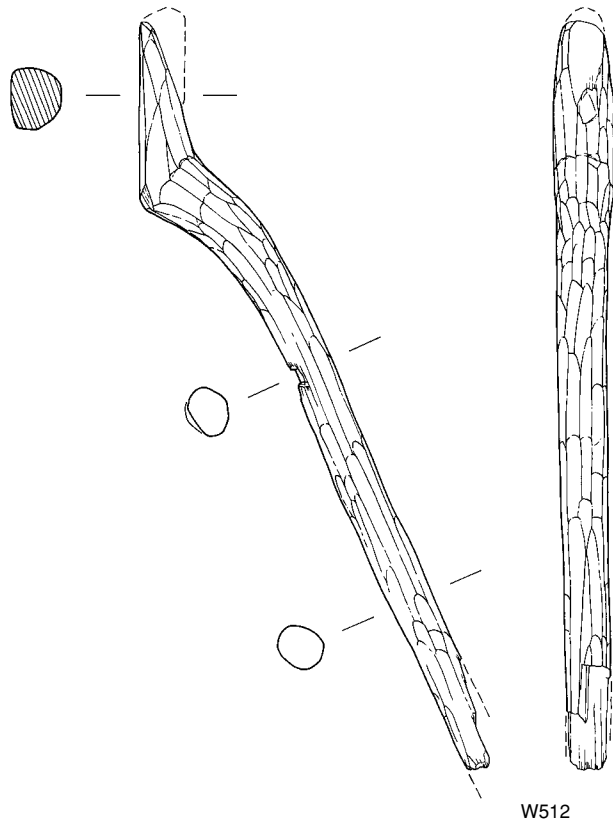
0 10cm

第179図 古代遺物実測図94 (1/2)



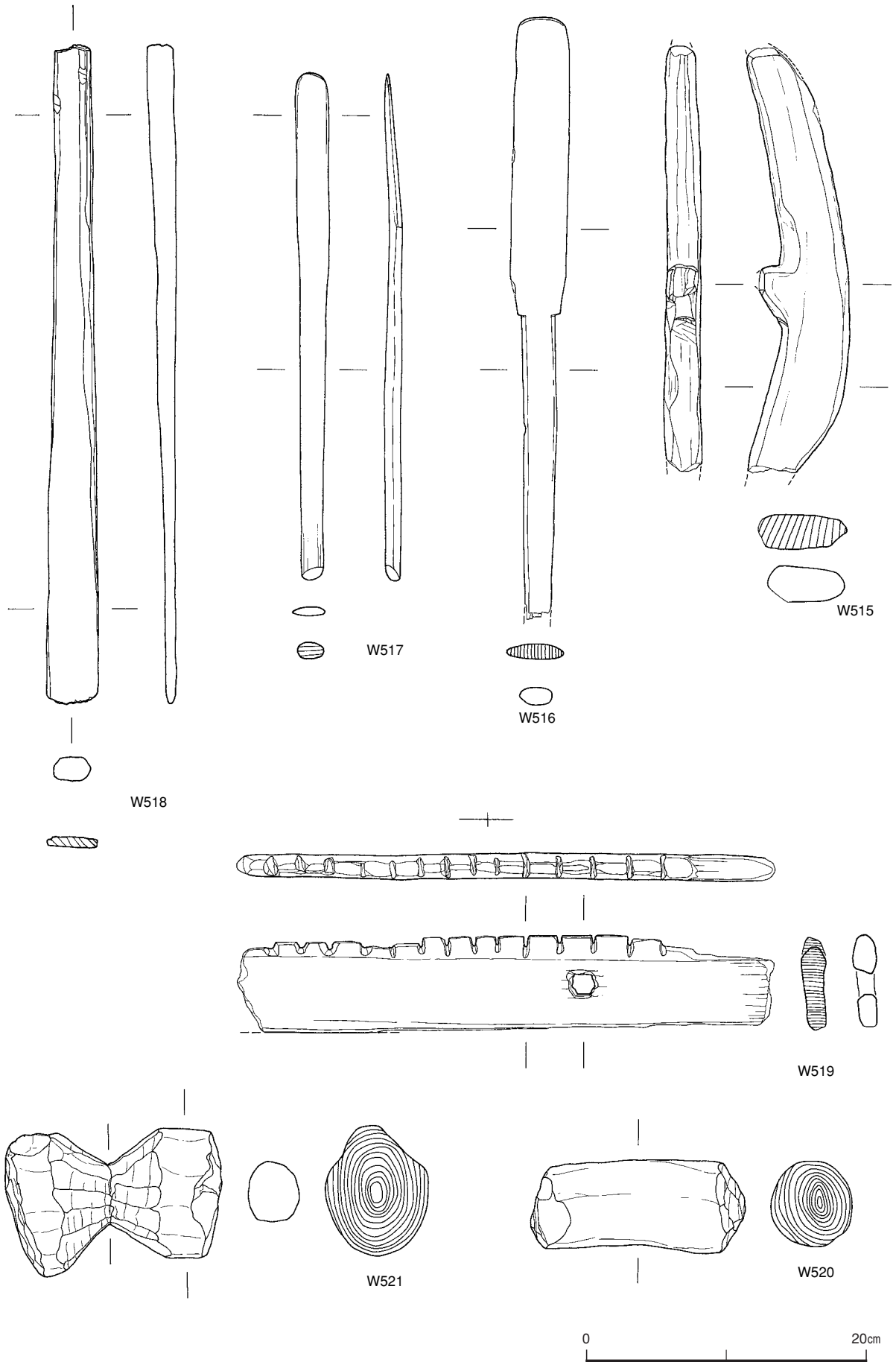
第180図 古代遺物実測図95 (1/2)

0 10cm

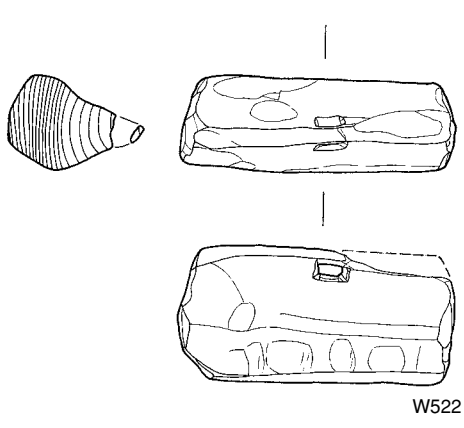


0 20cm

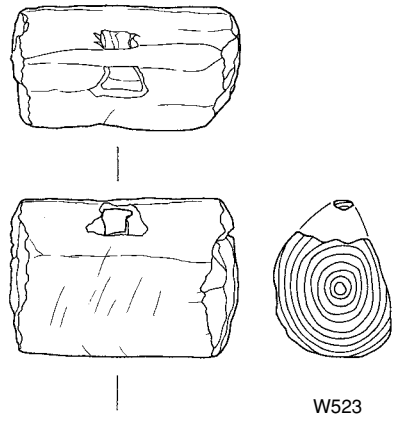
第181图 古代遺物実測図96 (1/4)



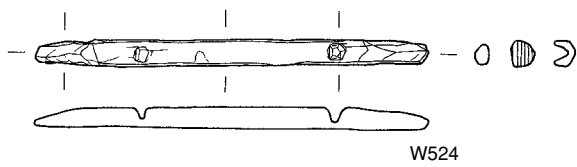
第182図 古代遺物実測図97 (1/4)



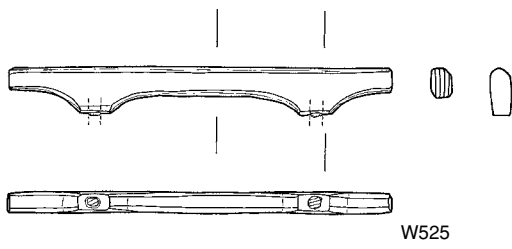
W522



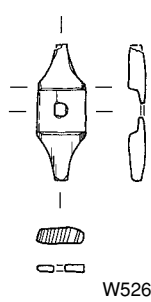
W523



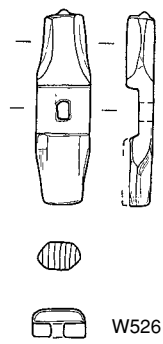
W524



W525



W526

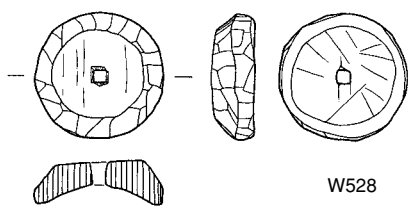


W526



W529

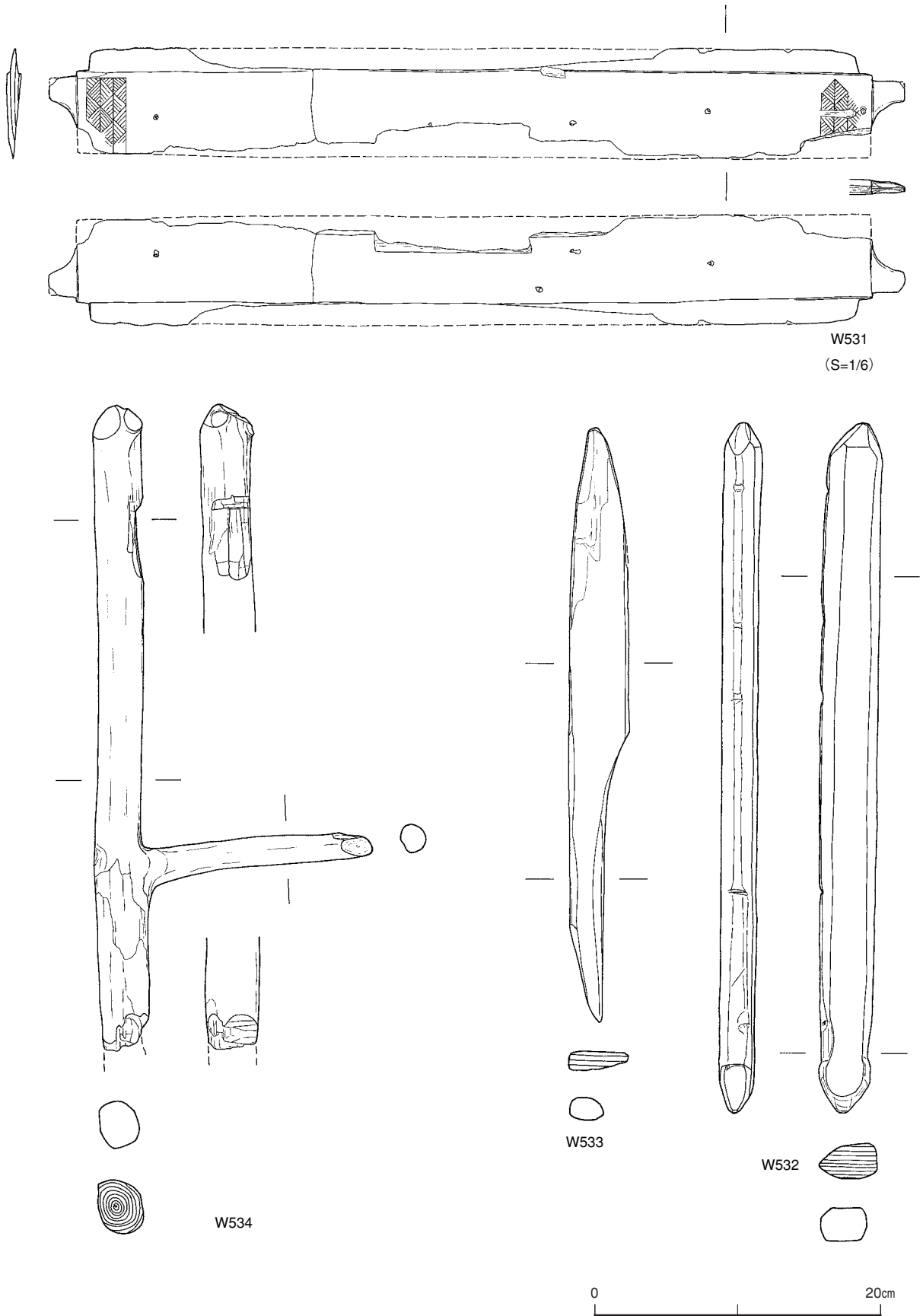
W530



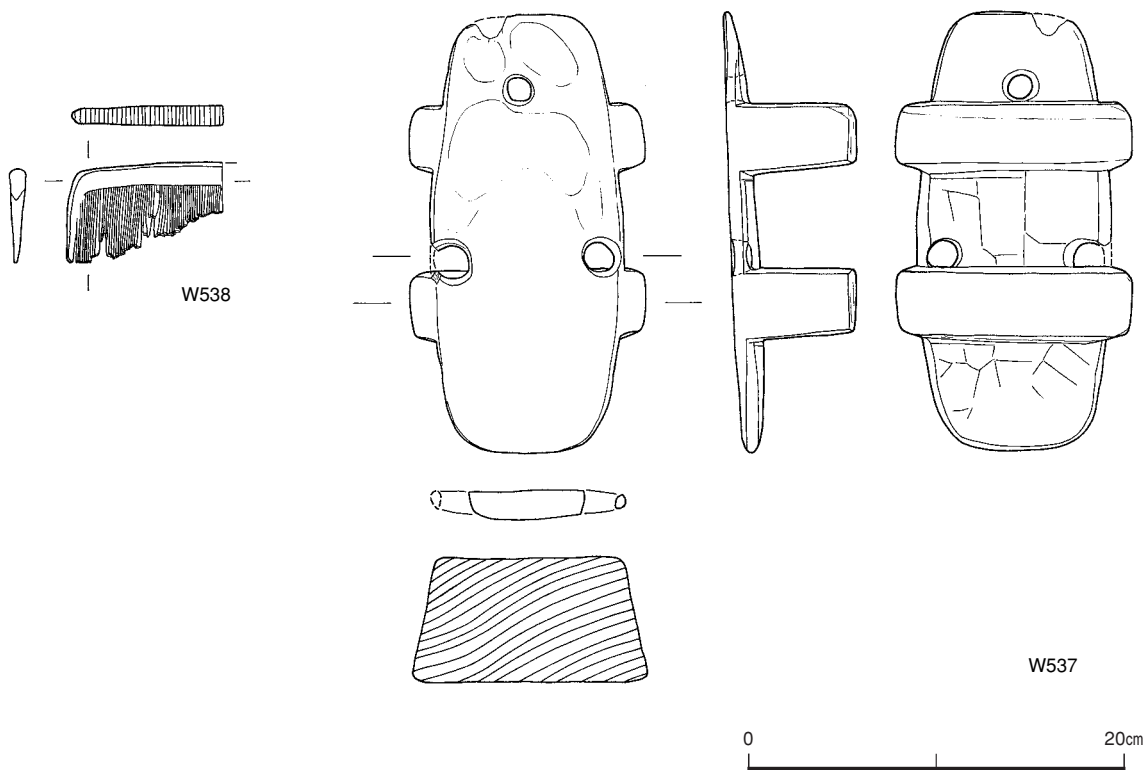
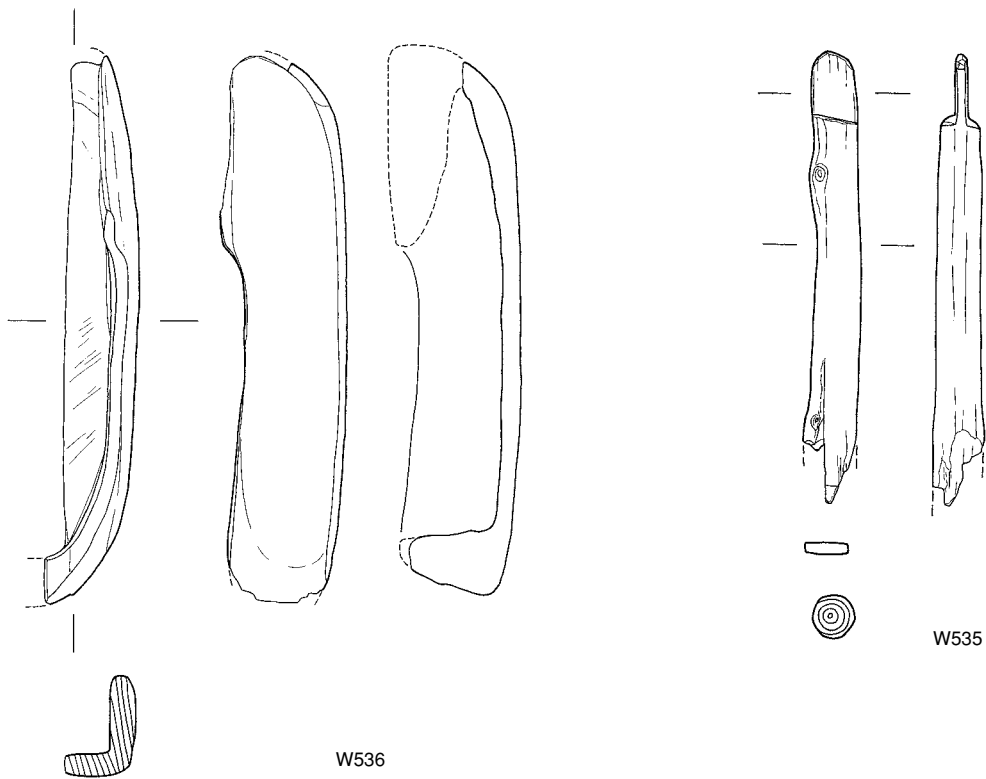
W528



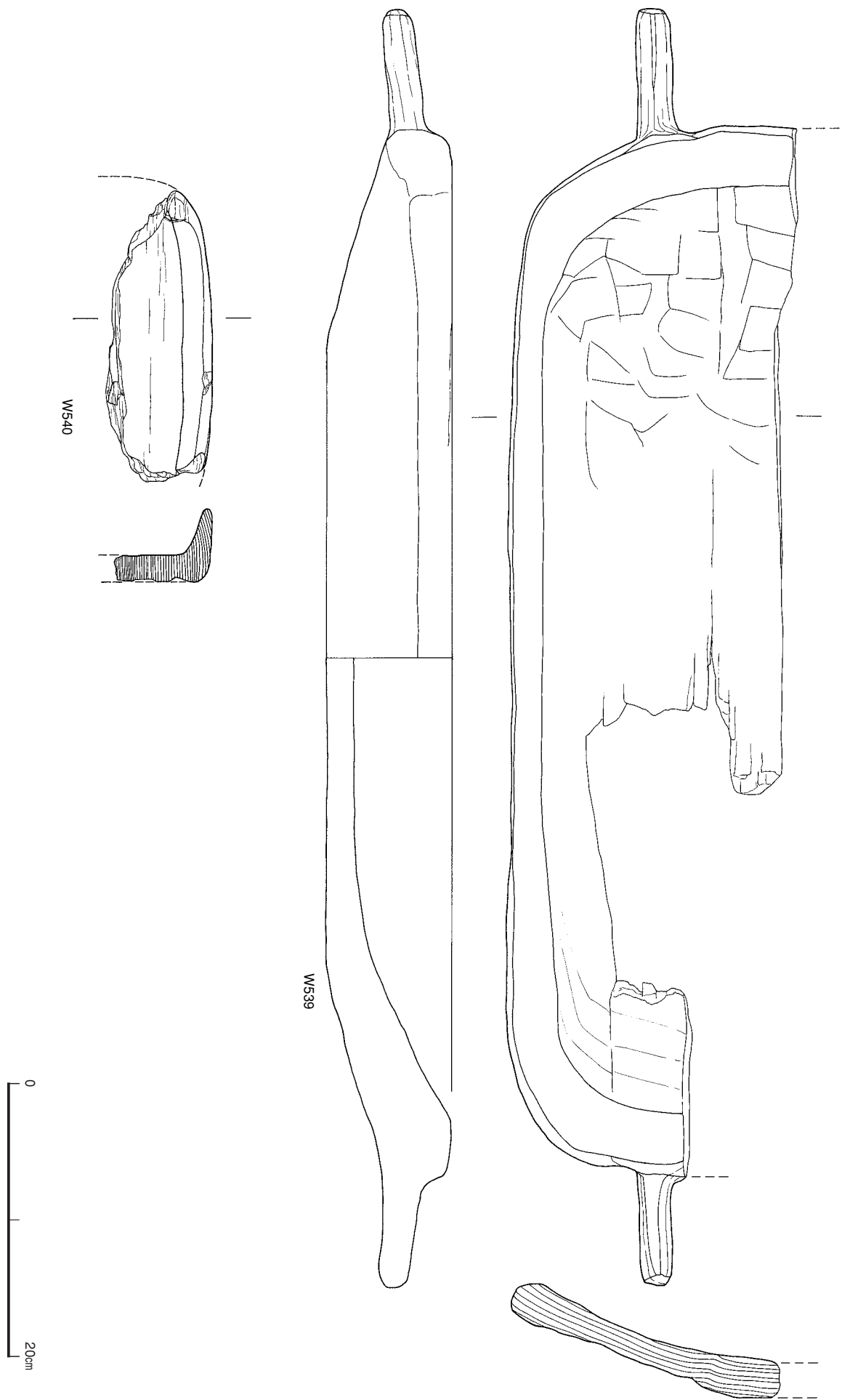
第183図 古代遺物実測図98 (1/4)



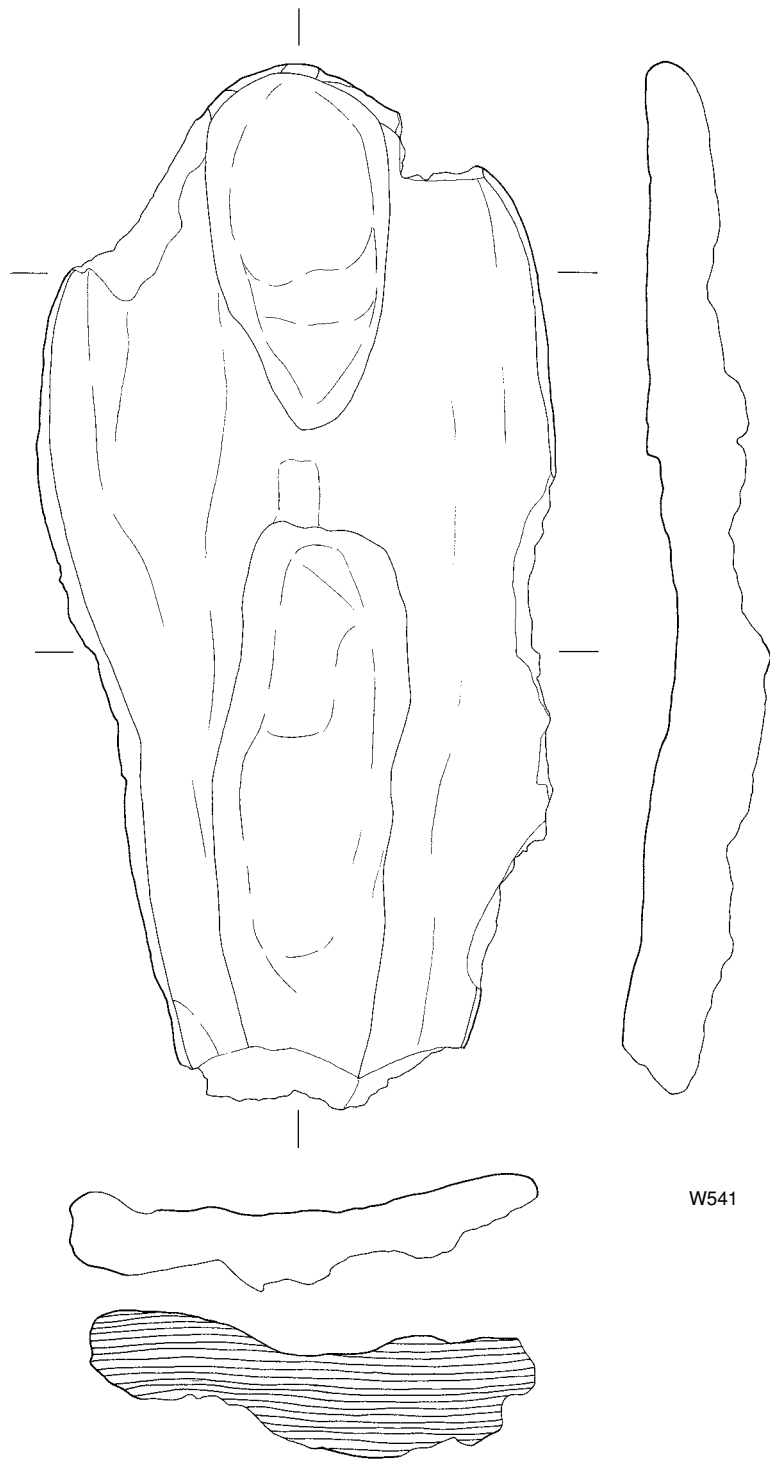
第184図 古代遺物実測図99 (1/4・1/6)



第185図 古代遺物実測図100 (1/4)



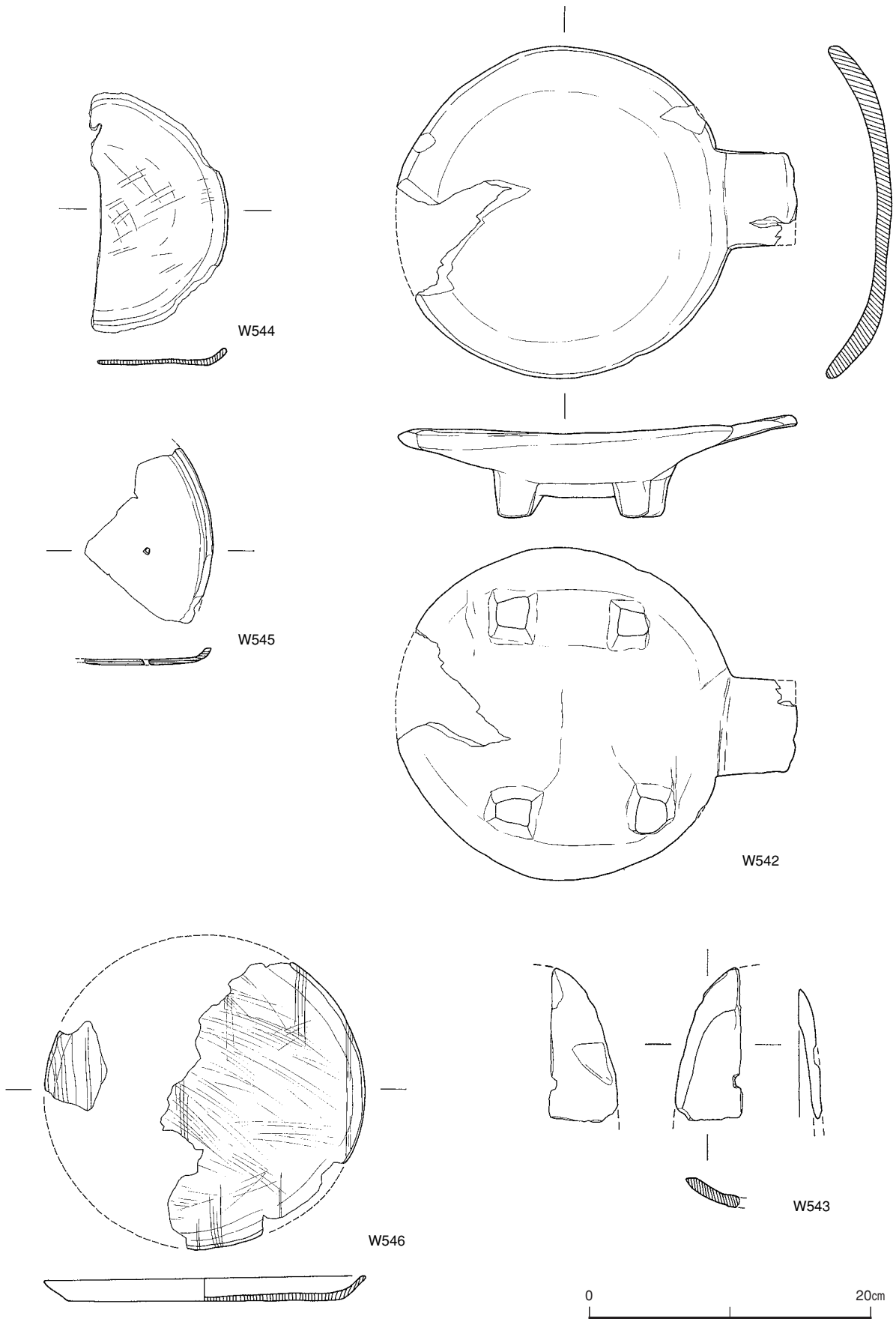
第186図 古代遺物実測図101 (1/4)



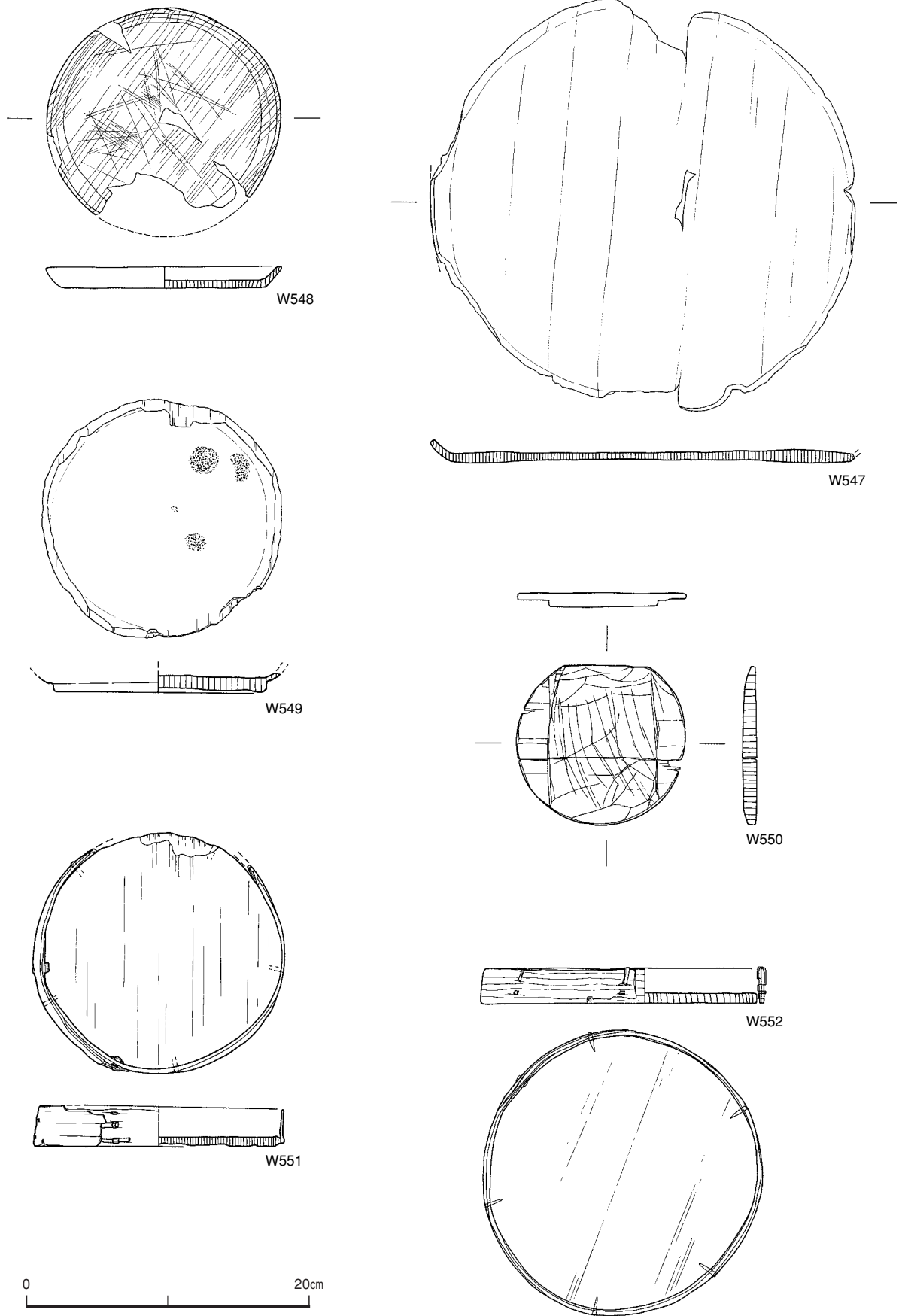
W541



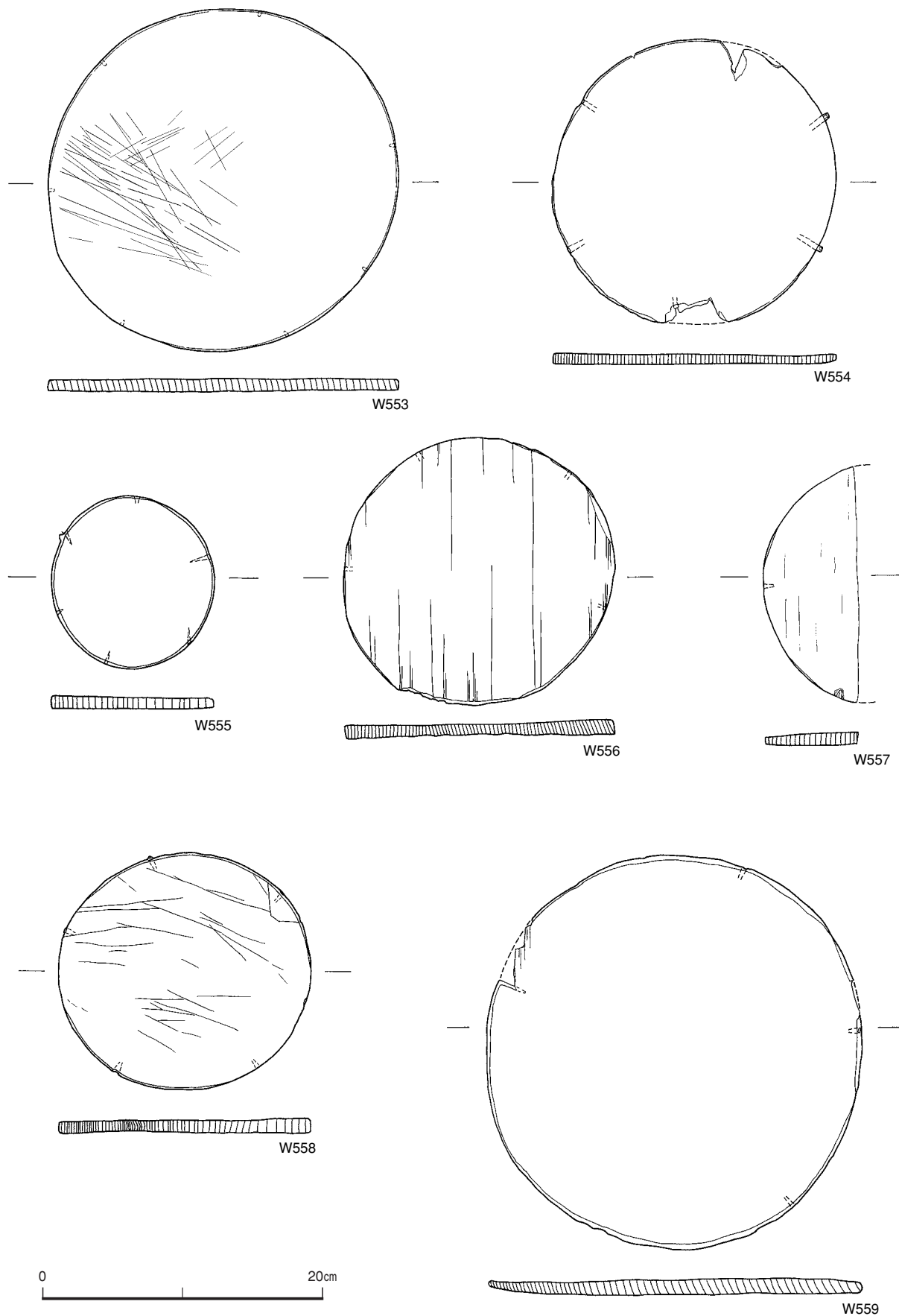
第187図 古代遺物実測図102 (1/4)



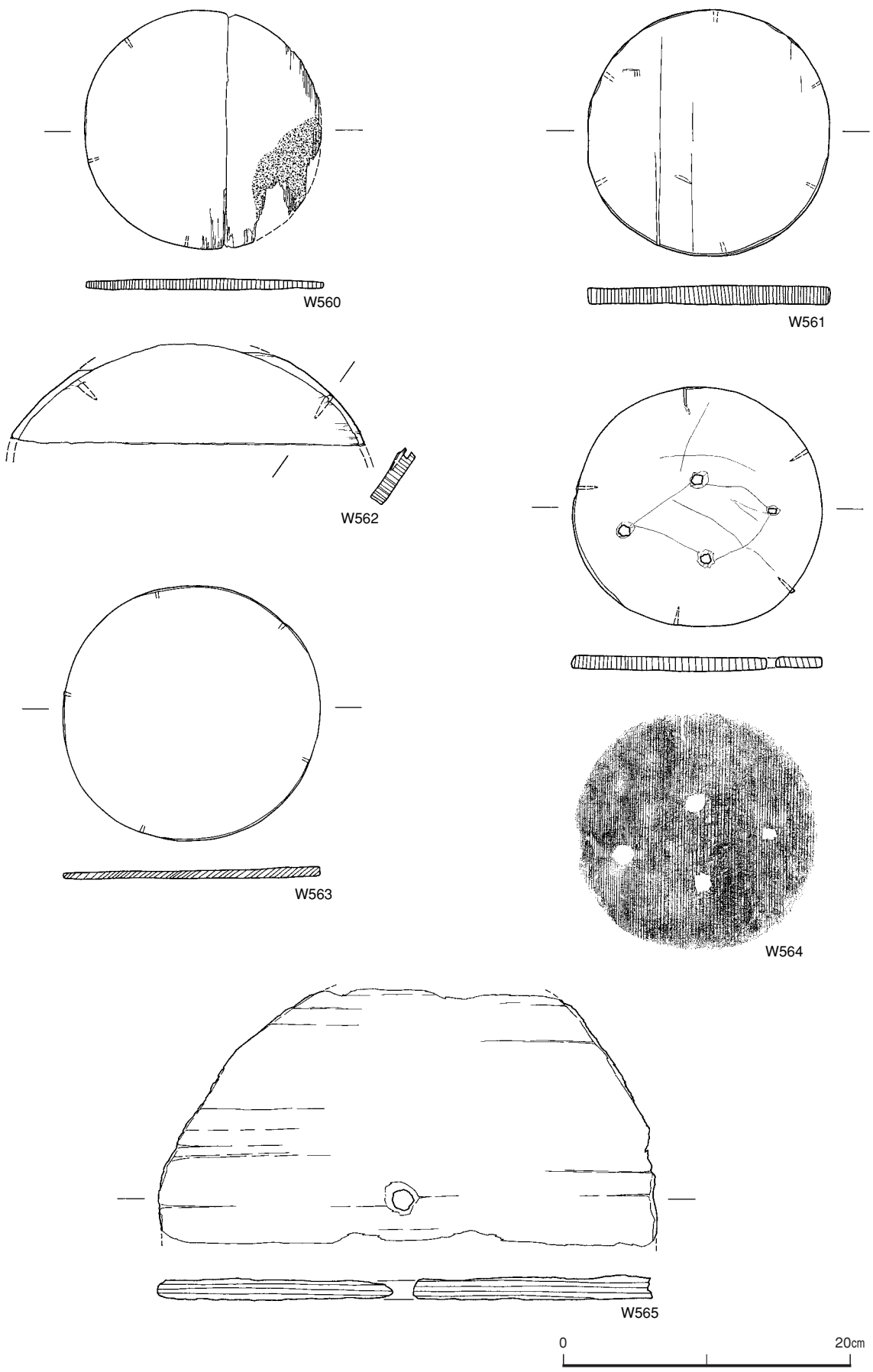
第188図 古代遺物実測図103 (1/4)



第189図 古代遺物実測図104 (1/4)

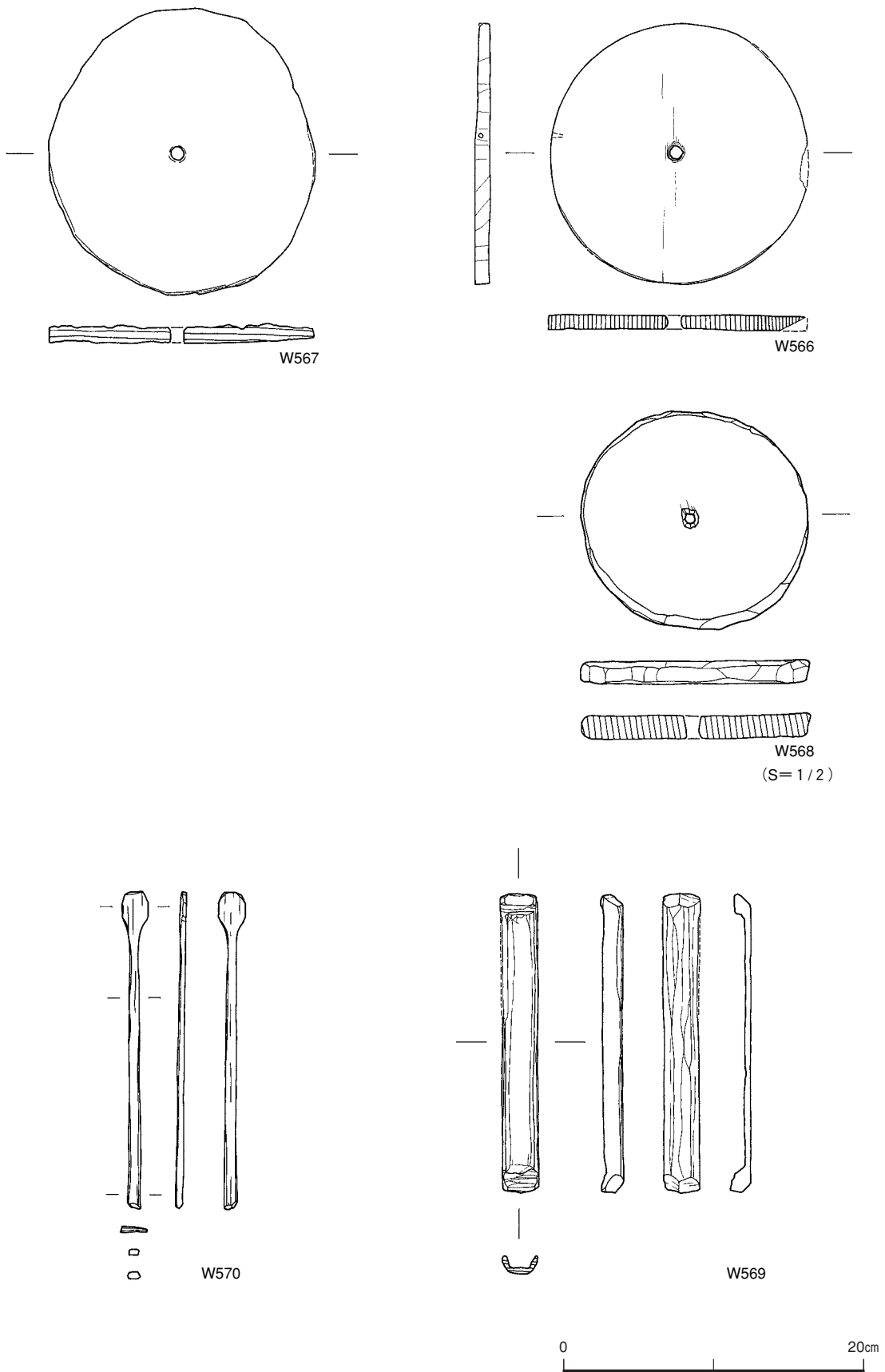


第190図 古代遺物実測図105 (1/4)

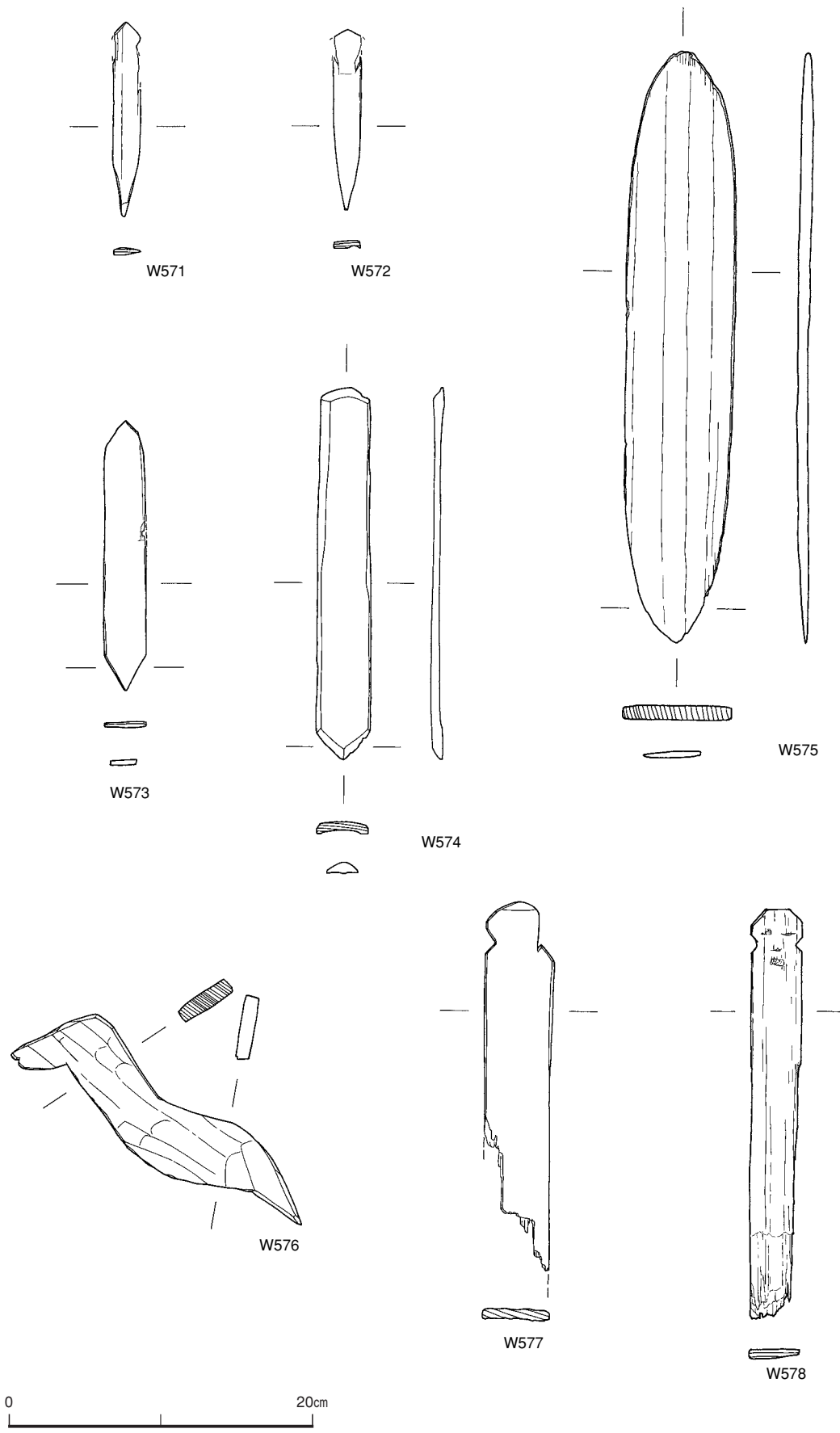


0 20cm

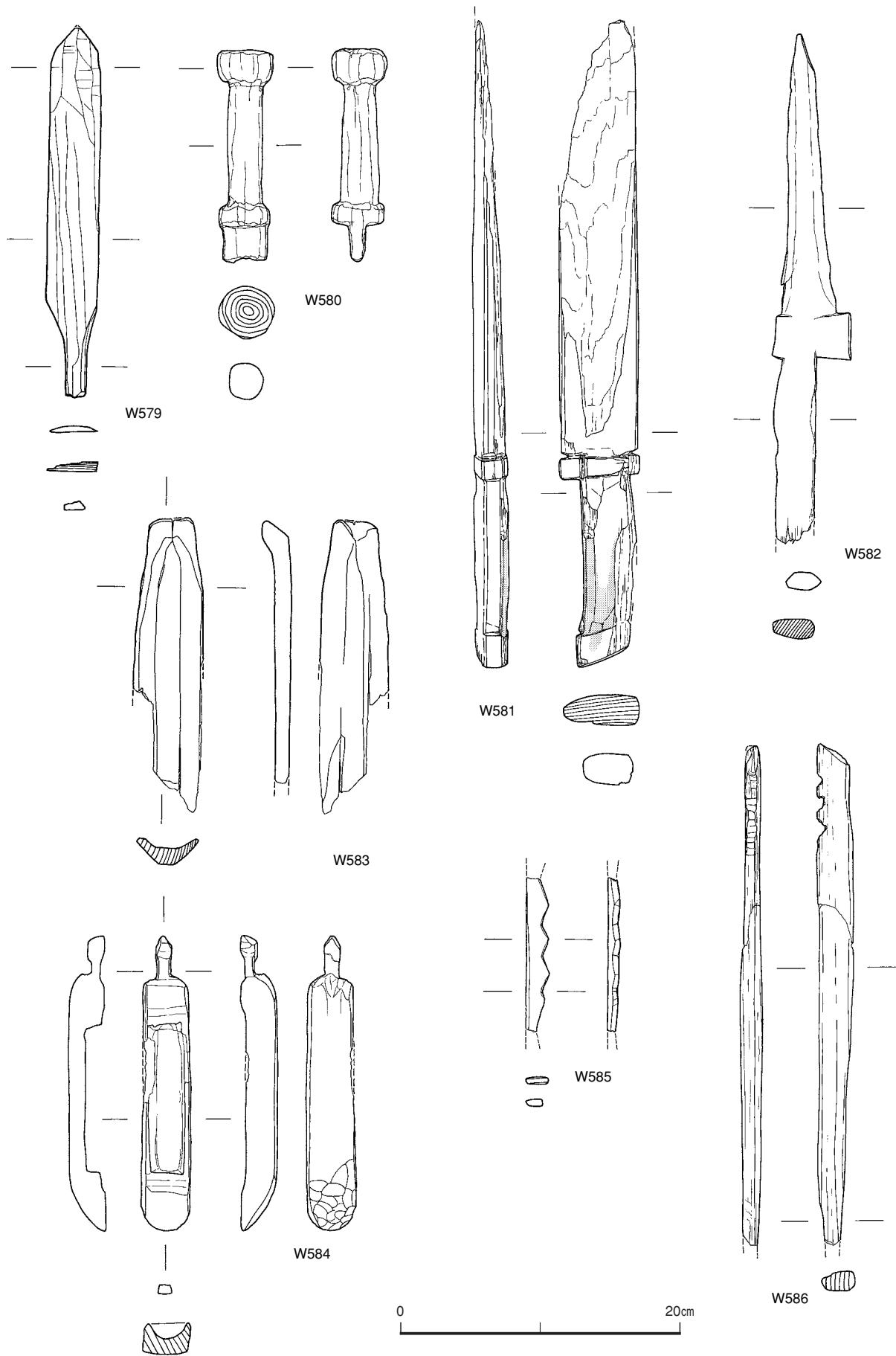
第191図 古代遺物実測図106 (1/4)



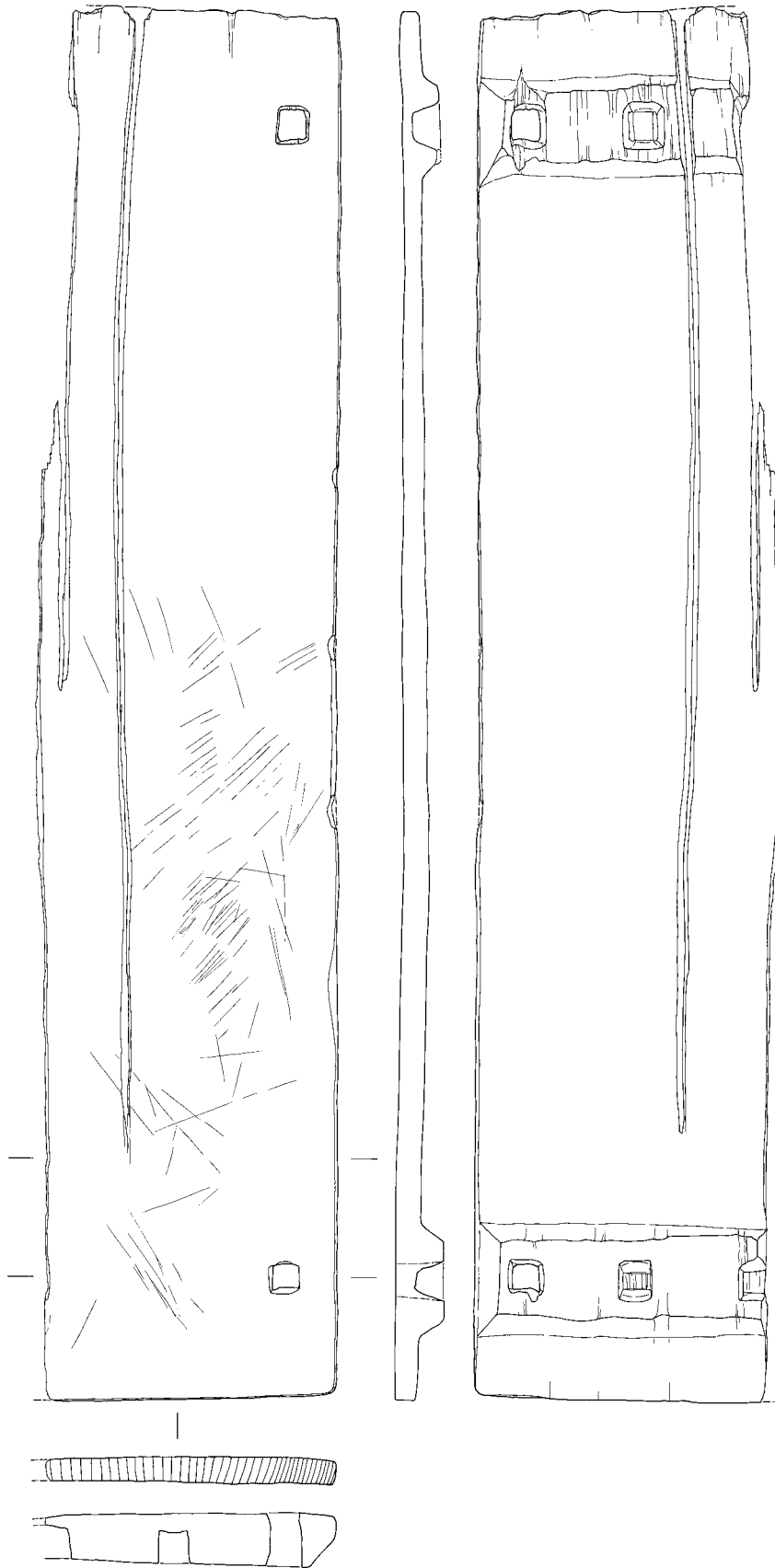
第192図 古代遺物実測図107 (1/2・1/4)



第193図 古代遺物実測図108 (1/4)



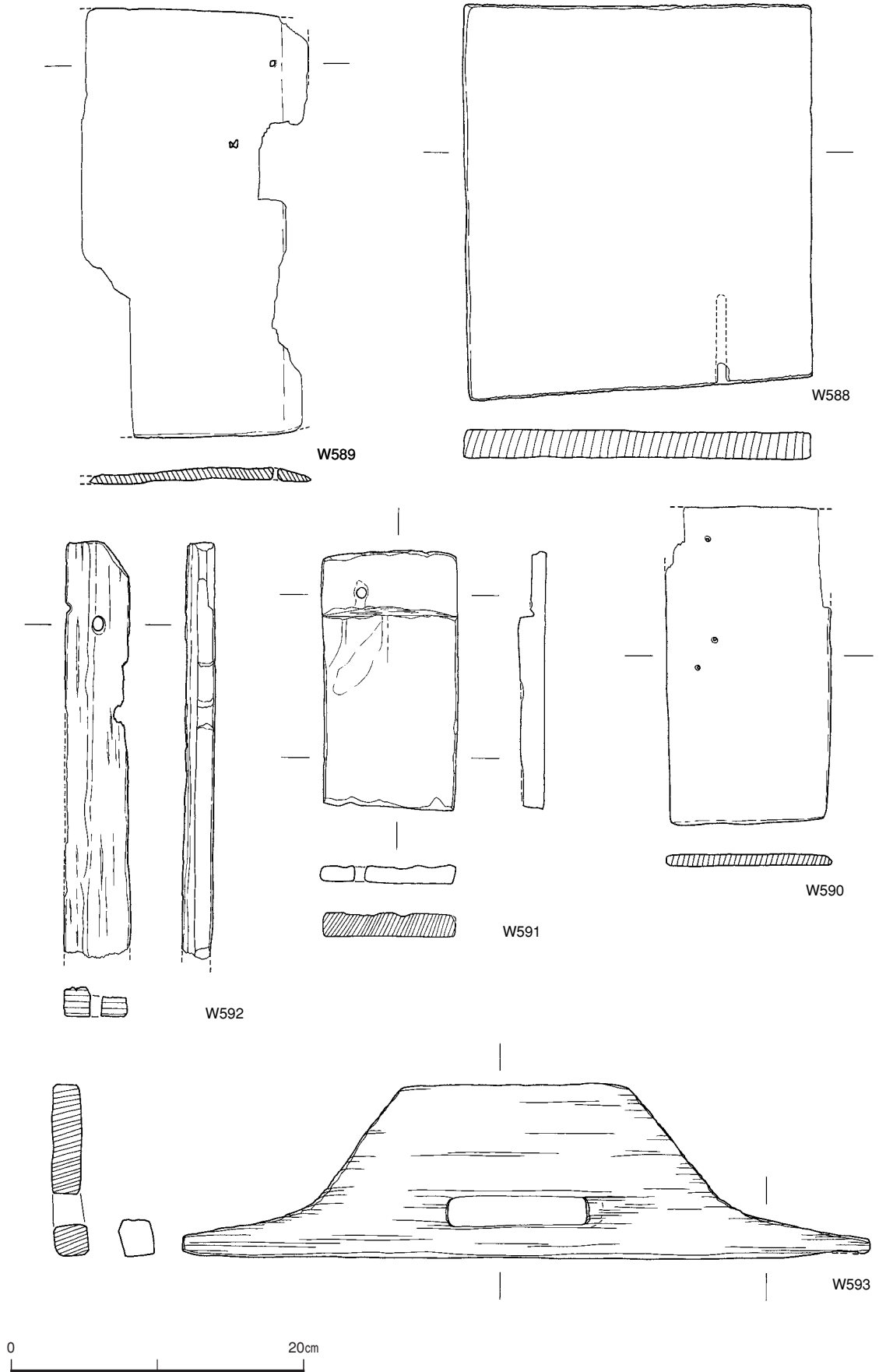
第194図 古代遺物実測図109 (1/4)



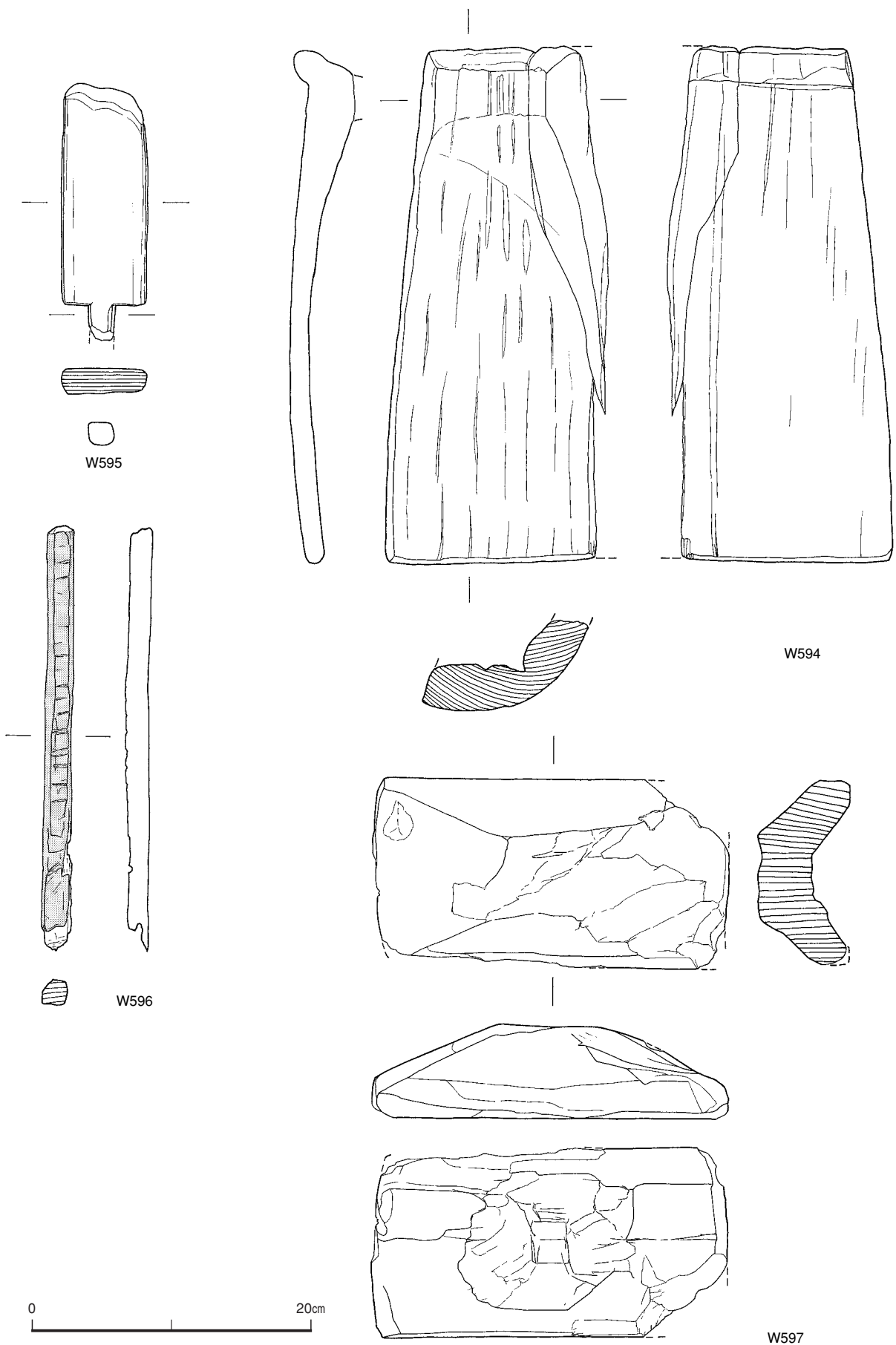
W587

第195図 古代遺物実測図110 (1/5)

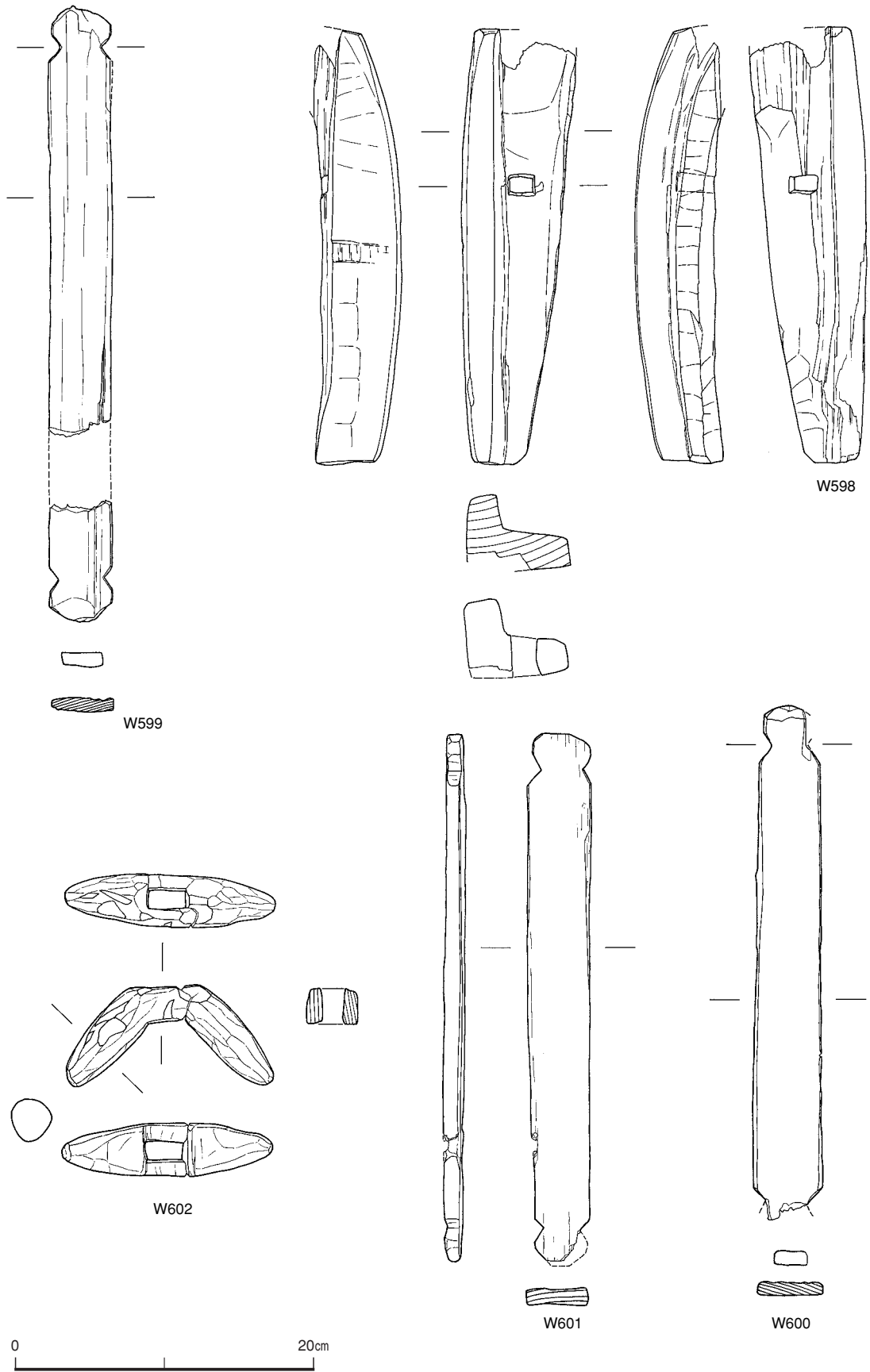
0 20cm



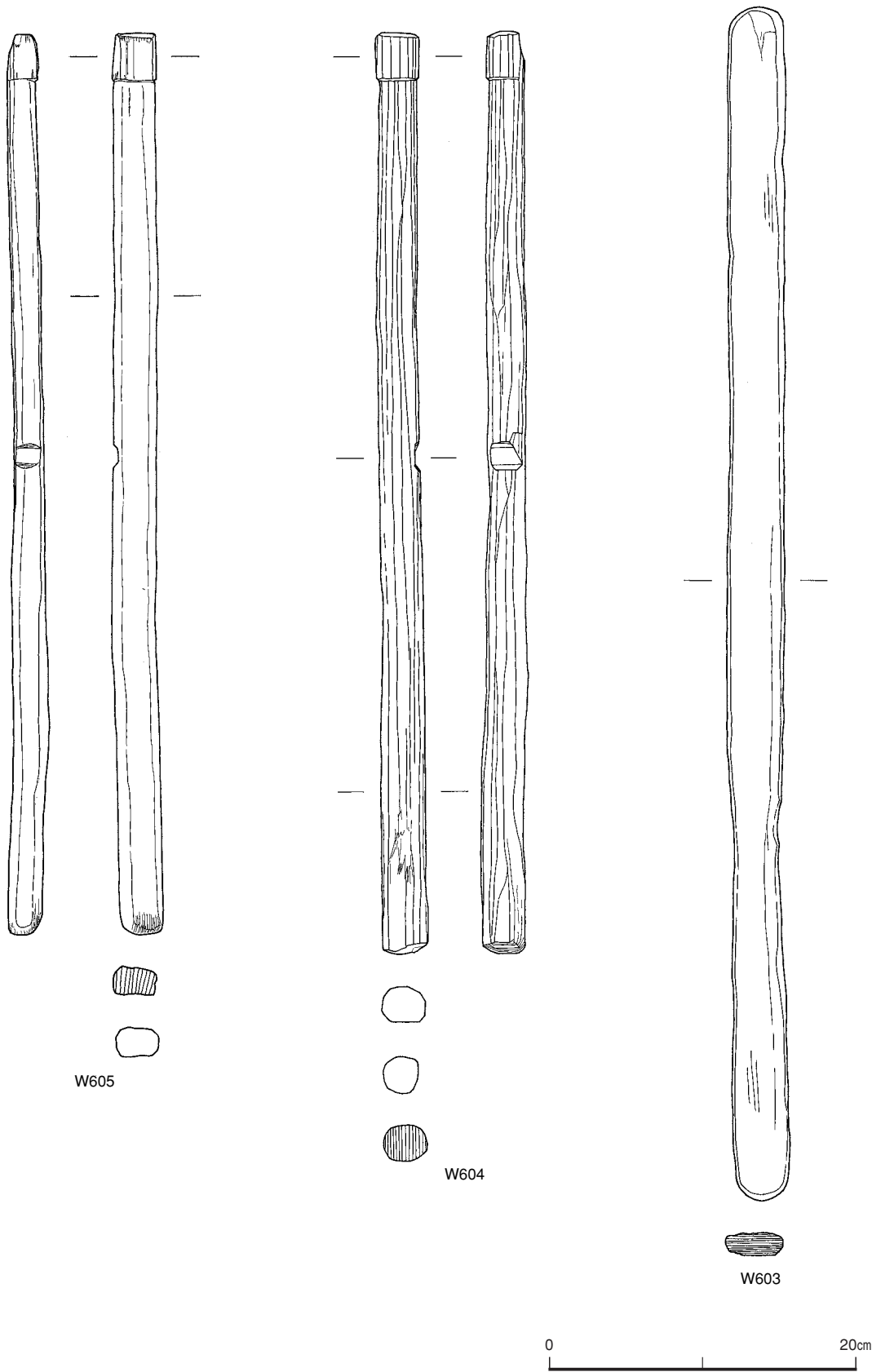
第196図 古代遺物実測図111 (1/4)



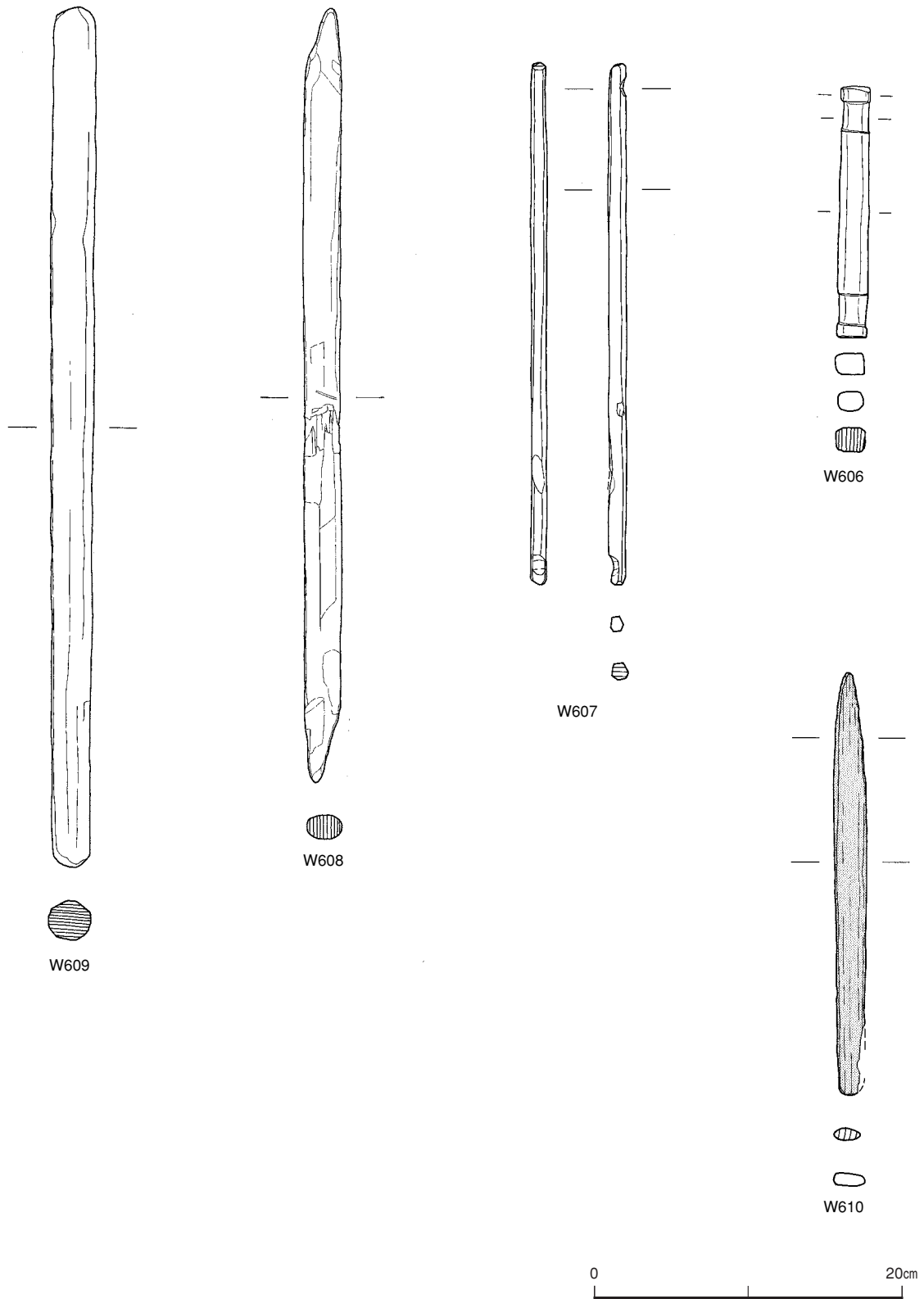
第197図 古代遺物実測図112 (1/4)



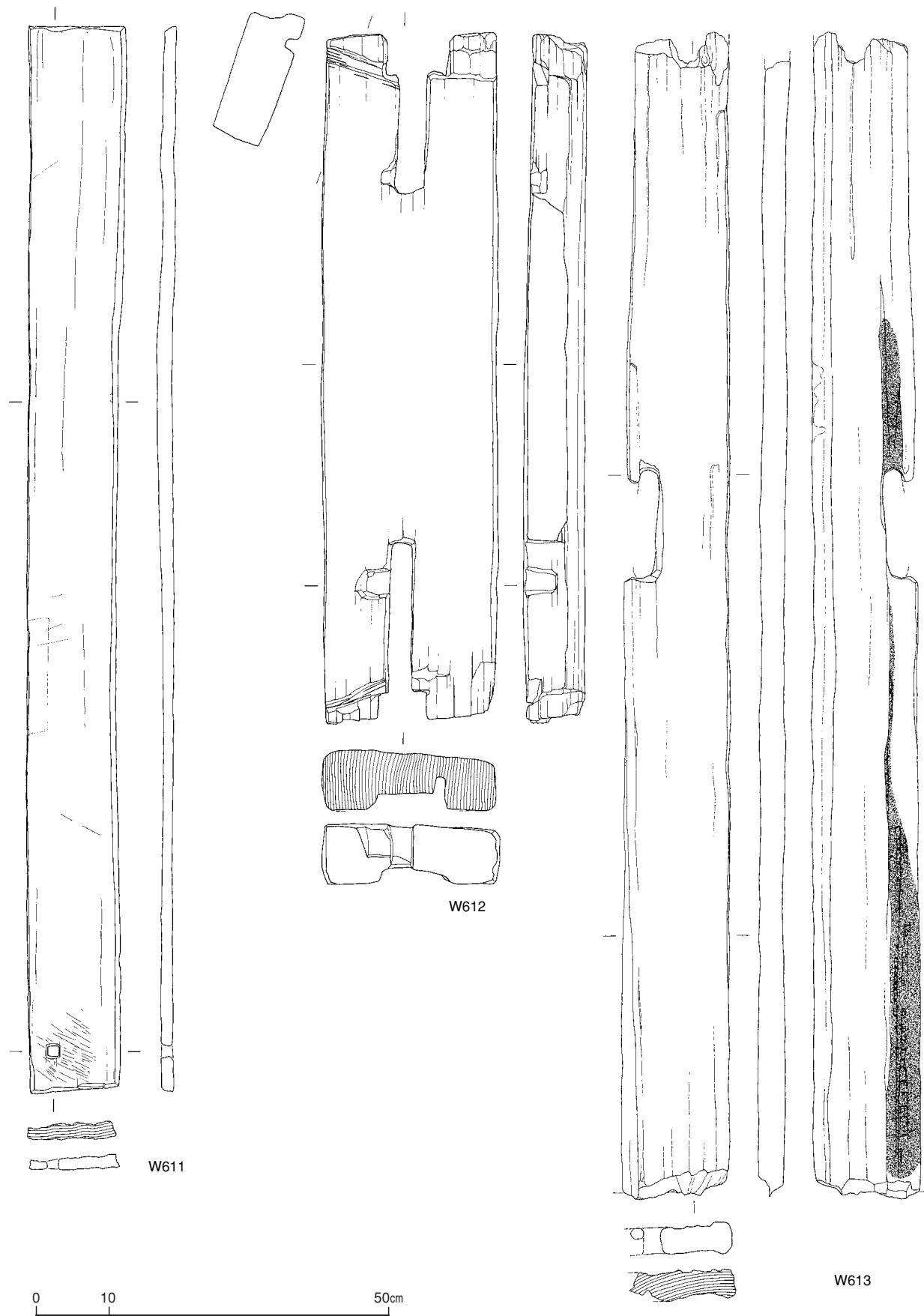
第198図 古代遺物実測図113 (1/4)



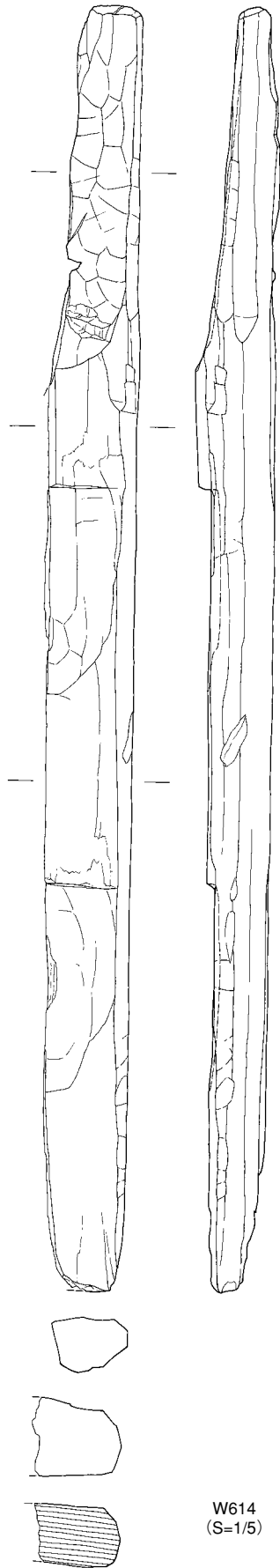
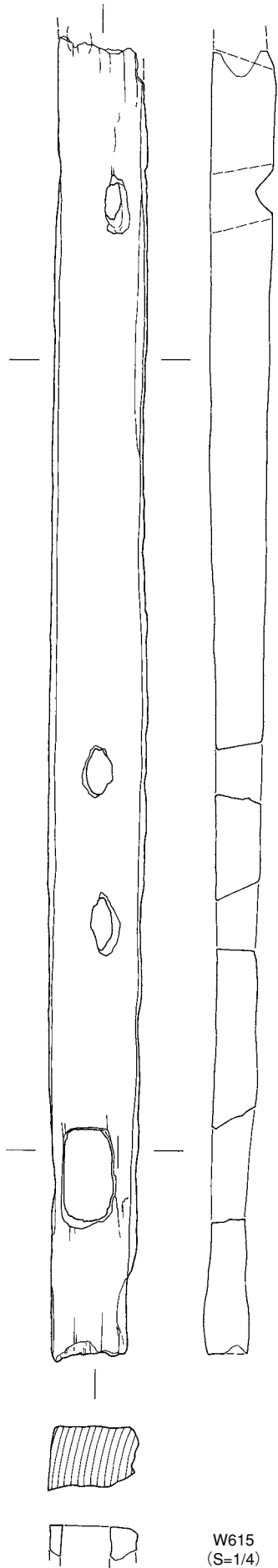
第199図 古代遺物実測図114 (1/4)



第200図 古代遺物実測図115 (1/4)



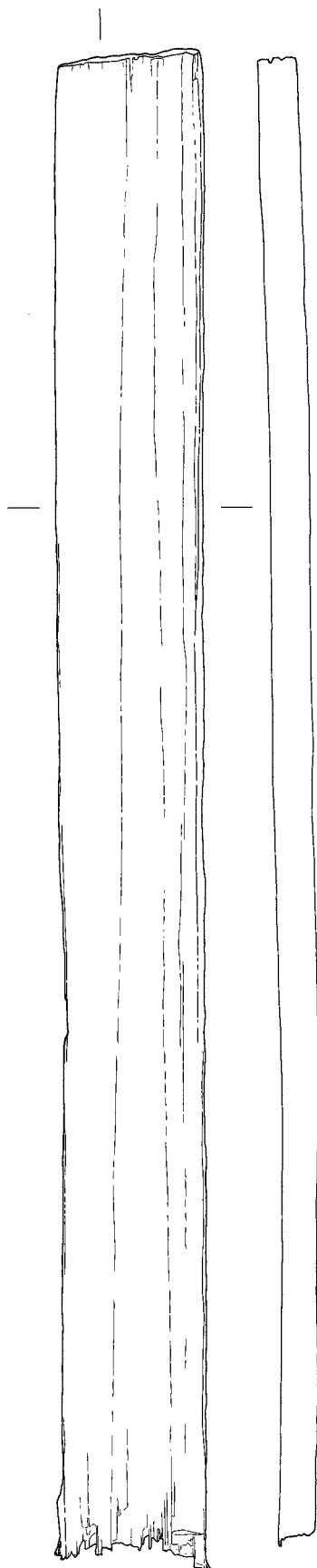
第201図 古代遺物実測図116 (1/8)



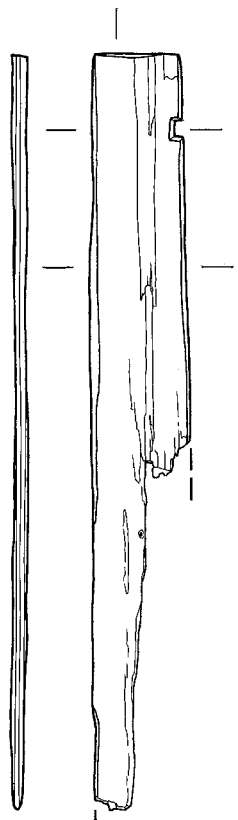
0 20cm

第202図 古代遺物実測図117 (1/4・1/5)

0 20cm



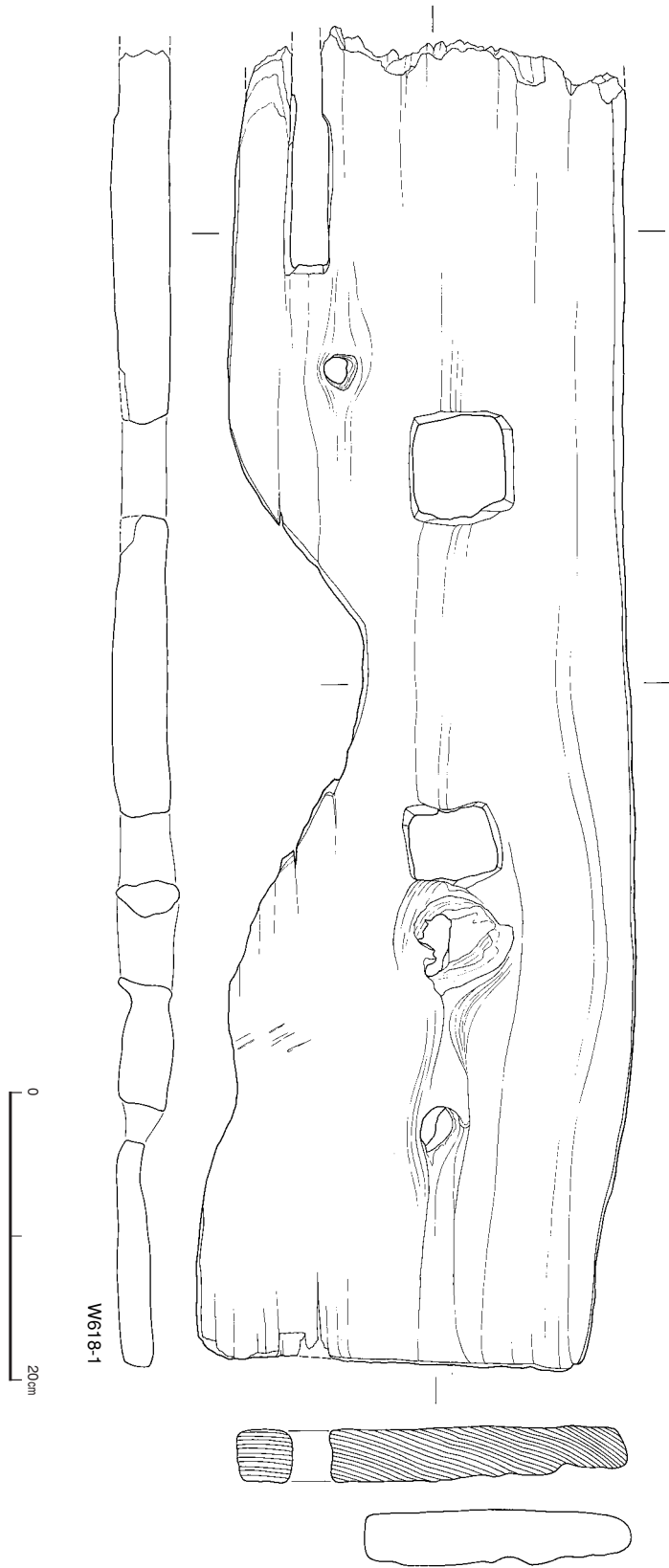
W617
(S=1/12)



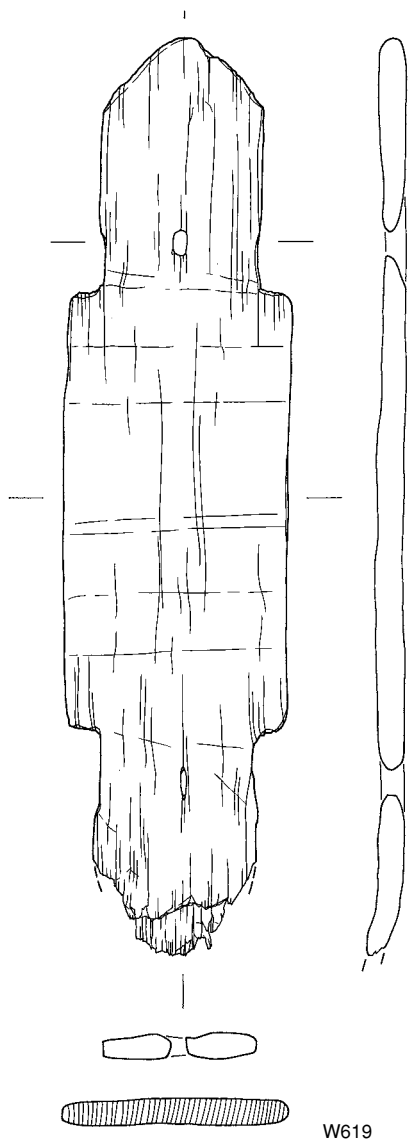
W616
(S=1/8)



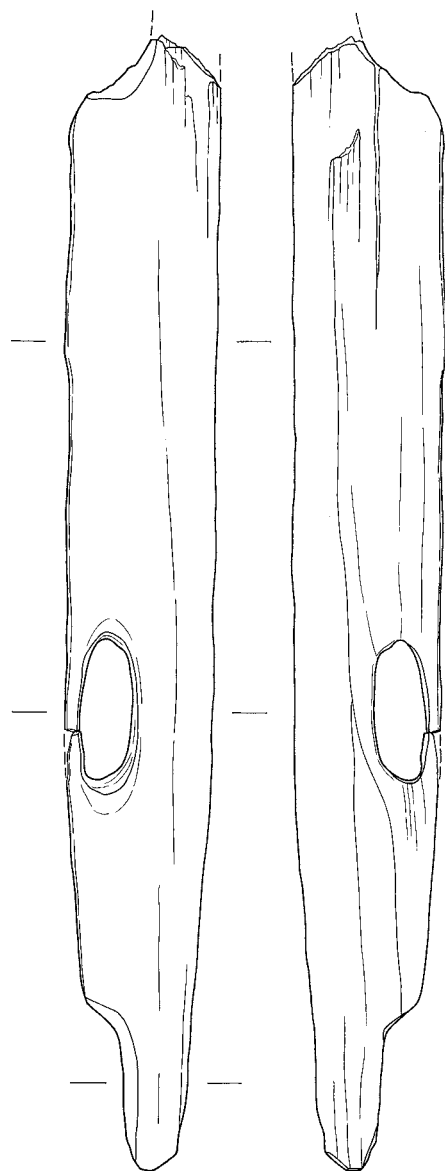
第203図 古代遺物実測図118 (1/8・1/1)



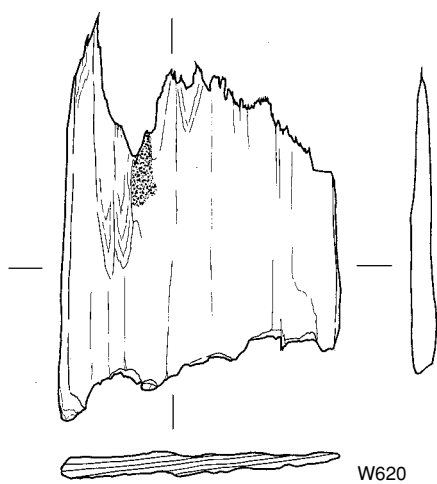
第204図 古代遺物実測図119 (1/5)



W619



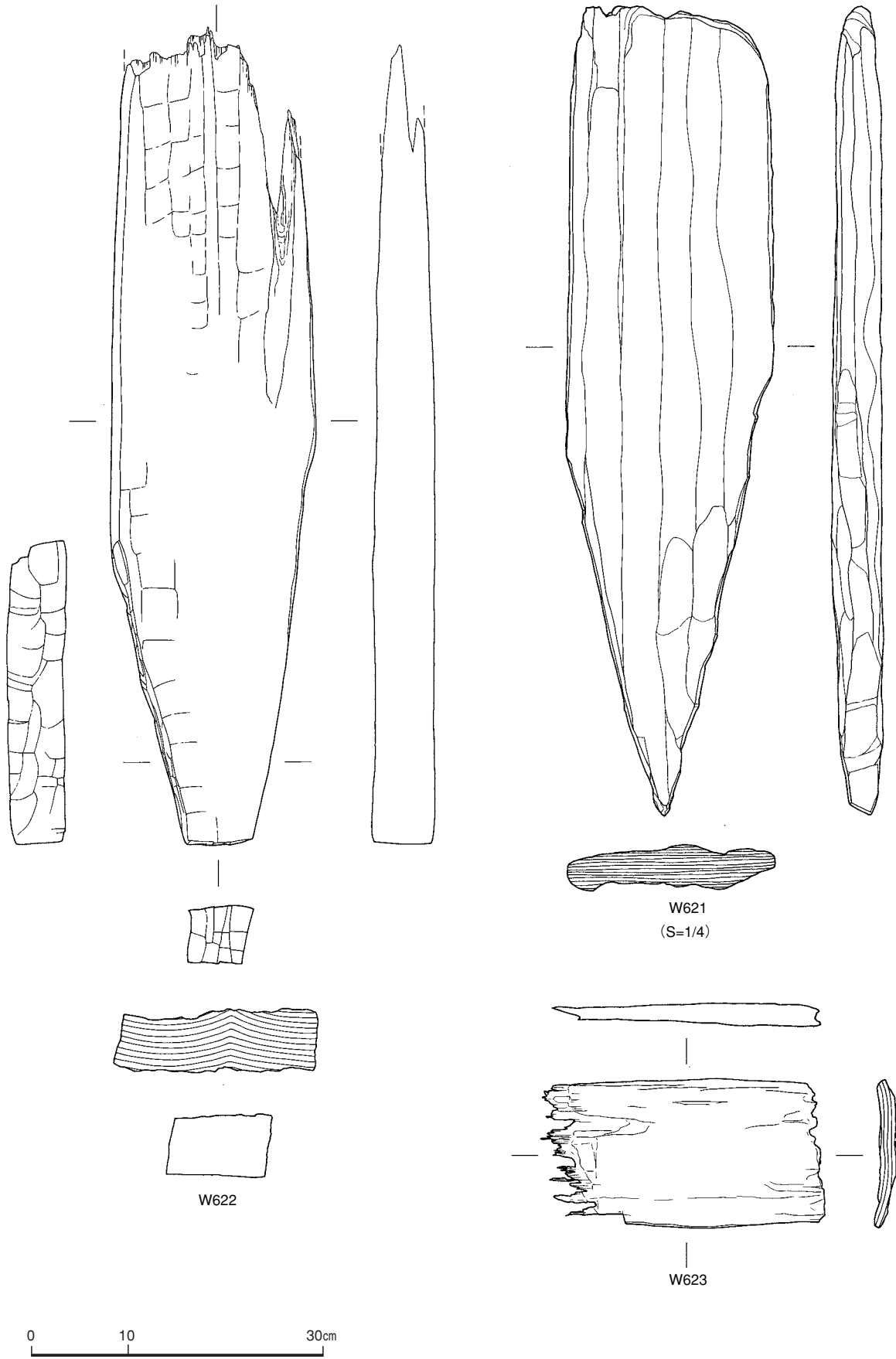
W618-2



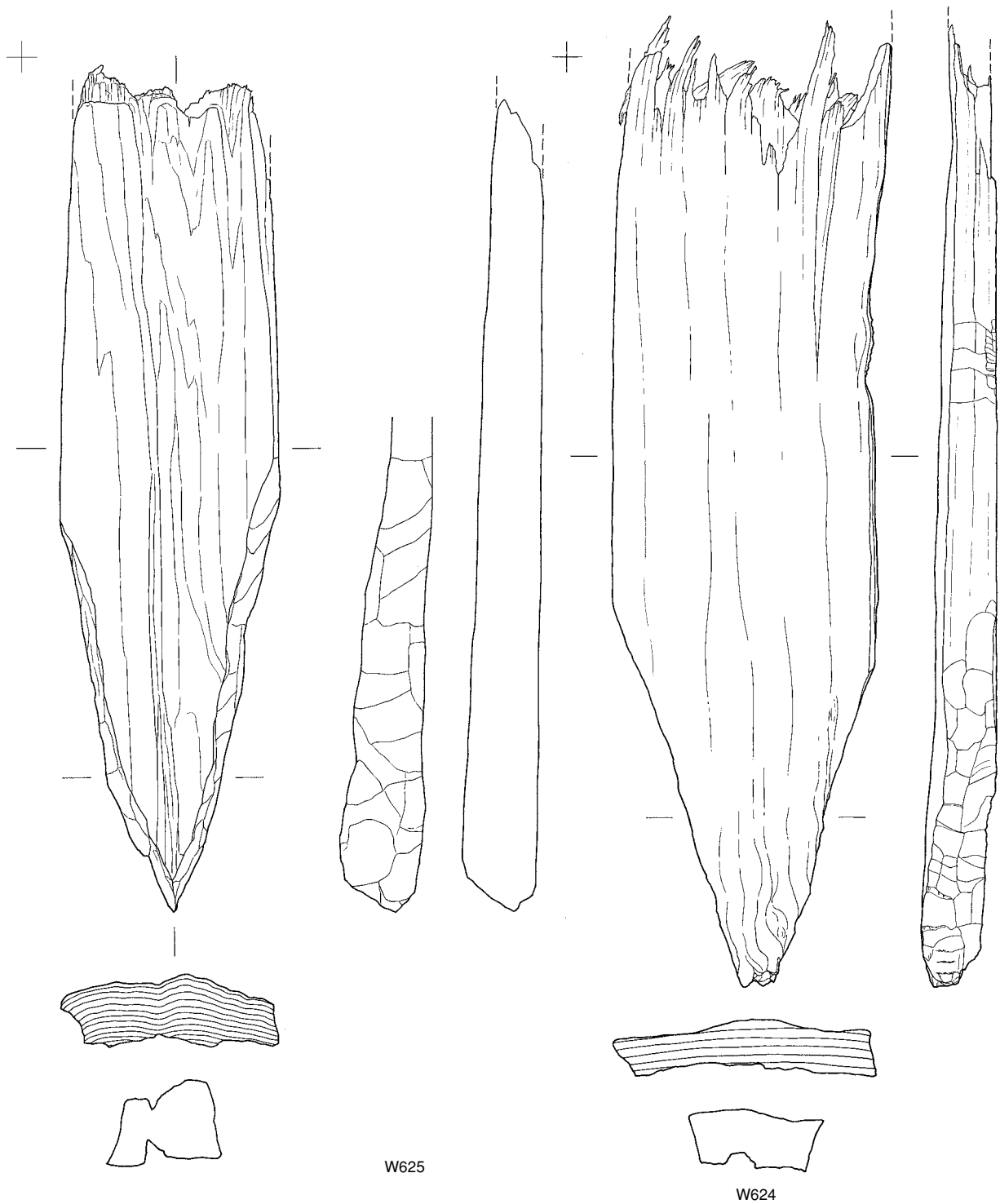
W620
(S=1/6)

0 20cm

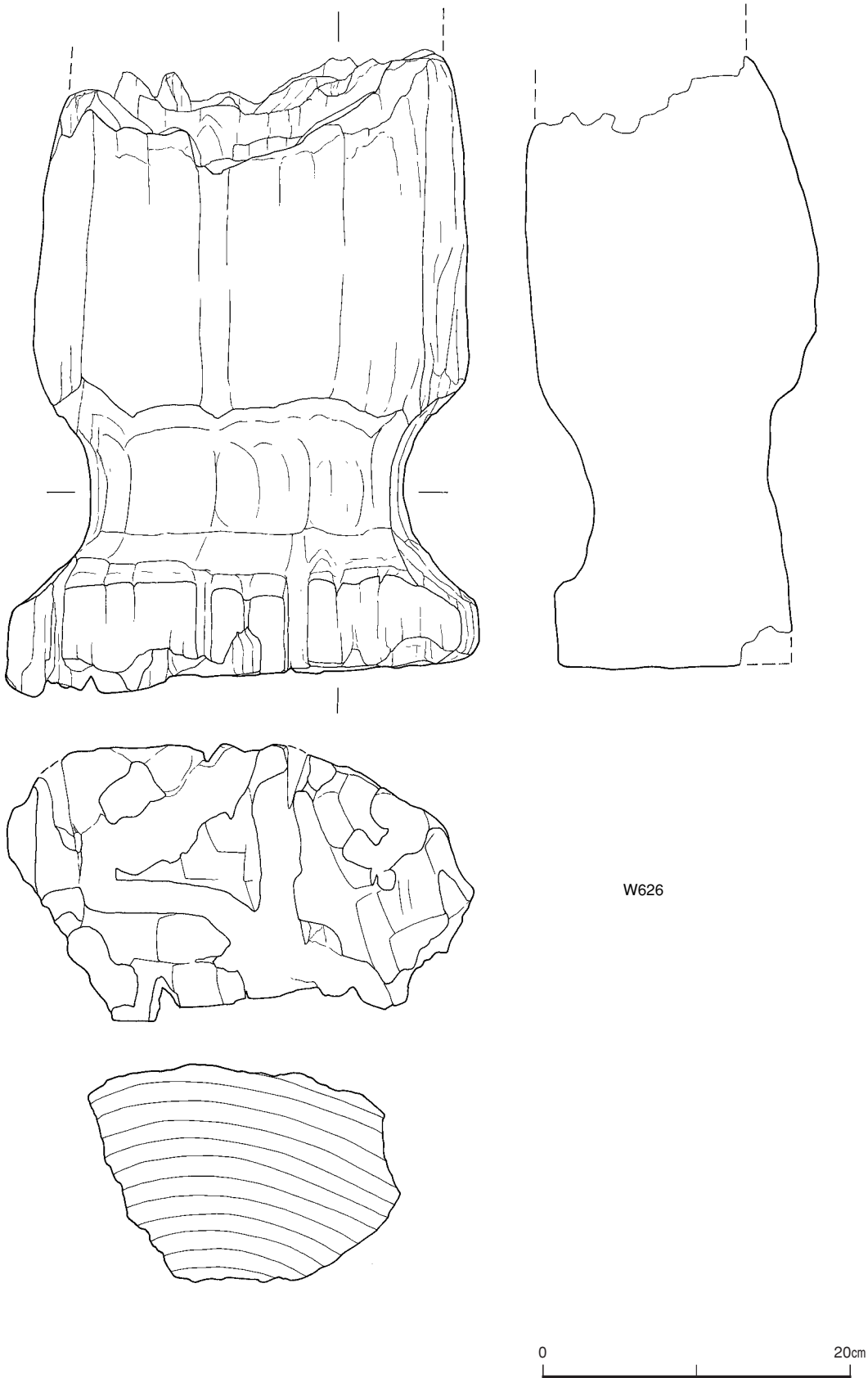
第205図 古代遺物実測図120 (1/4・1/6)



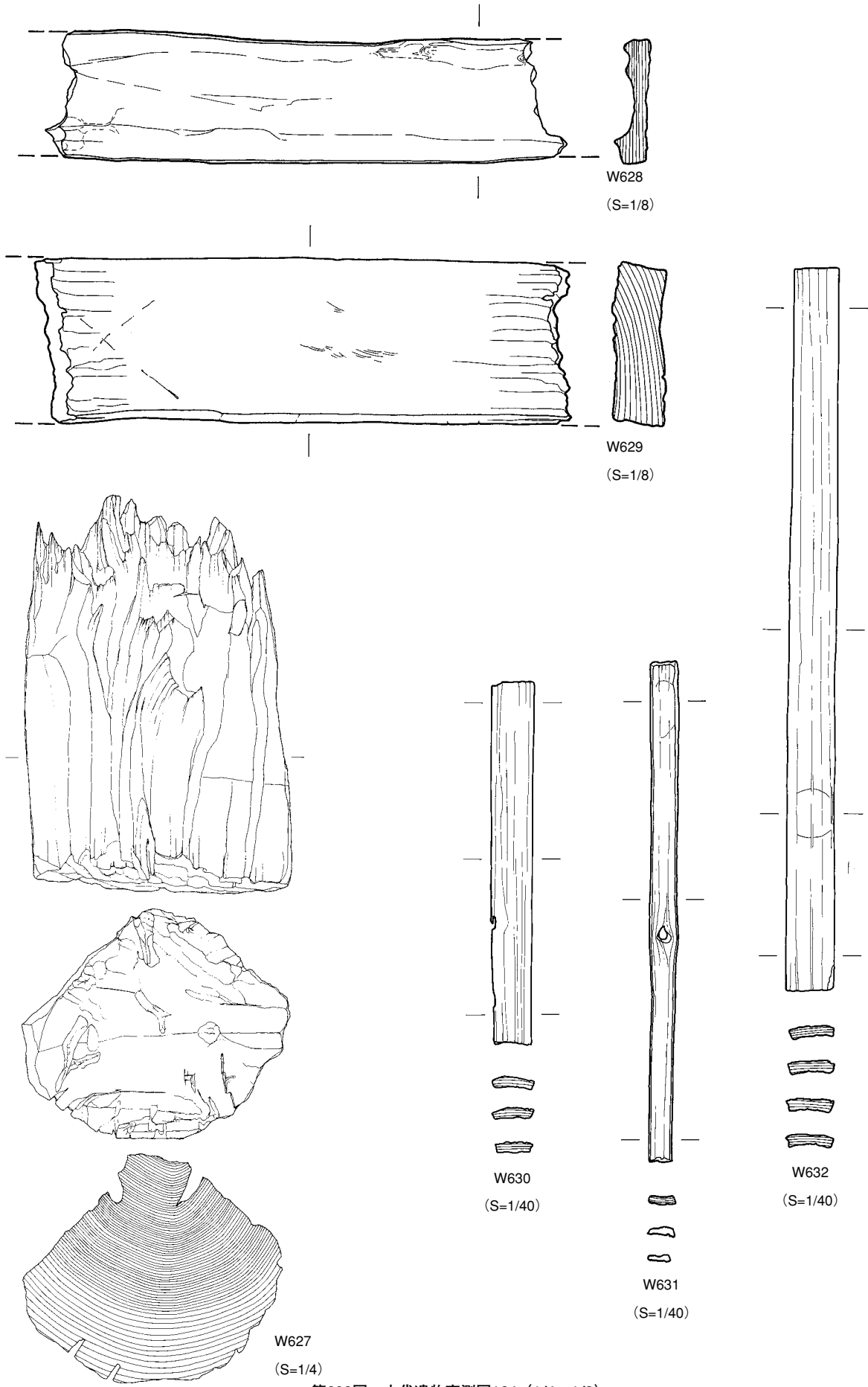
第206図 古代遺物実測図121 (1/4・1/6)



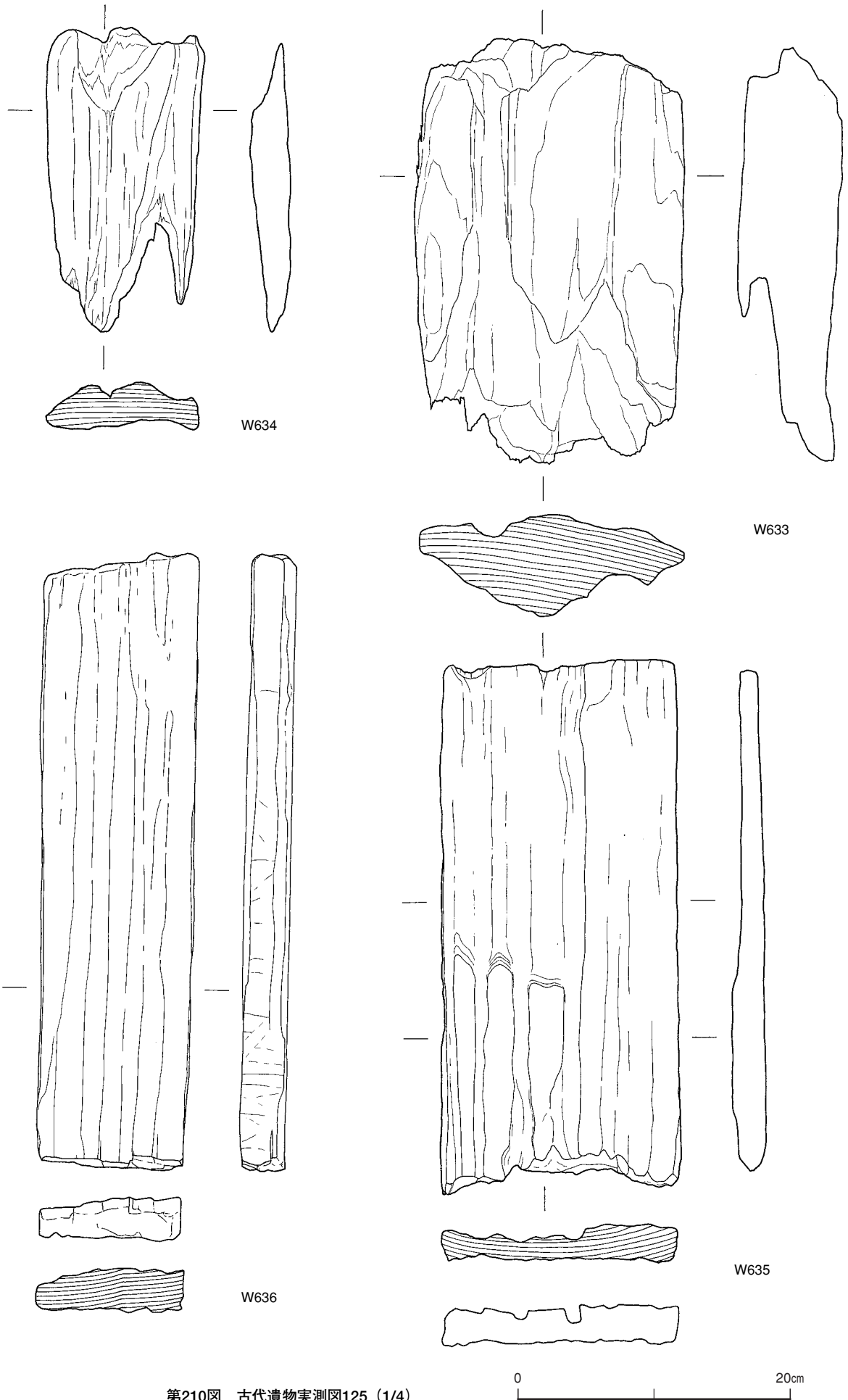
第207図 古代遺物実測図122 (1/6)



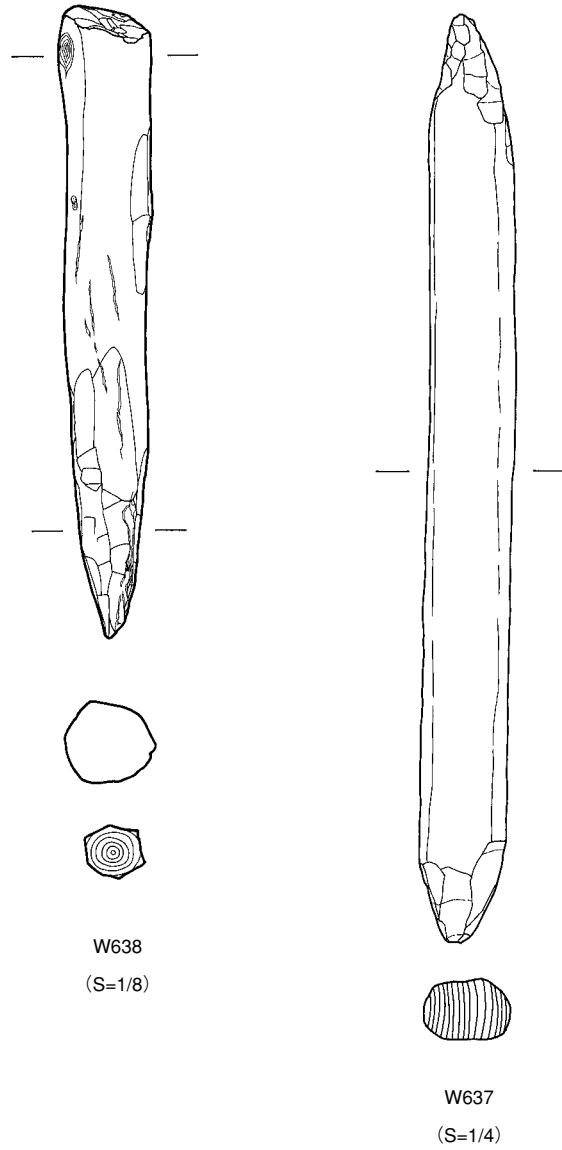
第208図 古代遺物実測図123 (1/4)



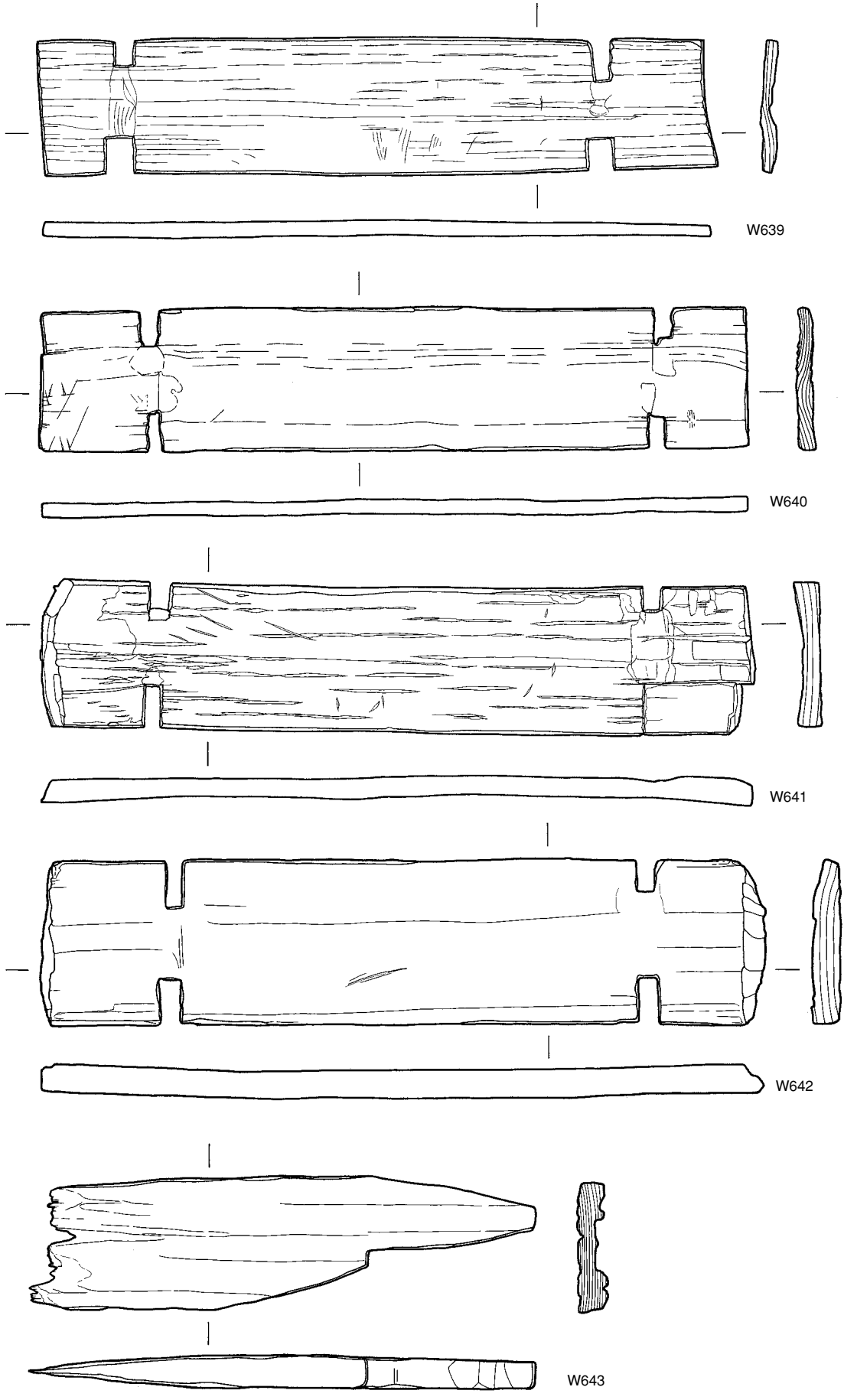
第209図 古代遺物実測図124 (1/4・1/8)



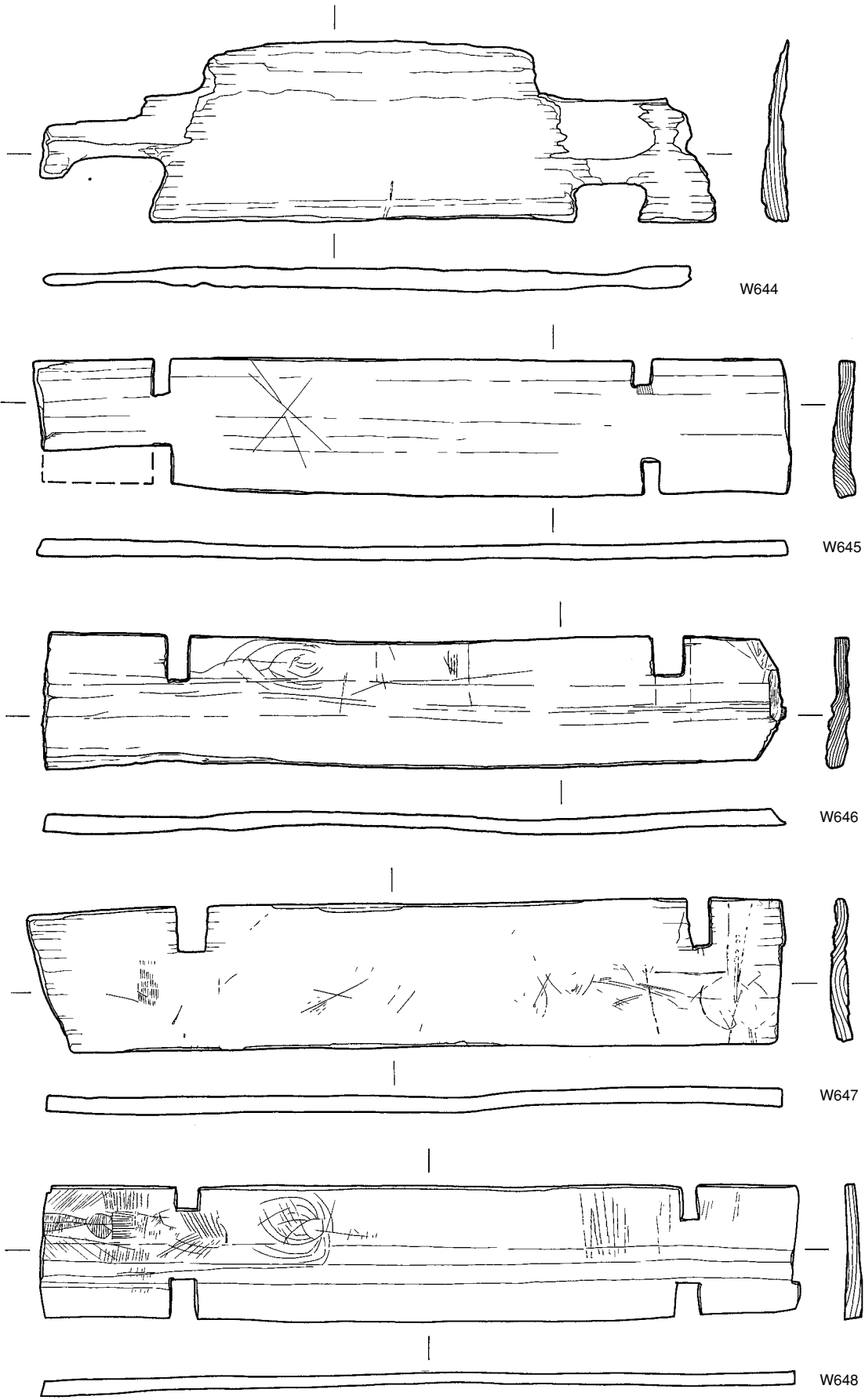
第210図 古代遺物実測図125 (1/4)



第211図 古代遺物実測図126 (1/4・1/8)

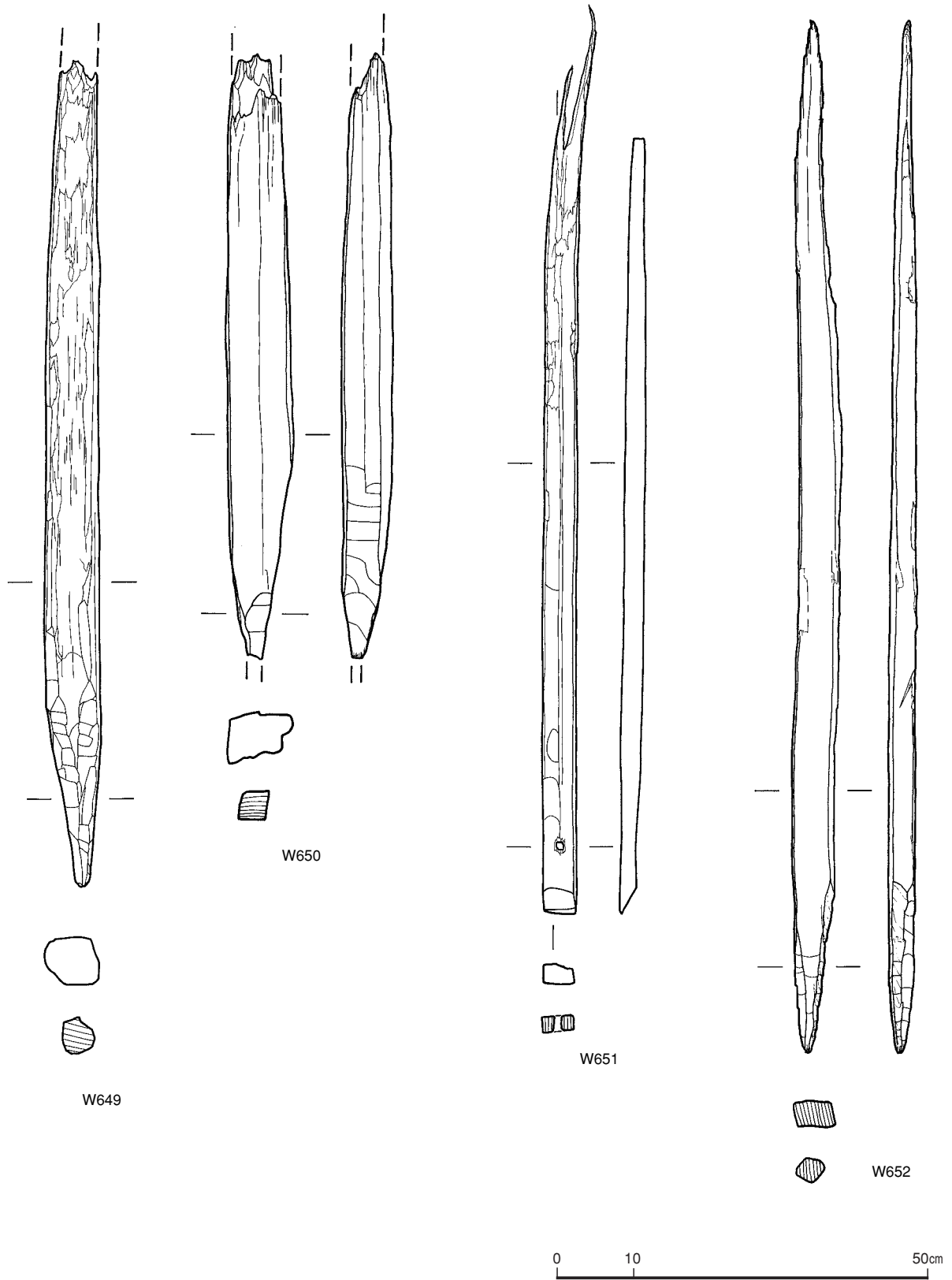


第212図 古代遺物実測図127 (1/8)

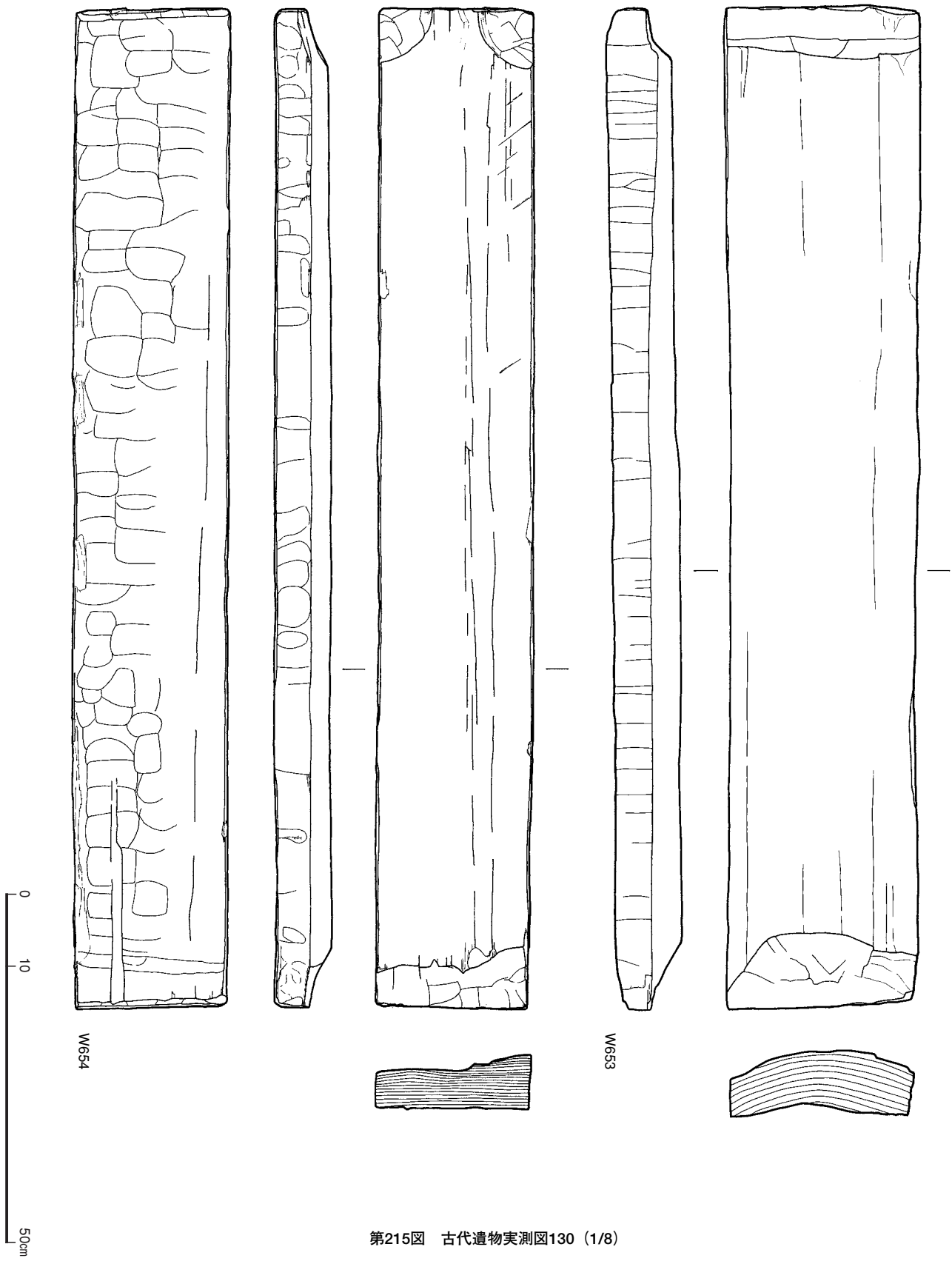


0 10 50cm

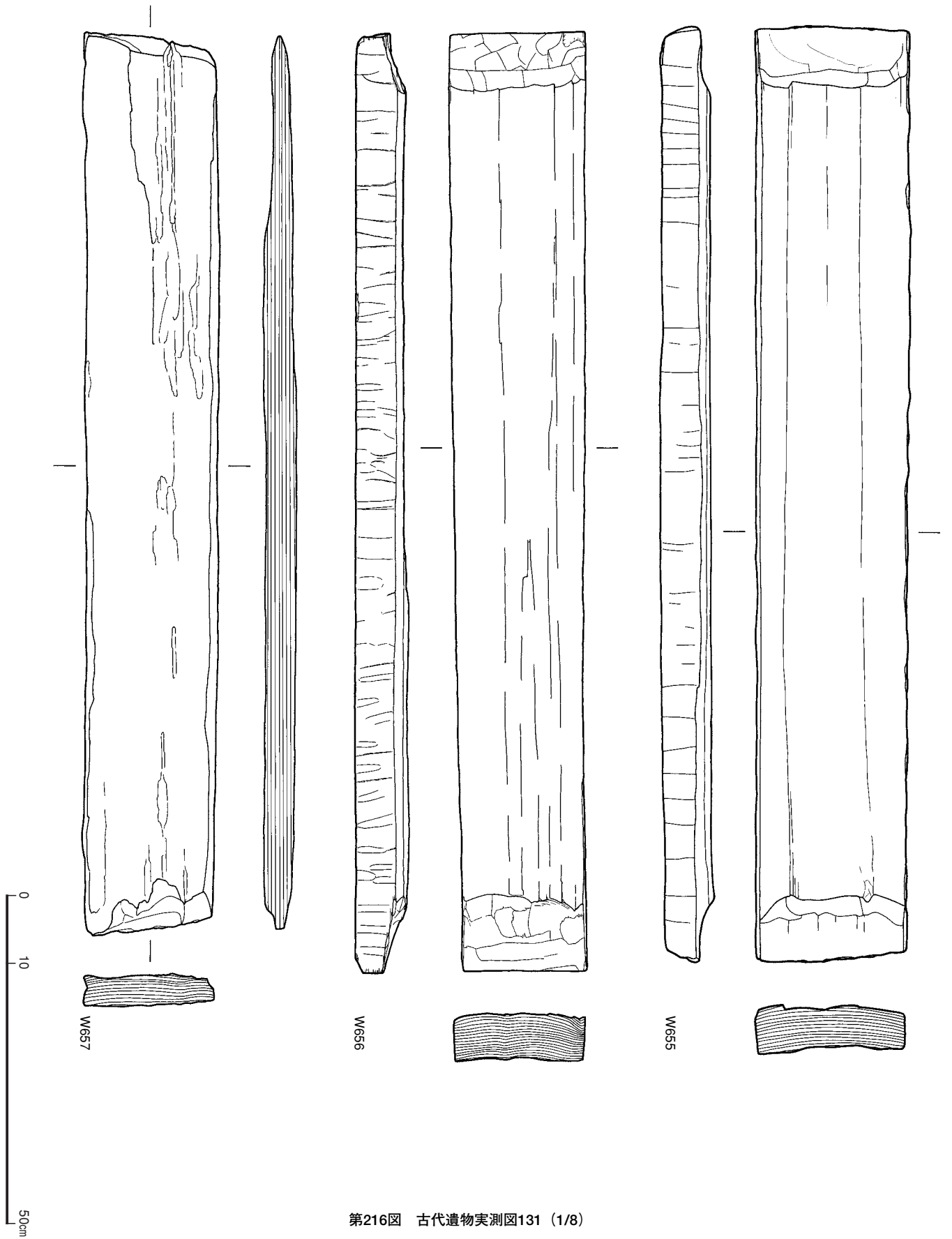
第213図 古代遺物実測図128 (1/8)



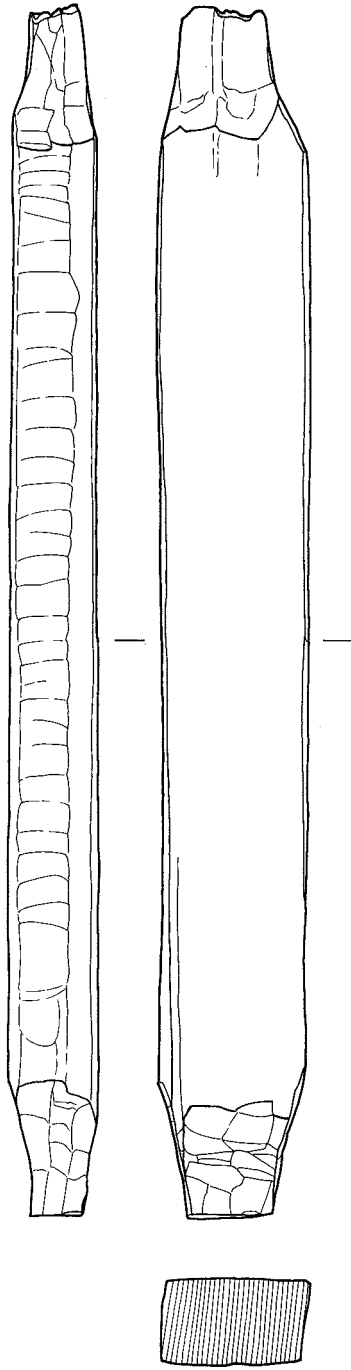
第214図 古代遺物実測図129 (1/8)



第215図 古代遺物実測図130 (1/8)



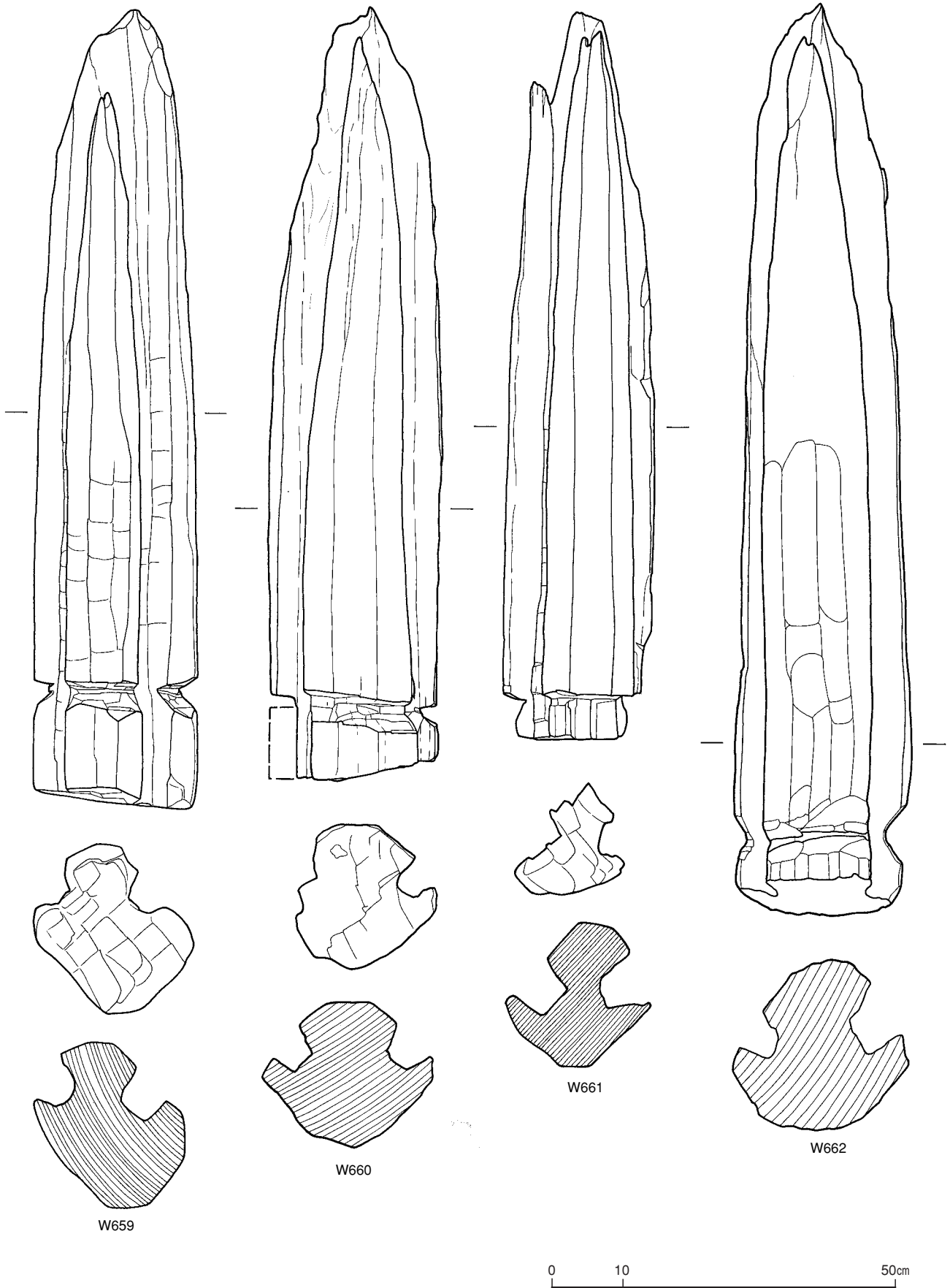
第216図 古代遺物実測図131 (1/8)



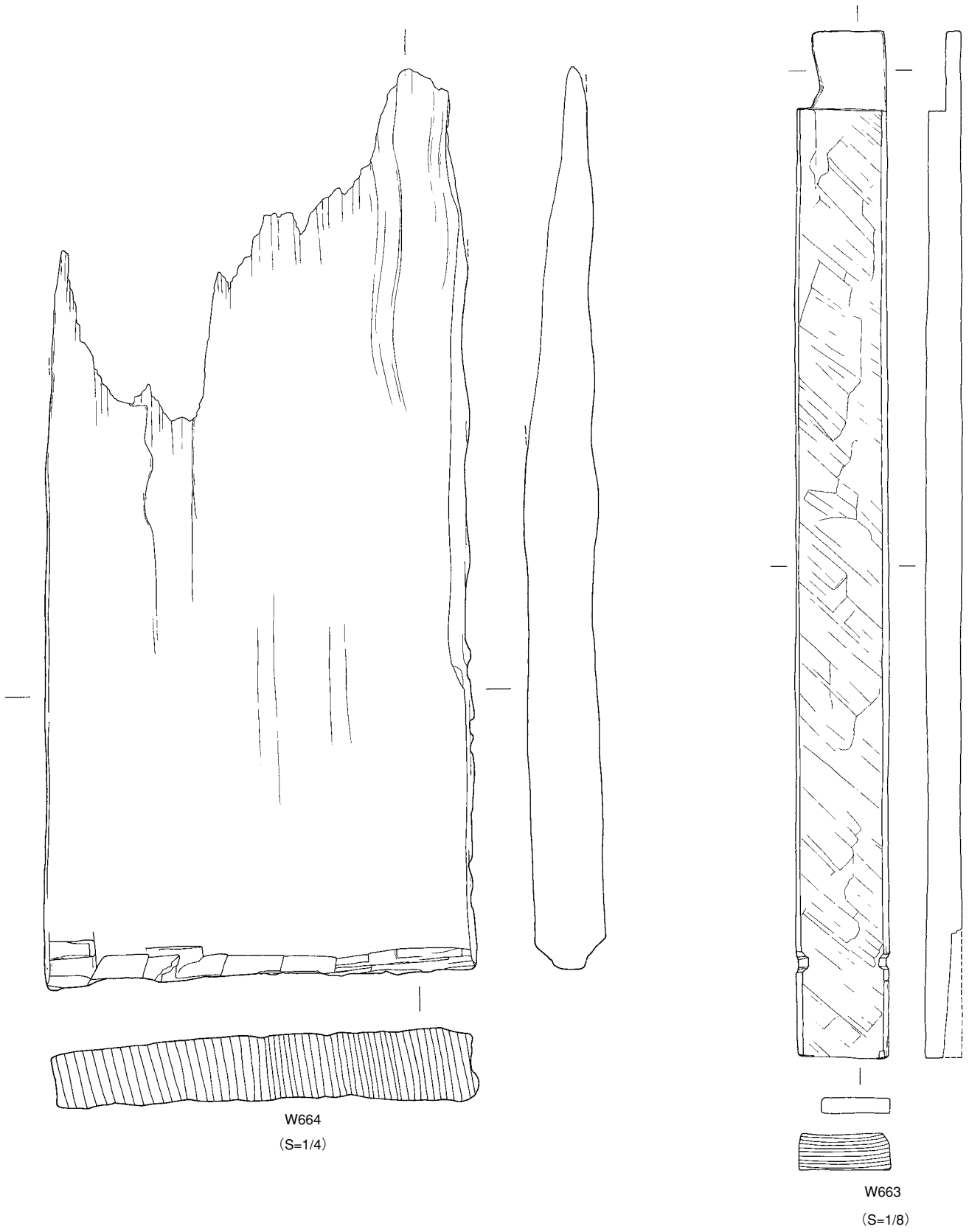
W658



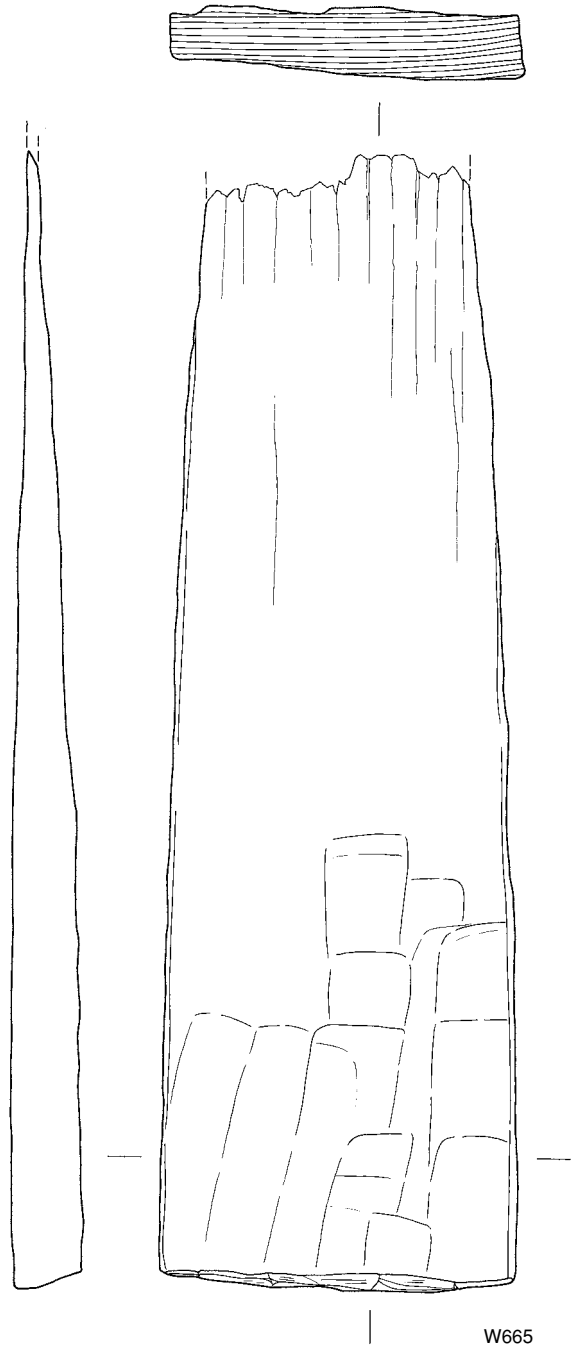
第217図 古代遺物実測図132 (1/8)



第218図 古代遺物実測図133 (1/8)

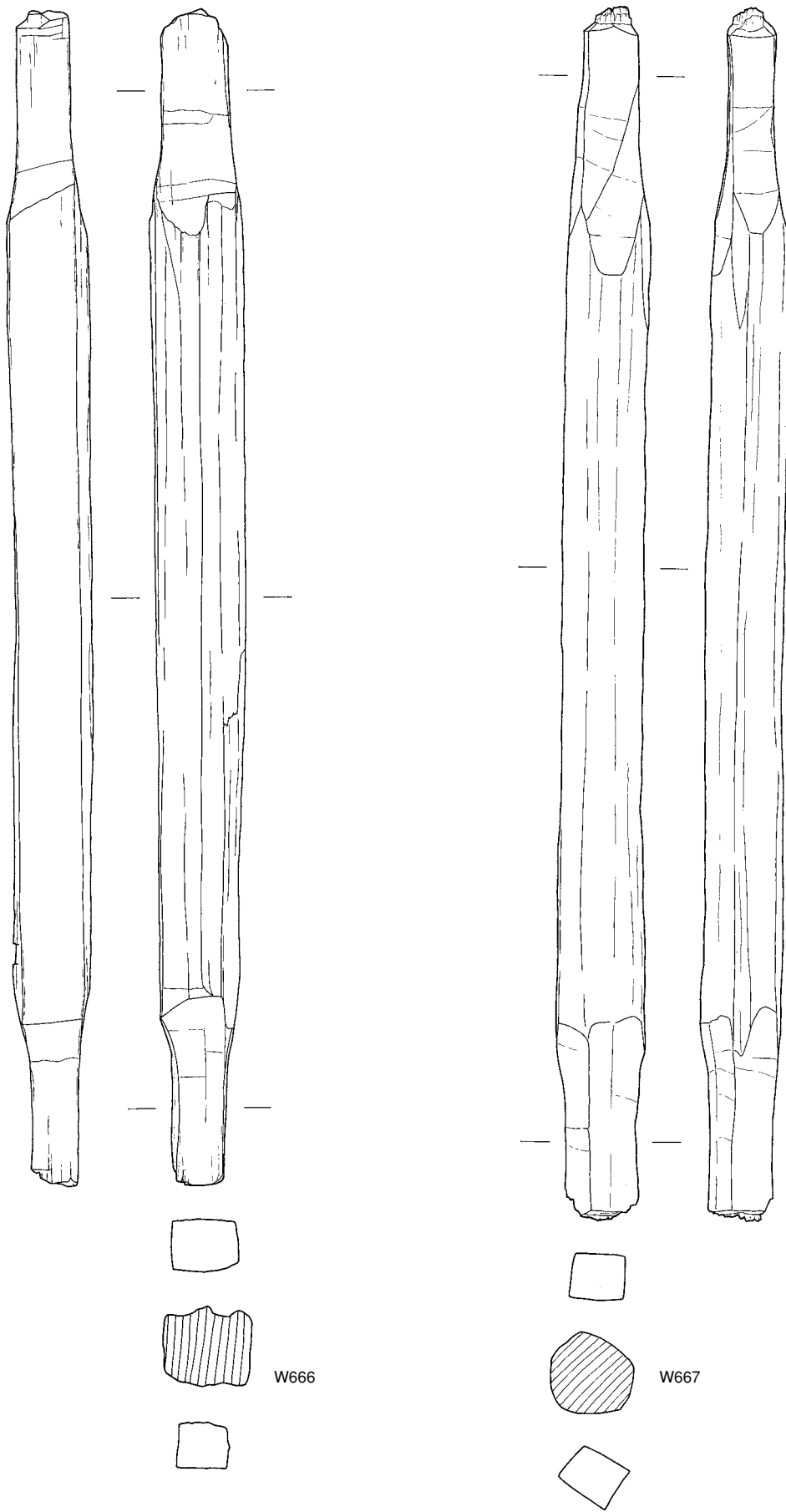


第219図 古代遺物実測図134 (1/4・1/8)

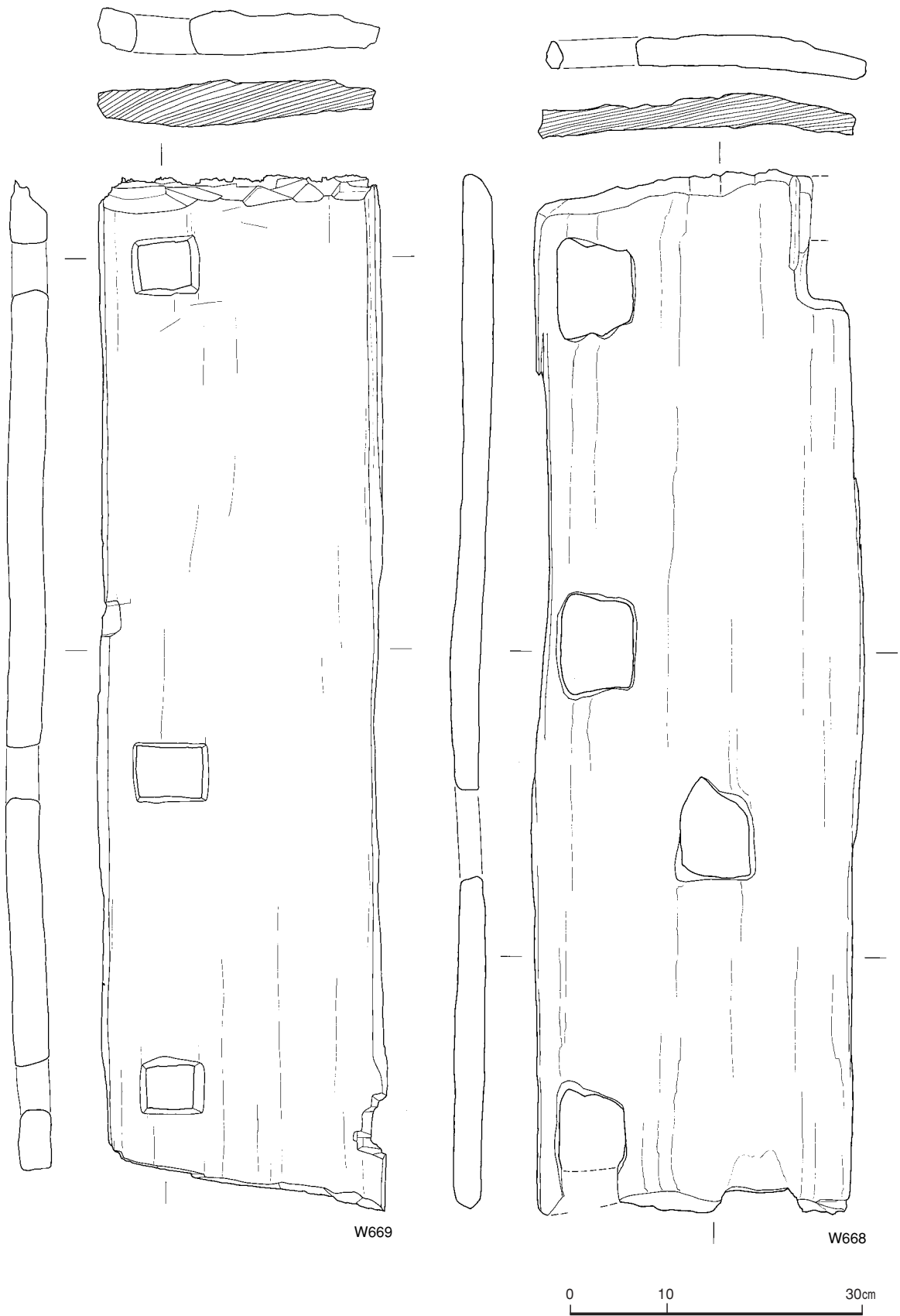


0 20cm

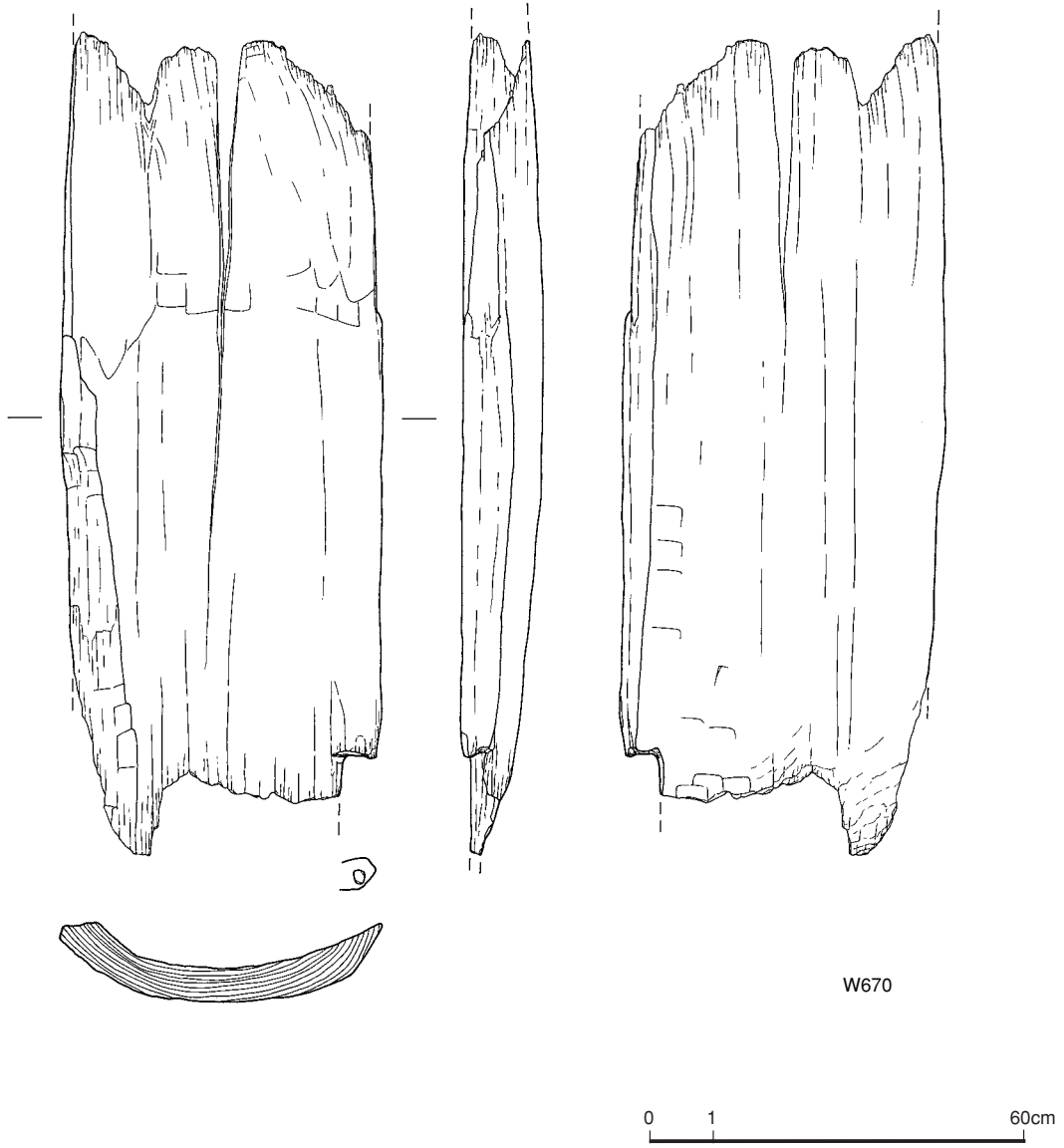
第220図 古代遺物実測図135 (1/4)



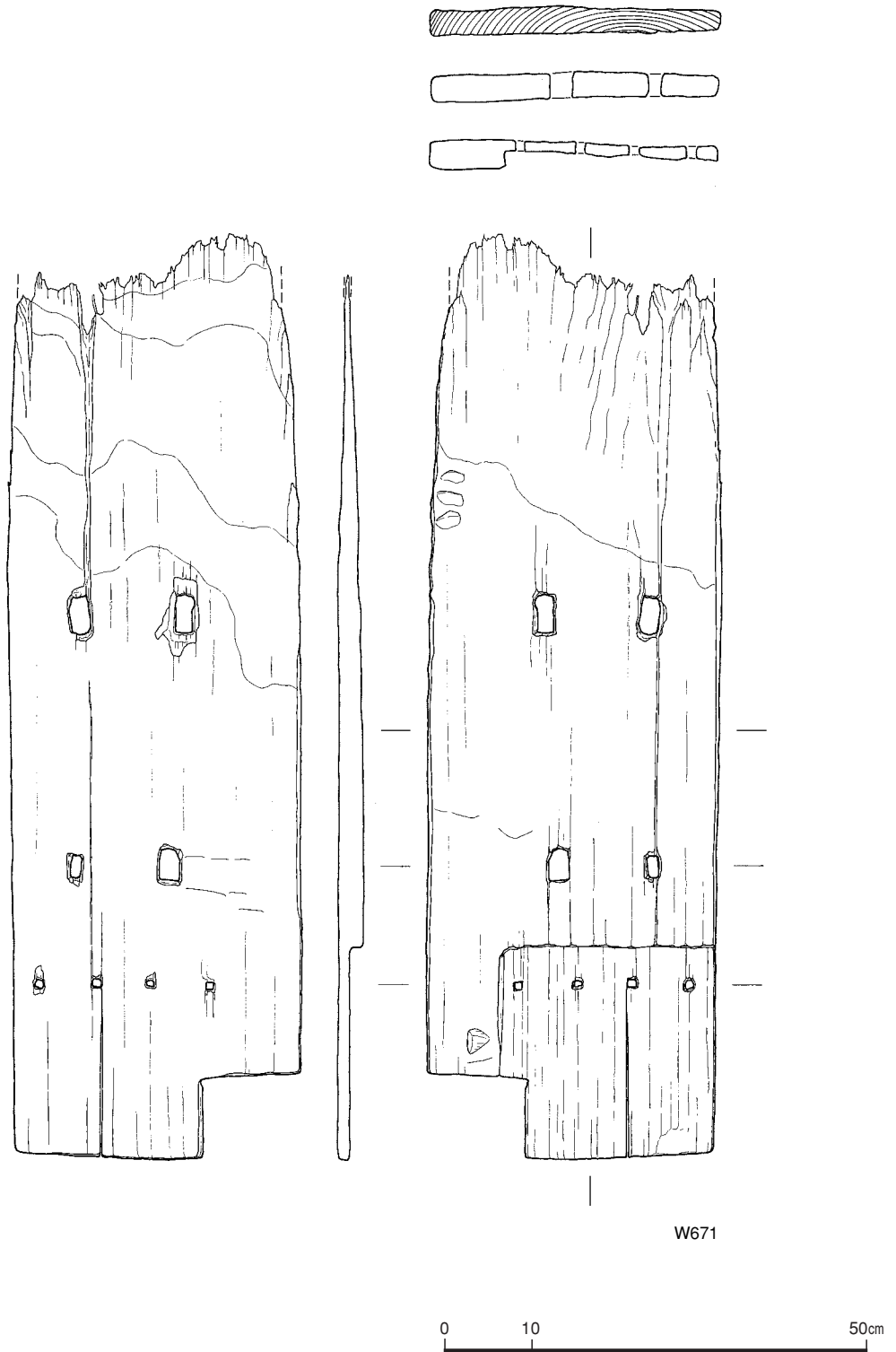
第221图 古代遺物実測図136 (1/4)



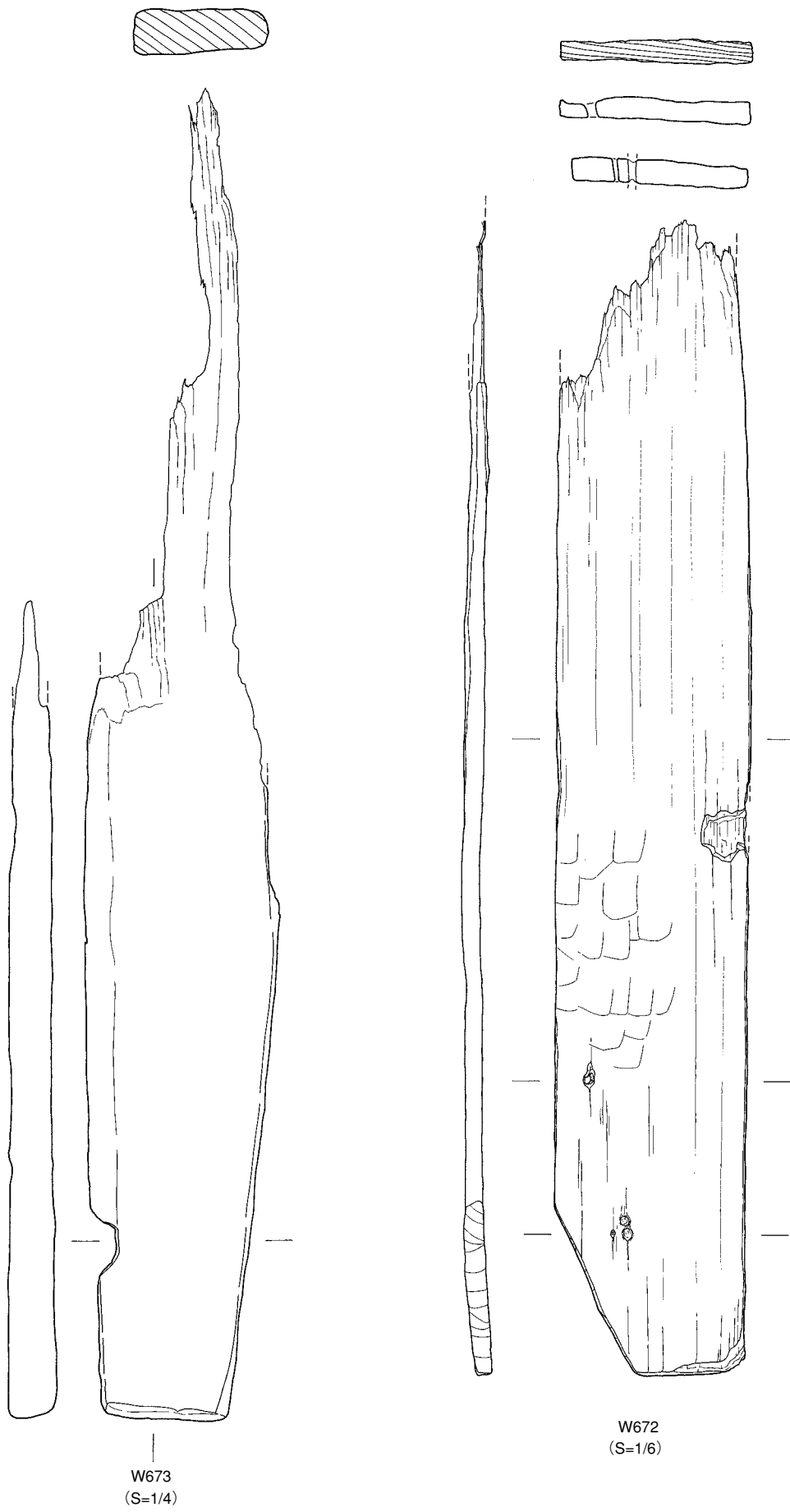
第222図 古代遺物実測図137 (1/6)



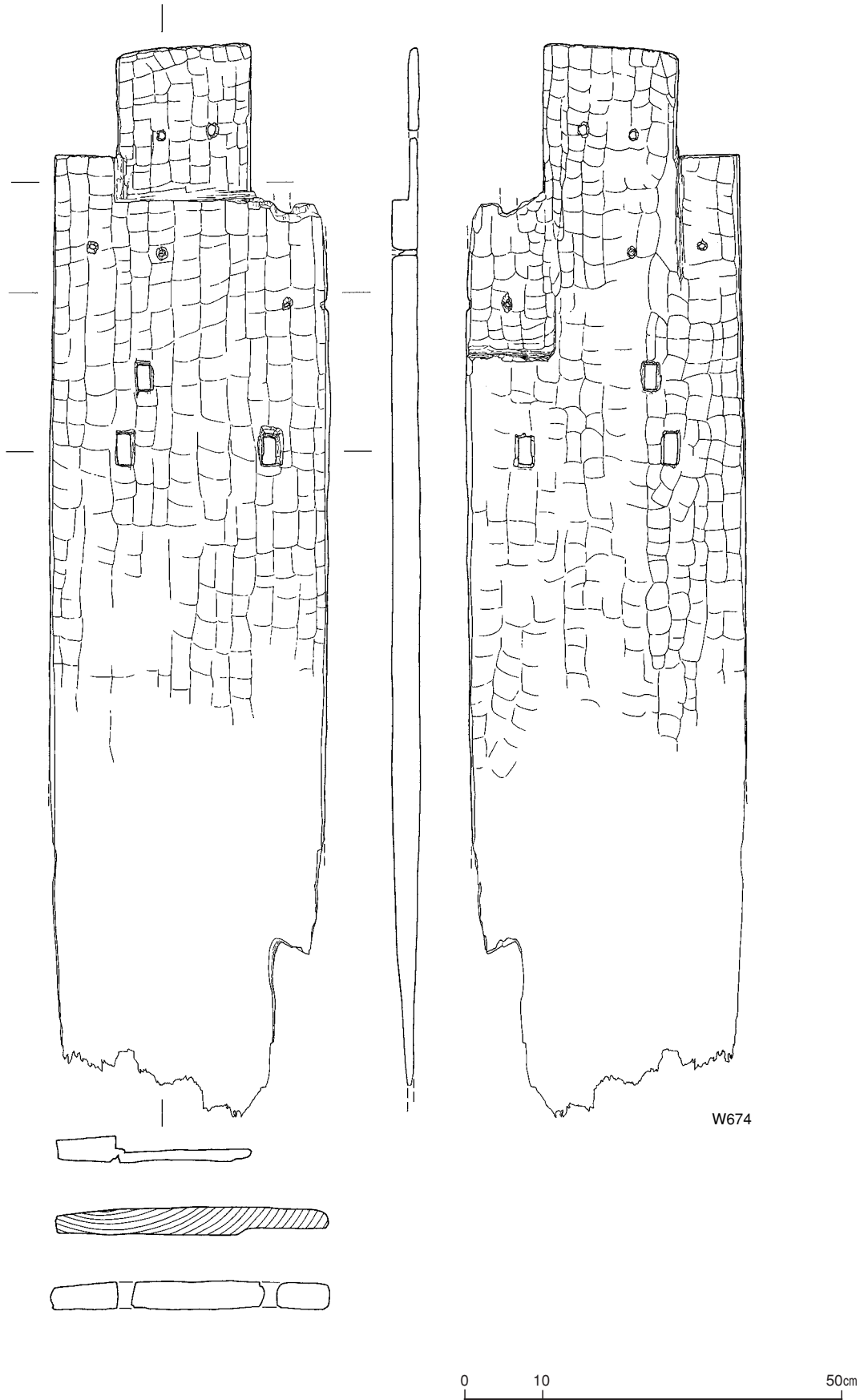
第223图 古代遺物実測図138 (1/12)



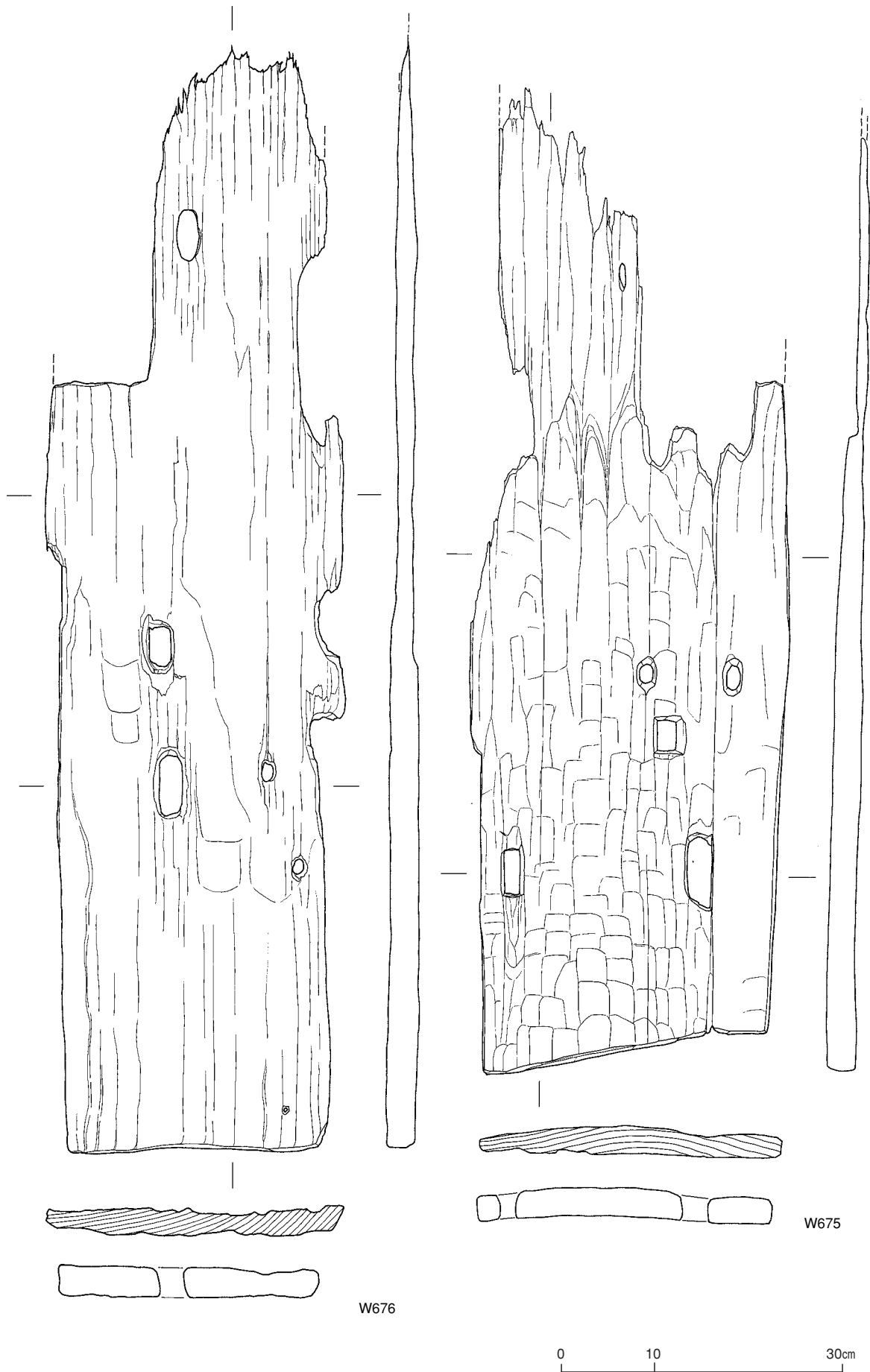
第224図 古代遺物実測図139 (1/8)



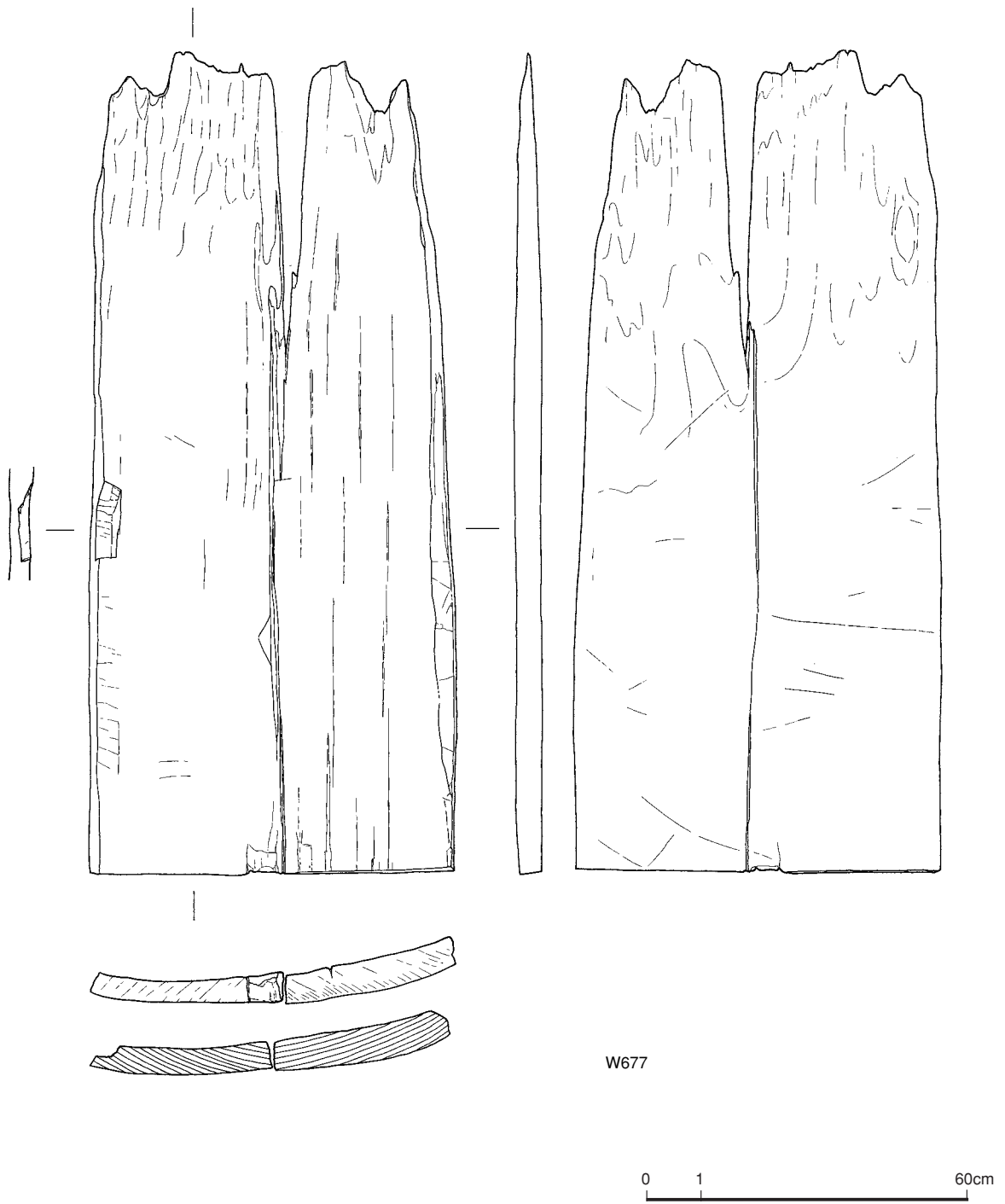
第225図 古代遺物実測図140 (1/4・1/6)



第226図 古代遺物実測図141 (1/8)

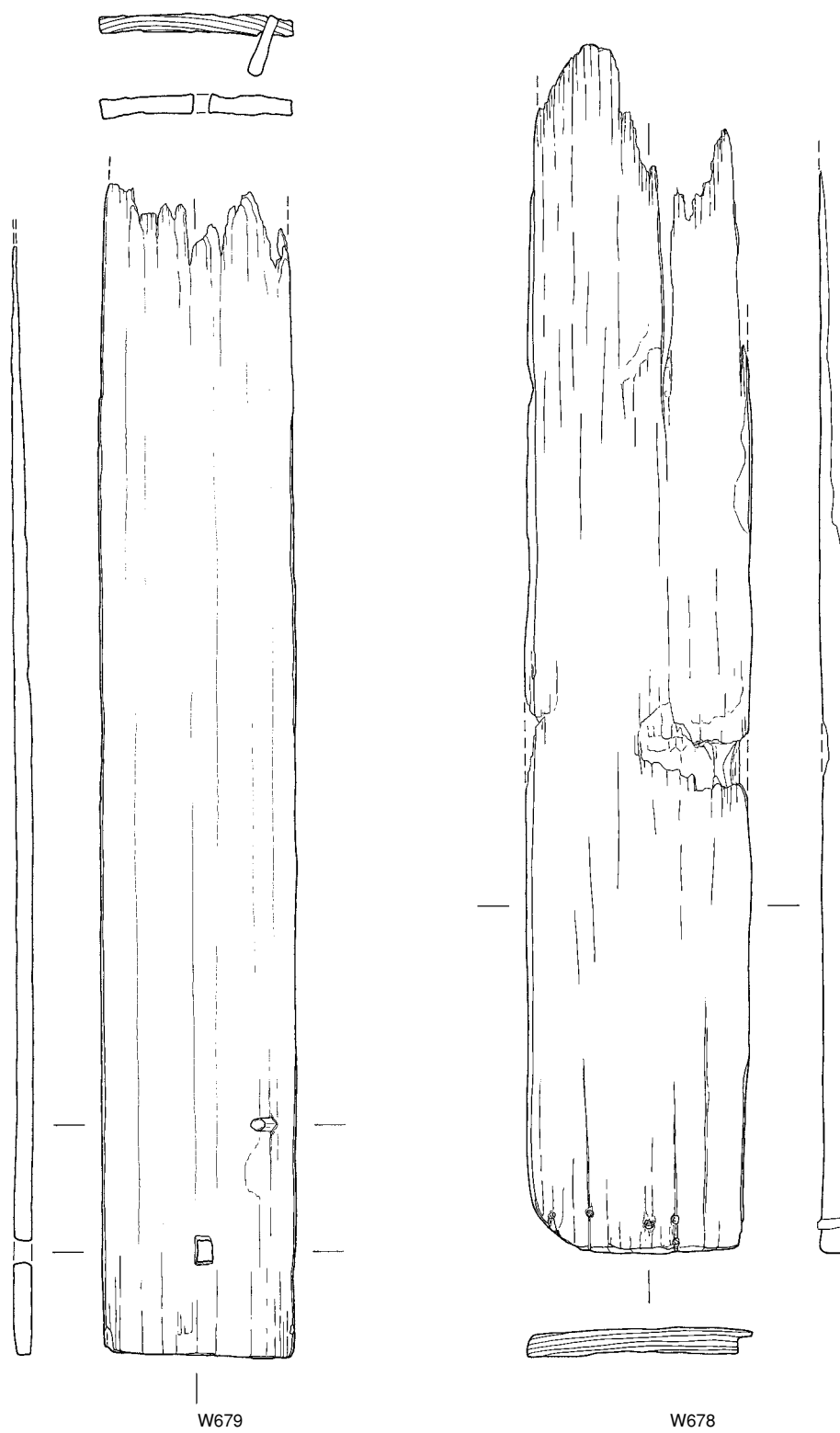


第227図 古代遺物実測図142 (1/8)

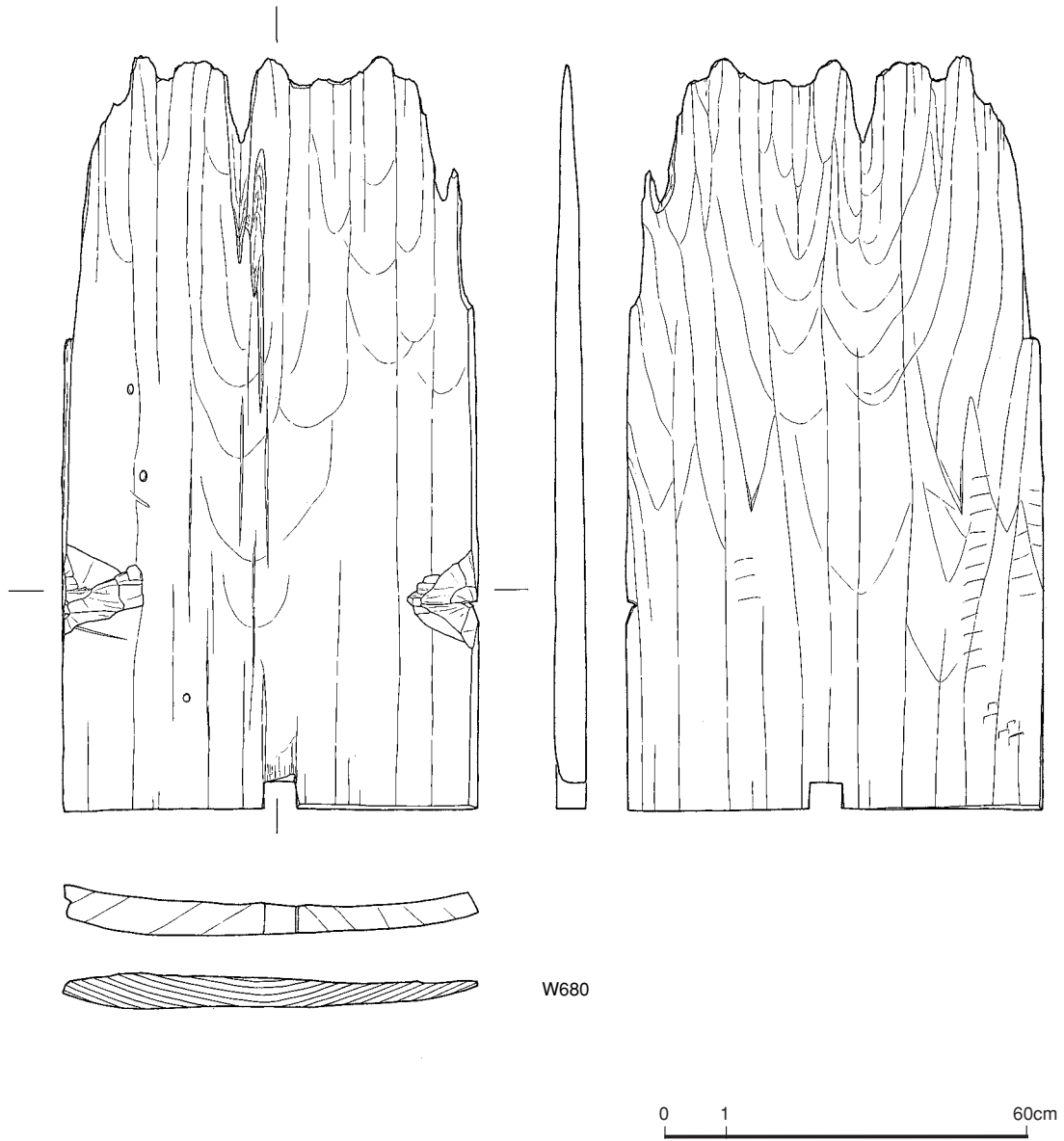


W677

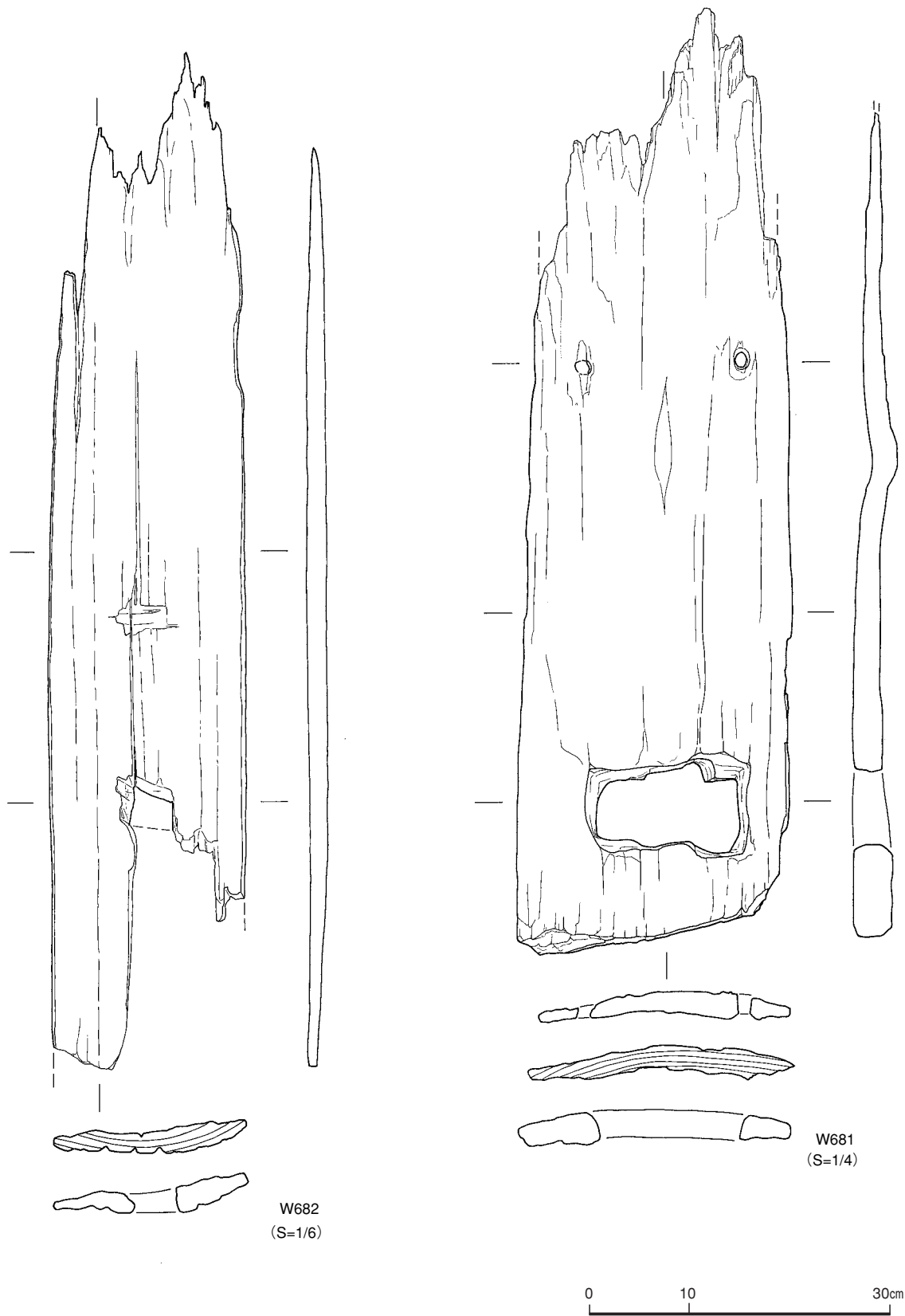
第228図 古代遺物実測図143 (1/12)



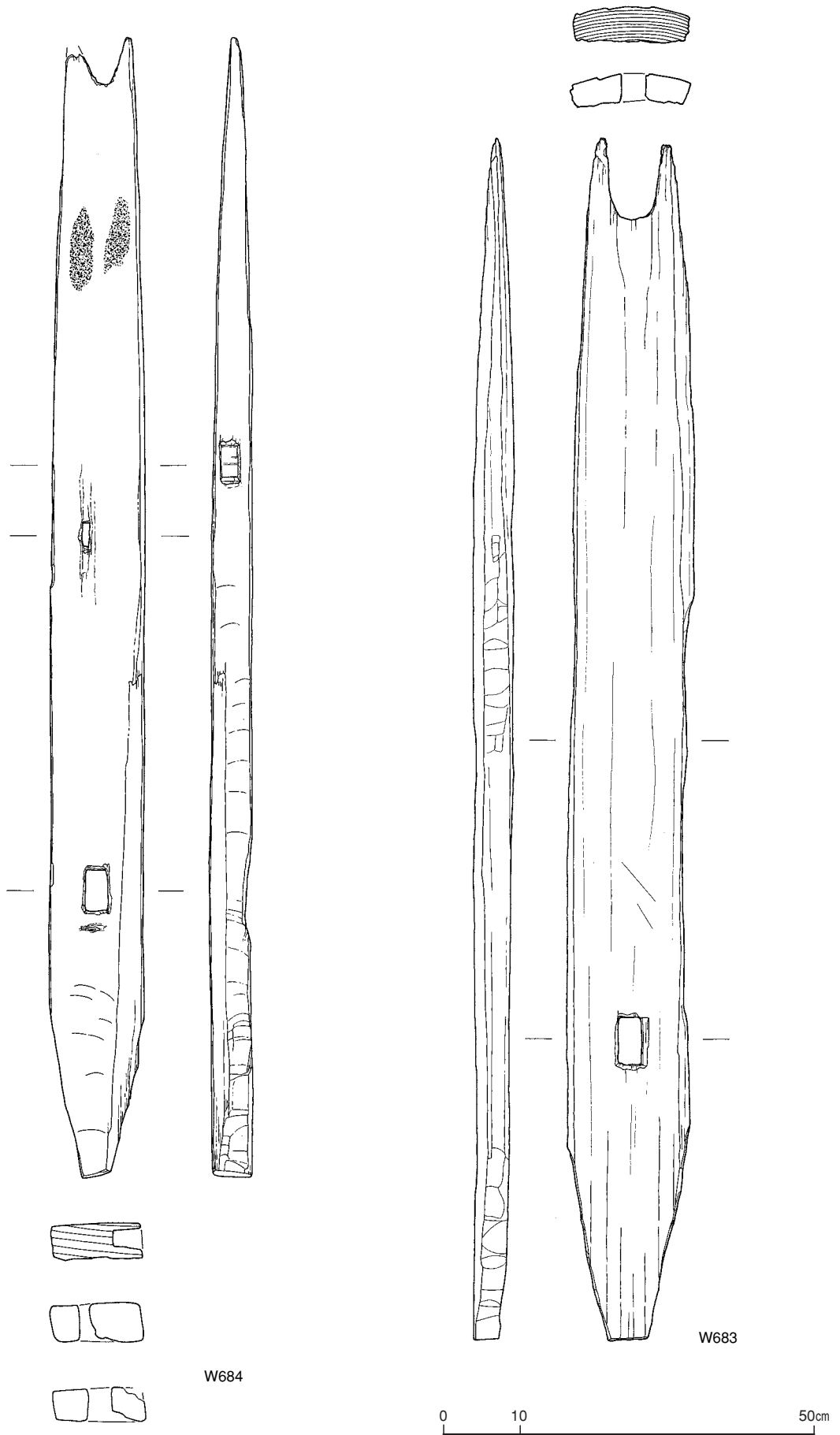
第229図 古代遺物実測図144 (1/6)



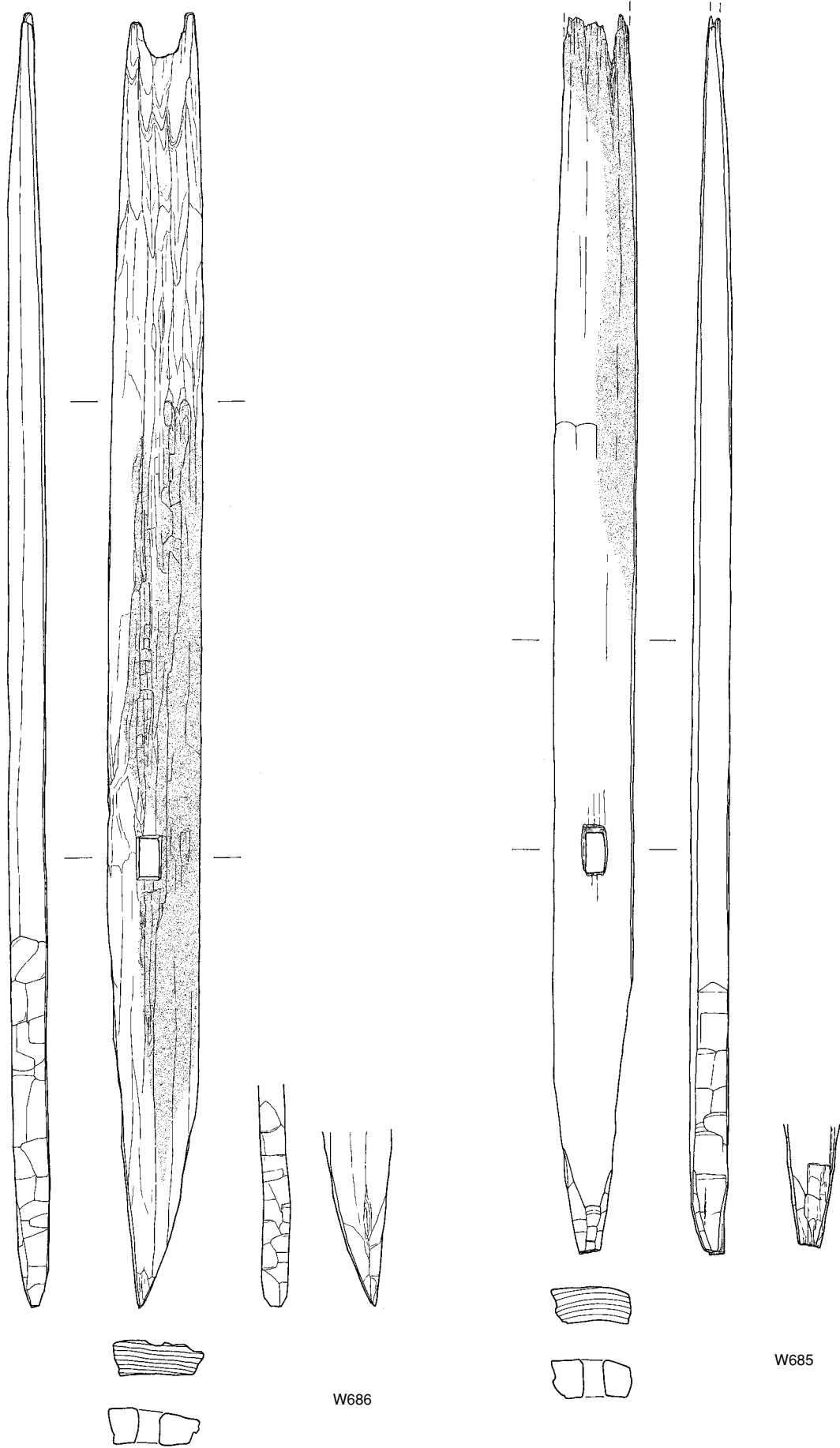
第230図 古代遺物実測図145 (1/12)



第231図 古代遺物実測図146 (1/4・1/6)

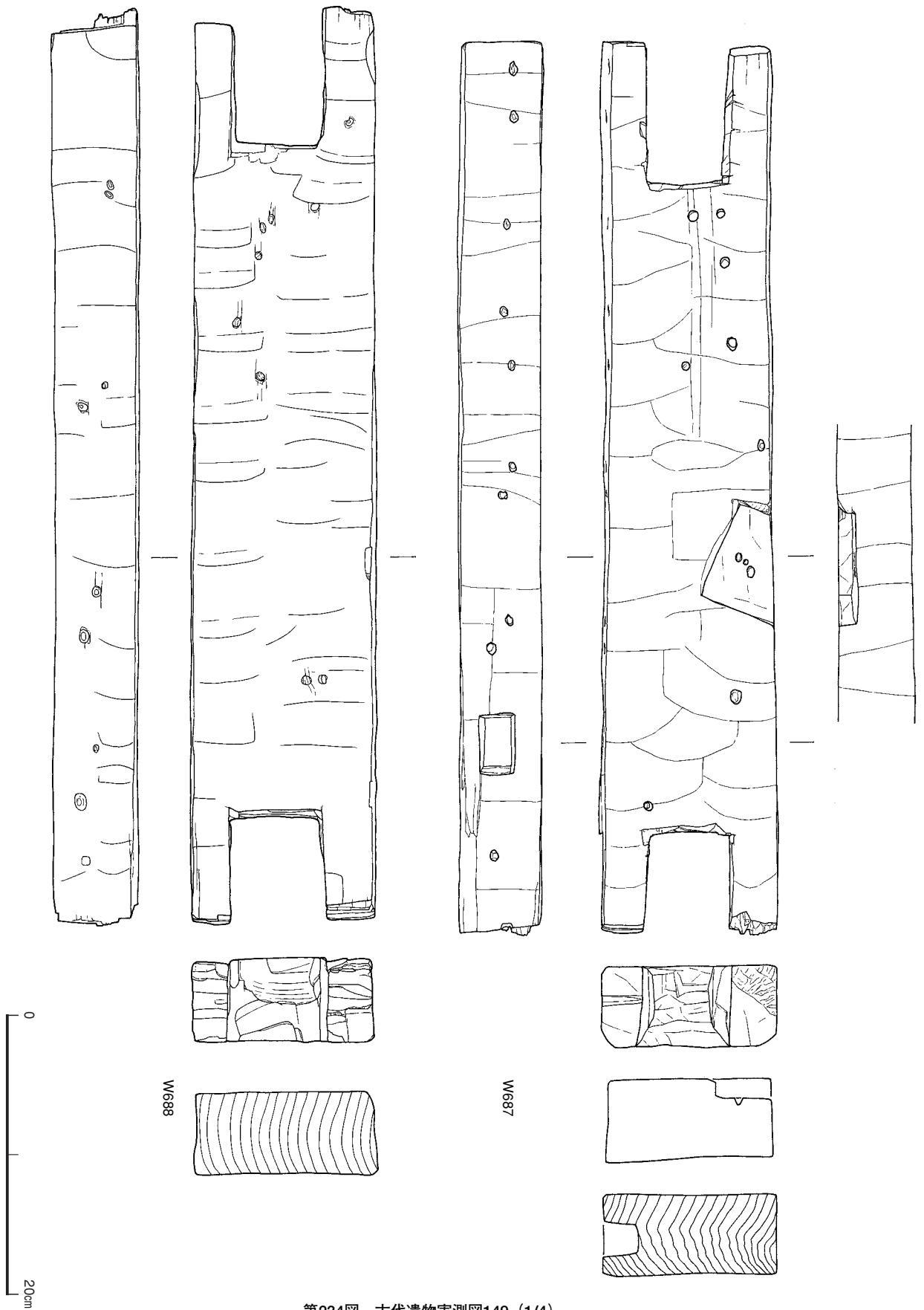


第232図 古代遺物実測図147 (1/8)



第233図 古代遺物実測図148 (1/8)

0 10 50cm



第234図 古代遺物実測図149 (1/4)



W690

W689

第235図 古代遺物実測図150 (1/4)

0 20cm

第6表 木製品一覧

報告番号	器種	樹種	年度	地区	遺構	遺構2	層位	計測値(mm、最大値)			実測番号
								長	幅	厚	
W511	鋤	ヒノキ属	99	B2	SD16	c	暗灰色粘土層	446	102	44	01t1W53
W512	柄	ネズコ	01	O2	河跡	1		396	184	33	02yW07
W513	鎌柄か	アサダ	99	B2	SD16	b	暗灰粘土層	263	38	18	01t1W114
W514	木型	スギ	02	W	SD62	川内1-8		148	103	76	03bW77
W515	柄か	ムクノキ	99	B2	SD16	b	青灰砂	301	73	23	01t1W156
W516	權か	ヒノキ	99	B2	SD16	b	青灰砂	427	40	13	01t1W48
W517	ヘラ	ヒノキ	99	B2	SD16	c	暗青灰砂	36	24	12	01t1W51
W518	ヘラ状木製品	ネズコ	00	O1	SD07		中・下層	467	37	19	02s1W378
W519	アタラシ	スギ	02	W	SD62			379	68	18	03bW65
W520	木鍾	ツバキ属	99	B2	SD16	b	青灰砂	152	66	58	01t1W238
W521	木鍾	ツバキ属	99	B2	SD16	b		154	105	74	01t1W230
W522	木鍾	トネリコ属	02	W	SD62	川内1-8		146	51	71	03bW74
W523	木鍾	ヒノキ	99	B2	SD16	南北アゼ	暗灰粘土	121	84	66	01t1W235
W524	糸巻	スギ	01	O2	河跡	9		208	15	12	02yW18
W525	糸巻	スギ	99	B3	SD31		暗灰砂質土	203	26	12	01t1W169
W526	糸巻	スギ	01	O2	河跡	9		71	25	9	02yW30
W527	糸巻	スギ	02	W	SD62			29	102	15	03bW66
W528	紡錘車	スギ	01	O2	河跡	9		68	66	23	02yW31
W529	不明	スギ	99	I	SD31		黒褐色腐植層	371	31	12	01t1W176
W530	糸巻	スギ	02	W	SD62	川内1-8		400	32	13	03bW73
W531	飾板	サカキ	99	B2	SD16	b	青灰砂	593	76	10	01t1W145
W532	布巻具	モミ属	01	O2	河跡	1		479	40	26	02yW10
W533	紡織具か	スギ	99	B2	SD16	a	青灰砂層	413	42	15	01t1W117
W534	背負子	マツ属複雑管束亜属	02	W	SD62	川内1-8		477	37	37	03bW72
W535	弓	イヌガヤ	02	W	SD62			237	27	23	03bW69
W536	木杵	スギ	99	I	SD31		黒褐色腐植層	289	51	68	01t1W173
W537	下駄	サワラ	99	A3	SE11			232	125	71	01t1W205
W538	横櫓	イヌノキ	01	O2	河跡	6		83	53	11	02yW32
W539	槽	スギ	02	W	SD62	南端部	灰色粘土	927	212	57	03mW102
W540	槽	モクレン属	02	W	SD62			213	77	56	03bW64
W541	木皿	ブナ属	99	B2	SD16	a		552	273	78	01t1W153
W542	盤	スギ	99	A2	SD08	アゼ南		234	271	62	01t1W54
W543	盤	キハダ	02	W	SD62	川内1-8		146	51	71	03bW75
W544	木皿	ケヤキ	99	B2	SD16	b	暗青灰砂	169	98	12	01t1W69
W545	木皿	ケヤキ	99	B2	SD16	a		123	90	12	01t1W70
W546	木皿	ケヤキ	00	O1	SD07	b	中層と下層の境	295	92	15	01t1W47
W547	盤	ケヤキ	99	B2	SD16	b	暗灰色粘土層	300	280	15	01t1W68
W548	木皿	ケヤキ	00	O1	SD07	b	中層と下層境	164	144	16	01t1W71
W549	皿	ケヤキ	02	W	SD62		暗灰色粘土	168	168	15	03mW37
W550	円板状木製品	スギ	02	W	SD62	北アゼ	暗灰色粘砂	116	113	10	03mW101
W551	曲物蓋	スギ	02	W	SD62		暗灰色粘土	176	170	29	03mW36
W552	曲物	ネズコ	00	O1	SD07	c		196	188	25	01t1W65
W553	曲物底板	スギ	99	I	SD31		黒褐色腐植層	244	249	10	01t1W175
W554	曲物底板①	スギ	99	B2	SD16	d	青灰色砂層	201	201	8	01t1W257
W555	曲物底板	スギ	00	O1	SD07		下層	122	116	9	01t1W261
W556	底板	スギ	01	R1	河跡	②		189	191	13	02yW24
W557	曲物底板	ヒノキ	99	B3	SD31	トレンチ		167	67	9	01t1W171
W558	底板	スギ	01	O2	河跡	6		178	-	11	02yW05
W559	曲物底板	スギ	00	O1	SD08	材集中部		280	265	12	02s1W373
W560	曲物底板	スギ	02	W	SD62		暗灰色粘土	165	164	8	03bW60
W561	底板	スギ	01	O2	河跡	6		170	-	14	02yW20
W562	曲物底板	スギ	02	W	SD62		暗灰色粘土	246	70	12	03bW61
W563	曲物底板	スギ	02	W	SD62	川内1-8		175	177	7	03bW76
W564	曲物底板	スギ	02	W	SD62			165	173	10	03bW62
W565	木製円盤	ネズコ	00	O1	SD07・08	c	中層	345	175	15	01t1W66
W566	蓋	ヒノキ	99	E	SE04	枠内		173	170	10	01t1W212
W567	不明	スギ	99	I	SD31		黒褐色腐植層	189	175	12	01t1W174
W568	紡錘車?	スギ	02	W	SD62			72	75	8	03bW63
W569	水準器	スギ	99	B3	SD31		暗灰色砂層	98	26	14	01t1W170
W570	題箋軸	スギ	01	Q2	河跡			210	18	5	02yW33
W571	斎串	スギ	99	E	SE04	枠内	黒褐色土	127	18	6	01t1W197
W572	斎串	スギ	99	E	SE04	枠内		118	18	5	01t1W217
W573	不明	ヒノキ	99	A2		d	黒灰粘土	176	28	4	01t1W126
W574	形代?	スギ	01	O2	河跡	6		243	35	8	02yW15
W575	形代?	ヒノキ	01	O2	河跡	6		386	71	9	02yW02
W576	馬形	スギ	01	O2	河跡	6		137	190	12	02yW01
W577	人形	スギ	02	W	SD62			240	45	7	03mW38
W578	人形	スギ	02	W	SD62		暗灰色砂	267	33	6	03mW107
W579	剣形	スギ	02	W	SD62		暗灰色粘土	262	39	7	03bW71
W580	剣形	コナラ節	00	O1	SD07	c	中～下層	151	40	38	01t1W80
W581	刀形	スギ	02	W	SD62	川内1-8		458	57	23	03mW80
W582	刀形	ネズコ	99	A2	SD08	アゼ南	暗灰砂	363	56	15	01t1W79
W583	舟形	ヒノキ科	00	O1	SD08	a	上層	209	49	20	01t1W7
W584	舟形	スギ	00	O1	SD07	c		210	36	26	01t1W81
W585	不明	ネズコ	99	B2	SD16	南北アゼ	暗灰粘土	109	16	5	01t1W90
W586	ササラ状木製品	クロバ?	99	B3	SD31		灰色粘質土	356	26	16	01t1W168
W587	机天板	スギ	01	R1	河跡	②木器溜		1,005	218	40	02yW34・35
W588	板	スギ	99	B3	SD31		黒色粘土層	268	236	20	01t1W165
W589	不明	スギ	00	O1	SD08a	d	砂層	292	155	10	01t1W142
W590	不明	スギ	00	O1	SD08	c	下層	215	111	8	01t1W141
W591	部材	スギ	02	W	SD62		暗灰色粘土	176	93	19	03bW59
W592	不明	スギ	99	B3	SD31		黒色粘土層	282	45	20	01t1W250
W593	不明	スギ	01	O2	河跡	6		465	116	25	02yW04
W594	不明	スギ	01	O2	河跡	4		368	159	44	02yW06
W595	不明	スギ	99	B2	SD16	a	青灰砂層	183	61	19	01t1W107
W596	不明	スギ	02	W	SD62	北アゼ	暗灰色粘土	303	21	19	03mW99
W597	たたり	コナラ節	99	F	SD06			136	253	67	01t1W268
W598	不明	ヒノキ	01	O2	河跡	9		290	69	58	02yW19
W599	紡織具	スギ	99	B3	SD31		緑灰色砂質土	288	43	10	01t1W167

報告番号	器種	樹種	年度	地区	遺構	遺構2	層位	計測値 (mm、最大値)			実測番号
								長	幅	厚	
W600	紡織具	スギ	99	I	SD31		黒褐色腐植層	346	46	10	01t1W172
W601	紡織具	スギ	99	B3	SD31		灰色粘質土	352	43	13	01t1W166
W602	部材	サクラ属	02	W	SD62	川内 1 - 8		140	67	35	03mW35
W603	パチ状木製品	スギ	01	O2	河跡	⑨		771	37	16	02yW40
W604	有頭棒状木製品	スギ	01	O2	河跡	⑧		595	30	27	02yW37
W605	有頭棒状木製品	スギ	01	O2	河跡	⑧		583	30	24	02yW38
W606	有頭棒状木製品	スギ	01	O2	河跡	⑧			20	16	02yW39
W607	棒状木製品	スギ	02	W	SD62			335	11	11	03bW68
W608	棒状木製品	スギ	02	W	SD62			498	24	18	03bW70
W609	棒状木製品	スギ	02	W	SD62			554	29	26	03bW67
W610	木針	スギ	02	W	SD62	北アゼ	暗灰色粘砂	273	22	9	03mW100
W611	板	スギ	01	O2	河跡	6		1,498	142	37	02bW53-54
W612	建築部材	スギ	01	O2	河跡	6		969	248	85	02bW62-63
W613	板	スギ	01	O2	河跡	8		1,633	153	43	02bW55-56
W614	部材	スギ	01	O2	河跡	⑧		962	69	57	02yW50
W615	部材	スギ	01	R1	河跡	⑫木器溜		829	63	41	02yW47
W616	不明	スギ	99	B2	SD16	南北アゼ	暗灰粘土	794	100	18	01t2W19
W617	礎板	スギ	02	N2	SB360東桁	SD117		2,659	264	75	03mW48
W618-1	机脚部?	スギ	01	O2	河跡	6		923	302	45	02bW65-66
W618-2	机脚部?	(未鑑定)	01	O2	河跡	6		595	82	34	02bW267
W619	田下駄足板?	ネズコ	01	O2	河跡	6		484	119	15	02yW08
W620	土木部材	スギ	02	W	柵状遺構	川2-4		322	212	18	03mW95
W621	矢板	スギ	99	A2	SD08			553	141	29	02s2W11
W622	土木部材	スギ	02	W	柵状遺構	川2-4		839	211	62	03mW97
W623	土木部材	スギ	02	W	柵状遺構	川2-4		292	154	25	03mW96
W624	土木部材	スギ	02	W	柵状遺構	川2-4		949	272	65	03mW93
W625	土木部材	スギ	02	W	柵状遺構	川2-4		822	215	83	03mW94
W626	柱	スギ	02	N2	P161			418	304	187	03mW125
W627	柱根	スギ	99	F	SB368-P11			563	380	325	02s2W特2
W628	礎板	スギ	99	G	SB360-P05			741	183	50	01t2W26
W629	礎板	スギ	99	G	SB360-P10			760	232	74	01t2W39
W630	礎板	スギ	99	G	SB360西桁			2,530	292	7	01t1W特10
W631	礎板	スギ	99	F	SB368南桁			3,546	198	60	01t2W37
W632	礎板	スギ	99	G	SB360西桁			5,090	330	84	01t2W23
W633	礎板	スギ	02	N2	P160			310	195	73	03mW63
W634	礎板	スギ	02	N2	P153			210	111	30	03mW62
W635	礎板	スギ	02	V2	SK11			390	165	25	03mW79
W636	礎板	スギ	02	V2	SK11			448	115	34	03mW78
W637	不明	ネズコ	00	O1	SD07	c	中層	484	52	33	01t1W96
W638	杭	ツバキ属	99	B2	SD16	1 - 1		666	97	87	01t2W27
W639	井戸側	スギ	99	B3	SE01			938	188	21	01t2W8
W640	井戸側	スギ	99	B3	SE01			976	195	21	01t2W9
W641	井戸側	スギ	99	B3	SE01			985	202	35	01t2W11
W642	井戸側	スギ	99	B3	SE01			1,000	226	40	01t2W12
W643	井戸側	スギ	99	B3	SE01			698	178	41	01t2W20
W644	井戸側	スギ	99	B3	SE01			905	238	33	01t2W2
W645	井戸側	スギ	99	B3	SE01			1,019	184	28	01t2W3
W646	井戸側	スギ	99	B3	SE01			998	183	27	01t2W4
W647	井戸側	スギ	99	B3	SE01			1,014	195	22	01t2W5
W648	井戸側	スギ	99	B3	SE01			1,018	185	26	01t2W6
W649	井戸側	スギ	99	B3	SE01	隅柱		1,103	74	64	01t2W1
W650	井戸側	スギ	99	B3	SE01	隅柱		810	87	59	01t2W10
W651	不明	スギ	99	B3	SE01			1,213	43	27	01t2W15
W652	井戸側	スギ	99	B3	SE01	隅柱		1,377	55	35	01t2W29
W653	井戸側	スギ	99	E	SE04	横板		1,425	277	87	01t2W35
W654	井戸側	スギ	99	E	SE04	横板		1,420	220	76	01t2W34
W655	井戸側	スギ	99	E	SE04	横板		1,414	233	74	01t2W33
W656	井戸側	スギ	99	E	SE04	横板		1,416	205	71	01t2W32
W657	井戸側	スギ	99	E	SE04	横板		1,352	207	50	01t2W7
W658	井戸側	スギ	99	E	SE04	横板		1,277	157	93	01t2W36
W659	井戸側	スギ	99	E	SE04	隅柱		1,150	233	245	01t1W特1
W660	井戸側	スギ	99	E	SE04	隅柱		1,117	248	209	01t1W特2
W661	井戸側	スギ	99	E	SE04	隅柱		1,043	210	207	01t1W特7
W662	井戸側	スギ	99	E	SE04	隅柱		1,316	253	245	01t1W特8
W663	井戸側	スギ	01	R1	SK01	北棧		1,095	98	49	02bW72-73
W664	井戸側	スギ	01	R1	SE02	W2		644	310	52	02bW59
W665	井戸側	スギ	01	R1	SE02	W3		597	187	35	02bW64
W666	井戸側	スギ	01	R1	SE02	3段目西棧		739	56	51	02bW60
W667	井戸側	スギ	01	R1	SE02	3段目東棧		762	53	50	02bW61
W668	井戸側	スギ	01	R1	SE02	1段目南横板		850	265	28	02bW68-69
W669	井戸側	スギ	01	R1	SE02	2段目南横板		848	238	40	02bW70-71
W670	井戸側	スギ	02	V1	SK13	1		1,307	513	59	03mW12
W671	井戸側	スギ	02	V1	SK13	2		1,089	34	348	03mW13
W672	井戸側	スギ	02	V1	SK13	4		1,117	189	24	03mW14
W673	井戸側	スギ	02	V1	SK13	8		855	124	30	03mW15
W674	井戸側	スギ	02	V1	SK13	9		1,414	369	36	03mW16
W675	井戸側	スギ	02	V1	SK13	10		1,050	340	31	03mW17
W676	井戸側	スギ	02	V1	SK13	11		1,173	315	32	03mW18
W677	井戸側	スギ	02	V1	SK13	22		1,529	685	59	03mW27
W678	井戸側	スギ	02	V1	SK13	23		1,042	196	22	03mW28
W679	井戸側	スギ	02	V1	SK13	24		1,014	171	19	03mW29
W680	井戸側	スギ	02	V1	SK13	25		1,240	686	60	03mW30
W681	井戸側	スギ	02	V1	SK13	26		625	183	26	03mW31
W682	井戸側	スギ	02	V1	SK13	27		1,011	196	24	03mW32
W683	井戸側	スギ	02	V1	SK13	12		1,612	170	55	03mW19
W684	井戸側	スギ	02	V1	SK13	18		1,526	126	53	03mW25
W685	井戸側	スギ	02	V1	SK13	15		1,658	101	51	03mW22
W686	井戸側	スギ	02	V1	SK13	20		1,732	129	50	03mW26
W687	井戸側	スギ	02	V1	SK13	13		635	127	60	03mW20
W688	井戸側	スギ	02	V1	SK13	17		651	132	60	03mW24
W689	井戸側	スギ	02	V1	SK13	14		803	101	44	03mW21
W690	井戸側	スギ	02	V1	SK13	16		808	107	37	03mW23

第7表 木簡一覧

報告番号	木簡番号	樹種	年度	地区	遺構	長	幅	厚	型式	内容	試料番号	実測番号
W501	1号	スギ	99	B3	SD31	(103)	292	9	081	出拳関連	406	和田
W502	3号	スギ	01	O2	河跡	(294)	34	4	019	郡符	416	02bW83~86
W503	11号	スギ	02	W	SD62	(278)	42	3	019	郡符	981	03mW105
W504	2号	スギ	99	B2	SD16	(110)	(18)	3	081	断片	1	01t1W1
W505	4号	スギ	01	O2	河跡	(156)	(29)	7	081	召還木簡	417	02bW87・88
W506	5号	スギ	01	O2	河跡	(92)	(14)	6	081	断片	418	02bW89
W507	6号	スギ	01	O2	河跡	185	23	4	051	付札	419	02bW90~92
W508	8号	スギ	01	O2	河跡	157	19	5	051	付札	421	02bW95・96
W509	10号	スギ	02	W	SD62	(83)	21	4	059	付札	980	03mW104
W510	7号	ヒノキ	01	O2	河跡	444	54	14	065	習書	420	02bW93・94

W501 第一号木簡
 天平勝宝四年上領
 戸主阿刀足人六十
 妻答忌寸宅女册
 阿刀三繩册束
 妻館氣奈加女
 山邊足君册
 □内麻呂廿
 □悪麻呂
 合稻二百册
 □田秋人册
 答忌寸道嶋册束
 刑マ小当廿束
 同姓味知麻呂十
 「(馬の絵)」
 (103)×292×9 081

W502 第二号木簡
 「皇家也」
 □□□
 □□□
 (110)×(18)×3 011

W502 第三号木簡
 「符丸」
 「郡□□大野郷長□□件□□」
 「罪科知比旨火急」
 『主政』
 『主帳』
 (294)×34×4 019

W505 第四号木簡
 「追 召 阿マ嶋女
 山邊志祁良」
 156×(29)×7 019

W503 第十号木簡
 「石山村里」
 □□□
 (83)×21×4 059

W504 第八号木簡
 「右大辨史田家牛賀マ宮方呂」
 157×19×5 051

W506 第五号木簡
 □十一月七日
 (92)×(14)×6 081

W507 第六号木簡
 「幡マ連弘万呂白米一石」
 「『御物』」
 185×23×4 051

W508 第七号木簡
 「人、人、人 大大 大大」
 444×54×14 065

W509 第十号木簡
 「符 田行笠□等 横江臣床嶋□
 西正□物□」
 「口相定田行率召持来今□以付
 田領横江臣□」
 (278)×42×3 019

第6節 小 結

畝田西遺跡群の古代は遺構・遺物共にボリュームが多く、その内容も多岐にわたるためその理解も筆者の能力を超えるものであった。また紙幅の制限もあることから、個々の考察は別の機会に譲ることとし、本節では本遺跡を理解するための見通しのようなことを述べて結びに替えたい。

1) 遺構

本遺跡のメインは河跡・古代流路SD31-62・掘立柱建物群に集約されると言って良い。基本的には河跡を中心に古代の遺構が展開し、河跡の埋没と共に遺跡も終焉を迎え、次段階へと変化していく。

河跡は遺物を通観してもわかるように、その時期は田嶋編年Ⅲ～Ⅳ期（8世紀第2四半期～9世紀初頭）、わずかにⅤ期（9世紀前半～）の遺物が混入する。遺物は河跡から万遍なく出土しているわけではなく、おおまかに墨書土器が集中する地点が古代遺物の集中地点にもなる。建物群も基本的にはこの河跡の消長の延長で理解されよう。第3・4分冊で河跡の前身が詳述されているが、古代の流路の基本形は古墳時代中～後期頃にできあがったもので、古代では一部に手を加え、日本海へつながるバイパスとして用いている。報告では積極的に評価しなかったが、A2区・O1区・W区南に「船溜まり」と考えてもよいような、本流脇に存在する浅いテラス部分を見ることができる。A2区河岸に構築された杭列は、多量に出土した墨書土器と併せて考えても船着き場遺構と見なしてもよいように筆者は考える。この河跡はそのまま北上し続けることが金沢市の行った調査（木曳野遺跡群）でも確認されており、やがて犀川などの大河川に合流していったのであろう。

古代流路SD31-62は、O1～W区付近で河跡から分流し、北西方向に向かって流れていく。河跡と併せ本遺跡の二大基幹水路である。この流路は時期により遺物の偏りが見られ、B3・I区付近ではⅣ1期、W区ではⅢ期を中心にⅣ期が定量混じるといった具合である。「津」墨書土器を出土するのはこの溝のみであり、津の運営に深く関わる溝であることは疑いを入れなくてあろう。とは言え、本遺跡内では、本溝に伴う掘立柱建物跡が一棟も検出されていないところにこの溝をどう解釈するかの問題点が横たわっている。ひとつ可能性があるのはW区北側に集中する建物群であるが、これらの建物は溝より後出のⅣ2期～Ⅴ期の遺物を出しており、溝の埋没後に設置された施設群と考えている。現状では、調査区外（おそらくは西岸側）に施設が展開しているのではあろうとしか推定できない。

古代に属する掘立柱建物跡は73棟（既報告も含めると75棟）が検出された。その分布は大きくA（第2図、N2区）・B（第4・6図、A2・Q2・T区他）・C（W区、第3図）に大別できる。

Aブロックは河跡の東岸に展開する「倉庫群とその管理施設」と目される建物ブロックで、河跡に沿って特徴的に並ぶ8棟の総柱建物が特徴的である。総柱建物列は北3棟・南4棟に分かれ、その間には空白地が存在する。それぞれのブロックには、象徴的な大型総柱建物SB368・SB360が存在し、どちらも布掘筏地行という特殊な基礎が設けられているのは興味深い。さらにその南端東側には、雨落溝を持つ桁行6間の建物SB369が位置している。建物個々の詳細な年代を求めることはできなかったが、建物軸などからこれら8棟の倉庫はほぼ同時期に存在してよいように思われる。この状況は河跡を介した物資輸送の結節点であることを示しており、その際、SB366と364・365の間にある空白地を、各倉庫に選り分ける作業スペースとして考えることができなからあろうか。後述するように、本遺跡が加賀郡の管理下にあった加賀郡津であると想定すれば、このAブロックは物資の集散地である津湊を端的に象徴する建物群であると評価することができるだろう。



第236図 古代の畝田西遺跡群概観図 (S=1/1,000)

Bブロックは遺跡の南端に位置し、河跡の両岸に建物群が展開する。東岸側A2区では、河跡に沿う3棟の倉庫列SB322・323・324が存在し、その北東に性格不明の方形区画溝SD31・34を囲むU字状に掘立柱建物が配置される。その対岸Q2区には、大型の掘立柱建物3棟が配置される。この地区も建物個々の年代を明確にすることができなかったが、建物軸やわずかに出土した遺物からは、これらの建物に明確な時期差を与えることができなかった。Ⅲ～Ⅳ1期という極めて短期間の間に展開・建て替えが行われているのであろう。Bブロックの性格を明らかにするのは難しいが、河跡の板杭列と墨書土器の集中を併せて考えると、実務的な曹司エリアのような性格が想定できまいか。ただ、このブロックにのみ小型の東西棟建物が集中傾向を示すのは注意が必要で、これらの建物は小型の柱穴と建物軸線の乱れという点で共通している。

Cブロックは県・金沢市調査区をまたぐ建物ブロックのため不確定な点が多いが、河跡の西岸、古代流路SD31-62の北側に展開する。このブロックのみ出土遺物が確実に一時期下がって(Ⅳ2～Ⅴ期)おり、本遺跡の終末期に配置された建物群である。本遺跡最大の建物SB357を中核に、その西側にU字状に建物が配置される。この建物群には、南を区画する板杭列SA01が存在し、SA01が河跡を切り込んで構築されていることから、本ブロックが河跡埋没後に営まれたことを示しているよう。SB357の柱穴からは墨書土器F306「宅」が出土しており、推定であるが、9世紀以降に金沢臨海部で急速に増加する初期庄園に伴う施設である可能性を指摘しておきたい。

以上の3ブロックの概観から、本遺跡の中心時期であるⅢ～Ⅳ1期(8世紀第2四半期～後半)は、A・Bの2ブロック+河跡が基本構成であり、いずれも河岸に位置していることから河跡を強く指向した構造であるといえる。Aブロックの倉庫エリア、Bブロックの曹司(雑舎)エリアを想定できるが、Bブロックは方形区画溝内にどのような遺構が存在していたかの想定如何で評価が分かれよう。現状ではその遺構を特定できないが、想像をたくましくするならば津を象徴するような礎石建物を伴う儀式・接客エリアであったかもしれない、今後の分析・論を待ちたい。

2) 墨書土器と木簡

本遺跡を特徴づける遺物として、豊富な文字資料が上げられる。以下、墨書土器と木簡に分けて概観していきたい。なお、文字資料遺物に関しては、第6分冊に平川南氏より詳細な論考を賜っており、本項は平川論考の補完的な一文であることをお断りしておく。

墨書土器(1)「語」字グループ A2・Q2区SD08とごく一部の遺構でのみ出土する、極めて一括性の高い一群である。土器の時期もほぼⅢ期で収まることから、特定のある儀式の際に用いられ、河跡に廃棄されたものと考えられる。「語」の意味するところについては、①氏族名、②吉祥句、③「訳語」の略、の3通りの解釈が出されているが、「語成人」墨書の存在から、本報告では氏族名と解釈したい。文献に見える「語」をウヂ名とする氏族は「語部」とその伴造氏族である「語連」、及び臣・君等の諸族が存在し、美濃・丹波・丹後・但馬・出雲・淡路の諸国に分布していたようである。

語グループには、単字句の「語」の他に、前出の「語成人」、そして「語-語」がある。この「語」字同土を棒線でつなぐ墨書は一定量存在し、何らかの意味を持ってなされた墨書であることは間違いないであろう。2字の「語」にも、同筆と思わしきものと明らかに異筆のものがあ、書き順は上の「語」を書いた後棒線を引っ張り、2字目の「語」を書くようである。現在のところこのような墨書行為は定見がなく、類例を待ちたい。

墨書土器(2)「天平二年」 可能性もあるものを含めると河跡A2区から1点、古代流路SD31-62

から2点が出土する。墨書土器の大前提である「墨書行為の同時性」からすると、「天平二年」墨書はいずれも田嶋編年Ⅲ期の無台杯に記されており、Ⅲ期の年代定点を730年に置くことができるようになったことは大きな成果といえよう。さて、この「天平二年」という年紀がなぜ墨書されたかという点については、神亀5(728)年に渤海国へ派遣された遣渤海使引田朝臣虫麻呂の帰国記事が天平2年に見られることから、これに関連づける説も出されている。

墨書土器(3)「津」「津司」 「津」は古代流路SD31-62と河跡W区から、「津司」は河跡A2区から出土する。いずれも古代の港湾施設「津」に関連する墨書で大過ないと思われるが、この2者には、①土器の時期差。「津司」はⅢ期、「津」はⅣ1期の土器に墨書される。②「津司」に「津」墨書が全く共伴しない。という特徴が上げられる。同様の「津」墨書は近隣する金沢市戸水C遺跡、新潟県北蒲原郡中条町蔵ノ坪遺跡、福井県高岡市中保B遺跡などで類例が知られる。「津司」の評価についてはいくつかの説が上げられているが、筆者は加賀郡司の兼務か郡雑人ではないかと考えている。このことは後述する。

墨書土器(4) 袋文字 この変わった墨書は、河跡・古代流路SD31-62を中心に土坑・井戸などからも出土する。土器の時期はおおむねⅣ1期であろう。袋文字で墨書する字句は「人」「大」に限られ、圧倒的に「人」字が多い。この墨書は単純に文字の輪郭をなぞるだけでなく、「各筆ごとに、書き順通りに」輪郭をなぞるという特徴を持つ。また他の墨書に追筆して書くものが定量あることも特徴である。類例は、知見の限りでは金沢市藤江B遺跡「大」しかなく、この遺跡・集団に固有の墨書行為であったかもしれない。

木簡 木簡は、河跡より7点、古代流路SD31-62より3点が出土する。注目されるのは、第1号出挙帳簿様木簡、第3号・11号郡符木簡である。

第1号出挙帳簿様木簡の存在は、出挙収納事務が本遺跡で行われていたことを示唆しており、加賀郡の出挙が本遺跡の施設-加賀郡津の運営のために割り割かれたのであろう。注意せねばならないのは、郡津そのものが出挙収納事務を行っていることであり、上部機関の加賀郡から割かれたのが「出挙稲」そのものでなく「出挙行使権」であることである。このことは、やや性格が異なるが駅家の人的・経営的基盤として設置された駅戸の存在を思い起こさせる。想像をたくましくすることが許されるならば、津湊にも駅戸に対応するような人的・経営基盤-「津戸」とでも言うべきがもの置かれていたことをこの第1号木簡は示唆しているように思える。このことに関連して、郡津の運営形態の一端をかいま見せてくれるのが第3号郡符木簡である。この郡符は「大野郷長」を宛所に、加賀郡司(主政・主帳)から発せられたおそらくは召喚文書の類であろうが、まず郡符の存在そのものが、郡津の運営・経営に郡司が深く関与していたことを裏付けている。また郡符木簡の性格として指摘される「差出元で廃棄される」例が本木簡にも当てはまるならば、郡司そのものが郡津の管理者として(より踏み込んで言えば津司=郡司)存在していたことを本木簡は示唆していよう。その際、差出に記された郡司が主政・主帳という郡司3等官・4等官であることは、実際に郡家から郡津に派遣され、運営に当たらせている微証になるうか。

3) 遺跡の性格について

前2項の考察から、畝田・寺中遺跡の古代は「官衙関連遺跡」として捉えうることが可能になったように思える。より具体的にその性格を求めていくならば、「津」をあげることができることはたびたび指摘している通りである。加賀郡に付属する津-いわゆる加賀郡津の存在を積極的に評価したのは、浅香年木氏の天平勝宝七歳越前国雑物収納帳の分析を嚆矢とする。この文書には、加賀郡負担分

の年料春米その他を「船載」した内容を記した加賀郡司解が含まれており、氏は「これらの官米は、(中略)比楽湊、もしくは『延喜式神名帳』の加賀国加賀郡の条に「大野湊神社」が見えることにより加賀郡の郡津であったと目される、犀川ならびに青崎川(大野川)の河口の大野湊、などの国津・郡津から積出されたのであろう。」とし、金沢臨海部に加賀郡津の存在を予想していた。やがてこの臨海部の金石本町遺跡・戸水C遺跡の両遺跡が調査されるに及び、この浅香氏の予想が当を射ていたことが明らかになる。金石本町は8世紀代、戸水C遺跡は9世紀代にピークを持つ遺跡であり、9世紀前半代の加賀立国の問題も加味すると、金石本町遺跡=加賀郡津、戸水C遺跡=加賀国府津、という想定がなされており、犀川水系金石本町遺跡→大野川水系戸水C遺跡へと津湊が変遷していくと理解されていた。この遺跡動態は、水系の問題を除けば本報告および畝田東遺跡群(畝田ナベタ遺跡)でも継承されており共通の理解である。

加賀郡津に擬せられる金石本町遺跡は、7世紀後半代から活動を開始する。畝田・寺中遺跡はその後を追いかけるように8世紀第1～2四半期に活動を始める。畝田・寺中遺跡が当初から津を目的として開発整備されたことは、「津司」墨書土器がⅢ期に比定されることから推測される。金石本町遺跡における、3×9間という卓越した規模の東西棟を含む建物群もほぼこの時期に充てることができ、畝田・寺中遺跡は金石本町遺跡の整備拡充に伴って開発されたものと考えてよいだろう。畝田・寺中遺跡にもこれほどではないものの、雨落溝を両桁に伴う6間規模の大型建物SB369が存在する。

その開発主体を考えると興味深い資料が、3号木簡の存在である。3号木簡は加賀郡司から大野郷長に宛てられた郡符木簡だが、その署名には「主政・主帳」がある。大野郷長に命ぜられた人物の召喚先が畝田・寺中遺跡であり、この地で木簡が廃棄されたということは、加賀郡司がその支配経営に多分に関わっていることの証明である。11号木簡と併せた2点の郡符木簡は、畝田・寺中遺跡と加賀郡家の強い関連性を示すものである。以上の点から、畝田・寺中遺跡および金石本町遺跡が8世紀代の加賀郡津であることはほぼ確実と言ってよい。さらに加賀郡津には津司が置かれており、主政・主帳がその任にあたっていたことも推測させる。

加賀郡津の機能を考える上で重要な史料が、前出の天平勝宝七歳加賀郡司解案である。本史料は越前国雑物収納帳に納められた、天平勝宝七歳度の加賀郡司が京進した年料春米等の報告案文(草案)である。年料春米を含めた加賀郡負担分の京進春米は実に約5051石、その内の約7割にあたる3570石が「船載」されている。この船載されたところは加賀郡の外港たる加賀郡津以外にありえない。さらにこの時、江沼郡分の年料であろう米が、春米ではなく穎稻の形で加賀郡にもたらされており、加賀郡+江沼郡という、後の加賀国に相当する量の年料春米がこの加賀郡津から船載搬出されている事実は看過すべきではない。後の加賀国府津として『延喜式』に登場する比楽湊を使わずに加賀郡津にまで穎稻を輸送していることを考慮すると、当時の海路の拠点加賀郡津の方が卓越していたと言ってよいだろう。このような莫大な物資を船載海送できる背景を、加賀郡津は有していたのである。その一端を、河跡に沿って建つ8棟の総柱建物(倉庫)群にかいま見ることができよう。

第8表 墨書字句と個体数

語	59	×万呂	1	馬家	2	宅	1	枚人	5	太稻磨	1
語語	16	□刀女	1	占	1	奉カ	1	宮家	2	文	4
語成人	3	□奉	1	依カ	1	津司	1	庄カ	1	本カ田	1
荒田家	12	○	1	置目	1	徳	1	二カ	1	本カ刀女	1
天平二年	2	十か×	2	女	1	徳万カ呂カ	1	西カ	1	山	1
津	18	相成	1	木	1	富、十	1	廿	1	由竹	1
平	25	秋女	1	吉吉	1	中村	1	年	1	奈	1
山田	12	秋富	1	子□	1	奈ツ加志	2	原刀女	1	几	1
人(袋文字)	26	遊多有女人	1	三十	1	男山	3	原万呂	1	転用硯	5
×女	2	石万呂	1	白竹	1	倉持	2	日奉	1	判読不可	43
□女	3	上	1	寸	1	奈刀女	3	人□	1		
×年	1	牛	1	井(線刻)	1	文	4	人・大	1		

第9表 調査区毎の墨書土器個体数

A1	4
A2(拡含)	118
A3	7
B2	13
B3	46
C1	29
E	16
G	1
I	8
K	1
M3	1
N2	3
O1	4
O2	1
Q2	6
R1	10
T	3
W	30

引用・参考文献

浅香年木1978『古代地域史の研究』
 (財)いわき市教育文化事業団2001『荒田目条里遺跡』
 石川県立埋蔵文化財センター・(財)石川県埋蔵文化財センター
 1986『金沢市戸水C遺跡』
 1991『畝田遺跡』
 1993『石川県金沢市戸水C遺跡』
 1994『正友ヤチヤマ窯跡』
 1997『金石本町遺跡』
 2000『金沢市戸水C遺跡・戸水C古墳群(第9次・10次)』
 2002『大野郷を掘る』
 2003『金沢市戸水C遺跡・戸水C古墳群(第11次・12次)』
 2005『畝田西遺跡群』Ⅰ・Ⅱ
 金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財センター
 1984『金沢市畝田・寺中遺跡』
 1996『金石本町遺跡Ⅰ～Ⅲ』
 1998『上荒屋遺跡Ⅲ』
 折戸靖幸・川畑誠1994「高松・押水窯跡群における8世紀中葉の画期」(北陸古代土器研究会『北陸古代土器研究』第4号)
 北野博司2000「古代北加賀の政治勢力」(金沢市『市史かなざわ』第6号)
 鬼頭清明1995「古代における津の都市的様相」(国立歴史民俗博物館『国立歴史民俗博物館研究報告第63集』)
 大徳公民館1970『大徳郷土史』
 高岡市教育委員会2002『中保B遺跡 調査報告』
 田嶋明人「古代土器編年軸の設定」1988(北陸古代土器研究会『シンポジウム 北陸古代土器研究の現状と課題』
 出越茂和
 1993「北陸初期荘園の考古学的分析」(金沢市教育委員会『東大寺領横江荘推定地 上荒屋遺跡(二)』)
 2003「内水面と古代水上交通」(金沢市教育委員会『石川県金沢市 大伴西遺跡Ⅲ』)
 奈良文化財研究所・奈良国立文化財研究所
 1998『律令国家の地方末端支配機構をめぐって-研究集会の記録-』
 『古代の稲倉と村落・郷里の支配』
 2000『郡衙正倉の成立と変遷』
 2003『古代官衙・集落と墨書土器-墨書土器の機能と性格をめぐって-』
 『古代の官衙遺跡Ⅰ 遺構編』
 新潟県教育委員会2002『一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』
 平川南
 2002「古代における地域支配と河川」(国立歴史民俗博物館『国立歴史民俗博物館研究報告』第96集)
 2003「古代における里と村」(国立歴史民俗博物館『国立歴史民俗博物館研究報告』第108集)
 『古代地方木簡の研究』
 藤井一二2004「天平期における加賀郡「津」と渤海使」(続日本紀研究会編『続日本紀の諸相』)
 松原弘宣
 1985『日本古代水上交通史の研究』
 2005「河海交通-日本海交通を中心として」(上原真人他編『列島の古代史 ひと・もの・こと 4 人と物の移動』)
 木簡学会 『木簡研究』掲載号
 森田喜久男2003「大野郷畝田村と横江臣成刀自女」(金沢市『市史かなざわ』9号)
 (財)山形県埋蔵文化財センター2001『太夫小屋1・2・3遺跡発掘調査報告書』

第3章 [中世編] 平安時代後期～中世の調査結果

第1節 調査結果の概要

本章では、既報告（第2分冊）のL・A5～7、P、Z区以外で検出された平安時代後期～中世の遺構遺物を報告する。また、近世以降の遺構遺物も少数確認したため、ここで紹介する。

遺構は掘立柱建物、溝、井戸、土坑などが多数検出されており、特にA3区・M1～3区・N1・2区・T区で密に分布していた。また、時期的に見ると、遺構・遺物数は12世紀後葉～14世紀に多く、15世紀になると減少していく傾向にある。なお、遺構の報告に当たって掘立柱建物については、各地区通して新たに番号を付し、その他については現地調査時に地区毎につけた番号で示している。

遺物は珠洲焼、中世土師器の出土が多く、その他加賀焼、越前焼、陶磁器などが見られた。本章では、土器類300点、土製品16点、木製品146点、石製品13点、金属製品9点を収録している。

第2節 掘立柱建物跡

SB411 U区AE・AF28グリッドで検出した。攪乱溝等別の遺構との切り合いによって、正確なプランを確認できなかったが、南北2間（4.90m）、東西1間（2.75m）以上の規模を持つ総柱建物と思われる。長軸方位は真北（N0°）である。柱穴平面形は略円形または隅丸方形を呈し、径或いは1辺30cm前後、深さ30cm前後を測る。

SB412 A4区AK・AL19～20グリッドで検出した。南北3間（8.16m）、東西2間（4.17m）の総柱建物で、長軸方位はN5°Eである。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径27～45cm、深さは6～55cmを測る。

SB413 A4区AJ21グリッドで検出した。南北3間（7.59m）、東西2間（4.51m）以上の総柱建物と想定され、長軸方位はN5°Eである。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径32～55cm、深さ31～62cmを測る。

SB414 A4・H1区AI・AJ21グリッドで検出した。南北4間（8.63m）、東西3間（7.06m）以上、長軸方位N2°Eの総柱建物と想定される。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径30cm～52cm、深さ23cm～52cmを測る。なお、柱穴P179の柱根或いは礎板に対してC14年代測定（AMS法）を実施しており、更正暦年代でA.D.1070年の値を得た。

SB415 Q1区AK18グリッドで検出した。東西3間（7.30m）以上、南北1間（2.32m）以上の総柱建物で、長軸方位はN7°Eである。柱穴平面形は略円形で、径32cm～48cm、深さ11cm～28cmを測る。

SB416 Q1区AI18グリッドで検出した。南北3間（5.92m）、東西1間（1.92m）以上の総柱建物と想定され、長軸方位はN5°Wである。この建物については、東辺に1/4間規模の庇が取り付けられているとも考えられようか。また、北から2列目と3列目の柱列間の距離が2.82mと広がっている。柱穴平面形は略円形或いは方形を呈し、径或いは一辺は30cm前後、深さ11cm～40cmを測る。

SB417 Q1区AG・AH19～20グリッドで検出した。南北3間（6.00m）、東西2間（4.12m）の規模を持ち、長軸方位N5°Wの総柱建物だが、北から2列目の柱列で中心の柱が抜けている。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径28～49cm、深さ30～48cmを測る。

SB418 Q1・2区AG・AH21グリッドで検出した。東西3間（6.92m）、南北2間（5.30m）の総柱建物で、長軸方位はN90°である。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径23～38cm、深さ18～32cmを測る。

P177からは近世に属すると思われる白磁碗が出土し、図化を行っているが、建物自体は柱穴の埋土や、周囲の状況等から考え合わせて中世のものと思われる。

SB419 C 8区AD13～14グリッドで検出した。調査区が狭小なため、東西2間(4.32m)、南北1間(2.44m)分のみ検出した。総柱建物で、長軸方位はN72°Eである。柱穴平面形は略円形を呈し、径25～29cm、深さ13～44cmを測る。

SB420 C 3・C 8区AD・AE15～16グリッドで検出した。南北2間(4.13m)、東西2間(3.64m)の規模を持ち、長軸方位N15°Wを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径30～69cm、深さ5～32cmを測る。柱穴が重複している箇所がいくつか見られた。同位置で建替えを行ったのであろうか。

SB421 Q 2区AH21～22グリッドで検出した。南北2間(5.06m)以上、東西2間(4.46m)以上の総柱建物で、長軸方位は真北(N0°)である。柱穴平面形は略円形及び隅丸方形で、径及び一辺は16～38cm、深さ15～37cmを測る。

SB422 Q 2区AF・AG22～23グリッドで検出した。東西2間(4.50m)以上、南北1間(2.58m)以上で、長軸方位N6°Wを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね隅丸方形を呈し、一辺29～49cm、深さ12～38cmを測る。。

SB423 A 3区AG22～24グリッドで検出した。東西5間(11.91m)、南北2間(5.54m)の総柱建物で、長軸方位はN81°Eである。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径32～67cm、深さ16～51cmを測る。なお、柱穴P49の柱根或いは礎板に対してC14年代測定(AMS法)を実施しており、更正暦年代でA.D.1185年の値を得た。

SB425 T区Z・AA24～25グリッドで検出した。南北3間(7.22m)、東西3間(6.71m)で、長軸方位は真北(N0°)を指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形で、径32cm～50cm、深さ8cm～52cmを測る。

SB426 G・T区X26～27グリッドで検出した。東西2間(5.06m)以上、南北1間(4.66m)以上だが、調査区境に位置し、溝などの他遺構が錯綜していたため検出しきれなかった柱穴が多く、建物構造ははっきりしない。長軸方位はN5°Eである。柱穴平面形は略円形で、径40cm程度、深さ20cm程度を測る。

SB427 S 2区Z・AA15～16グリッドで検出した。東西4間(7.70m)、南北2間(4.22m)以上の総柱建物で、長軸方位はN72°Eである。柱穴平面形は概ね略円形で、径19cm～43cm、深さ22cm～38cmを測る。

SB428 S 2区Y・Z15～16グリッドで検出した。柱穴が抜けている箇所が見られたが、南北3間(7.26m)、東西2間(4.32m)で、長軸方位N15°Wを指す総柱建物となろうか。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径18cm～40cm、深さ12cm～30cmを測る。

SB429 R 2区Z・AA17～18グリッドで検出した。調査区境に位置し、検出できなかった柱穴もあるが、南北3間(8.00m)、東西2間(4.57m)で、長軸方位N16°Wを指す総柱建物となろうか。柱穴平面形は略円形を呈し、径30cm前後、深さ7cm～33cmを測る。

SB430 R 2区Z・AA18グリッドで検出した。検出できなかった柱穴もあるが、南北3間(6.50m)、東西2間(4.23m)で、長軸方位N16°Wを指す総柱建物と思われる。柱穴平面形は略円形及び隅丸方形で、径及び一辺30cm前後、深さ9cm～52cmを測る。

SB431 O 2区V・W・X24グリッドで検出した。一部検出できなかった柱穴もあるが、南北5間(11.58m)、東西4間(8.70m)で、長軸方位N7°Wを指す総柱建物だと思われる。また、一部検出

できなかった柱穴がある。柱穴平面形は略円形及び隅丸方形を呈し、径及び1辺20cm～53cm、深さ8cm～33cmを測る。

SB432 O2区W・X24～25グリッドで検出した。東西3間(6.74m)、南北2間(5.18m)の総柱建物である。長軸方位はN78°Eである。柱穴平面形は略円形を呈し、径30cm～47cm、深さ5cm～41cmを測る。

SB433 O2区W・X25グリッドで検出した。南北2間(5.36m)、東西2間(4.05m)の総柱建物で、長軸方位N7°Wである。柱穴平面形は概ね隅丸方形を呈し、1辺28cm～45cm、深さ7cm～28cmを測る。

SB434 N1区U・V25～26グリッドで検出した。一部検出できなかった柱穴もあるが、東西3間(7.81m)、南北3間(7.34m)の総柱建物になると思われる。また、柱間距離にばらつきがあり、やや歪みの見られるプランである。長軸方位はN86°Eを指す。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径25cm～45cm、深さ11cm～33cmを測る。

SB435 N1区T・U25グリッドで検出した。南北4間(8.59m)、東西2間(4.60m)の総柱建物で、長軸方位N1°Wを指す。柱穴平面形は略円形で、径18cm～36cm、深さ5cm～52cmを測る。

SB436 T区V29グリッドで検出した。東西2間(4.94m)、南北2間(4.88m)の総柱建物。井戸や溝などの他遺構に切り込まれており、検出できなかった柱穴がある。長軸方位はN83°Eを指す。また、柱間距離に差があり、西端～真中の柱列間の距離より、真中～東端の柱列間の距離の方が短い。柱穴平面形は略円形を呈し、径26cm～48cm、深さ18cm～35cmを測る。

SB437 T区V29～30グリッドで検出した。東西3間(6.88m)、南北2間(5.56m)の総柱建物。他遺構と錯綜し、検出できなかった柱穴がある。長軸方位はN90°を指す。柱穴平面形は概ね略円形で、径28cm～35cm、深さ12cm～18cmを測る。

SB438 T区U・V29～30グリッドで検出した。南北3間(7.42m)、東西3間(7.12m)以上の総柱建物で、長軸方位N3°Wを指す。柱穴平面形は概ね略円形で、径30cm～51cm、深さ8cm～42cmを測る。

SB439 T区U・V29～30グリッドで検出した。南北4間(10.56m)、東西2間(4.67m)以上で、長軸方位N3°Wを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形で、径27cm～50cm、深さ22cm～41cmを測る。

SB440 E・N1区T・U29グリッドで検出した。調査区の切れ目にかかって検出できなかった柱穴もあるが、南北4間(8.62m)、東西2間(4.20m)で、長軸方位は真北(N0°)を指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形で、径22cm～42cm、深さ22cm～39cmを測る。一部の柱穴に焼石の入ったものが見られた。

SB441 N1区S・T27～28グリッドで検出した。南北4間(10.90m)、東西4間(9.38m)、長軸方位は真北(N0°)を指す総柱建物。北端の東西方向の柱列の柱間距離が一定でなく、プランにやや歪みが見られる。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径23cm～58cm、深さ18cm～62cmを測る。柱穴からは少量ながら、12世紀後葉～13世紀前半の遺物が出土している。5002はP05出土の土師器皿で、体部がやや内湾して立ち上がり、底部にヘラ切り痕を残す。

SB442 N1区北部からN2区南部にかけて、規模にはばらつきがあるが、SB442～445の計4棟の建物がほぼ同位置に集中して検出されていることから、これらの建物が、継起的な建て替え関係にあったと考えられる。

SB442は、N1区R・S24～25グリッドで検出した。南北4間(10.96m)、東西4間(9.48m)で、長軸方位N4°Wを指す総柱建物であるが、一部で柱間距離にばらつきが見られる箇所がある。柱穴平面形は略円形及び隅丸方形を呈し、径及び1辺27～72cm、深さ12cm～70cmを測る。

SB443 N1区R・S24～25グリッドで検出した。東西3間(7.48m)、南北2間(6.20m)の総柱建物。長軸方位はN84°Eを指す。柱穴平面形は略円形を呈し、径29cm～48cm、深さ23cm～41cmを測る。柱穴

からは少量ながら、概ね13世紀代の遺物が出土している。5003はP30から出土した土師皿で、口縁端部がナデで引き出されている。

SB444 N1・2区Q・R・S24～25グリッドで検出した。南北6間(14.58m)、東西4間(9.28m)で、長軸方位N6°Wを指す総柱建物であるが、一部柱間距離にばらつきのある箇所がある。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径18cm～47cm、深さ6cm～51cmを測る。なお、遺物は少量だが珠洲焼や土師皿など、13世紀代のものが確認されており、P205出土の珠洲焼片口鉢5004について、図化を行っている。また、北端の柱列のP176からは、土師皿片とともに、焼土塊が検出された。このほかにも、埋土中から炭や焼土の混入が見られる柱穴が見られ、柱穴の半数程度に及ぶことから、この建物が火災にあった可能性を想定できようか。

SB445 N1・2区Q・R24～25グリッドで検出した。南北4間(9.86m)、東西4間(9.18m)で、長軸方位N4°Wを指す総柱建物である。他遺構と切り合いを持つ部分があり、検出できなかった柱穴もある。柱穴平面形は概ね略円形で、径23cm～54cm、深さ7cm～25cmを測る。なお、N2区P181出土のE151の図化を行っている。

SB446 N2区P・Q24グリッドで検出した。南北3間(8.85m)、東西3間(6.98m)で、長軸方位N1°Wを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径23cm～45cm、深さ16cm～52cmを測る。北側の1間の柱間距離が他よりもやや短い。小片のため図示できていないが、P168から土師皿が出土している。

SB447 N2区P・Q24グリッドで検出した。南北3間(7.99m)、東西2間(4.79m)の規模を持つ総柱建物だが、柱間距離にばらつきがあり、北側の1間の柱間は1.79mと狭くなっているため、北面に庇を伴っているとも捉えられようか。長軸方位はN1°Wを指す。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径24cm～38cm、深さ12cm～36cmを測る。

SB448 N2区P23～24グリッドで検出した。南北3間(6.25m)、東西2間(4.18m)であるが、柱間距離が一定でなく、北側の1間の柱間と南側の1間の柱間がそれぞれ平均で1.7mと1.6mと狭くなっている。長軸方位N10°Wを指す総柱建物である。柱穴平面形は略円形を呈し、径17cm～29cm、深さ7cm～31cmを測る。

SB449 N2区O・P23～24グリッドで検出した。南北4間(9.63m)、東西2間(4.16m)で、長軸方位N9°Wを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径18cm～30cm、深さ21cm～38cmを測る。柱間距離にばらつきがあり、大きく歪んでおり、台形のような平面プランとなっている。

SB450 N2区N23～24、O・P22～24グリッドで検出した。東西7間(15.87m)、南北4間(9.22m)で、建物南面に東西5間の庇を伴う、最大規模の総柱建物で、長軸方位N82°Eを指す。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径27cm～51cm、深さ6cm～41cmを測る。複数の柱穴で、1個ないし2個の根石を伴うものが見られた。また、中に熱を受けた様子が見られる柱穴や、覆土中に炭を含む柱穴が大半を占めることから、この建物が火災にあった可能性が考えられようか。なお、この建物については、西端、東端の柱列の柱穴が身舎部分の中でも比較的小さい直径を持つため、東・西・南面の3面に庇を持つ東西5間、南北4間の建物と見ることもできようか。柱穴からは土師皿など13世紀代の遺物が出土しており、P138出土の口縁端部を面取りした土師皿5005について図化を行っている。

SB451 N2区N・O23～24グリッドで検出した。南北2間(5.88m)、東西2間(4.46m)の総柱建物で、長軸方位N7°Wを指す。柱穴平面形は略円形及び隅丸方形を呈し、径及び1辺22cm～31cm、深さ21cm～38cmを測る。

SB452 N2区N・O23～24グリッドで検出した。南北2間(5.12m)、東西2間(4.84m)以上で、

長軸方位N7°Wを指す総柱建物である。また、柱間距離に少しばらつきがあるため、建物平面形に少し歪みが見られる。柱穴平面形は概ね隅丸方形で、1辺26cm～43cm、深さ14cm～42cmを測る。

SB453 M2区P27グリッドで検出した。南北4間(7.72m)、東西3間(5.68m)で、長軸方位N9°Eを指す側柱建物である。南北方向の柱間距離にばらつきが見られ、やや歪みのあるプランとなっている。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径28cm～40cm、深さ8cm～50cmを測る。

SB454 F・M1区N24～25グリッドで検出した。調査区境に位置し、検出できなかった柱穴もあって、建物構造は明確でない。南北2間(5.06m)以上、東西2間(5.03m)の規模を持つと思われる。長軸方位はN2°Eを指す。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径25cm～33cm、深さ12cm～32cmを測る。

SB455 N2区N・O21～22グリッドで検出した。南北5間(11.60m)、東西3間(6.81m)の総柱建物で、長軸方位N7°Wを指す。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径22cm～46cm、深さ21cm～74cmを測る。なお、小片で図示に堪えるものではなかったが、P110とP112から土師皿が出土している。

SB456 N2区M・N21～22グリッドで検出した。南北5間(11.48m)、東西5間(11.44m)のほぼ正方形プランの総柱建物で、長軸方位はN8°W。柱穴平面形は略円形及び隅丸方形を呈し、径及び1辺25cm～45cm、深さ12cm～40cmを測る。柱穴からは土師皿など概ね13世紀前半の遺物が出土しており、P81・84・85出土の口縁端部を面取りした土師皿5006・5007について図化を行った。

SB457 N2区M・N22グリッドで検出した。南北3間(6.51m)、東西2間(4.14m)で、長軸方位N10°Wを指す総柱建物である。南北方向の柱間距離にばらつきがあり、建物の南側に歪みが見られる。柱穴平面形は概ね隅丸方形を呈し、1辺23cm～38cm、10cm～43cmを測る。

SB458 N2区M・N22～23グリッドで検出した。南北2間(5.48m)、東西2間(5.40m)のほぼ正方形プランの総柱建物で、長軸方位はN4°Wを指す。柱穴平面形は略円形及び隅丸方形で、径及び1辺20cm～36cm、深さ12cm～28cmを測る。

SB459 N2区L・M・N22～23グリッドで検出した。東西6間(13.86m)、南北5間(11.69m)の総柱建物。長軸方位はN82°Eを指す。柱穴平面形は略円形及び隅丸方形を呈し、径及び1辺23cm～49cm、深さ5cm～42cmを測る。北から2間目の南北方向の柱間距離が約3mと長くなっている。柱穴からは土師皿や珠洲焼など、13世紀代の遺物が出土している。5008はP64出土の土師皿で、口縁端部を面取りしている。

SB460 N2区L・M23グリッドで検出した。南北4間(8.85m)、東西1間(2.09m)以上だが、隣接するF区では柱穴の続きが確認できないことから、東西2間と考えられようか。長軸方位N1°Eを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径30cm～45cm、深さ40cm程度を測る。

SB461 N2区L・M23グリッドで検出した。南北2間(4.85m)、東西2間(4.57m)のほぼ正方形プランの総柱建物で、長軸方位N5°Wを指す。柱穴平面形は概ね隅丸方形を呈し、1辺20cm～30cm、深さ18cm～50cmを測る。

SB462 M1区M・N25～26グリッドで検出した。東西4間(9.34m)、南北4間(8.40m)の総柱建物。長軸方位はN80°Eを指す。南側の2柱列については、溝など他遺構と錯綜して、検出できなかった柱穴が多い。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径23cm～46cm、深さ13cm～39cmを測る。

SB463 M1区L・M25～26グリッドで検出した。南北5間(10.76m)、東西2間(4.36m)で、長軸方位N9°Wを指す総柱建物である。土坑など他遺構と錯綜していたため、検出できなかった柱穴もある。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径21cm～40cm、深さ10cm～49cmを測る。柱穴からは概ね13世紀前半の遺物が出土している。5001はP08出土の土師皿で、口縁端部を面取りしている。

SB464 N2区J22グリッドで検出した。南北4間(9.27m)、東西3間(7.05m)以上の総柱建物。長

軸方位N1°Wを指す。柱間距離にばらつきがあり、若干歪みが見られる。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径33cm～65cm、深さ10cm～50cmを測る。柱穴が重複している箇所が多数見られ、同一地点での建て替えが想定される。柱穴からの出土遺物は、時期不明の土師器小片が多いが、時期のわかる遺物には、13世紀代のものが見られた。P23出土の珠洲焼片口鉢5009について、図化を行っている。また、図化に堪えるものではなかったが、P13から白磁碗の小片が出土していた。

SB465 N2区J22・23グリッドで検出した。南北2間(4.65m)、東西2間(4.55m)のほぼ正方形プランの総柱建物で、長軸方位N1°Eを指す。柱穴平面形は概ね略円形で、径25cm～60cm、深さ15cm～79cmを測る。

SB466 M3・M1区K・L25・26グリッドで検出した。検出できなかった柱穴もあるが、南北4間(8.89m)、東西3間(5.98m)の総柱身舎の北辺に1/2間規模の庇が付く建物と思われる。長軸方位はN2°Wを指す。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径23cm～43cm、深さ9cm～47cmを測る。

SB467 W区I・J17～18グリッドで検出した。南北4間(9.07m)、東西3間(8.54m)で、長軸方位N3°Eを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径30cm～53cm、深さ16cm～28cmを測る。

SB468 W区H・I17～18グリッドで検出した。調査区端にかかり、全体を把握できていない。東西4間(9.40m)、南北2間(4.53m)以上の総柱建物。長軸方位はN90°を指す。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径30cm～80cm、深さ17cm～64cmを測る。

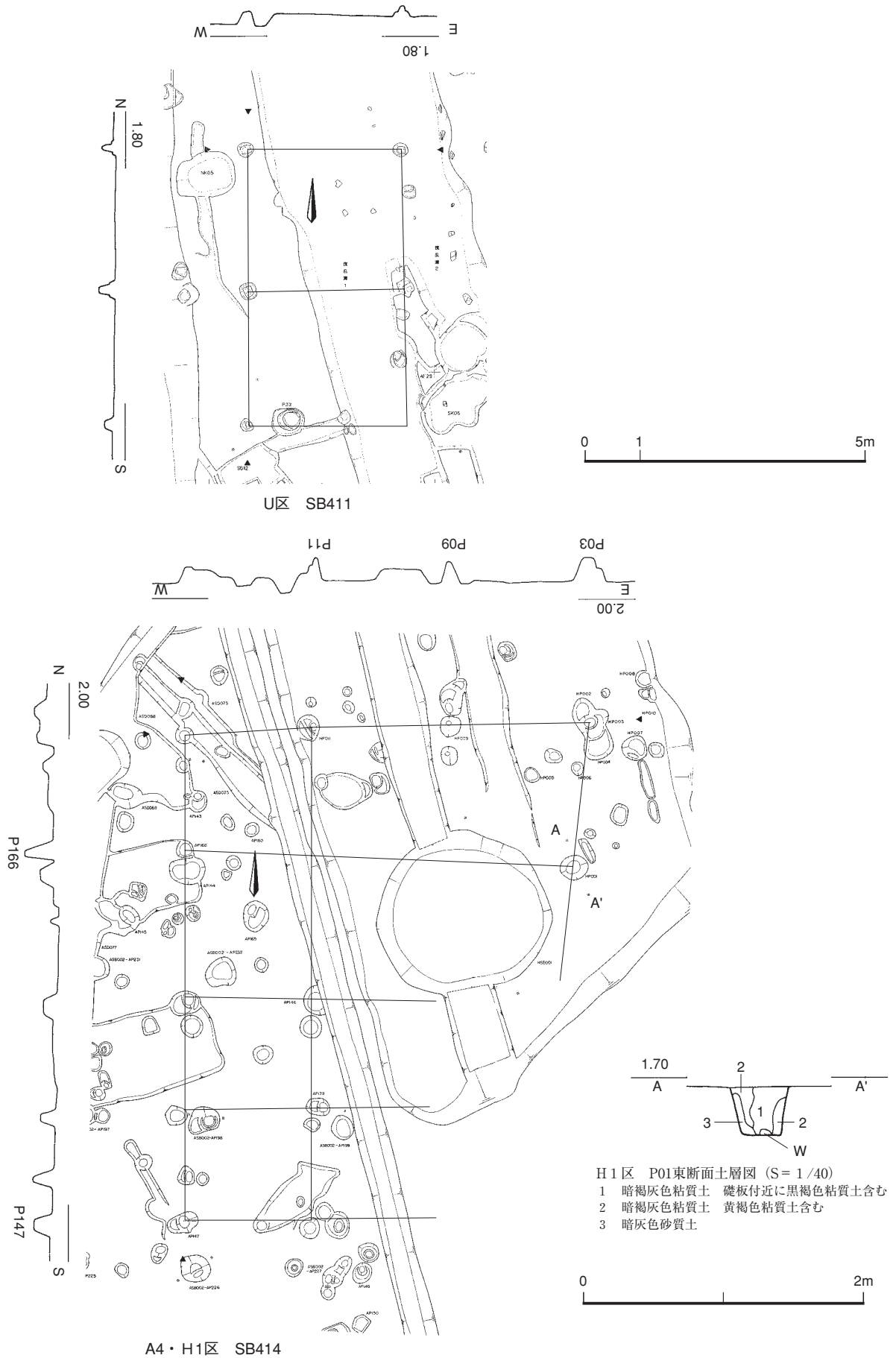
SB469 V2区H・I19グリッドで検出した。調査区端にかかり、全体を検出できていない。南北5間(10.90m)以上、東西3間(6.85m)以上で、長軸方位N1°Wを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径22cm～50cm、深さ22cm～63cmを測る。柱間距離にばらつきがあり、建物平面形に歪みが見られる。また、柱穴の抜けている部分がある。なお、小片で図化に堪えなかったが、柱穴から珠洲焼や土師器皿などが出土している。

SB470 V2区H・I20グリッドで検出した。他遺構と切り合って錯綜して検出できなかった柱穴もあるが、南北4間(10.62m)、東西3間(7.00m)で、長軸方位N4°Eを指す総柱建物である。柱穴平面形は概ね略円形を呈し、径22cm～63cm、深さ13cm～45cmを測る。柱穴からの出土遺物は小片で図化には至らなかったが、P154から土師皿と同安窯系青磁碗の小片が出土している。

第2節 掘立柱建物跡

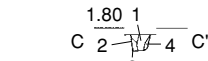
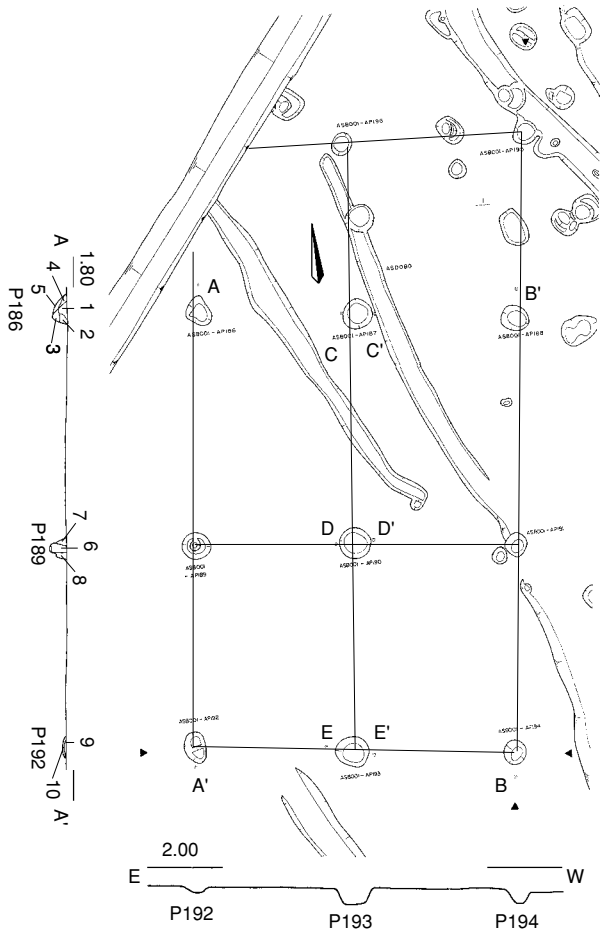
第1表 掘立柱建物一覧

報告番号	地区	長軸方位	補正方位	長辺間規模	短辺間規模	長辺実規模	短辺実規模	特記事項	構成(番号あり)柱穴 太字は実測遺物あり 斜体は柱あり 下線は礎板あり	実測遺物
411	U	0		2	1+	490	275	総柱	該当なし	
412	A4	5E		3	2	816	417	総柱	186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196	
413	A4	5E		3	2+	759	451	総柱	197 198 199 225 226 227 228 229 230 231 232	
414	A4・H1	2E		4	3+	863	706	総柱 P179礎板C14年代A.D.1070	(A4) 144 147 146 179/(H1) 11 09 03 01	
415	Q1	7E		3+	1+	730	232	総柱	05 06 07	
416	Q1	5W		3	1+	592	192	総柱、東面庇か	12 13	
417	Q1	5W		3	2	600	412	中抜け 総柱	52 53 57 63 154	
418	Q1・2	90	0	3	2	692	530	総柱 東西棟	(Q2) 177	5010
419	C8	72E	18W	2+	1+	432	244	総柱	該当なし	
420	C3・8	15W		2	2	413	364	総柱 建替え	(C8) 14 15 16 19 22/(C3) 292 309 311	
421	Q2	0		2+	2+	506	446	総柱	179	
422	Q2	84E	6W	2+	1+	450	258	総柱	229	
423	A3	81E	9W	5	2	1191	554	総柱 東西棟 P49柱か礎板のC14年代A.D.1185	46 49 50 53 83 102 133	
425	T	0		3	3	722	671	総柱	161 163 164 165 167 189 205 213 248	
426	G・T	85W	5E	2+	1+	506	466	総柱	該当なし	
427	S2	72E	18W	4	2+	770	422	総柱	142	
428	S2	15W		3	2	726	432	中抜け 総柱 未検出穴	09 10	
429	R2	16W		3	2	800	457	総柱	78 79 80	
430	R2	16W		3	2	650	423	総柱 中抜け 未検出穴	71 72 82 106	
431	O2	7W		5	4	1158	870	総柱 未検出穴	4	
432	O2	78E	12W	3	2	674	518	総柱 東西棟	06 11	
433	O2	7W		2	2	536	405	総柱	該当なし	
434	N1	86E	4W	3	3	781	734	総柱 東西棟 未検出柱穴多い 歪み	17	
435	N1	1W		4	2	859	460	総柱	該当なし	
436	T	83E	7W	2	2	494	488	総柱	該当なし	
437	T	90	0	3	2	688	556	総柱 東西棟	05	
438	T	3W		3	3+	742	712	総柱	08 10 11 237 238 239 240 241 242	
439	T	3W		3	2+	726	467	総柱	01 03 04 236	
440	E・N1	0		4	2	862	420	総柱	(E) 10	
441	N1	0		4	4	1090	938	総柱	05 06 07 08 09 14 41 46 47 48 49	5002
442	N1	4W		4	4	1096	948	総柱 西庇かも?	23 29 31	
443	N1	84E	6W	3	2	748	620	総柱 東西棟	30 31	5003
444	N1・2	6W		6	4	1458	928	総柱 N2区にかかる	(N1) 26 33 44 (N2) 175 176 177 183 184 205	5004
445	N1・2	4W		4	4	986	918	総柱 N2区にかかる	(N2) 174 178 181 182 185	E151
446	N2	1W		3	3	885	698	総柱	168 169 170	
447	N2	1W		3	2	799	479	総柱 歪み 北庇か	該当なし	
448	N2	10W		3	2	625	418	総柱 歪み 南北に庇か	166	
449	N2	9W		4	2	963	416	総柱 歪み大	該当なし	
450	N2	82E	8W	7	4	1587	922	総柱 南庇 3面庇の5×4間かも	102 103 105 107 108 115 116 117 118 119(石2) 120(石2) 121 122 123 129(石) 130 132(石2) 133 134 135 136 137 138 139 140 141(石) 143 144 145 146 147 148 149 151 207	5005
451	N2	7W		2	2	588	446	総柱 歪み	該当なし	
452	N2	7W		2	2+	512	484	総柱 建替え? 歪み	該当なし	
453	M2	9E		4	3	772	568	側柱	該当なし	
454	F・M1	2E		2+	2	506	503	未検出柱穴	該当なし	
455	N2	7W		5	3	1160	681	総柱	110 112 113 206	
456	N2	8W		5	5	1148	1144	総柱	61 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90	5006・5007
457	N2	10W		3	2	651	414	総柱 歪み	76	
458	N2	4W		2	2	548	540	総柱	該当なし	
459	N2	82E	8W	6	5	1386	1169	総柱	62 63 64 65(石) 66 67 68	5008
460	N2	1E		4	1+	885	209	総柱	該当なし	
461	N2	5W		2	2	485	457	総柱	70	
462	M1	80E	10W	4	4	934	840	総柱 東西棟	20 21 22	
463	M1	9W		5	2	1076	436	総柱	02 03 04 08 18 19	5001
464	N2	89W	1E	4	3+	927	705	総柱	10(29) 11 13 14 15 17 18 19 20 21(09) 22 23 24 25 26(12) 96	5009
465	N2	1E		2	2	465	455	総柱	06 07	
466	M1・3	2W		4+1	3	889	598	総柱 検出不良	(M3) 09 16 33 34 113	
467	W	3E		4	3	907	854	総柱	08	
468	W	90	0	4	2+	940	453	総柱	01 02 03 04 05 06 07	
469	V2	1W		5+	3+	1090	685	総柱 中抜け 歪み	169 174 180 187 194 201 203 205 207 208 219 224 227 229 241 249	
470	V2	4E		4	3	1062	700	総柱	01 03 113 139 147 154 163 164 221	

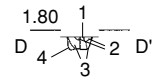


第1図 中世遺構図1

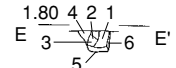
第2節 掘立柱建物跡



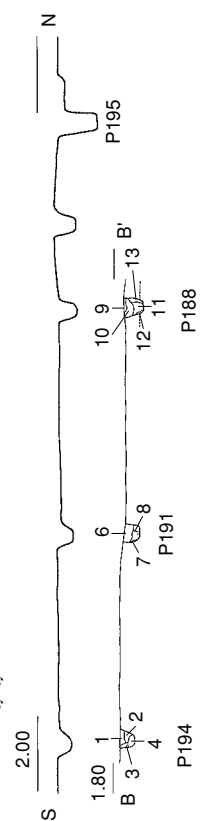
- A 4 区 SB412-P187
- 1 暗灰褐色粘土
 - 2 暗灰褐色粘土 地山大ブロックを多く含む
 - 3 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - 4 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - a 地山 黄灰色粘質土



- A 4 区 SB412-P190
- 1 暗灰褐色粘土
 - 2 灰褐色粘土 地山大ブロックを多く含む
 - 3 暗灰褐色粘土 地山中ブロックを少量含む
 - 4 褐灰色粘土 地山大ブロックを多量に含む
 - a 地山 黄灰色粘質土



- A 4 区 SB412-P193
- 1 暗灰褐色粘土
 - 2 暗灰褐色粘土 地山大ブロックを多く含む
 - 3 地山質土 暗灰褐色粘土大ブロックを多く含む
 - 4 地山質土 暗灰褐色粘土小ブロックを少量含む
 - 5 褐灰色粘土 地山大ブロックを多く含む
 - 6 褐灰色粘土 地山小ブロックを少量含む
 - a 地山 黄灰色粘質土



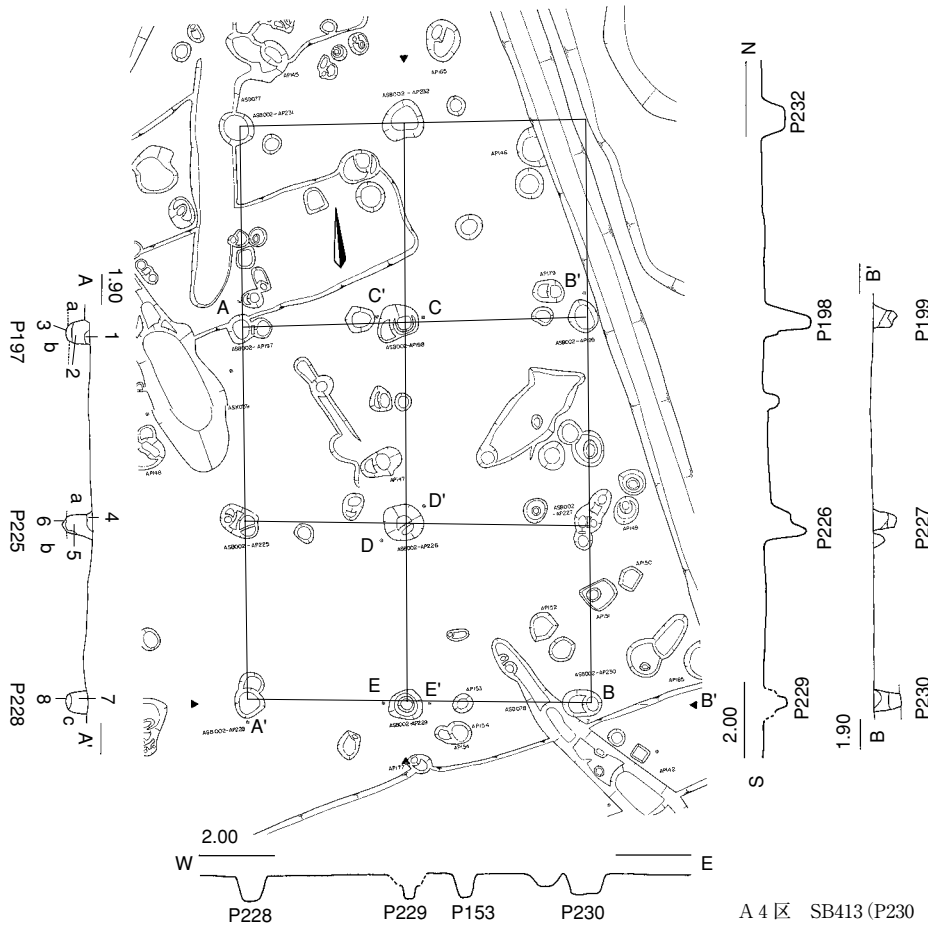
- A 4 区 SB412西列 (P186 P189 P192)
- 1 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - 2 暗灰褐色粘質土 地山小ブロック少量含む
 - 3 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - 4 地山質土 暗灰褐色粘質土大ブロックを微量含む
 - 5 地山質土 暗灰褐色粘質土大ブロックを少量含む
 - 6 暗灰褐色粘土 色調明るい
 - 7 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - 8 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む (7層と同じ)
 - 9 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - 10 地山質土 暗灰褐色粘質土中ブロック少量含む
 - a 地山 黄灰色粘質土

- A 4 区 SB412東列 (P188 P191 P194)
- 1 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰色粘質土)中ブロックを少量含む
 - 2 暗灰褐色粘質土 やや粘性強い 地山大ブロックを少量含む
 - 3 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック多く含む
 - 4 暗灰褐色粘質土 地山大ブロックを少量含む
 - 5 暗灰褐色粘質土
 - 6 暗灰褐色粘土 地山大ブロックを少量含む (4層と同じか?)
 - 7 地山質土 暗灰褐色粘質土中ブロックを少量含む
 - 8 地山質土 暗灰褐色粘質土中ブロックを少量含む (7層と同じ)
 - 9 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰色粘質土)中ブロックを多く含む
 - 10 暗灰褐色粘質土 (5層と同じか?)
 - 11 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - 12 地山質土(黄灰色粘質土) 暗灰褐色粘質土中ブロックを少量含む (7層と同じ)
 - 13 地山質土(黄灰色粘質土) 暗灰褐色粘質土中ブロックを少量含む (7層と同じ)
 - a 地山 黄灰色粘質土
 - b 地山 黄灰色粘質土
 - c 地山 白灰色砂質土

A 4 区SB412



第2図 中世遺構図2

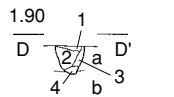


- A 4 区 SB413 (P197 225 228) 西列
- 1 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰色粘質土)大ブロック少量含む
 - 2 暗灰褐色粘質土
 - 3 褐灰色粘土
 - 4 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰色粘質土)大ブロック少量含む
 - 5 暗灰褐色粘質土
 - 6 褐灰色粘土 地山(淡灰色砂)大ブロック少量含む
 - 7 暗灰褐色粘質土
 - 8 褐灰色粘土
 - a 黄灰色粘質土
 - b 地山 淡灰色砂
 - c 地山 黄灰色粘質土

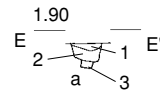
- A 4 区 SB413 (P230 227 199) 東列
- 1 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰色粘質土)中ブロック少量含む
 - 2 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰色粘質土)大ブロック少量含む
 - 3 褐灰色粘土 地山(黄灰色粘質土)大ブロック少量含む
 - 4 暗灰褐色粘質土
 - 5 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック多量含む
 - 6 褐灰色粘土
 - 7 暗灰褐色粘質土
 - 8 暗灰褐色粘質土 やや粘性強い
 - 9 褐灰色粘土
 - 10 暗褐灰色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - a 黄灰色粘質土
 - b 淡灰色砂
 - c 黄灰色粘質土



- A 4 区 SB413-P198
- 1 暗灰褐色粘質土
 - 2 暗灰褐色粘質土 地山(淡灰色砂)大ブロック少量含む
 - 3 暗灰褐色粘質土 やや粘性強い
 - 4 褐灰色粘土
 - a 黄灰色粘質土
 - b 淡灰色砂



- A 4 区 SB413-P226 土層断面
- 1 暗灰褐色粘質土
 - 2 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰褐色粘質土)大ブロック少量含む
 - 3 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰褐色粘質土)大ブロック多量含む
 - 4 褐灰色粘土
 - a 黄灰色粘質土
 - b 淡灰色砂

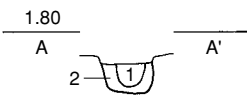
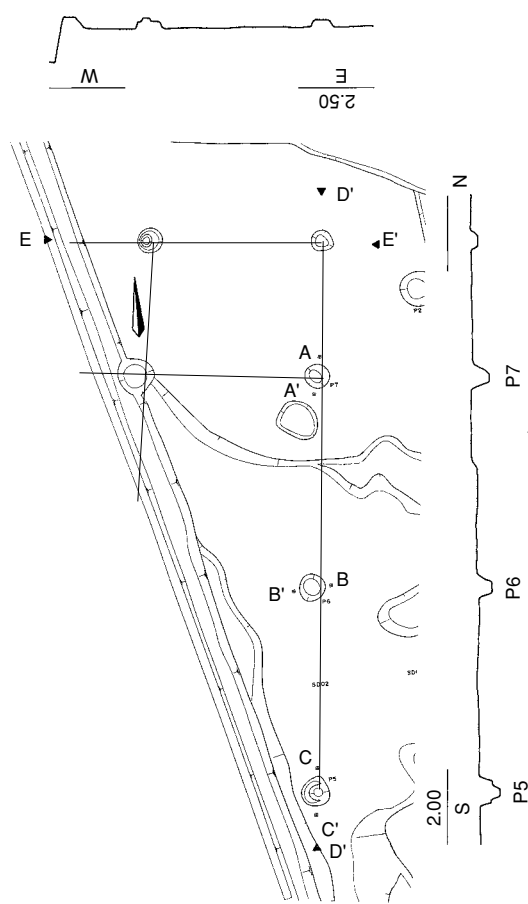


- A 4 区 SB413-P229
- 1 暗灰褐色粘質土 地山中ブロック少量含む
 - 2 暗灰褐色粘質土 地山大ブロック多量含む
 - 3 褐灰色粘土
 - a 地山 黄灰色粘質土

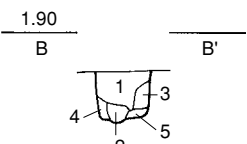
A 4 区 SB413

第3図 中世遺構図3

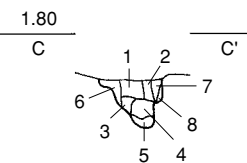
第2節 掘立柱建物跡



Q1区 SB415-P07 (S= 1/40)
 1 灰褐色粘質土 炭粒微量含む、柱痕部
 2 濁灰褐色粘質土 地山に黄色粘質土ブロック混じる

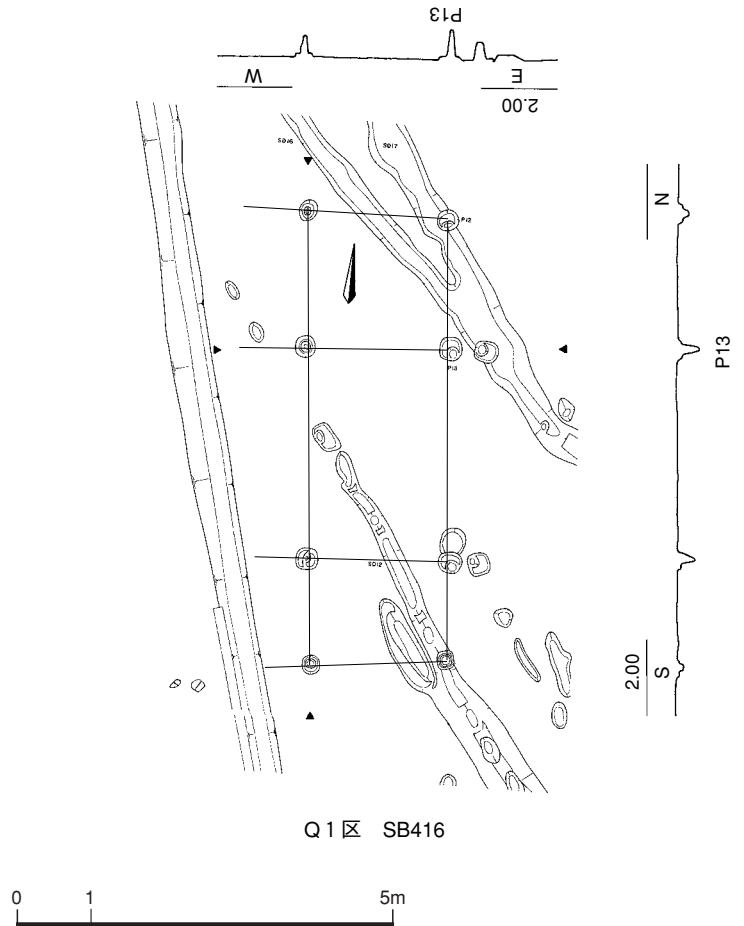


Q1区 SB415-P06 (S= 1/40)
 1 灰褐色粘質土
 2 灰褐色粘質土 黄色粘質土ブロック含む
 3 濃灰褐色粘質土 1層より灰色強い
 4 濃灰褐色粘質土 1層より灰色強い
 5 濁黄褐色粘質土 灰色土混じる
 地山 黄褐色粘質土

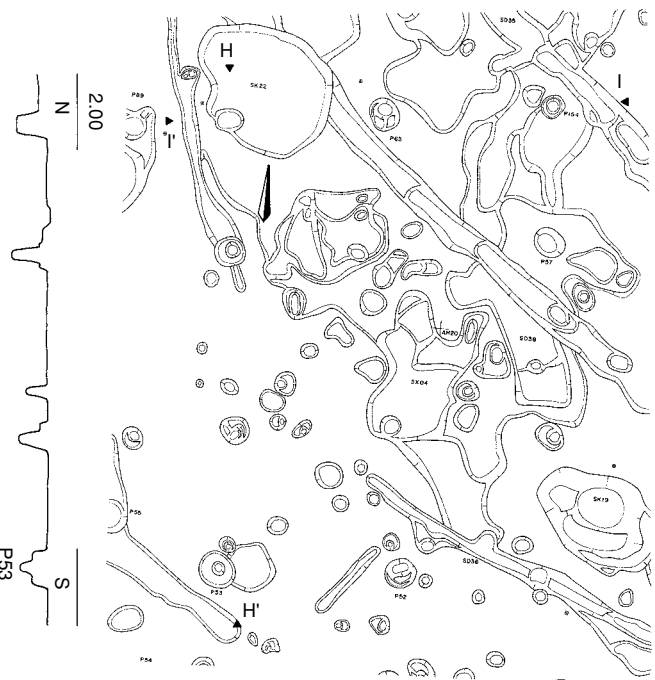
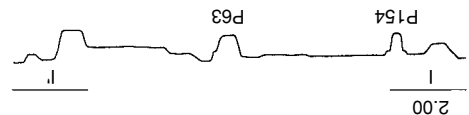


Q1区 SB415-P05 (S= 1/40)
 1 濁暗褐色粘質土 黄色粘質土ブロック混じる柱痕
 2 暗褐色粘質土 黄色粘質土粒微量混じる、柱痕
 3 濁灰黄褐色粘質土 黄色粘質土粒微量混じる、柱痕
 4 灰褐色粘質土 柱痕
 5 濁灰褐色粘質土 黄色粘質土ブロック少量混じる、柱痕
 6 灰褐色粘質土 黄色粘質土ブロック少量混じる
 7 灰褐色粘質土 6層より明るい色調
 8 濁黄褐色粘質土 灰褐色粘質土少量混じる

Q1区 SB415

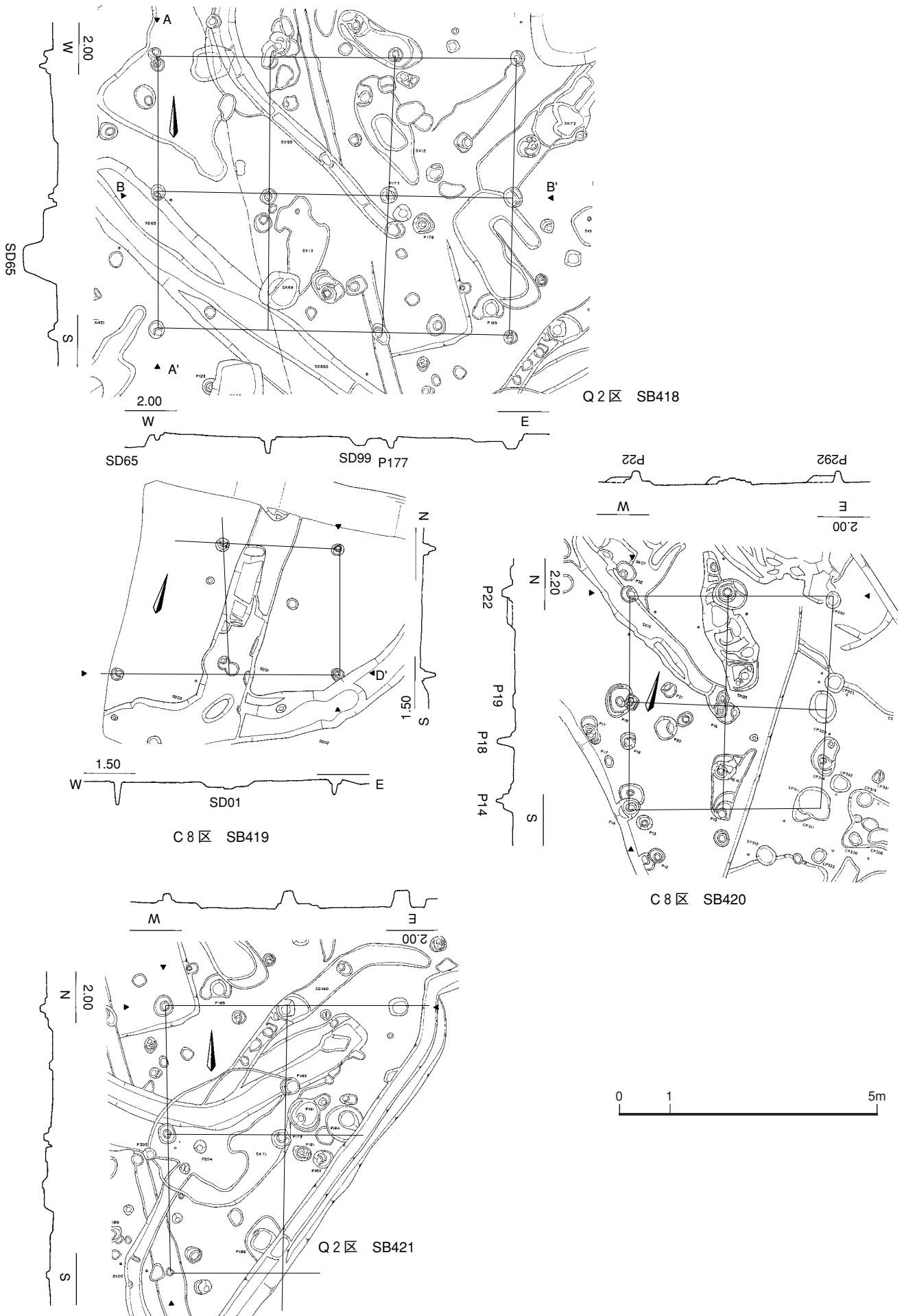


Q1区 SB416



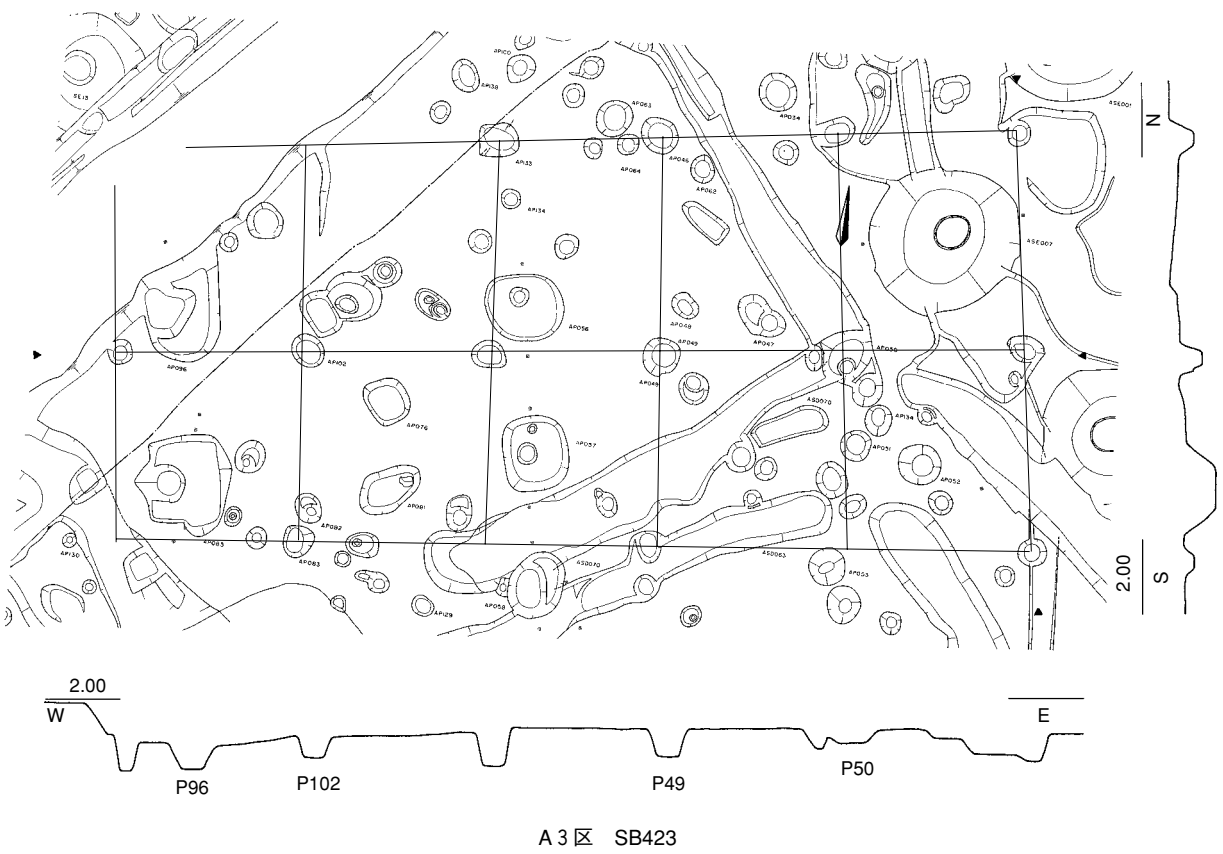
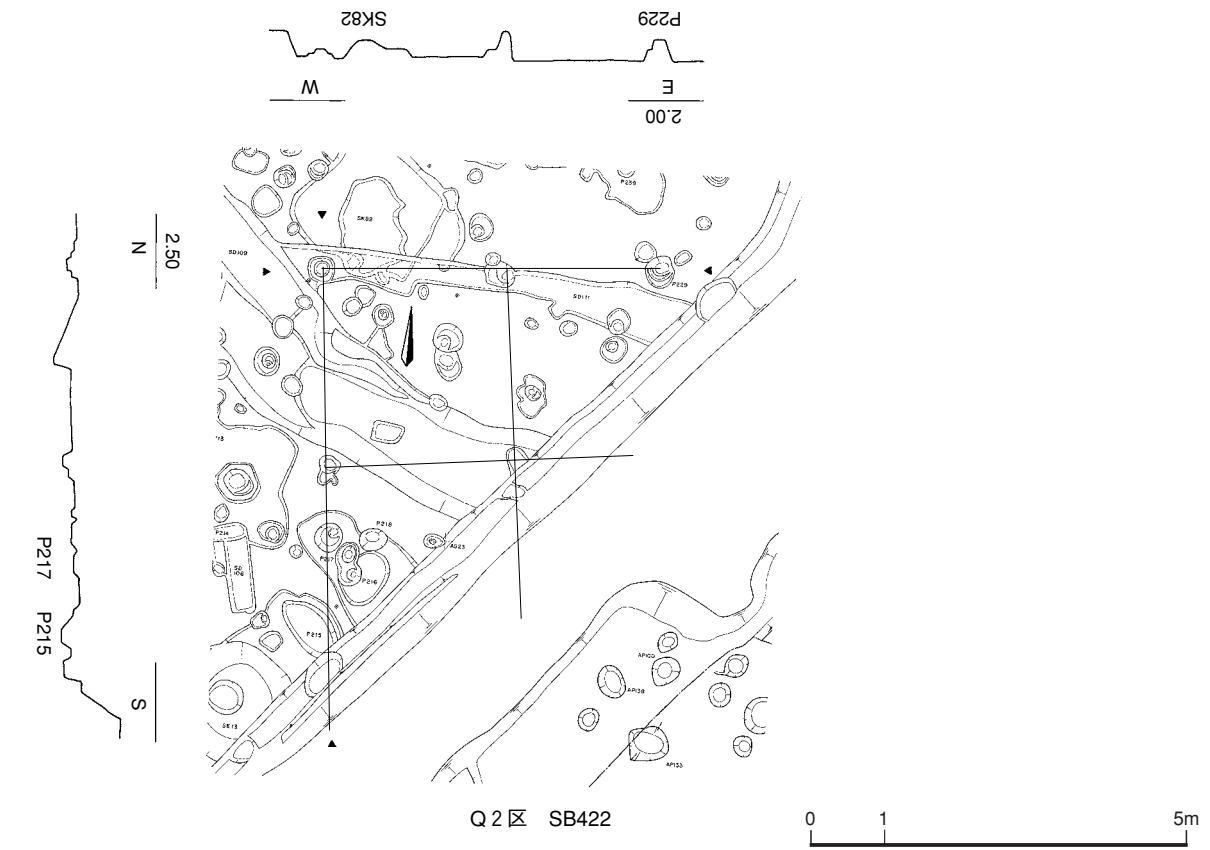
Q1区 SB417

第4図 中世遺構図4

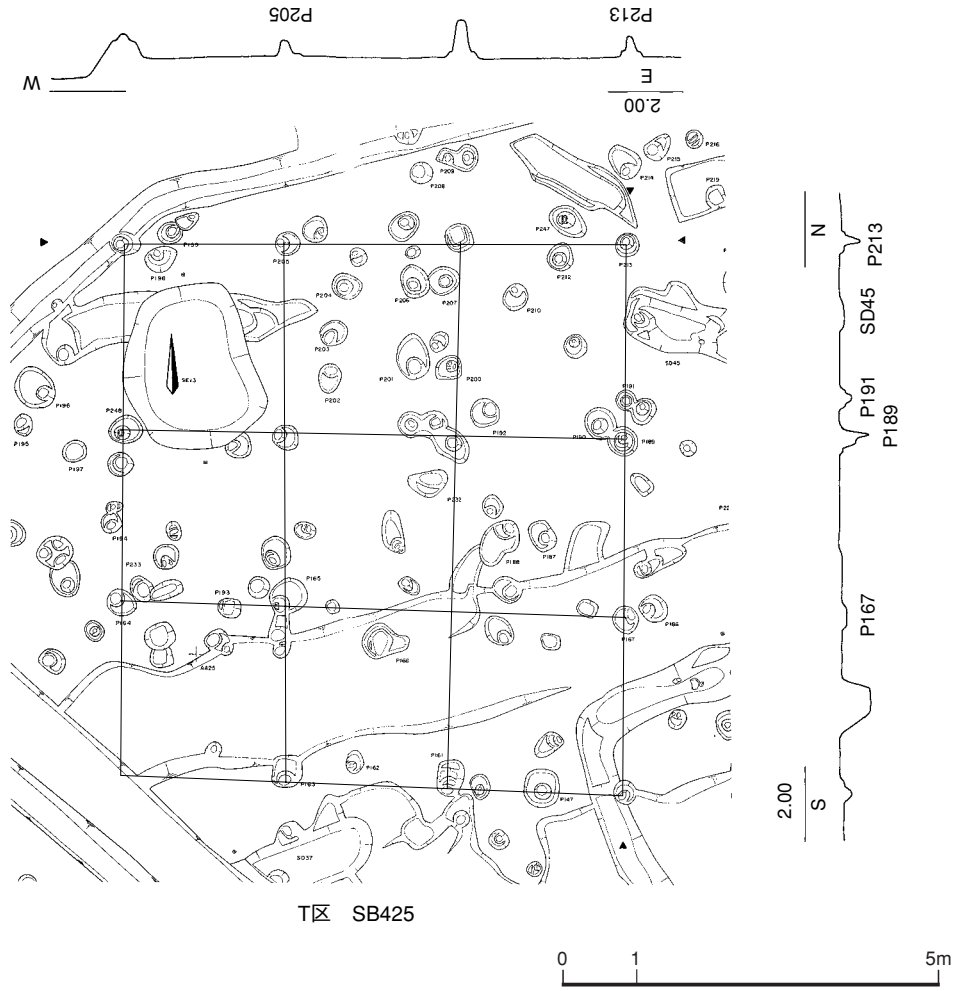


第5図 中世遺構図5

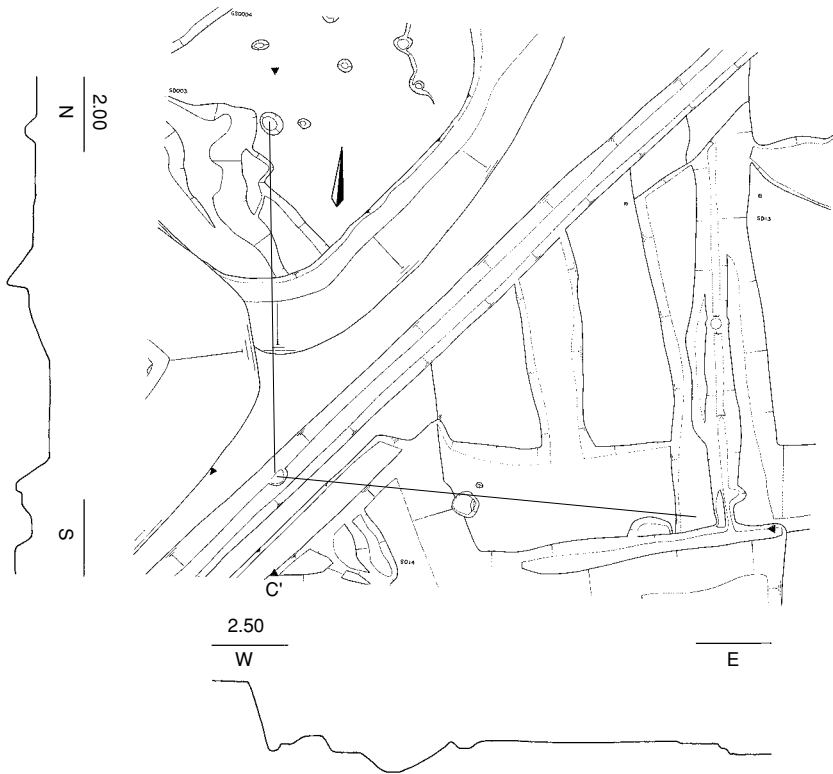
第2節 掘立柱建物跡



第6図 中世遺構図6

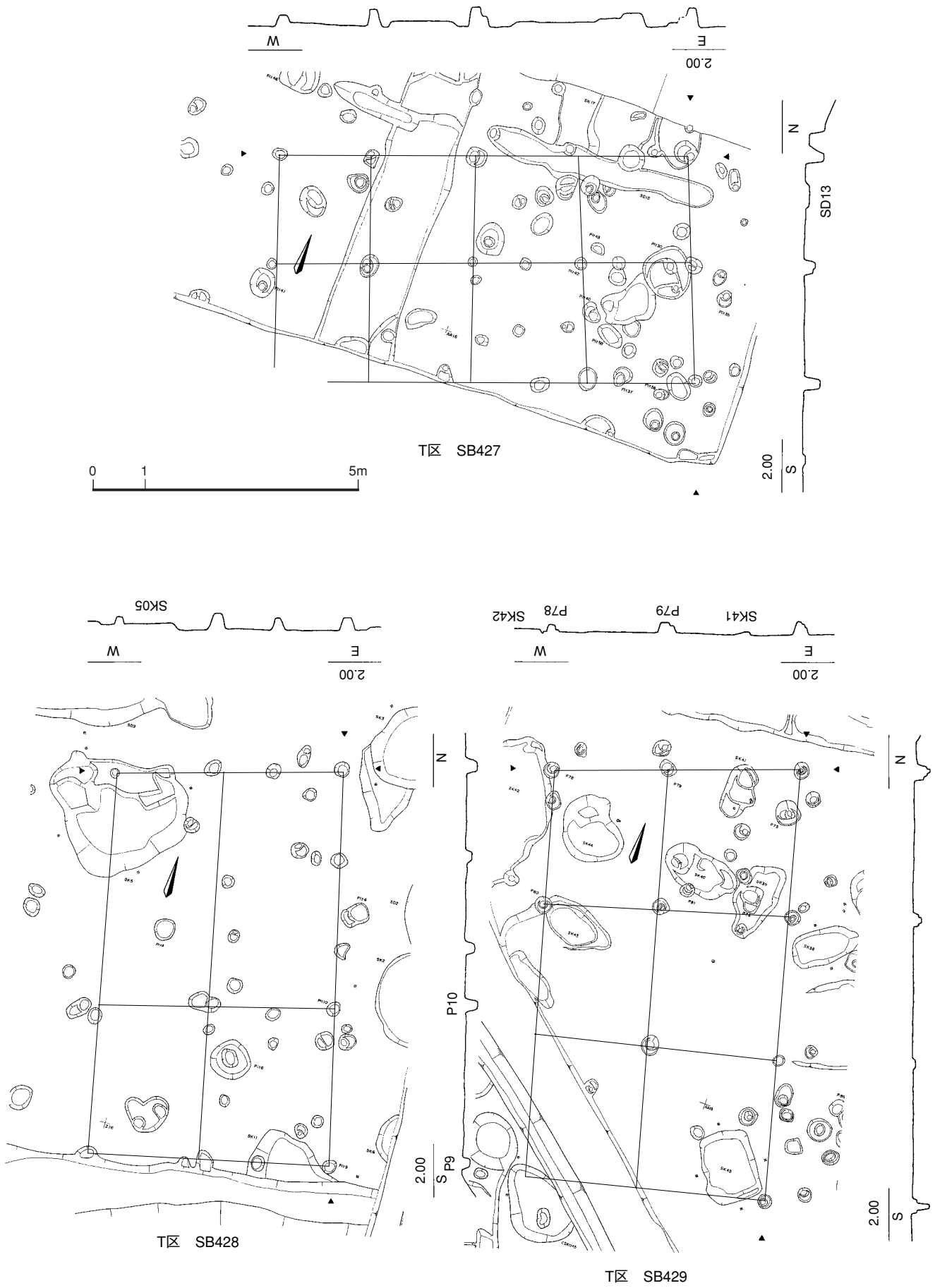


T区 SB425

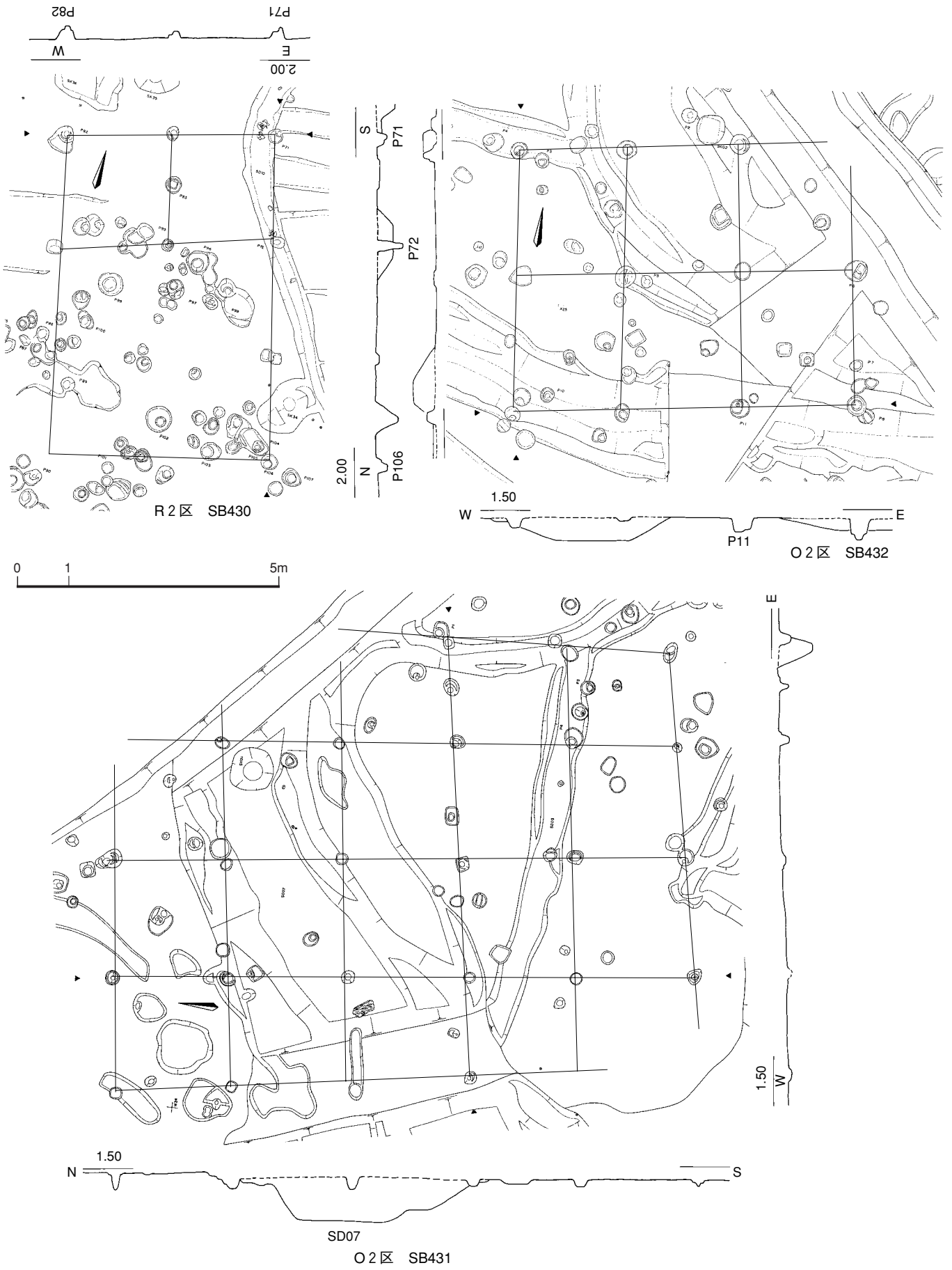


T区 SB426

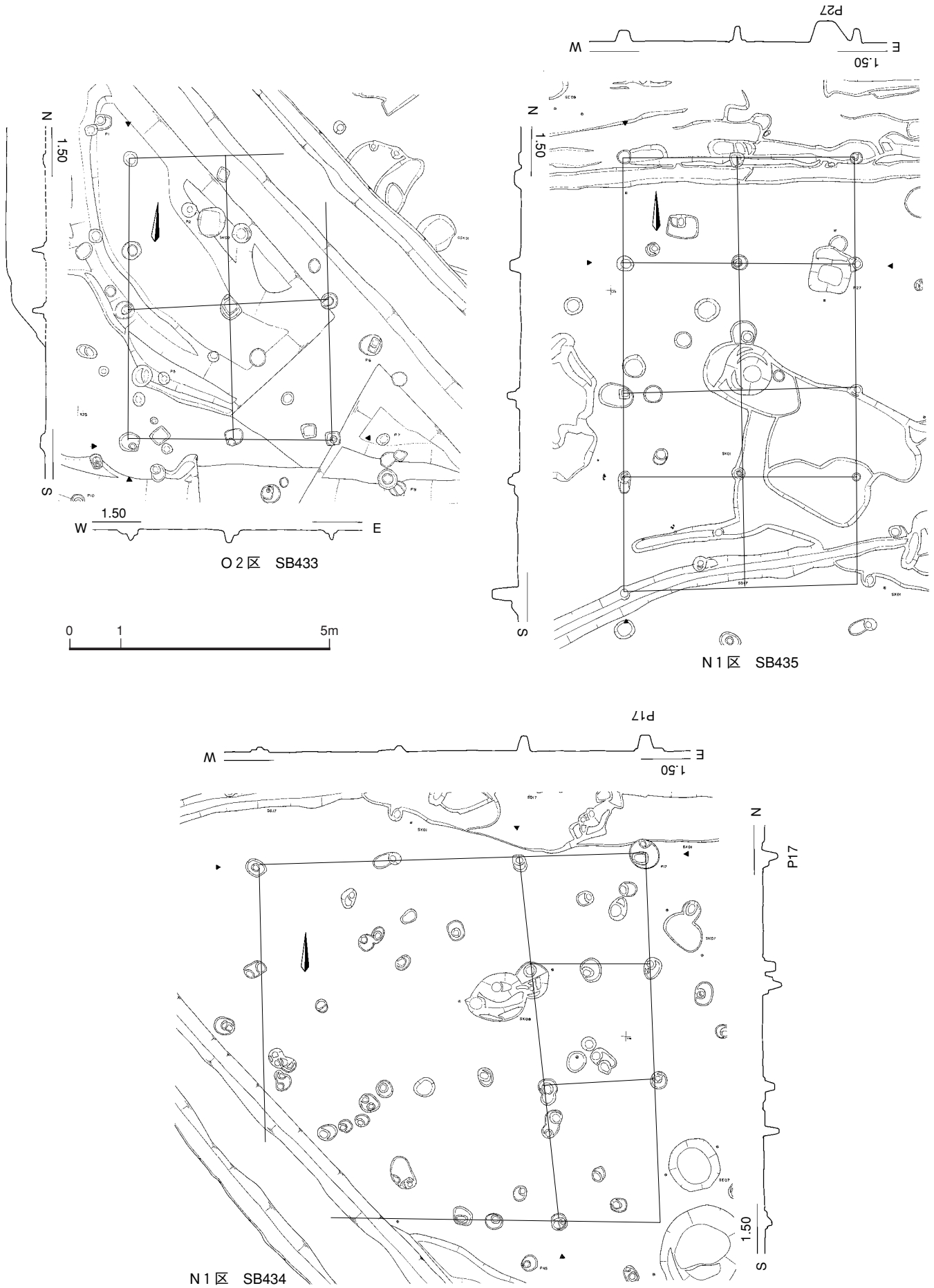
第7図 中世遺構図7



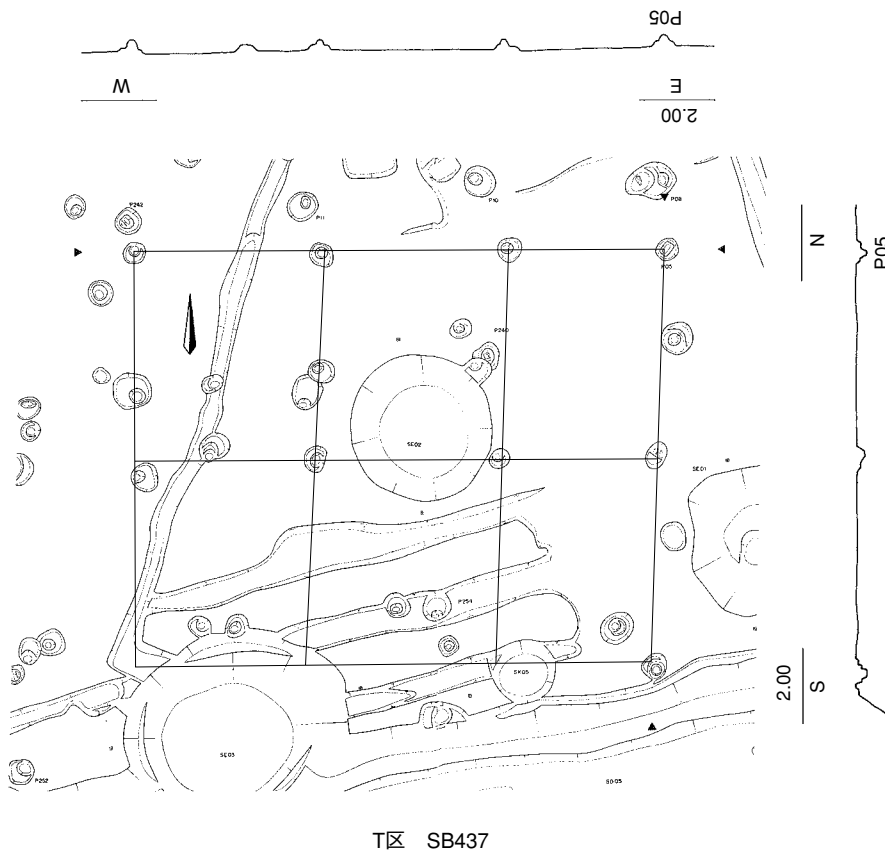
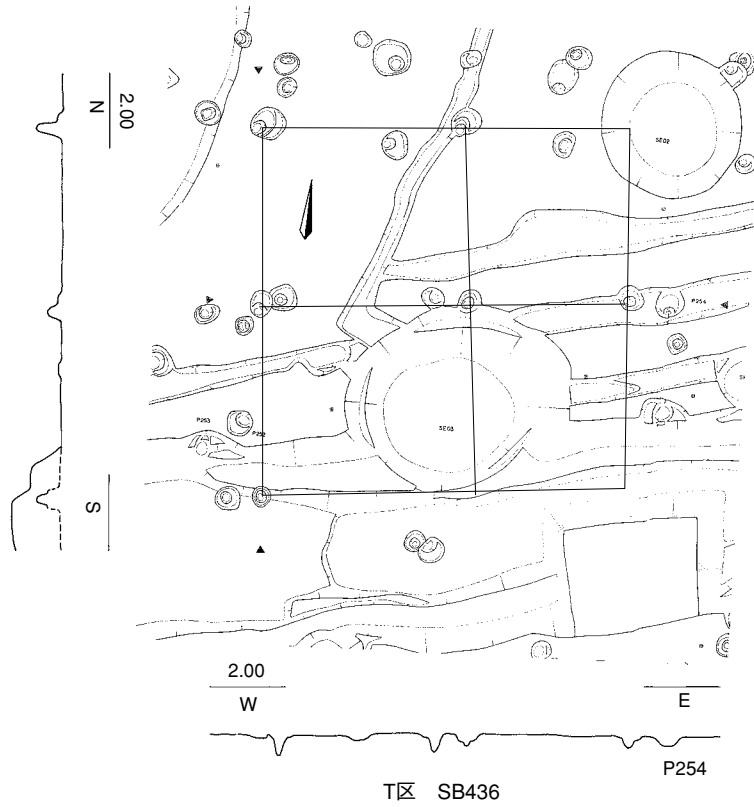
第8図 中世遺構図8



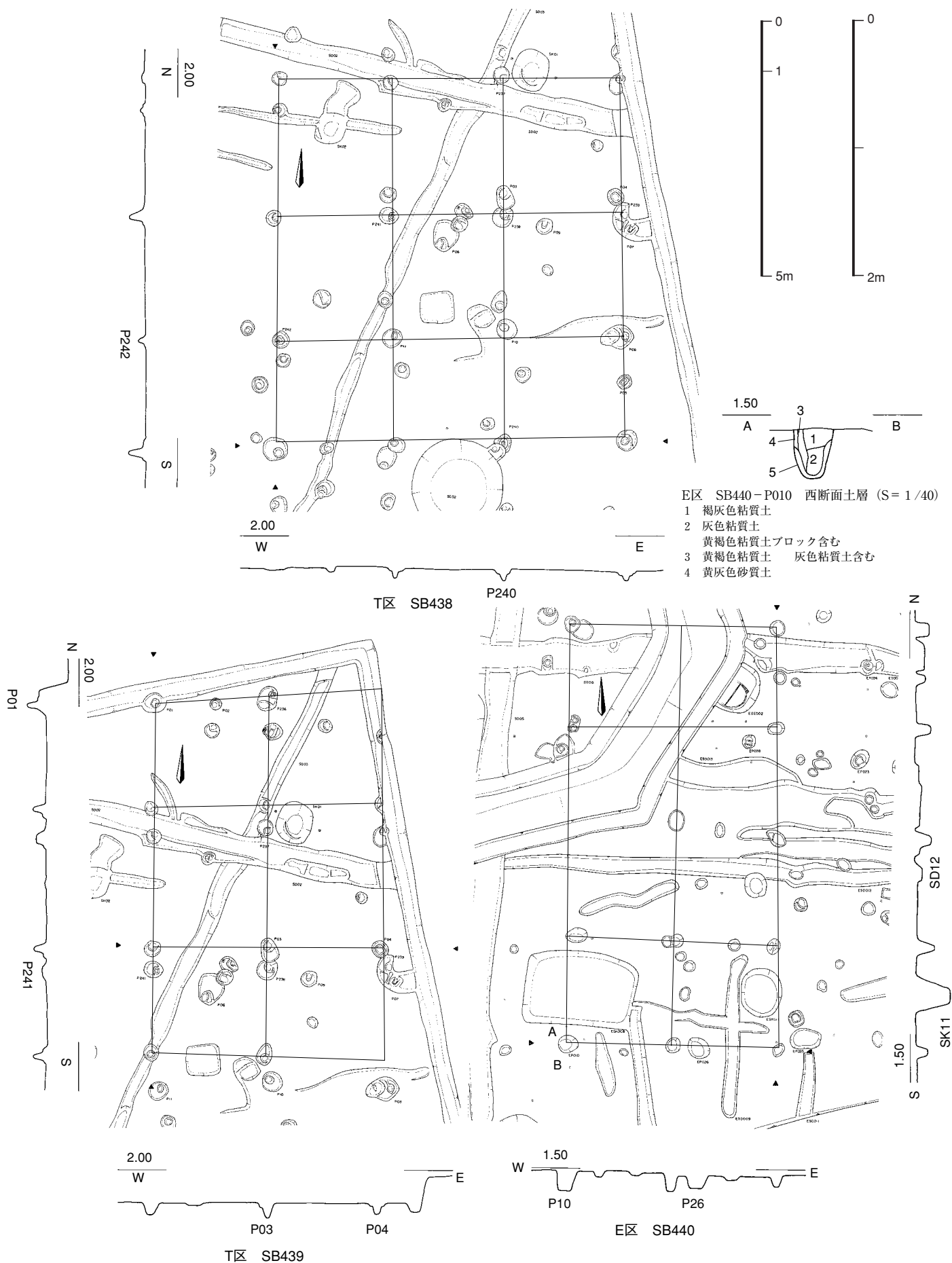
第9図 中世遺構図9



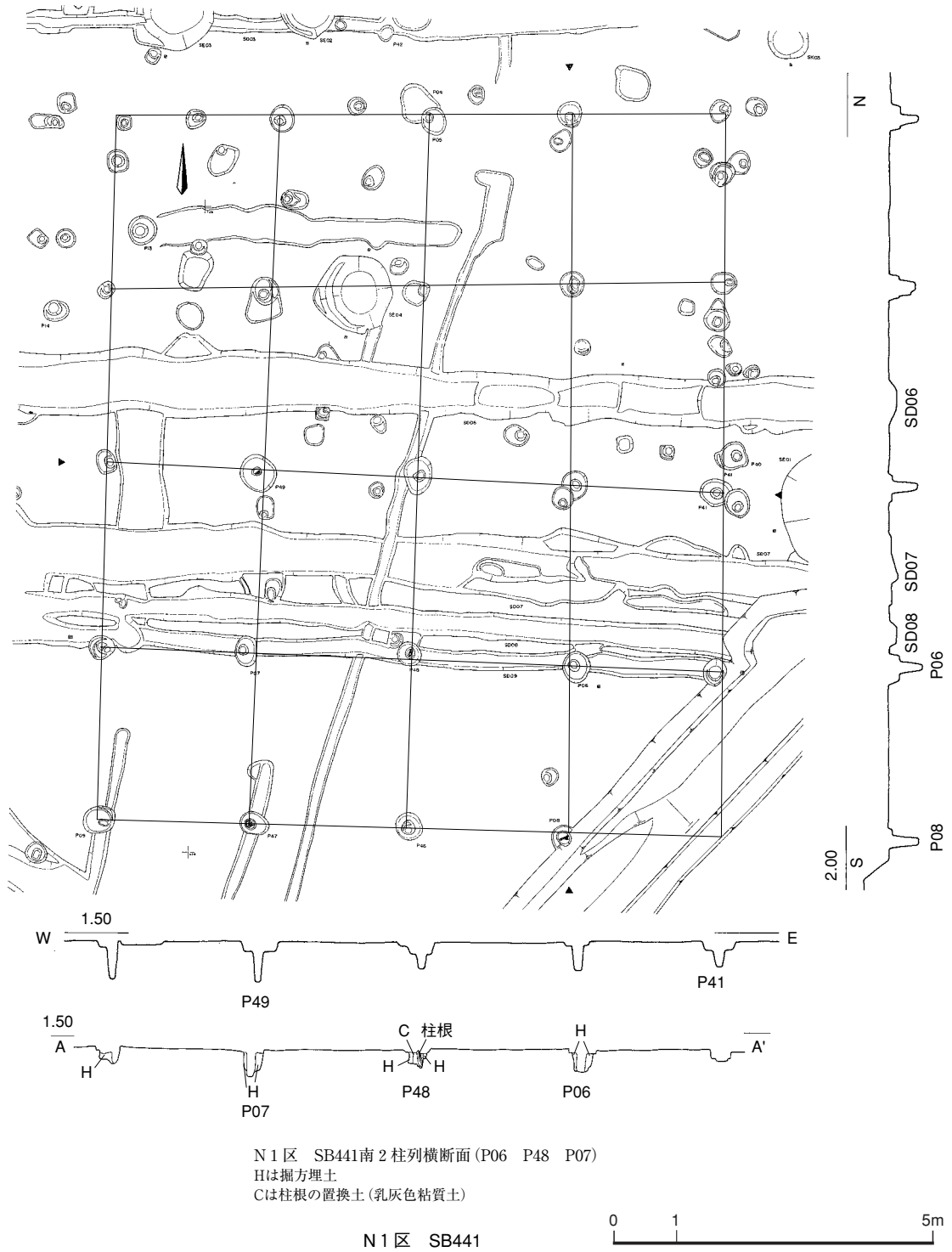
第10図 中世遺構図10



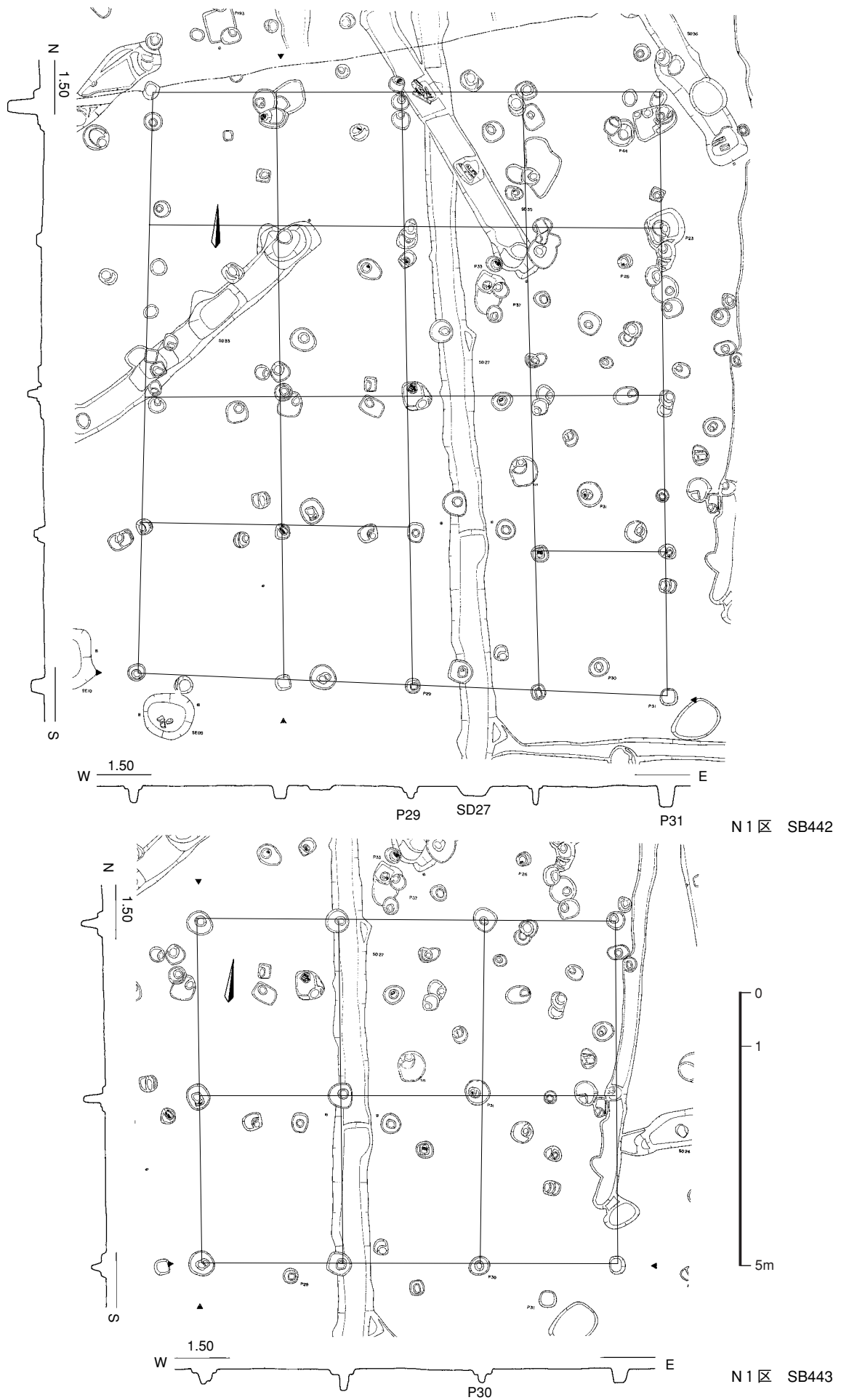
第11図 中世遺構図11



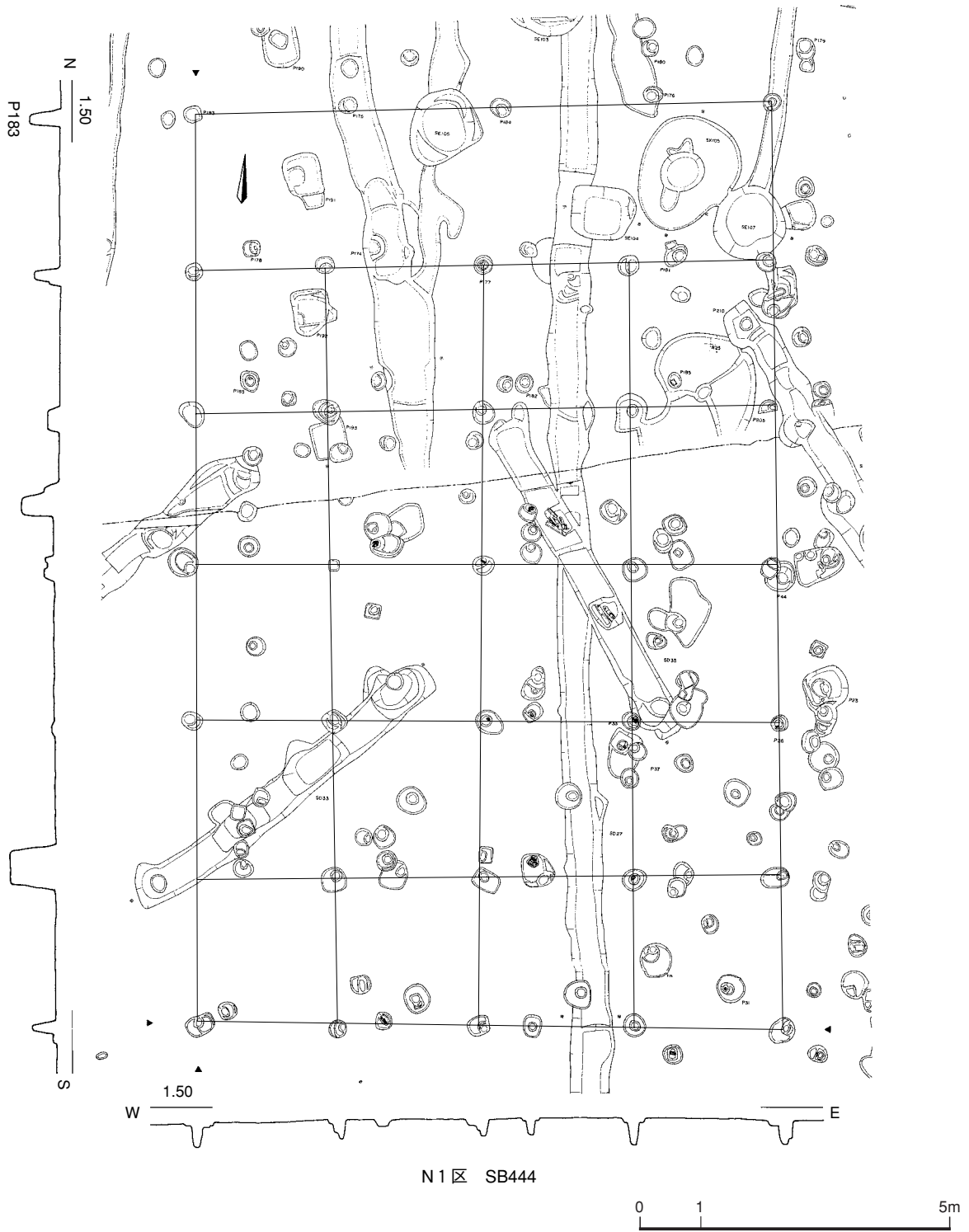
第12図 中世遺構図12



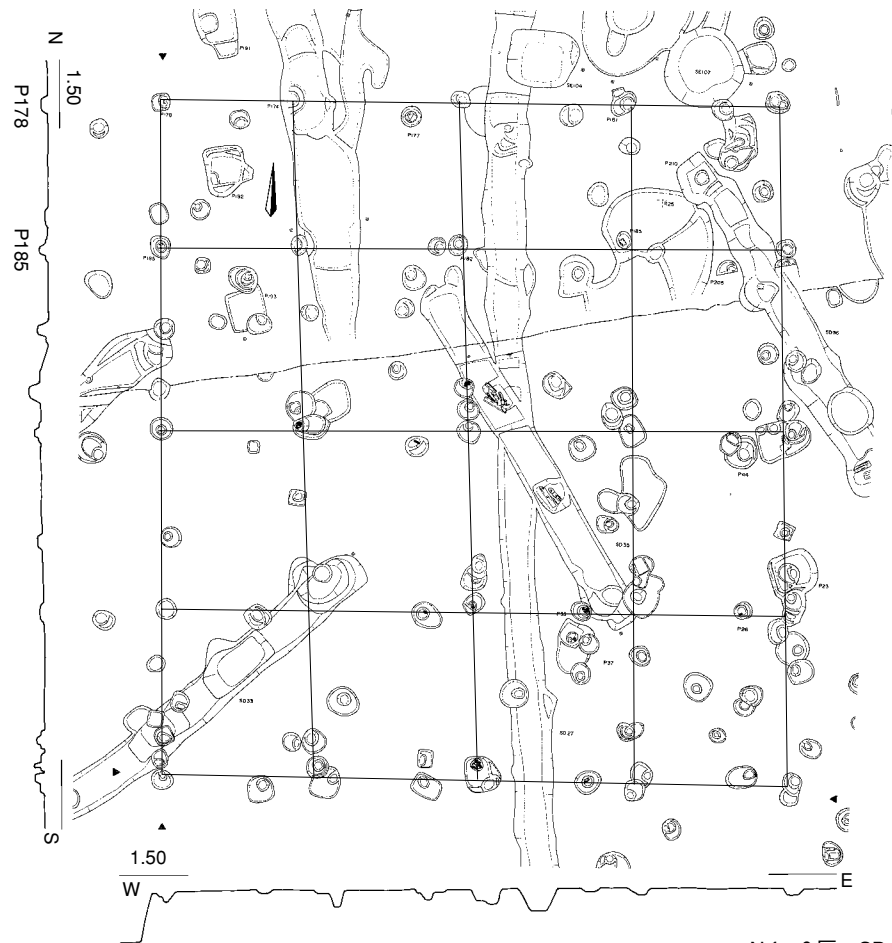
第13図 中世遺構図13



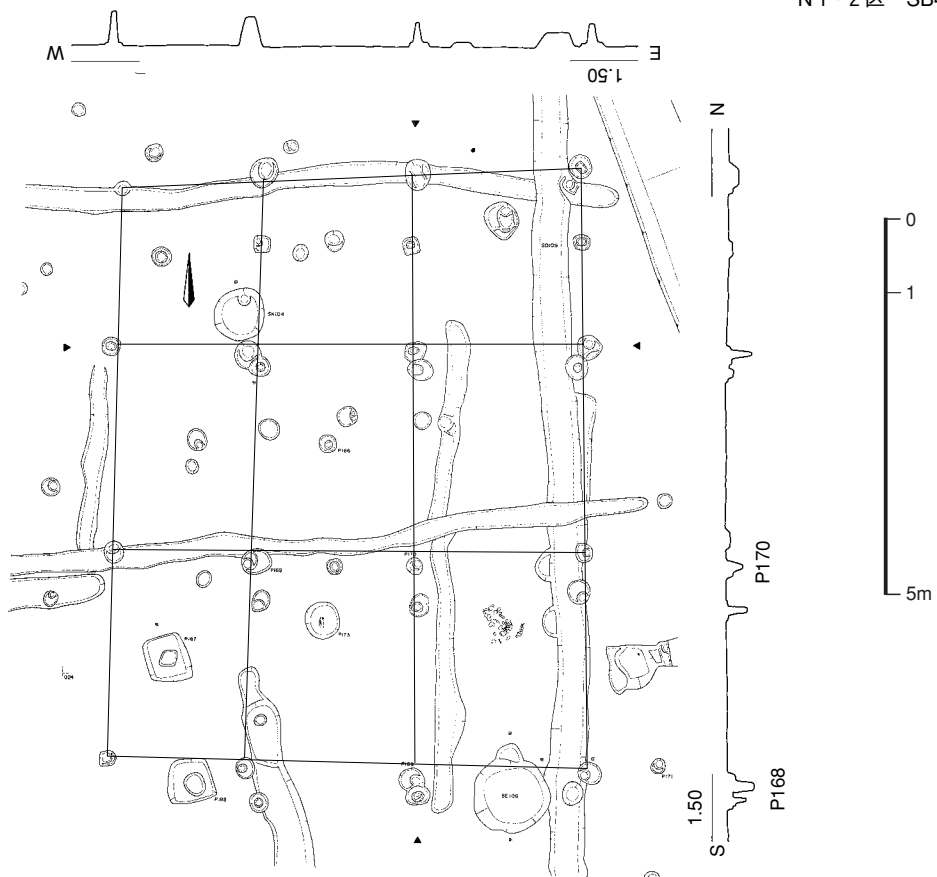
第14図 中世遺構図14



第15図 中世遺構図15

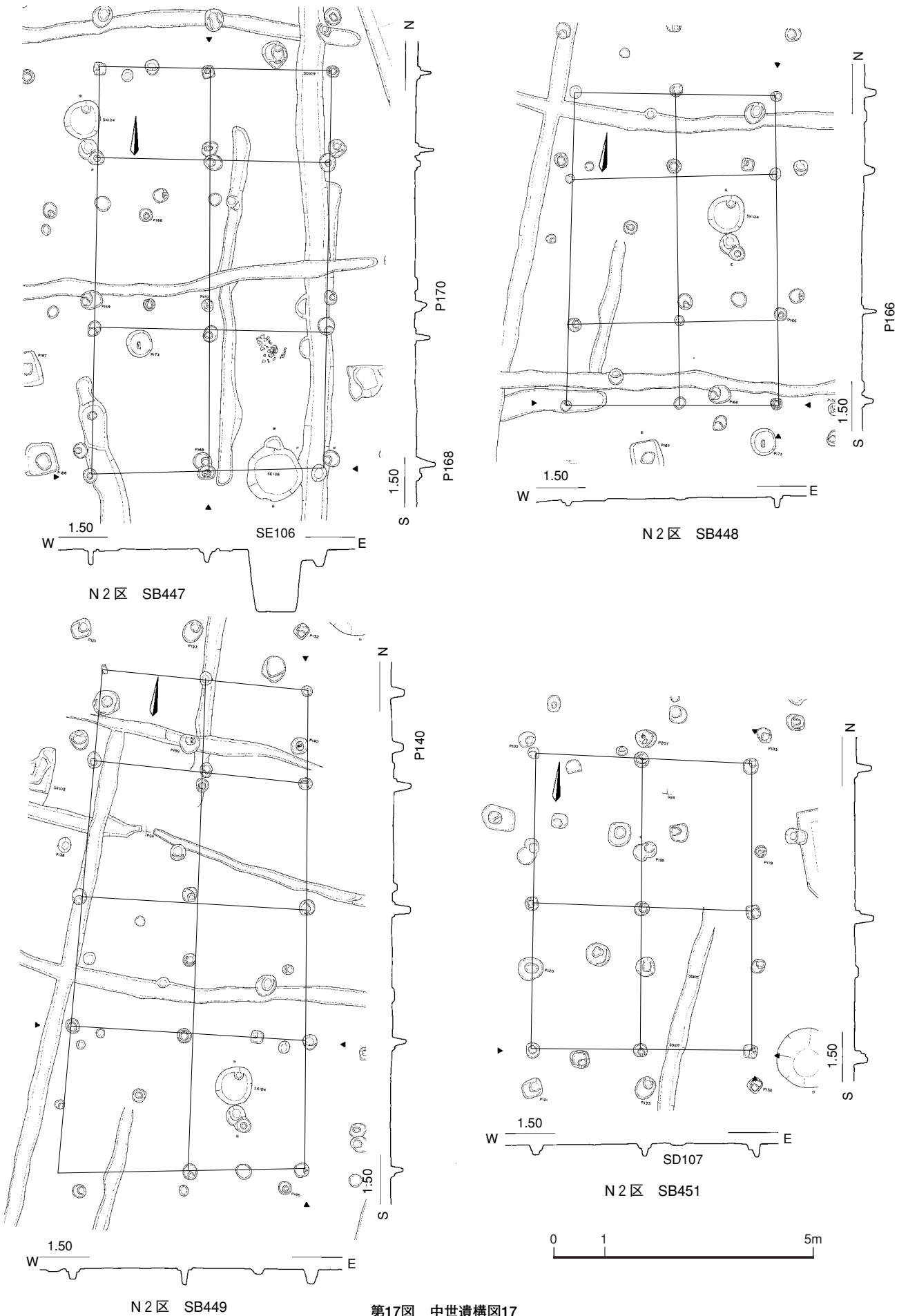


N1・2区 SB445

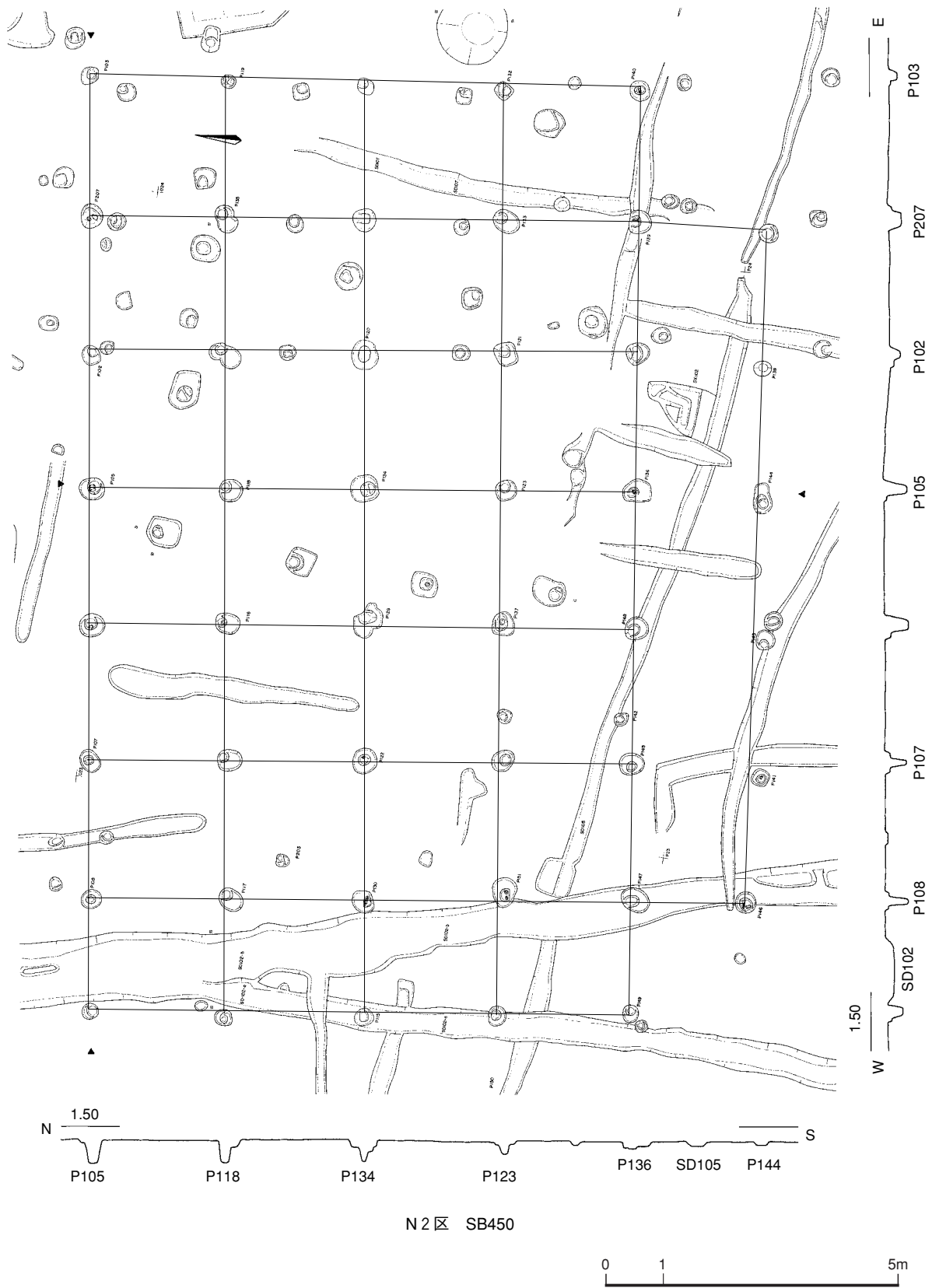


N2区 SB446

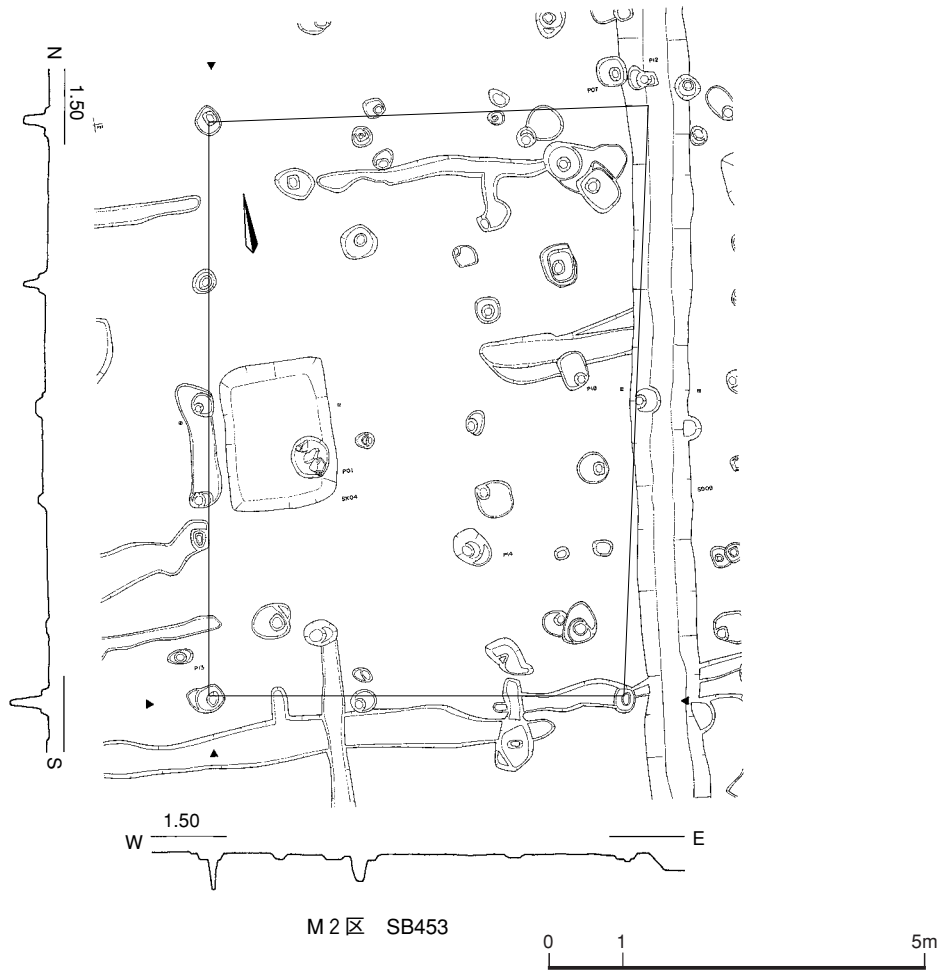
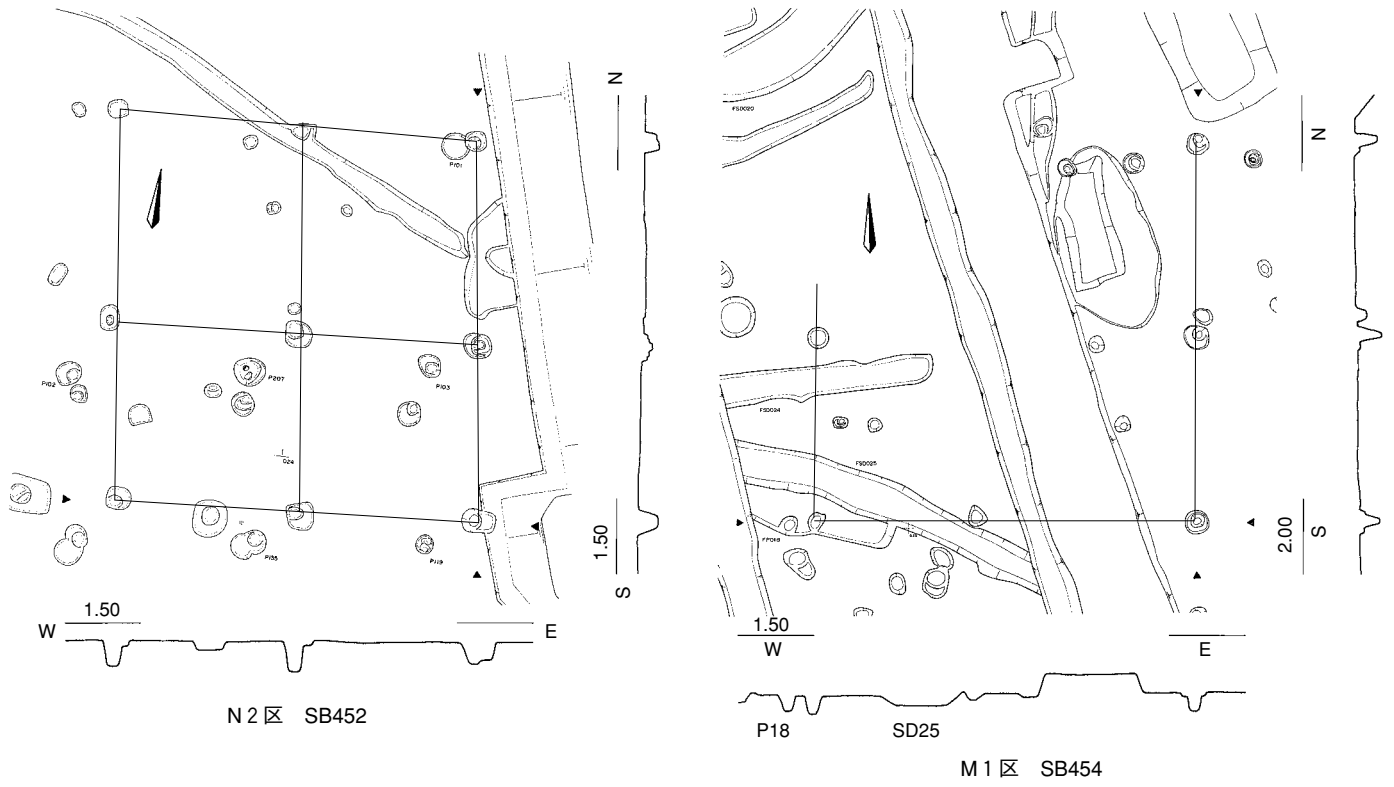
第16図 中世遺構図16



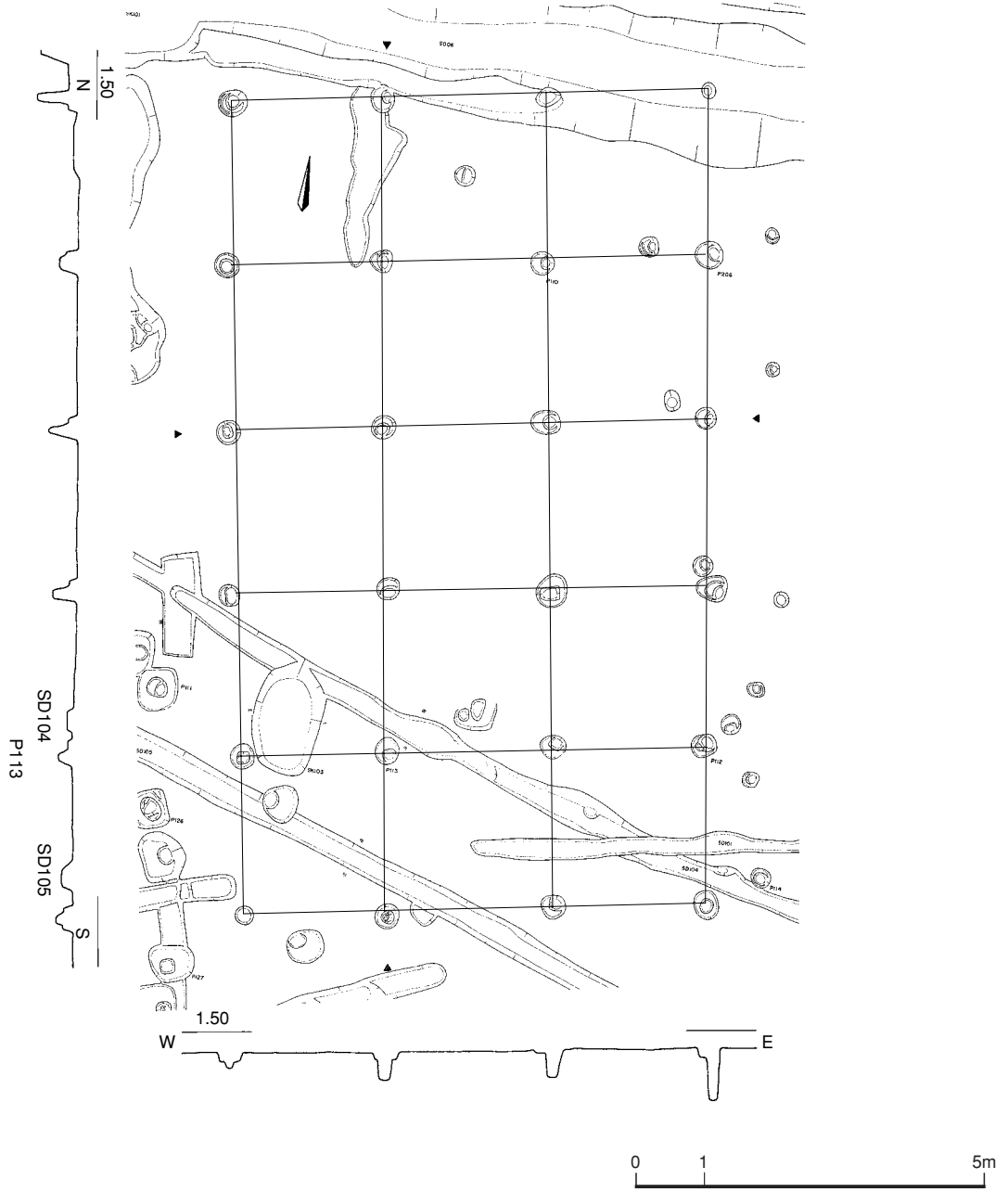
第17図 中世遺構図17



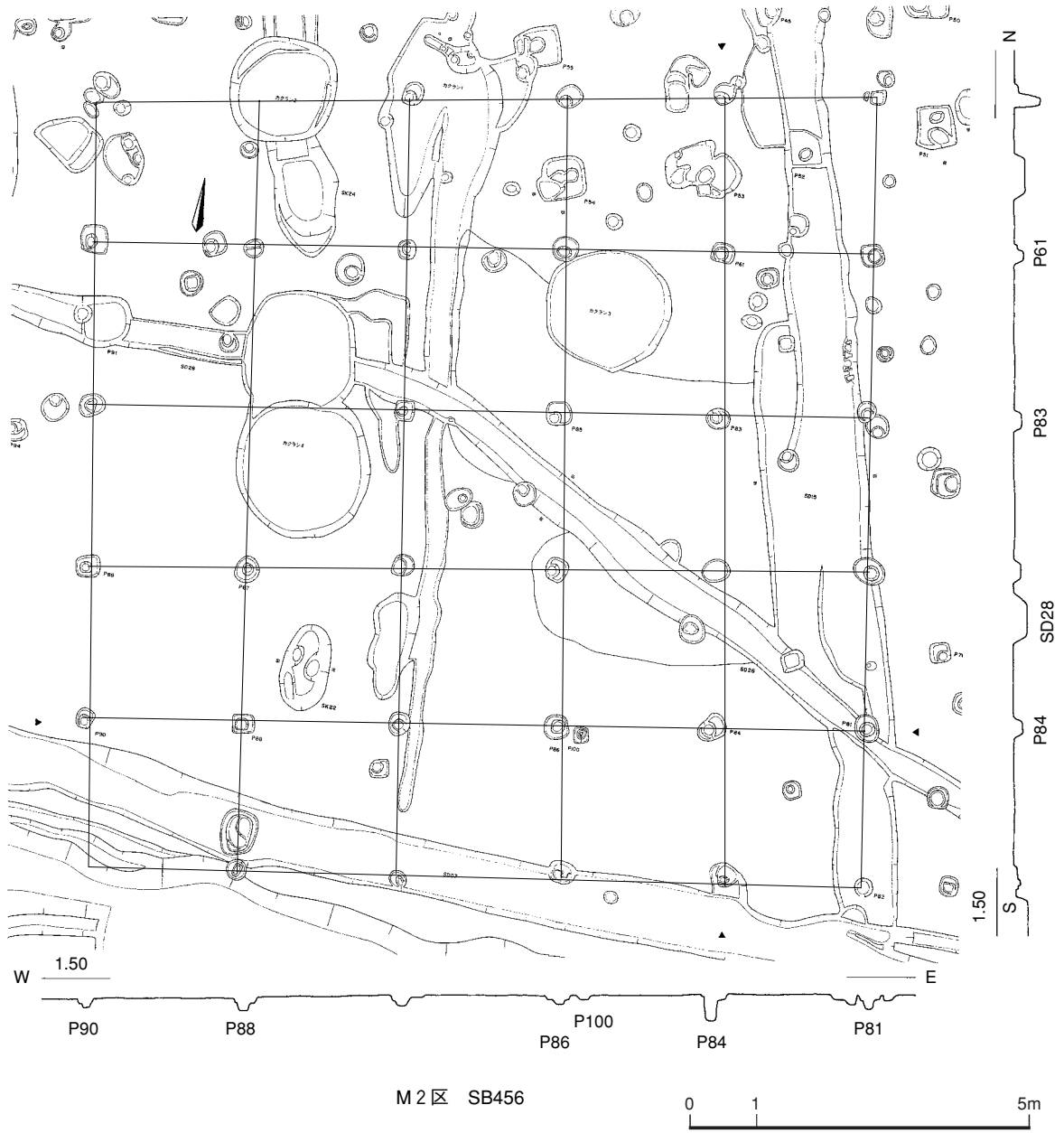
第18図 中世遺構図18



第19図 中世遺構図19

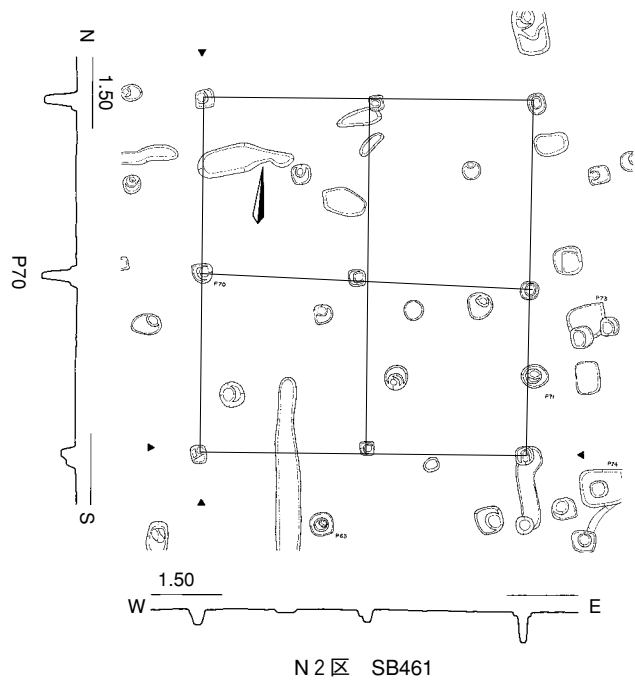
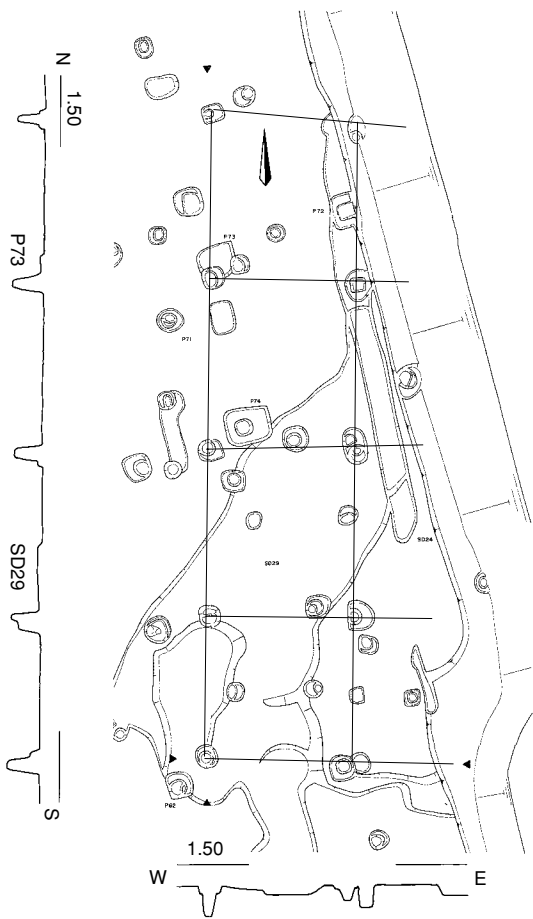
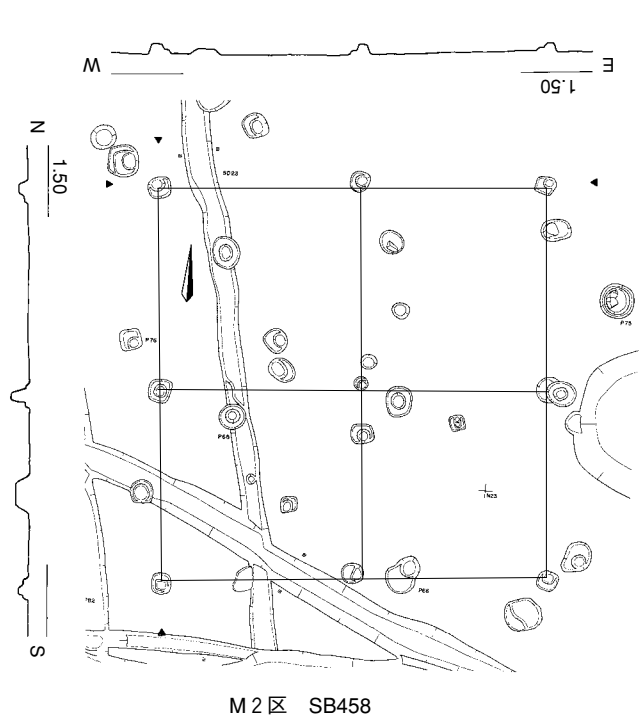
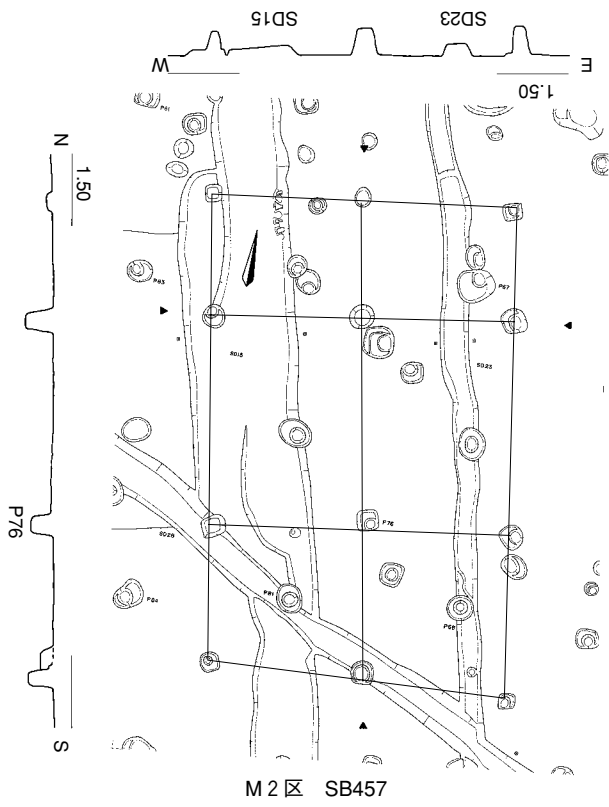


第20図 中世遺構図20

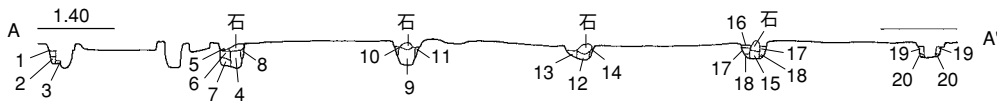
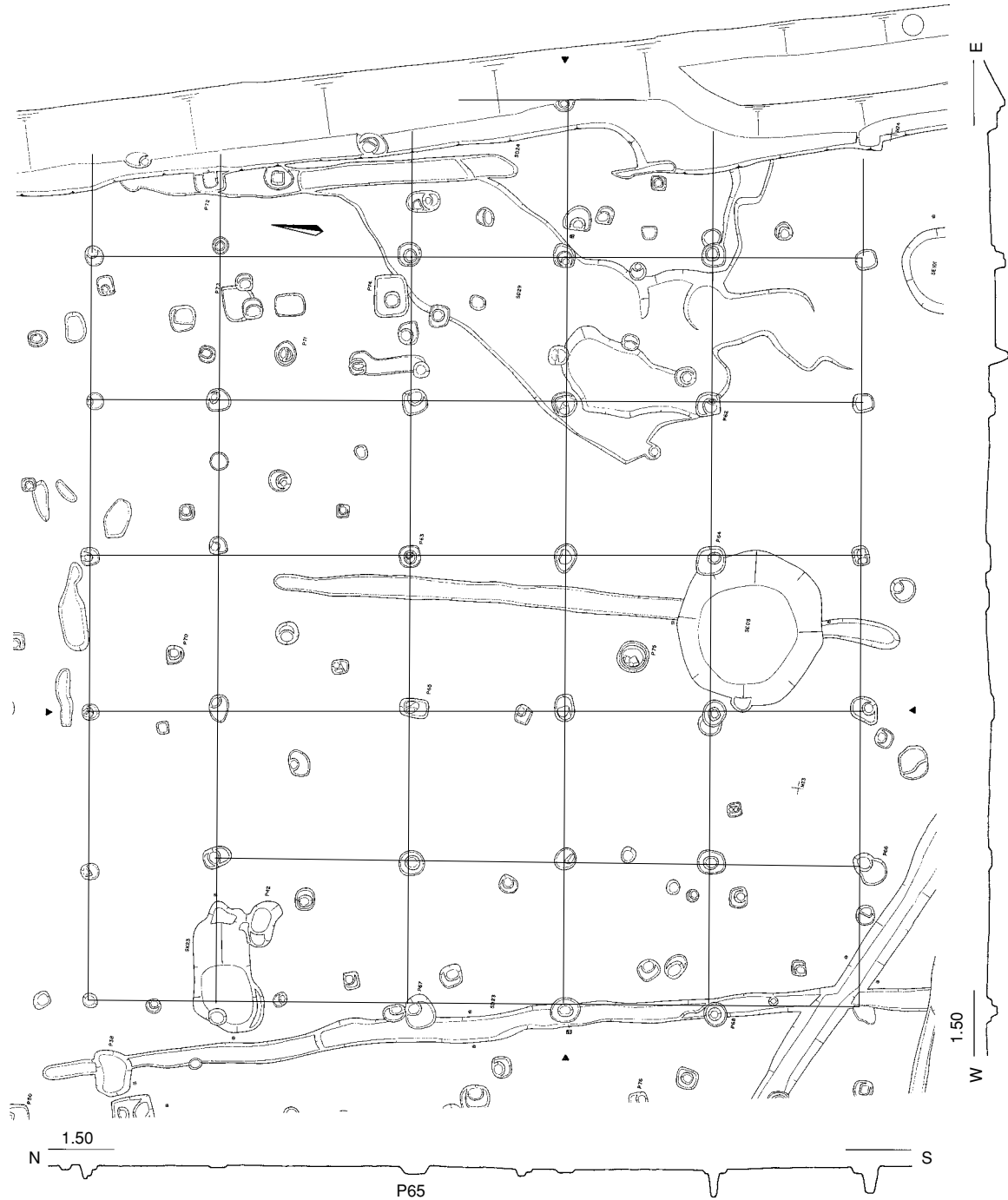


第21図 中世遺構図21

第2節 掘立柱建物跡



第22図 中世遺構図22



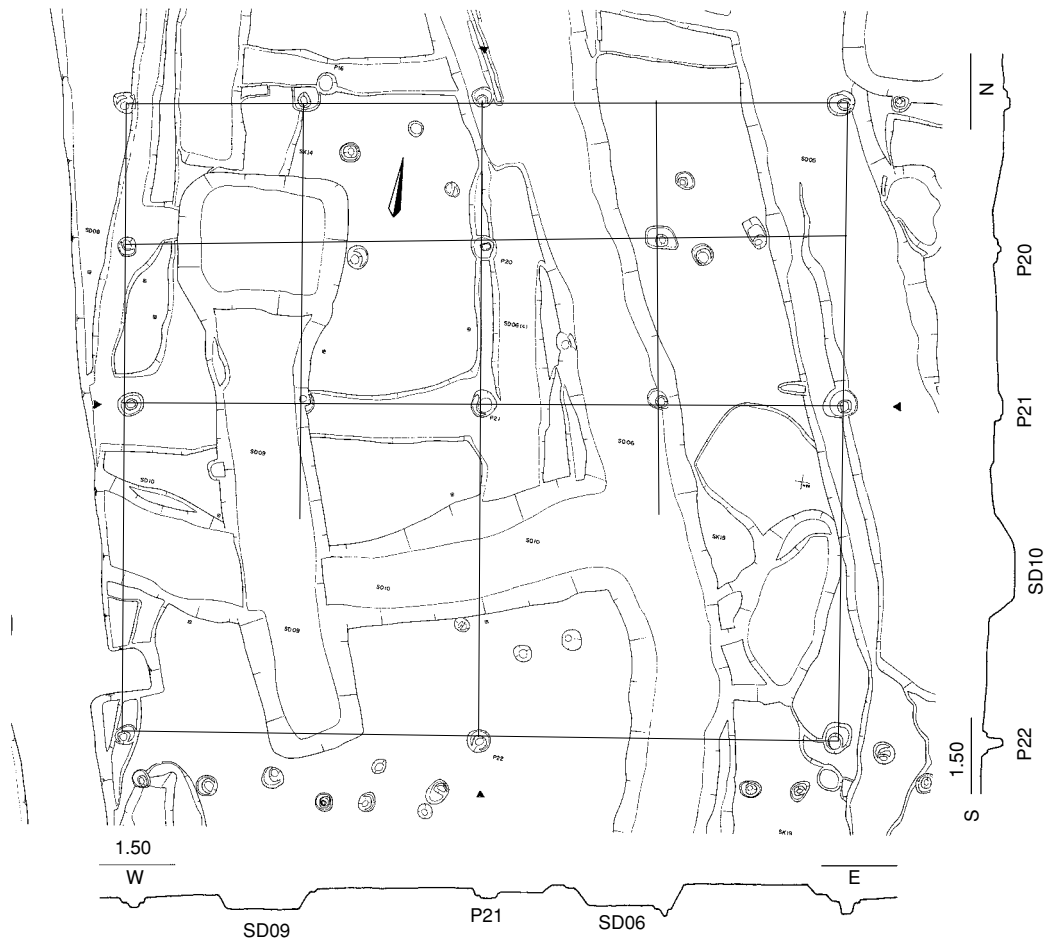
M2区 SB459

N2区 SB459南3柱列土層断面

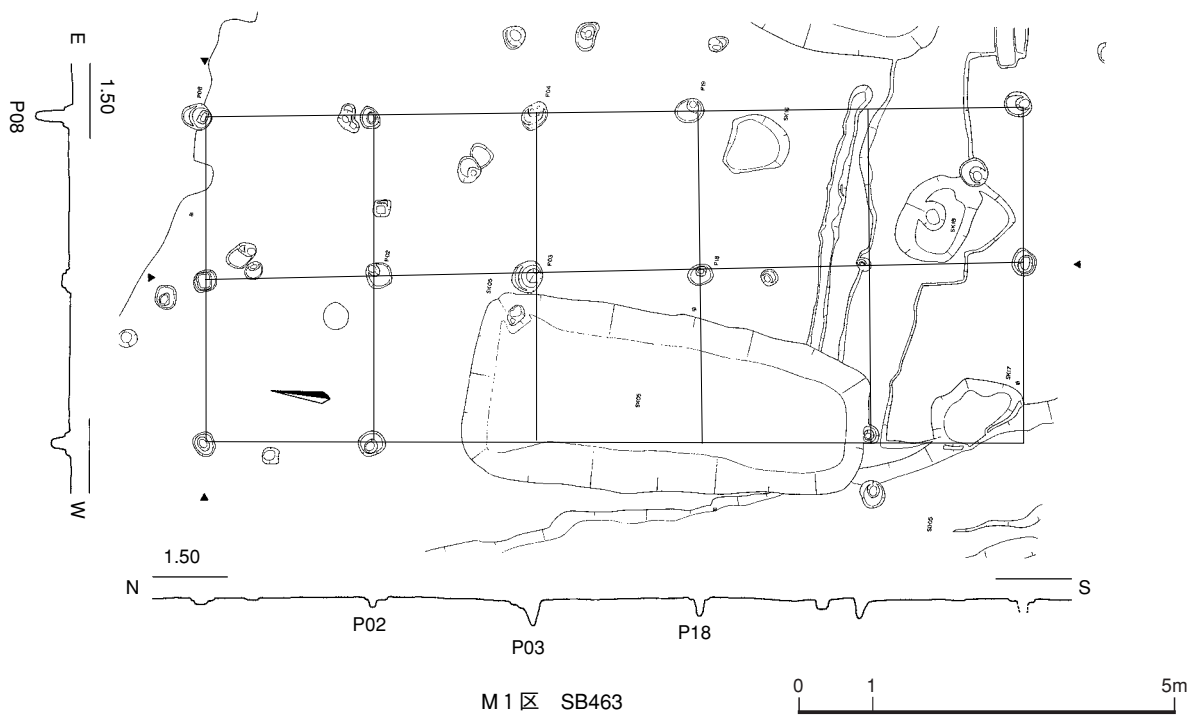


- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 濁灰色粘質土(黄色土ブロック混じる) | 11 褐色土 |
| 2 濁灰色砂質土 | 12 暗灰色粘土 |
| 3 明灰色粘土 | 13 暗灰色粘土(1層より少し明るい) |
| 4 灰色粘土 | 14 濁暗灰色粘土(褐色土混じる) |
| 5 濁褐灰色土(黄色土混じる) | 15 暗灰色粘土 |
| 6 濁褐灰色土(炭粒含む) | 16 濁灰色土(褐色土混) |
| 7 灰色粘土 | 17 濁灰色粘質土(褐色土混) |
| 8 濁灰褐色砂質土 | 18 濁灰色粘質土(3層より粘る) |
| 9 濁灰色粘土(黄色土混じる) | 19 濁灰色土(褐色土少量混) |
| 10 濁灰色粘土 | 20 濁褐灰色土 |

第23図 中世遺構図23

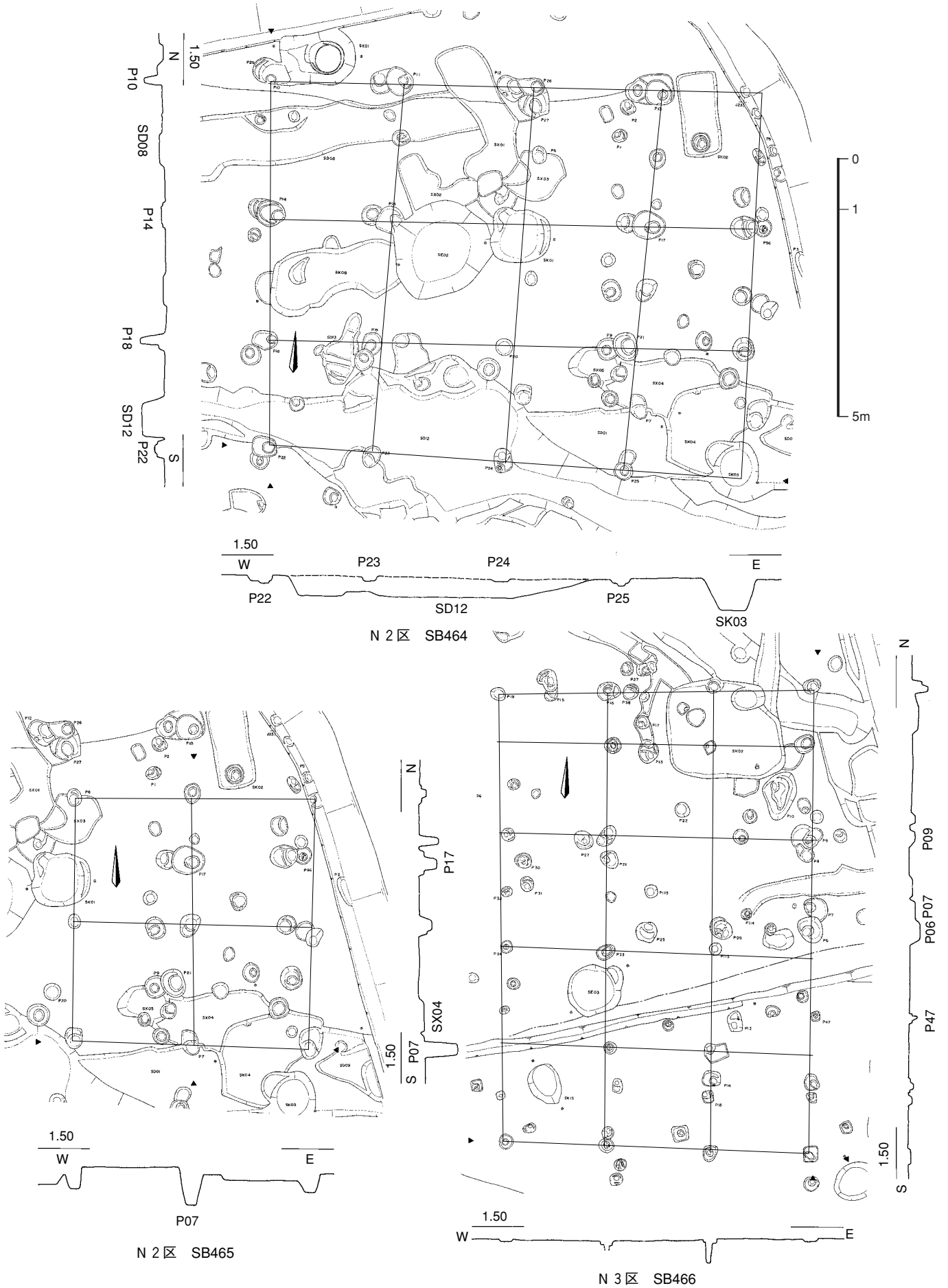


M1区 SB462

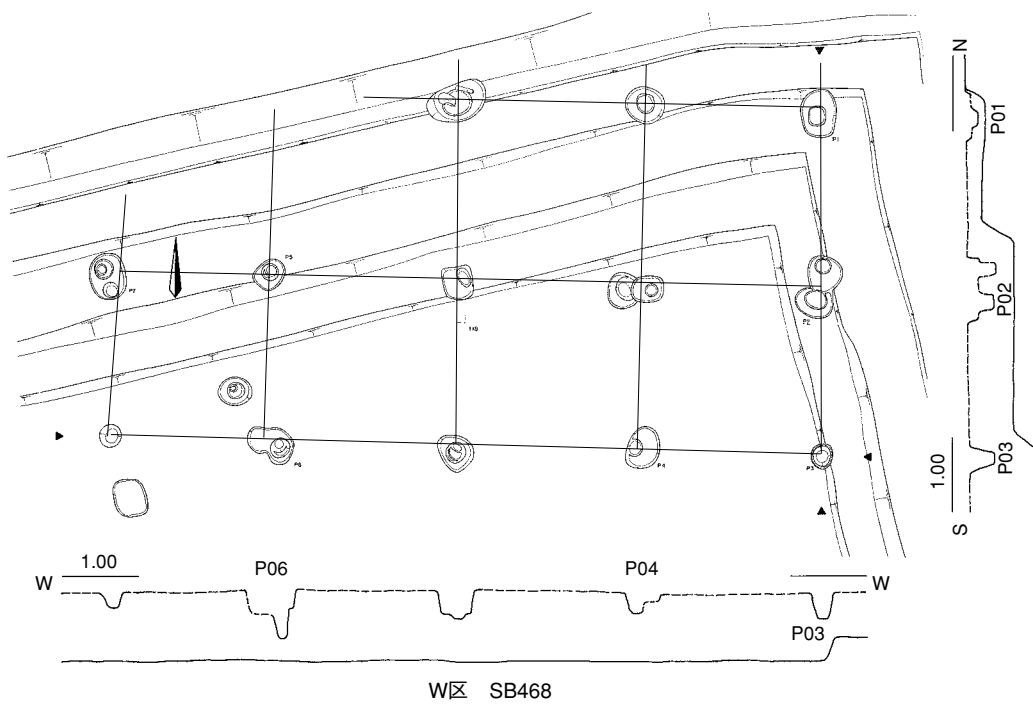
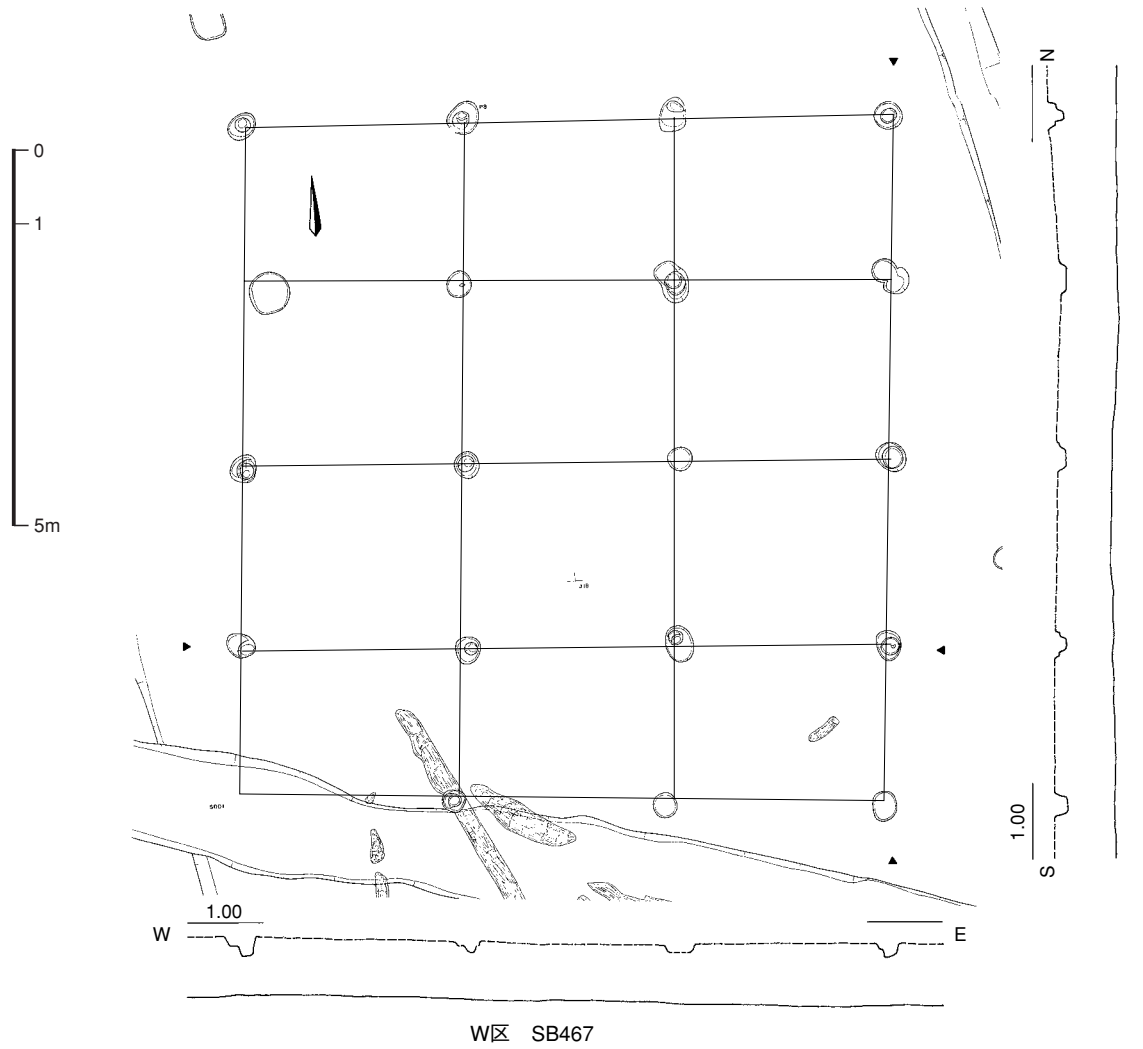


M1区 SB463

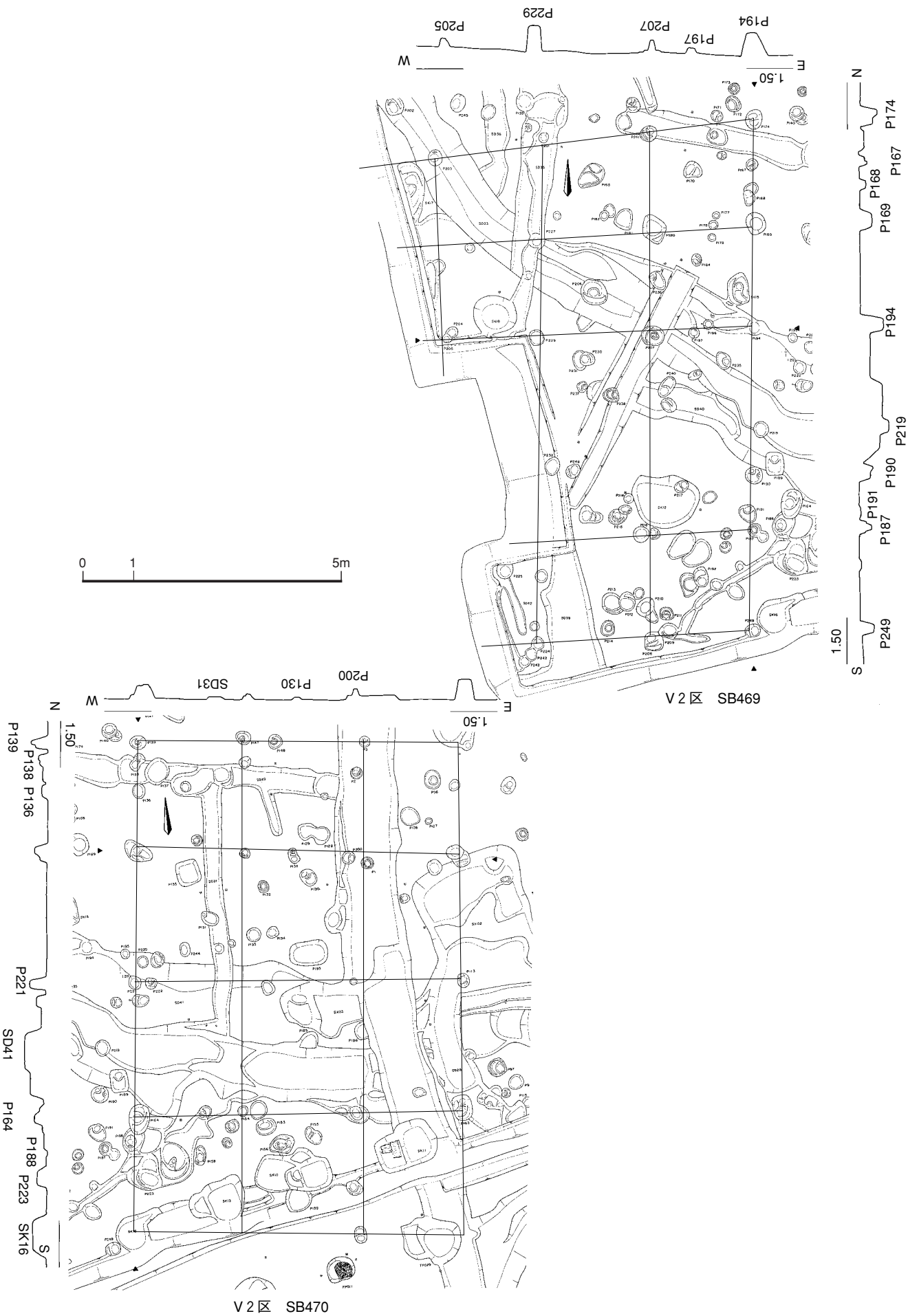
第24図 中世遺構図24



第25図 中世遺構図25

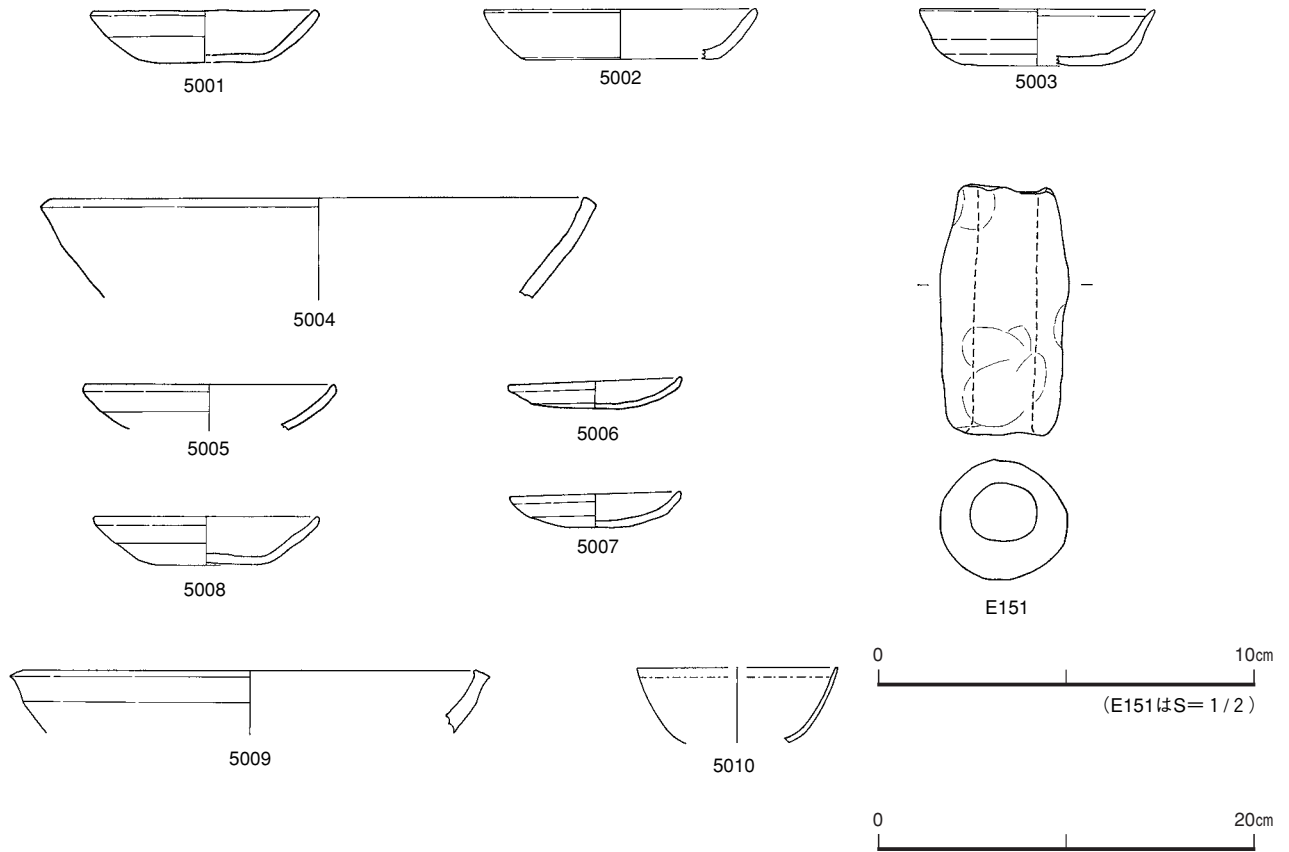


第26図 中世遺構図26



第27図 中世遺構図27

第2節 掘立柱建物跡



第28図 中世遺物図1

第2表 土器一覧1

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量(mm)				調整		色調		胎土	焼成	備考	遺存度
									口径	器高 残高	底径	その他	内	外	内	外				
5001	02s1D72	土師器	土師皿	M1	SB463-P08			117	28	70		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂、赤色粒	良			
5002	02s1D94	土師器	土師皿	N1	SB441-P05			143	27	94		ナデ	ナデ、ヘラ切り	浅黄橙	浅黄橙	粗砂多、焼土塊多	良		□2/12	
5003	02s1D92	土師器	土師皿	N1	SB443-P30			123	30	101		ナデ	ナデ、ヘラ切後不定方向ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	粗砂多、焼土塊多	良		□1/12以下 底2/12	
5004	03b1D149	珠洲	片口鉢	N2	SB444-P205			(280.5)	(53)			ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	灰	粗砂	良		□1/12	
5005	03b1D148	土師器	土師皿	N2	SB450-P138			(130.5)	(24)			ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	にぶい橙	粗砂	良		□2/12	
5006	03b1D143	土師器	土師皿	N2	SB456-P81			(92)	(18)	(32)		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白	浅黄橙	粗砂	良		7/12 □13/12	
5007	03b1D144	土師器	土師皿	N2	SB456-P85・84			(91)	(20)	(23)		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白	浅黄橙	粗砂	良		9/12 □17/12	
5008	03b1D142	土師器	土師皿	N2	SB459-P64			(120)	(25)	(52)		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂	良		3/12 □2/12	
5009	03b1D139	珠洲	片口鉢	N2	SB464-P23			(252)	(34)			ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	灰	粗砂	良		□1/12	
5010	03m1D500	白磁	碗	Q2	SB418-P177	AG 21		106	(40)					釉：透明感あり、均一	密、貫入なし、厚みあり	良				

第3表 土製品一覧1

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量(mm.g)				調整		色調		胎土	焼成	備考	遺存度
									最大長	最大幅	最大厚	重量	内	外	内	外				
E151	03b1D137	土師質	土錘	N2	SB445-P181			65	34	32	59.61									

第3節 溝 跡

A 2区SD22 南北方向に延びる溝。幅1.0～1.2m、深さ46cm程度を測る。北へはT区SD22に連続する。南方は調査区内で立ち消えとなる。13世紀代の遺物が出土しており、土師皿5012、5013を図化した。

A 3区SD59 北西－南東方向に延びる溝。幅0.35～0.8m、SE016と切り合いを持つ。深さは20cm弱を測る。12世紀後半～13世紀前半の遺物が出土している。5014は底部に回転糸切り痕を残すロクロ土師器の皿で、体部が僅かに内湾し、底部と体部の境が弱くくびれている。5015は体部の内外面をナデており、外底部に指頭圧痕が見られる。

A 3区SD67 東西方向に延びる溝で、東への延長は、既報告（第2分冊）のL 2区SD05に合流する可能性がある。また、西への延長はQ 1区SD01に連続する。幅3.0～3.5m、深さ15cm弱を測る。SE13に切り込まれている。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかった。

A 4区SD73 東西方向に延びる溝。西方向への延長はQ 1区SD10に連続し、SD03に合流する。幅0.9～1.3m、深さ16cm程度を測る。概ね12～13世紀代の遺物が出土しており、白磁碗の高台部5021を図化した。

A 4区SD83 東南東－西北西方向に延びる溝。幅1.0m程度、深さ20cm程度を測る。時期を決定できるような遺物は出土しなかったが、走向や埋土などから中世とした。

B 2区SD17 西南西－東北東方向に延びる溝。幅1.5m程度、深さ50cm程度を測る。東はD 2区SD06から連続しており、西方向への延長は、直西のI区・B 3区では河道と錯綜して検出できなかったが、S 3区SD02に連続していると思われる。

C 2区SD17 西南西－東北東方向に延びる溝で、東はR 2区SD01に、西はS 2区SD01に連続する。幅2.0～2.7m、深さ50cm弱を測る。なお、図化できなかったが、珠洲焼の体部片や、曲物が出土している。

C 8区SD03 西南西－東北東方向に延びる溝。幅1.1m程度、深さ20cm弱を測る。調査区南壁寄りで、南北方向にSD01が、また、南西－北東方向にSD02が分岐する。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土・走向などから中世とした。

C 8区SD04 南北方向に延びる溝。幅0.8～1.0m、深さ40cm程度を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土・走向などから中世とした。

D 1区SD01 西南西－東北東方向に延びる溝。東はT区SD16に、西はO 2区SD14に連続する。幅0.9～1.3m、検出面からの深さ35cm弱を測る。小片で図化できなかったが、珠洲焼の甕や片口鉢の体部片が少量出土している。

D 1区SD02 古墳時代の溝であるが、第1層の灰褐色粘質土層については、中世溝の一部だと考えられる。東はT区SD01に、西はO 2区SD01に連続する。遺物は第3層以下で出土する古墳時代のものが多くを占めているが、中世の遺物も少数見られる。12世紀後半～13世紀代のものが出土しており、青白磁合子蓋5024を図化している。

D 2区SD06 南西－東北東方向に延びる溝。東はO1区SD09から連続していると思われる。西はB2区SD17に連続する。幅1.6～1.8m、深さ25cm程度を測る。

E区SD01 北北西－南南東方向に延びる溝。幅2.2～4.0m、深さ50cm程度を測る。13世紀代の遺物が出土しており、土師皿5025と、珠洲焼片口鉢5026を図化した。5026は内面に8条1単位で波打っている卸目が見られる。

E区SD02 ほぼ南北方向に延びる溝。幅1.6～2.0m、深さ30cm程度を測る。13世紀代の遺物が出土しており、土師皿5027を図化した。

E区SD10 東西方向に延びる溝。西はN1区SD06に連続する。幅0.55～0.75m、深さ30cm程度を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかった。

E区SD14 東西方向に延びる溝で、西はN1区SD02に連続する。幅1.5～1.8m、深さ40cm弱を測る。図化できていないが、少量の珠洲焼片が見られた。

E区SD15 東西方向に延びる溝。西はN1区SD01に連続する。幅1.8～2.0m、深さ65cm弱を測る。詳細な時期を明らかにできなかったが、珠洲焼片と時期不明の土師器片が見られた。

E区SD019 ほぼ南北方向に延びる溝。幅1.5～1.7m、深さ80cm程度を測る。遺構の詳細な時期を特定できる土器類は出土しなかったが、木製品では黒漆地に赤漆で絵を加飾した椀W701を得た。体部がやや内湾気味に立ち上がり、高台の内側を削り込んで畳付を作り出している。また、高台裏側には轆轤の爪跡が残る。

E区SD20 西南西－東北東方向に延びる溝。西はM3区SD05に連続する。幅1.2～1.3m、深さ50cm程度を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかった。

E区SD21 西南西－東北東方向に延びる溝。幅1.4m、深さ52cmを測る。途中で途切れているが、西方向への延長は、M3区SD06に連続すると思われる。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかった。

F区SD01 北北西－南南東方向に延びる溝。南はN2区SD18に、北はV2区SD01に連続する。幅1m程度、深さ20cm程度を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかった。

F区SD012 ほぼ東西方向に延びる溝。幅1.7m程度、深さ20cm弱を測る。西方向への延長は、隣接するN2区でSK04として検出され、立ち消えている。図化できなかったが、珠洲焼の小片などが出土している。

F区SD14 ほぼ東西方向に延びる溝。東はM3区SD13に、西はN2区SD02に連続する。幅1.1～1.5m、深さ40cmを測る。

F区SD15 ほぼ東西方向に延びる溝。東はM3区SD22に、西はN2区SD03に連続する。幅3.4m程度、深さ56cm程度を測る。

F区SD17 ほぼ東西方向に延びる溝。東はM3区SD20に、西はN2区SD04に連続している。幅1.2～1.55m、深さ20cm前後を測る。

F区SD18 ほぼ東西方向に延びる溝。M1区SD06cの西方向への分岐から連続しており、西はN2区SD07に連続する。SD19に切り込まれている。深さ20cm前後を測る。

F区SD19 ほぼ東西方向に延びる溝。東はM1区SD10に、西はN2区SD06に連続する。幅約1.6m、深さ60cmを測る。SD18を切り込む。出土遺物は僅少で、時期不明の土師器小片が少量見られたのみである。

F区SD024 東西方向に延びる溝。幅0.4～0.5m、深さ約15cmを測る。13世紀代の遺物が出土している。5031は土師皿で、外底部は指頭圧痕が見られ、口縁端部が面取りされている。

F区SD26 南北方向に延びる溝。南はN1区SD11に、北はM2区SD02に連続する。東方向に分岐し、延長はM2区SD04に続く。幅1.6～2.4m、深さ28～44cm（南北の延び）を測る。

F区SD27 南北方向に延びる溝。南はN1区SD10に、北はM2区SD05に連続している。幅2.0～2.9m、深さ35cm程度を測る。N1区との境界付近の2箇所東方向に分岐しており、それぞれN1区SD01・02として検出されている。13～14世紀前半代の遺物が出土しており、土師皿5032～5034、青磁碗5035・5036を図化した。

F区SD28 ほぼ東西方向に延びる溝で、西はM2区SD04から連続しており、東への延長はE区との境

界を越えたあたりで立ち消えている。幅2.7m程度、深さ25cm程度を測り、F区SE07を切り込んでいる。

G区SD11 西北西－東南東に延びる溝。東はN2区SD04から連続している。西への延長はW区SD02に続くと思われる。幅2.2～2.5m、深さ56cmを測る。

G区SD12 北北西－南南東方向に延びる溝。南はT区SD13から連続しており、北はN1区SD11へ続く。幅1.0m程度、深さ24cmを測る。概ね13世紀前半代の遺物が出土しており、土師皿5038・5039を図化した。5038は口縁端部が面取りされている。5039は短く内湾して立ち上がる体部を持つ小皿である。

G区SD13 北北西－南南東方向に延びる溝。南はT区SD11に、北はN1区SD10に連続している。断面図は井戸SE003等と一連で作図されていて分割できなかったため、次節に掲載している。幅1.8～2.4m、深さ40cm程度を測り、る。12世紀後葉～13世紀前葉の遺物が出土しており、土師皿5040を図化している。

G区SD15 ほぼ東西方向に延びる溝で、東はN2区SD07から連続している。西方向への延長はW区SD51に続いていると思われる。幅1.2～2.2m、深さ48cmを測る。

G区SD18 西北西－東南東に延びる溝。東はN2区SD03から連続し、西への延長はW区SD03に続くと思われる。幅3.0m前後、深さ44cmを測る。13世紀中頃を中心とした時期の遺物が出土しており、土師皿5041～5044を図化した。5042は、内底部に弧状のヘラ跡が残っている。

K区SD01 北北西－南南東方向に延びる溝。北はT区SD21に連続している。また、南への延長は、既報告（第2分冊）のL2区SD05に連続していると思われる。調査区西端にかかり、幅は明らかでないが、深さ60～70cmを測る。携帯用と思われる砥石S142を図化している。泥岩質凝灰岩製である。また、小片で図化に至らなかったが、土師皿や珠洲焼も出土している。

M1区SD01 北北西－南南東方向に延びる溝。北への延長は、M3区SD03に連続する。幅0.8～1.2m、深さ15cm弱を測る。小片で図化に至らなかったが、加賀焼と見られる甕の体部片が出土している。

M1区SD02 北北西－南南東方向に延びる溝。北への延長は、M3区SD01或いはSD02に続く。幅0.8～1.0m、深さ10cm弱を測る。図化できなかったが、加賀焼や珠洲焼の体部片も出土している。

M1区SD03 北北西－南南東方向に延びる溝。北への延長は、M3区SD04に続くと思われる。また、南方向へ分岐しており、SD04として検出されている。幅0.3～0.6m、深さ10cm弱を測る。小片だが、珠洲焼や瀬戸なども出土している。

M1区SD04 北北西－南南東方向に延びる溝。SD03から分岐している。幅0.6～0.9m、深さ10cm弱を測る。出土遺物は少量で、加賀焼の体部片などが出土している。

M1区SD05 北北西－南南東方向に延びる溝。南でクランクしてSD15に直続する。また、北はM3区SD26に直続する。幅1.6m程度、深さ28cmを測る。出土遺物は少量にとどまるが、珠洲焼などが見られた。

M1区SD06a M2区SD02から直続している溝。ほぼ南北方向に延びていたのが、M1区SD10が分岐するあたりで、やや西に傾いて延びる。幅1.2～1.6m、深さ30cm程度を測る。また、M1区とM3区の境界あたりでも、西方向に折れてM3区SD20となる。更に土層断面の観察より、SD06bを切り込み、SD06cに切られていることがわかる。出土遺物は少量だが、土師皿、珠洲焼、加賀焼などが見られた。

M1区SD06b 北北西－南南東方向に延びる溝。幅0.6m程度、深さ15cm程度を測る。南側でSD06aに切り込まれている。また、北方向の延長は隣接するM3区では立ち消えとなっている。遺構の時期を決定するような遺物の出土は見られなかったが、埋土や走行などから中世の遺構とした。

M1区SD06c 北北西－南南東方向に延びる溝。幅48～64m、深さ20cm程度を測る。SD06aを切り込み、南でSD10に合流している。また、西方向に分岐し、F区SD18に続く。

M1区SD07 北北西－南南東方向に延びる溝。SK14以南ではSD09に切り込まれている。北はM3区SD20に合流する。幅1.0m程度、深さ30cmを測る。

M1区SD09 北北西－南南東方向に延びる溝。幅1.3m程度、深さ30cmを測る。また、延長9m足らずの溝であり、南北ともに立ち消えている。SD07を切り込み、SK14に切り込まれている。

M1区SD10 ほぼ東西方向緩やかに蛇行している溝。M1区SD06aが西方向へ分岐したものである。西でF区SD19に連続している。幅1.2～1.5m、深さ40cm程度を測る。土師皿5046を図化したほか、図化に至らなかったが、他にも珠洲焼や青磁の小片も出土しており、概ね12世紀末～13世紀前半のものと考えられる。

M1区SD11 ほぼ東西方向に蛇行する溝。SD05に合流する。幅0.4～0.8m、深さ20cmを測る。12世紀後半の所産と思われる遺物が出土している。

M1区SD13 ほぼ東西方向に延びる溝。SD16を切り込む。東西方向に延びる溝。西方向への延長は、SD05と切り合い、SD06に合流しているが、東方向への延長は隣接するE区では確認されていない。深さ32～68cmを測る。14世紀後半～15世紀代の遺物が出土しており、土師器灯明皿5047、天目碗5048、下駄W705を図化した。

M1区SD14 南北方向に延びる溝。幅2.0m程度、深さ20cm程度を測る。北方向の延長はSD05に合流しているが、南方向の延長であるM2区内では、立ち消えとなっている。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土や走向などから中世の遺構とした。

M1区SD15 南北方向に延びる溝。幅2.0～2.3m、深さ50cm程度を測る。南はM2区SD05に直続し、北はクランクして北北西－南南東方向のSD05になる。また、東方向への分岐も見られ、SD18として検出されたが、その延長は東隣のE区では確認できなかった。なお、図化できなかったが、土師皿の小片が出土している。

M1区SD16・17・20 SD13も含めてお互いに錯綜しており、落込みのような状態を呈している。SD16はSD13に切り込まれており、深さは40～50cmを測る。遺物は少量だが、加賀焼の体部片などが見られた。SD17はSD16に切り込まれており、深さは60cm程度を測る。時期を決定できるような遺物は見られなかったが、埋土などから中世の遺構と考えられる。SD20はSD17と錯綜しているが、新旧関係ははっきりしない。深さは50～60cmを測る。東方向への延長は隣接するE区では確認されていない。13世紀の遺物が出土しており、図化を行った玉縁口縁を持つ白磁碗5050以外にも、加賀焼や珠洲焼などが少量見られた。

M1区SD18 東西方向に延びる溝。SD05＝SD15が東方向へ分岐したものであるが、隣接するE区においては延長が確認できなかった。幅1.3～2.0m、深さ30cm程度を測る。土師皿、珠洲焼、白磁など12世紀後半～13世紀前半代の遺物が見られた。5049は土師皿で、口縁端部は面取りされていた。また、外底部に指頭圧痕を残す。

M2区SD02 南北方向に延びる溝。南はF区SD26から連続し、北はM1区SD06aに直続する。幅1.5～1.9m、深さ30cm程度を測る。遺構の時期を決定できなかったが、珠洲焼体部や、漆器碗皿類の体部などが見られた。

M2区SD03 南北方向に延びる溝。幅1.6～1.8m、深さ約30cmを測る。南はF区SD26から続いていると思われるが、北への伸びは途中で立ち消えている。M2区SD02を切り込む。珠洲焼体部片などが出土している。

M2区SD04 東西方向に延びる溝。F区SD26が東方向へ分岐したものである。F区SD28に連続し、立ち消えている。幅1.6m程度、深さ50cm弱を測る。

M 2 区SD05 ほぼ南北方向に延びる溝。南はF区SD27から連続しており、北はM1区SD15に直続する。幅2.1～2.6m、深さ45cm程度を測る。出土遺物は12世紀後半～13世紀中葉のもので、土師皿や珠洲焼などが見られた。5051は、珠洲焼の片口鉢で、内面に卸目は見られず、底部に静止糸切り痕を残す。I～II期。

M 2 区SD06 南北方向に延びる溝。幅0.7～0.8m、深さ10cm程度を測る。遺構の時期を決定できなかったが、土師皿の小片が出土しており、また、走向などからも中世の遺構であろうと思われる。

M 2 区SD07 南北方向に延びる溝。幅1.3～1.8m、深さ50cm程度を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や走向より中世の遺構とした。

M 2 区SD08 南北方向に延びる溝。幅0.5～0.9m、深さ5～10cmを測る。

M 2 区SD09 ほぼ南北方向に延びる溝。幅0.7～0.9m程度、深さ30cm程度を測る。溝の北部の掘り方で礫が集中して検出された。少量だが、珠洲焼や青磁など、15世紀代の遺物が出土している。5052は珠洲焼の播鉢。口縁端部に櫛目による波状文を施されている。V期。

M 2 区SD11 西北西－東南東方向に延びる溝。幅0.5～0.9m、深さcmを測る。溝の東西で落ち込みが見られる。落ち込みの深さは東のものが60cm、西のものが70cmを測る。遺構の時期を決定できるような遺物は出土しなかったが、鑿の刃部M13が出土した。この鑿については、柄も出土している。M 2 区SD01東の落ち込みで出土しているW706がこれにあたる。

M 2 区SD12 南北方向に延びる溝。幅0.3m程度、深さ20cm弱を測る。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土や走向などから中世の遺構とした。

M 3 区SD01 M 1 区のSD02から連続しており、北北西－南南東方向に延びる溝。SD02・SE02を切り込む。幅0.5～1.1m、深さ35cm弱を測る。

M 3 区SD02 M 1 区のSD02から連続しており、南北方向に延びる溝。SD01・03に切り込まれる。幅0.5～0.6m、深さ30cm弱を測る。

M 3 区SD03 M 1 区のSD01から連続しており、南北方向に延びる溝。幅0.7～1.3m、深さ40cm弱を測る。SD02を切り込む。出土遺物には14世紀代のものが見られるが、少量にとどまる。青磁皿5053を図化している。

M 3 区SD04 M 1 区SD03から連続しており、北北西－南南東方向に延びる溝。幅0.65～0.8m、深さ30cm弱を測る。SE02を切り込み、SD06に合流している。小片で時期を決定できるようなものではなかったが、土師皿や珠洲焼が少量出土している。

M 3 区SD05 西南西－東北東方向に延びる溝。東はE区SD20から連続し、西で南北方向のSD22に直続するが、SD22は西方向にクランクして延びる。幅2.0～2.8m、深さ70cm程度を測る。SD22との連結部分では、上部に大型の礫面を検出した。また、この部分の掘削を進めたところ、杭列を確認した。出土遺物は主に13～15世紀代のもので、16世紀のものも少量見られる。土師器灯明皿5054、珠洲焼甕5055、加賀焼甕5056・5057、越前焼甕5058、青磁碗5059・5060、白磁碗5061・5063、白磁口禿皿5062、瀬戸灰釉皿5064・5065、檜扇W707について図化を行った。5057は内外面灰白色を呈する甕の体部片で、菊花文と格子文を組み合わせたスタンプ文が施されている。5058は16Cの所産。口縁端部に幅広い平坦面を有する。5060は外面に蓮弁文が施されている。5061・5063は玉縁口縁を持つ。

M 3 区SD06 西南西－東北東方向に延びる溝。幅0.7～1.2m、深さ50cm程度を測る。西に行くほど規模が縮小しており、延長はSD26・22と交差して、SD11に連続し、立ち消えていくものと思われる。また東方向への延長は、途中途切れているもののE区のSD21に続くと思われる。5066は珠洲焼片口鉢で、口縁端部に櫛目による波状文が施されている。V期。

M 3 区SD09 SK01・12・13・17など複数の遺構が錯綜した所で検出され、SK17を切り込む。SD05に合流していると思われる。深さ20cm弱を測る。13世紀代の遺物が出土している。5068は珠洲焼片口鉢で、内面に6条1単位の卸目が見られる。

M 3 区SD10 SD05・19の上部で検出された、東西方向の溝だが、SD05の掘削を優先したため、範囲確認と遺物の取り上げのみを行った。小型の礫面を持つ溝であり、遺構の時期を決定できるような顕著な遺物の出土は見られなかった。

M 3 区SD12 SD06の上部で検出された、東西方向の溝だが、SD06の掘削を優先したため、範囲確認と遺物の取り上げのみを行った。小型の礫面を持つ礫溝であり、ごく少量の珠洲焼の体部片が出土した以外に顕著な遺物の出土は見られなかった。

M 3 区SD13 ほぼ東西方向に延びる溝。M 3 区SD32の西方向への分岐と思われ、F 区SD14に連続する。幅1.4m程度、深さ50cm弱を測る。

M 3 区SD20 ほぼ東西方向に延びる溝。SD23 (M 1 区SD06a) の西方向への分岐で、F区SD17に連続する。幅1.3m弱、深さ25cm程度を測る。

M 3 区SD22 M 3 区SD05から直続する。南北方向から西方向に逆L字状にクランクし、F区SD15に連続する。幅2.2~2.4m、深さ60cm弱を測る。SD23を切り込む。概ね12世紀末~13世紀前半の遺物が出土しており、土師皿5072・5073、珠洲焼片口鉢5074を図化している。5074は内面に「十」字のヘラ書きが施されている。

M 3 区SD23 北北西-東南東方向に延びる溝。M 1 区SD06aから直続する。幅1.0m程度、深さ25cm程度を測る。SD22に切り込まれているが、北への延長はSD32に連続すると思われる。

M 3 区SD24・07 南北方向に延びる溝SD24が、東方向に折れてSD07として検出されている。幅0.5~0.8m、深さ20cm弱を測る。SD04・08・17・SD25を切り込む。5067は白磁皿の底部で、高台は挟りこまれており、割り高台となっている。また、外底面に墨痕を残す。見込みには目跡4箇所が残り、直接重ね焼きしたものと思われる。

M 3 区SD25 南北方向に延びる溝。幅1.0m程度、深さ20~30cmを測る。SD26・24に切り込まれる。越前焼の甕5075を図化した。

M 3 区SD26 北北西-南南東方向に延びる溝。南はM 1 区SD05から直属し、北はE区SD02に連続する。SD25を切り込む。幅1.2~1.4m、深さ30~56cmを測る。埋土下位から弥生土器や土師器等が出土しているが、先行するSD46 (第3分冊) に伴う遺物と思われる。

M 3 区SD27 上面が大きく削平を受けており、僅かに底部の残欠を検出した溝である。SD32を切り込んでいた。北北西-南南東方向に延びる。幅0.20~0.32m、深さ10cm弱を測る。珠洲焼や青磁、白磁など14~15世紀の遺物が出土している。5076は珠洲焼の片口鉢で、口縁端部に波状文が施されている。V期。

M 3 区SD30 上面が大きく削平を受けていると思われ、僅かに底部の残欠を検出したのみである。SD26を切り込んでいた溝。西南西-東北東方向に延びる。幅0.2~0.32m、深さ5cm弱を測る。

M 3 区SD31 上面が大きく削平を受けていると思われ、僅かに底部の残欠を検出したのみである。SD26を切り込んでいた溝。西南西-東北東方向に延びる。幅0.3~0.4m、深さ5cm弱を測る。

M 3 区SD32 北北西-南南東方向に延びる溝。北はE区SD01に連続する。SD05・22と切り合い、SD27・33に切り込まれたりしているが、南はSD23に連続していると思われる。幅2.0~2.8m、深さ40~52cmを測る。西に延びる溝SD13を分岐している。12世紀後半~13世紀の遺物が出土しており、珠洲焼の壺5077と片口鉢5078を図化した。5077は把手がつくが、剥離している。また、弥生土器や古式土師器など前代のものが少なからず見られるが、実際はSD46 (第3分冊) に伴うものだと思われる。

M 3 区SD33 北北西－南南東方向に延びる溝。幅1.0～1.3m、深さ40cmを測る。SD32を切り込んでいた。

ほぼ東西方向に延びる溝。調査区端にかかっており、南肩の一部を検出した。F区SD27の東方向への分岐から連続し、東でE区SD15に連続する。深さ50cm前後を測る。

N 1 区SD02 東西方向に延びる溝。N 1 区とF区の境界で、N 1 区SD10 (F区SD27) が東方向に分岐したもの。また、東でE区SD14に連続する。幅1.5～1.8m、深さ45cm弱を測る。土師皿、珠洲焼など13世紀後半～14世紀前半の遺物が出土している。土師皿5079を図化した。

N 1 区SD03 ほぼ東西方向に延びる溝。幅0.2～0.6m、深さ15cm弱を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や走向より中世の遺構とした。

N 1 区SD06 東西方向に延びる溝。東はE区SD10に連続し、西方向への延長は、O 1 区SD09に連続すると思われる。幅0.7～0.9m、深さ15cm程度を測る。

N 1 区SD07 調査区半ばを東西方向に流れる溝。幅0.35～0.55m、深さ15cm程度を測る。東はE区SD03から連続しているが、西方向への延長は調査区内で立ち消えている。また、古墳時代の溝SD30と古代の溝SD26を切り込んでいた。

この一帯は、他にも複数の古代・中世に属する東西溝が流れており、それぞれの流路や切り合い関係を見極めるのが困難であった。なお、本節ではSD06～SD09まで一連の断面図を掲載しているが、南側のSD08・09は古代の溝であり、詳細は前章を参照されたい。SD08・09は調査区中央側でそれぞれSD18・19に続くと思われる。

N 1 区SD10 北北西－南南東方向に延びる溝。南はG区SD13から続き、北でF区SD27が連続する。幅2.0～2.4m、深さ40cm弱を測る。東に延びる溝SD02を分岐する。12世紀後半～13世紀前葉の遺物が出土しており、土師皿や珠洲焼、青磁などが見られた。土師皿5080の図化を行った。

N 1 区SD11 北北西－南南東方向に延びる溝。南はG区SD12から連続し、北ではやや北に屈折してF区SD26が連続している。幅1.2～2.0m、深さ30cm弱を測る。土師皿、珠洲焼など12世紀後半～13世紀前半の遺物が出土しており、珠洲焼片口鉢5081・5082を図化した。5081は内面に9条1組の卸目が施されている。卸目は波打っており、横位及び縦位に交差して施されている。また、外底面に回転糸切り痕を残す。Ⅱ期。5082はSD10からも接合可能な同一個体の破片が出土している。Ⅰ～Ⅱ期。

N 1 区SD17 やや蛇行気味に東北東－西南西方向に延びる溝。幅0.15～0.30m、深さ20cm前後を測る。図化できなかったが、珠洲焼の播鉢体部片などが出土している。

N 1 区SD21 ほぼ東西方向に延びる溝。西はSD06に、東はSD10に合流する。幅0.25m弱、深さ15cm前後を測る。

N 2 区SD02 西北西－東南東方向に延びる溝。東はF区SD14に連続する。また、西方向への延長は、W区のSD01に続いていくと思われる。また、調査区西側で、北北西方向へ延びる溝SD18を分岐する。幅1.3～1.5m、深さ30cm前後を測る。

N 2 区SD03 西北西－東南東方向に延びる溝。東はF区SD15に、西はG区SD18に連続している。幅2.8～3.8m、深さ70cm弱を測る。12世紀末～13世紀の遺物が出土している。5084は土師皿で、口縁端部が面取りされている。5085は青磁碗で、内面に条線状の施文が見られる。中国産。W708・709は漆器碗で、内外面ともに黒漆塗りだが、709の高台裏は露胎である。710は器種不明の木片で、逆心葉形を呈する。

N 2 区SD04 西北西－東南東方向に延びる溝。東はF区SD17に、西はG区SD11に連続する。幅1.6～1.9m、深さ60cm弱を測る。13～14世紀の遺物が出土しており、5086は土師皿で、内外面に油痕が残る灯明皿である。5087は青磁皿で、内底面に文様が施されている。

N 2 区SD06 ほぼ東西方向に緩やかに蛇行している溝。F区SD19から連続しており、更に西に延び

と思われたが、隣接するG区以西では延長を確認できなかった。幅1.2～2.0m、深さ45cm弱を測る。SD07を切り込んでいる。

N 2 区SD07 ほぼ東西方向に延びる溝。東はF区SD18に、西はG区SD15に連続している。幅0.6～0.9m、深さ15cm程度を測る。SD06に切り込まれている。

N 2 区SD18 N 2 区SD02が北北西方向へ分岐した溝。北はF区SD01に連続する。幅1.1～1.4m、深さ20cm弱を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかった。

N 2 区SD26 北北西－南南東方向に延びる溝。幅2.2m前後か。深さ32～51cmを測る。13世紀前半の遺物が出土しており、口縁端部が面取りされた土師皿5088・5089を図化した。

O 1 区SD09 西南西－東北東方向に延びる溝。河道に接する部分ではうまく検出できなかったが、東はN 1 区SD06から連続していると思われる。また、西への延長はD 2 区SD06に連続する。幅1.8～2.0m、深さ40cm前後を測る。中世の遺物は見られず、掘り方下部から、実際は河道に伴うと見られる前代の遺物が出土したのみである。

O 2 区SD01 西南西－東北東方向に延びる溝。幅3.2～3.8m、深さ46cm程度を測る。東はD 1 区SD02上部の中世の埋土部分から続き、西への延長はR 2 区SD01に連続すると思われる。13～14世紀の遺物が見られた。珠洲焼の甕5090を図化している。

O 2 区SD14 西南西－東北東方向に延びる溝。東はD 1 区SD01から連続している。また、西への延長は、R 2 区でSD12に連続すると思われる。幅1.0～1.5m、深さ40cm前後を測る。出土遺物は僅かで、Ⅱ期と思われる珠洲焼片口鉢の小片などがごく少量見られたのみである。

Q 1 区SD01 ほぼ東西方向に延びる溝。A 3 区SD67から連続している。幅1.5～2.0m、深さ25cm前後を測る。13世紀代の遺物が出土しており、土師皿5091・5092と、珠洲焼片口鉢5093を図化した。5093についてはSD24でも同一個体の破片が出土している。

Q 1 区SD03 南北方向に延びる溝。幅1.0m程度、深さ20cm前後を測る。青白磁の合子身5094を図化している。北への延びはSD48と接するあたりで立ち消えている。また、南への延長はA 4 区SD85に続くと思われる。

Q 1 区SD04 南北方向に延びる溝。北への延びは古墳時代の土坑SK17と接するあたりで立ち消えている。幅0.6～1.0m、深さ10cm前後を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や走向より中世の遺構とした。

Q 1 区SD23 南北方向に延びる溝。幅0.6～0.8m、深さ10cm前後を測る。SD24に切り込まれ、北への延びはSD01まで達することなく立ち消えている。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や走向より中世の遺構とした。

Q 1 区SD24 南北方向から東西方向に曲がる溝。幅0.6～0.9m、深さ18～27cmを測る。SD23を切り込む。13世紀～14世紀前半の遺物が出土している。土師皿5095を図化している。

R 2 区SD01 西南西－東北東方向に延びる溝。西はC 2 区SD17に連続し、東方向への延長はO 2 区SD01に続いていると思われる。幅3.2～4.0m、深さ60cm前後を測る。出土遺物は弥生土器や古式土師器、須恵器などが多いが、本来河道に伴っていたものと思われる。中世の遺物は少量にとどまるが、主に13世紀代の遺物が見られ、珠洲焼甕5096を図化している。

R 2 区SD12 西南西－東北東方向に延びる溝。東への延長はO 2 区SD14に連続していると思われる。西方向への延長は、隣接するC 2 区では確認できなかったが、S 2 区のSD13に連続する。幅0.9～1.3m、深さ10cm弱を測る。出土遺物はごく僅かにとどまり、時期不明の土師器小片が少量見られたのみである。

S 2 区SD01 C 2 区SD17から連続してほぼ東西方向に延びる溝で、調査区西端で北方向に折れて、S 3 区SD03に直続する。幅3.2～4.9m、深さ51～68cmを測る。概ね13世紀の遺物が出土している。5097は土師皿で、口縁端部を面取りし、底部に指頭圧痕を残す。5098・5099は珠洲焼片口鉢。5100は瓦質火鉢で、体部を2条の凸線で挟んだ菱形文のスタンプ文が巡る。5101は青磁碗で、内底面に劃花文が施される。また、土師質土錘E152について図化を行った。

S 2 区SD13 ほぼ東西方向に蛇行する溝。東への延長は、東隣のC 2 区では確認できなかったが、R 2 区SD12に連続すると見られる。幅0.5m程度、深さ60cm弱を測る。

S 3 区SD02 西南西－東北東方向に延びる溝。東への延長はB 2 区SD17に連続していると思われる。幅2.0m程度、深さ40cm前後を測る。SD02が古墳時代中～後期の溝SD07と切り合った部分の落ち込みで木製の構造物（W711～716）が検出された。調査時はSD07に伴う堰とも考えたが、構造物の軸方向から見ると、SD07の堰としての機能を果たし難く、方向の合うSD02に伴う施設である可能性が強まったことから、現在はSD02の掘削時に、SD07との切り合い部分で、壁面が崩れやすくなっていたため、それを補強するために行われた土留めの痕跡ではないかと想定している。ただし、W714・715に対して行ったC14年代測定（AMS法）による年代では、A.D510年の値が得られており、双方の年代観に矛盾が生じるが、サンプル材に外周部が残っていなかったか、転用材であったなど、サンプル自身に問題があった可能性を考えたい。

S 3 区SD03 ほぼ南北方向に延びる溝。北方向に折れたS 2 区SD01から続いており、北でS 4 区SD03に連続する。また、東からS3区SD02が合流していると思われる。調査区端にかかっており、調査区内では東岸の一部が僅かに検出されているのみで、殆どが調査区外に存在している。木製品の出土が見られたが、時期を決定できるような遺物は見られなかった。

S 4 区SD03 ほぼ南北方向に延びる溝。S 3 区SD03から連続している。深さ51cmを測る。調査区端にかかっており、調査区内では東岸の一部が検出されているのみで、殆どが調査区外に存在している。また、金沢市による調査で、北方向への延長が確認されており、W区のSD02・03・51の延長が合流ないし交差していることが明らかになっている。木製品の出土が見られたが、時期を決定できるような遺物は見られなかった。

T 区SD01 西南西－東北東方向に延びる溝。東方向への延長は既報告のA 7 区（第2分冊）に入ると南北方向に折れ、A 7 区SD04になるとと思われる。また、西でD 1 区SD02の上部に連続する。幅2.8～4.8m、深さ70cm前後を測る。13～14世紀の遺物が出土しており、珠洲焼甕5102、珠洲焼片口鉢5103、青磁碗5104、土師質土錘E153、漆器碗W717、目盛板W718を図化した。その他須恵器など前代の遺物の出土も見られた。

T 区SD02 西北西－東南東方向に延びる溝。幅0.5～0.6m、深さ15cm前後を測る。12世紀末～13世紀前半を中心とした時期の遺物が少量出土しており、土師皿5105を図化した。5105は口縁端部が面取りされている。内面に油痕を残すことから、灯明皿として使われたものと思われる。

なお、途中途切れているため、一連の流路か確実ではないが、第3分冊で紹介された古墳時代の小溝群（SC10）の一部である可能性もある。

T 区SD05 西南西－東北東方向に延びる溝。G区とT区の境界でG区SD13＝T区SD11から分岐している。東への延長は、既報告（第2分冊）のA 7 区の溝に連続ないし合流するのであろうか。幅2.7～3.2m、深さ45～62cmを測る。12世紀後半～14世紀前半代の遺物が出土しており、土師器、珠洲焼、青磁、白磁、石製品など遺物の種類・分量ともに豊富である。土師皿5106～5112、珠洲焼甕5113、珠洲焼小壺5114、珠洲焼片口鉢5115、劃花文青磁碗5116、同安窯系青磁皿5117、白磁碗5118・5119、蛇紋

岩製小型石鍋S144を図化した。土師皿には口縁端部に面を持つものは見られず、内湾して立ち上がる体部にヨコナデを施したのが見られた。5115は内面に卸目が見られず、外底面に静止糸切り痕を残す。5118は外反する口縁端部に平坦面を持つ。S144は内湾する口縁を有し、体部に断面が縦長に張り出した台形の鏝が巡る。口径と底径が等しく、器高が低い。

T区SD11 北北西－南南東方向に延びる溝。南はSD21に、北はG区SD13に連続する。また、G区との境界部で、東北東方向にSD05が分岐している。幅3.0m程度、深さ45cm前後を測る。白磁碗の高台部5120、土鍾E154を図化した。また、図化できていないが、赤焼きの珠洲甕体部も出土している。

T区SD12 調査区の切れ目にかかり、北岸のごく一部しか検出できなかった。東西方向に延び、SD11に合流するものと思われる。深さ50cm前後を測る。土師器、珠洲焼など13世紀代の遺物が出土している。5121は口縁端部を面取りした土師皿。5122は珠洲焼片口鉢で、8条1単位の卸目が、波打って施されている。底部は静止糸切り痕を残す。Ⅱ～Ⅲ期。SD21から接合可能な破片が出土している。土師質土鍾E155・156を図化した。

T区SD13 北北西－南南東方向に延びる溝。南はSD22が、北はG区SD12が連続しており、また、西方向はSD16が分岐している。幅1.0m程度、深さ35cm前後を測る。出土遺物は少量かつ小片で、実測に至らなかったが、同安窯系と見られる劃花文青磁碗が出土していた。

T区SD16 ほぼ東西方向に延びる溝。SD13から分岐している。西への延長はD1区SD01に連続する。幅0.3m程度、深さ20cm前後を測る。

T区SD21 北北西－南南東方向に延びる溝。南はK区SD01から連続しており、北はSD11に続く。幅4.0m程度、深さ70cm前後を測る。12～13世紀代の遺物が出土している。5123・5124は土師皿で、5124は口縁端部が面取りされている。5125は珠洲焼壺で、底部に回転糸切り痕を残す。5126は白磁碗で、外反する口縁端部に平坦面が見られる。E157は土師質土鍾、S145は砂岩製の砥石である。このほかにも実測には至らなかったが、珠洲Ⅱ期の甕・片口鉢の口縁部・体部片多数や、内外無文の青磁碗片が見られた。

T区SD22 ほぼ南北方向に延びる溝。南はA2区SD22から続き、北への延長は、SD13へ連続している。幅1.2m程度、深さ40cm前後を測る。土師器、珠洲焼など13～14世紀代の遺物が出土している。土師皿5127～5129、珠洲焼甕5130、珠洲焼片口鉢5131、土師質土鍾E158を図化した。

U区SD01 南北方向に延びる溝。幅3.5～4.0m、深さ98cmを測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や走向より中世の遺構とした。

U区SD02 南北方向に延びる溝。幅0.25～0.6m、深さ5cm弱を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、走向などから中世の遺構とした。

U区SD03 ほぼ南北方向に延びる溝。幅0.25～0.35m、深さ5cm前後を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、走向などから中世の遺構とした。

V1区SD02 SK02・SD01を切る。ほぼ東西方向に延びる溝。幅0.6～0.7m、深さ20cm程度を測る。埋土は灰褐色シルト。時期を決定できるような遺物は出土しなかったが、埋土や走向より中世の遺構とした。須恵質陶器の土鍾E159を図化した。なお、土層断面図はSK02と一連で作図されていたため、第5節で掲載している。

V1区SD03 南北方向に延びる溝。幅1.4～1.6m、深さ15cm前後を測る。P27・SK10・SD12を切り込む。少量だが珠洲焼片が出土している。詳細な時期は明らかではないが、埋土や走向から中世の遺構とした。南への延長は、隣接するE区や、それ以南でも確認できていない。また、縄文土器や弥生土器などの出土も見られたが、実際はSD12に伴うものと思われる。

V 1 区SD04 南北方向に延びる溝。幅1.3～1.4m、深さ10cm前後を測る。弥生時代の溝SD12を切り込む。詳細な時期は明らかではないが、埋土や走向から中世の遺構とした。隣接するE区以南では、続きを確認できていない。また、縄文土器や弥生土器などの出土も見られたが、実際はSD12に伴うものと思われる。

V 1 区SD05 南北方向に延びる溝。E区SD02から連続している。幅1.5～1.9m、深さ30cm前後を測る。概ね13世紀代の遺物が出土している。珠洲焼の甕5132と、青磁碗5133を図化している。5133は内面にヘラガキの文様や円圈が施されている。

V 1 区SD09 北北西－南南東方向に延びる溝。深さ10cm前後を測る。SD11を切り込んでいる。劃花文青磁碗5134と、染付小皿5135を図化しているほか、土師皿や珠洲焼も出土している。5134は内面に草花文がヘラガキされ、見込みに円圈が施されている。

V 1 区SD10 北北西－南南東方向に延びる溝。幅1.6m程度、深さ5.0cm前後を測る。削平によるためか、E区以南においては延長を確認できなかった。図化には至らなかったが、ロクロ土師器など12世紀に属すると見られる遺物の出土が見られた。

V 1 区SD11 ほぼ南北方向に延びる溝。E区SD01から連続している。幅1.4～2.0m、深さ30cm弱を測る。SD09に切り込まれ、SD10・13を切り込んでいる。出土遺物には13～14世紀代のものが見られ、土師皿5136～5138、青磁碗5139、白磁口禿皿5140を図化した。

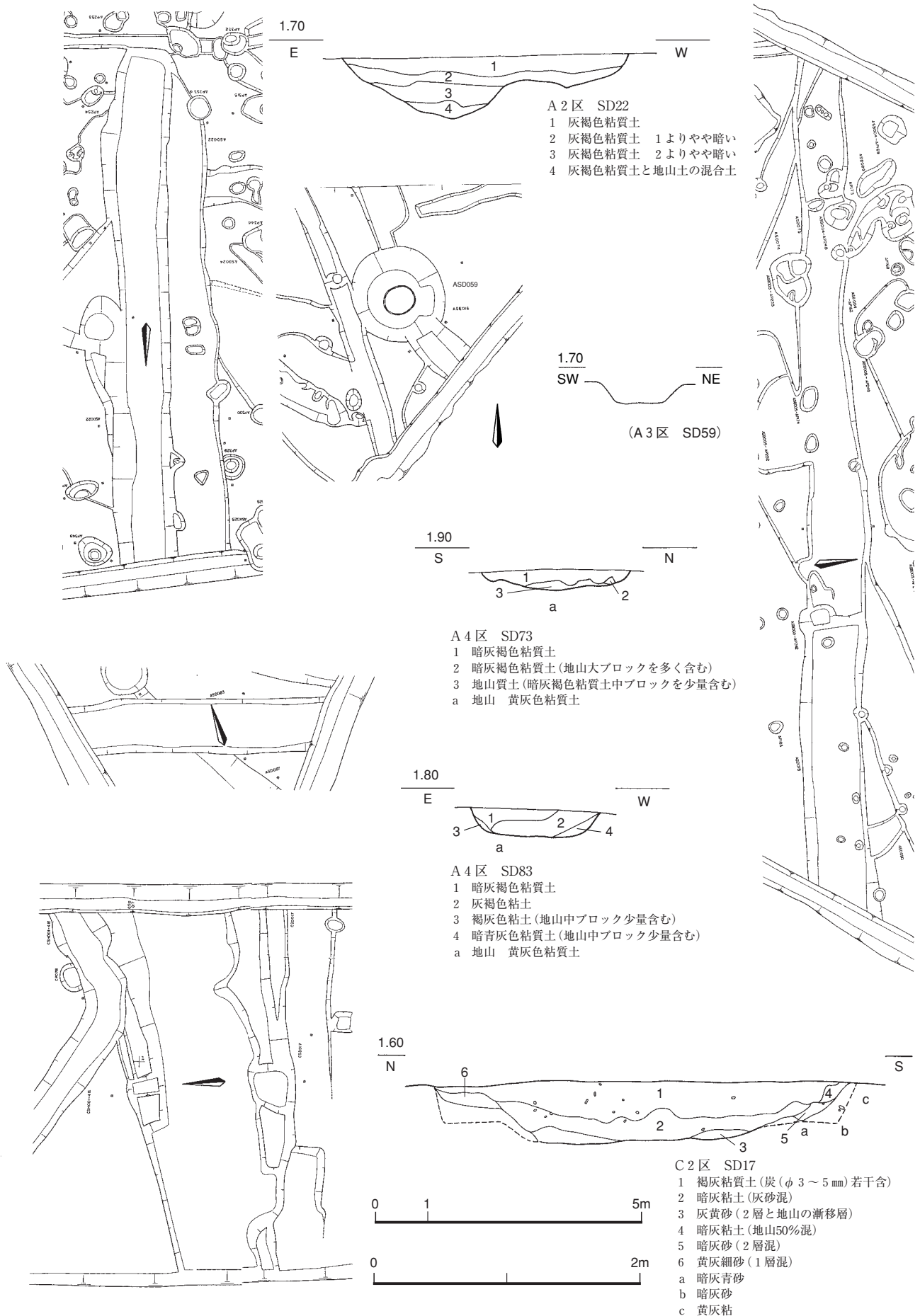
V 2 区SD01 ほぼ南北方向に延びる溝。F区SD01から連続している。幅1.1～1.4m、深さ25cm前後を測る。図化していないが、出土遺物には12世紀代の底部に糸切り痕を残す土師器・皿などが見られたが、13世紀まで降る様なものは確認できなかった。

W区SD01 西北西－東南東方向に延びる溝。河道と接する部分ではうまく検出できなかったが、東方向への延長は、N 2区SD02へ連続するものと思われる。幅1.0～1.4m、深さ30cm程度を測る。中世の遺物のごく僅かにとどまる。なお、河道付近で8世紀代の遺物が見られたが、実際は河道に伴うものと考えられる。

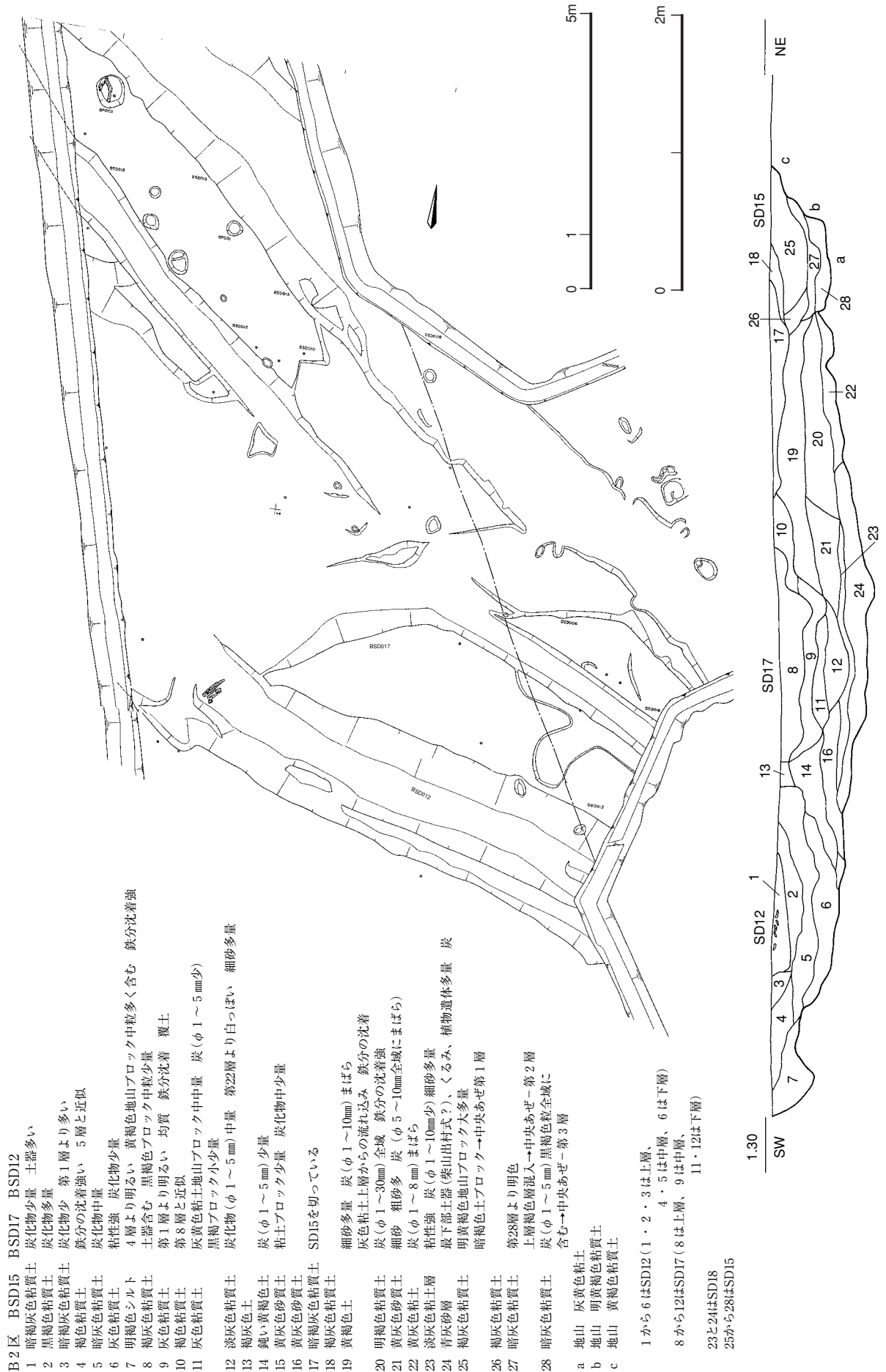
W区SD02 西北西－東南東方向に延びる溝。河道と接する部分ではうまく検出できなかったが、東はG区SD11から連続していると思われる。また、西方向への延長は、隣接する金沢市調査分で、S 4区SD03の北方向への延長にあたる溝に合流していることが確認できた。幅1.9～2.4m、深さ45cm前後を測る。南北方向に蛇行する河道を切り込んでいる。河道と接するあたりで8世紀代の遺物が見られたが、実際は河道に伴うものと考えられる。中世の遺物は少量の土師皿や珠洲焼などが見られた。

W区SD03 西北西－東南東方向に延びる溝。河道と接する部分ではうまく検出できなかったが、東はG区SD18から続いていると思われる。また、西方向への延長は、隣接する金沢市調査分で、S 4区SD03の北方向への延長にあたる溝と交差し、更に西方向に延びていることが確認された。幅3.8～4.0m、深さ60cm弱を測る。

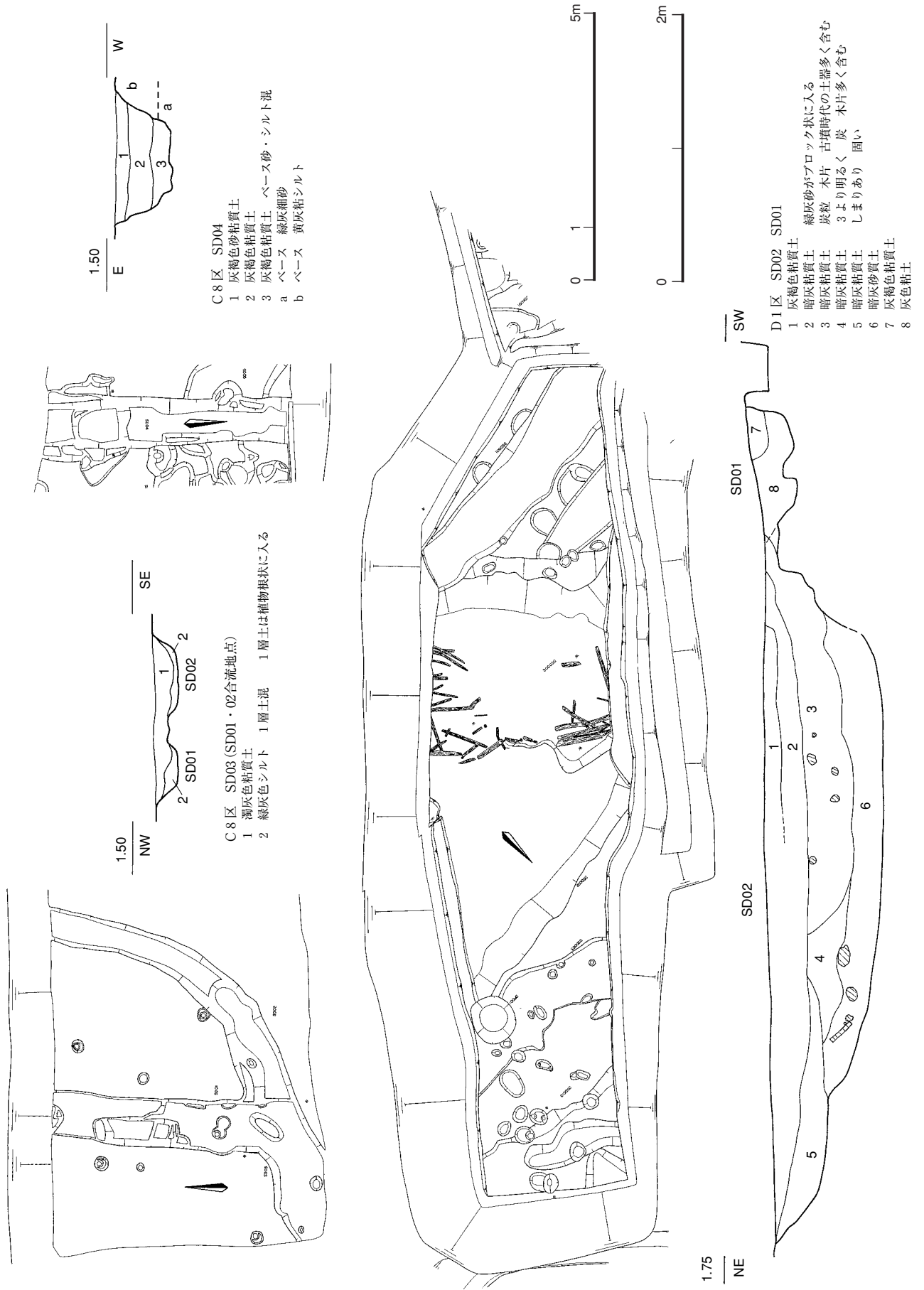
W区SD51 西北西－東南東方向に延びる溝。河道と接する部分ではうまく検出できなかったが、東への延長は、G区SD15に続いていると思われる。また、西方向への延長は、隣接する金沢市調査分で、S 4区SD03の北方向への延長にあたる溝に接していることは確認できたが、更に西方向に延びているかは明らかでない。幅1.4～1.6m、深さ25cm弱を測る。



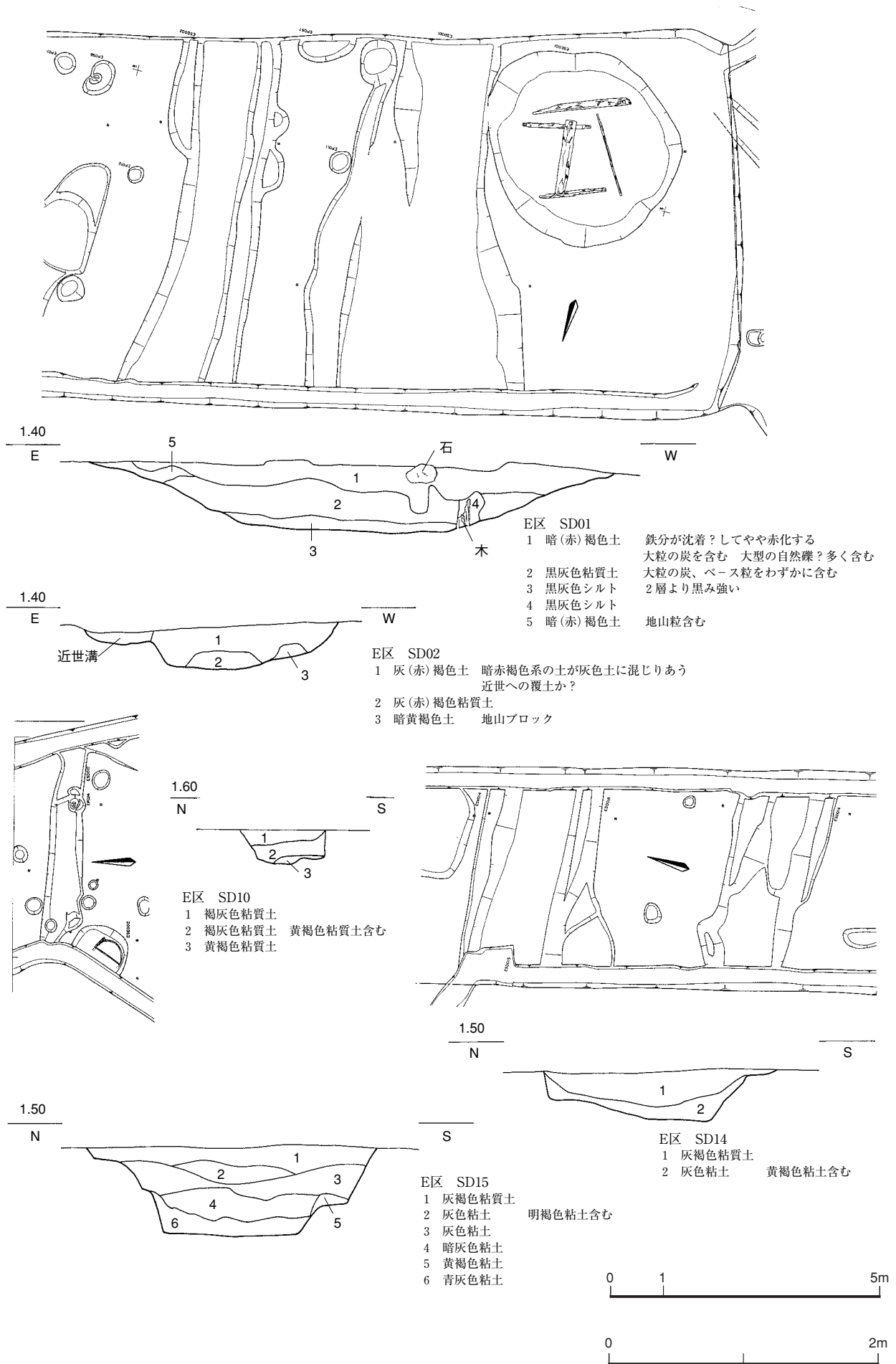
第29図 中世遺構図28



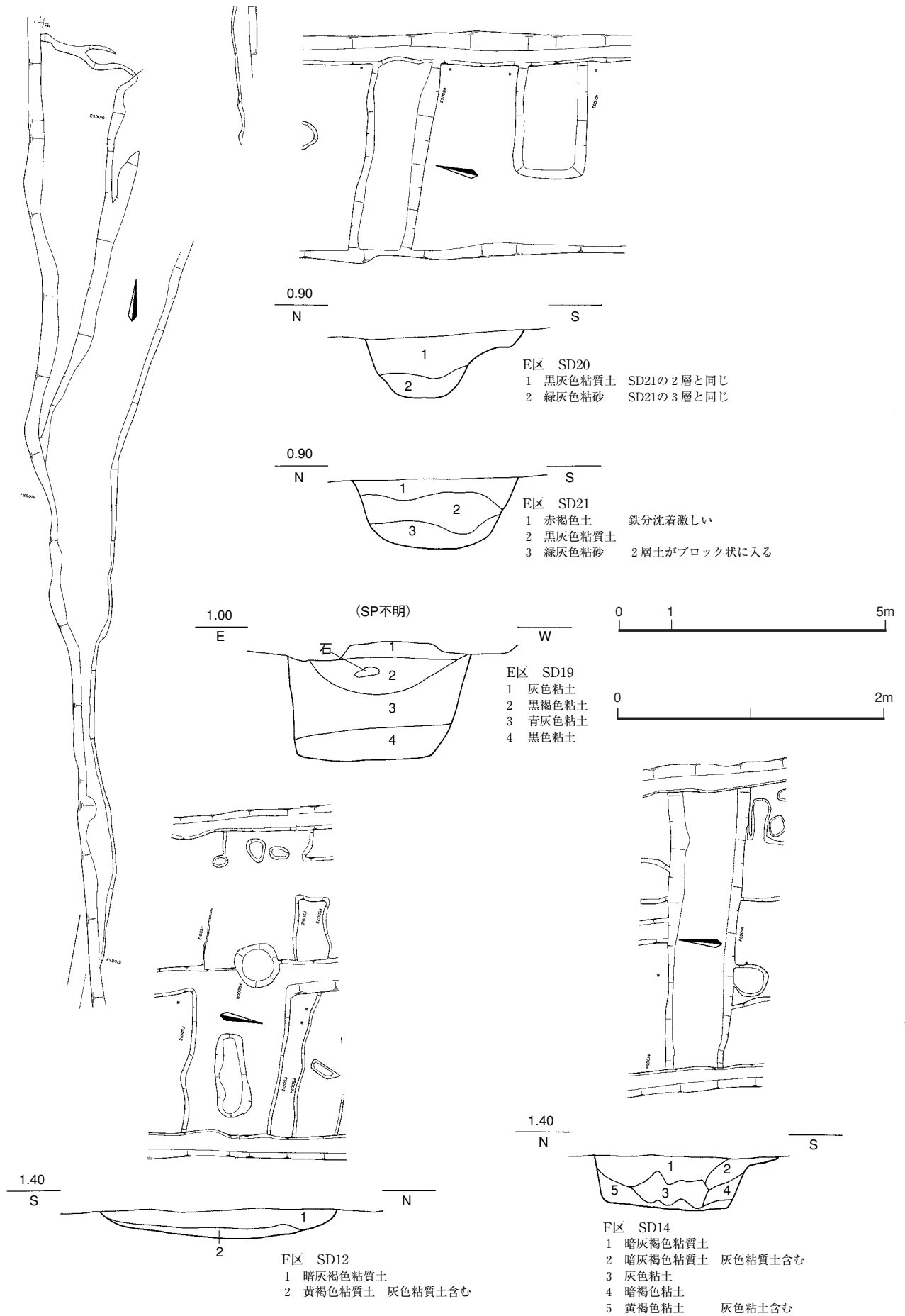
第30図 中世遺構図29



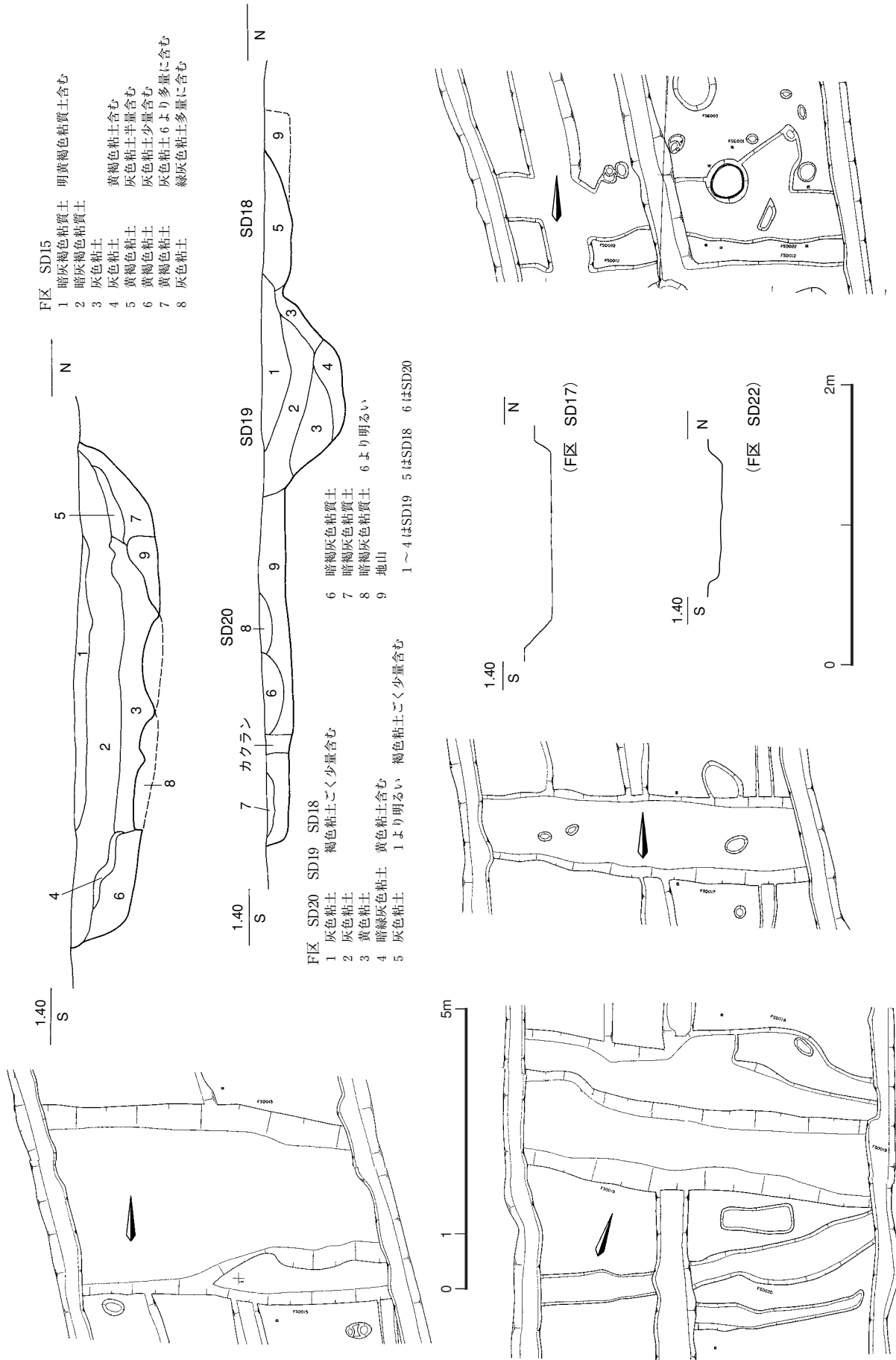
第31図 中世遺構図30



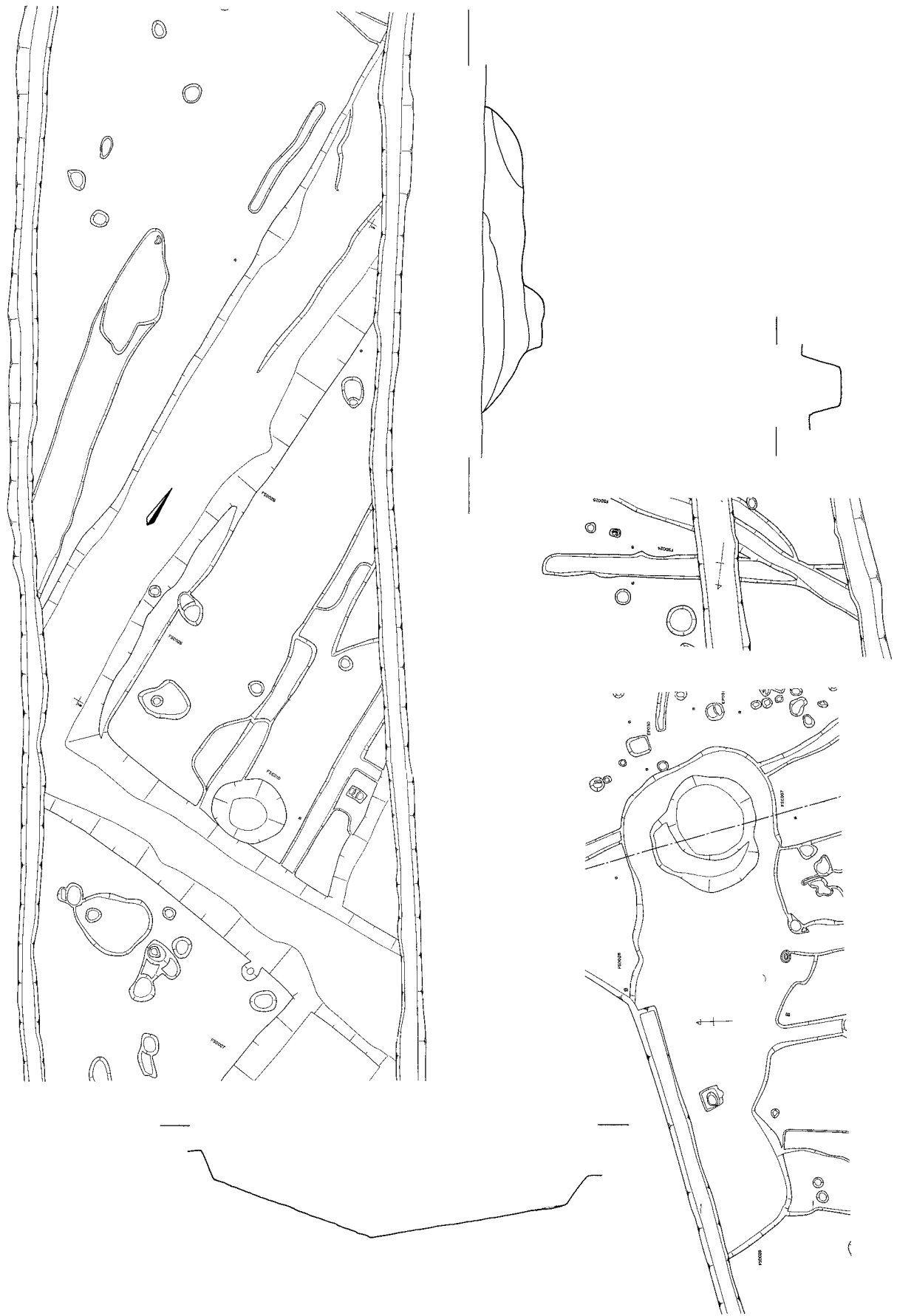
第32図 中世遺構図31



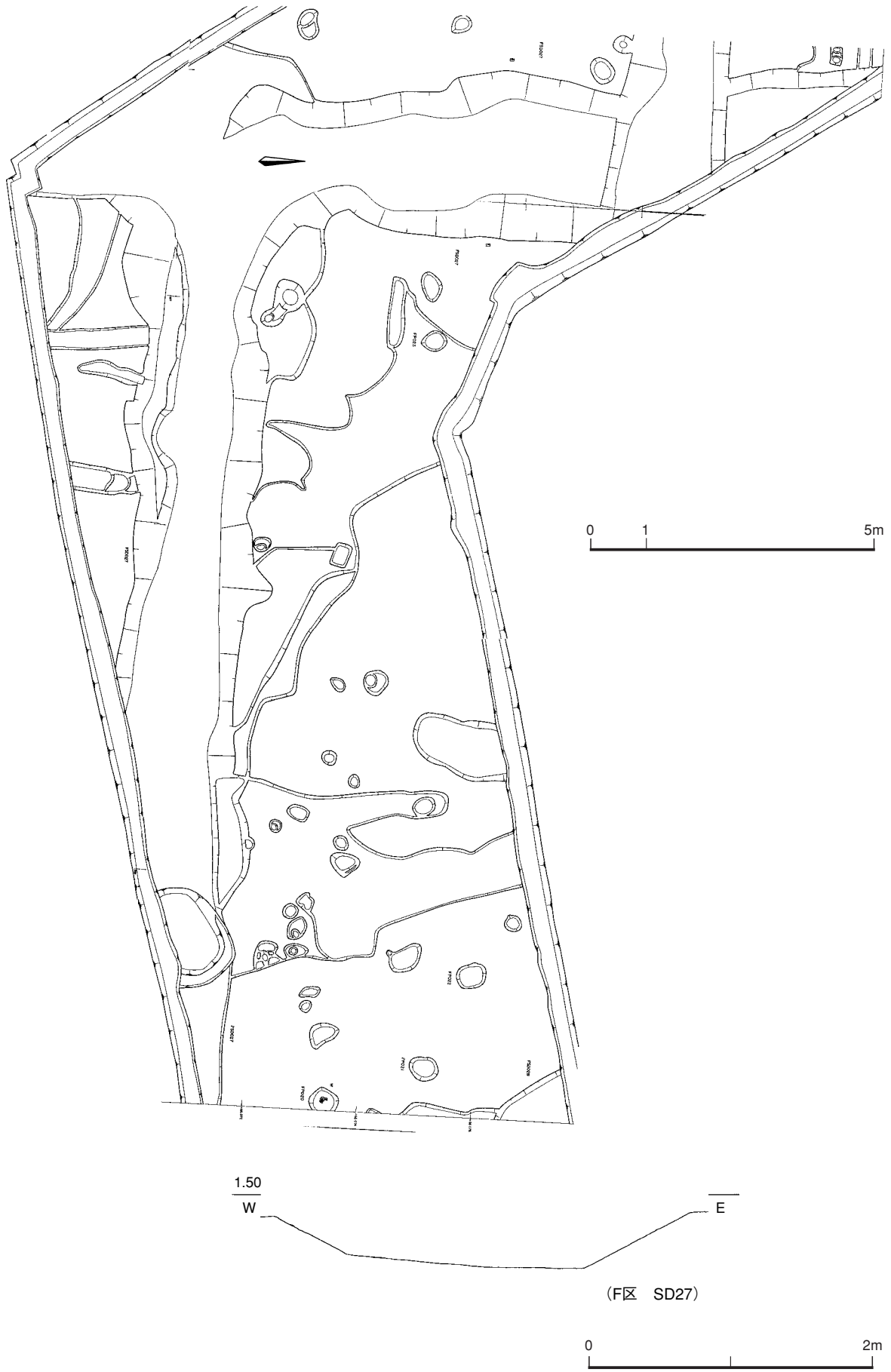
第33図 中世遺構図32



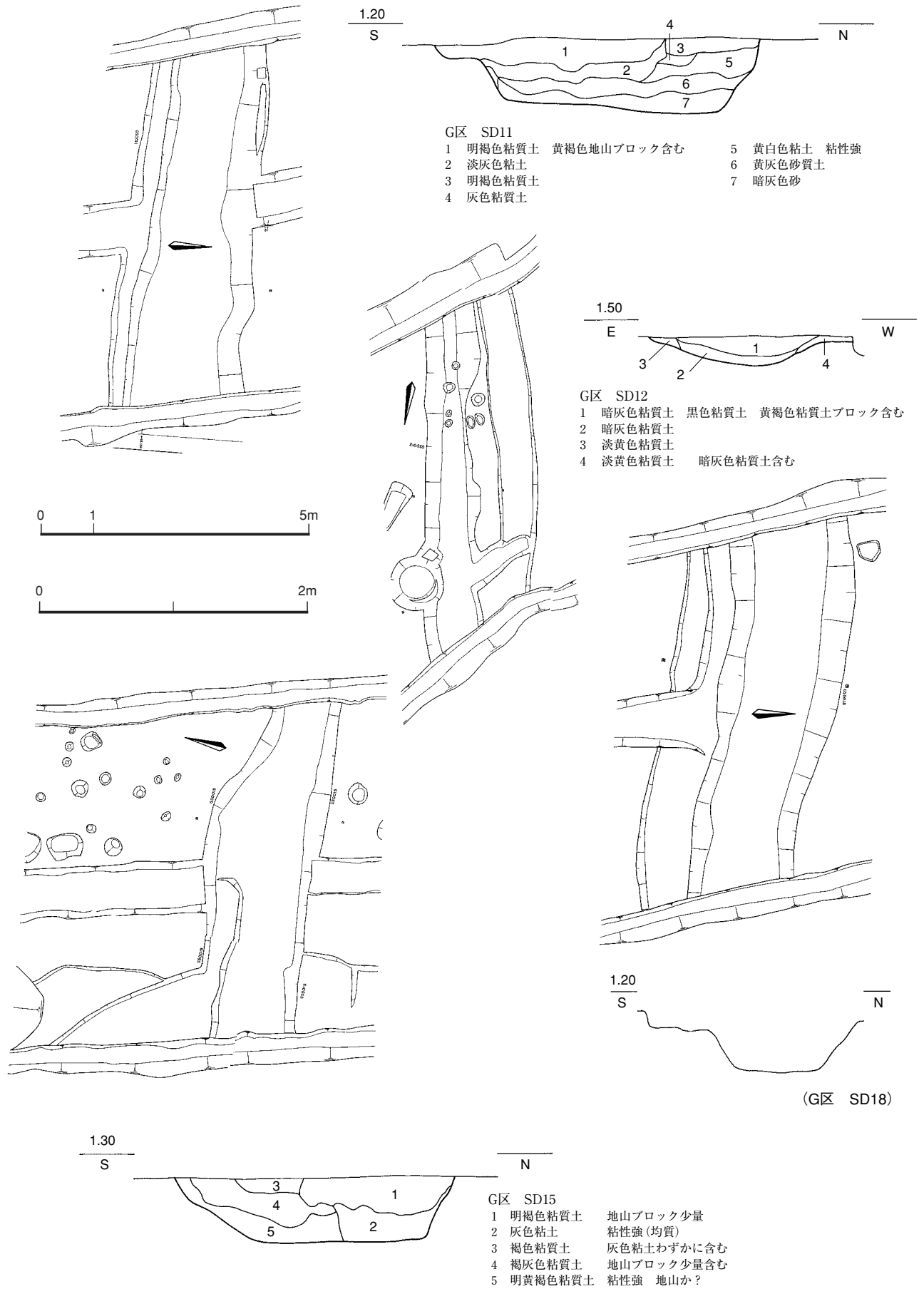
第34図 中世遺構図33



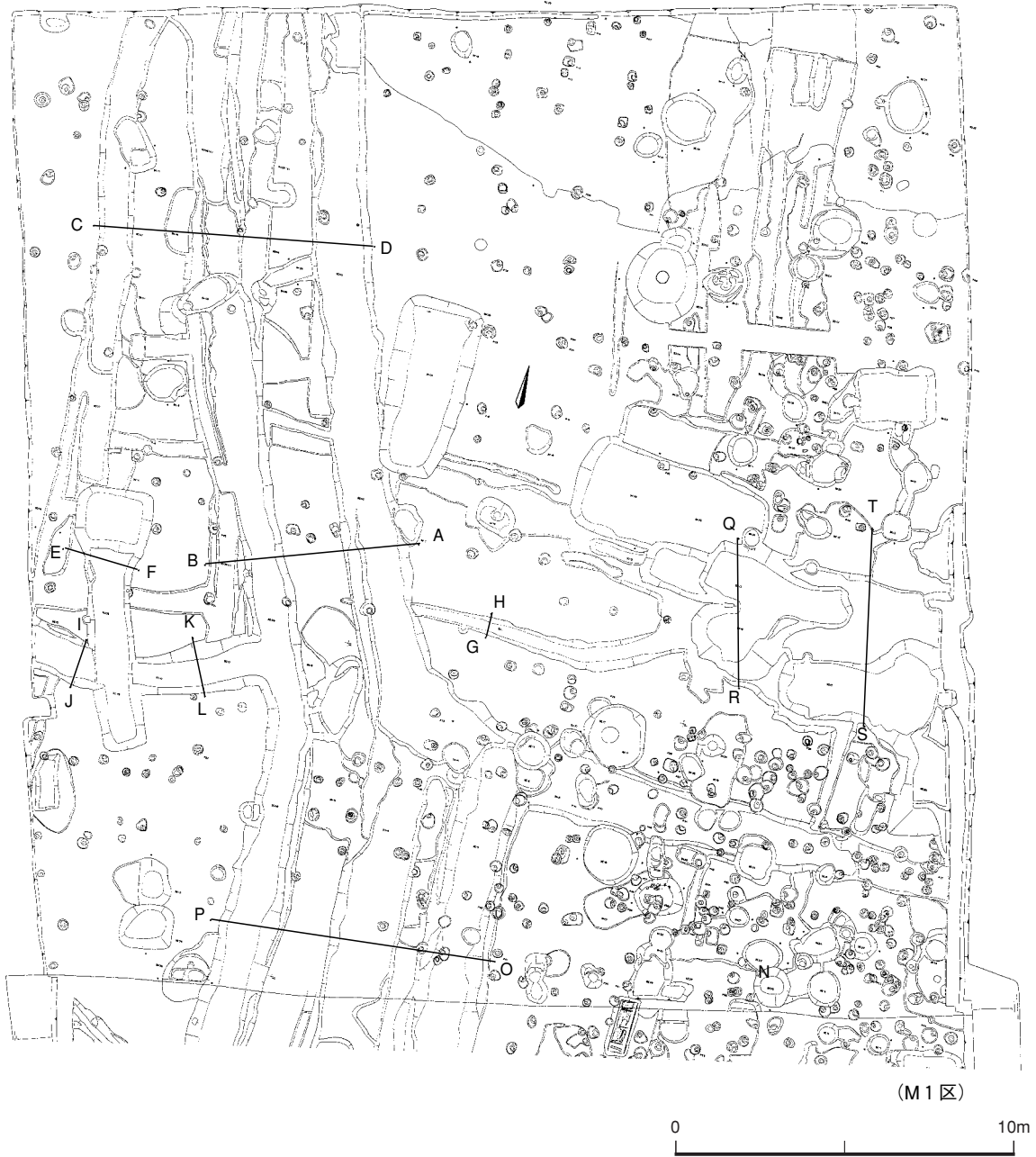
第35図 中世遺構図34



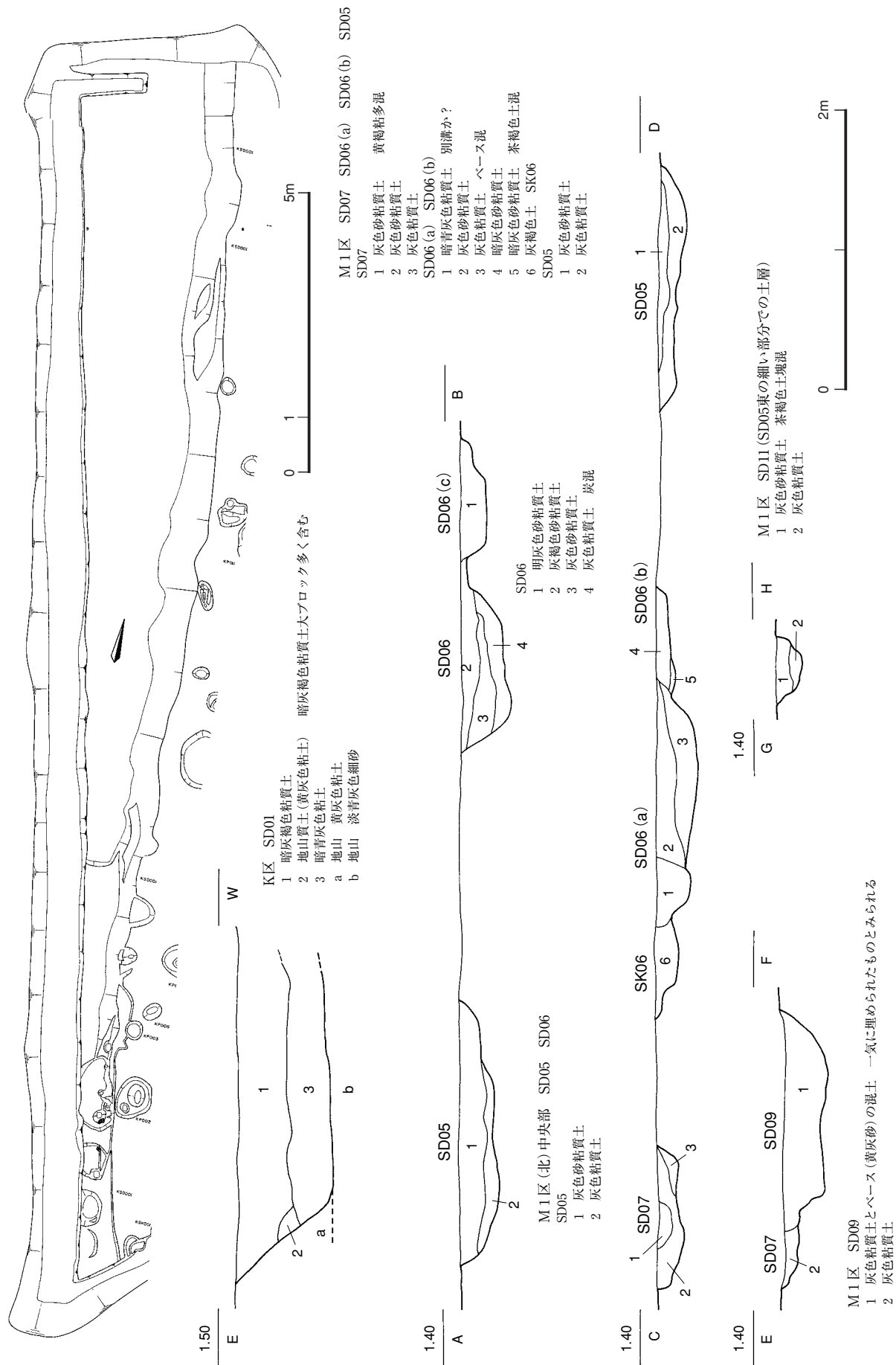
第36図 中世遺構図35



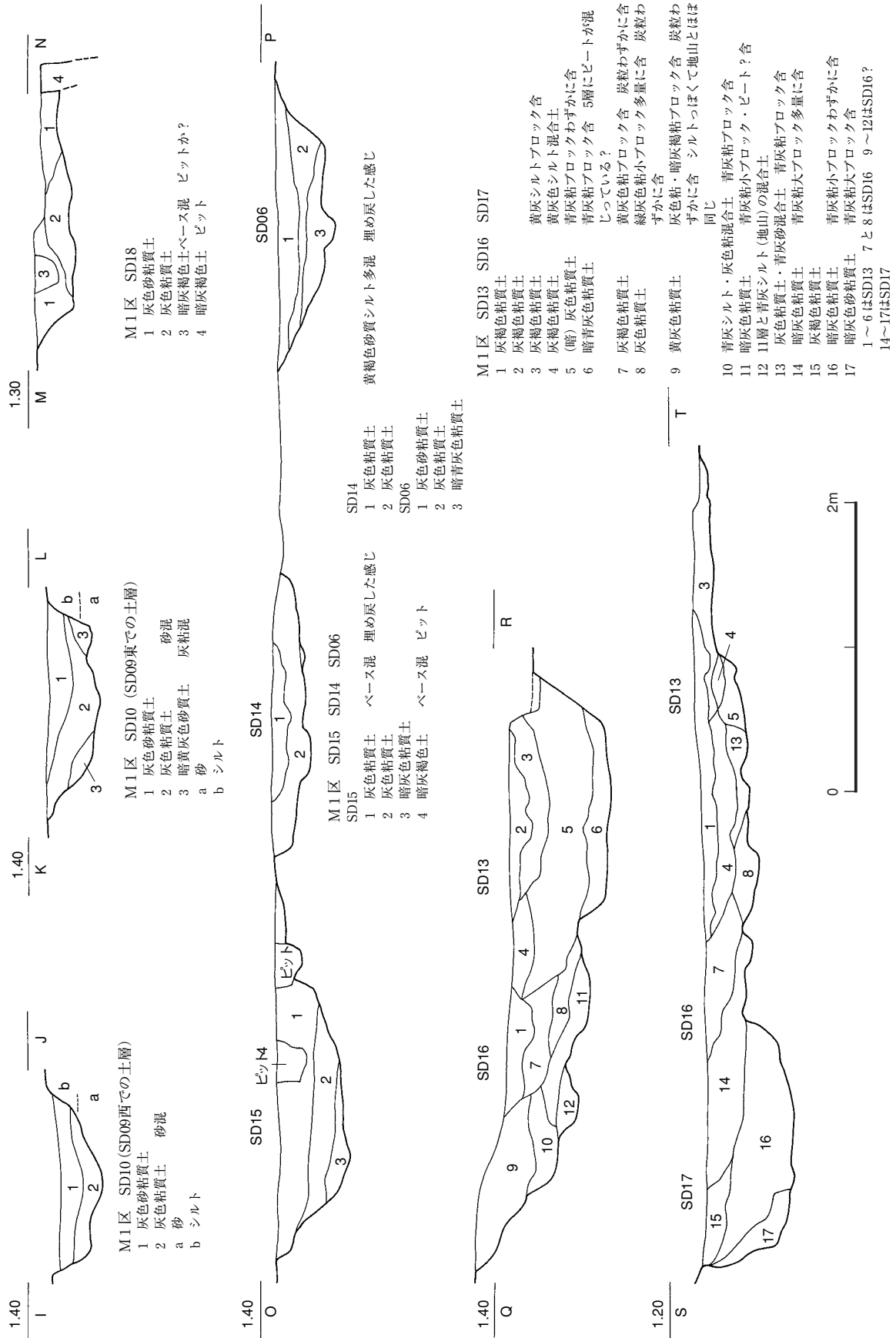
第37図 中世遺構図36



第38図 中世遺構図37 (M1区 S = 1/200)



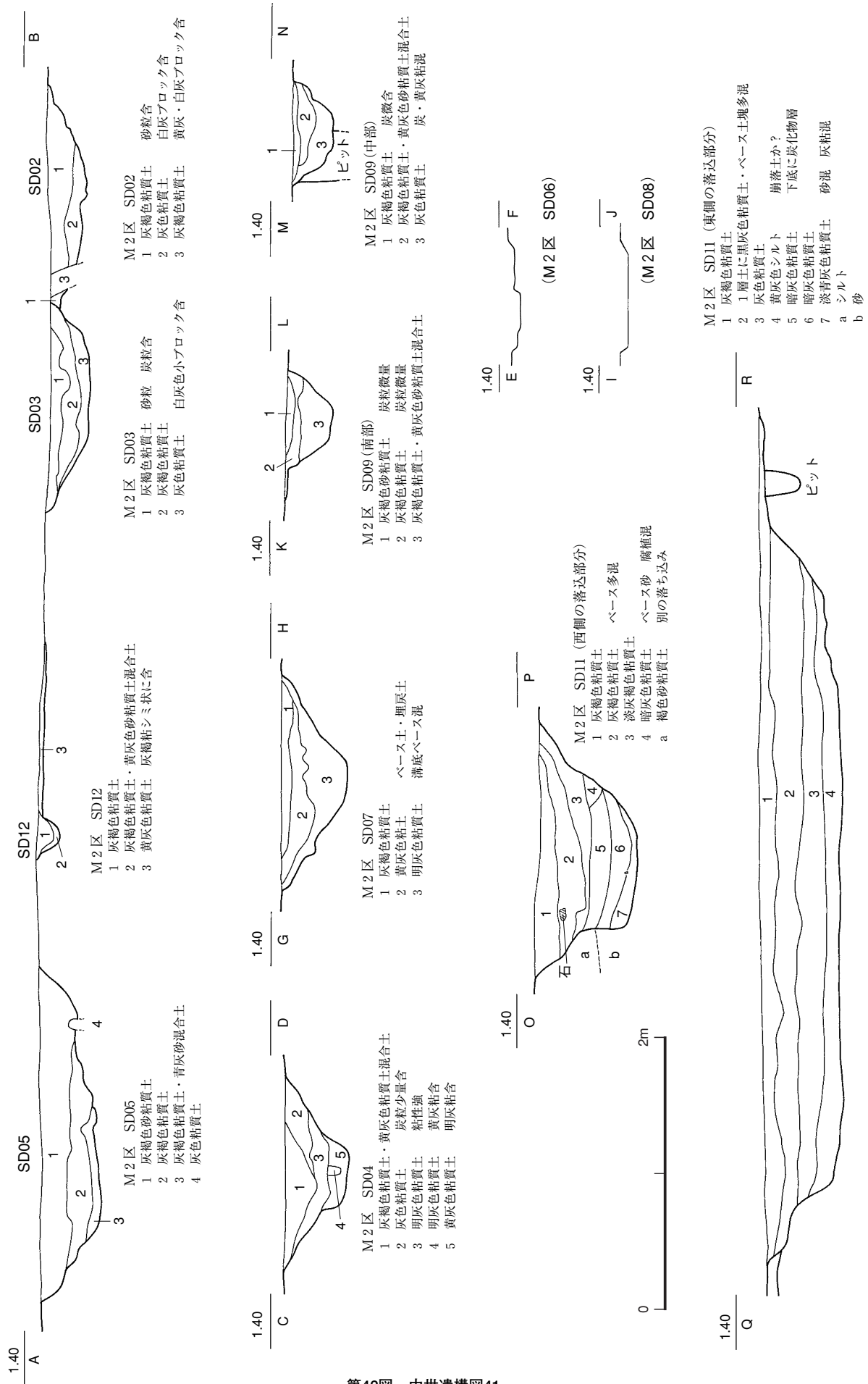
第39図 中世遺構図38



第40図 中世遺構図39



第41図 中世遺構図40(S=1/200)



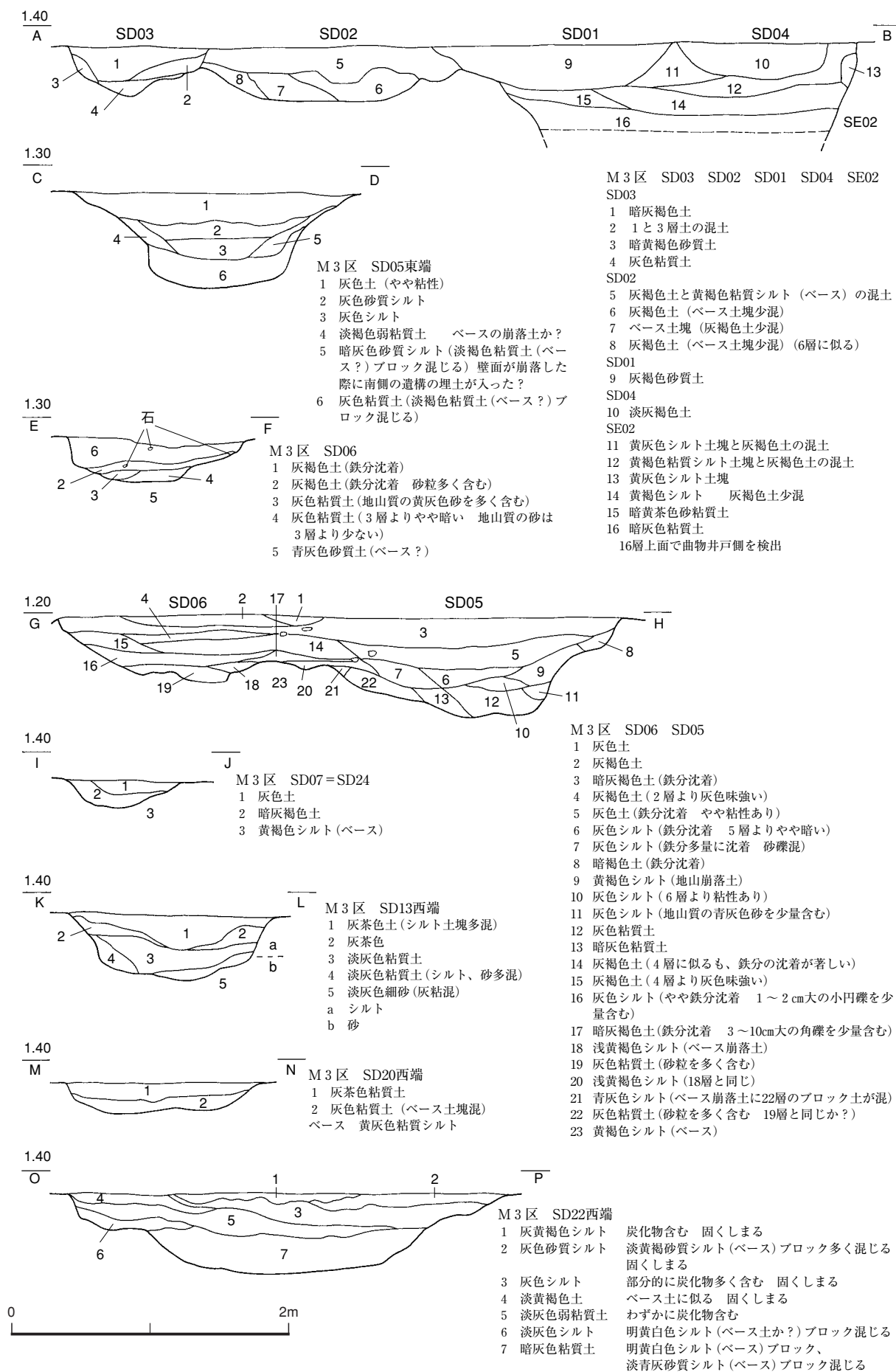
第42図 中世遺構図41



(M3区)

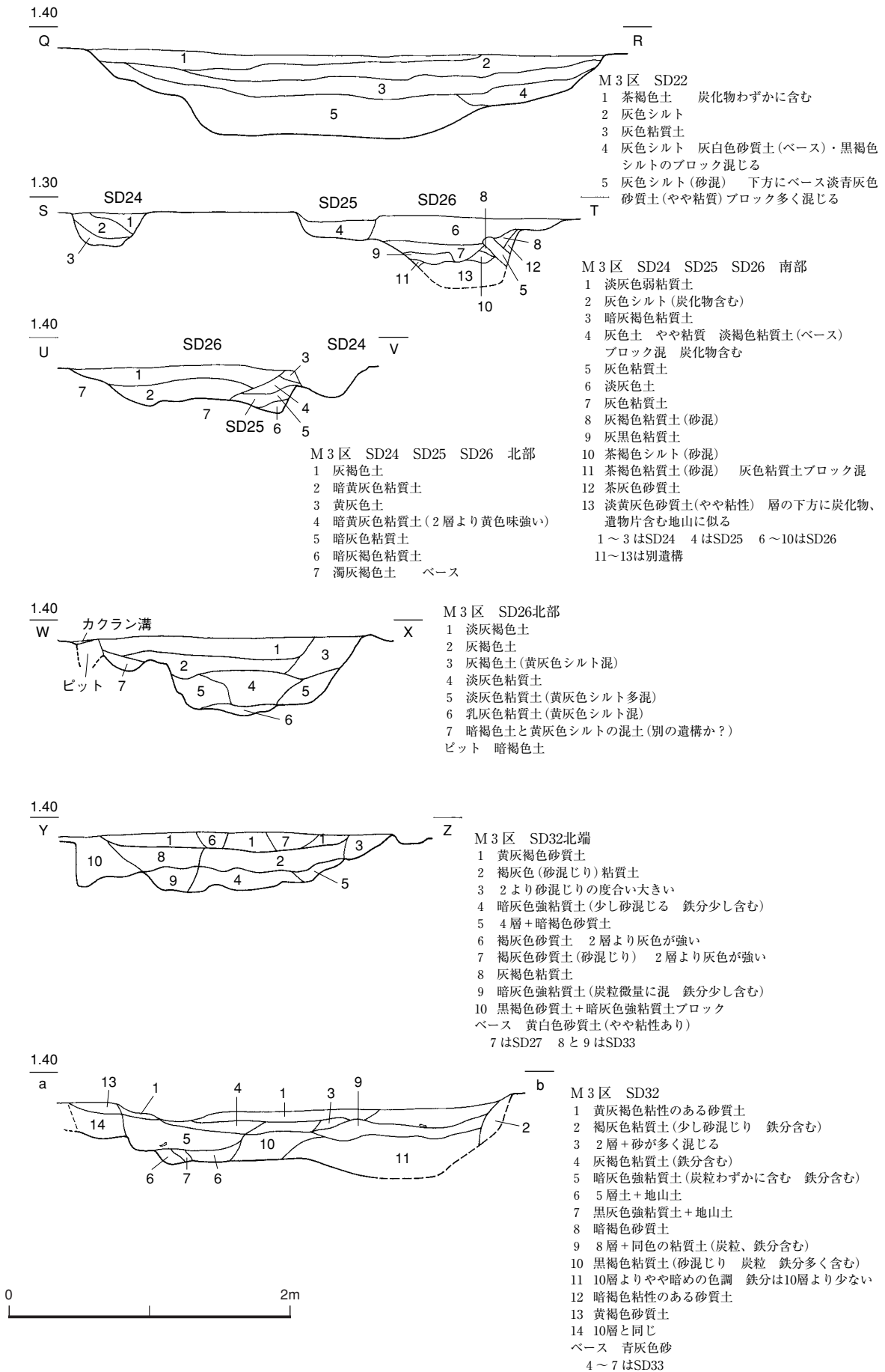


第43図 中世遺構図42 (S = 1/200)

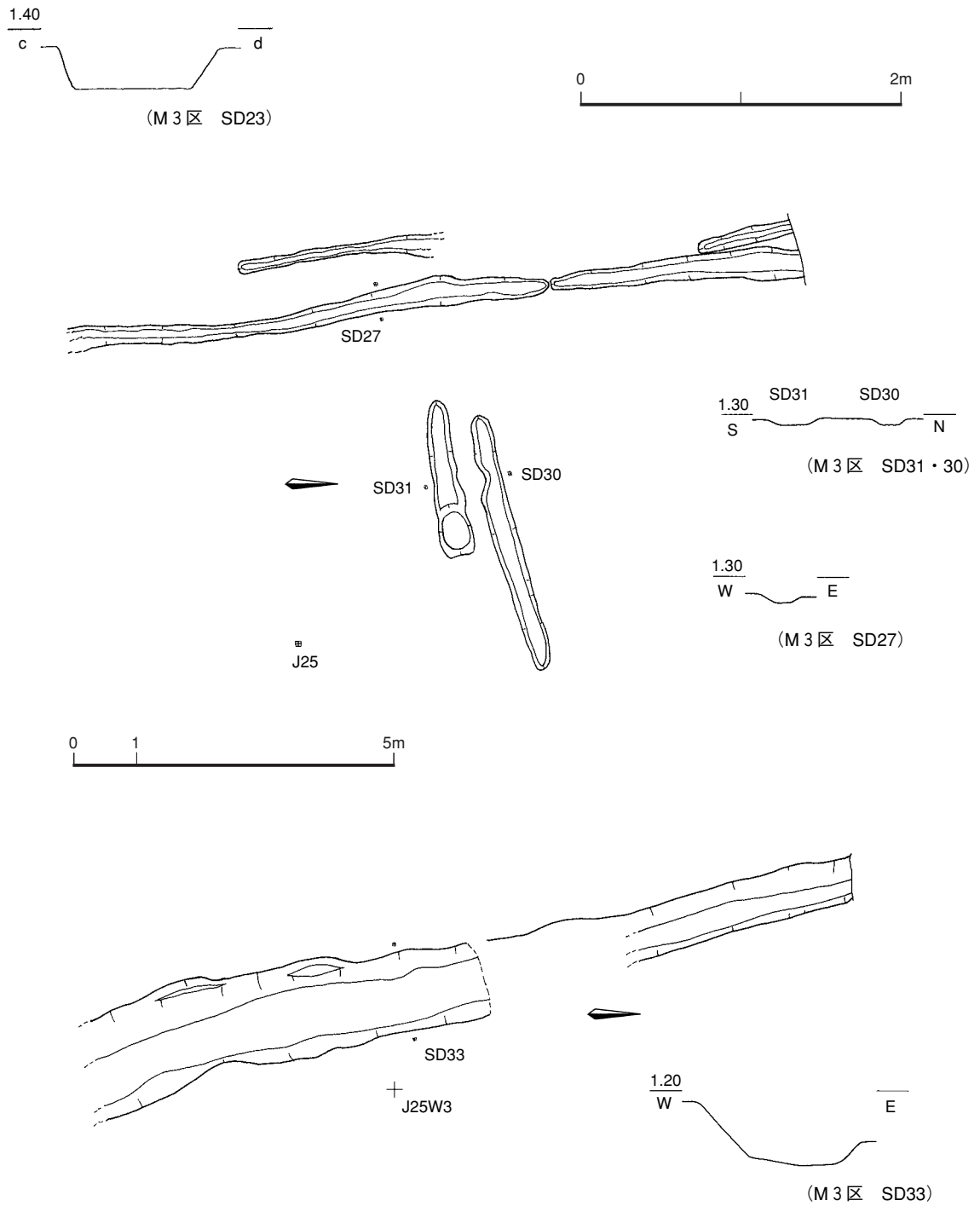


第44図 中世遺構図43

第3節 溝 跡



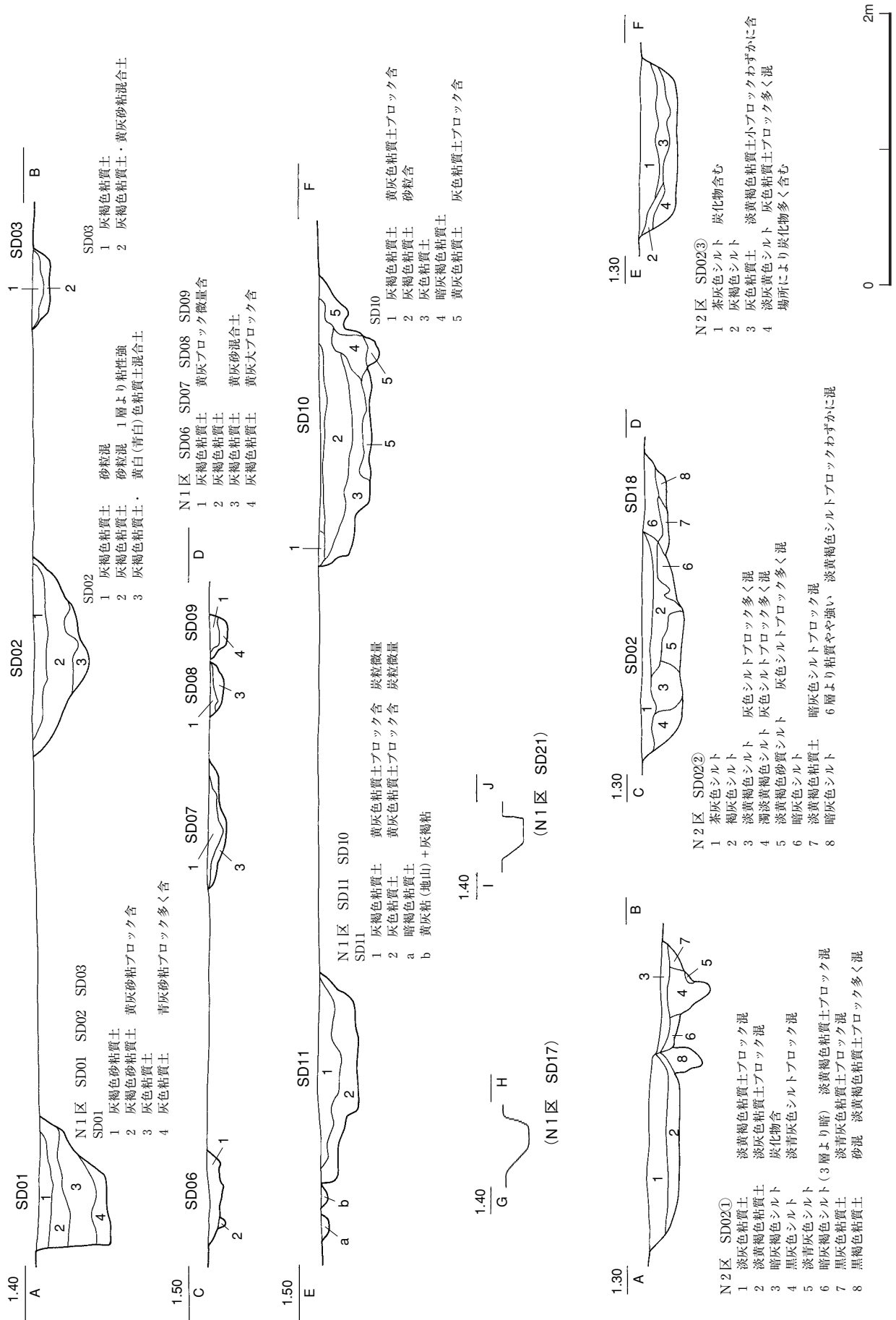
第45図 中世遺構図44



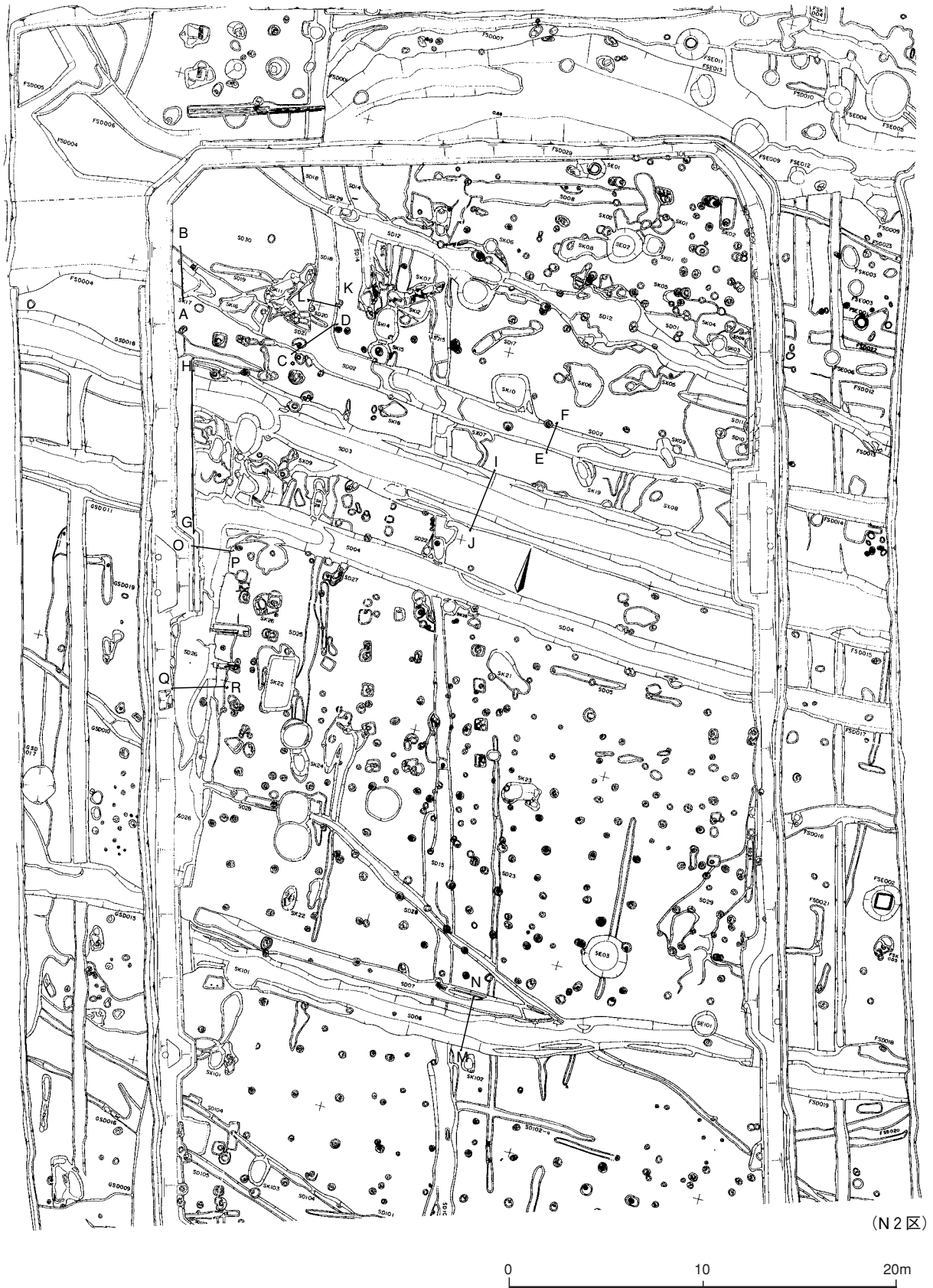
第46図 中世遺構図45



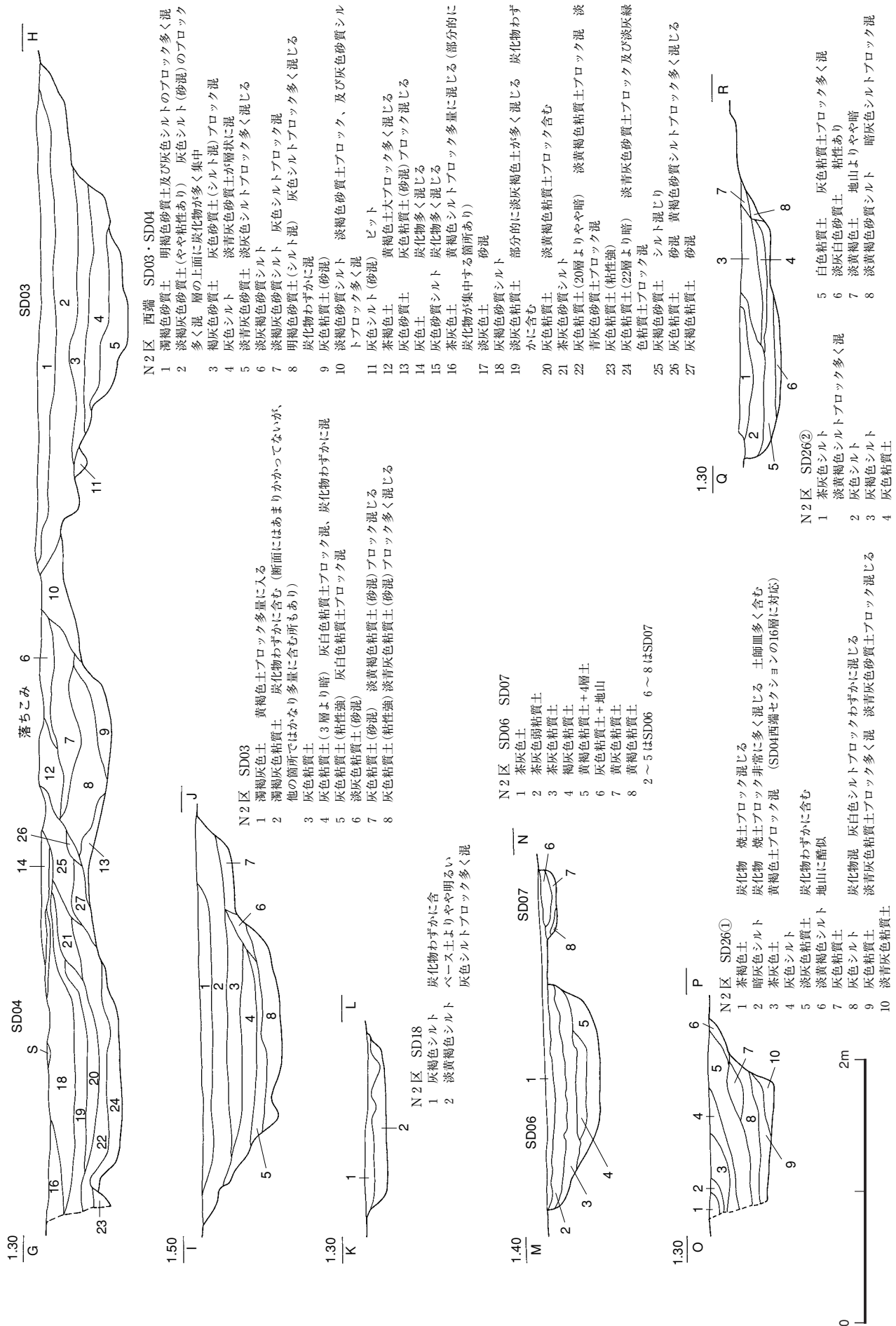
第47図 中世遺構図46 (S = 1/300)



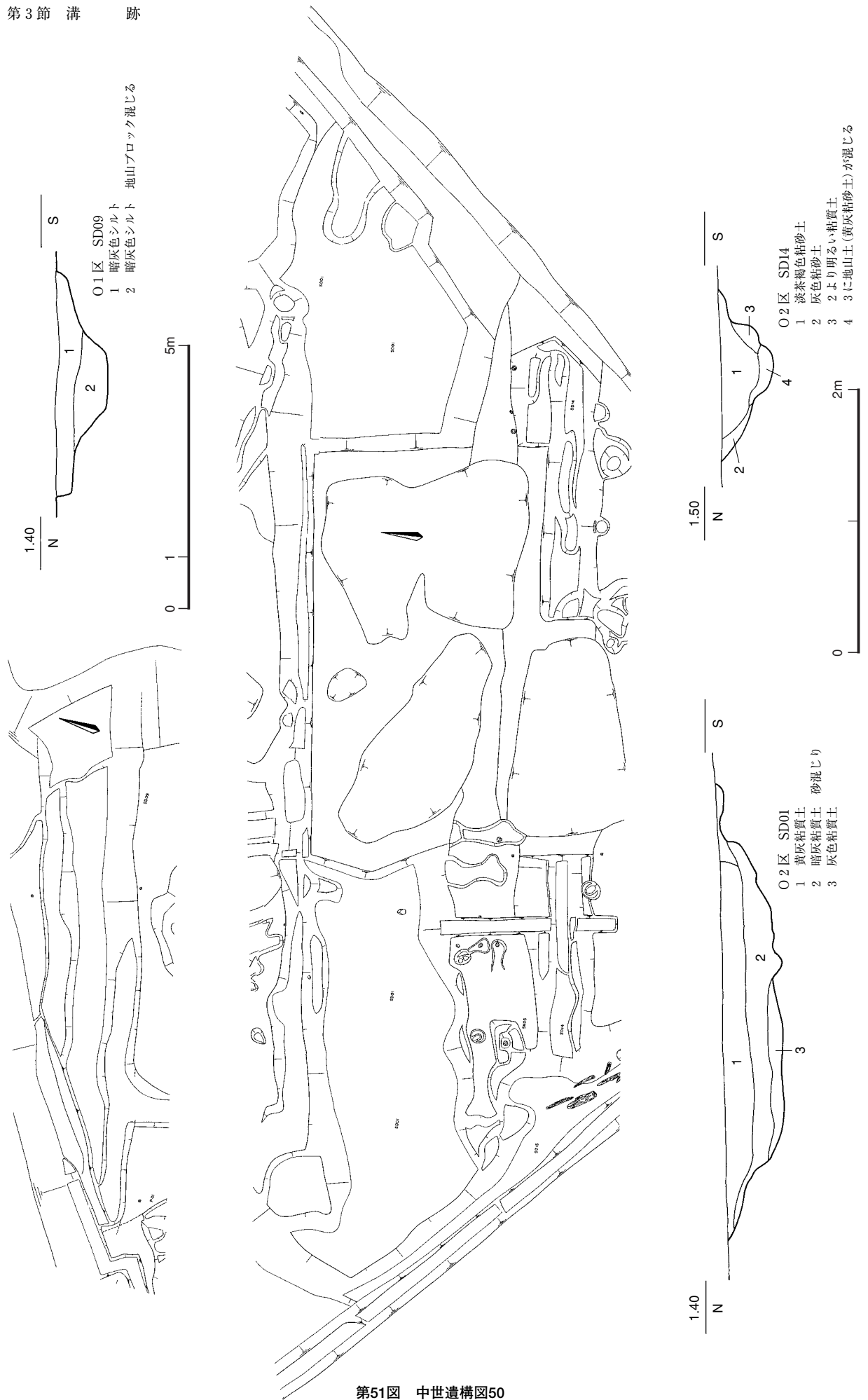
第48図 中世遺構図47



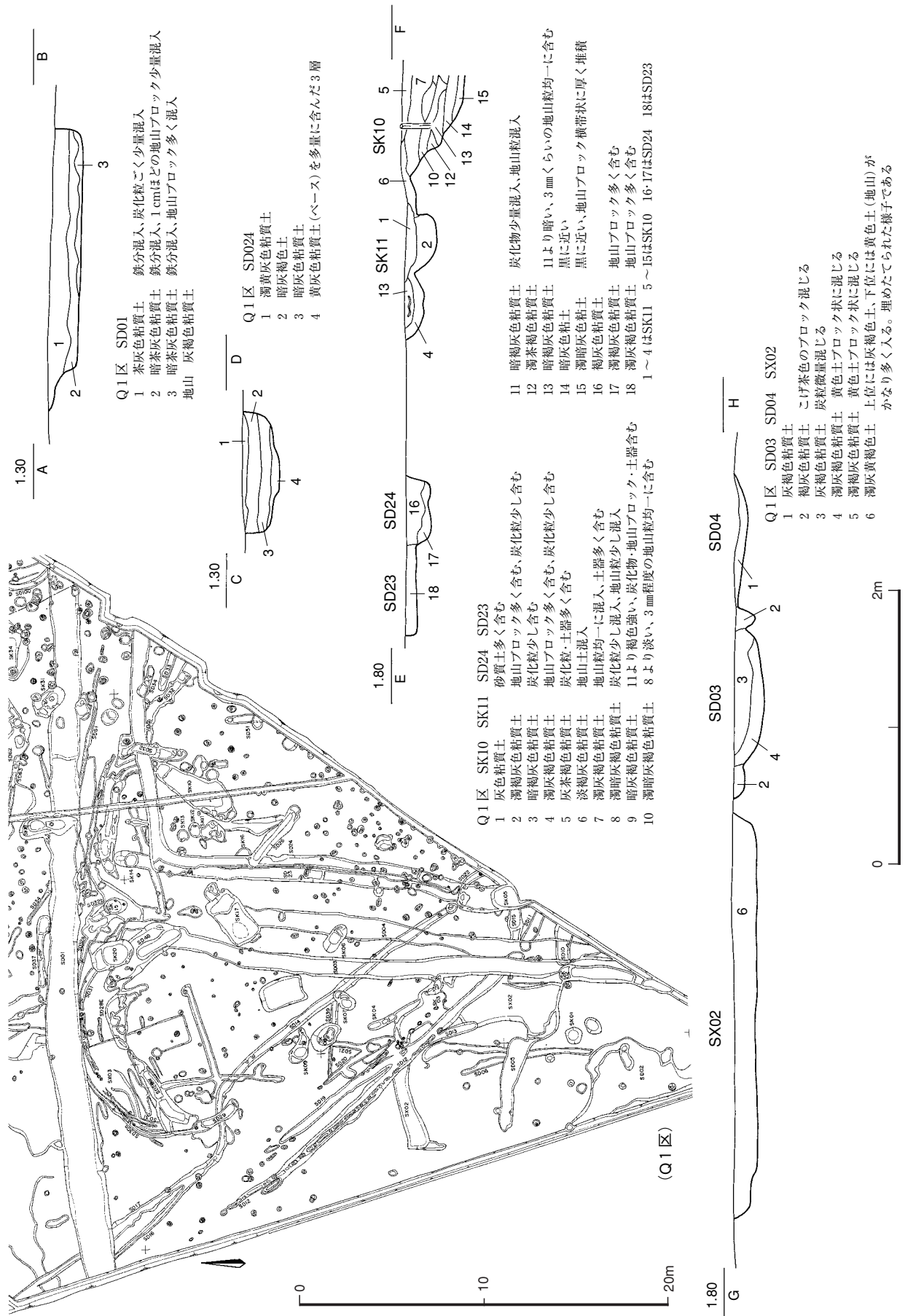
第49図 中世遺構図48(S= 1/300)



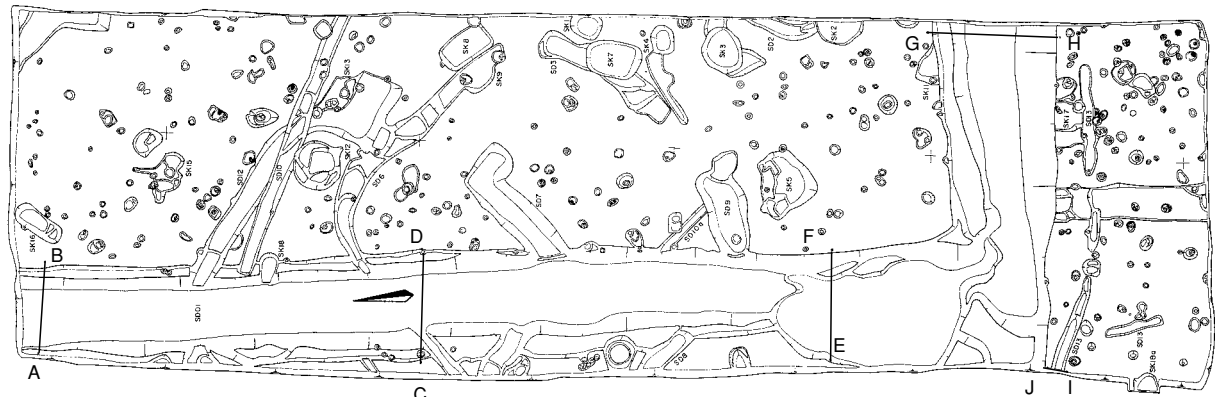
第50図 中世遺構図49



第51図 中世遺構図50

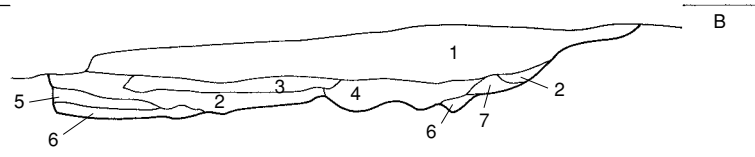


第52図 中世遺構図51 (S= 1/40, 1/300)



(S2区)

1.50
A

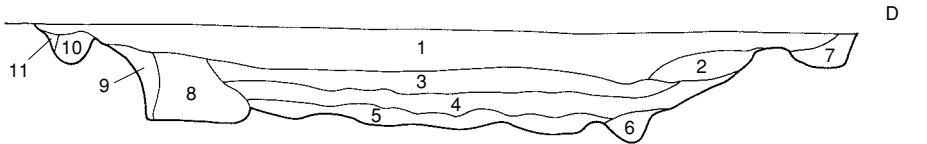


S2区 SD01①

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 灰褐色粘質土 土器含む | 5 暗灰粘質土 |
| 2 灰色粘質土 | 6 5層とベース土の混合土 |
| 3 灰褐色砂質土 | 7 黄褐色砂質土 |
| 4 灰褐色砂質土と灰色粘質土の混合土 | 2~7層からは土器少量出土 |

0 10 20m

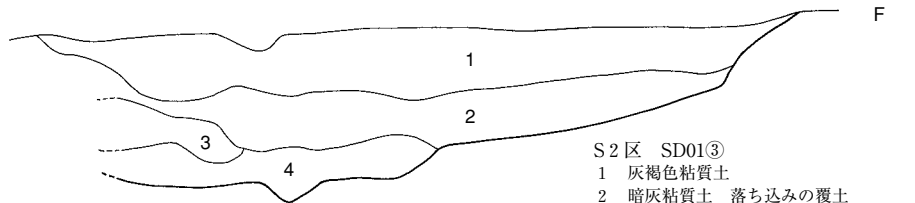
1.60
C



S2区 SD01②

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 灰褐色粘質土 土器含む | 7 暗灰褐色粘質土 |
| 2 暗灰褐色粘質土 | 8 暗灰粘質土 ベース土少量混じる |
| 3 灰褐色砂質土 流路跡か | 9 明黄褐色砂質土 ベース土か? |
| 4 灰褐色粘質土 | 10 暗灰粘質土 |
| 5 暗灰粘質土 自然堆積か | 11 暗灰粘質土 10より明るい |
| 6 暗灰粘質土 5より暗い | 3層以下ほとんど土器出ない |

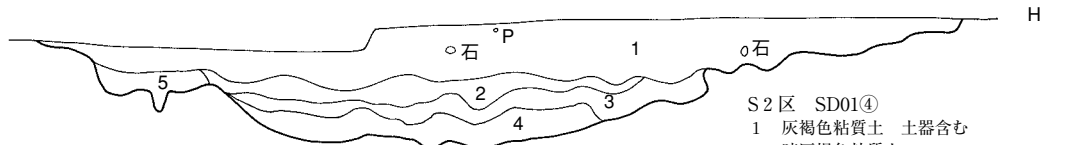
1.40
E



S2区 SD01③

- | |
|---------------------|
| 1 灰褐色粘質土 |
| 2 暗灰粘質土 落ち込みの覆土 |
| 3 暗灰粘質土 ベース土が少量混じる |
| 4 暗灰粘質土 ベース土が3層より多い |

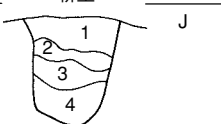
1.70
G



S2区 SD01④

- | |
|-----------------|
| 1 灰褐色粘質土 土器含む |
| 2 暗灰褐色粘質土 |
| 3 暗灰粘質土 |
| 4 明緑灰色砂質土 |
| 5 暗灰褐色粘質土 2より暗い |

1.70

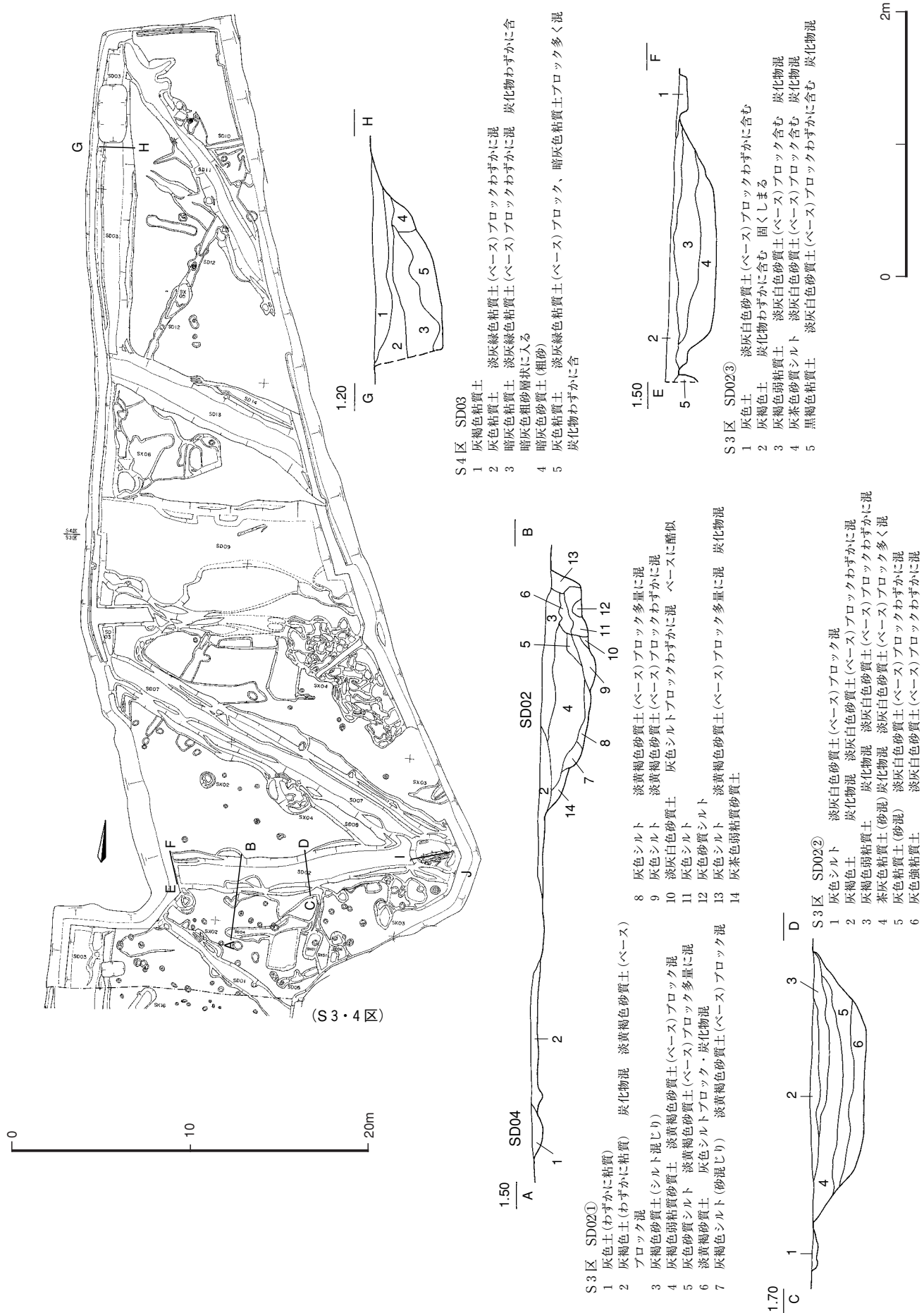


S2区 SD13

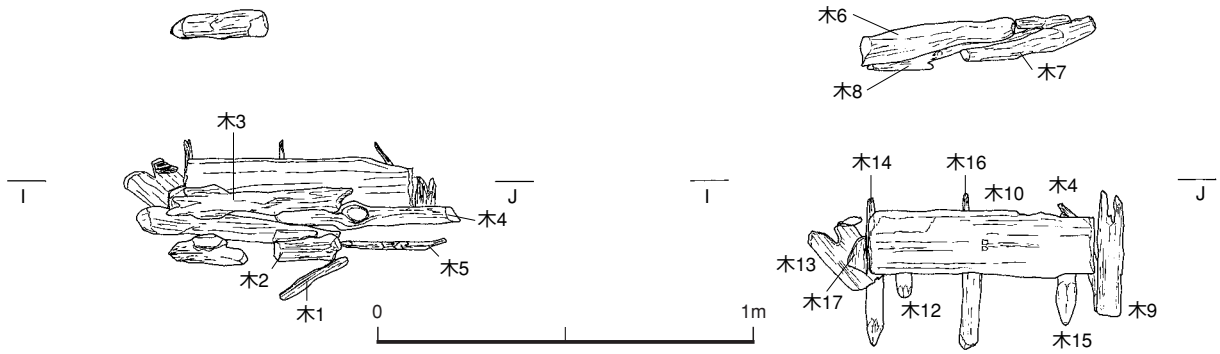
- | |
|-----------|
| 1 明灰褐色粘質土 |
| 2 灰褐色粘質土 |
| 3 暗灰シルト |
| 4 暗灰砂質土 |

0 2m

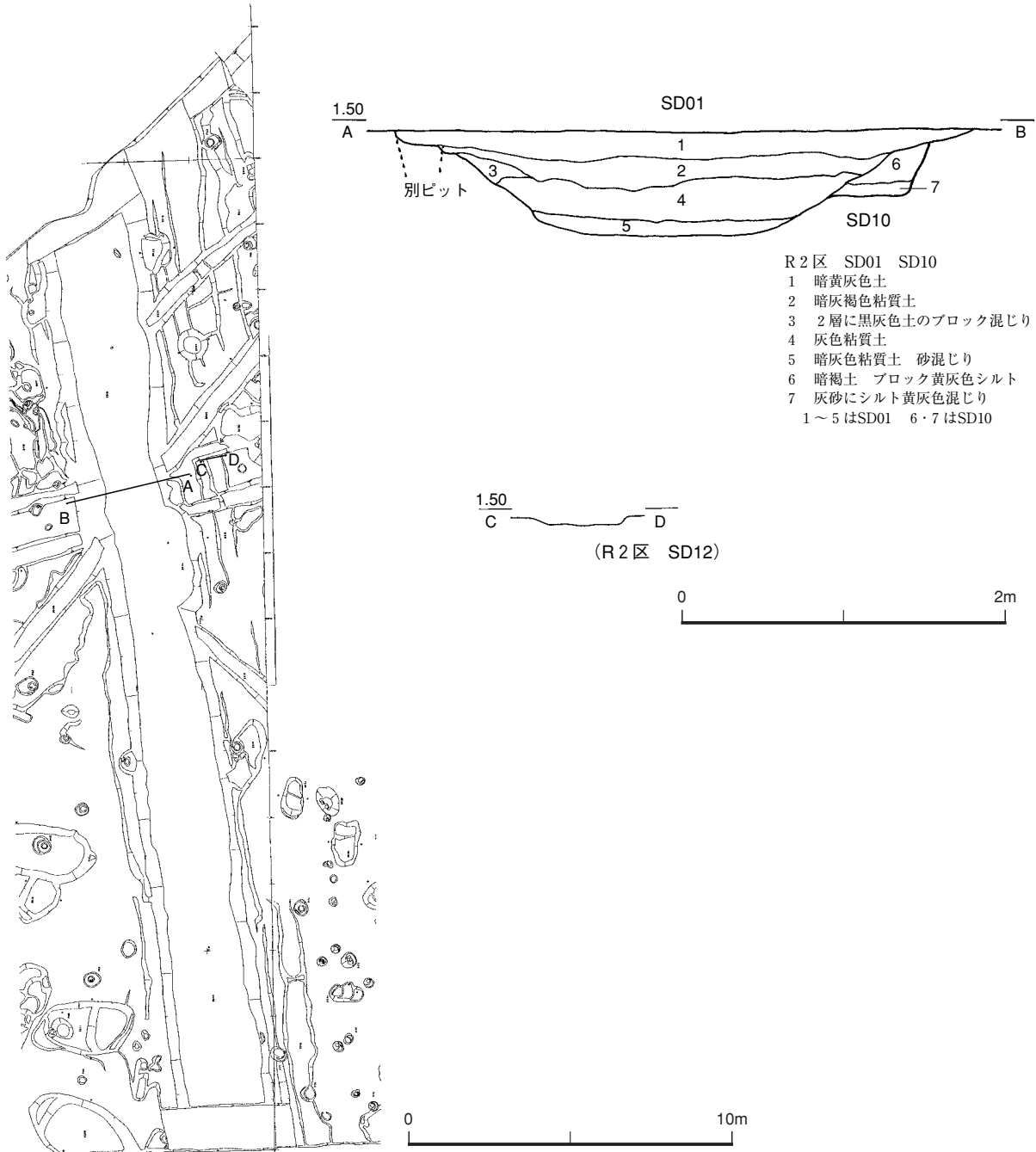
第53図 中世遺構図52 (S=1/40, 1/300)



第54図 中世遺構図53(S=1/40, 1/300)



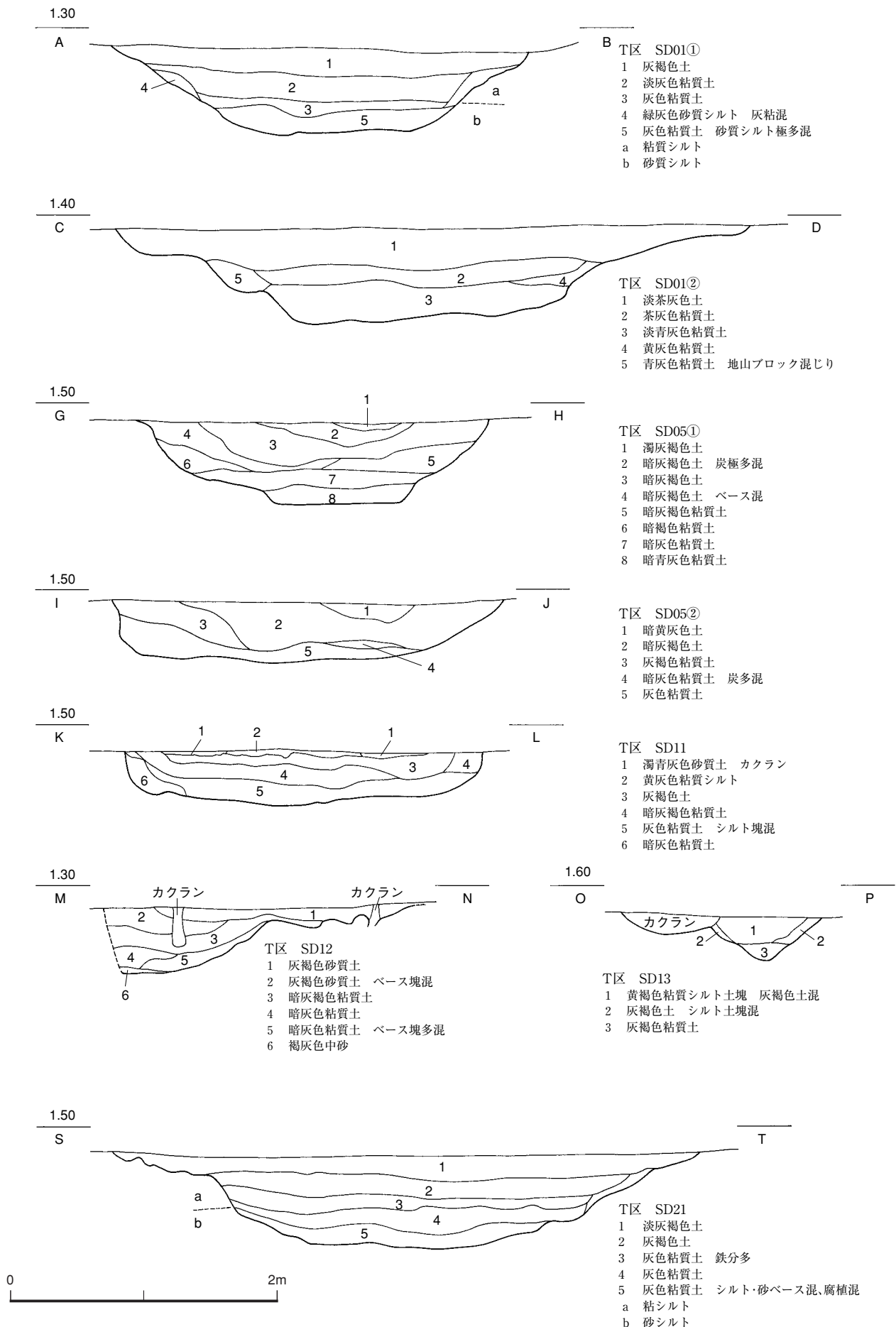
S 3 区 SD02土留め状構造物検出状況 (S= 1/20)



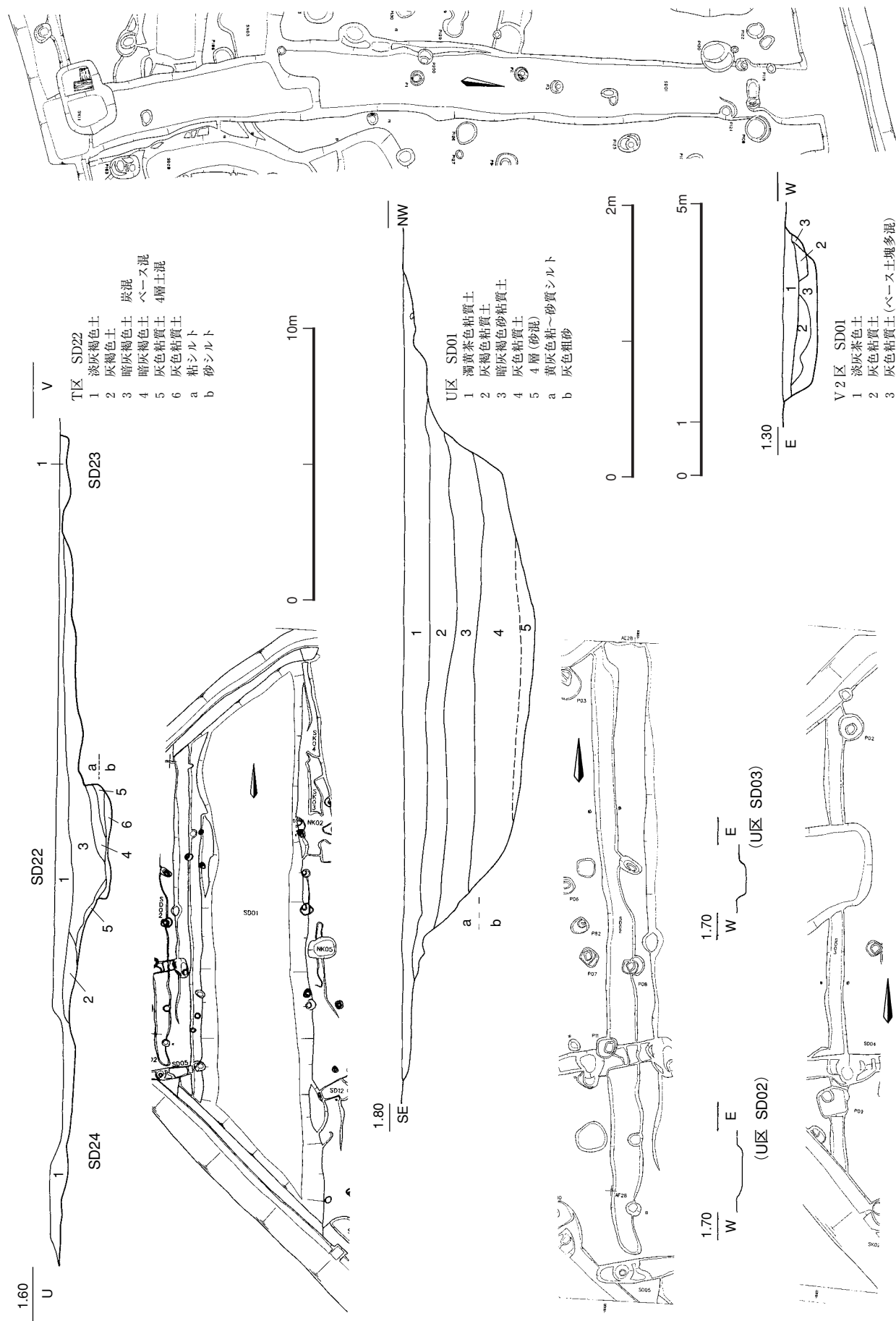
第55図 中世遺構図54 (S= 1/20, 1/40, 1/200)



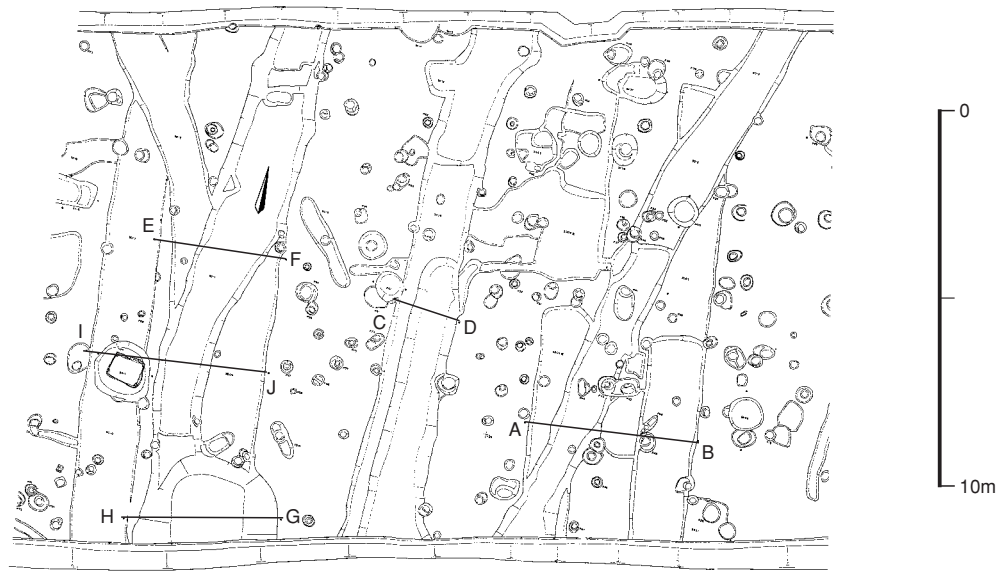
第56図 中世遺構図55 (S=1/40, 1/400)



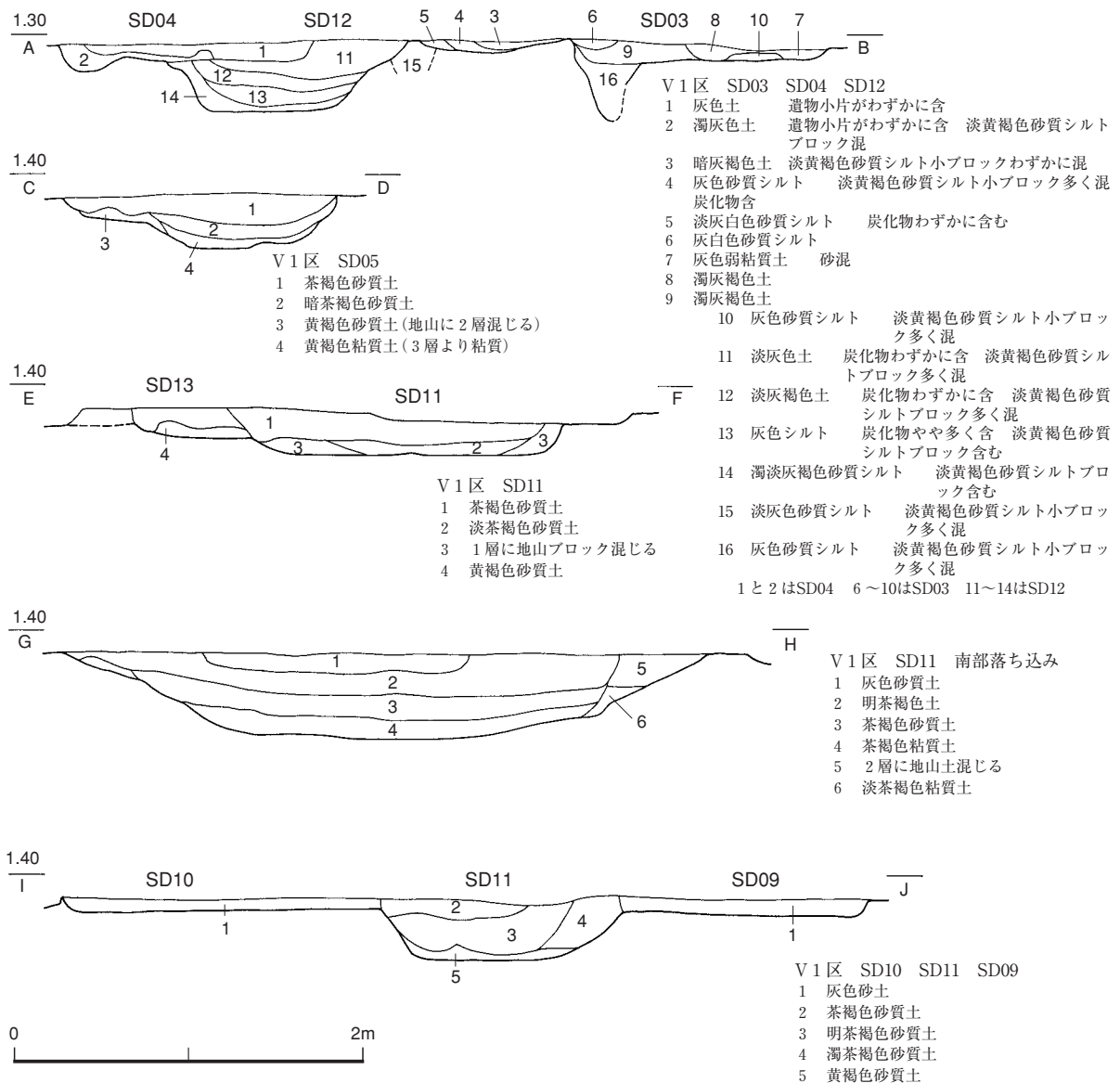
第57図 中世遺構図56



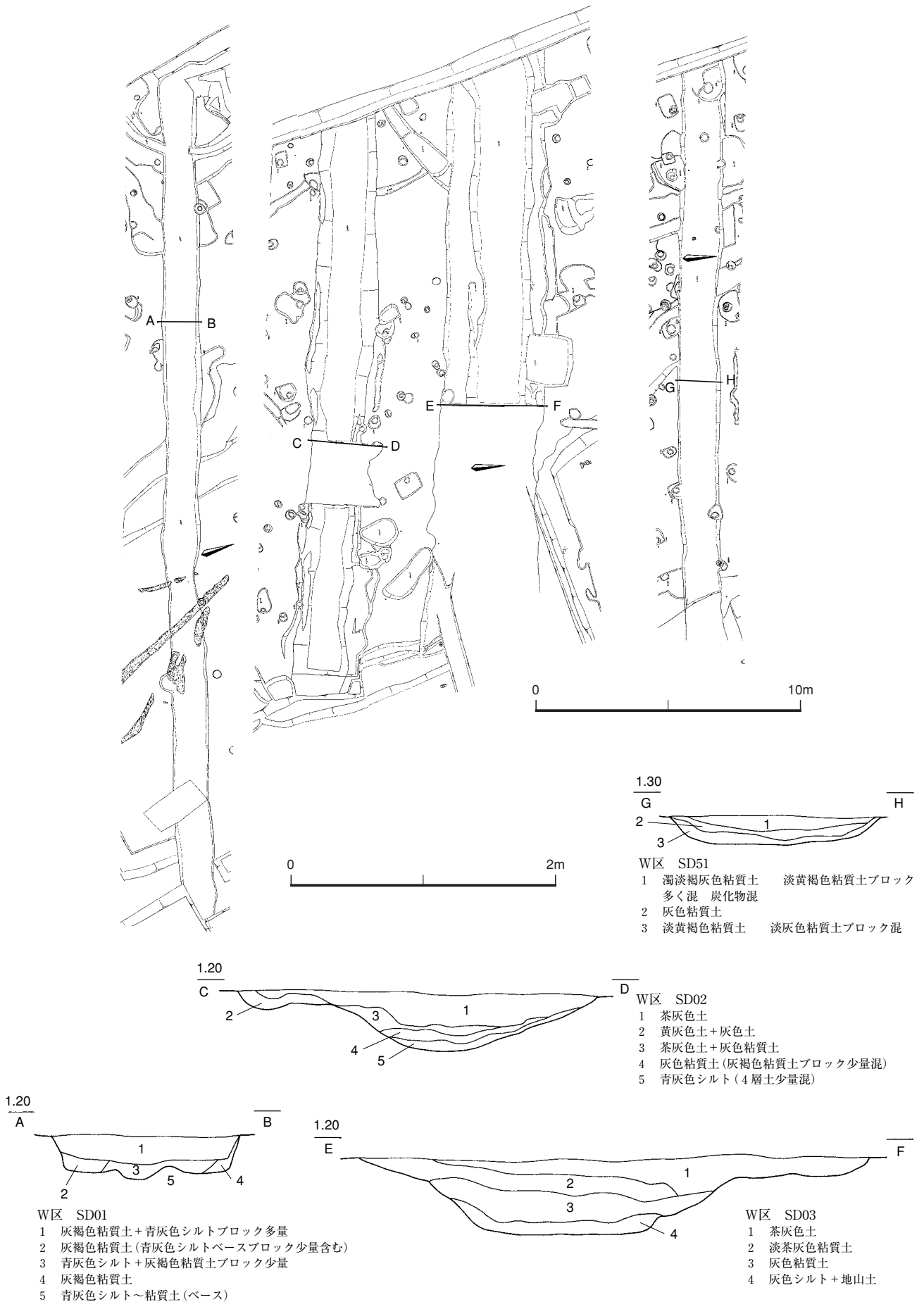
第58図 中世遺構図57 (1/40, 1/100, 1/200)



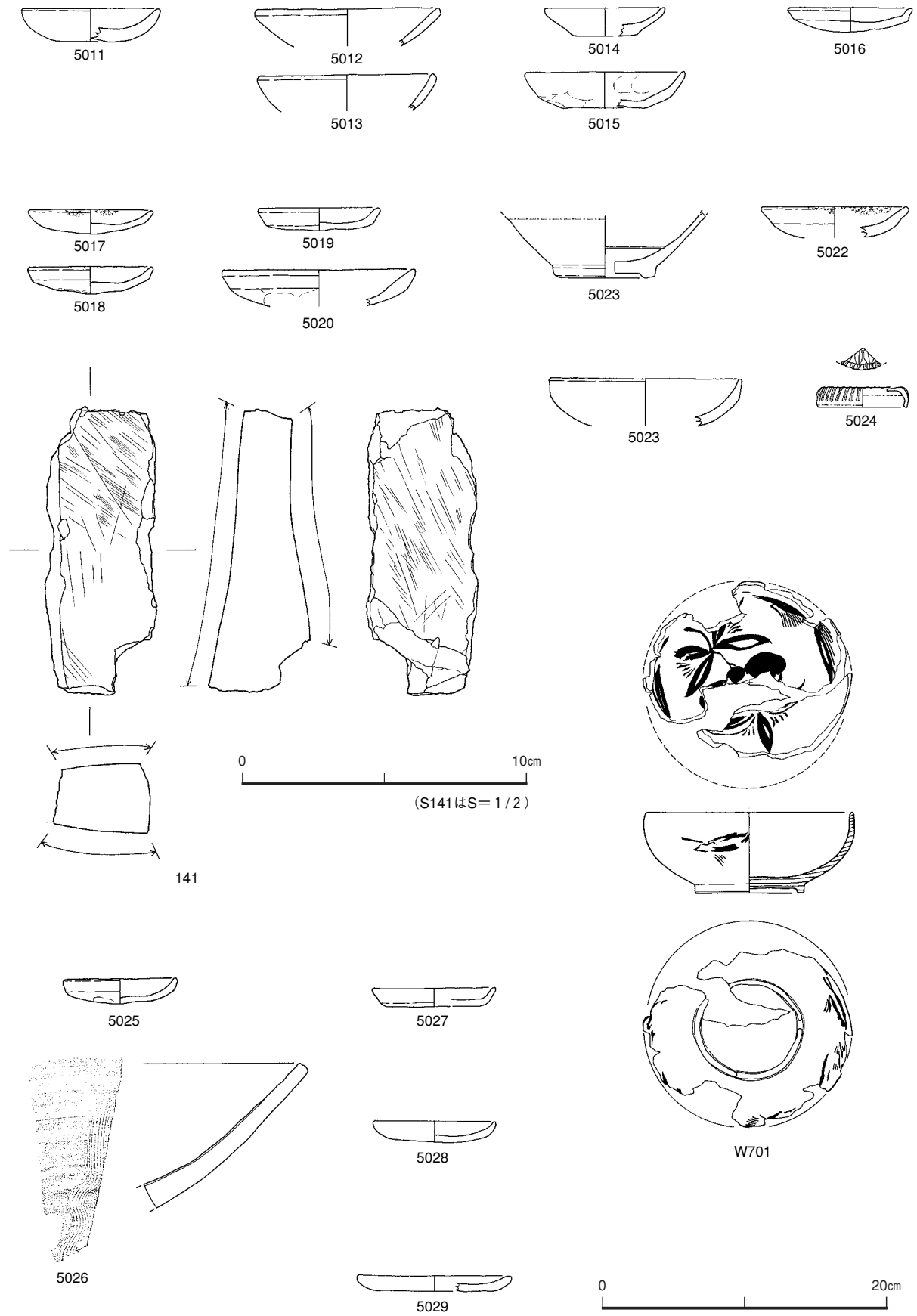
(V1区)



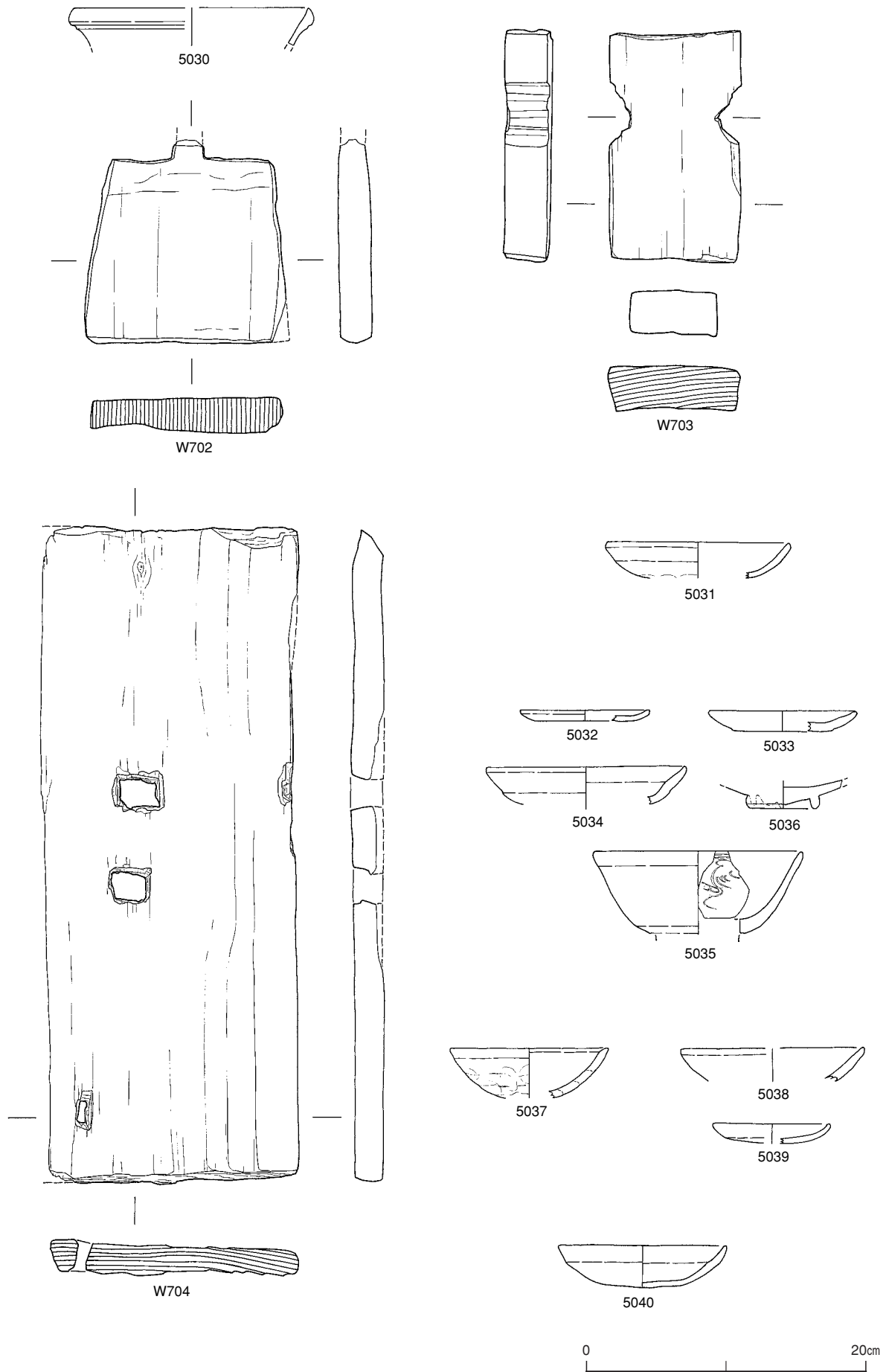
第59図 中世遺構図58 (1/40, 1/200)



第60図 中世遺構図59(S=1/40, 1/200)

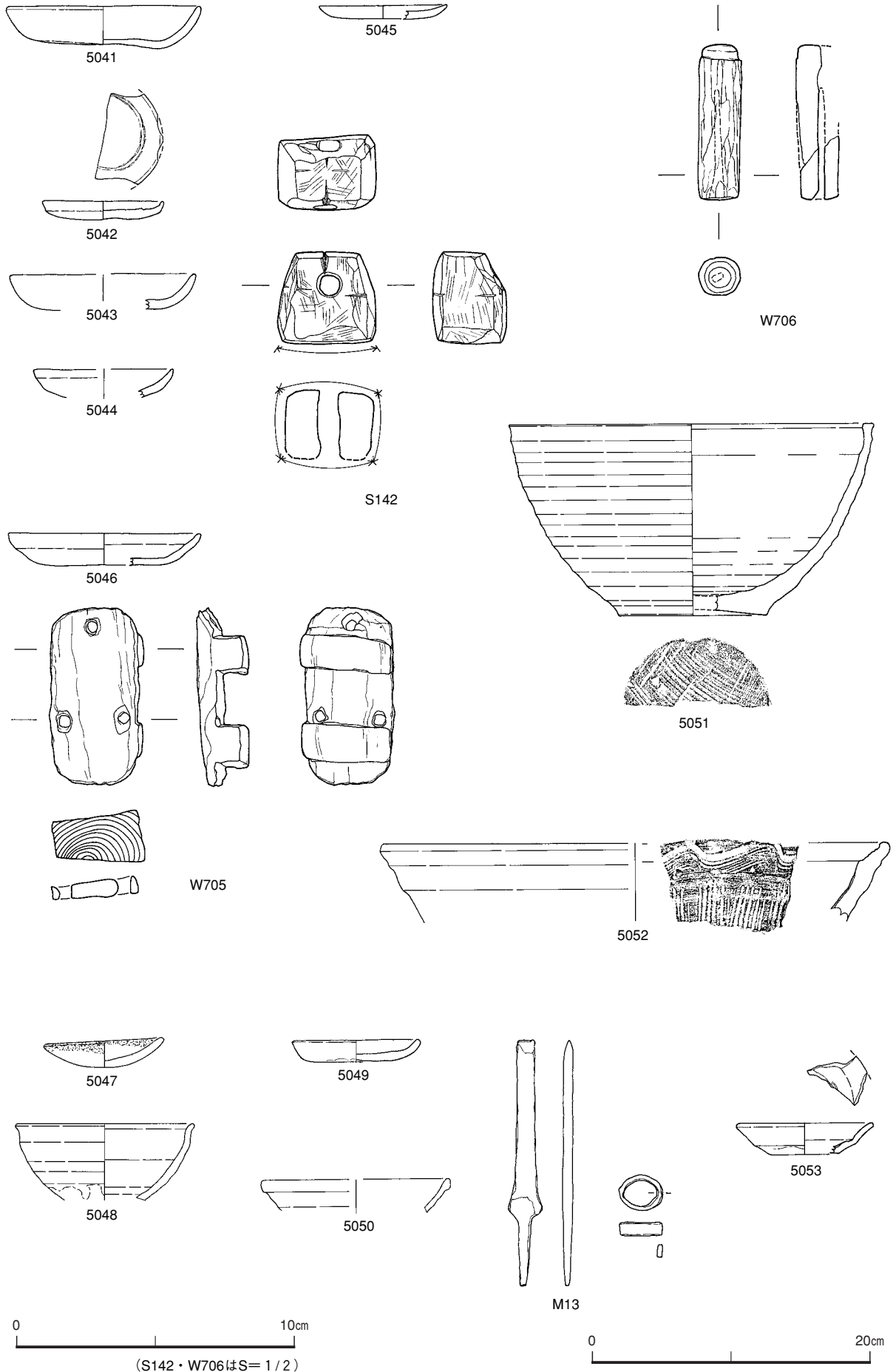


第61図 中世遺物図2

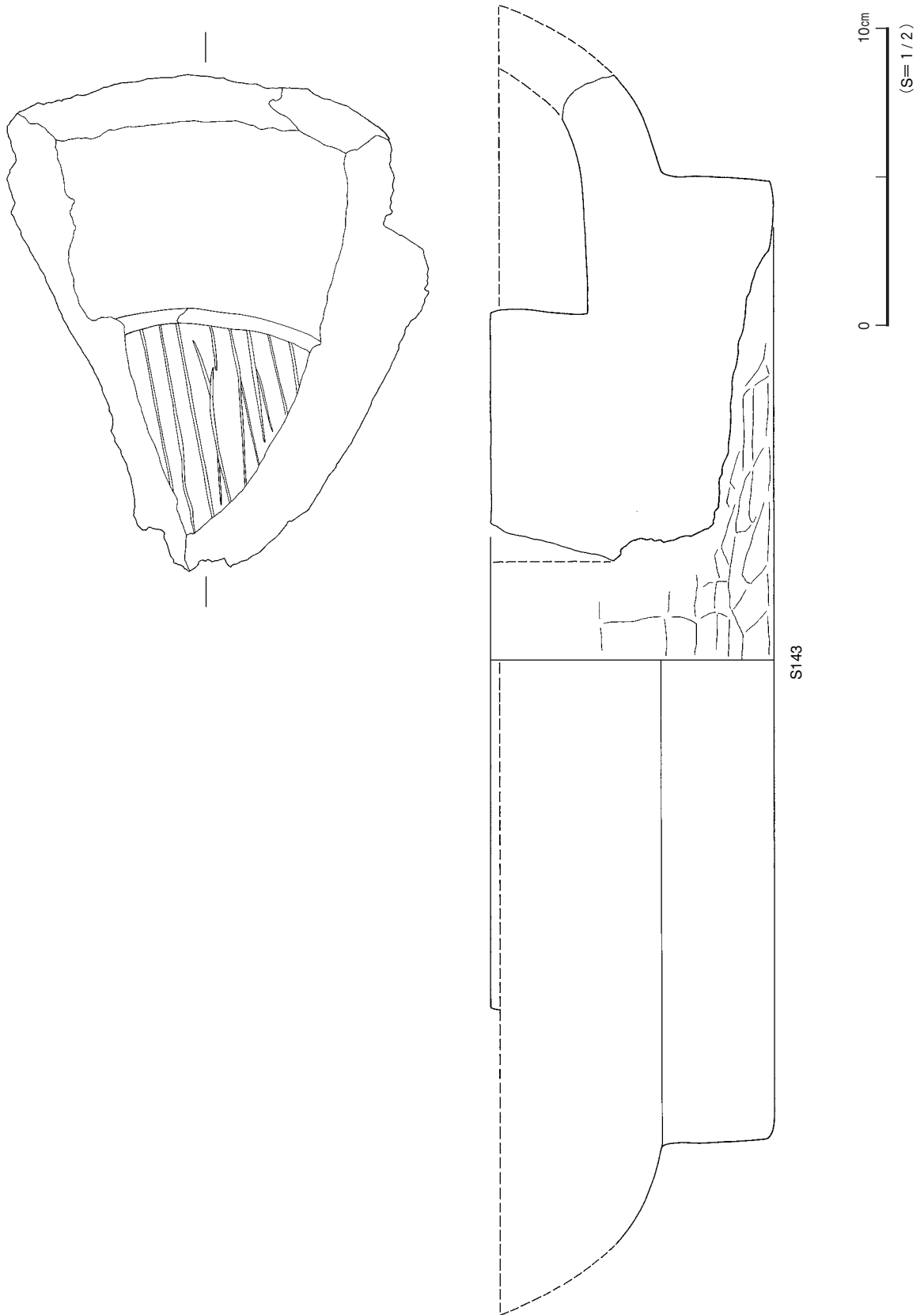


第62図 中世遺物図3

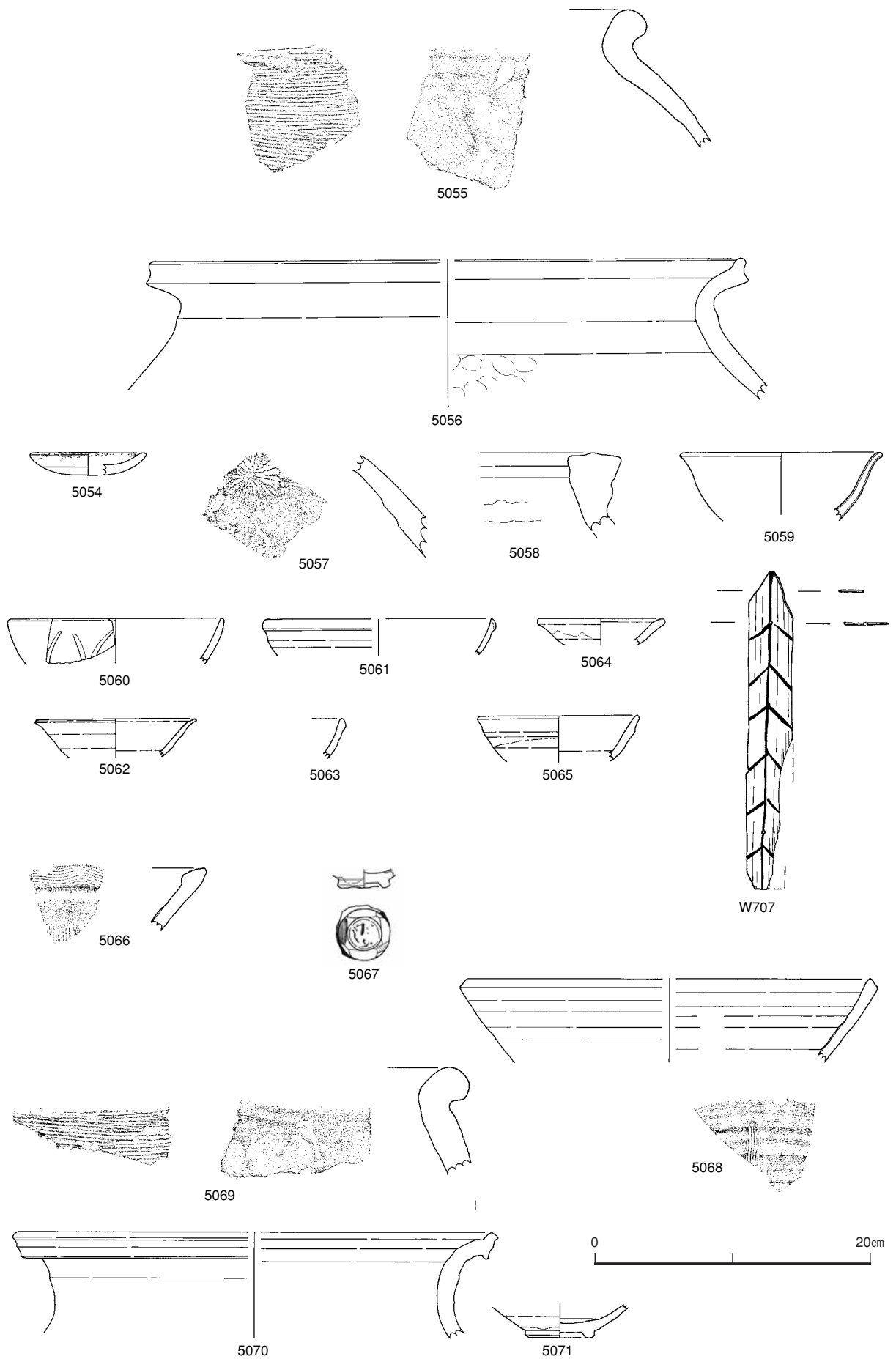
第3節 溝 跡



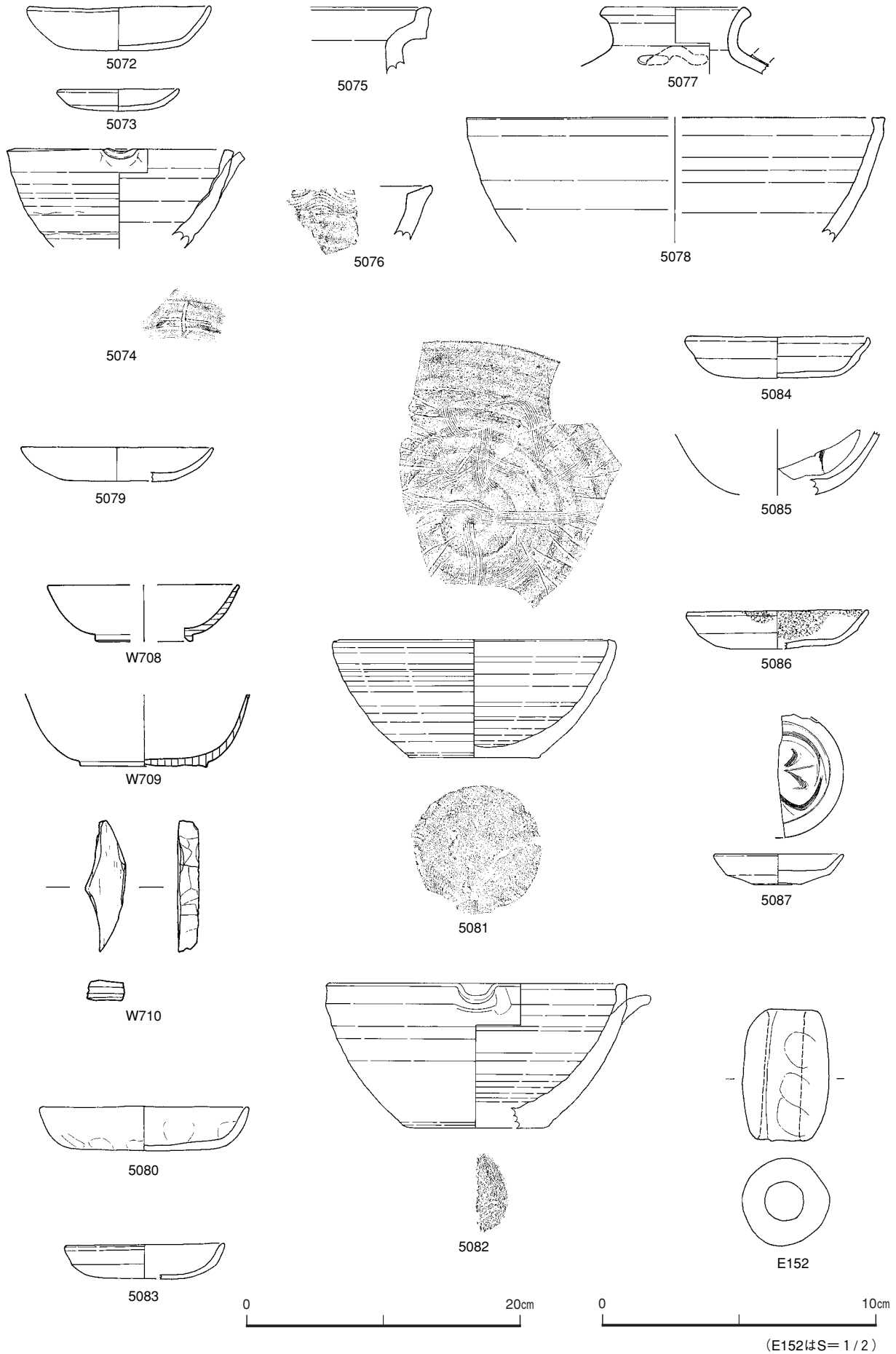
第63図 中世遺物図4



第64図 中世遺物図5

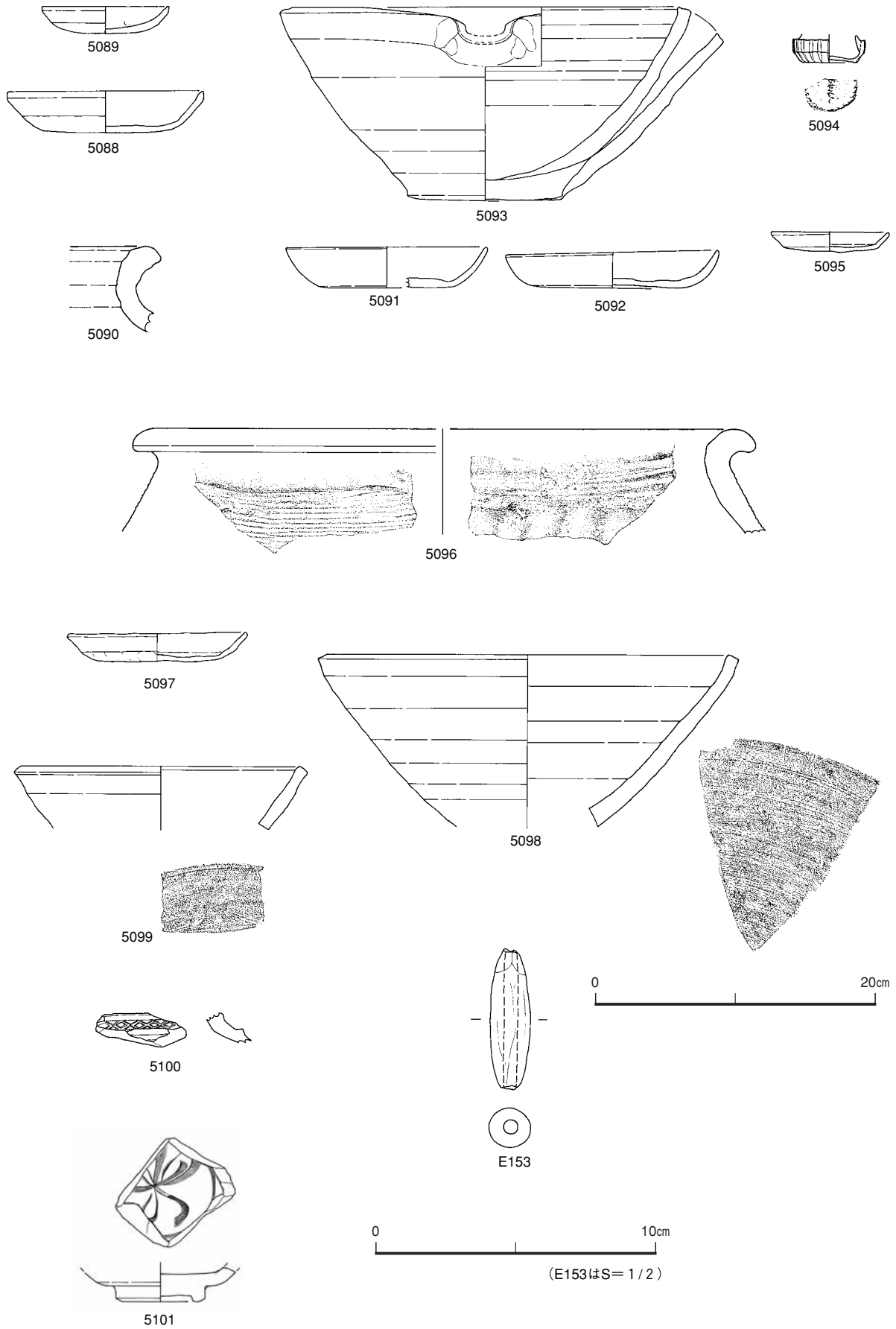


第65図 中世遺物図6

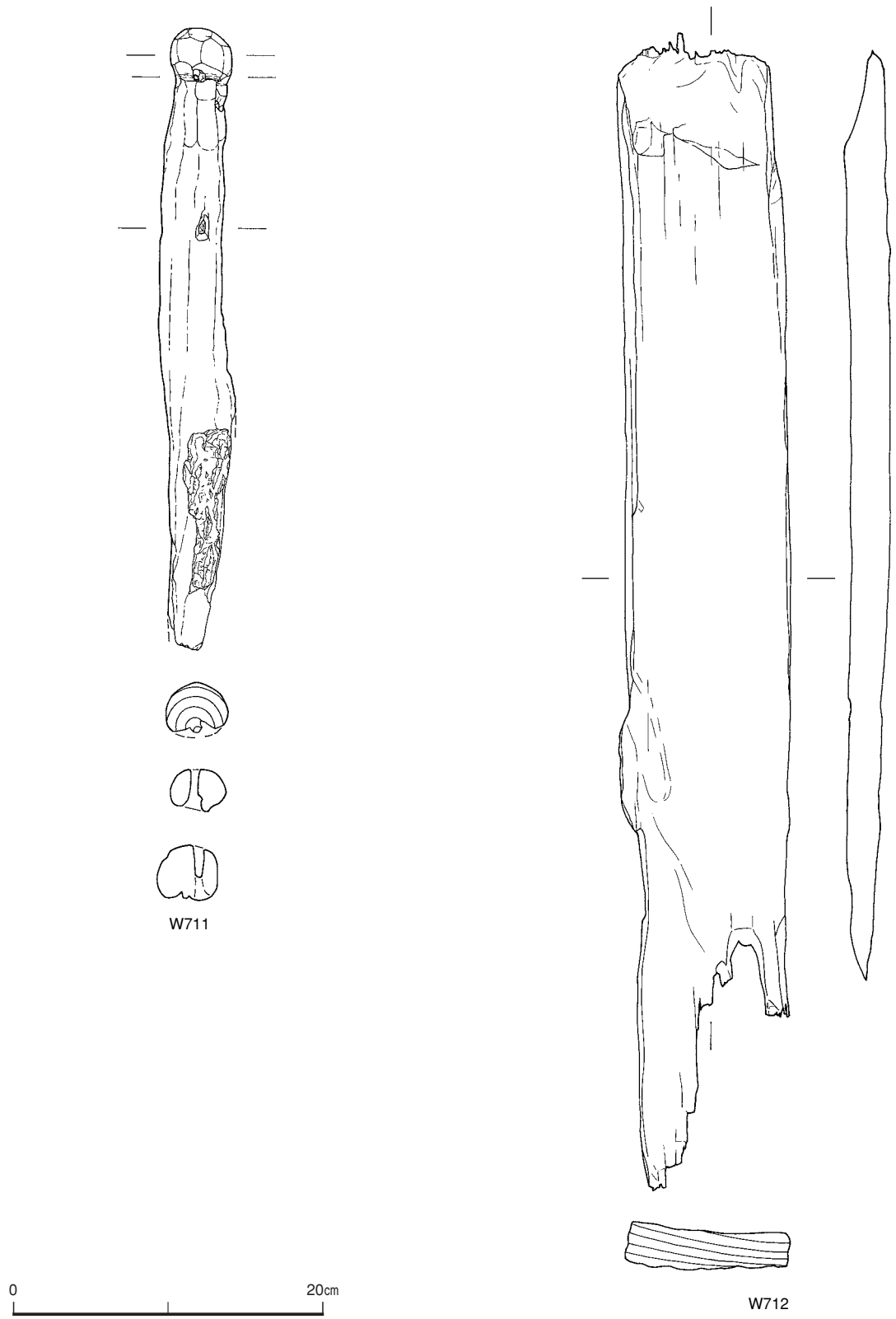


第66図 中世遺物図7

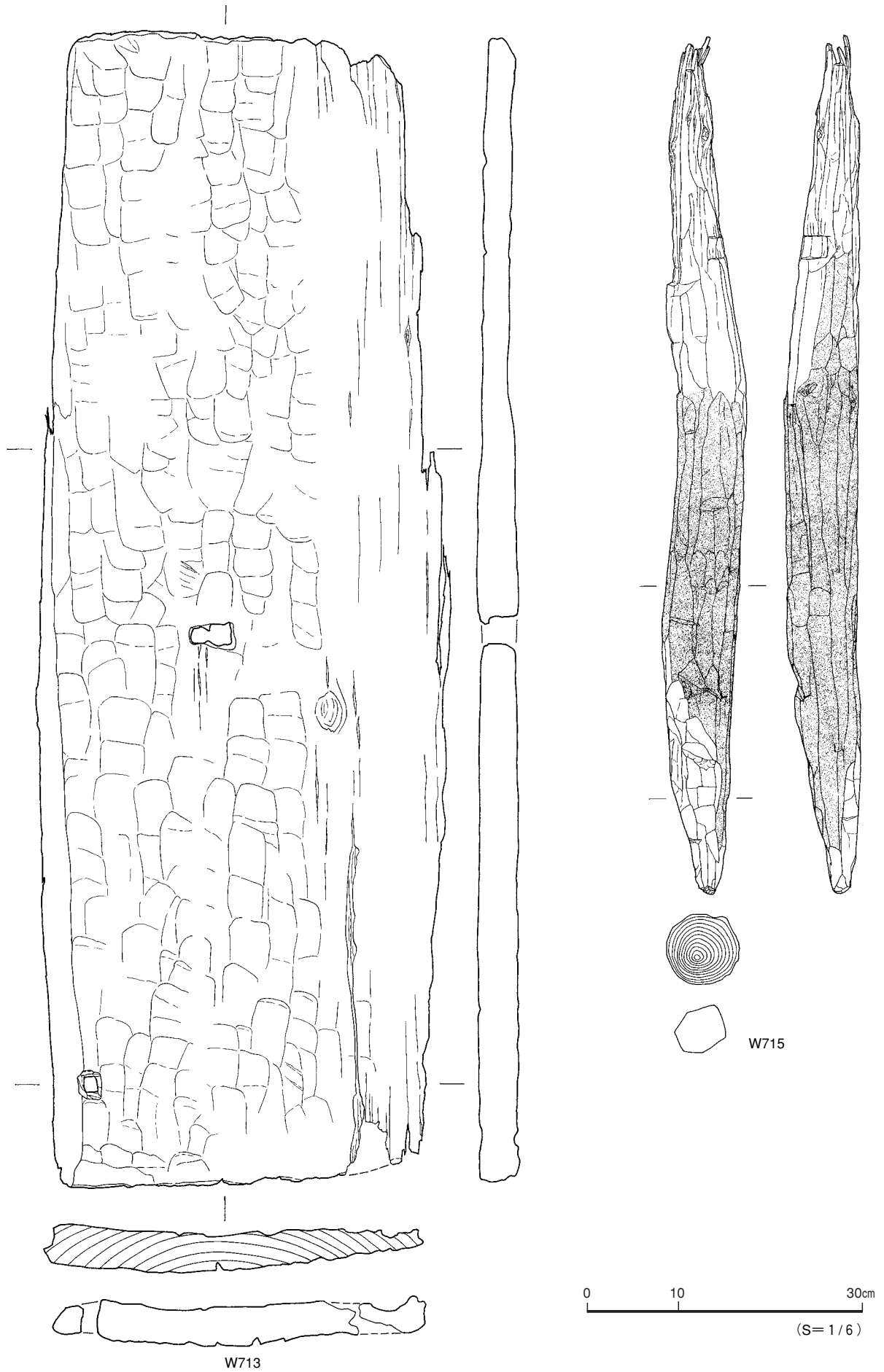
第3節 溝 跡



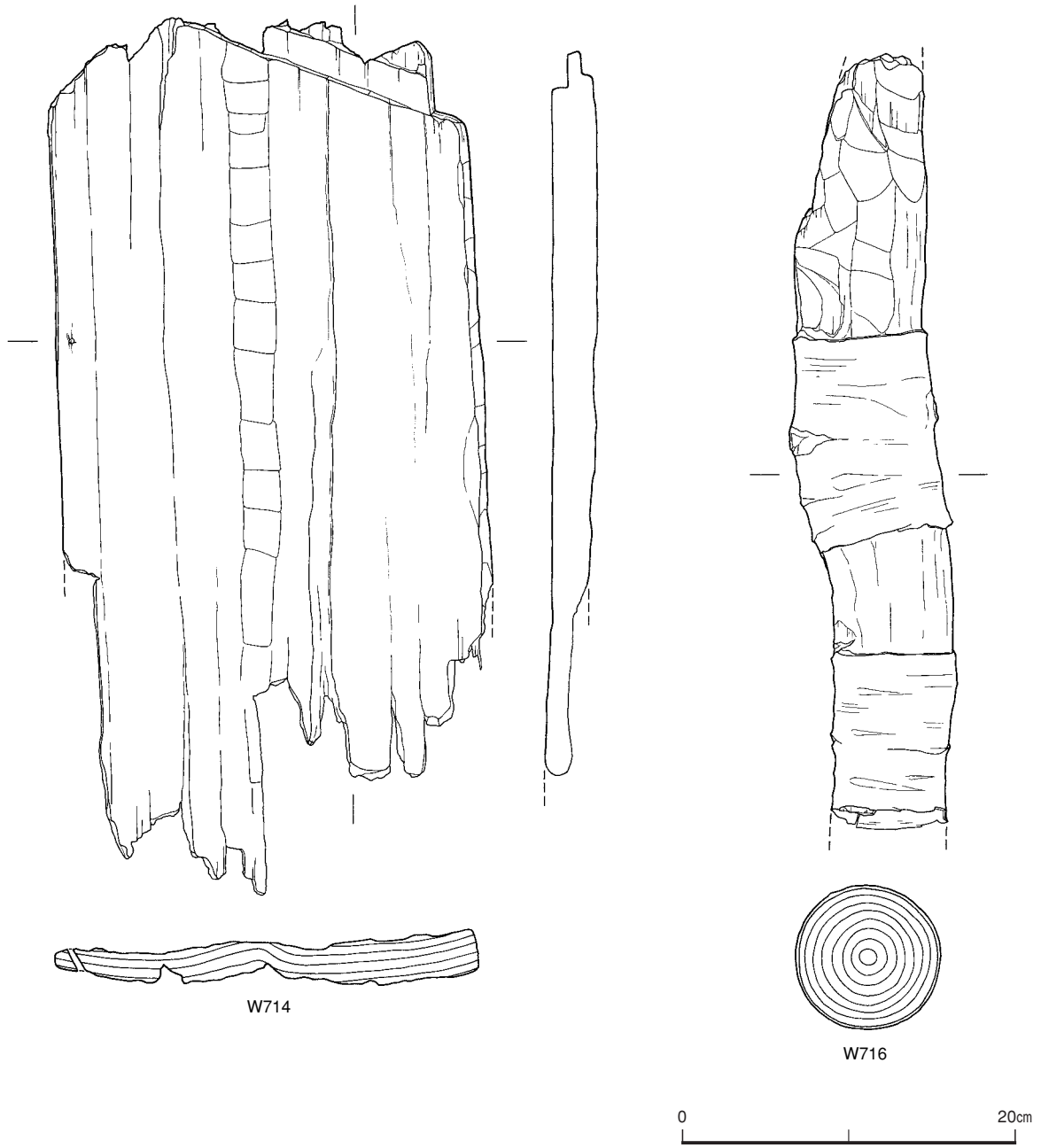
第67図 中世遺物図8



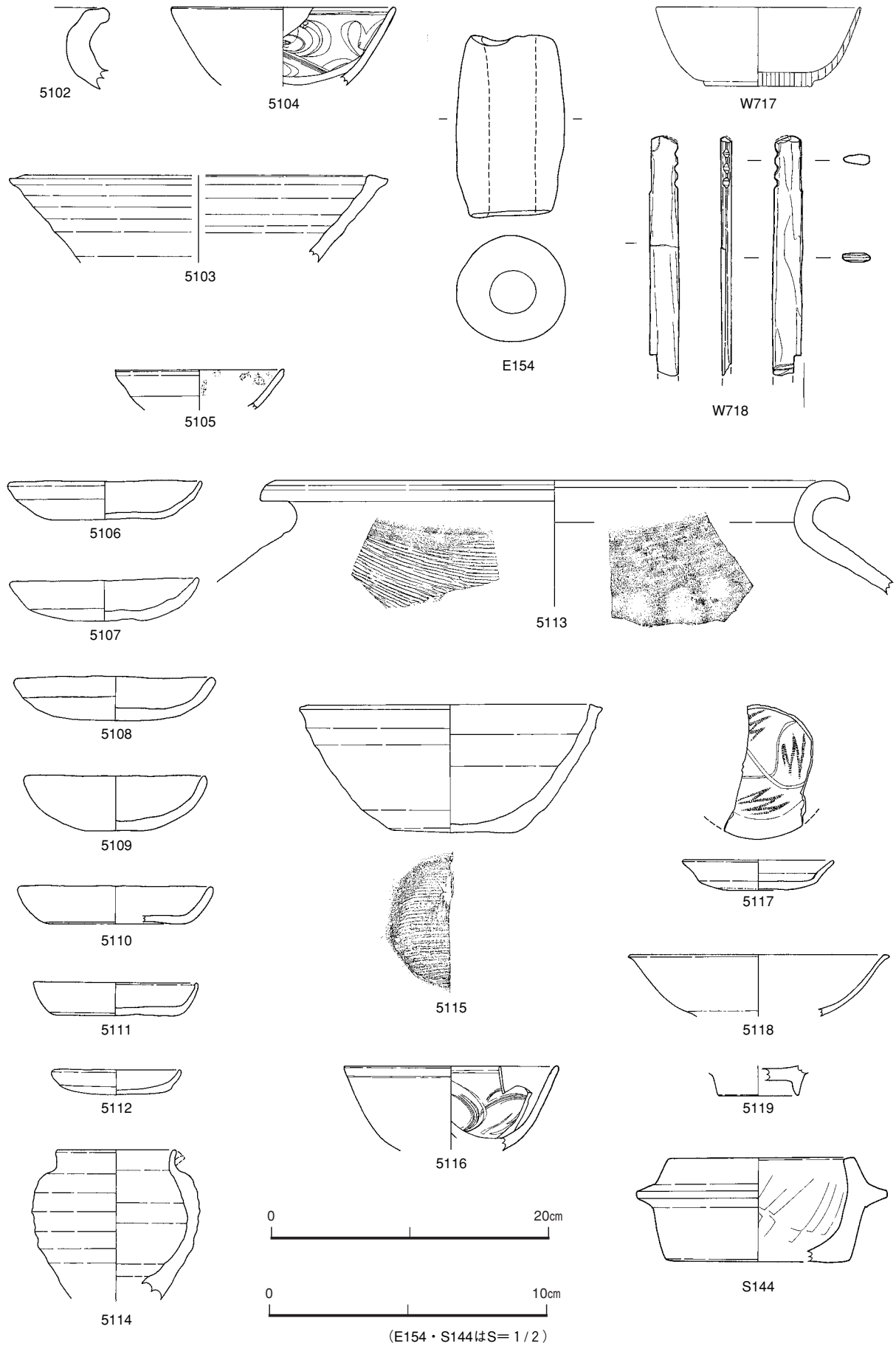
第68図 中世遺物図9



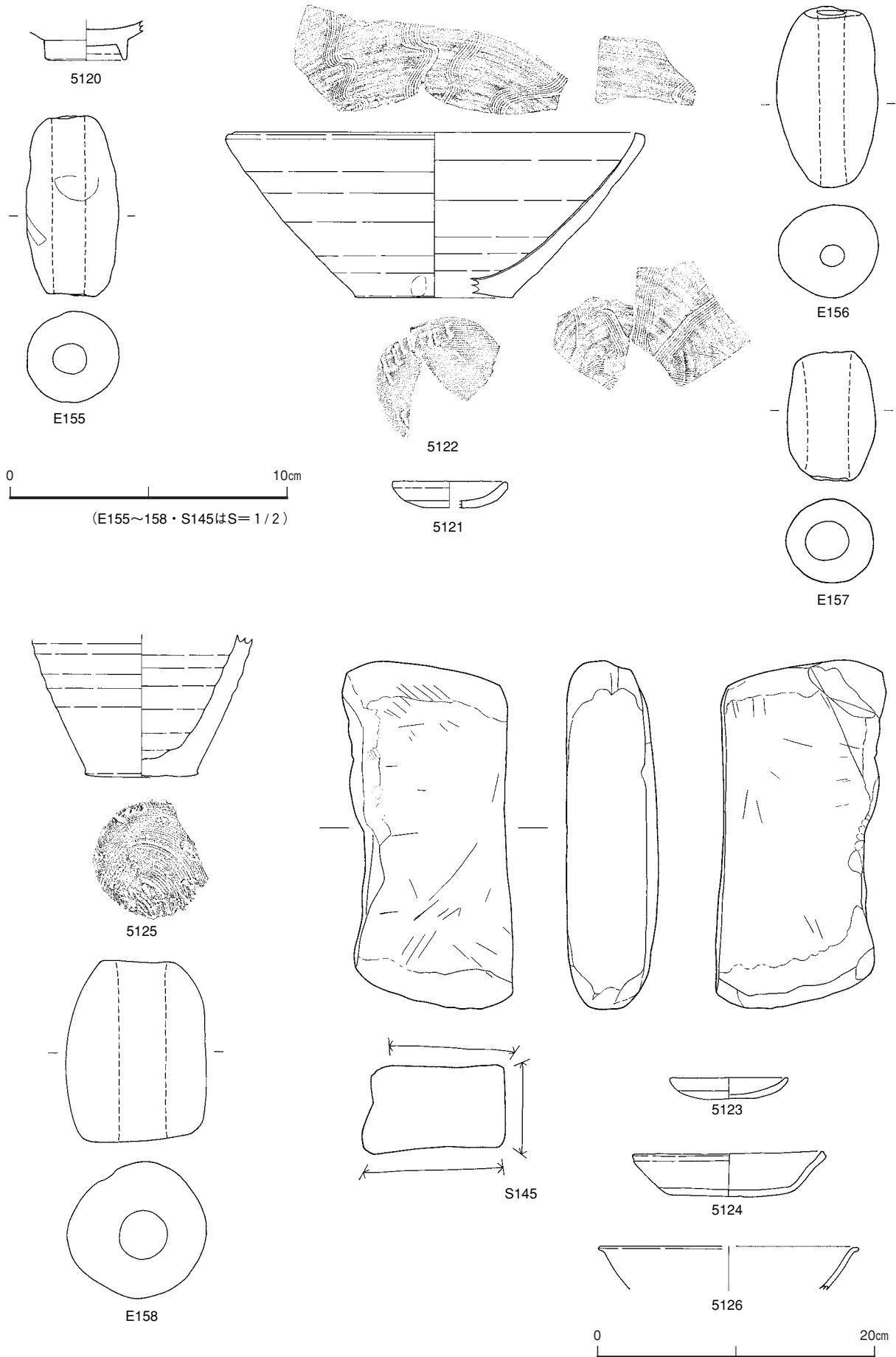
第69図 中世遺物図10



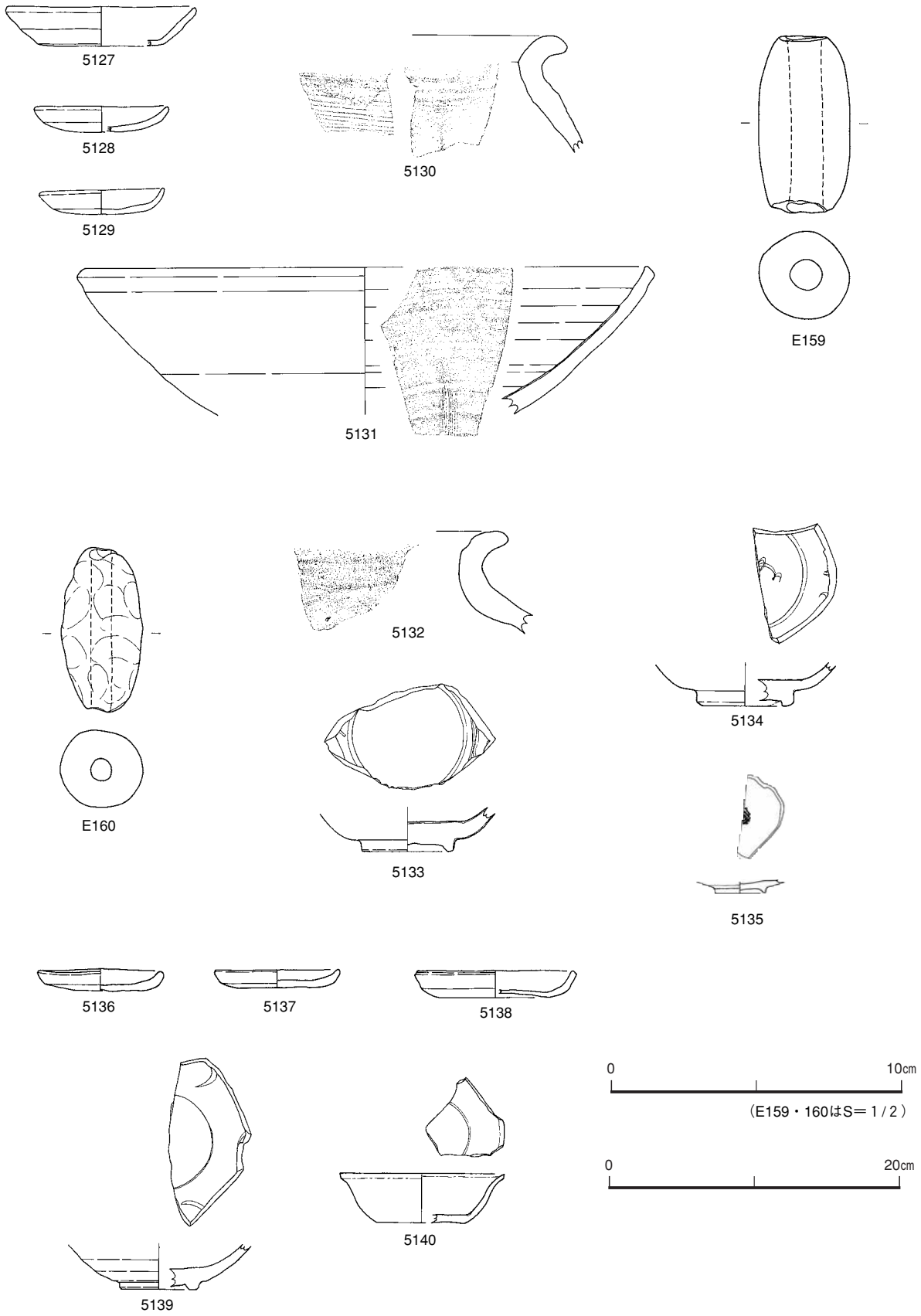
第70図 中世遺物図11



第71図 中世遺物図12



第72図 中世遺物図13



第73図 中世遺物図14

第4表 土器一覽2

報告 番号	実測 番号	種別	器種	地区	遺構	グリ ッド	小 割	層 位	法 量 (mm)			調 整		色 調		胎 土	焼 成	備 考	遺存度	
									口径	器高 (底高)	底径	その他	内	外	内					外
5011	03k2D69	土師器	土師皿	A1	SD04	Cフ ロウク			96	23			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良	遺構は古墳時代	□1/12
5012	03k2D70	土師器	土師皿	A2	SD22				127	26.5			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良		□3/12
5013	03k2D71	土師器	土師皿	A2	SD22				121	(25)			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良		□2/12
5014	03k2D48	土師器	土師皿	A3	SD59				83	20	46		ロクロナデ	ロクロナデ、 回転糸切り	浅黄橙	浅黄橙	粗砂少、焼土塊多	良		□1/12 底4/12
5015	03k2D49	土師器	土師皿	A3	SD59				110	25	58		ナデ、 指押え	ナデ、 指押え	灰白	灰白	粗砂多め、 海綿骨針	良		□1/12 底2/12
5016	02s2C146	土師器	土師皿	A3	SD63 (SE14)				85	17	25		ナデ、 指押え	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂	良	SD68の誤り? SE14に帰属か	
5017	02s2C148	土師器	土師皿	A3	SD68 (SE14)				86	17			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂	良	溝は別時代。 SE14に帰属 か、灯明皿	
5018	03k2D51	土師器	土師皿	A3	SD68 (SE14)				86	19			ナデ	ナデ、 指押え	浅黄橙	浅黄橙	粗砂僅か、 海綿骨針僅か	良	溝は別時代。 SE14に帰属か	□11/12 底12/12
5019	03k2D52	土師器	土師皿	A3	SD68 (SE14)				84	16	74		ナデ	ナデ	灰白	灰白	粗砂少	良	溝は別時代。 SE14に帰属か	□3/12 底5/12
5020	03k2D54	土師器	土師皿	A3	SD68 (SE14)				136	26			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ、指押え	浅黄橙	浅黄橙	粗砂少、海綿骨針少	良	溝は別時代。 SE14に帰属か	□2/12
5021	03k2D55	白磁	碗	A4	SD73	LL 22			(44)	70					灰オリーブ透明 感に欠ける	素地：灰白 細砂粒、 気泡少	細砂 堅緻			底3/12
5022	03k2D72	土師器	土師皿	B1	SD44				101	(21)			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良	灯明皿	□2/12
5023	03k2D43	土師器	土師皿	B3	SD28	Q16		下層	133	(33)			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良	遺構は古墳時代	□2/12
5024	03k2D56	青白磁	合子蓋	D1	SD02			上層	14	61					素地：灰白 釉(内：透明 外：明緑灰)	細砂粒少含 堅緻			底2/12	
5025	03k2D30	土師器	土師皿	E	SD01				77	17.5			ナデ	ナデ、 指押え	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良		□11/12、 底11/12
5026	03k2D29	珠洲	片口鉢	E	SD01				101				ロクロナ デ、卸し目	ロクロナ デ	灰	灰	細砂粒並	良	卸し目波 打っている	□1/12 以下
5027	03k2D68	土師器	土師皿	E	SD02				85	13	66		ナデ、 指押え	ナデ、 指押え	浅黄橙	浅黄橙	白い粗砂極少、 赤色粒	良		
5028	02s2D147	土師器	土師皿	F	SD06				(84)	(15)	(72)		摩耗	摩耗	浅黄橙	淡橙	砂粒少 精良	良	古墳時代 小溝群SC2	□3/12 底2/12
5029	03k2D35	土師器	土師皿	F	SD08	J区			108	11	82		ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰白	灰白	粗砂少、焼土塊少	良	溝の所在 地不明	□1/12、 底1/12
5030	03k2D18	白磁	碗	F	SD09				(165)	(27)					灰オリーブ (明るい)	黒い粒少 気泡有 白に近い灰白色	玉縁、溝は 古墳時代		□1/12	
5031	03k2D31	土師器	土師皿	F	SD24				128	26			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ、指押え	灰白	灰白	粗砂少、焼土塊少	良		□3/12
5032	03k2D60	土師器	土師皿	F	SD27				92	8	70		ナデ	ナデ	灰白	灰白	細砂少	良		□2/12
5033	03k2D61	土師器	土師皿	F	SD27				104	15	71		ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂微量	良		□1/12
5034	03k2D62	土師器	土師皿	F	SD27				139	(26)			ナデ	ナデ、 指押え	にぶい 橙	にぶい 橙	細砂少	良	口縁端部の面 取りが甘い。 2段ナデ風	□2/12
5035	03k2D17	青磁	碗	F	SD27				146	(58)					灰オリーブ (明るい)	精良 白に近い灰白色	内面に沈澱、 ヘラガキで文様		口縁極少	
5036	03k2D39	青磁	碗	F	SD27				(21)	48					暗い灰オリーブ	白い粗砂極少 (黄ばい灰白)	高台部		底6/12	
5037	03k2D33	土師器	土師皿	F	SD30	J22			112	(35)			ヨコナデ、 丁寧なナデ	ヨコナデ、 ナデ、指押え	灰白	灰白	粗砂多め、 焼土塊少	良	遺構所在 地不明	□1/12
5038	03k2D10	土師器	土師皿	G	SD12				(130)	(23)			ヨコナデ	ヨコナデ						
5039	03k2D11	土師器	土師皿	G	SD12				82	(14)			ナデ	ナデ	淡灰	にぶい 橙	赤色粒極少	良		□2/12
5040	03k2D12	土師器	土師皿	G	SD13				118	30			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	浅黄橙	浅黄橙	黒い噴出物少	良		□3/12
5041	02s2C380	土師器	土師皿	G	SD18				136	31	93		ナデ	ヨコナデ、 ナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂少	良	歪み	
5042	03k2D13	土師器	土師皿	G	SD18				85	13			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	橙	橙	赤色粒少	良	内底弧状 のヘラ痕	□3/12
5043	03k2D14	土師器	土師皿	G	SD18				(133)	25			ナデ	ナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	赤褐色の胎土に 化粧土?	良		□1/12
5044	03k2D15	土師器	土師皿	G	SD18				(101)	20			ナデ	ナデ	にぶい 橙	浅黄橙	黒い噴出物	良		□1/12
5045	03k2D19	土師器	土師皿	H1	SD01				90	10	44		ナデ	ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細砂微量	良	溝は古墳時 代中後期	□1/12
5046	03k2D87	土師器	土師皿	M1	SD10	M25			136	23			ナデ、ヨコナ デ、指押え	ナデ、ヨコナ デ、指押え	にぶい 橙	にぶい 橙	白い粗砂少、 海綿骨針極少	良		□2/12
5047	02s1D73	土師器	土師皿	M1	SD13				83	21	22		ヨコナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	微砂粒	良	灯明皿、 油痕	
5048	02s1D74	天目	碗	M1	SD13				126	(55)			ロクロナ デ	ロクロナ デ	素地：灰白 黒・ 外：にぶい赤褐	0.3mm程度 の砂粒僅か	良	透明感なし。 貫入している		
5049	02s1D67	土師器	土師皿	M1	SD18	N27			89	17	75		ナデ	ナデ、 指押え	にぶい 橙	浅黄橙	0.8mm程度 の砂粒と 赤色粒	良		
5050	02s1D68	白磁	碗	M1	SD20				130	(25)			ロクロナ デ	ロクロナ デ	素地：灰白 釉： 明オリーブ灰白	微砂粒 緻密	良	透明感がある 、玉縁		
5051	02s1D118	珠洲	片口鉢	M2	SD05				258	137	106		ロクロナ デ	ロクロナ デ、 静糸切り、ナ デ	灰	灰	砂粒、礫	良	珠洲Ⅰ～Ⅱ 卸し目なし	
5052	02s1D115	珠洲	片口鉢	M2	SD09				(360)	(56)			ハケメ、 卸し目	ロクロナ デ	明オリ ーブ灰	灰白	粗砂、礫	良	珠洲Ⅴ～ Ⅵ縁に節目紋	
5053	03b1D79	青磁	皿	M3	SD03				(95)	22	(48)				素地：灰白 釉：オリーブ灰	素地：堅緻 釉： 薄く均一に施され 透明感、内外面とも 粗い貫入あり			1/12	
5054	03b1D59	土師器	土師皿	M3	SD05			抗群 周辺	(78)	16	(46)		ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	粗砂極少、赤色粒並	良	油痕	2/12
5055	03b1D29	珠洲	甕	M3	SD05				(約 98)				ロクロナ デ、 当て具によ るくぼみ	ロクロナ デ、 平行タ タキ	紫灰	黄灰	礫、粗砂	良	小片	

第3節 溝 跡

報告 番号	実測 番号	種別	器種	地区	遺構	グリ ッド	小 割	層 位	法 量 (mm)				調 整		色 調		胎 土	焼 成	備 考	遺存度
									口径	器 高 (残高)	底径	その他	内	外	内	外				
5056	03b1D44	加賀	甕	M3	SD05				(424)	(102)			ヨコナデ、 指押え	ヨコナデ	黄褐	暗オリ ープ	粗砂並、礫少	良		小片
5057	03b1D45	加賀	甕	M3	SD05		杭西						ナデ(粗い)	ナデ(粗い)	灰白	灰白	粗砂並	良		小片
5058	03b1D46	越前	甕	M3	SD05					(56)			ヨコナデ	ヨコナデ	暗赤褐	極暗赤褐	粗砂粒、礫少、 気泡少	良	菊花格子 押印	小片
5059	03b1D81	青磁	碗	M3	SD05				(142)	(49)					素地：明青灰 釉：オリープ 灰		素地：気泡の含 みが少なく堅緻 釉：均一に施さ れ厚みは並、気 泡多く含み透明 感がない、内外 面共貫入なし		無文	小片 □1/12
5060	03b1D83	青磁	碗	M3	SD05		杭群 周辺		(154)	(33)					素地：灰白 釉：オリープ 灰		素地：堅緻 釉： 厚く均一に施さ れわずかに透明 感あり、内外面 とも貫入なし		蓮弁文	小片 □1/12
5061	03b1D82	白磁	碗	M3	SD05				(164)	(26)					素地：灰白 釉：緑味をお びた透明		素地：やや気泡 を含むが緻密 釉：薄く均一に 施され透明感 がある、貫入は 内外面共細かく 密		玉縁	小片 □1/12
5062	03b1D84	白磁	口禿皿	M3	SD05				(114)	(27.5)				素地：乳白 釉：やや緑味 をおびた乳白		素地：堅緻 釉：薄く均一に 施されているが 内外面共にピン ホール少々あり、 透明感がなく、 内外面共貫入 なし			小片 □1/8	
5063	03b1D85	白磁	碗	M3	SD05					(28)				素地：灰白 釉：緑味をお びた透明		素地：気泡を含 みややザツクリ 感がある 釉： 薄く均一に施さ れ透明感がある、 内外面共貫入細 かく密		玉縁	小片	
5064	03b1D89	瀬戸	皿	M3	SD05				(90)	(19)		ロクロナデ	ロクロナデ				粗砂少		釉：灰釉	小片 □2/12
5065	03b1D80	瀬戸	皿	M3	SD05				(114)	(33)				素地：灰白 釉：オリープ灰		素地：やや気泡 を含む		釉：灰釉	小片 □1/8	
5066	03b1D30	珠洲	片口鉢	M3	SD06					(44)		ロクロナ デ、卸し目	ロクロナデ	灰	灰		礫極僅か、粗砂	良	口縁に波 状紋、V期	小片
5067	03b1D86	白磁	皿	M3	SD07					(14)	(38)	ロクロナ デ、卸し目		素地：乳白 釉：黄味をお びた透明		素地：やや気泡 を含む、軟質 釉：薄く施され やや透明感に欠 ける、内外面共 貫入は細かく密		割高合、 墨痕、見 込みに目 痕4箇所、 直接重ね 焼き	1/3 底完形	
5068	03b1D31	珠洲	片口鉢	M3	SD09				約290	(60)			ロクロナデ	灰	灰		粗砂、海綿骨針	良		□1/12
5069	03b1D32	珠洲	甕	M3	SD15					(77)		ロクロナデ、 当て具による くぼみ	ロクロナ デ、平行タ タキ	灰	灰		粗砂、礫極僅か		鉄分付着 多、溝の 位置不明	小片
5070	03b1D48	越前	甕	M3	SD15				(342)	(76)		ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐		粗砂並	良	西・中地区 検出にも、溝 の位置不明	小片 □1/12
5071	03b1D87	白磁	碗	M3	SD15				(24)	(51)				素地：灰白 釉：やや青味 をおびた乳白		素地：堅緻 釉： 薄く均一に施され 透明感を欠く、内 外面共貫入なし		遺構位置 不明	底2/12	
5072	03b1D60	土師器	土師皿	M3	SD22				132	33	88	ナデ、 ヨコナデ	摩耗	灰白	灰白		粗砂、赤色粒共に 極僅か	良		ほぼ完形
5073	03b1D61	土師器	土師皿	M3	SD22				87	16.5	55	ヨコナデ (一部摩耗)	ヨコナデ (底部摩耗)	浅黄橙	浅黄橙		粗砂並、赤色粒多	良		11/12
5074	03b1D33	珠洲	片口鉢	M3	SD22				164	(71)		ロクロナ デ、ナデ	ロクロナ デ、ナデ	灰	灰		礫極僅か、海綿骨針	良	内面に「十」字 のハラ書き	2/12 □2/12
5075	03b1D47	越前	甕	M3	SD25					(48)		ヨコナデ	ヨコナデ	褐	灰褐		粗砂並	良		小片
5076	03b1D34	珠洲	片口鉢	M3	SD27					(約39)		ロクロナ デ、卸し目	ロクロナデ	灰	灰		粗砂、海綿骨針	良	口縁に波 状紋	小片
5077	03b1D12	珠洲	壺	M3	SD32				(101)	(49)		ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰白		2~3mmの礫、粗砂粒、 ややざつくり感あり	良		5/12
5078	03b1D35	珠洲	片口鉢	M3	SD32				約303	(約99)		ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰		粗砂、海綿骨針	良	SD33・V1区 SD10などにも	□1/12
5079	03k2D80	土師器	土師皿	N1	SD02				138	25	76	ナデ	ナデ 磨 耗著しい	灰白	灰白		細砂微量	良		□1/12
5080	03k2D86	土師器	土師皿	N1	SD10	T26			150	32	118	ヨコナデ、 ナデ、指押え	ヨコナデ、 ナデ、指押え	灰白	灰白		粗砂少、焼土塊少	良	ややゆが みあり	□15/12
5081	02s1D121	珠洲	片口鉢	N1	SD11	V26			196	88	96	ロクロナ デ、卸し目	ロクロナデ	灰	灰		微砂粒、0.8mm程 度の砂粒僅か	良		珠洲Ⅱ
5082	02s1D122	珠洲	片口鉢	N1	SD11	RU 26			214	105	107	ロクロナ デ、ナデ	ロクロナ デ、指押え	灰	灰		0.2mm程度の砂粒	並	珠洲Ⅰ~Ⅱ SD10に接合 可能破片	小片
5083	03b1D116	土師器	土師皿	N2	SD01				(114)	26	(76)	摩耗によ り不明	摩耗によ り不明	浅黄橙	浅黄橙		赤色粒多	良	溝は古代か	10/12
5084	03b1D118	土師器	土師皿	N2	SD03				132	30.5	97	ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	浅黄	浅黄		粗砂並、赤色粒多	良		ほぼ完形
5085	03b1C120	青磁	碗	N2	SD03					(47)				素地：灰白 釉：淡緑灰		素地：緻密、粗砂少 釉：薄く均一に施され る、ピンホール有 り(多)、極細い貫入あり		割花文、 中国産	小片	
5086	03b1D119	土師器	土師皿	N2	SD04	L21			130	28	90	ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙		粗砂並、赤色粒並	良	灯明皿、 油痕	6/12
5087	03b1C121	青磁	皿	N2	SD04	L21			(94)	22	(36)	ロクロナデ	ロクロナデ						施釉、内底 面に文様	6/12
5088	03b1D128	土師器	土師皿	N2	SD26	L20	炭層		136	29.5	90	ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 橙	浅黄橙		焼土塊、細砂粒	良		□3/4 底完形
5089	03b1D129	土師器	土師皿	N2	SD26	L20	炭層		90	19	40	ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	橙		細砂粒少量	良		□1/2 底3/4

報告 番号	実測 番号	種別	器種	地区	遺構	グリ ッド	小 割	層 位	法 量 (mm)				調 整		色 調		胎 土	焼 成	備 考	遺存度		
									口径	器 高 (残高)	底径	その他	内	外	内	外						
5090	03b2D258	珠洲	甕	O2	SD01						(60)			ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰	粗砂多	良		小片	
5091	03m1D324	土師器	土師皿	Q1	SD01		東部		149	28.5	111			摩耗により不明	摩耗により不明	浅黄橙	浅黄橙	細砂多	良	胎土は5～6C的	口12 趾欠あり	
5092	03m1D325	土師器	土師皿	Q1	SD01		東部		(142)	29	(98)			摩耗により不明	摩耗により不明	浅黄橙	浅黄橙	細砂多、粗砂僅か	良	胎土は5～6Cor8C的	口6/12	
5093	03m1D326	珠洲	片口鉢	Q1	SD01・24		東部		(275)	137	111			ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ	にぶい黄橙	灰白	粗砂含むが全体に細かい、海綿骨針	やや不良	還元不良	口4/12 底完形	
5094	03m1D328	青白磁	合子身	Q1	SD03					(20)	37					素地：灰白		薄く釉施されているが下の方に溜まる。貫入粗く入る、気泡含む、地を重ねた(接合した)痕が残る				
5095	03m1D333	土師器	土師皿	Q1	SD24				83	15	68			ナデ	ナデ、ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂少、焼土塊	良			
5096	03b2D103	珠洲	甕	R2	SD01		中・西部		(41)	(75)				ヨコナデ、押圧痕	ヨコナデ、タタキ	灰	灰	約2～4mmの礫少、粗砂	並			
5097	03m1D657	土師器	土師皿	S2	SD01				136	23	91			ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細砂極少	良		6/12	
5098	03m1D654	珠洲	片口鉢	S2	SD01			最下層	282	(132)				ケズリ後回転ナデ	回転ナデ	灰	灰	礫少	良		口2/12	
5099	03m1D655	珠洲	片口鉢	S2	SD01		X15		198	(45)				回転ナデ、ナデ	回転ナデ	暗灰	灰	粗砂少、海綿骨針	良	内面卸し目、木瓜文		
5100	03m1D658	瓦質	火鉢	S2	SD01		北半									灰白	灰白				破片	
5101	03m1C512	青磁	碗	S2	SD01		北半		(20)	63						釉：灰釉		緻密、貫入が入る		内底面に文様	底8/12	
5102	03b2D21	珠洲	甕	T	SD01	X28	E			(57)				ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	灰	灰	砂粒細かい、海綿骨針	良		小片	
5103	03b2D22	珠洲	片口鉢	T	SD01	X29	W		約247	(63)				ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰	粗砂、海綿骨針	良		口1/12	
5104	03b2D23	青磁	碗	T	SD01	X26	E		158	(55)						釉：透明		堅緻、貫入僅か、気泡少		内面に沈澱・草花文、中国産	3/12	
5105	03b2D24	土師器	土師皿	T	SD02	W29			119	(29)				摩耗著しく不明	摩耗著しく不明	灰白	灰白	砂粒細かく柔かい、シャーモット			油痕	口2/12
5106	03b2D34	土師器	土師皿	T	SD05	V29			(137)	27	79			ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ、押さえ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2～0.5mm大の礫多	並	口縁・底部ともゆがみ	7/12 口4/12	
5107	03b2D35	土師器	土師皿	T	SD05	W28	E		134	29	75.5			ヨコナデ、指頭圧痕	ヨコナデ、ナデ後指押え	灰黄	明黄褐	2～0.5mm大の礫多	並		7/12	
5108	03b2D36	土師器	土師皿	T	SD05	W28	E		140	30	73			摩耗(剥離)により不明	摩耗(剥離)により不明	灰白	浅黄橙	2～0.5mm大の粗砂	並		8/12	
5109	03b2D37	土師器	土師皿	T	SD05	W28	E		(130)	(39)	(41)			摩耗により不明	摩耗により不明	浅黄橙	浅黄橙	粗砂、細砂多	並		5/12 口4/12	
5110	03b2D38	土師器	土師皿	T	SD05	W28	W		(136)	27	(106)			ヨコナデか	ヨコナデか、ナデ、押さえ	浅黄橙	浅黄橙	2～1mm大の粗砂少	並		4/12	
5111	03b2D39	土師器	土師皿	T	SD05	VW29	E		115	23	95			ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	粗砂多	良		3/12	
5112	03b2D40	土師器	土師皿	T	SD05	V29			92	18	81			ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	粗砂極僅か、赤色粒少	良		10/12	
5113	03b2D32	珠洲	甕	T	SD05	W			(400)	(82)				ロクロナデ、当具痕後ナデ	ロクロナデ、平行タタキ	青灰	灰	1mm大の粗砂少、細砂多、海綿骨針少	良		小片	
5114	03b2C29	珠洲	小壺	T	SD05	W28	E		84	(107)				ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰	粗砂多、海綿骨針	良		3/12	
5115	03b2D33	珠洲	片口鉢	T	SD05	V30			202	91	88			ロクロナデ	ロクロナデ、静止糸切り	明オリープ灰	灰白	6mm～1mm大の礫多、海綿骨針少	良		6/12	
5116	03b2C28	青磁	碗	T	SD05	W29	W		152	(60)						釉：青緑がかった透明		やや気泡あり、堅緻、貫入なし		劃花文、中国産	口1/12	
5117	03m1A1	青磁	皿	T	SD05	YW29	E		106	21	39					釉：透明(オリープ灰) 素地：灰		貫入あり	良	同安窯系		
5118	03b2D30	白磁	碗	T	SD05	WW29	E		180	(44)						釉：透明		黒色の砂粒僅か、堅緻、やや気泡あり、貫入なし		中国産	3/12	
5119	03b2D31	白磁	高台碗	T	SD05	VW30			(21)	51						釉：透明		黒色の砂粒僅か、貫入なし		中国産	6/12	
5120	03b2D42	白磁	碗	T	SD11				(28)	58						釉：透明、内側のみ薄く施され釉だまりもなし					小片 底12/12	
5121	03b2D43	土師器	土師皿	T	SD12	Y27	W		(80)	18.5	(38)			ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ、押さえ	にぶい黄橙	明褐灰	赤色粒	良		内外面ともツルツル感	
5122	03b2D60	珠洲	片口鉢	T	SD12・21	Y27 Z27・28他	E・S他		(288)	(54)	(112)			ロクロナデ、卸し目	ロクロナデ	灰	灰	粗砂並、海綿骨針少	良		卸し目8条	4/12 底6/12
5123	03b2D56	土師器	土師皿	T	SD21	Z27・28	S		(82)	15	(34)			ナデ	ナデ	明黄褐	浅黄橙	粗砂少、赤色粒少	良		3/12	
5124	03b2D57	土師器	土師皿	T	SD21	AA28			133	34	91			ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄	淡黄	粗砂少、赤色粒少	良		10/12	
5125	03b2D55	珠洲	壺	T	SD21	Z27・28			(101)	(82)				ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰	礫少、粗砂並、海綿骨針少、気泡あり	良			
5126	03b2D58	白磁	碗	T	SD21	Z27・28	N		(183)	(31)												口1/12
5127	03b2D65	土師器	土師皿	T	SD22	AA28	S		(128)	26.5	(88)			ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ、押さえ	淡黄	淡黄	粗砂少、赤色粒少	良		2/12 口3/12	
5128	03b2D63	土師器	土師皿	T	SD22	AA28	S		(90)	18	(54)			ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	灰黄褐、橙	にぶい黄橙	粗砂並、赤色粒少	良		4/12	
5129	03b2D64	土師器	土師皿	T	SD22	AA27	N		84	18	51			ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	黄灰	浅黄橙	粗砂並、赤色粒多	良		11/12 以上	
5130	03b2D62	珠洲	甕	T	SD22	Z27	S		(70)					ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ	灰	灰	粗砂並、海綿骨針少	良		小片	
5131	03b2D61	珠洲	片口鉢	T	SD22	AA28	S		(385)	(100.5)				ロクロナデ、卸し目	ロクロナデ	灰白	灰白	粗砂並、海綿骨針並	良		卸し目13条	
5132	03b1D39	珠洲	甕	V1	SD05		南部		(約69)					ロクロナデ、当て具によるくぼみ	ロクロナデ	灰	灰	粗砂多	良		小片	
5133	03b1D95	青磁	碗	V1	SD05		南部		(30)	63	円口径76					素地：明オリープ灰 釉：ややオリープがかった透明		堅緻、気泡ややあり、ほぼ全体に貫入あり			底12/12	

第3節 溝 跡

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量(mm)			調整		色調		胎土	焼成	備考	遺存度		
									口径	器高	底径	内	外	内	外						
5134	03b1D96	青磁	碗	V1	SD09				(30)	60	円圏径76			素地：明オリブ灰 釉：ややオリブがかった透明	堅緻、黒色の砂粒やや含む、貫入全体に細かく入る		高台接地面の釉削り取り	底12/12			
5135	03b1D97	染付	小皿	V1	SD09				(30)	35					堅緻、灰白、貫入なし		内底面に文様、外底面に円圏	底6/12			
5136	03b1D74	土師器	土師皿	V1	SD11				83	15	78			摩耗著しく不明	摩耗著しく不明	灰白	灰白	粗砂、シャーモット	良	ゆがみあり	10/12
5137	03b1D75	土師器	土師皿	V1	SD11				84	12	54			摩耗著しく不明	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙	浅黄橙	砂粒細かく柔かい、シャーモット	良		6/12
5138	03b1D76	土師器	土師皿	V1	SD11				107	18	70			ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	淡橙	淡橙	砂粒細かく柔かい、シャーモット	良		1/4
5139	03b1D99	青磁	碗	V1	SD11				(31)	50	円圏径70			素地：灰色 釉：ややオリブがかった透明	堅緻、気泡ややあり、貫入全体に細かく入る				底4/12		
5140	03b1D98	白磁	口禿皿	V1	SD11				112	34	60	円圏径64			釉：やや明緑がかった透明	堅緻、灰白、貫入なし		釉の削り取りは内面端、端部の2面	2/12		

第5表 土製品一覽2

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量(mm,g)				調整		色調		胎土	焼成	備考	遺存度
									最大長	最大幅	最大厚	重量	内	外	内	外				
E152	03b1D124	土師質	土錘	N2	SD15	M22			48.5	32	32	41.04			にぶい黄褐		粗砂含む	良	溝は古代	ほぼ完形
E153	03m1D659	土師質	土錘	S2	SD01		Y15		50	14.5	14	7.49		ナデ	灰褐	灰褐	僅かに焼土塊と海綿骨針を含む	良		完形
E154	03b2土30	土師質	土錘	T	SD01	X29			66	39	38	102.89								
E155	03b2石33	土師質	土錘	T	SD11				65	33	32.5	56.03								
E156	03b2土35	土師質	土錘	T	SD12	Z27	N		65	36	33	58.03								
E157	03b2土37	土師質	土錘	T	SD12	X27	E		46	32	30	27.25								
E158	03b2土31	土師質	土錘	T	SD21	Z27・28	S		65	50	49	130.84								
E159	03b2土34	土師質	土錘	T	SD22	Z27	N		61	31	30	56.68								
E160	03b1D24	須恵質陶器	土錘	V1	SD02				56	28	28	41.11								

第6表 石製品一覽1

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量(mm,g)				調整		色調		備考	遺存度
									最大長	最大幅	最大厚	その他	重量	内	外	内		
S141	02s2石12	凝灰岩(砂岩質)	砥石	A3	SD68・SE14				(101)	(39)	(39)		(165)					
S142	02s2石9	凝灰岩(泥岩質)	携帯砥石	K	SD01			下層	33	35	27		47					
S143	02s1石15	凝灰岩	石臼	M2	SD10					95	320	上部直径232 最大径(推定)438	1683.9					
S144	03b2石16	蛇紋岩	小型石鍋	T	SD05	V-W29	東部					口径67 底径66 器高37.5				銀灰	銀灰	SE03かも
S145	03b2石5	砂岩	砥石	T	SD21	Z27・28	S		124.5	61	30.1		406.5					

第7表 金属製品一覽1

報告番号	実測番号	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量(mm,g)				備考		
								最大長	最大幅	最大厚	その他	重量		
M13	金271	鑿	M2	SD11			下層	176	24.2	7			柄はW759	

第8表 木製品一覽1

報告番号	試料番号	実測番号	器種	樹種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量(mm,g)				備考	
										最大長	最大幅	最大厚	その他		
W701	2	2	漆器椀	トチノキ	E	SD19						口径144 底径74 器高67		黒漆、内外面に赤色漆絵、高台裏にロクロ爪跡	
W702	186	186	下駄歯	スギ	F	SD09	J			143	(144.5)	25.5		溝は古墳時代か	
W703	185	185		スギ	F	SD09	J			165	94	34		溝は古墳時代か	
W704	187	187	田下駄?	スギ	F	SD09	J			468	183	24		溝は古墳時代か	
W705	192	192	下駄	アスナロ	M1	SD13				127	67.6	37			
W706	374	02s374	鑿柄	サカキ	M2	SD01		東落ち込み		111	30.5	30.5		SD01となっているが別遺構(SD01東の落ち込み)	
W707	920	03m44	檜扇か	アスナロ	M3	SD05	J25			228	33	2.5			
W708	916	03m40	漆器椀	トチノキ	N2	SD03	K21					口径138 底径71 器高41.5		黒漆	
W709	917	03m41	漆器椀	ケヤキ	N2	SD03	K22					底径(95) 器高(52)		黒漆、高台裏は露胎	
W710	918	03m42	木片	スギ	N2	SD03	K22			96	29			逆心葉形	
W711	957	03m81	土木部材	アカガシ亜属	S3	SD02		南木-5		398	50	34			
W712	945	03m69	土木部材	スギ	S3	SD02		南木-9		741	111	29			
W713	834	03m34	土木部材	スギ	S3	SD02		南木-10		1259	450	46	方孔3、中心の孔は大小の方孔2つがくつつく	出土状況等から、SD02に伴うものと思われる。C14結果は5~6Cだったが、サンプルの問題か	
W714	946	03m70	土木部材	スギ	S3	SD02		木-13		522	261	27			
W715	947	03m71	土木部材	ヨナラ節	S3	SD02		木-14		925	91	76			
W716	948	03m72	土木部材	サクラ属	S3	SD02		木-15		462	100	87			
W717	731	03k2木7	漆器椀	ケヤキ	T	SD01		X28区西部				口径146 底径76 器高56			
W718	732	03k2木8	目盛板	スギ	T	SD01		X28区西部		(172)	21	8			

第4節 井 戸

A 1 区SE01 Y・Z29グリッドに位置する。SD04・05と錯綜し、掘り方平面形が明確でないが、長径2.4m、短径2.2m程度の平面不整楕円形になると思われる。深さは約120cmを測る。深さ約50cmで、1辺約70cmの縦板組隅柱横棧留の井戸側を検出した。時代を決定できるような遺物は見られなかったが、埋土の状況などから中世の井戸と思われる。なお、掘り方下部から、土師器や須恵器などが出土したが、実際はSD04・05に伴う遺物だと思われる。

A 1 区SE02 AA29グリッドに位置する。直径1.6m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さはおよそ150cmを測る。深さ約110cmで、2段に積まれた曲物製井戸側の上端を確認した。土層断面の状況を見ると、その上にもう1段曲物が積まれていたと思われる。なお、上段の曲物は径48cm、高さ26cm、下段の曲物は46cm、高さ22cmを測る。上段の曲物中から石が検出された。井戸廃棄時に棄てられたものであるか。5141は珠洲焼片口鉢で、内面に10条1単位のやや粗めの卸目が施されており、恐らく室町時代の所産と思われるW719は曲物製井戸側である。

A 2 区SK24 AC26グリッドに位置する。直径1.4m程度の平面不整円形プランの掘り方で、深さは103cmを測り、底部は播鉢状を呈する。覆土に炭や焼土を含む。12世紀末～13世紀前半の遺物が出土しており、土師皿5142～5144について図化を行った。

A 3 区SE04 AG24グリッドに位置する。長径2.09m、短径1.80mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは182cmを測るが、湧水による崩落を防ぐため、遺構下部の一部は完掘していない。井戸側は2段に積まれた曲物で、上段の曲物は長径69cm、短径59cm、高さ67cmを測る。掘り方からは13世紀代の遺物が出土している。5145は珠洲焼片口鉢で、内面に6条1単位の卸目が施されている。W720は漆器椀で、内外面とも黒漆塗りで、畳付けは内側を削り込むことで作り出している。W721は箸。断面は六角形。

A 3 区SE05 AF・AG23～24グリッドに位置する。一辺約1.7mの平面隅丸方形プランの掘り方を持つ。深さは107cm以上で、湧水による崩落を防ぐため完掘できていない。一辺約0.75mの縦板組隅柱横棧留の井戸側と、直径50cm程度を測る水溜の曲物を確認した。遺構の詳細な時期を明確にできる遺物は出土しなかったが、方位や埋土の状況などから中世に属する遺構と判断した。横かませ板W722を図化している。

A 3 区SE07 AG23グリッドに位置する。直径約2mの平面円形プランの掘り方を持つ。深さは148cmを測るが、遺構下部については完掘できていない。深さ1mほどの地点で、直径約50cm、高さ36cmの井戸側の曲物の上端を検出した。

A 3 区SE08 AG24グリッドに位置する。直径約1.8mの平面円形プランの掘り方で、深さは126cmを測る。深さ約70cmで曲物製井戸側の上端を検出した。曲物は2段分遺存していた。上段の曲物は傾いており、長径55cm、短径47cm、高さ33cmを測る。また、下段の曲物は径46cm、高さ34cmを測る。

A 3 区SE09・17 AF23グリッドに位置する。同位置で作り替えられている井戸である。どちらも径1.8m程度の掘り方を持つと思われる。新旧関係は、SE17がSE09に先行するようである。なお、SE17はA4区にも同一名称の井戸が存在しており、紛らわしいが、調査区の違いで区別できることから、遺構名は調査時のままとしている。

SE17は、縦板組横棧留の井戸側を持つ。井戸側は一辺約0.9mの方形で、深さ約50cmの地点から検出し、一部について実測を行っている。W723～725は下段の横棧材。W725～729は縦板材。また、深さ約190cmで水溜の曲物も確認できたが、取り上げることができなかった。なお、南西辺の縦板2点

について年輪年代を計測しており、1点は年代不明だったものの、残りの1点についてはA.D.1206年の伐採年を得ることができた。12世紀末～13世紀前半を中心とする時期の遺物が出土しており、土師皿5146を図化している。

SE09は、深さは164cm以上を測り、曲物製の井戸側を2段分検出した。上部の曲物は直径47cm、高さ18cm、下部の曲物は直径38cm、高さ36cmを測る。

A 3 区SE10 AI23グリッドに位置する。調査区端にかかるため、一部完掘できていないが、直径1.9m程度の平面円形プランの掘り方を持つと思われる。深さは180cmを測る。掘り方の中央付近から直径60cm程度の曲物製井戸側を検出した。珠洲焼や白磁の小片などが出土している。

A 3 区SE11 AG・AH22～23グリッドに位置する。湧水による崩落のため、完掘できていない。一辺3.0m程度の平面隅丸方形プランで、深さは160cm以上。深さ約60cmの地点で縦板組隅柱横棧留の井戸側を検出し、深さ約140cmの地点で曲物製の水溜の上端が検出された。縦板は東辺しか残存を確認できなかったが、横棧材より井戸側の内法は80cm程度と復元される。また、横棧の北辺は確認できなかった。

A 3 区SE12 AH23グリッドに位置する。湧水による崩落のため、完掘できていない上、断面図などの実測も行えなかった。長径3.5m、短径2.8mの平面不整楕円形プランの掘り方を持つ。井戸側は縦板組横棧留で、かつ曲物の水溜を伴うが、縦板材の残りが悪く、南辺に僅かに残っているのみである。また、井戸側全体が土圧により変形しているが、残存する横棧材から復元される井戸側内法は70～80cm程度であると思われる。内側の曲物は50cm以上の高さがあったが、井戸底までは掘削し切れていない。13世紀代の遺物が出土しており、土師皿5147を図化している。

A 3 区SE13 AH22～23グリッドに位置する。長辺1.96m、短辺1.76mの平面略円形プラン。深さは136cm以上。井戸側は縦板材の残存は確認できなかったが、縦板組横棧留と見られる。水溜の曲物の残存は見られなかった。深さ76cm程度で横棧材を検出したが、湧水による崩落のため、詳細な記録を残せなかった。13世紀代の遺物が出土している。5148・5149は土師皿。5148は体部が内湾して立ち上がる。5149は底部から外反して立ち上がった体部外面をヨコナデし、口縁部を外側に引き出している。W730～W734は箸。断面形態には四角形、五角形、六角形がある。

A 3 区SE14 AI22グリッドに位置する。長径2.23m、短径1.71mの平面不整楕円形プランの掘り方を持つ。深さは125cm以上で、湧水による崩落のため、完掘できていない。掘り方の中央やや南寄り縦板組隅柱横棧留の井戸側と水溜の曲物を検出した。縦板材は北・西辺に比べて南・東辺の材の残りが悪い。北・西辺の長さはそれぞれ73cm、78cmであった。また、横棧材は北・東辺では残存していなかった。西辺では2枚の棧を検出した。補修用の棧も含んでいるのであろうか。曲物は土圧により著しい変形が見られたが、直径63cm程度に復元されようか。

掘り方内からは、概ね12世紀末～13世紀前半代の遺物が出土しており、5150の土師皿と箸W735について図化を行っている。なお、第3節第4表でSD63 (SE14)、或いはSD68 (SE14) 出土と紹介した土師皿5016～5020は、遺構境で検出されており、実際はSE14に属するものと考えている。

A 3 区SE15 AH22・23グリッドに位置する。湧水による崩落のため、完掘できていない。長径2.79m、短径2.0mの平面不整形プランの掘り方を持つ。縦板組隅柱横棧留の井戸側と水溜の曲物を検出した。北西角の隅柱は上部が折れ、下部のみが残存する状況で検出された。また、縦板は北辺に僅かに残るのみで、他辺では残存していなかったが、残存する横棧から、井戸側の内法は一辺80cm程度と復元される。また、曲物は深さ約160cmで上端を検出し、直径60cmを測った。概ね13～14世紀に属する遺物が出土している。5151～5154は土師皿。5152のみ15世紀後半～16世紀前半頃の所産と見られ

るが、他の出土遺物の時期を鑑みると、上位層などから混入したとも考えられる。5155は珠洲焼の瓶で、体部外面に櫛目による波状文が施し、外底面に静止糸切り痕を残す。また、木製品では杓子W736と箸W737～W744について図化を行った。W736は身が浅く窪んでいる。頸部で折れており、柄の残存は見られなかった。また、箸の断面には四角形、五角形、六角形と円形が見られる。

A 3区SE16 AG24グリッドに位置する。長辺1.84m、短辺1.7mの平面略円形プランの掘り方を持つ。掘り方の中央、深さ96cmの地点から曲物製井戸側の上端を検出した。曲物は2段積みで、上部の曲物は直径約60cmを測る。また、遺構検出面から、下部の曲物の底までの深さは約180cmを測る。出土遺物の年代は13世紀代に属する。5156は土師皿で、口縁端部を引き上げられて尖り気味になっている。W745は黒漆塗りの漆器椀で、畳付けは内側を削り込んで短いものを作り出している。W746はつけ木。W747～750は箸で、断面形は四角形である。

A 4区SE17 AM19グリッドに位置する。なお、SE17はA 3区にも同一名称の井戸が存在しており、紛らわしいが、調査区の違いで区別できることから、遺構名は調査時のままとしている。長径89cm、短径83cmの平面略円形プランの掘り方で、深さは73cmを測る。内部には側材も残存しておらず、小規模だが、埋土や湧水等の状況から中世の井戸と推定した。

A 4区SE18 AK20グリッドに位置する。掘り方上部は長径2.0m、短径1.5m程度を測る平面不整楕円形プランで、段掘り状の掘り方を持つ。掘り方下部は短径1.5m程度の平面円形プランを呈する。深さは102cmを測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や湧水等の状況から中世の井戸とした。

C 2区SE01 Y16グリッドに位置する。調査区端にかかり、遺構西側が掘りきれいていないが、楕円形プランになろうか。掘りきれた部分の直径は1.44mを測る。深さは76cmで、掘り方中央部の底部で曲物製井戸側を検出した。直径46cm、高さ33cmを測り、曲物の内部から2つ、上部から1つの石を検出した。井戸の廃棄に伴うものと思われる。

C 8区SE01 AC・AD15グリッドに位置する。調査区端にかかり、一部しか掘削できていない。掘削した部分での長径は3.8m程度で、深さは66cmを測る。時期を決定できるような遺物は見られなかったが、埋土や規模、湧水などから、中世の井戸と思われる。

E区SE01 H・I 24グリッドに位置する。長径3.58m、短径3.5mの平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは119cm以上。SD01に切られる。深さ40cm以下の部分から部材を複数検出した。井戸側材であった可能性もあろうか。部材には臍孔や、臍をつけたものも見られた。出土遺物は概ね12世紀後葉～13世紀のものが見られる。5157～5161は土師皿。5157・5158・5160は口縁端部を面取りしている。また、5159は13世紀後葉～14世紀前葉の所産と思われ、他の出土遺物の時期よりやや新しい。木製品では部材W751について図化を行っている。

E区SE02 H25グリッドに位置する。調査区端にかかり全掘できていないが、直径2.65m程度の平面円形プランの掘り方を持つと思われる。深さは90cmを測る。深さ約70cmで、曲物製井戸側の上端を検出した。12世紀後半～13世紀前半の遺物が出土しており、口縁端部を面取りした土師皿5162について図化を行った。

E区SE03 T29グリッドに位置する。調査区端にかかっているため、完掘できていない。掘削した部分での直径は1.07m、深さは71cm以上を測る。曲物が2段遺存していた。出土遺物は概ね13世紀代のもので占められていたが、図化を行った土師皿5163は、15世紀後半代の京都系のものと考えられ、上位層などから混入したとも考えられる。

E区SE07 記載漏れなのか、図上ではその位置を確認できないが、写真が残されており、曲物製井

戸側の遺存が確認できる。また、図化を行っていないが土師皿も出土している。

F区SE01 J23グリッドに位置する。直径0.75m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは136cmを測る。小規模だが、底部に径60cm、高さ54cmの曲物製井戸側1段分が設置されていた。

F区SE02 M24グリッドに位置する。調査区端にかかったため、一部掘削し切れなかった。長径2.0m以上、短径1.87mの平面楕円形プランを持つ。深さは152cm以上。井戸側は縦板組隅柱横棧留で、一辺約75cmの方形をとる。

F区SE05 I23グリッドに位置する。平面楕円形。湧水による崩壊で、断面図の実測に至らなかった。長径2.64m、短径2.25mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは105cmを測る。12～13世紀の遺物が出土しており、青磁碗5164と鳥型W753、箸W754～W756について図化を行っている。なお、図化を行っていないが、底部に糸切り痕が残るロクロ成形の土師器の塊や皿も見られた。

F区SE07 R28～29グリッドに位置する。F区SD028に切り込まれている。直径2m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは87cmを測る。

F区SE09 I22～23グリッドに位置する。調査区端にかかっており、全体を検出できていないが、直径2.0m前後の平面略円形プランの掘り方になると思われる。深さは52cmを測る。箸W757～W759について図化を行っている。

F区SE10 Q・R26グリッドに位置する。長径1.36m、短径1.17mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。側材も残存しておらず、井戸側を抜き取った形跡も見られないことから、素掘りの井戸と思われる。また、時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や湧水などの状況から中世の井戸とした。

F区SE11 I22グリッドに位置する。直径1.7m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは171cmを測り、底部には曲物が設置されていた。曲物内中央には凹み石が置かれていた。また深さ約90cmの第6層土から骨が出土した。13世紀前半頃の遺物が出土しており、口縁端部を面取りした土師皿5165・5166について図化を行った。

G区SE01 W27グリッドに位置する。直径1.3m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは127cmを測る。明確な時期のわかる遺物は出土していないが、埋土や湧水等の状況などから中世の井戸と判断した。

G区SE02 W27グリッドに位置する。直径1.0m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは77cmを測る。明確な時期のわかる遺物は出土していないが、埋土や湧水等の状況などから中世の井戸と判断した。

G区SE03 V・W27グリッドに位置する。長径1.08m、短径0.88mの平面楕円形プランを持つ。深さは99cm以上を測るが、完掘できていない。古墳時代の溝SD14を切る。

H1区SE01 AI・AJ21～22グリッドに位置する。長径3.13m、短径2.91mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さ76cm以上。井戸側材の遺存は見られなかった。12世紀後葉～13世紀前葉の遺物が出土しており、このうち土師皿5168について図化を行った。

H1区SE02 AI22グリッドに位置する。直径1.8m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは107cmを測るが、底まで完掘していない。掘り方中心からやや南よりの深さ約60cmの地点から、2段積みされた曲物製井戸側を検出した。

M1区SE01 L26グリッドに位置する。長径0.87m、短径0.72mの平面楕円形プランの小規模な掘り方を持つ。深さは65cm以上を測る。掘り方の上～中部で多量の炭や遺物が混入しており、井戸の廃絶時にこれらが廃棄された状況がうかがえる。出土遺物には14～15世紀のものが見られ、須恵質陶器の

三筋壺5169、珠洲焼片口鉢5170、加賀焼甕5171について図化を行った。5170は緻密な卸目が施されている。5171は体部に菊花文と格子文を組み合わせたスタンプ文が施されている。

M1区SE02 L26グリッドに位置する。長径2.38m、短径2.15mの平面楕円形プランの掘り方を持ち、深さは120cm以上を測る。掘り方の中央部で、直径36cmの曲物製井戸側の上端を検出した。掘り方からは13～14世紀の遺物が出土している。土師皿5172、加賀焼甕5173、曲物底板W761・762、箸W763、銅銭（景德元寶）M14を図化した。

M1区SE03 L27グリッドに位置する。長径0.8m、短径0.64mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さ56cm以上。側材が遺存しておらず、掘り方も小規模ではあるが、まとまった湧水が見られるため井戸とした。

M1区SE04 L27グリッドに位置する。長径1.05m、短径0.78mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは63cm以上を測る。側材が遺存しておらず、掘り方も小規模だが、まとまった湧水が見られるため井戸とした。15世紀代の遺物が出土しており、土師器灯明皿5174を図化した。

M1区SE05・07 同位置で作り替えられた井戸。L27グリッドに位置する。古い段階のものがSE07で、新しい段階のものがSE05である。

SE07は深さ70cm以上を測る。珠洲焼の合子5175と曲物底板W765について図化を行った。SE05は長径1.31m、短径1.08mの楕円形プランの掘り方を持ち、深さは74cm以上。土師器や珠洲焼片が出土しているが、小片で、詳細な時期は明確でない。

M1区SE06 L26グリッドに位置する。直径1.5m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは66cm以上を測るが、完掘できていない。時期を明確にする遺物の出土は見られなかったが、埋土や湧水等の状況などから中世に属するものと判断した。SD04に切り込まれている。曲物底板W764を図化している。

M1区SE08 M27グリッドに位置する。長径0.89m、短径0.75mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは62cm以上を測る。側材も残存しておらず、小規模だが、湧水や埋土の状況などから中世の井戸とした。

M1区SE09・10 N・O25グリッドに位置する。作り変えの関係にあると思われ、土層の状況からSE09がSE10より新しいことがわかる。SE09は長辺1.54m、短辺1.27mの平面隅丸長方形プランを持つ。深さは66cm以上。図化できなかったが、珠洲焼の体部片が出土している。SE10は、長径1.77m、短径1.46mの平面不整楕円形プランを持つ。深さ81cmを測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、湧水や埋土の状況等から中世の井戸としている。

M1区SE11 M26～27グリッドに位置する。直径0.9m程度の略円形プランの掘り方を持つ。深さは50cm以上。側材は遺存していないが、湧水や埋土の状況等から中世の井戸とした。

M1区SE12 M27グリッドに位置する。長径0.8m、短径0.64mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さ40cm以上を測るが、湧水による崩落を防ぐために完掘に至らなかった。明確な時期のわかる遺物は出土しなかったが、埋土や湧水等の状況などから中世の井戸と判断した。曲物底板W766を図化している。

M1区SE13 M27グリッドに位置する。一辺80cm程度の平面隅丸方形プランの掘り方を持つ。深さ77cm以上を測る。側材の遺存もなく、掘り方も小規模だが、湧水の状況等から井戸とした。

M1区SE14 N26グリッドに位置する。長径0.93m、短径0.74mの平面楕円形プランの掘り方をもつ。深さは60cm以上を測る。ピットとSD05を切り込んでいる。側材が遺存せず、掘り方も小規模だが、埋土や湧水の状況等から井戸とした。

M 1 区SE15・16 ほぼ同位置で作り替えられている井戸で、N26グリッドに位置する。土層断面の観察より、SE16がSE15よりも古い段階のものと判別できた。双方の出土遺物の年代から見て、比較的短期間で井戸を作り替えたようである。

SE16は一辺80cm程度の隅丸方形プランの掘り方を持つと思われ、深さは67cm以上を測る。多くの遺物が混在する第8層の炭灰層からは、井戸の廃絶時に様々なものを廃棄した様子がうかがえる。13世紀後半～14世紀前半の遺物が出土している。5178は土師皿で、口縁端部を面取りしているが、面取りが甘くなっている。

SE15は直径約110cmの円形平面円形プランの掘り方を持つ。深さは50cm以上を測る。13～14世紀の遺物が出土している。珠洲焼の甕5176と、片口鉢5177の図化を行った。5177は内面に12条1単位の卸目が施されている。Ⅲ～Ⅳ期。

M 1 区SE17 M・N26グリッドに位置する。直径約1.9mの平面略円形プランの掘り方を持ち、掘り方下位で、曲物を検出した。なお、木質は残っていないが、深さ約20cmの辺りで直径約50cmの円形の変色プランが確認できており、土層断面の状況とも併せて、この辺りまで曲物製井戸枠が設置されていたことがわかる。13～14世紀代の遺物が出土している。5179は土師皿で、口縁端部を面取りしている。5180は珠洲焼片口鉢で、内面には9条1単位の卸目を施した上に、横位の波状文が重なって施されている。Ⅲ～Ⅳ期。また、SK21出土の安山岩製行火S150と接合可能な破片も出土している。

M 1 区SE18 N26グリッドに位置する。直径1.6m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは56cm以上で完掘できていない。掘り方中央部に、後から埋まったような範囲があり、井戸側が存在した可能性もある。13世紀代の遺物が出土しており、土師皿5181・5182を図化した。5181は口縁端部を面取りしている。5182は内湾して立ち上がる体部外面に1段のヨコナデを施している。

M 1 区SE20 N27グリッドに位置する。直径80cm程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは60cm以上を測る。壁面がオーバーハングした部分がある断面袋状の掘り方である。

M 1 区SE21 N27グリッドに位置する。長径0.78m、短径0.56mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは51cmを測る。埋土や湧水等の状況などから、中世の井戸と思われる。時期を決定できるような陶磁器類は出土しなかったが、黒漆塗りの漆器碗W767と粘板岩製の硯S146を図化した。

M 1 区SE22 N27グリッドに位置する。長径1.18m、短径0.94mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは74cm以上を測る。湧水や埋土の状況などから中世の井戸とした。

M 1 区SE23 N27グリッドに位置する。長径1.19m、短径1.07mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは120cm以上を測る。湧水や埋土の状況などから中世の井戸とした。

M 1 区SE24 N27グリッドに位置する。長径1.4m、短径1.06mの平面不整楕円形プランの掘り方を持つ。深さは95cmを測る。土層断面の状況から、井戸側は抜き取られたのではなく、側の腐朽に伴って土砂が流入、堆積したと思われる。

M 1 区SE25 N27グリッドに位置する。長径1.34m、短径1.12mの隅丸長方形プランの掘り方を持つ。深さ55cmを測る。崩落のため、断面図の実測には至らず、写真のみ残る。

M 1 区SE26 N27グリッドに位置する。SK33・SE27、M 2 区SK06と切り合っており、長径1.8m程度、短径約1.2mの平面楕円形プランの掘り方を持つと思われる。深さ62cmを測る。出土遺物は小片で、実測に至らなかったが、珠洲焼等が出土している。

M 1 区SK04 L27グリッドに位置する。長径1.6m程度、短径1.5mの平面楕円形プランの掘り方を持ち、深さは113cmを測る。埋土は他と比して特に黒みを強く帯びており、深さ30cm程度まで暗褐色土、以下は黒色砂粘質土であったが、湧水による崩落のため、断面図の実測までには至らなかった。時期

を決定できるような陶磁器類は出土しなかったが、掘り方より編物が検出されている。また、漆器蓋W768を図化した。内外面とも黒漆塗りの地に、赤漆で鶴丸文を3つずつ描いている。

M 2 区SE01 Q28グリッドに位置する。調査区端にかかるため、完掘できなかった。円または楕円形プランになるだろうか。直径2.25mを測る。深さは88cm。

M 2 区SE02 Q27グリッドに位置する。直径0.70mの平面円形プランの掘り方で、深さは101cmを測る。時期を決定できるような陶磁器類は出土しなかったが、漆器皿W769、漆器椀W770を図化した。両者とも内外面黒漆塗りである。

M 2 区SE03 P28グリッドに位置する。調査区端にかかり、僅かに掘りきれしていないが、直径0.70m程度の平面円形プランの掘り方を持つと思われる。深さは52cm以上で、底まで完掘していない。

M 2 区SE04 P28グリッドに位置する。直径0.9m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは64cmを測る。側材も残存しておらず、小規模だが、小型の井戸であろう。

M 2 区SE05 P27グリッドに位置する。長辺約0.9m、短径0.80mの平面隅丸長方形プランの掘り方を持つ。深さは72cm以上を測る。覆土に炭化物を含む。13世紀後葉～14世紀前葉の遺物が出土しており、土師皿5183・5184について図化を行った。どちらも平底の底部から外反して立ち上がる体部の外面をヨコナデし、口縁部を外側に引き出している。また、底部から体部にかけて指押さえによる調整を施している。

M 2 区SE06 O・P28グリッドに位置する。掘り方は長径0.89m、短径0.67mの平面楕円形プランで、深さは60cm以上を測る。側材も残存しておらず、小規模だが、小型の井戸であろう。

M 2 区SE07 P28グリッドに位置する。長径0.87m、短径0.60mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは55cmを測る。覆土に炭化物を含む。15～16世紀の遺物が出土している。5185は土師皿。口縁部に油痕を残しており、灯明皿と思われる。5186は越前焼播鉢で、内面に12条1単位の卸目が施されている。

M 2 区SE08 P27グリッドに位置する。一辺0.9～1.1m程度の平面隅丸方形プランの掘り方を持つ。深さは71cm以上を測る。

M 2 区SE09 O27～28グリッドに位置する。直径1.0m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは63cmを測る。出土遺物には14世紀後半～15世紀前半のものが見られ、土師皿5187と、包丁柄W771について図化を行っている。

M 2 区SE10・11 同位置で作り替えられた井戸。O27グリッドに位置する。新しい段階の井戸SE10は、一辺0.65m程度の平面隅丸方形プランの掘り方を持つ。深さは74cm以上を測る。古い段階の井戸SE11は、直径0.7m程度で、平面円形または楕円形プランだと思われる。深さ74cm以上を測る。いずれも掘り方の規模は小さいが、湧水等の状況から、井戸とした。

M 2 区SE12 O27グリッドに位置する。長径1.16m、短径0.93mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは79cm以上を測るが、完掘していない。掘り方から竹を検出した。時期を決定できるような陶磁器類は見られなかったが、漆器椀W772を図化している。内外面黒漆塗りで、見込みと外面の計3箇所朱で○と1文字を組み合わせた文様が施文されていた。また、外底部には刃物でつけられたと思われる痕跡が残る。

M 2 区SE13 N27グリッドに位置する。直径0.6m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは66cm以上を測る。

M 2 区SE14 O27グリッドに位置する。直径0.7m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは88cm以上を測る。

M 2 区SE16 O27グリッドに位置する。長径0.95m、短径0.74mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。

深さは64cmを測る。湧水による崩落で、断面図の実測ができなかった。14世紀後半～15世紀前半の遺物が見られた。5188は珠洲焼片口鉢で、口縁端部に波状文が施されている。V期。

M 2 区SE17 O27グリッドに位置する。長辺2.16m、短辺1.92mの平面隅丸長方形プランの掘り方を持つ。深さは108cm以上を測る。12世紀末～13世紀の遺物が出土しており、口縁端部を面取りした土師皿5189と、青磁碗5190について図化を行った。

M 2 区SE18 O26～27グリッドに位置する。長辺1.28m、短辺1.1mの平面隅丸長方形プランの掘り方を持つ。深さは76cm以上を測る。側材の残存は見られないが、埋土や湧水等の状況から中世の井戸と思われる。

M 3 区SE01 K24グリッドに位置する。直径約2.1mの平面円形プランの掘り方を持つ。深さは73cmで、近世の井戸とみられる。SD13とSD22を切り込む。

M 3 区SE02 J・K26グリッドに位置する。長径2.71m、短径2.22mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さ154cm。中央東寄りに曲物製井戸側が設置されていた。曲物は直径約56cm、高さ57cmで、周囲を薄い縦板状の板が囲んでいた状況が観察された。縦板は曲物の補強に使われたのであろうか。13～15世紀前半の遺物が出土しているが、14世紀後半のものが多い。土師皿5191・5192、井戸側西辺の縦板W773について図化を行っている。

M 3 区SE03 L25～26グリッドに位置する。直径1.0mの平面円形プランの掘り方を持つ。深さは83cm以上を測るが、湧水による崩落を防ぐため、底まで掘りきっていない。側内からは概ね14世紀代の遺物が出土しており、土師皿5193、珠洲焼片口鉢5194、白磁碗5195について図化を行った。この他に、焼け焦げた珠洲焼片口鉢片が出土している。

M 3 区SE04 J・K26グリッドに位置する。直径約1.1mの平面円形プランの掘り方を持つ。深さは77cm以上を測るが、湧水による崩落を防ぐため完掘していない。SK03の北東角を切り込んでいる。掘り方の中央やや西寄りに、曲物製の水溜を設置していた。また、曲物の北側と西側の一部で縦板が残存していたことから、縦板組の井戸側を伴っていたと思われる。側内からは14～15世紀の遺物が出土しており、珠洲焼片口鉢5196、漆器皿W774について図化を行った。W774は内外面黒漆塗りで、低い高台の内側を削り込んで短い畳付けを作り出している。このほか小片だが土師皿や焦げた珠洲焼片口鉢も見られた。

M 3 区SE06 I 25～26グリッドに位置する。長径1.91m、短径1.23mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは約120cmを測る。弥生時代の溝SD42と、土坑SK16を切り込んでいる。井戸側は掘り方の南西寄り下部で、縦板組隅柱横棧留の下段と曲物の水溜を検出した。縦板と隅柱は南東角側に僅かに残っていたのみであった。井戸側内からは、遺物とともにイヌの骨が出土した。何らかの井戸祭祀に関わるものであろうか。珠洲焼壺5197、青磁鉢5198、井戸側W775、箸W776について図化を行っている。

M 3 区SE07 I 25グリッドに位置する。激しい湧水のため、写真測量を待たずに隣接するSK18ともども大規模な周壁の崩落を見た。直径0.9m程度の掘り方を持つ。掘り方下部から腐植物とともに箸など木製品が多数出土した。また、10・11層の灰色粘質土層以下から蜆などからなる貝層を検出した。13世紀前半を中心とした時期の遺物が出土している。土師皿5199、漆器碗W777、付け札状木製品W778、曲物底板W779、箸W780～786、刀子M15を図化した。

M 3 区SK22 (SK06) I 24グリッドに位置する。掘削当初、掘り方の上部のみをSK06と認識し、その後の補足調査において、曲物製井戸側を持つ掘り方下部をSK22として検出したが、検討の結果、両者が同一遺構であることが判明した。曲物は直径73cmを測る。また、小片で図化には至らなかったが、12世紀後葉～13世紀前半代のものと思われる土師皿が出土している。

N 1 区SE01 T28～29グリッドに位置する。調査区端にかかり、若干掘りきれしていない部分があるが、直径2.0m程度の平面略円形プランの掘り方を持つと思われる。また、深さは63cm以上を測るが、底まで掘り切っていない。溝SD05に切り込まれる一方、溝SD07を切り込んでいる。時期を明確にできる陶磁器類は出土しなかったが、木錘W788について、C14年代測定（AMS法）を実施しており、更正暦年代でA.D.1180年の値を得た。

N 1 区SE02 S28グリッドに位置する。長径1.01m、短径0.90mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは66cm以上を測るが完掘していない。SD04を切り込む。

N 1 区SE03 S27グリッドに位置する。長径1.2m程度、短径1.08mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは64cm以上を測るが底まで完掘していない。SD04を切り込む。

N 1 区SE04 T28グリッドに位置する。直径1.24m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは91cmを測る。深さ30cm程度の地点で、壁面がオーバーハングしている箇所がある。

N 1 区SE05 V26グリッドに位置する。長径2.04m、短径1.88mの平面略円形プランの掘り方を持つ。掘り方内部は段状に掘られている。深さは123cmを測る。13世紀前半代の遺物が出土しており、土師皿5200・5201、木製品W789～791を図化した。

N 1 区SE06 S27グリッドに位置する。長径0.98m、短径0.75mの平面楕円形プランで、深さ63cmを測る。小規模な掘り方だが、湧水が見られることから井戸とした。

N 1 区SE07 V26グリッドに位置する。直径1.05m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは84cm。1層の暗赤褐色土層からは大粒の炭が含まれているのが見られた。時期を決定できるような陶磁器類は見られなかったが、杓子W792、下駄W793・794を図化した。W792は身の周縁を薄く作り、頸部の幅を次第に狭めて短い柄を作り出している。

N 1 区SE08 T24グリッドに位置する。直径0.7m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは64cm以上を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や湧水等の状況から中世の井戸とした。

N 1 区SE09 S24グリッドに位置する。直径0.9m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは64cm以上を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や湧水等の状況から中世の井戸とした。

N 1 区SE10 S24グリッドに位置する。一辺1.1m程度の平面隅丸方形プランの掘り方を持つ。深さは62cm以上を測る。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や湧水等の状況から中世の井戸とした。

N 2 区SE01 I・J22グリッドに位置する。調査区端にかかっており、一部完掘できていないが、直径1.5m程度の平面略円形プランの掘り方を持つと思われる。深さは128cm以上を測る。掘り方の東側から曲物製井戸側を3段分検出した。上段の曲物は、西側のおよそ1/3が腐朽していた。残存高は26cmを測る。中段の曲物は、W795として図示した。下段の曲物は高さ20cm以上を測るが、底まで確認できていない。なお、小片で図化に堪えなかったが、土師皿と加賀焼の体部片が出土している。

N 2 区SE03 M23グリッドに位置する。直径2.3m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは134cmを測る。縦板組隅柱横棧留の井戸側を検出した。

N 2 区SE101 N23グリッドに位置する。直径1.3mの平面円形プランの掘り方を持つ。深さは74cmを測る。溝SD06を切り込む。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や湧水等の状況から中世の井戸とした。

N 2 区SE102 O24グリッドに位置する。直径1.23mの平楕円形プランの掘り方を持つ。深さ68cm以

上を測る。掘り方の上部で複数の石を検出した。井戸廃絶時に廃棄されたものと思われる。13世紀前半代の遺物が出土しており、口縁端部を面取りした土師皿5202について図化を行っている。

N 2 区SE103 Q24グリッドに位置する。西側の掘り方が段状に掘られている。遺構検出面で直径1.3m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは66cm以上を測る。掘り方中央部で、縦板組横棧留の井戸側と、水溜の曲物が検出された。井戸側は残存する横棧材から、一辺70cm程度の内法を持つと思われる。曲物は直径60cm程度を測る。出土遺物は13世紀前半代の所産で、そのうち土師皿5203について図化を行っている。

N 2 区SE104 Q24グリッドに位置する。長径1.06m、短径0.85mの平面隅丸長方形プランの掘り方を持つ。深さは88cmを測る。小片で図化しなかったが、13世紀前半代の遺物が出土している。

N 2 区SE105 Q24グリッドに位置する。直径1.2m程度の平面不整形円形プランの掘り方を持つ。深さは109cmを測る。掘り方内部は段掘り状になっている。図化できなかったが、青磁片が出土している。

N 2 区SE106 Q24グリッドに位置する。直径1.12mの平面円形プランの掘り方を持つ。深さは113cmを測る。北側でピット1基を切り込む。時期を決定できるような遺物の出土は見られなかったが、埋土や湧水等の状況から中世の井戸とした。

N 2 区SE107 Q25グリッドに位置する。SD110に切り込まれている。直径1.2m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは70cmを測る。図化できなかったが、青白磁の小片が出土している。

N 2 区SK105 Q24グリッドに位置する。平面楕円形プランの掘り方を持つ。土層観察時に、井戸側の木質が置き換わった土と思われる灰色粘土層（6層）を確認したことから、井戸とした。掘り方は2段掘り状になっているが、掘り方の上部は削平のために失われていると思われる。遺構検出面での長径1.89m、短径1.58mの平面楕円形プラン、下段の掘り方は長径0.7m、短径0.63mの平面略円形プランで、深さは68cmを測る。

O 2 区SE01 X25グリッドに位置する。直径2.5m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは121cm以上を測る。SD12と切り合う。出土遺物は土師皿、珠洲焼、青磁など13世紀代のものが見られる。5204は土師皿で、口縁端部を面取りする。5205は珠洲焼甕。5206は同安窯系の青磁碗で、内面に櫛による条線文やジグザク文、外面にも櫛による条線文が見られる。5207は劃花文青磁碗。内面に草花文が施され、沈線が巡る。W796は曲物で、3箇所木釘が残っている。M16は刀子である。また、小片で図化に至らなかったが、口縁端部を面取りした土師器小皿、白磁なども出土している。

Q 2 区SE11 AF・AG21グリッドに位置する。古墳時代前期の建物周溝SD67Nを切り込む長径1.1m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは88センチを測る。掘り方中位で腐植物層が広がっている。

Q 2 区SE13 AG22グリッドに位置する。調査区端にかかり、完掘できていない。直径1.55m程度の平面円形プランの掘り方になるだろうか。深さ120cmを測る。掘り方の底部で、2段積みされている曲物製井戸側が検出された。なお、下段の曲物について年輪年代測定が実施されており、A.D.1191年の伐採年が得られている。

Q 2 区SE14 AE・AF22グリッドに位置する。直径2.05m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは120cmを測る。

T 区SE01 V30グリッドに位置する。一辺2.0m程度の平面隅丸長方形プランの掘り方を持つ。深さは95cm以上を測る。出土遺物には、口縁端部を面取りしていない土師皿、珠洲焼のほか、平安初期の須恵器も見られた。

T 区SE02 V29～30グリッドに位置する。直径1.9m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは82cm以上を測る。出土遺物は少量だが、13世紀代の口縁端部を面取りする土師皿が見られた。

T区SE03 V29グリッドに位置する。長径3.06m、短径2.42mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは107cm以上を測る。溝SD05を切り込む。14世紀代の遺物が出土しており、土師器皿5208、瀬戸灰釉碗5209、凝灰岩製砥石S147について図化を行っている。また、小片で図化できなかったが、劃花文青磁碗や白磁碗などが見られた。

T区SE04 W29グリッドに位置する。直径2.7m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは137cmを測る。出土遺物は概ね13世紀前半のもので、土師器皿5210、珠洲焼片口鉢5211、同安窯系の青磁碗5212、曲物柄杓W797・798、漆器皿W799、折敷W800、杓文字W801、箸W802～805について図化を行っている。W801は身の先縁を丸く作り、厚さはほぼ均一であったが、頸部で折れ、柄が残存していない。その他にも図化できなかったが、鉄滓や白磁などが見られた。

T区SE05 W29グリッドに位置する。直径2.0m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは101cm以上を測る。溝SD05を切り込む。掘り方内部から、被熱した礫が出土している。遺物は14世紀代のものが見られ、土師皿5213、下駄W806について図化を行っている。その他小片で図化できなかったが、蓮弁文青磁碗や珠洲焼体部片などが出土している。

T区SE06 V・W28グリッドに位置する。溝SD05を切り込む。直径2.0m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは165cm以上を測る。掘り方中央から南東寄り、曲物製井戸側を3段分検出した。最も残りのよい中段の曲物は直径約60cm、残存高63cm、下段の曲物は直径50cm程度を測る。また、小片で図化できていないが、土師皿や珠洲焼が少量出土している。

T区SE09 AA26グリッドに位置する。長辺1.3m、短辺1.12mの平面隅丸方形プランの掘り方を持つ。深さは147cmを測る。井戸側は2段積みされた曲物の下に桶が積まれているものを検出した。上の曲物は直径64cm、残存高約20cm、下の曲物は直径63cm、高さ約45cmを測り、桶は直径51cm、高さ53cmを測る。また、底には砂利が敷かれていた。15～16世紀の遺物が出土している。5214は土師皿で、外反して立ち上がった体部外面をヨコナデし、口縁部を外側に引き出している。また、器壁は薄い。

T区SE10 Z26グリッドに位置する。長径1.86m、短径1.51mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは134cmを測る。掘り方の中央からやや南寄りで曲物製井戸側を検出した。上段の残りは悪いが、曲物3段分を確認できた。下段の曲物は直径46cm、高さ約39cm、中段の曲物は直径47cm、高さ約42cm、上段の曲物は直径50cm、残存高約15cmを測る。また、土層観察により、更にその上に曲物が積まれていたようである。なお、中段の曲物について年輪年代測定が実施されており、A.D1118年の伐採年が得られている。蓋板W807の図化を行っている。

T区SE11 Z・AA 25～26グリッドに位置する。直径約4.66mの平面円形プランの掘り方を持つ。深さは136cmを測る。掘り方の中央からやや北東寄りのあたりで、深さ30cm程度掘り進めたところ、縦板組隅柱横棧留の井戸側の上端を検出した。井戸側は外縁の1辺が1.0m程度の方形をなし、各面を構成する5枚の縦板が、両端と中央を外側にして、互い違いに重ねて設置されていた。また、横棧は上下段とも南北が上になっている。井戸側内からは、12～13世紀の遺物が出土しており、珠洲焼四耳壺5215、白磁碗5216、箸808～817について図化を行った。なお、箸については37以上と多数確認している。腐朽した分も考えると、実際はもっと多数あったと思われる。また、図化できなかったが、青磁や越前焼の体部片なども見られた。

T区SE12 Z26グリッドに位置する。直径1.6m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは119cm以上で、底まで彫りきっていない。井戸側は抜き取られていた。深さ約70cm辺りで遺構壁面にオーバーハングが見られる。時期を決定できなかったが、土師皿の小片が出土している。土師質の土錘E160、箸W818～821について図化を行った。

T 区SK08 X30グリッドに位置する。直径 1.0m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは104cm以上を測る。図化に堪える遺物の出土は見られなかったが、土層断面や湧水の状況などから、中世の井戸とした。

T 区SK09 X30グリッドに位置する。調査区端にかかっており、全体を検出できなかったが、直径 0.80m程度の平面略円形プランの掘り方を持つと思われる。深さは113cmを測る。直径50cm程度、高さ 43cmの曲物製井戸側を検出しており、年輪年代測定を実施したところ、A.D.1193年の値を得た。

T 区SK11 W29グリッドに位置する。直径1.0m程度の平面円形プランの掘り方を持つ。深さは105cm以上。15～16世紀の遺物が少量出土しており、土師皿5217について図化を行っている。

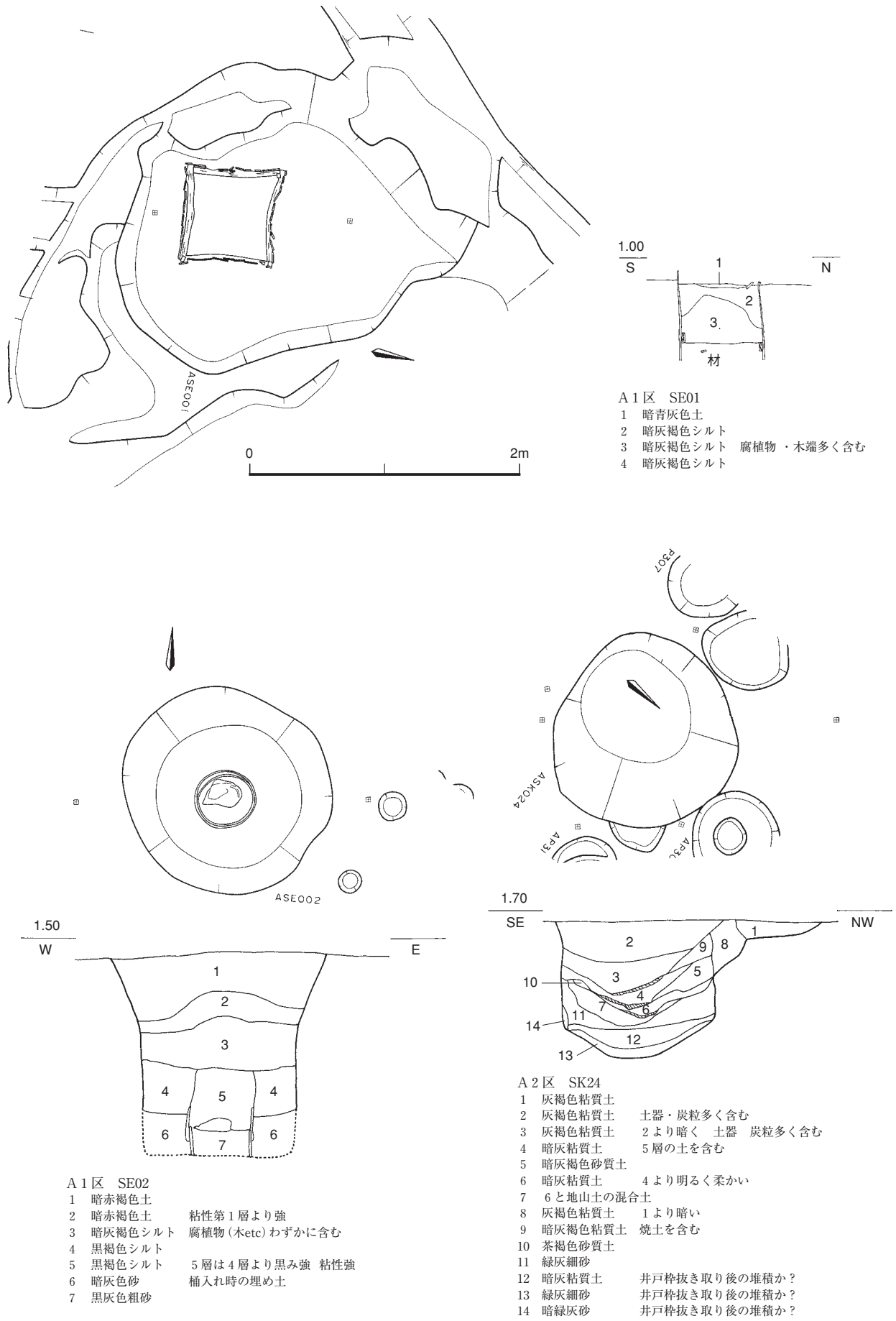
U 区SE01 AD32グリッドに位置する。調査区端にかかり、完掘できていない。一辺1m程度の平面隅丸長方形プランの掘り方になるだろうか。深さは約130cmを測り、湧水も見られた。井戸側は、縦板組横棧留の井戸側の下段が遺存しており、東辺は深さ100cm、南辺は深さ90cmでその上端を確認した。なお、南東角の隅柱は検出されなかった。掘り方内部からの出土遺物は13世紀代の所産で、土師皿5218、珠洲焼甕5219について図化を行っている。

V 1 区SK03 G25～26グリッドに位置する。直径1.5m程度の略円形プランの掘り方を持つ。深さは195cmを測る。弥生時代の溝SD08を切り込む。井戸側は縦板組隅柱横棧留で、曲物の水溜も検出された。隅柱は南東角では検出されなかった。縦板は2枚または3枚1組で機能しており、中には下位側に穿孔されているものもあった。何らかの部材を再利用したものと思われる。なお、残存状況が良好な東辺では、13枚の縦板が使われていたことが観察できた。出土遺物は12世紀末～13世紀代のもので、土師皿5220、井戸側材W822～832、栓と見られる木製品W833について図化を行っている。また、井戸側材W822について樹種同定及びC14年代測定（AMS法）を実施した。樹種はスギで、更正暦年代でA.D.1180年の値が得られた。

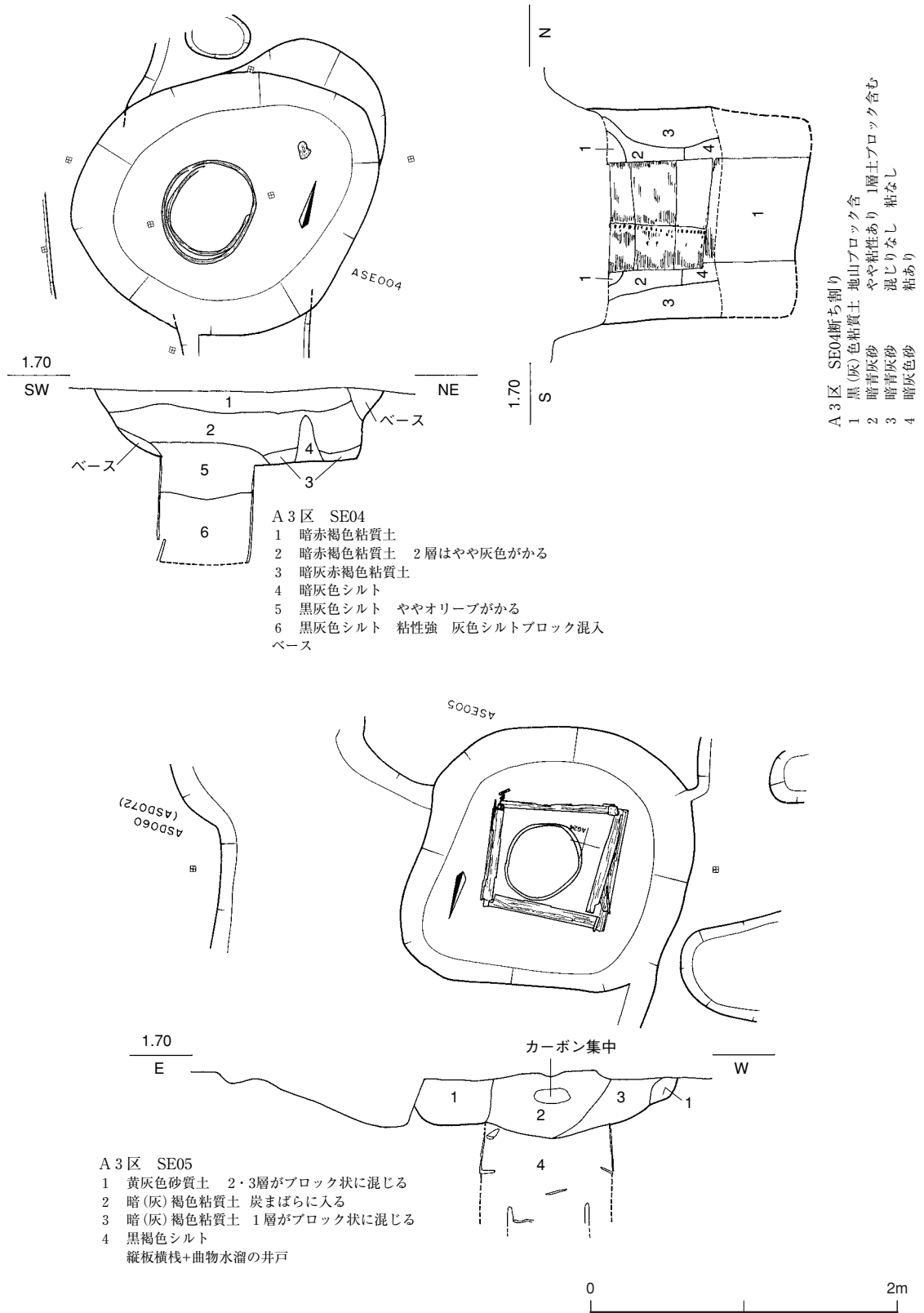
V 2 区SE01 H21～22グリッドに位置する。長径2.45m、短径1.99mの平面隅丸長方形プランの掘り方を持つ。深さは84cmを測る。概ね11世紀代の遺物が出土しており、土師器有台壙 5221と箸W834～839について図化を行った。また、小片で図化に至らなかったが、無文の青磁片も見られた。

V 2 区SE02 H21グリッドに位置する。直径1.3m程度の平面略円形プランの掘り方を持つ。深さは93cmを測る。13世紀前半代の遺物が出土しており、土師皿5222、箸W833～838について図化を行っている。

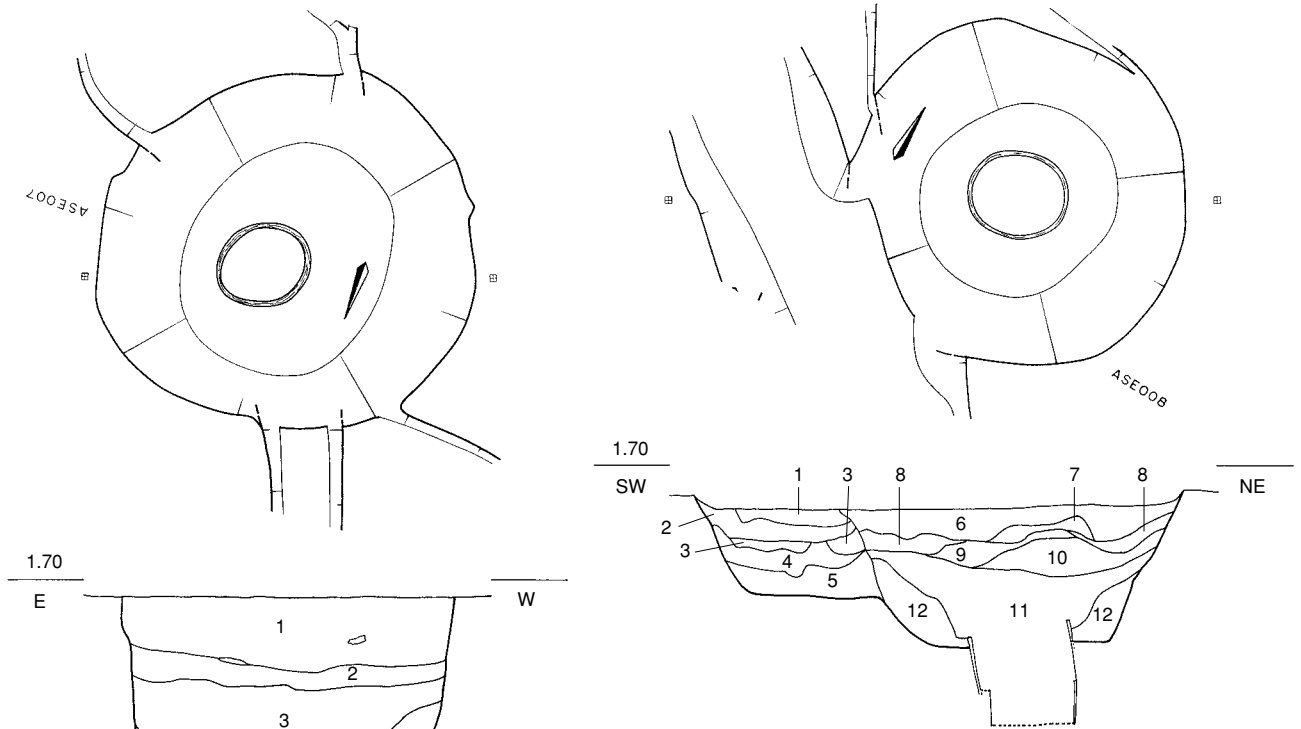
V 2 区SK07 H20グリッドに位置する。長径3.28m、短径2.24mの平面楕円形プランの掘り方を持つ。深さは127cm。掘り方内部は段状に掘られている。12世紀後半～13世紀前半代の遺物が出土しており、土師皿5223について図化を行っている。その他にも玉縁口縁の白磁碗片も見られた。



第74図 中世遺構図60



第75図 中世遺構図61

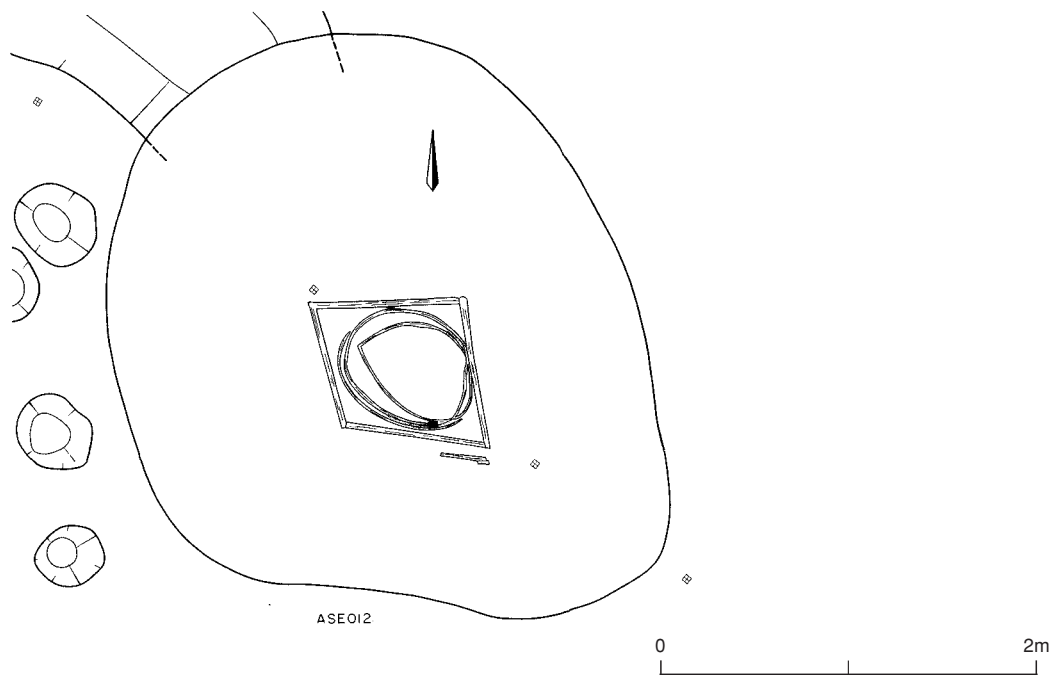


A3区 SE07

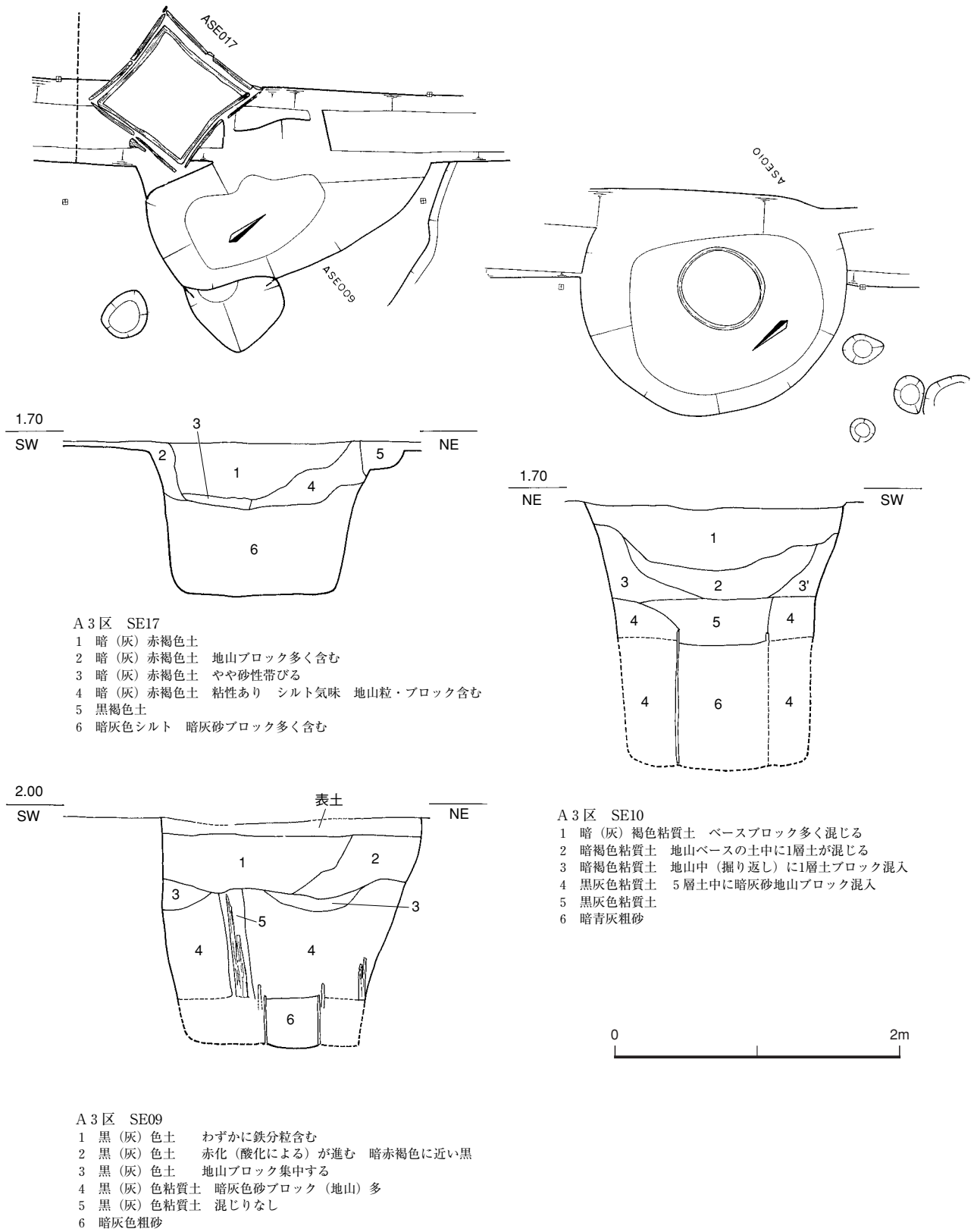
- 1 暗赤褐色土
- 2 暗赤褐色土 鉄分赤化あり
- 3 黒灰色シルト 暗灰色砂(地山)ブロック混じる
- 4 暗灰色砂 3層ブロック混じる
- 5 黒灰色砂質土 粘性強
- 6 暗灰色砂 4層と何か?

A3区 SE08

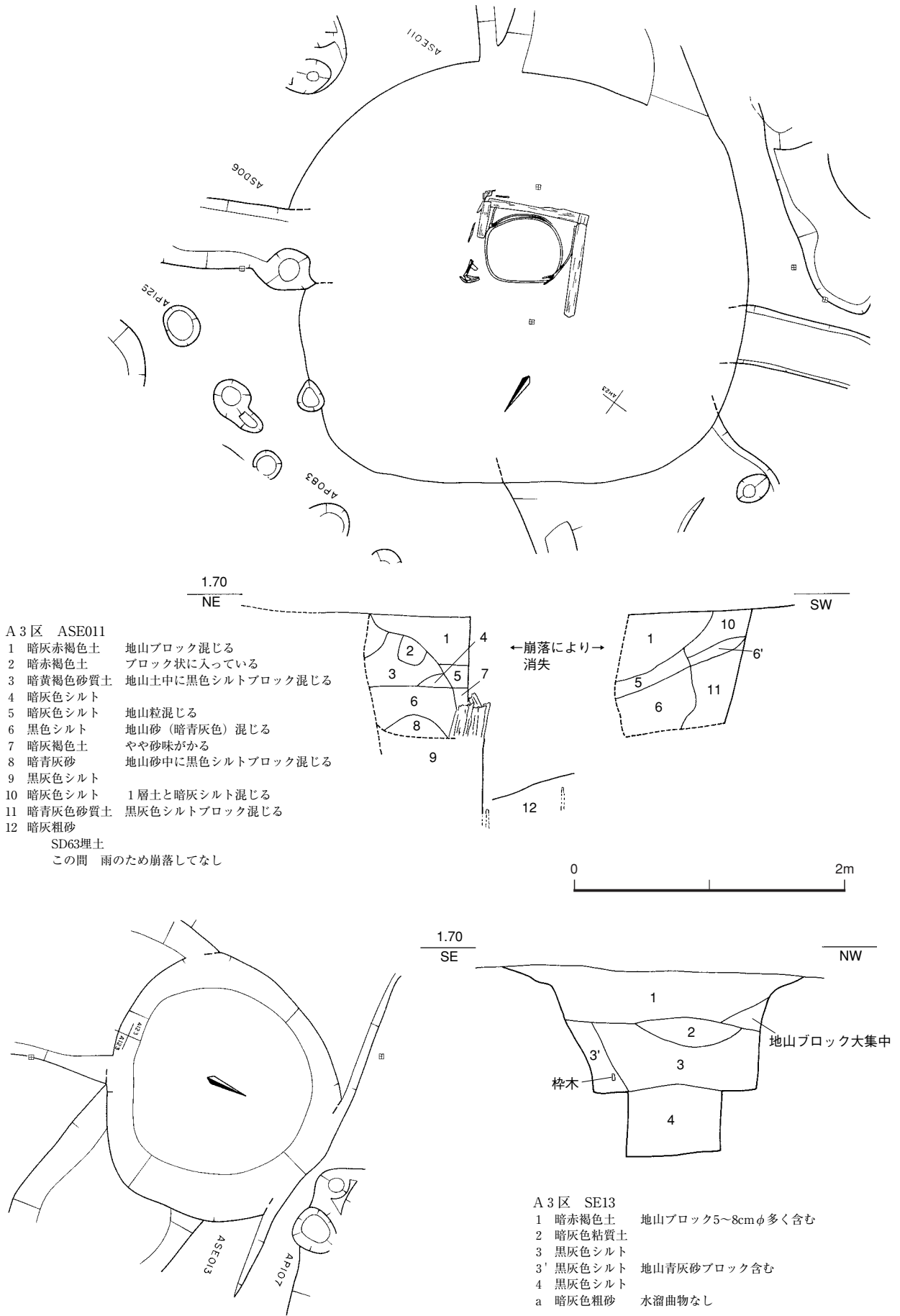
- 1 暗赤褐色土 土器粒・炭わずかに含む
- 2 暗赤褐色土 地山粒・ブロック多く含む 炭含む
- 3 灰白色砂質土 黒色土ブロック含む 鉄分によりわずかに赤化
- 4 灰白色砂質土 黒色土ブロック多く含む 粘性あり
- 5 灰白色砂質土 わずかに黒色土粒含む 粘性ややあり
- 6 暗赤褐色土 わずかに灰色み帯びる 炭わずかに含む
- 7 暗黄褐色土 地山粒の集中
- 8 暗赤褐色土 6層に比べ灰色味強い 酸化による赤色粒含む
- 9 暗赤褐色土 赤色粒 炭がやや集中する
- 10 暗灰色シルト 酸化による赤色粒多く含む
- 11 黒灰色シルト 炭粒わずかに含む
- 12 灰白色砂質土 11層土ブロック含む



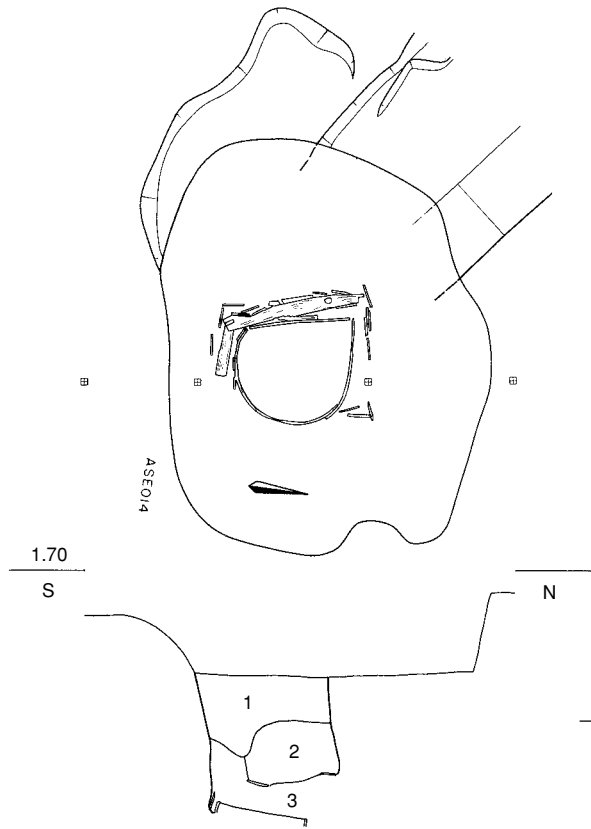
第76図 中世遺構図62



第77図 中世遺構図63

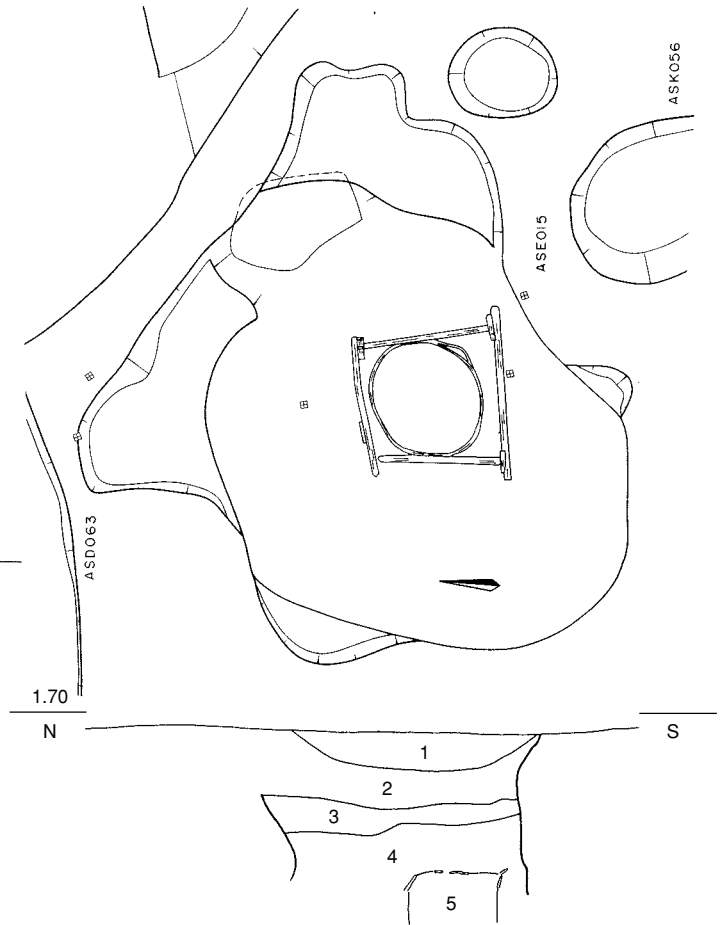


第78図 中世遺構図64



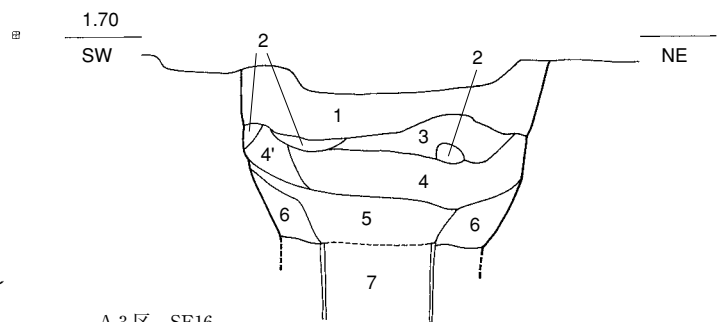
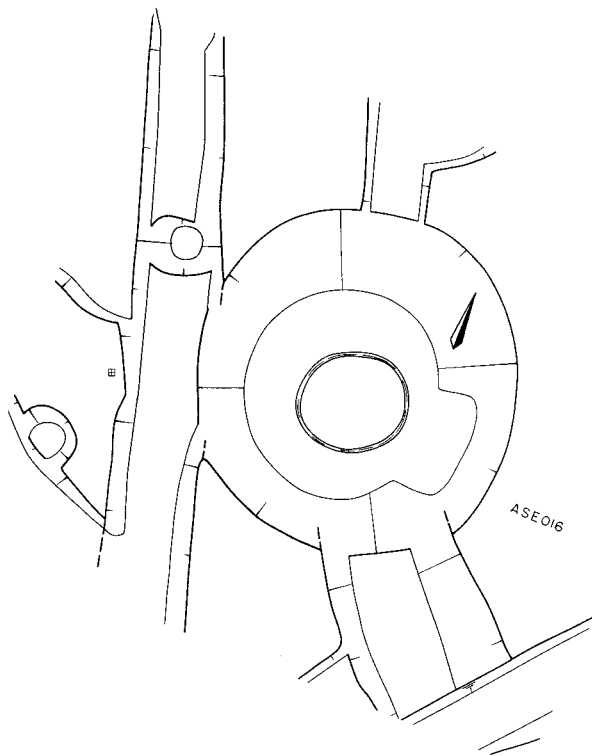
A3区 SE14

- 1 黒灰色粘質土 やや砂混じり 地山砂含む
- 2 黒灰色粘質土 地山砂含まず
- 3 黒灰色シルト 地山ブロック多く含む



A3区 SE15

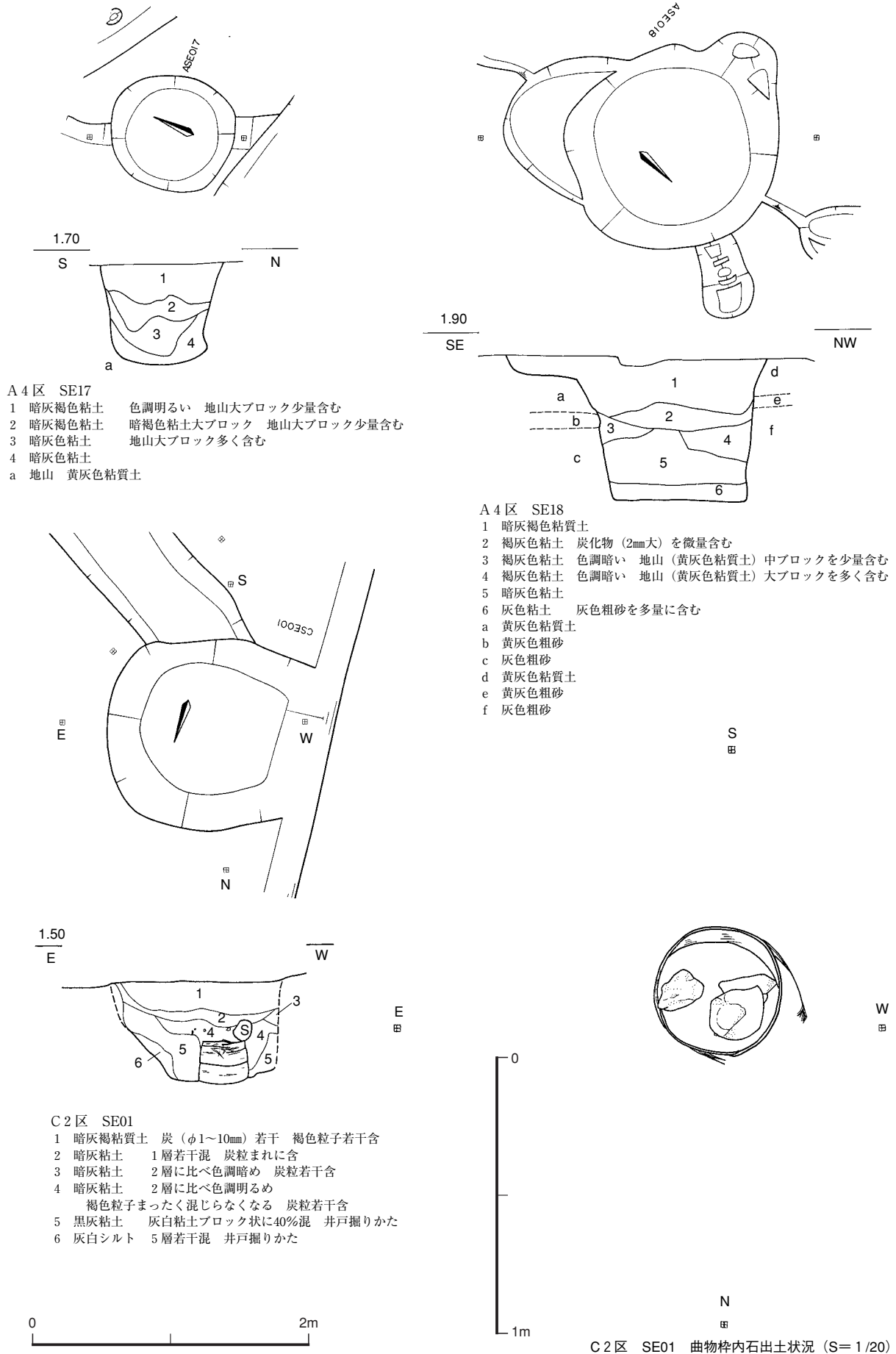
- 1 暗赤褐色土
- 2 暗赤褐色土 地山ブロック多量に含む
- 3 暗赤褐色土 2層よりさらに地山ブロック集中
- 4 暗灰色粘質土 暗青灰砂(下部地山)ブロック多く含む
- 5 黒灰色シルト 暗青灰砂(下部地山)ブロック多く含む



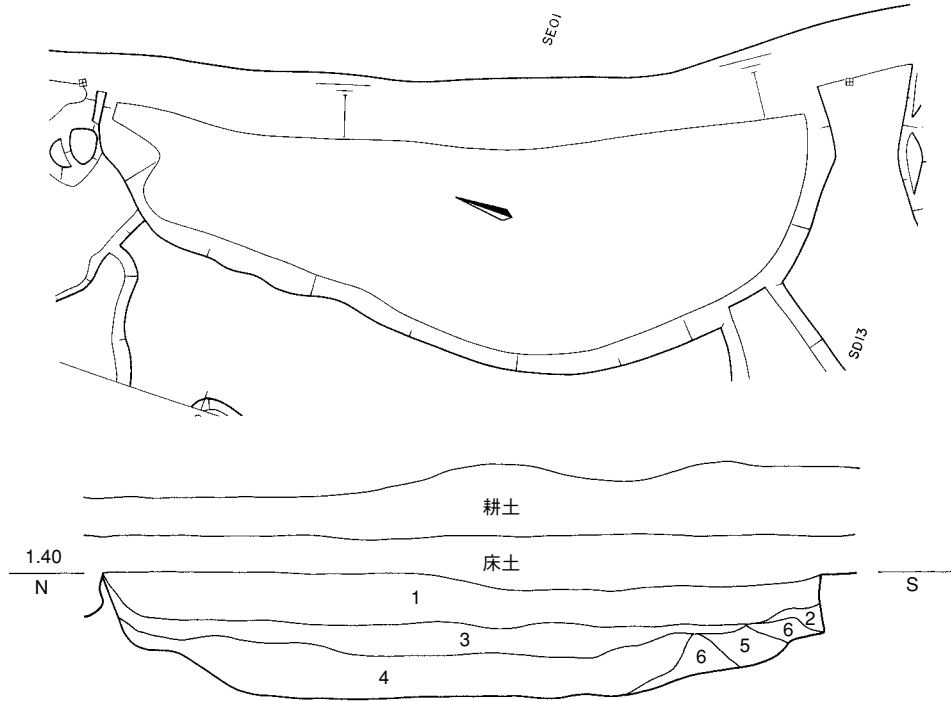
A3区 SE16

- 1 暗(赤)褐色土 黄褐色地山ブロック多く含む わずかに大粒の炭粒含む
- 2 黒(灰)色粘質土
- 3 暗黄褐色土 わずかに黒(灰)色粘粒含む
- 4 暗青灰色砂 わずかに粘性あり 黒(灰)色粘ブロック多く含む
- 5 黒(灰)色粘質土
- 6 淡青灰色細砂
- 7 淡青灰色粗砂

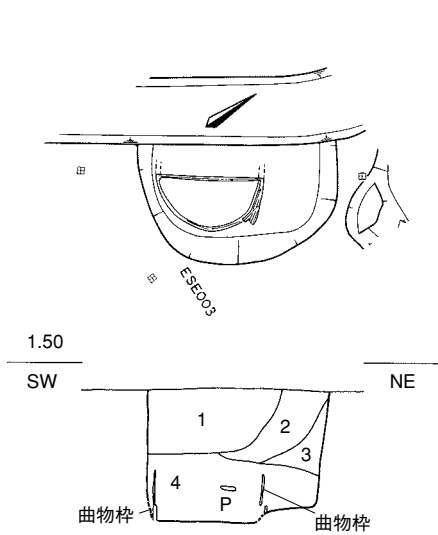
第79図 中世遺構図65



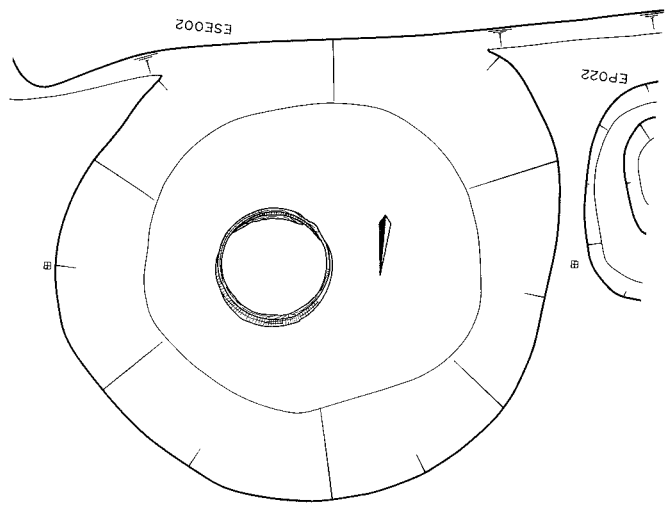
第80図 中世遺構図66



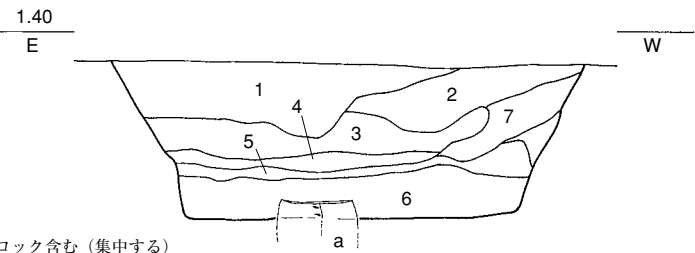
- C 8区 SE01
- 1 茶灰色粘質土
 - 2 茶灰色粘質土・黄灰シルト大ブロック混
 - 3 明灰色砂粘質土
 - 4 灰色粘質土 炭片含 粘性やや強
 - 5 茶灰色粘質土
 - 6 緑灰砂(ベース) 灰色粘質土混



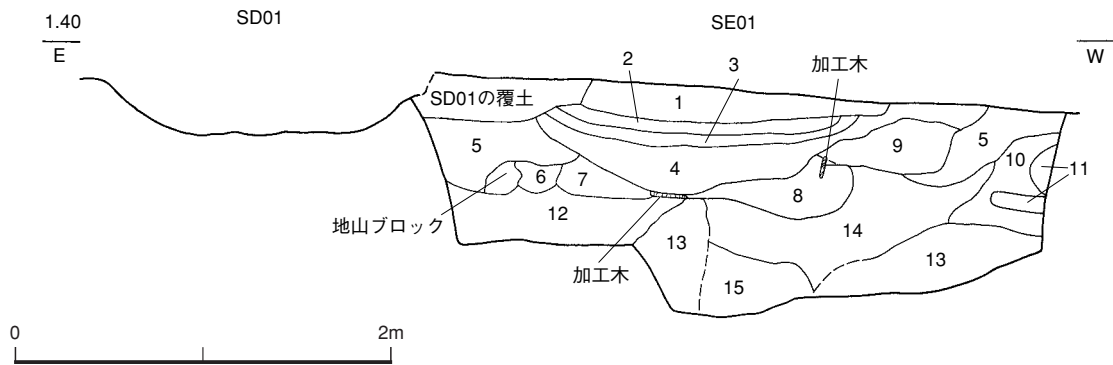
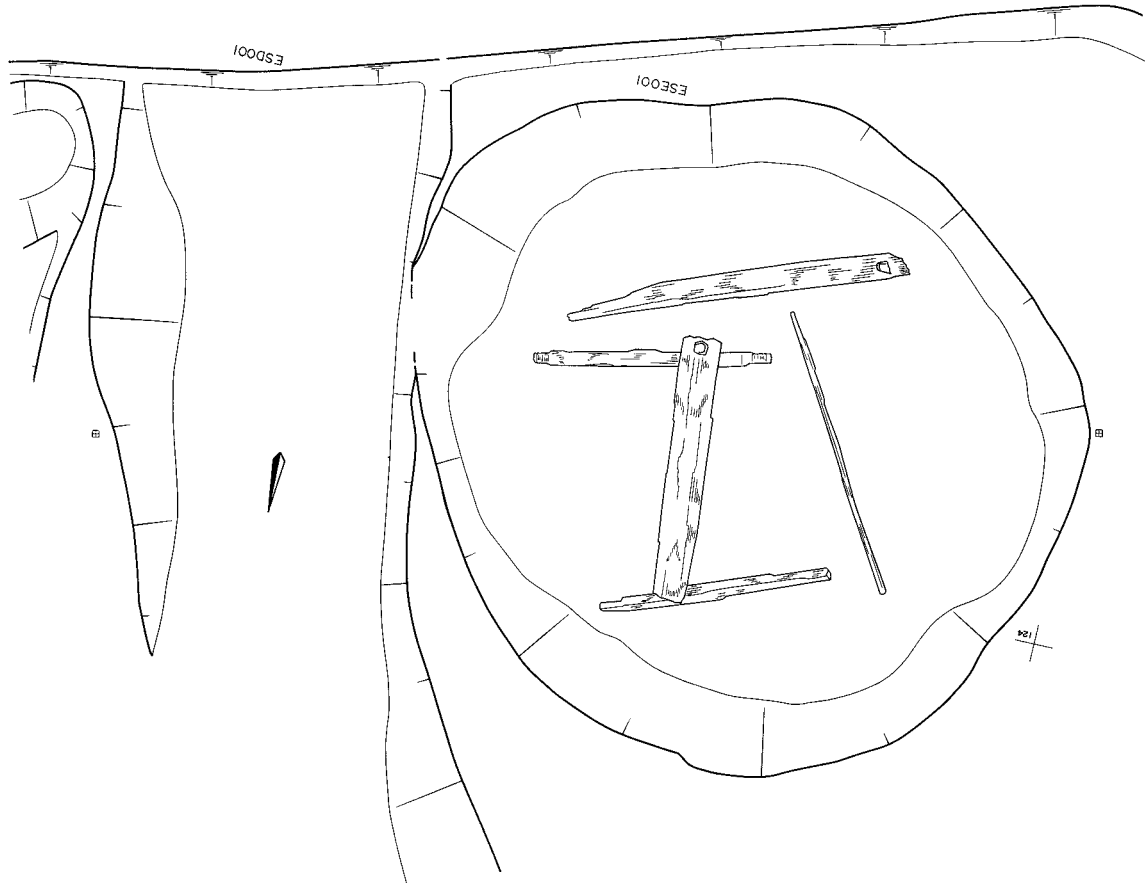
- E区 SE03
- 1 暗灰褐色粘質土
 - 2 暗褐色粘質土 黄褐色粘質土ブロック含む
 - 3 灰色粘質土 黄褐色粘質土含む
 - 4 暗灰色粘土



- E区 SE02
- 1 暗灰褐色土 やや赤化する
 - 2 暗灰褐色土 赤色粒 カarbon粒含む
 - 3 暗黄褐色土 1、2層中に多量の地山ブロック含む(集中する)
 - 4 暗褐色土
 - 5 暗赤褐色土 酸化鉄の帯
 - 6 黒灰色シルト
 - 7 黒灰褐色土 1、2層より暗調
 - a 曲物内: 黒(褐)色粘質土 腐植した木、繊維、葉を多く含む



第81図 中世遺構図67

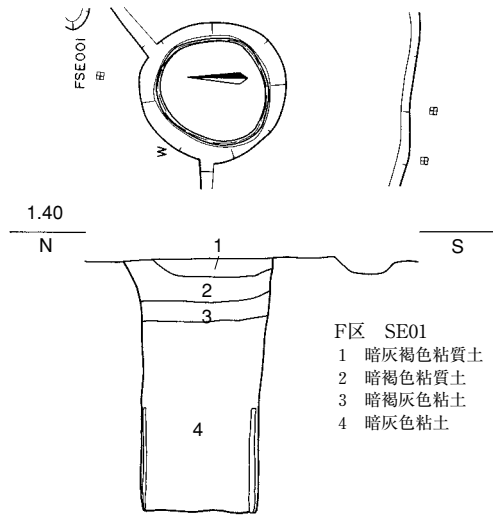


E区 SE01

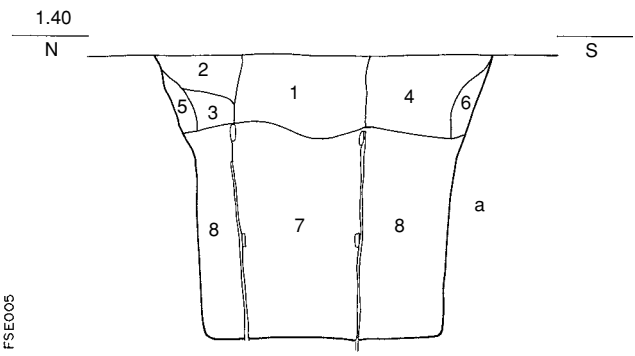
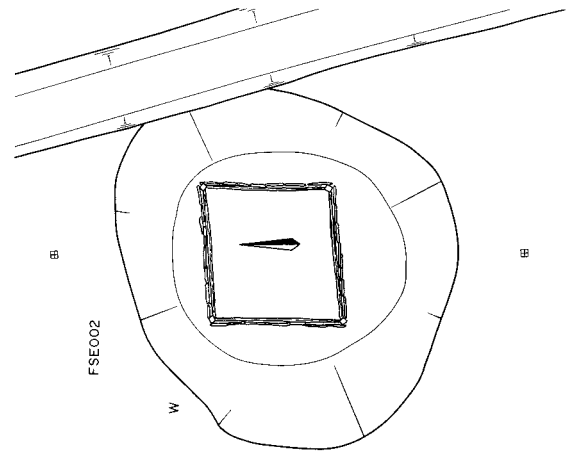
- 1 暗赤褐色土
- 2 黒褐色粘質土 わずかに赤化
- 3 黒褐色粘質土 最も黒色度高し
- 4 黒(灰)褐色粘質土
- 5 暗黄褐色土 地山ブロック多く含む まだ黒褐色の割合高し
- 6 黒色粘質土ブロック
- 7 暗灰(褐)色弱粘質土 やや砂まじり
- 8 暗黄褐色土 黒褐色+地山土 地山土の割合高し
- 9 暗黄褐色土 黒褐色+地山土が半々の割合で混じりあう
- 10 暗黄褐色土 わずかに黒褐色土混じる
- 11 暗赤褐色土
- 12 青灰色弱粘質土 わずかに黒褐色土粒 ブロック含む
- 13 青灰色弱粘質土 わずかに黒褐色土粒 ブロック含む
- 14 黒褐色粘質土 地山土多く含む 黒褐色土の割合高し
- 15 黒(褐)色シルト 地山土わずかに混じる

第82図 中世遺構図68

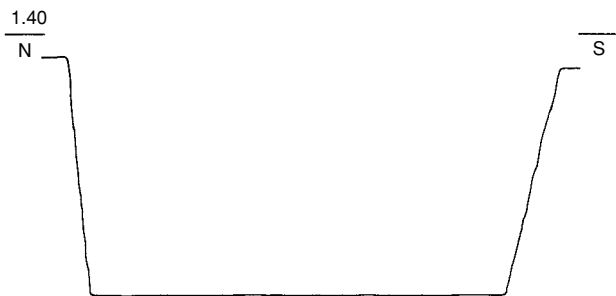
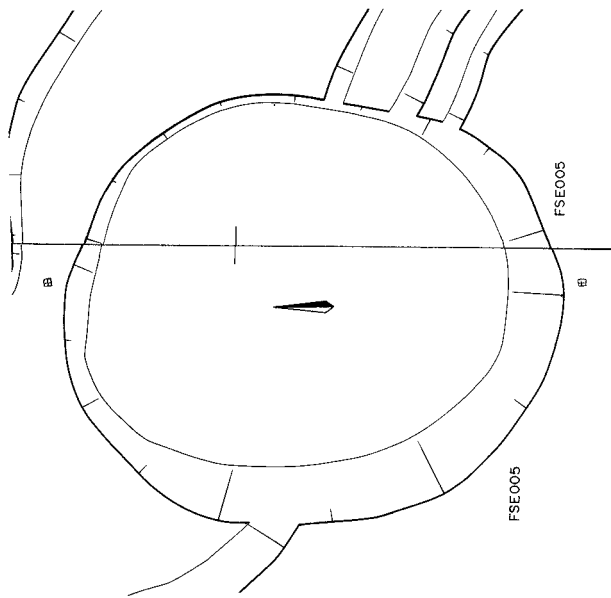
第4節 井 戸



- F区 SE01
 1 暗灰褐色粘質土
 2 暗褐色粘質土
 3 暗褐色粘質土
 4 暗灰色粘土



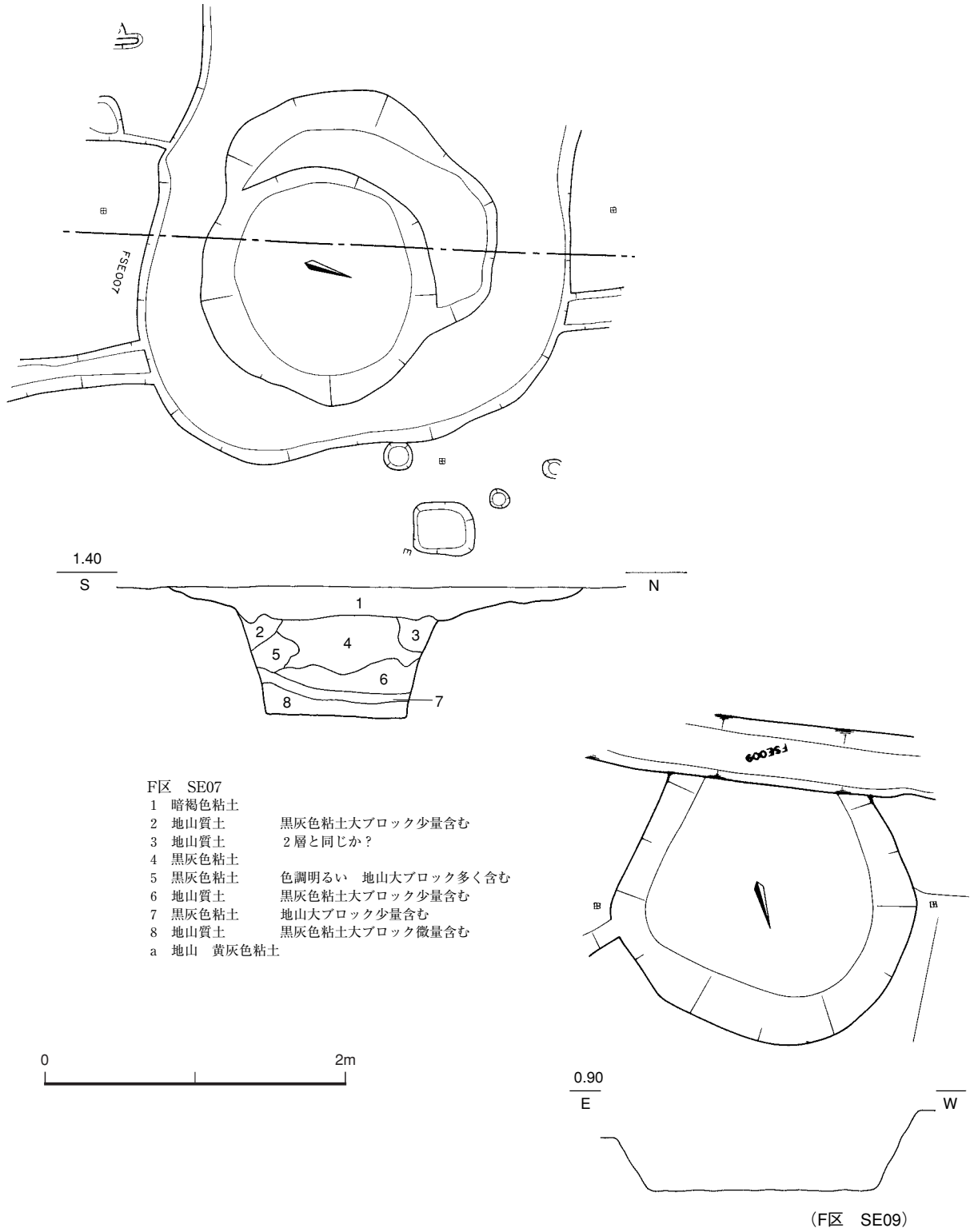
- F区 SE02
 1 褐灰色粘質土
 2 暗褐色粘質土
 3 暗褐色粘質土 地山大ブロック少量含む
 4 暗褐色粘質土 地山大ブロック多量含む
 5 地山質土 暗褐色粘質土大ブロック少量含む
 6 地山質土 暗褐色粘質土大ブロック少量含む (5層と同じ)
 7 暗灰色粘土 粘性強い
 8 淡灰色粘土
 a 地山 黄灰色粘土



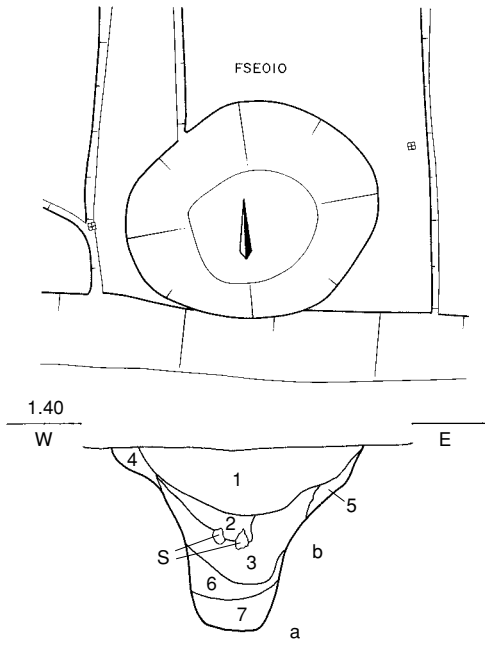
(F区 SE05)



第83図 中世遺構図69

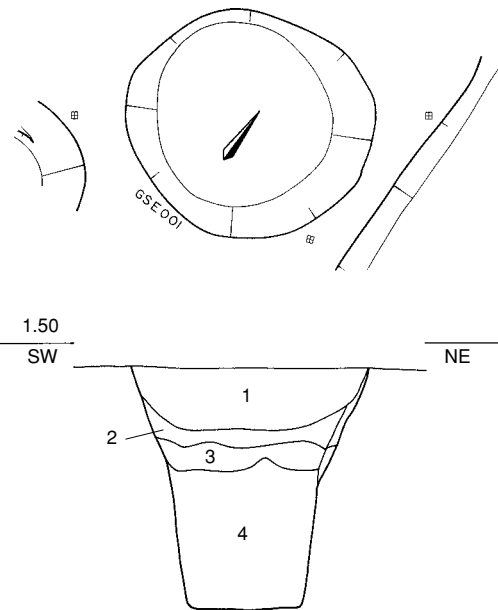


第84図 中世遺構図70



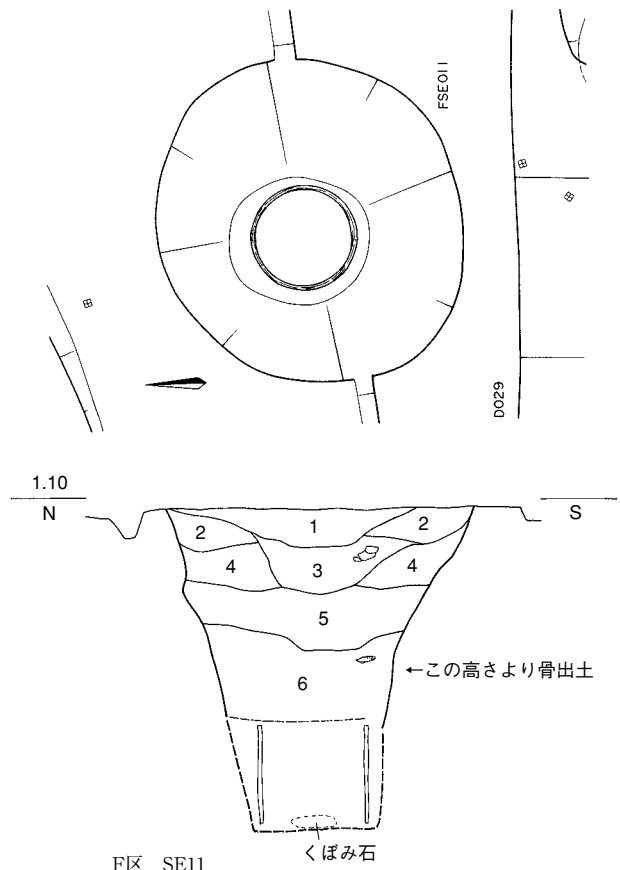
F区 SE10

- 1 暗灰褐色粘質土 炭化物(2mm大)微量含む
- 2 暗灰褐色粘質土 地山(黄灰色粘質土)大ブロック少量含む
- 3 暗褐色粘土 炭化物(5mm大)微量含む
- 4 地山質土(黄灰色粘質土) 淡灰色粘土大ブロック多く含む
- 5 地山質土(黄灰色粘質土) 4層と同じか?
- 6 暗褐色粘土 地山(白灰色粘土)大ブロック多く含む
- 7 地山質土(白灰色粘土) 暗褐色粘土大ブロック多く含む
- a 白灰色粘土
- b 黄灰色粘質土



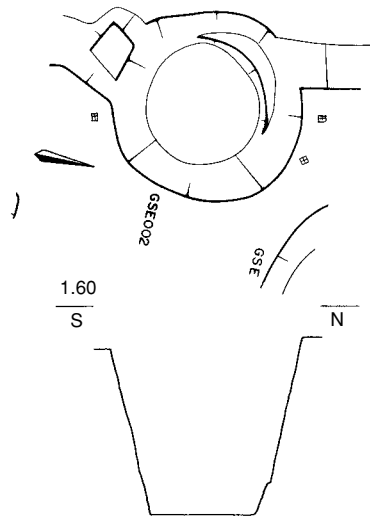
G区 SE01

- 1 暗灰褐色粘質土
- 2 灰色粘質土 暗灰褐色粘質土含む
- 3 灰色粘土 暗緑灰色粘土ブロック含む
- 4 暗灰色粘土
- 5 黄褐色粘質土
- 6 暗緑灰色粘土

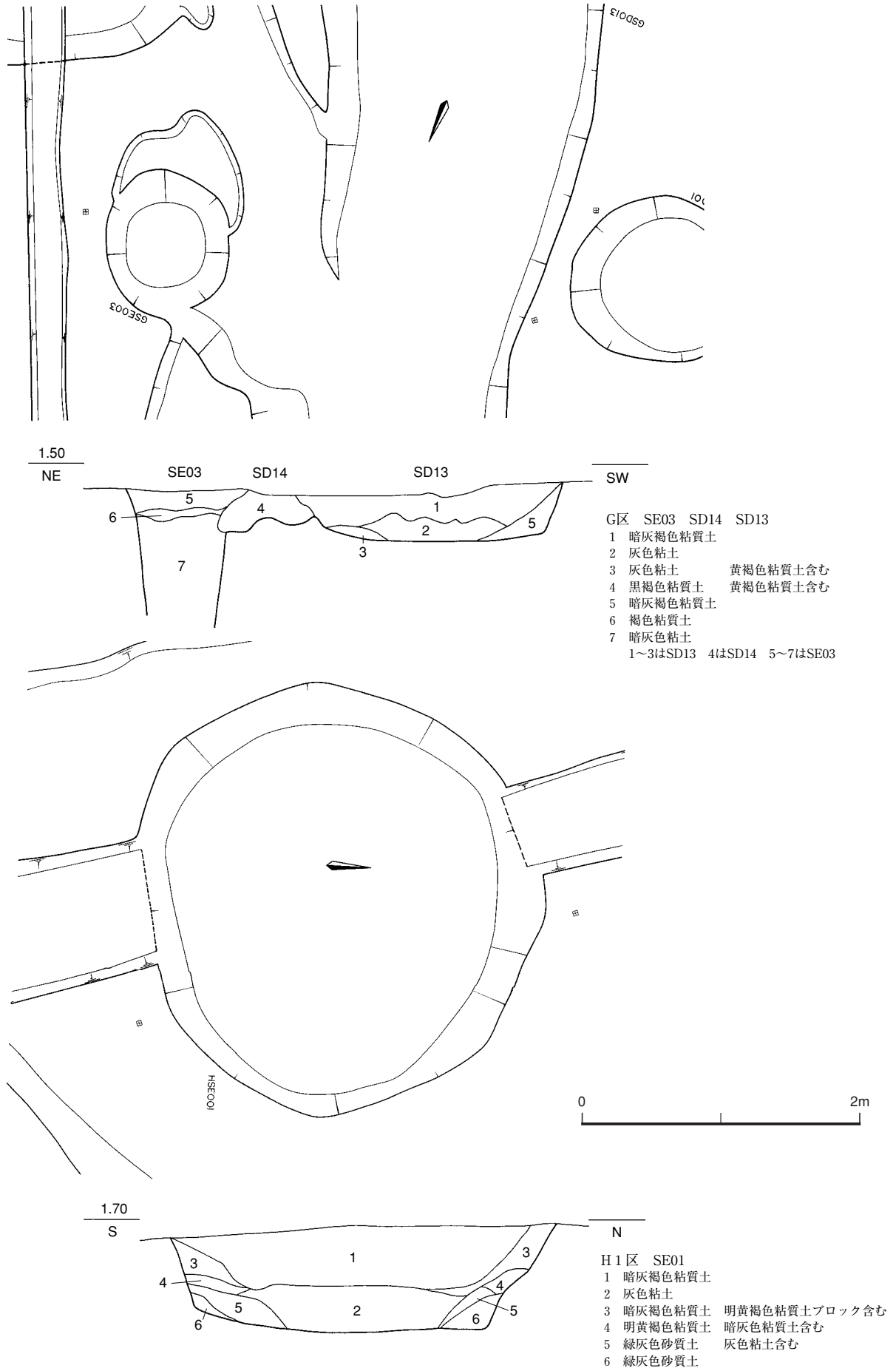


F区 SE11

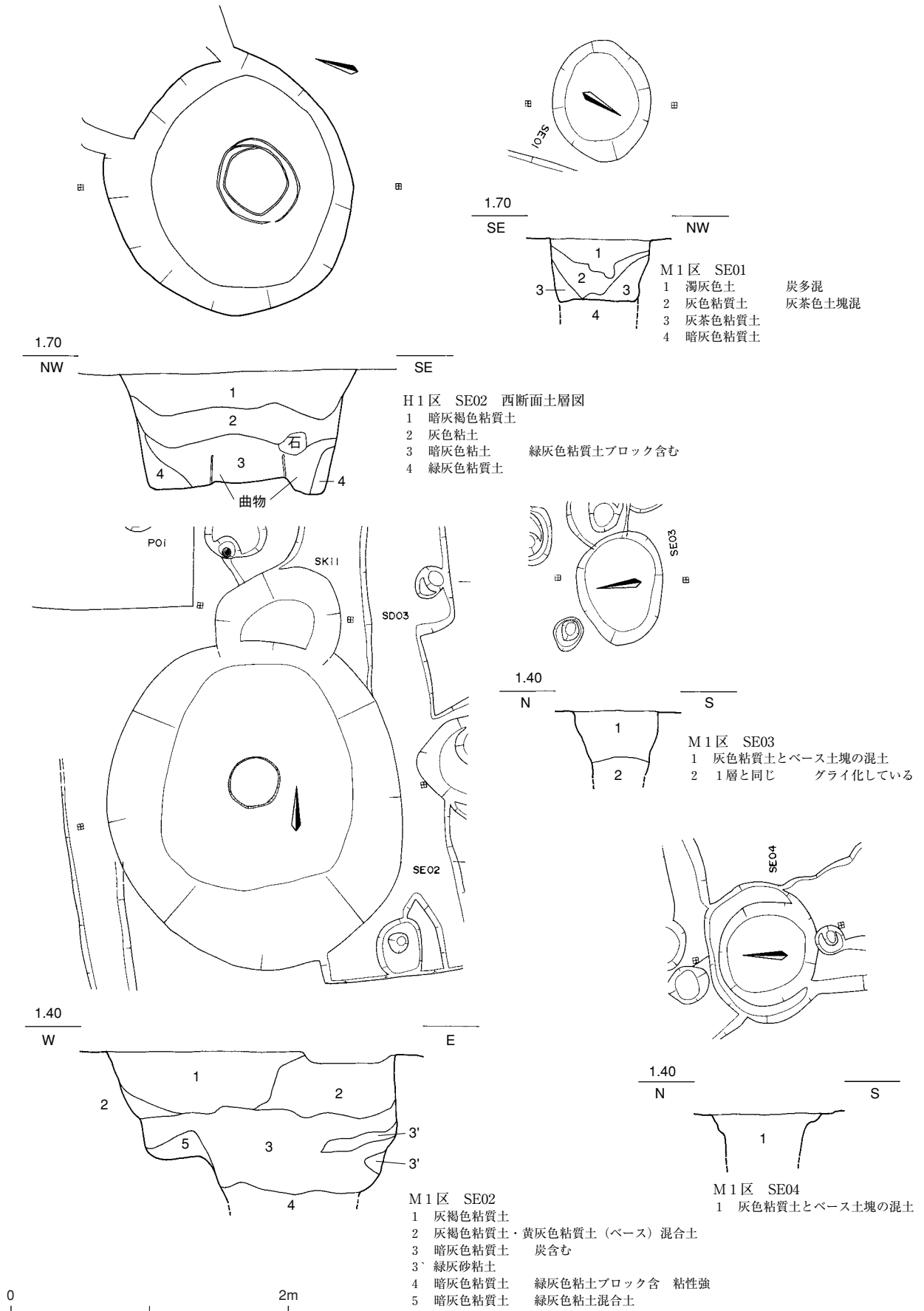
- 1 暗灰褐色粘質土
 - 2 暗灰褐色粘質土 地山を含む
 - 3 暗灰シルト質土
 - 4 暗灰シルト質土 3より明るい
 - 5 暗灰シルト質土 3、4より暗い
 - 6 暗灰シルト質土 5よりやや明るい
 - 6層の下線、底と側のライン不明確
- 曲物の底にくぼみ石が正位で出土 くぼんでいる所が上か下かは不明



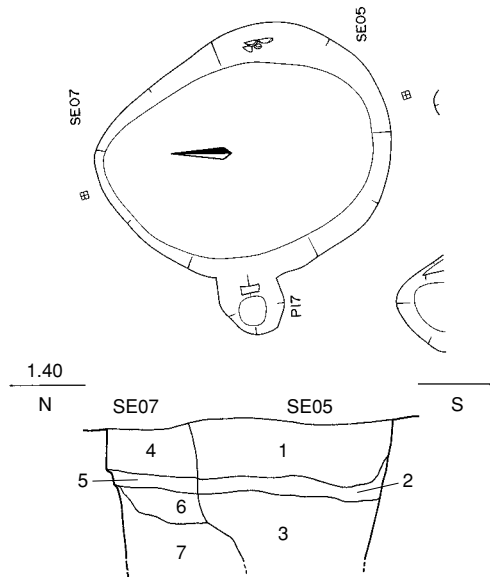
(G区 SE02)



第86図 中世遺構図72



第87図 中世遺構図73



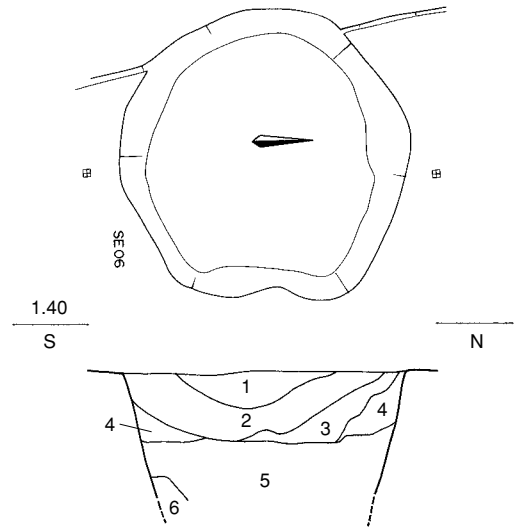
M1区 SE05 SE07

SE05

- 1 暗褐色粘質土 黄灰粘質土ブロック 炭片わずかに含
- 2 暗褐色粘質土・黄灰粘質土ブロック混合土
- 3 暗灰色粘質土・緑灰色シルト混合土 炭粒含

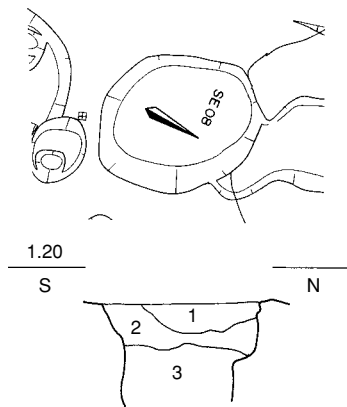
SE07

- 4 灰褐色粘質土 橙灰色粘質土微細ブロック含
- 5 灰褐色粘質土・橙灰色粘質土混合土
- 6 暗灰色粘質土 緑灰色シルト大ブロック含
- 7 黒灰色粘質土 粘性強



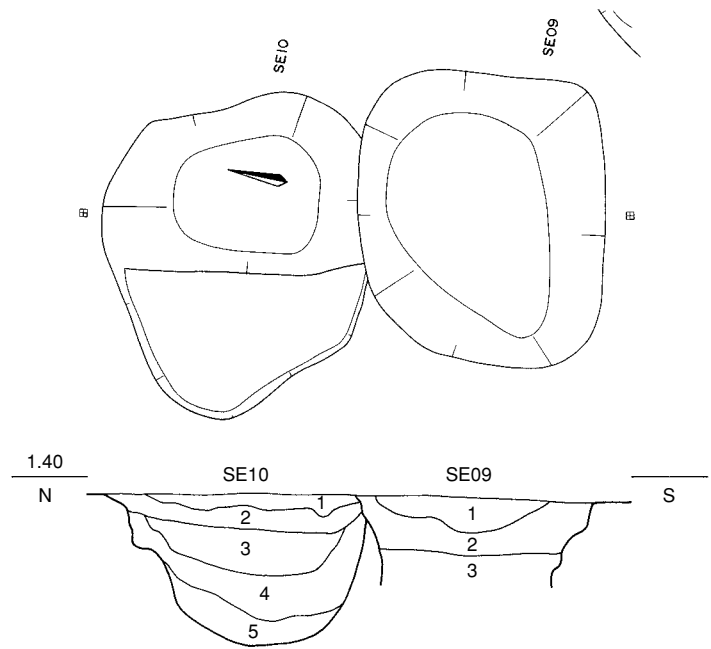
M1区 SE06

- 1 明灰褐色粘質土
- 2 灰褐色粘質土
- 3 灰褐色粘質土・黄灰色砂粘質土混合土
- 4 灰褐色粘質土 黄灰色砂粘質土ブロック含
- 5 灰色粘質土 緑灰色粘質土混 粘性強
- 6 暗灰色粘質土 粘性強



M1区 SE08

- 1 灰色砂粘質土 ベース混
- 2 灰色砂粘質土 ベース塊大混
- 3 灰色粘質土 ベース砂混



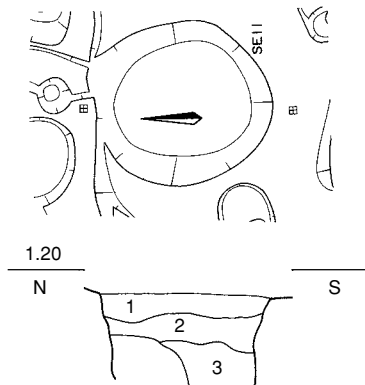
M1区 SE09 SE10

SE10

- 1 暗茶褐色土
- 2 灰褐色砂質土
- 3 灰褐色粘質土
- 4 灰褐色粘質土 ベース多混
- 5 黒灰色粘質土

SE09

- 1 暗黄灰色土
- 2 淡灰褐色土
- 3 淡灰色粘質土

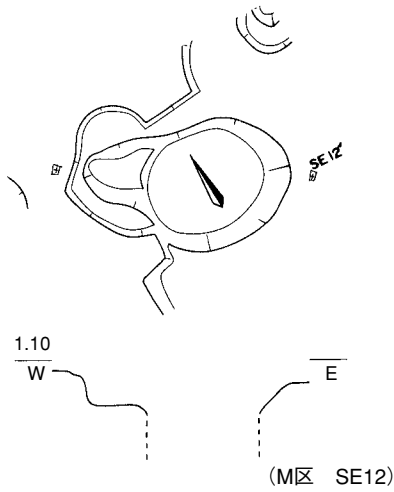


M1区 SE11

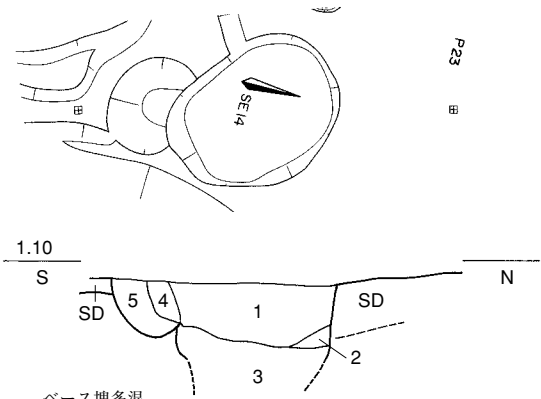
- 1 灰褐色砂粘質土 ベース混
- 2 灰色砂粘質土 ベース混
- 3 淡青灰色細砂・暗灰色粘質土混
- 4 暗灰色粘質土



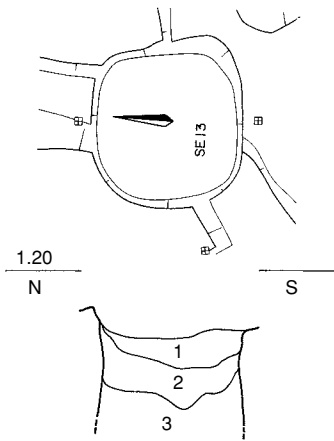
第88図 中世遺構図74



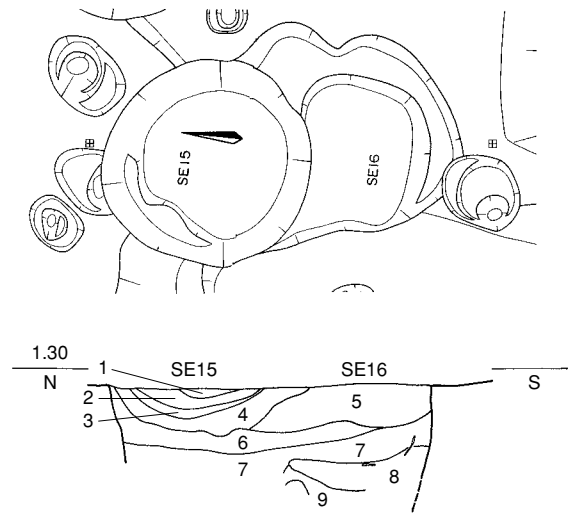
- M1区 SE14
- 1 灰褐色土
 - 2 黄灰色細砂
 - 3 暗灰色粘質土
 - 4 灰茶色土
 - 5 灰茶色土



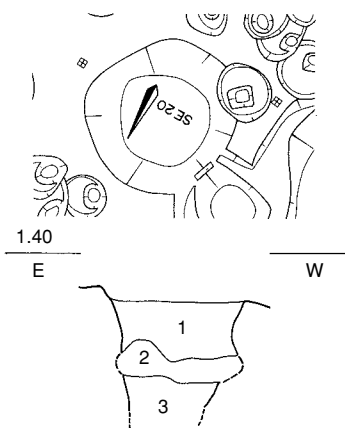
- ベース塊多混
崩落したベース
砂混
ベース塊多 別ビット
別ビット



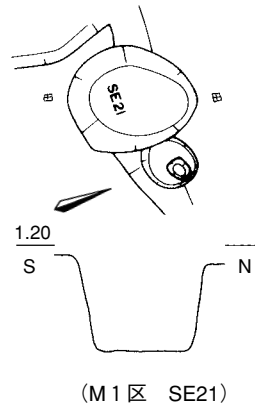
- M1区 SE13
- 1 灰褐色粘質土 粘性強
 - 2 灰色粘質土 砂粒 青灰色粘砂ブロック含 粘性強
 - 3 灰色砂粘質土 青灰色粘砂ブロック含 粘性強



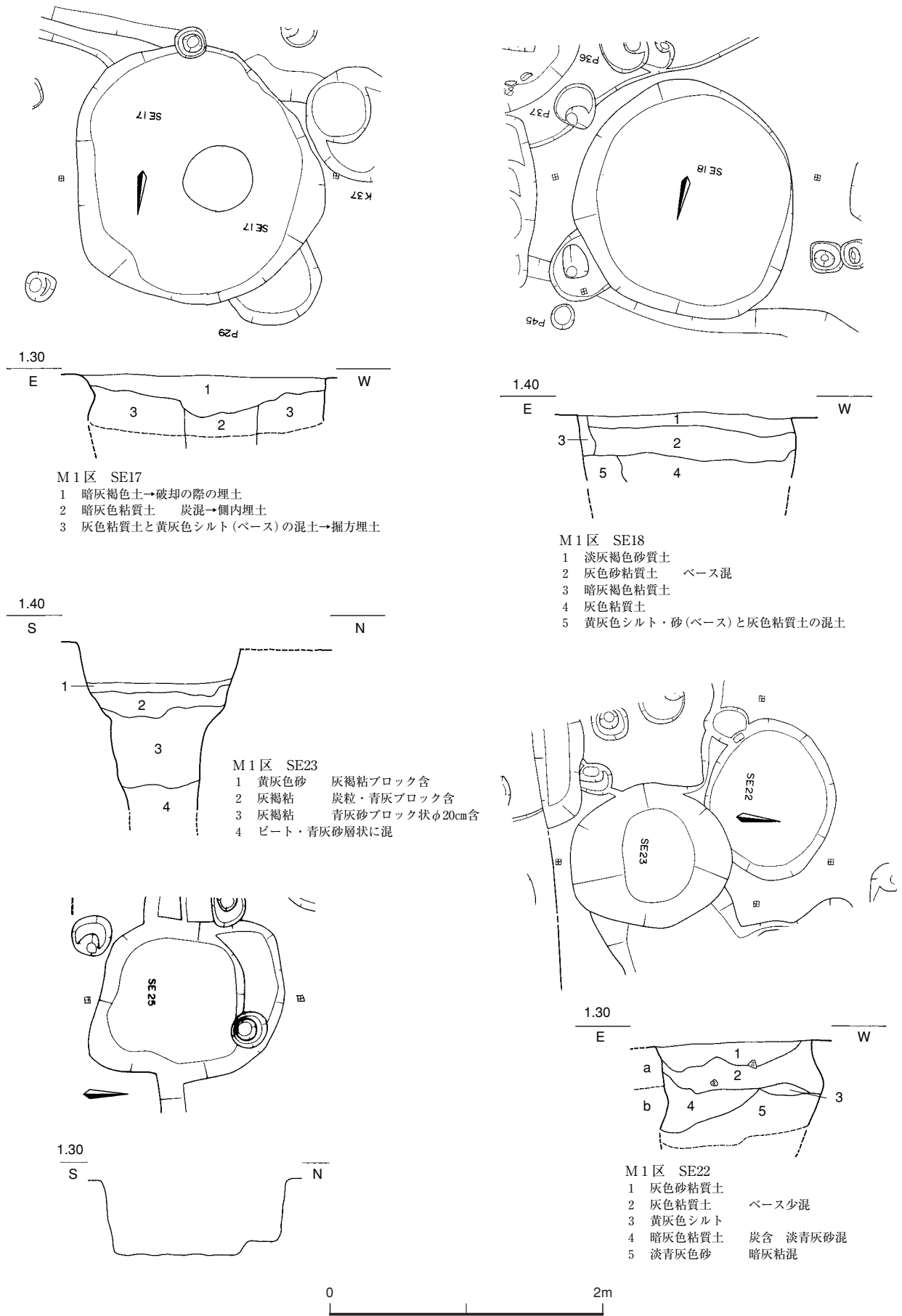
- M1区 SE15 SE16
- 1 濁茶灰色砂
 - 2 灰褐色土
 - 3 茶灰色砂
 - 4 灰褐色土
 - 5 灰褐色土 シルトベース多混 炭少混
 - 6 乳灰色粘質土 灰粘少混
 - 7 灰色粘質土
 - 8 炭・灰層 遺物多く含む
 - 9 暗灰色粘質土



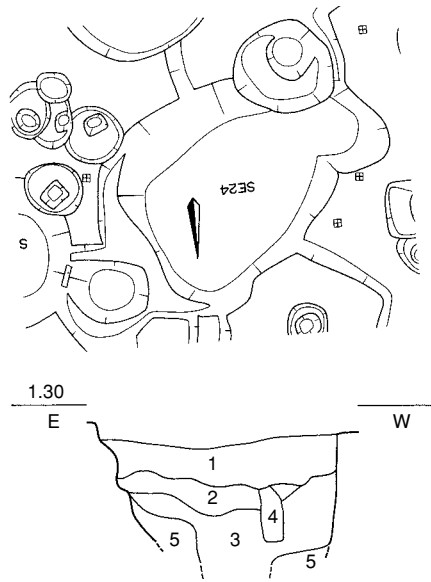
- M1区 SE20
- 1 灰褐色粘質土 黄灰大ブロック・炭粒含
 - 2 灰色粘質土 青灰砂大ブロック 炭層状に含
 - 3 灰色粘質土 炭粒含



第89図 中世遺構図75

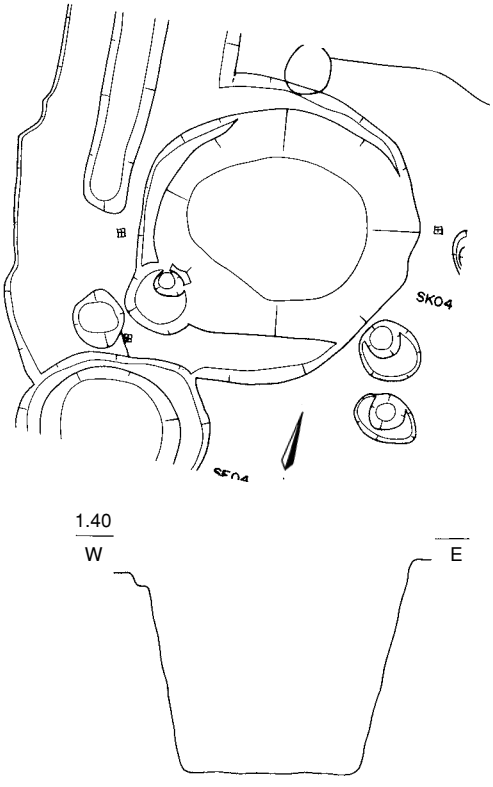


第90図 中世遺構図76

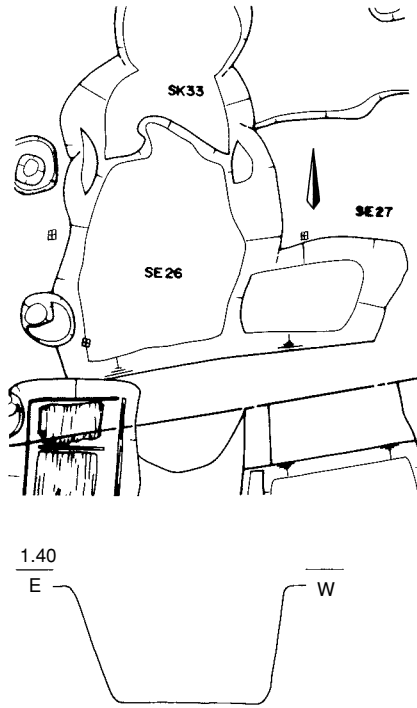
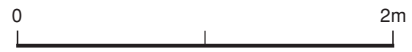


M1区 SE24

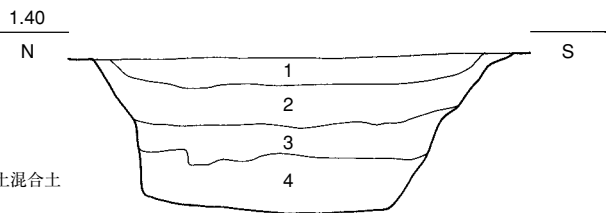
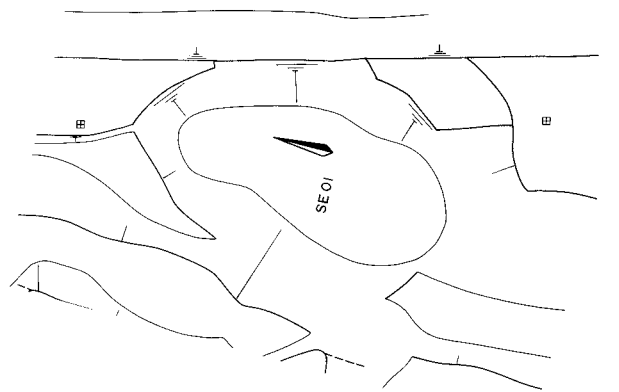
- 1 灰褐砂粘質土・黄灰砂粘質土混土
- 2 灰褐粘質土 黄灰粘ブロック・炭粒含
- 3 青灰砂・灰色粘混土 炭粒少量含
- 4 灰色粘 炭多量に含
- 5 青灰砂 灰色粘少量含



(M1区 SK04)



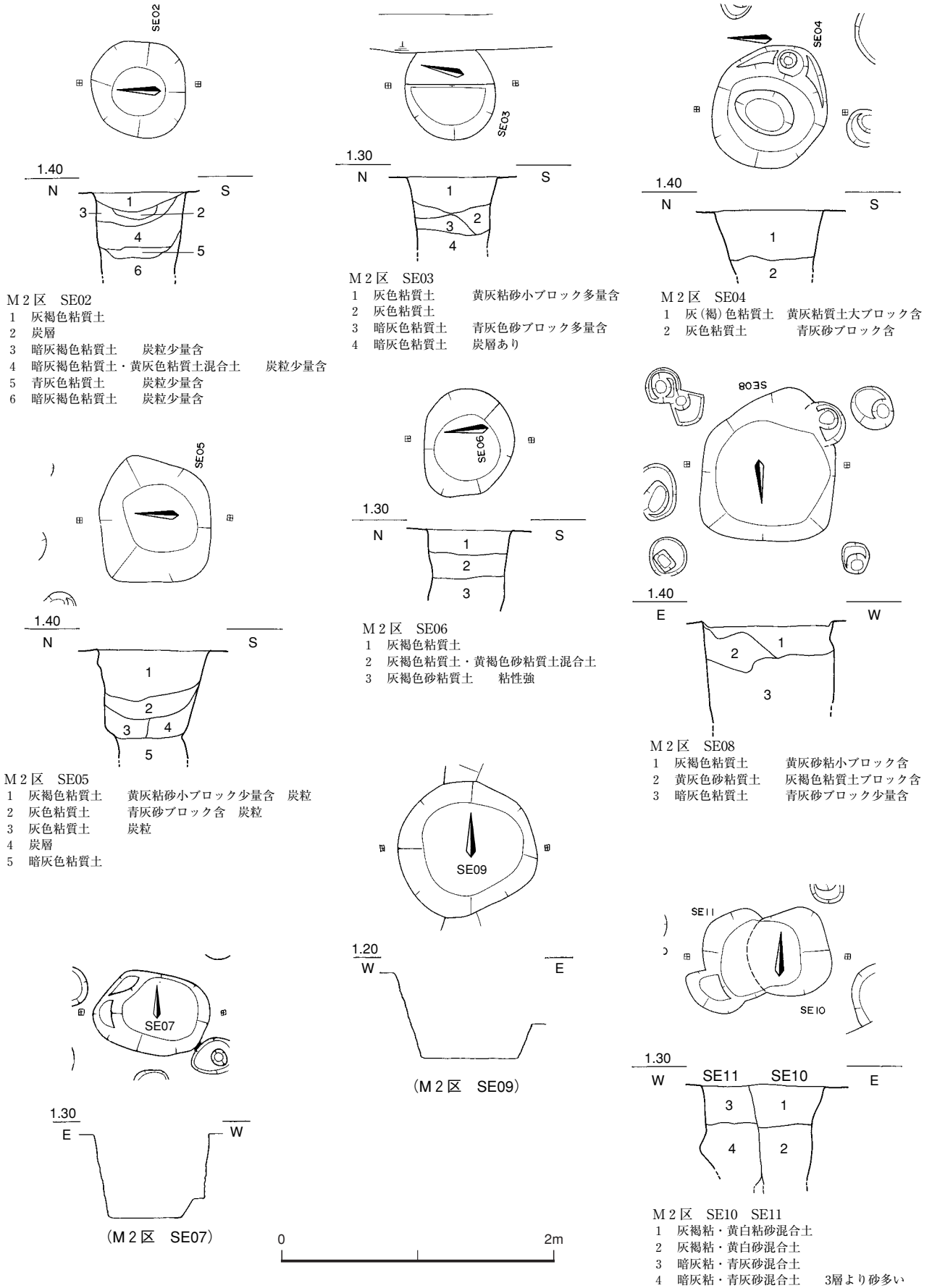
(M1区 SE26)



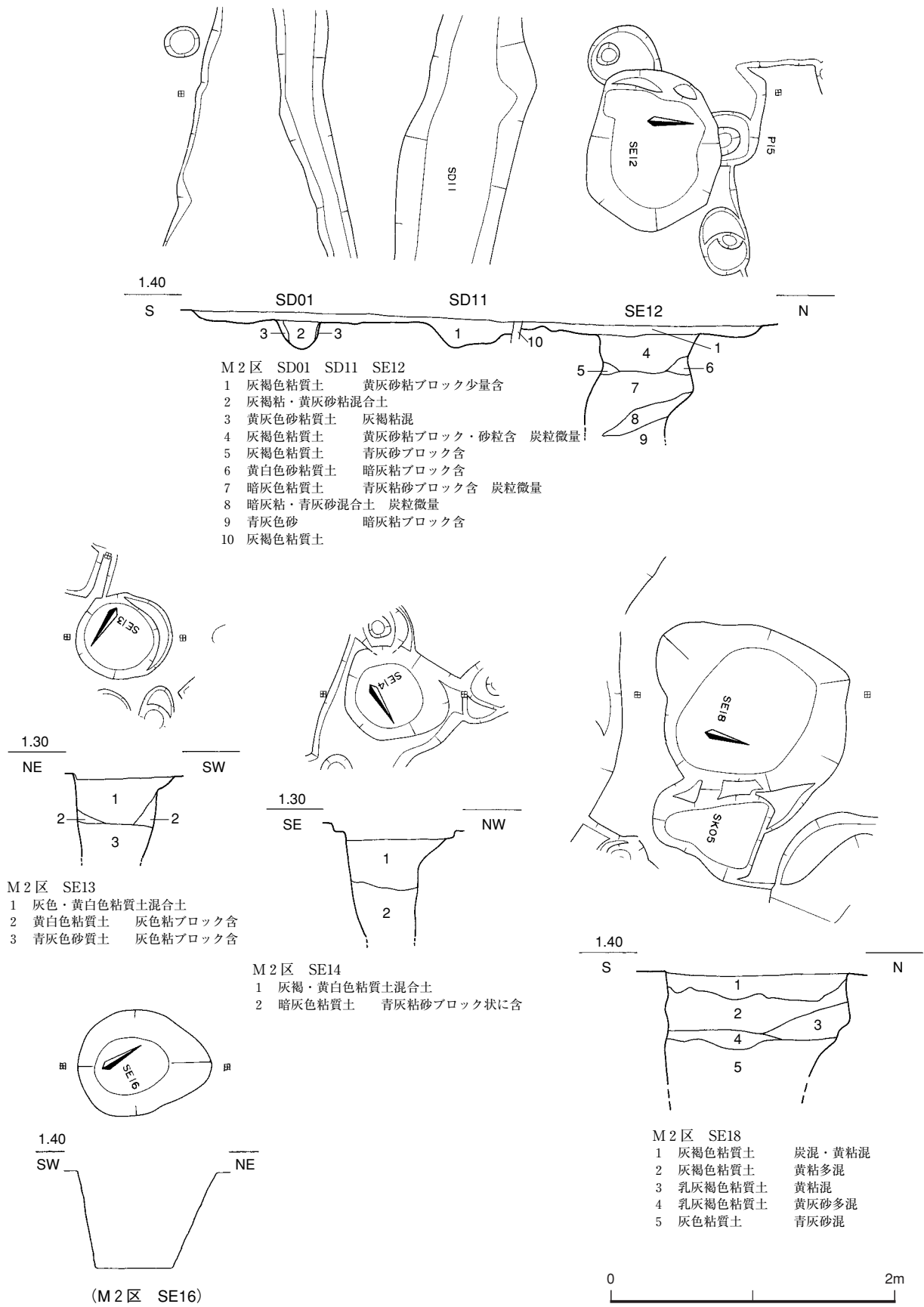
M2区 SE01

- 1 灰褐色粘質土
- 2 明灰褐色粘質土
- 3 灰色砂粘質土
- 4 灰色砂粘質土・青灰砂粘質土混土
全体に少量の炭粒含

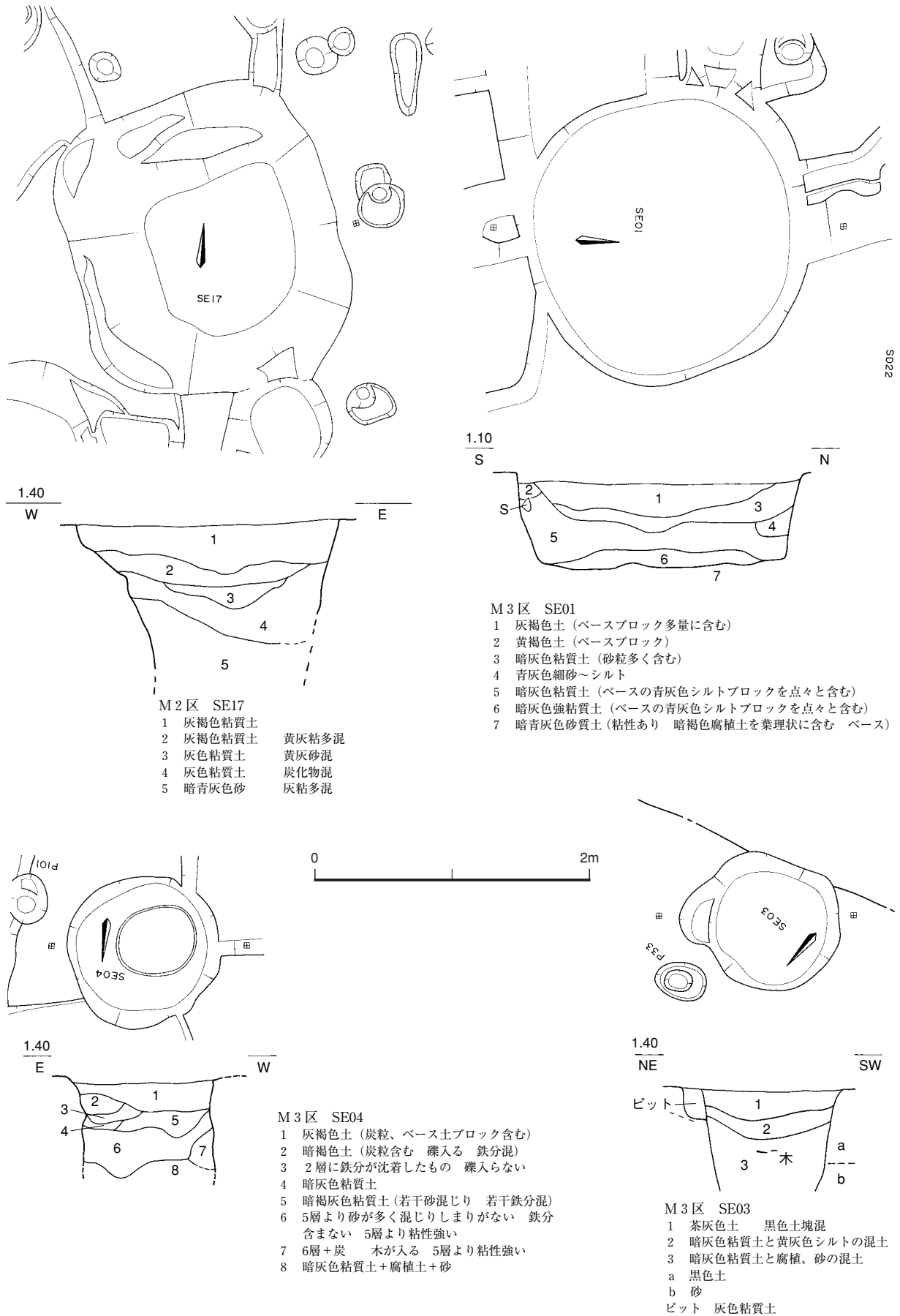
第91図 中世遺構図77



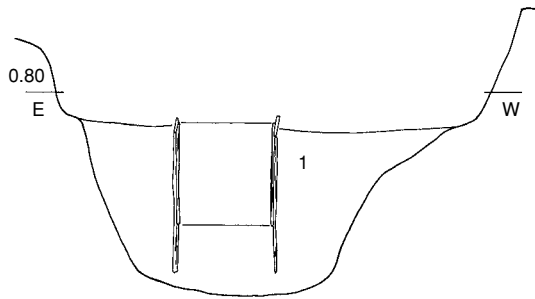
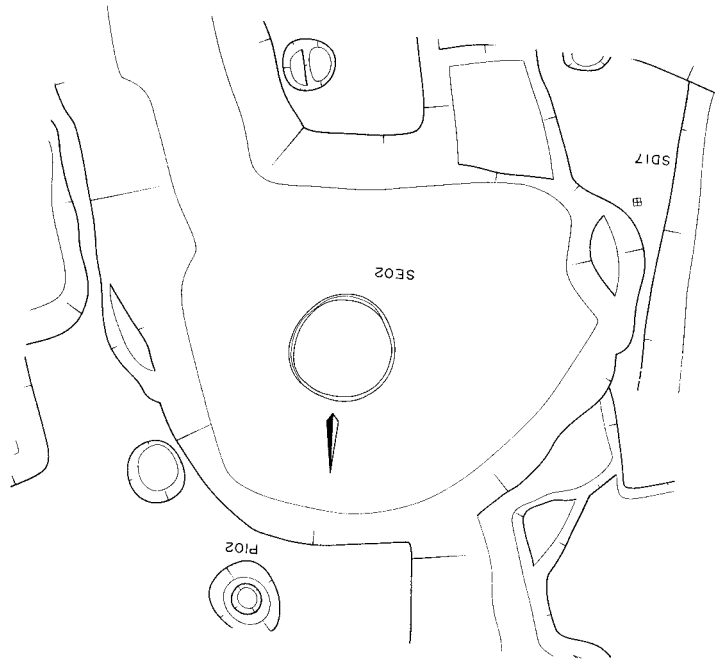
第92図 中世遺構図78



第93図 中世遺構図79



第94図 中世遺構図80



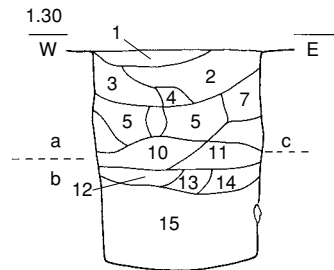
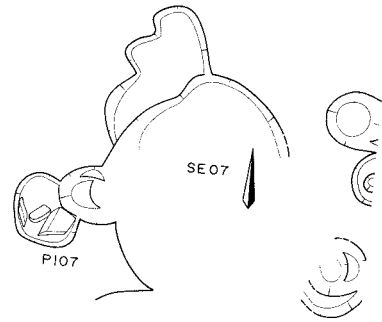
M3区 SE02

1 灰緑色砂質シルト・暗灰色粘質土・灰黄色シルト
この3つがブロック状に混ざり合う 炭化物含む 植物遺体含む

0.80
E



(M3区 SE02 井戸側検出状況)



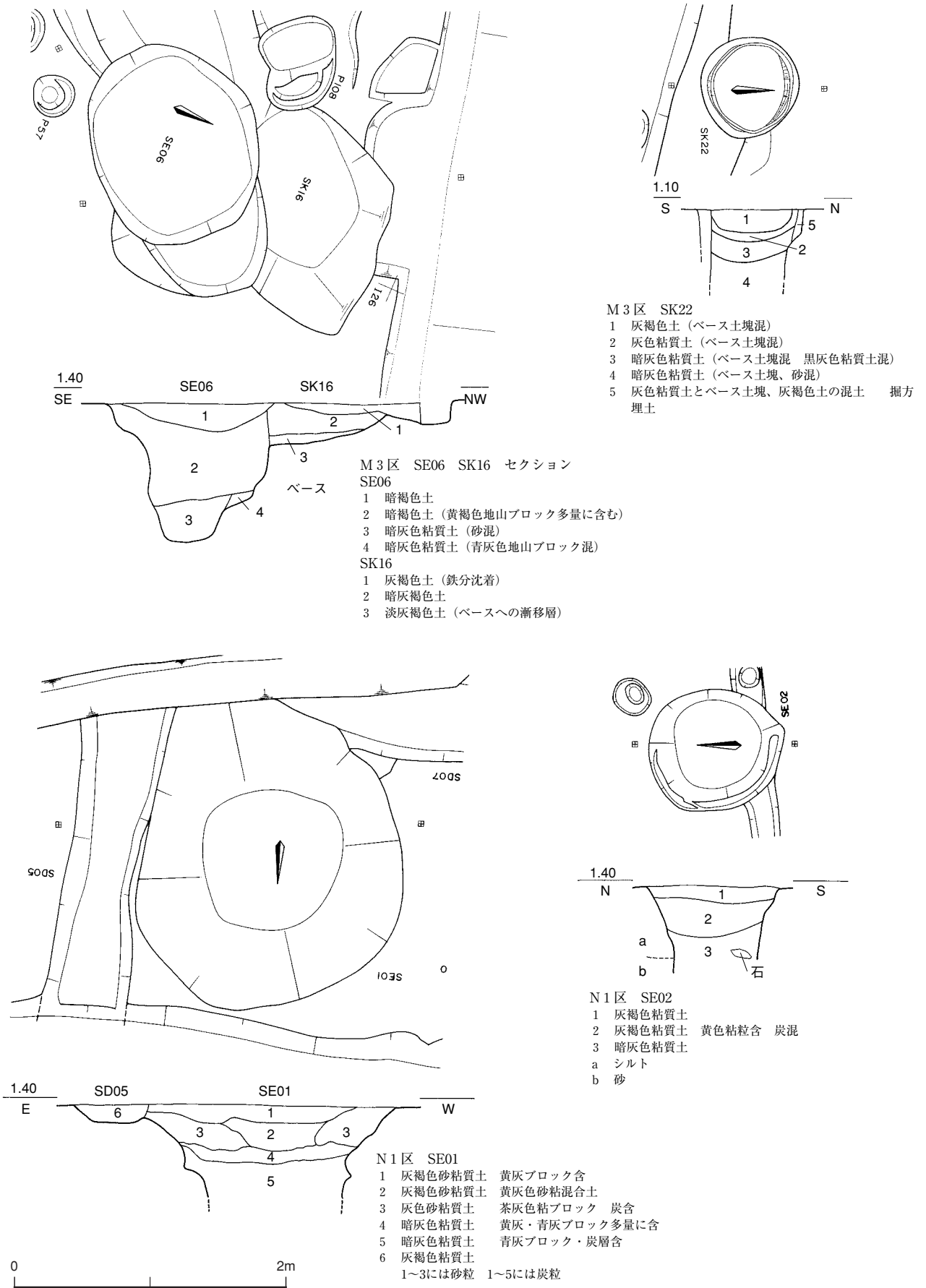
(崩落の為SP不明)

M3区 SE07

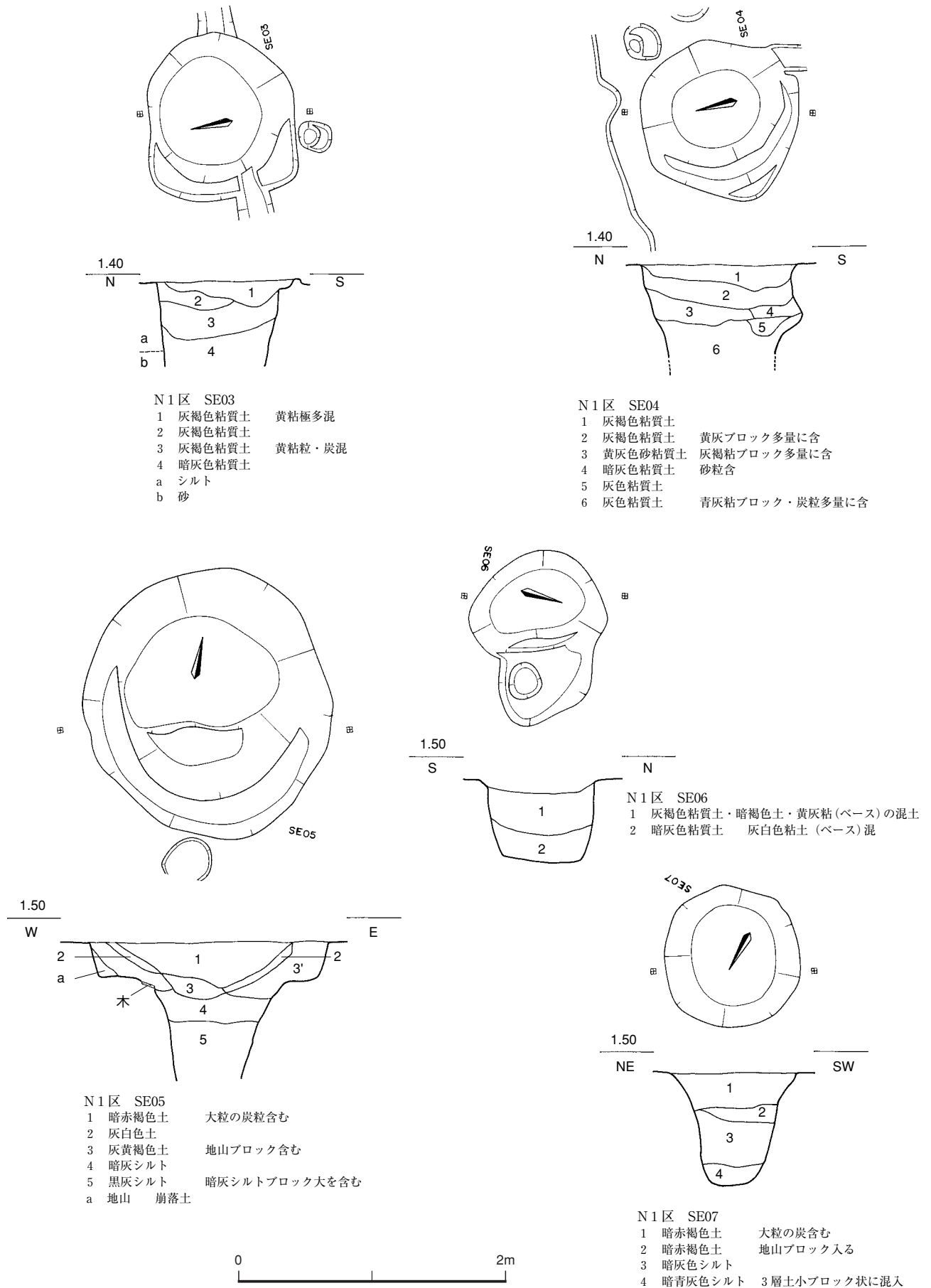
- 1 淡灰褐色土+ベース土
- 2 灰褐色土+ベース土ブロック少 (鉄分含む)
- 3 褐灰色粘質土+ベース土ブロック少
- 4 褐灰色粘性のある砂質土+ベース土ブロック(鉄分含む)
- 5 濁褐灰色粘質土 (3層よりやや粘性弱く、鉄分含む)+ベース土ブロック少
- 6 5層に鉄分沈着したもの
- 7 濁褐灰色粘質土(粘性は5層程度、鉄分・炭粒少量含む)
- 8 ベース土+5層土
- 9 濁褐灰色粘性のある砂質土+ベース土 (鉄分沈着)
- 10 灰色粘質土+青灰色シルト (少)
- 11 灰色粘質土+黄白砂ブロック
- 12 灰色粘質土+黄白色シルト
- 13 灰色粘質土 (腐植物混入多)
- 14 灰色粘質土+ベース土ブロック少 (腐植物混入少)
- 15 青灰色粘~シルト質土+暗灰色粘質土 (腐植物混入多)
- a 黄白色砂質土 (やや粘性、鉄分含む)
- b 青灰シルト
- c 黄白色砂質土 (鉄分含む)

0 2m

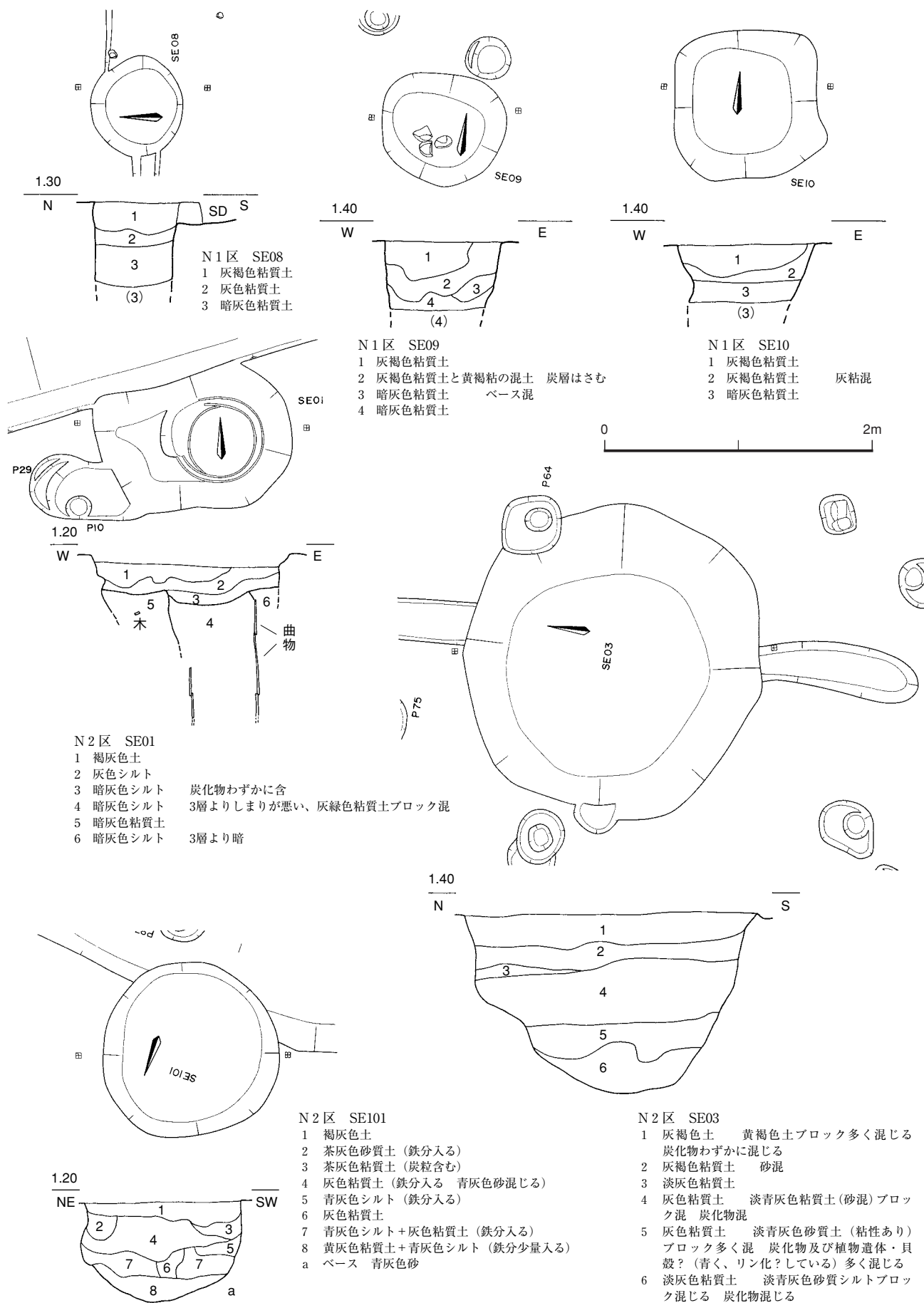
第95図 中世遺構図81



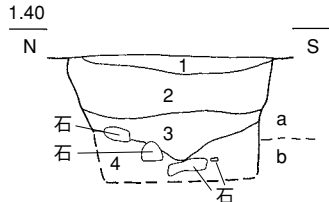
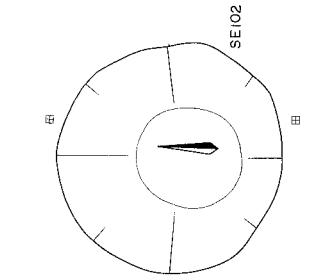
第96図 中世遺構図82



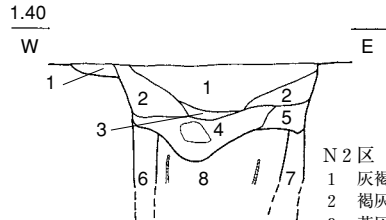
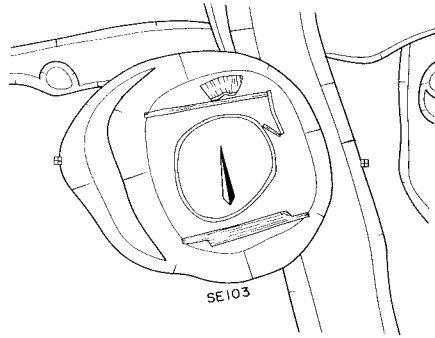
第97図 中世遺構図83



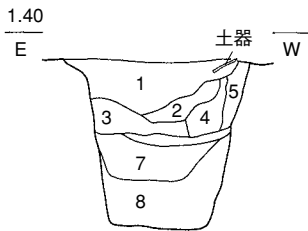
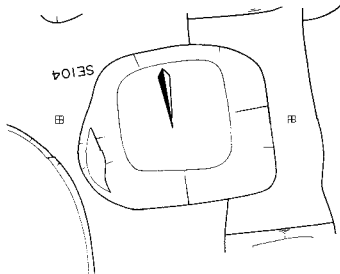
第98図 中世遺構図84



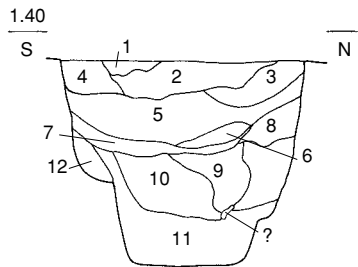
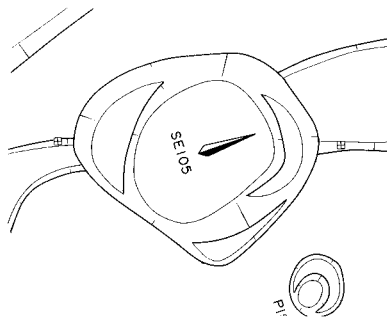
- N2区 SE102
- 1 淡茶灰色土
 - 2 暗灰褐色粘質土
 - 3 暗灰色粘質土
 - 4 暗灰色粘質土 (ベース・石混じり)
 - a シルト
 - b 砂



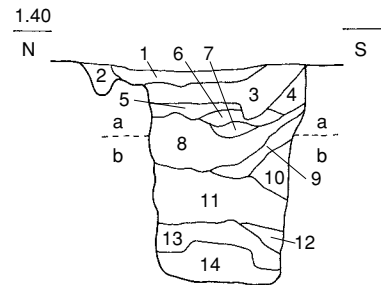
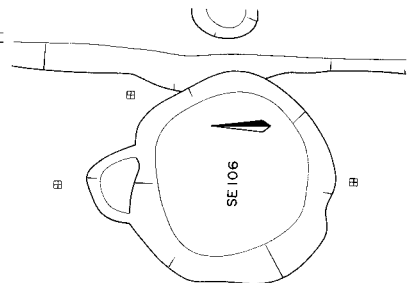
- N2区 SE103
- 1 灰褐色土
 - 2 褐灰色弱粘質土
 - 3 茶灰色弱粘質土
 - 4 暗灰色粘質土 (鉄分入る)
 - 5 暗灰色粘質土 (鉄分・砂入る)
 - 6 濁暗灰色粘質土 (青灰色細砂少量入る)
 - 7 濁灰色粘質土
 - 8 濁暗灰色粘質土



- N2区 SE104
- 1 淡褐灰色土 (炭少量含む)
 - 2 淡褐灰色粘質土 (炭多量に含む)
 - 3 淡褐灰色粘質土 (鉄分含む)
 - 4 濁淡茶灰色粘質土 (炭やや多く含む)
 - 5 濁淡茶灰色粘質土
 - 6 濁灰色強粘質土 (炭含む)
 - 7 濁灰色粘質土 (砂混じる)
 - 8 濁灰色粘質土 (炭混じり)



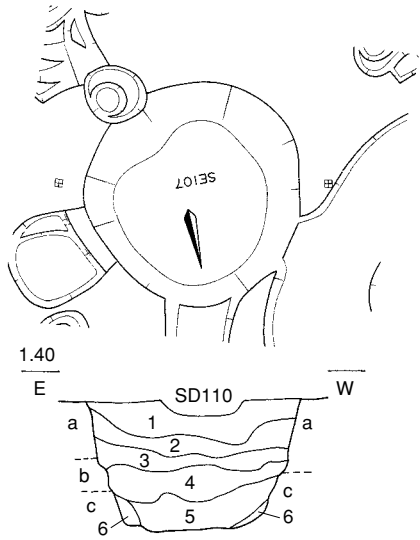
- N2区 SE105
- 1 淡灰色砂質土+灰白色砂質土
 - 2 灰色砂質土+灰茶色砂質土+灰白色砂質土 (鉄分含む)
 - 3 灰茶色砂質土+灰白色砂質土 (鉄分多く含む)
 - 4 茶灰色砂質土+灰白色粘質土
 - 5 褐灰色粘質土+灰白色粘質土 (鉄分多く含む)
 - 6 淡灰色粘質土+灰白色粘質土 (鉄分含む)
 - 7 淡灰色砂+灰白色粘質土 (鉄分含む)
 - 8 褐灰色粘質土 (砂混じり) 鉄分含む
 - 9 灰色粘質土+青灰色砂
 - 10 灰色粘質土+青灰色砂 (炭含む)
 - 11 暗灰色強粘質土+青灰色砂
 - 12 淡灰色粘質土 (鉄分少量含む)



- N2区 SE106
- 1 灰褐色土
 - 2 暗灰褐色土
 - 3 灰褐色土 (黄褐色ベースブロック多量混)
 - 4 暗灰色粘質土 (炭粒少量含)
 - 5 暗灰色粘質土 (細砂粒多く含む)
 - 6 暗灰色粘質土 (やや黒みを帯びる)
 - 7 青灰色シルト (炭粒含)
 - 8 灰色強粘質土 (炭粒含 青灰色ベース小ブロック少量含む)
 - 9 暗灰色粘質土 (炭粒含 青灰色ベース小ブロック少量含む)
 - 10 暗灰色強粘質土 (炭粒含 青灰色ベース小ブロック少量含む)
 - 11 灰色強粘質土 (炭塊多量に含む 青灰色ベースシルト大ブロック多量に含む)
 - 12 青灰色シルト (灰色粘質土ブロック少量含む)
 - 13 暗灰色強粘質土 (炭粒含)
 - 14 黒灰色粘質土+青灰色シルトの薬理層
 - a 黄褐色土ベース
 - b 青灰色シルト

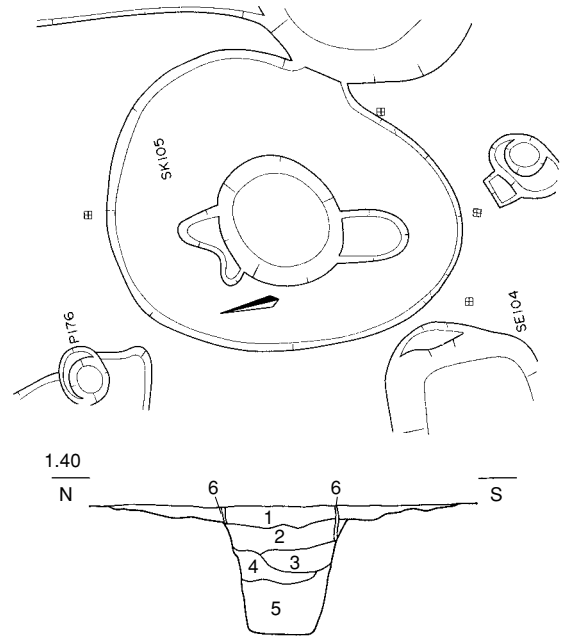


第99図 中世遺構図85



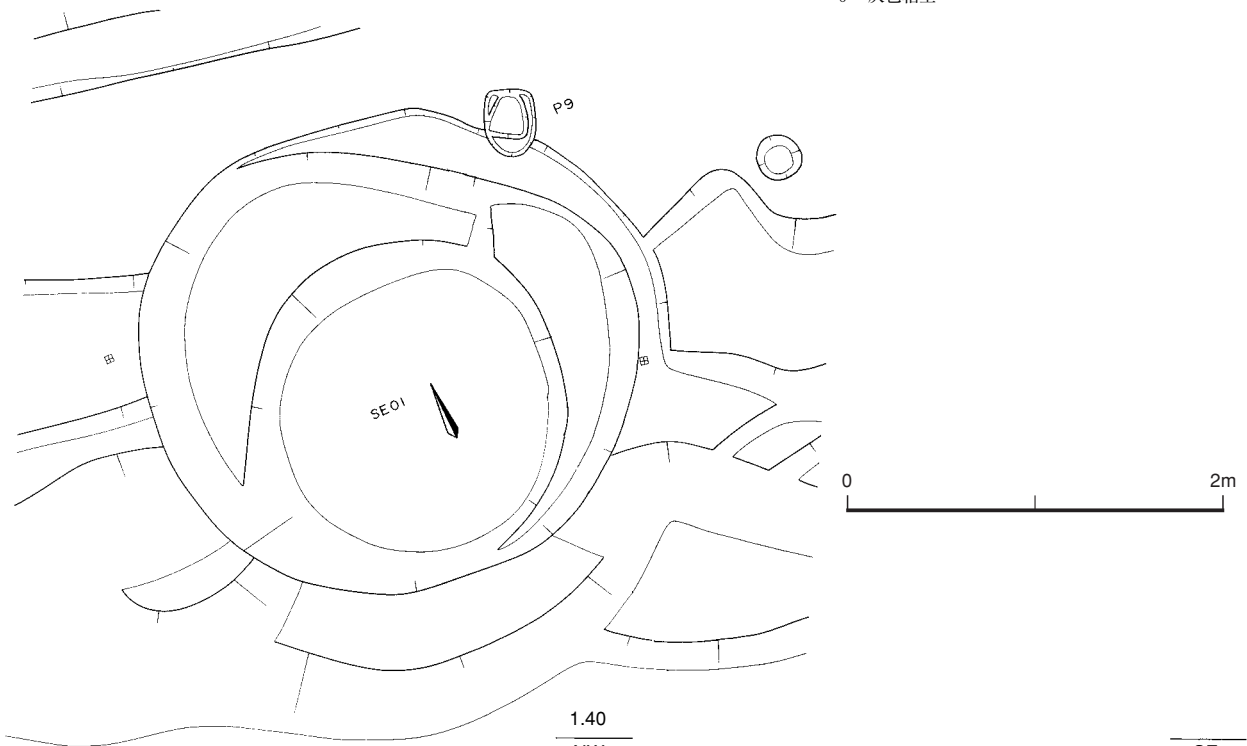
N2区 SE107

- 1 灰褐色土 (黄褐色ベースブロック少量含む)
- 2 暗灰褐色土 (鉄分沈着)
- 3 茶褐色土 (4層の灰色粘質土混)
- 4 灰色粘質土 (炭粒少量含む)
- 5 暗灰色粘質土 (黄白色ベースブロック斑状に多く含む)
- 6 青灰色細砂 (ベース崩落土)
- a ベース 黄褐色土
- b ベース 青灰色細砂
- c ベース 黄白色粘質土



N2区 SK105

- 1 淡褐灰色粘質土 (ベース混じり)
- 2 淡茶灰粘質土 (ベース混じり)
- 3 淡灰茶色粘質土 (やや砂混じる)
- 4 黄灰色粘質土+灰色粘質土
- 5 濁青灰色粘質土
- 6 灰色粘土



1.40

NW

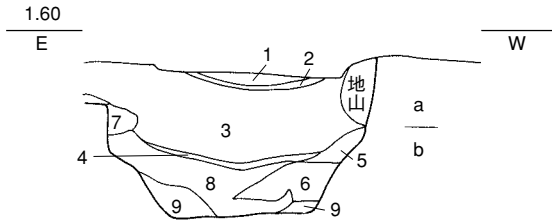
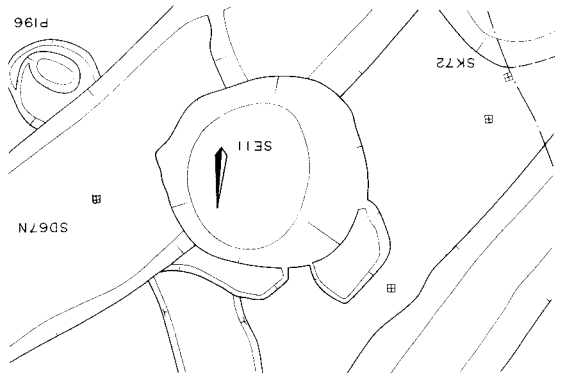
SE

O2区 SE01

- 1 淡灰褐色土
- 2 淡灰褐色土 炭多混
- 3 淡灰色粘質土
- 4 灰褐色粘質土 シルトベース混
- 5 灰色粘質土
- 6 灰色粘質土 炭混・砂ベース混
- 7 ベース砂と灰色粘質土の混土
- a 黄褐～黄白粘質シルト
- b 緑灰砂

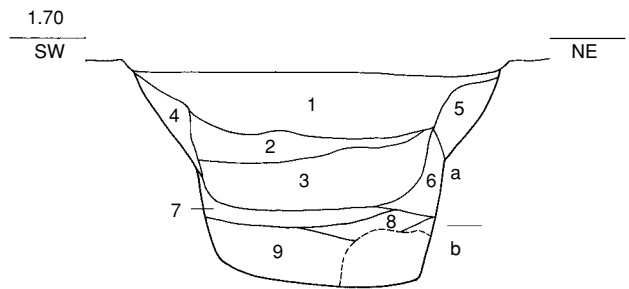
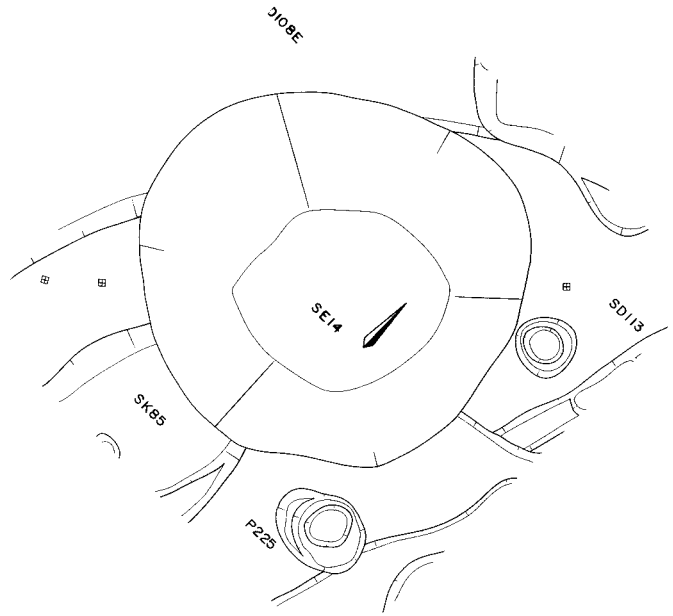
第100図 中世遺構図86

第4節 井戸



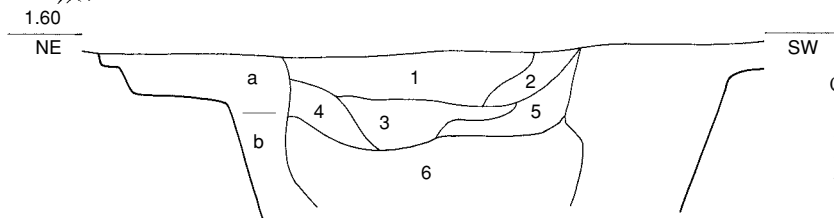
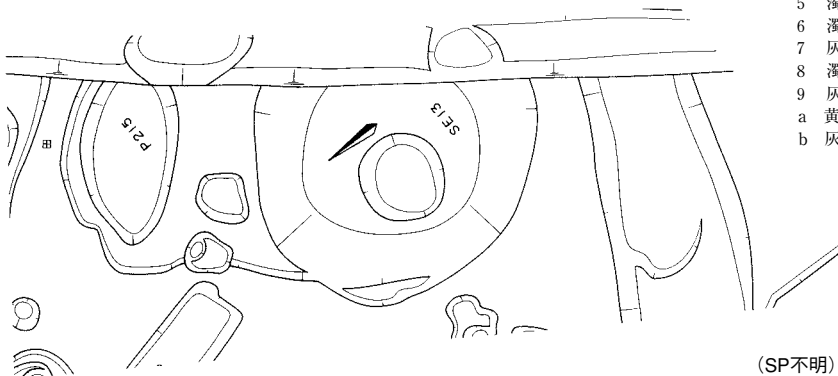
Q2区 SE11

- 1 褐灰色粘土
- 2 灰白粘土
- 3 暗灰色粘土 若干褐色がかる
- 4 暗灰色粘土 腐植物多量に含む
- 5 暗灰色粘土 地山ブロック含む
- 6 青灰砂 地山ブロック
- 7 暗灰色粘土 地山ブロック多量 3~5層と同じ土
- 8 暗灰色粘土 3層より暗い、炭化物少し含む
- 9 青灰砂 地山ブロック 8層少量含む
- a 灰黄粘
- b 青灰砂



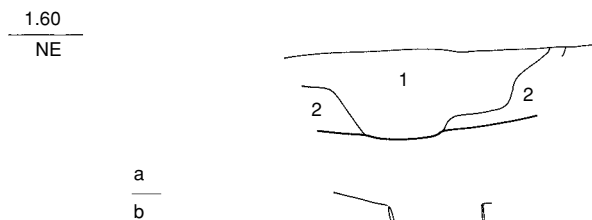
Q2区 SE14

- 1 灰褐色粘質土
- 2 濁灰褐色粘質土 黄色土ブロック混じる
- 3 濁暗灰色土 砂気あり、青灰色土混じる
- 4 濁褐色土 暗褐色土ブロック混じる
- 5 濁褐色土 暗褐色土ブロック混じる、粗砂混じる
- 6 濁青灰砂 暗灰褐色土ブロック混じる
- 7 灰色砂
- 8 濁灰色 褐色粘土ブロック混じる
- 9 灰色砂 青灰色粘土ブロック混じる
- a 黄褐色土
- b 灰色粗砂



Q2区 SE13

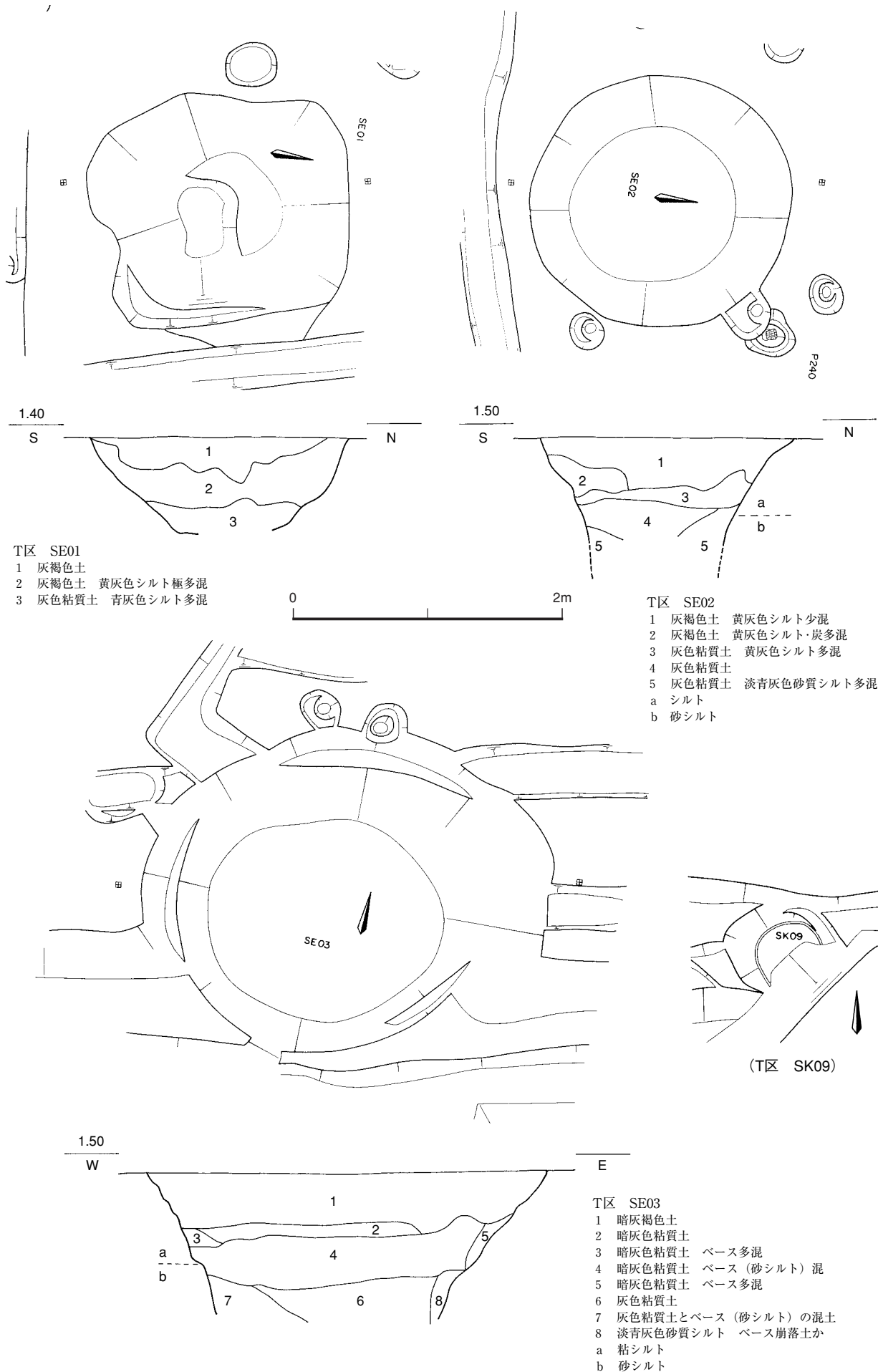
- 1 暗褐灰色粘質土 炭粒含む
- 2 濁暗灰褐色粘質土 黄色土ブロック混じる
- 3 暗褐灰色粘質土 1層より粘る
- 4 濁暗灰褐色粘質土 黄色土ブロック混じる
- 5 濁暗茶褐色粘質土 サビがういて赤茶けてみえる
- 6 濁暗灰色粘土 青灰砂混じる
- a 黄色土
- b 青灰砂



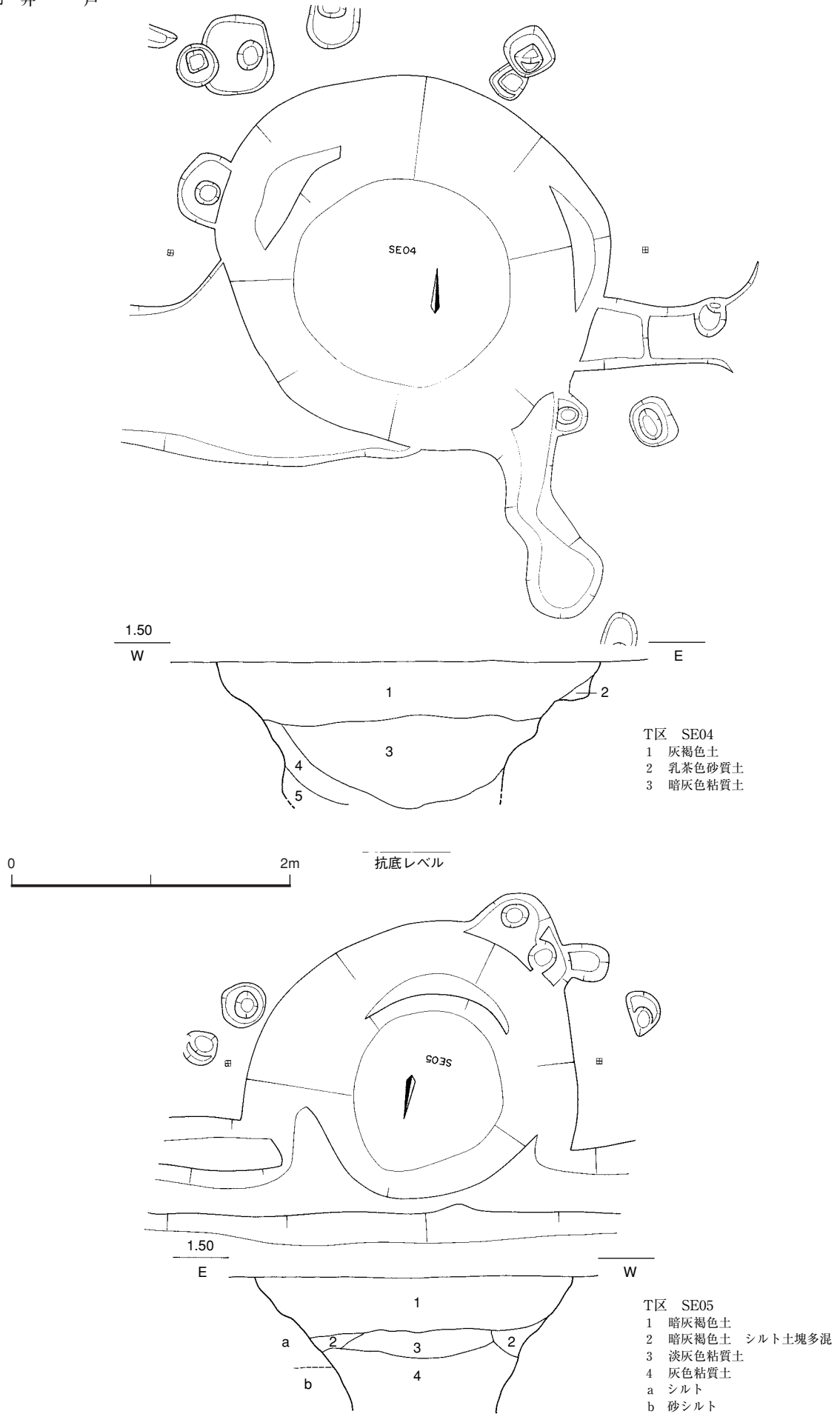
Q2区 SE13

- 1 暗灰褐色粘質土 かなり暗い
- 2 暗灰褐色粘質土 地山ブロックかなり多く含む
- 3 暗褐灰色粘土 地山ブロック多く含む
- a 灰黄粘
- b 青灰粘

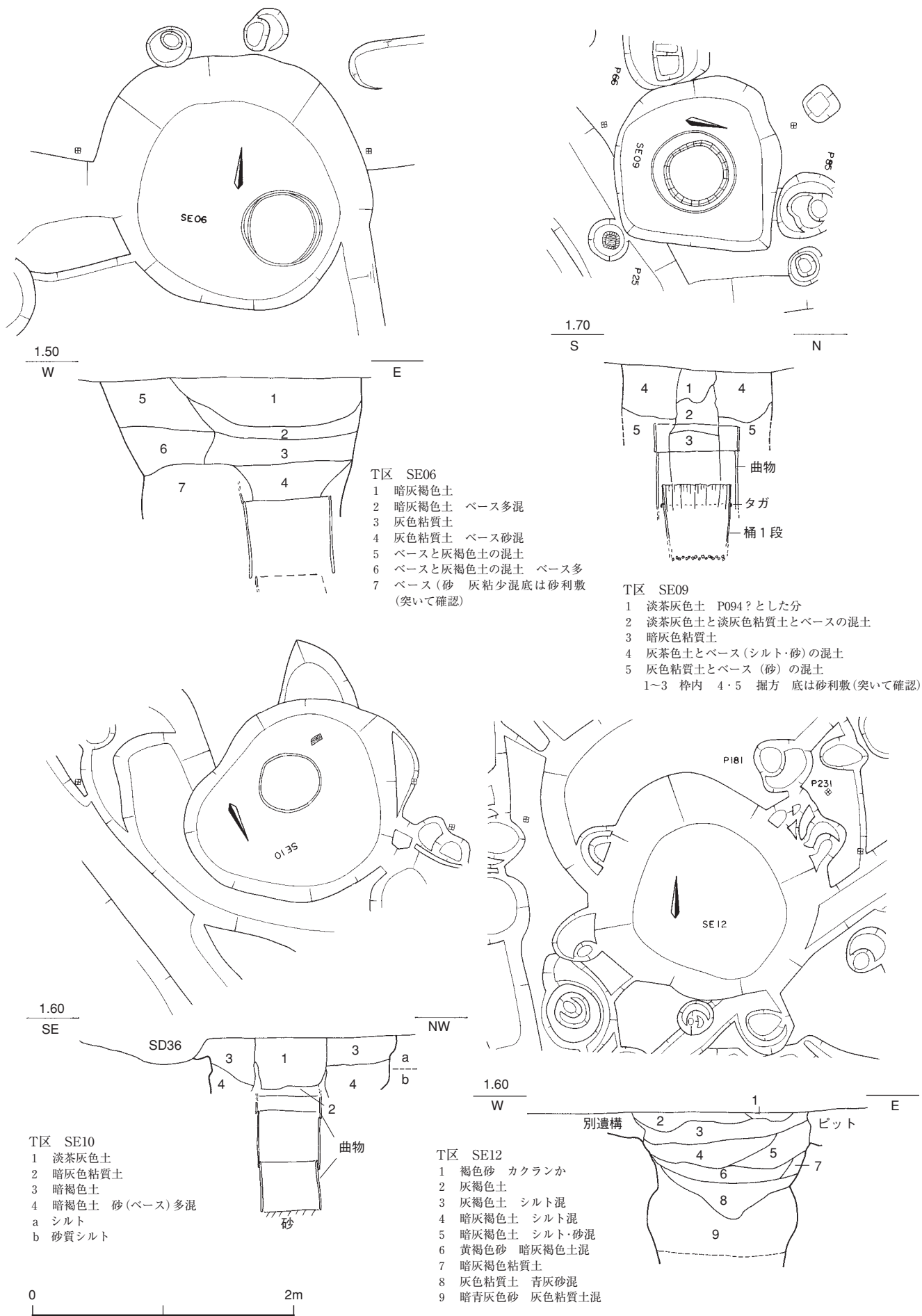
第101図 中世遺構図87



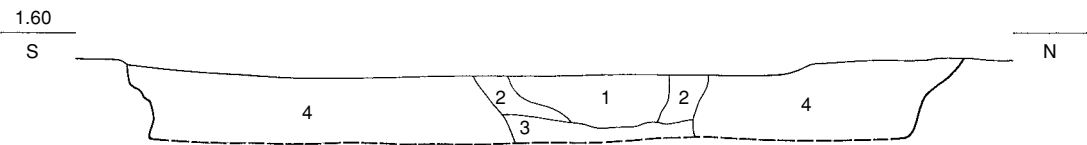
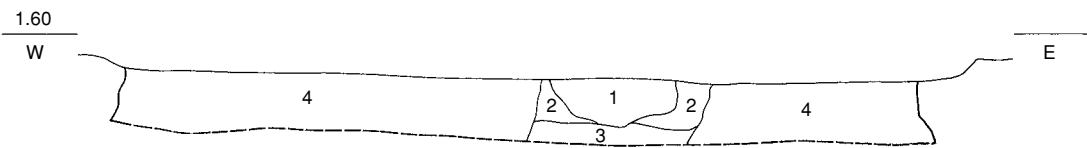
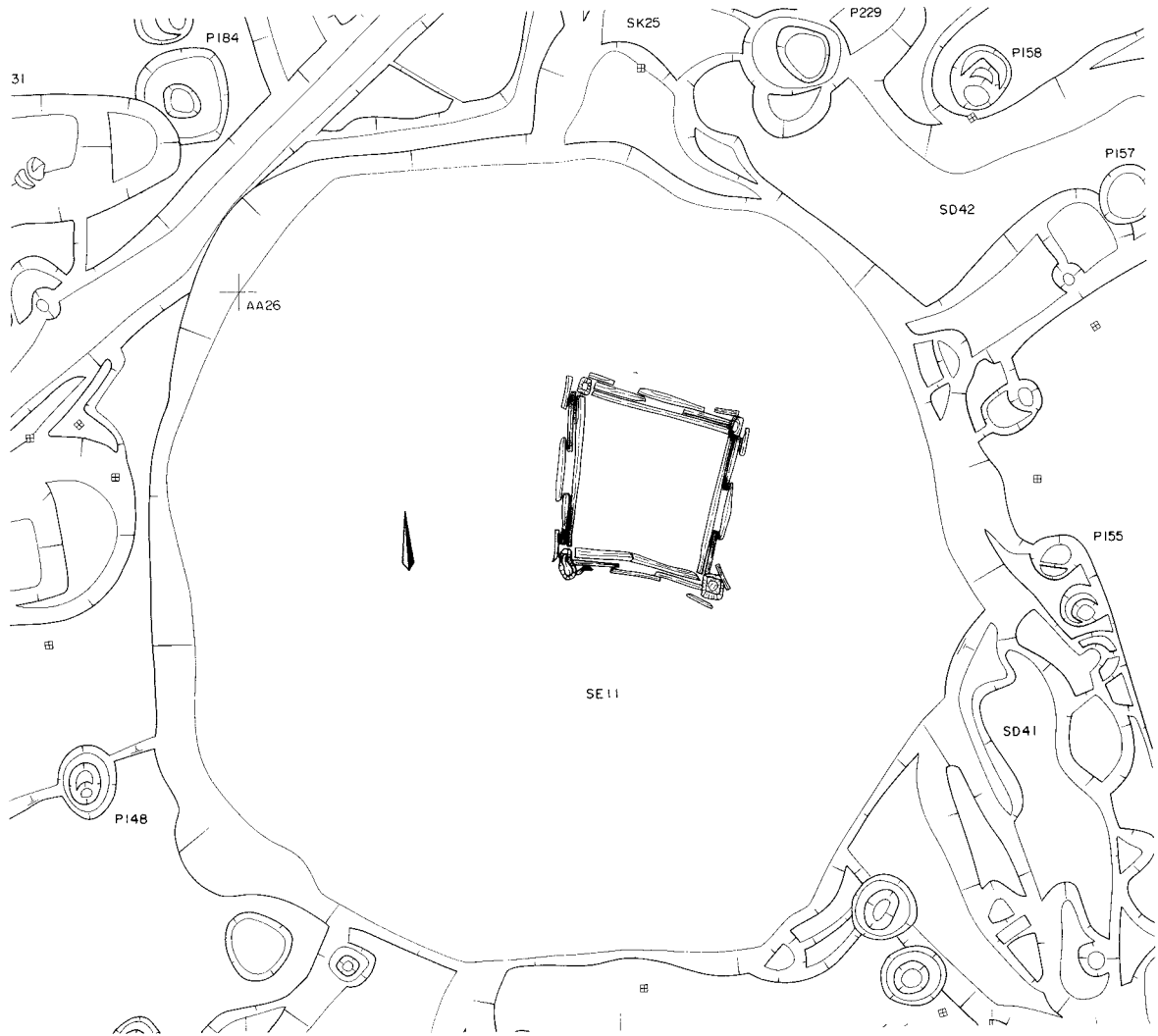
第102図 中世遺構図88



第103図 中世遺構図89



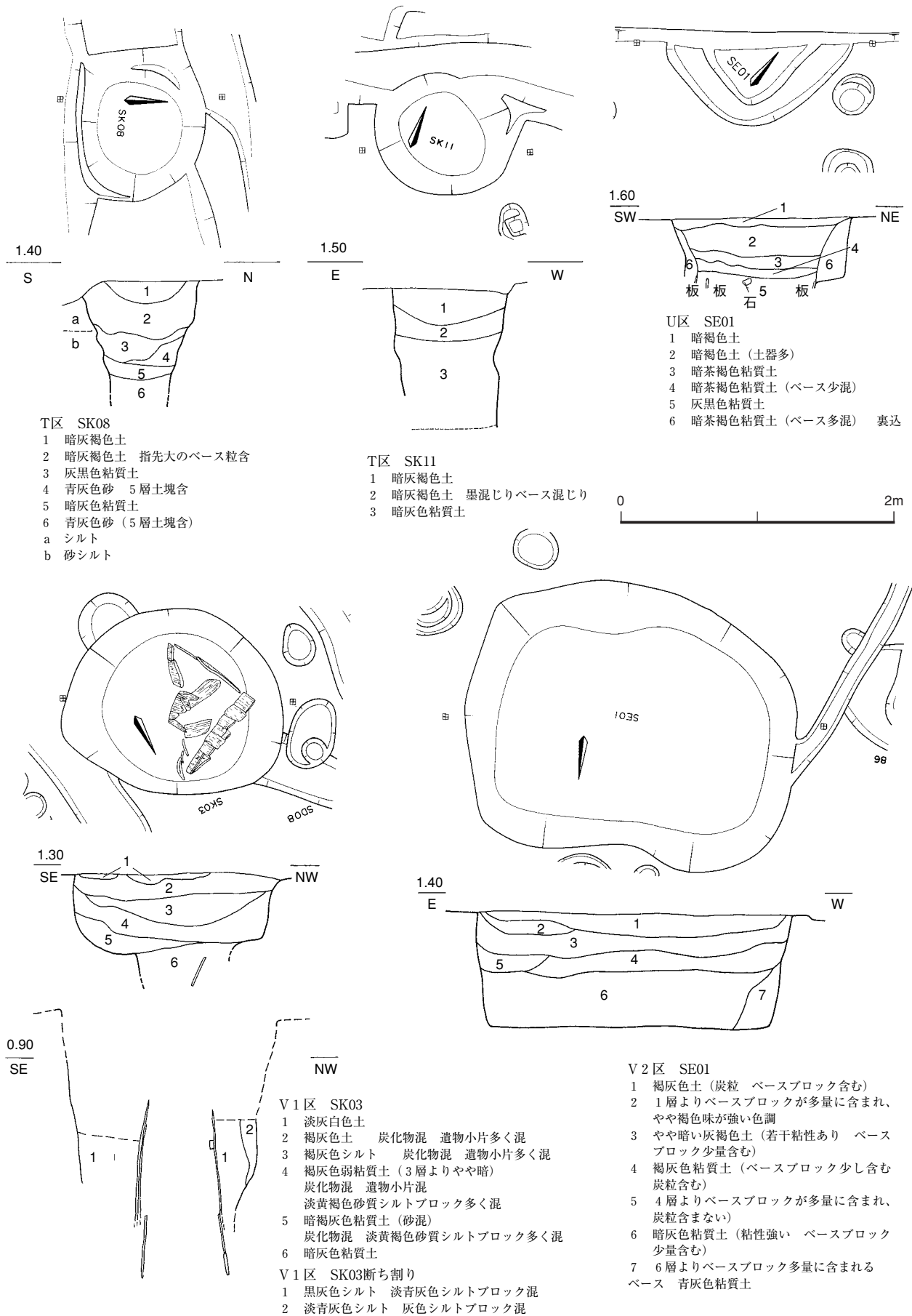
第104図 中世遺構図90



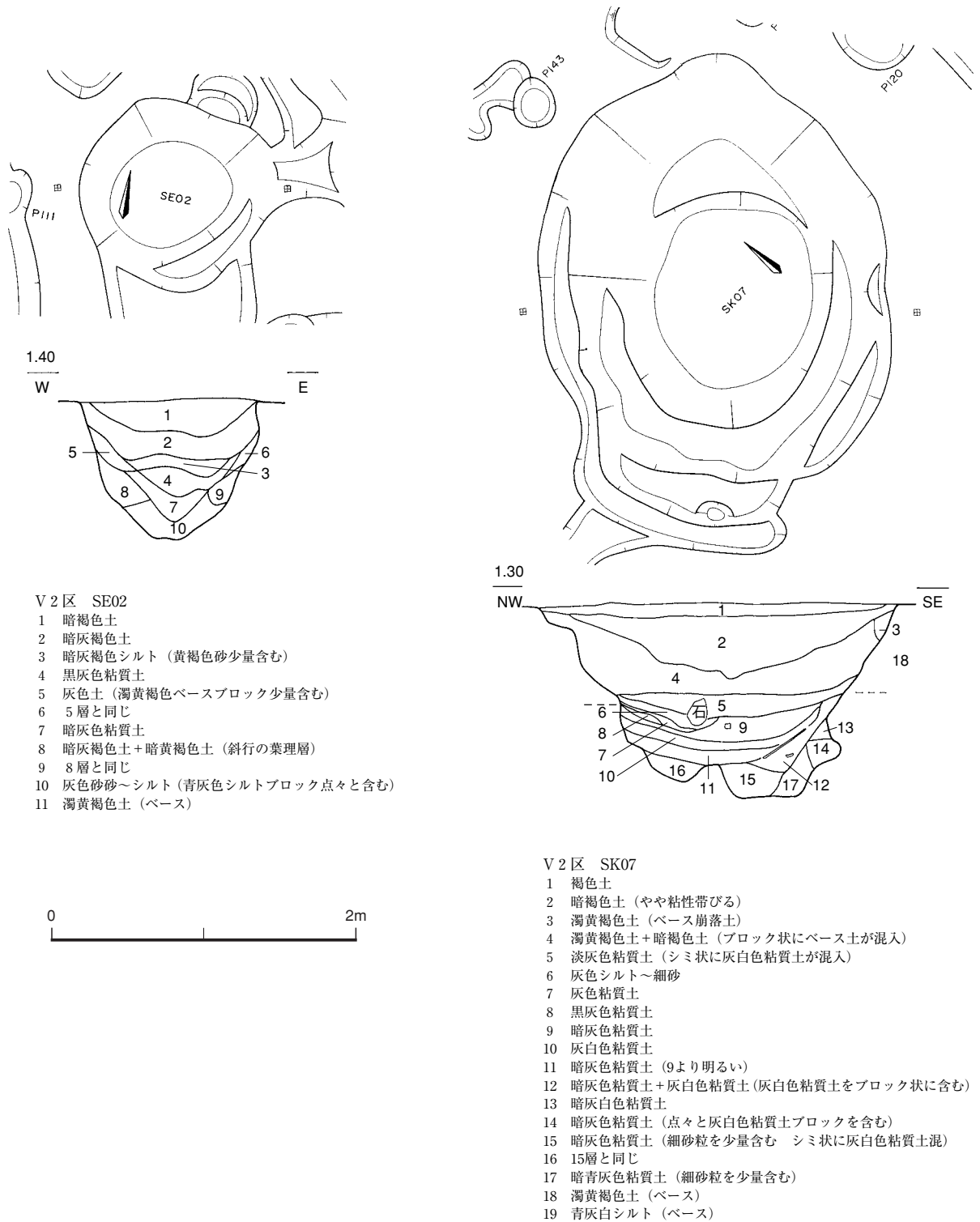
- T区 SE11
- 1 灰褐色土
 - 2 暗灰褐色土
 - 3 暗灰褐色粘質土
 - 4 暗灰褐色土とベースの混土 しまっている、掘方

0 2m

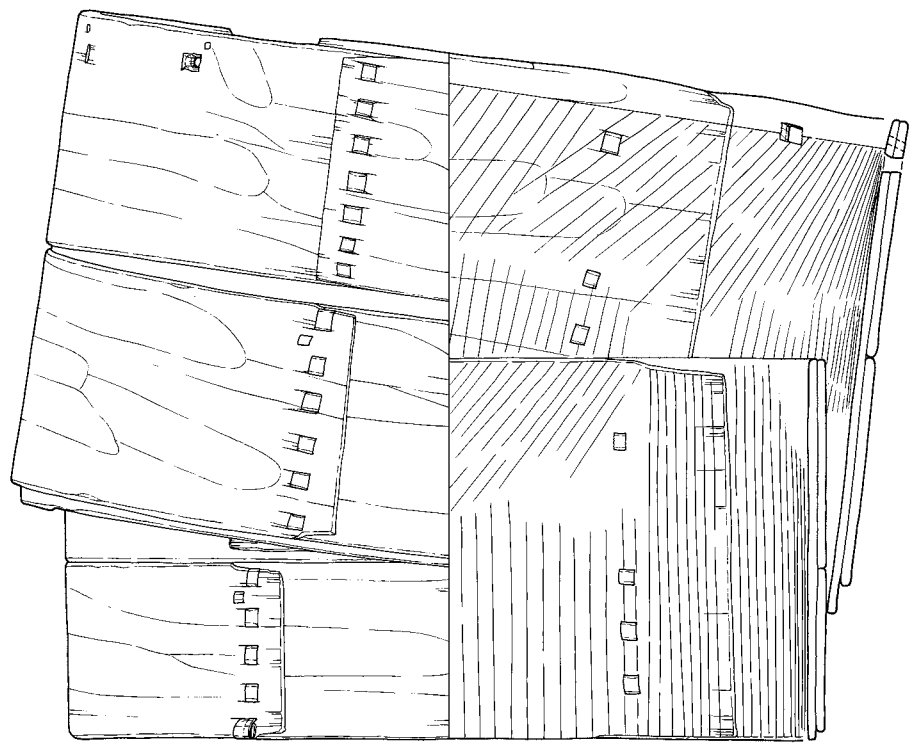
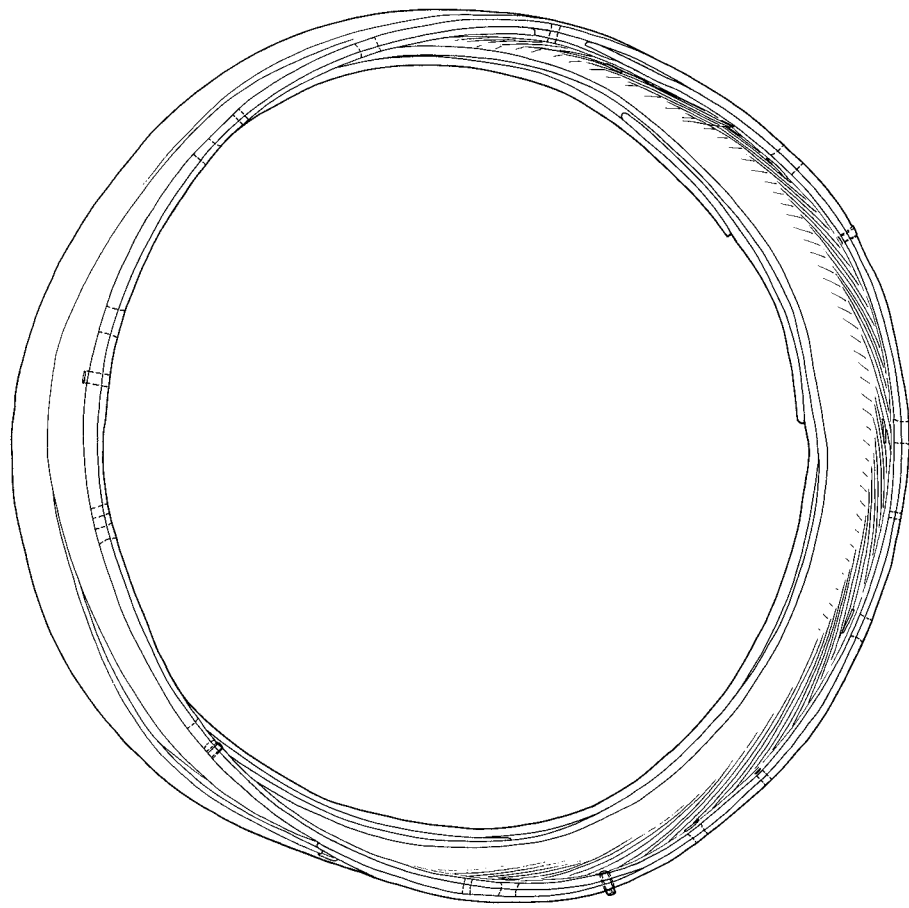
第105図 中世遺構図91



第106図 中世遺構図92



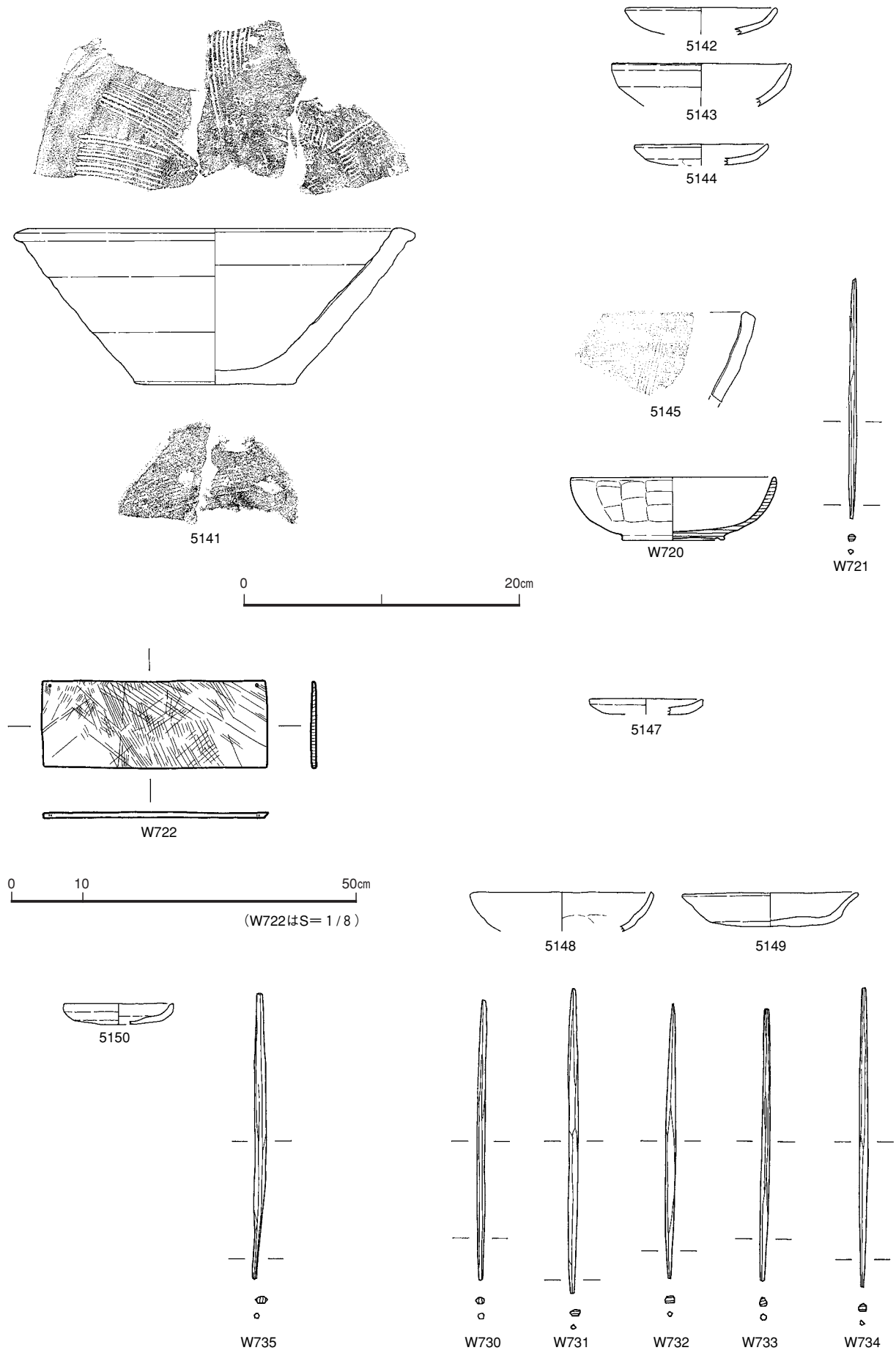
第107図 中世遺構図93



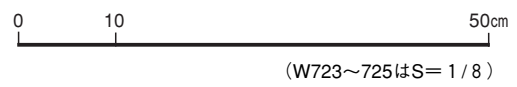
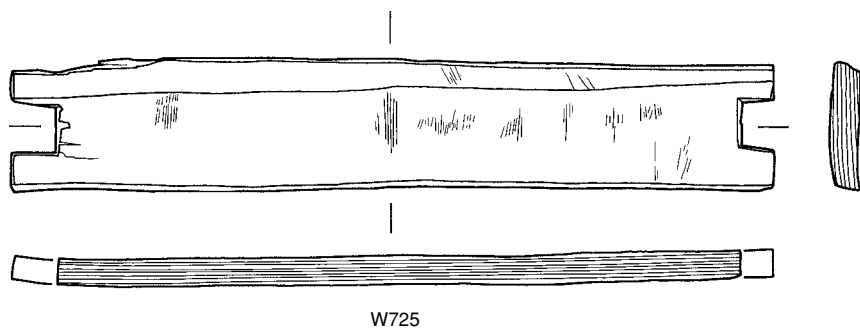
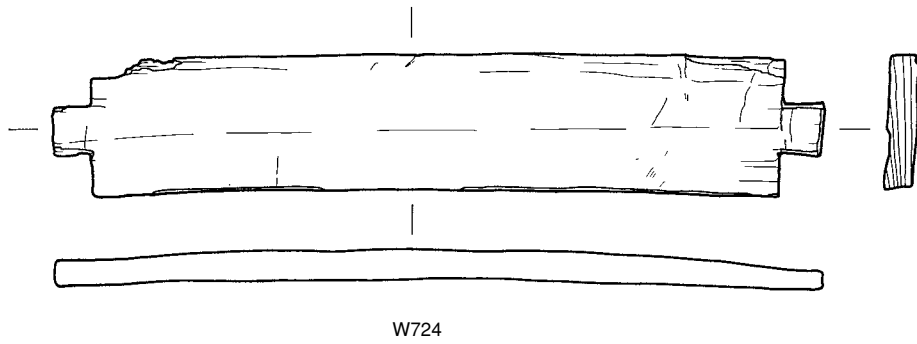
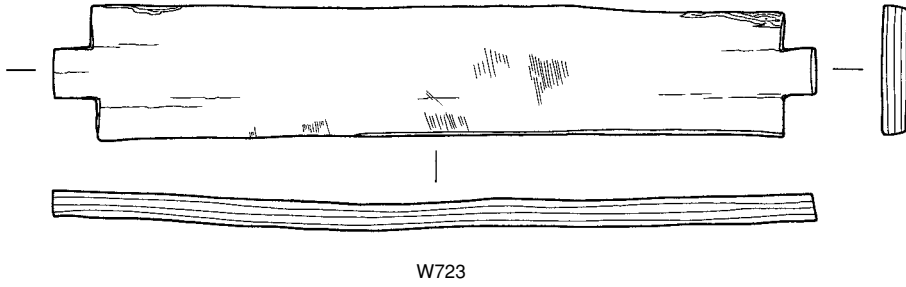
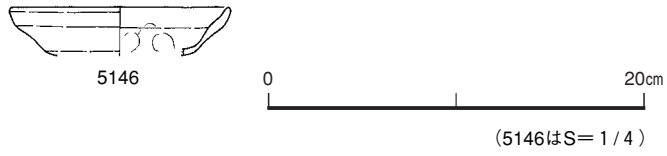
W719



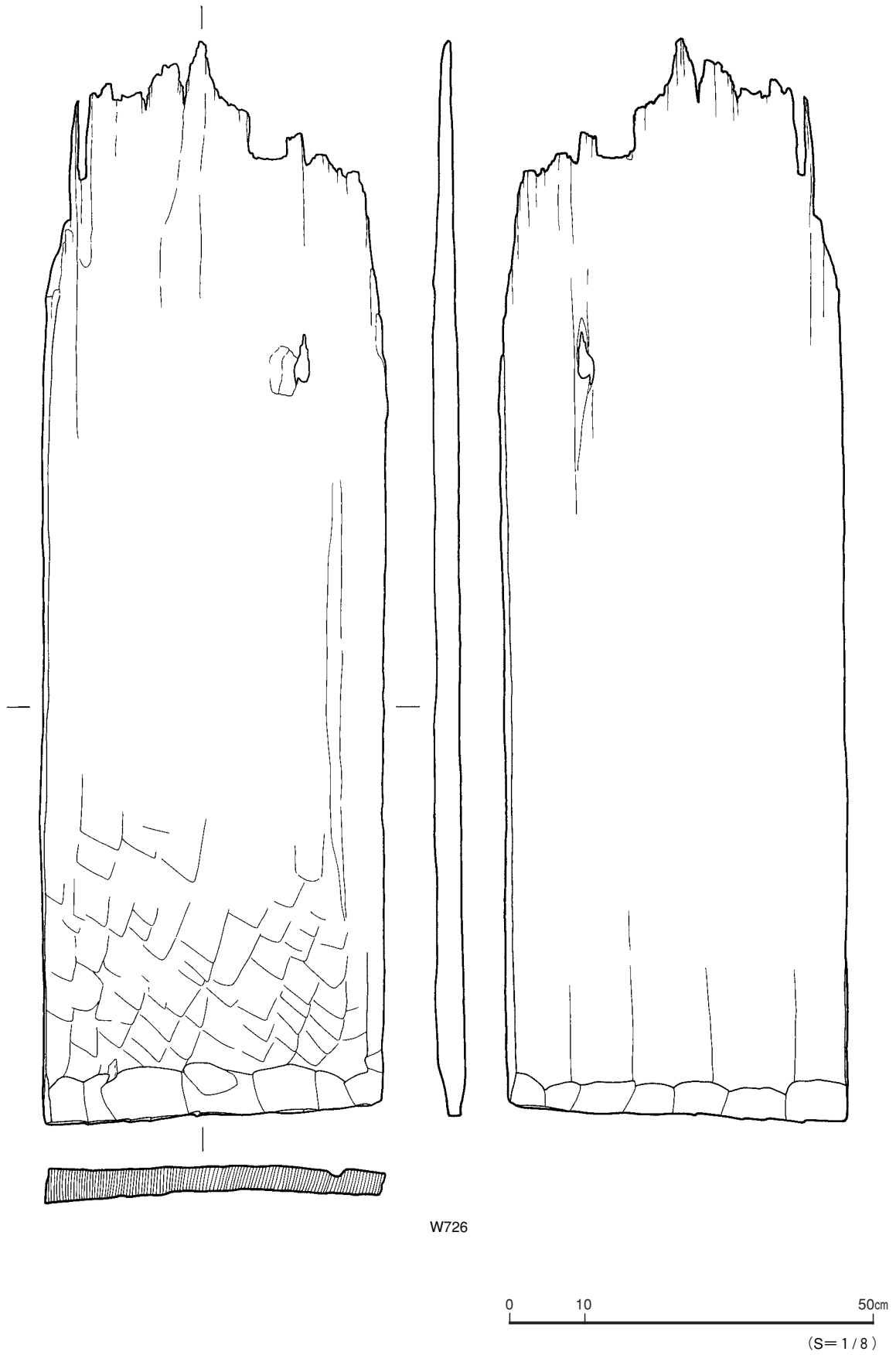
第108図 中世遺物図15



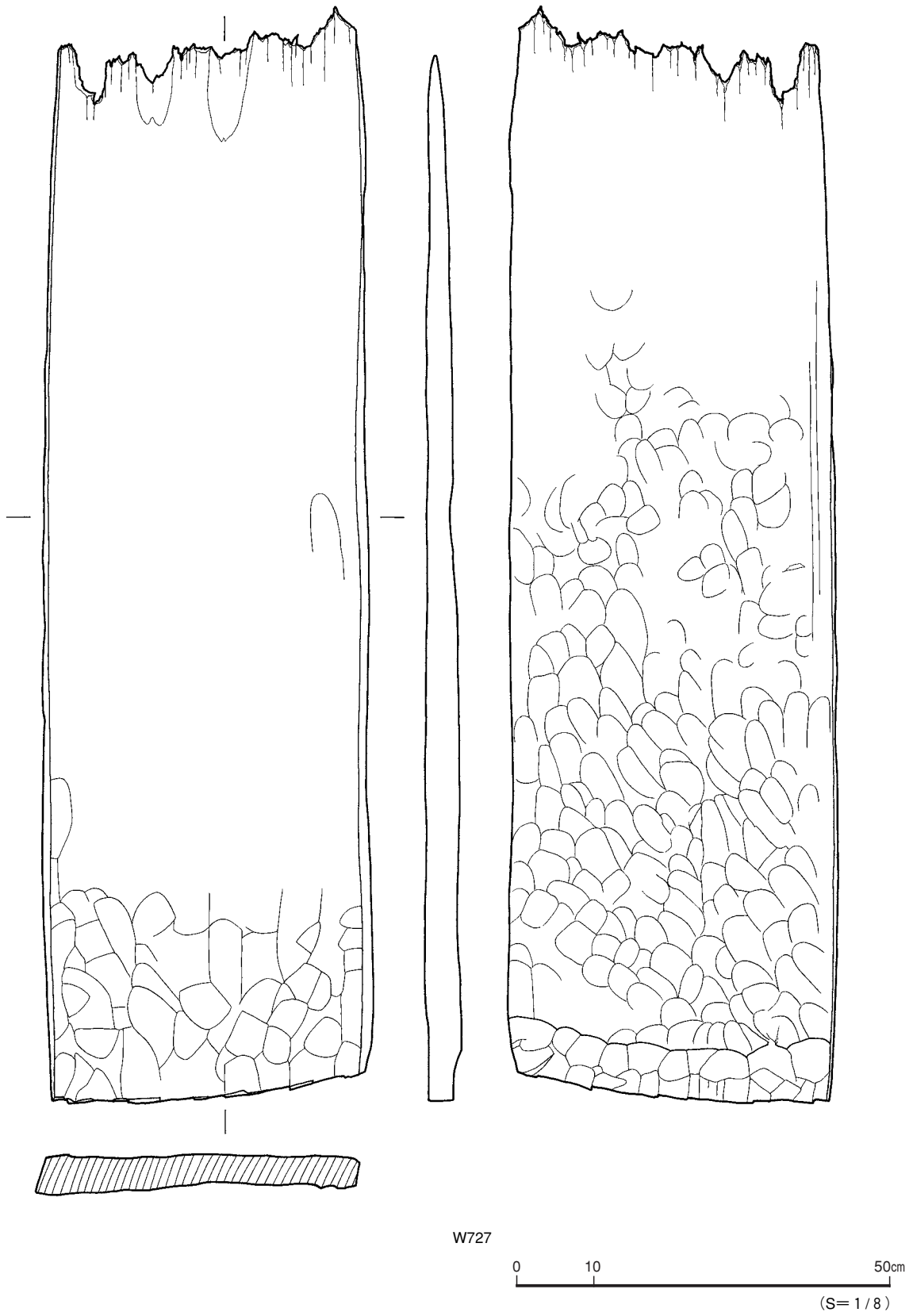
第109図 中世遺物図16



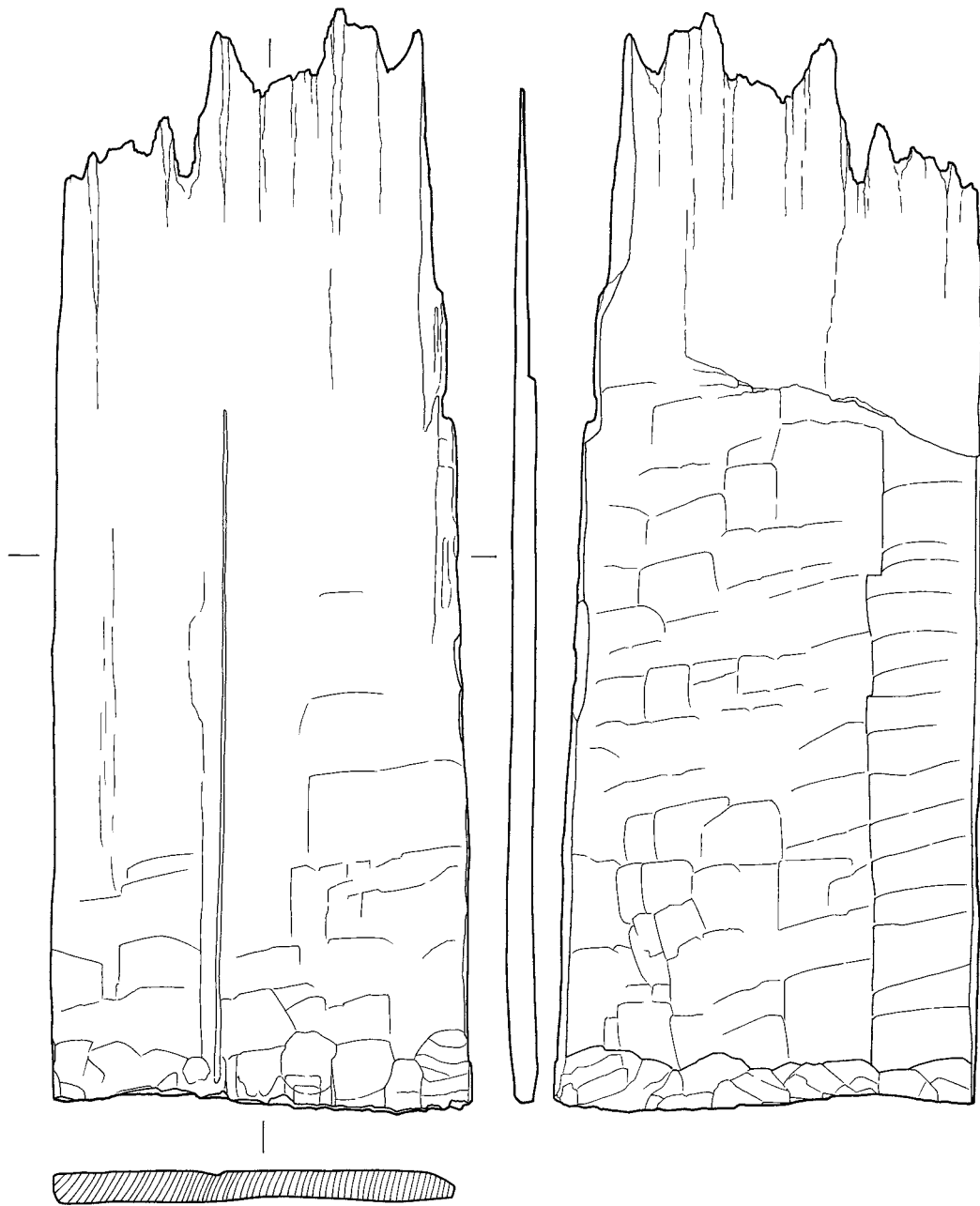
第110図 中世遺物図17



第111図 中世遺物図18



第112図 中世遺物図19



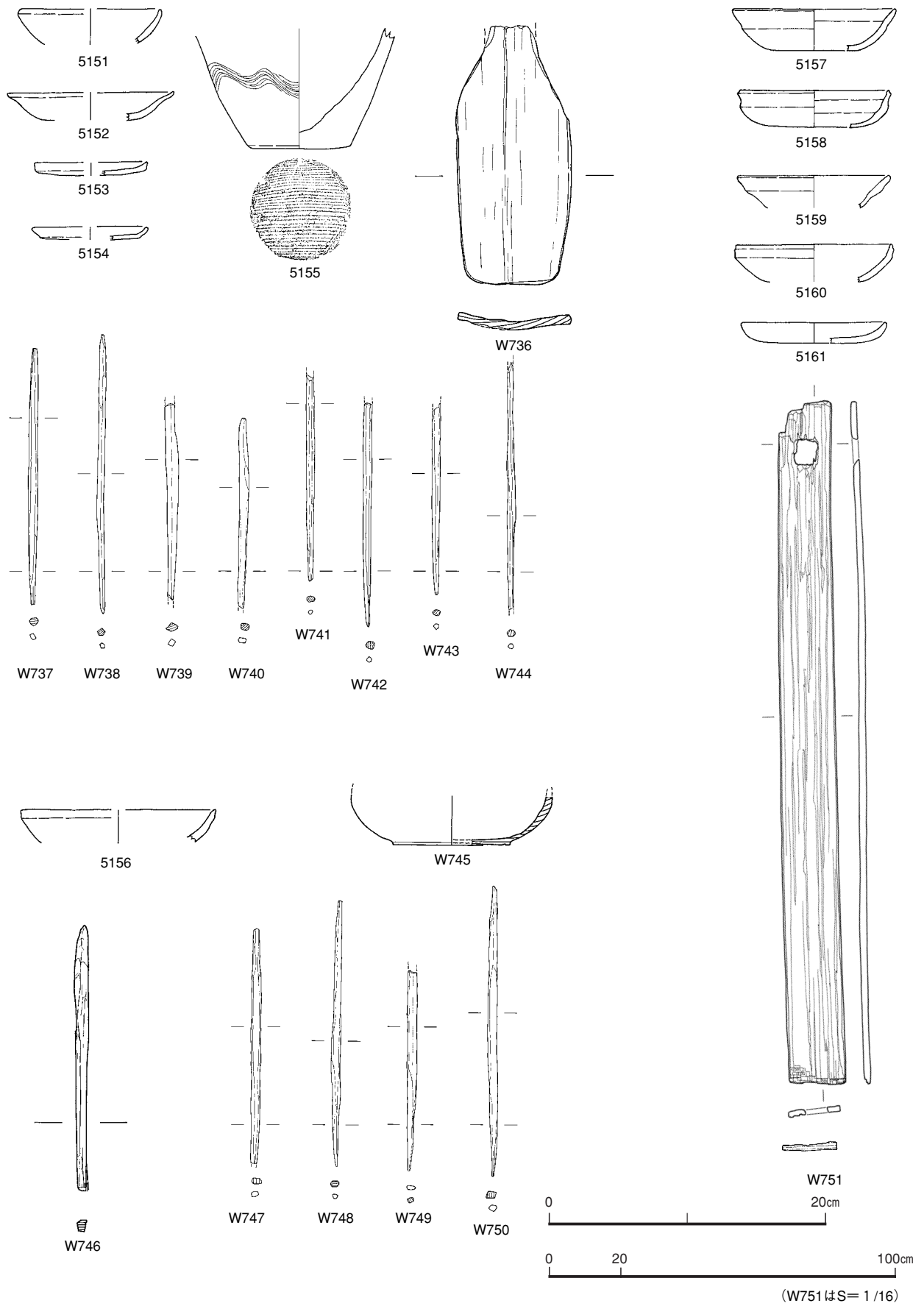
W728

0 10 50cm
(S=1/8)

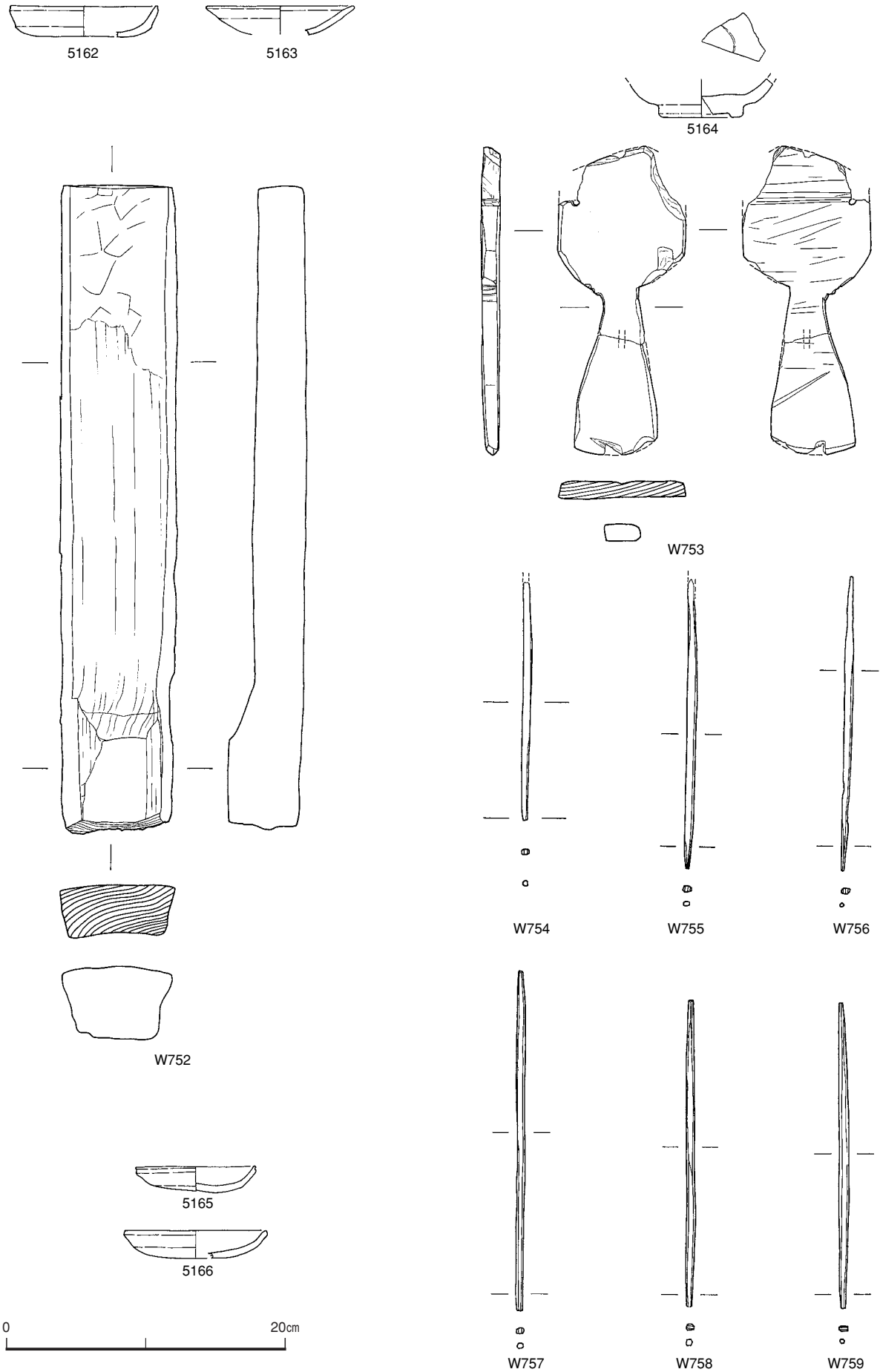
第113図 中世遺物図20



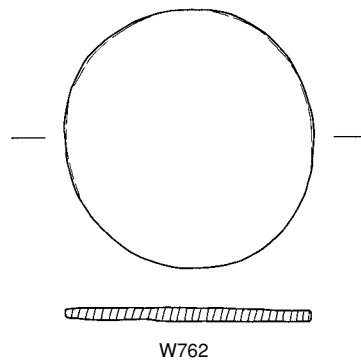
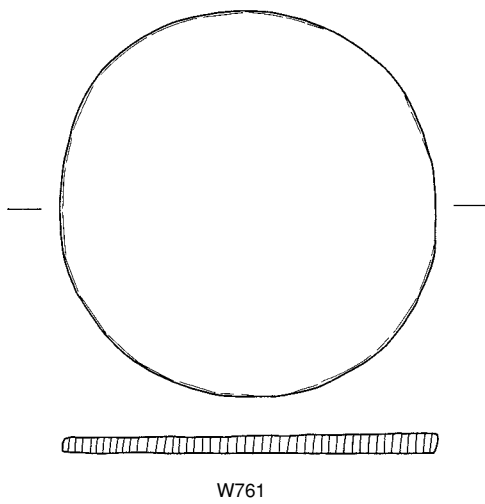
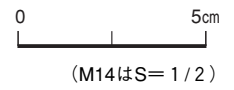
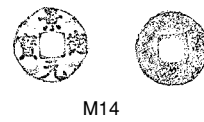
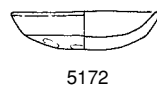
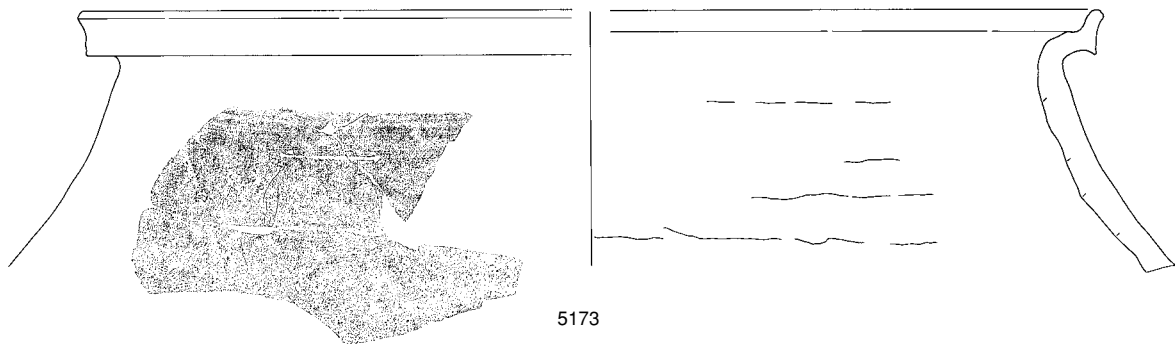
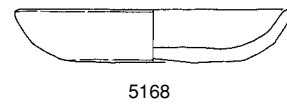
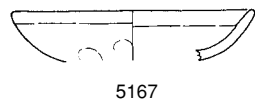
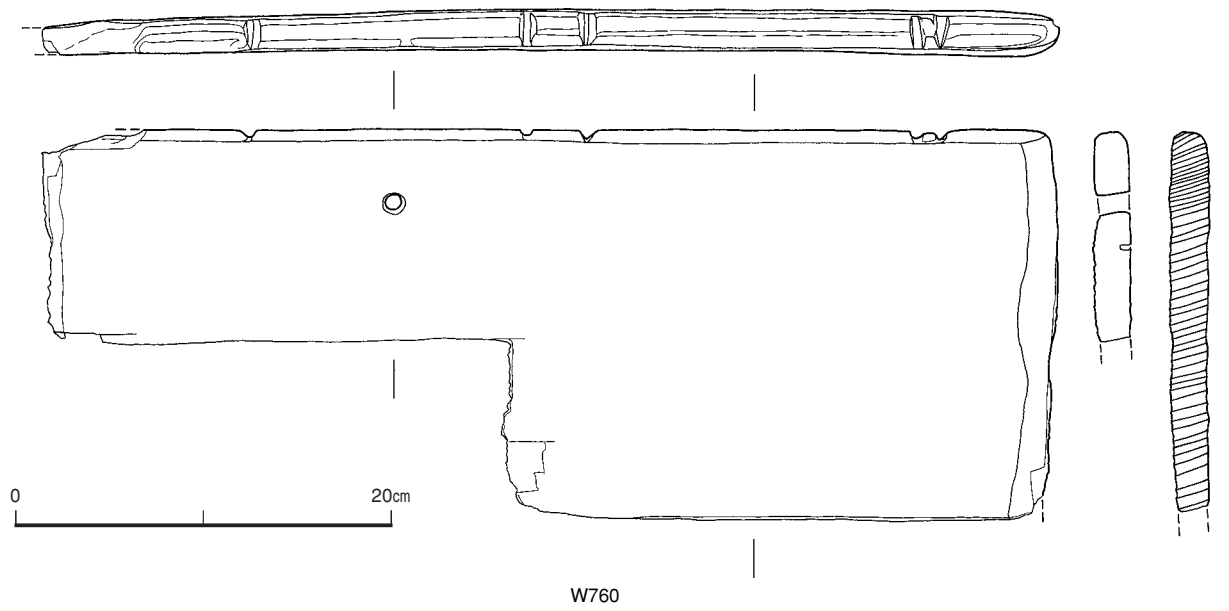
第114図 中世遺物図21



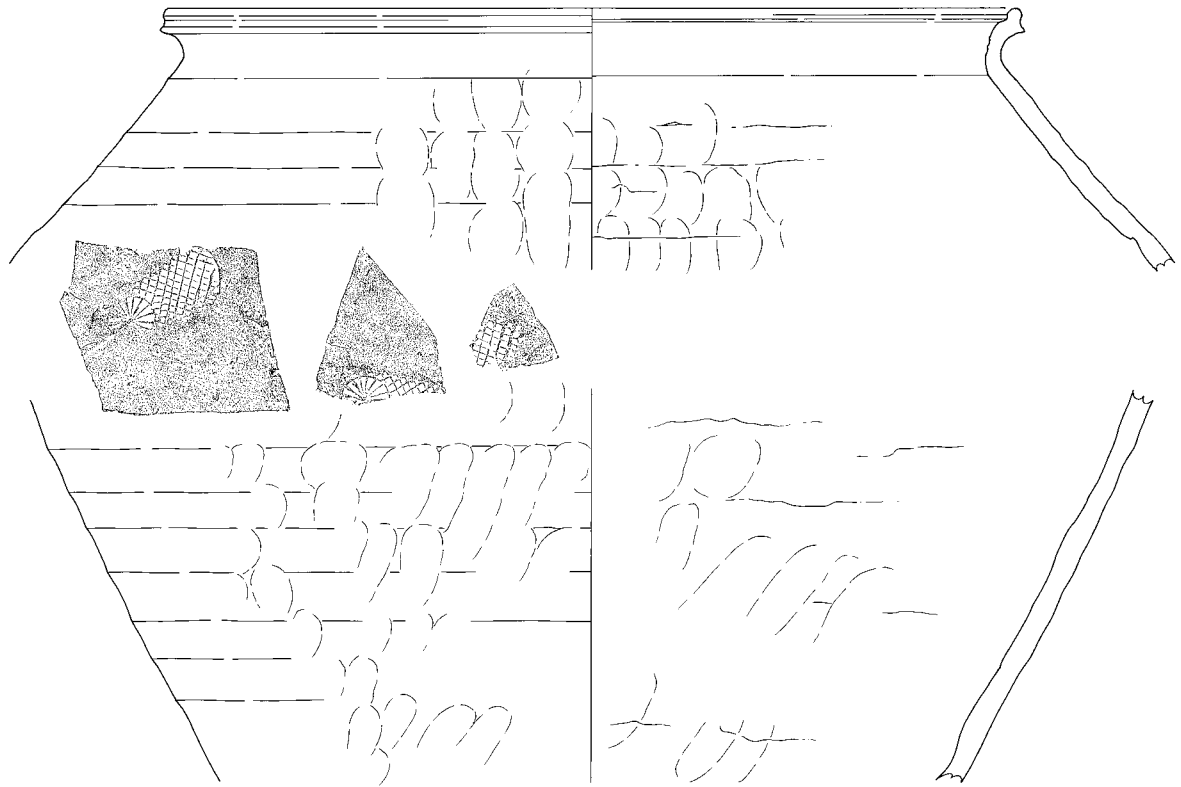
第115図 中世遺物図22



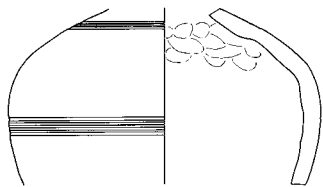
第116図 中世遺物図23



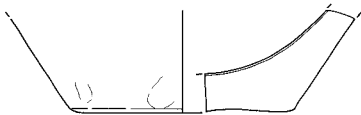
第117図 中世遺物図24



5171



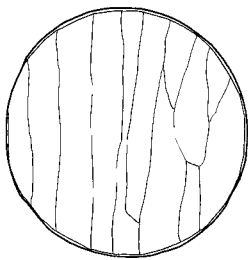
5169



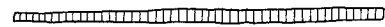
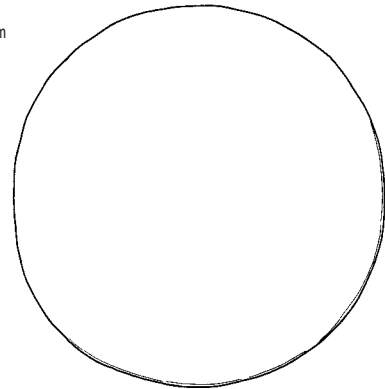
5170



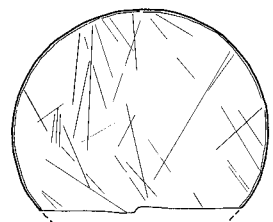
5175



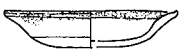
W765



W764

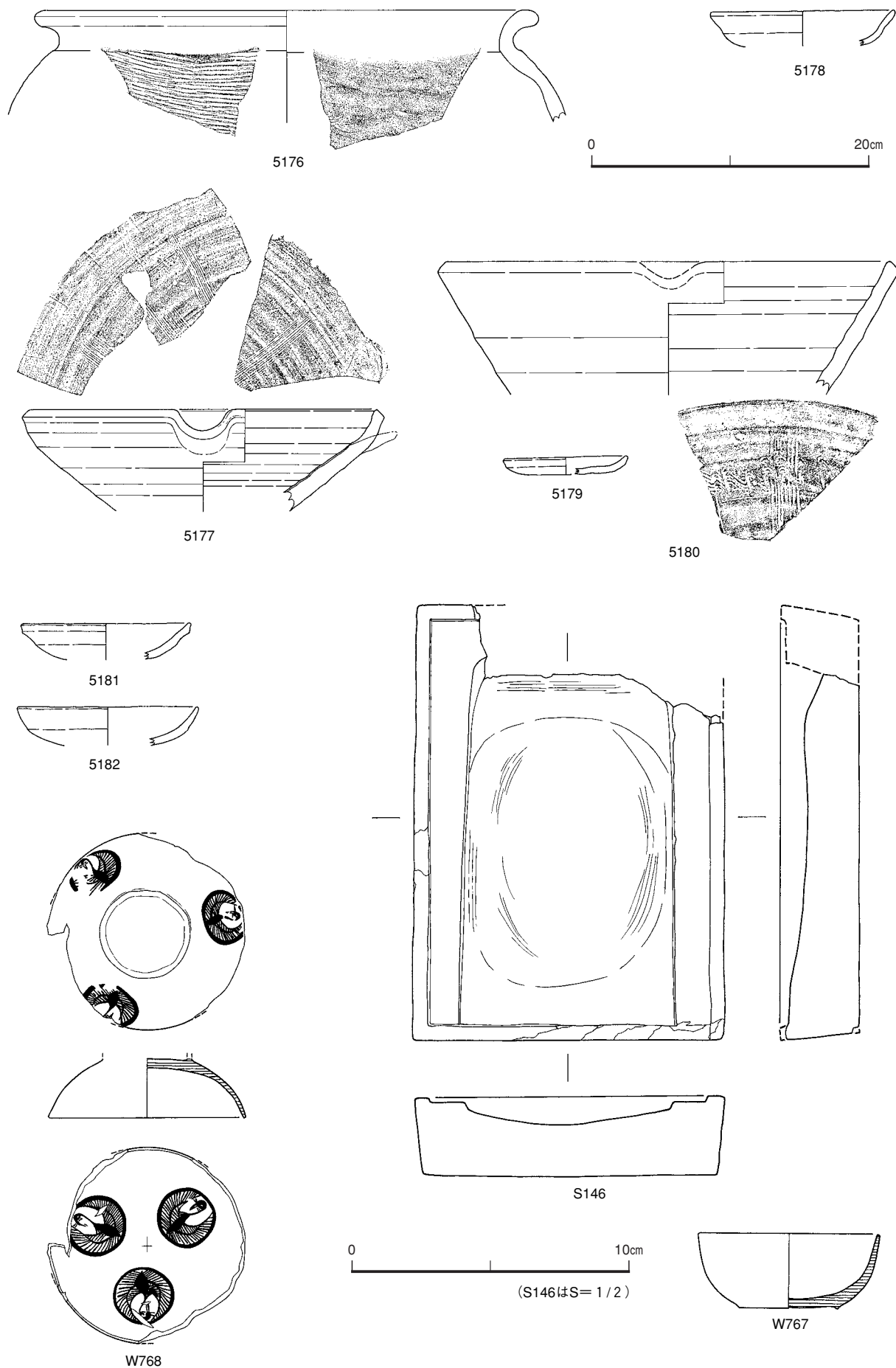


W766

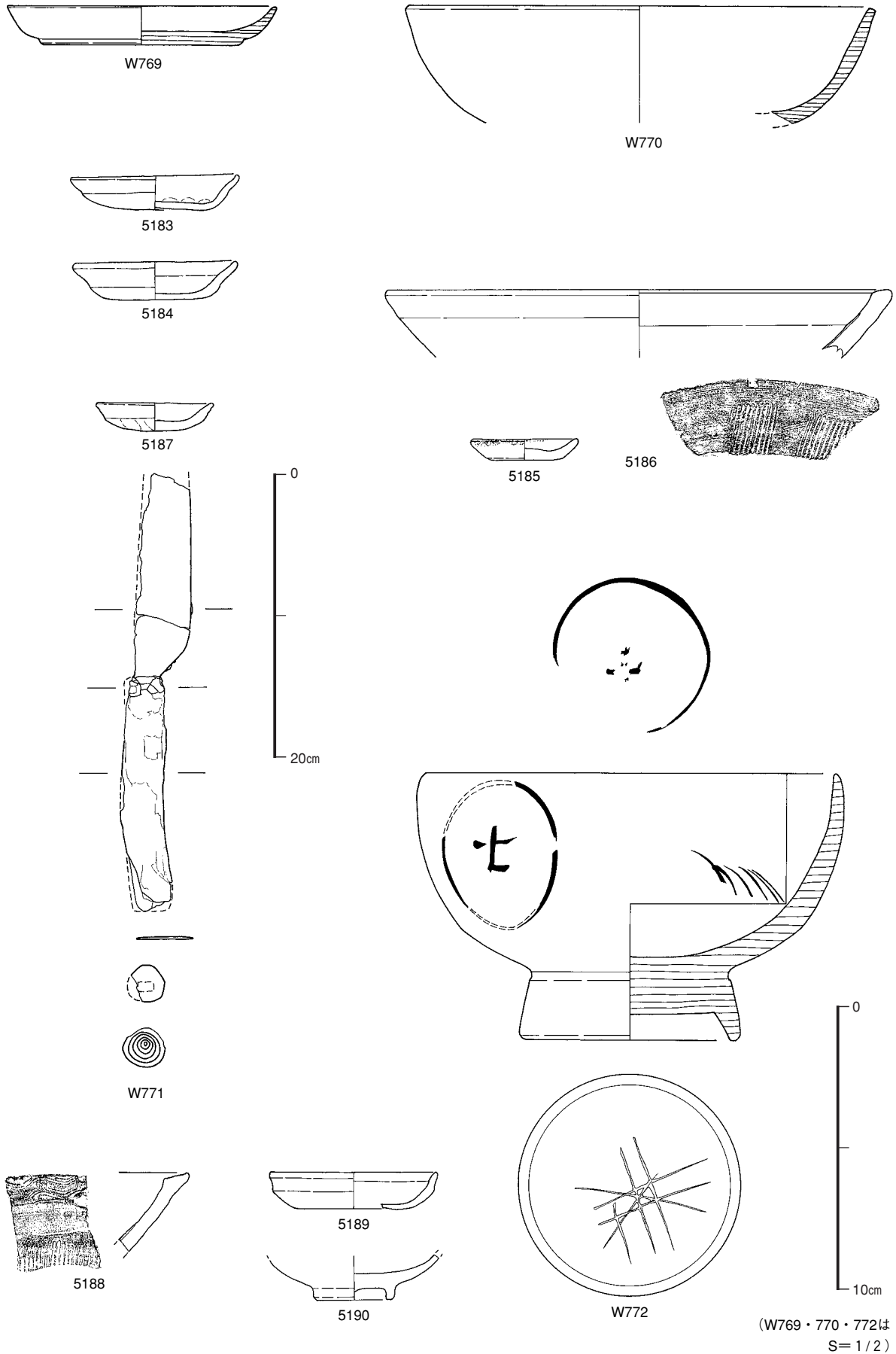


5174

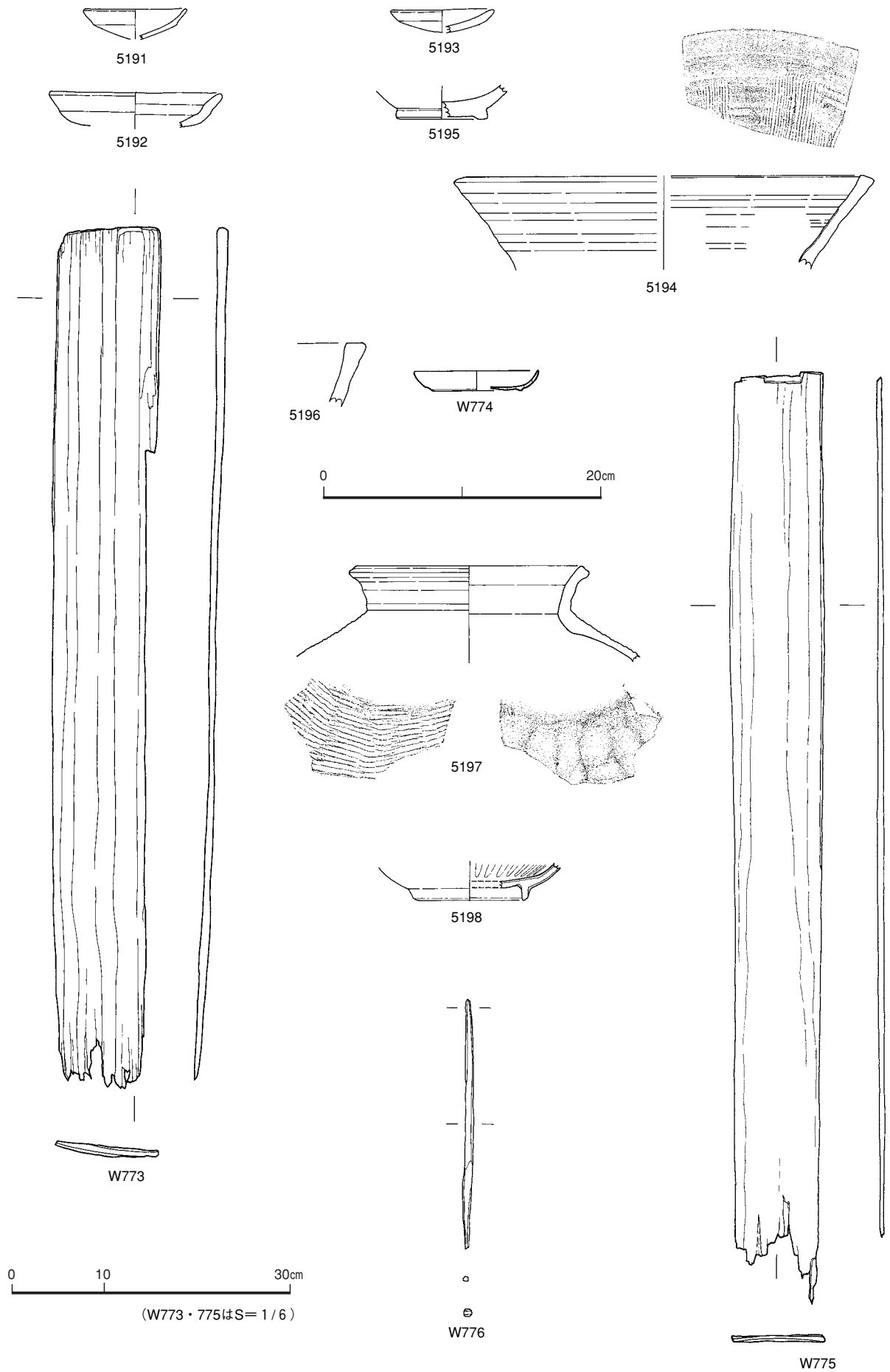
第118図 中世遺物図25



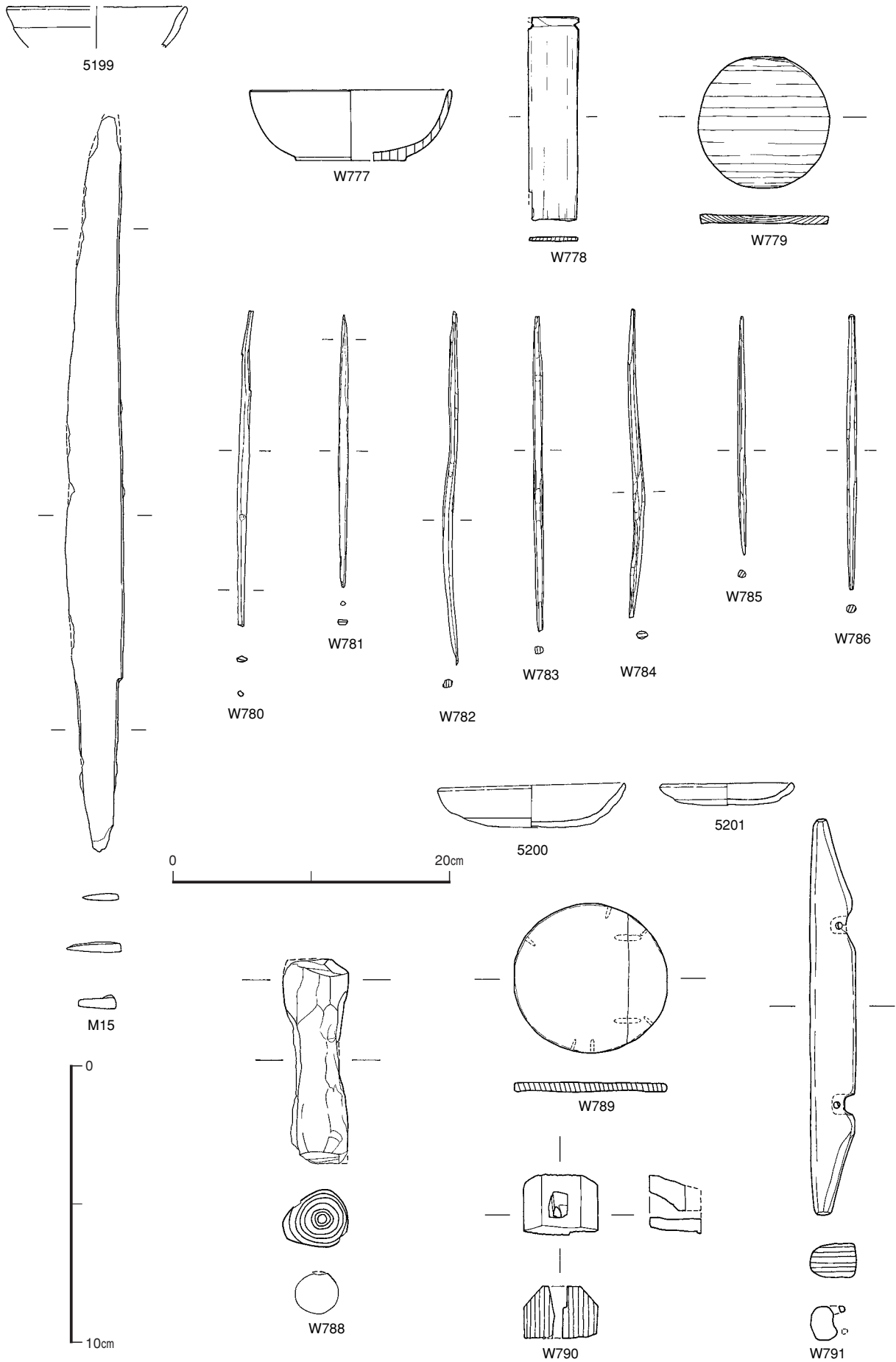
第119図 中世遺物図26



第120図 中世遺物図27

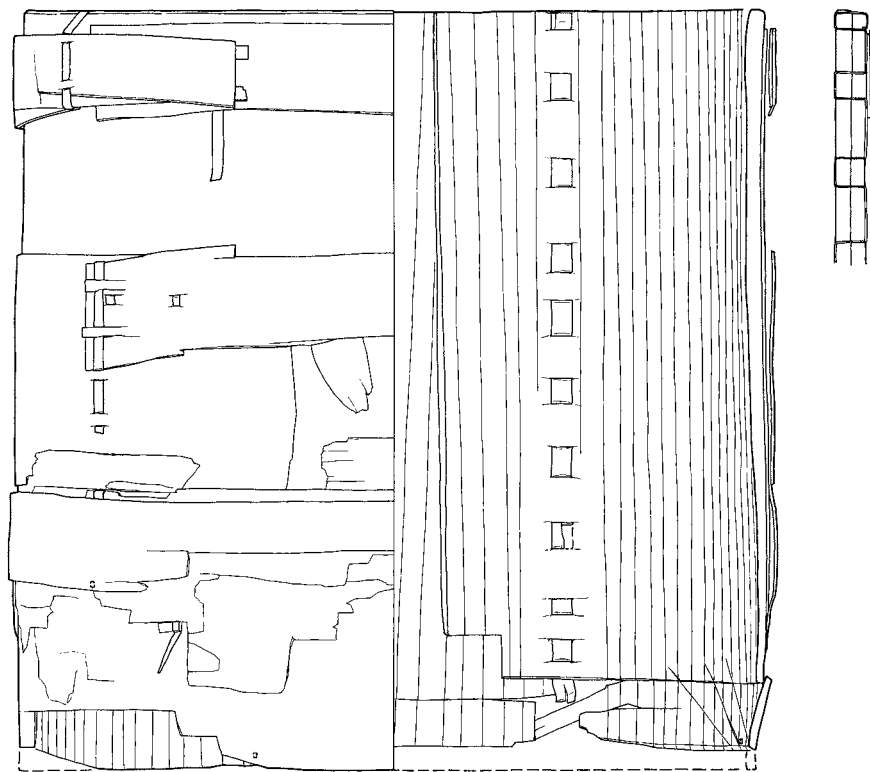
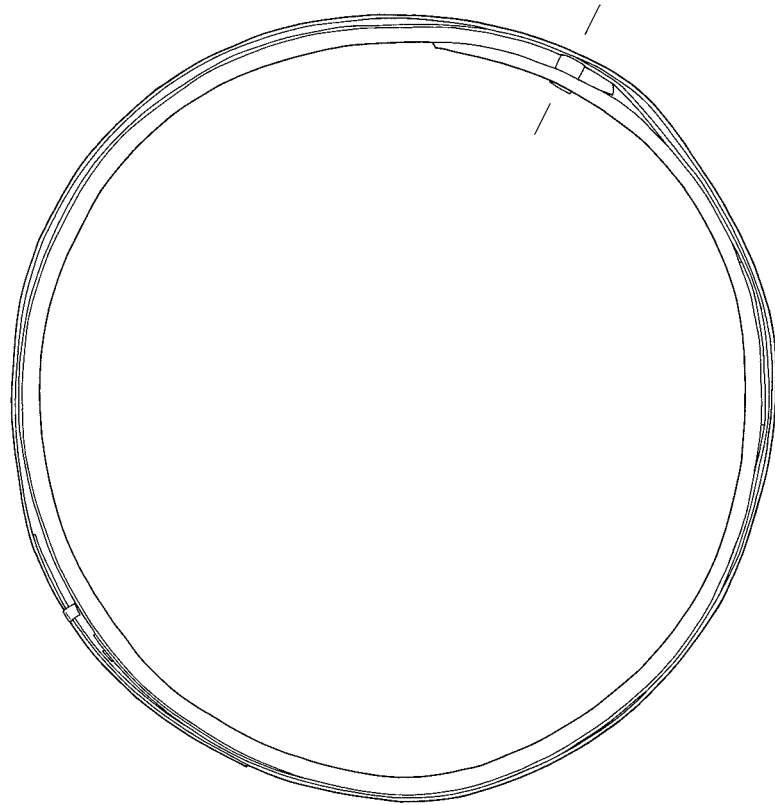


第121図 中世遺物図28



(M15はS=1/2)

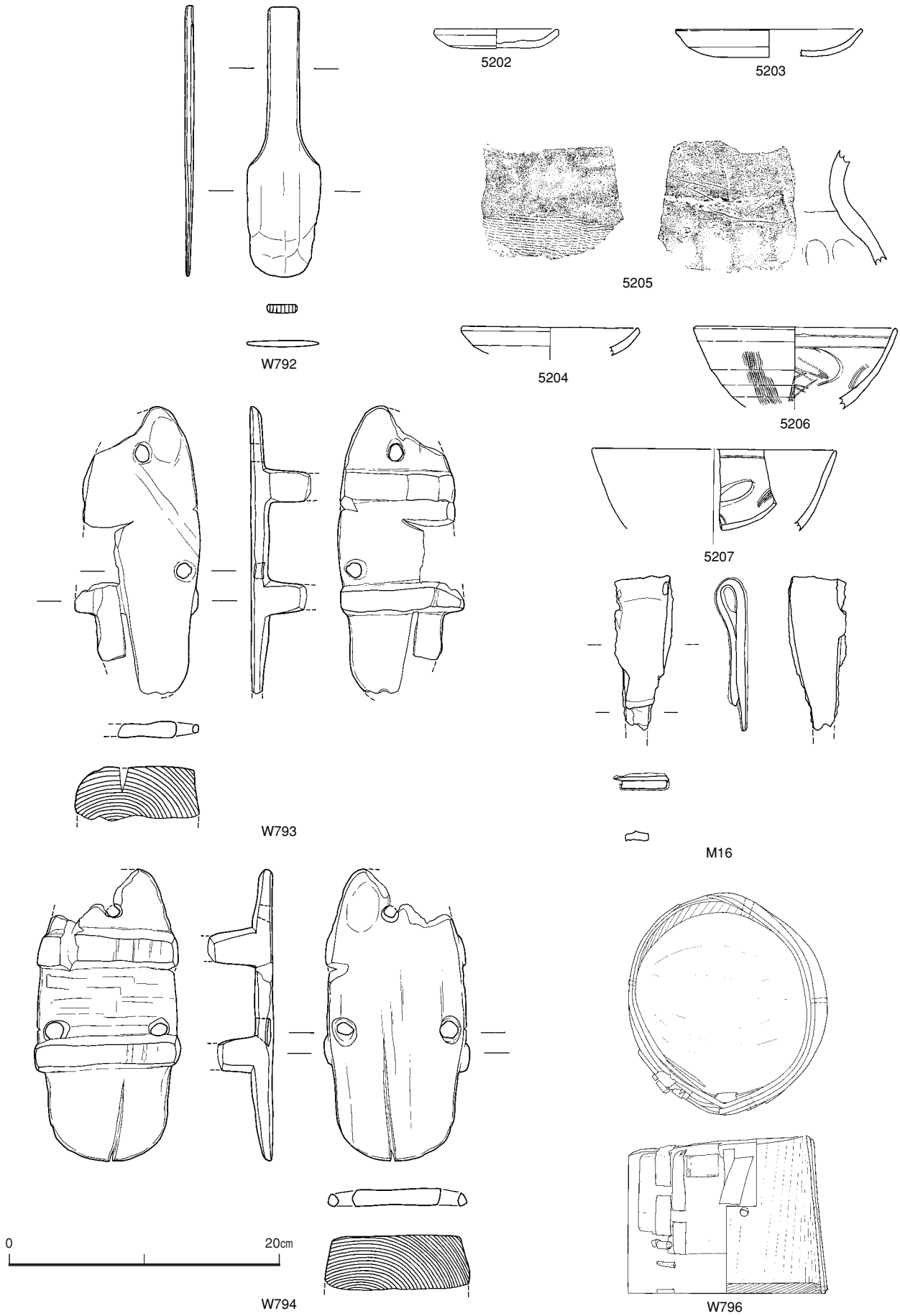
第122図 中世遺物図29



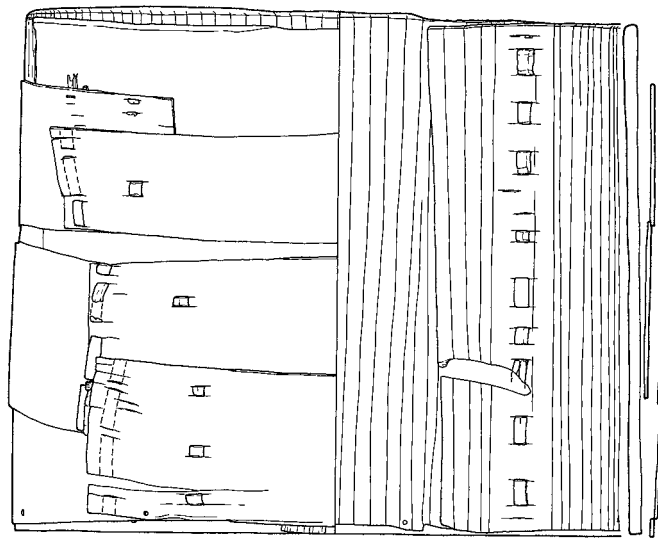
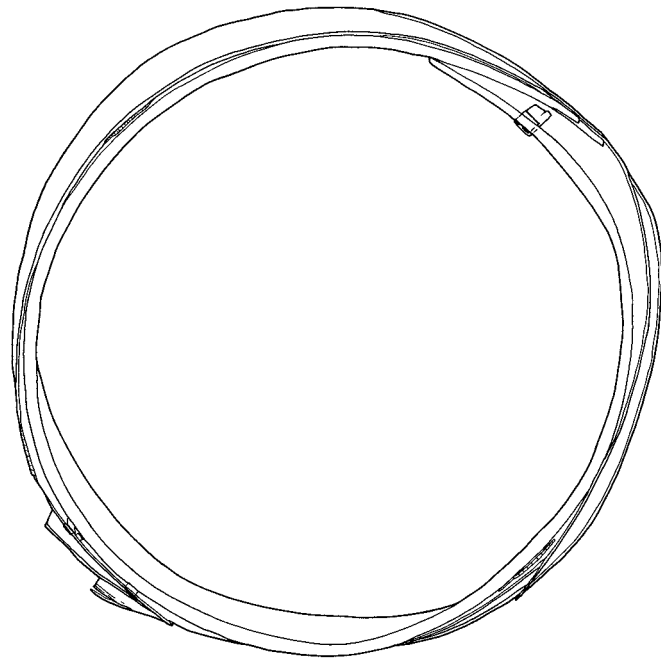
W787

0 10 30cm
(S=1/6)

第123図 中世遺物図30



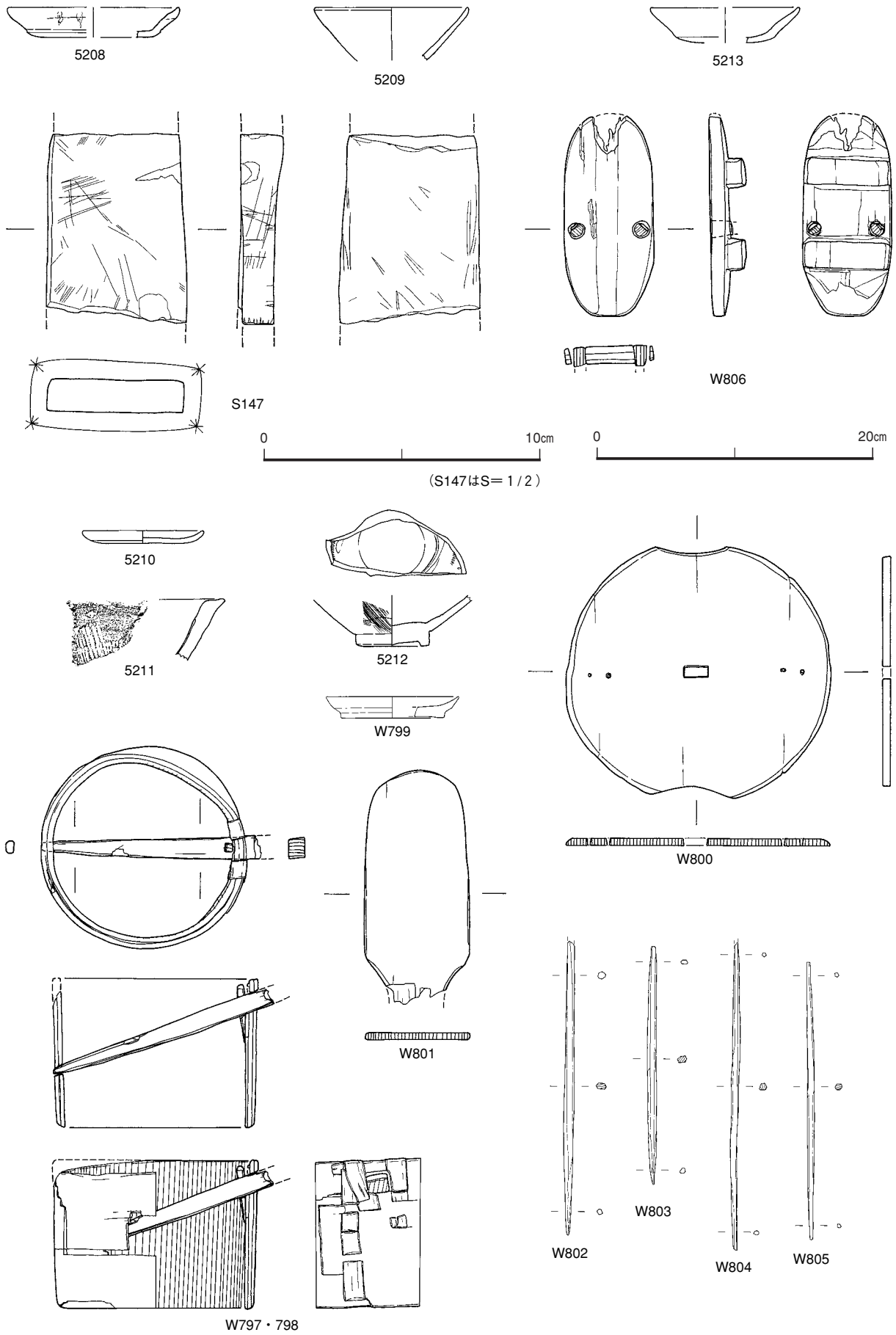
第124図 中世遺物図31



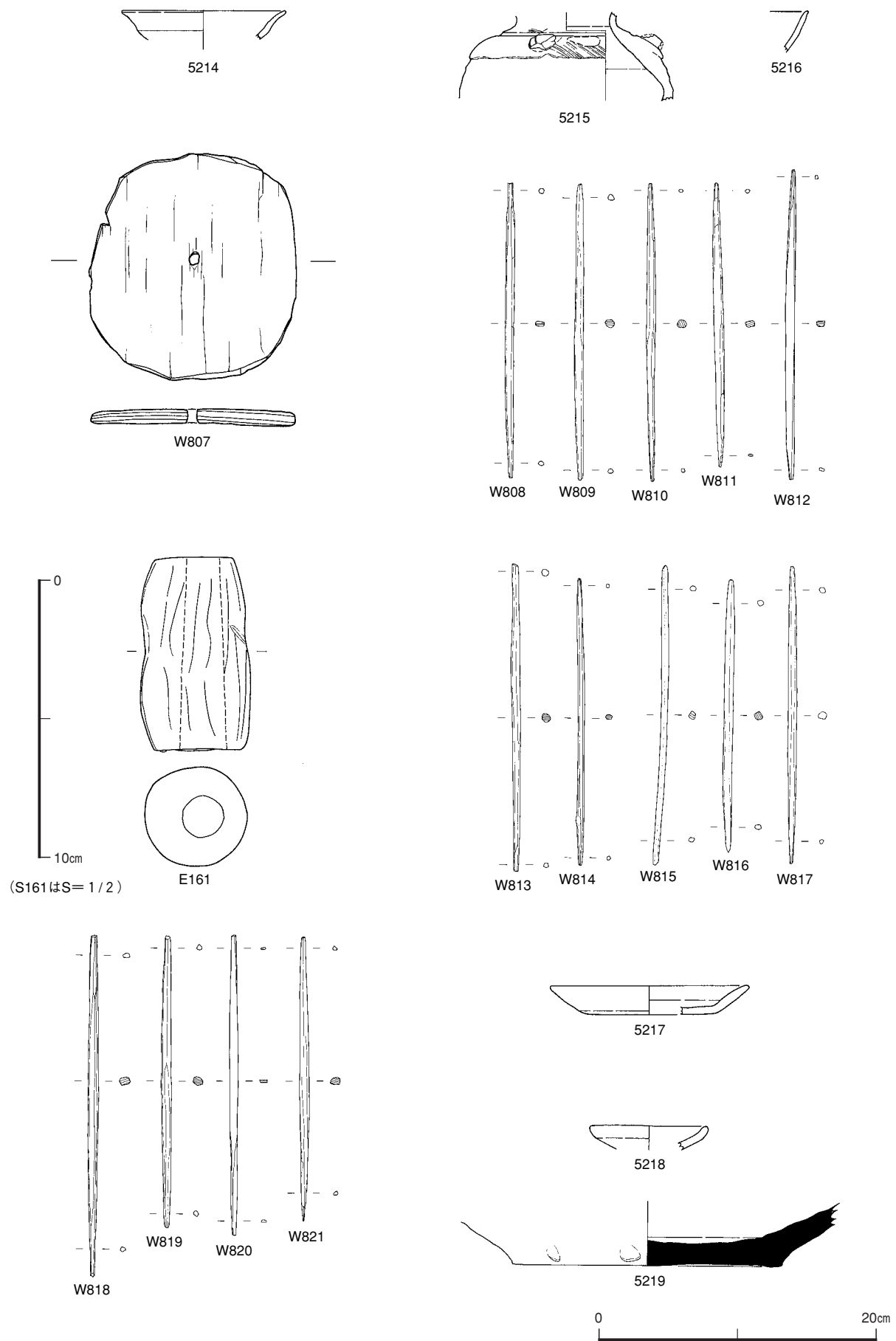
W795



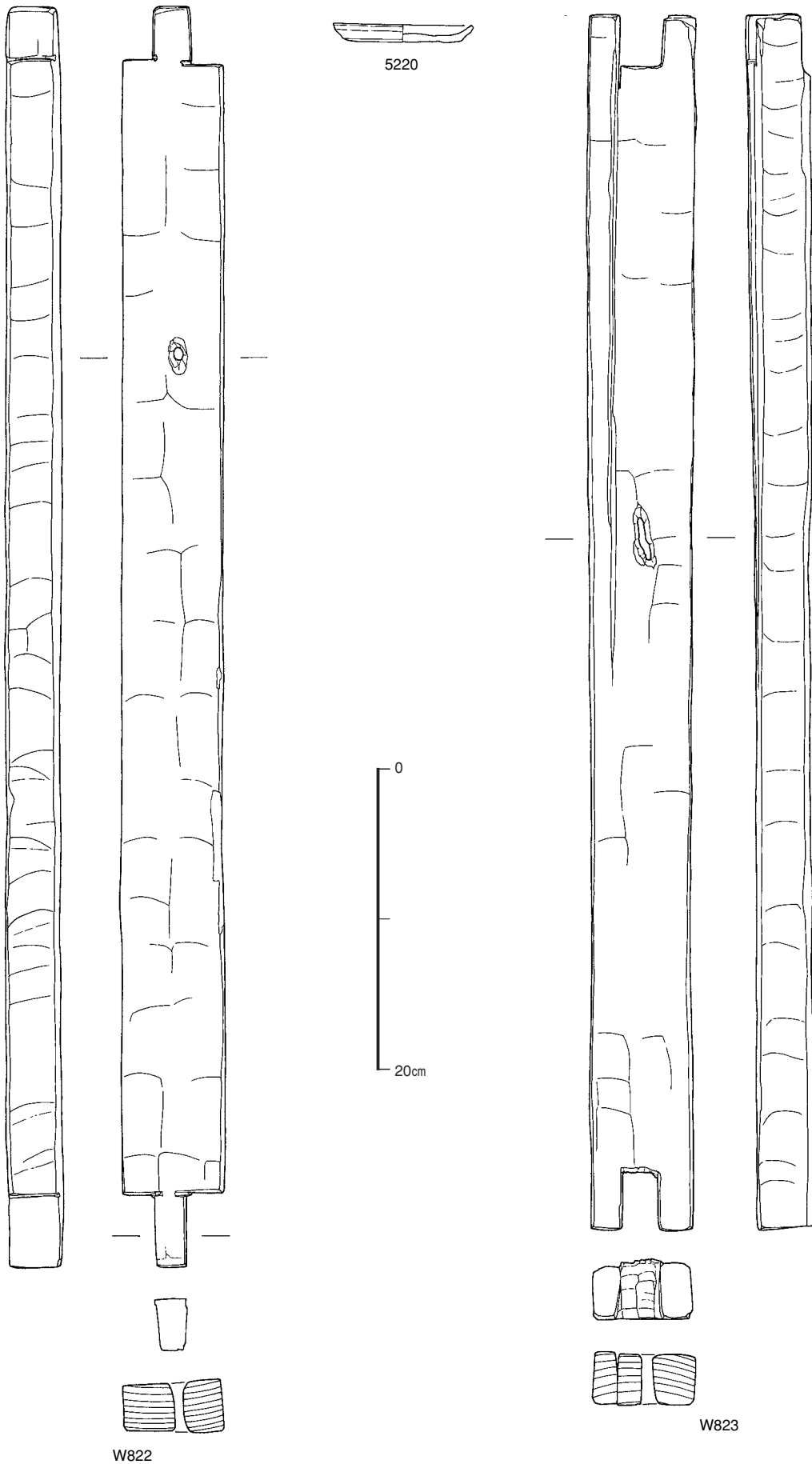
第125図 中世遺物図32



第126図 中世遺物図33



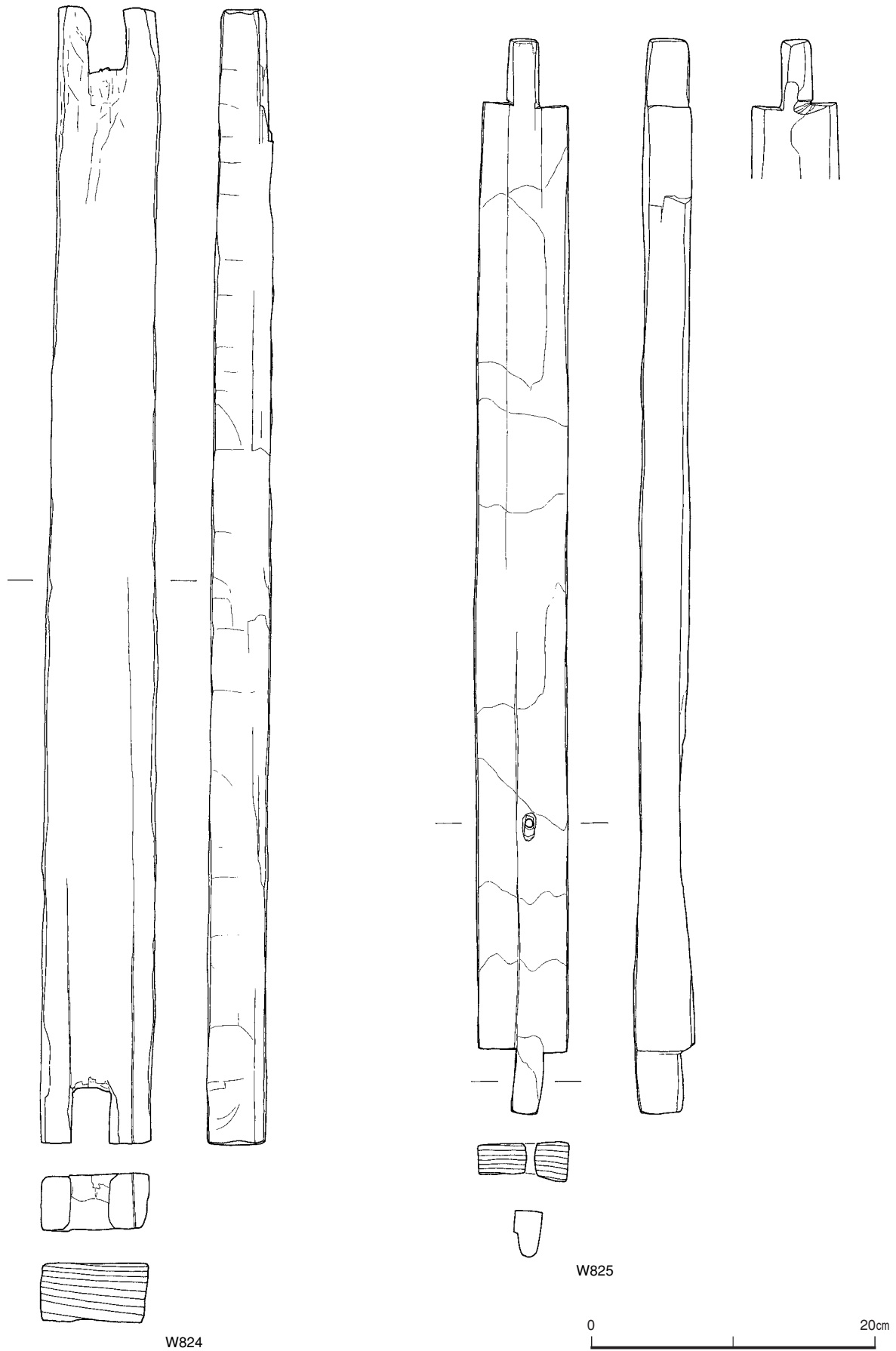
第127図 中世遺物図34



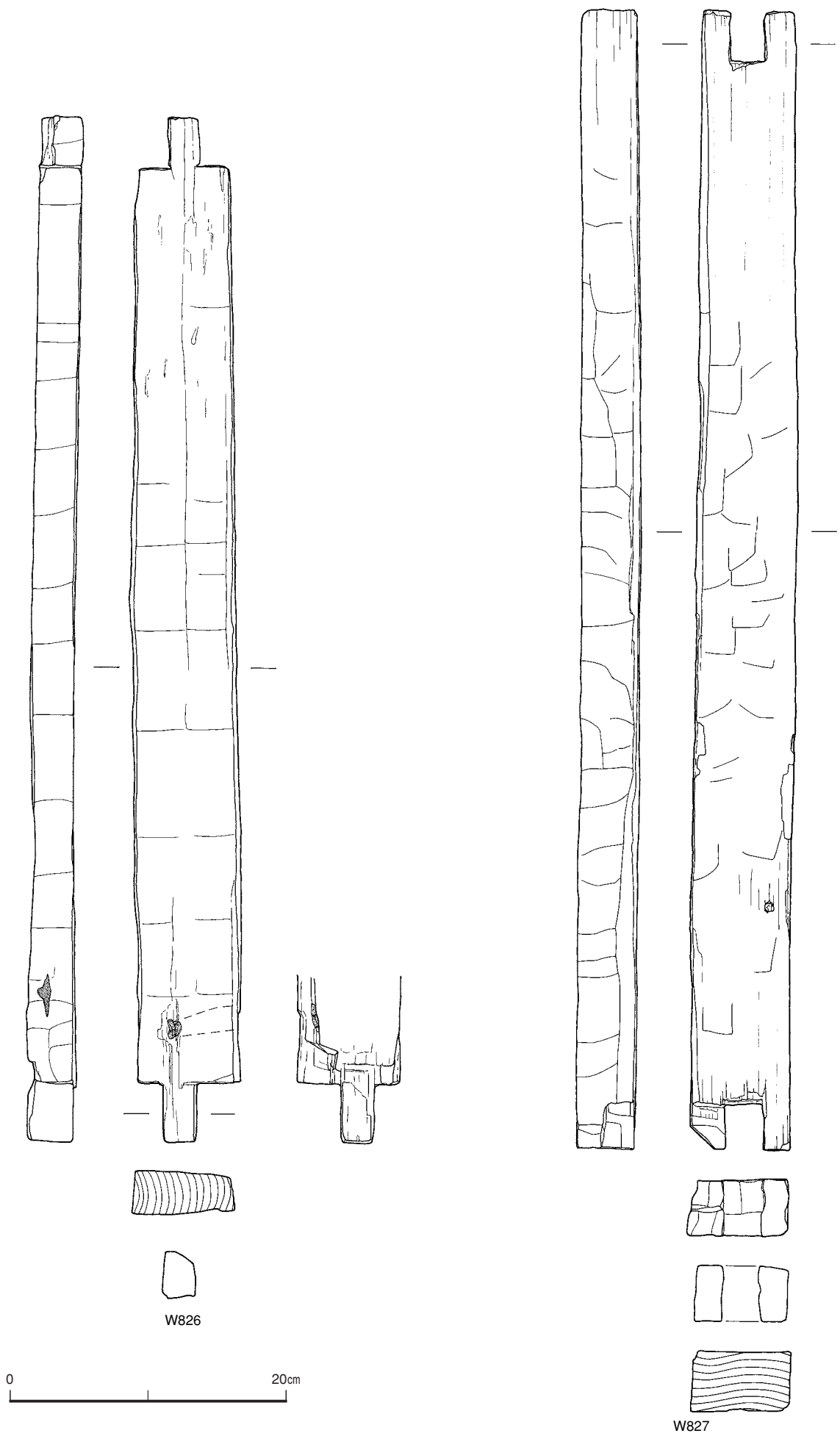
W822

W823

第128図 中世遺物図35



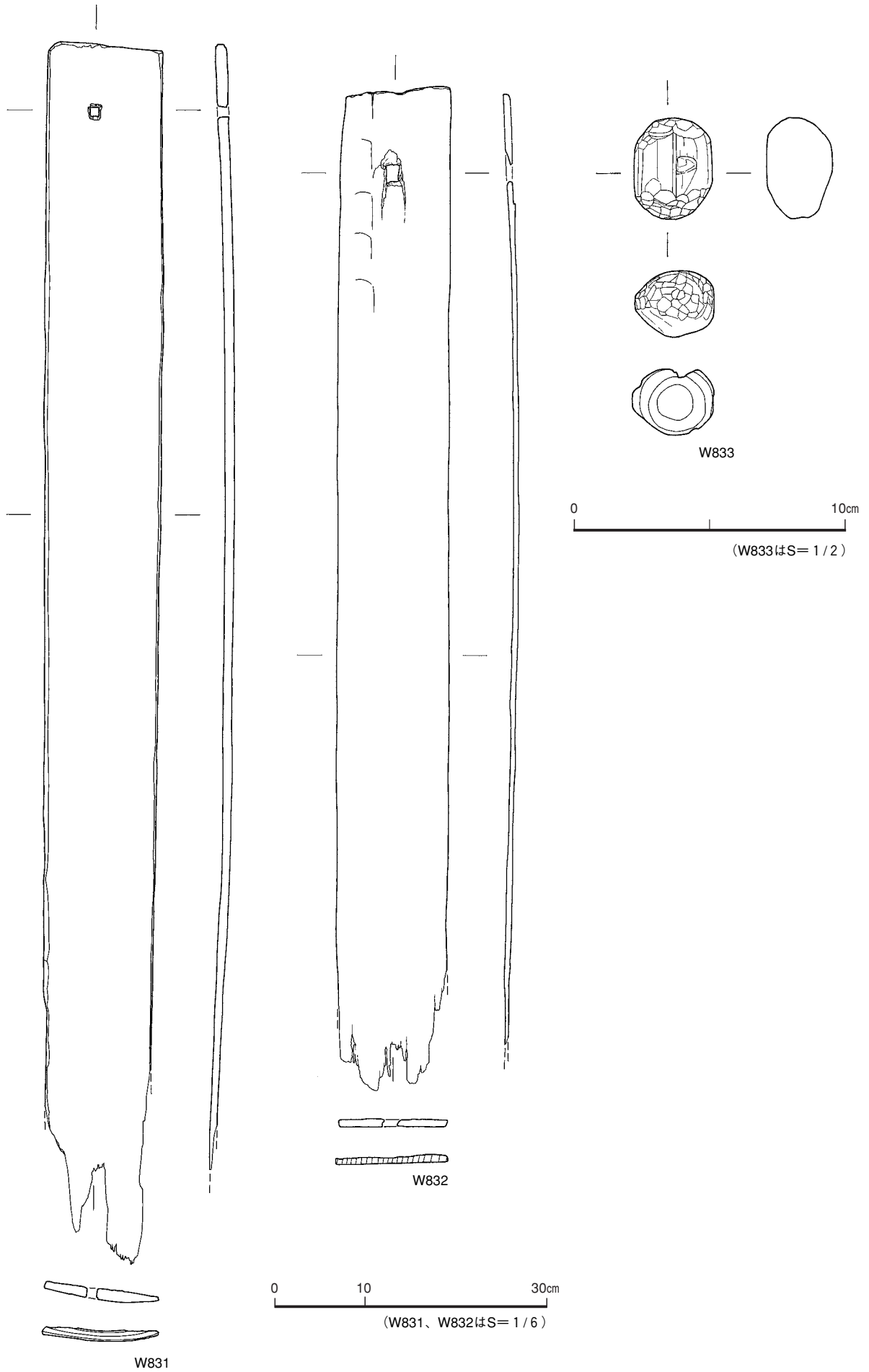
第129図 中世遺物図36



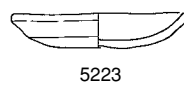
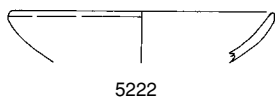
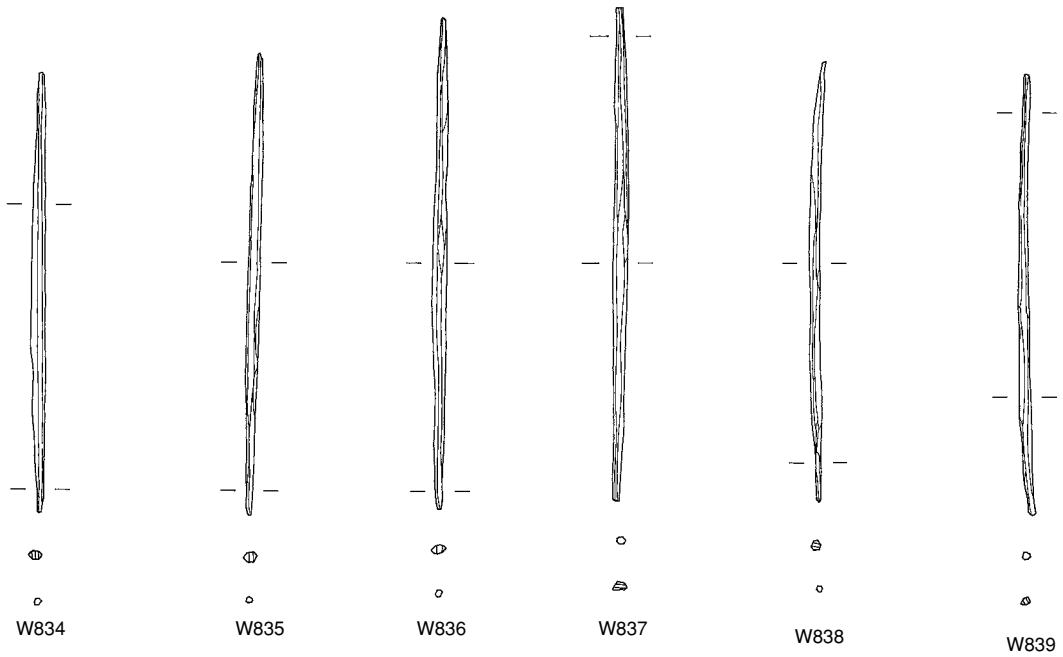
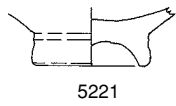
第130图 中世遺物图37



第131図 中世遺物図38



第132図 中世遺物図39



第133図 中世遺物図40

第9表 土器一覽3

報告 番号	実測 番号	種別	器種	地区	遺構	グリ ット	小 割	層 位	法量(mm)			調 整		色 調		胎 土	焼 成	備 考	遺存度		
									口径	器高 (底径)	その他	内	外	内	外						
5141	02s2D25	珠洲	片口鉢	A1	SE02			中～ 下層	270	113	118		回転ナデ、 卸し目	回転ナデ、 糸切り?	灰	灰	礫有、粗砂多、 海綿骨針多	良	卸目10条	□2/12 底5/12	
5142	03k2D45	土師器	土師皿	A2	SK24			7層	108	(19)			ナデ	ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細砂粒少	良		□2/12	
5143	03k2D46	土師器	土師皿	A2	SK24				128	(31)			ナデ	ナデ	にぶい 黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良		□2/12	
5144	03k2D47	土師器	土師皿	A2	SK24			4層	96	(15)			ナデ	ナデ、 指押え	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良		□2/12	
5145	03k2D58	珠洲	片口鉢	A3	SE04			上層 堀方	(64.5)				ロクロナデ、 卸し目	ロクロナデ	灰	灰	細砂粒多、粗砂 少含	良		□1/12	
5146	03k2D2	土師器	土師皿	A3	SE17				115	(26)			ナデ、 指押え	ナデ	灰白	灰白	細砂少	良		□5/12	
5147	03k2D3	土師器	土師皿	A3	SE12				81	11			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤色粒少	良		□1/12	
5148	03k2D5	土師器	土師皿	A3	SE13 (SD67)				128	28			指押え、 ナデ	指押え、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	白い粗砂少 堅緻	良		□1/12	
5149	02s2C155	土師器	土師皿	A3	SE13 (SD67)				124	25	90		ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂微、焼土塊	良			
5150	03k2D53	土師器	土師皿	A3	SE14				78	15	64		ナデ	ナデ	黄灰	黄灰	粗砂少	良		□3/12 底2/12	
5151	03k2D6	土師器	土師皿	A3	SE15				100	25			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤色粒少	良		□1/12	
5152	03k2D7	土師器	土師皿	A3	SE15				(121)	20			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	黒い噴出物多	良	京都系?	□1/12	
5153	03k2D8	土師器	土師皿	A3	SE15				(90)	9	(90)		ナデ、 ヨコナデ	掌押圧痕、 ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤色粒	良		□1/12	
5154	03k2D9	土師器	土師皿	A3	SE15				(83)	9	(72)		ナデ、 ヨコナデ	ナデ、 ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	赤色粒多	良		□1/12	
5155	02s2D59	珠洲	瓶	A3	SE15				86	74			回転ナデ、 静止糸切り、 波状文		灰	暗灰	粗砂含む	良			
5156	03k2D4	土師器	土師皿	A3	SE16				(141)	13			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 掌押圧痕	浅黄橙	浅黄橙	赤色粒少	良		□1/12	
5157	03k2D21	土師器	土師皿	E	SE01				115	20			ナデ	ナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	細砂微量	良		□5/12	
5158	03k2D22	土師器	土師皿	E	SE01				106	27			ナデ	ナデ	灰白	灰白	細砂微量	良		□3/12	
5159	03k2D25	土師器	土師皿	E	SE01				108	23			ナデ、磨 耗著しい	ナデ、磨 耗著しい	灰白	灰白～ にぶい橙	細砂微量	良		□2/12	
5160	03k2D26	土師器	土師皿	E	SE01				111	27			ナデ、磨 耗	ナデ、磨 耗	灰白～ にぶい橙	灰白～ にぶい橙	細砂微量	良		□2/12	
5161	03k2D27	土師器	土師皿	E	SE01				103	15			ナデ、磨 耗	ナデ、磨 耗	灰白	灰白	細砂微量	良		□1/12	
5162	03k2D23	土師器	土師皿	E	SE02				104	22			ナデ	ナデ	灰白	灰白	細砂微量	良		□1/12	
5163	03k2D24	土師器	土師皿	E	SE03				106	20.5			ナデ	ナデ	灰白	灰白	細砂微量	良	京都系?	□1/12	
5164	03k2D20	青磁	碗	F	SE05	J			(27)	56							暗い灰オリーブ	精良 灰色		見込みに円 圈、高台部	底1/12
5165	02s2D149	土師器	土師皿	F	SE11	J			(84)	19	65		ナデ	ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	精良	良	ゆがんで		
5166	03k2D34	土師器	土師皿	F	SE11	J			100	20			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰白	灰白	粗砂やや多、焼 土塊少	良	口縁端部 面取り	□1/12	
5167	03k2D37	土師器	土師皿	F	SE				125	(26)			ナデ	ナデ、指 押え	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細砂微量	良		□2/12	
5168	03k2D16	土師器	土師皿	H1	SE01				142	28	96		ナデ	ナデ、工具 による圧痕	灰黄褐	にぶい 橙	細砂粒多	良		□3/12 底5/12	
5169	02s1D116	陶器	三筋壺	M1	SE01				(93)				ロクロナ デ、工具に よるナデ	ロクロナ デ	素地：灰白 釉：オリーブ 灰白		0.5mm程度の砂粒	良	須恵質、透 明感があり 貫入して いる		
5170	03k2D73	珠洲	片口鉢	M1	SE01				(54)	119			卸し目	ナデ、指頭 圧痕、静止 糸切り	灰	灰	細砂粒、粗砂少	良	卸し目緻密	底4/12	
5171	02s1D80	加賀	甕	M1	SE01				446	(134 + a)			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰オリーブ 系灰白	灰オリーブ 系灰白	粗砂、細砂、海 綿骨針	良	菊花格子 押印		
5172	02s1D82	土師器	土師皿	M1	SE02				76	20			ヨコナデ	ヨコナデ、指 押え、ナデ	灰白	灰白	粗砂	良			
5173	02s1D81	加賀	甕	M1	SE02				(537)	(137)			ロクロナ デ	ロクロナ デ	灰	灰	0.8mm程度の砂粒	良			
5174	02s1D76	土師器	土師皿	M1	SE04				90	19			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰白	淡黄	粗砂	良	灯明皿、 油痕		
5175	02s1D77	珠洲	合子	M1	SE07				56	39	60		張り出 し部分 66	ロクロナ デ	ロクロナ デ	灰	灰	粗砂少、細砂少、 海綿骨針	良?	底部：回転糸 切り後ナ デ、釉： オリーブ がかった透 明	
5176	02s1D78	珠洲	甕	M1	SE15				343	(80)			ロクロナ デ、タタキ 後ナデ	ロクロナ デ、タタキ	灰	灰	礫僅か 黒色粒少	良			
5177	02s1D75	珠洲	片口鉢	M1	SE15				248	(73)			ロクロナ デ、卸し 目	ロクロナ デ	灰	灰	礫、粗砂とも 僅か、海綿骨 針	良			
5178	03k2D75	土師器	土師皿	M1	SE16				131	(25)			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少		珠洲Ⅲ～Ⅳ		
5179	03k2D74	土師器	土師皿	M1	SE17			上層	87	12.5			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良	口縁端部の 面取りが甘い	□2/12	
5180	02s1D79	珠洲	片口鉢	M1	SE17			上層	318				ロクロナ デ、卸し目、 波状紋	ロクロナ デ	灰白	灰白	粗砂多	良 良	卸目と波状 紋が重なっ ている 珠 洲Ⅲ～Ⅳ	□3/12	
5181	03k2D77	土師器	土師皿	M1	SE18				120	(26)			ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	細砂粒少	良		□2/12	
5182	03k2D76	土師器	土師皿	M1	SE18				129	(28)			ナデ	ナデ	黄灰	黄灰	細砂粒少	良		□1/12	
5183	02s1D86	土師器	土師皿	M2	SE05				118	26			ナデ、指 押え	ヨコナデ、 ナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂、赤色粒	良			
5184	02s1D87	土師器	土師皿	M2	SE05				112	27	72		ナデ	ヨコナデ、 ナデ、指 押え	灰白	灰白	粗砂少	良			

第4節 井戸

報告 番号	実測 番号	種別	器種	地区	遺構	グリ ッド	小 割	層 位	法量(mm)				調 整		色 調		胎 土	焼 成	備 考	遺存度
									口径	器高 底径	その他		内	外	内	外				
5185	02s1D90	土師器	土師皿	M2	SE07				74	15	49		ナデ	ナデ	にぶい 橙	褐灰	海綿骨針、粗砂	良	灯明皿	
5186	02s1D89	越前	播鉢	M2	SE07				353	(48)			ロクロナ デ、櫛目	ロクロナデ	にぶい 黄橙	浅黄	粗砂多	良		
5187	02s1D85	土師器	土師皿	M2	SE09				81	20			ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ、指押え	灰白	灰白	海綿骨針、粗砂	良		
5188	03k2D85	珠洲	片口鉢	M2	SE16					(55)			ロクロナ デ、押し目	ロクロナデ	灰	灰	白と黒の粗砂多、 白の礫少、海綿骨 針極少	良	口縁に 波状紋、 珠洲V	
5189	03k2D82	土師器	土師皿	M2	SE17				117	26	72		ナデ、磨耗	ナデ、磨耗	灰白へに ぶい橙	にぶい 橙	細砂微量	良		口2/12
5190	03k2D81	青磁	碗	M2	SE17					(31)	57				釉：緑灰、透明 感ややあり		細砂粒、気泡少 堅緻、貫入あり			底完形
5191	03b1D55	土師器	土師皿	M3	SE02			側内	(72)	(21.5)	(60)		ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰白	灰白	粗砂少、赤色粒 並	良		3/12
5192	03b1D56	土師器	土師皿	M3	SE02			堀方	(120)	(24.5)			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰白	灰白	粗砂極少、赤色 粒並、気泡	良		1/12
5193	03b1D57	土師器	土師皿	M3	SE03				(73)	16	(63)		摩耗	ヨコナデ、 ナデ	灰白	灰白	粗砂少、赤色粒 多	良		3/12
5194	03b1D27	珠洲	片口鉢	M3	SE03			側内	約 300	(66)			ロクロナ デ、押し目	ロクロナデ	暗オリー ブ灰	暗オリー ブ灰	砂粒細かい、粗 砂	良		口2/12
5195	03b1D77	白磁	碗	M3	SE03					(24)	(65)				素地：灰白 釉：緑味をおび た白		素地：堅緻 釉： 薄く施されている が斑があり透明感 なし、貫入なし	外面露胎 (残存部 分)	小片 底3/12	
5196	03b1D28	珠洲	片口鉢	M3	SE04			側内 北半		(45)			ロクロナ デ、押し目	ロクロナデ	灰	暗灰	砂粒細かい、粗砂 わずかに含む	良		小片
5197	03b1D6	珠洲	壺	M3	SE06				(160)	(69)			ロクロナ デ、タタキ	ロクロナ デ、タタキ	灰	灰	粗砂、7mmの礫1 個含む	良		4/12
5198	03b1D78	青磁	鉢	M3	SE06					(27)	(80)				釉：緑灰、内外 面とも貫入あり 素地：灰白		素地：堅緻 釉： 厚く均一に 施され透明感に 欠ける		小片 底2/12	
5199	03b1D58	土師器	土師皿	M3	SE07			南半	(127)	(29.5)			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	粗砂極少、気泡 少	良		小片
5200	02s1D95	土師器	土師皿	N1	SE05			側内	131	高 ³⁷ 底 ²⁴	97		ナデ	ナデ、 ヘラ切り	浅黄橙	浅黄橙	粗砂、細砂多、 焼土塊多	良		ほぼ完形
5201	02s1D96	土師器	土師皿	N1	SE05			側内	9.2	16	66		ナデ、 ヨコナデ	ナデ、 ヨコナデ	灰白	灰白	0.2mm程度の砂粒、 赤色粒僅か	良		
5202	03b1D135	土師器	土師皿	N2	SE102				(91)	(15)	(41)		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂			口6/12
5203	03b1D136	土師器	土師皿	N2	SE103				(135.5)	(21)	(65)		ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ、押え	浅黄橙	浅黄橙	細砂			口1/12
5204	03b2D284	土師器	土師皿	O2	SE01				(128)	(20)			ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰黄褐	灰黄		良		小片
5205	03b2D285	珠洲	甕	O2	SE01					(84)			ヨコナデ、 指押え	ヨコナデ、 ハケメ	灰白	灰	粗砂僅か、細砂 多	良		小片
5206	03b2C239	青磁	碗	O2	SE01					(146)	(60)				素地：灰白 釉：オリーブ黄		素地：気泡含むが堅 緻。釉：透明感が あり薄く施されて いるが斑がある。内 外面とも細かい貫 入あり	同安窯系、 劃花文	2/12	
5207	03b2C240	青磁	碗	O2	SE01					(178)	(59)				素地：灰白 釉：緑灰		素地：堅緻 釉： 薄く施され一部 釉だまりあり。気 泡の含まれ少 なく透明感あり。 内外面とも貫入 なし	良	劃花文	
5208	03b2D9	土師器	土師皿	T	SE03				(122)	22	(89)		ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰黄	灰白	粗砂	並	口縁つま み上げ	
5209	03b2D8	瀬戸	碗	T	SE03				(108)	(38)					素地：灰白 釉：オリーブ黄		粗砂		釉：灰釉	口1/12
5210	03b2D11	土師器	土師皿	T	SE04				85	11	75		ロクロナ デ、ナデ	ロクロナデ、 押し後ナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	焼土塊、粗砂	並		
5211	03b2D12	珠洲	片口鉢	T	SE04					(34)		円圏径 48	ヨコナデ、 ナデ後押し目	ヨコナデ	灰白	青灰	粗砂	良		
5212	03b2D10	青磁	碗	T	SE04					(37)	52				素地：淡黄 釉：灰オリーブ		緻密、釉：見込 みに細かく密な 貫入あり、薄く 均一に施され透 明感あり	同安窯系、 劃花文	底10/12	
5213	03b2D13	土師器	土師皿	T	SE05				(103)	25	(72)		ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	粗砂含む	並		
5214	03b2D19	土師器	土師皿	T	SE09			井戸内	(116)	(20.5)			ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 橙	明褐灰	細砂少	良		小片 口1/12弱
5215	03b2C8	珠洲	四耳壺	T	SE11					(63)			ロクロナ デ	ロクロナ デ、タタキ	灰	灰	粗砂、海綿骨針	良		
5216	03b2D18	白磁	碗	T	SE11			SW		(30)					素地：灰白 釉：黄味を帯び た白		堅緻、釉：薄く均 一に施されや透明 感あり、ピンホ ール少々あり、 内外面共に貫入 なし	中国産	小片	
5217	03b2D2	土師器	土師皿	T	SK11				138	21	101		不明	不明	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細砂、焼土塊並	並		2/12
5218	03k1D12	土師器	土師皿	U	SE01			側内	82	(17)			ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ	淡黄	淡黄	焼土塊少	良		口3/12
5219	03k1D13	珠洲	甕	U	SE01					(46)	194		ロクロナ デ	ロクロナ デ	灰	灰	白い粗砂少、黒い 噴出物少、海綿 骨針多	良	底部	底4/12
5220	03b1D72	土師器	土師皿	V1	SK03				90	11	78		ヨコナデ 後ナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰白	浅黄橙	砂粒細かく柔か い、シャーモッ ト	良		3/12
5221	03b1d172	土師器	有台碗	V2	SE01					(30)	62		ナデ	ロクロナ デ	灰黄褐	灰褐	粗砂粒、焼土塊	良		1/2
5222	03b1D173	土師器	土師皿	V2	SE02			南半	138	(27)			ハケメ、 ナデ	ハケメ、 ナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	細砂粒、焼土塊	良		口1/6
5223	03b1D161	土師器	土師皿	V2	SK07			畦	90	19	25		ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細砂少	良		完形

第10表 土製品一覧3

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グロット	小割	層位	法量(mm,g)				調整		色調		胎土	焼成	備考	遺存度
									最大長	最大幅	最大厚	重量	内	外	内	外				
E161	03b2土29	土師質	土錘	T	SE12				69.5	39.5	37.2	109.19								

第11表 石製品一覧2

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グロット	小割	層位	法量(mm,g)				調整		色調		備考	遺存度	
									最大長	最大幅	最大厚	その他	重量	内	外	内			外
S146	02s1石9	粘板岩	硯	M1	SE21				157	117	29		849.0			灰赤			
S147	03b2石13	凝灰岩	砥石	T	SE03				68	51	16		90						

第12表 金属製品一覧2

報告番号	実測番号	器種	地区	遺構	グロット	小割	層位	法量(mm,g)				調整		色調		備考
								最大長	最大幅	最大厚	その他	重量	内	外	内	
M14	02s1金7-1	銅銭	M1	SE02												景德元寶(北宋銭、初铸1004年)
M15	03b1金11	刀子	M3	SE07				(264)	20.5	4.4			50.52			
M16	03b2金25	刀子	O2	SE01				56.5	20	12			19.51			鉄製

第13表 木製品一覧2

報告番号	試料番号	実測番号	器種	樹種	地区	遺構	グロット	小割	層位	法量(mm,g)				調整		色調		備考
										最大長	最大幅	最大厚	その他	重量	内	外	内	
W719	1347	特1	曲物		A1	SE02												井戸枠
W720	203	203	漆器碗	ケヤキ	A3	SE04												黒漆、畳付けは内側を削り込むことによって作り出している、口縁部に荒型痕?
W721	204	204	箸	スギ	A3	SE04				173	5	4.5						
W722	743	特40-1	横かまき板	ヒノキ	A3	SE05		西側		325	124	6						
W723	286	特16	井戸側	スギ	A3	SE17		横棧下2		804	140	28						No2
W724	744	特40-2	井戸側	スギ	A3	SE17		横棧下4		815	143	30						
W725	287	特17	井戸側	スギ	A3	SE17		横棧下3		805	151	30						No3
W726	747	黄3	井戸側	スギ	A3	SE17		縦板		1477	462	47						縦NW1
W727	748	黄4	井戸側	スギ	A3	SE17		縦板		1453	432	52						縦NE1
W728	749	黄5	井戸側	スギ	A3	SE17		縦板		1136	474	37						縦SE2
W729	750	黄6	井戸側	スギ	A3	SE17		縦板		1471	406	47						縦NE2
W730	206	206	箸	スギ	A3	SE13				202	6	5						
W731	240	240	箸	スギ	A3	SE13				219.5	7	4						
W732	241	241	箸	スギ	A3	SE13				198	7	6						
W733	242	242	箸	スギ	A3	SE13				195.5	6	6						
W734	243	243	箸	スギ	A3	SE13				21.5	6	5.5						
W735	207	207	箸	クロベ	A3	SE14				206	11	5						
W736	208	208	杓子	スギ	A3	SE15				185	83	20						
W737	1423-1	02s2木23-1	箸		A3	SE15				184	7	5.5						
W738	1423-2	02s2木23-2	箸		A3	SE15				201	6	5						
W739	1424-1	02s2木24-1	箸		A3	SE15				141	10	6						
W740	1424-2	02s2木24-2	箸		A3	SE15				136	8	5.5						
W741	1425-1	02s2木25-1	箸		A3	SE15				149	6	4.5						
W742	1425-2	02s2木25-2	箸		A3	SE15				161	9	5						
W743	1426-1	02s2木26-1	箸		A3	SE15				137	5	4.5						
W744	1426-2	02s2木26-2	箸		A3	SE15				177	6	5						
W745	210	210	漆器碗	ケヤキ	A3	SE16												黒漆、畳付けは内側を削り込むことによって短いものを作り出している。
W746	211	211	つけ木	アスナロ	A3	SE16				141	11	10						
W747	1427-1	02s2木27-1	箸		A3	SE16				179	8	4						
W748	1427-2	02s2木27-2	箸		A3	SE16				191	6	4						
W749	1428-1	02s2木28-1	箸		A3	SE16				143	6	3						
W750	1428-2	02s2木28-2	箸		A3	SE16				208	8	5						
W751	292	特22	建築部材	スギ	E	SE01				1957	160	21						No1 中近世
W752	213	213	桶	スギ	F	SE04	J			463	83	52						破片 井戸別時代か
W753	214	214	鳥形	ケヤキ	F	SE05				219	90	14						
W754	251	251	箸	スギ	F	SE05	J			169.5	6	4						
W755	252	252	箸	スギ	F	SE05	J			206	6.5	4.5						
W756	253	253	箸	スギ	F	SE05	J			209	6	4						
W757	254	254	箸	スギ	F	SE09	J			242	5.5	4						
W758	255	255	箸	スギ	F	SE09	J			218	6	4						
W759	256	256	箸	スギ	F	SE09	J			218	6.5	3.5						
W760	215	215	部材	スギ	F	SE13	J			536.5	205	24						井戸別時代か
W761	221	221	曲物底板	ヒノキ	M1	SE02				204	198	10						
W762	244	244	曲物底板	ヒノキ	M1	SE02				137	131	8						
W763	245	245	箸	スギ	M1	SE02				189	6.7	3						
W764	222	222	曲物底板	ヒノキ	M1	SE06				200	199.5	7.5						
W765	223	223	曲物底板	スギ	M1	SE07				131.5	127	9						2枚あり 残りの良い方
W766	224	224	曲物底板	ヒノキ	M1	SE12				107.5	134	6.5						
W767	201	201	漆器碗	ケヤキ	M1	SE21												黒漆、畳付けフラット
W768	202	202	漆器蓋	ブナ属	M1	SK04												黒漆、赤色漆絵(内外面に鶴丸紋×3ずつ)、ロクロ爪跡
W769	381	02s381	漆器皿	ブナ属	M2	SE02												内外ともに全面黒漆をぬってある

第4節 井 戸

報告 番号	試料 番号	実測 番号	器 種	樹 種	地 区	遺 構	グリ ッド	小割	層位	法 量 (mm.g)			備 考	
										最大長	最大幅	最大厚		
W770	382	02s382	漆器椀	散孔材	M2	SE02						口径162 器高(42)	内外ともに全面黒漆をぬってある	
W771	225	225	包丁柄	ネムノキ	M2	SE09				307	49.5	28		
W772	383	02s383	漆器椀	トチノキ	M2	SE12						口径150 底径78 器高94	見込みに朱で○と一文字(外側の字(径約5.4の内の中に一文字。反対側にも有り)と同一と思われる)。全面漆塗りの上に朱による文様。高台内：刃物でつけた痕跡	
W773	928	03m52	井戸側	スギ	M3	SE02		西辺縦板		929	113	11		
W774	921	03m45	漆器皿	ケヤキ	M3	SE04						口径88.5 底径65.5 器高15	黒漆、畳付けは内側を削り込むことによって短いものを作り出している。	
W775	930	03m54	井戸側	スギ	M3	SE06				1002	102	9		
W776	929	03m53	箸	スギ	M3	SE06				179	6	6		
W777	922	03m46	漆器椀	ケヤキ	M3	SE07						口径142 底径80 器高51	黒漆、低い高台(畳付けなし)	
W778	931	03m55	付け札状	スギ	M3	SE07				146	36.5	4		
W779	933	03m57	曲物底板	スギ	M3	SE07				94	94	6		
W780	923	03m47	箸	スギ	M3	SE07				226.5	9	4		
W781	932	03m56	箸	スギ	M3	SE07				196	7	5		
W782	932	03m90	箸	スギ	M3	SE07				253.5	6.5	5		
W783	932	03m91	箸	スギ	M3	SE07				226	6.5	5		
W784	932	03m92	箸	スギ	M3	SE07				171	7.5	5		
W785	932	03m129	箸	スギ	M3	SE07				171	6	5		
W786	932	03m130	箸	スギ	M3	SE07				197	7	5.5		
W787	1349	03m126	曲物		M3	SE						口径内582 口径外 603 器高602 底径 内590 底径外610	井戸枠、SK22(上層ではSK06)からの出土か	
W788	226	226	木錘	ツバキ属	N1	SE01				47	146.8	40.6		
W789	228	228	曲物底板	スギ	N1	SE05			最下層	107	109	7		
W790	248	248	スギ	スギ	N1	SE05			最下層	44	53	37		
W791	249	249	把手	スギ	N1	SE05			最下層	285	33	25		
W792	227	227	杓子	ヒノキ属	N1	SE07				198.5	53.5	7		
W793	246	246	下駄	ケヤキ	N1	SE07				(211)	93	(44)		
W794	247	247	下駄	ケヤキ	N1	SE07				214.5	107	47.5		
W795	999・ 1000	03m123	曲物	スギ	N2	SE01							本体口径480 巻板 口径502 器高416 口径136 底径146 器高116	木釘3箇所で残存
W796		特木-5	曲物		O2	SE01							下方径143 上方径148	柄杓
W797	736	92b81	曲物本体	スギ	T	SE04						8		
W798	737	02b82	柄杓柄	スギ	T	SE04				(166)	(17)	(11.5)		736の柄
W799	733	03k2木9	漆器皿	ケヤキ	T	SE04						口径96 底径74 器高15	残存率：口2/12 底2/12	
W800	734	03k2木11	折敷か?	スギ	T	SE04				184	177	6		表面のみ黒漆を塗ってある
W801	735	03k2木10	杓文字	ヒノキ	T	SE04				(168)	76	5		
W802		03k2木12	箸		T	SE04				(212)	7	5		
W803		03k2木13	箸		T	SE04				172	6	5		
W804		03k2木14	箸		T	SE04				(221)	5	5		
W805		03k2木15	箸		T	SE04				200	5	4		
W806		03k2木2	下駄		T	SE05				(144)	64	26		
W807	740	03k2木1	蓋板	スギ	T	SE10		井側内		162.5	148	12		
W808		03k2木16	箸		T	SE11		井側内		211	6.5	3.5		
W809		03k2木17	箸		T	SE11		井側内		212	7.5	6		
W810		03k2木18	箸		T	SE11		井側内		213	6.5	5		
W811		03k2木19	箸		T	SE11		井側内		203	7	5		
W812		03k2木20	箸		T	SE11		井側内		222	6.5	4		
W813		03k2木21	箸		T	SE11		井側内		220	6.5	6		
W814		03k2木22	箸		T	SE11		井側内		205	5.5	3.5		
W815		03k2木23	箸		T	SE11		井側内		214.5	5	6		
W816		03k2木24	箸		T	SE11		井側内		195.5	7	6		
W817		03k2木25	箸		T	SE11		井側内		213	6.5	5.5		
W818		03k2木3	箸		T	SE12				244	8	6		
W819		03k2木4	箸		T	SE12				209	7.5	6		
W820		03k2木5	箸		T	SE12				214.5	5.5	2		
W821		03k2木6	箸		T	SE12				203	7	5		
W822	801	03m1	井戸側	スギ	V1	SK03		南西隅柱		831	68	34		
W823	802	03m2	井戸側	スギ	V1	SK03		北棧		802	72	33		
W824	803	03m4	井戸側	スギ	V1	SK03		南棧		794	79	42		
W825	804	03m4	井戸側	スギ	V1	SK03		西棧		750	67	39		
W826	805	03m5	井戸側	スギ	V1	SK03		東棧		737	81	34		
W827	806	03m6	井戸側	スギ	V1	SK03		北西隅柱		819	76	43		
W828	807	03m7	井戸側	スギ	V1	SK03		北東隅柱		840	69	36		
W829	808	03m8	井戸側	スギ	V1	SK03		東辺縦板		824	218	9		下端に小孔2
W830	809	03m9	井戸側	スギ	V1	SK03		西辺縦板		846	122	10		
W831	810	03m10	井戸側	スギ	V1	SK03		南辺縦板		1340	130	12		
W832	811	03m11	井戸側	スギ	V1	SK03		南辺縦板		1104	124	9		
W833	951	03m75	栓か?	クリ	V1	SK03		側内		37	29	24		
W834	953	03m77	箸	スギ	V2	SE01				232	7	5		
W835	953	03m85	箸	スギ	V2	SE01				243	6	5		
W836	953	03m86	箸	スギ	V2	SE01				259	7	5		
W837	953	03m87	箸	スギ	V2	SE01				261	8	4.5		
W838	953	03m88	箸	スギ	V2	SE01				233	6	5		
W839	953	03m89	箸	スギ	V2	SE01				233	5	4.5		

第5節 その他の遺構・遺物

本節では、前節までに紹介しなかった土坑、落ち込み、性格不明遺構、穴などの遺構とその出土遺物、或いは包含層や検出面出土遺物について報告する。なお、断面図のない穴については、遺物の出土したものについてのみ文末に計測表を付し、そこで詳細を報告することとした。

A 3区SK55 AH23グリッドに位置する。掘り方は長辺1.46m、短辺0.61mの平面隅丸長方形プランで、深さは35cmを測る。時期を特定できる遺物はないが、埋土や形状などから中世の土坑とした。

C 2区SK33 X16グリッドに位置する。長辺1.64m、短辺1.33mの平面隅丸長方形プランで、深さは53cmを測る。また、掘り方内部は段状に掘られている。縄文時代の深鉢が図化されているが（第3分冊）、埋土や形状、方位等から見て、中世の土坑と判断した。

C 2区SK44 AA16グリッドに位置する土坑だが、調査区端にかかっている、全体を検出できていない。深さは約15cm程度と浅く、掘り込まれた掘り方の中心部を更に段掘り状に掘り込んでいる。最深部でも深さは30cm程度と浅い。

C 2区SK48 Z17グリッドに位置する。一辺0.8m程度の平面隅丸方形プランの土坑で、深さは23cmを測る。

C 2区SK49 Z・AA17グリッドに位置する。直径2.7m程度の平面円形プランの土坑で、深さは86cmを測る。出土遺物は少なく、殆ど小片で、青磁碗5225を図化した。

C 2区SK56・S 1区SK24 AC18～19グリッドに位置する。C 2・S 1の2調査区にまたがって検出された。長径約4.1m、短径約2.3mの平面長楕円形プランの土坑で、深さは80cm程度を測る。時期を決定できる遺物はないが、埋土の状況や方位などから中世の土坑とした。

C 2区SK60 AC18グリッドに位置する土坑だが、調査区端にかかるため、全体を検出できなかった。直径1.2m程度の平面円形または楕円形プランに復元できようか。深さ48cmを測る。

E区SK08 T・U29グリッドに位置する。長辺2.25m、短辺1.52mの平面長方形プランの土坑で、深さは35cmを測る。古式土師器など前代の遺物が図化されているが、埋土の状況や方位などから見て、中世の土坑と考えたい。

E区SK09 U29グリッドに位置する。長径1.37m、短径1.13mの平面楕円形プランの土坑で、深さは82cmを測る。時期を決定できる遺物は見られなかったが、埋土や方位などから中世の土坑とした。

E区SK10・P32 SK10は、S・T29グリッドに位置する土坑。調査区端にかかるため、全体を検出できていないが、掘り方は長辺2.7m以上、短辺2.1m程度の平面長方形プランに復元できようか。また、深さは15cmと浅い。遺構の埋土や方位などから見て、中世の土坑と判断した。

P032は、SK010の掘り方内部から、SK010を切り込む形で検出された。全体を検出できていないが、直径0.70m程度の円形プランになるものと思われる。深さは78cmを測る。P32出土の加賀焼の甕5232を図化した。鎌倉時代の所産と考えられるが、詳細な時期は明らかでない。底部に溶着物が見られた。

E区SK11 T・U29グリッドに位置する。長径約1.0m、短径0.83mの平面楕円形プランの土坑で、深さは68cmを測る。13世紀前半を中心とした年代の遺物が出土しており、土師皿5226・5227を図化した。

E区SK13 T29～30グリッドに位置する。一辺0.84mの平面隅丸方形プランの掘り方の土坑で、深さは75cmを測る。出土遺物は13世紀前半のもので、口縁端部を面取りした土師皿5228・5229を図化した。

E区SK14 R29グリッドに位置する土坑。調査区端にかかり、完掘できていないが、平面楕円形プランの掘り方を持つと思われる。長径は1.8m程度か。短径1.35m、深さ14cmを測る。

E区SK15 R29グリッドに位置する土坑である。調査区端にかかり、掘りきれしていないが、直径1.16m程度の平面円形プランの掘り方を持つと思われる。深さは23cmを測る。

E区SK16 P28グリッドに位置する土坑である。調査区端にかかり、完掘できていないが、平面隅丸長方形プランに復元できようか。検出できた部分で、長辺2m以上、短辺1.39m、深さ22cmを測る。

E区SK17 H26グリッドに位置する土坑で、長径1.4m程度、短径1.1m程度の平面楕円形プランと思われる。深さは67cmを測る。土師皿や珠洲焼、青磁など13～14世紀の遺物が出土しており、珠洲焼の片口鉢5230の図化を行っている。

E区SK19 I26～27グリッドに位置する土坑。調査区端にかかり、一部掘りきれしていないが、直径1.1m程度の平面円形プランに復元できようか。深さは73cmを測る。図化に堪えるものではなかったが、土師皿の小片が出土している。

E区SK21 K27グリッドに位置する。直径1.0m程度の平面略円形プランの土坑で、深さは84cmを測る。なお、詳細ははっきりしないが、掘り方から銅銭が出土していたようである。

E区SX01 P28グリッドに位置する。調査区端にかかり、完掘できていないが、平面形は円形もしくは楕円形プランに復元できようか。検出できた部分の直径は5.06m、深さは70cmを測る。14世紀代の遺物が出土しており、土師皿5233を図化した。

M1区SK01 L26グリッドに位置する。長径1.19m、短径1.03mの平面楕円形プランで、深さは33cmを測る。時期を決定できるような遺物はなかったが、埋土などから中世の土坑とした。

M1区SK02 L・M26グリッドに位置する。長径0.92m、短径0.8mの平面不定形プランの土坑で、深さは44cmを測る。時期を決定できるような遺物はなかったが、埋土などから中世の土坑とした。

M1区SK03 L・M27グリッドに位置する。長辺2.36m、短辺1.78mの平面長方形プランの土坑で、深さは38cmを測る。図化に堪えるものはないが、陶器や青磁片が少量出土している。

M1区SK05 L・M25・26グリッドに位置する。東西1.57～2.4m、南北5.3mの平面隅丸台形プランの土坑で、深さは57cmを測る。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土や方位などから中世の土坑と思われる。

M1区SK11 L26グリッドに位置する土坑。SE02に切り込まれており、全体を検出できなかったが、直径0.9m程度の平面円形プランに復元できようか。深さは70cmを測る。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土の状況などから中世の遺構とした。

M1区SK12 L26グリッドに位置する。長径0.79m、短径0.60mの平面楕円形プランの土坑で、深さは59cm以上を測る。図化に堪えるものはなかったが、土師皿の小片が出土している。

M1区SK13 M25グリッドに位置する。長径1.32m、短径1.1mの平面楕円形プランの土坑で、深さは16cmを測る。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土や方位などから中世の土坑と思われる。

M1区SK15 L25グリッドに位置する。長径0.79m、短径0.62mの平面楕円形プランの土坑で、深さは61cm以上を測る。

M1区SK21 M27グリッドに位置する。直径1.0m程度の平面略円形プランの土坑で、深さは約30cmを測る。安山岩製行火S150を図化している。I種。同一個体の一部がSE17でも出土している。

M1区SK22 M26～27グリッドに位置する土坑。遺構東半分は、溝SD13によって切り込まれているが、長辺5.8m、短辺2.7m程度の平面隅丸長方形プランの掘り方を持つと思われる。深さは20cm程度と浅い。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土や方位などから中世の遺構とした。

M1区SK23 M27グリッドに位置する。長径1.2m、短径1.06mの不整楕円プランの土坑で、深さは29cm以上を測る。時期のわかる土器・陶磁器類は見られなかったが、茶臼S151、金属製の合子蓋M17が

出土しており、図化している。

M 1 区SK25 N27グリッドに位置する。直径0.7m程度の平面円形プランの土坑で、深さは42cmを測る。出土遺物は多くないが、概ね15世紀のものと思われる。図化遺物は天目の香炉5236。底部には凹みを持つ足が貼り付けられている。

M 1 区SK26 N・O25グリッドに位置する土坑だが、調査区端にかかっているため、全体を検出できていない。遺構東部は、溝SD06に切り込まれている。検出できた部分の長径は約2.4mを測る。掘り方内部は段掘り状になっており、最深部での深さは78cmを測る。

M 1 区SK27 N27グリッドに位置する。直径0.7m程度の平面円形プランの土坑で、深さは45cmを測る。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土などから中世の土坑と思われる。

M 1 区SK28 N27グリッドに位置する。長径0.83m、短径0.62mの平面楕円形プランの土坑で、深さは56cm以上を測る。遺構東側で、SD19を切り込む。軸がずれており、また時期を特定できる遺物もないが、埋土等の状態から中世に属するものと判断した。

M 1 区SK35 M27グリッドに位置する土坑である。いくつかの遺構と切り合っており、はっきりしないが、長辺1.30m程度、短辺0.70m程度の平面隅丸長方形プランの掘り方を持つと思われる。深さは10cm程度を測る。珠洲焼の甕5237を図化した。小片だが、Ⅳ～Ⅴ期のものと思われる。

M 2 区SK01 Q27～28グリッドに位置する。長辺5.82m、短辺4.72mの平面長方形プランで、深さは22cmと浅い。時期を決定できるような遺物はなかったが、埋土や方位などから中世の土坑と思われる。

M 2 区SK02 N27～28グリッドに位置する。長径2.12m、短径0.82mの平面隅丸長方形プランの土坑で、深さは23cmを測る。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土や方位などから中世の土坑と思われる。

M 2 区SK03 O27グリッドに位置する。直径0.8m程度の平面略円形プランの土坑で、深さは47cmを測る。土師皿5241と、加賀焼と見られる播鉢5242の図化を行った。

M 2 区SK04 P27グリッドに位置する。長辺1.96m、短辺1.42mの平面長方形プランの土坑で、深さは71cmを測り、長軸方位はN2°Eをとる。詳細な時期や墓であることを示す具体的な遺物は出土していないが、埋土や方位、形状などから、中世の土壙墓の可能性はある。

M 2 区SK06 N27グリッドに位置する。掘り方内部に木棺材が残存する木棺墓で、長辺1.8m、短辺0.74mの平面長方形プランで、深さは約30cmを測る。また、長軸方位はN2°Eをとる。なお、詳細な時期を決定できるような遺物は出土していない。

木棺は組合せ式木棺で、底板、天板、側板、横木が残存していた。側板は長辺1.55m、短辺0.50mを測る。なお、木棺材について、樹種同定が行われており、ヒノキ或いはヒノキ科と同定された中・南側の横木以外は、全てスギ材が使用されていたことが明らかになっている。

M 3 区SK01・12・13・17 J25～26グリッドでは、複数の遺構が錯綜して検出されているため、それぞれの遺構の平面プランが明確でないが、出土遺物や埋土より中世に属する遺構と思われる。

SK01は、平面隅丸長方形プランの掘り方を持つと思われる。短辺は1.9m程度、深さは20cm弱で、SK12を切り込む。図化を行った遺物に越前焼の鉢5246がある。13世紀代の所産と思われる。接合できなかったが、同一個体と見られる破片が、SD05でも出土している。SK12は深さ30cm程度を測る。SK13は深さ30cm弱を測り、SK01・12に切り込まれている。14世紀代のものと思われる土師皿5251を図化した。SK17は深さ10cm弱を測り、SK01・SD09に切り込まれている。滑石製の石鍋S152を図化した。体部に断面台形の鏝が巡り、口縁は内湾している。口径より底径が小さくなると思われる。

M 3 区SK02 K26グリッドに位置する。長辺2.22m、短辺1.91mの平面隅丸長方形プランの土坑で、深さは12cmを測る。遺物は14世紀後半～15世紀前半のものが見られた。珠洲焼の壺5247を図化した。また、

図化には至らなかったが、韃羽口或いは炉壁片が出土している。

M 3 区SK03 K26グリッドに位置する。長辺1.87m短辺1.17mの平面長方形プランの土坑で、深さは32cmを測り、長軸方位N5°Wを指す。なお、図化に至っていないが、15世紀代と見られる遺物が少量出土している。また、溝SD07を切り込んでいるが、北東角は井戸SE04に切り込まれている。墓であることを示す具体的な遺物は出土していないが、埋土や方位、形状から、土壙墓の可能性はある。

M 3 区SK05 K25グリッドに位置する。一辺0.8m程度の平面方形プランの土坑で、深さは41cmを測る。珠洲焼の片口鉢5248を図化している。なお、溝SD46を切り込んでいるため、掘り方下部より弥生～古墳時代前期の土器片が見られた。

M 3 区SK08・09 I26グリッドに位置する。ほぼ同位置で作り替えられている土坑。調査区端にかかっているため、完掘できておらず、平面プランは明らかでない。また、崩落を防ぐため、底まで掘りきることもできなかった。土層断面の状況より、SK08がSK09より古いことを確認した。また、多量とは言い難いが湧水も見られるため、井戸の可能性もある。

SK08は、深さ104cm以上を測る。加賀焼の甕底部5250を図化した。また、SK09は径1.06m、深さ106cm以上を測るが、時期を決定できるような遺物は出土していない。

M 3 区SK14 K25グリッドに位置する。長辺2.85m、短辺1.86mの平面隅丸長方形プランの土坑で、深さは約80cmを測る。長軸方向はN1°Wを指す。第3層と第4層の境目を面として、植物遺存体が土坑全体に多く分布しており、付近からは焼骨の小片も多数出土していた。また、ヒノキ材の呪符木筒W840が出土した。頭部は僅かに円頭形を呈し、下端は尖っている。片面のみ墨書を確認し、「(種字) (符録) 急々如律令」と判読される。「(符録) 急々如律令」の書式を持つ典型的な呪符木筒と言えるが、第1字目に種字(バン)を持つ点に特異性が見られる。卒塔姿と呪符の概念が混淆したものと考えられ、中世呪符木筒のあり方を考える上で好資料となろうか。また、木棺などの墓内施設は見られなかったため、本遺構は土壙墓であると思われる。出土遺物は13～15世紀前半のものが見られるが多くは14世紀以降のものである。土師皿5252、珠洲焼壺5253、加賀焼甕5254を図化を行った。5252は平底で、外反して立ち上がる体部をヨコナデして口縁を外側に引き出しており、器壁はほぼ一定に厚めである。5253は肩部に施した2列の波状文の間に、「九」字の線刻を施す。また、セクションベルト上の第3～4層の境からは、草鞋と思われる遺物を検出した。腐植が激しく、取り上げ不可能な状態であったため、写真の撮影のみに留まった。残存長は20cm程度を測った。

M 3 区SK18 I25グリッドに位置する。SE07が湧水によってその壁面が崩落したのに伴い、SK18もSE07と接する壁面が崩落した。直径0.8m程度の平面円形プランの土坑で、深さは106cmを測る。井戸SE07を切り込む。SE07程ではないが、湧水が見られ、土層断面もSE07と類似していることから、こちらも井戸であった可能性がある。出土遺物は概ね14世紀代のものが見られた。土師皿5255を図化した。

M 3 区SK19 I24グリッドに位置する。直径0.5m程度の平面円形プランの土坑で、深さは74cmを測る。SD26を切り込む。

M 3 区SK21 J25グリッドに位置する。長辺2.2m、短辺1.5m程度の南側の角が丸くなっている平面長方形プランの土坑で、深さは60cmを測り、長軸方位N9°Eを指す。底部付近の第2層と第4層の境の、土坑全域で炭層が広がっていた。掘り方内から墓であることを示す具体的な遺物は出土していないが、方位や形状などから、本遺構が土壙墓であったと考えられようか。

M 3 区SE05 J24グリッドに位置する。一辺1.8m程度の平面隅丸方形プランの土坑で、深さは63cmを測る。図化に至らなかったが、近世と見られる遺物が出土していることから、近世の土坑と思われる。

N 1 区SK01 S29グリッドに位置する。長径87m、短径76mの平面楕円形プランの土坑で、深さ53cm

を測る。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土や方位などから中世の土坑とした。

N 1 区SK02 S29グリッドに位置する。直径0.66m程度の平面円形プランの土坑で、深さは29cmを測る。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土などから中世の土坑と思われる。

N 1 区SK03 S28グリッドに位置する。一辺約0.60mの平面隅丸方形プランの土坑で、深さ55cmを測る。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土や方位などから中世の土坑と思われる。

N 1 区SK04 U28グリッドに位置する。調査区端にかかり、全体を検出できなかったが、短辺1.72m、深さは15cmを測る平面長方形プランの浅い土坑であると思われる。時期を特定できる遺物はなかったが、埋土や方位などから中世の土坑と思われる。

N 1 区SK07 U26グリッドに位置する。長径0.87m、短径0.55mの平面楕円形プランの土坑で、深さは6cmと浅い。本遺構が中世に属することを示すような遺物は出土していないが、埋土中に、SE05・SE07で確認されたのと類似した炭層が検出されていることから中世の遺構とした。

N 2 区SK01 J22グリッドに位置する。一辺1.1m程度の平面隅丸方形プランを呈し、底部でオーバーハングしている断面袋状の掘り方を持つ土坑。深さは71cmを測る。

N 2 区SK06 J21グリッドに位置する。直径0.74m程度の平面円形プランの土坑で、深さは44cmを測る。古代の溝SD12を切り込んでいる。中世に属する遺物の出土が見られなかったが、埋土などから中世の遺構と判断した。

N 2 区SK22 L・M22グリッドに位置する。長辺2.8m、短辺1.5mの平面長方形プランで、深さは46cmを測る土坑。長軸方向はN1°Wを指す。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土や方位、形状などから中世の土壙墓の可能性はある。

N 2 区SK104 P24グリッドに位置する。直径0.75mの平面円形プランで、深さは24cmを測る。時期を特定できる遺物は出土していないが、埋土などから中世の土坑と推定される。

Q 1 区SK01 AK18～19グリッドに位置する。直径0.9m程度の平面略円プランで、深さは89cmを測る。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土や方位などから中世の遺構とした。

Q 1 区SK02 AK19グリッドに位置する。SD03内で検出されたため、平面プランは明らかでない。断面から直径80cm程度、深さは40cmを測ると思われる。時期を特定できる遺物は出土していないが、埋土や方位などから中世の土坑とした。

Q 1 区SK05 AJ・AK19グリッドに位置する土坑で、SD23・24内で検出された。また、調査区端にかかるため、全体を検出できなかった。検出できた部分での直径は1.34m、深さは54cmを測る。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土や方位などから中世のものとした。

Q 1 区SK20 AH・AI19グリッドに位置する。長辺2.34m短辺1.42mの平面隅丸長方形プランで、深さは91cm以上を測る。掘り方北側は段掘り状になっている。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土や方位などから中世の土坑とした。

Q 1 区SK51 AG20グリッドに位置する。直径0.9m程度の平面略円形プランで、深さは62cmを測る。出土遺物は12世紀後半～13世紀前半のものが見られ、肩部に横位の把手を付し、3条1組の波状文で加飾する珠洲焼の四耳壺5259を図化した。

Q 2 区SK124 AF21グリッドに位置する。直径0.95m程度の平面円形プランで、深さは64cmを測る。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土などから中世の土坑とした。

Q 2 区SE12 AG21～22グリッドに位置する。長径2.16m、短径2.16mの平面略円形プランの土坑で、深さは123cmを測る。粘土質或いは砂質の覆土で、掘削時には独特の臭気を感じられたことから野壺と思われる。野壺と見られる土坑にはこのほかN2区や（SK101・107の他にも番号をつけられていないものもあ

る)、S1区のSE02等が見られる。特にN2区ではこのような野壺が旧農道沿いに直線状に分布していた状況が見られるようである。いずれも平面円形または楕円形プランの掘り方である点や、粘土質或いは砂質の覆土である点や、独特の臭気を持つといった点で共通しており、また、ガラス等近現代の遺物が混入している点も共通している。

R1区SX01 AB・AC20グリッドに位置する。調査区端にかかっており、全体を検出できなかったが、短径でも5m以上を測る大型の掘り方を持つ。深さは110cm以上を測る。小片で図化できなかったが、14～15世紀頃のものと思われる瀬戸が出土している。

R2区SK01 W17～18グリッドに位置する。東西2.68～4.44m、南北4.08mの隅丸台形プランの土坑で、深さは32cm以上を測る。内部に一辺約130cmの方形に落ち込んだ箇所があり、北東・南東・南西角で杭が検出された。14世紀代の遺物が出土しており、土師皿5260と、土師質の土錘E163を図化した。

S1区SE02 AE17～18グリッドに位置する。長径1.78m、短径1.49mの平面楕円形プランで、深さは61cm以上を測る。埋土の状況から、野壺と思われる。

S2区SK12 W15グリッドに位置する。直径1.9m程度の平面円形プランで、深さは82cmを測る。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土の状況などから中世の土坑とした。

T区SK01 U30グリッドに位置する。長径0.82m、短径0.72mの平面楕円形プランの土坑で、深さは74cmを測る。図化に堪える遺物は出土していないが、少量の土師皿片が出土していた。

T区SK03 U・V29グリッドに位置する。長辺1.92m、短辺1.29mの平面隅丸長方形プランの土坑で、深さは11cmを測る。SK04を切り込む。図化できなかったが、土師皿と劃花文青磁碗の小片が出土している。

T区SK04 U29グリッドに位置する。長径0.75m、短径0.66mの平面楕円形プランの土坑で、深さは44cmを測る。SK03に切り込まれる。時期を決定できるような遺物は出土していないが、埋土の状況などから中世の土坑とした。

T区SE13 Z24～25グリッドに位置する。長辺2.2m、短辺1.7mの平面隅丸長方形プランの土坑で、深さは44cmを測る。図化に至らなかったが、少量の土師皿と珠洲焼片が出土している。

U区NK02・03・04・05 これらの遺構は、覆土に炭や灰、骨が混じっていたことから、火葬に関連する遺構ではないかと思われる。時期は明治期を想定している。

NK02は、AE28グリッドに位置する。SD01の掘削によって全形を把握できないが、直径0.6m程度の平面円形プランをとると思われる。深さは10cm程度を測る。素焼の碗・皿5263～5265、磁器製香炉5266・5267について図化を行っている。

NK03は、AE27グリッドに位置する。平面形は長辺2.14m、短辺1.66mの長方形の南東角が欠けて五角形状になっている土坑で、深さは28cmを測る。素焼の碗・鉢、磁器製香炉、碗、杯、徳利、急須などの他、ガラス製の瓶など多数の遺物が出土しており、5268～5277について図化を行った。その他にレンガなども出土している。

NK04は、AE27グリッドに位置する。調査区端に一部かかっており、全体を検出できなかったが、長辺1.40m程度、短辺0.80m程度の平面長方形プランの土坑で、深さは15cm弱を測る。図化した遺物はないが、多量のレンガの他、瓦などが出土した。

NK05は、AE28グリッドに位置する。長辺0.96m短辺0.79mの平面隅丸長方形プランの土坑で、掘り方からは陶器やガラス製品などが出土しており、陶質素焼の七厘5278、陶器の徳利5279、陶器の壺5280、ガラス瓶5281の4点を図化した。深さは48cmを測る。

V1区SK01 G26グリッドに位置する。長径2.22m短径1.83mの平面不整楕円形プランの土坑で、深さは136cmを測る。掘り方は底部がオーバーハングした断面袋状をとる。掘り方の底近くから箸が出

土しており、規模などとも考え合わせると井戸の可能性もある。出土した箸はそれぞれW843、W844として図化した。

V 1 区SK02 G26グリッドに位置する。直径約1.15mの平面円形プランの土坑で、深さは122cmを測る。中世の溝SD02に切り込まれる。小片で図化に堪えるものではなかったが、土師皿や白磁碗の小片が出土している。

V 1 区SK09 G25グリッドに位置する。直径0.9m程度の平面円形プランで、深さは40cmを測る。図化遺物はないが、埋土などから中世の土坑とした。

V 1 区SK10 G25グリッドに位置する。直径0.8m程度の平面円形プランの土坑で、深さは100cmを測る。SD03とSD12を切り込む。図化に堪える遺物ではなかったが、土師皿が出土している。

V 1 区P67 G24グリッドに位置する。直径0.77m程度の平面円形プランの穴で、深さは76cm以上を測る。出土遺物は13世紀前半を中心とする時期の所産と考えられ、土師皿5282と、曲物柄杓の底板W845と柄846について図化を行った。

V 2 区SK18 H19グリッドに位置する。直径0.9m程度の平面円形プランで、深さは62cmを測る。時期を決定できるような遺物の出土が見られなかったが、埋土や方位などから中世の土坑と判断した。なお、下層の縄文土器の混入も見られた。

以下、第14表で挙げる穴出土の遺物や、遺構検出作業や側溝掘削時など遺構以外から出土した遺物について概観する。

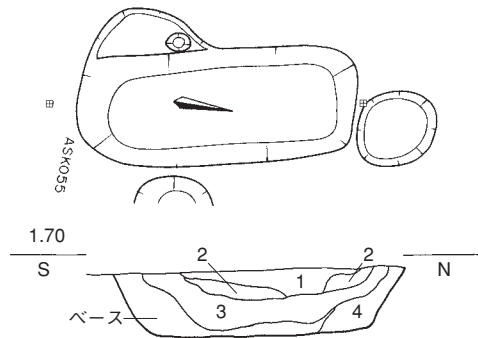
穴出土の遺物には土師皿、珠洲焼、青磁などが見られる。また、建物として抽出することができなかったが、柱根や礎板の残る柱穴も見られた。S149はA3区P120出土の砥石。泥岩質凝灰岩製。5231はE区P27出土の土師皿。平底の底部から短い体部が内湾して立ち上がり、底部から体部にかけて指押さえ調整を施している。5235はF区P38出土の土師皿。口縁端部を面取りしている。5238・5239はM1区P24からの出土遺物である。5238は瀬戸の香炉。底面に回転糸切り痕を残す。5239は土師皿。丸底で、口縁部をヨコナデによって引き出し、外面にはヨコナデによる稜を残す。5240はM1区落ち込み出土の青磁皿。内底部に櫛描きで文様と円圈が施される。5243・5244はM2区P04からの出土遺物。5243は甕の底部で加賀焼と見られる。5244は青磁碗。外面の口縁部付近に雷文帯を持つ。5245はM2区P63出土の瀬戸の折縁鉢で、内外面ともに釉が均一に施されている。5256はM3区P01出土の土師皿で、口縁部をヨコナデにより引き出し、外面に稜線を残す。W841はM3区P42出土の柱根。W842はM3区P127出土の礎板。5257はN2区P109から出土した、短く立ち上がる体部を持つ土師器小皿。5258はN2区P179出土の加賀焼播鉢で、内面に8条1単位の曲線状の卸目を施し、底部に静止糸切り痕を残す。また、遺構の詳細については不明だが、M1区の落ち込みから銅銭M18（永楽通寶）・19（元豊通寶）が出土している。E162はN2区P199出土の土錘。寸胴で、体部径に比して孔が小さい。5261はT区P252出土の土師皿で、体部が内湾して立ち上がり、器高は低い。5262はU区P74出土の底部に回転糸切り痕を残すロクロ成形の土師器皿。5283はV2区P175出土の土師皿である。口縁端部を面取りしているが、器形に著しく歪みが見られる。

以下は、側溝・包含層など遺構以外から出土した遺物である。5285はA3区トレンチ1出土の珠洲焼片口鉢。内面に8条1組の幅の広い卸目が施されている。5286はB1区側溝出土の珠洲焼壺で、底部に静止糸切り痕を残す。5288はB2区側溝出土の珠洲焼片口鉢。口縁端部に波状文が施されている。5289はB2区遺構検出面で出土した。短い体部が開く土師器小皿で、口縁部に油痕を残すことから灯明皿と見られる。5290はE区遺構検出面出土の蓮弁文青磁碗。S153はE区側溝出土の宝篋印塔で、塔

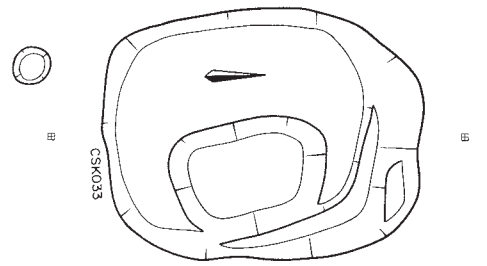
身部のみ出土である。5293～5297はM3区遺構検出面の出土。5293は内面に9条1単位の卸目が施される珠洲焼片口鉢。5295は口縁端部に波状文を施す珠洲焼片口鉢。5297は有田磁器の皿。内底面は釉が輪状に削り取られている。5298はW区排土からの表採で、李朝陶器の皿の底部。釉は灰釉。5300はW区排土からの表採で、青磁碗。見込みに印花文が施されている。

第14表 穴計測表

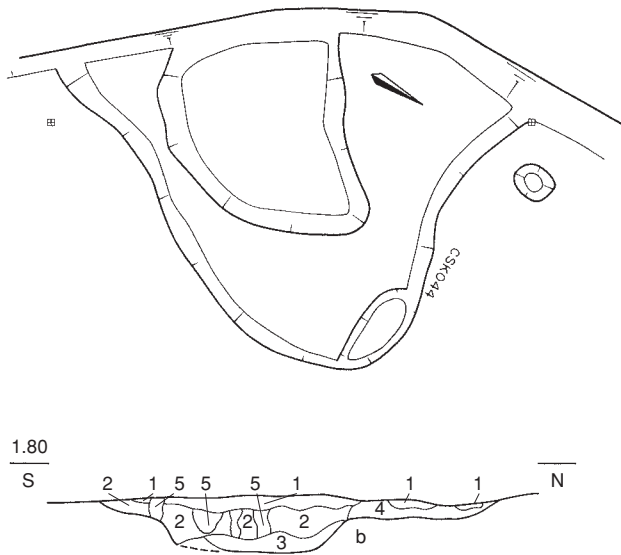
地区	グリッド	遺構名	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	実測遺物	遺物の年代
A3	AI22	P120	略円形	0.47	43	44	S149	
E	T29	P27	不整楕円形	0.45	39	49	5231	12C末～13C初頭
F	H23	P38	円?	0.6		14	5235	12C末～13C初頭
M1	N26	P24	楕円形	0.78	53	54	5238・5239	15C
M2	P28	P04	略円形	0.38	33	62	5243・5244	14C～15C
M2	位置不明	P63	?				5245	14C後半～15C前半
M3	K27	P01	不整楕円形	0.43	38	33	5256	14C後半～15C
M3	I25	P42	楕円形	0.3	0.26	19	W841	
M3	位置不明	P127	?				W842	
N2	N22	P109	不整円形	0.29	28	27	5257	13C
N2	Q25	P179	楕円形	0.3	35	20	5258	
N2	R23	P199	隅丸方形	0.69	0.63	37	E162	
T	Z26	P142	不整楕円形	0.51	0.41	17	M20	
T	V29	P252	隅丸方形	0.32	34	46	5261	13C前半
U	AD32	P74	円形?	0.27		7	5262	11C
V2	H19	P175	楕円形	0.43	30	16	5283	13C前葉
V2	H19	P199	円形	0.4		38	5284	



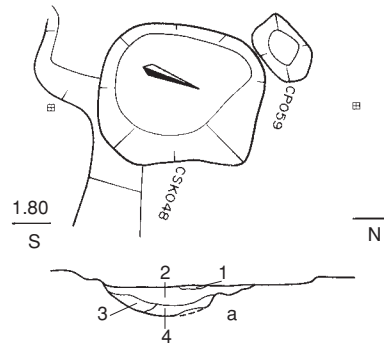
- A 3区 SK55
 1 暗(灰)赤褐色土
 2 暗(灰)赤褐色土 地山ブロック含む
 3 黒褐色粘質土 炭粒含む
 4 黄灰色砂 地山ブロック含む



- C 2区 SK33
 1 黄灰粘土 暗灰 灰粘土ブロック状に30%混
 2 暗褐灰粘土 灰粘土混 炭(φ2mm前後)稀に含
 3 灰粘土 黄灰粘質土20%混
 4 灰黄シルト 暗灰粘土若干混
 5 灰青砂 暗灰粘土若干混
 a 黄灰粘
 b 黄灰砂



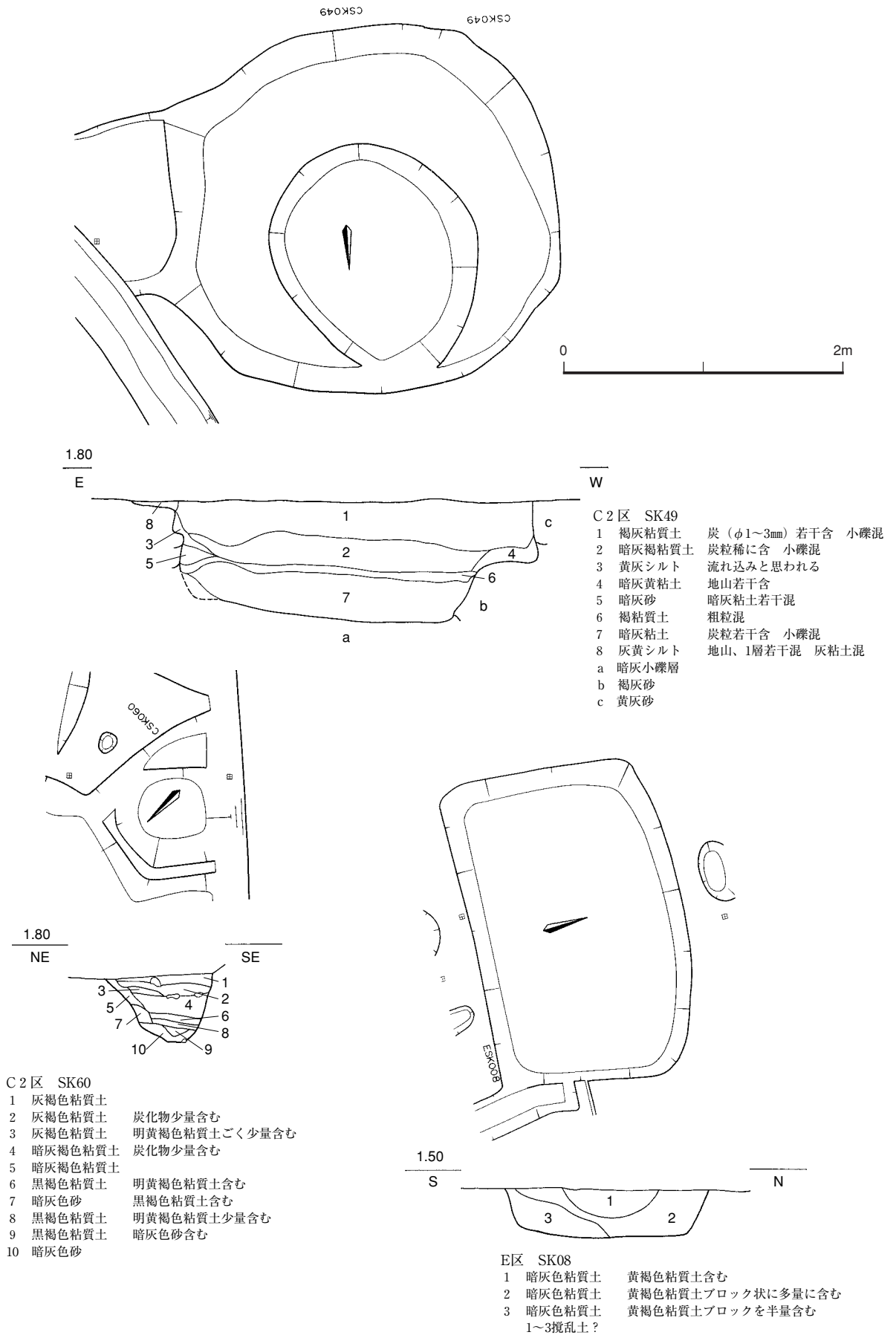
- C 2区 SK44
 1 灰色粘質土 炭粒若干 地山20%混
 2 灰黄シルト
 3 暗灰砂 2層若干混
 4 黄灰シルト 1層若干混
 5 暗灰黄粘質土 根痕か? 地山10~20%混
 a 暗灰砂
 b 黄灰砂



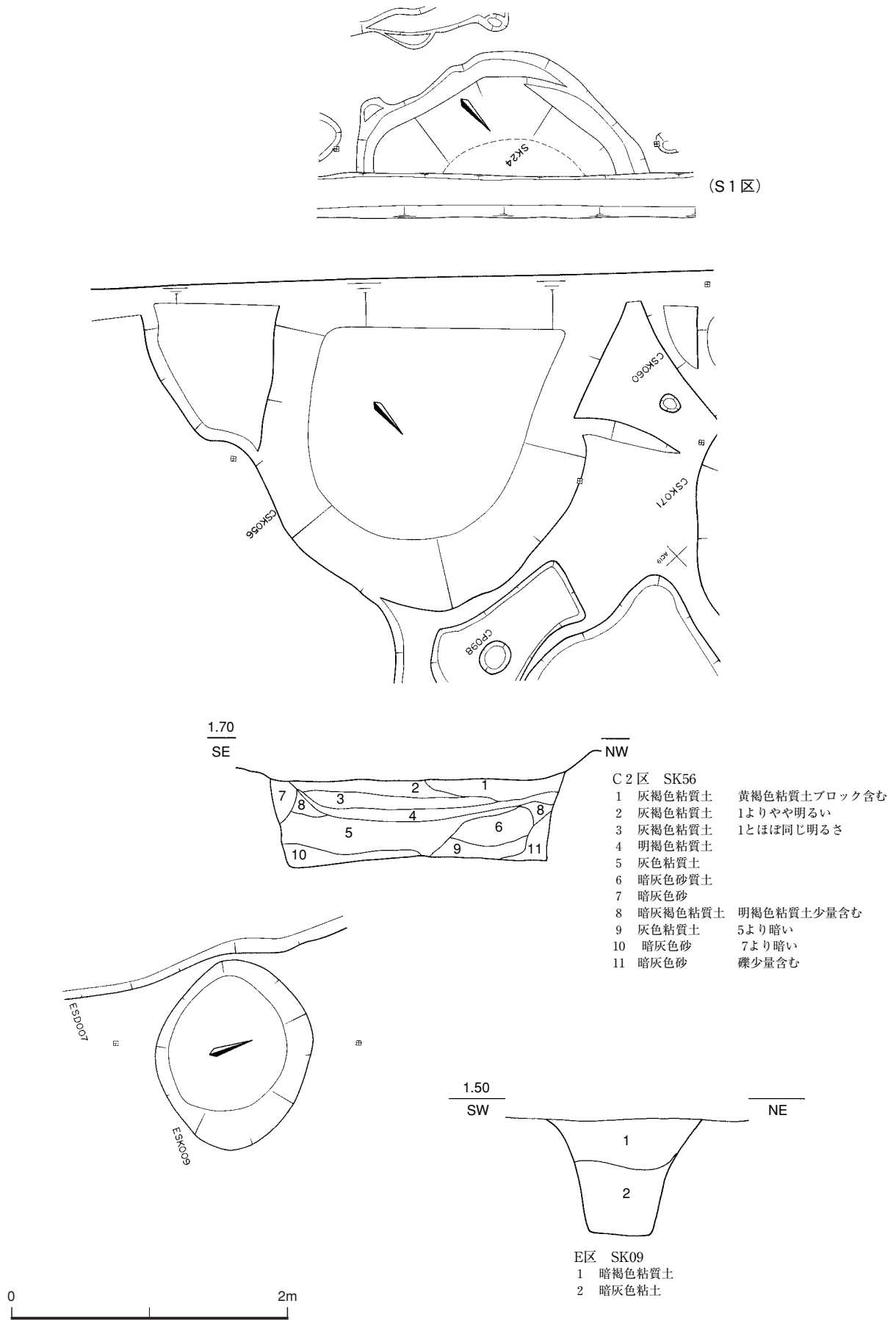
- C 2区 SK48
 1 黄灰シルト 炭粒若干含
 2 暗灰シルト 地山10%混
 3 黄灰シルト 2層混
 4 黄灰シルト 3層より2層の混入少なめとなる
 a 黄灰砂



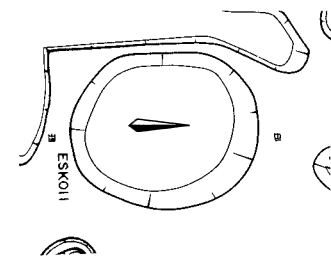
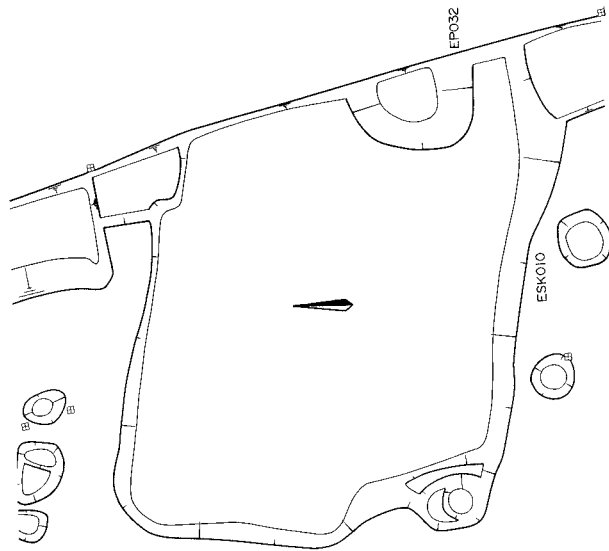
第134図 中世遺構図94



第135図 中世遺構図95

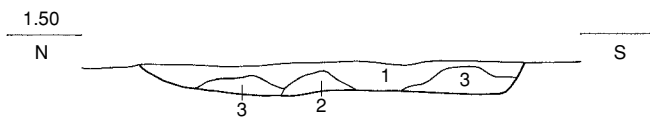


第136図 中世遺構図96



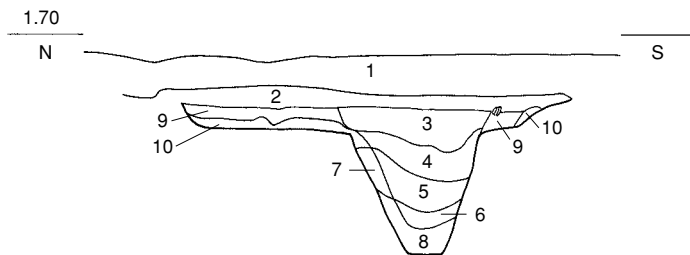
1.50
S N

(E区 SK11)



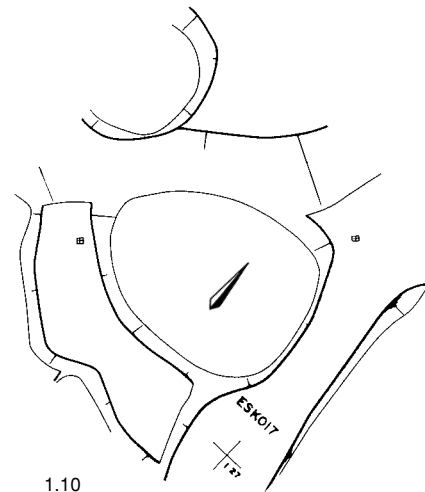
E区 SK10

- 1 褐灰褐色粘質土 炭化物 黄褐色砂質土含む
- 2 黄褐色砂質土
- 3 黄褐色砂質土 暗灰色粘質土含む



E区 P32 (SK10) 西断面土層図

- 1 耕土
 - 2 攪乱
 - 3 暗褐色粘質土 淡黄色粘質土ブロック含む
 - 4 黒褐色粘質土 黄褐色粘質土ブロック含む
 - 5 黒色粘土
 - 6 黒色粘土 緑灰色粘土ブロック含む
 - 7 黄褐色粘質土
 - 8 緑灰色粘土
 - 9 黒褐色粘質土
 - 10 黄灰色砂質土 灰褐色粘質土含む
 - 11 黄灰色砂質土
- 9~11はSK10

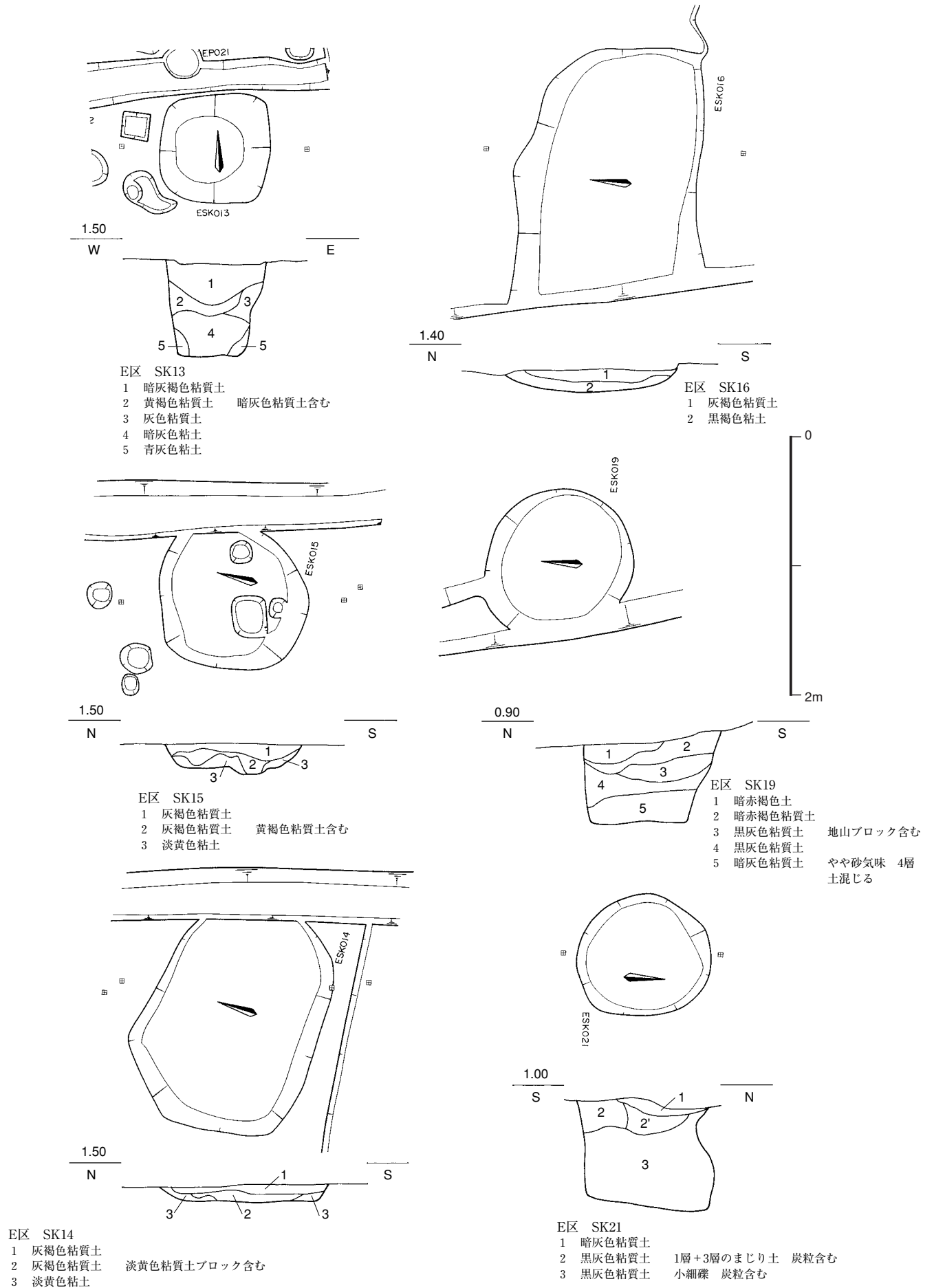


1.10
SW NE

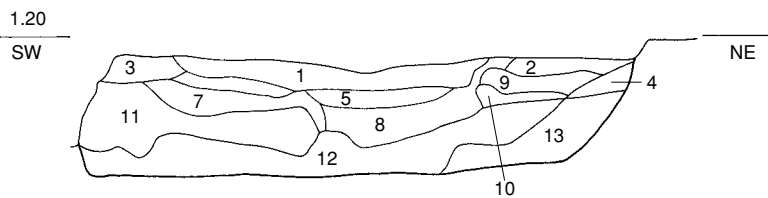
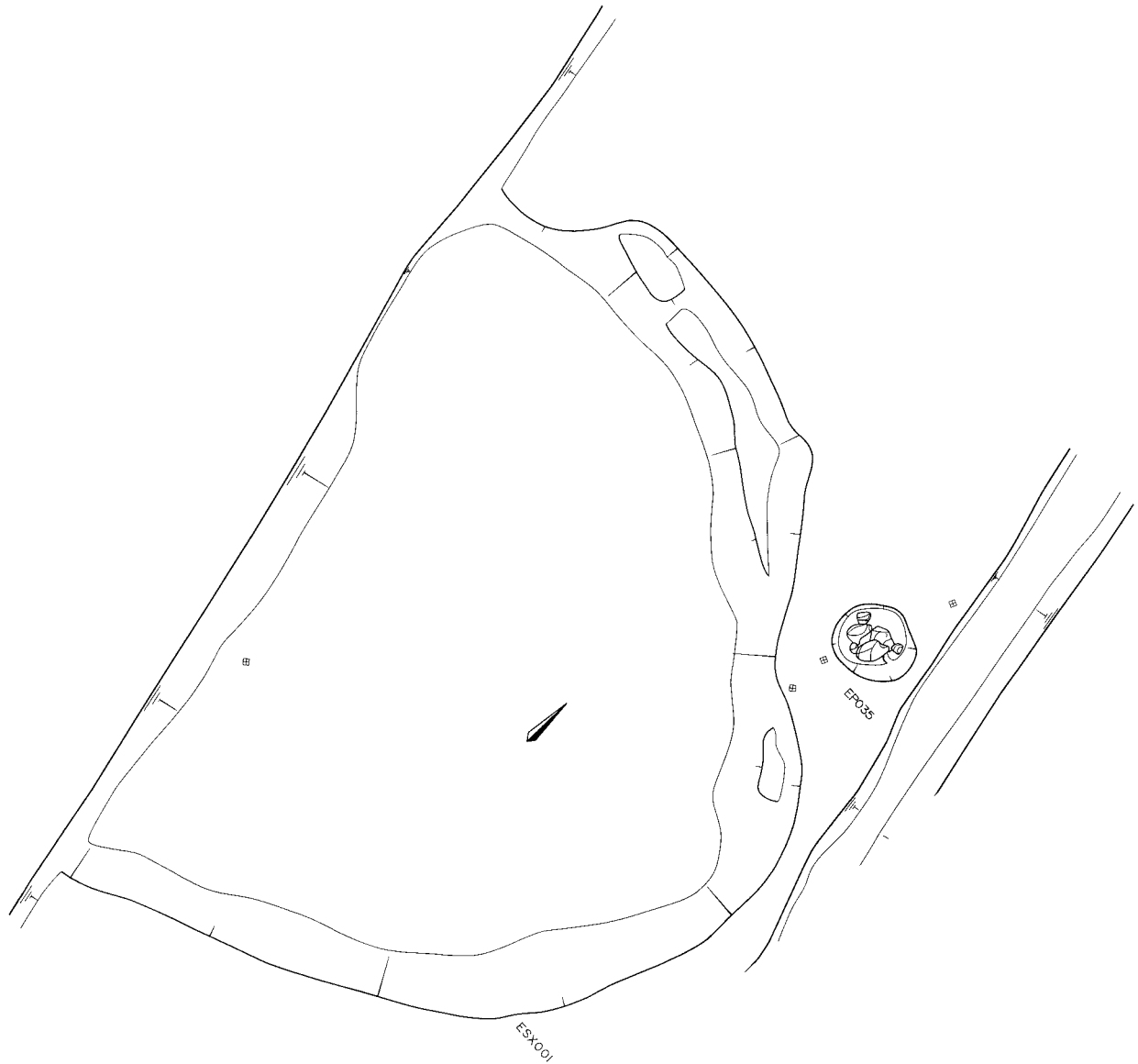
(E区 SK17)

0 2m

第137図 中世遺構図97



第138図 中世遺構図98

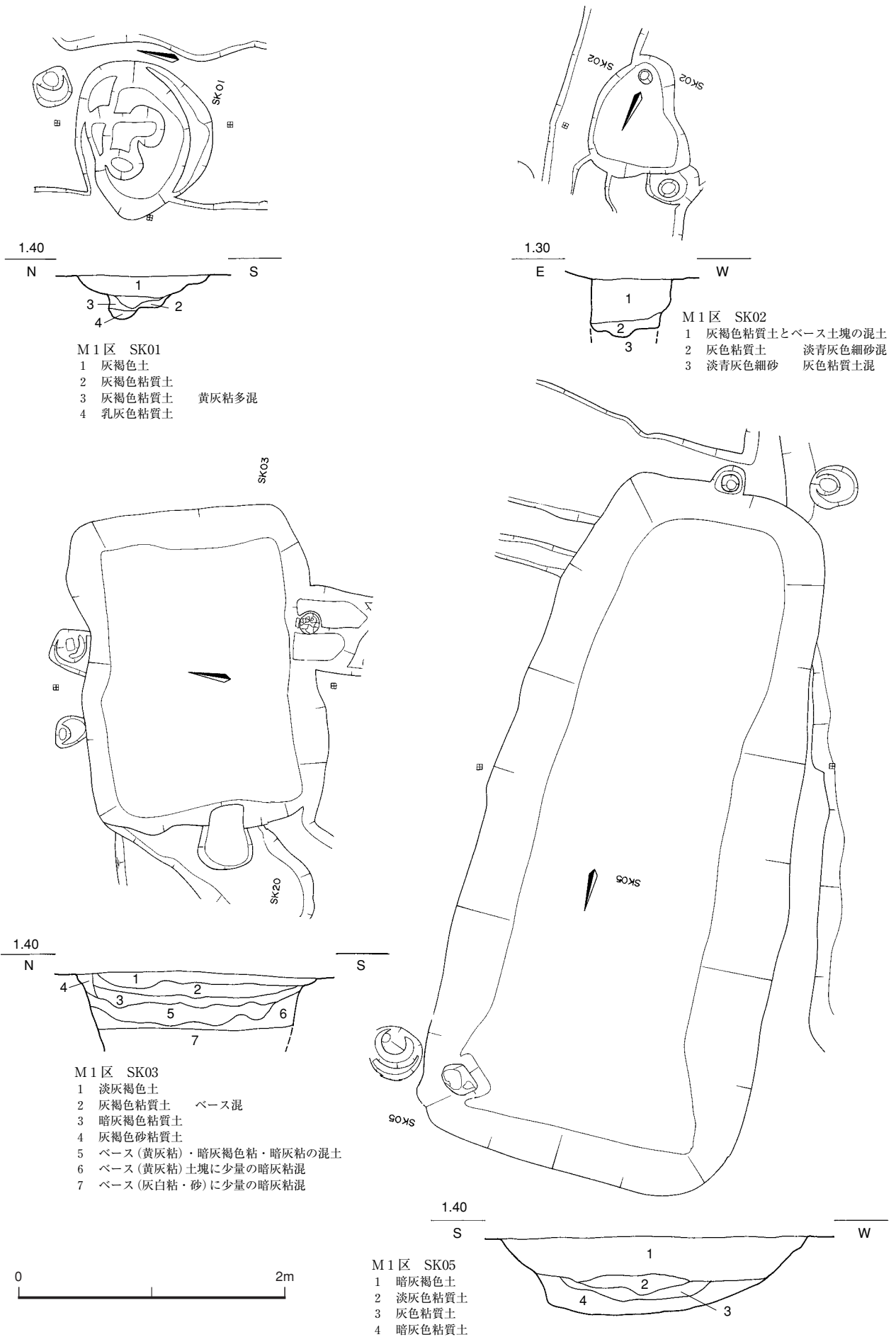


E区 SX01

- 1 灰褐色粘質土
- 2 暗灰褐色粘質土
- 3 黄褐色粘質土
- 4 明黄褐色粘質土
- 5 暗灰色粘土
- 6 灰色粘土 明黄褐色粘質土含む
- 7 灰色粘土 緑灰色粘土ブロック含む
- 8 黒色粘土
- 9 褐色粘質土
- 10 灰色粘質土 黒色粘土含む
- 11 灰色粘土 緑灰色粘土多量に含む
- 12 暗灰色粘土 5より暗い
- 13 緑灰色砂

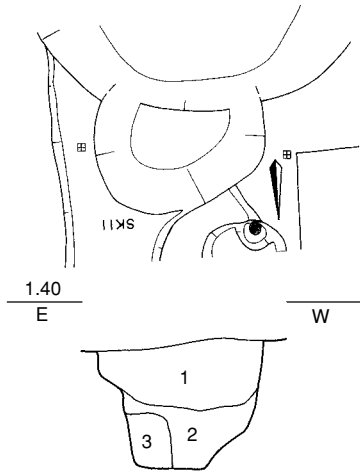


第139図 中世遺構図99



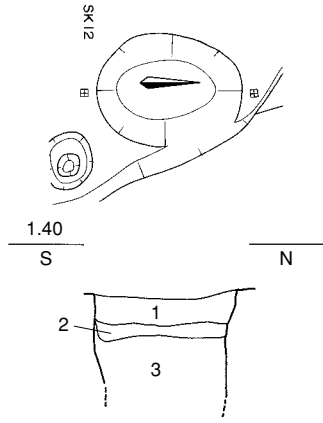
第140図 中世遺構図100

第5節 その他の遺構・遺物



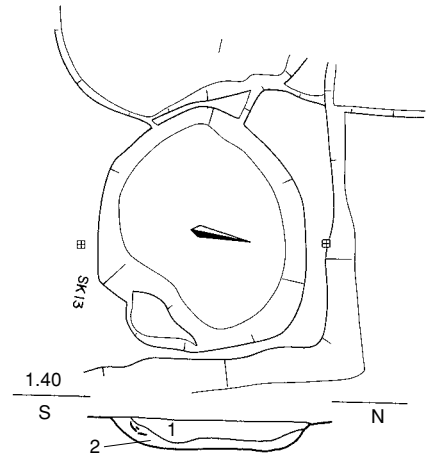
M1区 SK11

- 1 灰褐色粘質土 黄灰ブロック多量に含 ϕ 3~5cm
- 2 灰色粘質土 緑灰粘ブロック含 粘性強
- 3 灰色粘質土・緑灰砂混混合土



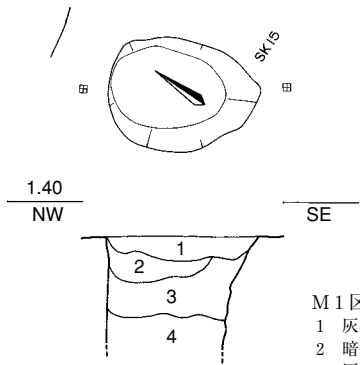
M1区 SK12

- 1 灰褐色粘質土
- 2 灰褐色粘質土 橙灰色砂粘ブロック混
- 3 灰色粘質土 黄灰・緑灰粘ブロック少量含 粘性強



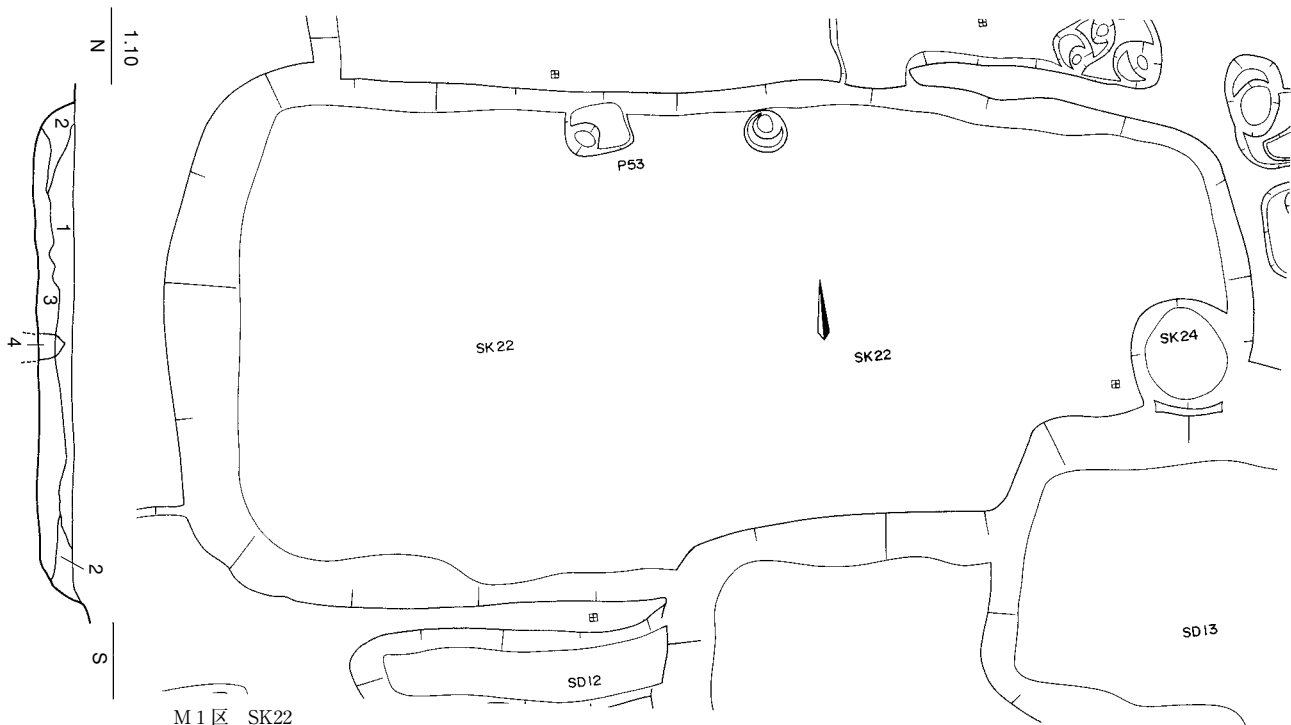
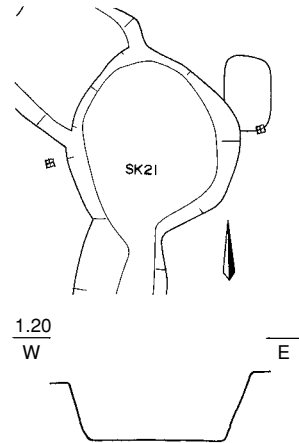
M1区 SK13

- 1 暗茶褐色土
- 2 暗茶褐色土 ベース土塊多混



M1区 SK15

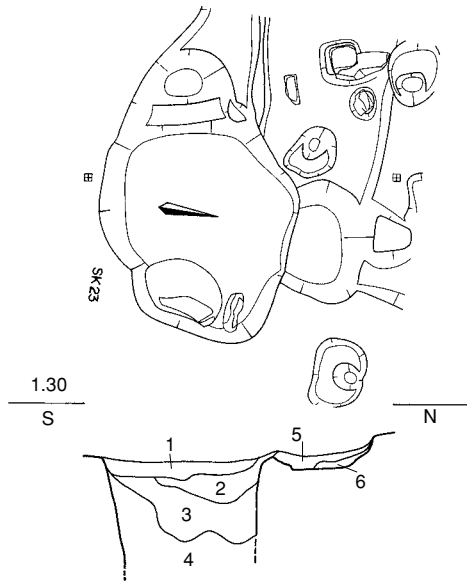
- 1 灰褐色粘質土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 灰色粘質土 褐色小礫含
- 4 灰色粘質土 緑灰色シルトブロック含 粘性強



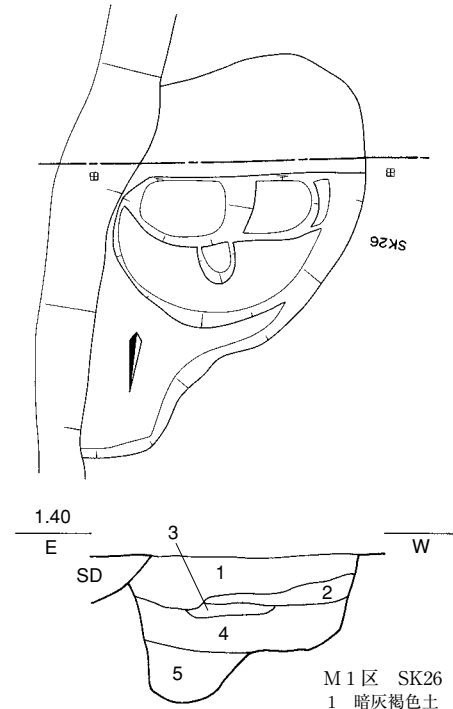
M1区 SK22

- 1 灰色粘質土
- 2 灰色粘質土 ベース混
- 3 暗灰色粘質土 ベース混
- 4 乳灰色粘質土 木杭腐植痕 SK22との関係は不明

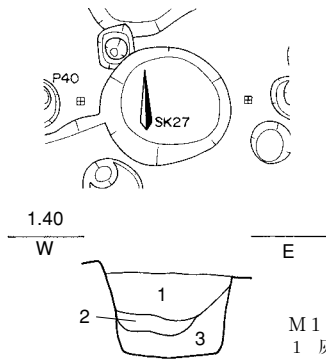
第141図 中世遺構図101



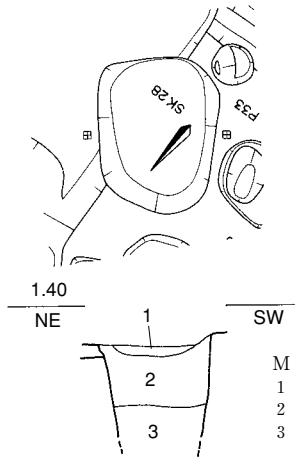
- M1区 SK23
- 1 灰褐色粘質土 黄灰色粘質土混合土
 - 2 黄灰色粘砂質土 灰褐粘ブロック含
 - 3 灰色粘質土 砂粒 青灰砂ブロック含
 - 4 青灰色砂粘質土 灰色粘質土混
 - 5 灰褐色粘質土
 - 6 黄灰色粘砂質土 灰褐粘ブロック含 2層と同じ？



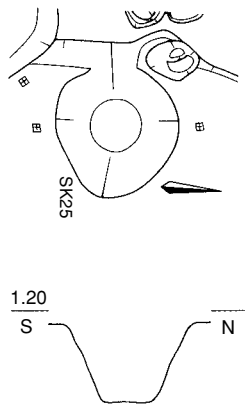
- M1区 SK26
- 1 暗灰褐色土
 - 2 黒灰色粘質土
 - 3 暗灰褐色粘質土
 - 4 黒灰色粘質土 ベース塊多混
 - 5 灰黒色粘質土 ベース砂塊混



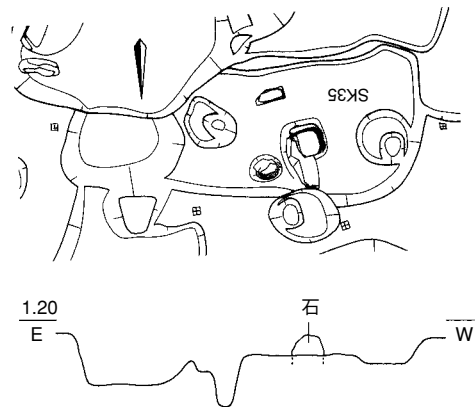
- M1区 SK27
- 1 灰色粘質土
 - 2 灰色砂粘質土
 - 3 灰色粘質土 粘性強



- M1区 SK28
- 1 灰色粘質土
 - 2 黄灰色シルト 1層混 埋戻土
 - 3 淡青灰色砂 1層混



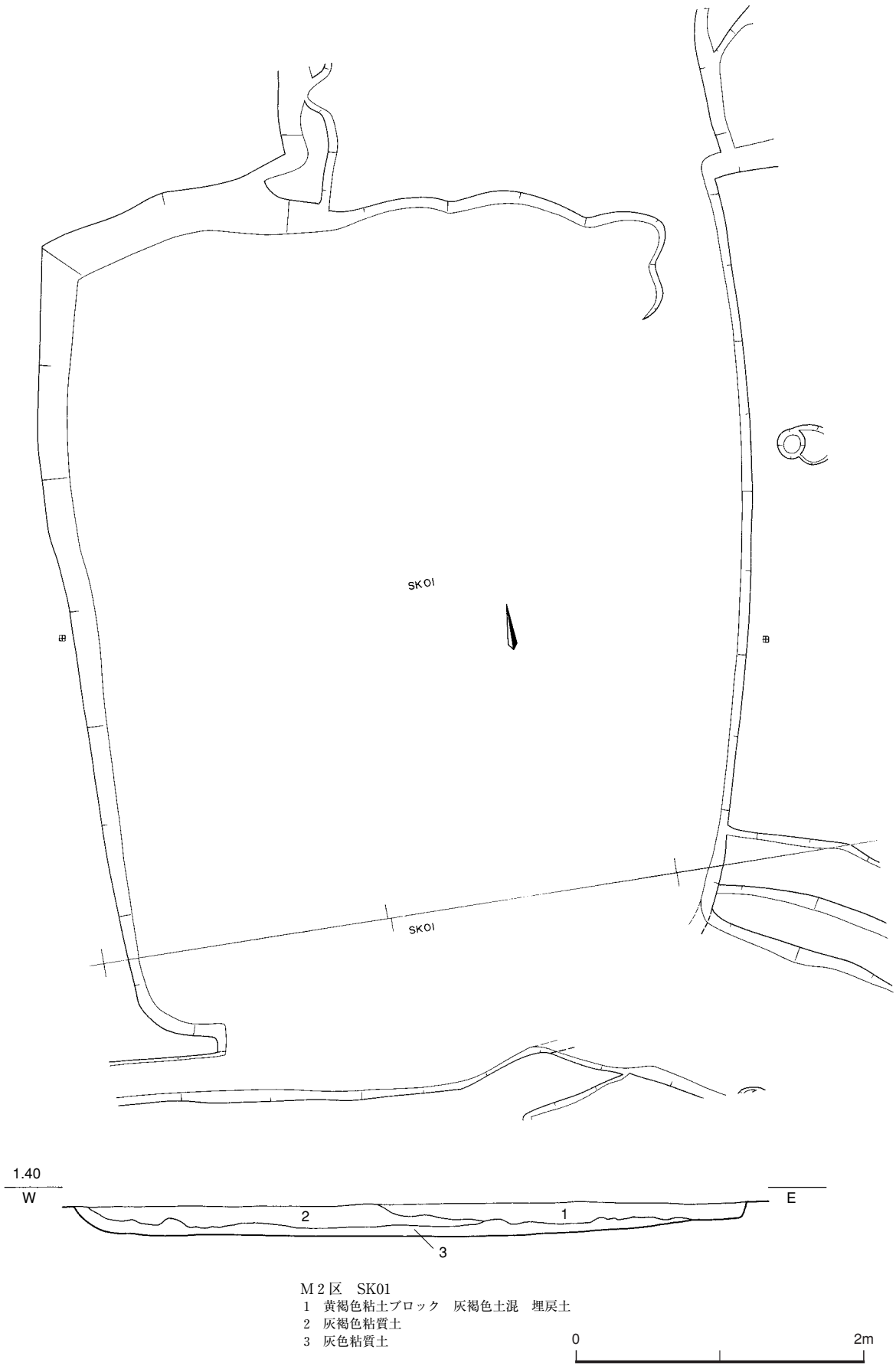
(M1区 SK25)



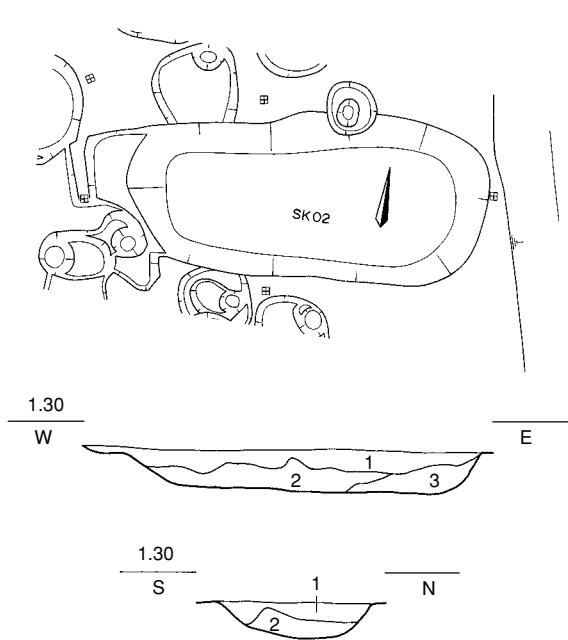
(MI区 SK35)



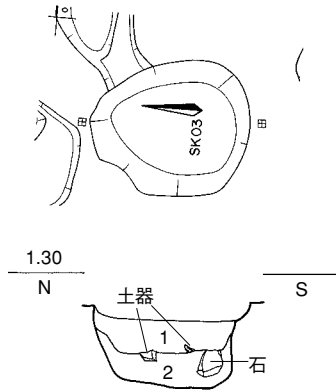
第142図 中世遺構図102



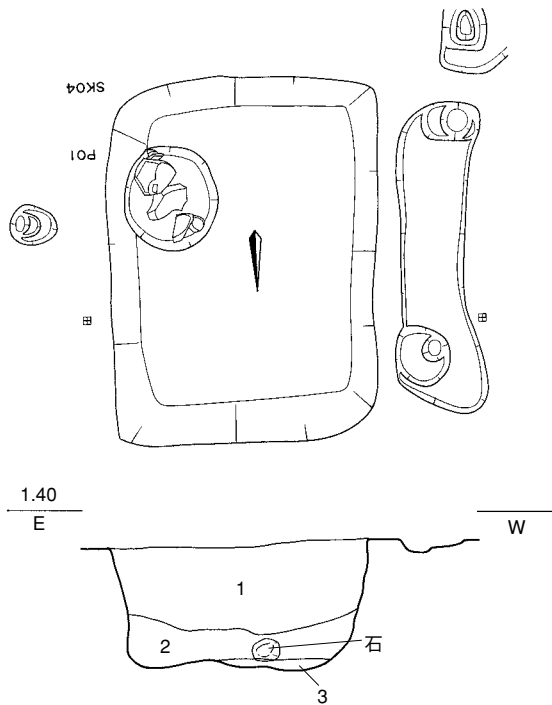
第143図 中世遺構図103



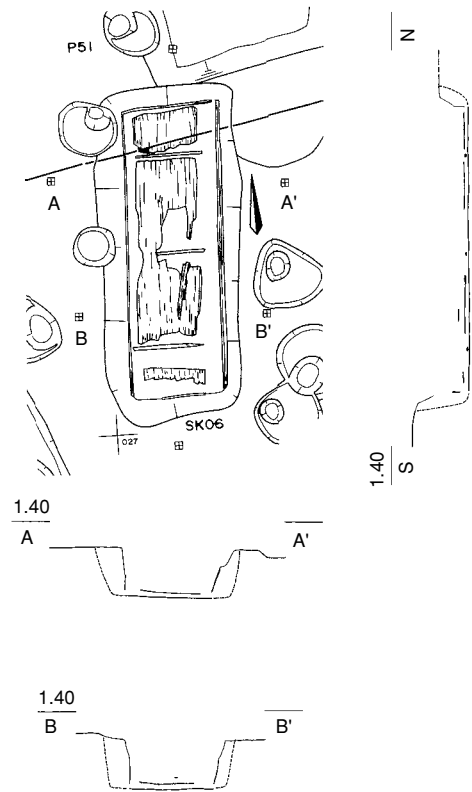
- M2区 SK02
- 1 灰色粘質土 黄灰小ブロック含
 - 2 暗灰色粘質土 黄灰小ブロック少量含
 - 3 暗灰色粘質土 黄褐 黄灰ブロック多量に含



- M2区 SK03
- 1 灰褐色粘質土 砂粒含
 - 2 灰色粘質土 青灰砂ブロック含



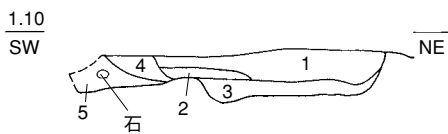
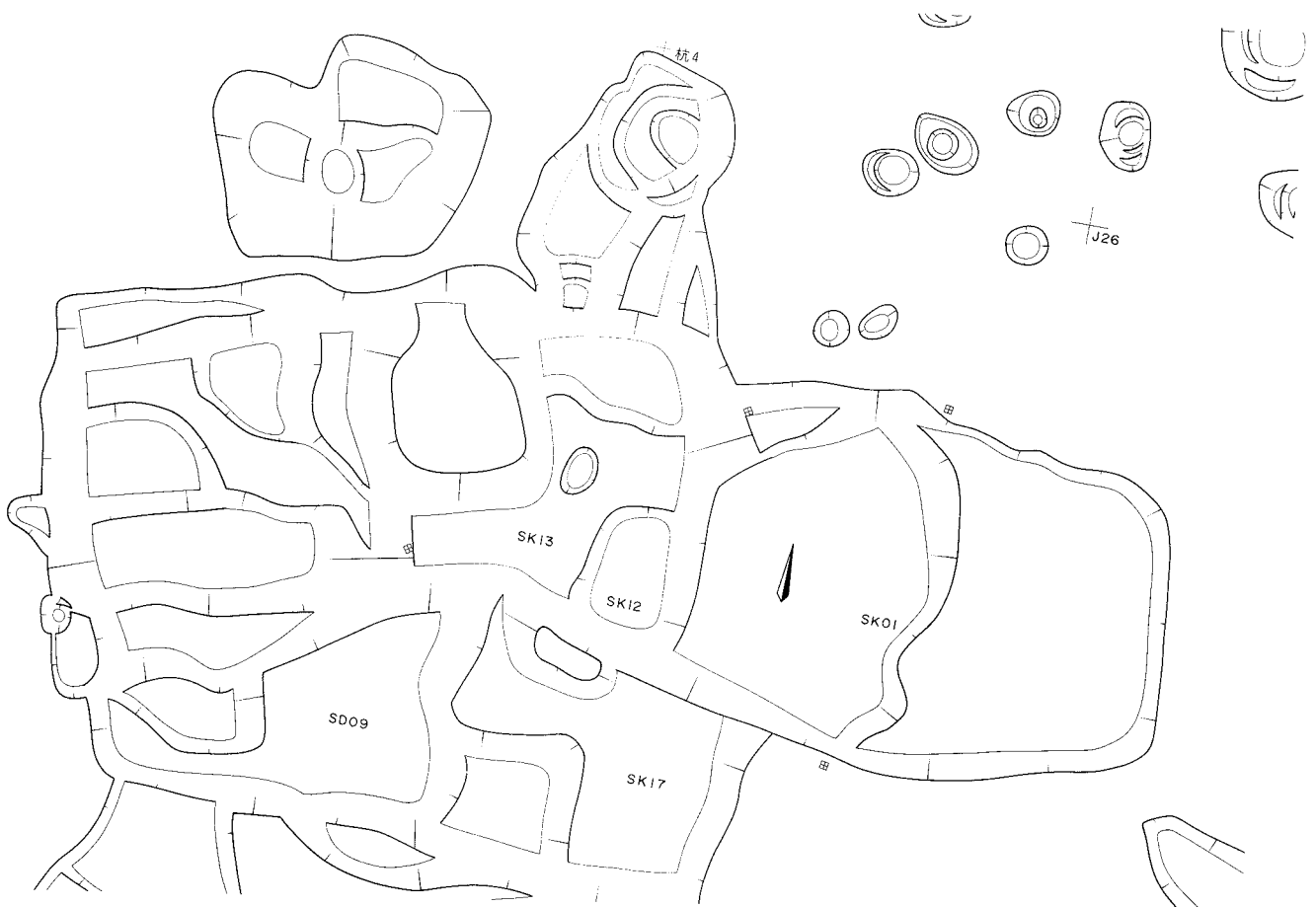
- M2区 SK04
- 1 黄白色粘質土 灰褐粘ブロック状に含
 - 2 暗灰色粘質土 青灰砂ブロック状に含
 - 3 青灰色粘質土 暗灰粘混



(M2区 SK06)

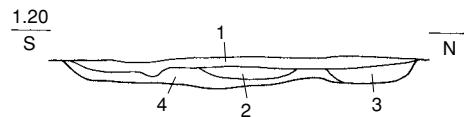


第144図 中世遺構図104



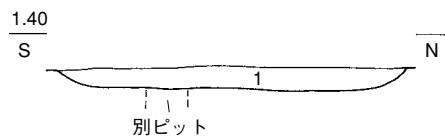
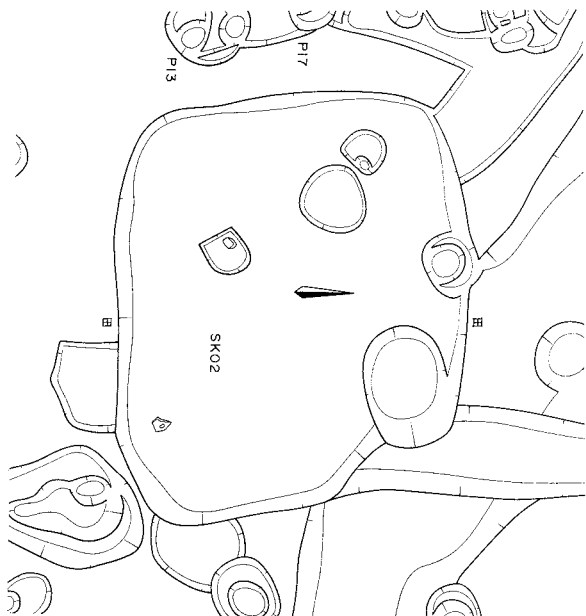
M3区 SK13

- 1 灰褐色土 黄褐色砂質シルト (ベース) ブロック、炭化物混
 - 2 灰褐色シルト
 - 3 灰褐色粘質土
 - 4 拳大の黄褐色砂質シルト (ベース) のブロックと炭化物混
 - 5 灰色シルト (砂混) 黄褐色砂質シルト (ベース) ブロック混
- 1から3はSK13



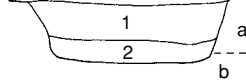
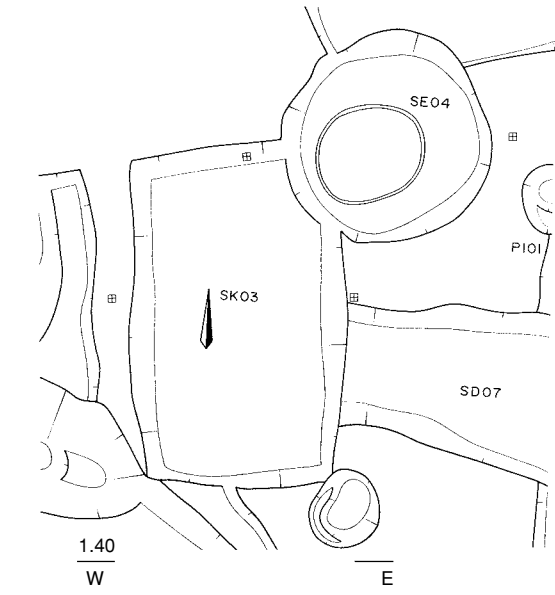
M3区 SK01

- 1 灰色土 黄褐色砂質シルト (地山) ブロック混じる
- 2 灰褐色シルト 黄褐色砂質シルト (地山) ブロック多く混じる
- 3 灰褐色砂質シルト
- 4 暗灰色粘質土 地山ブロック混じる

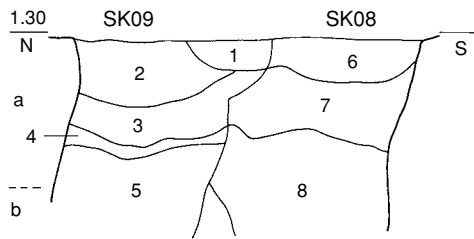
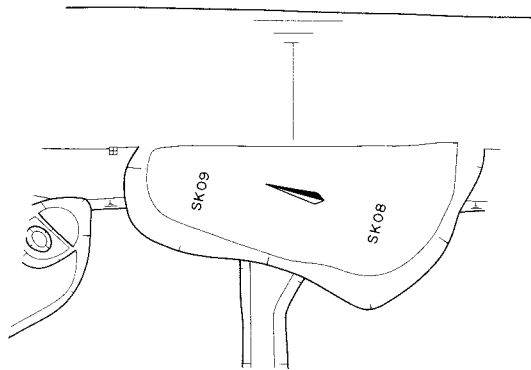


M3区 SK02
1 淡灰褐色土

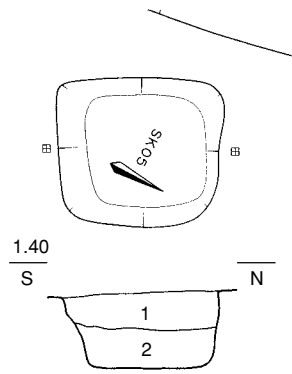
第145図 中世遺構図105



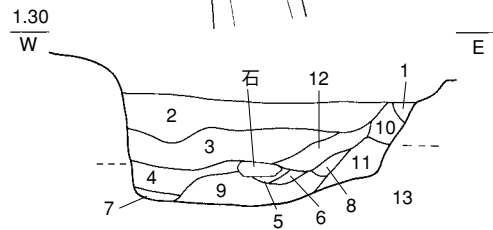
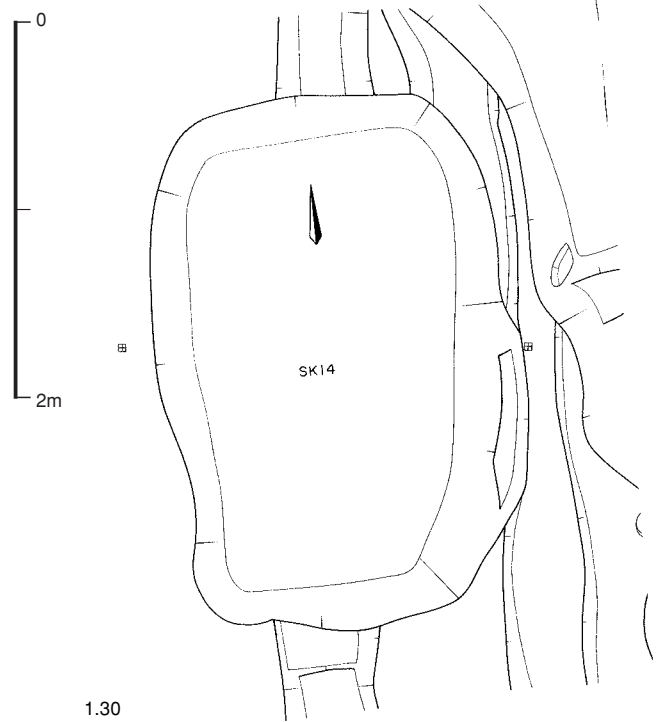
- M3区 SK03
 1 灰茶色土
 2 灰色粘質土 (黄褐色シルト土塊混)
 a シルト
 b 砂



- M3区 SK09 SK08
 1 灰褐色土と黄灰色シルトの混土 (攪乱)
 2 灰褐色土
 3 暗灰褐色土
 4 灰黒色粘質土と黄褐色シルト塊の混土
 5 灰黒色粘質土 (腐植、砂混)
 6 淡灰褐色土 (炭混、シルト混)
 7 黄灰色シルト (土塊の集積層 灰褐色土少混)
 8 暗灰色粘質土 砂、シルト少混
 SK09の掘削に伴って埋められたものか

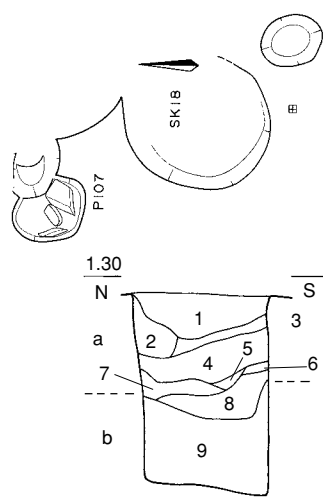


- M3区 SK05
 1 灰色粘質土 (ベースブロック含む 鉄分多混)
 2 暗灰色粘質土 (ベースブロック含む 鉄分沈着)
 ベース 淡黄褐色粘質土 (鉄分多)



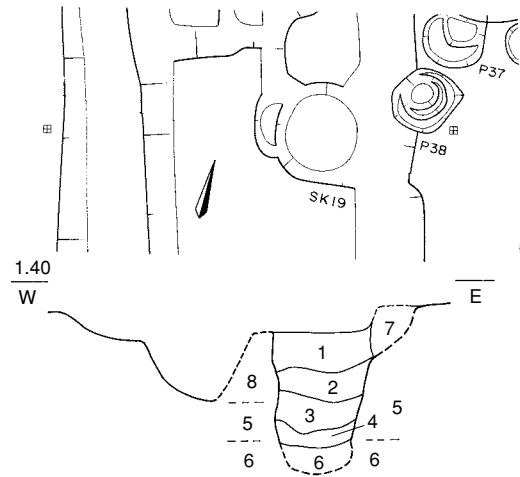
- M3区 SK14
 1 灰褐色土
 2 灰褐色粘質土 (鉄分沈着)
 3 灰色粘質土 (砂混 炭粒含む)
 4 灰色粘質土 (3層よりやや暗い 大きい炭塊を少量含む)
 5 暗黄灰色細砂
 6 黒灰色粘質土
 7 暗灰色粘質土 (黒灰色粘質土ブロック少量含む)
 8 黒灰色粘質土 (6層と同じ)
 9 暗灰色粘質土
 10 暗灰褐色土 (黄褐色地山ブロック混)
 11 灰色砂質土 (やや粘性帯びる)
 12 灰色粘質土 (4層と同じ)
 13 青灰色細砂～暗青灰色粗砂 (ベース)

第146図 中世遺構図106



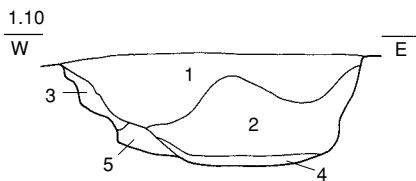
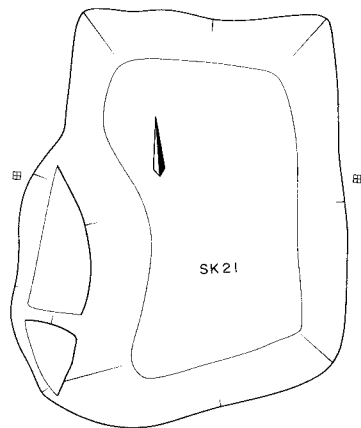
M3区 SK18

- 1 淡灰褐色土+ベース土ブロック (炭粒含む)
- 2 淡灰褐色砂質土 やや粘性あり
- 3 2層と地山ブロック 炭粒含む
- 4 淡灰褐色砂質土 (やや粘性あり) と粘質土
- 5 灰褐色砂質土
- 6 灰褐色弱粘質土 炭粒含む
- 7 淡灰色砂質土 鉄分沈着、8層土ブロック少混
- 8 灰色シルトと粘質土 炭粒、鉄分含む
- 9 淡灰色シルト (やや青みがかる) と粘質土
- a 黄白色砂質土 (やや粘性)
- b 青灰シルト



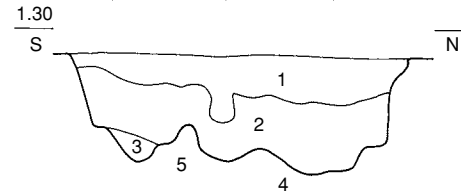
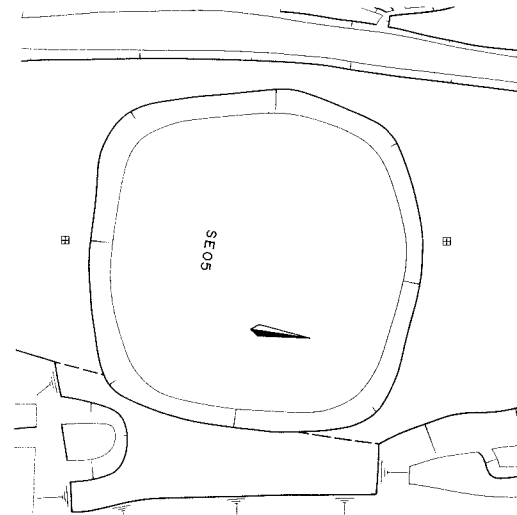
M3区 SK19

- 1 暗褐色土 (炭粒混)
- 2 暗灰褐色土 (炭粒混 やや粘性帯びる)
- 3 暗灰色粘質土 (炭粒混 砂粒少量含む)
- 4 青灰色粘質土 (3層の粘質土少量含む)
- 5 黄灰色シルト (ベース)
- 6 青灰色粘質土 (ベース)
- 7 黄灰色土 (SD26覆土)
- 8 灰褐色土 (SD26覆土)



M3区 SK21

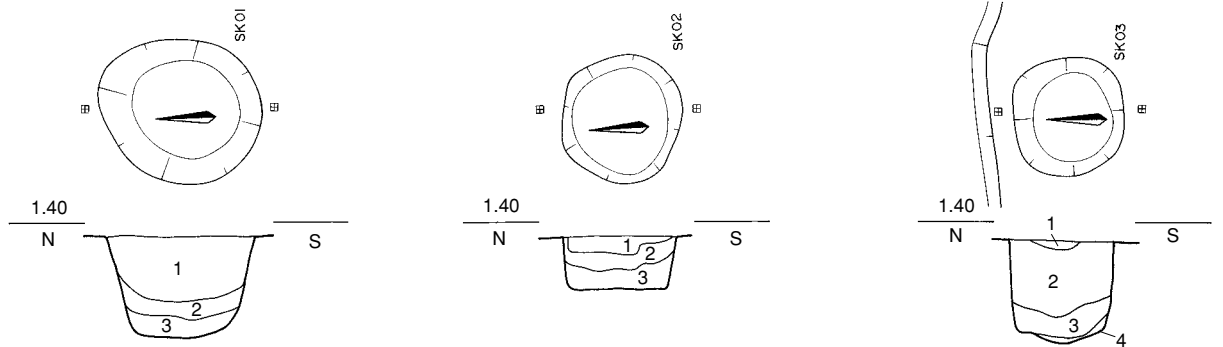
- 1 黒灰色土 (黄褐色地山ブロック少量混)
- 2 黒灰色土と黄褐色シルト地山ブロックの混土
- 3 黄褐色シルト (壁沿いと層下端に黒灰色土混)
- 4 暗灰褐色強粘質土 (上面に炭化物の薄層が土坑内ほぼ全面に広がる)
- 5 青灰色粗砂 (暗灰色粘質土が層下端に混入)



M3区 SE05

- 1 濁暗灰色土 (黒灰色土ブロック多量に混入)
- 2 濁青灰色粘質土 (黒灰色土ブロック多量に混入)
- 3 灰白色砂混粘質土
- 4 灰色強粘質土 (SE05ベース)
- 5 青灰色粗砂 ベース? 河川堆積





N1区 SK01

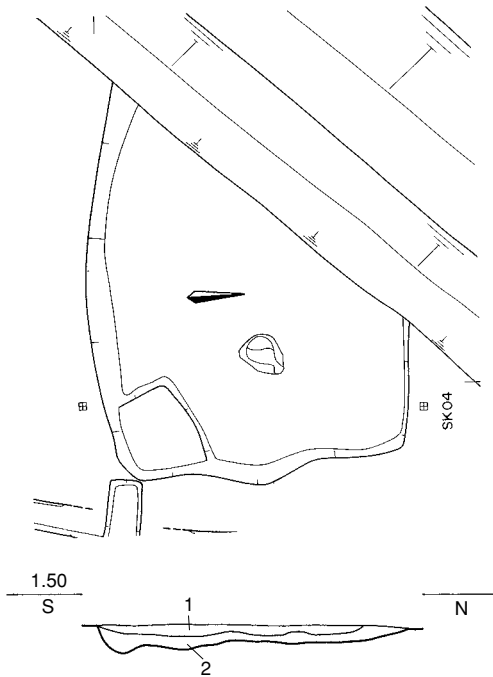
- 1 灰褐色粘質土 炭粒少量含
- 2 灰色粘質土 黄色砂粒含 炭層あり
- 3 灰色粘質土

N1区 SK02

- 1 灰褐色粘質土 炭粒微量含
- 2 灰色粘質土 炭粒微量含
- 3 暗灰色粘質土 炭粒微量含

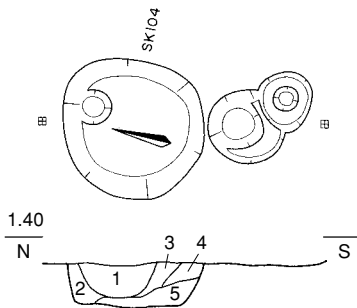
N1区 SK03

- 1 灰褐色粘質土 黄灰砂ブロック含
- 2 灰褐色粘質土 砂粒含
- 3 灰色粘質土 砂粒含
- 4 青灰色粘土 灰褐色粘土混



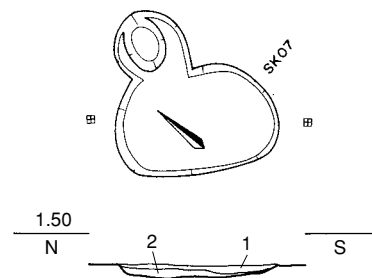
N1区 SK04

- 1 灰色粘質土 黄灰砂粘ブロック多く含
- 2 灰色粘質土 黄灰砂粘ブロック少量含



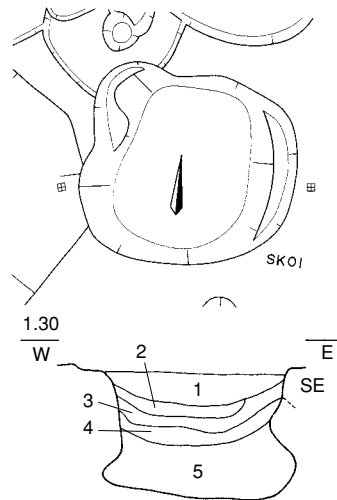
N2区 SK104

- 1 灰褐色土
- 2 黄褐色土 (鉄分沈着)
- 3 黄褐色土
- 4 黄灰色土
- 5 灰褐色粘質土



N1区 SK07

- 1 暗灰色粘質土 地山ブロック小含む
- 2 黒色炭化物 他の物を全く含まず炭のみが入る 炭粒は5mmほど

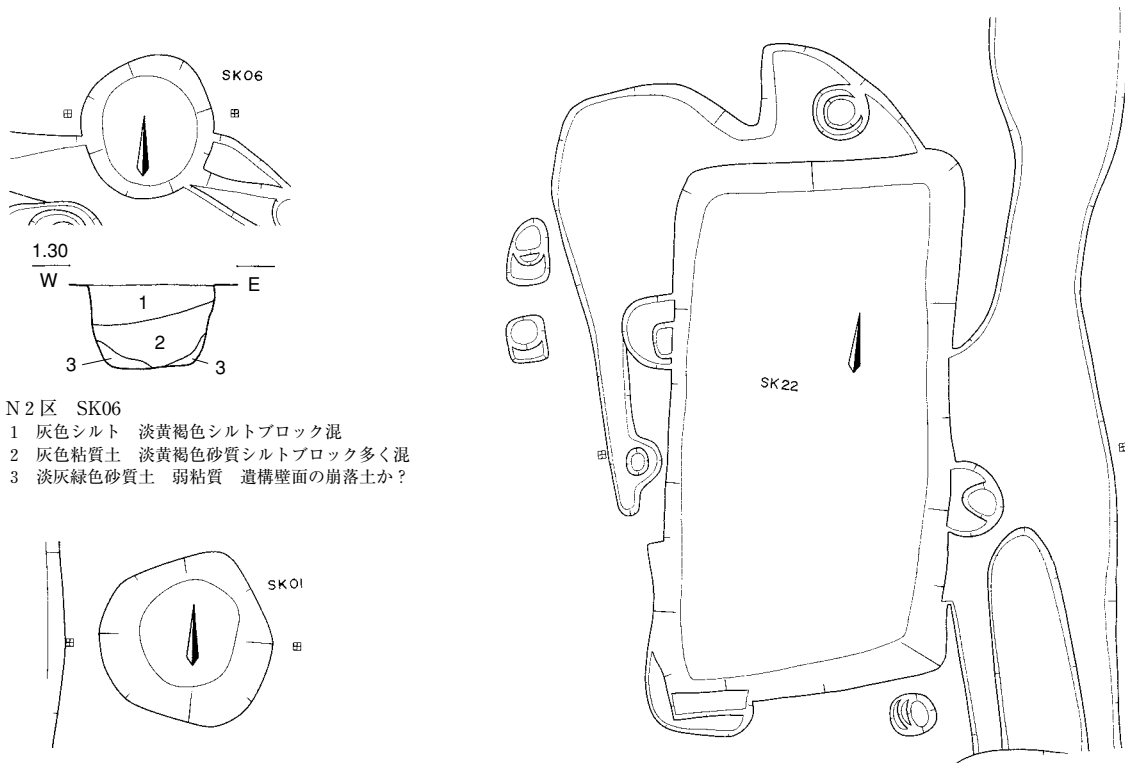


N2区 SK01

- 1 褐灰色土 淡黄褐色シルトブロックわずかに混 砂混
- 2 灰色粘質土
- 3 灰色粘質土 (2層よりやや暗 2層より粘性強) 炭化物わずかに混 白色シルトブロックわずかに混
- 4 暗灰色粘質土
- 5 褐灰色粘質土 炭化物混 植物遺体多く混 (特に層の下方)

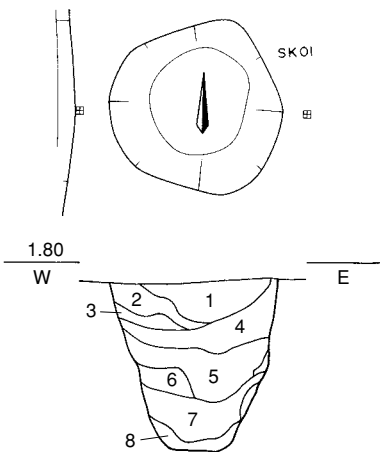


第148図 中世構図108



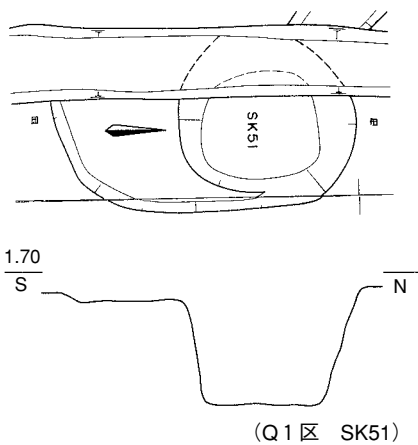
N2区 SK06

- 1 灰色シルト 淡黄褐色シルトブロック混
- 2 灰色粘質土 淡黄褐色砂質シルトブロック多く混
- 3 淡灰緑色砂質土 弱粘質 遺構壁面の崩落土か？



Q1区 SK01

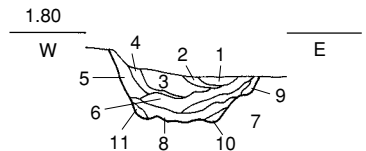
- 1 濁灰茶褐色粘質土 地山ブロック多く混入
- 2 灰茶褐色粘質土 炭化粒ごく少量混入
- 3 濁灰茶褐色粘質土 2cmほどの地山ブロック少量混入
- 4 灰茶褐色粘質土
- 5 3と同じ
- 6 灰褐色粘質土
- 7 暗褐灰色粘土
- 8 青灰色粘土



(Q1区 SK51)

N2区 SK22

- 1 灰色シルト 炭化物多く混
- 2 淡黄褐色シルト 灰色砂質シルトブロック多く混 炭化物混
- 3 黄褐色シルト
- 4 白色砂質シルト 灰色砂質シルト大ブロック多量に混
- 5 灰色シルト 灰色砂質土、層状に混じる 炭化物混
- 6 淡青灰色砂質土 やや粘性
- 7 淡青灰色砂質シルト

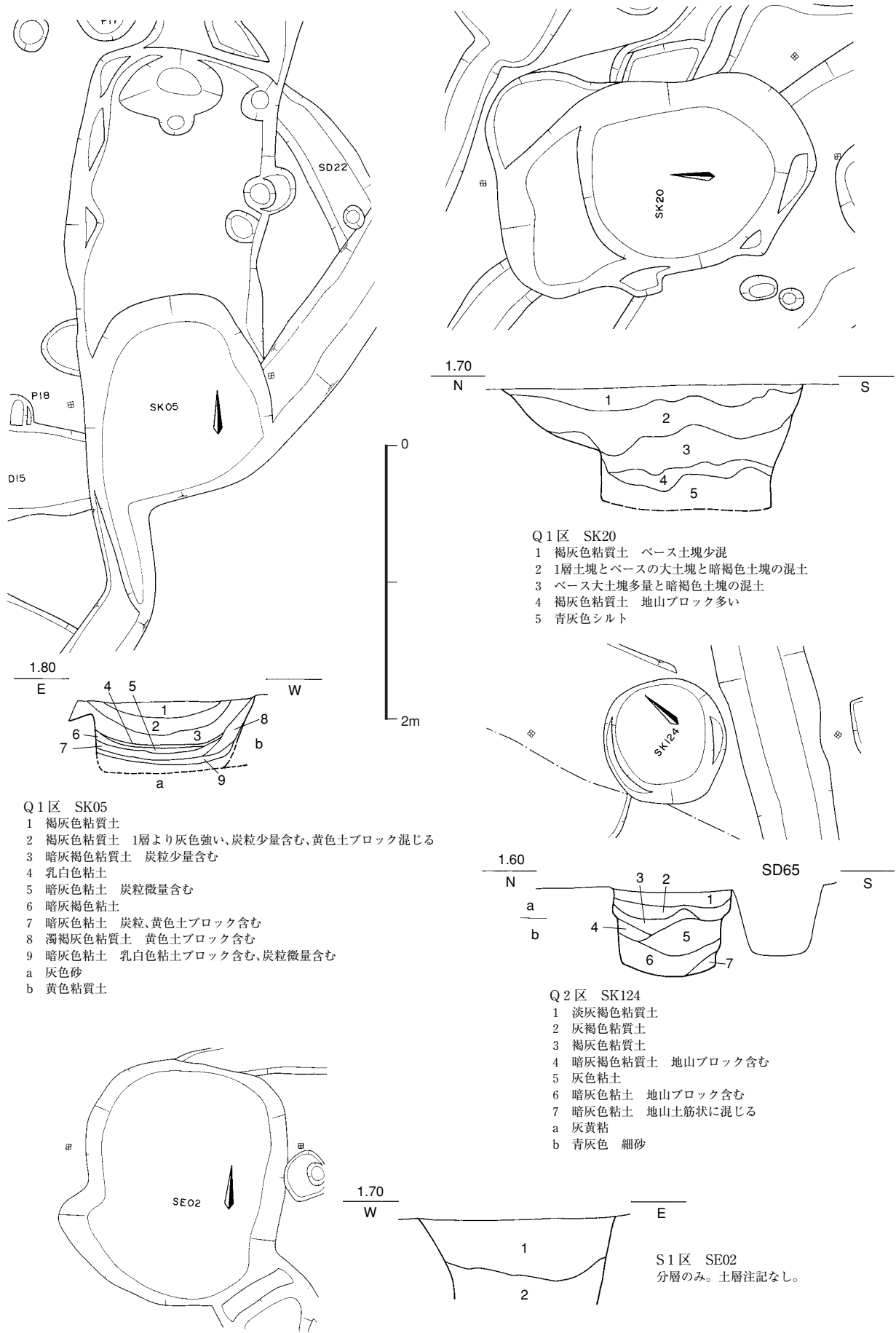


Q1区 SK02

- 1 3と同じ 3より炭化粒少
- 2 濁黄褐色粘質土 炭化粒混
- 3 濁灰褐色粘質土 炭化粒多く混じる、淡黄灰粘少量混入
- 4 濁淡黄灰色粘質土 炭化粒混入
- 5 濁灰褐色粘質土 炭化粒少量混入、黄褐粘1cm以下の小ブロックで混入
- 6 濁淡黄褐色粘質土 炭化粒混入、褐灰粘シミ状に混入
- 7 濁灰褐色粘質土 黄褐粘少量混入
- 8 濁黄褐色粘質土 灰褐粘ブロック状に混入、炭化粒混入
- 9 濁淡灰黄色粘質土 炭化物混入
- 10 濁褐灰色粘質土 黄灰粘少量混入
- 11 褐灰色粘質土

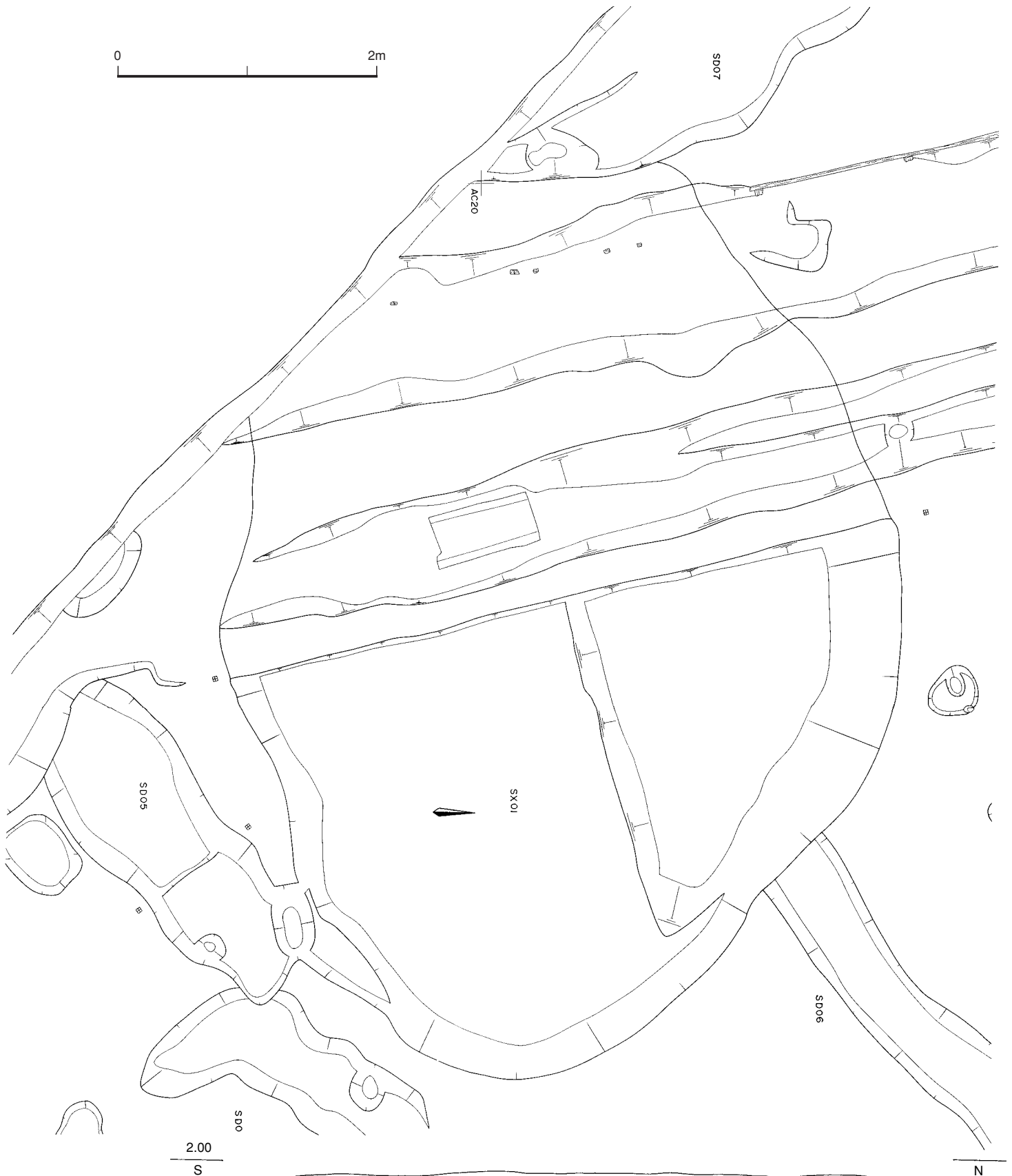


第149図 中世遺構図109

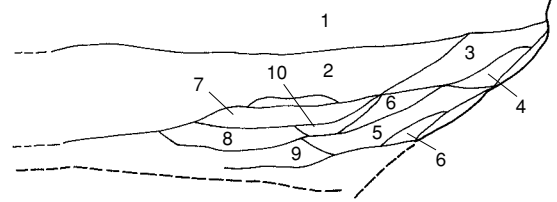


第150図 中世遺構図110

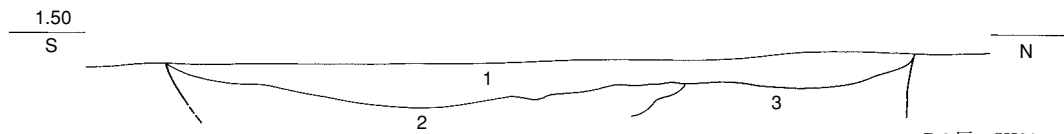
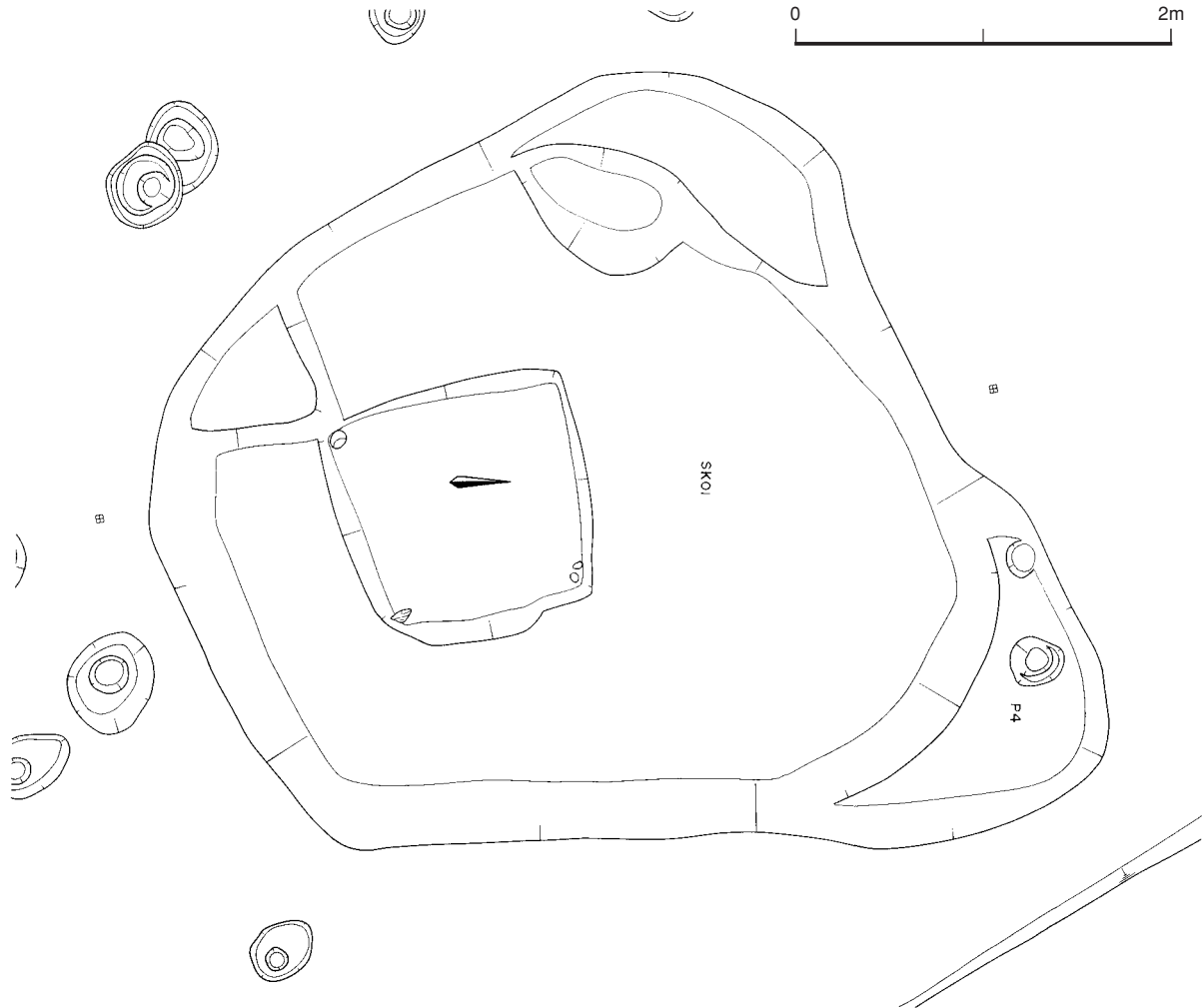
第5節 その他の遺構・遺物



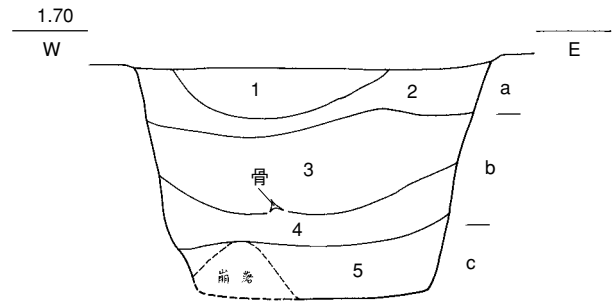
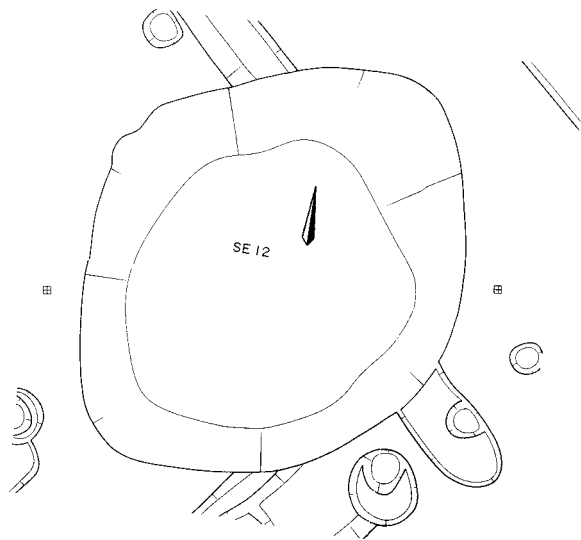
- R1区 SX01
- 1 淡茶褐色砂土
 - 2 淡青灰白色粘質土
 - 3 茶灰色砂質土
 - 4 黄灰色砂土
 - 5 灰褐色砂
 - 6 灰白色砂
 - 7 青海白色砂土
 - 8 青海白色粘質土
 - 9 灰色粘質土
 - 10 青灰色粘質土



第151図 中世遺構図111

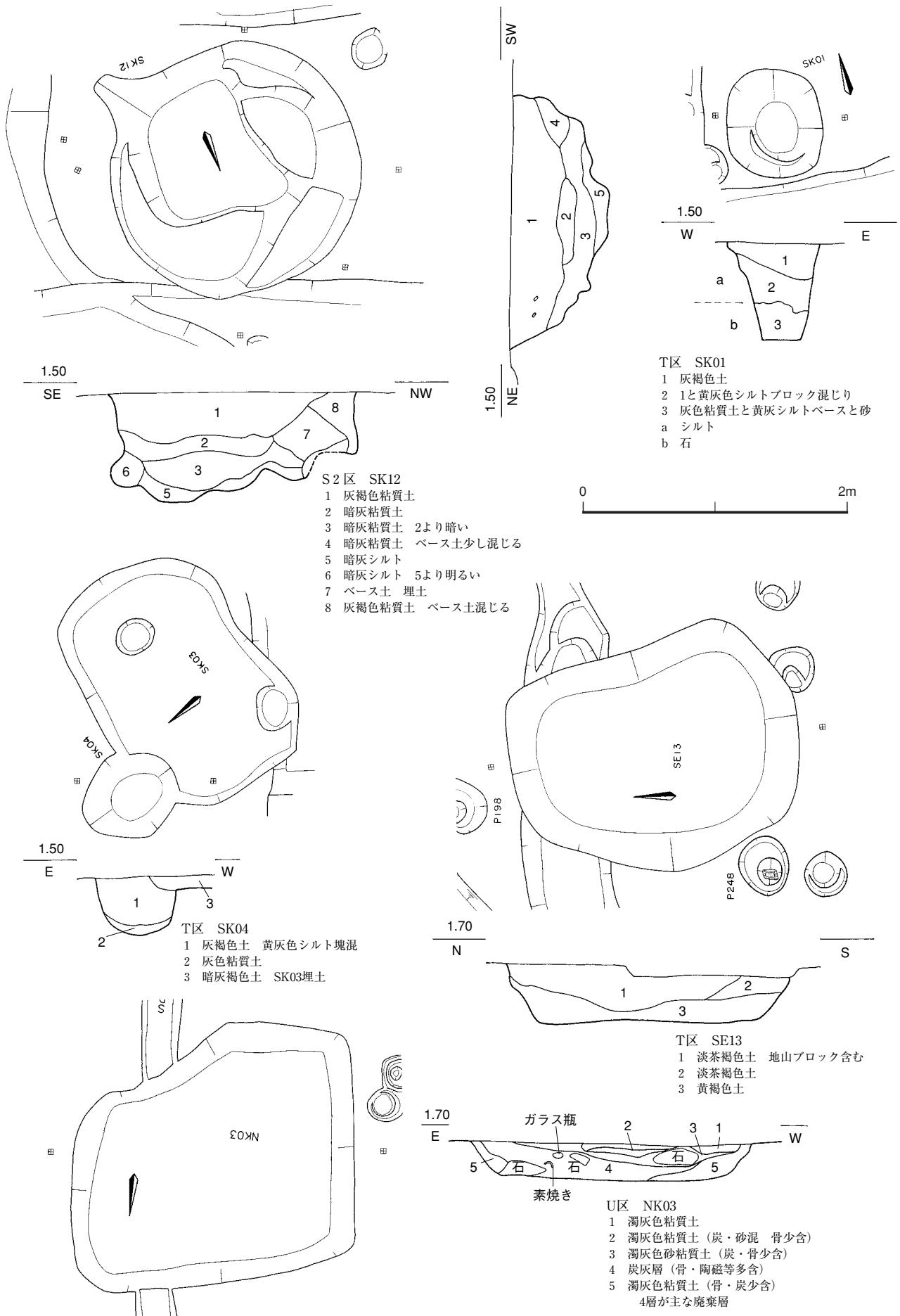


- R 2 区 SK01
 1 淡茶灰色土
 2 淡茶灰粘質土と灰色砂の混じり
 3 灰色砂 灰色粘質土混じり

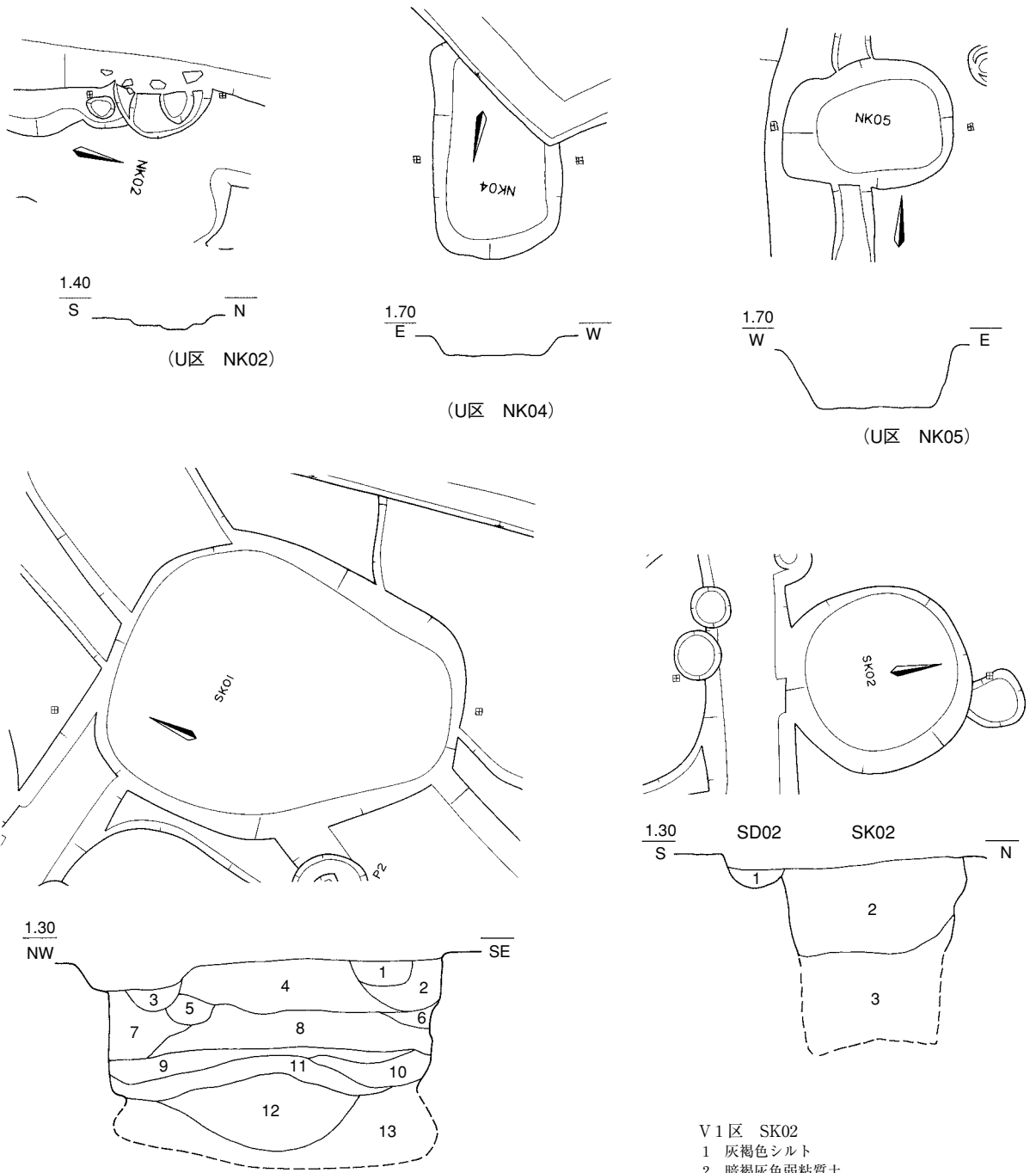


- Q 2 区 SE012
 1 暗灰褐色粘質土 すり鉢出土、鉄分多い
 2 暗灰褐色粘質土 地山ブロック含む、鉄分多い
 3 灰色粘土 地山ブロック含む
 4 暗灰色粘土 地山ブロック含む
 5 灰色細砂質土 シルトっぽい、3より褐色がかり淡い
 a 灰黄粘
 b 淡褐灰砂
 c オリーブ灰荒砂

第152図 中世遺構図112



第153図 中世遺構図113



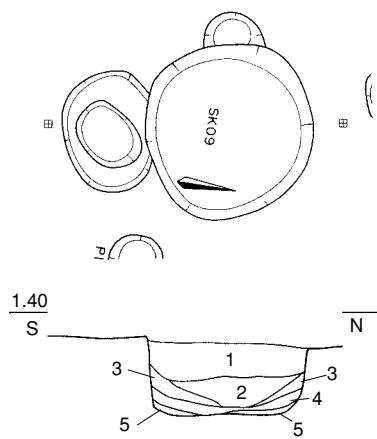
V1区 SK01

- 1 濁褐色土
- 2 濁黄灰色弱粘質土
- 3 濁褐色土 淡黄褐色砂質土
- 4 褐色土 炭化物 遺物小片混
- 5 濁黄灰色弱粘質土 (2層とよく似る)
- 6 濁黄灰色弱粘質土 (砂混)
- 7 淡黄褐色シルト (ベースに酷似)
- 8 褐色弱粘質土 炭化物、遺物小片わずかに含む
- 9 暗灰色シルト (わずかに砂混) 淡黄褐色シルトブロック部分的に入る
- 10 暗灰色シルト (9層よりやや暗)
- 11 灰緑色シルト 暗灰色シルトブロック多く混
- 12 暗灰色粘質土
- 13 灰緑色砂質シルト 灰色粘質土ブロック多く混

V1区 SK02

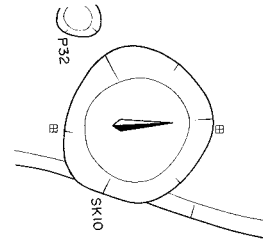
- 1 灰褐色シルト
- 2 暗褐色弱粘質土 淡黄褐色砂質シルトブロック (拳大) 多く混 炭化物やや多く混
- 3 黒灰色粘質土

第154図 中世遺構図114



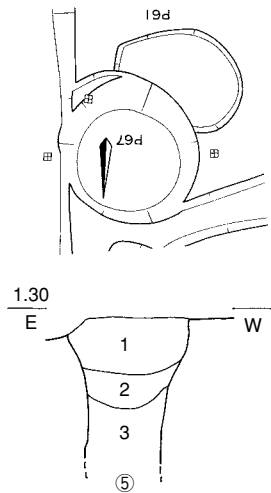
V1区 SK09

- 1 濁褐色土 淡黄褐色シルトブロック (3~20cm) 混
- 2 灰褐色土 淡黄褐色シルトブロック (5~25cm) 多く混
- 3 濁褐色シルト 淡黄褐色シルト小ブロックわずかに混
- 4 褐色砂質シルト
- 5 淡黄褐色シルト 灰褐色シルトブロック多く混



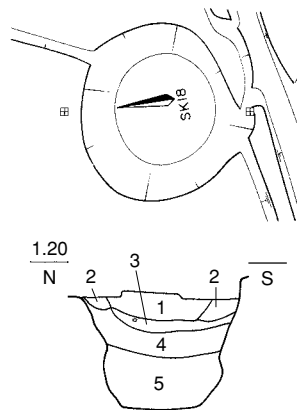
V1区 SK10

- 1 褐色土 炭化物、遺物小片混
- 2 暗灰褐色土 淡黄褐色シルト大ブロック多く混
炭化物わずかに混
- 3 暗灰褐色粘質土 (砂混)
- 4 暗灰褐色弱粘質土 (砂混) 炭化物混
淡黄褐色シルトブロック多く混
- 5 濁褐色粘質土 炭化物混 淡黄褐色シルトブロック混
- 6 明黄褐色シルト 暗灰色シルトブロック多く混
- a ベースの青灰色シルト
- ※ 不明部分 黄褐色土に暗褐色土が混じる
青灰色土に暗褐色土が混じる
青灰色砂に暗褐色土が混じる



V1区 P67

- 1 濁灰褐色土 炭化物わずかに含
淡黄褐色土 (ベース) 大ブロック混
- 2 灰褐色シルト
黄褐色砂質シルト (ベース) 大ブロック混
- 3 暗灰褐色粘質土 淡灰緑色粘質土 (ベース?) ブロック混
植物遺体多く含む

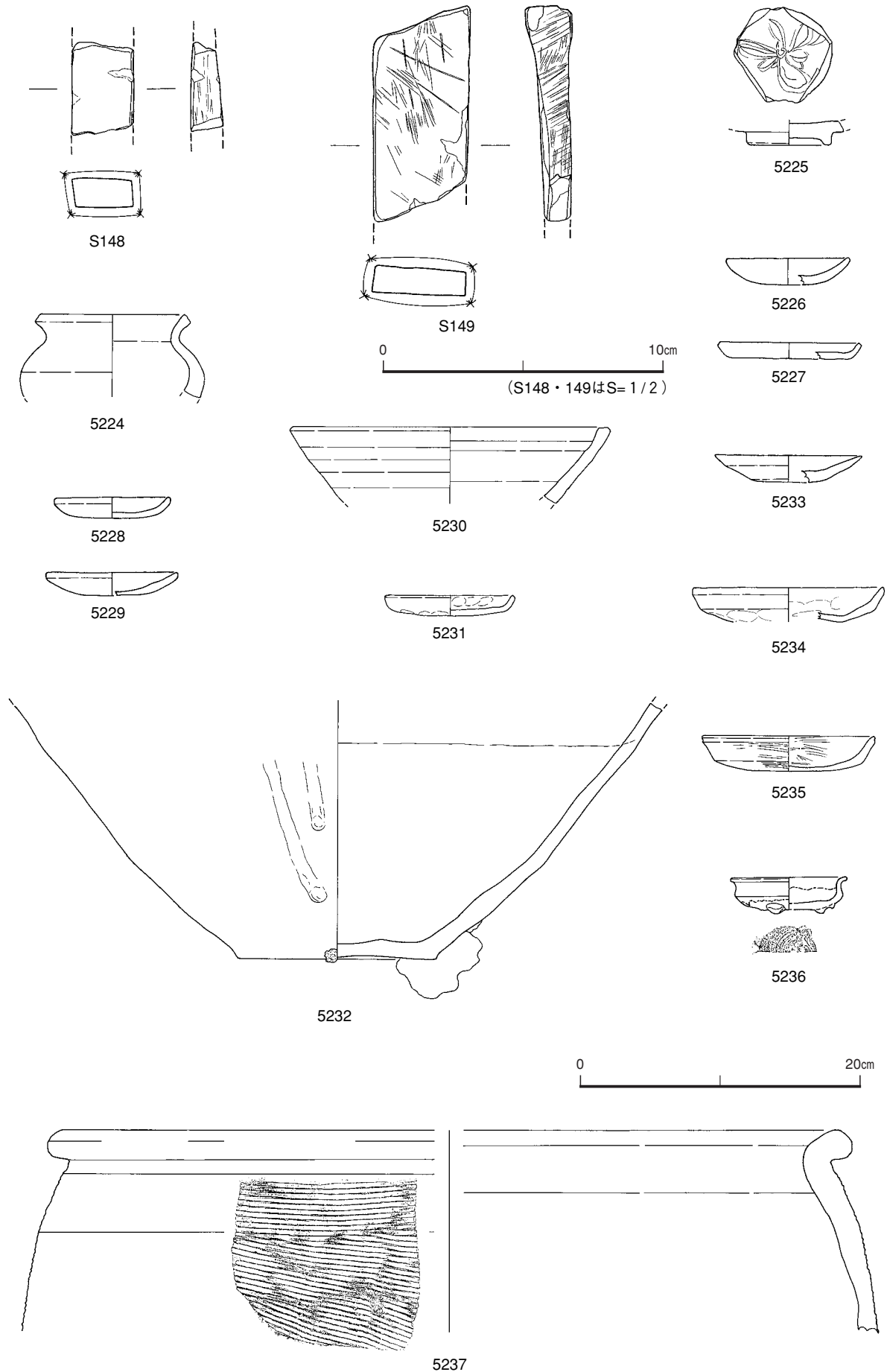


V2区 SK18

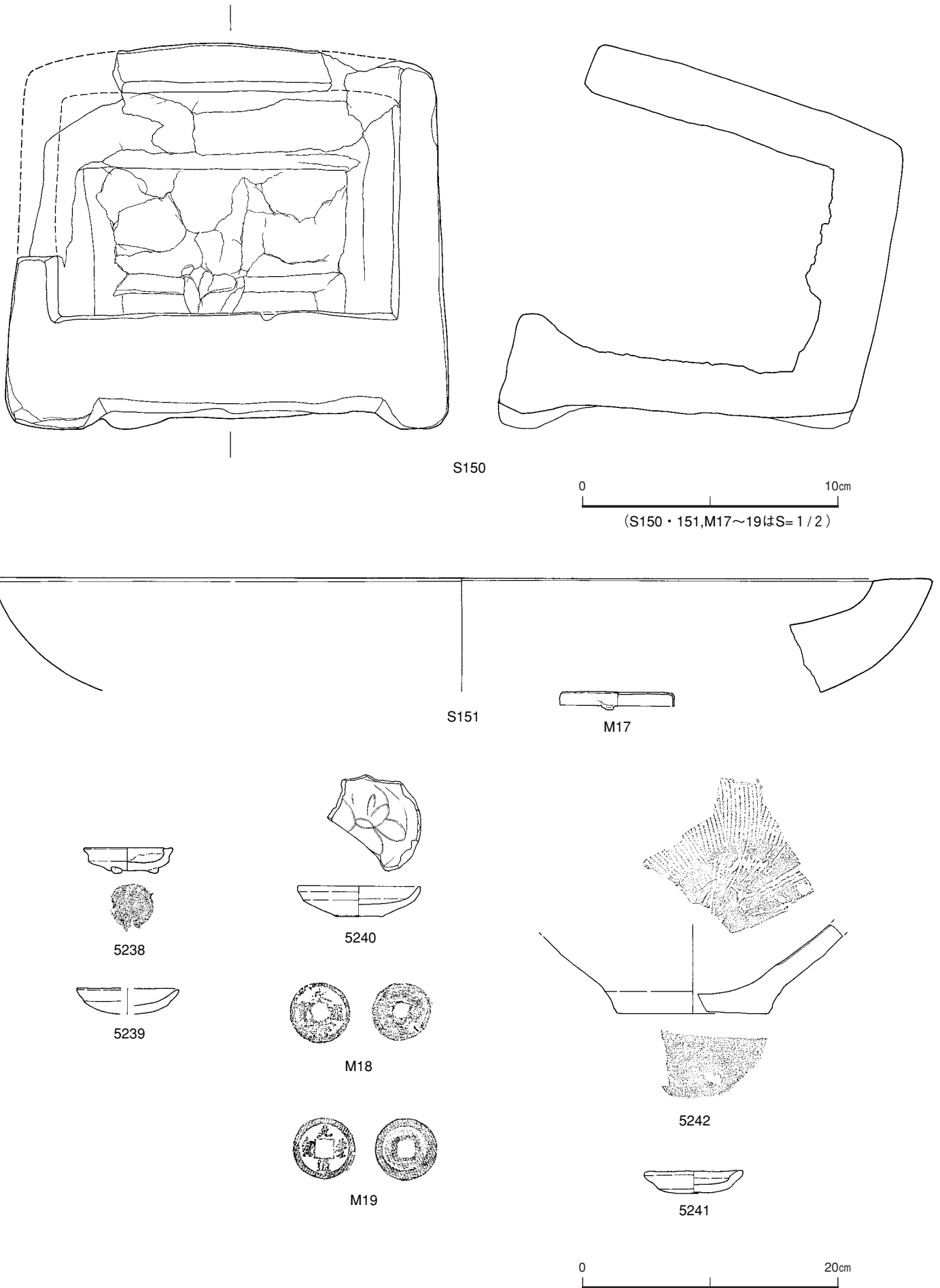
- 1 茶灰色粘質土 (炭粒含む)
- 2 黄灰色粘質土 (炭粒含む)
- 3 黄灰色砂質土 (炭粒含む)
- 4 青灰色粘質土 (炭粒含む)
- 5 青灰色シルト (炭粒含む)



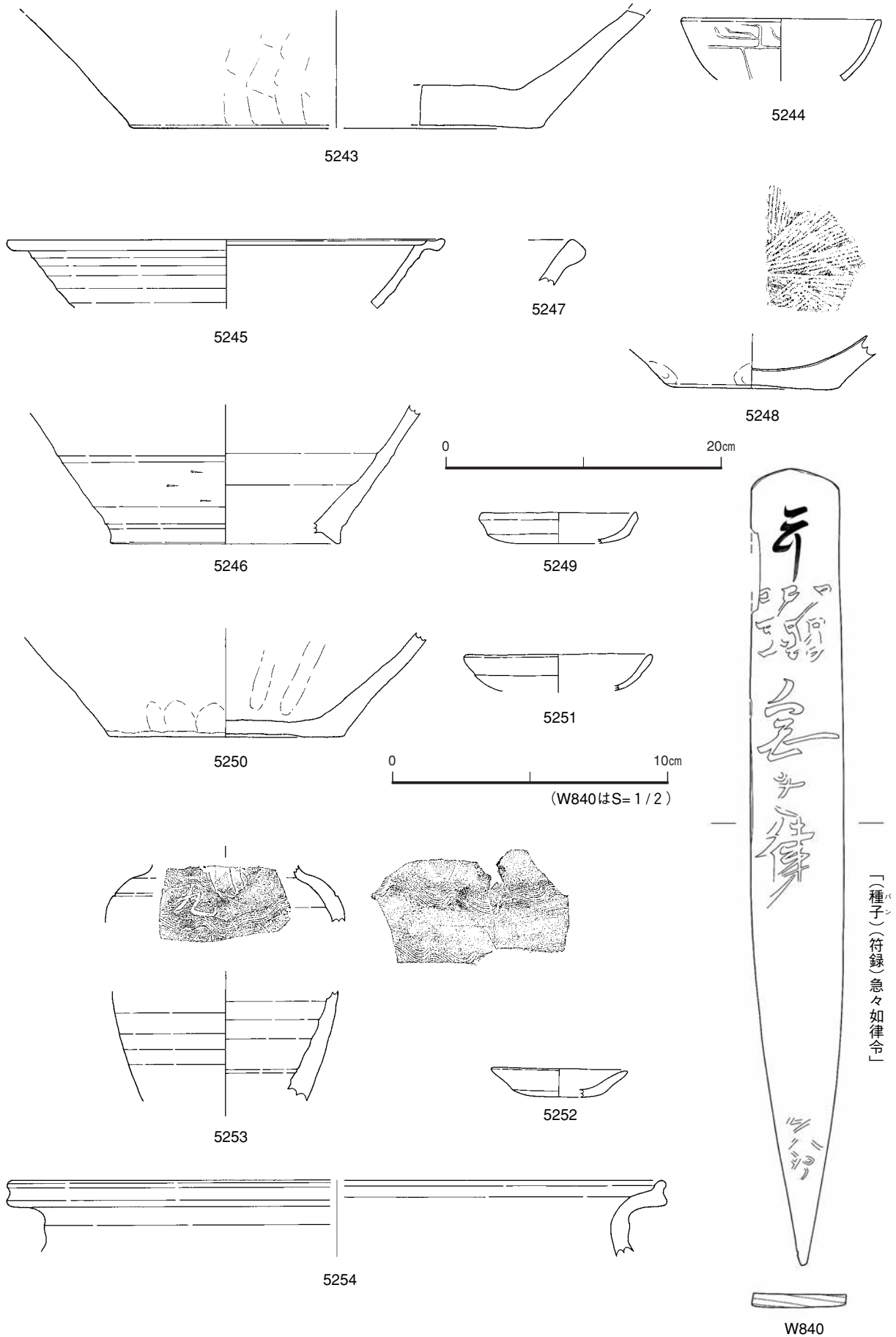
第155図 中世遺構図115



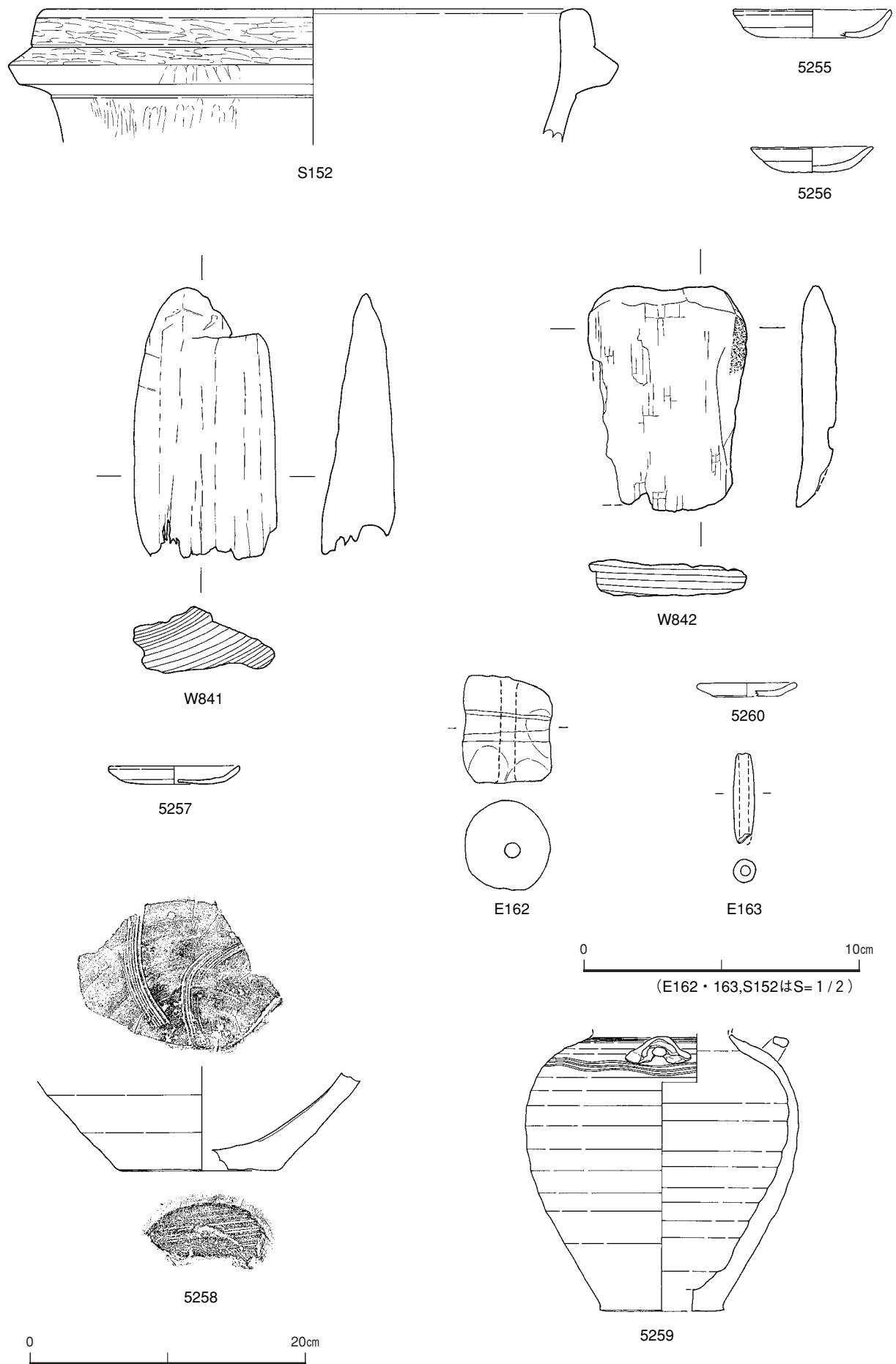
第156図 中世遺物図41



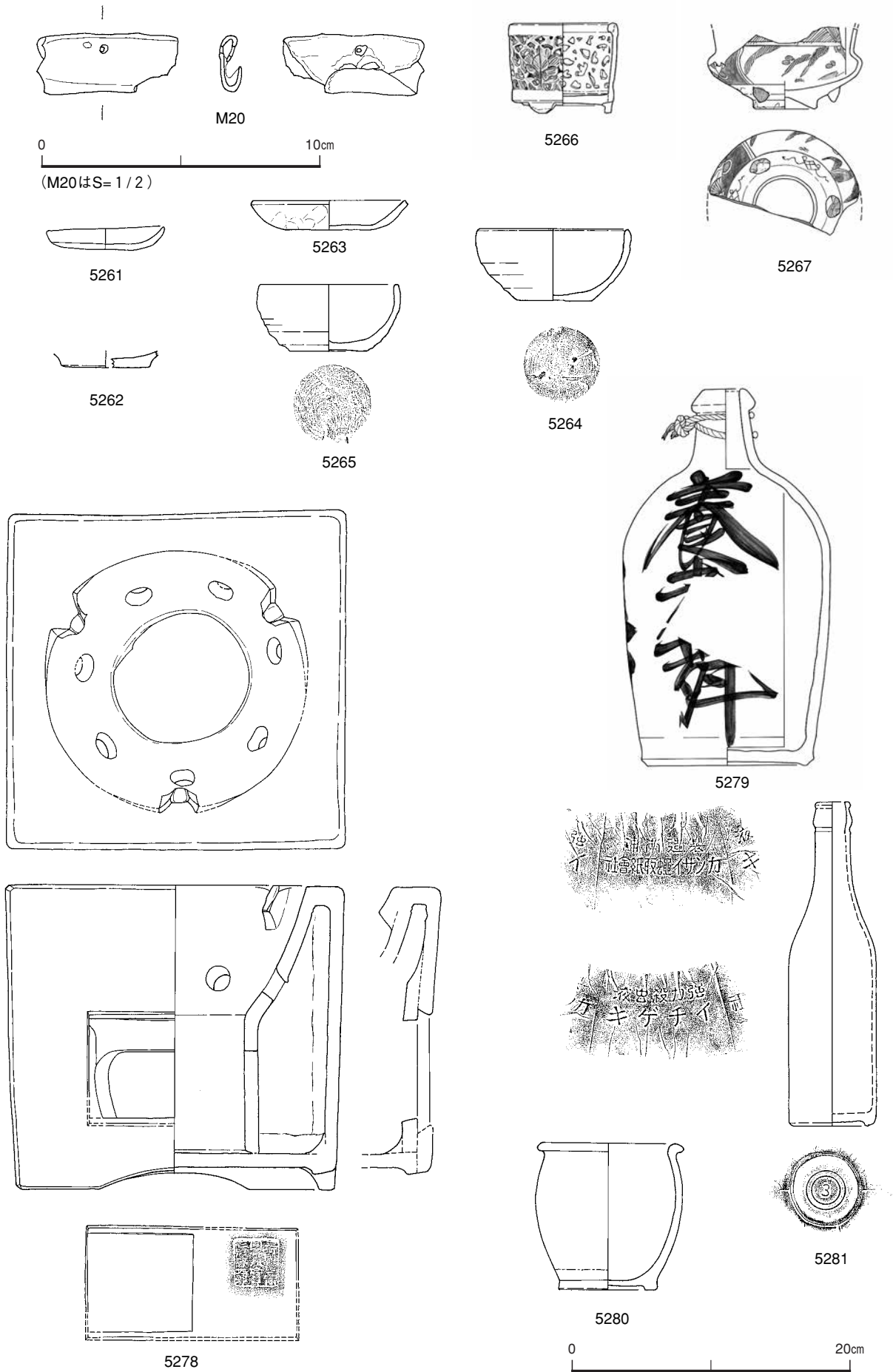
第157図 中世遺物図42



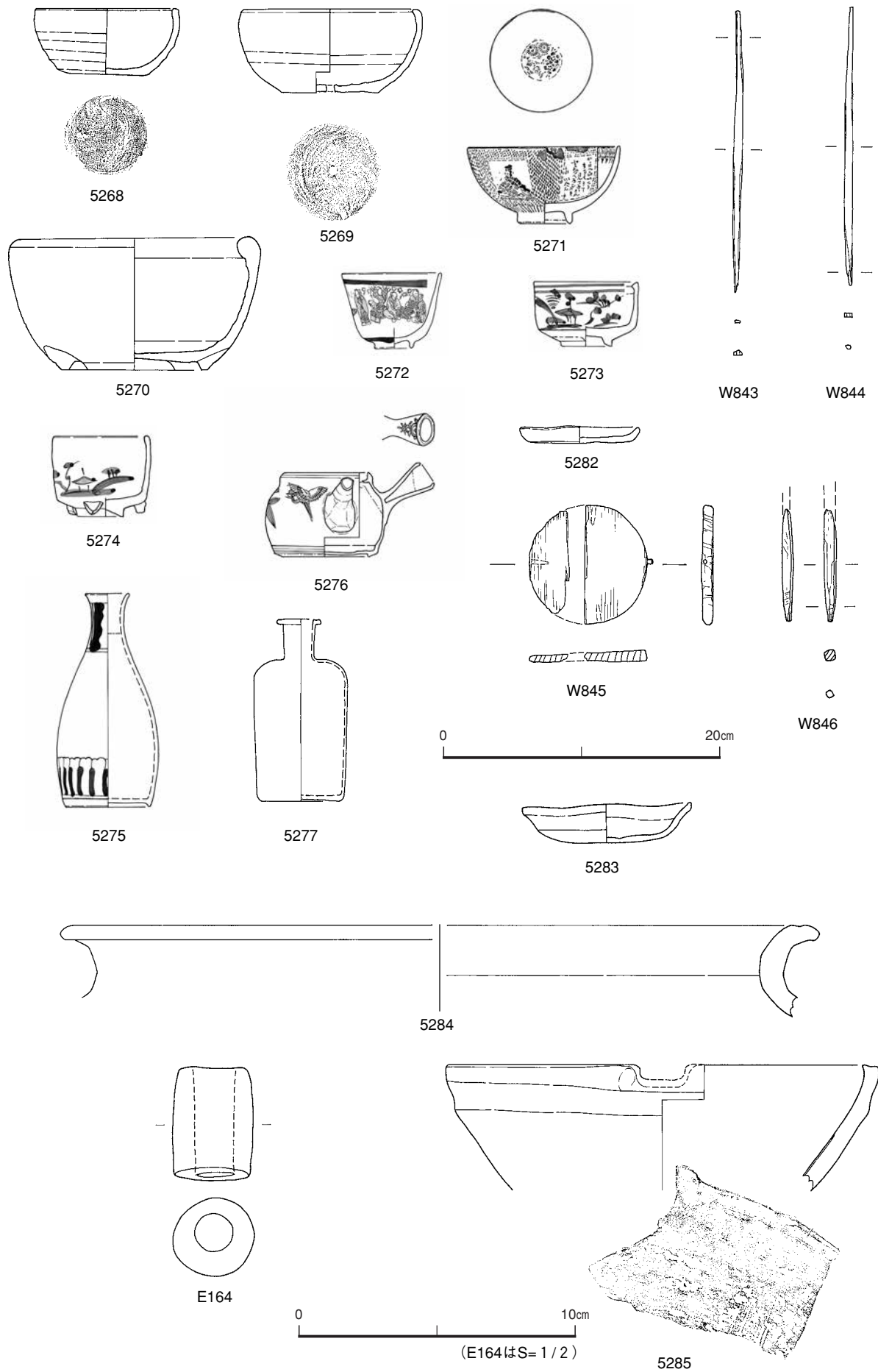
第158図 中世遺物図43



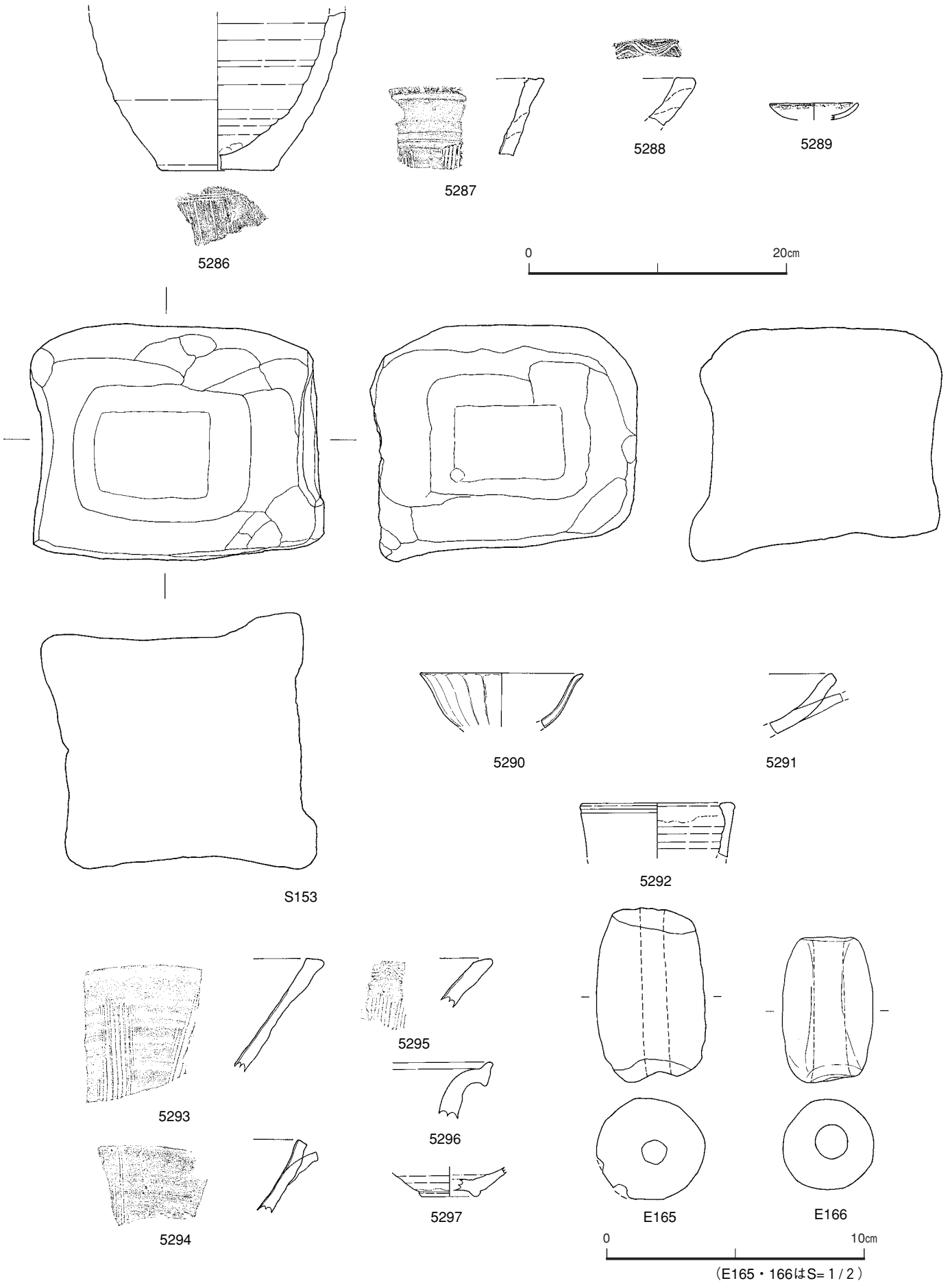
第159図 中世遺物図44



第160図 中世遺物図45

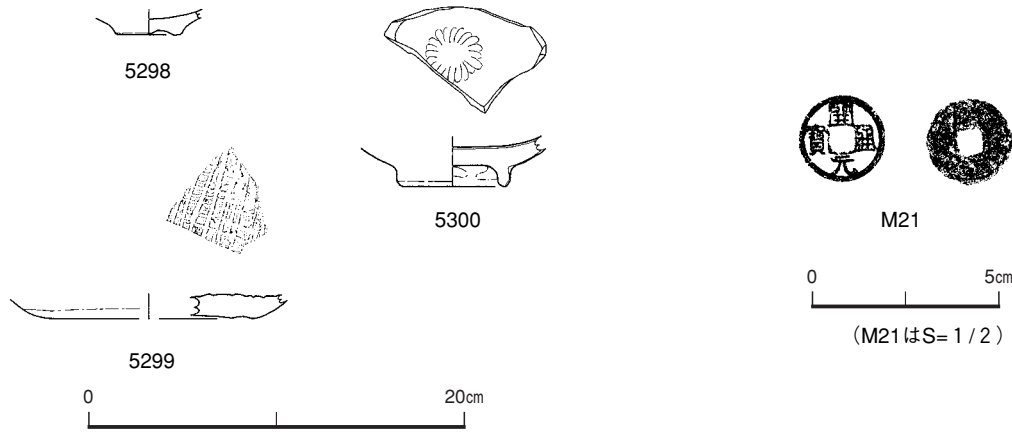


第161図 中世遺物図46



第162図 中世遺物図47

第5節 その他の遺構・遺物



第163図 中世遺物図48

第15表 土器一覽4

報告 番号	実測 番号	種別	器種	地区	遺構	グリ ッド	小 割	層 位	法 量 (mm)				調 整		色 調		胎 土	焼 成	備 考	遺 存 度
									口径	器高 (磨高)	底径	その他	内	外	内	外				
5224	03k2D57	珠洲	小壺	A3	SK58				102	(68.5)			ロクロナ デ	ロクロナ デ	灰白	灰褐	細砂粒多、粗砂 少	良	断面：淡赤橙、 鎌倉時代、遺 構は古墳前期	□1/12
5225	03k2D59	青磁	碗	C2	SK49	Z17			(17)	60					素地：灰白(露胎は 褐) 釉：オリブ 灰(透明感に欠ける)		微砂粒、気泡少 堅緻		底完形	
5226	03k2D63	土師器	土師皿	E	SK11				86	19	39		ナデ	ナデ	にぶい 橙	灰白～ にぶい 橙	細砂微量	良		
5227	03k2D64	土師器	土師皿	E	SK11				98	11	84		ナデ	ナデ 磨耗、 指押え	灰白～ にぶい 橙	灰白～ にぶい 橙	細砂微量	良		□2/12
5228	03k2D66	土師器	土師皿	E	SK13				80	14.5			ナデ	ナデ 磨耗	灰白	灰白	細砂微量	良		□1/12
5229	03k2D65	土師器	土師皿	E	SK13				92	16	39		ナデ	ナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	細砂微量	良		□3/12
5230	03k2D36	珠洲	片口鉢	E	SK17				223	(54)			ロクロナ デ	ロクロナ デ	灰	灰	細砂粒多、粗砂 少	良		□1/12
5231	02s2D152	土師器	土師皿	E	P27				90	15	80		ナデ、指 押え	ナデ、指 押え	褐灰	浅黄橙	海綿骨片と多くの 0.8mm程度の砂粒	良		□2/12
5232	03k2D1	加賀	甕	E	P32					(183)	140		ナデ	ナデ	オリブ 黄	暗褐	白 気泡有り	良	底部に 溶着物	
5233	03k2D67	土師器	土師皿	E	SX01				104	19			ナデ	ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細砂少	良		底6/12
5234	03k2D32	土師器	土師皿	F	SK02	I24			134	(24)			ヨコナデ、ナ デ、指押え	ヨコナデ、ナ デ、指押え	浅黄橙	浅黄橙	粗砂微、焼土塊 やや多	良	遺構自体 は非中世	□1/12
5235	02s2D150	土師器	土師皿	F	P38	I24			121	26	60		ミガキ	ミガキ	淡橙	淡橙	粗砂、焼土塊含むも 比較的きめ細かい	良	内外面ミガキ? 口縁揃み上げ	□3/12
5236	02s1D69	天目	香炉	M1	SK25				80	26	40		ロクロナ デ、施釉	回転糸切り、ロ クロナデ、施釉	素地(内：灰 外： 灰) 釉：黒褐		粗砂	良	三足貼付、足 部に凹みあり	
5237	02s1D113	珠洲	甕	M1	SK35				(548)	(143)			回転ナデ、 当て石	回転ナデ、 タタキ				良	珠洲Ⅳ～Ⅴ	
5238	02s1D70	瀬戸	香炉	M1	P24				67	20	34		ロクロナ デ、ナデ	ロクロナ デ、ナデ	灰	灰黄	粗砂	良	灰釉	小片
5239	02s1D71	土師器	土師皿	M1	P24				(79)	20			ナデ	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂	良		
5240	03k2D78	青磁	皿	M1	オチ コミ	M27			94	24	39				素地：灰白 釉：灰オリブ、 透明感に欠ける		細砂粒並、堅緻、 貫入あり			□2/12 底8/12
5241	02s1D88	土師器	土師皿	M2	SK03				72	(28)			ナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	粗砂、赤色粒多	良		
5242	03k2D83	加賀?	播鉢	M2	SK03				(69)	119				静止糸切 り	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細砂粒、粗砂を 少、海綿骨片少	良		
5243	03k2D84	加賀?	甕	M2	P04				(85)	(300)			ナデ	削り、ナ デ	灰黄褐	灰褐	白い礫、粗砂多	良		底4/12
5244	02s1D84	青磁	碗	M2	P04				142	45			ロクロナ デ、施釉	ロクロナ デ、施釉	オリブ 灰	オリブ 灰	粗砂	良	雷文帯	底2/12
5245	02s1D83	瀬戸	折縁鉢	M2	P63				310	(50)			ロクロナ デ、施釉	ロクロナ デ、施釉	灰白	灰白	粗砂少	良		
5246	03b1D41	越前	鉢	M3	SK01				(99)	(164)			ロクロナ デ	ロクロナ デ、 ロクロナ デ	にぶい 橙	にぶい 橙	粗砂並、礫少	良	断面三角形の 高台がつく、 SD05にも	底2/12
5247	03b1D25	珠洲	壺	M3	SK02				(32)				ロクロナ デ後ナデ	ロクロナ デ	灰	灰	礫極僅か、海綿 骨針	良		小片
5248	03b1D26	珠洲	片口鉢	M3	SK05				(39)	126			卸し目	ロクロナ デ	灰	紫灰	礫極僅か、砂粒や や多、海綿骨針	良	口縁	底3/12
5249	03b1D50	土師器	土師皿	M3	SK06				(111)	22	(74)		ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	浅黄橙	粗砂少、赤色粒 並	良	井戸SK22 の上部か	1/12
5250	03b1D4	加賀	甕	M3	SK08				(75)	(85)			ナデ	ナデ	灰白	灰	堅緻、8～2mm大 の礫少、粗砂多	良		小片 底6/12
5251	03b1D51	土師器	土師皿	M3	SK13				(132)	(26)	(90)		ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ	淡黄	淡黄	粗砂並、赤色粒 多	良	底部	1/12
5252	03b1D52	土師器	土師皿	M3	SK14				(96)	20	(44)		ヨコナデ	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	粗砂極少、赤色 粒少	良	ぼったり と厚作り	2/12
5253	03b1D8	珠洲	壺	M3	SK14				(104) (163)	(41) (80)			ロクロナ デ	ロクロナ デ	灰	灰	粗砂	良	線刻「九」と 波状紋、内面 に薬附着SD 05-06-15-12にも	3/12 4/12
5254	03b1D42	加賀	甕	M3	SK14				(470)	(55)			ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐	黄褐	粗砂並、礫並	良		小片
5255	03b1D53	土師器	土師皿	M3	SK18				(111)	20	(70)		摩耗	ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂並、赤色粒 多	良		1/12

報告 番号	実測 番号	種別	器種	地区	遺構	グリ ッド	小 割	層 位	法 量 (mm)				調 整		色 調		胎 土	焼 成	備 考	遺存度
									口径	器高 (残高)	底径	その他	内	外	内	外				
5256	03b1D49	土師器	土師皿	M3	P01				(86)	18	(59)		摩耗	ヨコナデ、 ナデ	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	粗砂並、赤色粒 多			3/12
5257	03b1D147	土師器	土師皿	N2	P109				(96)	(14)	(44)		ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ押え	浅黄橙	浅黄橙	細砂	良		4/12 口3/12
5258	03b1D150	加賀	播鉢	N2	P179				(65)	(109)			ロクロナ デ	橙	橙	粗砂、3～5mmの 礫微量	良	P103にも	底4/12	
5259	03m1D424	珠洲	壺	Q1	SK51		排水溝 アゼ		(200)	90		回転ナデ	回転ナデ、 波状文	灰	灰	細砂やや多、海綿骨 針あまり目立たない	良		底4/12	
5260	03b2D97	土師器	土師皿	R2	SK01			69	9.5	51		摩耗によ り不明	摩耗によ り不明	灰白	灰白	細砂少	良			
5261	03b2D95	土師器	土師皿	T	P252			83	17	57		摩耗によ り不明	摩耗によ り不明	浅黄橙	浅黄橙	粗砂少、赤色粒 多	良		ほぼ完形	
5262	03k1D10	土師器	皿	U	P74				12	64		摩耗によ り不明	ヨコナデ、 回転糸切り	黄灰	灰白	白っぽい光沢のある細 砂多、4mm程度の礫少	良		底3/12	
5263	E13	素焼	皿	U	NK02	AE 28		110		22		摩耗によ り不明	ナデ、指 頭圧痕	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	粗砂、細砂	良	煤付着	完形	
5264	E11	素焼	碗	U	NK02	AE 28		106	54	51.5	最大径111 高さ40	ロクロナ デ	ロクロナデ、 回転糸切り	灰白	灰白	細砂、粗砂多	良		口7/12、 底完形	
5265	E12	素焼	碗	U	NK02	AE 28		59	55	48	最大径103 高さ35	ロクロナ デ	ロクロナデ、 回転糸切り	灰白、 浅黄橙	浅黄橙	細砂、粗砂多			口5/12、 底完形	
5266	03m2B22	磁器	筒香炉	U	NK02	AE 28		76	64	71				絵付：透かし		緻密		近代	口6/12 底7/12	
5267	03m2B23	磁器	香炉	U	NK02	AE 28			(57)	46				釉薬：透明 絵付：色絵		緻密、貫入が 入る	良	近代	底6/12	
5268	E9	素焼	碗	U	NK03			99	54	49	最大径105 高さ38	ロクロナ デ	ロクロナ デ	浅黄橙	浅黄橙	粗砂、赤色粒	良		口11/12、 底完形	
5269	E10	素焼	碗	U	NK03			125	70	60	最大径133 高さ48	ロクロナ デ	ロクロナデ、 回転糸切り	浅黄	浅黄	粗砂、細砂、 シャーモット	良	底部中央に 穿孔あり	完形	
5270	E16	素焼	鉢?	U	NK03			170	105	96	最大径 181.5 高さ85	ロクロナ デ	ロクロナ デ、ケズリ	浅黄橙	淡黄	細砂、粗砂多		内底面に 炭化物、 外に煤付着	完形	
5271	03m2B12	磁器	碗	U	NK03			108	56	36				釉薬：透明 絵 付：染付(型紙か)		精良		近代	口9/12 底完形	
5272	03m2B30	磁器	杯	U	NK03			70	75	25.5				釉薬：透明 絵付：色絵		密		近代	完形	
5273	03m2B27	磁器	筒香炉	U	NK03			75	46.5	35				釉薬：透明 絵付：染付		密		近代	完形	
5274	03m2B28	磁器	筒香炉	U	NK03			67	58	32.8				絵付：染付		密		近代	完形	
5275	03m2B25	磁器	徳利	U	NK03	AE 27		30.5	154	60				釉薬：透明 絵付：染付		密		近代	完形	
5276	03m2B26	磁器	急須	U	NK03			60	60.5	62				釉薬：透明 絵付：染付		緻密		近代	口12/12 底12/12	
5277	03m2B29	ガラス	瓶	U	NK03			21	131	56.5								近代	完形	
5278	03m2B21	陶質素焼	七厘	U	NK05	AE 28					縦244 横243 高さ218	ナデ、ロク ロナデ、ケ ズリ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	粗砂、白雲母	良	近代	9/12～ 10/12	
5279	03m2B24	陶器	徳利	U	NK05	AE 28		27	270	115				釉薬：透明		2mm程の礫、粗砂		近代	口完形 底4/12	
5280	03m2c70	陶器	壺	U	NK05			93	106	67.5			回転ケズ リ	素地：にぶい 黄橙 釉：赤褐		密		近代	完形	
5281	03m2C69	ガラス	瓶	U	NK05	AE 28		23	232	53				緑がかつ た透明	緑がかつ た透明	ガラス		近代	完形	
5282	03b1D71	土師器	土師皿	V1	P67			85	13	73		ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ	灰白	灰白、 にぶい 黄橙	砂粒細かく柔か い、シャーモット	良	ゆがみあり	5/12	
5283	03b1D175	土師器	土師皿	V2	P175			119	28			ヨコナデ、 ナデ	ヨコナデ、 ナデ押え	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細砂多、焼土塊 少	並	大きく ゆがむ	11/12	
5284	03b1D176	珠洲	甕	V2	P199			523	(66)			ロクロナ デ	ロクロナ デ	灰	灰	粗砂少、細砂多、 海綿骨針並	良		1/12	
5285	02s2D64	珠洲	片口鉢	A3			トレ ンチ	309	(90)			卸し目、 回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白	粗砂	良			
5286	03k2D40	珠洲	壺	B1			ミゾ	(122)	87			ヨコナデ、底 部に指頭圧痕	ヨコナデ、 底面に圧痕	灰	黄灰～ 黒褐	礫少、粗細砂各 中量	良	底部	底3/12	
5287	03k2D41	珠洲	片口鉢	B1			ミゾ	(59)				ヨコナデ、 卸し目	ヨコナデ	灰	灰	礫少、粗砂少、細 砂中量、海綿骨針	良			
5288	03k2D42	珠洲	片口鉢	B2			柱5 区	(36)				ヨコナデ	ヨコナデ	灰	灰	礫少、粗砂少、細 砂中量、海綿骨針	良	口縁に波状 紋、接合痕有		
5289	03k2D44	土師器	土師皿	B2			遺構 柱3 区	68	(12.5)			ナデ	ナデ	灰白	灰白	細砂粒を少	良	灯明皿、油痕	口3/12	
5290	03k2D38	青磁	碗	E			X07 イコ ケン	126	42					素地：白に近い灰白 釉：明るいオリーフ		気泡少		蓮弁文	口1/12	
5291	03k2D28	珠洲	片口鉢	F	ミゾ	MN	ミゾ	46				ロクロナ デ	ロクロナ デ	灰	灰	細砂粒、粗砂多	良		口1/12	
5292	03k2D79	瀬戸	香炉	M1			M 27	検出画 119	(42)			ロクロナ デ、卸し目	ロクロナ デ	灰オリーフ、透明 感あり、貫入あり		素地：灰白、微 砂粒少、緻密		釉：灰釉	口2/12	
5293	03b1D36	珠洲	片口鉢	M3			J 25	検出画 (約87)				ロクロナ デ、卸し目	ロクロナ デ	明赤灰 灰	オリーフ 灰	粗砂、海綿骨針	良		小片	
5294	03b1D37	珠洲	片口鉢	M3				検出画 (約57)				ロクロナ デ、卸し目	ロクロナ デ	灰	灰	礫、粗砂、海綿 骨針僅か	良		小片	
5295	03b1D38	珠洲	片口鉢	M3			SD 05南	検出画 (約46)				ヨコナデ	ヨコナデ	灰	灰	粗砂	良	口縁に波状 紋	小片	
5296	03b1D43	越前	壺	M3			西・ 中部	検出画 (43)						にぶい 黄褐	灰褐	粗砂並	良		小片	
5297	03b1D90	有田 磁器	皿	M3			北西 部	遺構 検出 (23)	(44)									近世、内底面 の釉を輪状に 削り取る、露 胎部分灰白色	底5/12	
5298	03b1D299	李朝陶器	皿	W				排土 表採 (14)	35							粗砂		釉：灰釉	底3/12	
5299	03b1D292	瀬戸	卸し皿	W				排土 (約13)	約88							細砂僅か		釉：灰釉	底3/12	
5300	03b1D291	青磁	碗	W				排土 (27)	55					素地：灰 釉： オリーフがかつ た透明、厚め		堅緻、気泡少、 貫入全体に入る			底6/12	

第5節 その他の遺構・遺物

第16表 土製品一覧4

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量 (mm.g)				調整		色調		胎土	焼成	備考	遺存度
									最大長	最大幅	最大厚	重量	内	外	内	外				
E162	03b1D138	土師質	土鍾	N2	P199				39	32	34	45.91								
E163	03b2土47	土師質	土鍾	R2	SK01				32	8	9	1.47								
E164	03b2土38	土師質	土鍾	T南		Y26	N	包含層検出面	41	29	28	24.79								
E165	03b1D266	土師質	土鍾	W	川	M18-4	3左岸	茶褐土	67	42	39	91.32								
E166	03b1D293	土師質	土鍾	W		K~N16	表土除去	河道土	57	35	35	54.99								摩耗著しい

第17表 石製品一覧3

報告番号	実測番号	種別	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量 (mm.g)				調整		色調		備考	遺存度	
									最大長	最大幅	最大厚	その他	重量	内	外	内			外
S148	02s2石24	凝灰岩(砂岩質)	砥石	A1	SK07				(33)	(22)	(12)		(12)					遺構は古代か	
S149	02s2石13	凝灰岩(泥岩質)	砥石	A3	P120				(77)	(35)	(17)		(51)						
S150	02s1石8	安山岩	行火	M1	SK21・SE17	M27						高さ150 幅173 奥行157	1489.7						
S151	02s1石16	凝灰岩	茶臼	M1	SK23				354	44			222.3						
S152	03b1D40	滑石	石鍋	M3	SK17							口径(196) 残存高(48)		ミガキ	ノミ痕	黒~銀灰	黒	他にSD09にも	小片 I13/12
S153	02s2石特1	凝灰岩(砂岩質)	宝篋印塔	E		O28	側溝		182	228	206		11950						

第18表 金属製品一覧3

報告番号	実測番号	器種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量 (mm.g)				重量	備考	
								最大長	最大幅	最大厚	その他		備考	備考
M17	03b2金66	合子蓋か	M1	SK23						天井部1~15 縁部1	器高5.5	11.74	銅製	
M18	02s1金6-1	銅銭	M1	落ち込み	M27								永楽通寶(明銭、初鑄1408年)	
M19	02s1金6-2	銅銭	M1	落ち込み	M27	上面							元豊通寶(北宋銭、初鑄1078年)	
M20	03b2金27	?	T	P142				50.5	22	8		6.67	鉄製	
M21	02p109	銅銭	?	?									開元通寶(唐銭、初鑄621年)	

第19表 木製品一覧3

報告番号	試料番号	実測番号	器種	樹種	地区	遺構	グリッド	小割	層位	法量 (mm.g)				備考
										最大長	最大幅	最大厚	その他	
W840	919	03m43	卒塔婆	ヒノキ	M3	SK14				288	33.5	5		
W841	934	03m58	柱	スギ	M3	P42				196	104	55		
W842	935	03m59	礎板	アカガシ亜属	M3	P127				163	114	26		
W843	950-1	03m74	箸	スギ	V1	SK01				201	7	4		
W844	950-2	03m74	箸	スギ	V1	SK01				200	6	3		
W845	952	03m84	曲物柄杓底板	スギ	V1	P67				86	89	9		
W846	952	03m76	曲物柄杓柄	ヒノキ	V1	P67				81	9	9		

第6節 小 結

前節までに、各遺構について個別に概観し、主に11世紀以降16世紀までの遺構・遺物を確認した。時期的に見ると、遺構・遺物数は12世紀後半から増加し、13～14世紀を通じて多く、15世紀になると減少していく傾向にあると見られる。

調査範囲全体を見ると、広範囲にわたって溝が連続する状況が見られた。そこで、調査区間毎に呼称が異なっている溝を連続関係から一体的に考えられるグループに分けたところ、7グループに整理されることがわかった（第20表・第164図参照）。これらの溝は若干のずれは見られるものの、ほぼ東西・南北方向に走っており、条里の区分に関係していると思われ、単独、或いは複数が並行して走る状況が見られた。第5群の東側を除いたいずれの溝からも12世紀後半～14世紀の遺物が主体的に出土しており、出土遺物から条理溝の形成過程を追うことは困難である。よって、ここではこれらの溝がかなり短時間のうちに掘り返されていたか、或いは複数の溝が1組として機能していた可能性を提示するに留めたい。また、これらの溝によって形成された区画に、建物・溝・井戸・土坑等多くの遺構が重複して分布していた。

掘立柱建物は59棟検出されたが、殆どが総柱建物であった。規模は梁間2間が主体で、特に2間×2間が7棟、3×2間が12棟で全体の約3割を占める。なお、調査範囲外に延びるなどの理由で、規模を確定できないものもあり、それらを除くと5割近くを占めることになる。また、面積は20～30㎡と30～40㎡のものが多く、殆どが2間×2間か3×2間で占められる。また、一部を除いて大多数の建物で、ほぼ真北か真北から若干東西に振れる、或いは真北から東西90°程度振れる方位を示し、正方位に近い軸を持っていたことがわかっているが、出土遺物の少なさも相まって、重複する建物の変遷を追うのが困難であったが、井戸など他遺構との関連性から、やはり12世紀後半から14世紀に主体的に建造されていたものと思われる。なお、建物は調査範囲の東側・南側に分布のまとまりがあり、西側では疎であった。この範囲は古墳時代～古代の河道の範囲に重なるため、検出しきれなかった可能性もある。或いは耕作地であった可能性も想定できようか。

井戸は11世紀～近世のものを検出したが、12世紀後半～14世紀のものが多く見られた。建物に伴う、或いは建物から離れたところでまとまって検出されており、特にA3区・M1区・M2区・T区の北側で集中して検出された。また、井戸の構造としては、井戸側を持つものと持たないものが見られる。井戸側を持つものには、板組（縦板組、縦板組横棧留、縦板組隅柱横棧留）のものと、曲物積のものが見られた。更に、水溜には曲物がつく場合が多く、1例のみ桶製の水溜が見られた。

なお、調査範囲の北東部で、木棺墓、土壙墓各1基が検出されている。墓内施設の有無、規模などに違いはあるが、双方とも方位がほぼ南北方向で、平面形もほぼ長方形プランであるという点では類似している。墓内施設や遺物から確実に墓であることを示せたのはこの2基だけだが、方位や平面形の特徴から、土壙墓であった可能性のある土坑が他に4基見られた。出土遺物より、これらは14世紀後半～15世紀にかけて造営されたと思われる。

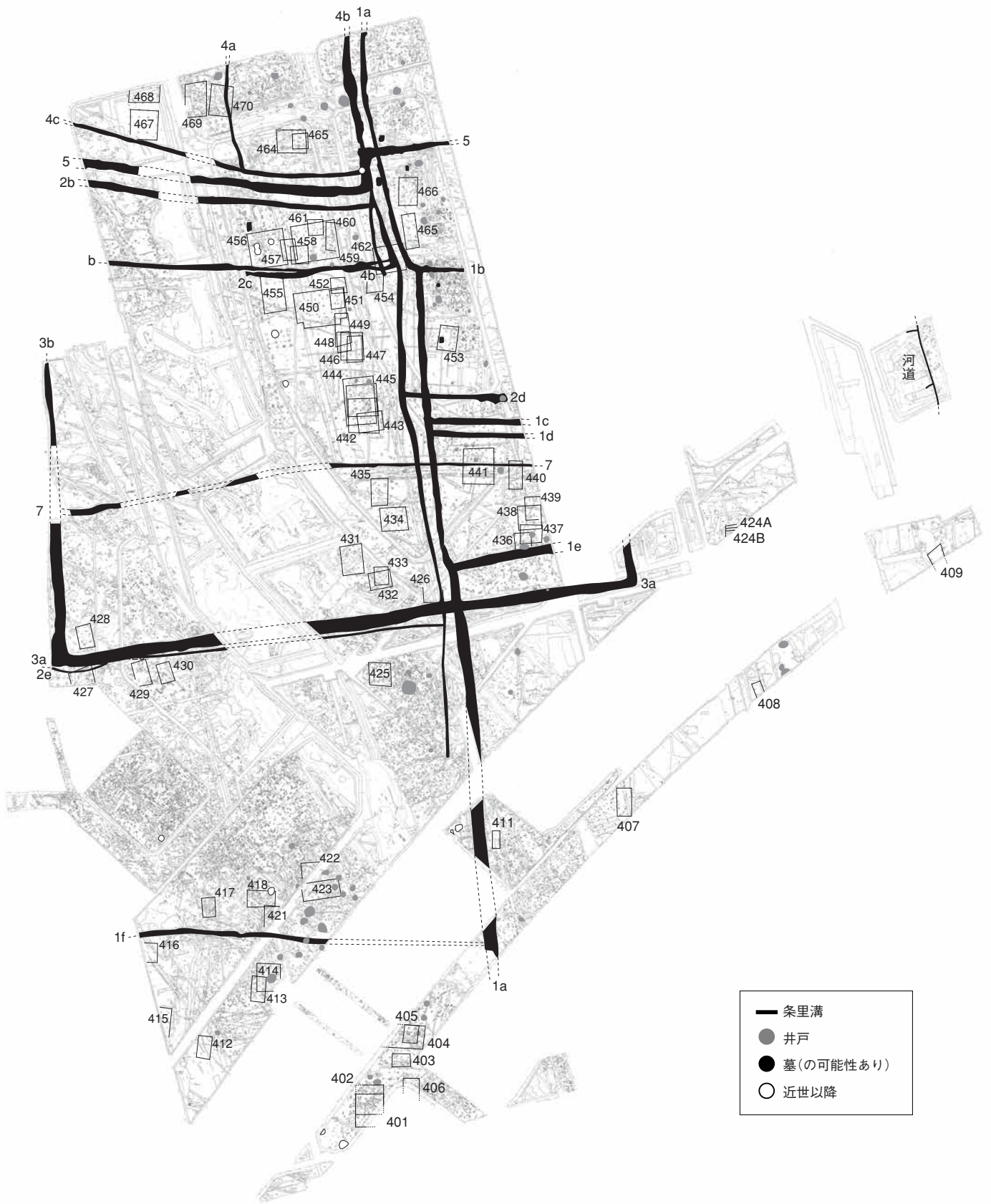
よって、調査範囲内での集落の展開は以下のように考えられようか。

8～9世紀に古代加賀群津に関連すると見られる倉庫群などが営まれたあとの10世紀代には、遺構や遺物が見られないことから、集落が一時的に衰退していたと思われる。その後11世紀になって遺構・遺物が僅かに散見されるようになるが、本格的に集落の展開が見られるのは、12世紀を待たねばならない。12世紀に入ると、広範囲に及ぶ条里溝網の整備が始まり、それに伴って条里区画内に建物や井戸等の遺構が多数展開し始め、13～14世紀にそのピークを迎える。しかし、15世紀になると一転

して調査節内の北東部の一角に集中する形で遺構の分布範囲が縮小しだし、その数を減じていく。また、条里溝も北東部の一部を残して維持管理のための再掘削がされなくなるようである。このように遺構分布が北東部の一角に集中、或いは限定されていく状況は、16世紀以降でも見られ、上述の墓はこうした集落の衰退過程の中で造られたものと考えられる。

第20表 溝の連続関係

群	小群	方向	調査区	SD	遺物の時期	備 考				
1	a	南	V1	05	12C後半～14C前半 (12C後半～13C前半が主)	南はL2区SD05に連続すると思われる。				
			E	02						
			M3	26						
			M1	05						
			M1	15						
		北	M2	05						
			F	27						
			N1	10						
			G	13						
			T	11						
	b	東	T	21	E区以東未確認					
			K	01						
			U	01						
			M1	18						
			N1	01						
			E	15						
	c	西	N1	02	東でA7区溝に合流か 東でL2区SD05に合流か					
			E	14						
			T	05						
			A3	67						
d	東	Q1	01							
2	a	南	M1	06a	12～14C (12C後半～13Cが主)	金沢市調査区で3bの延長と合流				
			M2	02						
			F	26						
			N1	11						
			G	12						
			T	13						
			T	22						
			A2	22						
	b	北	M3	20	G区以西未確認					
			F	17						
			N2	4						
			G	11						
			W	2						
			M1	10						
	c	東	F	19	東で立ち消え					
			N2	6						
			F	26						
			M2	4						
	d	西	M2	4						
			F	28						
T			16							
D1			1							
O2			14							
R2			12							
S2			13							
3	a	東	T	01	12C後半～14C	A7区で東端北へ折れる (SD04)、西端で北へ折れる				
			D1	02						
			O2	01						
			R2	01						
		西	C2	17						
			S2	01						
			S2	01						
			S3	03						
	b	南北	S4	03	金沢市調査区でも延長確認					
			N2	18						
			F	01						
			V2	01						
			4	a		南	M1	09	12C後半～14C (12C末～13Cが主)	南で立ち消え
							M1	07		
							M3	23		
							M3	32		
b	北	E	01							
		V1	11							
		M3	13							
		F	14							
c	東	N2	02							
		W	01							
		E	20							
		M3	05							
5	a	東	M3	22	13～16C	東側南でE区SD21 - M3区SD06 - M3区SD11が並行。金沢市分で西の延長が3-bの延長と交差				
			F	15						
			N2	03						
			G	18						
		西	W	03	12C末～13C					
			M1	06c						
			F	18						
			N2	07						
6	a	東	G	15						
			W	51						
			E	10						
			N1	06						
7	a	東	O1	09		南でE区SD03-N1区SD07が並行				
			D2	06						
			B2	17						
			S3	02						
		西								



第164図 中世の畝田西遺跡群概念図 (S= 1 / 2,000)

参考文献

- 石川考古学研究会 1970 『普正寺』
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2002『金沢市藤江C遺跡Ⅳ・Ⅴ』
- 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2002『金沢市藤江C遺跡Ⅶ』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1984『普正寺遺跡』
- 金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2004『堅田B遺跡Ⅱ』 金沢市文化財紀要213
- (財)石川県埋蔵文化財センター 2002『大野郷を掘る』
- 中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 北陸中世考古学研究会 1999『中世北陸の石文化Ⅰ』
- 北陸中世考古学研究会 2001『中世北陸の井戸』
- 北陸中世土器研究会 1992『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』
- 北陸中世土器研究会 1993『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』
- 北陸中世土器研究会 1995『中世北陸の木製容器』
- 北陸中世土器研究会 1997『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』 桂書房
- 松任市教育委員会ほか 1995『宮永ほじ川遺跡(遺構・遺物図編)』
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

そのほか(財)石川県埋蔵文化財センター発行の『石川県埋蔵文化財情報』第3・4・6・8・10・11号(2000~2004)所収の「金沢西部第二土地区画整理事業に係る発掘調査」或いは「畝田・寺中遺跡他2遺跡」関連の記述を参考にしている。

報告書抄録

ふりがな	うねだにしいせきぐん ご							
書名	金沢市畝田西遺跡群 V							
副書名	金沢西部第二土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	10							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	和田龍介、荒木麻理子							
編集機関	財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 (TEL 076-229-4477)							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	西暦2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うねだ じちゅう 畝田・寺中遺跡 畝田遺跡 畝田だいとくがわ 畝田大徳川遺跡	いしかわけんかなざわし 石川県金沢市 畝田西地内	17201	1260	36度	136度	19990415	45,720㎡	金沢西部 第二土地 区画整理
			1261	35分	36分)		
			1262	50秒	20秒	20030903		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
畝田・寺中遺跡 畝田遺跡 畝田大徳川遺跡	官衙関連・集落	奈良・平安	掘立柱建物、井戸、土坑、旧河道、溝		須恵器、土師器、木製品、土製品、金属製品		奈良時代の建物群を検出。郡符木簡など10点の木簡、200点以上の墨書土器などが旧河道より出土。	
	集落	中世	掘立柱建物、溝、井戸、土坑		土師器、陶磁器、木製品、土製品、石製品、金属製品			
要約	沖積地に展開する複合遺跡である。本巻には古代・中世の調査結果を所収した。奈良・平安時代では75棟の掘立柱建物・旧河道などが検出されており、遺構の配置や出土遺物などから、古代加賀郡に属する津湊である加賀郡津の可能性を指摘できる。中世では広域に及ぶ条里溝網が確認され、区画内に掘立柱建物や井戸などを多数検出した。							

金沢市 畝田西遺跡群 V (本文報告編)

発行日 平成18(2006)年3月31日
 発行者 石川県教育委員会
 〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
 電話 076-225-1842 (文化財課)

財団法人 石川県埋蔵文化財センター
 〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
 電話 076-229-4477
 E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社中川印刷

金沢市
畝田西遺跡群 V
(写真図版編)

2006

石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター

うねだにし
畝田西遺跡群 V
(写真図版編)

2006

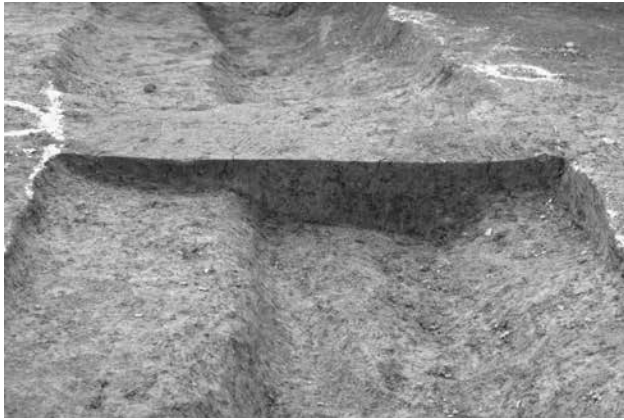
石川県教育委員会
(財)石川県埋蔵文化財センター



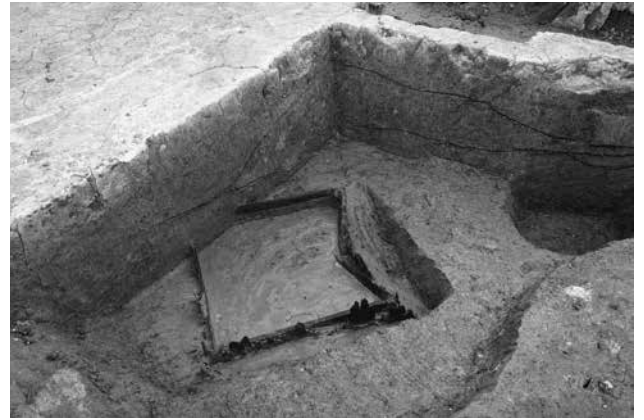
A 1 区SK02 (SB341柱穴)



A 1 区SD52aセクション



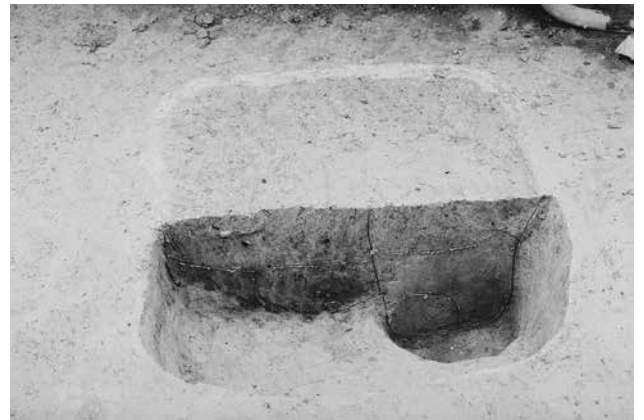
A 1 区SD52cセクション



A 1 区SE03検出状況



A 2 区SB321



A 2 区SB321柱穴P133



A 2 区SB322



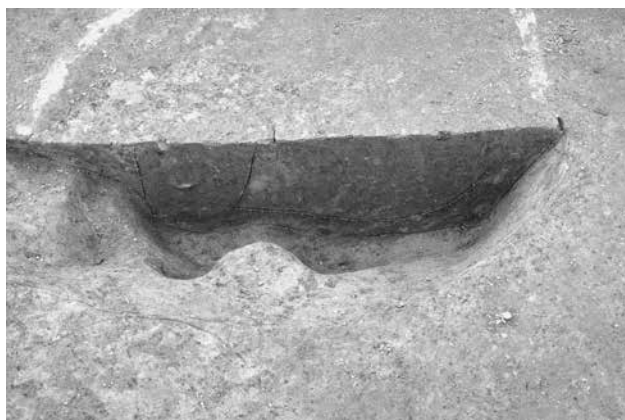
A 2 区SB322柱穴P178



A 2 区川跡 (SD08) 沿いの倉庫列SB321・322・323



A 2 区SB323



A 2 区SB323柱穴P267



A 2 区SB326



A 2 区SB326柱穴P319



A 2 区SB330・326



A 2 区SB330柱穴P220



A 2 区SB331柱穴P309



A 2 区SB332・333



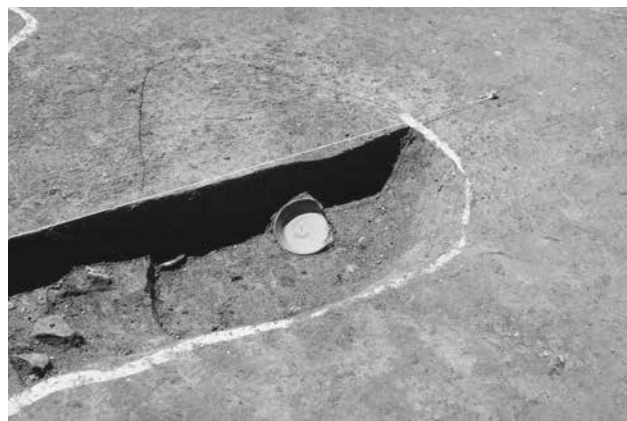
A 2 区SB332柱穴P268



A 2 区SB333柱穴P364



A 2 区SB333柱穴P53



A 2 区SB334柱穴P52



A2区川跡 (SD08)



A2区川跡中央セクション西



A2区川跡中央セクション中央



A2区川跡中央セクション東



A2区川跡遺物出土状況



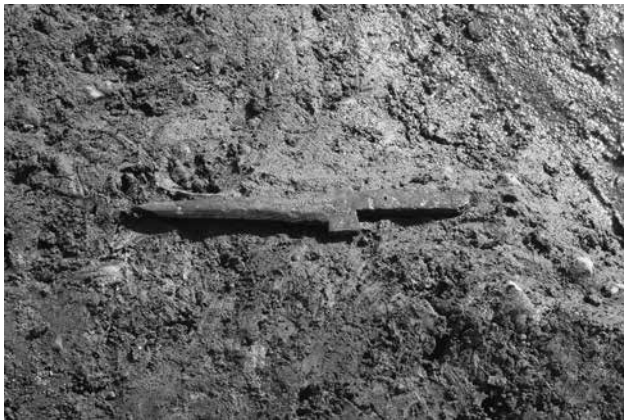
A 2 拡張区川跡遺物出土状況



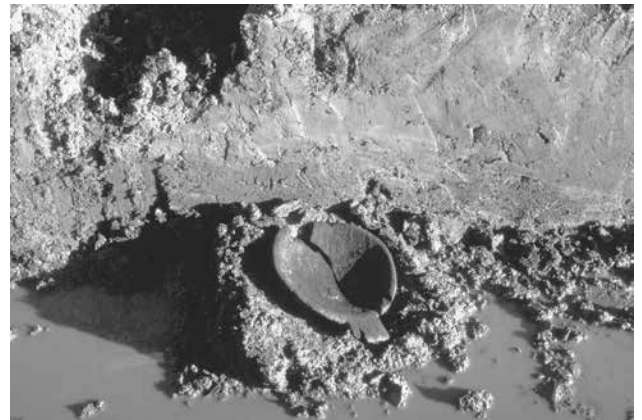
A 2 区川跡遺物出土状況



A 2 区川跡遺物出土状況



A 2 区川跡遺物出土状況



A 2 区川跡遺物出土状況



A 2 区川跡板杭列



A 2 区川跡板杭列

図版6 古代遺構6



A 2 区SK19墨書土器「平」出土状況



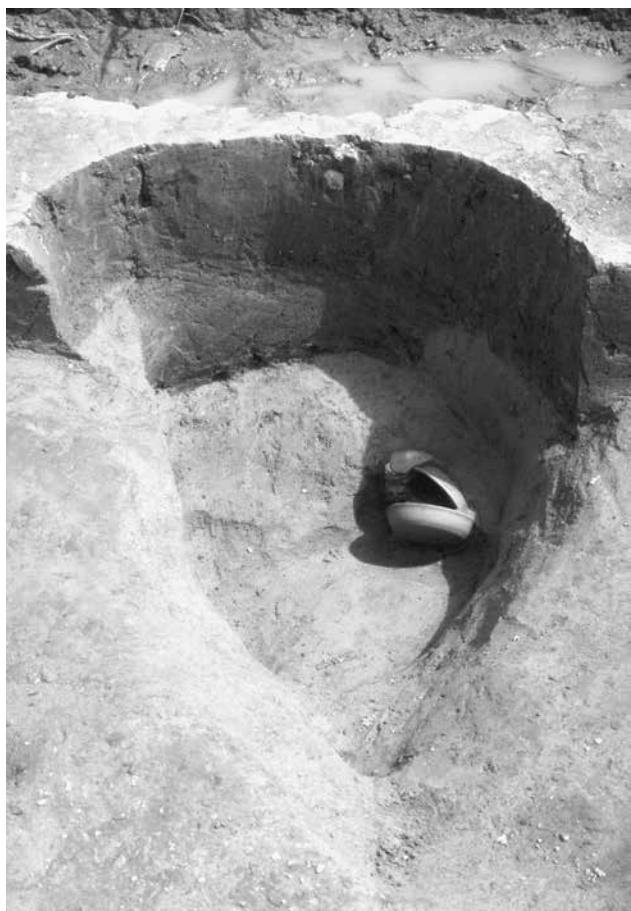
A 3 区SB316



A 3 区SB316柱穴P57



A 3 区SE08



A 3 区SK53底面遺物出土状況



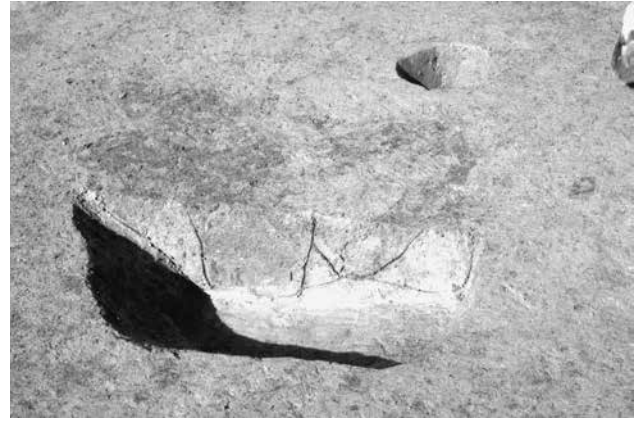
A 3 区SK53遺物出土状況



A 3 区SK53遺物出土状況



A 4 区SB305



A 4 区SB305柱穴P239



A 4 区SB305柱穴P245



B 2 区SB346柱穴BSB001-P1



B 2 区川跡 (SD16)



B 2 区川跡遺物出土状況



B 2 区川跡遺物出土状況



B 2 区川跡遺物出土状況

図版 8 古代遺構 8



B 3 区SD26



B 3 区SD28・31



B 3 区SD31



B 3 区SD31遺物出土状況



B 3 区SE01検出状況



B 3 区SE01井戸枠検出状況



B 3 区SE01内枠内半裁



B 3 区SE01掘方遺物出土状況



C1区川跡 (SD16)



C1区川跡「人」墨書土器出土状況



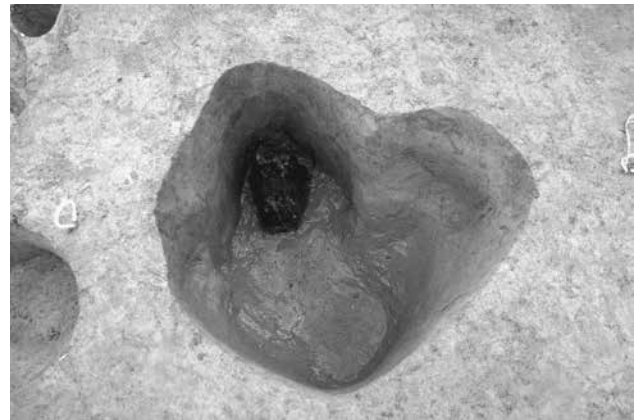
C1区川跡遺物出土状況



C1区川跡「大」墨書土器出土状況



C2区SD23



C3区SB308柱穴P311



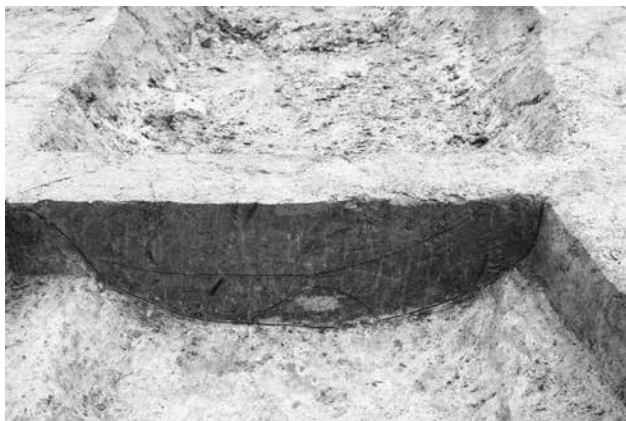
C3区SB309柱穴P135



C3区SB309柱穴P309



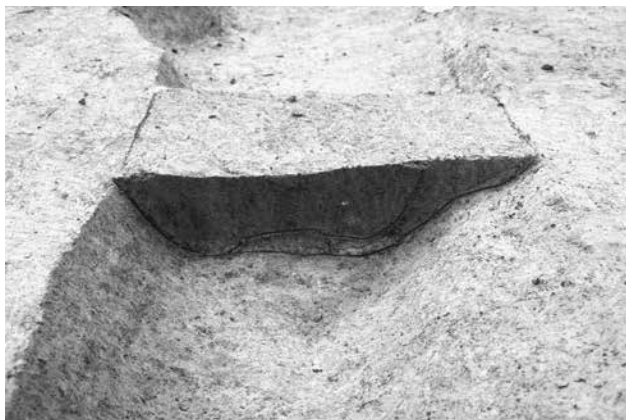
D 2 区SD07



D 2 区SD04



E区SB348柱穴P09



E区SD07



E区SD12・13・16



E区SE01



E区SE01 枋材出土状況



E区SE04



E区SE04底面遺物出土状況



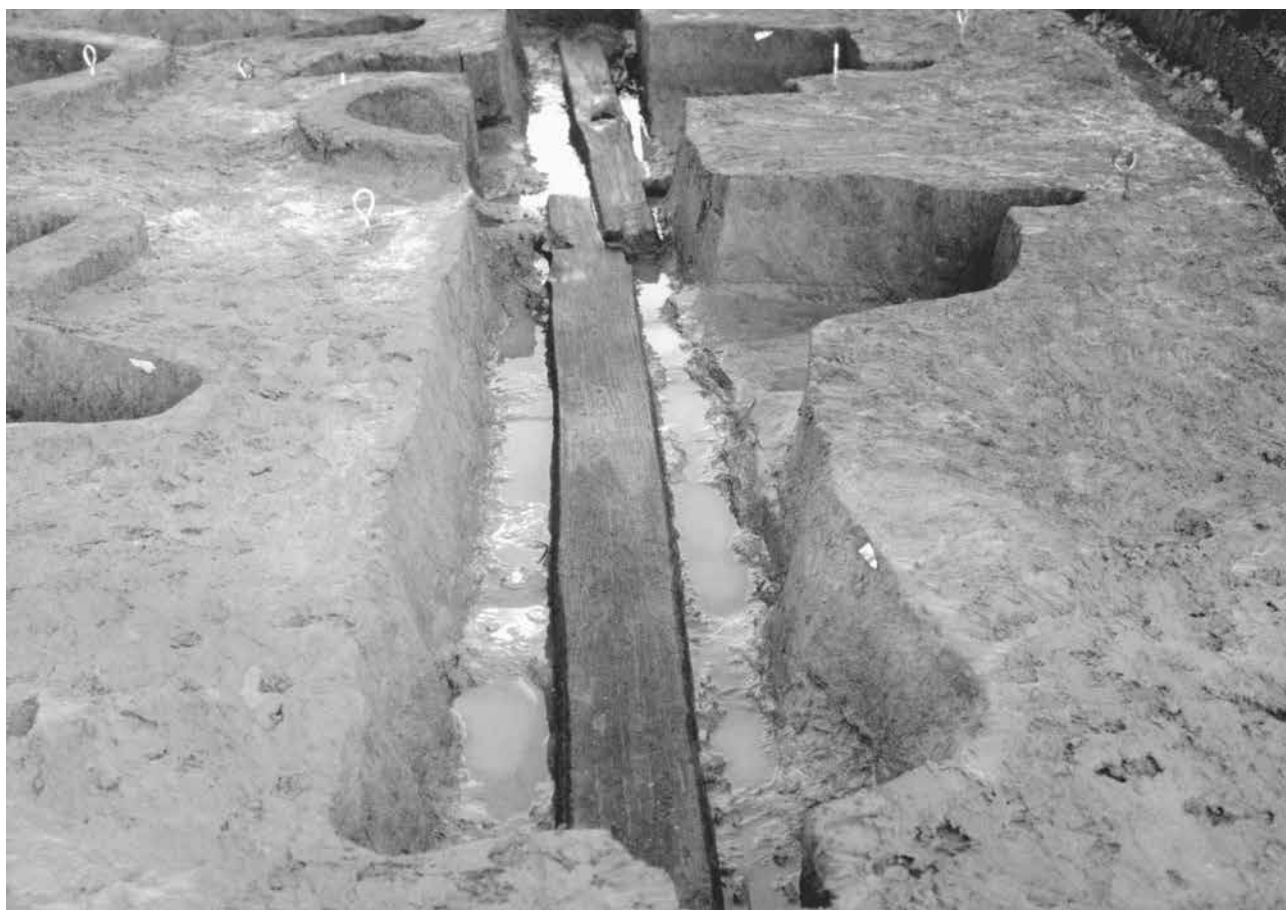
F区SB368



F区SB368柱穴P11



F区SB368柱穴P25



F区SB368布掘筏地行柱穴P26



F区SB368柱穴P26



F区SB368柱穴P26



F区SD13



G区SB360柱穴P22



G区 SB360柱穴P05



G区SD04・05



I区SD31



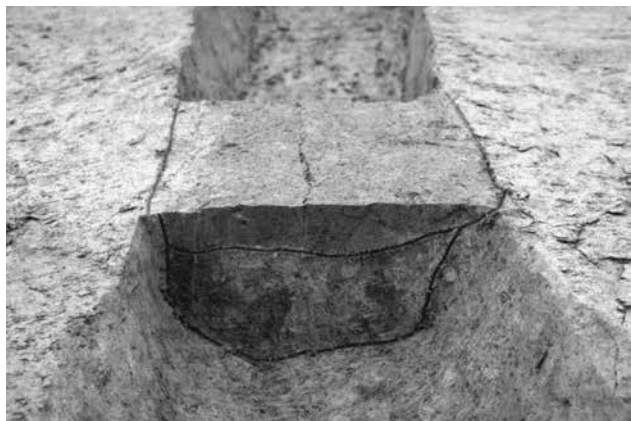
K区SB375柱穴P05



N1区SD08遺物出土状況



N1区SD13



N 1 区SD14



N 1 区SD18~20・30



N 1 区SD27~29



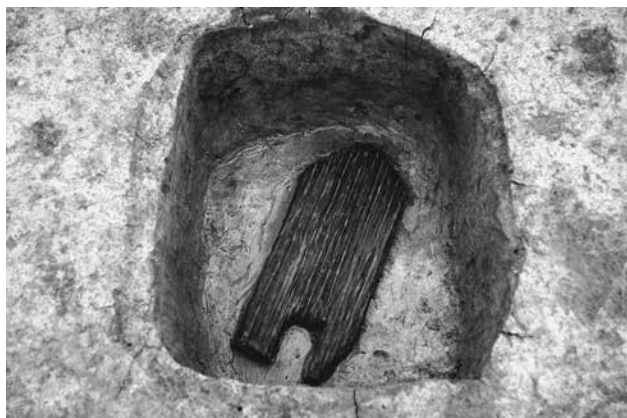
N 1 区SD27



N 2 区SB360布掘笥地行SD117



N 2 区SB362



N 2 区SB362柱穴P167



N 2 区SB363



N 2 区SB363柱穴P158



N 2 区SB363



N 2 区SB363布搦笥地行P79



N 2 区SB367



N 2 区SB369と雨落溝SD112・115



N 2 区SB372



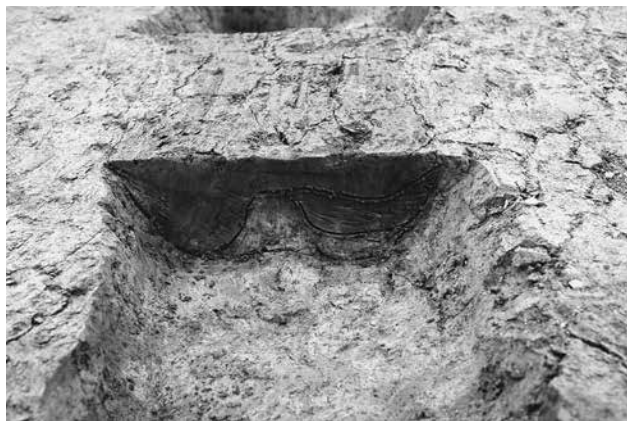
N 2 区SB373



N 2 区SD102a



N 2 区SD109



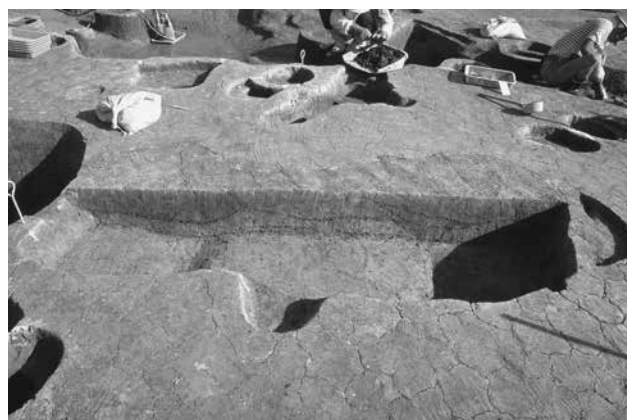
N 2 区SD114



N 2 区SD12



N 2 区SD15



N 2 区SK08



N 2 区SK23



O 1 区SB345柱穴SK05



O 1 区SD03



O 1 区SD03遺物出土状況



01区川跡 (SD07・08)



01区SD07石製品出土状況



01区SD07木製品出土状況



01区SD07木製品出土状況



01区SD07木製品出土状況



01区SD08遺物出土状況



01区SD08木製品出土状況



01区SD08木製品出土状況



○2区川跡



○2区川跡4号木簡出土状況



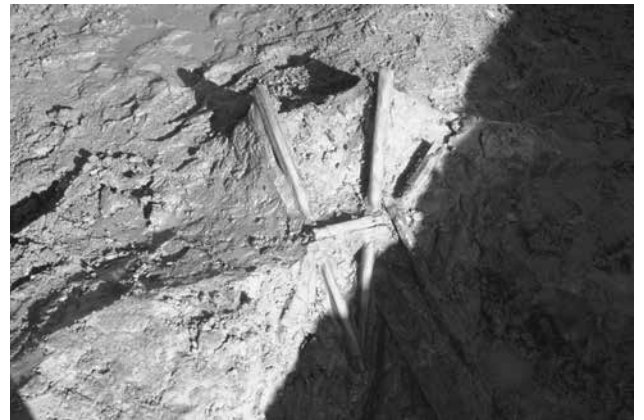
○2区川跡6号木簡出土状況



○2区川跡7号木簡出土状況



○2区川跡8号木簡出土状況



○2区川跡木製品出土状況



Q1区SD75



Q1区SD79a



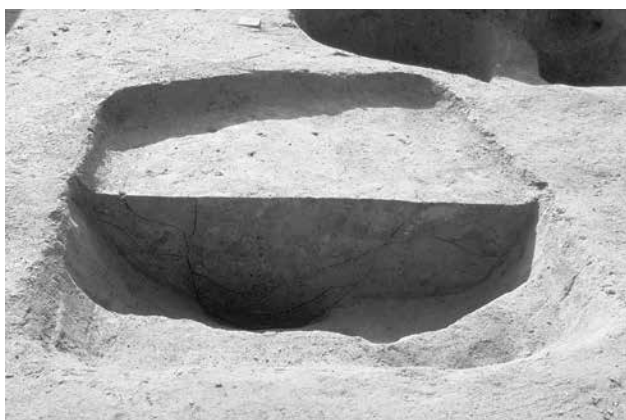
Q 2 区SB306



Q 2 区SB306柱穴P253



Q 2 区SB307



Q 2 区SB307柱穴P331



Q 2 区SB320



Q 2 区SB320柱穴P355



Q 2 区SK65



Q 2 区SK77



Q2区川跡



Q2区川跡「人」墨書土器出土状況



R1区SE02



R1区SE02



R1区川跡



R1区川跡木製品出土状況



R2区SB343



R2区SB344



T区方形溝SD31・34



T区SD31 (西側溝)



T区SD31 (北側溝) 炭化物集中



T区SD31 (北側溝) 遺物出土状況



T区SD34・41



R2区SB344柱穴P33



S1区SB314柱穴P57



S1区SK23



S4区SB353



T区SB338・339



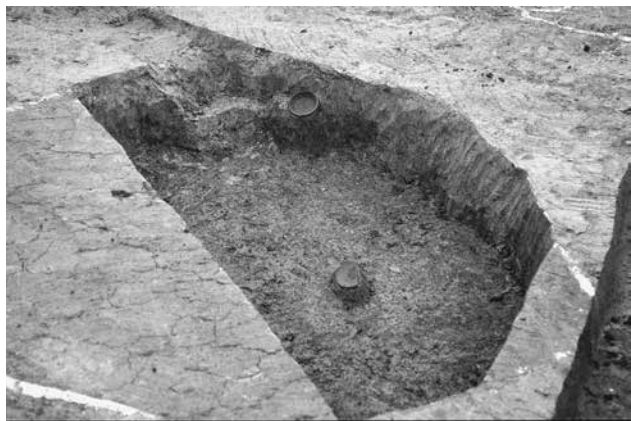
T区SB338柱穴P58



T区SB350~352



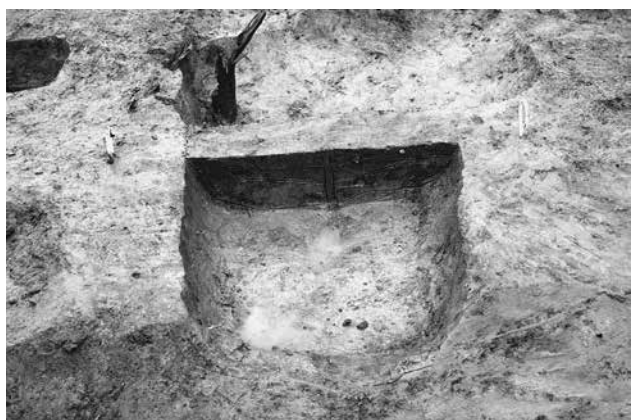
T区SB351柱穴P15



T区SE08



U区SB303



U区SD12



U区SD14



V1区SK13



V1区SK13



V1区SK13井戸枠下部構造



V1区SK13井戸枠下部構造



V2区SB368



V2区SB368柱穴SK11



V2区SE01



V2区SE02



W区SB354・355



W区SB354柱穴P62



W区SB354柱穴P63



W区SB357



W区SB357柱穴SK13



W区SB358柱穴P104



W区SB358柱穴P69



W区SK56



W区SK58



W区SK58



W区SK60



W区SK60



W区SD62



W区SD62



W区SD62 11号木簡出土状況



W区SD62 10号木簡出土状況



W区SD62遺物出土状況



W区川跡・SD62セクション東



W区川跡・SD62セクション西



W区川跡



W区川跡「宮家」墨書土器出土状況



W区板柵列



W区板柵列 (川跡側から)



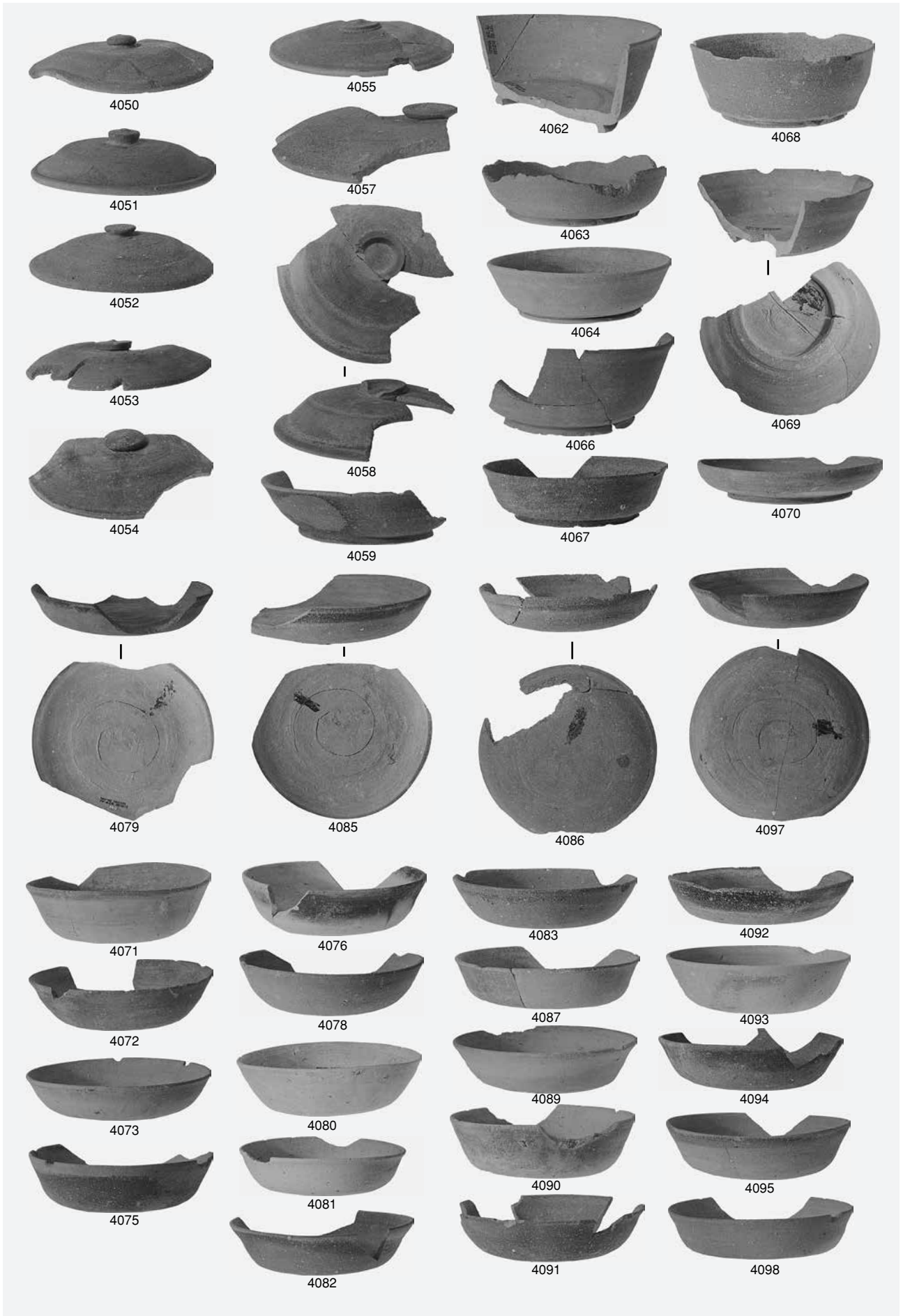
W区板柵列

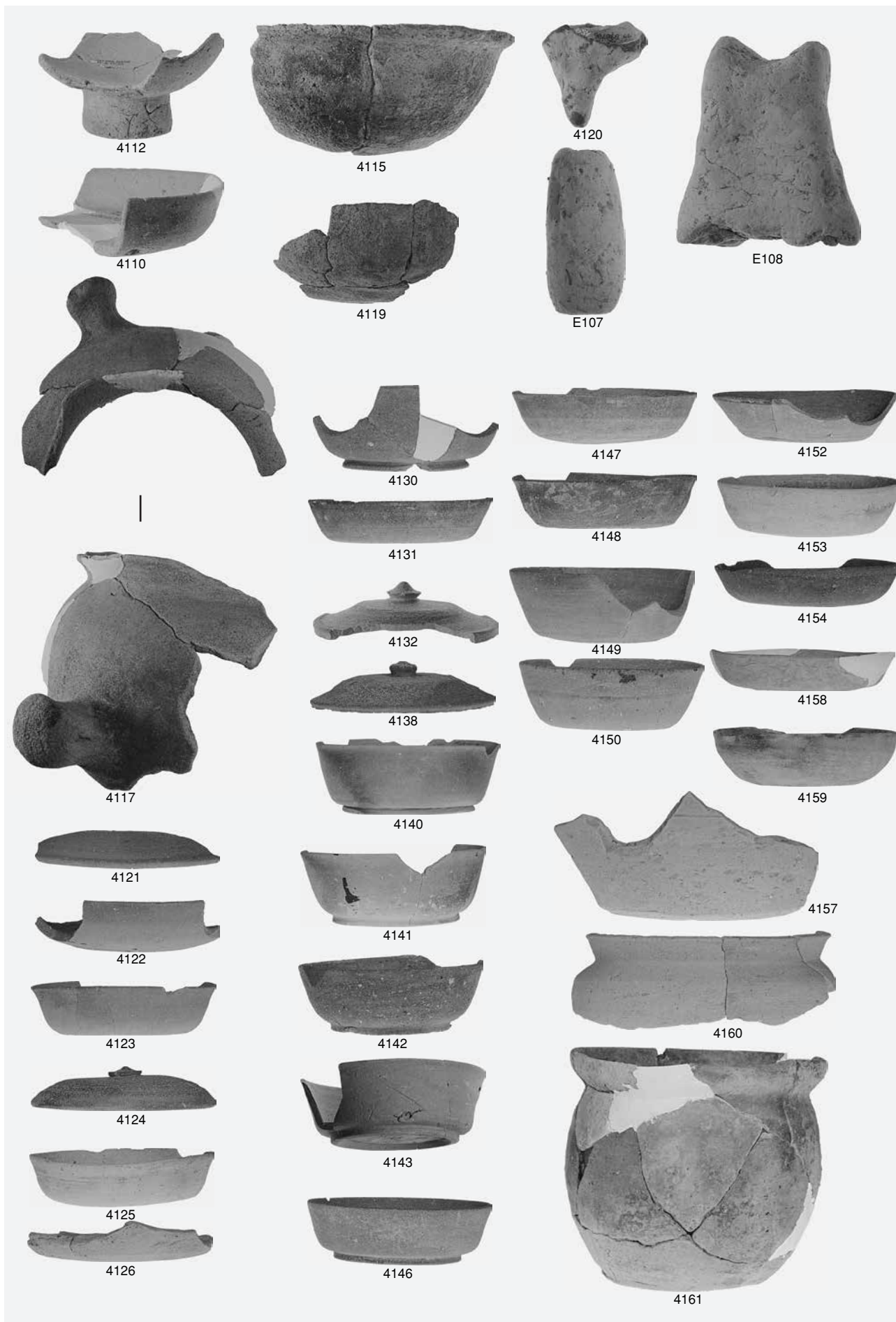


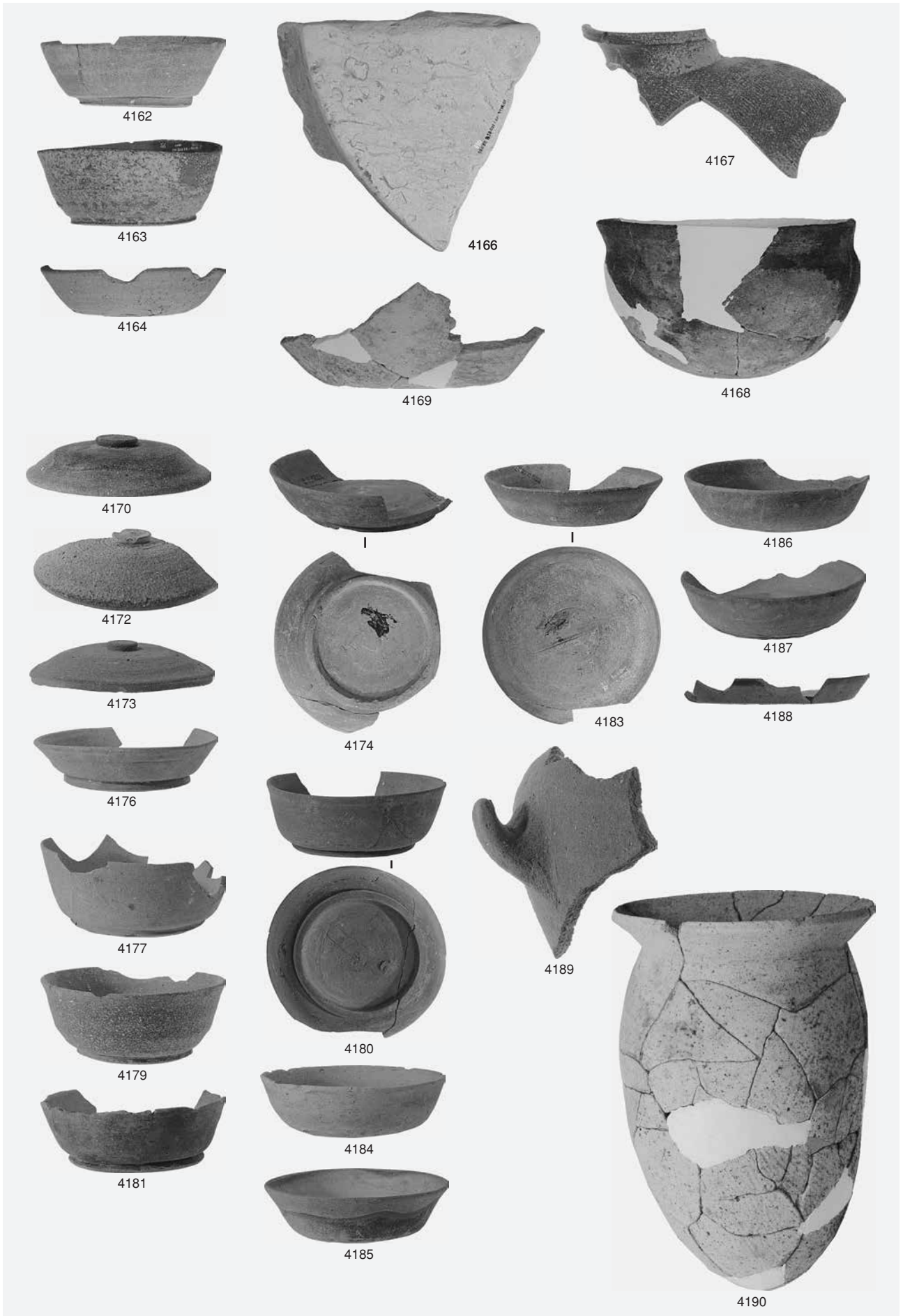
W区板柵列



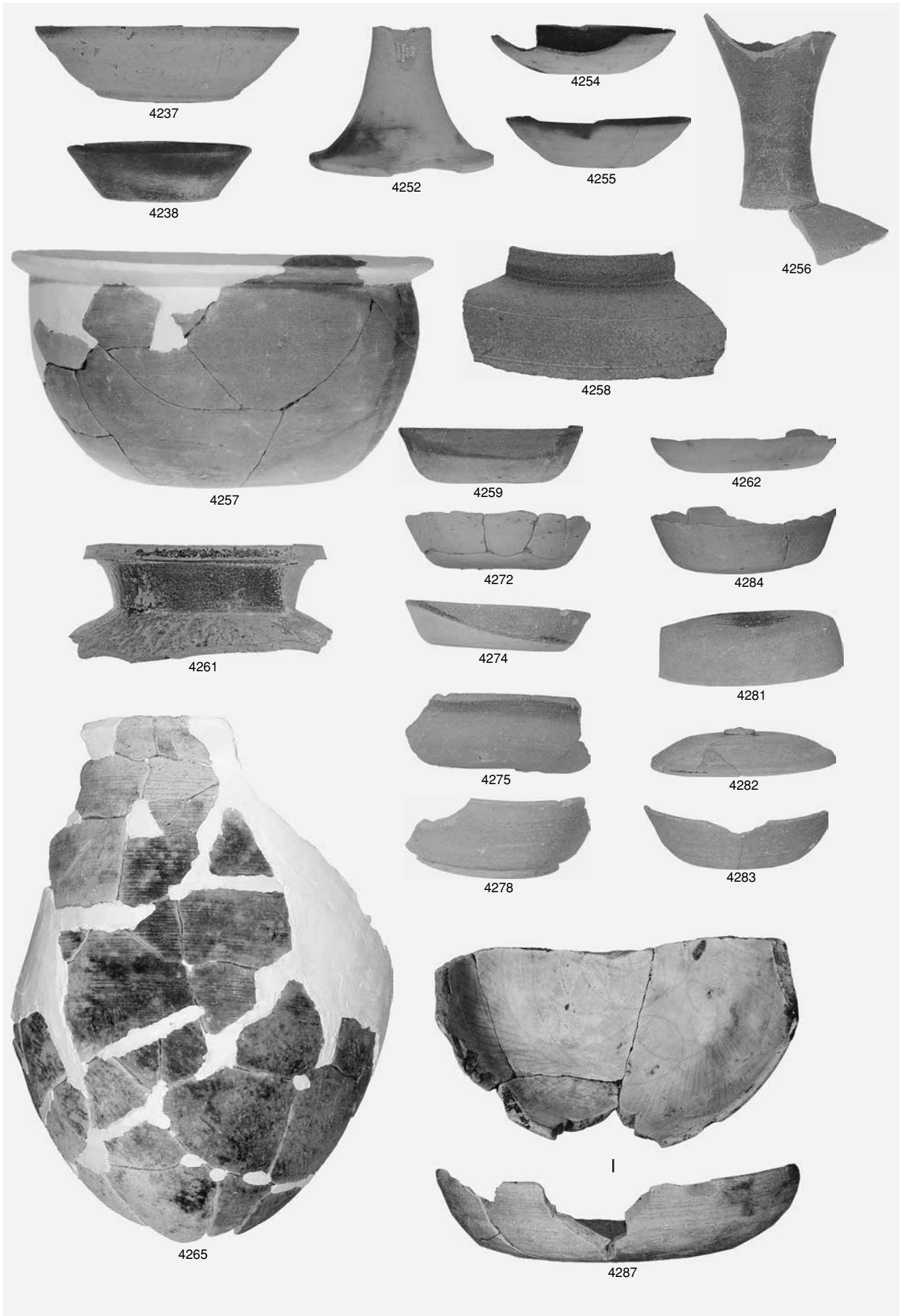


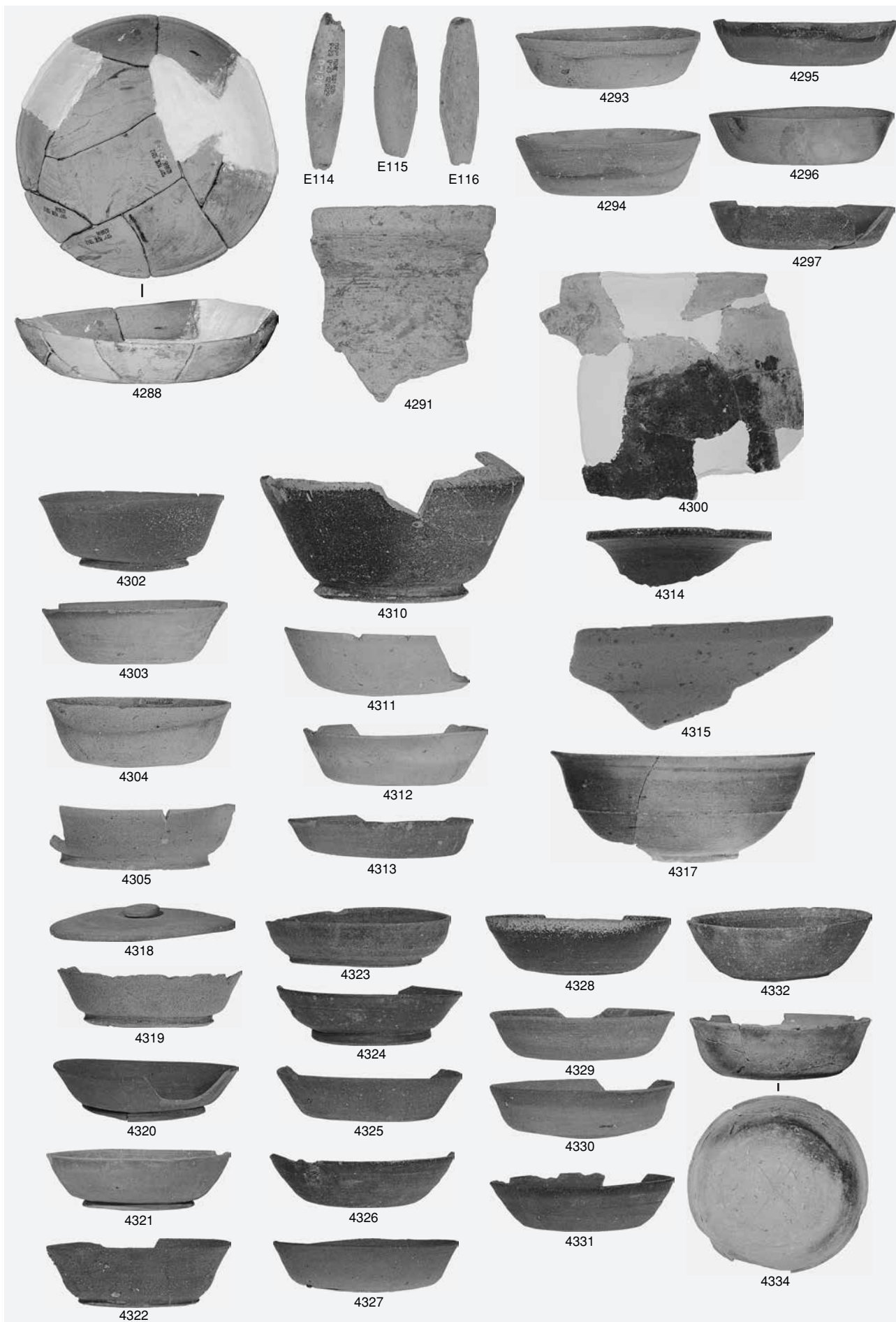


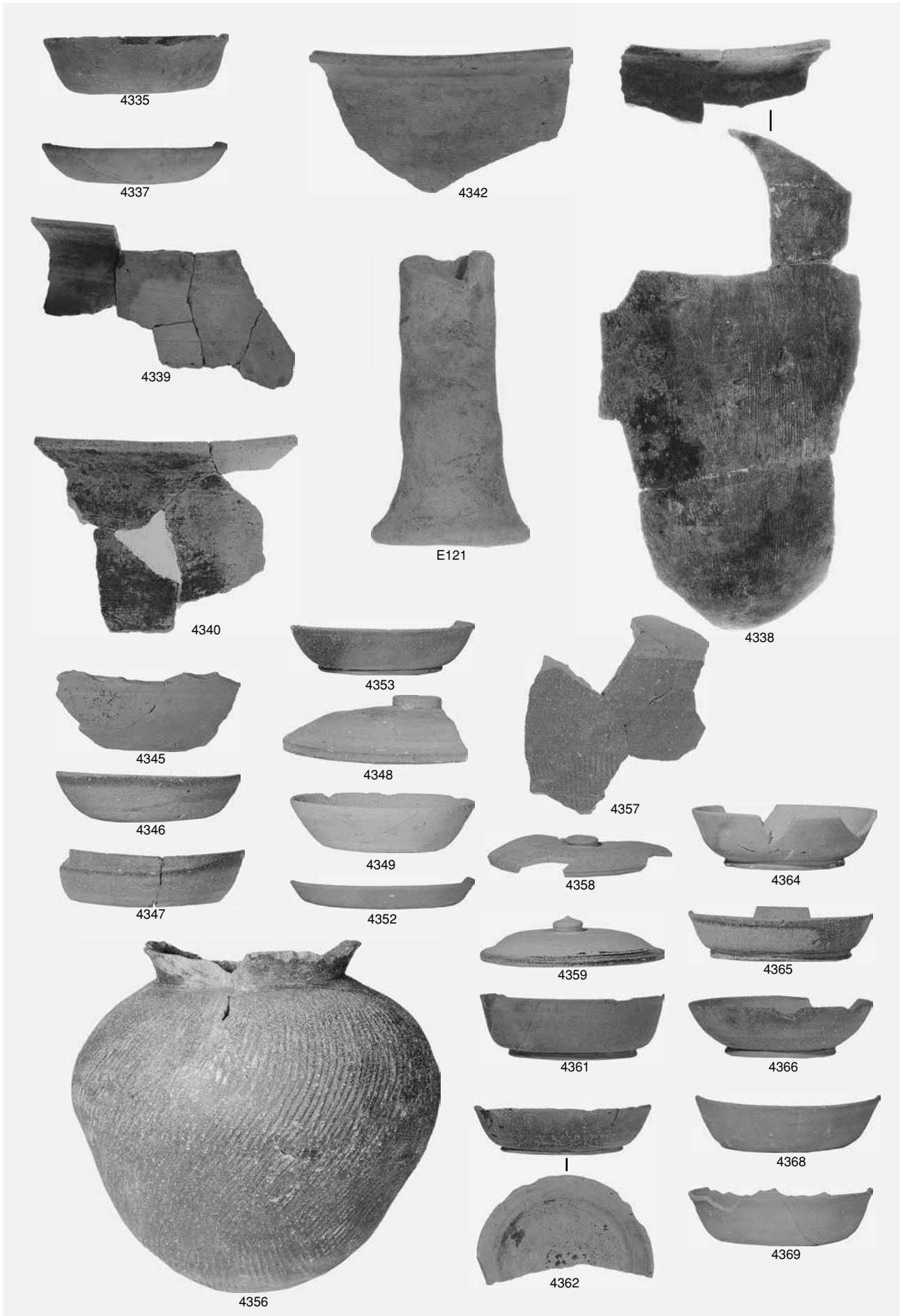


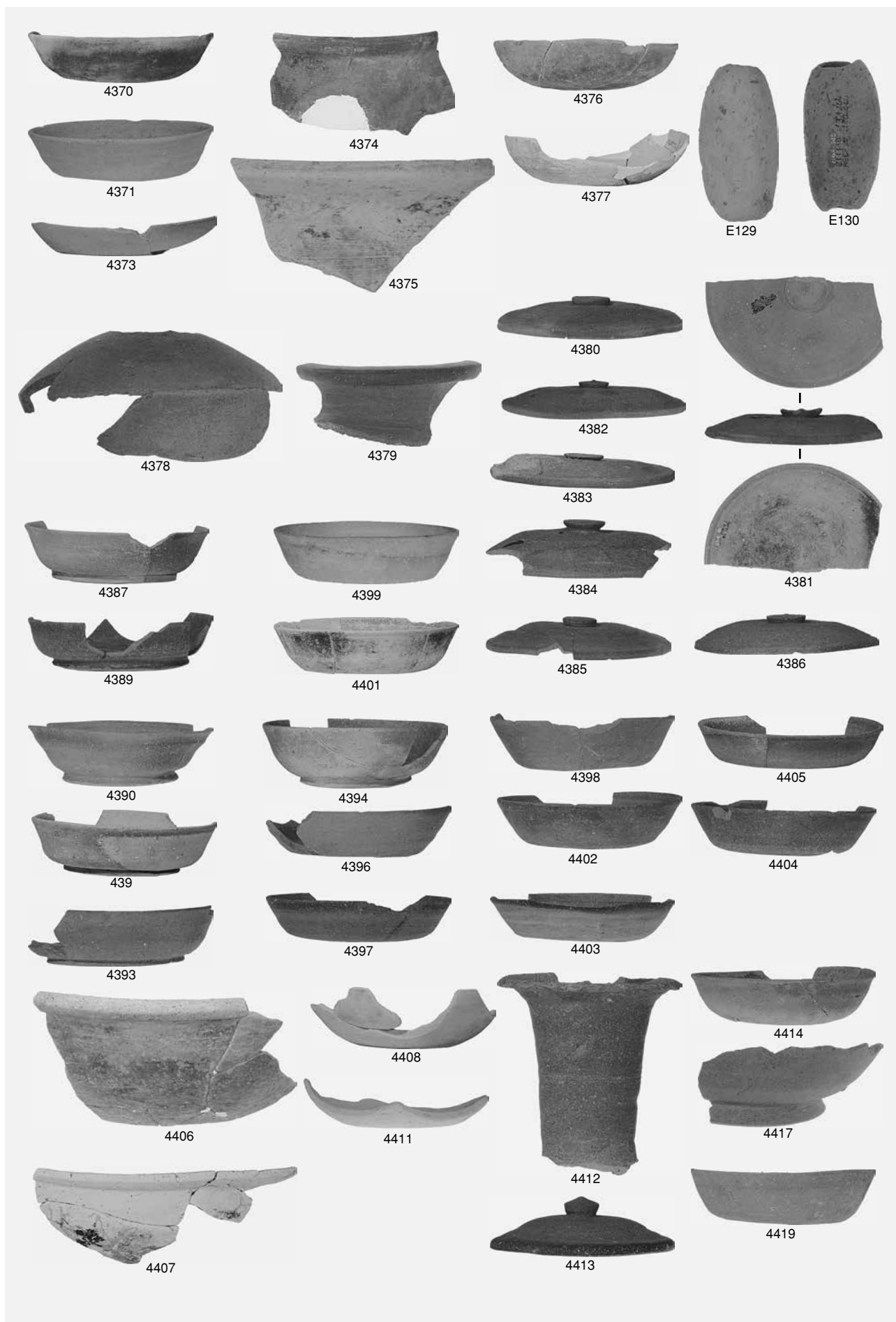


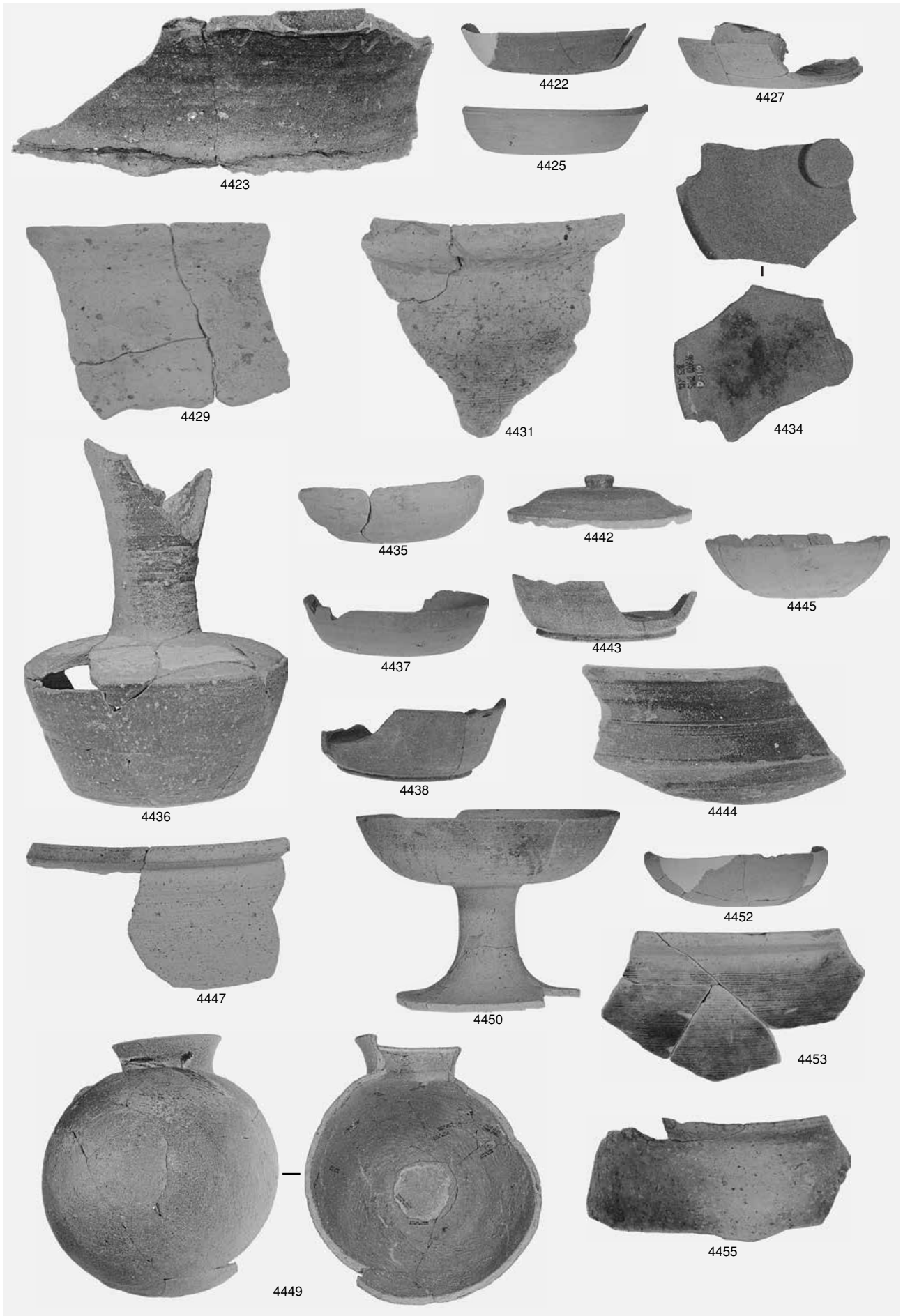


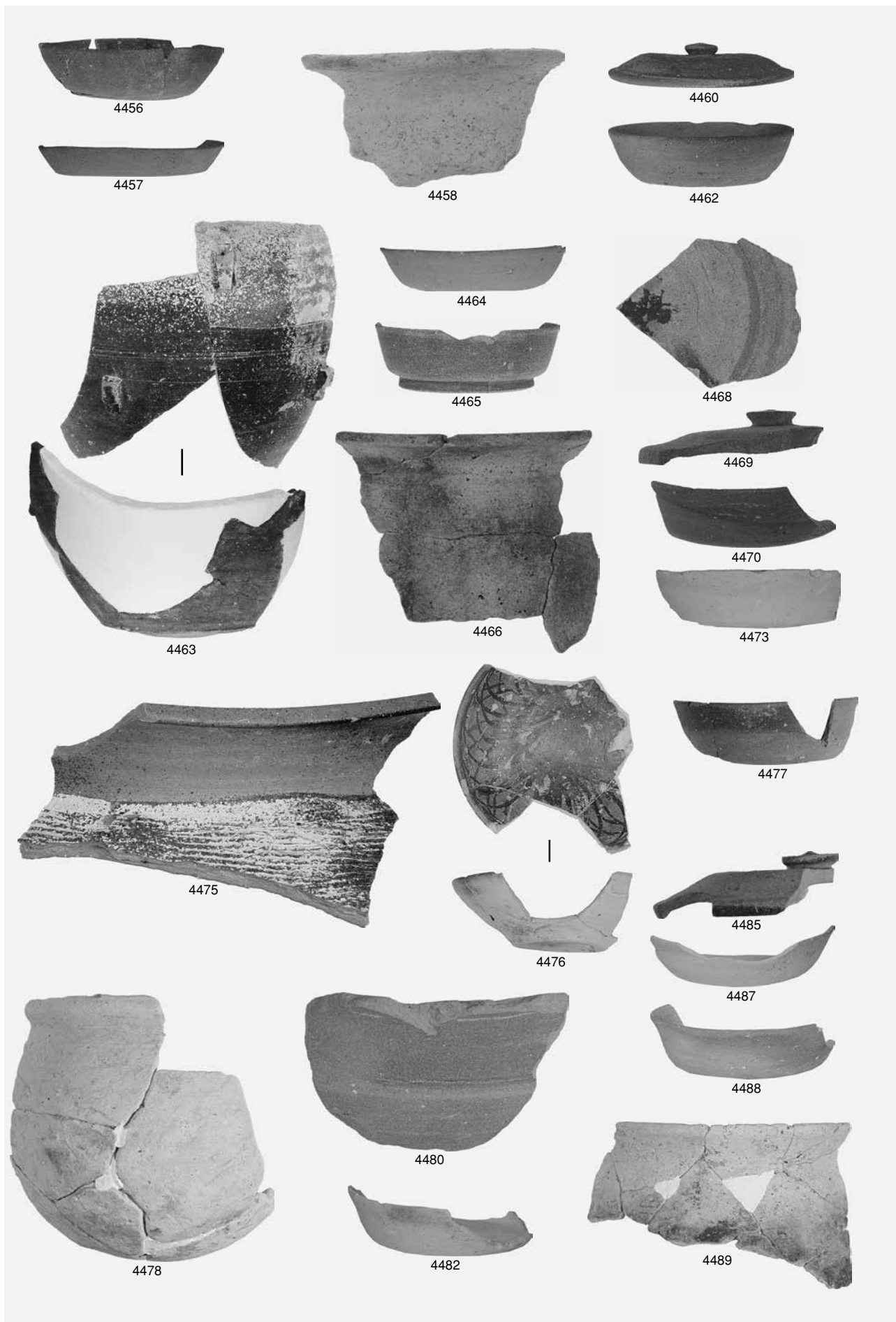


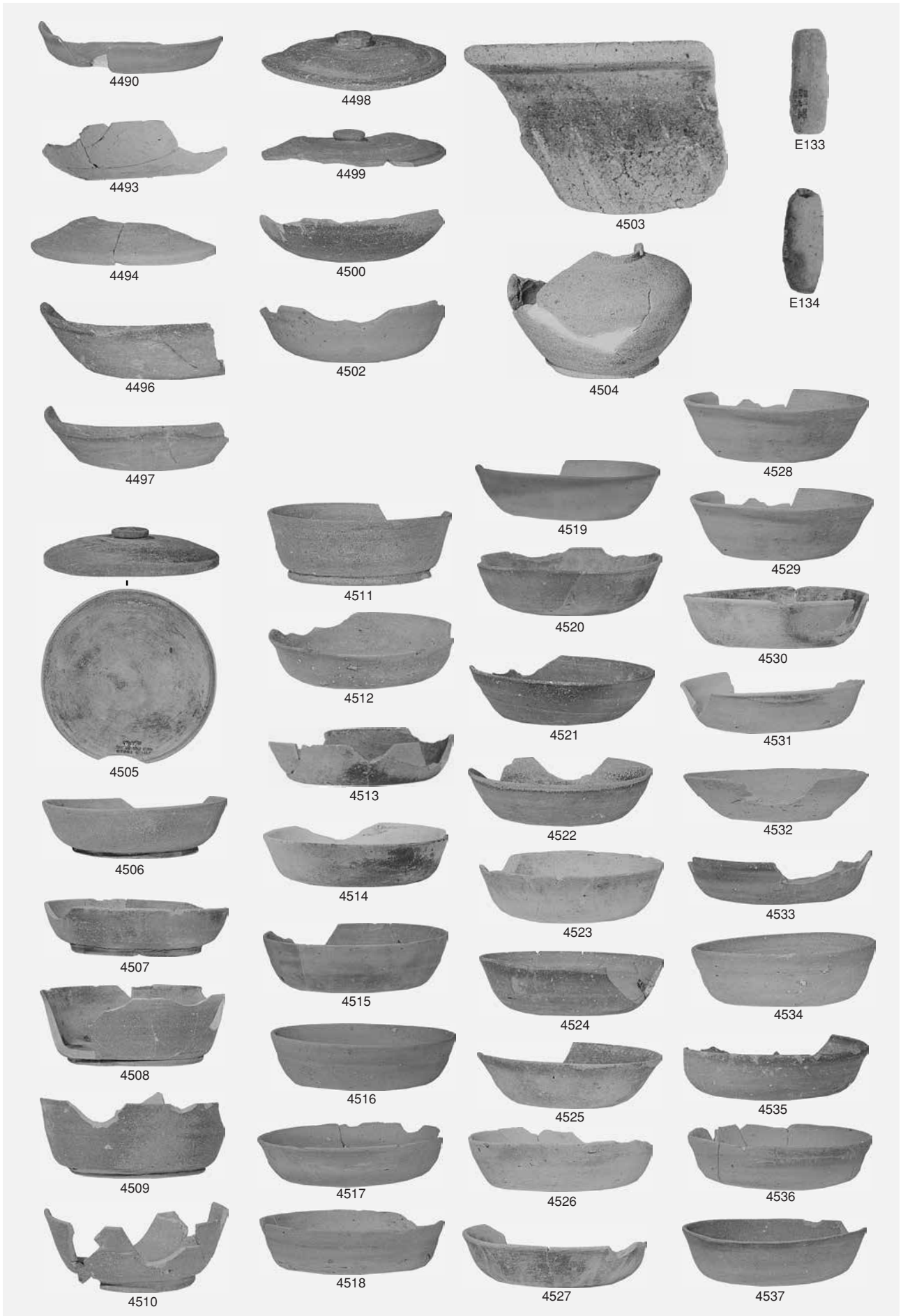


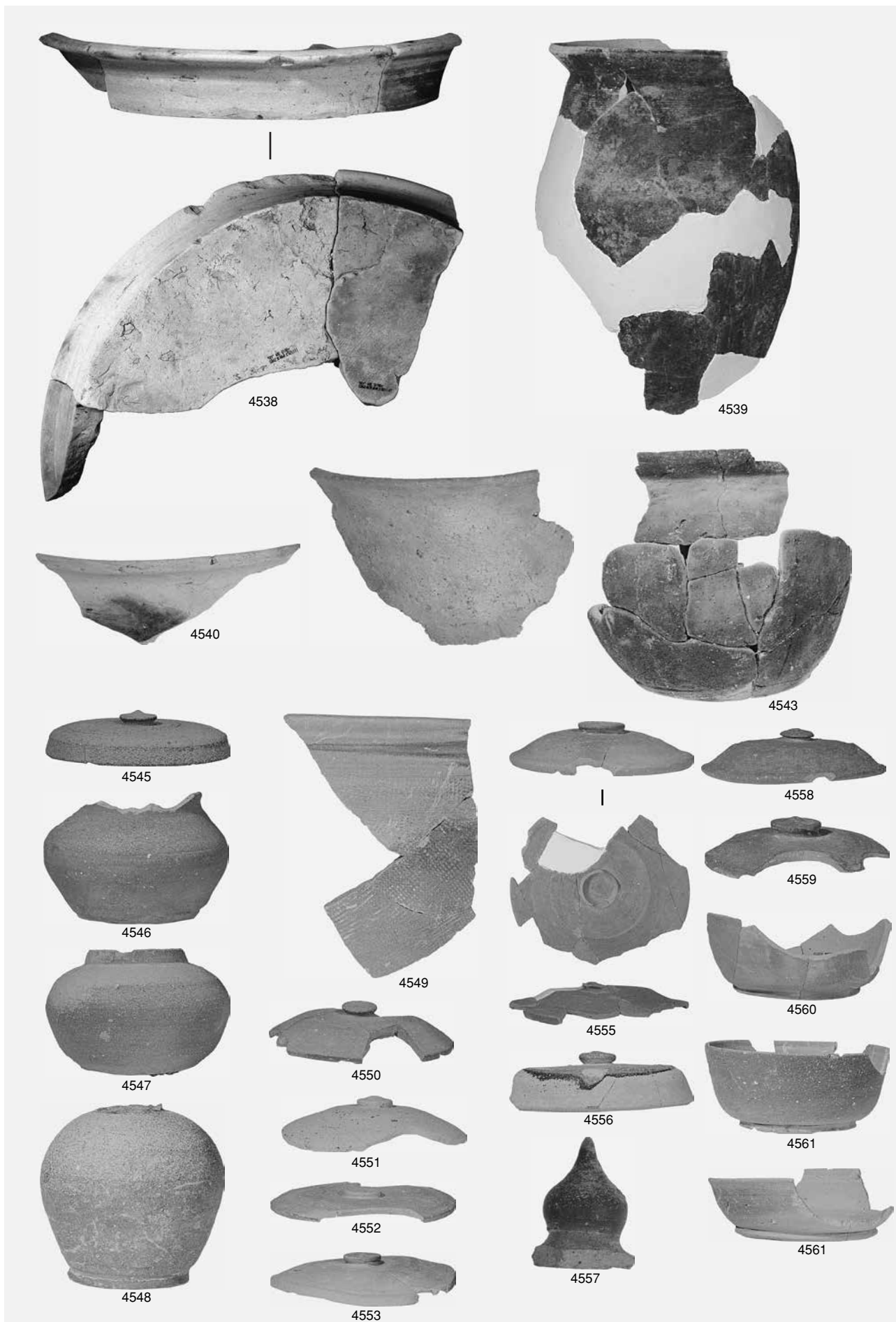


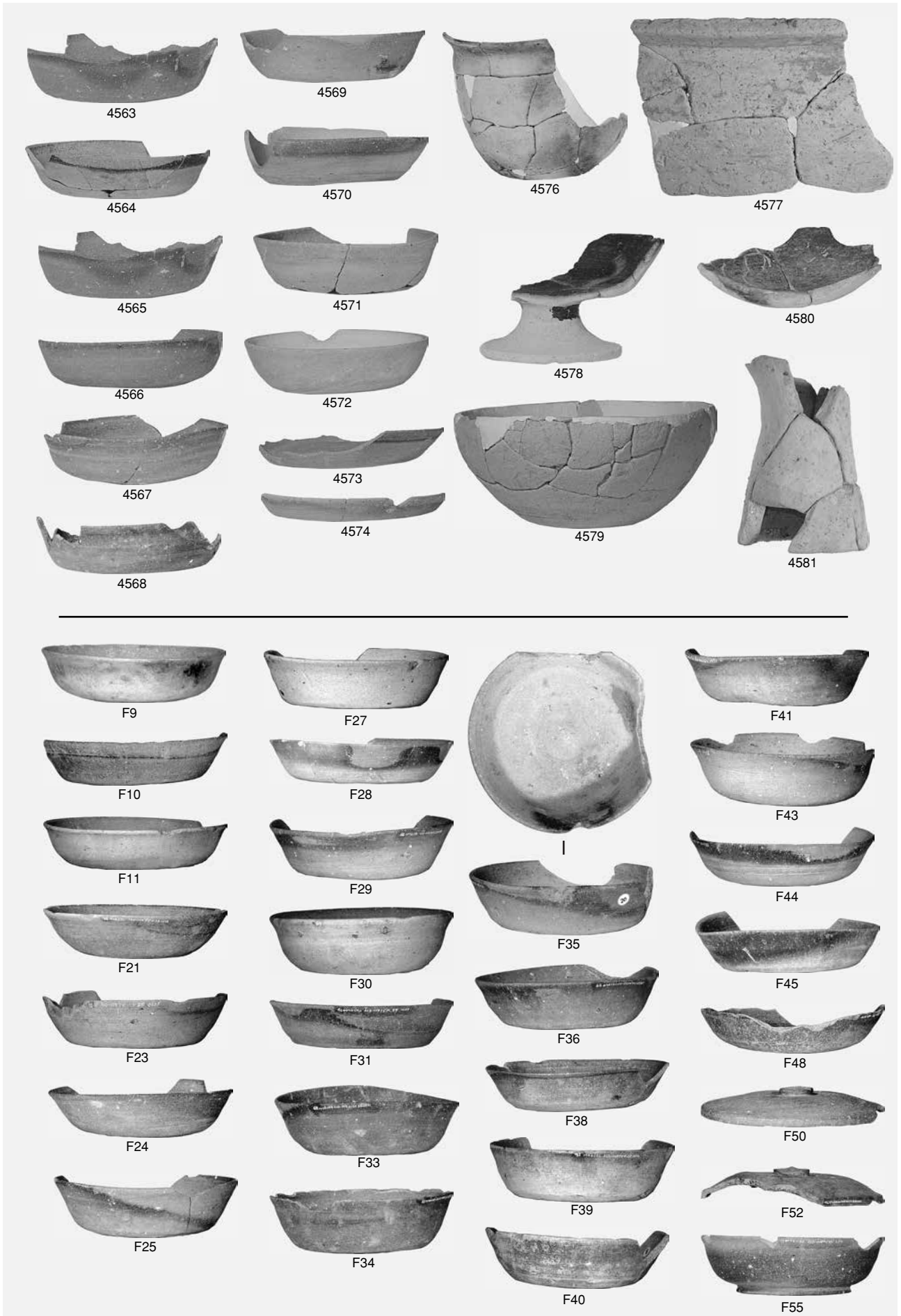








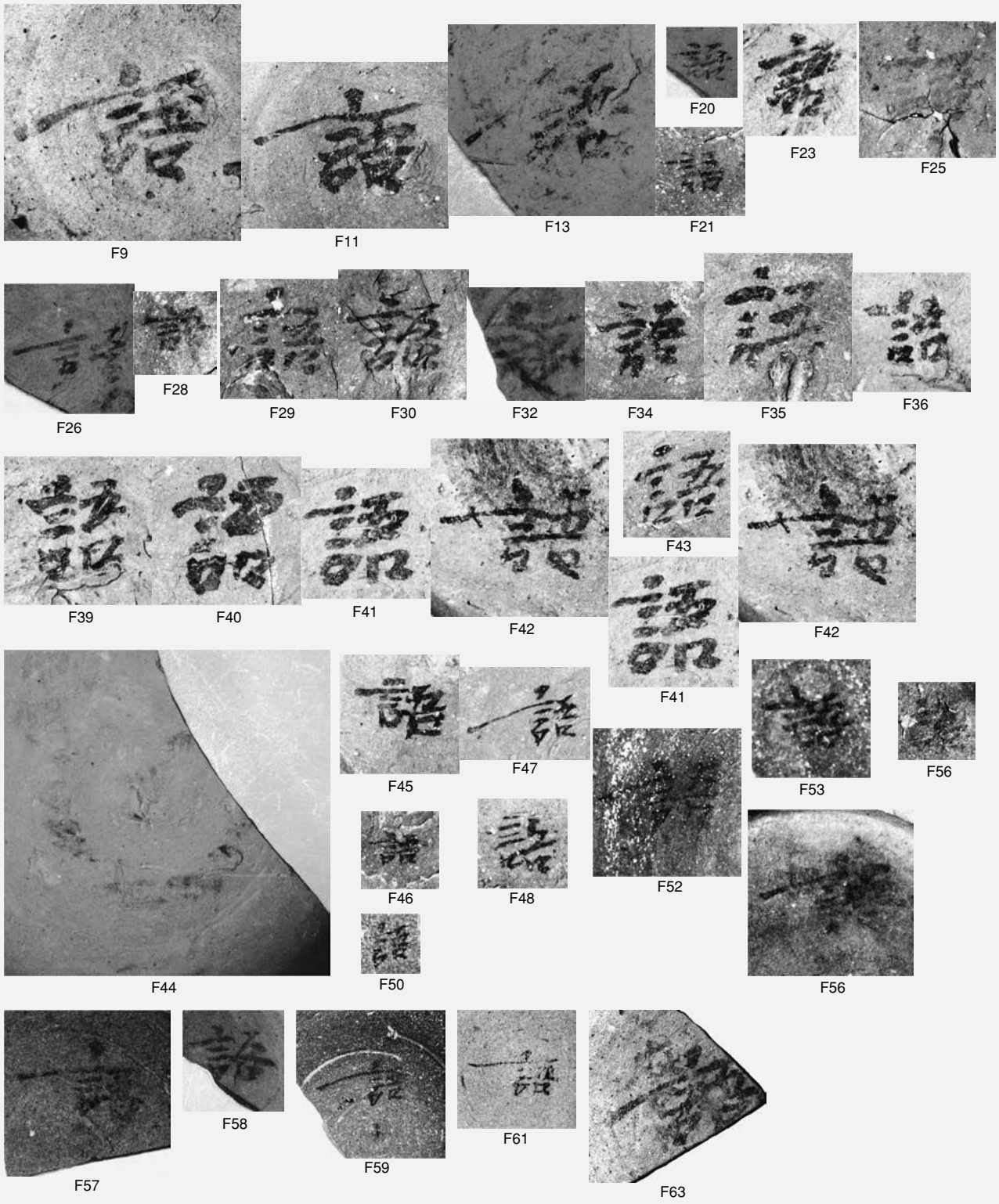
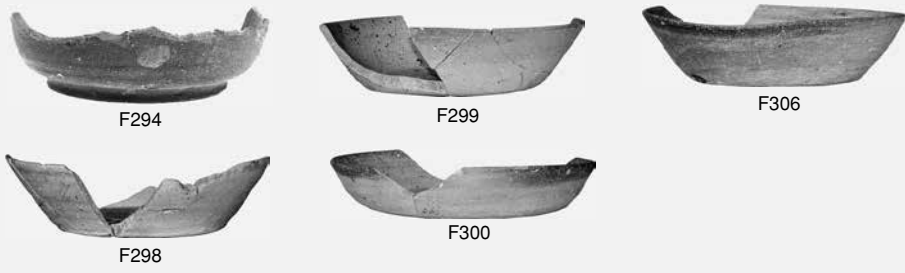


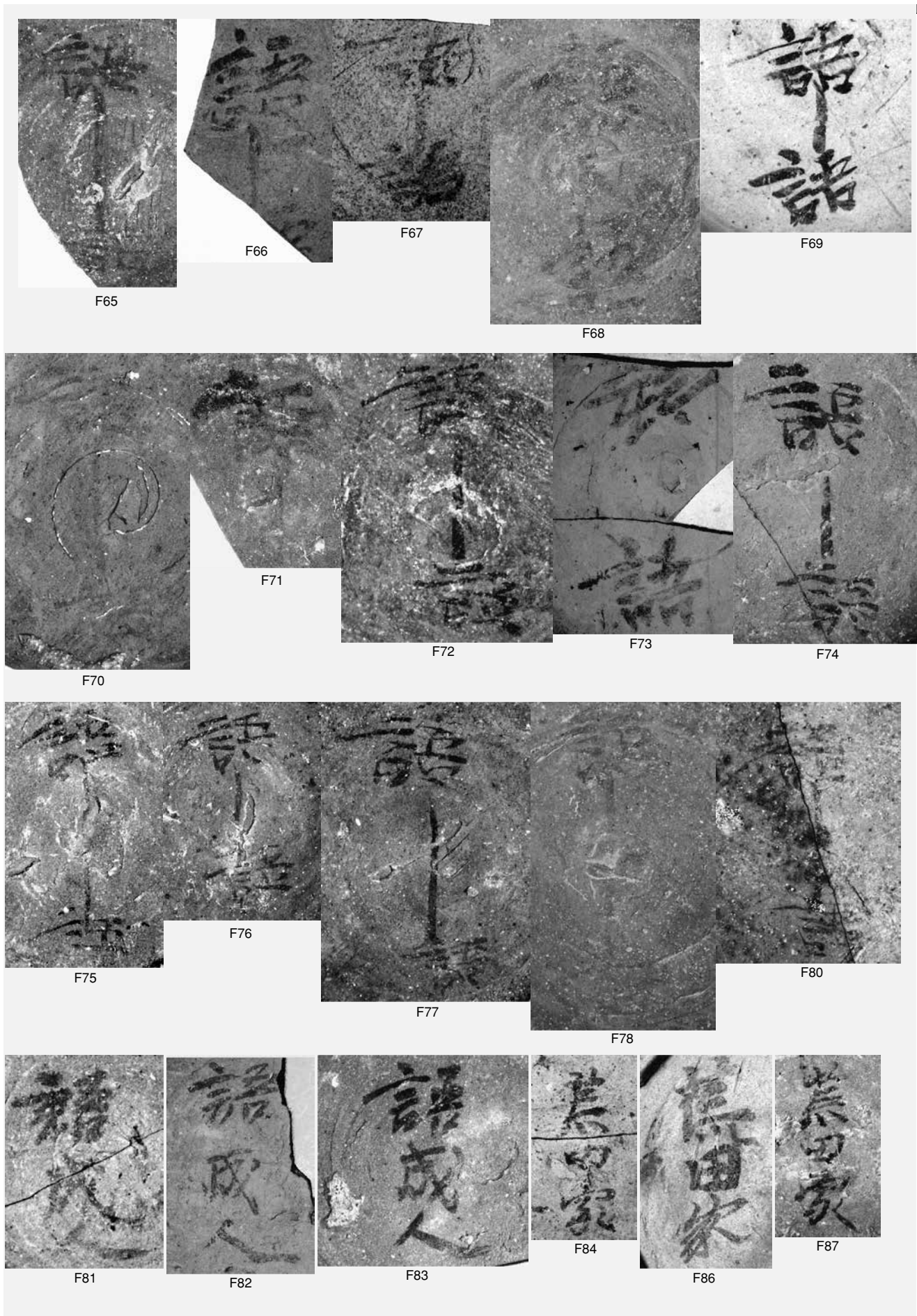










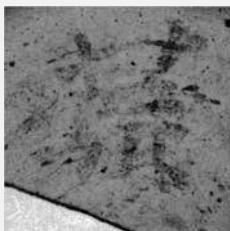




F88



F89



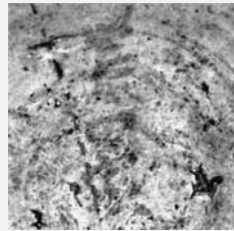
F91



F92



F93



F94



F97



F98



F102



F96



F104



F110



F108



F109



F111



F114



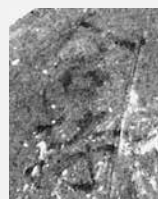
F115



F116



F117



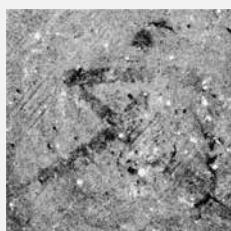
F118



F120



F123



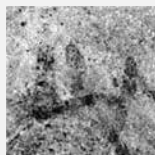
F125



F126



F127



F129



F130



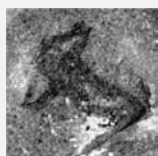
F133



F134



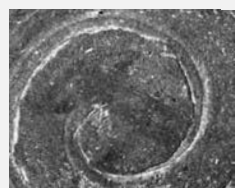
F135



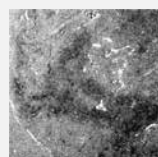
F136



F138



F143



F144



F145



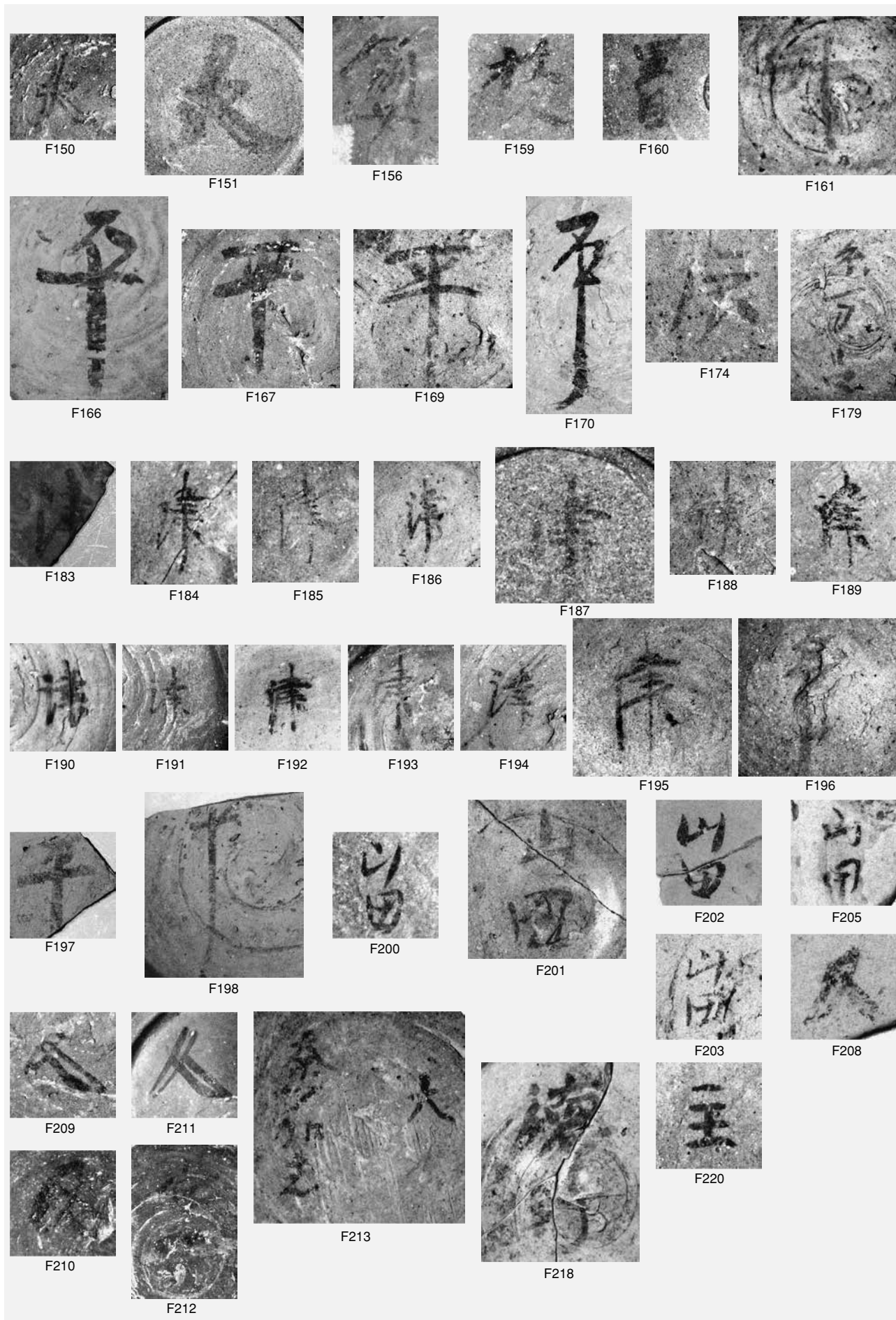
F147



F148

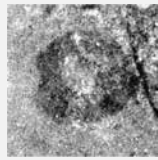


F149





F221



F224



F237



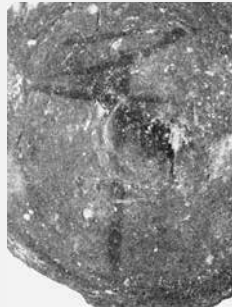
F239



F242



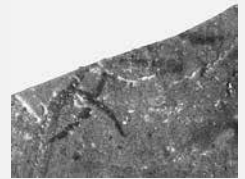
F236



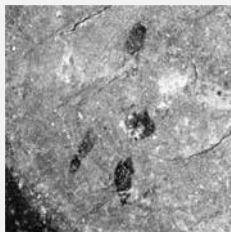
F238



F241



F244



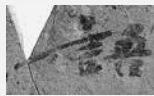
F250



F256



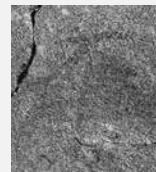
F261



F263



F264



F265



F266



F267



F270



F271



F273



F274



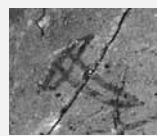
F280



F281



F283



F286



F287



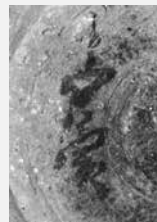
F288



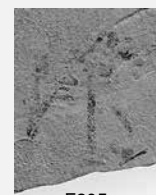
F282



F284



F289



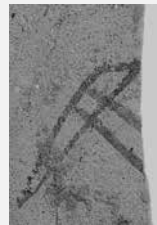
F295



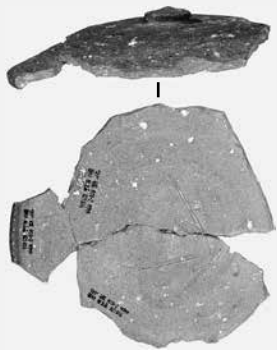
F296



F285



F305



F308



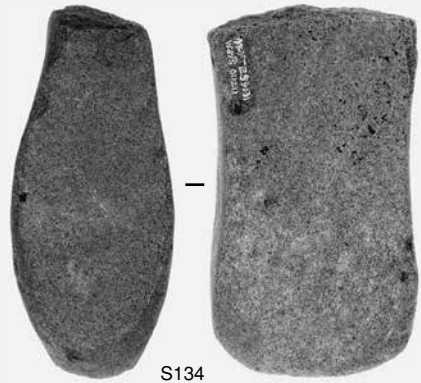
F309



S131



S132



S134



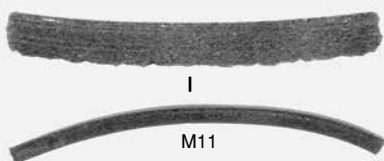
S135



S136



S138



M11



M12



W501



W503



W510



W508



W505

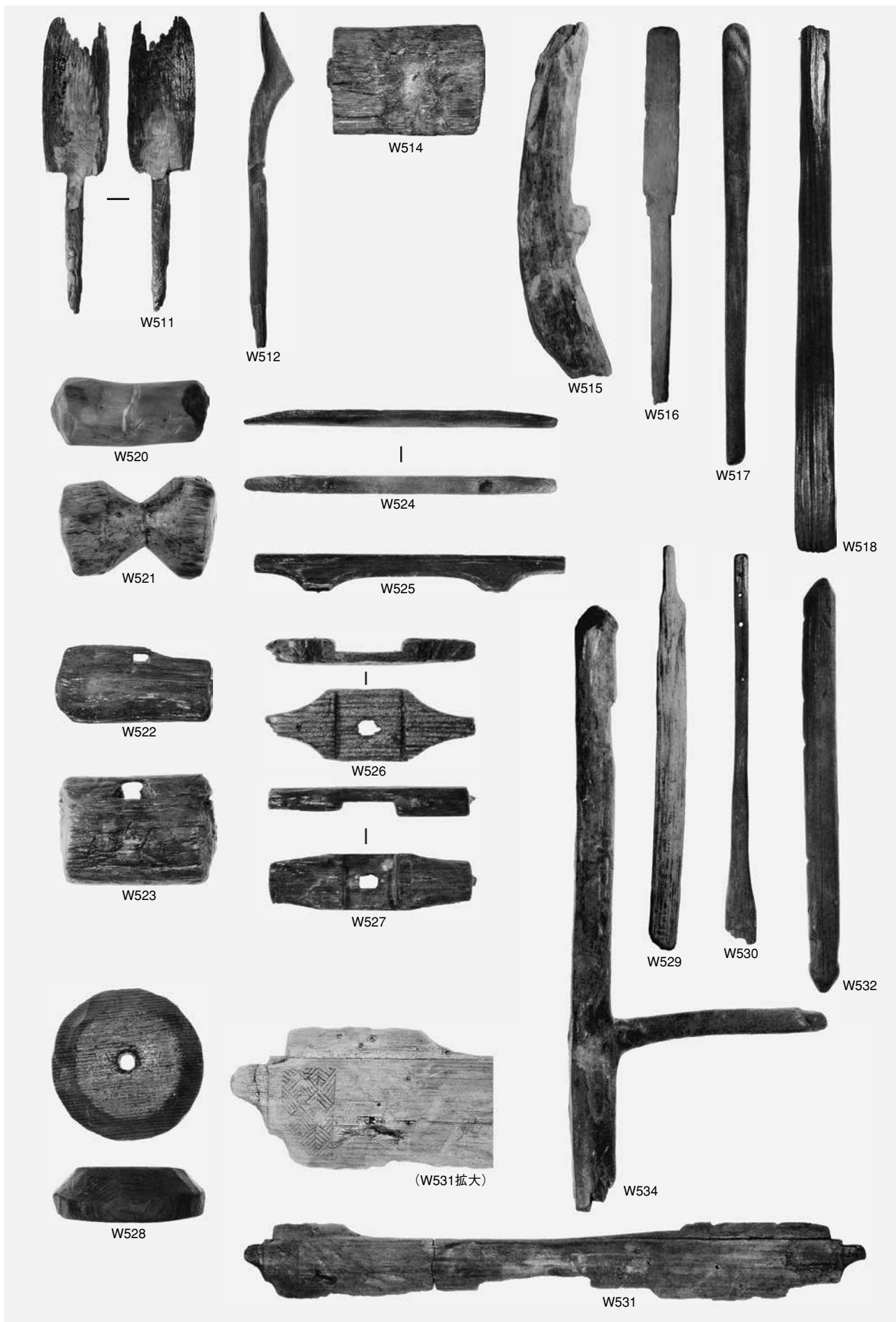


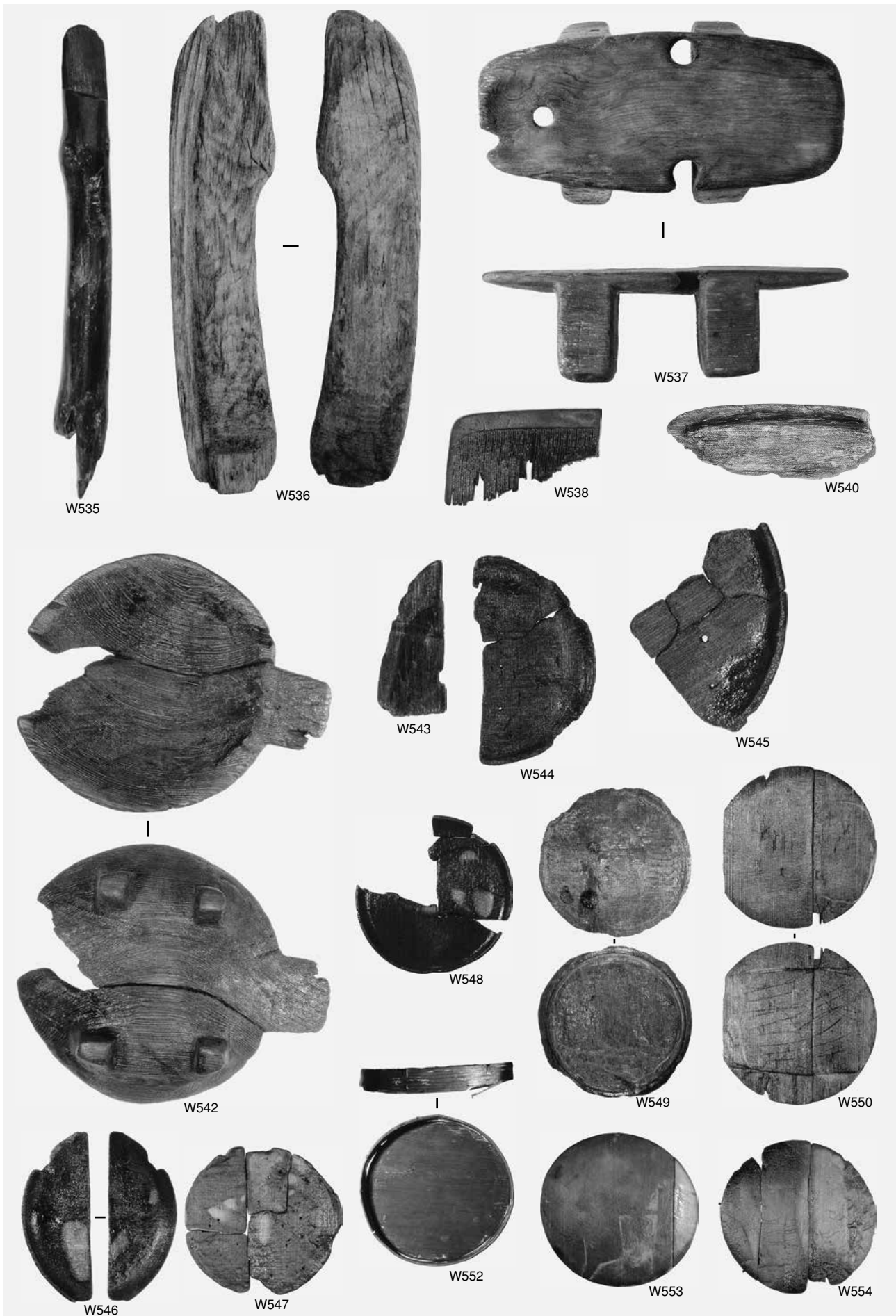
W507

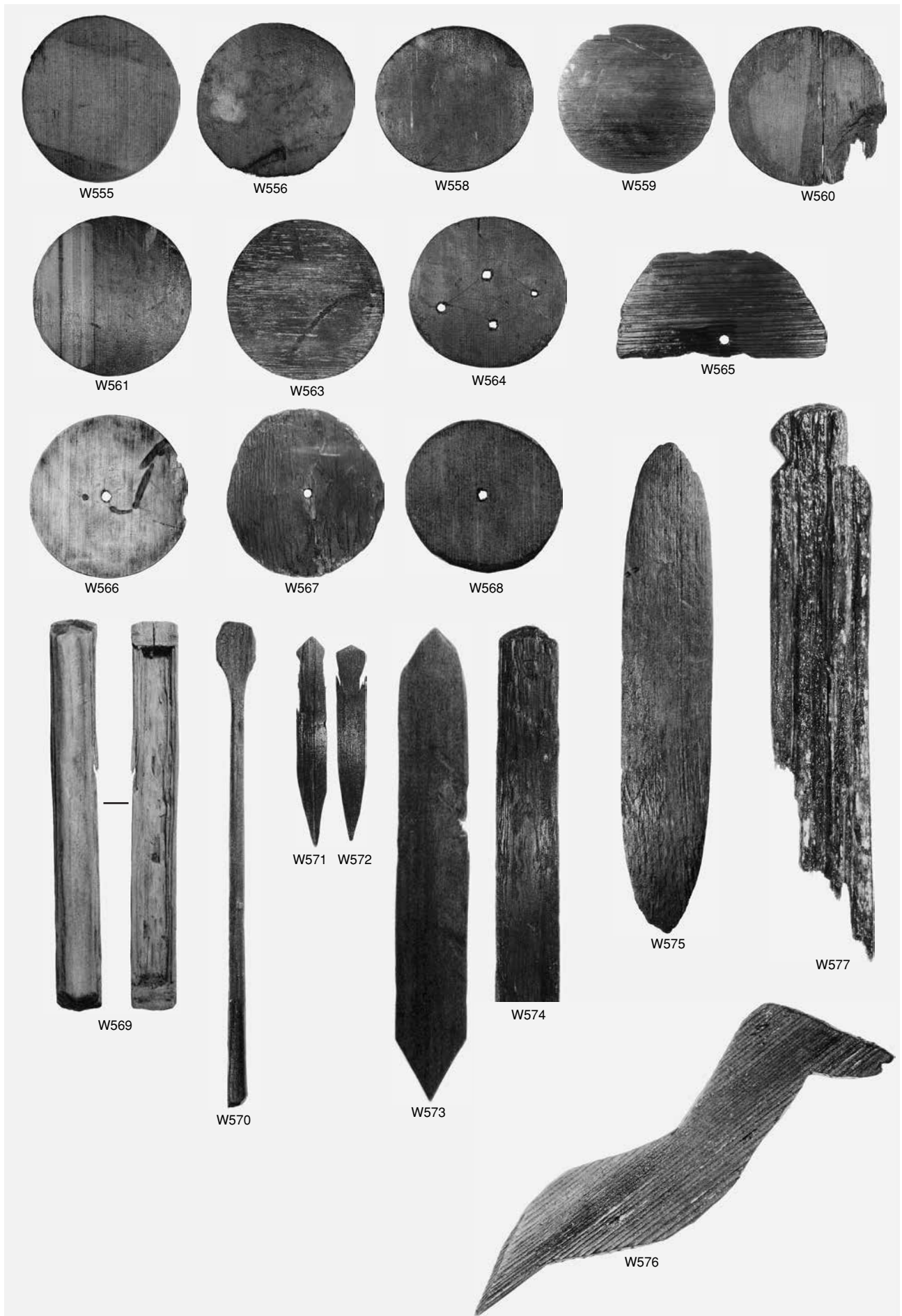


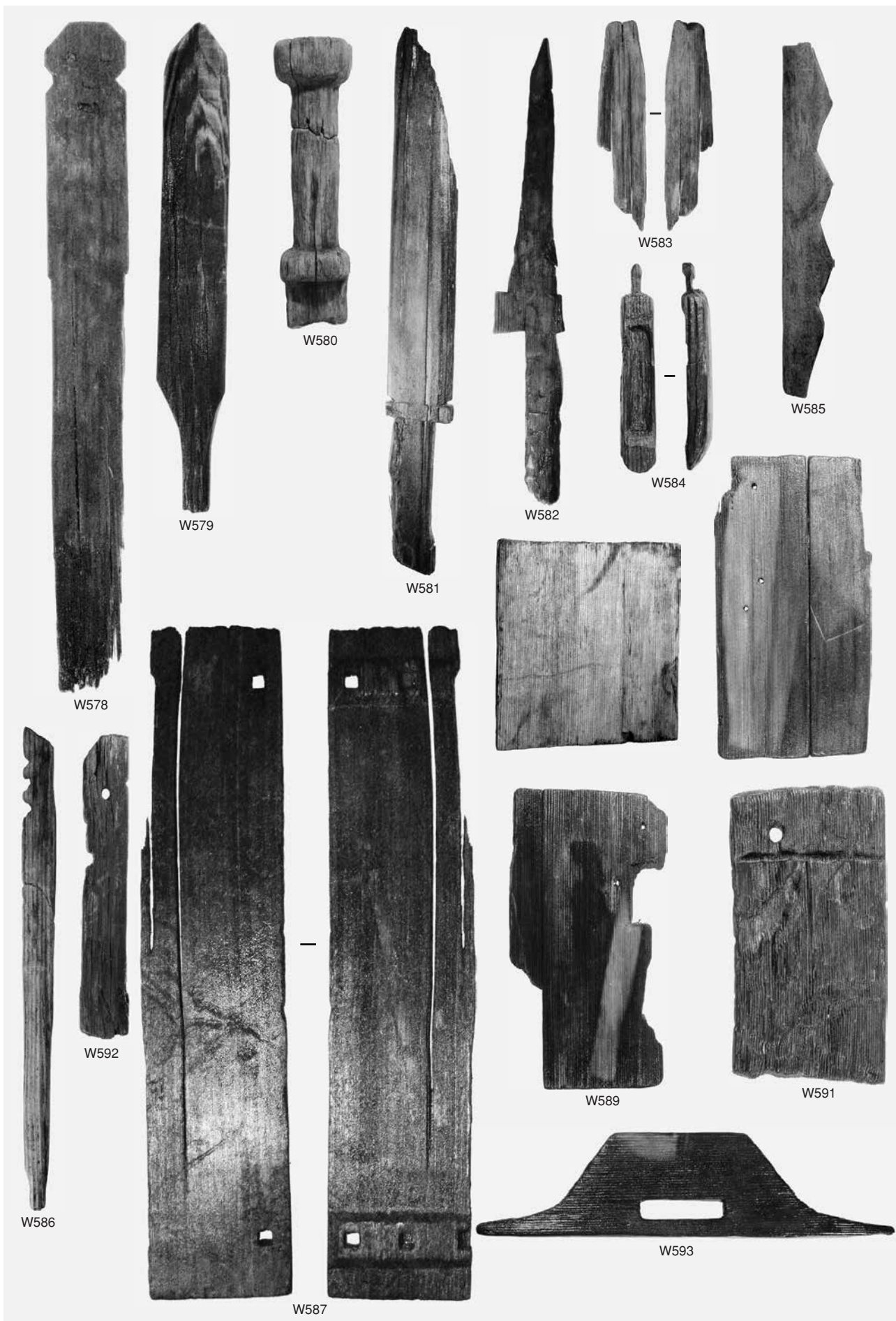
W502

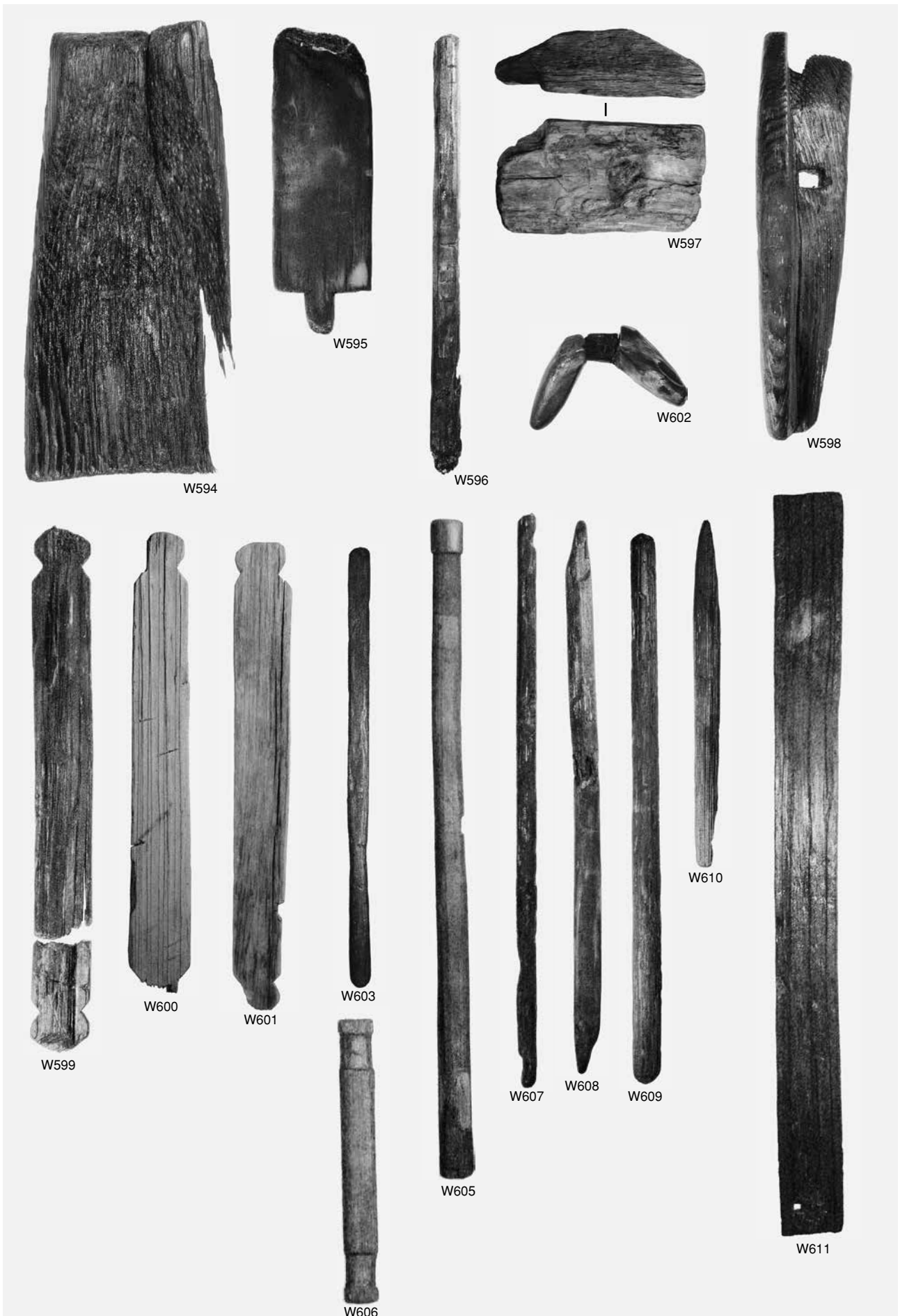


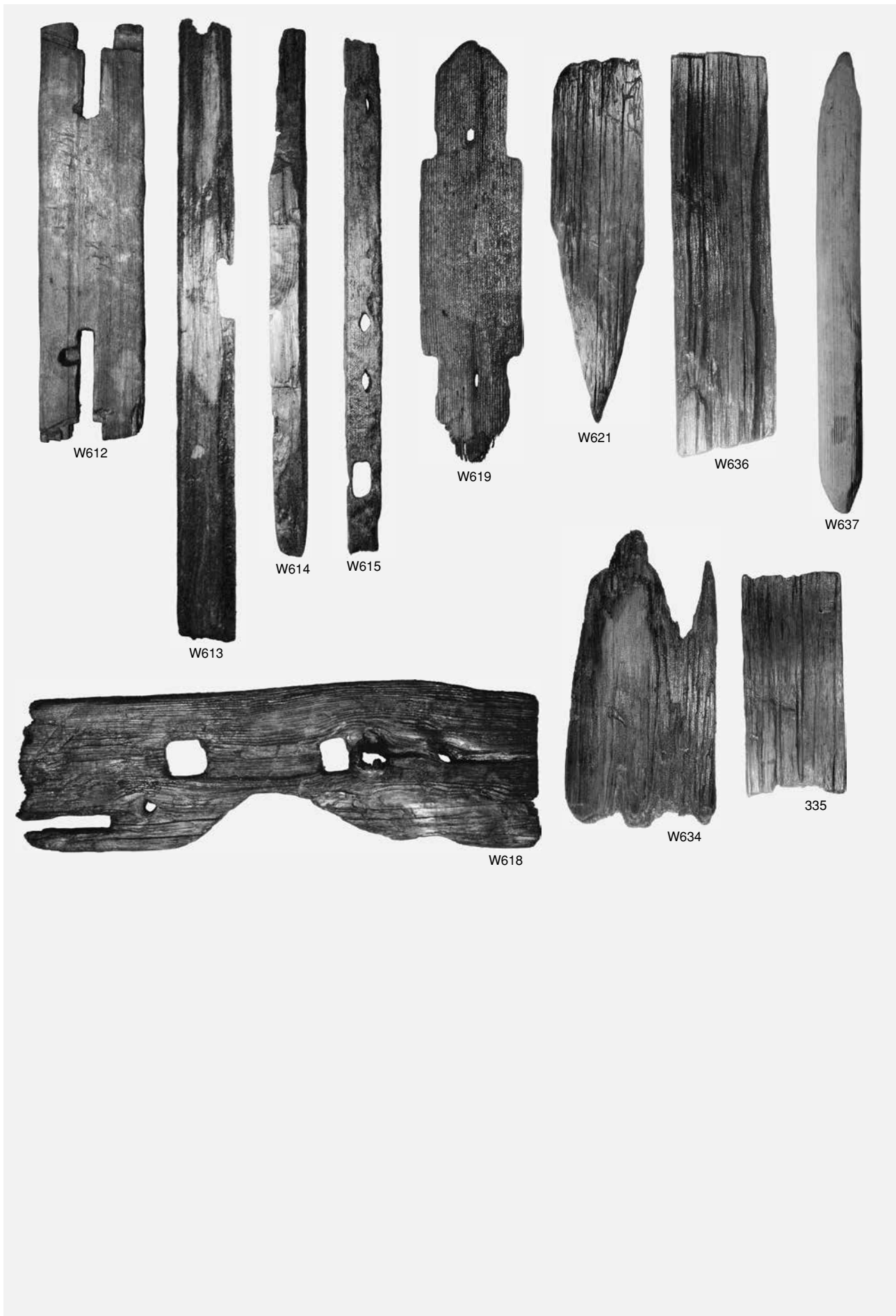


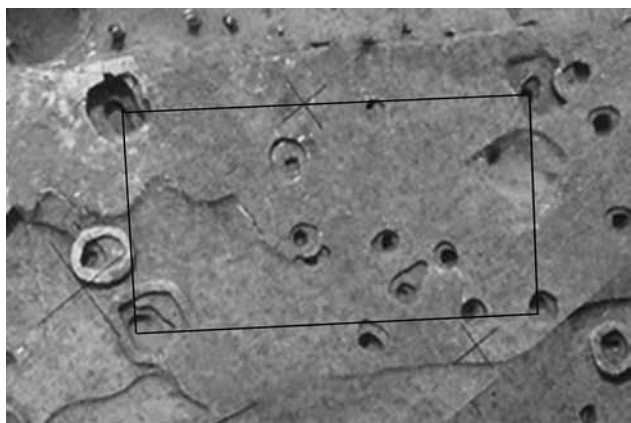




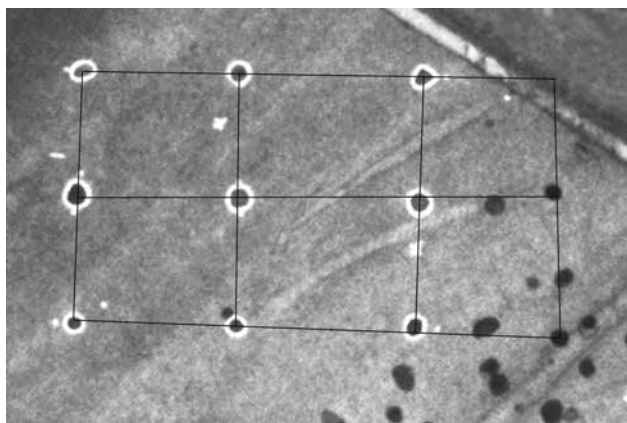








U区SB411



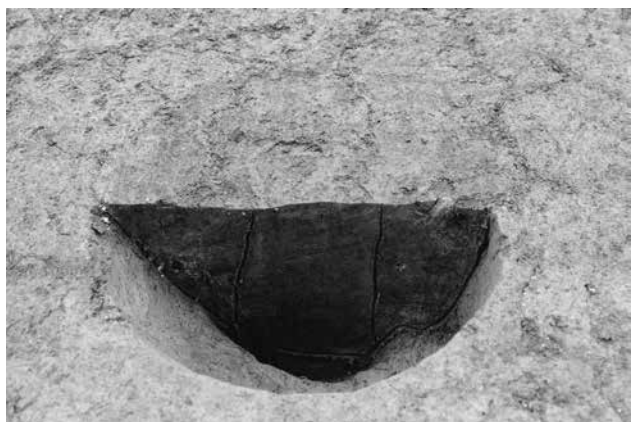
A 4 区SB412



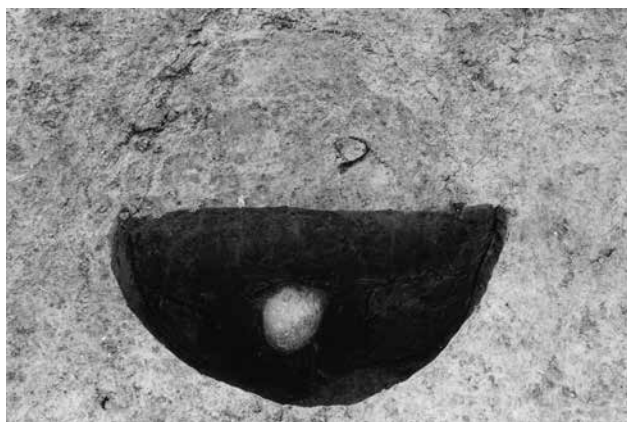
A 4 区SB412-P186土層断面



A 4 区SB412-P188土層断面



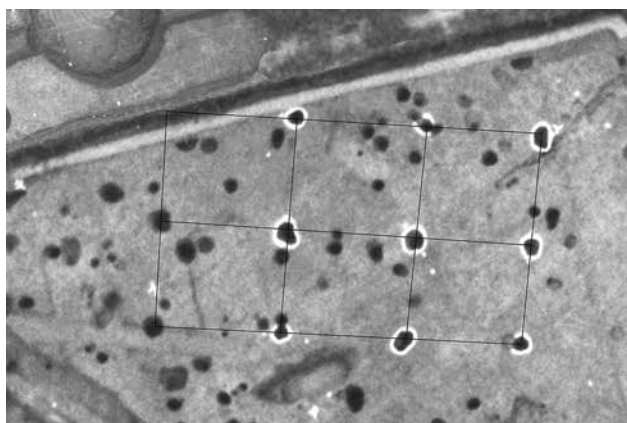
A 4 区SB412-P189土層断面



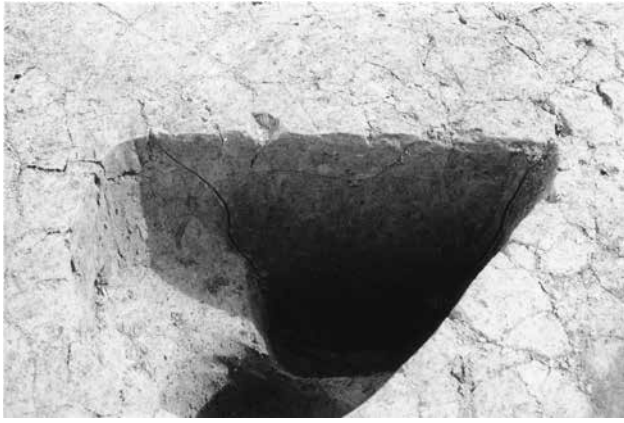
A 4 区SB412-P191土層断面



A 4 区SB412-P194土層断面



A 4 区SB413



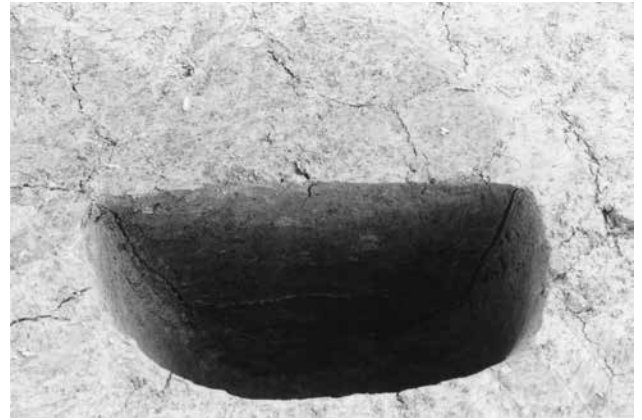
A 4区SB413-P225土層断面



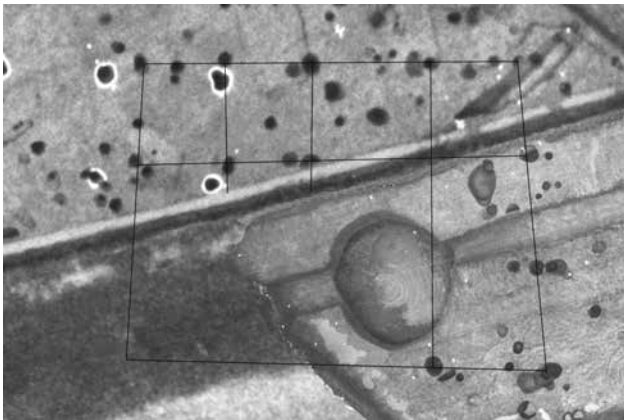
A 4区SB413-P226土層断面



A 4区SB413-P227土層断面



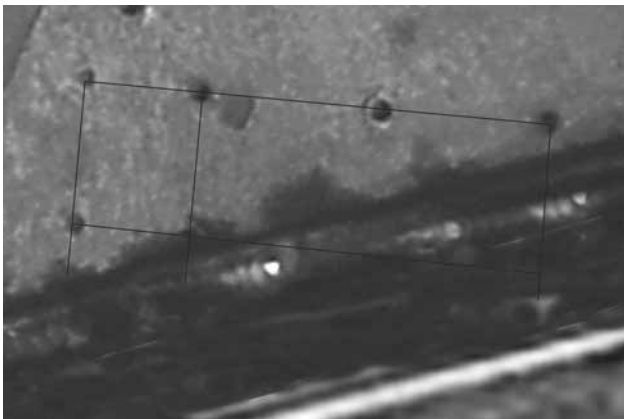
A 4区SB413-P228土層断面



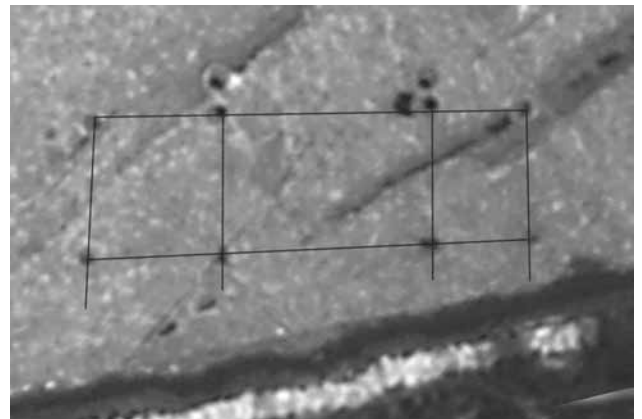
A 4・H1区SB414



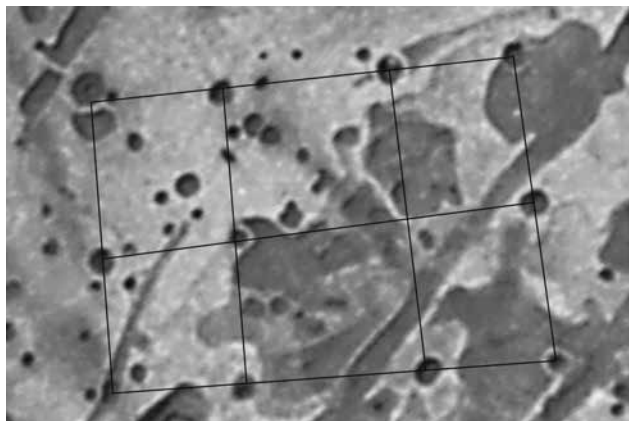
H1区SB414-P01土層断面



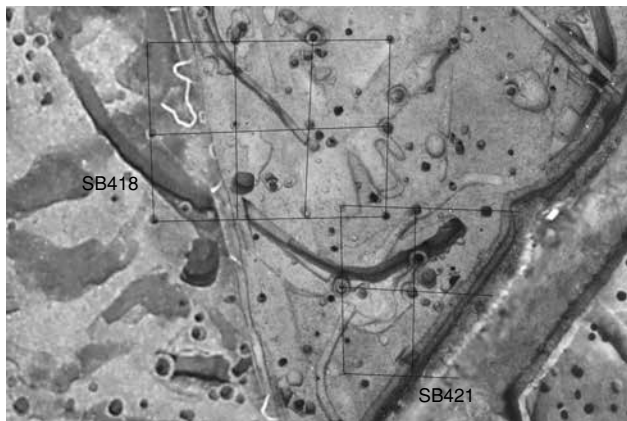
Q1区SB415



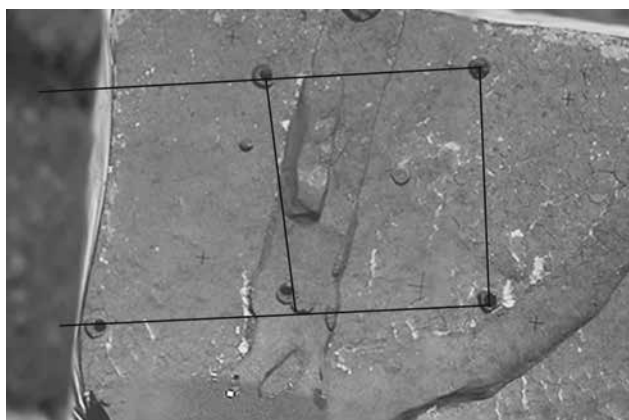
Q1区SB416



Q 1 区SB417



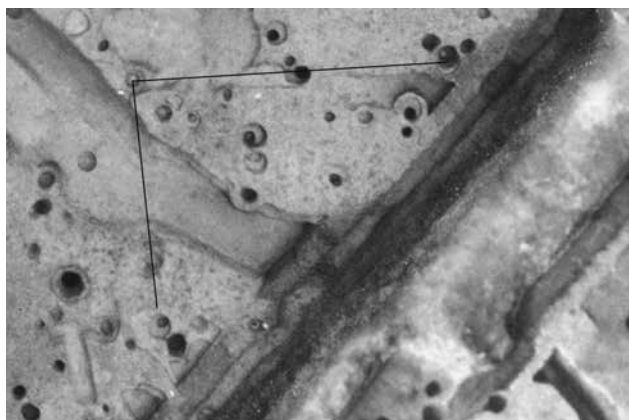
Q 2 区SB418・421



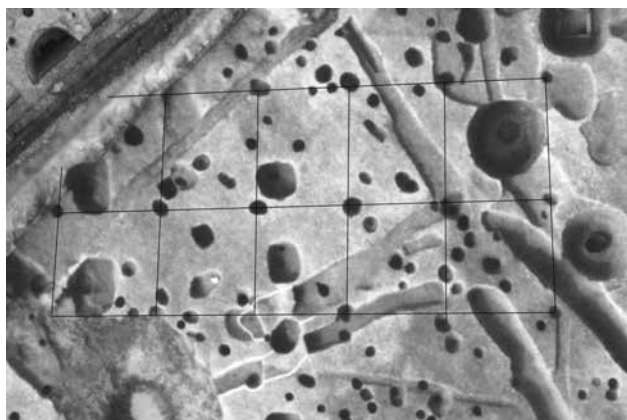
Q 8 区SB419



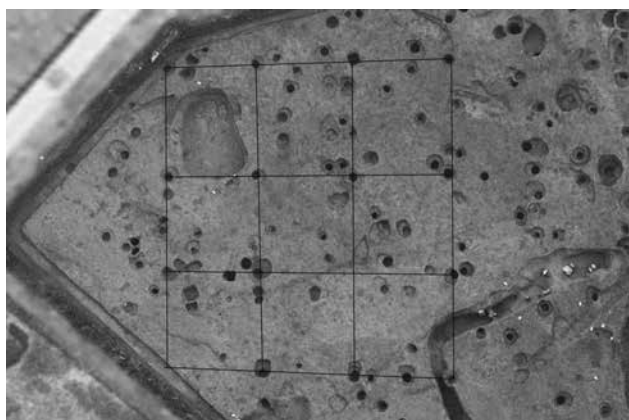
Q 8 区SB420



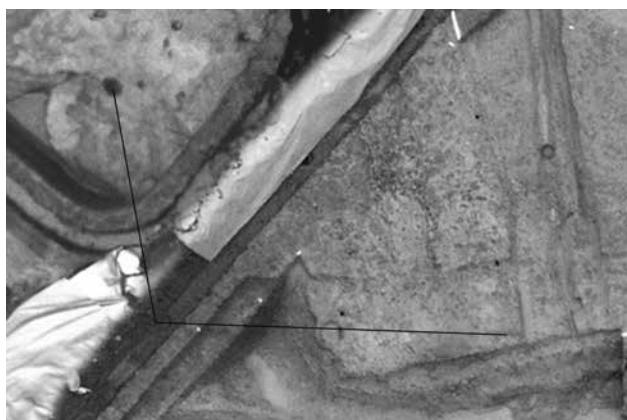
Q 2 区SB422



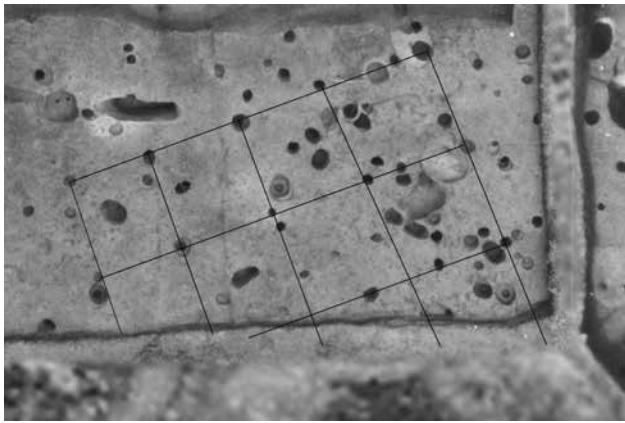
A 3 区SB423



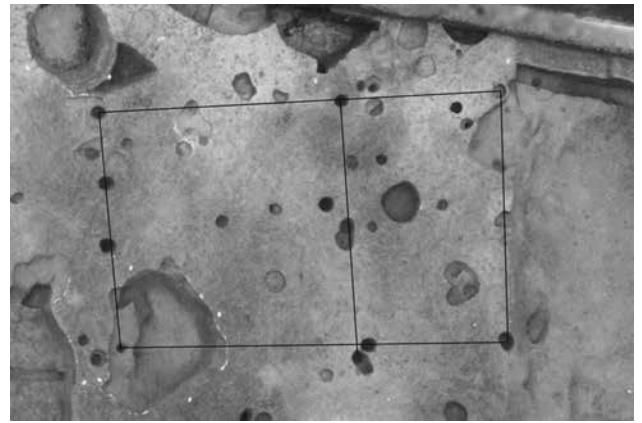
T 8 区SB425



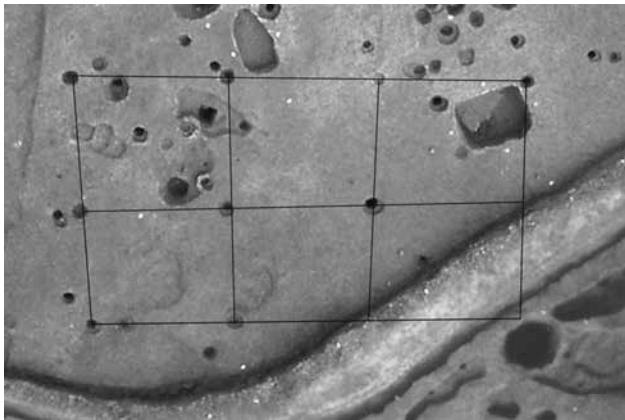
T 8 区SB426



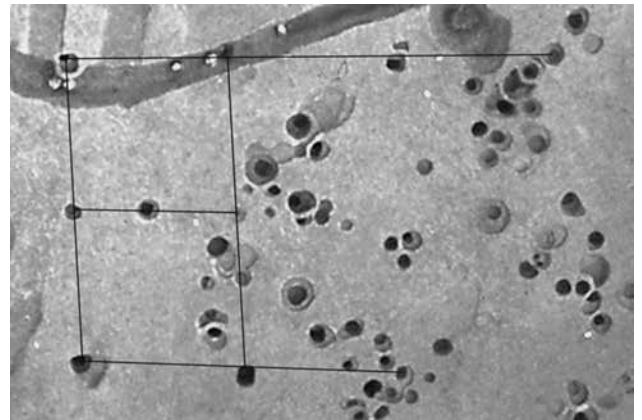
S 2 区SB427



S 2 区SB428



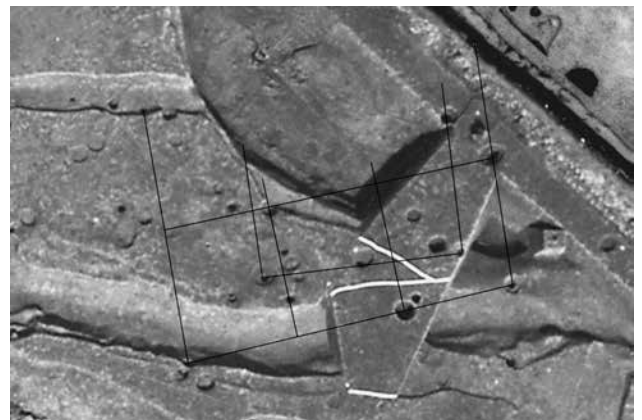
R 2 区SB429



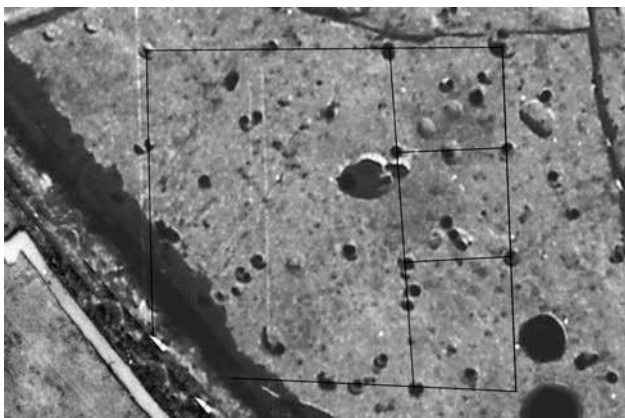
R 2 区SB430



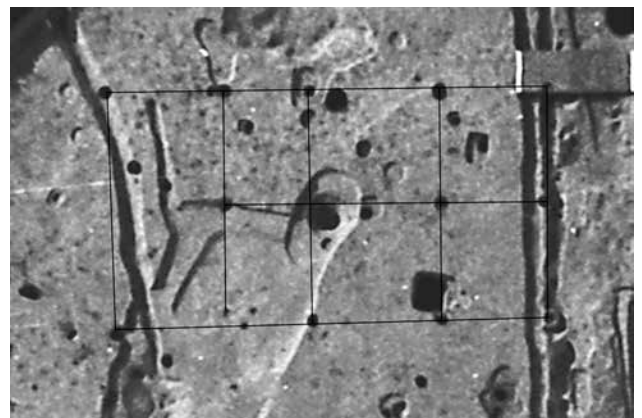
O 2 区SB431



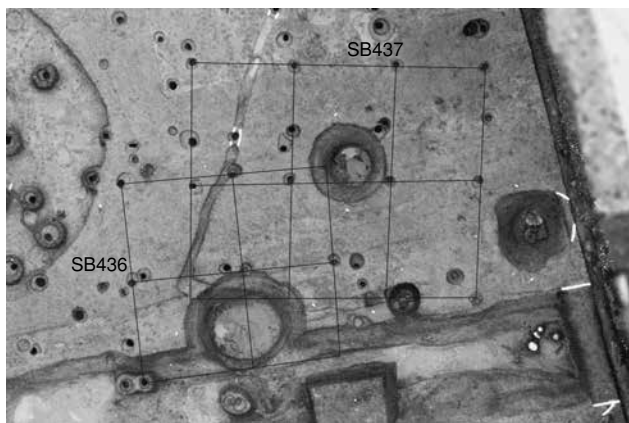
O 2 区SB432・433



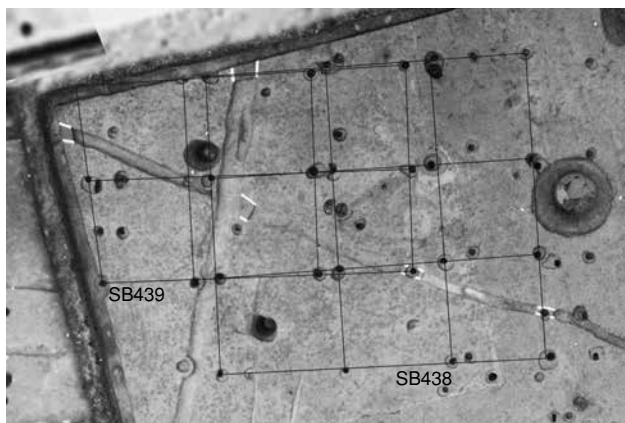
N 1 区SB434



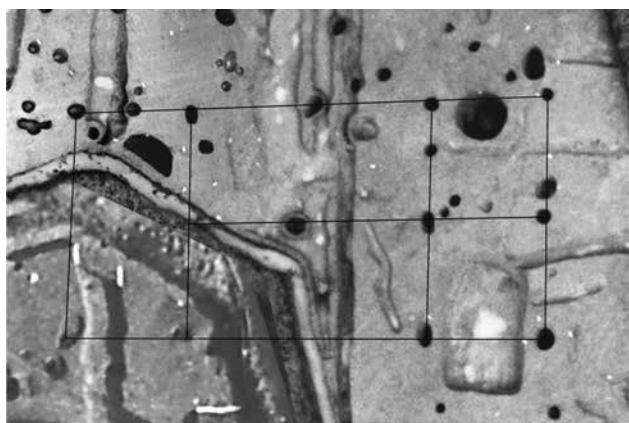
N 1 区SB435



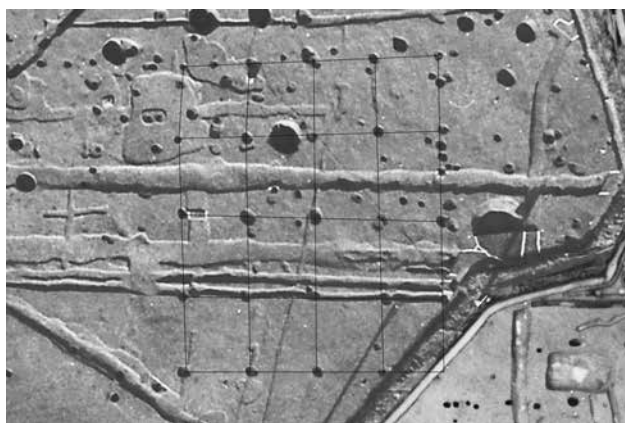
T区SB436・437



T区SB438・439



E区SB440



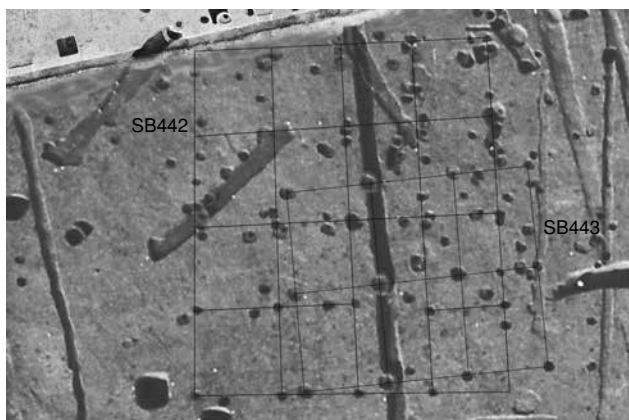
N1区SB441



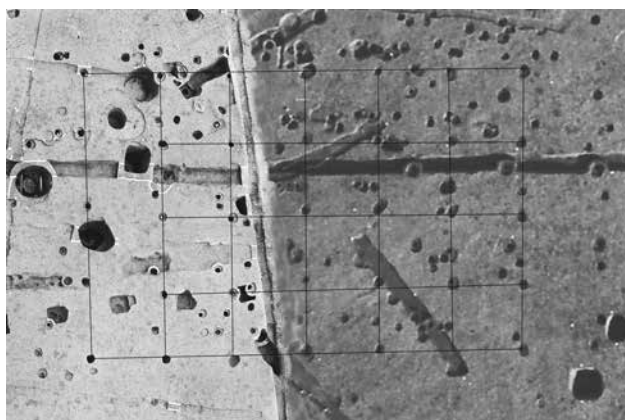
N1区SB441-P47柱根検出状況



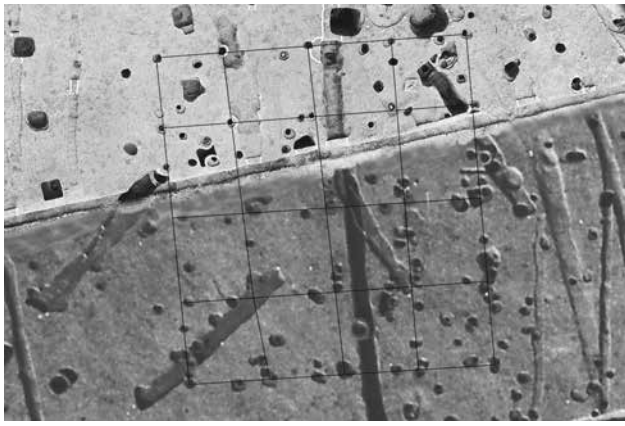
N1区SB441-P49柱根検出状況



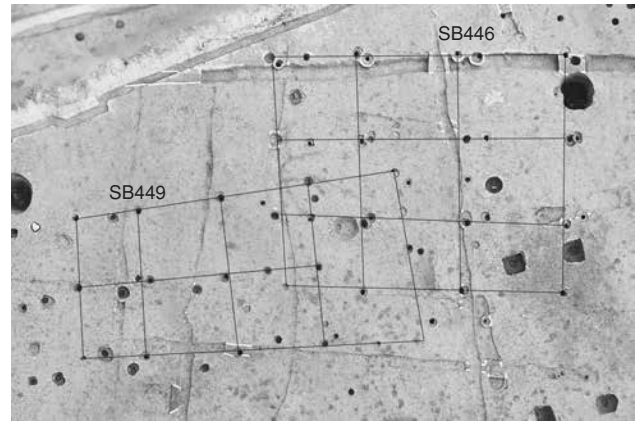
N1区SB442・443



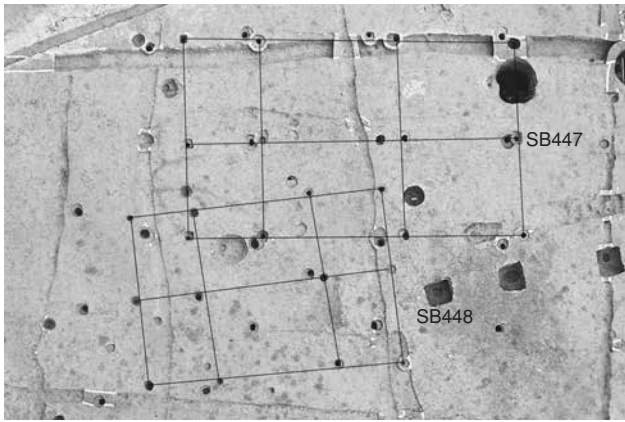
N1区SB444



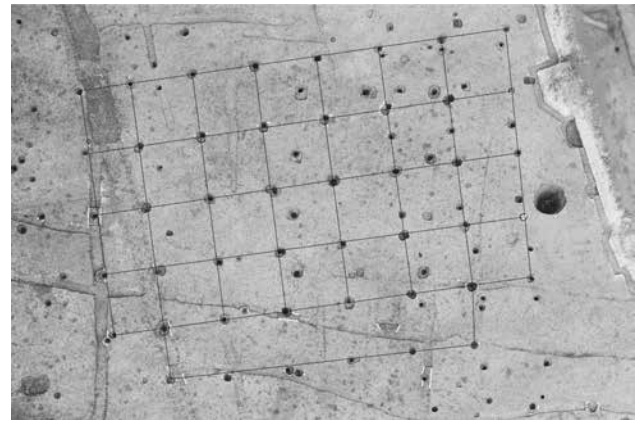
N 1 区SB445



N 2 区SB446・449



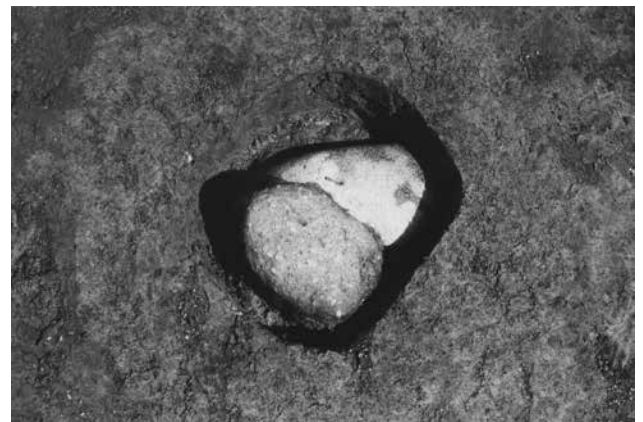
N 2 区SB447・448



N 2 区SB450



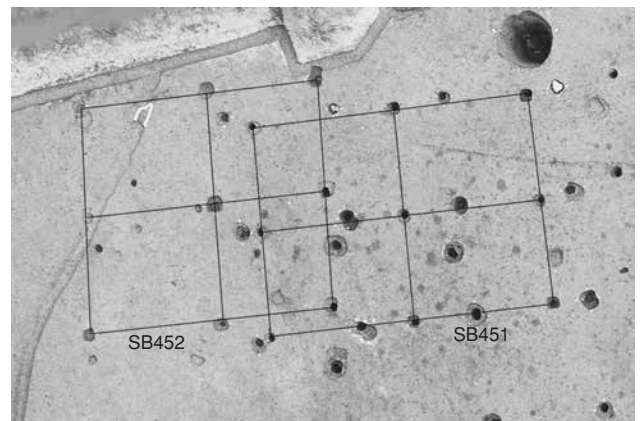
N 2 区SB450-P119



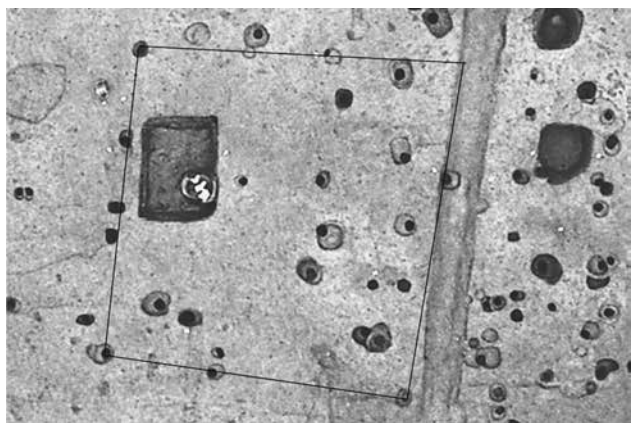
N 2 区SB450-P132



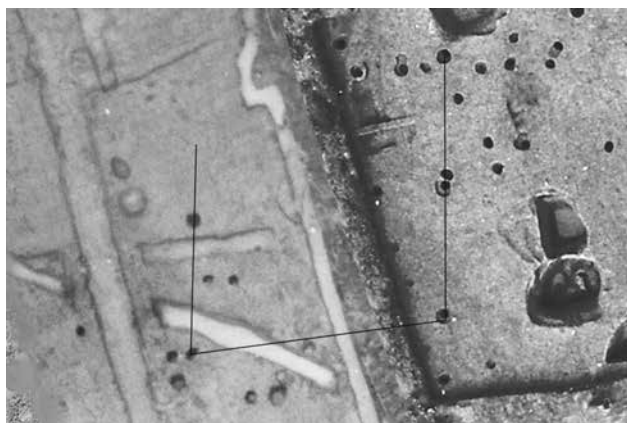
N 2 区SB450-P141



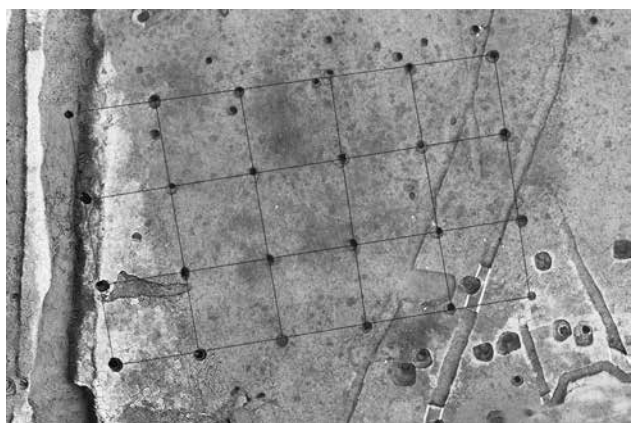
N 2 区SB451・452



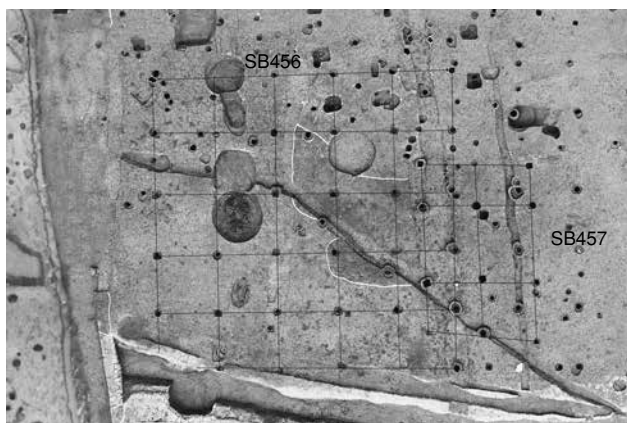
M 2 区SB453



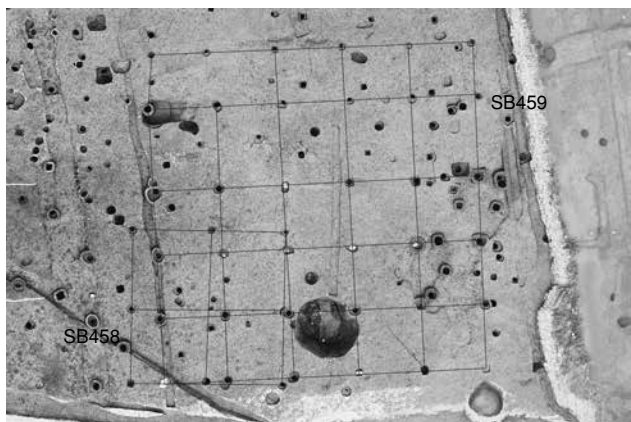
M 1 区SB454



N 2 区SB455



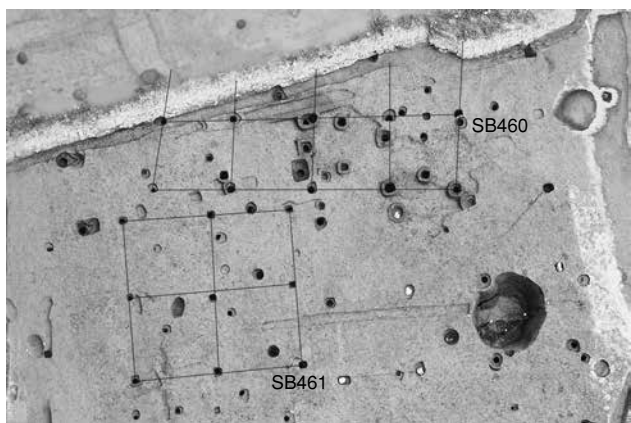
N 2 区SB456・457



N 2 区SB458・459



N 2 区SB459-P65



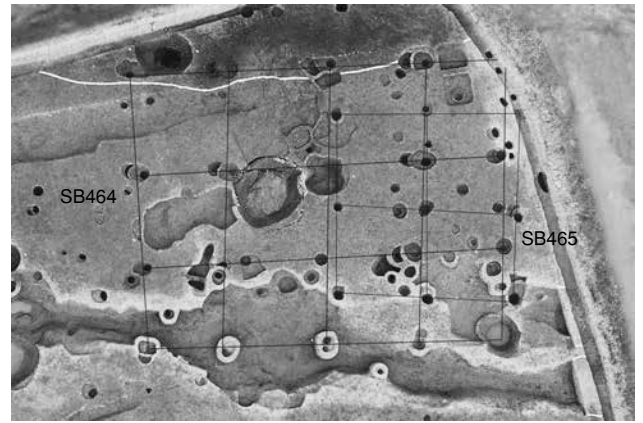
N 2 区SB460・461



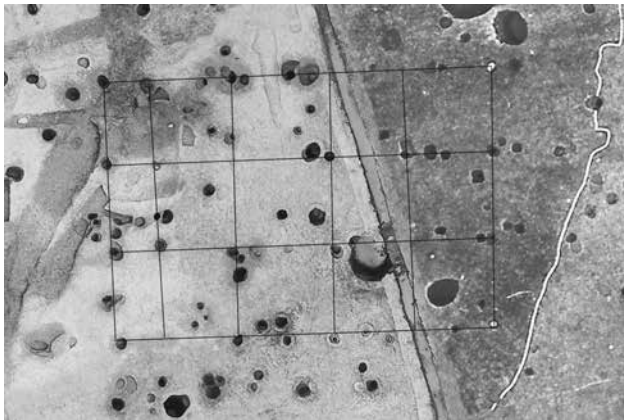
M 1 区SB462



M 1 区SB463



N 2 区SB464・465



M 3 区SB466



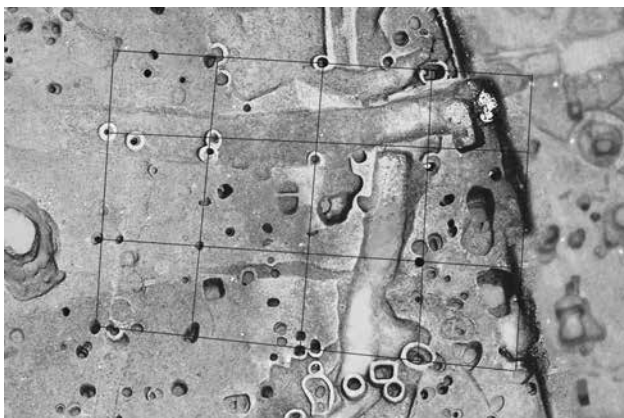
W区SB467



W区SB468



V 2 区SB469



V 2 区SB470



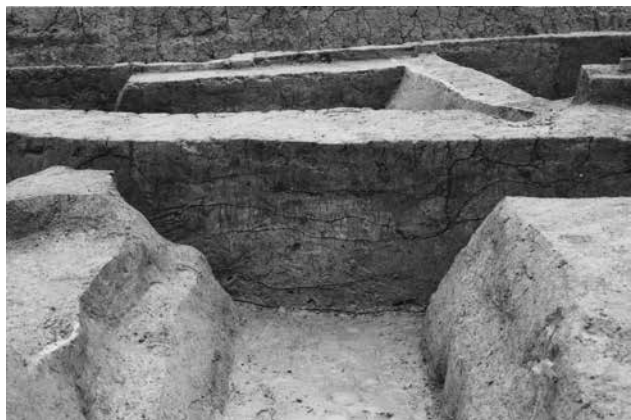
A 2 区SD22土層断面



A 4 区SD73土層断面



A 4 区SD83土層断面



B 2 区SD17土層断面



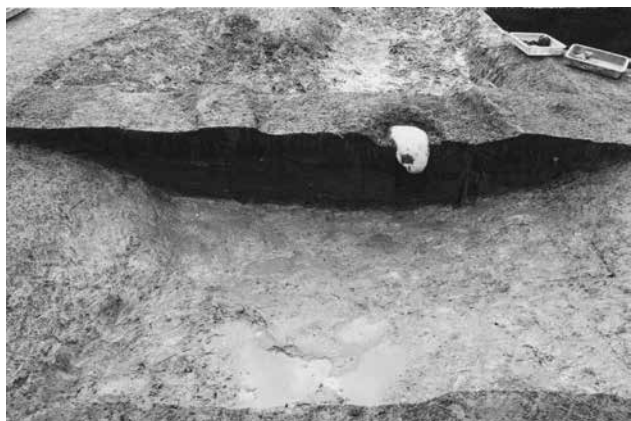
C 2 区SD17



C 8 区SD03合流部土層断面



D 1 区SD01



E区SD01土層断面



E区SD02土層断面



E区SD10土層断面



E区SD14土層断面



E区SD15土層断面



E区SD19土層断面



E区SD20土層断面



E区SD21土層断面



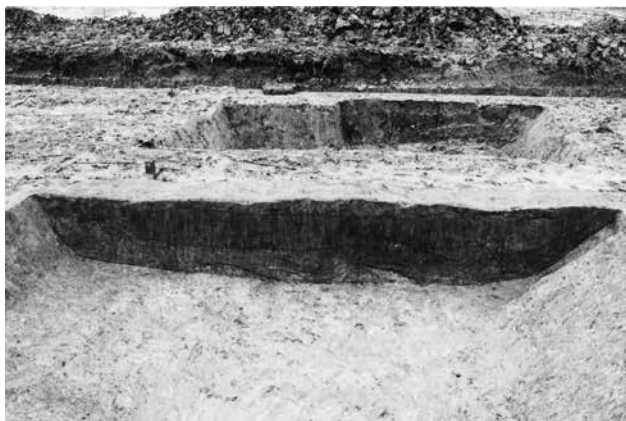
F区SD01土層断面



F区SD12土層断面



F区SD14土層断面



F区SD15土層断面



F区SD18 (右)・19 (中)・20 (左) 土層断面



G区SD11土層断面



G区SD12土層断面



G区SE03 (左)・SD14 (中)・SD13 (右) 土層断面



G区SD15土層断面



K区SD01土層断面



M1区SD16(左)・13(右)土層断面



M1区SD13遺物出土状況



M2区SD02(右)・03(左)土層断面



M2区SD04土層断面



M2区SD05土層断面



M2区SD07土層断面



M2区SD09(中部)土層断面



M2区SD09北部礫群検出状況



M 2 区SD11 (西側落込み部分) 土層断面



M 2 区SD11 (西側落込み部分) 遺物出土状況



M 3 区SD01~04



M 3 区SD05 (右)・06 (左) 土層断面



M 3 区SD05・06



M 3 区SD05・06間礫群検出状況



M 3 区SD05内杭列検出状況



M 3 区SD13土層断面



M 3 区SD13・18



M 3 区SD20土層断面



M 3 区SD22土層断面



M 3 区SD22



M 3 区SD24 (SD07) 土層断面



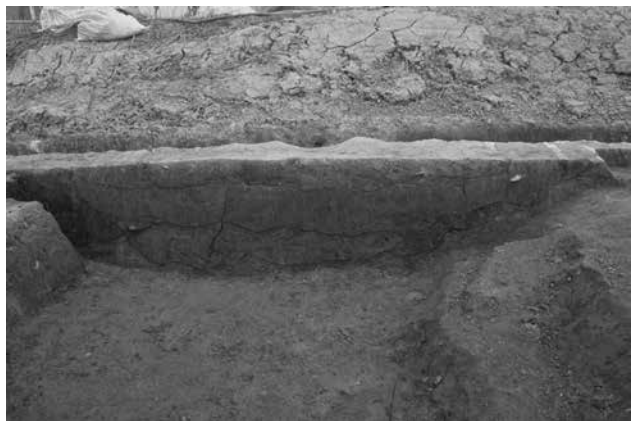
M 3 区SD26 (左)・25 (右) 土層断面



M 3 区SD26土層断面



M 3 区SD24~26



M 3 区SD32土層断面



N 1 区SD01土層断面



N 1 区SD02土層断面



N 1 区SD10土層断面



N 1 区SD10遺物出土状況



N 1 区SD11土層断面



N 1 区SD17遺物出土状況



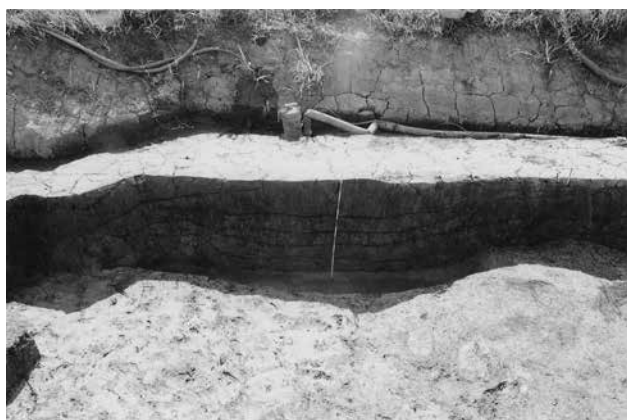
N 1 区SD02 (左)・18 (右) 土層断面



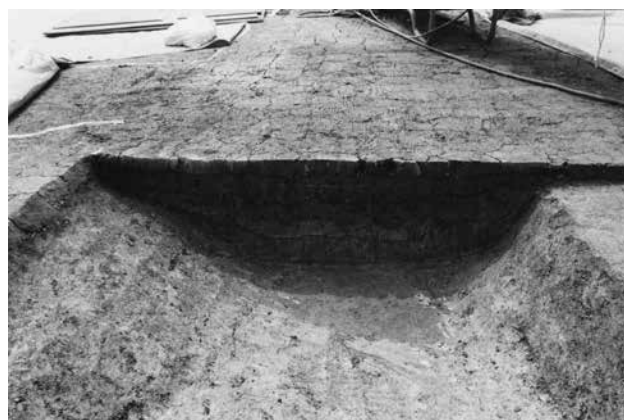
N 2 区SD03 (西端) 土層断面



N 2 区SD02・03



N 2 区SD04 (西端) 土層断面



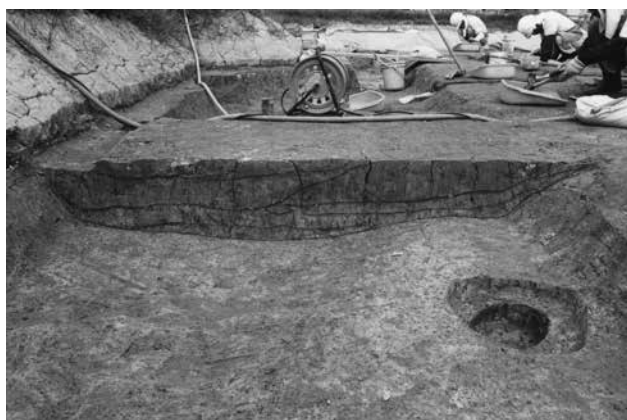
N 2 区SD06土層断面



N 2 区SD07土層断面



N 2 区SD18土層断面



N 2 区SD26土層断面



O 1 区SD09土層断面



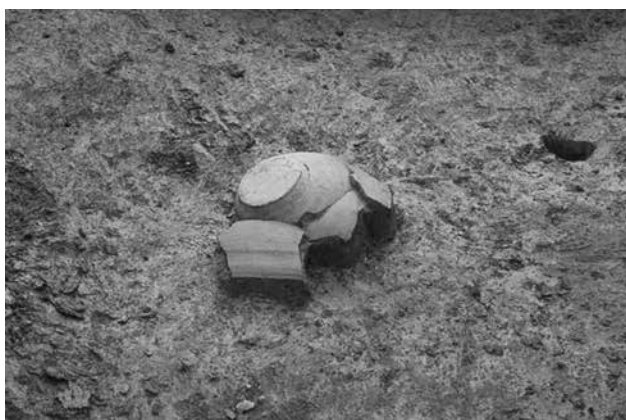
O 2 区SD01土層断面



O 2 区SD14土層断面



Q 1 区SD01



Q 1 区SD01遺物出土状況



Q 1 区SD03・04・23・24



R 2 区SD01



S 2 区SD01



S 2 区SD13土層断面



S 3 区SD02・07



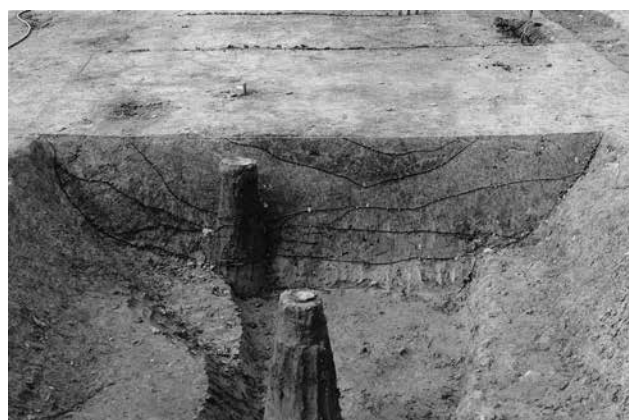
S 3 区SD02土留め状構造物検出状況



S 4 区SD03



T区SD01(西)土層断面



T区SD05土層断面



T区SD11土層断面



T区SD12土層断面



T区SD13土層断面



T区SD21土層断面



T区SD22土層断面



U区SD01



V1区SD04・12・03



V1区SD05



V1区SD09~11



V2区SD01土層断面



W区SD01土層断面



W区SD02



W区SD03土層断面



W区SD51土層断面



A1区SE01井戸側内土層断面



A1区SE02土層断面



A1区SE02



A2区SK24



製品A2区SK24木製品出土状況



A 3 区SE04



A 3 区SE04断ち割り



A 3 区SE05



A 3 区SE05断ち割り



A 3 区SE07土層断面



A 3 区SE07



A 3 区SE08・SD61土層断面



A 3 区SE08



A 3 区SE09土層断面 1



A 3 区SE09土層断面 2



A 3 区SE10



A 3 区SE11



A 3 区SE12



A 3 区SE13土層断面



A 3 区SE14



A 3 区SE15



A 3 区SE16土層断面



A 4 区SE17土層断面



A 4 区SE18土層断面



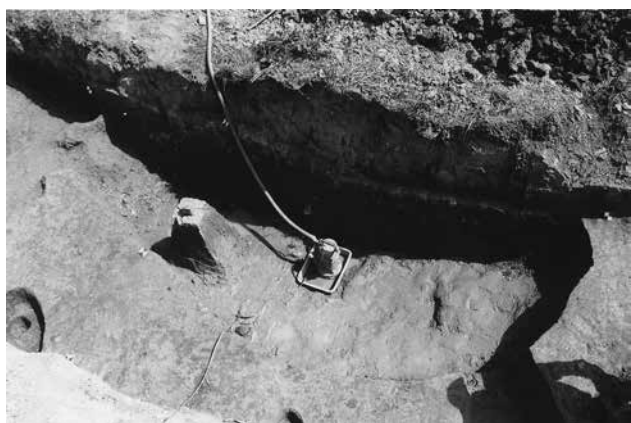
A 4 区SE18



C 2 区SE01土層断面



C 2 区SE01



C 8 区SE01



E 区SE01



E区SE02土層断面



E区SE03



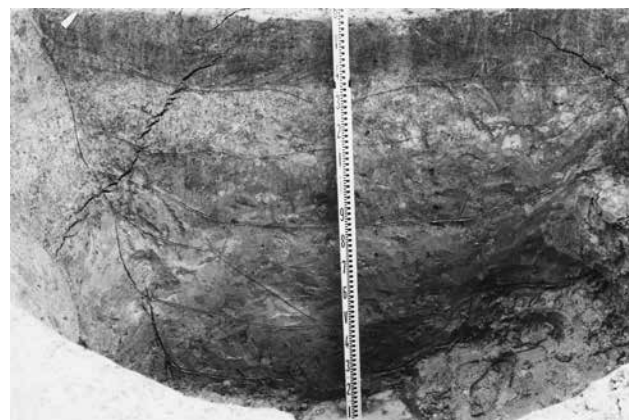
E区SE07



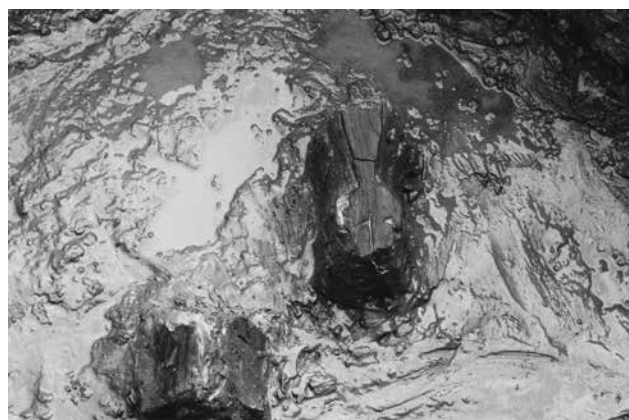
F区SE01土層断面



F区SE02



F区SE05土層断面



F区SE05遺物出土狀況



F区SE07



F区SE09土層断面



F区SE10土層断面



F区SE11



G区SE01土層断面



G区SE02土層断面



H1区SE01土層断面



H1区SE02



M1区SE01遺物出土狀況



M1区SE02土層断面



M1区SE07(左)・05(右)土層断面



M1区SE06土層断面



M1区SE09土層断面



M1区SE10土層断面



M1区SE12土層断面



M1区SE13土層断面



M1区SE14土層断面



M1区SE15(左)・16(右)土層断面



M1区SE16炭灰層遺物出土状況



M1区SE17上部土層断面



M1区SE17井側内



M1区SE18上部土層



M1区SE20土層断面



M1区SE21遺物出土状況



M1区SE22土層断面



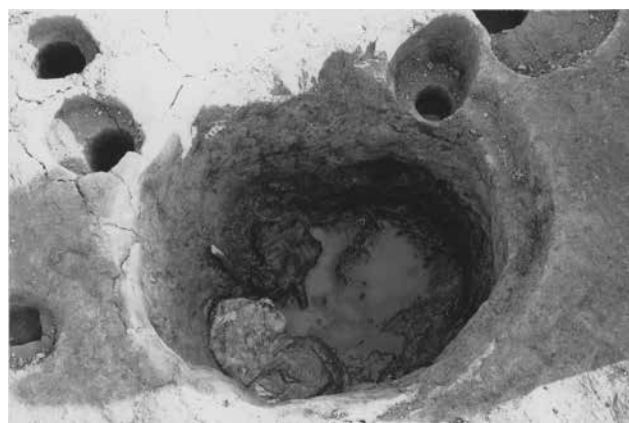
M 1 区SE23土層断面



M 1 区SE24土層断面



M 1 区SE25土層断面



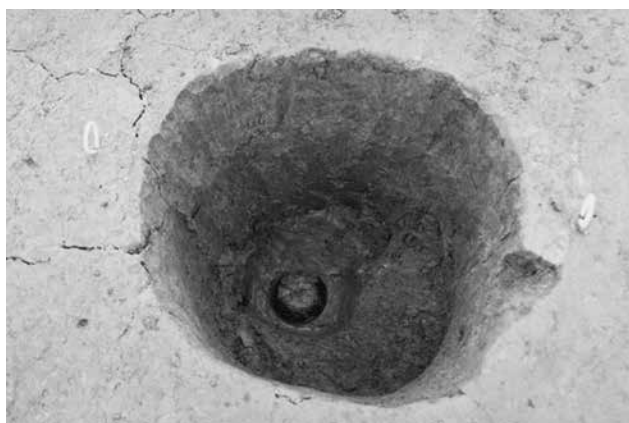
M 1 区SK04



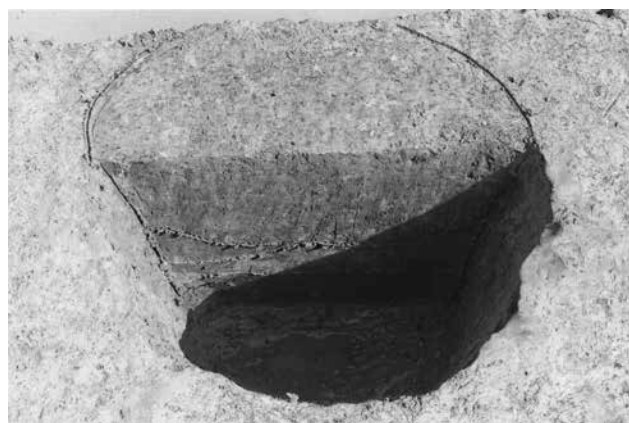
M 1 区SK04編物出土状況



M 2 区SE01土層断面



M 2 区SE02遺物出土状況



M 2 区SE03土層断面



M 2 区SE05土層断面



M 2 区SE06土層断面



M 2 区SE08土層断面



M 2 区SE09遺物出土状況



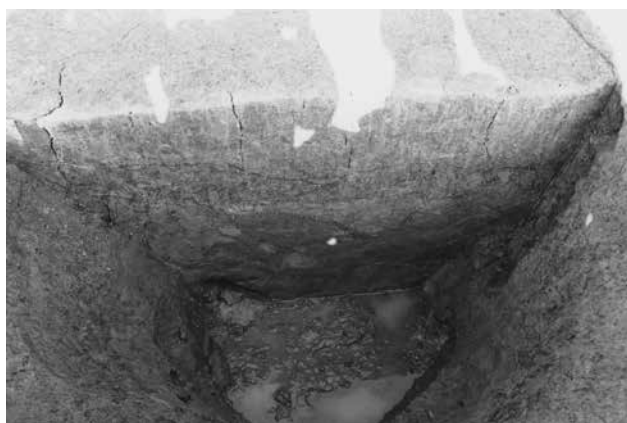
M 2 区SE10土層断面



M 2 区SE12竹出土状況



M 2 区SE16土層断面



M 2 区SE17土層断面



M 2 区SE18土層断面



M 3 区SE01



M 3 区SE02



M 3 区SE02断ち割り



M 3 区SE03土層断面



M 3 区SE04



M 3 区SE06



M 3 区SE07土層断面



M 3 区SK22土層断面



M 3 区SK22



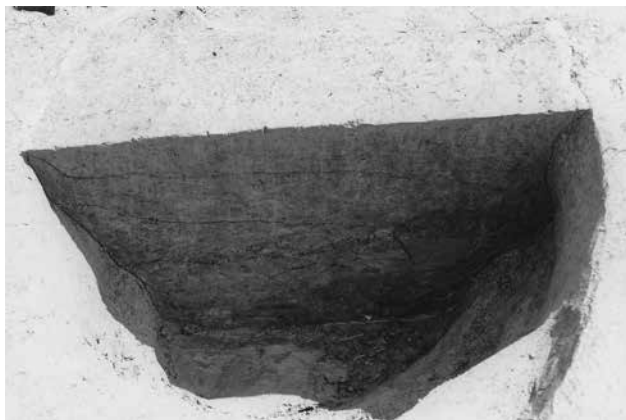
N 1 区SE01土層断面



N 1 区SE02土層断面



N 1 区SE03土層断面



N 1 区SE04土層断面



N 1 区SE05・SE07



N 1 区SE06土層断面



N 1 区SE07土層断面



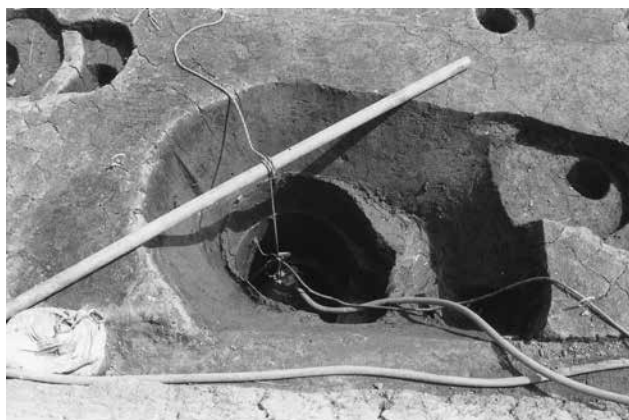
N 1 区SE07遺物出土状況



N 1 区SE09



N 1 区SE10土層断面



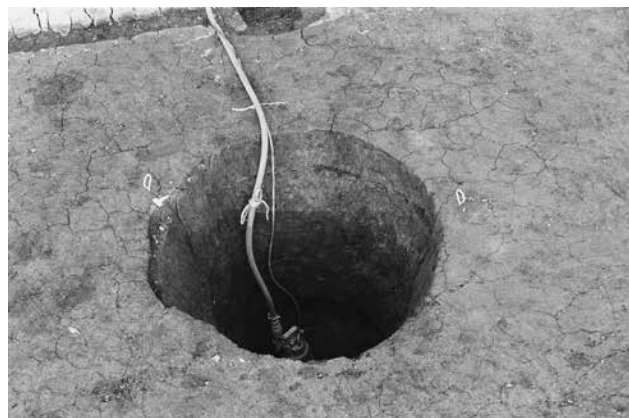
N 2 区SE01



N 2 区SE03



N 2 区SE101土層断面



N 2 区SE102



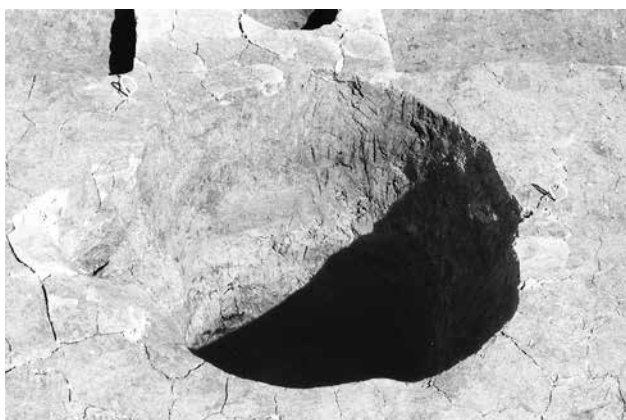
N 2 区SE103



N 2 区SE104土層断面



N 2 区SE105土層断面



N 2 区SE106



N 2 区SE107



N 2 区SK105土層断面



O 2 区SE01土層断面



O 2 区SE01遺物出土状況



Q 2 区SE11土層断面



Q 2 区SE11腐植物層検出状況



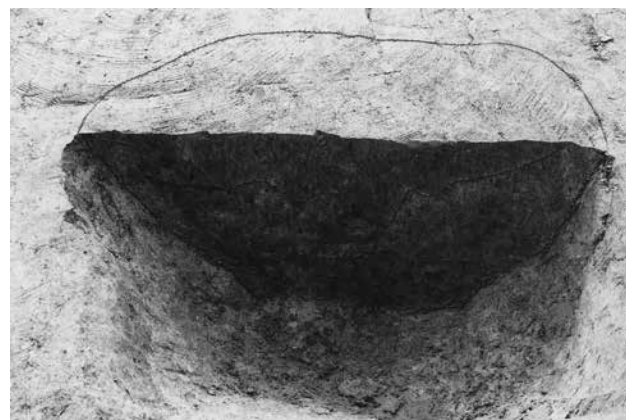
Q 2 区SE13



Q 2 区SE13土層断面 (下部)



Q 2 区SE14土層断面



T 区SE01土層断面



T 区SE01遺物出土状況



T 区SE02土層断面



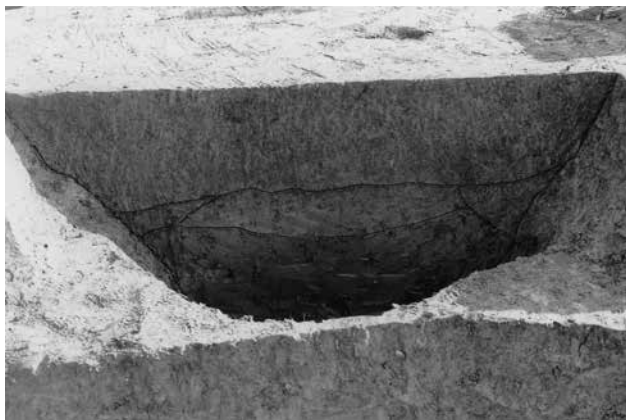
T区SE03土層断面



T区SE04土層断面



T区SE04遺物出土状況



T区SE05土層断面



T区SE09



T区SE09桶検出状況



T区SE10



T区SE11井側内



T区SE12



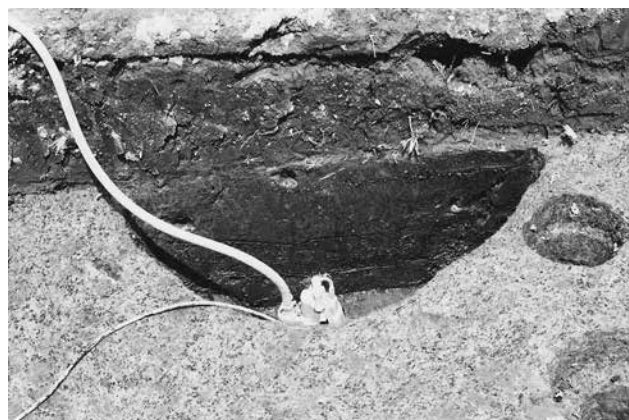
T区SK08



T区SK09土層断面



T区SK11遺物出土状況



U区SE01土層断面



V1区SK03



V1区SK03断ち割り



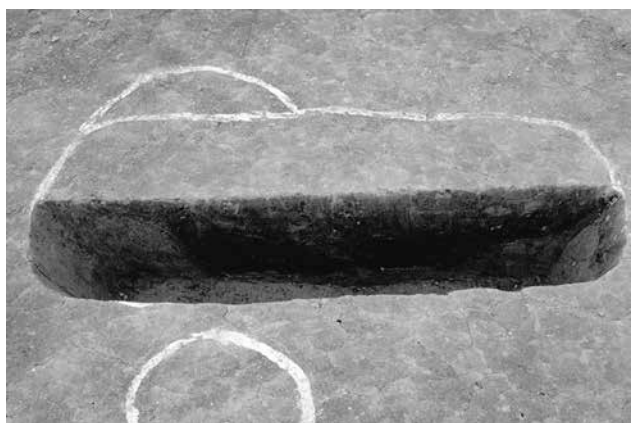
V2区SK01



V 2区SE02



V 2区SK07



A 3区SK55土層断面



C 2区SK33



C 2区SK44



C 2区SK49



C 2区SK56土層断面



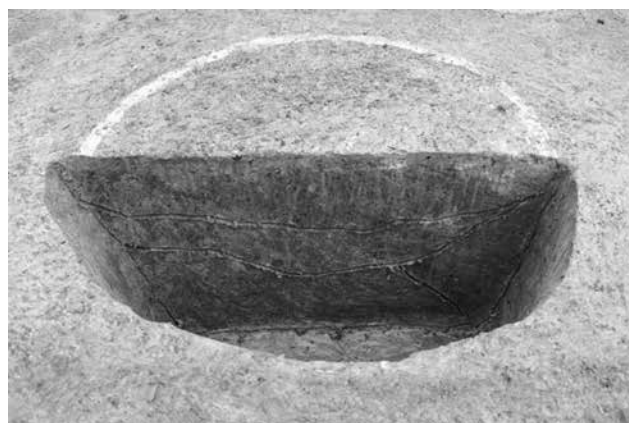
C 2区SK60土層断面



E区SK09土層断面



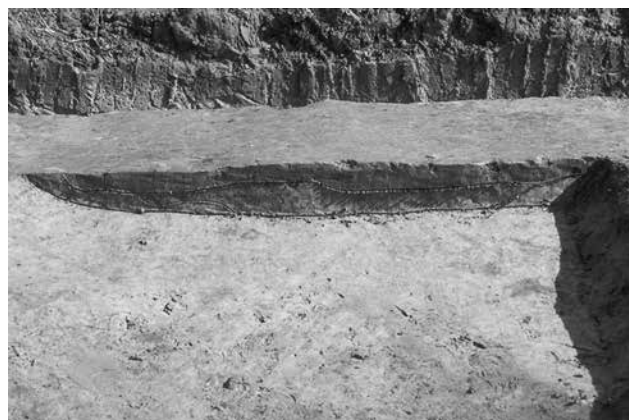
E区SK10



E区SK11土層断面



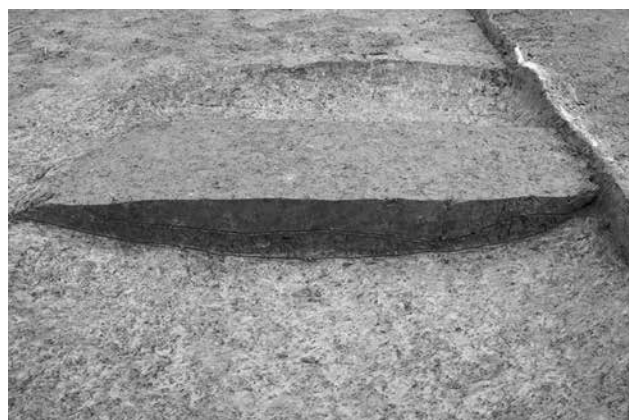
E区SK13



E区SK14土層断面



E区SK15土層断面



E区SK16土層断面



E区SK19土層断面



E区SX01土層断面



M1区SK01土層断面



M1区SK03土層断面



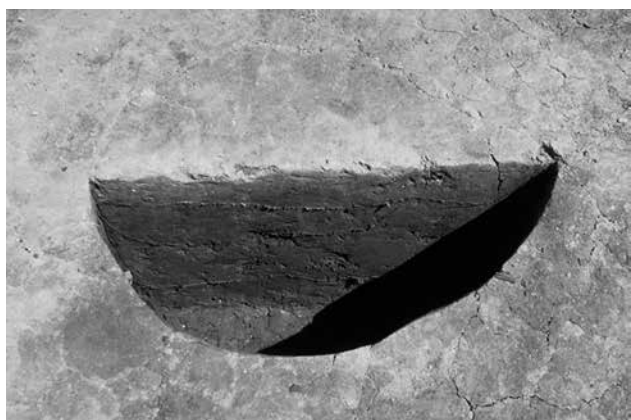
M1区SK05土層断面



M1区SK11土層断面



M1区SK12不明植物遺体検出状況



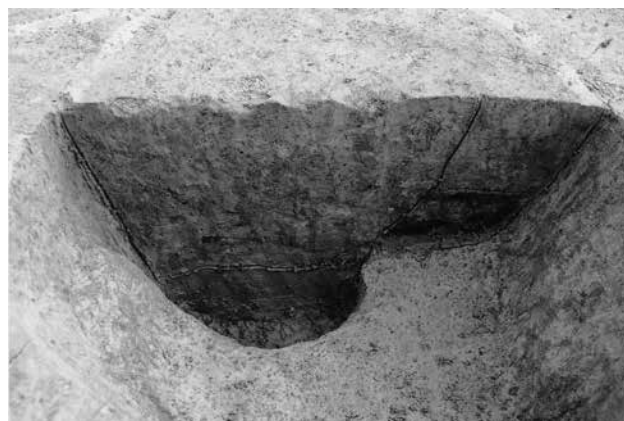
M1区SK15土層断面



M1区SK22土層断面



M 1 区SK23遺物出土状況



M 1 区SK25土層断面



M 1 区SK27土層断面



M 2 区SK03



M 2 区SK04土層断面



M 2 区SK06木棺検出状況



M 3 区SK01土層断面



M 3 区SK03土層断面



M 3 区SK05土層断面



M 3 区SK08 (右)・09 (左) 土層断面



M 3 区SK13土層断面



M 3 区SK14



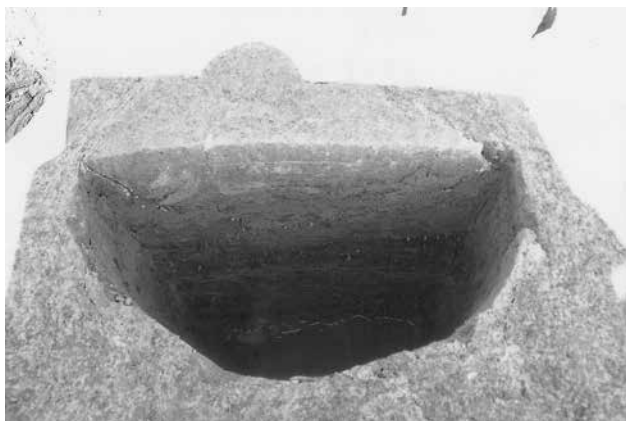
M 3 区SK14遺物出土状況



M 3 区SK14草鞋検出状況



M 3 区SK17遺物出土状況



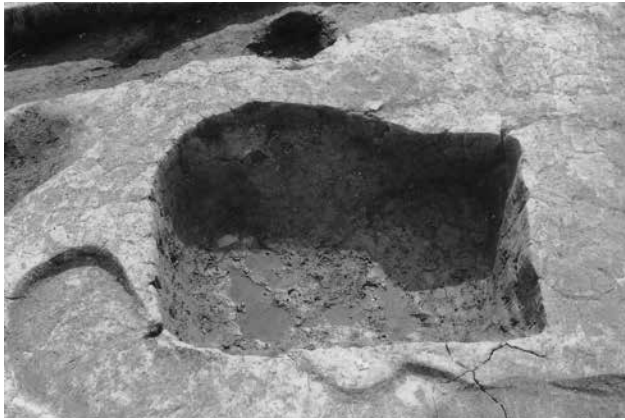
M 3 区SK18土層断面



M 3 区SK19土層断面



M 3 区SK21炭層検出状況



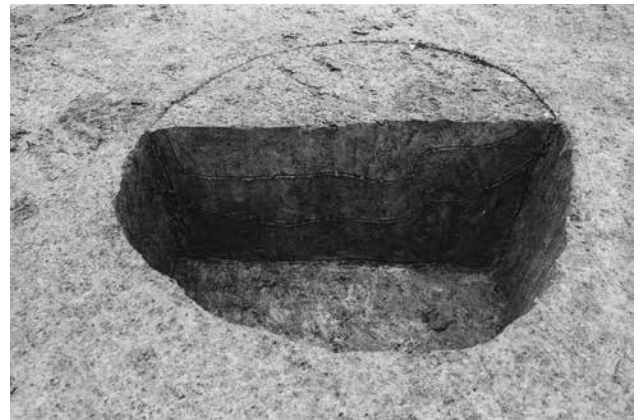
M 3 区SK21



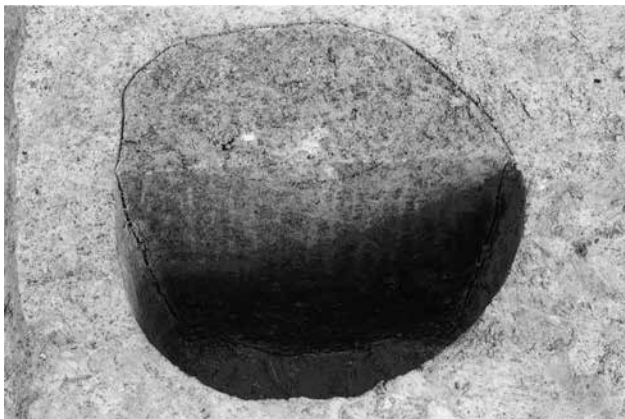
M 3 区SE05



N 1 区SK01土層断面



N 1 区SK02土層断面



N 1 区SK03土層断面



N 1 区SK04土層断面



N 1 区SK07炭層検出状況



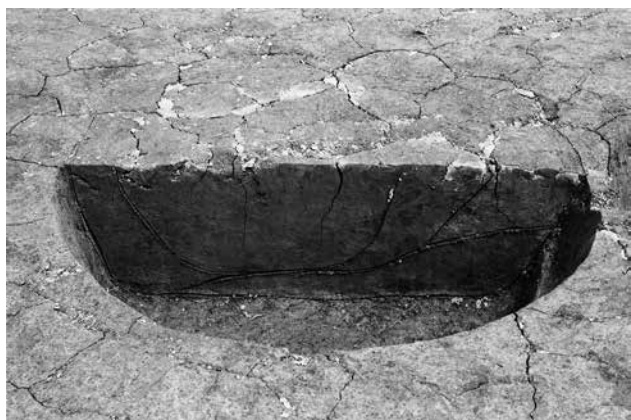
N 2 区SK01土層断面



N 2 区SK06



N 2 区SK22土層断面



N 2 区SK104土層断面



Q 1 区SK01



Q 1 区SK02土層断面



Q 1 区SK05土層断面



Q1区SK51



Q2区SK124



Q2区SE12土層断面



R1区SX01土層断面



R2区SK01



S2区SK12土層断面



T区SK01土層断面



U区NK02



U区NK03遺物出土状況



U区NK05遺物出土状況



V1区SK01土層断面



V1区SK02



V1区SK09土層断面



V1区SK10土層断面



V1区P67土層断面



V2区SK18



5001



5002



5003



5005



5006



5007



5009



5010



5018



5026



5028



5041



5031



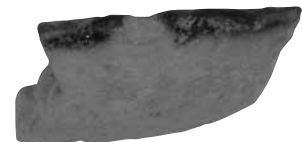
5042



5047



5048



5054



5049



5052



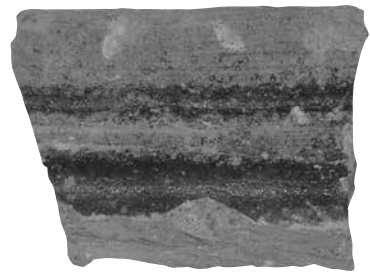
5055



5057

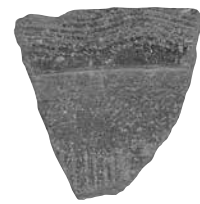


5056



5058

5051



5066



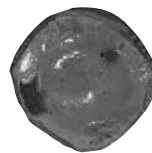
5059



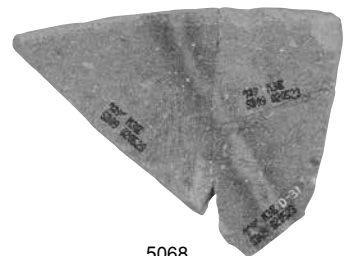
5062



5063



5067



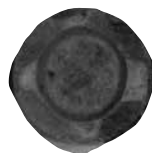
5068



5060



5064



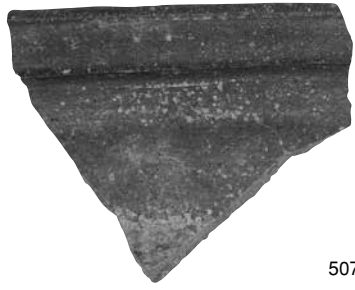
5061



5065



5069



5070



5072



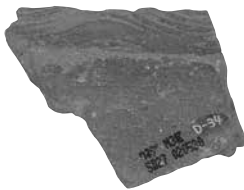
5073



5071



5075

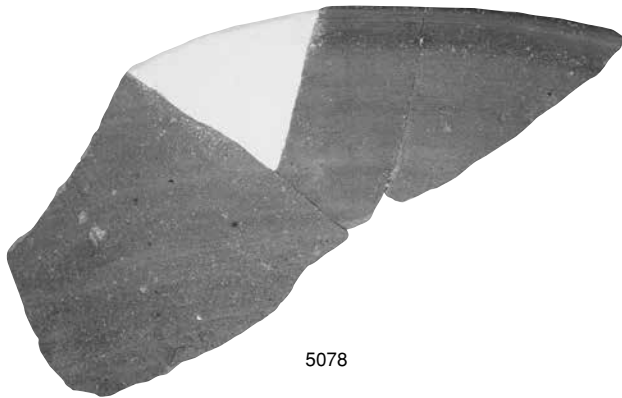


5076



5077

5074



5078



5081



5083



5084



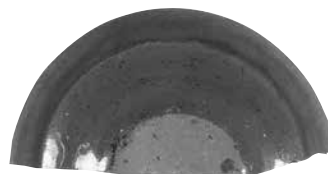
5085



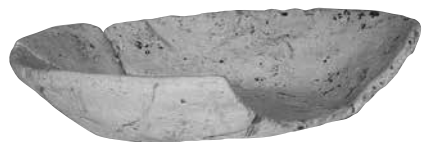
5082



5086



5087



5088



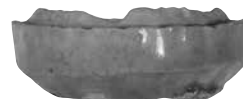
5090



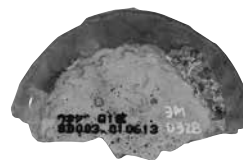
5089



5095



5091



5094



5092



5097



5100



5101



5093



5102



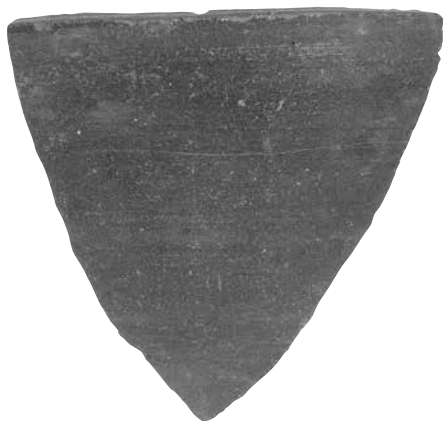
5096



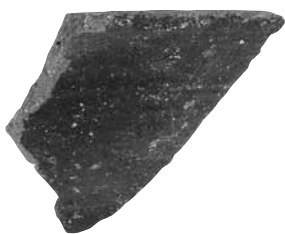
5099



5105



5098



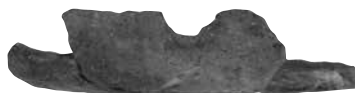
5103



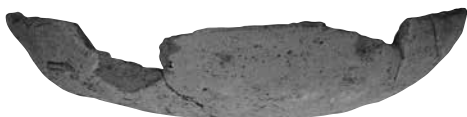
5104



5106



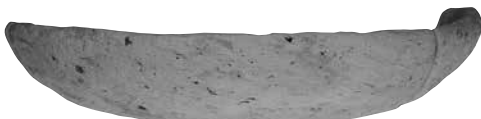
5111



5107



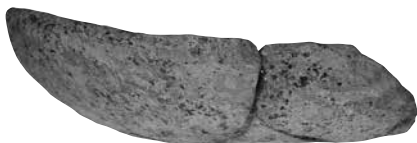
5112



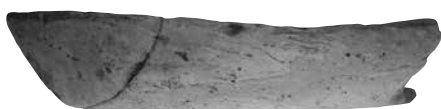
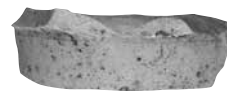
5108



5114



5109



5110



5119



5113



5117



5115



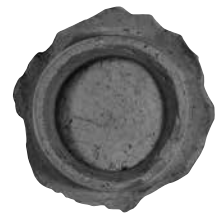
5116



5118



5121



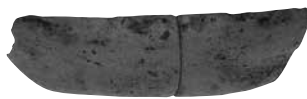
5120



5123



5124



5127

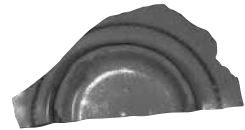
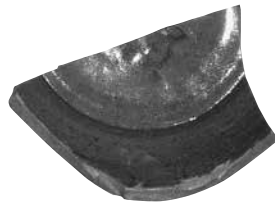


5128



5126





5135



5133

5134

5136



5137



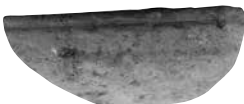
5138



5156



5161



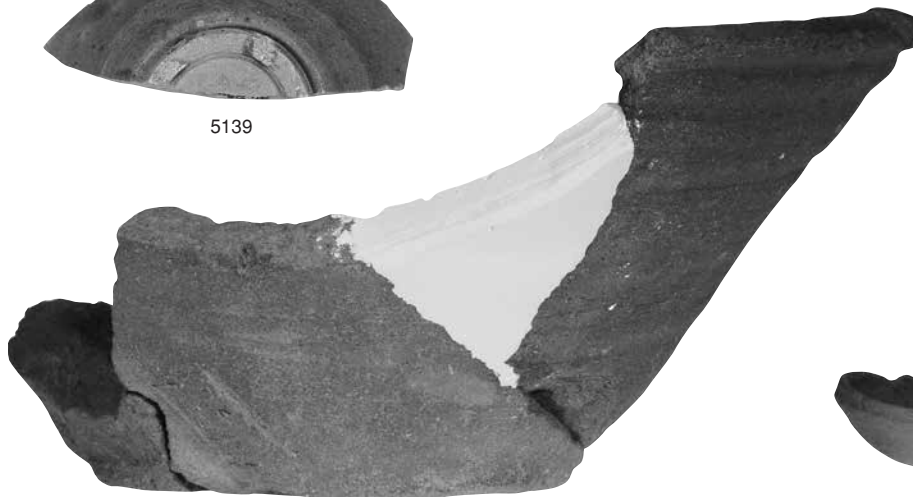
5162



5139



5140



5141



5165



5169



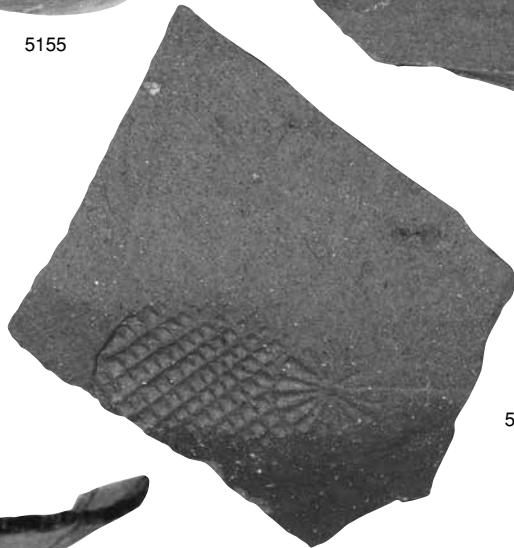
5155



5168



5172



5171



5175



5174



5176

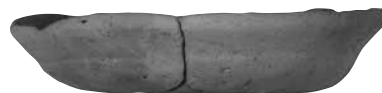


5177

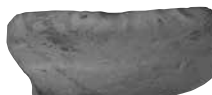




5173



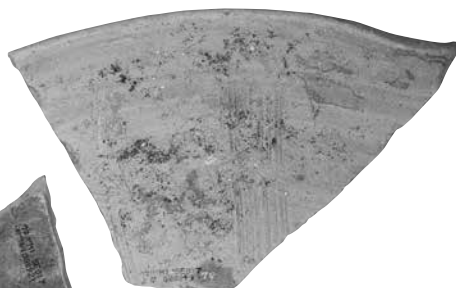
5183



5184



5185



5180



5191



5192



5186



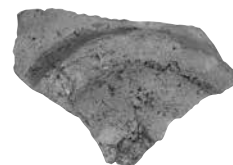
5193



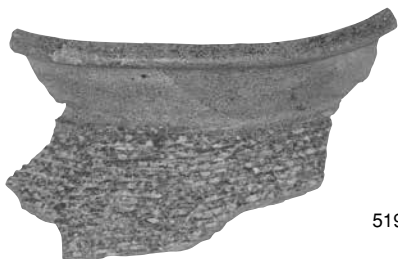
5187



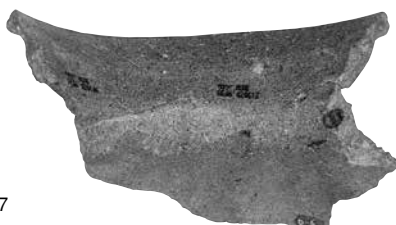
5194



5195



5197



5198



5199



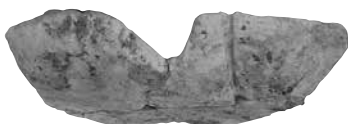
5200



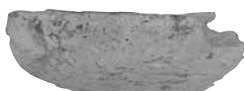
5201



5204



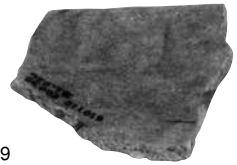
5202



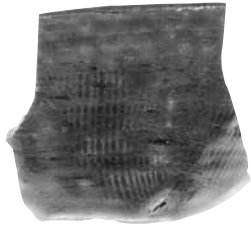
5203



5210



5209



5211



5215

5206

5207



5217



5218



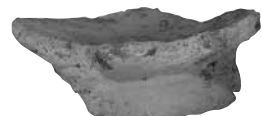
5219



5212



5220



5221



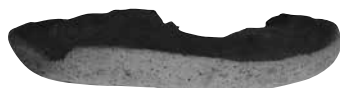
5222



5223



5230



5231



5232



5234



5235



5241



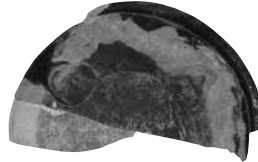
5237



5236



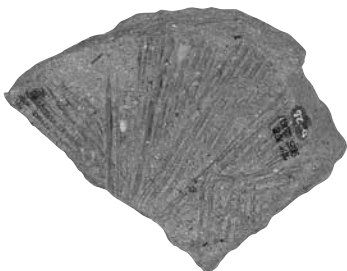
5244



5247



5246



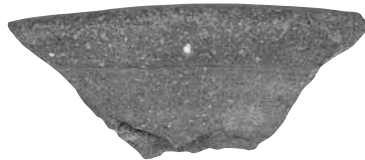
5248



5250



5251



5249



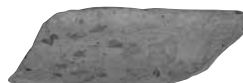
5252



5253



5254



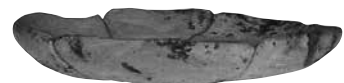
5255



5256



5257



5261



5266

5267

5258



5272

5273



5274

5259



5275



5280



5277



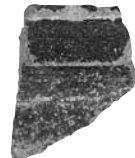
5281



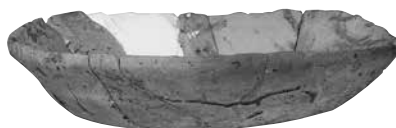
5295



5282



5296



5283



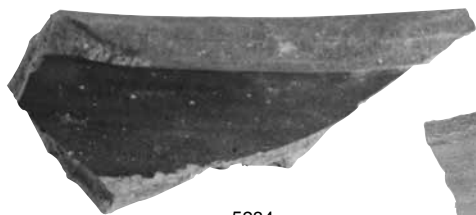
5291



5276



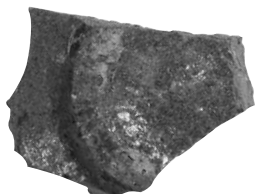
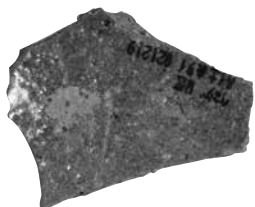
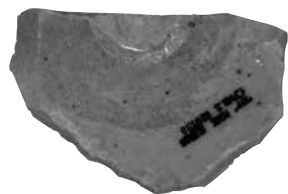
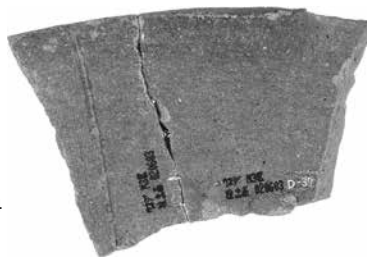
5293



5284



5294



5297

5298



5299



5300



E151



E152



E153



E154



E155



E156



E157



E158



E159



E160



E161



E162



E163



E164



E165



E166



S141



S142



S144



S143



S145



S147



S146



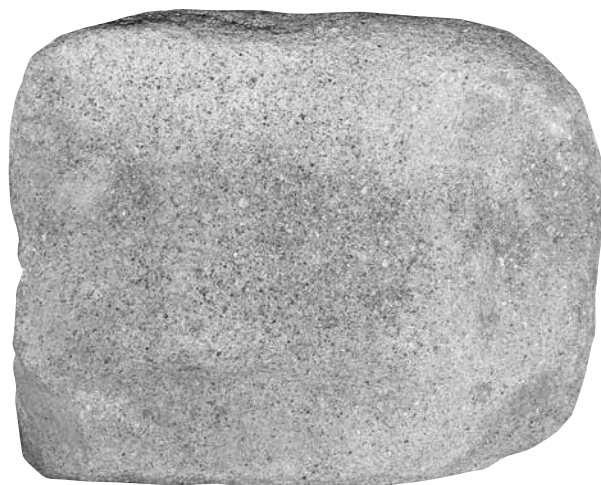
S148



S149



S151



S152

S153



S150



M14



M18



M19



M21



M16



M13



M20



M17



M15



W701



W702



W703



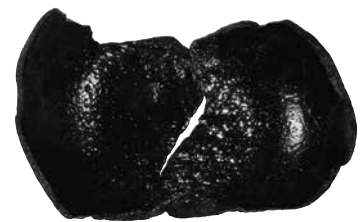
W704



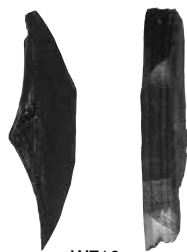
W705



W707



W709



W710



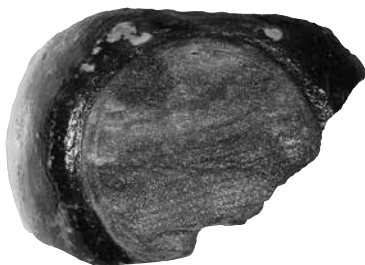
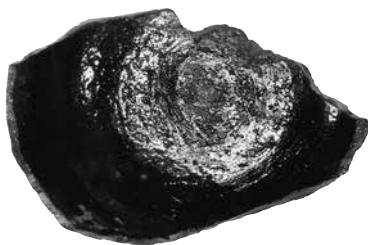
W713



W712



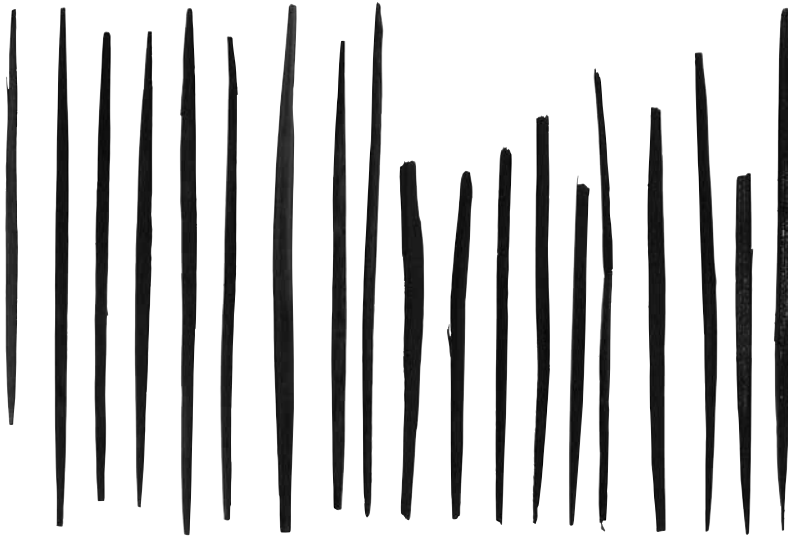
W715



W717



W718



W721,730~735,737~744,747~750



W746

W736



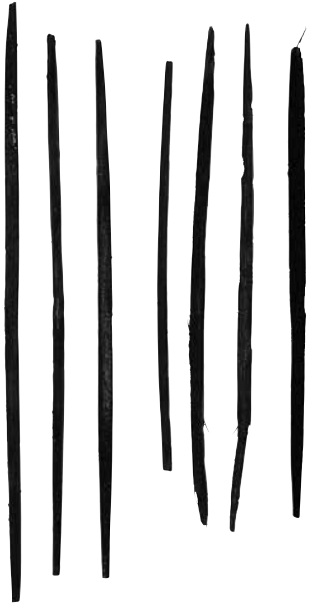
W745



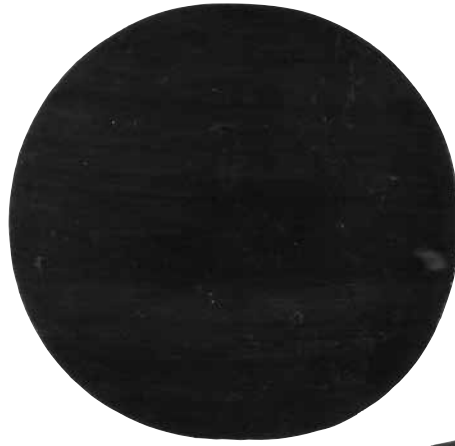
W752



W753



.W754~759・763



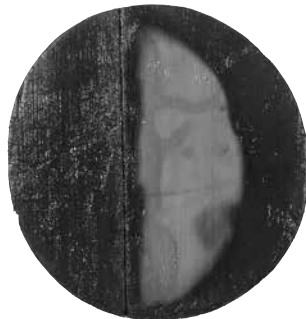
W764



W765



W761



W762



W766



W760



W769

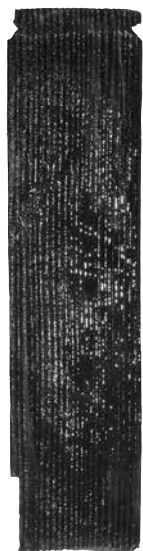


W777

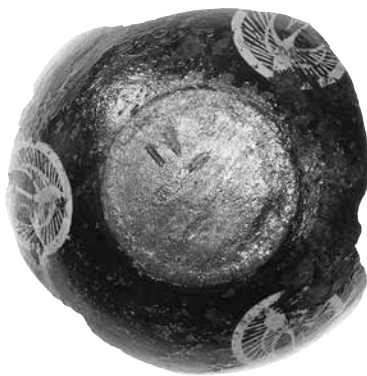




W767



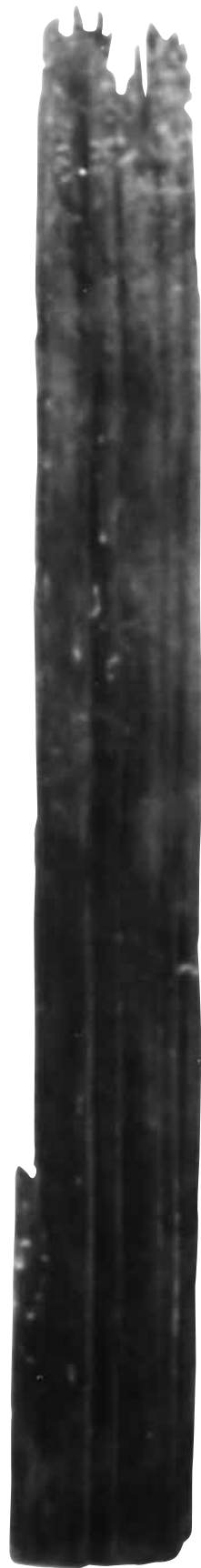
W778



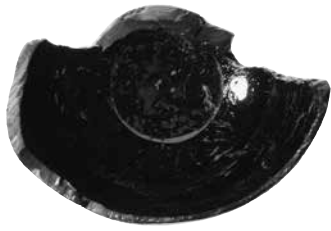
W768



W774



W773



W772



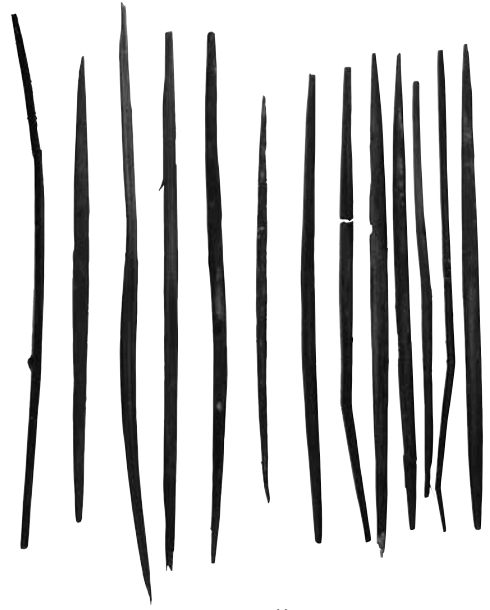
W779



W788



W775



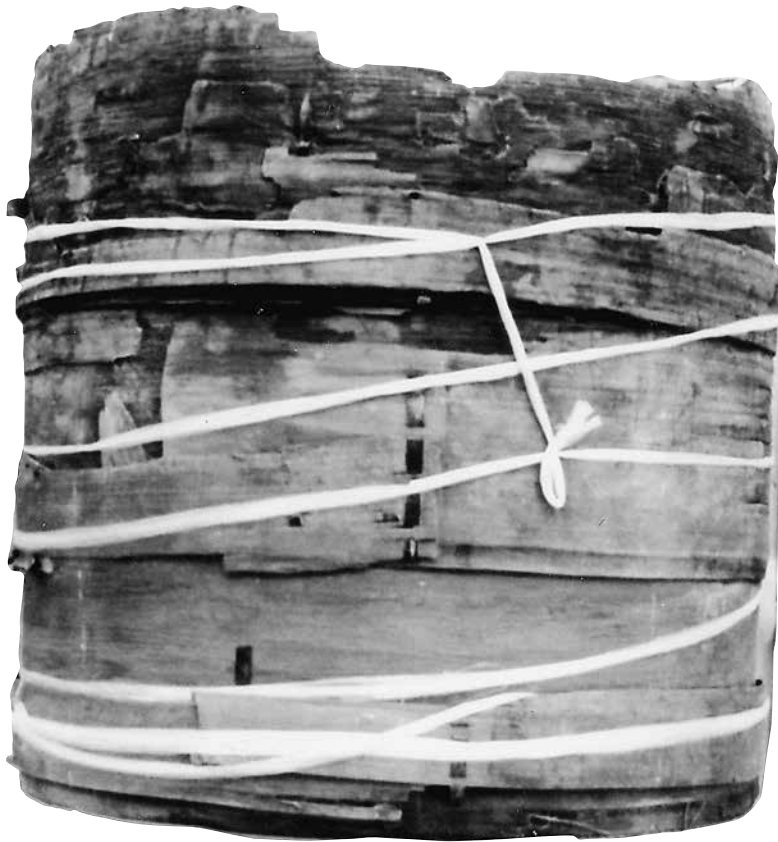
W780~786等



W789



W790



W787



W791



W792



W793



W794



W795



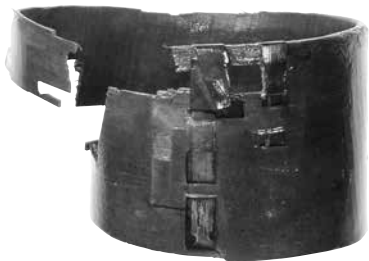
W801



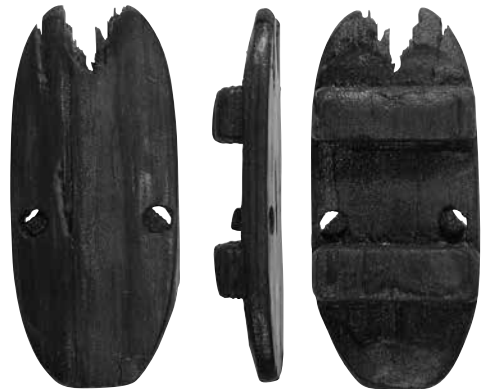
W802~805



W800



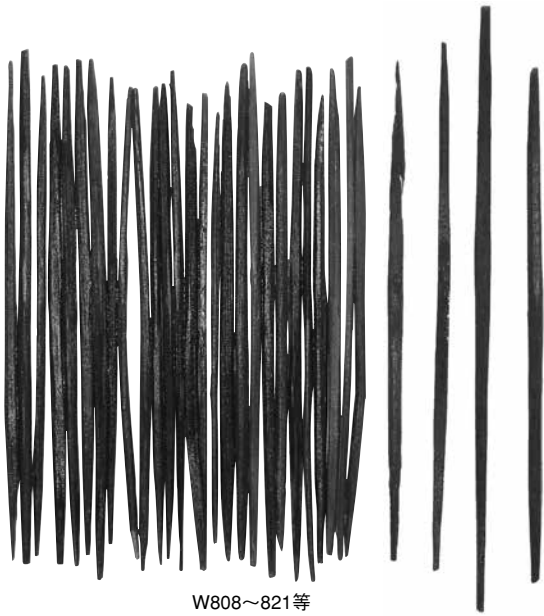
W797・798



W806



W807



W808~821等



W822



W823



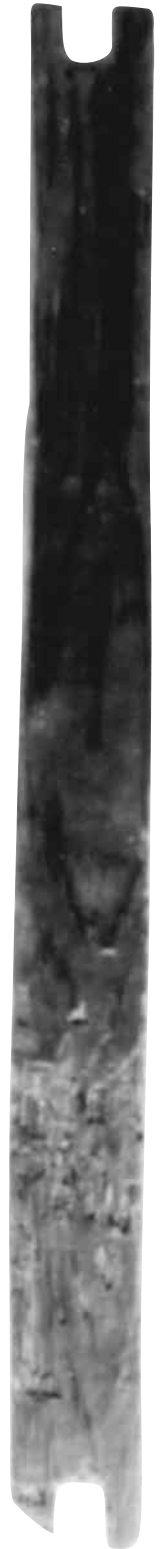
W824



W825



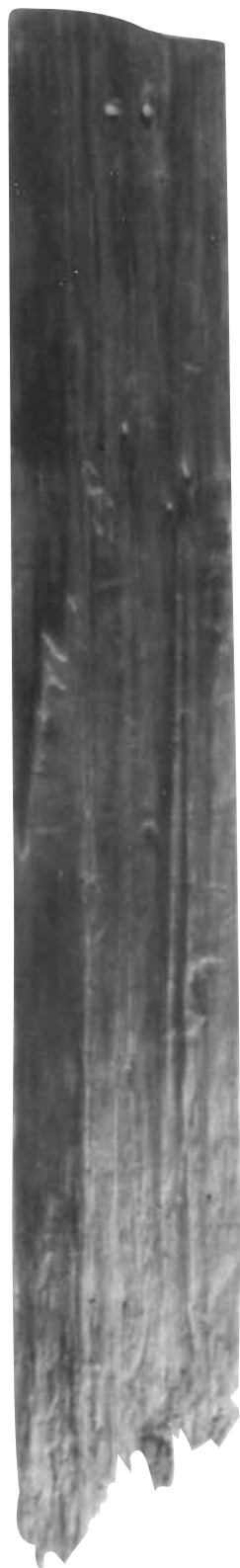
W826



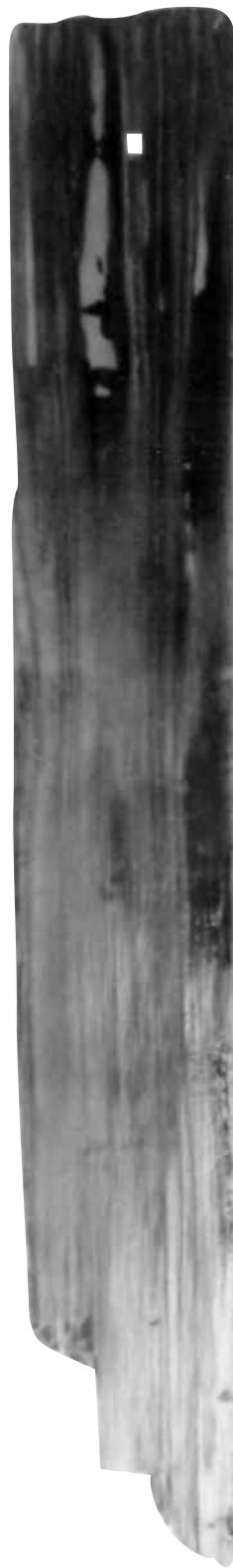
W827



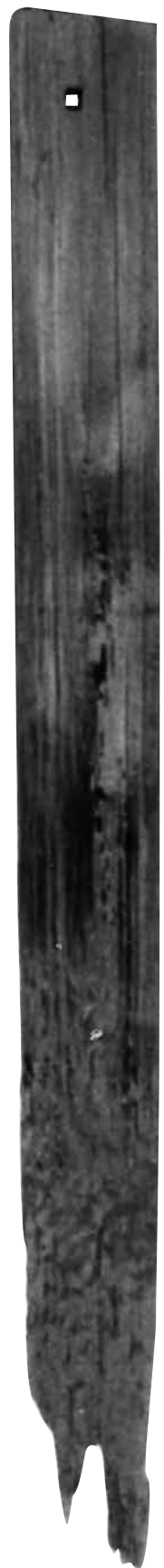
W828



W829



W830



W831



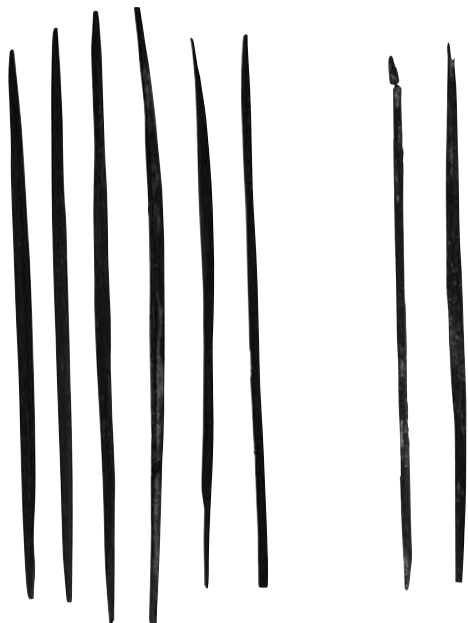
W831



W833



W840



W834~839

W843・844



A3区SE04



W841



A3区SE05



A3区SE07



A3区SE08



A3区SE09内



A3区SE09外



A3区SE16内



A3区SE16外





C2区SE01

T区SE06中



T区SE11横棧



T区SE09中

T区SE10



T区SE11隈柱

金沢市 畝田西遺跡群 V (写真図版編)

発行日 平成18(2006)年 3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電話 076-225-1842 (文化財課)

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地 1

電話 076-229-4477

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社中川印刷